ORACLE
PEOPLESOFT

PeopleSoft FSCM 9.2: アプリケーションの基礎

March 2015

ORACLE

PeopleSoft FSCM 9.2: アプリケーションの基礎
CDSKU fscm92pbr5
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ライセンス制約の保証と結果的に生じる損害の免責

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

保証免責

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

制限付権利

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations.As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs.No other rights are granted to the U.S. Government.

危険な用途への使用について

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

商標と登録商標について

OracleおよびJavaはオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel、Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴ、AMD

Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

第三者のコンテンツ、製品、サービスに対する免責

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWebサイト(http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info)か、聴覚に障害のあるお客様は(http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs)を参照してください。

目次

はじめに xxix
PeopleSoft オンライン ヘルプおよび PeopleBook について xxix
PeopleSoft ホスト ドキュメント xxix
ローカルにインストールされたヘルプ xxix
ダウンロード可能な PeopleBook PDF ファイル xxx
共通のヘルプ ドキュメント xxx
フィールドおよびコントロールの定義 xxx
表記規則 xxx
ISO の国コードおよび通貨コード xxxi
地域および業種の識別子 xxxi
PeopleSoft オンライン ヘルプの使用および管理 xxxii
Financials and Supply Chain Management で使用する共通要素 xxxii
PeopleSoft FSCM 関連リンク xxxvi
連絡先 xxxvi
フォロー xxxvi
第1章: PeopleSoft アプリケーションの基礎について 37
PeopleSoft アプリケーションの基礎の概要 37
実装の考慮事項 38
アプリケーションの基礎で使用される共通要素 38
第2章: アプリケーション データに対する PeopleSoft データ移行ワークベンチの使用 41
PeopleSoft データ移行ワークベンチについて 41
アプリケーション データ セットを使用したデータ移行 44
PeopleSoft 会計処理ルールに対するデータ移行ワークベンチの使用 45
PeopleSoft 配賦に対するデータ移行ワークベンチの使用 45
PeopleSoft 資産プロファイルに対するデータ移行ワークベンチの使用 47
PeopleSoft ビジネス プロセス ウィーバーに対するデータ移行ワークベンチの使用 47
PeopleSoft ワークセンターに対するデータ移行ワークベンチの使用 49
PeopleSoft プロジェクト コスト管理でのデータ移行ワークベンチについて 50
PeopleSoft サプライヤ契約管理でのデータ移行ワークベンチについて 50
PeopleSoft 買掛金管理オプションでのデータ移行ワークベンチについて 55
PeopleSoft スピードチャートでのデータ移行ワークベンチについて 56
PeopleSoft 会計入力テンプレートでのデータ移行ワークベンチについて 56
アプリケーション データ セットの使用 57
データ セット移行で使用するページ 57
アプリケーション データ セットの使用について 57
データ移行ワークベンチ – プロジェクト定義ページ 58
データ移行ワークベンチ – データ セット コンテンツ ページ 59
データ移行ワークベンチを使用する場合のサンプル ステップ 59
第3章: PeopleSoft データのエクスポート/インポート ユーティリティの使用 61
データのエクスポート/インポート ユーティリティについて 61

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

データのエクスポート/インポート ユーティリティを使用するための前提条件....61
データのエクスポート/インポート ユーティリティのマッピング プロセスの概要....61
ファイル レイアウトとドキュメント関係のマッピング....63
ファイル レイアウトとドキュメント関係のマッピングに使用するページ....63
ファイル レイアウトとドキュメント関係のマッピングについて....63
PeopleSoft ドキュメントの定義....64
データのエクスポート/インポート ユーティリティ用の PeopleSoft ドキュメント内の親子レベルおよび兄弟レベルについて....68
ドキュメント関係ページ....70
区切りファイル レイアウト ページ....72
コード マッピングの使用....74
データ ソースおよびターゲットの定義....74
マップ定義の作成に使用するページ....75
マップ定義 - マップ (ステップ 1/6) ページ....75
マップ定義 - ソース (ステップ 2/6) ページ....76
マップ定義 - ターゲット (ステップ 3/6) ページ....77
マップ定義 - 詳細 (ステップ 4/6) ページ....79
マップ定義 - フィルタ (ステップ 5/6) ページ....82
マップ定義 - サマリ (ステップ 6/6) ページ....83
データのエクスポート/インポート プロセスのリクエスト....85
データのエクスポート/インポート プロセスのリクエストに使用するページ....85
データのエクスポート/インポート リクエスト ページ....85
第4章: PeopleSoft ビジネス プロセス ウィーバーの使用....87
PeopleSoft ビジネス プロセス ウィーバーについて....87
PeopleSoft ビジネス プロセス ウィーバーで使用される共通要素....88
ビジネス プロセス ウィーバーのデータ モデルの概要....90
ビジネス プロセス ウィーバーの設定....91
ビジネス プロセス ウィーバーの設定で使用するページ....92
アプリケーション クラス レジストリ ページ....93
ビジネス プロセス エントリ ポイント レジストリ ページ....94
ビジネス プロセス タスク レジストリ ページ....96
ビジネス プロセスの定義....99
ビジネス プロセスの定義で使用するページ....99
ビジネス プロセス定義ページ....99
ステップ先行の選択ページ....103
ビジネス プロセス ウィーバー セキュリティ オプションの定義....104
ビジネス プロセス ウィーバー セキュリティ オプションの定義で使用するページ....105
ビジネス プロセス ウィーバー セキュリティについて....105
ビジネス プロセス セキュリティ ページ....106
プロセス ラン コントロール セキュリティ ページ....107
ビジネス プロセスの実行および管理....107
ビジネス プロセスの実行および管理で使用するページ....107
ビジネス プロセス ラン コントロール ページ....108
ビジネス プロセス インスタンス ページ....113

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ビジネス プロセス実行ページ ... 116
ビジネス プロセス パージ ページ ... 118
ビジネス プロセス通知の設定と使用 ... 119
ビジネス プロセス通知の設定と使用に使用するページ ... 119
ビジネス プロセス通知について ... 119
ビジネス プロセス定義通知ページ ... 122
エントリ ポイントの通知の使用 ... 124
第5章: Financials and Supply Chain Management 共通定義の定義 ... 125
政府機関所在地コードの定義 ... 125
政府機関所在地コードの定義に使用するページ ... 125
政府機関所在地コードについて ... 125
政府機関所在地コード ページ ... 126
政府機関所在地コード - GWA レポート オプション ページ ... 128
IPAC フィールド ページ ... 130
Financials Audit Framework (オーディット ログ) の設定 ... 131
Financials Audit Framework の管理に使用するページ ... 132
PeopleSoft Financials Audit Framework について ... 132
オーディット ログ使用ページ ... 134
オーディット ログの検索ページ ... 136
オーディット ログの削除ページ ... 137
ドキュメント管理オプションの設定 ... 138
ドキュメント管理オプションの設定に使用するページ ... 138
ドキュメント管理オプションの設定について ... 138
ドキュメンタム製品オプション ページ ... 139
ドキュメンタム コンポーネント オプション ページ ... 140
ドキュメンタム ページ オプション - ページ オプション ページ ... 141
ドキュメンタム ページ オプション - プロパティのコピー ページ ... 142
要員の設定 ... 143
要員情報の設定に使用するページ ... 143
要員設定ページ ... 143
所在地の設定 ... 148
所在地の設定に使用するページ ... 148
国名ページ ... 148
住所フォーマット ページ ... 149
所在地 - 都道府県/州ページ ... 149
所在地 - 定義ページ ... 150
所在地 - 詳細ページ ... 151
国別統計レポート コード ページ ... 153
地域および地域コードの設定 ... 154
地域および地域コードの設定に使用するページ ... 154
地域および地域コードの設定について ... 154
地域タイプ コード ページ ... 155
地域コード ページ ... 155
地域コード住所ページ ... 155

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

配布ルールおよび配布セットの設定....155
配布ルールおよび配布セットの設定に使用するページ....156
配布ルールおよび配布セットの設定について....156
受注の配布セットおよび配布ルールの例....156
配布セット ページ....157
配布ルール ページ....157
運送業者の設定....158
運送業者の定義に使用するページ....158
運送業者情報について....158
運送業者ページ....159
運送業者 URL ページ....162
運送業者カレンダー例外ページ....163
売上税/使用税の税務当局および税コードの定義....164
売上税/使用税の税務当局および税コードの定義に使用するページ....164
PeopleSoft 税テーブルについて....164
税務当局ページ....165
税コード ページ....165
追加の共通情報の定義....166
追加の共通情報の定義に使用するページ....167
添付タイプ ページ....170
会計入力テンプレート ページ....170
アクティビティ モニターのワークリストの登録....171
自動採番ページ....171
ユニット別自動採番ページ....172
商品コード ページ....173
物流ネットワーク ページ....173
予測セット ページ....174
運送条件ページ....174
税計算ソフトの地域コード更新ページ....175
関税統計品目コード ページ....177
イメージ ロケーション ページ....177
ファイル ロケーション ページ....177
個人データ ページ....177
計画作成者コード ページ....178
理由コード ページ....178
運送方法コード ページ....179
標準産業分類コード ページ....180
最終使用コード ページ....181
出荷先所在地 - 売上/使用税ページ....182
計測単位ページ....183
共通仕訳定義の定義....183
共通仕訳定義の定義に使用するページ....184
分割チャートフィールド入力ページ....184
仕訳クラス ページ....186

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

仕訳入力テンプレート - チャートフィールド ページ....187
仕訳ソース - 定義ページ....191
仕訳ソース - 仕訳オプション ページ....193
仕訳ソース - 仮計上チャートフィールド - 貸借一致 ページ....195
仕訳ソース - 仮計上チャートフィールド - 編集 ページ....195
仕訳ソース - 仮計上チャートフィールド - 金額 ページ....196
仕訳ソース - 通貨オプション ページ....196
仕訳ソース - 承認オプション ページ....198
スケジュール ページ....199
ワークフロー トランザクションの設定....201
ワークフロー トランザクションの設定に使用するページ....201
ワークフロー トランザクションの設定について....201
ワークフロー トランザクション カテゴリ ページ....201
ワークフロー トランザクション ページ....202
ワークフロー システム ルール ページ....202
クレジット カード暗号化の変更....203
暗号化キーの変更に使用するページ....203
クレジット カード暗号化について....203
暗号化キーの変更ページ....204
ホスト上の実装に対するクレジット カード処理の設定....206
ホスト クレジット カード モデルへの変換について....207
ホスト クレジット カード ストレージおよび支払への切替に使用するページ....210
クレジット カード データの削除プロセスについて....210
クレジット カード データの変換ページ....212
クレジット カード データの削除ページ....213
PeopleSoft 請求管理でのクレジット カード データの削除プロセスの使用....215
プロファイル トークン化およびホスト上の入力の設定....217
電子入金オプションの設定....219
セルフサービス アプリケーションでの電子入金オプションの設定に使用するページ....219
セルフサービス アプリケーションの電子入金オプションについて....219
セルフサービスの電子入金オプション ページ....220
添付ファイルの定義....223
添付ファイルの定義に使用するページ....223
添付ファイル管理ページ....223
第6章: PeopleSoft アプリケーションのインストール オプションの設定....227
クロスアプリケーション インストール オプションの設定....227
クロスアプリケーション インストール オプションの設定に使用するページ....227
インストール オプション - 製品ページ....228
インストール オプション - 基本設定ページ....230
金融制裁オプション ページ....237
DB アカウント ページ....241
フリガナ ページ....241
ドキュメンタム ページ....242
連邦処理オプション ページ....243

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

入力イベント ページ ... 244
インストール オプション - コミットメント コントロール ページ ... 245
インストール オプション - 顧客ページ ... 248
税計算ソフト インストール オプションの定義 ... 250
税計算ソフト インストール オプションの定義に使用するページ ... 250
アプリケーション固有のインストール オプションの設定 ... 251
アプリケーション固有のインストール オプションの設定に使用するページ ... 251
インストール オプション - 資産管理ページ ... 254
請求管理 - 一般オプション ページ ... 261
請求 - 連邦オプション ページ ... 266
請求管理-インテグレーション オプション ページ ... 268
インストール オプション - 契約管理ページ ... 273
インストール オプション - eSettlement-決済管理ページ ... 279
インストール オプション - 経費管理ページ ... 281
インストール オプション - 緊急 (日数) ページ ... 287
インストール オプション - 一般会計ページ ... 289
インストール オプション - Grants ページ ... 293
インストール オプション - Grants ポータル ページ ... 295
インストール オプション - 在庫管理ページ ... 298
インストール オプション - 在庫管理カウンタ ページ ... 301
インストール オプション - Lease Administration ページ ... 302
インストール オプション - 生産管理ページ ... 303
インストール オプション - モバイル在庫管理ページ ... 306
インストール オプション - 買掛金管理ページ ... 308
インストール オプション - プランニング ページ ... 310
インストール オプション - Program Management ページ ... 310
インストール オプション - プロジェクト コスト管理ページ ... 313
インストール オプション - プロジェクト コスト管理インテグレーション ページ ... 322
インストール オプション - 購買管理ページ ... 330
インストール オプション - 売掛金管理ページ ... 334
売掛金管理 - 勘定科目残高概要ページ ... 337
インストール オプション - 受注管理ページ ... 338
要員管理インストール オプションの定義 ... 339
サービス プロキュアメント インストール オプション ページ ... 354
インストール オプション - Staffing のインストール オプション ページ ... 357
PeopleTools オプション ページ ... 364
ストラテジック ソーシングのインストール オプション ページ ... 364
インストール オプション - サプライヤ契約管理ページ ... 367
インストール オプション - 財務管理ページ ... 385
第7章: ユーザー基本設定の定義 ... 389
ユーザー基本設定について ... 389
クロスアプリケーション ユーザー基本設定の定義 ... 389
クロスアプリケーション ユーザー基本設定の定義に使用するページ ... 389
ユーザー基本設定 - 基本設定ページ ... 390

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

OLE 情報ページ....391
ユーザー基本設定 - プロセス グループ ページ....391
アプリケーション固有のユーザー基本設定の定義....391
アプリケーション固有のユーザー基本設定の定義に使用するページ....392
資産管理 - ユーザー基本設定ページ....395
ユーザー基本設定 - IT Asset Management ページ....398
ユーザー基本設定 - 請求管理ページ....401
ユーザー基本設定 - 契約管理ページ....403
ユーザー基本設定 - 一般会計ページ....405
ユーザー基本設定 - 在庫管理ページ....409
Lease Administration - ユーザー基本設定ページ....410
ユーザー基本設定 - 生産管理ページ....411
ユーザー基本設定 - 受注 - 販売ページ....411
ユーザー基本設定 - 支払サイクル ページ....413
ユーザー基本設定 - 供給計画ページ....413
ユーザー基本設定 - プロジェクト コスト管理ページ....414
ユーザー基本設定 - 購買ページ....417
ユーザー基本設定 - 契約プロセス ページ....417
ユーザー基本設定 - リベート権限ページ....419
ユーザー基本設定 - 買掛金オンライン伝票処理ページ....420
ユーザー基本設定 - 受領/取引先返品ページ....424
ユーザー基本設定 - 調達依頼ユーザー権限ページ....428
ユーザー基本設定 - 発注ユーザー権限ページ....430
購買 - サプライヤ処理権限ページ....431
ユーザー基本設定 - ドキュメント許容差異例外の上書きページ....432
ユーザー基本設定 - プロモーション マネジメント ページ....433
ユーザー基本設定 - 売掛金データ入力 1 ページ....434
ユーザー基本設定 - 売掛金データ入力 2 ページ....435
ユーザー基本設定 - ストラテジック ソーシング ページ....437
ユーザー基本設定 - Staffing - 一般基本設定ページ....440
Staffing 職務データ基本設定の定義....444
ユーザー基本設定 - サプライヤ契約管理ページ....448
ユーザー基本設定 - Maintenance Management ページ....450
ユーザー基本設定 - モバイル在庫管理ページ....460
第8章: システムのセキュリティ保護....463
PeopleSoft アプリケーション セキュリティについて....463
セキュリティ用語....464
PeopleSoft Financials の行レベル セキュリティ....464
権限リスト....465
システム セキュリティ オプションの指定....469
システム セキュリティ オプションの指定に使用するページ....469
セキュリティ オプション ページ....469
セキュリティの適用ページ....471
セキュリティ ビューの定義....472

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

セキュリティ ビューの定義に使用するページ....472
セキュリティ ビューについて....472
セキュリティ ビュー ページ....473
行レベル セキュリティの定義....473
行レベル セキュリティの定義に使用するページ....474
行レベル セキュリティの定義について....476
ユーザーへのアクセス権限の付与....477
ビジネス ユニット アクセスの付与....478
テーブルセット アクセスの付与....478
元帳アクセスの付与....478
nVision レポート アクセスの付与....479
プロジェクト アクセスの付与....479
ビジネス ユニット台帳アクセスの付与....481
支払サイクル アクセスの付与....481
グラント アクセスの付与....481
提案管理アクセスの付与....481
プランニング インスタンス アクセスの付与....482
第9章: Financials and Supply Chain Management での PeopleSoft Search....483
Financials and Supply Chain の検索について....483
PeopleSoft 検索テクノロジ....483
コンポーネント内のグローバル検索ページおよび検索ページ....484
PeopleSoft Financials and Supply Chain Management の検索カテゴリ....486
検索の推奨....486
用語....487
PeopleSoft 検索を Verity の代わりに使用するアプリケーション....489
グローバル検索について....489
グローバル検索カテゴリ....490
グローバル検索カテゴリのファセット....492
グローバル検索 - 詳細検索....496
特殊な詳細検索フィールド....496
例: 詳細検索....499
コンポーネント内の検索ページについて....500
検索結果について....502
PeopleSoft 検索結果の表示....502
検索結果ブレッドクラム....505
検索結果ファセット....505
検索結果リスト フォーマット....505
[前回検索結果] ウィンドウ....508
添付ファイルの検索について....508
Financial and Supply Chain Management の検索でのパフォーマンス考慮事項について....510
有効化されたファセット....510
有効化された添付ファイル....510
有効化された属性 (チャートフィールドのセキュリティを含む)....511
有効化されたクエリー....512

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

索引の作成プロセスについて....512
索引の構成要素....512
索引のデプロイ....513
索引の作成....514
第10章: チャートフィールドのセキュリティ保護....515
チャートフィールド セキュリティについて....515
チャートフィールドのセキュリティ保護で使用される共通要素....518
一般的なチャートフィールド セキュリティ機能の説明....519
取引ページへのアクセスのセキュリティ保護....519
会計データへのアクセスのセキュリティ保護....523
チャートフィールド プロンプト編集値のセキュリティ保護....525
デフォルト設定されたチャートフィールド値のセキュリティ保護....527
配布コード プロンプト値のセキュリティ保護....527
チャートフィールド セキュリティの有効化....529
チャートフィールド セキュリティの有効化に使用するページ....529
チャートフィールド セキュリティ設定について....530
前提条件....530
セキュリティ オプション - チャートフィールド セキュリティ ページ....531
チャートフィールド保護オプション - 製品ページ....534
コンポーネント レジストリ - セキュリティ対象コンポーネント ページ....536
共有コンポーネントの使用....541
チャートフィールド セキュリティ ルール、例外および値の定義....541
チャートフィールド セキュリティ ルール、例外および値の定義に使用するページ....541
チャートフィールド セキュリティ ルール ページ....543
ルール定義対象ユーザー ページ....544
ユーザー ID のセキュリティ ルール設定ページ....546
構成部品例外ページ....548
セキュリティ ルール値ページ....549
追加のセキュリティ ルールの管理....550
チャートフィールド セキュリティ ルールの作成....551
チャートフィールド セキュリティ ルールの作成に使用するページ....551
セキュリティ ルール作成ページ....551
セキュリティ作成リクエスト ページ....552
チャートフィールド セキュリティ ルール割当のコピー....553
チャートフィールド セキュリティ ルール割当のコピーに使用するページ....553
ユーザー ルール割当のコピー ページ....554
ロール ルール割当のコピー ページ....554
権限リスト ルール割当のコピー ページ....554
カスタマイズされたチャートフィールドのセキュリティ保護....555
新しいワーク フィールドの作成....555
ワーク レコードへの新しいワーク フィールドの追加....556
チャートフィールド セキュリティ ページへの新しいワーク フィールドの追加....557
プロンプト テーブル フィールドのプロパティの設定....559
チャートフィールド セキュリティ オプション ページ....561

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

新しいチャートフィールド プロンプト編集ビューの追加....562
PeopleSoft 買掛金管理のチャートフィールドのセキュリティ保護....564
PeopleSoft 資産管理のチャートフィールドのセキュリティ保護....565
PeopleSoft 売掛金管理のチャートフィールドのセキュリティ保護....566
PeopleSoft 売掛金管理のチャートフィールドのセキュリティ保護について....566
PeopleSoft 請求管理のチャートフィールドのセキュリティ保護....569
PeopleSoft 請求管理のチャートフィールドのセキュリティ保護について....570
PeopleSoft コミットメント コントロールのチャートフィールドのセキュリティ保護....571
PeopleSoft 契約管理のチャートフィールドのセキュリティ保護....571
PeopleSoft 原価管理のチャートフィールドのセキュリティ保護....572
PeopleSoft eProcurement-調達管理のチャートフィールドのセキュリティ保護....574
PeopleSoft 経費管理のチャートフィールドのセキュリティ保護....574
PeopleSoft 経費管理のチャートフィールドのセキュリティ保護について....574
PeopleSoft 一般会計のチャートフィールドのセキュリティ保護....576
PeopleSoft Grants Management のチャートフィールドのセキュリティ保護....577
PeopleSoft 在庫管理のチャートフィールドのセキュリティ保護....578
PeopleSoft 受注管理のチャートフィールドのセキュリティ保護....578
PeopleSoft プロジェクト コスト管理のチャートフィールドのセキュリティ保護....579
PeopleSoft 購買管理のチャートフィールドのセキュリティ保護....580
PeopleSoft サービス プロキュアメントのチャートフィールドのセキュリティ保護....582
PeopleSoft 財務管理のチャートフィールドのセキュリティ保護....583
第11章: チャートフィールドの定義と使用....585
PeopleSoft チャートフィールドについて....585
標準チャートフィールド....585
プロジェクト チャートフィールド....590
貸借一致チャートフィールド....591
代替勘定科目と法定会計....592
チャートフィールド値....592
チャートフィールド組合せ編集....593
前提条件....593
チャートフィールドの定義と使用で使用される共通要素....594
勘定科目のタイプおよび属性の定義と使用....594
勘定科目のタイプと属性の定義に使用するページ....595
勘定科目タイプ ページ....595
チャートフィールド属性ページ....596
チャートフィールド属性値ページ....599
[貸借対照表] と [台帳コード] の使用....599
[貸借対照表] 属性の選択....599
勘定残高グループのインストール オプションの設定....600
勘定残高グループ ページ....601
仮計上チャートフィールド - 貸借一致 ページ....602
チャートフィールド値の入力と管理....603
チャートフィールドの定義に使用するページ....606
チャートフィールド値の入力と管理について....608

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

内容ページ ... 609
台帳コード ページ ... 609
調整タイプ ページ ... 611
勘定科目ページ ... 612
代替勘定科目マッピング ページ ... 615
代替勘定科目ページ ... 617
勘定科目へのマッピング ページ ... 618
業務ユニット ページ ... 619
資金コード ページ ... 620
部門ページ ... 621
製品ページ ... 623
プロジェクト ページ ... 623
統計コード ページ ... 626
シナリオ ページ ... 627
プログラム コード ページ ... 627
クラス フィールド ページ ... 628
予算参照ページ ... 629
チャートフィールド 1 ページ ... 630
標準チャートフィールド設定ページ ... 631
PeopleSoft プロジェクト会計処理製品のチャートフィールド値の追加 ... 633
Excel スプレッドシートによるコンポーネント インターフェイス処理へのチャートフィールド値のロード ... 633
ツリーの使用によるチャートフィールドの要約 ... 633
スピード入力の定義と使用 ... 633
スピード入力の定義と管理に使用するページ ... 633
スピード入力の定義と使用について ... 634
スピード入力ページ ... 634
スピード入力の削除ページ ... 636
チャートフィールド値セットの定義と使用 ... 637
チャートフィールド値セットの定義に使用するページ ... 638
チャートフィールド値セットの定義と使用について ... 638
チャートフィールド値セット ページ ... 638
チャートフィールド レポートの作成 ... 640
チャートフィールド レポートの作成に使用するページ ... 641
第12章: チャートフィールドの組合せの編集 ... 649
チャートフィールド組合せ編集について ... 649
組合せ編集のチャートフィールド、ルールおよびツリー ... 650
組合せ編集でさまざまなテーブル タイプを使用することのメリット ... 651
PeopleSoft アプリケーションでのオンラインおよびバッチ組合せ編集の使用可否 ... 654
取引ソースごとの組合せ編集 ... 655
オンラインのチャートフィールド組合せ編集 ... 656
バッチまたはバックグラウンド処理でのチャートフィールド組合せ編集 ... 657
マスター セレクタ テーブルから生成された詳細値の保持 ... 660

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Financials データベース外アプリケーションの Web サービスを使用したオンライン組合せ編集....660
PeopleSoft コミットメント コントロールでの組合せ編集....661
マスター セレクタ テーブル....661
チャートフィールド組合せ編集テンプレート....663
組合せ編集グループ....664
各種の例....664
チャートフィールド組合せの編集で使用される共通要素....668
前提条件....668
取引ソースごとの組合せ編集の定義....668
組合せ編集の設定....669
組合せ編集の設定に使用するページ....670
組合せ編集の設定について....671
チャートフィールド組合せ編集テンプレート ページ....672
元帳テンプレート - フィールド定義ページ....673
チャートフィールド組合せ編集定義ページ....674
ルール定義ページ....676
チャートフィールド組合せページ....677
チャートフィールド組合せ編集グループ ページ....679
仕訳編集オプション ページ....682
組合せ編集取引ソース ページ....684
組合せデータ作成処理の実行....685
組合せ作成処理の実行に使用するページ....686
組合せデータ作成処理の実行について....686
組合せデータ作成リクエスト ページ....686
ユーザー定義組合せデータの使用....690
組合せオブジェクトの使用....691
組合せオブジェクトのコピー、名称変更または削除に使用するページ....691
組合せのコピー/名称変更/削除ページ....691
組合せ編集データの表示....693
組合せ編集データの表示に使用するページ....693
組合せ編集データの表示について....694
セレクタ テーブル ページ....694
組合せデータ確認ページ....695
組合せセレクタ テーブル データ確認ページ....697
チャートフィールド組合せレポートの実行....698
チャートフィールド組合せレポートの実行に使用するページ....699
第13章: チャートフィールドの設定....701
PeopleSoft チャートフィールド設定について....701
正しい設定を作成するためのチェックリスト....702
チャートフィールド設定とチャートフィールド タイプ....704
プロジェクト チャートフィールド....707
チャートフィールド設定の対象範囲とレベル....709
チャートフィールドのレポート要件の分析....710

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

標準のチャートフィールド設定の使用 711
標準チャートフィールド設定に使用するページ 711
標準チャートフィールド設定の使用について 711
標準チャートフィールド設定ページ 712
詳細なチャートフィールド設定の使用 716
詳細チャートフィールド設定で使用するページ 716
詳細なチャートフィールド設定の使用について 716
詳細設定ページ 718
チャートフィールド設定プログラムの実行と確認 720
チャートフィールド設定プロセスの実行と確認に使用するページ 720
チャートフィールド設定プログラムの実行と確認について 723
標準チャートフィールド設定ページ 723
ダイナミック編集テーブル ページ 725
アクション ステータス ページ 725
製品ステータス ページ 727
設定アクションの結果の確認 727
手動設定タスクの実行 728
手動設定について 728
ワンタイム手動設定タスクの実行 729
製品固有の設定タスクの実行 736
設定ステップ レポートと照会の実行 741
新製品およびアプリケーション修正に対するチャートフィールド設定の実行 741
アプリケーション修正が含まれるオブジェクトに対するチャートフィールドの設定に使用するページ 741
プロジェクト チャートフィールド設定ページ 741
初回の設定後にインストールされた製品に対するチャートフィールドの設定 742
チャートフィールド設定プログラムおよびプロセスのレビュー 742
チャートフィールド設定ドライバ 743
チャートフィールド手動設定プログラム 744
チャートフィールド自動設定プログラム 744
第14章: ツリーの使用によるチャートフィールドの要約 749
ツリーを使用したチャートフィールド要約について 749
前提条件 750
ツリーの作成と管理 751
ツリー単層化の使用 751
ツリーの単層化に使用するページ 751
ツリー単層化について 752
OTBI ツリー フィールド ページ 752
ツリー単層化リクエスト ページ 753
第15章: ビジネス リクエストおよび承認の設定と使用 757
ビジネス リクエストおよび承認プロセスについて 757
ビジネス リクエストおよび承認の設定と使用 758
ビジネス リクエストの設定に使用するページ 758
ビジネス リクエストおよび承認プロセスについて 758

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ビジネス リクエスト設定ページ ... 758
コア テーブル フィールド ページ ... 760
ビジネス リクエスト テンプレート ページ ... 762
ビジネス リクエストの承認フレームワークの設定 ... 765
ビジネス リクエストの承認フレームワークの設定に使用するページ ... 765
ビジネス リクエストの承認フレームワークの設定について ... 766
フィールド承認トランザクションの登録と設定 ... 766
承認フレームワークの承認ロールおよびユーザー リストの定義 ... 771
ユーザー リスト定義ページ ... 772
承認プロセス定義の設定 ... 773
プロセス定義の設定ページ ... 774
条件定義ページ ... 775
承認パス定義ページ ... 778
承認ステップ定義ページ ... 780
チャートフィールド リクエストおよび承認の定義と使用 ... 783
チャートフィールド リクエストおよび承認の定義と使用に使用するページ ... 783
チャートフィールド リクエストおよび承認の定義と使用について ... 784
チャートフィールド リクエスト ページ ... 785
リクエスト コピー ページ ... 791
リクエスト添付情報ページ ... 791
承認フロー ページ ... 792
ビジネス リクエストおよび承認プロセスの管理 ... 793
ビジネス リクエストおよび承認プロセスの管理に使用するページ ... 793
ビジネス リクエスト承認の管理ページ ... 793
リクエスト承認添付情報ページ ... 794
承認フロー ページ ... 795
ビジネス リクエストの照会 ... 795
ビジネス リクエストの照会に使用するページ ... 795
ビジネス リクエスト照会ページ ... 796
リクエスト添付情報ページ ... 797
承認フロー ページ ... 797
第16章: 入力イベントの使用 ... 799
入力イベントについて ... 799
前提条件 ... 800
入力イベントの基本設定 ... 801
入力イベント ソース取引定義 ... 801
入力イベント プロセスのパフォーマンスの最適化 ... 801
入力イベント プロセスおよびステップ ... 802
入力イベント コード ... 802
入力イベントを使用する PeopleSoft 製品 ... 802
入力イベント処理 ... 809
ソース ドキュメント調整入力および入力イベント処理 ... 813
上方調整と下方調整 ... 813
入力イベントのユーザー基本設定オプション ... 813

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

入力イベントの設定 814
入力イベントの設定に使用するページ 814
入力イベント ソース定義ページ 815
入力イベント プロセス定義ページ 816
入力イベント コード定義ページ 817
入力イベント処理 819
入力イベントの処理に使用するページ 819
入力イベント仕訳ページ 819
入力イベント処理リクエスト ページ 820
各種アプリケーションおよびトランザクションの入力イベントの設定と処理 821
複数のドキュメントまたは製品での 1 つの入力イベント コードの使用 822
調達依頼リバーサルおよび発注リバーサルとクローズでの入力イベントの使用 824
入力イベントを使用した伝票取引、支払取引およびキャッシュ クリアリング取引の処理 826
入力イベント コードを使用した上方調整および下方調整 829
入力イベントを使用した売掛金取引および直接仕訳の処理 836
コミットメント コントロール予算での入力イベントの使用 837
前提条件 837
入力イベントを使用するコミットメント コントロール予算仕訳の設定および処理 837
入力イベントを使用する親予算、調整および振替の自動生成の設定 839
入力イベントを使用したコミットメント コントロール予算の設定およびクローズ 840
第17章: 代替勘定科目の使用 843
代替勘定科目について 843
代替勘定科目のマッピングおよびセットID の共有 845
前提条件 848
代替勘定科目の有効化 848
代替勘定科目の有効化に使用するページ 848
インストール段階での代替勘定科目の有効化 848
元帳グループおよびビジネス ユニット レベルでの代替勘定科目の有効化 849
勘定科目および代替勘定科目の追加とマッピング 849
代替勘定科目の追加またはマップに使用するページ 850
代替勘定科目 - 勘定科目へのマッピング ページ 850
代替勘定科目マッピング ページ 852
第18章: 会計カレンダーの定義 855
オープン期間とクローズ期間に基づいた会計カレンダーについて 855
調整期間およびその他の特別期間 857
オープン期間 858
カレンダー ビルダーの設定 860
カレンダー ビルダーの設定に使用されるページ 861
カレンダー ビルダー ページ 861
詳細カレンダーの定義 864
詳細カレンダーの定義に使用されるページ 865
カレンダー期間ページ 865
カレンダー期間 - 減価償却ページ 868
要約カレンダーの定義 870

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

要約カレンダーの定義に使用されるページ....870
要約カレンダー ページ....870
ビジネス カレンダーの定義....871
ビジネス カレンダーの定義に使用されるページ....871
ビジネス カレンダー ページ....872
オープン期間および調整期間の定義と更新....873
オープン期間と調整期間の定義および更新に使用されるページ....873
オープン期間更新ページ....873
オープン期間表示ページ....879
オープン期間一括更新ページ....879
調整期間の一括更新ページ....882
第19章: 元帳の設定....885
元帳について....885
前提条件....886
元帳テンプレート....886
元帳テーブル....886
明細元帳....887
元帳グループ....887
ユニット別元帳....888
元帳エラー処理....888
複数帳簿元帳....889
要約元帳....890
タイムスパン....890
元帳のインポートとエクスポート....891
元帳テンプレートの定義....891
元帳テンプレートの定義に使用するページ....892
元帳テンプレートを定義する方法について....892
テンプレート - レコード定義ページ....892
テンプレート - フィールド定義ページ....896
明細元帳の定義....897
明細元帳の定義に使用するページ....898
明細元帳ページ....898
元帳の元帳グループへのリンク....898
元帳グループの設定に使用するページ....898
元帳グループ - 定義ページ....899
元帳グループ - チャートフィールド ページ....901
元帳グループ - 貸借一致ページ....902
ビジネス ユニット用元帳の定義....904
ビジネス ユニット用元帳の定義に使用するページ....904
ビジネス ユニット用元帳の定義について....906
ユニット別元帳 - 定義ページ....906
ユニット別元帳 - 仕訳編集オプション ページ....910
ユニット別元帳 - 通貨オプション ページ....915
ユニット別元帳 - 仕訳転記オプション ページ....917

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユニット別元帳 - 承認オプション ページ ... 919
ユニット別元帳 - コミットメント コントロール元帳オプション ページ ... 922
複数帳簿元帳の設定と使用 ... 922
複数帳簿元帳の設定と使用に使用するページ ... 923
前提条件 ... 924
基本設定ページ ... 924
仕訳入力作成/更新 - ヘッダー ページ ... 924
仕訳入力作成/更新 - 行ページ ... 924
要約元帳を使用した勘定科目の組合せ ... 926
要約元帳を使用した勘定科目の組合せに使用するページ ... 926
要約元帳を使用した勘定科目の組合せについて ... 926
前提条件 ... 927
要約元帳テーブルの作成 ... 929
要約元帳ページ ... 930
元帳セット ページ ... 932
要約元帳作成リクエスト ページ ... 934
転記による要約元帳の増分更新 ... 936
要約元帳ステータスの確認ページ ... 937
タイムスパンの使用 ... 938
タイムスパンの設定に使用するページ ... 938
タイムスパン ページ ... 938
元帳のインポートとエクスポート ... 940
フラット ファイル元帳のインポートとエクスポートに使用するページ ... 940
元帳のインポートとエクスポートについて ... 940
フラット ファイル元帳インポート リクエスト ページ ... 941
元帳フラット ファイル フォーマット ページ ... 946
元帳データのエクスポート リクエスト ページ ... 946
第20章: 仕訳ジェネレータの使用 ... 949
仕訳ジェネレータについて ... 949
PeopleSoft 仕訳への会計入力の変換 ... 950
仕訳ジェネレータに必須のフィールド名 ... 951
仕訳ジェネレータとコミットメント コントロールの使用 ... 953
前提条件 ... 954
仕訳ジェネレータの設定 ... 956
仕訳ジェネレータの設定に使用するページ ... 956
仕訳ジェネレータの設定について ... 957
会計入力定義ページ ... 957
仕訳ジェネレータ テンプレート - デフォルト ページ ... 962
仕訳ジェネレータ テンプレート - 要約ページ ... 970
仕訳入力の作成 ... 972
仕訳入力の作成に使用するページ ... 972
仕訳入力の作成について ... 972
仕訳作成リクエスト ページ ... 972
仕訳ジェネレータで作成した仕訳の変更 ... 975

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

仕訳ジェネレータで作成した仕訳の削除 976
第21章: ユニット間およびユニット内会計とチャートフィールド継承の使用 977
PeopleSoft ユニット間およびユニット内機能について 977
貸借一致チャートフィールド 978
関係会社チャートフィールド 978
貸借一致方式 978
基準エンティティ 980
製品インターフェイスおよびシステム取引のカテゴリ分類 981
取引の組織および法人カテゴリ分類 981
ユニット間およびユニット内テンプレート 983
ユニット間ペア 984
ユニット間およびユニット内仕訳行の要約 985
複数帳簿の注意点 985
ユニット間およびユニット内処理を使用する製品 986
ユニット間およびユニット内処理の設定 987
ユニット間およびユニット内処理の設定に使用するページ 987
ユニット間インストール オプション基本設定の設定 988
元帳グループ - 貸借一致ページ 990
取引コード ページ 992
システム取引マップ ページ 993
取引オプション ページ 995
原価管理ユニット間移動の追加取引コードの作成 997
ユニット間テンプレート ページ 997
ユニット間テンプレート - 挿入する入力の選択ページ 1000
ユニット内テンプレート ページ 1002
ユニット内テンプレート - 挿入する入力の選択ページ 1003
ユニット間およびユニット内テンプレートを使用した設定例の確認 1005
ユニット間ペア ページ 1007
ユニット間請求取引およびユニット間移動のユニット間ペア オプションの定義 - 例 1009
ユニット間ペア - 挿入する入力の選択ページ 1011
一般会計定義 - ユニット間/ユニット内ページ 1012
ユニット間およびユニット内プロセッサの実行 1015
ユニット間およびユニット内インターフェイスの処理に使用するページ 1016
プロセッサの実行について 1016
提供されているシステム取引の表示 1017
システム取引ページ 1 ページ 1017
システム取引ページ 2 ページ 1020
実行時に指定するサンプル パラメータの確認 1026
ユニット間ペアのマス メンテナンスの使用 1032
ユニット間ペア マス メンテナンスの実行に使用するページ 1032
ユニット間ペアのマス メンテナンスについて 1033
前提条件 1033
ユニット間ペア マス メンテナンス - エクスポート ページ 1034
Excel ワークシートを使用した変更 1036

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Excel ワークシートをインポートするためのシステム設定....1037
ユニット間ペア マス メンテナンス - インポート ページ....1039
チャートフィールド継承の使用....1040
チャートフィールド継承の設定に使用するページ....1041
チャートフィールド継承について....1041
チャートフィールド継承ページ....1042
貸借一致チャートフィールドに特別な検証を必要とするチャートフィールド継承グループの処理....1045
ユニット間、ユニット内およびチャートフィールド継承設定の検証....1047
ユニット間、ユニット内およびチャートフィールド継承設定の検証に使用するページ....1047
ユニット間、ユニット内およびチャートフィールド継承設定の検証について....1047
前提条件....1048
ユニット間/ユニット内 - 設定の検証ページ....1048
第22章: 配賦の処理....1059
Oracle の PeopleSoft の配賦プロセス (FS_ALLC) について....1059
配賦プロセス ステップの定義....1061
配賦ステップに使用するページ....1061
配賦ステップとプロセス グループについて....1062
配賦ステップ定義 - タイプ ページ....1063
配賦ステップ定義 - 配賦元ページ....1066
配賦ステップ定義 - 基準ページ....1071
配賦ステップ定義 - 配賦先ページ....1076
配賦ステップ定義 - 相殺ページ....1079
配賦ステップ定義 - 出力オプション ページ....1081
配賦ステップ定義 - 端数処理オプション ページ....1086
配賦ステップ定義 - バッチ レコード ページ....1090
配賦ステップ定義 - 金額フィールド ページ....1093
配賦グループの定義....1100
配賦グループの定義に使用するページ....1100
配賦グループについて....1100
配賦グループ ページ....1101
配賦ステップのコピー、名称変更または削除....1102
ステップのコピー、名称変更または削除に使用するページ....1102
配賦ステップのコピー、名称変更または削除について....1102
配賦ステップのコピー/名称変更/削除ページ....1103
調整入力仕訳の作成....1104
調整入力仕訳の作成に使用するページ....1104
配賦と調整入力仕訳について....1104
タイムスパン ページ....1104
相対期間を指定したタイムスパン定義の設定....1105
複数の調整期間への配賦 - 例....1106
調整入力オプションの指定....1106
ユニット間およびユニット内配賦の設定....1108
PeopleSoft プロジェクト コスト管理での配賦の使用....1110

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

配賦リクエストの実行 1110
配賦リクエストの実行に使用するページ 1110
配賦リクエスト ページ 1110
配賦レポートの生成 1112
配賦レポートの生成に使用するページ 1112
処理メッセージの表示 1113
配賦プロセスの再開とリカバリ 1113
第23章: 即時転記プロセスの設定 1115
即時転記プロセスの設定について 1115
プロセス グループ 1116
即時転記プロセス オプションの設定 1127
即時転記プロセス オプションの設定に使用するページ 1127
即時転記プロセス オプションの設定について 1127
即時転記プロセス オプション ページ 1127
プロセス グループ ユーザー基本設定の定義 1129
プロセス グループ基本設定の定義に使用するページ 1129
プロセス グループ ユーザー基本設定について 1129
ユーザー基本設定 - プロセス グループ ページ 1130
第24章: 共通のユーザビリティ機能の使用 1137
マウス オーバー ポップアップ ページについて 1137
マウス オーバー ポップアップ ページの指定方法について 1137
顧客のポップアップ ページについて 1138
顧客連絡先のポップアップ ページについて 1140
サプライヤのポップアップ ページについて 1143
サプライヤ内線番号のポップアップ ページについて 1146
サプライヤ連絡先のポップアップ ページについて 1149
マウス オーバー ポップアップ機能のアクティブ化 1149
マウス オーバー ポップアップ機能のアクティブ化に使用されるページ 1149
パーソナル設定の定義ページ 1150
マイ パーソナル設定ページ 1151
追加ページへのポップアップ ページの追加 1152
第25章: ワークセンターの使用およびパーソナル設定 1157
ワークセンターおよびダッシュボードについて 1157
ワークセンター 1157
例: ワークセンター 1158
PeopleSoft ワークセンターにおいてよく使用される用語 1159
ページレット、およびページレットの設定、メンテナンスおよびパーソナル設定 1160
ダッシュボードおよびピボット グリッド 1162
ワークセンターをシステム管理者として設定する方法について 1162
ワークセンター データの移動 1162
エンド ユーザーとしてのワークセンターの使用とパーソナル設定 1163
エンド ユーザーとしてワークセンターを使用およびパーソナル設定する際に使用するページ 1163
<アプリケーション> ワークセンター ページ 1163
パーソナル設定 - <アプリケーション> ワークセンターのパーソナル設定ページ 1165

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

エンド ユーザーとしての [マイ ワーク] ページレットの使用とパーソナル設定 1166
エンド ユーザーとして [マイ ワーク] ページレットを使用およびパーソナル設定する際に使用するページ 1166
[マイ ワーク] ページレット 1166
ユーザー マイ ワークのリンクの定義 - マイ ワーク ページレットのパーソナル設定 ページ 1168
フィルタの編集ページ 1169
エンド ユーザーとしての [リンク] ページレットの使用とパーソナル設定 1170
エンド ユーザーとして [リンク] ページレットを使用およびパーソナル設定する際に使用するページ 1170
[リンク] ページレット 1170
ユーザー "リンク" のリンクの定義 - リンク ページレットのパーソナル設定 ページ 1171
リンクの定義 ページ 1173
エンド ユーザーとしての [クエリー] ページレットの使用とパーソナル設定 1173
エンド ユーザーとして [クエリー] ページレットを使用およびパーソナル設定する際に使用するページ 1173
[クエリー] ページレット 1173
ユーザー クエリーのリンクの定義 - クエリー ページレットのパーソナル設定ページ 1175
エンド ユーザーとしての [レポートおよびプロセス] ページレットの使用とパーソナル設定 1176
エンド ユーザーとして [レポートおよびプロセス] ページレットを使用およびパーソナル設定する際に使用するページ 1176
[レポートおよびプロセス] ページレット 1176
ユーザー "レポート" のリンクの定義 - レポート/プロセス ページレットのパーソナル設定ページ 1178
第26章: 設定可能分析フレームワークの使用 1181
設定可能分析フレームワークについて 1181
設定可能分析フレームワークの技術的な要素について 1182
ファクター タイプ 1182
ハンドラ タイプ 1184
関連アクション レベル 1186
セキュリティ 1187
設定可能分析フレームワークの設定 1187
設定可能分析フレームワークの設定に使用するページ 1187
分析ハンドラ レジストリ ページ 1188
分析設定ページ 1191
エンティティ設定ページ 1193
ファクター設定ページ 1194
ファクターの定義ページ 1195
ファクター リスト設定ページ 1199
ファクター リストのコピー ページ 1200
関連アクション設定ページ 1201
関連アクションの定義ページ 1201
その他ページ 1204
分析アクセス制御ページ 1204
設定可能分析フレームワークの使用 1206

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

設定可能分析フレームワークを利用するために使用するページ....1206
設定可能分析フレームワークについて....1206
分析表示ページの共通の要素....1207
分析表示ページ (比較モード)....1209
分析表示ページ (分析モード)....1213
第27章: Financials and Supply Chain Management での PeopleSoft Fluid の設定と使用....1215
PeopleSoft Fluid ユーザー インターフェイスについて....1215
PeopleSoft Fluid の設定 - 従業員セルフサービス....1215
PeopleSoft Fluid の設定 - 従業員セルフサービスのオプションの設定に使用するページ....1216
従業員セルフサービス ホームページ....1216
セルフサービス承認での PeopleSoft Fluid ユーザー インターフェイスの使用....1217
PeopleSoft Fluid ユーザー インターフェイスによるセルフサービス承認で使用するページ....1217
PeopleSoft Fluid ユーザー インターフェイスのセルフサービス承認ページについて....1218
承認ページにアクセスする方法について....1218
[承認] タイル....1219
承認待ちページ....1220
フィルタ ページ....1227
承認待ち - <Transaction Details> ページ....1228
承認履歴ページ....1231
承認履歴 - <Transaction Details> ページ....1235
PeopleSoft Fluid ページを使用した通知の送信....1238
PeopleSoft Fluid ページを使用して通知を送信するのに使用するページ....1238
通知ページについて....1238
通知ページ....1238
ビジネスカードの表示....1240
ビジネスカードの表示に使用するページ....1240
ビジネスカード ページについて....1240
ビジネスカードの表示ページ....1240
第28章: PeopleSoft モバイル アプリケーションの設定と使用....1241
PeopleSoft モバイル アプリケーションについて....1241
PeopleSoft モバイル承認....1241
PeopleSoft モバイル経費管理....1242
PeopleSoft モバイル eProcurement....1242
PeopleSoft モバイル時間入力....1242
PeopleSoft モバイル アプリケーションの設定....1242
前提条件....1242
PeopleSoft モバイル アプリケーションの設定に使用するページ....1243
PeopleSoft モバイル承認のユーザーに対するアクセス権限の付与....1243
(オプション) PeopleSoft モバイル アプリケーションのログイン設定のカスタマイズ。....1244
モバイル承認オプション ページ....1246
モバイル経費管理アイコンへの経費タイプのマップ....1247
通知/発表ページ....1248
PeopleSoft モバイル アプリケーションへのアクセス....1250
従業員セルフサービス ページ....1250

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft モバイル承認の使用....1252
PeopleSoft モバイル承認フレームワークについて....1252
PeopleSoft モバイル承認へのアクセス....1252
モバイル承認の使用による複数のトランザクションの承認....1259
モバイル承認の使用による添付の表示....1261
PeopleSoft モバイル経費管理の使用....1262
PeopleSoft モバイル経費管理について....1262
PeopleSoft モバイル経費管理の設定....1263
モバイル経費管理の添付の追加要件....1263
PeopleSoft モバイル経費管理へのアクセス....1263
モバイル経費管理の使用....1264
支出記録経費の追加....1267
支出記録トランザクションの確認....1268
モバイル経費レポートの作成....1269
モバイル経費管理の添付の追加と表示....1273
経費履歴の確認....1275
PeopleSoft モバイル eProcurement の使用....1275
PeopleSoft モバイル eProcurement について....1275
PeopleSoft モバイル eProcurement のアクセスと使用....1276
モバイル デバイスの使用によるオーダーの表示....1278
[担当オーダー] ページレット....1279
ユーザー設定....1281
モバイル タブレットからの検索およびショッピング カートの管理....1285
PeopleSoft モバイル時間入力の使用....1289
モバイル時間入力を使用するための PeopleSoft システムの設定....1289
モバイル時間入力を使用するための PeopleSoft システムの設定に使用するページ....1289
モバイル時間入力機能について....1290
スマートフォンのユーザー インターフェイスについて....1290
スマートフォンでのカレンダー モードの使用....1291
スマートフォンでのタイムシート モードの使用....1298
タブレットまたはパーソナル コンピュータを使用した時間の入力....1307
付録A: サンプル データで提供されているサード パーティ イメージ....1309
サンプル データで提供されているサード パーティ イメージの使用....1309
付録B: アプリケーションの基礎のレポート....1317
アプリケーションの基礎のレポート: 一般的な説明....1317
レポートのチャートフィールドの管理....1327
Oracle Business Intelligence (BI) Publisher レポートの使用による設定済チャートフィールドのサポート....1327
SQR レポートのチャートフィールドの選択....1329

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

はじめに

PeopleSoft オンライン ヘルプおよび PeopleBook について

PeopleSoft オンライン ヘルプは、PeopleSoft アプリケーションおよび PeopleTools の全てのヘルプ コンテンツを表示できる Web サイトです。このヘルプでは、標準ナビゲーションと全文検索、さらに状況依存オンライン ヘルプが PeopleSoft ユーザーに提供されます。

PeopleSoft ホスト ドキュメント

オラクル社の PeopleSoft ホスト ドキュメント Web サイトの PeopleSoft オンライン ヘルプにアクセスすると、Oracle ホスト サーバーの全てのヘルプ Web サイトおよび状況依存ヘルプに直接アクセスすることができます。ホスト ドキュメントは定期的に更新されるため、ユーザーは最新のドキュメントにアクセスすることができます。ホストの Web サイト コンテンツにはアプリケーションの保守に関するドキュメントがすぐに反映されるため、これらの個別のドキュメント記録を My Oracle Support で確認する必要がなくなります。ホスト ドキュメントの Web サイトは英語版のみ利用可能です。

注: 最新リリースのホスト ドキュメントのみが定期的に更新されます。新しいリリースが登録されても、前のリリースは引き続き利用できますが、更新はされません。

ローカルにインストールされたヘルプ

組織においてファイアウォールの制限により、ホスト ドキュメントの Web サイトを利用できない場合は、PeopleSoft オンライン ヘルプをローカルでインストールすることができます。ローカルでヘルプをインストールした場合は、ユーザーがアクセス可能なドキュメントをより詳細に管理したり、自分の組織のカスタム ドキュメントへのリンクをヘルプ ページに組み込むことができます。

また、PeopleSoft オンライン ヘルプをローカルにインストールすると、全文検索にあらゆる検索エンジンを使用することができます。Oracle Secure Enterprise Search を設定して全文検索を行う手順については、ご使用のインストール ドキュメントに記載されています。

ご使用のデータベース プラットフォーム向けの『*PeopleTools Installation*』の「Installing PeopleSoft Online Help」を参照してください。Secure Enterprise Search を使用しない場合は、選択した検索エンジンのドキュメントを参照してください。

注: ローカルでインストールしたヘルプ Web サイトで検索エンジンにアクセスするには、検索のポートレットとリンクを有効にする必要があります。手順については、PeopleSoft オンライン ヘルプのいずれかのページで [ヘルプ] リンクをクリックしてください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ダウンロード可能な PeopleBook PDF ファイル

従来の PeopleBook 形式であり、ダウンロード可能な PDF 版のヘルプ コンテンツにアクセスすることもできます。PeopleBook PDF のコンテンツは PeopleSoft オンライン ヘルプのコンテンツと同じですが、構造は異なり、オンライン ヘルプで使用できるインタラクティブなナビゲーション機能はありません。

共通のヘルプ ドキュメント

共通のヘルプ ドキュメントには、複数のアプリケーションに適用される情報が含まれています。共通ヘルプの 2 つの主要なタイプは、次のとおりです。

- アプリケーションの基礎
- PeopleSoft アプリケーションの使い方

ほとんどの製品ファミリーでは、システムの設定や設計に関する基本的な情報を説明する、一連のアプリケーションの基礎ヘルプ トピックが提供されます。この情報は、PeopleSoft 製品ファミリーの多くの、または全てのアプリケーションに適用されます。単一のアプリケーション、製品ファミリー内のアプリケーションの組合せ、または製品ファミリー全体のいずれを実装化に関係なく、該当するアプリケーションの基礎ヘルプのコンテンツについて理解している必要があります。これらは、基本的な実装タスクの開始点となります。

また、*『PeopleTools: Applications User's Guide』*では、PeopleSoft ピュア インターネット アーキテクチャのさまざまな要素が紹介されています。また、そこではシステムをナビゲートする際に、ナビゲーションの階層、コンポーネントおよびページを使用して基本的な機能を実行する方法についても説明しています。アプリケーションや導入内容は異なる場合がありますが、このユーザーズ ガイドのトピックでは PeopleSoft アプリケーションの使用方法に関する一般的な情報が説明されています。

フィールドおよびコントロールの定義

PeopleSoft のドキュメントには、アプリケーション ページに表示されるほとんどのフィールドおよびコントロールの定義が含まれています。これらの定義で、フィールドまたはコントロールの使用方法や、移入される値の発生元、さらに特定の値を選択したときの結果などが説明されています。フィールドまたはコントロールが定義されていない場合は、追加の説明が必要ないか、ドキュメントの共通要素のセクションに既に記載されています。たとえば、日付フィールドに追加の説明が必要なことはほとんどなく、いくつかのページではドキュメントで定義されない場合があります。

表記規則

次の表では、オンライン ヘルプで使用される表記規則を説明します。

表記規則	***説明***
キー + キー	キー操作の組合せを示します。たとえば、キーの間のプラス記号 (+) は、最初のキーを押しながら 2 番目のキーを押す必要があることを意味します。Alt + W の場合、Alt キーを押しながら W キーを押します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

表記規則	*説明*
. . . (省略記号)	PeopleCode 構文で、先行する項目または一連の項目を任意の回数繰り返すことができることを示します。
{ } (波かっこ)	PeopleCode 構文で、2 つのオプションからの選択肢を示します。オプションはパイプ (|) で区切られます。
[ ] (角かっこ)	PeopleCode 構文で、オプションの項目を示します。
& (アンパサンド)	PeopleCode 構文でパラメータの前にアンパサンドが記述されている場合は、そのパラメータがインスタンス作成済みのオブジェクトであることを示します。 また、アンパサンドは全ての PeopleCode 変数の前に付きます。
⇒	この継続文字は、コードの行の最後、ページのマージンで折り返された場所に挿入されます。コードは、継続文字がない 1 つの連続した行のコードとして表示または入力される必要があります。

ISO の国コードおよび通貨コード

PeopleSoft オンライン ヘルプのトピックでは、国別の情報や通貨金額を識別するために国際標準化機構 (ISO) の国コードおよび通貨コードを使用しています。

PeopleSoft ドキュメントでは、ISO 国コードは国の識別子として表示される場合があり、ISO 通貨コードは通貨の識別子として表示される場合があります。ドキュメントでの ISO 国コードの参照は、全ての ISO 国コードがアプリケーションに含まれていることを意味しません。"(FRA) Hiring an Employee" は、国固有の見出しの例です。

PeopleSoft の通貨コード テーブル (CURRENCY_CD_TBL) には、サンプルの通貨コード データが含まれています。通貨コード テーブルは、ISO 標準 4217 "Codes for the representation of currencies" に基づいており、さらに国テーブル (COUNTRY_TBL) の ISO 国コードにも依存します。通貨コードおよび国情報を管理するページへのナビゲーションは、使用している PeopleSoft アプリケーションによって異なります。通貨コード テーブルおよび国テーブルを管理するページにアクセスするには、アプリケーションのオンライン ヘルプで詳細を確認してください。

地域および業種の識別子

特定の地域や業種に対してのみ適用される情報は、その前に標準の識別子がかっこ書きで付きます。通常、この識別子はセクション見出しの先頭に記述されますが、注意書きや他のテキストの先頭に記述されることもあります。

地域固有の見出しの例として、"(Latin America) Setting Up Depreciation" があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

地域識別子

地域は地域名によって識別します。PeopleSoft オンライン ヘルプでは、次の地域識別子が使用される場合があります。

- Asia Pacific
- Europe
- Latin America
- North America

業種の識別子

業種は、業種名または業種の略称によって識別します。PeopleSoft オンライン ヘルプには、次の業種識別子が現れることがあります。

- USF (U.S. Federal)
- E&G (Education and Government)

PeopleSoft オンライン ヘルプの使用および管理

次のトピックに関する情報を参照するには、PeopleSoft オンライン ヘルプの任意のページのユニバーサル ナビゲーション ヘッダーで [ヘルプ] リンクをクリックします。

- PeopleSoft オンライン ヘルプの新機能
- PeopleSoft オンライン ヘルプのアクセシビリティ。
- PeopleSoft オンライン ヘルプのアクセス、ナビゲーションおよび検索。
- ローカルにインストールされた PeopleSoft オンライン ヘルプ Web サイトの管理。

Financials and Supply Chain Management で使用する共通要素

勘定科目	法人口座に対する取引の性質を識別するチャートフィールド。これは、一般会計の実装中に組織で通常定義される固有の使用方法にあわせて用意された PeopleSoft チャートフィールドです。
アクティビティ ID	プロジェクトで更新する対象の個別のタスクまたはイベントに割り当てられたアクティビティ ID。
関係会社	1 つのユニット間勘定科目を使用している場合に、ビジネス ユニット間で取引をマッピングするために使用するチャートフィールド。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

指定日	この日以前のデータが、レポートやプロセスに含まれます。
添付	支出記録のエントリ、出張申請、仮払金および経費レポートの添付を追加または表示するには、このリンクをクリックします。 添付の表示方法および取引にドキュメントを添付する方法の例は、Managing My Wallet TransactionsPeopleSoft Expensesを参照してください。
ビジネス ユニット	上位の業務組織を表す ID コード。ビジネス ユニットを使用して、大きな組織内で地域または部門による単位を定義できます。
クラス	一意の支出予算キーを識別するために使用するチャートフィールド。これは、一般会計の実装中に組織で通常定義される固有の使用方法にあわせて用意された PeopleSoft チャートフィールドです。
部門	取引の責任者や取引の影響を受ける人物を識別するチャートフィールド。
説明	60文字までのフリー フォーム テキスト。
全て選択解除	このボタンをクリックして、ページ上のチェック マークの選択を解除します。
有効日	テーブル行が有効になる日付で、アクションが開始される日付。たとえば、6 月 30 日に元帳を締める場合、元帳の締め処理の有効日は 7 月 1 日になります。また、この日付によって情報の表示や変更が可能になる日も決まります。現在行の情報が使用される、ページまたはパネルと、バッチ処理。 *『PeopleTools: PeopleSoft Applications User's Guide』*の「Working with Pages」、「Using Effective Dates」を参照してください
 **(埋込みヘルプ)**	[埋込みヘルプ] アイコンをクリックすると、このページまたはセクションの情報の副ウィンドウが開きます。埋込みヘルプには、追加ヘルプとして特定のフィールドやポイントに関する情報が提供されています。埋込みヘルプの作成および変更方法については、*『PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Application Designer Developer's Guide』*を参照してください。
従業員 ID (従業員 ID)	組織に関連する各個人に固有の ID コード。
資金	特定のアクティビティを継続する目的または特定の目標を特別な規則、制約あるいは制限に従って達成する目的で設定した会計実体。これは、一般会計の実装中に組織で通常定義され

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

	る固有の使用方法にあわせて用意された PeopleSoft チャート フィールドです。
関係会社 - 資金	1 つのユニット内勘定科目を使用している場合に、資金間で取引を関連付けるために使用するチャートフィールド。
[言語] または [言語コード]	レポートのフィールド ラベルとレポート見出しの出力に使用する言語。指定した言語で、フィールドに値が表示されます。 また、従業員、応募者または非従業員が使用する言語も表します。
業務ユニット	流通倉庫や販売センターなどの場所を識別するために使用するチャートフィールド。
プロジェクト コスト管理ユニット	PeopleSoft プロジェクト コスト管理でプロジェクトに割り当てられたビジネス ユニット。
処理頻度	ドロップ ダウン ボックスから該当する頻度を指定します: *1 回限り:* バッチ処理が次に実行されるときにリクエストが実行されます。バッチ処理が実行されると、処理頻度は自動的に *[実行しない]* に設定されます。 *実行しない:* リクエストはバッチ処理の実行時に無視されます。 *常に処理:* リクエストはバッチ処理が実行されるたびに実行されます。
プロセス モニター	このリンクは、送信済プロセス リクエストのステータスを確認できるプロセス リスト ページに移動します。 *『PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Process Scheduler』*の「Understanding PeopleSoft Process Scheduler」を参照してください。
製品	販売製品または生産製品別の収益性分析やキャッシュ フロー分析に役立つ追加情報を取得するチャートフィールド。
プログラム	関連するアクティビティのグループ、コスト センター、収益センター、責任センターおよび学問的プログラムを識別するチャートフィールド。プログラムの収益と支出を追跡管理します。
プロジェクト	プロジェクト/権限付与に関する情報を取得するチャートフィールド。
レポート ID	レポート識別子。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

レポート マネージャ

このリンクからレポート リスト ページに移動して、レポート内容の表示、レポートのステータスの確認、レポートの説明と配布リストを示している内容詳細メッセージの確認を実行できます。

*『PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Process Scheduler』*の「Understanding PeopleSoft Process Scheduler」を参照してください。

リクエスト ID

レポートまたはプロセスの選択条件セットを表すリクエスト ID。

リソース タイプ

労働などの指定された原価に関連付けされるリソース カテゴリ。PeopleSoft プロジェクト コスト管理においてリソース カテゴリ、リソース サブカテゴリおよびリソース グループに関連して使用されます。

実行

このボタンは、プロセスまたはジョブの実行場所や、プロセスの出力フォーマットを指定する [プロセス スケジューラ] リクエスト ページに移動します。

*『PeopleTools PeopleBook: PeopleSoft Process Scheduler』*の「Understanding PeopleSoft Process Scheduler」を参照してください。

ラン コントロール ID

レポートまたはプロセスの実行パラメータを識別する ID コード。

全て選択

このボタンをクリックしてページにあるすべてのオプションを選択します。

セットID

コントロール テーブル情報のセットまたはテーブルセットを表す ID コード。テーブルセットは、会社の構造および処理オプションを定義するために必要なテーブル (レコード) のグループです。

略称

15文字までのフリー フォーム テキスト。

ステータス

テーブルの行が *[アクティブ]* か *[非アクティブ]* かを示します。非アクティブな行は取引ページに表示できず、バッチ処理を実行するために使用できません。オーディット トレールを管理するには、使用しなくなったデータを削除するのではなく、非アクティブにします。

ユーザー デフォルト

PeopleSoft 経費管理で使用されるユーザー基本設定およびデフォルト。

ユーザー ID

トランザクションの作成者に対する ID。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft FSCM 関連リンク

Secure Enterprise Search (SES) のファイナンシャルおよびサプライ チェーン マネジメント情報は、PeopleSoft アプリケーションの基礎ドキュメントにあります。アプリケーション固有の情報については、"コンポーネント内の検索ページについて " (PeopleSoft FSCM 9.2: アプリケーションの基礎) トピックを参照してください。

My Oracle Support

PeopleSoft 情報ポータル

Oracle University の PeopleSoft 研修

YouTube の PeopleSoft ビデオ機能の概要

PeopleSoft ビジネス プロセス マップ (Microsoft Visio 形式)

連絡先

提案を送信する ご使用の PeopleTools およびアプリケーションのリリース番号を含めてください。

フォロー

Facebook で PeopleSoft の最新の更新を入手します。

Twitter@PeopleSoft_Info で PeopleSoft をフォローします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第1章

PeopleSoft アプリケーションの基礎について

PeopleSoft アプリケーションの基礎の概要

PeopleSoft アプリケーションの基礎では、次の機能およびプロセスについて説明します。

- データ移行ワークベンチの使用
- PeopleSoft データのエクスポート/インポート ユーティリティの使用
- Financials、Supply Chain Management (FSCM) および Enterprise Service Automation (ESA) の共通定義の定義
- PeopleSoft アプリケーションのインストール オプションの設定
- ユーザー基本設定の定義
- システムのセキュリティ保護
- Financials および Supply Chain Management の PeopleSoft 検索
- チャートフィールドのセキュリティ保護
- チャートフィールドの定義と使用
- チャートフィールド組合せの編集
- チャートフィールドの設定
- ツリーを使用したチャートフィールドの要約
- ビジネス リクエストおよび承認の設定と使用
- 入力イベントの使用
- 代替勘定科目の使用
- 会計カレンダーの定義
- 元帳の設定
- 仕訳ジェネレータの使用
- ユニット間およびユニット内会計とチャートフィールド継承の使用
- 配賦の処理

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 即時転記プロセスの設定
- 共通ユーザビリティ機能の使用
- PeopleSoft モバイル アプリケーションの設定と使用
- ワークセンターの使用とパーソナル設定
- PeopleSoft アプリケーションの基礎のレポート

実装の考慮事項

各製品の概要には、その製品の具体的な実装およびコンポーネント インターフェイスの情報が含まれています。アプリケーションの基礎のドキュメントには、チャートフィールド、元帳、ユニット間およびユニット内機能、カレンダー、セキュリティ、組合せ編集、配賦など、Financials および Supply Chain 製品に共通する機能の設定に関する情報が含まれています。

また、PeopleSoft セットアップ マネージャを使用すると、実装する製品のために実行する必要のある設定タスクのリストを確認できます。この設定タスクには、設定する必要のあるコンポーネントが、コンポーネント テーブルにデータを入力する順番にリストされ、関連する PeopleSoft 製品ドキュメントへのリンクも含まれます。

詳細については、製品ドキュメントの*『PeopleTools: Setup Manager』*を参照してください。

アプリケーションの基礎で使用される共通要素

指定日 この日以前のデータが、レポートやプロセスに含まれます。

ビジネス ユニット 上位の業務組織を表す ID コード。ビジネス ユニットを使用して、大きな組織内の地域または部門による単位を定義できます。

説明 256 文字までの自由形式テキスト。

有効日 テーブル行が有効になる日付で、アクションが開始される日付。たとえば、6 月 30 日に元帳を締める場合、元帳の締め処理の有効日は 7 月 1 日になります。また、この日付によって情報の表示や変更が可能になる日も決まります。ページやバッチ処理には、現在の行の情報が使用されます。

*『PeopleTools: PeopleSoft Applications User's Guide』*の*「Using PeopleSoft Application Pages」*,*「Using Effective Dates」*を参照してください。

従業員 ID (従業員 ID) 組織に関連する各個人に固有の ID コード。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

[言語] または [言語コード]

レポートのフィールド ラベルとレポート見出しの出力に使用する言語。指定した言語で、フィールドに値が表示されます。

また、従業員、応募者または非従業員が使用する言語も表します。

[処理頻度] グループ ボックス

適切な頻度を [処理頻度] グループ ボックスで指定します。

[一括] を選択すると、リクエストはバッチ処理が次に実行されるときに実行されます。バッチ処理が実行されると、処理頻度は自動的に [実行しない] に設定されます。

[常時] を選択すると、リクエストはバッチ処理が実行されるたびに実行されます。

[実行しない] を選択すると、リクエストはバッチ処理の実行時に無視されます。

*『PeopleTools: PeopleSoft Process Scheduler』*を参照してください。

プロセス モニター

クリックしてプロセス リスト ページにアクセスすると、送信済プロセス リクエストのステータスを確認できます。

*『PeopleTools: PeopleSoft Process Scheduler』*を参照してください。

レポート ID

レポート識別子。

レポート マネージャ

クリックしてレポート リスト ページにアクセスすると、レポート内容、レポートのステータス、レポートの説明と配布リストを示す内容詳細メッセージを確認できます。

リクエスト ID

レポートまたはプロセスの選択条件セットを表すリクエスト ID。

実行

クリックしてプロセス スケジューラ ページにアクセスすると、プロセスまたはジョブの実行場所や、プロセスの出力フォーマットを指定できます。

*『PeopleTools: PeopleSoft Process Scheduler』*を参照してください。

ラン コントロール ID

レポートまたはプロセスの選択条件セットを表す ID コード。

セットID

コントロール テーブル情報のセットまたはテーブルセットを表す ID コード。テーブルセットは、会社の構造および処理オプションを定義するために必要なテーブル (レコード) のグループです。

略称

15 文字までの自由形式テキスト。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ステータス (有効ステータス)	テーブルの行が *[アクティブ]* か *[非アクティブ]* かを示します。非アクティブな行は取引ページに表示できず、バッチ処理を実行するために使用できません。オーディットトレールを管理するには、使用しなくなったデータを削除するのではなく、非アクティブにします。
ユーザー ID	トランザクションの作成者に対する ID。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第2章

アプリケーション データに対する PeopleSoft データ移行ワークベンチの使用

PeopleSoft データ移行ワークベンチについて

PeopleSoft データ移行ワークベンチを使用すると、アプリケーション設定データを移行する設定管理プロセスが簡易化されます。データ移行ワークベンチでは、アプリケーション データ セット (ADS) をその基盤となるトランスポート テクノロジとして使用して、データベース間でコンテンツ データを比較、検証およびコピーできます。

データ移行ワークベンチは、データ ムーバー スクリプトの代替として有効であり、ご使用の環境において管理対象となる変更を効果的に表示し、制御します。全ての承認済開発者または管理者は、PeopleSoft Pure Internet Architecture (PIA) を使用してアプリケーション データ セットを簡単に定義し、管理対象オブジェクトのコピーおよび比較プロセスとほとんど同じようにデータを比較したりコピーできます。

注: データ ムーバー スクリプトを引き続き使用してアプリケーション データをロードできますが、データ ムーバーでは、コピー データを比較および検証する方法は提供されていません。

現在、PeopleSoft では、次のアプリケーション データ セット (ADS) 定義をサンプル データとして提供しています。

サポートされている機能	*アプリケーション データ セットの使用方法*	*提供済アプリケーション データ セット名*
一般会計 - 配賦	配賦は、業種や部門などに対してコストや収益といった金額を配分するために使用されます。開発データベースで配賦設定を作成し、ADS 定義を使用して、テスト データベースおよび最終的には実稼動データベースなどに設定を移行すると効率的です。 「PeopleSoft 配賦に対するデータ移行ワークベンチの使用」を参照してください。 「アプリケーション データ セットの使用」を参照してください。	ALLOCATION_GROUP ALLOCATION_REQUEST ALLOCATION_STEP

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

サポートされている機能	*アプリケーション データ セットの使用方法*	*提供済アプリケーション データ セット名*
ワークセンター	PeopleSoft ワークセンターでは、SQL アプリケーション クラスに基づく重要なマイ ワーク リンク フィルタが提供されています。ADS 定義を使用すると、マイ ワーク リンク、フィルタおよびページレットの設定を本稼動環境に移行できます。 「PeopleSoft ワークセンターに対するデータ移行ワークベンチの使用」を参照してください。	WORKCENTER_CONFIGURATION WORKCENTER_FILTERS WORKCENTER_FILTER_VALUES
契約 - 会計処理ルール	会計処理ルールは、請求および収益会計入力を生成するために使用されます。テスト データベースで会計処理ルールを作成してテストし、ADS 定義を使用して、他のデータベースまたは最終的には実稼動データベースにこれらを移動できます。 「PeopleSoft 会計処理ルールに対するデータ移行ワークベンチの使用」を参照してください。	ACCOUNTING RULES
サプライヤ契約管理	設定データは、テストまたは実稼動前および実稼動データベースで使用されます。ADS 定義を使用すると、選択した設定データを実稼動データベースからテスト データベースに、またはテスト データベースから実稼動データベースに移動できます。	多数の ADS 名が提供されています。「PeopleSoft サプライヤ契約管理でのデータ移行ワークベンチについて」を参照してください。
買掛金管理 - 買掛金管理オプション	買掛金管理オプションの設定はセットID レベルで定義され、このコンポーネントでの指定に従って、その下位にある全てのビジネス ユニットを継承します。 テスト データベースで買掛金管理オプションを作成してテストし、ADS 定義を使用して、他のデータベースまたは最終的には実稼動データベースにこれらを移動できます。 「PeopleSoft 買掛金管理オプションでのデータ移行ワークベンチについて」を参照してください。	PAYABLE_OPTIONS

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

サポートされている機能	*アプリケーション データ セットの使用方法*	*提供済アプリケーション データ セット名*
買掛金管理 - スピードチャート	スピードチャートを使用すると、使用頻度の高いチャートフィールド組合せの入力に必要なキーストローク数が削減され、データ入力の効率が向上します。 テスト データベースでスピードチャートを作成してテストし、ADS 定義を使用して、他のデータベースまたは最終的には実稼動データベースにこれらを移動できます。 「PeopleSoft スピードチャートでのデータ移行ワークベンチについて」を参照してください。	SPEEEDCHART
買掛金管理 - 会計入力	会計入力テンプレートは、買掛金処理および入金処理の会計入力を生成するために使用されます。 テスト データベースで会計入力テンプレートを作成してテストし、ADS 定義を使用して、他のデータベースまたは最終的には実稼動データベースにこれらを移動できます。 「PeopleSoft 会計入力テンプレートでのデータ移行ワークベンチについて」を参照してください。	ACCOUNTINGENTRY
ビジネス プロセス ウィーバー	PeopleSoft ビジネス プロセス ウィーバーでは、主要なジョブを統合するためのフレームワークが提供されています。 ADS 定義を使用すると、ビジネス プロセス定義、タスク レジストリ、ビジネス プロセス ラン コントロールおよびビジネス プロセス ウィーバー アプリケーション クラス レジストリを、データベース間で、および最終的には本稼動環境に移行できます。 「PeopleSoft ビジネス プロセス ウィーバーに対するデータ移行ワークベンチの使用」を参照してください。	COMP_BPW_APPCLS_REG COMP_BPW_PROC_DEFN COMP_BPW_PROC_RUN COMP_BPW_TASK_REG

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

サポートされている機能	*アプリケーション データ セットの使用方法*	*提供済アプリケーション データ セット名*
資産ライフサイクル管理	資産プロファイルは、資産タイプおよびこれに対応する資産台帳の標準的な減価償却基準を含むテンプレートです。資産プロファイル ADS を使用して、テスト環境から本稼動環境に資産プロファイル データを移行し、データを検証します。 「PeopleSoft 資産プロファイルに対するデータ移行ワークベンチの使用」を参照してください。	ASSET PROFILE

注: ADS では、基本検証が提供されていますが、ADS を使用して本稼動環境にデータを移行する前に、まず、テスト環境を使用してテストを実行し、結果を検証する必要があります。

アプリケーション データ セットおよびデータ移行ワークベンチの詳細については、*『PeopleTools: Data Migration Workbench』*を参照してください。

アプリケーション データ セットを使用したデータ移行

アプリケーション データ セット機能は、次のコンポーネントで構成されます。

- データ セット デザイナ
- データ移行ワークベンチ

データ セット デザイナ

承認済管理者は、データ セット デザイナを使用して、レコードとその包括的なプロパティの階層構造としてデータ セット定義 (ADS 定義) を作成します。

データ セットは、データ セット定義およびそのレコード グループで構成されます。レコード定義とデータ セット定義は、どちらも移行データの*形式*を定義するメタデータです。データ セットのコピーまたは比較を実行する全ての PeopleSoft データベースに、同じデータ セット定義が存在する必要があります。

データ移行ワークベンチ

次に、承認済管理者は、データ移行ワークベンチを使用して、データ移行プロジェクトとして作業単位を表すプロジェクトにデータ セット インスタンス (データ コンテンツ) を挿入できます。データ移行プロジェクトは、さまざまなデータ セット定義を含むデータ セット インスタンスのコレクションである、管理対象オブジェクト プロジェクトに類似しています。データ移行ワークベンチを使用すると、管理者はデータ セットを含むプロジェクトをコピーおよび比較できるだけでなく、比較レポートや検証レポートを表示することもできます。

また、エンタープライズ コンポーネント承認フレームワークを統合して、*ファイルからのプロジェクト コピー* プロセスを管理者として制御できます。データ セット定義がデータのコピーに適切であることを保証し、PIA データ セット ページについてユーザー セキュリティを有効化するために拡張セキュリティを採用し、データをコピーおよび比較するアクセス権限を割り当てます。PeopleSoft では、データ移行承認フレームワーク

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

を有効化するために、MigrateData プロセス ID が提供されています。詳細については、『*PeopleTools: Understanding Data Set Security*』を参照してください。

PeopleSoft 会計処理ルールに対するデータ移行ワークベンチの使用

PeopleSoft 契約の会計処理ルールは、請求および収益会計入力を生成するために使用されます。テストデータベースで会計処理ルールを作成してテストし、ADS 定義を使用して、他のデータベースまたは最終的には実稼動データベースにこれらを移動できます。

次の表には、PeopleSoft 会計処理ルール設定データの移行をサポートする、提供済 ADS 定義 (データ セット デザイナで提供) がリストされています。

PeopleSoft 会計処理ルールをサポートする提供済 ADS	***アプリケーション データ セット (ADS) の使用方法***
ACCOUNTING RULES	このデータ セットには、PeopleSoft 契約の会計処理ルールを保存するレコードが含まれています。データベース間で会計処理ルールを移動するには、データ移行ワークベンチ - プロジェクト定義ページでこのデータ セットを選択します。

PeopleSoft では、ADS 管理者権限リストを提供しています。アクセスするには、GENERAL_TABLES アクセス グループが [アクセス グループ権限] 内のデータ移行ページに含まれている必要があり、これにより、[コピー比較権限] でアクセスが付与されます。

『*PeopleTools: Security Administration*』の「*Permission Lists*」を参照してください。

関連レコードは全て、GENERAL_TABLES アクセス グループ (PeopleTools、セキュリティ、クエリー セキュリティ、クエリー アクセス マネージャ) 内のクエリー アクセス ツリー (QUERY_TREE_CA) に含まれています。

製品ドキュメントの『*PeopleTools: Data Migration Workbench*』も参照してください。

関連リンク

Defining Accounting RulesPeopleSoft Project Costing

PeopleSoft 配賦に対するデータ移行ワークベンチの使用

配賦は、業種や部門などに対してコストや収益を配分するために広く使用されます。配賦を設定する際には、数多くの設定およびテストが関与する可能性があります。このため、開発データベースで配賦設定を作成し、アプリケーション データ セット (ADS) 定義を使用して、アプリケーション データ セット (ADS) 定義を使用して開発環境、テスト環境および最終的には本稼動環境間で配賦設定データを移行すると効率的な場合があります。

次の表には、PeopleSoft 配賦設定データの移行をサポートする、提供済 ADS 定義 (データ セット デザイナで提供) がリストされています。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft 配賦をサポートする提供済 ADS	*アプリケーション データ セット (ADS) の使用方法*
ALLOCATION_STEP	このデータ セットには、配賦ステップ定義を保存するレコードが含まれています。データベース間で配賦ステップを移動するには、データ移行ワークベンチ - プロジェクト定義ページでこのデータセットを選択します。
ALLOCATION_GROUP	このデータ セットには、配賦グループ定義を保存するレコードが含まれています。データベース間で配賦グループを移動するには、データ移行ワークベンチ - プロジェクト定義ページでこのデータ セットを選択します。
ALLOCATION_REQUEST	このデータ セットには、配賦ラン コントロール リクエストを保存するレコードが含まれています。データベース間で配賦リクエストを移動するには、データ移行ワークベンチ - プロジェクト定義ページでこのデータ セットを選択します。

配賦データセット定義をコピーする場合、コピーされたデータセット内で参照されるデータが、このデータセット定義のコピー先であるデータベース内に実際に存在することを確認してください。たとえば、配賦ステップ内で参照されるツリー定義およびチャートフィールド値が、ソース データベースとターゲット データベース内に存在する必要があります。

注: ADS 移行では、コピー プロセス中にレコード フィールド値が検証されますが、この検証は、プロンプト テーブルまたは変換値を使用するレポート フィールドに制限されます。配賦ステップ定義テーブルでは、動的または派生プロンプト編集テーブルが使用されます。つまり、プロンプト テーブルは実行時に割り当てられ、レコード フィールドには保存されません。結果として、ADS コピー プロセスにより、これらのフィールド値は検証されません。

PeopleSoft では、ADS 管理者権限リストを提供しています。アクセスするには、ALLOCATIONS アクセス グループが [アクセス グループ権限] 内のデータ移行ページに含まれている必要があり、これにより、[コピー比較権限] でアクセスが付与されます。

*『PeopleTools: Security Administration』の「Permission Lists」*を参照してください。

関連レコードは全て、ALLOCATIONS アクセス グループ (PeopleTools、セキュリティ、クエリー セキュリティ、クエリー アクセス マネージャ) 内のクエリー アクセス ツリー (QUERY_TREE_GL) に含まれています。

製品ドキュメントの*『PeopleTools: Data Migration Workbench』*も参照してください。

関連リンク

配賦プロセス ステップの定義

Oracle の PeopleSoft の配賦プロセス (FS_ALLC) について

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft 資産プロファイルに対するデータ移行ワークベンチの使用

資産プロファイルは、資産タイプおよびこれに対応する資産台帳の標準的な減価償却基準を含むテンプレートです。新しい資産をシステムに追加する際、資産プロファイル用に設定された情報をデフォルト値として後で使用できます。新しい資産プロファイルを追加したり、既存の資産プロファイルを変更する場合、通常、データ整合性を保証するためにテスト環境で行ってから、本稼動環境に資産プロファイル データを移行します。資産プロファイル ADS を使用して、テスト環境から本稼動環境に資産プロファイル データを移行し、データを検証できます。

次の表には、資産プロファイル データの移行をサポートする、提供済 ADS 定義 (データ セット デザイナで提供) がリストされています。

PeopleSoft 資産プロファイルをサポートする提供済 ADS	*アプリケーション データ セット (ADS) の使用方法*
ASSET PROFILE	このデータ セットには、資産プロファイル定義を保存するレコードが含まれています。 データベース間で資産プロファイルデータを移動するには、データ移行ワークベンチ - プロジェクト定義ページでこのデータ セットを選択します。

PeopleSoft では、ADS 管理者権限リストを提供しています。アクセスするには、PS/AM アクセス グループが [アクセス グループ権限] 内のデータ移行ページに含まれている必要があり、これにより、[コピー比較権限] でアクセスが付与されます。

*『PeopleTools: Security Administration』の「Permission Lists」*を参照してください。

関連レコードは全て、PS/AM アクセス グループ (PeopleTools、セキュリティ、クエリー セキュリティ、クエリー アクセス マネージャ) 内のクエリー アクセス ツリー (QUERY_TREE_AM) に含まれています。

アプリケーション データ セットおよびデータ セットの実装の詳細については、次を参照してください。

アプリケーション データ セットの使用

*『PeopleTools Data Migration Workbench』*ドキュメント

PeopleSoft ビジネス プロセス ウィーバーに対するデータ移行ワークベンチの使用

PeopleSoft ビジネス プロセス ウィーバーでは、主要なジョブを統合するためのフレームワークが提供されています。ADS 定義を使用すると、ビジネス プロセス定義、タスク レジストリ、ビジネス プロセス ラン コントロールおよびビジネス プロセス ウィーバー アプリケーション クラス レジストリを、データベース間で、および最終的には本稼動環境に移行できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

次の表には、PeopleSoft ビジネス プロセス ウィーバー設定データの移行をサポートする、提供済 ADS 定義 (データ セット デザイナで提供) がリストされています。

PeopleSoft ビジネス プロセス ウィーバーをサポートする提供済 ADS	***アプリケーション データ セット (ADS) の使用方法***
COMP_BPW_APPCLS_REG	このデータ セットには、ビジネス プロセス ウィーバーでタスクまたはイベント ハンドラとして使用されるアプリケーション クラスを保存するレコードが含まれています。これは、ユーザー定義アプリケーション クラスを作成した場合に使用します。アプリケーション クラス レコードを移動するには、データ移行ワークベンチ - プロジェクト定義ページでこのデータ セットを選択します。 **注:** アプリケーション クラスは、ターゲット データベース内に存在する必要があります。
COMP_BPW_PROC_DEFN	このデータ セットには、ビジネス プロセス定義を保存するレコードが含まれています。ビジネス プロセス定義を移動するには、データ移行ワークベンチ - プロジェクト定義ページでこのデータ セットを選択します。 **注:** ビジネス プロセスでユーザー定義のアプリケーション クラスまたはタスクを使用する場合、プロセス定義を移動する前に、これらを移行する必要があります。
COMP_BPW_TASK_REG	このデータ セットには、ビジネス プロセス タスク レジストリを保存するレコードが含まれています。タスク レジストリ レコードを移動するには、データ移行ワークベンチ - プロジェクト定義ページでこのデータ セットを選択します。
COMP_BPW_PROC_RUN	このデータ セットには、ビジネス プロセス ラン コントロール定義を保存するレコードが含まれています。ビジネス プロセス ラン コントロール定義を移動するには、データ移行ワークベンチ - プロジェクト定義ページでこのデータ セットを選択します。

関連レコードは全て、BPW アクセス グループ (PeopleTools、セキュリティ、クエリー セキュリティ、クエリー アクセス マネージャ) 内のクエリー アクセス ツリー (QUERY_TREE_GL) で提供されています。

PeopleSoft では、ADS 管理者権限リストを提供しています。アクセスするには、BPW アクセス グループが [アクセス グループ権限] 内のデータ移行ページに含まれている必要があり、これにより、[コピー比較権限] でアクセスが付与されます。

*『PeopleTools: Security Administration』の「Permission Lists」*を参照してください。

関連リンク

ビジネス プロセス ウィーバーの設定
ビジネス プロセスの定義
ビジネス プロセスの実行および管理

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft ワークセンターに対するデータ移行ワークベンチの使用

PeopleSoft ワークセンターでは、SQL アプリケーション クラスに基づく重要なマイ ワーク リンク フィルタが提供されています。ADS 定義を使用すると、ワークセンター マイ ワーク リンク、フィルタおよびページレットの設定をデータベース間で、および最終的には本稼動環境に移行できます。

次の表には、PeopleSoft ワークセンター設定データの移行をサポートする、提供済 ADS 定義 (データ セット デザイナで提供) がリストされています。

PeopleSoft ワークセンターをサポートする提供済 ADS	*アプリケーション データ セット (ADS) の使用方法*
WORKCENTER_FILTER_VALUES	このデータ セットには、ワークセンター システム提供のマイ ワーク リンクを保存するレコードが含まれています。データベース間でマイ ワーク リンクを移動するには、データ移行ワークベンチ - プロジェクト定義ページでこのデータ セットを選択します。
WORKCENTER_FILTERS	このデータ セットには、ワークセンター フィルタ定義を保存するレコードが含まれています。データベース間でワークセンター フィルタ定義を移動するには、データ移行ワークベンチ - プロジェクト定義ページでこのデータ セットを選択します。
WORKCENTER_CONFIGURATION	このデータ セットには、ワークセンター ページレット設定を保存するレコードが含まれています。データベース間でページレット設定を移動するには、データ移行ワークベンチ - プロジェクト定義ページでこのデータ セットを選択します。([エンタープライズ コンポーネント]、[ワークセンター/ダッシュボード]、[ページレット設定])。

関連レコードは全て、EO_WORKCENTER アクセス グループ (PeopleTools、セキュリティ、クエリー セキュリティ、クエリー アクセス マネージャ) 内のクエリー アクセス ツリー (QUERY_TREE_EO) で提供されています。

PeopleSoft では、ADS 管理者権限リストを提供しています。アクセスするには、EO_WORKCENTER アクセス グループが [アクセス グループ権限] 内のデータ移行ページに含まれている必要があり、これにより、[コピー比較権限] でアクセスが付与されます。

*『PeopleTools: Security Administration』の「Permission Lists」*を参照してください。

Setting Up Pagelets for My Work as a System AdministratorEnterprise Components を参照してください。

関連リンク

ワークセンターおよびダッシュボードについて

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft プロジェクト コスト管理でのデータ移行ワークベンチについて

開発環境、テスト環境および最終的には本稼動環境間でデータを移行するために、PeopleSoft プロジェクト コスト管理でアプリケーション データ セット (ADS) を使用できます。

次の表には、PeopleSoft プロジェクト コスト管理設定データの移行をサポートする、提供済の ADS 定義 (データ セット デザイナで提供) がリストされています。データ セット デザイナの詳細については、「アプリケーション データ セットを使用したデータ移行」のトピックを参照してください。

PeopleSoft プロジェクト コスト管理をサポートする提供済 ADS	***アプリケーション データ セット (ADS) の使用方法***
レート セット - PC_RATE_SET	このデータ セットには、PeopleSoft プロジェクト コスト管理用のレート セットを保存するレコードが含まれます。データベース間でレート セットを移動するには、データ移行ワークベンチ - プロジェクト定義ページでこのデータ セットを選択します。 このデータ セットの詳細については、Defining Rate Set Categories Rate Sets and Rate PlansPeopleSoft Project Costing を参照してください。
レート プラン - PC_RATE_PLAN	このデータ セットには、PeopleSoft プロジェクト コスト管理用のレート プランを保存するレコードが含まれます。データベース間でレート プランを移動するには、データ移行ワークベンチ - プロジェクト定義ページでこのデータ セットを選択します。 このデータ セットの詳細については、Defining Rate Set Categories Rate Sets and Rate PlansPeopleSoft Project Costing を参照してください。
カスタム レート - PC_CUSTOM_RATES	このデータ セットには、PeopleSoft プロジェクト コスト管理用のカスタム レートを保存するレコードが含まれます。データベース間でカスタム レートを移動するには、データ移行ワークベンチ - プロジェクト定義ページでこのデータ セットを選択します。 このデータ セットの詳細については、Setting Up Custom RatesPeopleSoft Project Costing を参照してください。

データ移行ワークベンチを使用したデータ セットの移行に関連する手順を理解するには、「データ移行ワークベンチを使用する場合のサンプル ステップ」のトピックを参照してください。

PeopleSoft サプライヤ契約管理でのデータ移行ワークベンチについて

開発環境、テスト環境および最終的には本稼動環境間でデータを移行するために、PeopleSoft サプライヤ契約管理でアプリケーション データ セット (ADS) を使用できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

次の表には、PeopleSoft サプライヤ契約管理設定データの移行をサポートする、提供済の ADS 定義 (データ セット デザイナで提供) がリストされています。データ セット デザイナの詳細については、「アプリケーション データ セットを使用したデータ移行」のトピックを参照してください。

PeopleSoft サプライヤ契約管理設定をサポートする提供済 ADS	***依存対象***	***アプリケーション データ セット (ADS) の使用方法***
ドキュメントのフォーマットとオプション - CS_DOC_FORMAT	なし	このデータ セットには、条項コンテンツ、セクション コンテンツおよびパラグラフ スタイルを作成してプレビューするために使用される、デフォルトの Word テンプレートを定義するレコードが含まれます。 **注:** ドキュメントのテンプレートとスタイル内のデータは、このデータ セットからデータを複製する前に、ターゲット データベース上で手動で更新する必要があります。
ドキュメント コンフィギュレータ タイプ - CS_DOCUMENT_CONFIG_TYPE	なし	このデータ セットには、ドキュメント コンフィギュレータで使用される要件を定義するレコードが含まれます。
ライブラリ - CS_LIBRARIES	なし	このデータ セットには、条項ライブラリを定義するレコードが含まれます。
承認タイプ - CS_APPROVAL_TYPE	なし	このデータ セットには、ロール別のリスク レベルおよび承認設定を示す承認タイプを定義するレコードが含まれます。 **注:** ロールがターゲット データベース内に存在しない場合は、検証エラーが発生する可能性があります。承認タイプをコピーする前に、ロール定義をコピーする必要があります。
クラス - CS_CLASSES	承認タイプ **注:** クラスの承認者タイプはオプションです。これに関連する場合、承認者タイプを移行に含める必要があるかどうかを確認するプロンプトが、データ移行ワークベンチに表示されます。	このデータ セットには、クラスおよびマッピング先承認タイプを定義するレコードが含まれます。
ユーザー定義フィールド - CS_USER_DEFINED_FIELDS	バインド **注:** これに関連する場合、ユーザー定義フィールドで使用される任意のバインドにデータを挿入するかどうかを確認するプロンプトが、データ移行ワークベンチに表示されます。	このデータ セットには、文字、日付、整数および小数のデータ タイプのユーザー定義フィールドを定義するレコードが含まれます。これらのフィールドをバインド変数に関連付けて、ドキュメントの検索に使用できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft サプライヤ契約管理設定をサポートする提供済 ADS	*依存対象*	*アプリケーション データ セット (ADS) の使用方法*
ウィザード プロンプト テーブル - CS_WIZARD_PROMPTS	なし	このデータ セットには、バインド定義で使用されるプロンプト テーブルを定義するレコードが含まれます。
バインド - CS_BINDS	ウィザード プロンプト テーブル **注:** これに関連する場合、バインド変数のデータ コンテンツで使用されるウィザード プロンプト テーブルを含めるかどうかを確認するプロンプトが、データ移行ワークベンチに表示されます。	このデータ セットには、条項、セクション、ルールおよびサプライヤ契約ドキュメントで使用されるバインド変数を定義するレコードが含まれます。
バインド マッピング - CS_BIND_MAPPINGS	バインド **注:** これに関連する場合、データ コンテンツで使用されるバインド変数を含めるかどうかを確認するプロンプトが、データ移行ワークベンチに表示されます。	このデータ セットには、トランザクション タイプのバインド変数間でのマッピングを定義するレコードが含まれます。
マイドキュメント設定: • CS_DOCPREF_COLLABORATORS • CS_DOCPREF_ROLEACCESS	ユーザー定義およびロール	このデータ セットには、デフォルト内部コラボレータおよびドキュメントに対するロール レベルの表示権限を定義するレコードが含まれます。転送対象データを含む 2 つのレコードには関連性がないため、2 つのデータ セットが必要となります。 コラボレータとロール アクセスのデータをコピーする必要がある場合、データ移行ワークベンチで、両方のデータ セットがプロジェクトに含まれている必要があります。 コラボレータとロール アクセスのデータをコピーする必要がない場合、データ変更のある方を含めます。たとえば、デフォルト コラボレータにのみ変更を行う必要がある場合は、CS_DOCPREF_COLLABORATORS のみをコピーします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft サプライヤ契約管理設定をサポートする提供済 ADS	***依存対象***	***アプリケーション データ セット (ADS) の使用方法***
ユーザー基本設定 - CS_USER_PREFERENCES	ユーザー定義およびロール	このデータ セットには、作成ドキュメントのドキュメント権限と管理者権限を定義するレコードが含まれます。 **注:** ユーザー プロファイルがターゲット データベース内に存在しない場合は、検証エラーが発生する可能性があります。ユーザー基本設定をコピーする前に、ユーザー プロファイルをコピーする必要があります。
ルール - CS_RULES	バインド、条項およびセクション **注:** これに関連する場合、データ コンテンツで使用されるバインド変数を含めるかどうかを確認するプロンプトが、データ移行ワークベンチに表示されます。	このデータ セットには、条項、セクションおよびドキュメント コンフィギュレータで使用されるルールを定義するレコードが含まれます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft サプライヤ契約管理設定をサポートする提供済 ADS	*依存対象*	*アプリケーション データ セット (ADS) の使用方法*
条項とセクション - CS_CLAUSES_SECTIONS	バインド、ルールおよび条項 承認タイプに関連する場合、データ移行ワークベンチには、条項に使用される承認タイプが含まれます。 バインドに関連する場合、データ移行ワークベンチには、条項、セクションまたはその両方に使用されるバインド変数が含まれます。 クラスに関連する場合、データ移行ワークベンチには、条項に使用されるクラスが含まれます。 条項に関連する場合、関連条項として使用される条項およびセクションを含めるかどうかを確認するプロンプトが、データ移行ワークベンチに表示されます。 代替条項に関連する場合、代替条項として使用される条項を含めるかどうかを確認するプロンプトが、データ移行ワークベンチに表示されます。 ライブラリに関連する場合、条項に使用される条項を含めるかどうかを確認するプロンプトが、データ移行ワークベンチに表示されます。 ロールに関連する場合、代替条項で使用されるルールを含めるかどうかを確認するプロンプトが、データ移行ワークベンチに表示されます。	このデータ セットには、次のものを定義するレコードが含まれます。 • セクションおよびドキュメント コンフィギュレータで使用される条項。条項ヘッダーと詳細、代替条項、関連条項、バインド使用方法など、データ セット定義に追加されたレコード内の全てのデータがコピーされます。 • ドキュメント コンフィギュレータで使用されるセクション。条項ヘッダーと詳細、関連条項、関連セクション、ルール、バインド使用方法など、データ セット定義に追加されたレコード内の全てのデータがコピーされます。
条項グループ - CS_GROUPS	条項 クラスに関連する場合、データ移行ワークベンチにより、ユーザー定義フィールドに使用されるバインド データが挿入されます。	このデータ セットには、条項を構成および分類するグループを定義するレコードが含まれます。
契約合意書 - CS_CONTRACT_AGREEMENT	条項とユーザー定義	このデータ セットには、購買契約で使用される契約合意書コードを定義するレコードが含まれており、作成ドキュメントのバインドとして使用できます。
質問グループ - CS_QUESTION_GROUPS	バインド	このデータ セットには、質問グループおよびナビゲーション機能を定義するレコードが含まれます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft サプライヤ契約管理設定をサポートする提供済 ADS	*依存対象*	*アプリケーション データ セット (ADS) の使用方法*
ウィザード - CS_WIZARDS	質問グループ	このデータ セットには、事前定義された質問グループを含むウィザードを定義するレコードが含まれており、ドキュメント コンフィギュレータで使用されます。
ドキュメント コンフィギュレータ - CS_DOC_CONFIGURATORS	ルール、条項およびセクション	このデータ セットには、条項、セクションおよびソース ドキュメント作成ルールを使用するコンフィギュレータまたはテンプレートを定義するレコードが含まれます。
ドキュメント コンフィギュレータ グループ - CS_DOC_CONFIG_GROUP	ドキュメント コンフィギュレータ	このデータ セットには、特定の契約要件または組織ニーズに基づいたドキュメント コンフィギュレータ グループを定義するレコードが含まれます。
ドキュメント タイプ - CS_DOC_TYPE	ドキュメント コンフィギュレータおよびユーザー定義フィールド。	このデータ セットには、作成ドキュメントをソース トランザクション別に分類および設定するために使用できるドキュメント タイプを定義するレコードが含まれます。

データ移行ワークベンチを使用したデータ セットの移行に関連する手順を理解するには、「データ移行ワークベンチを使用する場合のサンプル ステップ」のトピックを参照してください。

各データ セットの詳細については、Understanding PeopleSoft Supplier Contract Management SetupPeopleSoft Supplier Contract Management を参照してください。

PeopleSoft 買掛金管理オプションでのデータ移行ワークベンチについて

PeopleSoft では、買掛金管理オプション ページを使用して、伝票の作成時に買掛金管理で使用するセットID レベル詳細を定義します。この設定を完了するには、各種ページやフィールドに入力を行う必要があります。このため、開発データベースで買掛金管理オプションを作成し、アプリケーション データ セット (ADS) 定義を使用して、開発環境、テスト環境および最終的には本稼動環境間でこのデータを移行すると効率的です。

PeopleSoft 配賦をサポートする提供済 ADS	*アプリケーション データ セット (ADS) の使用方法*
PAYABLE_OPTIONS	このデータ セットには、買掛金管理オプション設定の全てのレコードが含まれます。データベース間で買掛金管理オプションを移動するには、データ移行ワークベンチ - プロジェクト定義 ページでこのデータ セットを選択します。

関連レコードは全て、AP BUSINESS UNITS アクセス グループ (PeopleTools、セキュリティ、クエリー セキュリティ、クエリー アクセス マネージャ) 内のクエリー アクセス ツリー (QUERY_TREE_AP) で提供されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft では、ADS 管理者権限リストを提供しています。アクセスするには、AP BUSINESS UNITS アクセス グループが [アクセス グループ権限] 内のデータ移行ページに含まれている必要があり、これにより、[コピー比較権限] でアクセスが付与されます。

『*PeopleTools: Security Administration*』。

PeopleSoft スピードチャートでのデータ移行ワークベンチについて

PeopleSoft でスピードチャートを使用し、使用頻度の高いチャートフィールド組合せの入力に必要なキーストローク数を削減することで、データ入力の効率が向上します。スピードチャートを新規作成するには複数のフィールドに入力する必要があるため、開発データベースでスピードチャートを作成し、アプリケーション データ セット (ADS) 定義を使用して、開発環境、テスト環境および最終的には本稼動環境間でこのデータを移行すると効率的です。

PeopleSoft 配賦をサポートする提供済 ADS	***アプリケーション データ セット (ADS) の使用方法***
SPEEEDCHART	このデータ セットには、スピードチャート設定の全てのレコードが含まれます。データベース間でスピードチャートを移動するには、データ移行ワークベンチ - プロジェクト定義ページでこのデータ セットを選択します。

関連レコードは全て、AP TABLES アクセス グループ (PeopleTools、セキュリティ、クエリー セキュリティ、クエリー アクセス マネージャ) 内のクエリー アクセス ツリー (QUERY_TREE_AP) で提供されます。

PeopleSoft では、ADS 管理者権限リストを提供しています。アクセスするには、AP TABLES アクセス グループが [アクセス グループ権限] 内のデータ移行ページに含まれている必要があり、これにより、[コピー比較権限] でアクセスが付与されます。

『*PeopleTools: Security Administration*』。

PeopleSoft 会計入力テンプレートでのデータ移行ワークベンチについて

PeopleSoft では、会計入力テンプレートを使用して、買掛金処理および入金処理のための会計入力を生成します。会計入力テンプレートを新規作成するには複数のフィールドに入力する必要があるため、開発データベースで会計入力を作成し、アプリケーション データ セット (ADS) 定義を使用して、開発環境、テスト環境および最終的には本稼動環境間でこのデータを移行すると効率的です。

PeopleSoft 配賦をサポートする提供済 ADS	***アプリケーション データ セット (ADS) の使用方法***
ACCOUNTINGENTRY	このデータ セットには、会計入力設定の全てのレコードが含まれます。データベース間で会計入力を移動するには、データ移行ワークベンチ - プロジェクト定義ページでこのデータ セットを選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

関連レコードは全て、AP TABLES アクセス グループ (PeopleTools、セキュリティ、クエリー セキュリティ、クエリー アクセス マネージャ) 内のクエリー アクセス ツリー (QUERY_TREE_AP) で提供されます。

PeopleSoft では、ADS 管理者権限リストを提供しています。アクセスするには、AP TABLES アクセス グループが [アクセス グループ権限] 内のデータ移行ページに含まれている必要があり、これにより、[コピー比較権限] でアクセスが付与されます。

『PeopleTools: Security Administration』。

アプリケーション データ セットの使用

データ セット移行で使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
データ セット デザイナ - ID ページ	PSADSDEFNPAGE	データ セットの最上位レベル プロパティを指定します。 詳細については、製品ドキュメントの*『PeopleTools: Data Migration Workbench』*の「Creating and Editing Data Set Definition」を参照してください。
データ セット デザイナ - 検証 ページ	PSADSVALIDATION	ADS 定義内のデータを検証するために使用される拡張アプリケーション クラスを定義します。 詳細については、製品ドキュメントの*『PeopleTools: Data Migration Workbench』*の「Defining Validation」を参照してください。
データ移行ワークベンチ – プロジェクト定義ページ	PTADSDMWPRJDEFN	データ移行プロジェクトを定義します。
データ移行ワークベンチ – データ セット コンテンツ ページ	PTADSDMWCONTENT	プロジェクトのデータ コンテンツを定義します。

アプリケーション データ セットの使用について

アプリケーション データ セット機能には、データ セット デザイナ コンポーネント (PTADSMMGR) およびデータ移行ワークベンチ コンポーネント (PTADSDMW) が含まれます。

1. データ セット デザイナ - 承認済管理者は、データ セット デザイナを使用して、レコードとその包括的なプロパティの階層構造としてデータ セット定義 (ADS 定義) を作成します。データ セットは、データ セット定義およびそのレコード グループで構成されます。レコード定義とデータ セット定義は、どちらも移行データの*形式*を定義するメタデータです。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

2. データ移行ワークベンチ - 次に、承認済管理者は、データ移行ワークベンチを使用して、データ移行プロジェクトとして作業単位を表すプロジェクトにデータ セット インスタンス (データ コンテンツ) を挿入できます。データ移行プロジェクトは、さまざまなデータ セット定義を含むデータ セット インスタンスのコレクションである、管理対象オブジェクト プロジェクトに類似しています。データ移行ワークベンチを使用すると、管理者はデータ セットを含むプロジェクトをコピーおよび比較できるだけでなく、比較レポートや検証レポートを表示することもできます。

   また、エンタープライズ コンポーネント承認フレームワークを統合して、ファイルからのプロジェクト コピー プロセスを管理者として制御できます。データ セット定義がデータのコピーに適切であることを保証し、PIA データ セット ページについてユーザー セキュリティを有効化するために拡張セキュリティを採用し、データをコピーおよび比較するアクセス権限を割り当てます。PeopleSoft では、データ移行承認フレームワークを有効化するために、MigrateData プロセス ID が提供されています。

   詳細については、『*PeopleTools: Understanding Data Set Security*』を参照してください。

データ移行ワークベンチ – プロジェクト定義ページ

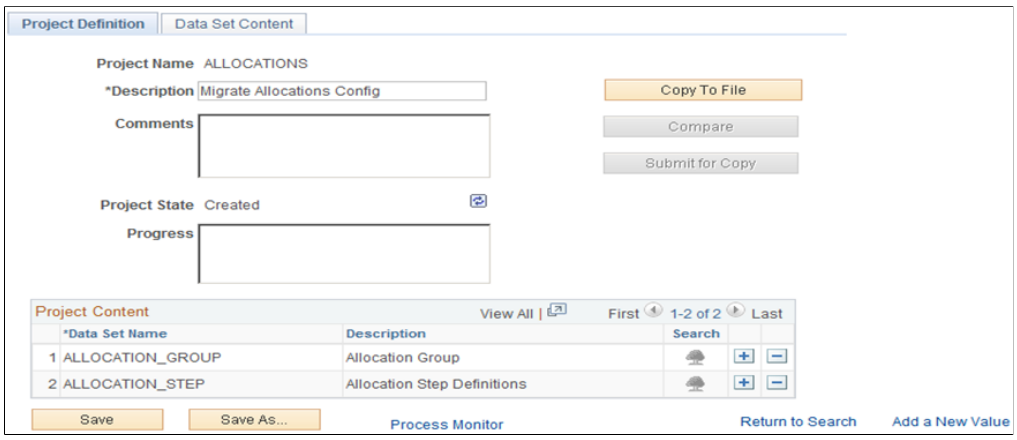
データ移行ワークベンチ – プロジェクト定義ページ (PTADSDMWPRJDEFN) を使用して、移行プロジェクトを定義します。

ナビゲーション

[PeopleTools], [ライフサイクル ツール], [データ移行ワークベンチ], [プロジェクト定義]

画像: データ移行ワークベンチ – プロジェクト定義ページ

次の例では、データ移行ワークベンチ – プロジェクト定義ページの、配賦ステップと配賦グループを移行するためのプロジェクト定義を説明します。



移行プロジェクトのプロジェクト名を追加して、移行するプロジェクト コンテンツのデータ セット名を選択します。たとえば配賦の場合、次の提供済データ セットを選択し、データベース間で配賦設定を移行できます。

- ALLOCATION_STEP
- ALLOCATION_GROUP

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- ALLOCATION_REQUEST

データ移行ワークベンチ – データ セット コンテンツ ページ

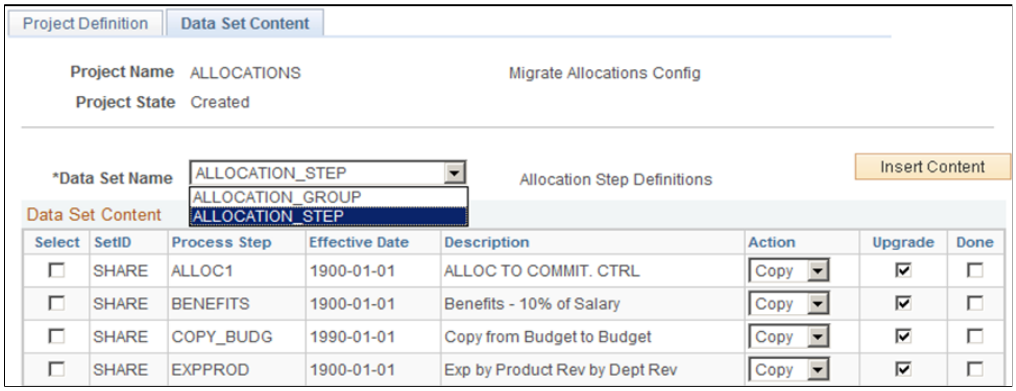
データ移行ワークベンチ – データ セット コンテンツ ページ (PTADSDMWCONTENT) を使用して、移行プロジェクトのデータ コンテンツを定義します。

ナビゲーション

[PeopleTools], [ライフサイクル ツール], [データ移行ワークベンチ], [データ セット コンテンツ]

画像: データ移行ワークベンチ – データ セット コンテンツ ページ

次の例では、データ移行ワークベンチ – データ セット コンテンツ ページの、配賦ステップを移行するためのフィールドおよびコントロールを説明します。



プロジェクトについて複数のデータ セットを選択した場合は、移行するコンテンツの挿入対象となる各データ セット名を選択する必要があります。

詳細については、*『PeopleTools: Data Migration Workbench』の「Using Data Migration Workbench」*を参照してください。

データ移行ワークベンチを使用する場合のサンプル ステップ

次に、データ移行ワークベンチを使用して、アプリケーション データ セットを移行する場合のステップの例を示します。

1. プロジェクト定義ページを使用して、移行のプロジェクト定義を作成します。移行するデータのレコード階層を含むデータセットを選択します。
2. データ セット コンテンツ ページを使用して、別のデータベースに移行するコンテンツ (配賦ステップや配賦グループなど) を含めます。
3. コンポーネントを保存すると、プロジェクト ステータスが*[新規プロジェクト]* から *[作成済]* に変わります。各データ セットについてデータ セット コンテンツをプロジェクトに含めていない場合、プロジェクトを保存することはできません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

4. [コピー先ファイル] ボタンをクリックします。(このステップを実行するには、ファイルの場所の管理ページで有効なファイル ロケーションを定義しておく必要があります。*『PeopleTools: Data Migration Workbench』の「Managing Data Migration Project File Locations」*を参照してください。) コピー先ファイル ページで [実行] をクリックします。

5. 進捗を確認するには、プロセス モニターにアクセスします。プロセスが正常に終了した場合、データ移行ワークベンチのプロジェクト ステータスは、*[ファイルへのコピーに成功]* になります。

6. プロジェクト ファイルが、ファイルの場所の管理ページで指定したとおりのファイル ロケーションにコピーされていることを確認します。

7. ターゲット データベースにログインし、プロジェクト ファイルをインポートします。データ移行ワークベンチで、検索ページのファイル リンクから [プロジェクトのロード] をクリックします。ファイルからプロジェクトをロード ページから、コピーされた場所とインポートするプロジェクトを選択します。[ロード] ボタンをクリックします。

8. データ移行ワークベンチで、移行されたプロジェクトを検索します。[比較] ボタンをクリックして、[コピーおよび比較] プロセス (PTADSAEPRCS) を開始し、[実行] をクリックします。

9. 進捗を確認するには、プロセス モニターにアクセスします。プロセスが正常に終了した場合、データ移行ワークベンチでのこのプロジェクトのプロジェクト ステータスは、*[ファイルへのコピーに成功]* になります。

10. 比較プロセスが完了すると、データ移行ワークベンチに、比較レポート ページと検証レポート ページの 2 つの追加ページが組み込まれます。

全てが予期したとおりである場合、プロジェクト定義ページに戻って、[コピー用に送信] ボタンをクリックし、[実行] をクリックします。[コピーおよび比較] プロセス (PTADSAEPRCS) が正常に完了したら、ターゲット データベース内を移動して、移行された配賦ステップおよび配賦グループを検索できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第3章

PeopleSoft データのエクスポート/インポート ユーティリティの使用

データのエクスポート/インポート ユーティリティについて

PeopleSoft Financials には、データのエクスポート/インポート ユーティリティというデータマッピング ユーティリティが用意されており、このユーティリティを通して、フィールドを簡単にマッピングしたり、ソースとターゲットの間でデータの取得と送信の両方を行うことができます。ソースとターゲットのデータ セットには、XML、フラット ファイルまたはレコード フォーマットを使用できます。このマッピング ユーティリティの典型的な使用例を次に示します。

- サードパーティ システムから外部データをインポートする。
- サードパーティ システムにデータをエクスポートする。
- 支払ファイルをフォーマット別に作成する。
- 法定監査ファイルを作成する。

単純な構造をマッピングしたり、基礎となる PeopleCode を変更することなく複雑なマッピングを変更できるため、カスタマイズが不要になります。データのエクスポート/インポート ユーティリティを使用すると、変換ルールを適用し、サードパーティ システムの要件を満たすように各種コントロールによりデータをフォーマットできます。

データのエクスポート/インポート ユーティリティを使用するための前提条件

データのエクスポート/インポート ユーティリティ プロセスを実装するための前提条件として、PeopleSoft ドキュメントに精通しておく必要があります。

製品ドキュメントの*『PeopleTools: Documents Technology』*を参照してください。

データのエクスポート/インポート ユーティリティのマッピング プロセスの概要

データのエクスポート/インポート ユーティリティのマッピング プロセスでは、次の処理を行うことができます。

- PeopleSoft データベースのデータを XML ファイルにエクスポートする。
- PeopleSoft データベースのデータを CSV などの区切り形式ファイルにエクスポートする。
- XML ファイルを PeopleSoft データベースにインポートする。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

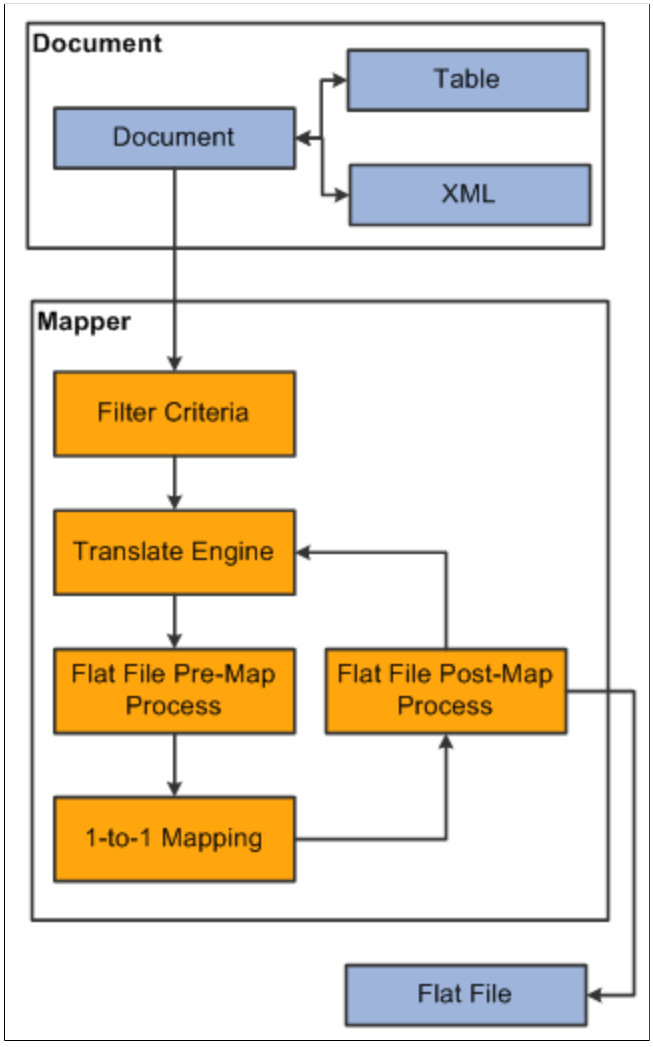
- 区切り形式ファイルを PeopleSoft データベースにインポートする。

データのエクスポート/インポート ユーティリティのマッピング プロセスは次の手順で構成されます。

1. PeopleSoft ドキュメントを定義または指定します。
2. ドキュメント関係を定義します。
3. ソース フィールドとターゲット フィールドのマッピング定義を作成します。
4. ソース構造とターゲット構造間のデータ変換ルールを定義します。
5. アプリケーション エンジン マッピング プロセスを実行します。

画像: データのエクスポート/インポート ユーティリティのマッピング プロセスの概要

マッピング プロセスは、PeopleSoft ドキュメントとドキュメント関係定義 (PeopleSoft ドキュメント内のレコードやフィールド間の関係ルールを設定したもの) に基づきます。マッピング プロセスを実行する前に、ソースとターゲットのデータ構造間のマップ定義を作成します。その後、マッピング プロセスでソースからターゲットにデータを転送するときに、関係と変換ルールが適用されます。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft ドキュメントの定義とドキュメント関係の設定の詳細については、「ファイル レイアウトとドキュメント関係のマッピング」を参照してください。

マップの定義の詳細については、「データ ソースおよびターゲットの定義」を参照してください。

マッピング プロセスの実行の詳細については、「データのエクスポート/インポート プロセスのリクエスト」を参照してください。

ファイル レイアウトとドキュメント関係のマッピング

ファイル レイアウトとドキュメント関係のマッピングに使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
ドキュメント ビルダ - ドキュメント ページ	IB_LOGICALSCHEMA	ドキュメント ビルダでドキュメントを表示および編集します。 「PeopleSoft ドキュメントの定義」を参照してください。 詳細については、製品ドキュメントの*『PeopleTools: Documents Technology』*を参照してください。
ドキュメント関係ページ	FS_DOC_RLTS	データベース レコードに基づく PeopleSoft ドキュメントの各ノードの関係を定義します。
区切りファイル レイアウト ページ	FS_FF_LAYOUT	ソース データ セットのマッピングに使用する区切り形式ファイルの構造 (固定区切り文字を含む) を定義します。
コード マッピング ページ	TR_CODE_MAPPINGS	選択したコード マップ グループのマッピングの入力値と出力値を定義します。 「コード マッピングの使用」を参照してください。

ファイル レイアウトとドキュメント関係のマッピングについて

データのエクスポート/インポート ユーティリティでは、PeopleTools の PeopleSoft Documents Technology を使用してドキュメント データを取得します。PeopleSoft Documents Technology には、ドキュメントの構造を構築し、そのドキュメントに対して XML および関連フォーマットを定義できるドキュメント ビルダ ツールが用意されています。

詳細については、製品ドキュメントの*『PeopleTools: PeopleSoft Documents Technology』*を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

マッピング ユーティリティでは、PeopleSoft ドキュメントと区切り形式ファイルの 2 つのソース タイプがサポートされています。

ファイル レイアウトとドキュメント関係をマッピングするには、次の手順に従います。

1. PeopleSoft ドキュメントを作成または指定します。
2. データベース テーブル関連のドキュメントのデータ関係を設定します。
3. XML フォーマットの PeopleSoft ドキュメントを作成します。
4. 区切り形式ファイルのレイアウトを定義し、XML フォーマットのドキュメントに関連付けます。
5. コード マッピングを定義します。

PeopleSoft ドキュメントの定義

ドキュメント ビルダ - ドキュメント ページ (IB_LOGICALSCHEMA) を使用して、ドキュメント ビルダでドキュメントを表示および編集します。

データのエクスポート/インポート ユーティリティ プロセスで使用するために、マッピング定義のソースまたはターゲット (あるいはその両方) となる PeopleSoft ドキュメントを定義します。

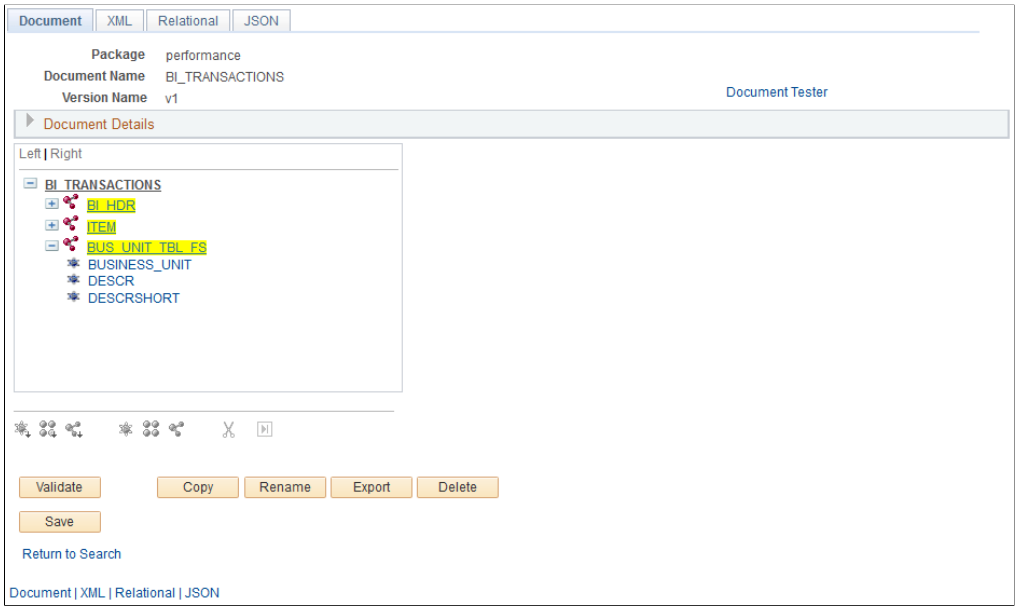
PeopleSoft ドキュメントの定義の詳細については、製品ドキュメントの『*PeopleTools: PeopleSoft Documents Technology*』を参照してください。

ナビゲーション

PeopleTools, [ドキュメント], ドキュメント ビルダ

画像: ドキュメント ビルダ - ドキュメント ページ

次の例では、ドキュメント ビルダ - ドキュメント ページのフィールドおよびコントロールを説明します。

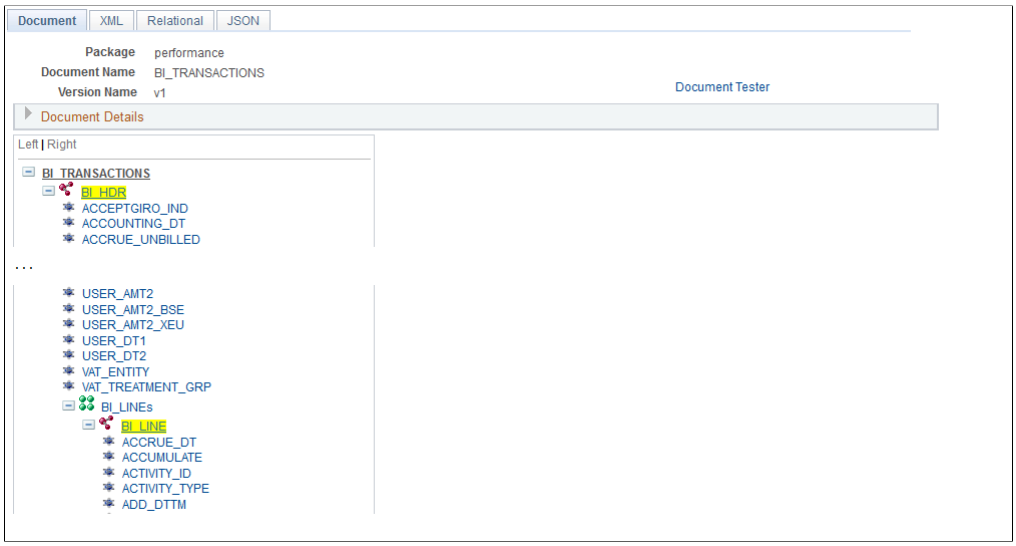


 Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

この例では、BI_HDR が基準ノード、BUS_UNIT_TBL_FS が兄弟ノードです。兄弟ノードには、請求取引用のレコードのフィールドが含まれています。

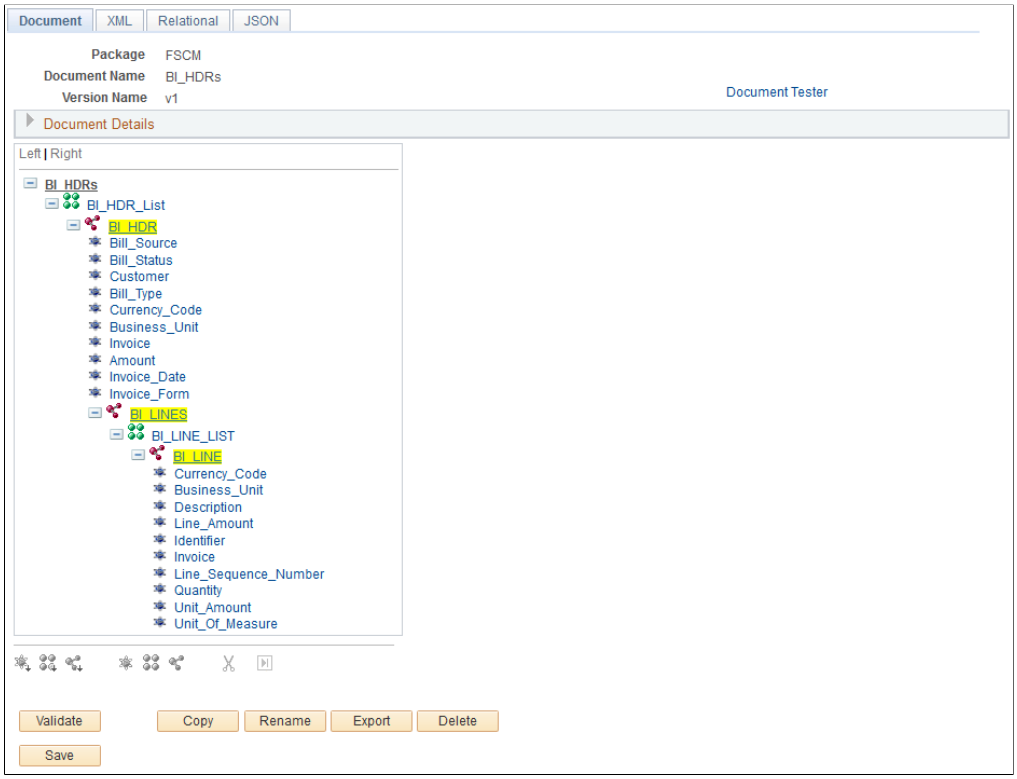
画像: ドキュメント ビルダ - ドキュメント ページの例

次の例では、ドキュメント ビルダ - ドキュメント ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



画像: ドキュメント ビルダ - ドキュメント ページ、XML フォーマットの PeopleSoft ドキュメントの例

次の例では、ドキュメント ビルダ - ドキュメント ページのフィールドおよびコントロールを説明し、XML フォーマットの PeopleSoft ドキュメントを示します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

データベース レコードから PeopleSoft ドキュメントを定義したら、次の手順としてグループ ノード間の関係を定義します。

特定のシナリオでの PeopleSoft ドキュメントの使用

データのエクスポート/インポート ユーティリティ処理では、マップ定義に応じて、XML フォーマットの PeopleSoft ドキュメントの [必須] チェック ボックスを指定および分析することによってデータ マッピングを構成します。

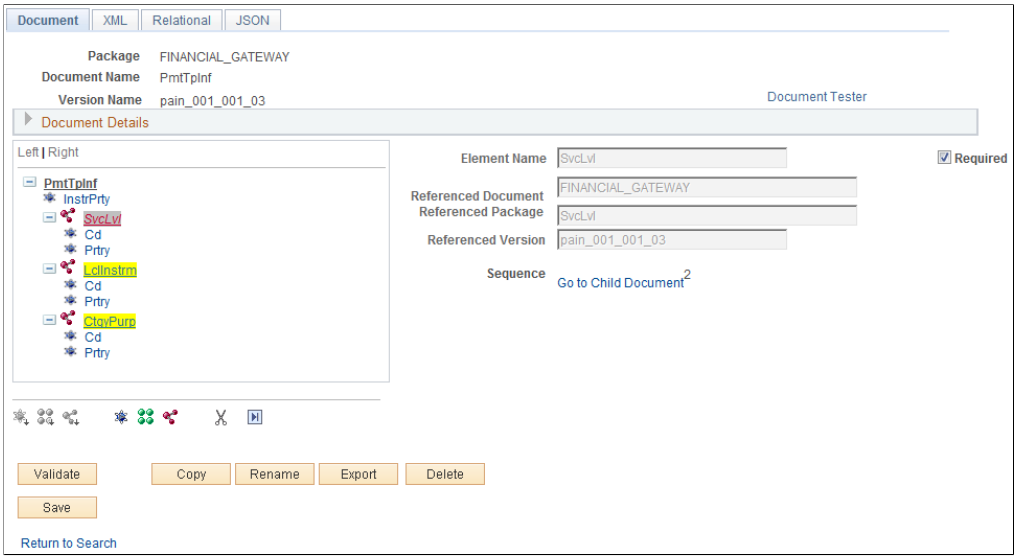
Understanding How to Use the Data Export Import Utility for Payment DispatchPeopleSoft Financial Gateway も参照してください。

システムでは次の 3 つのケースが考慮されます。

1. 複合ノードおよびプリミティブ要素に対して [必須] チェック ボックスが選択されているが、それらはマップ定義でマッピングされていない。

   画像: PeopleSoft ドキュメントの例 - 複合要素の [必須] チェック ボックスが選択された状態

   次の例では、PeopleSoft ドキュメントのフィールドおよびコントロールを説明し、複合要素の [必須] チェック ボックスが選択された状態を示します。



   また、マップ定義 - 詳細 (ステップ 4/6) ページには、このフィールドのマッピング詳細が存在しません。

   このケースでは、XML 出力は次のようになります。

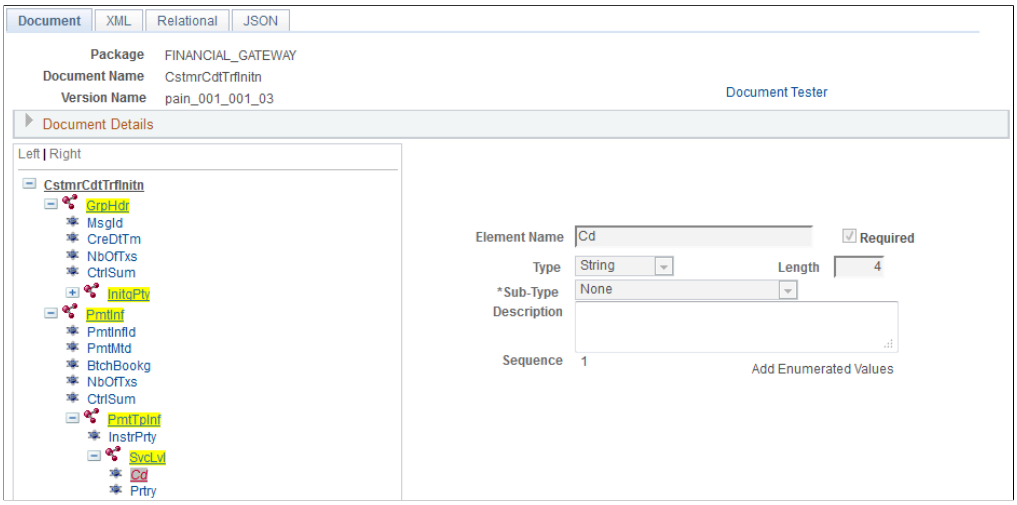
```
- <PmtTpInf>
    <InstrPrty>NORM</InstrPrty>
  - <SvcLvl>
     <CD />
    </SvcLvl>
  </PmtTpInf>
```


Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

2. 複合ノードおよびプリミティブ要素に対して [必須] チェック ボックスが選択されていて、それらがマップ定義でマッピングされている。

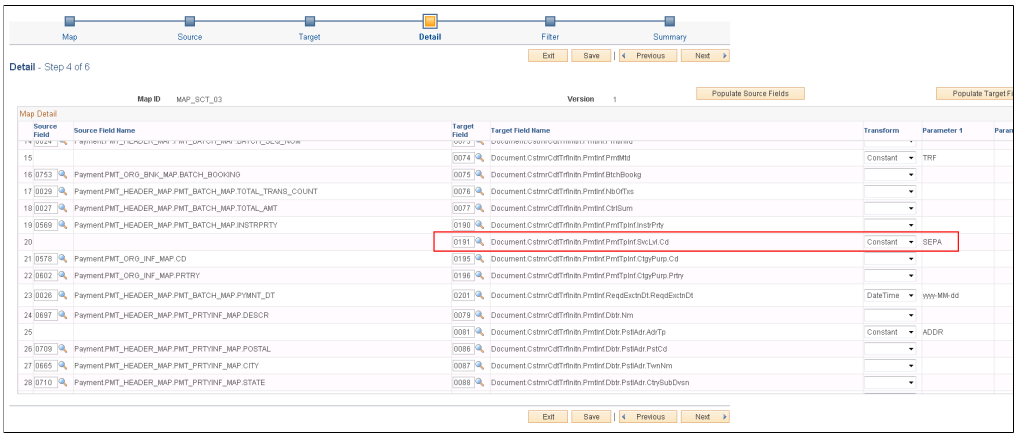
画像: PeopleSoft ドキュメントの例 - プリミティブ要素の [必須] チェック ボックスが選択された状態

次の例では、PeopleSoft ドキュメントのフィールドおよびコントロールを説明し、プリミティブ要素の [必須] チェック ボックスが選択された状態を示します。



画像: マップ定義 - 詳細 ページに入力されたターゲット フィールドの例

次の例では、マップ定義 - 詳細 ページのフィールドおよびコントロールを説明し、このページに入力されたターゲット フィールドを示します。



このケースでは、XML 出力は次のようになります。

```
- <PmtTpInf>
    <InstrPrty>NORM</InstrPrty>
  - <SvcLvl>
     <Cd>SEPA</Cd>
    </SvcLvl>
  </PmtTpInf>
```

3. 複合ノードおよびプリミティブ要素に対して [必須] チェック ボックスが選択されておらず、それらがマップ定義でマッピングされていない。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このケースでは、XML 出力は次のようになります。

```
- <PmtTpInf>
    <InstrPrty>NORM</InstrPrty>
  </PmtTpInf>
```

複合ノードが静的な場合 (つまり、この複合ノードのみのマッピングが存在し、マップ定義で *[定数]* 変換タイプが設定されている場合)、システムにより値が出力されるようにするには、[必須] チェック ボックスを選択する必要があります。そうしないと、静的ノードは無視され、値が出力 XML に表示されません。

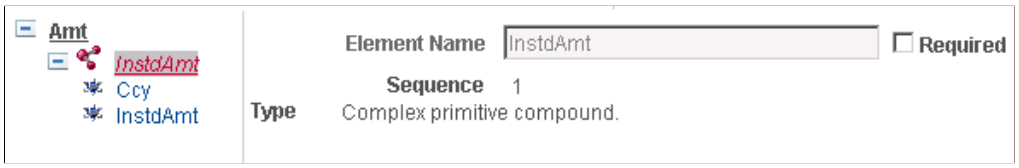
マップ定義の詳細については、「データ ソースおよびターゲットの定義」を参照してください。

複雑なプリミティブ複合要素タイプのドキュメントの使用

ターゲットの PeopleSoft ドキュメント ツリーでは、複雑なプリミティブ複合要素タイプを使用して、複数のプロパティを持つ XML 要素を定義できます。PeopleSoft ドキュメントとそれに対応する XML 出力の例を次に示します。

画像: 複雑なプリミティブ複合要素タイプの PeopleSoft ドキュメントの例

次の例では、複雑なプリミティブ複合要素タイプの PeopleSoft ドキュメントを示します。



この例の XML 出力は次のようになります。

```
<InstdAmt Ccy="EUR">1000</InstdAmt>
```

PeopleSoft ドキュメント内のプリミティブ ピアはグループ化解除できないため、グループ化解除不可のプリミティブを複雑なプリミティブ複合要素として定義できます。

データのエクスポート/インポート ユーティリティ用の PeopleSoft ドキュメント内の親子レベルおよび兄弟レベルについて

データのエクスポート/インポート ユーティリティ処理の対象として、PeopleSoft ドキュメントに親子と兄弟の 2 つの関係タイプを定義できます。ここで紹介する PeopleSoft ドキュメントの例では、XML ファイルにデータをエクスポートするためのデータ ソースとして使用するように設定されたドキュメント構造とドキュメント関係を示します。

BILLING パッケージ内の INVOICE ドキュメントには、次のグループ ノードが含まれています。

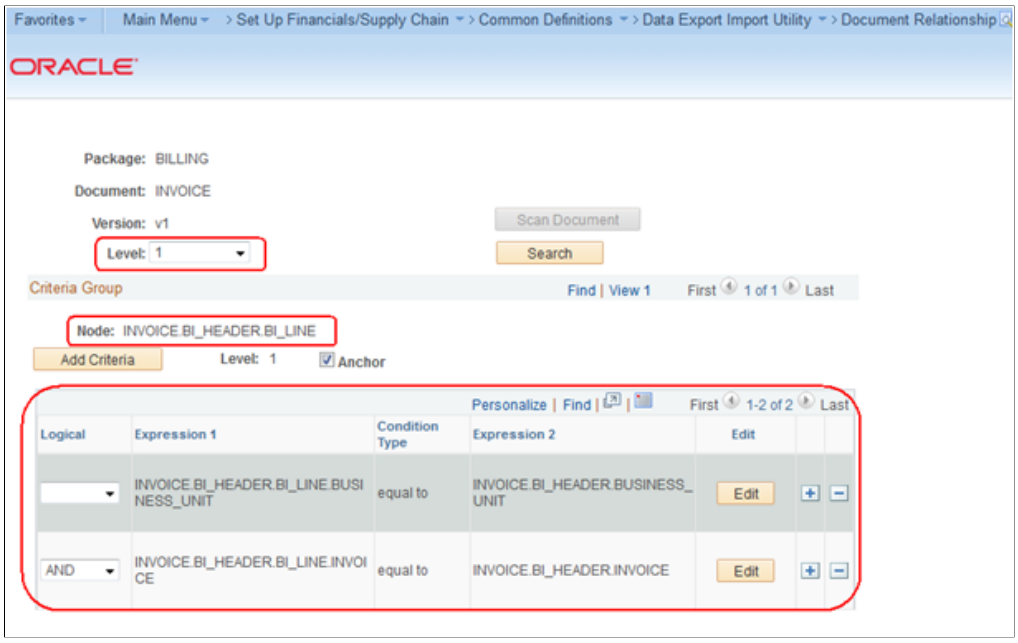
- BI_HEADER
- BI_LINE
- BI_ACCT_ENTRY
- BUS_UNIT_TBL_FS

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

BI_HEADER は BI_LINE の親であり、BI_LINE は BI_ACCT_ENTRY の親です。この例では、BI_LINE に対して BI_HEADER と同じ BUSINESS_UNIT および INVOICE ID を含める必要があります。データのエクスポート/インポート ユーティリティのマッピング プロセスにこの関係を認識させて、BI_HEADER に属する正しい BI_LINE が取得されるようにする必要があります。ドキュメント関係は次のように表示されます。

画像: ドキュメント関係ページの親子関係

次の例では、ドキュメント関係ページの親子関係を示します。



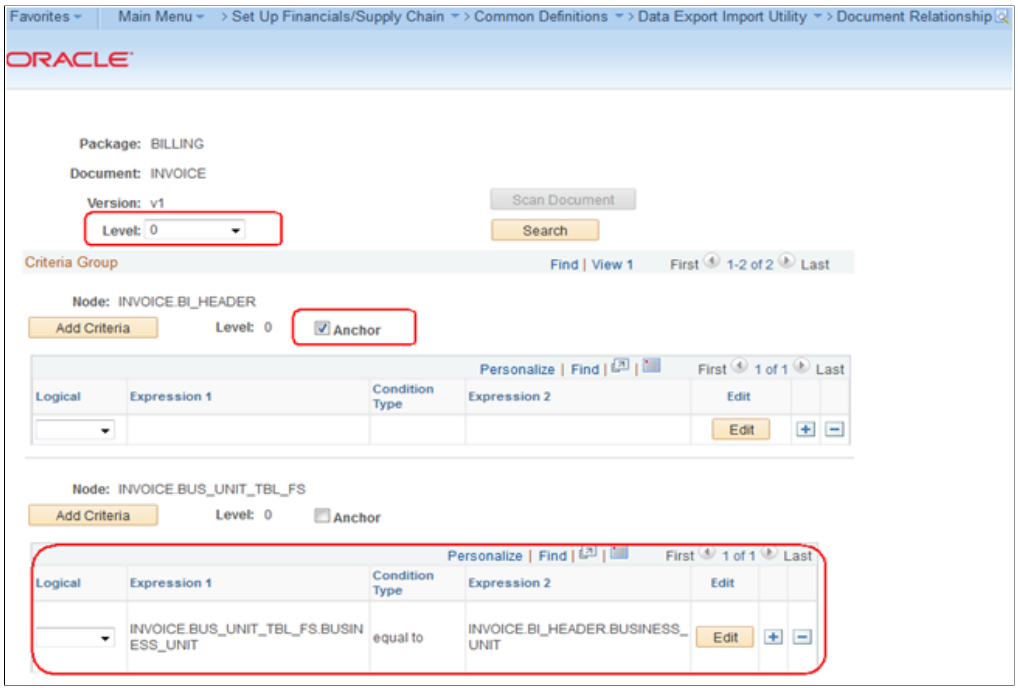
この例では、BUS_UNIT_TBL_FS と BI_HEADER が兄弟です。このドキュメントに BUS_UNIT_TBL_FS レコードを追加する目的は、BI_HEADER の BUSINESS_UNIT フィールド (US001

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

など) を BUS_UNIT_TBL_FS の DESCR フィールド (US001 New York Operator など) に変換して、出力内の情報量を増やすことです。

画像: ドキュメント関係ページの兄弟関係

次の例では、ドキュメント関係ページの兄弟関係を示します。



ただし、このシナリオでは、BU (ビジネス ユニット) 情報ではなく、BI (請求) 情報をエクスポートすることを目的としています。したがって、BI_HEADER ノードが基準になります。BI 情報をエクスポートするときに、BUSINESS_UNIT ID (US001 など) を BU 名に変換できます。データのエクスポート/インポート ユーティリティ処理で兄弟テーブルからデータを取得する場合、外部キーを検索する必要があります。

ドキュメント関係ページ

ドキュメント関係ページ (FS_DOC_RLTS) を使用して、PeopleSoft ドキュメントの各ノードの関係を定義します。

複数の PeopleSoft テーブルに格納されているデータをドキュメントで参照する場合、ドキュメント関係を定義する必要があります。

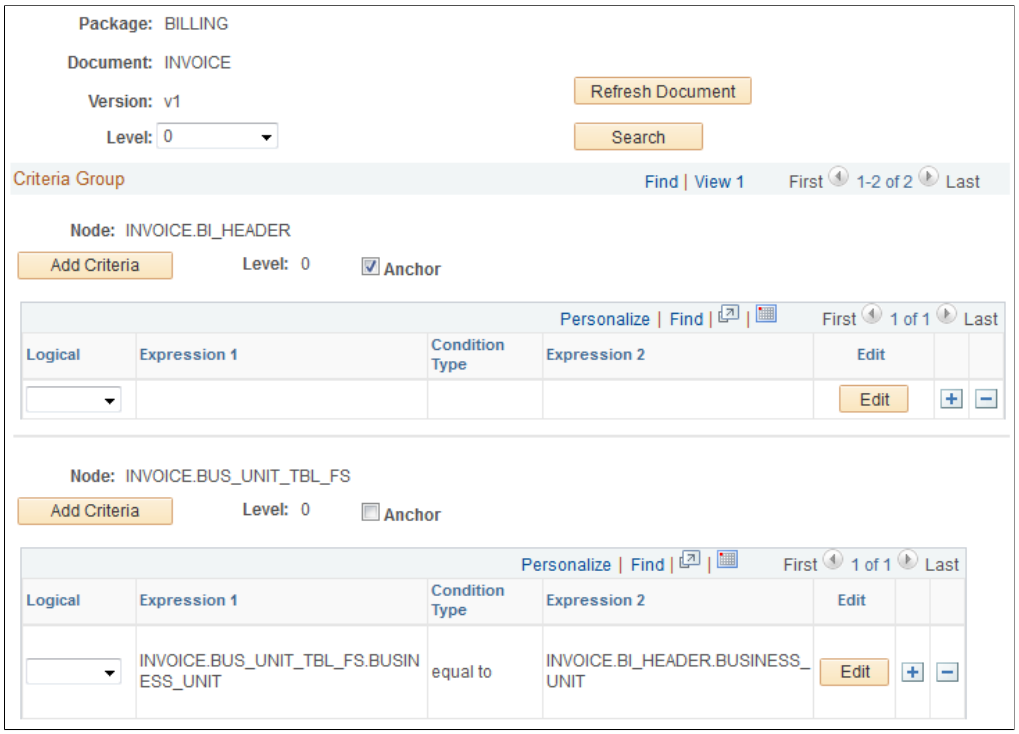
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [データのエクスポート/インポート ユーティリティ], [ドキュメント関係]

画像: ドキュメント関係ページ

次の例では、ドキュメント関係ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



この例では、レベル 0 のドキュメント関係のみが表示されています。同じロジックを使用して他のレベルを定義できます。INVOICE_BI_HEADER は、レベル 0 の基準ノードです。つまり、INVOICE_BI_HEADER がドライバ テーブルとなります。このテーブルにはメイン データが含まれており、他のノードのテーブル内のデータは基準ノードに従ってロードされます。

ドキュメントのスキャン 新しいドキュメント関係の作成時に表示されます。このボタンをクリックすると、選択したパッケージ、ドキュメント名、バージョンによって指定されるデータベース テーブル関連のドキュメントの初期 PeopleSoft ドキュメント構造が構築されます。

レベル (ヘッダーレベル) 条件グループで使用するレベルを選択します。レベルごとに正しい親子ノード関係を定義する必要があります。

検索 このボタンをクリックすると、選択したレベルの条件グループのみが表示されます。

ノード 関係条件が当てはまる PeopleSoft ドキュメントのノードが表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

条件の追加/編集

[条件の追加] または [編集] ボタンをクリックして、レコードやフィールド間の関係を定義する新しい条件を作成するか、既存の条件を編集します。

レベル (条件レベル)

PeopleSoft ドキュメントのノードのレベルが表示されます。

基準

データのドライバ ノードを指定します。データのエクスポート/インポート ユーティリティ プロセスでは、最初に基準ノードの値をロードしてから、その値を使用して兄弟ノードの値をロードします。たとえば、INVOICE_BI_HEADER ノード (テーブル) には、ID が BU の BUSINESS_UNIT フィールドが含まれています。BUS_UNIT_TBL_FS テーブルには、BU 情報が含まれています。データのエクスポート/インポート ユーティリティ処理では、最初に INVOICE_BI_HEADER テーブルをロードして BU ID を取得してから、BUS_UNIT_TBL_FS テーブルに進み、この BU 情報を使用します。

基準ノードと兄弟ノードは、次のルールに従って区別されます。

1 つのレベルに複数の基準を表示できます。

子ノードを基準として表示する場合、その親ノードも基準として表示する必要があります。

親ノードを基準として表示する場合、その子ノードの基準チェック ボックスが選択解除されます。

マッピング ユーティリティでは、基準別にスキャンし、兄弟ノードで同期します。

論理

異なる式間の論理関係を入力します。ほとんどの場合、この値は *[AND]* です。

区切りファイル レイアウト ページ

PeopleSoft テーブルを使用する代わりに、ソースまたはターゲットのデータ構造として区切り形式ファイルを定義できます。マッピング ユーティリティでは、区切り形式ファイルのレイアウト ID に関連付けられている PeopleSoft ドキュメントを使用して、ソース ファイルまたはターゲット ファイルの構造を指定します。

区切りファイル レイアウト ページ (FS_FF_LAYOUT) を使用して、ソース データ セットまたはターゲット データ セットのマッピングに使用する区切り形式ファイルの構造 (固定区切り文字を含む) を定義します。

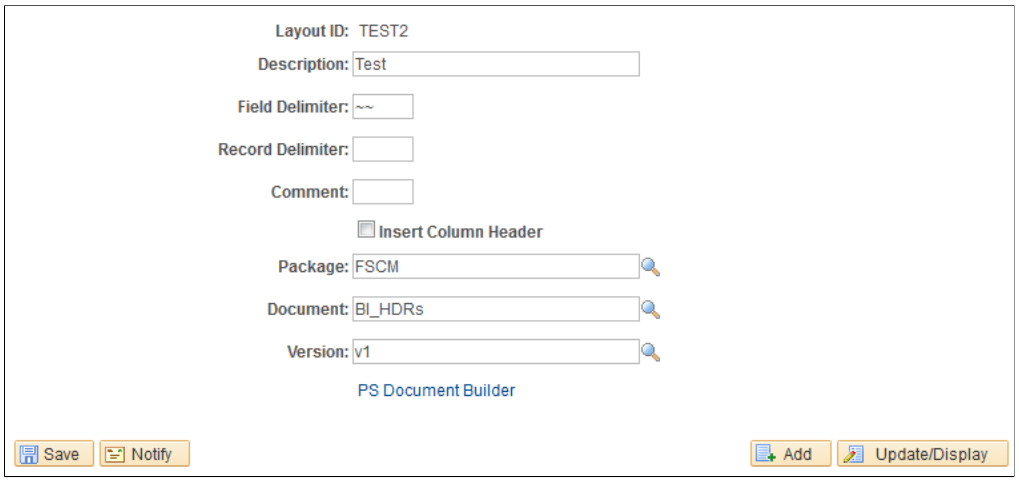
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [データのエクスポート/インポート ユーティリティ], [区切りファイル レイアウト]

画像: 区切りファイル レイアウト ページ

次の例では、区切りファイル レイアウト ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



区切り形式ファイルのレイアウトを定義し、XML フォーマットの PeopleSoft ドキュメント (この例では FSCM/BI_HDRs/v1) に関連付けます。

レイアウト ID/説明

区切り形式ファイルのレイアウトのレイアウト ID および説明を入力します。

フィールド区切文字/レコード区切文字

[フィールド区切文字] の場合、1 行 (つまり、1 つのレコード) に含まれている各フィールドを区切る固定区切り文字を入力し、[レコード区切文字] の場合、各行 (つまり、各レコード) を区切る固定区切り文字を入力します。これらのフィールドに入力可能な文字数は 5 文字です。

区切り文字を*空白*にする場合は、その値を一重引用符で囲んで入力してください。そうしないと、システムにより区切り文字が削除されてしまいます。リターン記号を指定するには、*RT* と入力します。

一重引用符を含む区切り文字を使用する場合は、バックスラッシュを入力して、リテラル記号が文字どおりに解釈されるようにします。

コメント

区切り形式ファイルで使用するコメント タイプを指定します。たとえば、コメントが "//" の場合、"//" より後の情報またはテキストは無視されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

列ヘッダーの挿入	区切り形式ファイルの先頭行を列ヘッダーにする場合に選択します。PS ドキュメントのノード名が列ヘッダーとして使用されます。
パッケージ/ドキュメント/バージョン	この定義に関連付ける PeopleSoft ドキュメントを指定するためのパッケージ名、ドキュメント名およびバージョンを入力します。
PS ドキュメント ビルダ	このリンクをクリックすると、指定したドキュメントがドキュメント ビルダのドキュメント ページに表示されます。

コード マッピングの使用

コード マッピング ページ (TR_CODE_MAPPINGS) を使用して、選択したコード マップ グループのマッピングの入力値と出力値を定義します。

このページでは、銀行取引明細と銀行支払の両方の処理に使用する外部銀行コードとそれに対応する内部 PeopleSoft コードのマッピングを定義できます。

ナビゲーション

[銀行処理業務], [銀行インテグレーション管理], [コード マッピング]

詳細については、Setting Up Common Components for Bank Statement Payment and Payment Acknowledgment ProcessingPeopleSoft Financial Gateway を参照してください。

データ ソースおよびターゲットの定義

ソースおよびターゲットの PeopleSoft ドキュメントを定義し、レコードとフィールドについてドキュメント関係を設定した後で、マップ定義 (FS_MAPPER_DEF_WIZ) コンポーネントにアクセスしてマッピング ウィザードを使用します。マップ定義とは次のようなものです。

- データ ソースとターゲット出力のフォーマットをリンクします。
- マッピングの詳細、つまり、各フィールドをどのようにエクスポートまたはインポートし、どの変換ルールを使用するかを定義します。
- データのフィルタ条件を定義します。

水平ナビゲーション (別称: "トレイン ストップ" または "ウィザード") に沿って、次のマップ定義作成ページが表示されます。

1. [マップ] - ステップ 1/6: マップ ID を作成し、基本的なマップ属性およびマップ セキュリティ オプションを定義します。
2. [ソース] - ステップ 2/6: ソースのデータ構造とフィールドを指定します。
3. [ターゲット] - ステップ 3/6: ターゲットのデータ構造とフィールドを指定します。

 Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

4. [詳細] - ステップ 4/6: フィールド間マッピングとデータ変換ルールを定義します。
5. [フィルタ] - ステップ 5/6: データのフィルタ条件を定義します。
6. [サマリ] - ステップ 6/6: マップ定義を確認して送信します。

マップ定義の作成後、データのエクスポート/インポート ユーティリティ プロセスを実行してデータを移動できます。ラン コントロール ページを使用して、データ マップを読み取って指定した出力を生成するためのプロセスを開始できます。ラン コントロール ページでは、ユーザーが処理対象のデータ セットを絞り込めるように、ウィザードのフィルタ条件の定義に従ってプロンプトが生成されます。ウィザードでは、ラン コントロール ページでの入力が不要なハードコード フィルタ条件も使用できます。

マップ定義の作成に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
マップ定義 - マップ (ステップ 1/6) ページ	FS_MAP_DEF_WIZ	マップ定義の ID 情報を作成します。
マップ定義 - ソース (ステップ 2/6) ページ	FS_MAP_SRC_DEF_WIZ	ソース (PeopleSoft ドキュメントまたは区切り形式ファイル) を指定します。
マップ定義 - ターゲット (ステップ 3/6) ページ	FS_MAP_TRG_DEF_WIZ	ターゲット (PeopleSoft ドキュメントまたは区切り形式ファイル) を指定します。
マップ定義 - 詳細 (ステップ 4/6) ページ	FS_MAP_DTL_WIZ	ソース フィールドとターゲット フィールドのマップ詳細および変換タイプを定義します。
マップ定義 - フィルタ (ステップ 5/6) ページ	FS_MAP_FILTER_WIZ	フィルタ条件を追加します。
マップ定義 - サマリ (ステップ 6/6) ページ	FS_MAP_SUMMARY_WIZ	マップ定義を確認して送信します。

マップ定義 - マップ (ステップ 1/6) ページ

マップ定義 - マップ (ステップ 1/6) ページ (FS_MAP_DEF_WIZ) を使用して、マップ定義の ID 情報を作成します。

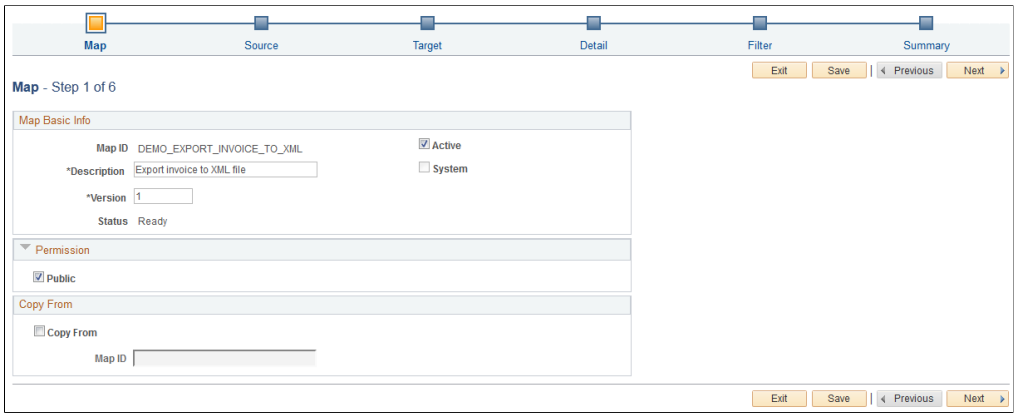
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [データのエクスポート/インポート ユーティリティ], [マップ定義]

画像: マップ定義 - マップ (ステップ 1/6)

次の例では、マップ定義 - マップ (ステップ 1/6) ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



アクティブ 該当するマップ定義をラン コントロール ページからリクエストし、それをコピーして新しいマップ定義を作成できるようにする場合に選択します。

システム 該当するマップ定義が Oracle システムによって提供されたものである場合、選択された状態で表示されます。マップがユーザーによって定義されたものである場合、選択解除された状態で表示されます。

バージョン マップ定義の履歴バージョンを指定するための値を入力します。同じマップ定義に複数のバージョンを作成できます。

公開 全てのシステム ユーザーが該当するマップ定義に基づいて DEIU 処理をリクエストできるようにするかどうかを指定します。選択解除した場合、マップの実行を許可するユーザーのロールを入力します。

コピー元 既存のマップ定義からコピーする場合に選択します。選択した場合、コピーするマップ定義のマップ ID を入力します。有効なマップ ID のみを選択できます。

マップ定義 - ソース (ステップ 2/6) ページ

マップ定義 - ソース (ステップ 2/6) ページ (FS_MAP_SRC_DEF_WIZ) を使用して、ソース (PeopleSoft ドキュメントまたは区切り形式ファイル) を指定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

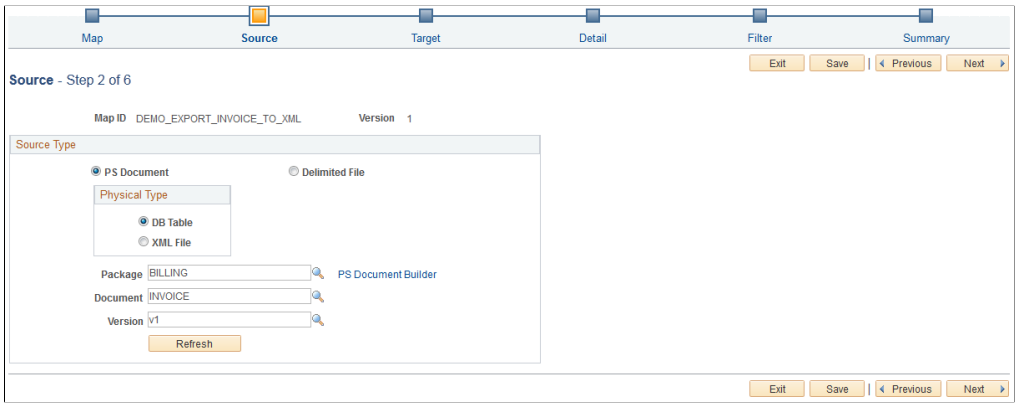
データをエクスポートするには、ソースとして PeopleSoft ドキュメントまたはデータベース テーブルを選択し、該当する PeopleSoft ドキュメントを指定します。

ナビゲーション

マップ (ステップ 1/6) ページで [次へ] ボタンをクリックします。

画像: マップ定義 - ソース (ステップ 2/6) ページ

次の例では、マップ定義 - ソース (ステップ 2/6) ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



PS ドキュメント

ソース タイプとして PeopleSoft ドキュメントを指定する場合に選択します。ドキュメントの物理タイプとして *[DB テーブル]* (データベース テーブル) または *[XML ファイル]* を指定し、PeopleSoft ドキュメントの ID 情報として [パッケージ]、[ドキュメント] および [バージョン] を入力します。*[XML ファイル]* を選択した場合、文字セットの入力も必要です。[UTF-8] または [GBK18030] のいずれかを選択します。

区切形式ファイル

ソース タイプとして区切り形式ファイルを指定する場合に選択します。次のフィールドに値を入力します。

- レイアウト ID: 区切りファイル レイアウト ページで定義したレイアウト ID を入力します。[定義] リンクをクリックすると、区切りファイル レイアウト ページのレイアウト定義が表示されます。
- 文字セット: 区切り形式ファイルで使用する文字セットを入力します。[UTF-8] または [GBK18030] のいずれかを選択します。

マップ定義 - ターゲット (ステップ 3/6) ページ

マップ定義 - ターゲット (ステップ 3/6) ページ (FS_MAP_TRG_DEF_WIZ) を使用して、ターゲット (PeopleSoft ドキュメントまたは区切り形式ファイル) を指定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

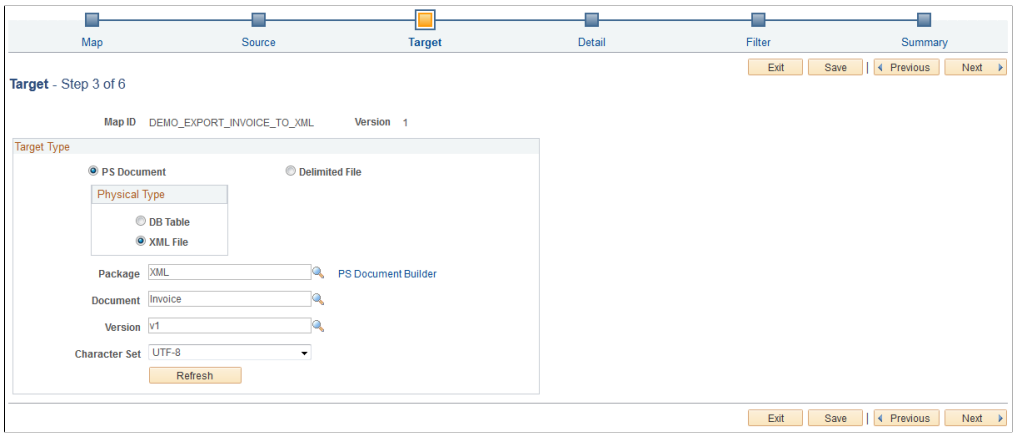
データを XML ファイルにエクスポートするには、XML フォーマットの PeopleSoft ドキュメントのオプションを選択し、ターゲットの PeopleSoft ドキュメントを指定します。

ナビゲーション

ソース (ステップ 2/6) ページで [次へ] ボタンをクリックします。

画像: マップ定義 - ターゲット (ステップ 3/6) ページ

次の例では、マップ定義 - ターゲット (ステップ 3/6) ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



PS ドキュメント

ソース タイプとして PeopleSoft ドキュメントを指定する場合に選択します。ドキュメントの物理タイプとして *[DB テーブル]* (データベース テーブル) または *[XML ファイル]* を指定し、PeopleSoft ドキュメントの ID 情報として [パッケージ]、[ドキュメント] および [バージョン] を入力します。*[XML ファイル]* を選択した場合、文字セットの入力も必要です。[UTF-8] または [GBK18030] のいずれかを選択します。

区切形式ファイル

ソース タイプとして区切り形式ファイルを指定する場合に選択します。次のフィールドに値を入力します。

- レイアウト ID: 区切りファイル レイアウト ページで定義したレイアウト ID を入力します。[定義] リンクをクリックすると、区切りファイル レイアウト ページのレイアウト定義が表示されます。
- 文字セット: 区切り形式ファイルで使用する文字セットを入力します。[UTF-8] または [GBK18030] のいずれかを選択します。

PS ドキュメント ビルダ

このリンクをクリックすると、ドキュメント ビルダのドキュメント ページにアクセスし、選択した PeopleSoft ドキュメントを確認できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

文字セット 文字セットを選択します。この値は出力の XML ヘッダーに表示されます。

マップ定義 - 詳細 (ステップ 4/6) ページ

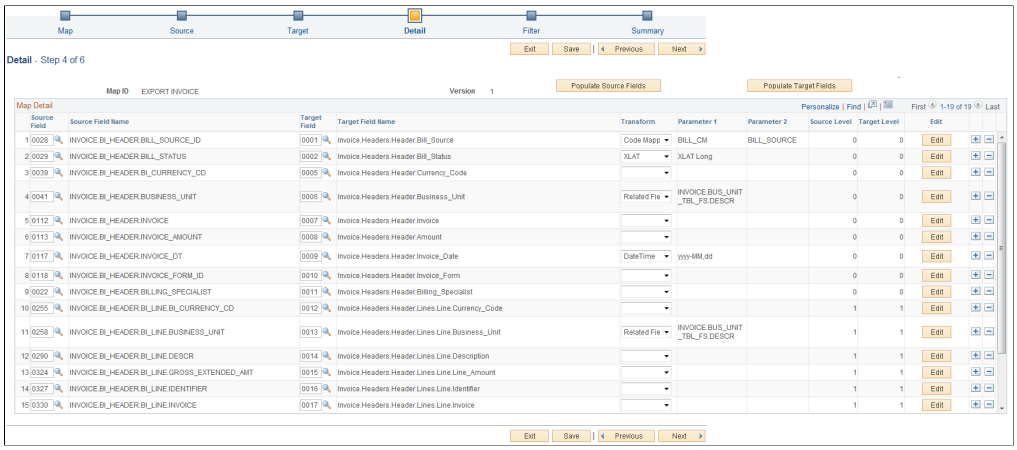
マップ定義 - 詳細 (ステップ 4/6) ページ (FS_MAP_DTL_WIZ) を使用して、ソース フィールドとターゲット フィールドのマップ詳細および変換タイプを定義します。

ナビゲーション

ターゲット (ステップ 3/6) ページで [次へ] ボタンをクリックします。

画像: マップ定義 - 詳細 (ステップ 4/6) ページ

次の例では、マップ定義 - 詳細 (ステップ 4/6) ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



ソース フィールドの入力 クリックすると、[マップ詳細]グリッドにソース フィールドが自動的に入力されます。代わりに、フィールドを手動で追加することもできます。マップ詳細リストに複数のレコードが含まれている場合、このボタンは使用できません。

ターゲット フィールドの入力 クリックすると、[マップ詳細]グリッドにターゲット フィールドが自動的に入力されます。代わりに、フィールドを手動で追加することもできます。マップ詳細リストに複数のレコードが含まれている場合、このボタンは使用できません。

ソース フィールド/ターゲット フィールド 行ごとに 1 つのソース フィールドと 1 つのターゲット フィールドのペアを入力します。次の例外が適用されます。

- [マップ詳細] グリッドでは、ターゲット フィールドの入力は必須ですが、ソース フィールドは空白のままにしてもかまいません。
- ソース フィールドを空白にした場合、ターゲット フィールドでは*[定数]*変換タイプを使用し、定数値パラメータ、連番アク

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ションまたはラン コントロール アクションを指定する必要があります。

- 必要に応じて、1 つのソース フィールドを複数のターゲット フィールドにマッピングできます。

変換

ソース フィールド/ターゲット フィールドのペアごとに次の変換ルールのいずれかを選択します。

- *<空白>* - 変更や変換を行わずに、ソース フィールドの値がターゲット フィールドにコピーされます。
- *オーディット ルール* - プロセス インスタンス ID の値が入力されます。この値は、エクスポートまたはインポートされたデータのバッチを区別するためのバッチ番号として使用できます。
- *計算* - [パラメータ 1] 列に *[乗算]* 演算子が表示され、[パラメータ 2] 列に係数が表示されます。

  たとえば、これを使用して金額値に 100 を乗算することによって、ターゲット データ セットの小数点の値を削除できます。
- *コード マッピング* - [パラメータ 1] 列および [パラメータ 2] 列の事前定義済コード マッピングを参照してください。

  詳細については、Setting Up Common Components for Bank Statement Payment and Payment Acknowledgment ProcessingPeopleSoft Financial Gateway を参照してください。
- *定数* - [パラメータ 1] 列に定数文字列が表示されます。
- *日時* - DEIU で XML アウトバウンド データ変換が設定されている場合に使用します。[編集] ボタンをクリックして、ビジネス ニーズを満たす日付/日時フォーマットを入力します。
- *関連フィールド* - [パラメータ 1]フィールドには、関連する値とドキュメント関係を持つソース フィールドを定義する必要があります。
- *連番* - パラメータはなく、ターゲット フィールドが 1 から始めて 1 ずつ増えていきます。
- *XLAT* - ソース フィールドにはトランスレート値が含まれている必要があり、[パラメータ 1] フィールドには使用するトランスレート値タイプ (XLAT 名称や XLAT 略称など) を定義する必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

[編集] ボタンをクリックして変換プロパティ編集 2 次ページにアクセスし、選択した変換値のパラメータを編集できます。

日付/日時フォーマットの使用

フォーマット フィールドでは、文字列値を使用して日時または日付値の変換方法を指定します。

次の表には、[出力フォーマット] フィールドの有効値を示しています。

注: フォーマットの値では大文字と小文字が区別されます。たとえば、小文字の m を指定した場合は分が表示されるのに対し、大文字の M を指定した場合は月が表示されます。

記号	*定義*	*タイプ*	*例*
G	時代指定	テキスト	AD
y	年	数値	1996
M	月	テキストおよび数値	7 月および 07
d	日	数値	10
h	時間 (am/pm)	数値 (1-12)	12
H	時間	数値 (0-23)	0
m	分	数値	30
s	秒	数値	55
S	ミリ秒	数値	978
E	曜日	テキスト	火曜日
a	am/pm マーカー	テキスト	PM
k	時間	数値 (1-24)	24
K	時間 (am/pm)	数値 (0-11)	0
'	テキストのエスケープ	区切り文字	
''	一重引用符	リテラル	'

次の表に示すように、文字の数によってフォーマットが決まります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

タイプ	*フォーマット*
テキスト	4 つ以上のパターン文字を使用した場合、完全形が使用されます。4 つ未満のパターン文字を使用した場合、短縮形または省略形が使用されます (存在する場合)。
数値	最小桁数を使用します。数値がその値より短い場合、その値まで 0 で埋められます。 年には特別な処理が使用されます。つまり、y の数が 2 つの場合 (yy)、年は 2 桁まで切り捨てられます。
テキストおよび数値	3 つ以上のパターン文字を使用した場合、テキストが使用されます。それ以外の場合、数値が使用されます。

['a'..'z'] および ['A'..'Z'] の範囲に含まれていない文字は、フォーマット フィールドでは引用符付きテキストとして扱われます。たとえば、コロン、ピリオド、空白、シャープ、アット記号 (それぞれ ':'、'.'、' '、'#'、'@') などの文字は、一重引用符で囲まれてなくても出力文字列に表示されます。

フォーマットに無効な文字が含まれている場合、ランタイム エラーが発生します。

次の表には、米国のロケールを使用した例を示しています。

フォーマット	*結果*
"yyyy.MM.dd G 'at' hh:mm:ss"	1996.07.10 AD at 15:08:56
"EEE, MMM d, "yy"	Wed, July 10, '96
"h:mm a"	12:08 PM
"hh 'o"clock' a"	12 o'clock PM
"K:mm a"	0:00 PM
"yyyyy.MMMMM.dd GGG hh:mm aaa"	1996.July.10 AD 12:08 PM

マップ定義 - フィルタ (ステップ 5/6) ページ

マップ定義 - フィルタ (ステップ 5/6) ページ (FS_MAP_FILTER_WIZ) を使用して、フィルタ条件を追加します。

フィルタ ページは、ソースとして PeopleSoft ドキュメントを選択し、物理タイプとして *[DB テーブル]* を選択した場合にのみ使用できます。DEIU 処理では、ソース データにフィルタを適用することでソース データのサブセットを取得し、ターゲットに出力するソース データのサブセットを制御します。

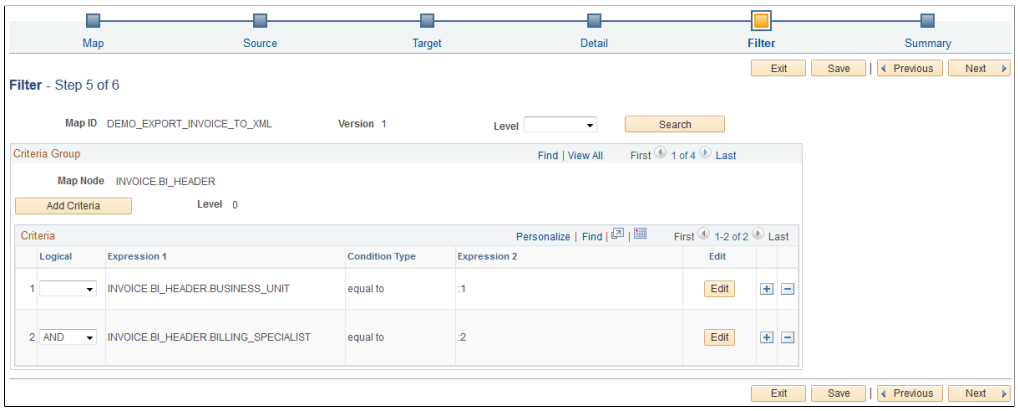
 Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

詳細 (ステップ 4/6) ページで [次へ] ボタンをクリックします。

画像: マップ定義 - フィルタ (ステップ 5/6) ページ

次の例では、マップ定義 - フィルタ (ステップ 5/6) ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



条件の追加/編集

[条件の追加] ボタンをクリックして、フィルタ条件を追加するか、[編集] ボタンをクリックして、条件プロパティ編集ページで条件プロパティを変更します。

論理

[AND]、*[AND NOT]*、*[OR]* または *[OR NOT]* を選択します。

複数のフィルタ条件を使用する場合、最初の [論理] 値を空白にします。

式 1

ソース フィールドを入力します。

条件タイプ

[=]、*[<>]*、*[LIKE]*、*[次より大きい]*、*[次より小さい]*、*[次より大きくない]*、*[次より小さくない]* または *[NOT LIKE]* を選択します。

式 2

定数文字列、ソース フィールドまたは変数 (:1、:2、...) を入力します。[式 2] を変数にした場合、実行時に実際の条件値が選択されます。[式 2] をソース フィールドにした場合、このフィールドを持つレコードは、ソース フィールドの対応するレコードを継承するか、間接的に継承する必要があります。

マップ定義 - サマリ (ステップ 6/6) ページ

マップ定義 - サマリ (ステップ 6/6) ページ (FS_MAP_SUMMARY_WIZ) を使用して、マップ定義を確認して送信します。

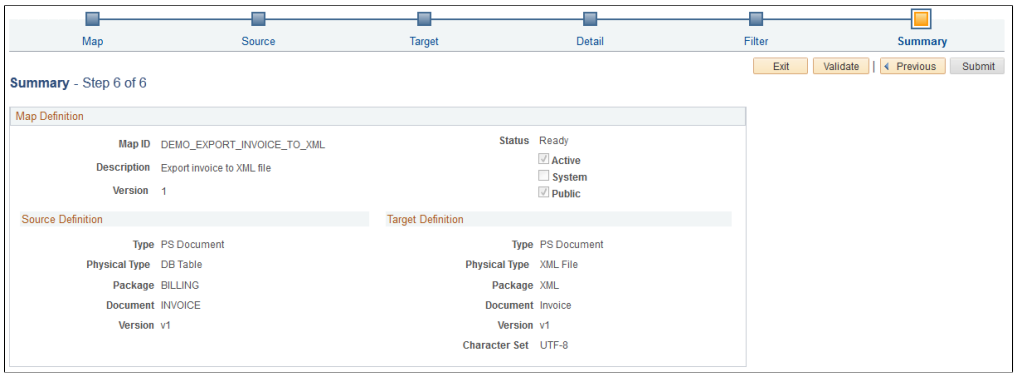
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

フィルタ (ステップ 5/6) ページで [次へ] ボタンをクリックします。

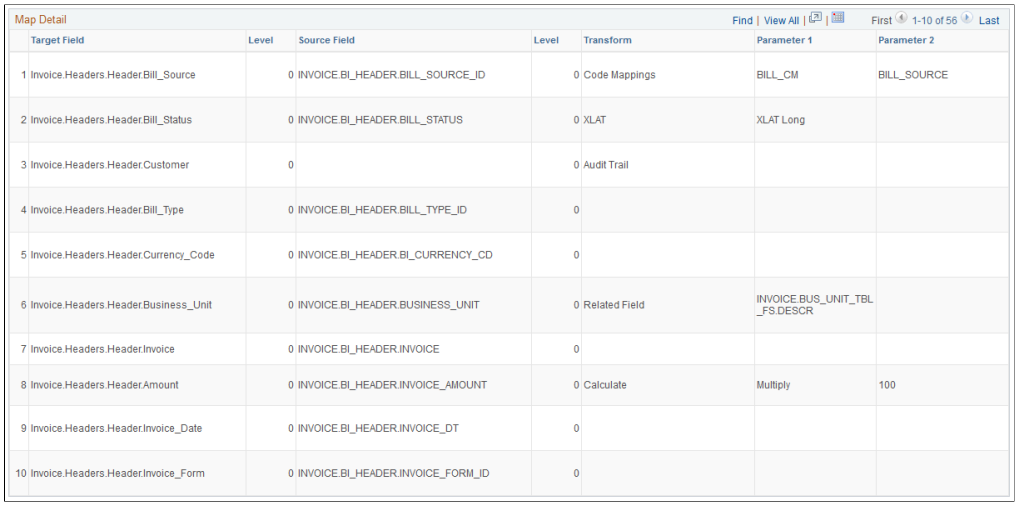
画像: マップ定義 - サマリ (ステップ 6/6)、ページ上部

次の例では、マップ定義 - サマリ (ステップ 6/6) ページの上部のフィールドおよびコントロールを説明します。



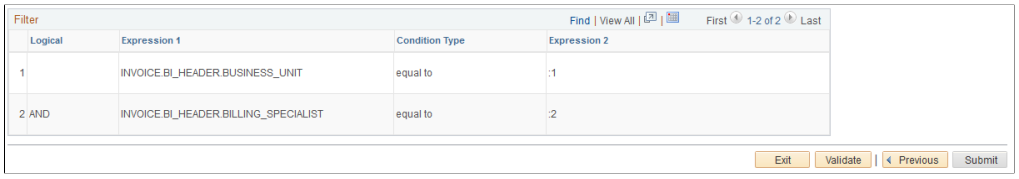
画像: マップ定義 - サマリ (ステップ 6/6)、ページ中央

次の例では、マップ定義 - サマリ (ステップ 6/6) ページの中央のフィールドおよびコントロールを説明します。



画像: マップ定義 - サマリ (ステップ 6/6)、ページ下部

次の例では、マップ定義 - サマリ (ステップ 6/6) ページの下部のフィールドおよびコントロールを説明します。



検証 このボタンをクリックすると、該当するマップが正しく定義されているかどうかの検証が実行されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

[送信] ボタンをクリックすると、マップ ステータスが [準備完了] に変わり、マップが DEIU 処理リクエストで使用できるようになります。

送信 このボタンをクリックすると、該当するマップ定義が DEIU 処理リクエストで使用できるようになります。

データのエクスポート/インポート プロセスのリクエスト

マップの定義が終了したら、データのエクスポート/インポート リクエスト ラン コントロール ページから実行したり、独自に開発またはカスタマイズしたその他のアプリケーション エンジン プロセスから呼び出すことができます。ラン コントロール ページから実行する場合、マップに定義されているフィルタ条件がラン コントロール ページに表示され、ユーザーが処理対象のデータ セットを絞り込むことができます。

データのエクスポート/インポート プロセスのリクエストに使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
データのエクスポート/インポート リクエスト ページ	FS_MAP_REQUEST	マップ定義およびオプションに基づいてデータのエクスポート/インポート ユーティリティ処理を開始し、データ セットをさらにフィルタします。

データのエクスポート/インポート リクエスト ページ

データのエクスポート/インポート リクエスト ページ (FS_MAP_REQUEST) を使用して、マップ定義およびオプションに基づいて DEIU 処理を開始し、データ セットをさらにフィルタします。

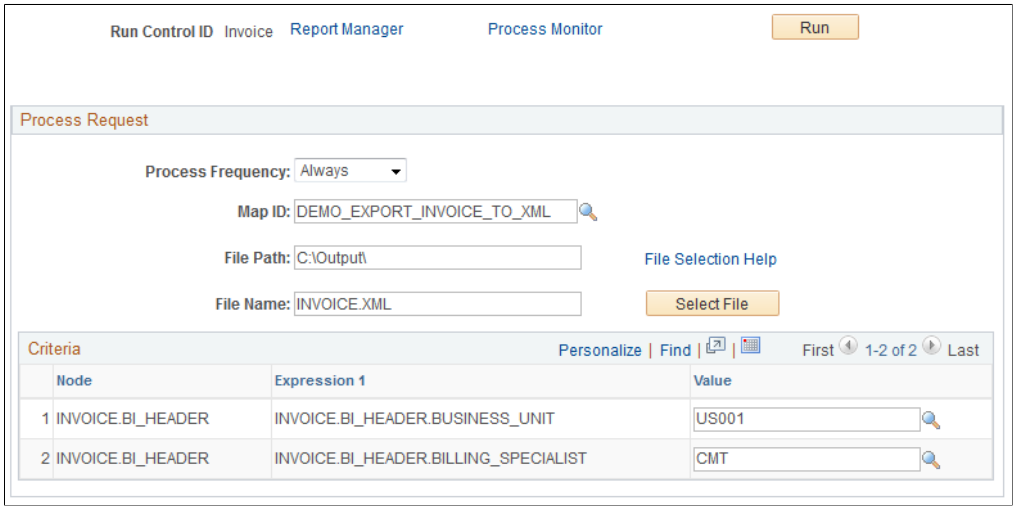
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [データのエクスポート/インポート ユーティリティ], [データのエクスポート/インポート リクエスト]

画像: データのエクスポート/インポート リクエスト ページ

次の例では、データのエクスポート/インポート リクエスト ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



マップ ID システムでのデータのエクスポート/インポート ユーティリティ処理に使用するマップ定義を入力します。

ファイル パス エクスポートまたはインポート対象のファイル パスを入力します。[ファイル選択ヘルプ] リンクをクリックして、フォルダ構造を参照します。

ファイル名 エクスポートまたはインポート対象のファイル名を入力するか、[ファイル選択] ボタンをクリックして使用可能なファイルを表示し、目的のファイルを選択します。

条件 システムでデータが選択的に変換されるように、データ構造と値を指定します。たとえば、マップ定義に基づいて、特定の値を持つフィールドのみを対象として、データのエクスポート/インポート ユーティリティ アプリケーション エンジン処理を実行できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第4章

PeopleSoft ビジネス プロセス ウィーバーの使用

PeopleSoft ビジネス プロセス ウィーバーについて

PeopleSoft ビジネス プロセス ウィーバー (BPW) は、バッチ プログラムなどのプロセス (タスク) を定義してビジネス プロセスの一部として並列または順次処理で実行できるフレームワークを提供します。PeopleSoft BPW 内で実行される、ユーザー定義タイプの BPW ビジネス プロセスを (ビジネス プロセス定義ページを使用して) 作成できます。

PeopleSoft では、リアル タイム ボトム ライン (RTBL) ソリューション によって使用される、事前に定義された BPW ビジネス プロセスも提供しています。RTBL ビジネス プロセスは RTBL 環境で管理され、シナリオ ダッシュボードから実行されます。新しい RTBL ビジネス プロセス タイプを BPW で作成することはできず、用意されている RTBL ビジネス プロセス タイプのプロセスは表示専用です。ただし、RTBL ソリューションで使用できる独自のタスクを (ビジネス プロセス タスク レジストリ ページを使用して) 定義できます。(Optional) Defining Custom Tables and ProcessesPeopleSoft In-Memory Real-Time Bottom Line Fundamentals を参照してください。

また、アプリケーション データ セット (ADS) 定義を使用して、ビジネス プロセス定義、タスク レジストリ、ビジネス プロセス ラン コントロールおよびビジネス プロセス ウィーバー アプリケーション クラス レジストリをデータベース間で移行でき、最終的には本番環境に移行できます。詳細については、「PeopleSoft ビジネス プロセス ウィーバーに対するデータ移行ワークベンチの使用」を参照してください。

前提条件

PeopleSoft ビジネス プロセス ウィーバーを使用する前に、システムを次のように設定します。

- インテグレーション ブローカー: ステータスを更新でき、後続ステップをトリガできるように、インテグレーション ブローカーを使用してプロセスにプロセス通知を渡します。これが機能するには、インテグレーション ブローカーを設定する必要があり、ゲートウェイ、ドメインおよびノードを設定してアクティブにします。サービス オペレーション PRCS_STATUS_OPER のローカルからローカルへのルーティングを追加し、そのキュー PSRF_REPORTING_FOLDERS が実行されていることを確認する必要があります。詳細については、製品ドキュメントの『*PeopleTools: Integration Broker Administration*』で設定およびインテグレーション設定も参照してください。

- PeopleTools 8.54: プッシュ通知 (「ビジネス プロセス通知の設定と使用」を参照) および ADS 設定 (「PeopleSoft ビジネス プロセス ウィーバーに対するデータ移行ワークベンチの使用」を参照) のために特に必要となりますが、ビジネス プロセス ウィーバーの通知および ADS の主要な機能には PeopleTools 8.53 が必要です。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft ビジネス プロセス ウィーバーで使用される共通要素

次の表では、PeopleSoft BPW で共通して使用される要素および用語を説明します。

ビジネス プロセス	ビジネス プロセスは、タスクの実行フローを定義する最上位レベルのコンポーネントです。これはプロセス ステップで構成されます。各プロセス ステップで 1 つのタスクが実行されます。
プロセス ステップ	プロセス ステップは、ビジネス プロセスのサブコンポーネントです。ビジネス プロセスは一連のプロセス ステップであり、プロセス ステップの間には最適な依存関係が定義されます。
タスク	タスクは、ビジネス プロセスの一部として実行されるプログラムまたはビジネス ロジックです。タスクは、タスク レジストリ ページで定義されます。最も一般的なタスクは、プロセス スケジューラのプロセス (ジョブ) です。タスクは、プロセス ステップに関連付けられます。1 つのステップは 1 つのタスクを示しますが、同じタスクをビジネス プロセス内の複数のステップに関連付けることができます。
バッチ プログラム	BPW では、バッチ プログラムはプロセス スケジューラに定義されたプロセス (ジョブ) です。
ラン コントロール	ラン コントロールは、全ての PeopleSoft ドキュメントの場合と同様に、プロセスに対してパラメータまたは入力データを指定します。ステップ スレッド レベルでは、プロセス スケジューラ ラン コントロールと同じです。ラン コントロールは、ビジネス プロセス、プロセス スレッド、ステップまたはステップ スレッドと関連付けることができます。
プロセス スレッド	ビジネス プロセス ラン コントロールを設定する場合、複数のプロセス スレッドを異なるラン コントロールで作成できます。したがって、異なる入力パラメータおよびデータのセットによって、ビジネス プロセスの同時フローを並列で実行できます。
ステップ スレッド	プロセス ステップ レベルでは、(たとえば、アプリケーション エンジン プログラムを実行するときに)、入力パラメータおよびデータを分割して複数のステップ スレッドを作成し、アプリケーション エンジン プログラムの複数のコピーを (異なるラン コントロールで) 同時に実行できます。全てのステップ スレッドが終了するまで、ステップは終了とは見なされません。
プロセス インスタンス	プロセス (プログラム) が実行されると、実行を追跡するためにインスタンスが作成されます。ラン コントロールと同様に、複数のレベルの追跡がビジネス プロセス、プロセス スレッド、ステップおよびステップ スレッドに関連付けられます。このドキュメントでは、それらをビジネス プロセス インスタンス、スレッド インスタ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ンス、ステップ インスタンスおよびステップ スレッド インスタンスと呼びます。ステップ スレッドはプロセス スケジューラに対して処理がスケジュールされるレベルであるため、ステップ スレッド インスタンスはプロセス スケジューラではプロセス インスタンスに対応します。

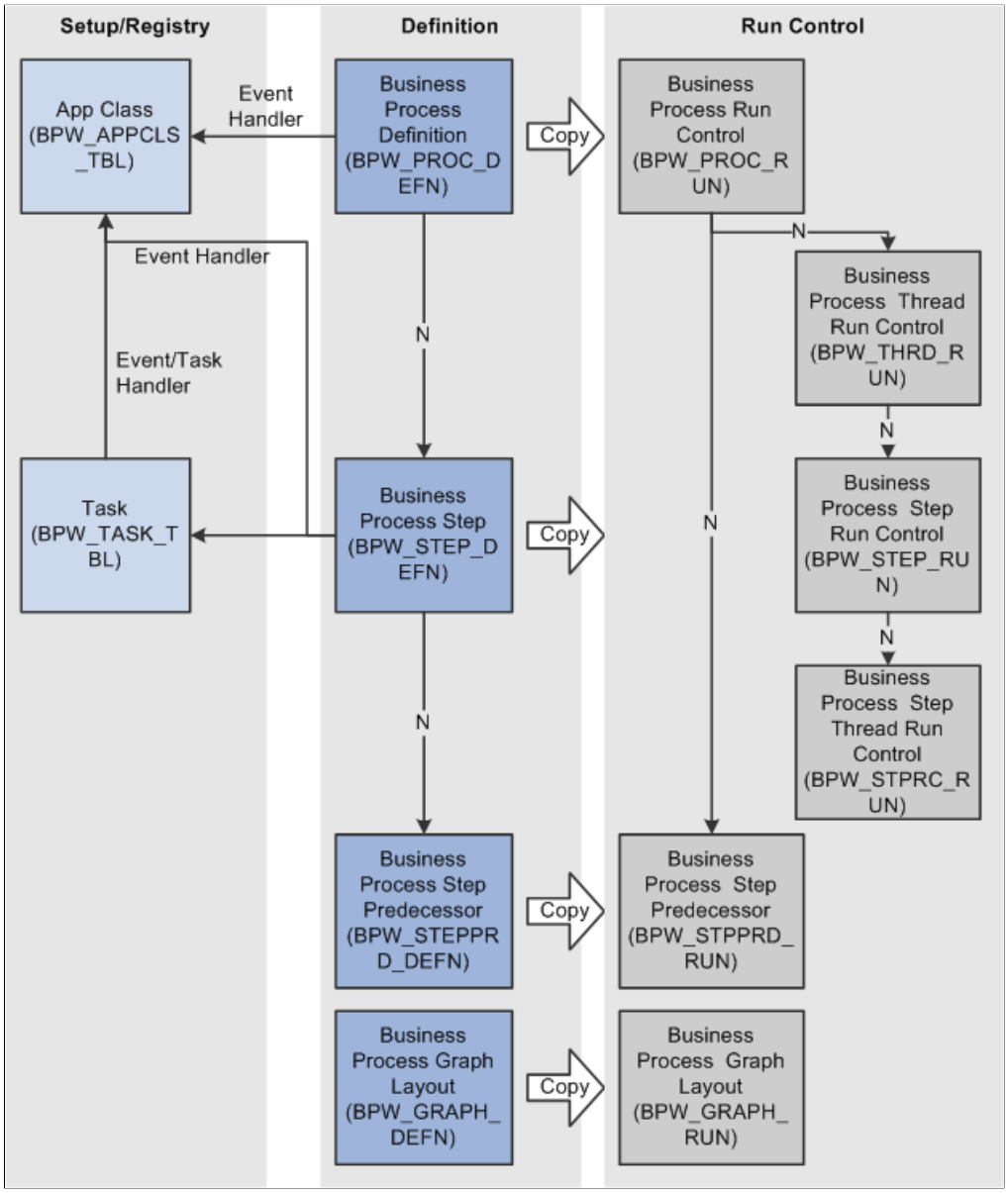
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ビジネス プロセス ウィーバーのデータ モデルの概要

ビジネス プロセス ウィーバーには、4 つのグループのテーブルがあります。

画像: ビジネス プロセス ウィーバー (1/2)

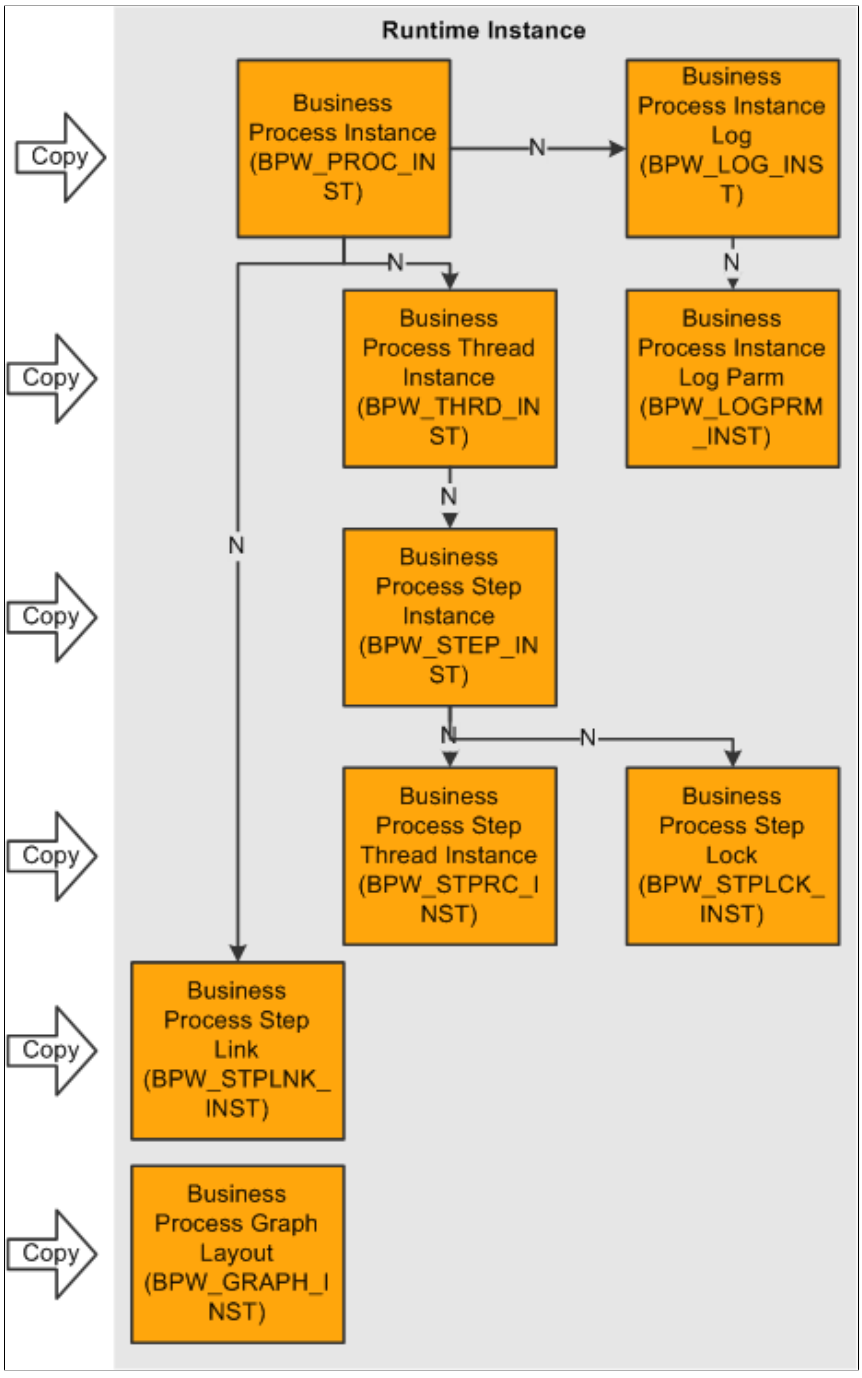
次の図は、BPW のコア モデル テーブル (1/2) を示しています。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

画像: ビジネス プロセス ウィーバー (2/2)

次の図は、BPW のコア モデル テーブル (2/2) を示しています。



ビジネス プロセス ウィーバーの設定

BPW_APPCLS_TBL コンポーネントを使用して、ビジネス プロセス ウィーバーにアプリケーション クラスを登録します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

BPW_ENTYPNT_REG コンポーネントを使用して、ビジネス プロセス エントリ ポイントを登録します。

BPW_TASK_TBL コンポーネントを使用して、ビジネス プロセス ウィーバー タスクを登録します。

ビジネス プロセス ウィーバーの設定で使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
アプリケーション クラス レジストリ ページ	BPW_APPCLS_TBL	ビジネス プロセスで使用されるアプリケーション クラスを登録します。ビジネス プロセスで使用されるイベント ハンドラまたはタスク ハンドラを、このページで登録する必要があります。 **注:** 通常、このページを使用するのはアプリケーション開発者のみです。
ビジネス プロセス エントリ ポイント レジストリ ページ	BPW_ENTYPNT_REG	エントリ ポイント レジストリを設定します。このページは、システムまたはサイト定義のトランザクション エントリ ポイントに対して、どのプロセスが実行されるかを設定する必要がある管理者を対象としています。エントリ ポイントは、ビジネス プロセス ウィーバー コンポーネント外のトランザクション ページからビジネス プロセスを開始するために使用されます。 **注:** 通常、このページを使用するのはアプリケーション開発者のみです。
ビジネス プロセス タスク レジストリ ページ	BPW_TASK_TBL	ビジネス プロセスで実行されるタスクを設定します。アプリケーション開発者は、通常はこのページを使用して、ビジネス プロセスの一部であるプログラム (プロセス スケジューラのプロセスなど) を登録します。 オラクル社では、多数の定義済タスクをシステム データとして用意しています。これらをビジネス プロセス定義で使用できます。 **注:** 通常、このページを使用するのはアプリケーション開発者のみです。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

アプリケーション クラス レジストリ ページ

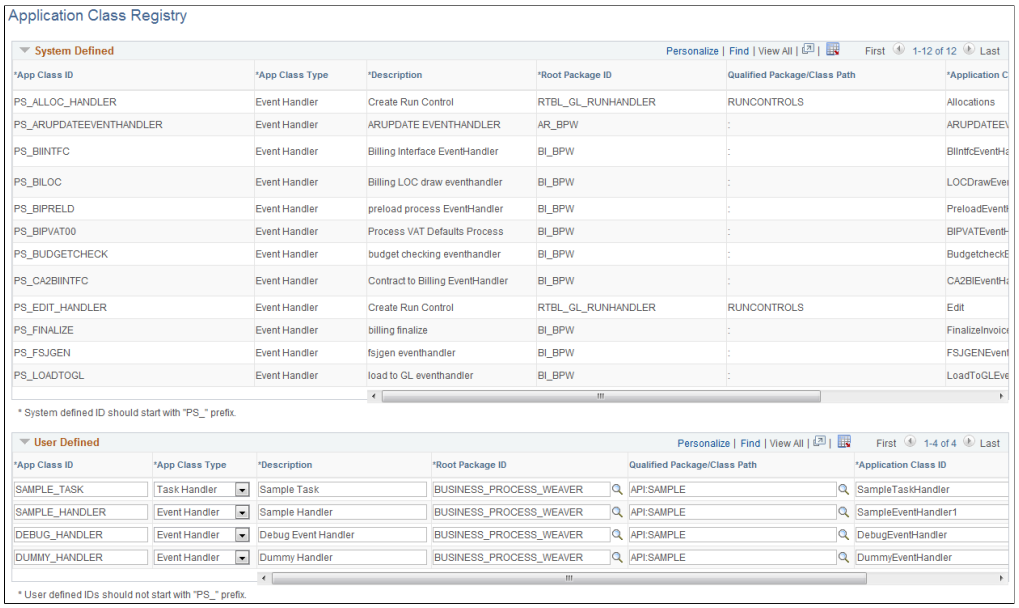
アプリケーション クラス レジストリ ページ (BPW_APPCLS_TBL) を使用して、ビジネス プロセスで使用されるアプリケーション クラスを登録します。ビジネス プロセスで使用されるイベント ハンドラまたはタスク ハンドラを、このページで登録する必要があります。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ビジネス プロセス ウィーバー], [アプリケーション クラス レジストリ]

画像: ビジネス プロセス ウィーバー - アプリケーション クラス レジストリ ページ

次の例では、ビジネス プロセス ウィーバー - アプリケーション クラス レジストリ ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



注: このページは、アプリケーション開発者による使用を目的としています。

このレジストリの目的は、ビジネス プロセス定義で指定するためにアプリケーション クラスのフル パスをユーザーが知る必要がないように、単一の ID をアプリケーション クラスに割り当てることです。また、ビジネス プロセス定義、ラン コントロールまたはインスタンスを変更せずに、使用されるアプリケーション クラスを柔軟に切り替えることもできます。

システム定義

システム定義データは表示専用です。PeopleSoft では、リアル タイム ボトム ライン (RTBL) ソリューションおよび他の PeopleSoft アプリケーションによって使用される App クラス ID を提供しています。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユーザー定義

[ユーザー定義] グループ ボックスで、独自のアプリケーション クラスを追加できます。App クラス ID を "PS_" で開始しないでください。

App クラス ID

アプリケーション開発者がアプリケーション クラスに割り当てる固有の ID。アプリケーション クラスを参照するために使用されます。

App クラス タイプ

登録されるアプリケーション クラスのタイプを指定します。値は次のとおりです。

- *イベント ハンドラ* - アプリケーション クラスはイベント ハンドラとして使用されます。BUSINESS_PROCESS_WEAVER:API:EventHandler のサブクラスである必要があります。
- *タスク ハンドラ* - アプリケーション クラスはタスク ハンドラとして使用されます。BUSINESS_PROCESS_WEAVER:API:TaskHandler のサブクラスである必要があります。

ルート パッケージ ID、完全修飾パッケージ/クラス パスおよびアプリケーション クラス ID

これらの必須フィールドによって、アプリケーション クラスのフル パスが指定されます。データの保存時に、アプリケーション クラスがイベント ハンドラまたはタスク ハンドラの適切なサブクラスとなるように、フィールドが編集されます。ビジネス プロセス ウィーバーによってまだ使用されている App クラス ID をユーザーが削除しないように、[App クラス ID] および [App クラス タイプ] は表示専用であり、App クラス ID が現在使用されている場合は行を削除できません。App クラス ID は次の場所で使用されます。

- タスク レジストリ (イベント ハンドラまたはタスク ハンドラとして)
- ビジネス プロセス定義
- ビジネス プロセス ラン コントロール
- 終了していないビジネス プロセス インスタンス

ビジネス プロセス エントリ ポイント レジストリ ページ

ビジネス プロセス エントリ ポイント レジストリ ページ (BPW_ENTYPNT_REG_GBL) を使用して、エントリ ポイント レジストリを設定します。このページは、システムまたはサイト定義のトランザクション エントリ ポイントに対して、どのプロセスが実行されるかを設定する必要がある管理者を対象としています。エントリ ポイントは、ビジネス プロセス ウィーバー コンポーネント外のトランザクション ページからビジネス プロセスを開始するために使用されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

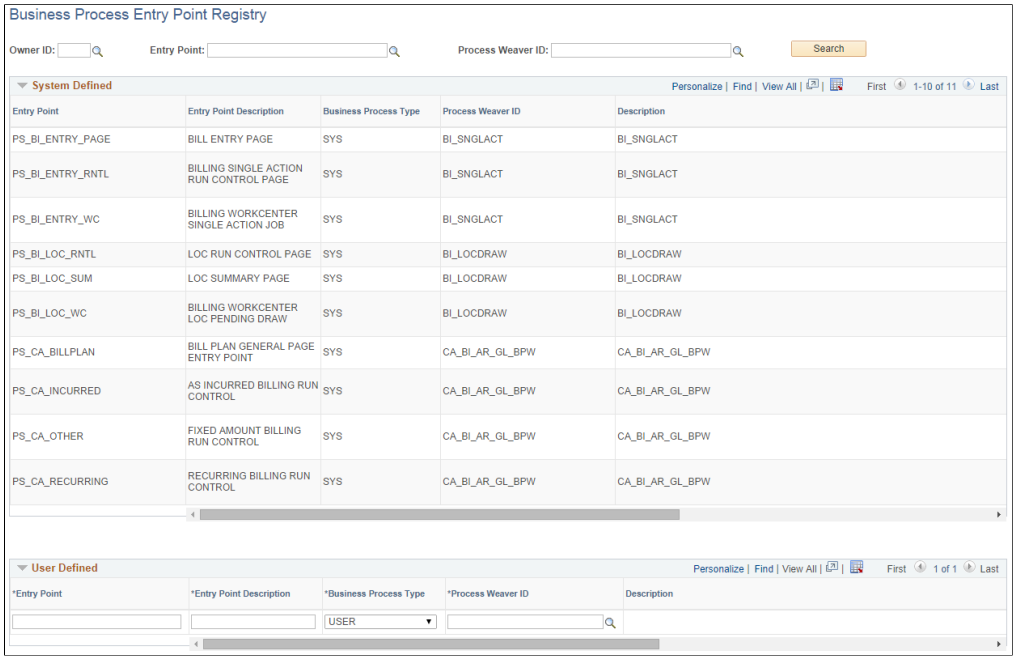
注: エントリ ポイント レジストリに定義されたビジネス プロセス ウィーバーを開始するには、ユーザーはビジネス プロセス ウィーバー定義のセキュリティ データの最初のステップにアクセスできる必要があります。詳細については、「ビジネス プロセス ウィーバー セキュリティ オプションの定義」を参照してください。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ビジネス プロセス ウィーバー], [エントリ ポイント レジストリ]

画像: ビジネス プロセス エントリ ポイント レジストリ ページ

次の例では、ビジネス プロセス エントリ ポイント レジストリ ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



検索フィールドに値を指定しない場合、結果にはシステム定義およびユーザー定義の全てのエントリ ポイントが表示されます。

オーナー ID エントリ ポイントのオーナー ID を入力し、[検索] ボタンをクリックしてオーナー ID 別の結果を返します。

システム定義

システム定義データは表示専用です。PeopleSoft では、リアル タイム ボトム ライン (RTBL) ソリューションおよび他の PeopleSoft アプリケーションによって使用されるエントリ ポイントを提供しています。

ユーザー定義

[ユーザー定義] グリッドで、独自のエントリ ポイントを追加できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

エントリ ポイントおよびエントリ ポイント説明

エントリ ポイントおよび説明によって、全ての定義済エントリ ポイント ID から選択します。

エントリ ポイントを使用すると、ユーザーはビジネス プロセス定義ページで定義されたように、プロセスを開始できます。エントリ ポイントによって参照されるビジネス プロセス ウィーバー定義の詳細については、「ビジネス プロセスの定義」を参照してください。

ビジネス プロセス タイプ

次の値から選択します。

- *SYS*: システム定義のビジネス プロセス。
- *ユーザー*: ユーザー定義のビジネス プロセス。

プロセス ウィーバー IDおよびプロセス ウィーバー説明

RTBL の一部ではない全ての定義済ビジネス プロセス ウィーバー プロセスから選択します。

ダイナミック ラン コントロール

[Y] (はい) または *[N]* (いいえ) から選択します。

*はい*は、全ての BPW ステップ ラン コントロールが PeopleCode で実行時に設定されることを意味します。ビジネス プロセス ラン コントロール ページに移動してステップ ラン コントロールのパラメータを設定する必要はありません。ビジネス プロセス ウィーバー ステップ ラン コントロールは、ビジネス プロセス ウィーバー プロセスが開始される前に正しく設定されている必要があります。

アクティブ

エントリ ポイントがアクティブまたは使用可能であることを示します。

ビジネス プロセス タスク レジストリ ページ

ビジネス プロセス タスク レジストリ ページ (BPW_TASK_TBL) を使用して、ビジネス プロセスで実行されるタスクを設定します。アプリケーション開発者は、通常はこのページを使用して、ビジネス プロセスの一部であるプログラム (プロセス スケジューラのプロセスなど) を登録します。

オラクル社では、多数の定義済タスクをシステム データとして用意しています。これらをビジネス プロセス定義で使用できます。

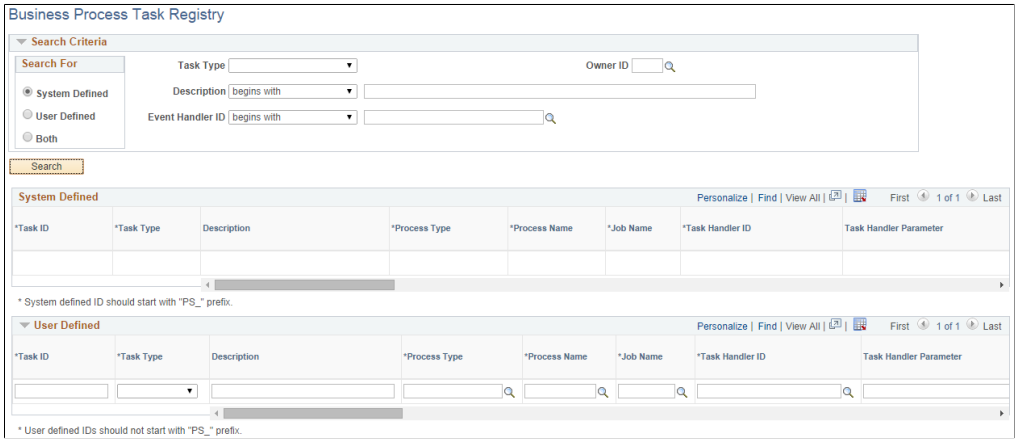
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ビジネス プロセス ウィーバー], [ビジネス プロセス タスク レジストリ]

画像: ビジネス プロセス タスク レジストリ ページ

次の例では、ビジネス プロセス タスク レジストリ ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



システム定義

システム定義データは表示専用です。PeopleSoft では、リアル タイム ボトム ライン (RTBL) ソリューションおよび他の PeopleSoft アプリケーションによって使用されるタスク ID を提供しています。

ユーザー定義

[ユーザー定義] グループ ボックスで、独自のタスクを追加できます。タスク ID を "PS_" で開始しないでください。

タスク ID

タスクに割り当てられる固有の ID。BPW でタスクを参照するために使用されます。

タスク タイプ

タスクのタイプを示します。値は次のとおりです。

- *アプリケーション クラス* - 検索フィールド [タスク ハンドラ ID]、[説明] および [イベント ハンドラ ID] が表示されます。このオプションは、タスクが、ステップの実行を担当するアプリケーション クラス (アプリケーション クラス レジストリ ページで設定されるタスク ハンドラ) に関連付けられていることを示します。この値を選択すると、[タスク ハンドラ ID] と、オプションで [説明] および [イベント ハンドラ ID] に値を入力する必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *ジョブ* - タスクがプロセス スケジューラのジョブであることを示します。この値を選択すると、[プロセス ジョブ名] に値を入力する必要があります。
- *プロセス* - タスクがプロセス スケジューラのプロセスであることを示します。この値を選択すると、[プロセス タイプ] と [プロセス名] の両方に値を入力する必要があります。

注: 個別に実行できないプロセスを登録しないでください。たとえば、AR_POST1 から AR_POST8 などです。

説明 タスクの説明。説明を入力しない場合、アプリケーション クラス、ジョブまたはプロセスの説明がフィールドに適用されます。

プロセス タイプおよびプロセス名 [タスク タイプ] が *[プロセス]* の場合、フィールドは必須であり、プロセス タイプ (アプリケーション エンジンなど) およびプロセス名 (アプリケーション エンジン プログラム名など) を指定します。

ジョブ名 [タスク タイプ] が *[ジョブ]* の場合、必須であり、実行するジョブを指定します。

タスク ハンドラ ID、タスク ハンドラ パラメータ [タスク タイプ] が *[アプリケーション クラス]* の場合、タスクの実行を担当するアプリケーション クラスを示すために、タスク ハンドラ ID を入力する必要があります。タスク ハンドラ パラメータはオプションであり、タスク ハンドラ アプリケーション クラスに情報を渡すために使用できます。

[イベント ハンドラ ID]、[イベント ハンドラ パラメータ] イベント ハンドラがタスクに関連付けられる場合、そのアプリケーション クラス ID をイベント ハンドラ ID として入力します。オプションで、イベント ハンドラに対してパラメータ値を指定するためにイベント ハンドラ パラメータを入力します。

ラン コントロール プロンプト レコード タスクによって使用されるラン コントロール レコードのレコード名を入力します。これは、通常はユーザー ID およびラン コントロール ID がキーとなります。指定した場合、BPW によって既存のラン コントロールがチェックされ、ラン コントロール ステータスがビジネス プロセス ラン コントロールおよびレビュー ページに表示されます。

ラン コントロール必須 ラン コントロール プロンプト レコードを指定した場合、タスクの実行前にラン コントロールが必須かどうかを指定できます。これを選択して、ラン コントロールが見つからない場合は、ステップ (タスク) を開始または実行できません。ラン コントロールを設定してからステップを手動で開始するか、ステップを省略する必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

メニュー名、メニュー バー名、アイテム名、ページ名、メニュー アクション これらのフィールドを使用すると、タスクのラン コントロール設定ページに対するメニュー/コンポーネント/ページを設定できます。これらを設定すると、ビジネス プロセス ラン コントロールまたはレビュー ページで直接、ラン コントロール設定ページを開くことができます。バッチ処理またはジョブの場合、メニュー アクションは常に "追加" であるため、[タスク タイプ] が *[プロセス]* または *[ジョブ]* の場合は [メニュー アクション] は使用できません。

出力タイプ、出力フォーマット タスクの出力タイプおよびフォーマットを選択します。

アプリケーション クラス レジストリ ページと同様に、[タスク ID] がビジネス プロセス ウィーバーによって現在使用されている場合は、変更または削除できません。次の項目が確認されます。

- ビジネス プロセス定義
- ビジネス プロセス ラン コントロール
- 終了していないビジネス プロセス インスタンス

ビジネス プロセスの定義

BPW_PROC_DEFN コンポーネントを使用して、ビジネス プロセス ウィーバーにビジネス プロセスを定義します。

ビジネス プロセスの定義で使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
ビジネス プロセス定義ページ	BPW_PROC_DEFN	ビジネス プロセスを定義します。このページは、タスクがどのようにリンクされて処理されるかを理解しているパワー ユーザーおよび管理者を対象としています。
ステップ先行の選択ページ	BPW_PRI_STEPS_SEC	各ステップの先行を選択します (該当する場合)。ステップの先行は、順次実行を定義するために使用されます。

ビジネス プロセス定義ページ

ビジネス プロセス定義ページ (BPW_PROC_DEFN) を使用して、ビジネス プロセスを定義します。このページは、タスクがどのようにリンクされて処理されるかを理解しているパワー ユーザーおよび管理者を対象としています。

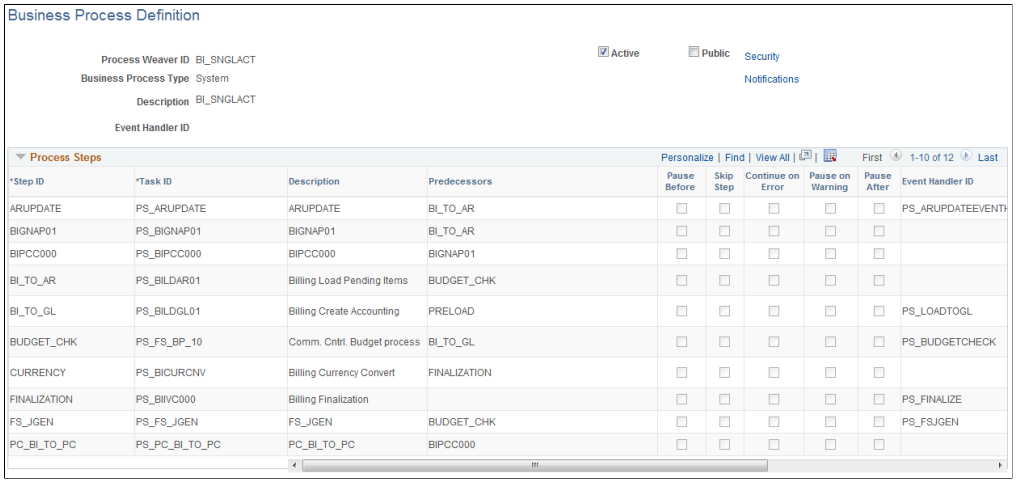
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ビジネス プロセス ウィーバー], [ビジネス プロセス定義]

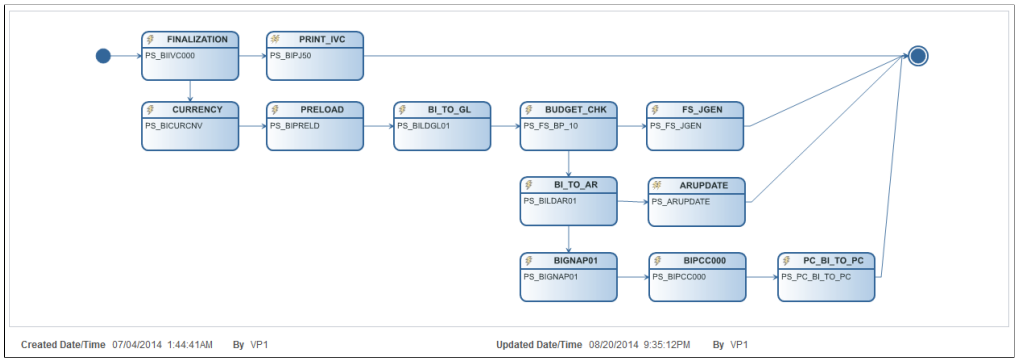
画像: ビジネス プロセス定義ページ (1/2)

次の例では、ビジネス プロセス定義ページ (1/2) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



画像: ビジネス プロセス定義ページ (2/2)

次の例では、ビジネス プロセス定義ページ (2/2) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



プロセス ウィーバー ID

同じビジネス プロセス タイプ内で一意のビジネス プロセスを指定します。

ビジネス プロセス タイプ

ビジネス プロセスのタイプを選択します。

- *ユーザー定義* - 自分が定義したビジネス プロセスに対しては、このビジネス プロセス タイプを選択します。
- *[RTBL] (リアル タイム ボトム ライン)* - このビジネス プロセスは PeopleSoft によって提供されており、リアル タイム ボトム ライン (RTBL) ソリューションによって使用されます。RTBL

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ビジネス プロセスは RTBL で管理されます。RTBL ビジネス プロセスはビジネス プロセス ウィーバーで作成できません。RTBL ビジネス プロセスは表示専用です。

- *[SYS] (システム)* - PeopleSoft によって定義および用意されます。システム ビジネス プロセスは表示専用です。これらの定義は変更できません。

名称 ビジネス プロセスの略称を指定します。

[イベント ハンドラ ID] および [イベント ハンドラ パラメータ] イベント ハンドラおよびパラメータをプロセス レベルでビジネス プロセスに添付する場合に選択します。

アクティブ ビジネス定義がアクティブかどうかを指定する場合に選択します。選択しない場合、ラン コントロールを作成してビジネス プロセスを実行できません。

公開 全てのユーザーがこのビジネス プロセス定義のビジネス プロセス ラン コントロールを作成できるようにする場合に選択します。このオプションを選択すると、[セキュリティ] リンクは無効になります。

セキュリティ プロセス定義のビジネス プロセス ラン コントロールを作成する権限があるユーザーを指定するには、このリンクをクリックします。

このリンクを有効にするには、[公開] チェック ボックスをオフにします。

通知 ビジネス プロセス定義通知ページにアクセスする場合に、このリンクをクリックします。このページでは、PeopleSoft Fluid ユーザー インターフェイス ホーム ページへの通知条件および配信チャネル (ワークリスト、電子メール、プッシュなど) を設定できます。

コピー元 異なるビジネス プロセス定義からステップをコピーするには、このボタンをクリックします。

[作成日時]、[ユーザー] 時刻と、このビジネス プロセス定義を作成したユーザーを指定します。

[更新日時]、[ユーザー] 時刻と、このビジネス プロセス定義を最後に更新したユーザーを指定します。

バージョン 定義のバージョンを表示します。このフィールドは、RTBL によってのみ使用されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プロセス ステップ

[プロセス ステップ] グループ ボックスを使用して、ビジネス プロセスのステップを定義します。

ステップ ID プロセス ステップを指定します。ビジネス プロセス内の一意の ID です。

タスク ID このステップで実行されるタスクを選択します。タスクは、タスク レジストリで設定されている必要があります。

名称 ステップの略称を入力します。値を入力しない場合、このフィールドはデフォルトでタスクの説明から移入されます。

先行 このステップが実行される前に実行される必要がある先行ステップを表示します。先行を選択するには、[先行の選択] ボタンをクリックします。ステップ先行の選択ページが表示されます。

先行の選択 ステップ先行を選択するには、このボタンを選択してステップ先行の選択ページを表示します。

前に一時中止 ステップを実行する前にプロセスを一時中止することを指定する場合に選択します。

ステップを省略 ステップを省略することを指定する場合に選択します。[ステップを省略]、[エラーを無視して続行] および [後に一時中止] は同時に指定できません。[ステップを省略] を選択した場合は、[エラーを無視して続行] および [後に一時中止] は使用できません。[エラーを無視して続行] または [後に一時中止] を選択した場合は、[ステップを省略] は使用できません。

エラーを無視して続行 このステップの実行中にエラーが発生した場合でもプロセスは次のステップに進むことを指定するには、このチェック ボックスをオンにします。

後に一時中止 このステップの完了後、プロセスは自動的には次のステップに進まないことを指定するには、このチェック ボックスをオンにします。代わりに、プロセスは一時中止し、ユーザーがプロセスを再開するのを待機します。

[イベント ハンドラ ID]、[イベント ハンドラ パラメータ] イベント ハンドラおよびパラメータをステップに添付する場合に選択します。イベント ハンドラが (タスク レジストリで設定される) タスクに関連付けられた場合、これは上書きされます。

グラフ

プロセス グラフは、ビジネス プロセスのステップの実行フローを示します。グラフ内の各ノードは、ビジネス プロセスのステップを表します。ノードには、ステップ ID とタスク ID が表示されます。ステップ ID の上にマウスを置くと、ステップの説明が表示されます。タスクにアイコンが関連付けられている場合は、ノードの左上隅に表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ノードは、左から右へ、上から下へと自動的に配置されます。ただし、ステップ間の関係が複雑な場合、レイアウトは最適にならないことがあります。その場合は、ノードをドラッグして再配置できます。接続線は自動的に再描画されます。

グラフを表示する画面の幅は固定されています。ただし、高さは、ユーザーがノードを移動するのに合わせて自動的に縦に (一定の高さまで) 拡大縮小します。グラフ全体を表示するには画面が小さすぎる場合、ユーザーは画面をドラッグしてスクロールできます。

ユーザーは、次の 3 つのボタンを使用してグラフを操作できます。

プレビュー	ほとんどの場合、[プロセス ステップ] グループ ボックスでデータが更新されると、グラフは自動的に再描画されて更新内容が表示されます。ただし、これが自動的に行われない場合 (たとえば、ステップを削除した場合など)、[プレビュー] ボタンをクリックしてグラフを更新できます。
自動レイアウト	ノードを移動して再配置した後で、レイアウトをシステム バージョンに復元する場合は、[自動レイアウト] ボタンをクリックします。
保存済に戻す	以前に変更したノード レイアウトを保存してある場合は、変更後の保存済レイアウトに復元するためにこのボタンを使用できます。

ステップ先行の選択ページ

ステップ先行の選択ページ (BPW_PRI_STEPS_SEC) を使用して、各ステップの先行を選択します (該当する場合)。ステップの先行は、順次実行を定義するために使用されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

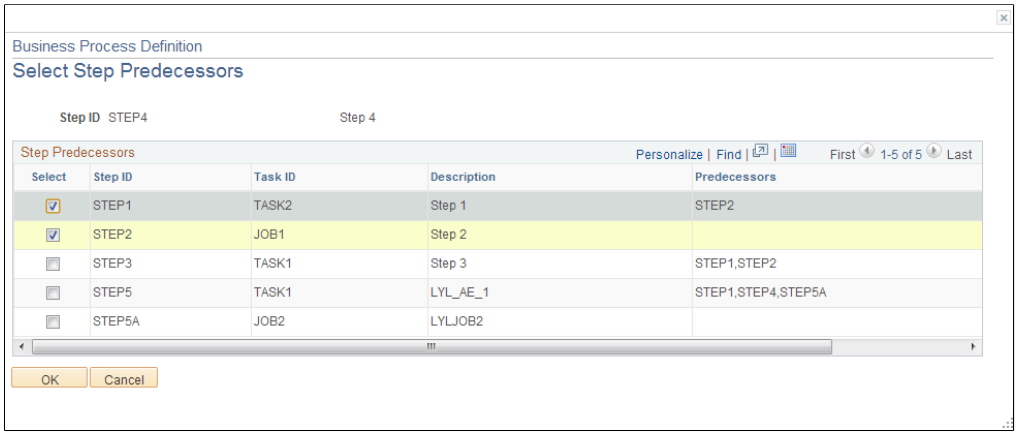
ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ビジネス プロセス ウィーバー], [ビジネス プロセス定義]

[先行の選択] アイコンをクリックします。

画像: ステップ先行の選択ページ

次の例では、ステップ先行の選択ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



各ステップの先行を選択します。

選択 ステップを先行として選択するには、このチェック ボックスをオンにします。以前に選択済の場合、このチェック ボックスは自動的にオンになります。

OK 選択または選択の変更を確認する場合に選択します。

キャンセル 選択の変更をキャンセルする場合に選択します。

ビジネス プロセス ウィーバー セキュリティ オプションの定義

このトピックでは、ビジネス プロセス ウィーバー セキュリティのオプションについて説明します。セキュリティは、ビジネス プロセス定義レベルで設定してラン コントロール レベルで管理でき、または権限のあるユーザーや権限のあるロール内のユーザーによってラン コントロール レベルで上書きすることができます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ビジネス プロセス ウィーバー セキュリティ オプションの定義で使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
ビジネス プロセス セキュリティ ページ	BPW_PRCDEFN_SEC	プロセス定義レベルでセキュリティ アクセスを定義および変更します。ビジネス プロセス定義の最初のステップにアクセスできるユーザーのみが、ビジネス プロセス ラン コントロールを作成する権限を持ちます。 詳細については、「ビジネス プロセス定義ページ」を参照してください。
プロセス ラン コントロール セキュリティ ページ	BPW_PRCRUN_SEC	ビジネス プロセス ラン コントロール レベルでセキュリティ アクセスを定義および変更します。ラン コントロール セキュリティ データの最初のステップにアクセスできるユーザーのみが、プロセス ラン コントロールを実行できます。 詳細については、「ビジネス プロセス ラン コントロール ページ」を参照してください。

ビジネス プロセス ウィーバー セキュリティについて

ビジネス プロセス ウィーバーは、プロセス スケジューラを使用してバッチ プログラムをスケジュールして実行します。ビジネス プロセス ウィーバーは、プロセス スケジューラと同じセキュリティ モデルに従います。

- プロセス グループ。

  ビジネス プロセスが実行される前に、バッチ プログラム プロセス グループへのユーザーのアクセス権限が確認されます。

- 権限リスト。

  ユーザーに対して権限リストで定義されたプロセス プロファイル権限によって、ビジネス プロセスを表示または更新するためのアクセス権限がユーザーにあるかどうかが制御されます。"Processscheduleradmin" に属するユーザーのみが、ビジネス プロセスを管理できます。

ビジネス プロセス内のステップのラン コントロールを作成および処理できるユーザーの制御を可能にする、ビジネス プロセス定義レベルでのオプションのセキュリティ設定もあります。

ビジネス プロセス定義を公開として指定でき、これは、コンポーネントにアクセスできる全てのユーザーがビジネス プロセスのラン コントロールを作成できることを意味します。

ラン コントロールを作成できるユーザーを制限する必要がある場合は、ビジネス プロセス定義に対してセキュリティを設定できます。ビジネス プロセス ラン コントロールの作成時に、セキュリティを継承および設定できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: ユーザーがビジネス プロセス ウィーバー定義の最初のステップにアクセスできない場合、ビジネス プロセス ウィーバー ラン コントロール ページの [プロセス開始] ボタンは無効です。ビジネス プロセスを開始するには、ユーザーは定義の最初のステップとラン コントロール セキュリティ データの最初のステップの両方にアクセスできる必要があります。

次に、セキュリティの設定が必要となる場合がある例を示します。

- ビジネス プロセス定義を作成したユーザーが、ビジネス プロセス ラン コントロールを作成する権限を他のユーザーに与える場合。
- 1 人のユーザーがビジネス プロセス ラン コントロールを作成し、別のユーザーにそれを実行させる場合。
- ビジネス プロセスが複数の業務領域にわたっており、異なるユーザーがステップを実行する場合。この場合、ラン コントロールの作成または担当するステップのプロセスの実行のアクセス権限をユーザーまたはロールに与えることができます。

ビジネス プロセス セキュリティ ページ

ビジネス プロセス セキュリティ ページ (BPW_PRCDEFN_SEC) を使用して、プロセス定義レベルでセキュリティ アクセスを定義および変更します。ビジネス プロセス定義の最初のステップにアクセスできるユーザーのみが、ビジネス プロセス ラン コントロールを作成する権限を持ちます。

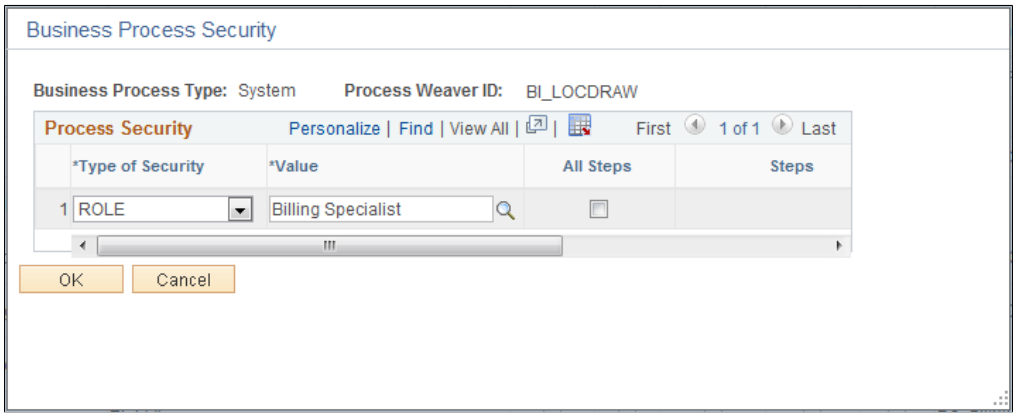
ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ビジネス プロセス ウィーバー], [ビジネス プロセス定義]

ビジネス プロセス定義ページで、[セキュリティ] リンクをクリックします。

画像: ビジネス プロセス セキュリティ ページ

次の例では、ビジネス プロセス セキュリティ ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



セキュリティ タイプ 次のオプションから選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *ロール*: ロール別にアクセス権限を設定します。
- *ユーザー*: ユーザー別にアクセス権限を設定します。

値 選択したセキュリティ タイプに応じて、ロールまたはユーザー ID を入力します。

全てのステップ ユーザーまたはロールがプロセス定義内の全てのビジネス プロセス ステップにアクセスできることを指定するには、このチェック ボックスをオンにします。

[ステップ] および [選択] プロセス定義内の使用可能なステップから選択するには、[選択] 検索アイコンをクリックします。ステップの説明が [ステップ] フィールドに表示されます。

プロセス ラン コントロール セキュリティ ページ

プロセス ラン コントロール セキュリティ ページ (BPW_PRCRUN_SEC) を使用して、ビジネス プロセス ラン コントロール レベルでセキュリティ アクセスを定義および変更します。ビジネス プロセス ラン コントロールの作成者のみが、ビジネス プロセス ラン コントロール レベルでセキュリティ アクセスを定義または変更できます。

このページには、ビジネス プロセス定義レベルのビジネス プロセス セキュリティ ページと同じフィールドが表示されます。

ビジネス プロセスの実行および管理

BPW_PROC_RUN コンポーネントを使用して、ビジネス プロセス ラン コントロールを定義します。

BPW_PROC_INST コンポーネントを使用して、ビジネス プロセスの実行を確認および制御します。

BPW_PRCRUN_REQ コンポーネントを使用して、ビジネス プロセスの実行をスケジュールします。

BPW_PURGE_REQ コンポーネントを使用して、ビジネス プロセス インスタンス データをパージします。

ビジネス プロセスの実行および管理で使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
ビジネス プロセス ラン コントロール ページ	BPW_PROC_RUN	タスクを実行するためのデータ パラメータを指定する、ビジネス プロセスのラン コントロールを設定します。
ビジネス プロセス インスタンス ページ	BPW_PROC_INST	ビジネス プロセスの実行を確認および制御します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
ビジネス プロセス実行ページ	BPW_PRCRUN_REQ	ビジネス プロセスの実行をスケジュールします。
ビジネス プロセス パージ ページ	BPW_PURGE_REQ	ビジネス プロセス インスタンス データをパージするためのオプションを設定します。

ビジネス プロセス ラン コントロール ページ

ビジネス プロセス ラン コントロール ページ (BPW_PROC_RUN) を使用して、ビジネス プロセスのラン コントロールを設定します。タスクを実行するためのデータ パラメータが指定されます。

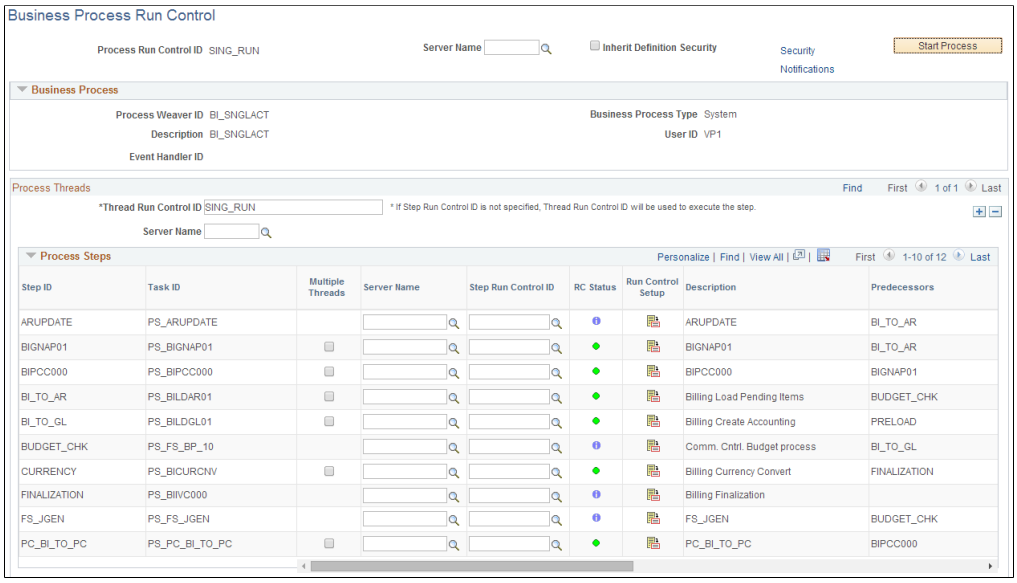
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[バックグラウンド処理], [ビジネス プロセス ウィーバー], [ビジネス プロセス ラン コントロール]

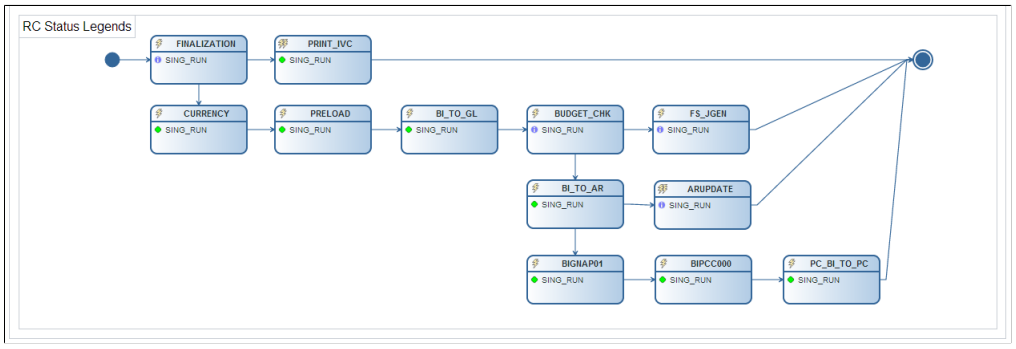
画像: ビジネス プロセス ラン コントロール ページ (1/2)

次の例では、ビジネス プロセス ラン コントロール ページ (1/2) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



画像: ビジネス プロセス ラン コントロール ページ (2/2)

次の例では、ビジネス プロセス ラン コントロール ページ (2/2) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



注: ユーザーがビジネス プロセス ウィーバー定義の最初のステップにアクセスできない場合、ビジネス プロセス ウィーバー ラン コントロール ページの [プロセス開始] ボタンは無効です。ユーザーは定義の最初のステップとラン コントロール セキュリティ データの最初のステップの両方にアクセスできる必要があります。

定義のセキュリティを継承

ビジネス プロセス セキュリティ ページで定義されたセキュリティをコピーおよび使用する場合に選択します。セキュリティを継承するには、プロセス定義で少なくとも 1 つのセキュリティ行

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

が定義されている必要があります。セキュリティが定義されていない場合、[定義のセキュリティを継承] チェック ボックスは非表示になります。

詳細については、「ビジネス プロセス ウィーバー セキュリティ オプションの定義」を参照してください。

セキュリティ

ロールまたはユーザー別にセキュリティを定義し、プロセス定義で設定されたセキュリティを上書きするには、[セキュリティ] リンクをクリックします。

詳細については、「ビジネス プロセス ウィーバー セキュリティ オプションの定義」を参照してください。

通知を継承

ビジネス プロセス定義通知ページで定義された通知をコピーおよび使用する場合に選択します。通知を継承するには、プロセス定義で少なくとも 1 つの通知がアクティブである必要があります。アクティブまたは定義済の通知がない場合、[通知を継承] チェック ボックスは非表示になります。[通知を継承] チェック ボックスをオンにすると、[通知] リンクは非表示になります。

詳細については、「ビジネス プロセス通知の設定と使用」を参照してください。

通知

プロセス定義で設定された通知を選択して上書きするには、[通知] リンクをクリックします。

詳細については、「ビジネス プロセス通知の設定と使用」を参照してください。

ラン コントロール ページの通知設定は、ビジネス プロセス定義の設定と同じであることに注意してください。

フィールドの多くは、ビジネス プロセス定義ページからコピーされます。「ビジネス プロセスの定義」を参照してください。

リアル タイム ボトム ライン (RTBL) ではビジネス プロセス ラン コントロールは使用されず、RTBL ビジネス プロセスに対してビジネス プロセス ラン コントロールを作成できないことに注意してください。RTBL ビジネス プロセスはシナリオ ダッシュボードから定義および実行されます。Understanding the Real Time Bottom Line Scenario ProcessPeopleSoft In-Memory Real-Time Bottom Line Fundamentalsを参照してください。

ラン コントロール ID

ラン コントロールによって、プロセス/プログラムの入力となるデータ (パラメータ) が指定されます。各ラン コントロールは、ラン コントロール ID によって指定されます。4 つのレベルのラン コントロール ID を使用できます。下位レベルの ID は、値が指定されない場合は、一般的に上位レベルからデフォルトで指定されます。たとえば、ステップ ラン コントロール ID が指定されない場合、ステップにはスレッド ラン コントロー

 Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ル ID が使用されます。ステップ スレッド ラン コントロール ID が最下位レベルであり、これはタスク (バッチ処理やジョブなど) の実行時にタスクに渡されるラン コントロール ID です。

上位 (親) から下位 (子) へ、次のようになります。

- プロセス ラン コントロール ID - この ID は、ビジネス プロセス ラン コントロールを指定します。ユーザーごと、およびビジネス プロセスごとに一意です。
- スレッド ラン コントロール ID - この ID は、ビジネス プロセス内のプロセス スレッドを指定します。各プロセス スレッドは、異なるスレッド ラン コントロール ID を持ちます。
- ステップ ラン コントロール ID - このラン コントロール ID は、ステップに関連付けられます。ステップ スレッドが明示的に作成されなかった場合、ステップ スレッドを作成するために使用されます。ステップ スレッド ラン コントロールを動的に作成するためにステップにイベント ハンドラが関連付けられる場合、この値を使用して "マスター" ラン コントロールをイベント ハンドラに渡し、データを分割してステップ スレッド ラン コントロールを作成できます。ステップのタスクに対してプロンプト レコードがタスク レジストリに設定される場合、ユーザーはプロンプト テーブルから既存のラン コントロール ID を選択できます。ただし、プロンプト テーブルが設定されているかどうかに関係なく、ユーザーは任意の値をステップ ラン コントロール ID として入力できます。
- ステップ スレッド ラン コントロール ID - このラン コントロール ID は、ステップ スレッドに関連付けられ、実行のためにタスクに渡されるラン コントロールです。ステップごとに、少なくとも 1 つのステップ スレッドが作成されます。親ステップのタスクに対してプロンプト レコードがタスク レジストリに設定される場合、ユーザーはプロンプト テーブルから既存のラン コントロール ID を選択できます。ただし、プロンプト テーブルが設定されているかどうかに関係なく、ユーザーは任意の値をステップ スレッド ラン コントロール ID として入力できます。

ヘッダー

- サーバー名 - オプションで、プロセス スケジューラ サーバーを指定してプロセスを実行できます。
- プロセス開始 - ラン コントロールの設定後、[プロセス開始] ボタンをクリックしてビジネス プロセスの実行を開始します。ビジネス プロセス インスタンス ページに自動的に移動し、作成されたビジネス プロセス インスタンスが開かれます。
- 定義からのリフレッシュ - ビジネス プロセス ラン コントロールが作成されると、選択したビジネス プロセス定義がコピーされます。このアクションによって、ラン コントロールの整合性が確保されます。ラン コントロールの作成後に定義が変更された場合、このメッセージと [リフレッシュ] ボタンによって、ユーザーは手動で定義と同期できるようになります。ビジネス プロセス ラン コントロールは、同じプロセス スレッド/ステップ/ステップ スレッド ラン コントロールで再作成されます (ステップが削除されていない場合)。

プロセス スレッド/ステップ

[プロセス スレッド] セクションでは、複数のプロセス スレッドを作成できます。[プロセス ステップ] セクションでは、各ステップにラン コントロールを関連付けることができます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 複数スレッド - ビジネス プロセス ラン コントロール ページで、ユーザーは複数のステップ スレッドを作成し、手動でデータを分割して複数の並列実行を作成できます。ユーザーがこのチェック ボックスをオンにすると、[ステップ スレッド] ボタンが使用可能になって複数のステップ スレッド ラン コントロールを入力でき、[ステップ ラン コントロール ID] は非表示になります。[ステップ ラン コントロール ID] に既に値が入力されている場合は、それが最初のステップ スレッド ラン コントロール ID として使用されます。複数のステップ スレッド ラン コントロール ID が既に入力されている場合、このチェック ボックスは無効です。

- ステップ スレッド - [複数スレッド] をオンにすると、ユーザーはこのボタンを使用して 2 次ページを開き、ステップ スレッド ラン コントロールを入力できます。

- RC ステータス - この値は、ラン コントロールのステータスを示します。ビジネス プロセス ウィーバー (BPW) は、入力された値、タスク設定、およびイベント ハンドラによってダイナミック ラン コントロールが作成されるかどうかに応じて、RC ステータスをチェックして表示します。次に、ステータス アイコンについて説明します。アイコンの上にカーソルを置くと説明が表示され、アイコンをクリックすると詳細を示すポップアップ メニューが開きます。[RC ステータス] フィールドの値は、次のとおりです。

 ラン コントロール設定あり	ラン コントロール プロンプト レコードが関連タスクに設定されており、入力されたラン コントロールがレコードに存在します。
 ラン コントロール設定なし	ラン コントロール プロンプト レコードが関連タスクに設定されており、入力されたラン コントロールがレコードに存在しません。
 ラン コントロール不要	ラン コントロール プロンプト レコードが関連タスクに設定されており、入力されたラン コントロールがレコードに存在しません。ただし、タスクの実行にラン コントロールは必要ないことがタスク レジストリで指定されています。
 ラン コントロール設定不明	ラン コントロール プロンプト レコードが関連タスクに設定されておらず、ラン コントロールが存在するかどうかをチェックできません。
 ダイナミック ラン コントロール	ステップはイベント ハンドラに関連付けられており、ダイナミック ラン コントロールが作成されることがイベント ハンドラで指定されています。

- ラン コントロール設定 - ラン コントロール プロンプト テーブルとラン コントロール設定ページを持つように関連タスクがタスク レジストリで設定されている場合、このボタンが使用可能になり、ユーザーはラン コントロール設定ページをビジネス プロセス ラン コントロール ページから直接開くことができます。ラン コントロール ID が存在する場合、そのラン コントロールが自動的に開かれます。ラン コントロール ID が存在しない場合、新しいラン コントロールがすぐに作成されて開かれます。どちらの場合も、ユーザーはラン コントロール設定ページで保存 ([OK] または [適用] をクリック) して、更新済または新規のラン コントロールを保存する必要があります。ラン コントロール設定ページから戻ると、RC ステータスはリフレッシュされます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

グラフ

プロセス グラフには、プロセスのフローと各ステップのラン コントロールが表示されます。これはプロセス スレッド別に表示されます。

- 各ノードには、ステップ ID とそのラン コントロール ID がステップの RC ステータスと共に表示されます。ステップ ID の上にカーソルを置くと、ステップの説明とステップのタスク ID が表示されます。タスクにアイコンが関連付けられている場合は、ノードの左上に表示されます。
- ラン コントロール設定ページが設定されている (たとえば、[プロセス ステップ] セクションで [ラン コントロール設定] ボタンを使用できる) 場合、ラン コントロール ID をクリックしてラン コントロール設定ページを開くことができます。これが可能かどうかは、ラン コントロール ID の上にカーソルを置いて、ラン コントロール ID が反転表示されるかどうかを確認することでわかります。
- ステップに複数のステップ スレッドがある場合、ラン コントロール ID は "(複数)" として表示され、それをクリックしてステップ スレッド ラン コントロール ID のリストのポップアップ メニューを表示します。また、件数のバブルがノードの右上に表示されます。
- [RC ステータス凡例] をクリックして、RS ステータス凡例の表示を切り替えることができます。
- グラフは、ビジネス プロセス定義からコピーされます。ビジネス プロセス定義ページで設定されているため、ノードを移動して再配置できません。ただし、グラフが画面よりも大きい場合は、ビジネス プロセス定義ページと同様に、画面をドラッグしてスクロールできます。

ビジネス プロセス インスタンス ページ

ビジネス プロセス インスタンス ページ (BPW_PROC_INST) を使用して、ビジネス プロセスの実行を確認および制御します。

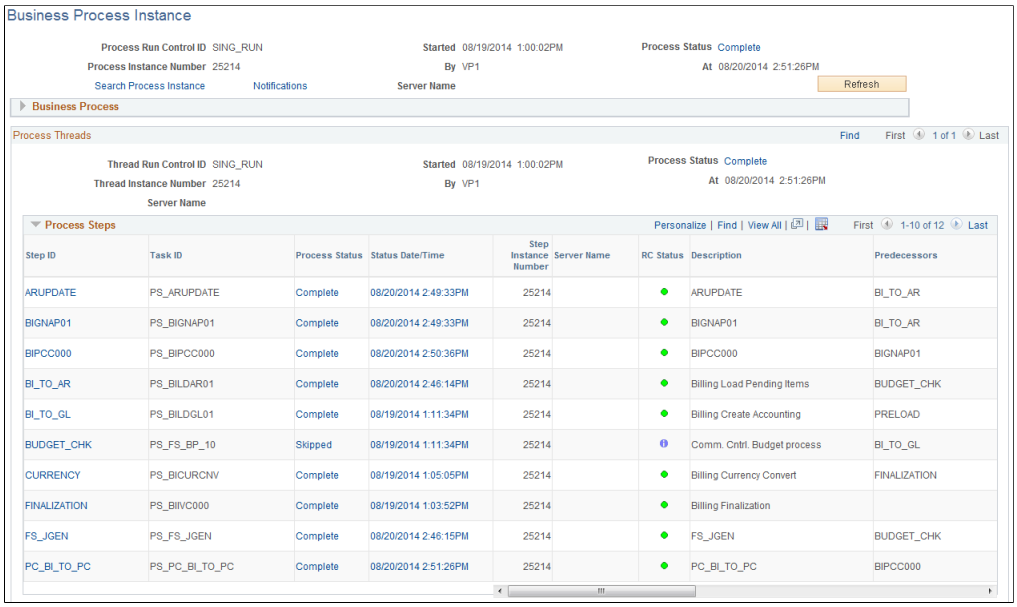
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[バックグラウンド処理], [ビジネス プロセス ウィーバー], [ビジネス プロセス インスタンス]

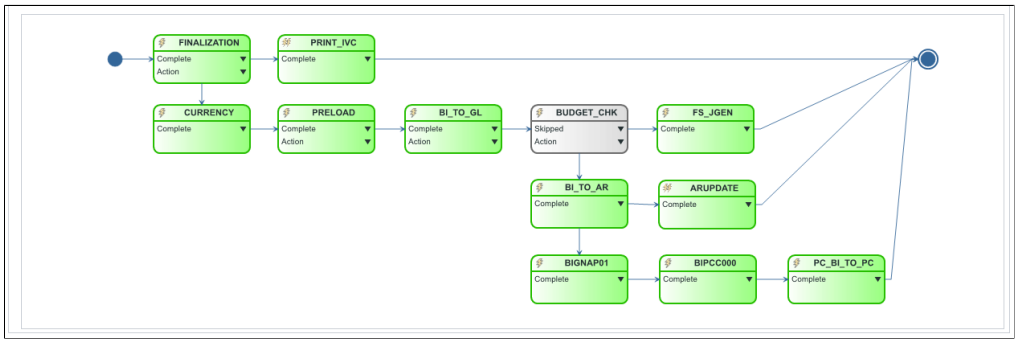
画像: ビジネス プロセス インスタンス ページ (1/2)

次の例では、ビジネス プロセス インスタンス ページ (1/2) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



画像: ビジネス プロセス インスタンス ページ (2/2)

次の例では、ビジネス プロセス インスタンス ページ (2/2) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



プロセス インスタンス検索

ビジネス プロセス インスタンス検索ページにアクセスするには、このリンクをクリックします。

通知

このラン コントロール ID の通知を表示するには、このリンクをクリックします。ビジネス プロセス インスタンス通知 2 次ページに、表示専用の通知詳細が表示されます。

電子メールまたはワークリストで受け取った通知リンクによって、ユーザーはビジネス プロセス インスタンス ページに移動します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

詳細については、「ビジネス プロセス通知の設定と使用」を参照してください。

処理アクション ビジネス プロセス全体にアクションを適用するには、有効なアクションをドロップダウン リストから選択します。

リフレッシュ ページ上のデータをリフレッシュするには、このボタンをクリックします。

[開始]/[担当] ビジネス プロセス インスタンスが開始された日時およびプロセスを開始したユーザー ID を表示します。

[プロセス ステータス]/[日時] ビジネス プロセス インスタンスのプロセス ステータスおよび最後に更新された日時を表示します。[プロセス ステータス] リンクをクリックしてプロセス ログ 2 次ページを開くことができ、このページにはビジネス プロセス全体のログ エントリが表示されます。

プロセス インスタンス番号 ビジネス プロセス インスタンスが開始されたときに割り当てられるインスタンス番号を表示します。

ビジネス プロセス

このセクションには、ビジネス プロセス ラン コントロールの情報が表示されます。

プロセス スレッド

[開始]/[担当] ビジネス プロセス インスタンスが開始された日時およびプロセス スレッドを開始したユーザー ID を表示します。

[プロセス ステータス]/[日時] プロセス スレッドのプロセス ステータスおよび最後に更新された日時を表示します。[プロセス ステータス] リンクをクリックしてプロセス ログ 2 次ページを開くことができ、このページにはプロセス スレッドのログ エントリが表示されます。

スレッド インスタンス番号 プロセス スレッドに割り当てられるインスタンス番号を表示します。

プロセス ステップ

アクション ステップにアクションを適用するには、有効なアクションをドロップダウン メニューから選択します。有効なアクションは、ステータス、ユーザーがラン コントロールを設定したユーザーかどうか、またはユーザーがプロセス スケジューラ管理者かどうかによって決まります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ステップ ID	ステップのステップ スレッドを開くには、このリンクをクリックします。
プロセス ステータス	ステップのプロセス ステータスを示します。プロセス ログ 2 次ページを開くには、このリンクをクリックします。このページには、そのステップのみのログ エントリが表示されます。
ステータス日時	プロセス ステータスが更新された日時。これは、ステップのログ エントリが表示されるメッセージ ログ 2 次ページを開くためにユーザーがクリックできるリンクです。
ステップ インスタンス番号	BPW によってステップに割り当てられるインスタンス番号。

グラフ

プロセス グラフには、プロセスのフローと各ステップのプロセス ステータスが表示されます。プロセス スレッド別に表示されます。

- 各ノードには、ステップ ID とそのプロセス ステータスおよび有効なアクションが表示されます。ステップ ID の上にカーソルを置くと、説明とステップのタスク ID が表示されます。タスクにアイコンが関連付けられている場合は、ノードの左上に表示されます。
- プロセス ステータスをクリックしてポップアップ メニューを開き、プロセス ログ、メッセージ ログおよびステップ スレッド 2 次ページにドリルダウンします。これは、[プロセス ステップ] セクションで [プロセス ステータス]、[ステータス日時] および [ステップ ID] リンクを使用するのと同様です。ポップアップ メニューから、レポートおよびログ/トレース ページを開き、プロセスから生成されたレポート、ログ/トレース、または両方を確認することもできます。バッチの場合、この機能によって、レポート マネージャまたはプロセス モニターに移動しなくても、レポートおよびログ/トレースを確認できます。
- 確認が必要なエラー、警告または情報メッセージがプロセス ログ、メッセージ ログまたは両方にあるかどうかを示すために、プロセス ステータスの前にアラート アイコンが表示される場合があります。
- 有効なアクションが存在する場合は、[アクション] をクリックしてステップの有効なアクションのリストを示すポップアップ メニューを開き、ステップに適用するアクションを選択できます。これは、[プロセス ステップ] セクションで [ステップ アクション] ドロップダウン メニューを使用するのと同様です。関連アクションがタスクに関連付けられている場合は、関連アクションもポップアップ メニューに表示されます。関連アクションは、ステップに関連付けられたイベント ハンドラによって作成および実行されます。
- グラフは、ビジネス プロセス定義からコピーされます。ビジネス プロセス定義ページで設定されているため、ユーザーはノードを移動して再配置できません。ただし、グラフが画面よりも大きい場合は、ビジネス プロセス定義ページと同様に、ユーザーは画面をドラッグしてスクロールできます。

ビジネス プロセス実行ページ

ビジネス プロセス実行ページ (BPW_PRCRUN_REQ) を使用して、ビジネス プロセスの実行をスケジュールします。

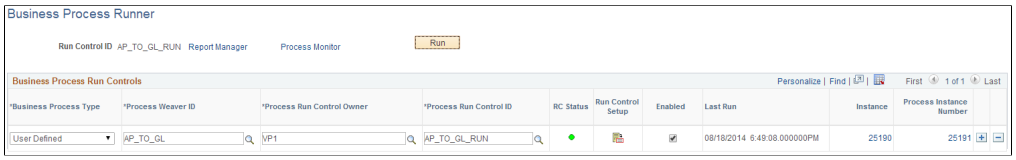
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[バックグラウンド処理], [ビジネス プロセス ウィーバー], [ビジネス プロセス実行]

画像: ビジネス プロセス実行

次の例では、ビジネス プロセス実行ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



ビジネス プロセスは、ビジネス プロセス ラン コントロール ページから ([プロセス開始] ボタンをクリックして) 開始できます。ただし、ビジネス プロセスをスケジュールするか、複数のビジネス プロセスを同時に実行する場合は、トランザクション/ページを使用してビジネス プロセスを実行できます。

[ラン コントロール]、[レポート マネージャ]、[プロセス モニター] および[実行]

これらは、他のプロセス スケジューラ ラン コントロール ページに存在する共通フィールドです。[実行] ボタンをクリックすると、アプリケーション エンジン プロセス BPW_PRCRUN をスケジュールして実行でき、これにより指定したビジネス プロセスが開始されます。

[ビジネス プロセス タイプ]、[ビジネス プロセス ID] およびビジネス プロセス ラン コントロール ID

実行されるビジネス プロセス ラン コントロールを指定します。これらは、ビジネス プロセス ラン コントロール ページで設定され、全て必須フィールドです。

RC ステータス

選択したビジネス プロセス ラン コントロール ID が存在するかどうかを示します。

ラン コントロール設定

ビジネス プロセス ラン コントロール ページをモーダル コンポーネントとして開きます。これは、[ビジネス プロセス タイプ]、[ビジネス プロセス ID] およびビジネス プロセス ラン コントロール ID フィールドが入力されている場合に使用できます。選択したビジネス プロセス ラン コントロールが既に存在する場合は、それが開かれます。存在しない場合は、選択したラン コントロール ID で新たに作成されます。

注: 新しいラン コントロールは自動的には保存されず、変更して保存する必要があります。

有効

特定のビジネス プロセス ラン コントロールを有効にする場合に選択します。

[最終実行]、[インスタンス]

ビジネス プロセスが以前に実行されている場合、これらのフィールドは日時およびプロセス インスタンスを示します。[イン

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

スタンス] リンクをクリックすると、(モーダル コンポーネントとしての) プロセス モニターに移動します。

ビジネス プロセス インスタンス番号 前の実行のビジネス プロセス インスタンスのインスタンス番号。これは、(モーダル コンポーネントとしての) ビジネス プロセス インスタンスに移動するリンクです。

ビジネス プロセス パージ ページ

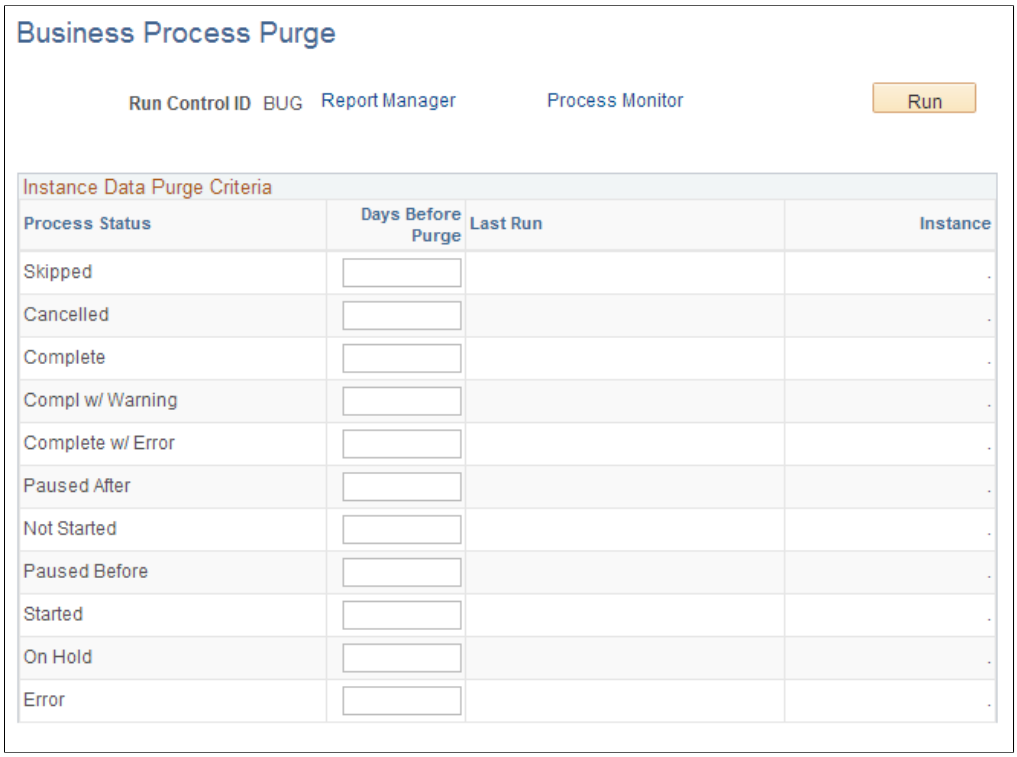
ビジネス プロセス パージ ページ (BPW_PURGE_REQ) を使用して、ビジネス プロセス インスタンス データをパージするためのオプションを設定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ビジネス プロセス ウィーバー], [ビジネス プロセス パージ]

画像: ビジネス プロセス パージ

次の例では、ビジネス プロセス パージ ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



- [ラン コントロール ID]、[レポート マネージャ]、[プロセス モニター] および [実行] は、他のプロセス スケジューラ ラン コントロール ページに存在する共通フィールドです。[実行] ボタンをクリックすると、指定したビジネス プロセス インスタンス データで、アプリケーション エンジン プロセス BPW_PURGE をスケジュールして実行できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- プロセス ステータス - パージされるビジネス プロセス インスタンスのプロセス ステータス。
- 削除までの日数 - データが削除される前に、ビジネス プロセス インスタンスに対する最後のステータス更新から経過する必要がある日数を入力します。
- 有効 - このオプションを有効にするには、このチェック ボックスをオンにします。[削除までの日数] が指定された場合にのみ使用できます。
- [最終実行]、[インスタンス] - データ パージが以前に実行されている場合、これらのフィールドは日時およびプロセス インスタンスを示します。[インスタンス] は、(モーダル コンポーネントとしての) プロセス モニターに移動するリンクです。

ビジネス プロセス通知の設定と使用

ビジネス プロセス ウィーバーの通知フレームワークには、プロセス定義で設定されたビジネス プロセス ウィーバー プロセスおよびステップ中に、電子メール、プッシュおよびワークリスト通知を生成するためのオプションがあります。

ビジネス プロセス通知の設定と使用に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
ビジネス プロセス定義通知ページ	BPW_NOTIFYDEF_SEC	通知のプロセス ステータス、チャネルおよび受信者を選択します。チャネルには、電子メール、プッシュおよびワークリストがあります。
ビジネス プロセス インスタンス詳細通知ページ	BPW_NOTIFYINST_SEC	プロセスの実行時に行われた通知の、表示専用の通知詳細を提供します。ビジネス プロセス インスタンス ページからアクセスします。 詳細については、「ビジネス プロセス インスタンス ページ」を参照してください。

ビジネス プロセス通知について

通知フレームワークには、ビジネス プロセス ウィーバー プロセスおよびステップの通知オプションを指定する簡単な方法があります。通知オプションは、ビジネス プロセス ウィーバー (BPW) プロセス定義ページで使用でき、BPW ラン コントロール ページで継承できます。ラン コントロール オーナーは、プロセス定義からコピーされたオプションを上書きできます。

通知は、特定のプロセス ステータスについて、ユーザーまたはロール (任意の数および組合せ) 別に通知するために設定できます。通知は、ステップまたはプロセス レベルで設定できます。

プロセスが実行されると、通知データはプロセス インスタンスに引き継がれます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

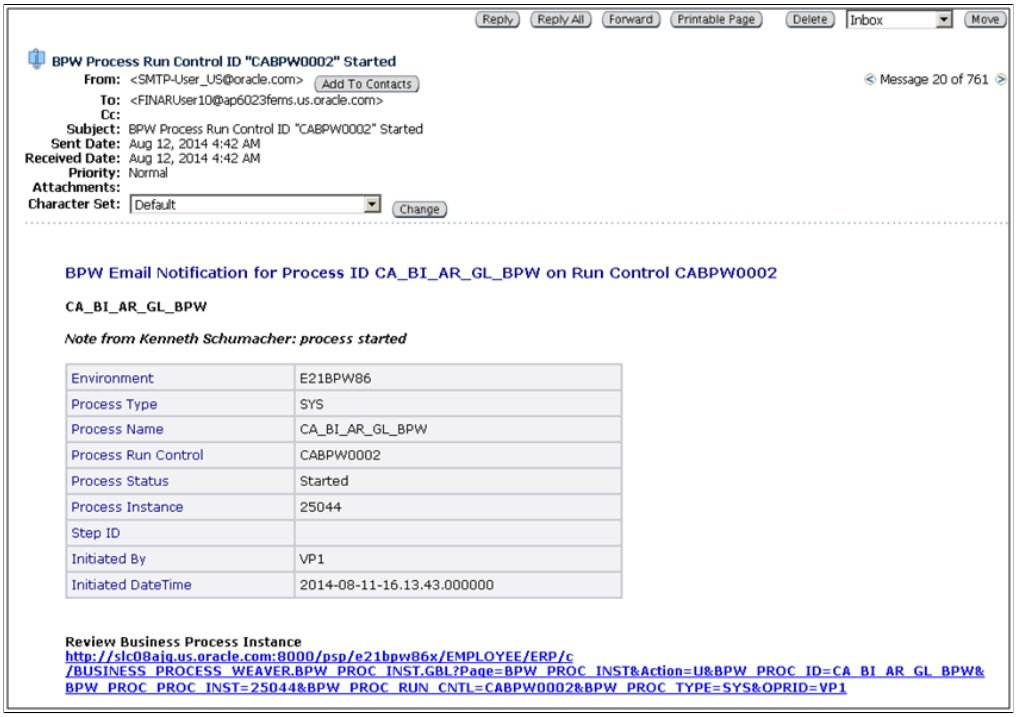
次に、各タイプの通知の例を示します。

- 電子メール

  電子メール通知では、全てのプロセス ステータス通知および受信者用の汎用テンプレートが使用されます。電子メール メッセージは、HTML 形式で送信されます。通知の設定時に電子メール コメント テキストが入力された場合は、それが電子メールに含まれます。電子メールのフッターには、ビジネス プロセス インスタンス ページへの URL リンクが表示されます。

  画像: ビジネス プロセス ウィーバーの電子メール通知

  次の例では、ビジネス プロセス ウィーバーの電子メール通知のフィールドおよびコントロールを説明します。



- プッシュ

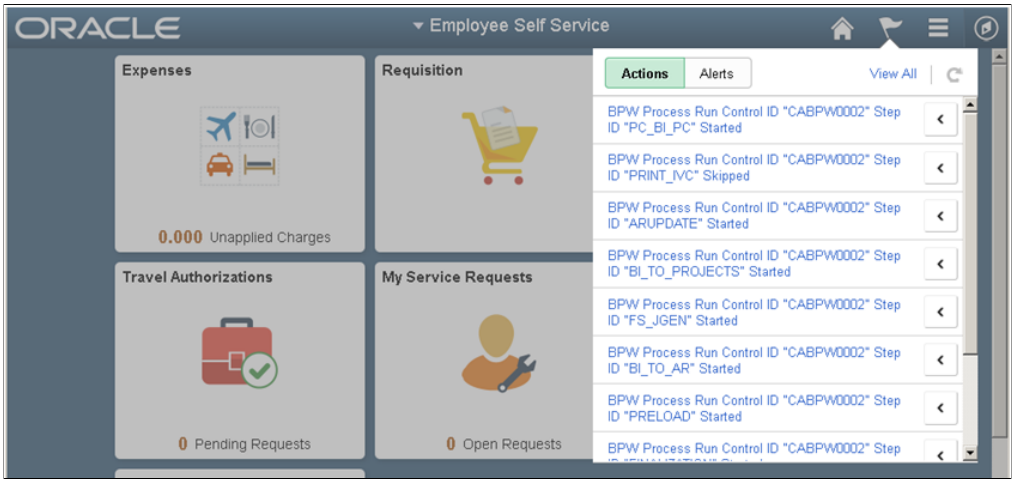
  プッシュ通知は、PeopleTools 8.54 で用意されている機能であり、Fluid モードで使用できます。NavBar をタップすると、Fluid ホームが表示されます。フラグ アイコンによって、新しいプッシュ通

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

知のカウンターが表示されます。プッシュ通知リストを表示するとカウンターは消えることに注意してください。

画像: ビジネス プロセス ウィーバーのプッシュ通知

次の例では、ビジネス プロセス ウィーバーのプッシュ通知のフィールドおよびコントロールを説明します。

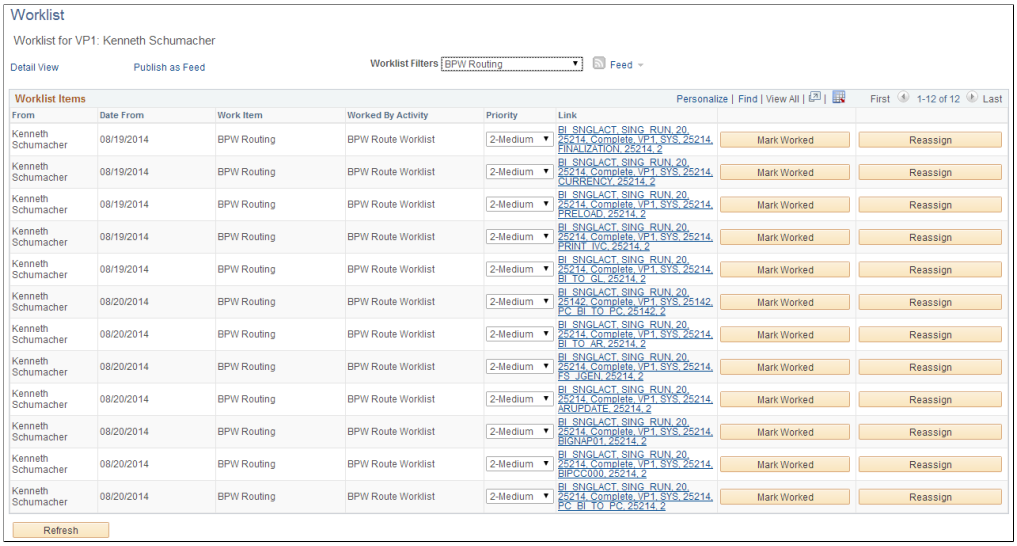


- ワークリスト

ワークリスト通知は、ワークリストでワークリスト アイテム BPW ルーティングとして表示できます。この例では、通知は全て完了済ステップについてでした。リンクによって、ユーザーはビジネス プロセス インスタンス ページに移動します。

画像: ビジネス プロセス ウィーバーのワークリスト通知

次の例では、ビジネス プロセス ウィーバーのワークリスト通知のフィールドおよびコントロールを説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ビジネス プロセス定義通知ページ

ビジネス プロセス定義通知ページ (BPW_NOTIFYDEF_SEC) を使用して、通知のプロセス ステータス、チャネルおよび受信者を選択します。チャネルには、電子メール、プッシュおよびワークリストがあります。

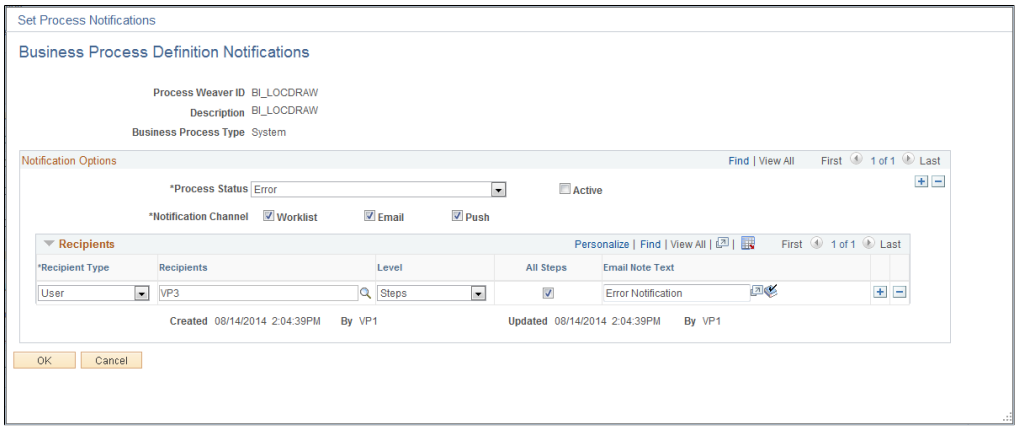
注: プッシュ通知を使用するには、システムが PeopleTools 8.54 で実行されている必要があります。

ナビゲーション

ビジネス プロセス定義ページで、[通知] リンクをクリックします。

画像: ビジネス プロセス定義通知ページ

次の例では、ビジネス プロセス定義通知ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



プロセス ステータス

全ての既存のプロセス ステータスのリストから選択します (*[未開始]* 値を除く)。

通知チャネル

次のオプションから少なくとも 1 つのチャネルを選択します。

- *ワークリスト* - 受信者のワークリスト エントリを作成します。プロセス ステータスに対してチャネルが選択されていない場合は、これがデフォルト オプションです。
- *電子メール* - 受信者に電子メールを送信します。また、このオプションでは受信者行別にカスタム テキスト フィールドを使用できます。[電子メール コメント テキスト] フィールドに入力した情報が、電子メールに表示されます。
- *プッシュ* - 受信者の PeopleSoft Fluid ユーザー インターフェイス ホーム ページ上にプッシュ通知アイテムを生成します。プッシュ機能は、PeopleTools 8.54 でのみ使用できます。

通知のリンクによって、ユーザーはビジネス プロセス インスタンス ページに移動します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

アクティブ このプロセス ステータス通知が使用可能であることを指定する場合に選択します。選択した場合、このプロセス ステータスに関連付けられた通知オプションをビジネス プロセス ラン コントロール ページで継承できます。通知を継承するには、プロセス定義で少なくとも 1 つの通知がアクティブである必要があります。

受信者

受信者が電子メール通知およびワークリスト通知を受信するには、ユーザー プロファイル ([PeopleTools], [セキュリティ], [ユーザー プロファイル], [ユーザー プロファイル - ワークフロー] へ移動) で、受信者のルーティング設定に [ワークリスト ユーザー] および [電子メール ユーザー] が含まれている必要があります。

[受信者タイプ] および [受信者] *[ユーザー]* または *[ロール]* から選択します。*[ユーザー]* がデフォルト値です。受信者タイプに応じて、受信者を入力します。使用できる受信者は、選択した受信者タイプによって異なります。

レベル 次のオプションから選択します。

- *プロセス*: 通知条件がプロセス レベルに適用されることを指定します。プロセス ステータスが発生したプロセス内の任意の箇所で受信者に通知する場合に選択します。
- *ステップ*: プロセス内の特定のステップで受信者に通知する場合に選択します。このオプションを選択した場合、通知に対して特定のステップまたは全てのステップを選択することもできます。全てのステップを選択した場合は、ステップごとに、プロセス ステータスが発生すると通知が送信されます。

たとえば、完了というプロセス ステータスについて通知を設定できます。これをプロセス レベルで設定した場合、通知はプロセスの完了時に送信されます。ステップ レベルで全てのステップに対して設定した場合、通知は各ステップの完了時に送信されます。

全てのステップ 選択した [レベル] が *[ステップ]* の場合にのみ使用できます。

プロセスの各ステップで、選択したプロセス ステータスの通知を受信者に送信する場合に、[全てのステップ] オプションを選択します。

[選択] および [ステップ] ステップ レベルについて、[全てのステップ] チェック ボックスがオフの場合に使用できます。

[選択] アイコンをクリックして、プロセス定義のステップのリストから選択できる 2 次ページを開きます。[ステップ] フィールドには、通知に対して選択したステップが表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

電子メール コメント テキスト 選択した [通知チャネル] が *[電子メール]* の場合にのみ使用できます。電子メール通知に表示されるカスタム テキストを入力します。

エントリ ポイントの通知の使用

ビジネス プロセスのエントリ ポイントに関連付けられた通知を設定できます。

エントリ ポイントの詳細については、「ビジネス プロセス ウィーバーの設定」を参照してください。

次の手順では、エントリ ポイント通知に必要な設定の概要を説明します。

1. ビジネス プロセス エントリ ポイント レジストリ ページでビジネス プロセス内のエントリ ポイントをアクティブ化します。そのためには、各エントリ ポイントの [アクティブ] チェック ボックスをオンにして、変更を保存します。

2. アラートをアクティブ化する対象のビジネス プロセスの通知定義を設定します。プロセス内の 1 つ以上のステップに対して通知を設定できます。

   ビジネス プロセスのプロセス ウィーバー ID のビジネス プロセス定義通知ページにアクセスし、通知パラメータを入力します。[アクティブ] チェック ボックスをオンにして、変更を保存します。

3. ビジネス プロセス ラン コントロール ページで、ビジネス プロセスのラン コントロールを作成します。

   ビジネス プロセス定義通知ページで設定した通知データ (ステップ 2 を参照) を使用するには、[通知を継承] チェック ボックスをオンにして、変更を保存します。

4. ビジネス プロセスのエントリ ポイントであるトランザクション ラン コントロール ページに移動します。

   ステップ 3 で作成したラン コントロールを選択し、[起動] ボタンをクリックしてビジネス プロセス シーケンスの最初のステップを開始します。

   または、新しいラン コントロールを作成して [起動] ボタンをクリックすることを選択できます。このオプションでは、ビジネス プロセスの定義済でアクティブな全ての通知が自動的に継承されます。

5. ビジネス プロセス インスタンス ページでステップを監視できます。ビジネス プロセス定義通知ページからコピーされた通知データを確認するには、[通知] リンクをクリックします。

6. 電子メールやワークリストなどで、処理中に生成されたアラートおよび通知を確認します。

   プッシュ通知はページ バナーに表示されます。通知フラグ アイコンによって、生成されたアラート数が示されます。ビジネス プロセス インスタンス ページのプッシュ通知にアクセスするには、アラートのリンクをクリックします。

注: プッシュ通知機能は、PeopleTools 8.54 で用意されています。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第5章

Financials and Supply Chain Management 共通定義の定義

政府機関所在地コードの定義

レポート作成のための政府機関所在地コード (ALC) および政府機関全体の会計処理およびレポート処理 (GWA) のオプションを設定するには、政府機関所在地 コンポーネント (AGENCY_LOC_CD) を使用します。

政府機関所在地コードの定義に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
政府機関所在地コード ページ	AGENCY_LOC_CD	連邦政府支払スケジュールおよびレポート目的のセットID によって政府機関所在地コードを定義し、ALC 名、所在地、住所および電話番号情報を指定します。
政府機関所在地コード - GWA レポート オプション ページ	AGENCY_LOC_CD2	ビジネス アクティビティおよび 1 つ以上の有効日付きレポーター カテゴリを政府機関所在地コードに割り当てます。政府機関システムで BETC コードを米国財務省に渡す準備ができると、政府機関は、必要に応じてデータがレポートされるように適切なレポーター カテゴリを選択します。
IPAC フィールド ページ	ALC_IPAC_FLDS	必要に応じて、またはオプションで追加の IPAC フィールドを定義します。

政府機関所在地コードについて

政府機関所在地コード (ALC) は、政府機関を連邦政府支払スケジュールおよびレポート目的のセットID によって定義するために使用される識別子です。

PeopleSoft では、IPAC 入金 (PeopleSoft 買掛金管理) と回収 (PeopleSoft 売掛金管理)、および IPAC 調整と金額が 0 の取引タイプがサポートされます。財務省および IPAC システムでは、バルク ファイル フォーマットを使用して、IPAC 取引を送受信します。このフォーマットは、入金、回収、調整および金額が 0 の (情報のみ) IPAC 取引タイプの正確なレポートおよび勘定に必要な情報が含まれているフラット ファイルです。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Processing Inbound IPAC TransactionsPeopleSoft Payables を参照してください。

Processing Outbound IPAC TransactionsPeopleSoft Payables を参照してください。

(USF) Submitting Transactions Between Agencies Using the IPAC SystemPeopleSoft Receivables を参照してください。

一般会計の場合、政府機関は、仕訳ヘッダー ページの [ALC] フィールドを使用して、現金取引を仕訳入力別に直接一般会計に記録できます。システムでは、仕訳ヘッダーの [ALC] フィールドを使用して、レポート目的で一般会計に直接入力された現金入力を選択できます。一般会計に直接行われる仕訳入力は、通常、未入金現金または回収の記録のために行われます。ただし、これらを使用して、入金または回収の現金再分類を記録することもできます。

未入金回収は、米国財務省に入金される必要がある、政府機関が受領した金額です。一部の政府機関は小額を受領して、毎週入金します。政府機関は、正式に米国財務省に入金されるまで、これらの金額を未入金回収科目に記入します。

米国政府機関レポートで使用される一般的な用語

次の用語は、政府機関の米国政府レポートについて言及するときに一般的に使用されます。

用語	*説明*
TAS (財務会計記号)	連邦機関は、米国政府に現金取引をレポートする際に財務会計記号 (TAS) を使用する必要があります。また、GWA 取引の入力およびレポート時に財務省によってパブリッシュされる TAS とビジネス イベント タイプ コード (BETC) の有効な組合せを使用する必要があります。 Defining Component TAS and BETC Elements in Compliance with Federal Reporting RequirementsPeopleSoft General Ledger を参照してください。
BETC (ビジネス イベント タイプ コード)	このコードによって、米国政府レポートの取引のビジネス イベント タイプが指定されます。
IPAC 支払	PeopleSoft 買掛金管理で作成され、バルク ファイル フォーマットを使用して IPAC システムに入金に固有の情報を提供します。
IPAC 回収	PeopleSoft 売掛金管理で作成され、バルク ファイル フォーマットを使用して IPAC システムに回収に固有の情報を提供します。

政府機関所在地コード ページ

政府機関所在地コード ページ (AGENCY_LOC_CD) を使用して、連邦政府支払スケジュールおよびレポート目的のセットID によって政府機関所在地コードを定義し、ALC 名、所在地、住所および電話番号情報を指定します。

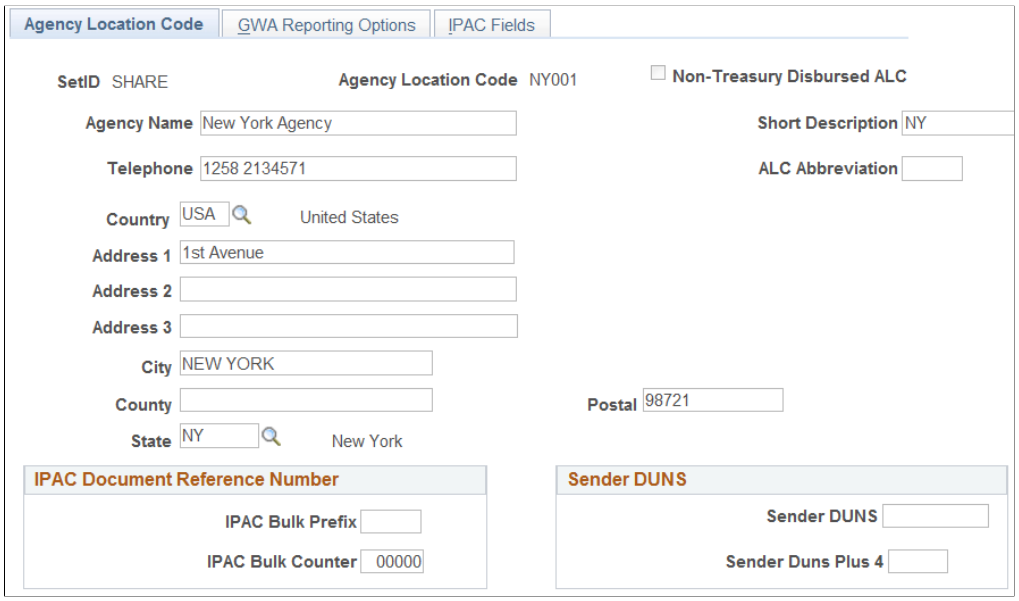
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [政府機関所在地コード], [政府機関所在地]

画像: 政府機関所在地コード ページ

次の例では、政府機関所在地コード ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



政府機関所在地コード 8 桁の数値の ALC を入力します。

非財務支払日 ALC ALC で米国財務省を使用せずに入金を行う場合や米国財務省以外の独自の入金を作成できるよう ALC が承認されている場合にクリックします。

注: ALC に対してこのオプションを誤って設定し、保存した場合は、オンラインで行を削除できないため、不正な ALC およびオプションが残ります。適切なオプションを使用して新しい ALC を定義する必要があります。

IPAC ドキュメント参照番号

IPAC (Intra-governmental Payment and Collection システム) は、連邦政府機関の間で資金を移動し、各取引に関する説明を含める機能を提供するよう設計されています。この説明は、月次照合に有用です。

IPAC バルク プレフィックス PeopleSoft によって、入金と回収の送信に使用される政府機関所在地コードの一意のドキュメント参照番号の作成 (財務省のドキュメント参照番号と区別するため) に使用される 3 桁の英数字のプレフィックスを入力します。

IPAC バルク カウンタ ドキュメント参照番号の連番カウンタの増分を開始する数値を入力します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Processing Outbound IPAC TransactionsPeopleSoft Payables を参照してください。

(USF) Submitting Transactions Between Agencies Using the IPAC SystemPeopleSoft Receivables を参照してください。

送信者ダンズ

[送信者ダンズ] および [送信者ダンズ プラス 4]

送信者の政府機関所在地コード (ALC) の送信者ダンズを入力し、オプションで送信者ダンズ プラス 4 値を入力します。これらのフィールドは、IPAC フィールド ページで定義されているように必須となる場合があります。(受信者 DUNS および DUNS Plus 4 の値は顧客 - その他の一般情報ページに保管されます)。

IPAC フィールド ページで [送信者ダンズ] および [送信者ダンズ プラス 4] が必須として定義されている場合は、これらの値が送信者情報として使用され、売掛金 IPAC 取引ページのデフォルトとなります。

注: [送信者ダンズ]、[送信者ダンズ プラス 4]、[受信者 DUNS] および [受信者 DUNS Plus 4] フィールドは、IPAC フィールド ページで必須としてマークされている場合にのみ、IPAC 取引にデフォルトとして表示されます。これは、オンラインおよび外部インターフェイスで作成されたアイテムに適用されます (そのため、AR 転記プログラムから取得されます)。

政府機関所在地コード - GWA レポート オプション ページ

GWA レポート オプション ページ (AGENCY_LOC_CD2) を使用して、ビジネス アクティビティおよび 1 つ以上の有効日付きレポーター カテゴリを政府機関所在地コードに割り当てます。

政府機関システムで BETC コードを米国財務省に渡す準備ができると、政府機関は、適切なレポーター カテゴリを選択します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [政府機関所在地コード], [政府機関所在地], [GWA レポート オプション]

画像: GWA レポート オプション ページ

次の例では、GWA レポート オプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ビジネス アクティビティ

この政府機関所在地コードのビジネス アクティビティ タイプを選択します。値は次のとおりです。

- AP 支払のみ
- AP 支払と AR
- AR のみ
- IPAC のみ
- IPAC と AP 支払
- IPAC と AR
- IPAC、AR および AP 支払
- ビジネス アクティビティ タイプなし

各 ALC に指定した GWA ビジネス アクティビティによって、Partial SF224 および CTA レポートに関連した次の機能が実現されます。

- 米国財務省へのレポート作成のために ALC に適用可能な現金アクティビティのタイプを指定します。
- ALC に定義されている特定のビジネス アクティビティ コードに基づいて、Partial SF224 および CTA レポート用に抽出されるデータを制限します。
- 特定の ALC に適用されない実際データが例外レポートに表示され、政府機関によって確認および修正されるように、ビジネス例外アクティビティ レポートを作成します。

レポーター カテゴリ

この政府機関所在地コードの GWA レポーター カテゴリ コードを選択します。レポーター カテゴリは、ビジネス アクティビティ タイプ、ビジネス アクティビティ タイプのサブセットまたはレポーターなしに相当します。たとえば、[IPAC と AP 支払] ビジネス アクティビティ タイプを選択した場合、有効な選択肢は、[IPAC のみ]、[AP 支払のみ]、[IPAC と AP 支払] または [レポーターなし] です。

送信者 ALC または受領 ALC に次の 4 つの IPAC レポーター カテゴリ値のいずれか 1 つがある場合は、その ALC 機関が IPAC の GWA レポーターです。

- AP 支払のみ
- AP 支払と AR

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- AR のみ
- IPAC のみ
- IPAC と AP 支払
- IPAC と AR
- IPAC、AR および AP 支払
- レポーターなし

GWA レポーター カテゴリ コードは、ビジネス イベント タイプ コード (BETC) と米国財務省との現金アクティビティのインターフェイスとなるように変更されている IPAC、CA$HLINK、SPS/PAM などのインターフェイスを識別するために指定されます。

各 ALC に定義した GWA レポーター コードによって、Partial SF224 に関連したソフトウェアの機能が実現されます。

- 現金アクティビティを持つ BETC と米国財務省のインターフェイスとなる準備ができている機関システムおよび ALC を識別します。
- ALC に定義されている特定の GWA レポーター カテゴリ コードに基づいて、Partial 224 用に抽出されるデータを制限します。
- 1 つの TSymbol から別の TSymbol への現金再分類を Partial 224 でレポートする必要があるかどうかを決定します。

GWA レポーター カテゴリは CTA レポートに影響を与えません。

ビジネス アクティビティとレポーター カテゴリの組合せ

ビジネス アクティビティ タイプおよびレポーター カテゴリ コードは有効な組合せである必要があります。組合せが無効な場合は、警告メッセージが表示されます。

IPAC フィールド ページ

IPAC フィールド ページ (ALC_IPAC_FLDS) を使用して、ビジネス アクティビティおよび 1 つ以上の有効日付きレポーター カテゴリを政府機関所在地コードに割り当てます。

政府機関システムで BETC コードを米国財務省に渡す準備ができると、政府機関は、データが SF224 レポートから除外されるように適切なレポーター カテゴリを選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [政府機関所在地コード], [政府機関所在地], [IPAC フィールド]

画像: IPAC フィールド ページ

次の例では、IPAC フィールド ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



[必須フィールド] および [フィールド名] 選択したフィールドをこの ALC で必須として定義するには、[必須フィールド] チェック ボックスを選択します。ここで使用可能な IPAC フィールドは、オプションとして提供され、デフォルトで PeopleSoft Financials で必要なフィールドは除外されます。

[開始日] および [終了日] 選択した各必須フィールドについて、開始日と終了日の値も入力する必要があります。有効日を使用して、政府機関はそのビジネス ケースのニーズに応じてフィールドをオプションまたは将来必須として指定できます。[必須フィールド] チェック ボックスを選択解除すると、開始日と終了日がクリアされます。

Financials Audit Framework (オーディット ログ) の設定

Financials Audit Framework を設定するには、次のコンポーネントを使用します。

- オーディット ログ使用 (FS_AUDITLOG_ENABLE)
- オーディット ログの検索 (FS_AUDITLOG_SEARCH)
- オーディット ログの削除 (FS_AUDITLOG_PURGE)

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Financials Audit Framework の管理に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
オーディット ログ使用ページ	FS_AUDITLOG_ENABLE	PeopleSoft アプリケーションでオーディット ログを使用可能にします。
オーディット ログの検索ページ	FS_AUDITLOG_SEARCH	オーディット ログを検索します。
オーディット ログの削除ページ	FS_AUDITLOG_PURGE	このページを使用して、選択したオーディット ログを削除します。

PeopleSoft Financials Audit Framework について

Financials Audit Framework (オーディット ログ) では、取引処理を効率的に追跡できるため、可視性が拡大され、詳細なオーディット トレールが実現されます。このフレームワークは、追跡対象取引のステータスの識別を可能にする集中構造であり、ソース、取引およびユーザー別にオーディット ログの結果を検索するためのオンライン ビューを備えています。オーディット ログは、アーカイブおよび削除できます。

オーディット ログは、次の取引フローで使用できます。

PeopleSoft アプリケーション	*オーディット ログ レコード*	*取引フロー*
資産管理	AM_ASST_AUD_TBL	資産の追加とコピー 調整および振替 減価償却費 ユニット間移動 区分変更 処分と処分取り消し 評価替

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft アプリケーション	*オーディット ログ レコード*	*取引フロー*
請求管理	BI_IVC_AUD_TBL	請求書のオンライン作成および編集 請求書のコピーと調整 予算ステージ エラーの修正 請求書の確定 割賦請求書の作成 繰返請求書の作成 インターフェイス - 請求書の作成/編集 請求書管理 ワークシートの承認/削除
一般会計	GL_AUD_JRNL	仕訳の作成、編集および転記 仕訳の削除 仕訳の転記および転記取消指定 仕訳転記取消 仕訳更新 仕訳の転記および転記取消指定解除 仕訳日変更
買掛金管理	AP_VCHR_AUD_TBL AP_PYMT_AUD_TBL AP_CNTL_GRP_TBL	伝票取引 支払取引 コントロール グループ取引
売掛金管理	AR_AUD_DEPOSIT AR_AUD_DRAFT AR_AUD_ITEM AR_AUD_PND_ITEM AR_AUD_PYMNT	アイテム 手形 支払 預金

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft アプリケーション	*オーディット ログ レコード*	*取引フロー*
Real Estate Management	RE_LS_AUD_TBL	リースの作成、コピーおよびアクティブ化 訂正のコピーとアクティブ化 リース条項の追加と削除 リース オプションの追加と削除 リース コメントの追加と削除 月ごとのリース延長の有効化と無効化 手数料の作成と処理 セールス レポートの作成、修正および処理 営業経費監査ワークシートの作成、修正および処理 リース取引の生成、更新および処理 定額法入力の調整 敷金の返金

注: 各アプリケーションのドキュメントとイベントが登録されます。製品を登録するには、配信されないオーディット ログのドキュメントとイベントがオーディット ログの登録ページにアクセスできる必要があります。このページには、アプリケーション開発およびカスタマイズ チームのみがアクセスできます。

オーディット ログ使用ページ

オーディット ログ使用ページ (FS_AUDITLOG_ENABLE) を使用して、PeopleSoft アプリケーションによるオーディット ログを使用可能にします。

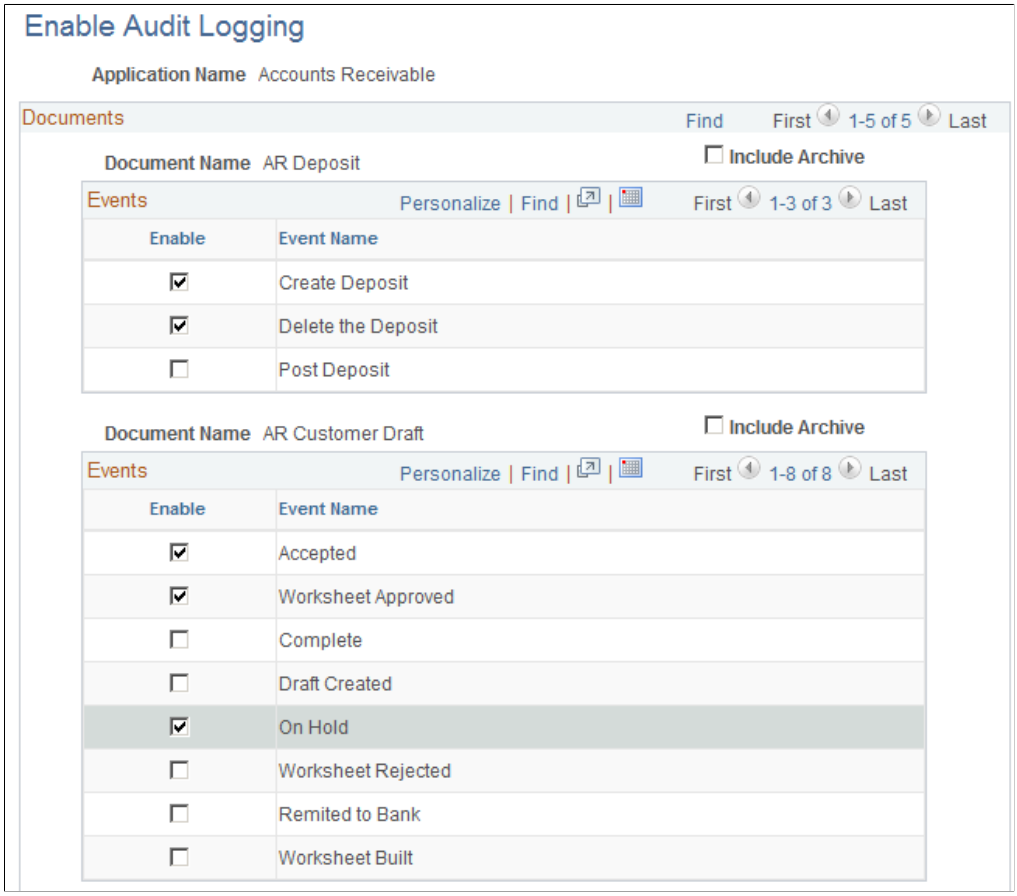
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [オーディット ログ], [オーディット ログ使用], [オーディット ログ使用]

画像: オーディット ログ使用ページ

次の例では、オーディット ログ使用ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



オーディット ログのイベントを使用可能にする製品のアプリケーション名を選択します。追跡するイベントを選択します。

アプリケーション名

次のアプリケーションのイベントを使用可能にする場合に選択します。

- 買掛金管理
- 売掛金管理
- 資産管理
- 請求管理
- 一般会計

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

使用 オーディット ログを使用可能にするイベントを選択します。

アーカイブを含める アーカイブ データを含める場合に選択します。

注: データは、PeopleSoft Data Archive Manager を使用してアーカイブできます。

『*PeopleTools: Data Management*』の「Using PeopleSoft Data Archive Manager」を参照してください。

オーディット ログの検索ページ

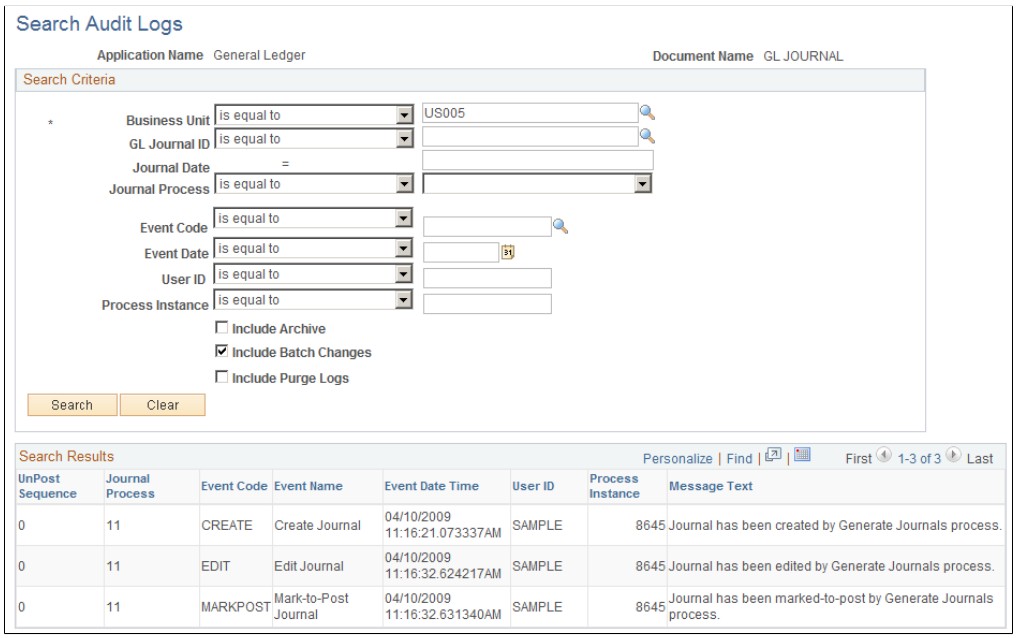
オーディット ログの検索ページ (FS_AUDITLOG_SEARCH) を使用して、オーディット ログを検索します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [オーディット ログ], [オーディット ログの検索], [オーディット ログの検索]

画像: オーディット ログの検索ページ

次の例では、オーディット ログの検索ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



オーディット ログの検索ページは、対応するイベントでオーディット ログが使用可能な場合、アプリケーション内のオーディット レコードに入力されたイベントにアクセスします。選択条件を入力し、[検索] ボタンをクリックして、[検索結果] グリッドで必要なオーディット情報を取得します。[検索条件] および [検索結果] フィールドは、追跡するように選択したアプリケーションおよびドキュメントによって異なります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

また、仕訳入力 - 行ページや請求書サマリ情報ページなどの取引ページ自体で提供されている [オーディット ログ表示] リンクからオーディット ログの検索ページにアクセスできます。デフォルトでは検索結果として、特定の仕訳または請求書のオーディット トレールが返されます。

Enabling Journal Audit LoggingPeopleSoft General Ledger を参照してください。

Adding and Maintaining Asset InformationPeopleSoft Asset Management を参照してください。

Understanding Online Bill EntryPeopleSoft Billing を参照してください。

アーカイブを含める 検索結果にアーカイブ ログを含める場合に選択します。

バッチ変更を含む バッチ処理で作成された取引のログを含める場合に選択します。

パージ ログを含める 検索表示に削除されたオーディット ログ (オーディット ログの削除ページを使用して削除されたログ) を含める場合に選択します。

オーディット ログの削除ページ

各ドキュメントに複数のイベントがあり、1 つのドキュメントが複数回編集される可能性があるため、オーディット ログ データが非常に大きくなる場合があります。このデータは、システム メンテナンスのため、ときどきシステムから削除する必要があります。

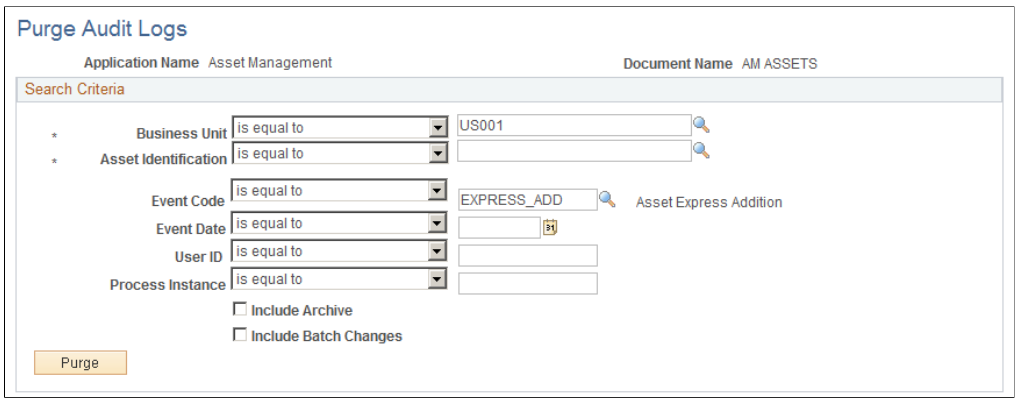
オーディット ログの削除ページ (FS_AUDITLOG_PURGE) を使用して、選択したオーディット ログを削除します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [オーディット ログ], [オーディット ログの削除], [オーディット ログの削除]

画像: オーディット ログの削除ページ

次の例では、オーディット ログの削除ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

削除するオーディット ログを取得するための検索条件を入力し、[パージ] ボタンをクリックします。削除される行数を通知し、これらの行を削除するかどうかをたずねるメッセージが表示されます。

注: パージ ログは削除できません。

ドキュメント管理オプションの設定

ドキュメント管理オプションを設定するには、次のコンポーネントを使用します。

- ドキュメンタム製品オプション (DC_PRODUCT)
- ドキュメンタム コンポーネント オプション (DC_PNLGRP)
- ドキュメンタム ページ オプション (DC_PNL_OPT)

ドキュメント管理オプションの設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
ドキュメンタム製品オプション ページ	DC_PRODUCT	ドキュメンタム対応の PeopleSoft 製品および製品のドキュメント管理オプションを定義します。
ドキュメンタム コンポーネント オプション ページ	DC_PNLGRP	ドキュメント コンポーネントで表示されるドキュメント管理ボタンを製品およびコンポーネント別に管理します。
ドキュメンタム ページ オプション - ページ オプション ページ	DC_PNL_OPT	コンポーネント名および製品別にドキュメンタム ページ オプションを定義し、指定されたコンポーネント内でページを管理します。このページを使用して、ページでドキュメントを有効にします。
ドキュメンタム ページ オプション - プロパティのコピー ページ	DC_PNL3_OPT	ドキュメンタム対応ページに関連するキー フィールドのプロンプト動作を管理します。

ドキュメント管理オプションの設定について

選択した PeopleSoft システム ページ内でドキュメント管理を有効にできます。PeopleSoft アプリケーション内でドキュメンタム対応アクティブ コンポーネントを設定し、そのコンポーネント内の各ページに関連付けられる有効なボタンを定義します。PeopleSoft のドキュメンタム設定は効率的であるため、選択対象のコンポーネントのリストおよび個別のページは、特にドキュメンタムで使用するために設計されたものです。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ドキュメンタム製品オプション ページ

ドキュメンタム製品オプション ページ (DC_PRODUCT) を使用して、ドキュメンタム対応の PeopleSoft 製品および製品のドキュメント管理オプションを定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ドキュメンタム], [製品オプション], [製品オプション]

注: このページの全てのフィールドでは、大文字と小文字が区別されます。

ドキュメンタム対応 PS 製品

値は、*[設計]/[生産]* および *[エンタープライズ]* です。PeopleSoft システムでは、ドキュメンタム対応ページ [設計管理]/[生産管理] および [契約管理] が提供されます。複数の製品で使用されるドキュメンタム対応コンポーネントのエンタープライズ生産オプションを使用します。

注: これらのページは、PeopleSoft 設計管理情報と共に事前ロードされます。

ドキュメンタム ドックベース名

特定の製品の PeopleSoft ページでアクセスするドキュメントを含むドキュメント データベースの名前が表示されます。ドキュメント対応 PeopleSoft システム ページにアクセスすると、このドキュメント データベースに接続されます。

クエリーの最大ドキュメント数

ドキュメンタム対応製品でドキュメント管理システム クエリーを実行した場合に取得されるドキュメントの最大数が表示されます。この設定によって、一度に必要以上の数のドキュメントが取得されなくなります。

これはクエリー結果ページに返されるドキュメントの最大数であり、ドキュメント管理システム クエリー自体の結果としてのドキュメントの最大数ではありません。たとえば、このフィールドを 10 に設定すると、20 個のドキュメントが見つかった場合でもクエリー結果ページには 10 個のドキュメントのみが表示されます。表示されるドキュメントは、ドキュメント名順の最初の 10 個です。

注: この設定によって、ページに関連付けられるドキュメントの最大数は制限されず、単一のクエリーによって返される数のみが制限されます。

ドキュメントのオブジェクト タイプ

ドキュメント データベースのドキュメントにアクセスする場合に使用するドキュメント管理システム オブジェクト スーパータイプが表示されます。オブジェクト タイプによって、ドキュメンタム内のドキュメントの有効な属性のセットが管理されます。このオブ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ジェクト タイプには、設計ドキュメント クエリー ページから参照する全ての属性 (フィールド) が含まれている必要があります。

ビジネス ユニット/アイテム/改訂属性 このチェック ボックスで、ドキュメント データベースに対するクエリーの実行時に PeopleSoft ビジネス ユニット、アイテム番号およびアイテム改定フィールドを使用するかどうかを設定します。最初にドキュメンタム属性を設定する必要があります。3 つのフィールド [ビジネス ユニット] (BUSINESS_UNIT)、[アイテム ID] (INV_ITEM_ID) および [改訂] (EN_REVISION) を全て含めるには、ドキュメント管理オプション ページを使用します。

注: このページの全てのドキュメンタム製品オプションは、インストール時にインストール オプション - ドキュメンタム ページで設定することもできます。

関連リンク

ドキュメンタム ページ

ドキュメンタム コンポーネント オプション ページ

ドキュメンタム製品オプション ページ (DC_PRODUCT) を使用して、ドキュメンタム対応の PeopleSoft 製品および製品のドキュメント管理オプションを定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ドキュメンタム], [製品オプション], [製品オプション]

ドキュメントの管理を開始する前に、各ドキュメント コンポーネントに作成するアクセス機能のレベルを決定する必要があります。たとえば、PeopleSoft 生産管理内で、ユーザーがアイテム改訂ドキュメントのみを表示およびクエリーできるようにし、PeopleSoft 設計管理では、設計変更指示 (ECO) への完全なチェックインおよびチェックアウト アクセス権を持つようにすることができます。

コンポーネント名 必要な PeopleSoft 設計管理または PeopleSoft 生産管理のアクセス機能を選択します。

ドキュメンタム対応 PS 製品 *[EG]* (設計管理/生産管理) または *[ER]* (エンタープライズ) を選択します。

コンポーネントが複数の製品に適用される場合は、*[ER]* を選択します。

コンポーネント タイプ コンポーネントが照会コンポーネントまたは管理コンポーネントのいずれであるかを選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

有効な操作

管理コンポーネントでは、全ての [有効な操作] ボタンを使用可能にでき、照会コンポーネントでは、ドキュメント詳細の表示 および ドキュメント コンテンツの表示 ボタンのみを使用可能にできます。

特定の製品の特定のコンポーネントに関連付ける有効な操作の一部または全てを選択できます。


ドキュメントの詳細を表示します。


ドキュメンタム データベースへのクエリーを実行します。


ドキュメント コンテンツを表示します。


ドキュメンタムを起動します。


バージョンを固定または解除します。


関連付けをコピーします。

[有効な操作] ボタンをクリックして、チェック ボックスを選択または選択解除します。

選択した操作が反映され、関連ドキュメント ページに適切なボタンが表示されます。たとえば、設計変更指示ドキュメント ページに ドキュメント詳細の表示 および [クエリー] ボタンを選択し、コンポーネント内の ECO ドキュメント ページおよびその他のドキュメンタム対応ページにアクセスするとします。[表示] および [クエリー] ボタンを選択し、[ドキュメンタム起動]、[バージョン固定]、[バージョンの固定解除] および [コピー] ボタンを無効にします。

コンポーネント レベルで特定の操作を有効として設定しない場合、ユーザーはページでその操作を実行できません。

関連リンク

Understanding Document Management in PeopleSoft EngineeringPeopleSoft Engineering

ドキュメンタム ページ オプション - ページ オプション ページ

ページ オプション ページ (DC_PNL_OPT) を使用して、コンポーネント名および製品別にドキュメンタム ページ オプションを定義し、指定されたコンポーネント内でページを管理します。

このページを使用して、ページでドキュメントを有効にします。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ドキュメンタム], [ページ オプション], [ページ オプション]

注: このページに情報を入力する前に、ドキュメンタム コンポーネント オプション ページでドキュメンタム コンポーネント オプションを設定する必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ドキュメンタム対応ページ 使用可能なオプションは、指定されたコンポーネントのドキュメンタム対応ページのリストで構成されます。ドキュメンタム対応ページは、削除または追加できます。

ページ名 各ドキュメンタム対応ページの一意の名前を入力します。ページ名はコピー時に参照として機能するため、複数のコンポーネントにページが追加される場合、一意の名前を作成することが重要となります。

リンク レコード名 オブジェクト ID、ドキュメント名、タイトルなど、そのページのドキュメンタム ドキュメント情報を含むレコードが表示されます。このフィールドは必須ですが、編集可能フィールドではありません。ここに参照用としてのみ表示されます。

注: 各ページは複数のコンポーネントに属することができます。

ドキュメンタム ページ オプション - プロパティのコピー ページ

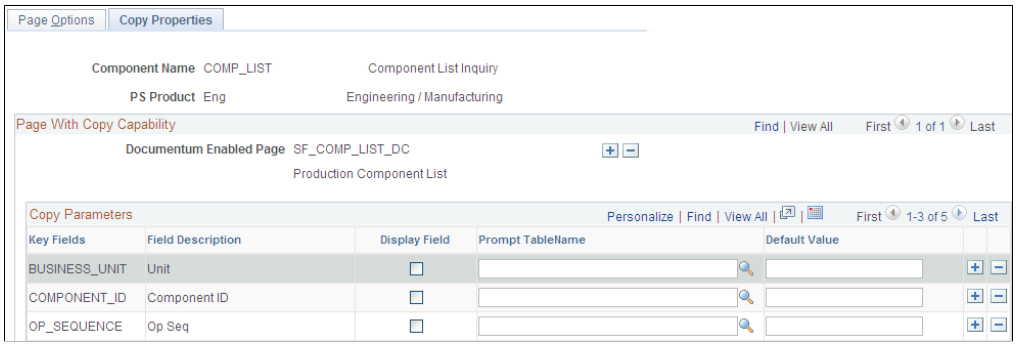
プロパティのコピー ページ (DC_PNL3_OPT) を使用して、ドキュメンタム対応ページに関連するキー フィールドのプロンプト動作を管理します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ドキュメンタム], [ページ オプション], [プロパティのコピー]

画像: ドキュメンタム ページ オプション - プロパティのコピー ページ

次の例では、ドキュメンタム ページ オプション - プロパティのコピー ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このページでの選択によって、ドキュメンタム対応ページで [文書群コピー] ボタンをクリックしたときの表示内容を設定します。次のコピー プロパティは、既存の全てのドキュメンタム対応ページ用に表示され、変更する必要はありません。

キー フィールド リンク レコードのキー フィールドが表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

フィールドの表示 ドキュメンタム対応ページのコピー時にキー フィールドを表示するかどうかを設定します。

プロンプト テーブル名 ドキュメンタム対応ページからのコピー時にキー フィールドの有効な値を表示するために使用されるプロンプト テーブルまたはビューが表示されます。

デフォルト値 この値は、コピー時に表示目的で使用されます。

表示フィールドとデフォルト値の組合せによって、柔軟にコピー オプションを事前定義できます。たとえば、表示フィールドのクリアとキー フィールド BOM_STATE の *[PR]* のデフォルト値の定義によって、生産部品表ドキュメント関連付けのみがコピーされます。

警告 コピー プロパティは、既存の全てのドキュメンタム対応ページ用に表示され、通常は変更しません。このページの値を不正に変更すると、ドキュメント関連付けのコピー時に予期しないプロンプト結果が発生する場合があります。

要員の設定

このトピックでは、共通の要員情報の設定方法について説明します。

要員情報の設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
要員設定ページ	INSTALLATION_RESRC	共通の要員情報を設定します。

要員設定ページ

要員設定ページ (INSTALLATION_RESRC) を使用して、共通の要員情報を設定します。

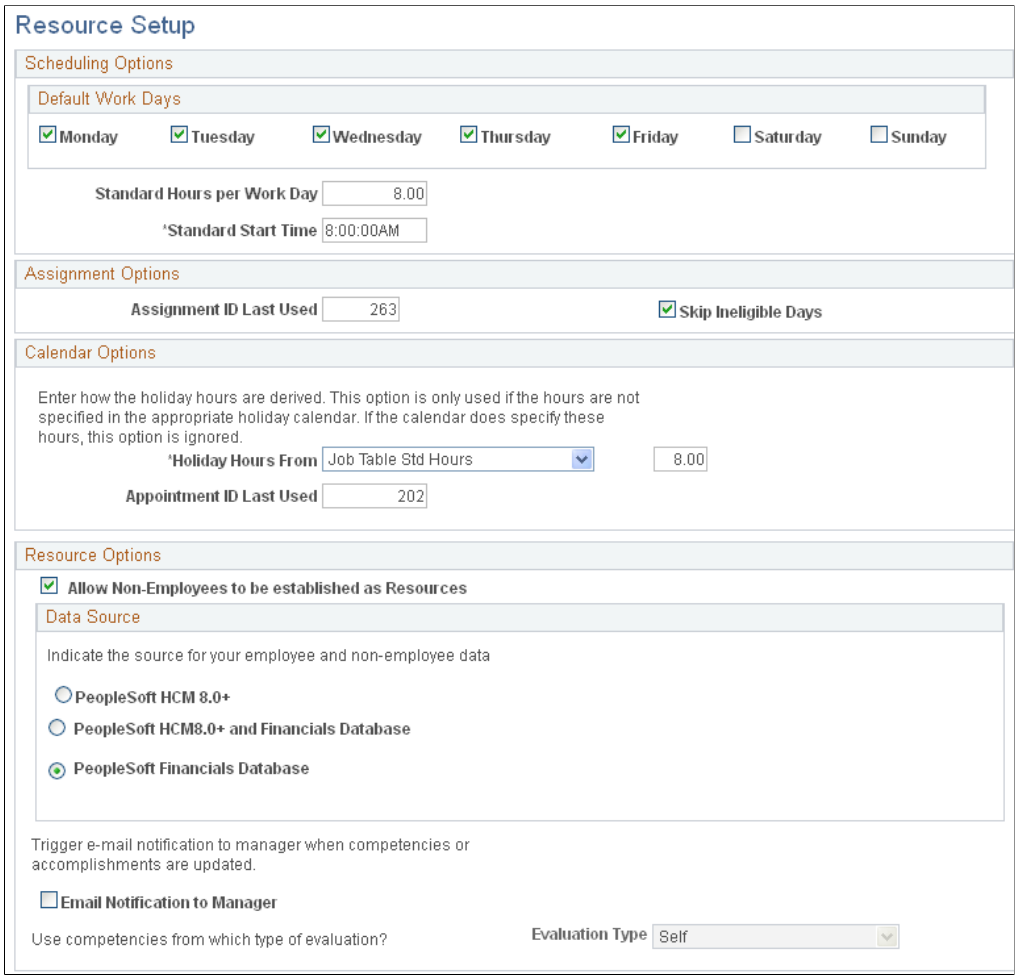
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [要員データ], [要員設定], [要員設定]

画像: 要員設定ページ

次の例では、要員設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



スケジュール オプション

デフォルト勤務日

要員が勤務する曜日のデフォルトを選択します。選択した曜日は、要員プロファイル - 一般情報ページで、新しい要員プロファイルのデフォルト勤務日として使用されます。

出勤日の標準勤務時間数

勤務日を構成する時間数を入力します。

要員マッチング エンジンでは、この情報を使用して、要員と要員リクエストの組合せごとに、対応可能度適合度スコアを計算します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このフィールドに、週あたりのデフォルト勤務日数が乗算されて、組織の標準時間/週のデフォルト値が決定されます。要員の標準時間/週が組織の標準時間/週より少ない場合、この要員はパートタイムとして処理されます。

標準開始時刻

その要員が勤務を開始する 1 日のうちの時間を入力します。

この情報は、新しい予定、割当および休日について、デフォルトの開始時間として使用されます。

割当オプション

最終割当 ID

次のシステム生成割当 ID 番号の決定にシステムで使用される ID を入力します。

このフィールドは、割当の最終システム生成 ID を追跡するカウンタとして機能します。この値は、テスト モードから本稼動モードにデータベースを再初期化したり、割当 ID をリセットする場合にのみ、操作する必要があります。

このフィールドの値を手動で変更する場合の有効な理由の例は、次のとおりです。

- 旧バージョンのアプリケーションから割当を変換したところ、組織により、要員管理を実装する前に使用されていた一連の番号をスキップすることが決定された場合。
- アプリケーションでテストや研修を実行したときに割当 ID の値が増分されたため、要員管理アプリケーションを本稼動に移行する前にリセットする必要がある場合。

既存の割当 ID は、[最終割当 ID] フィールドの値をリセットしても再利用されません。

カレンダー オプション

休日営業時間ソース

休日の開始時間と終了時間が PeopleSoft HRMS で定義されていない場合に、休日ごとの期間 (時間) を決定する方法を選択します。この情報は、要員スケジュールに休日をロードする場合に使用されます。システムによる休日営業時間の取得方法を次から選択します。

ここでカスタム設定を定義: システムで休日入力を生成する際に全ての要員スケジュールにわたって使用される時間数を指定するには、このオプションを選択して隣のフィールドに値を入力します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

職務テーブル標準勤務時間: アプリケーションで、要員の勤務週あたりの標準勤務時間数をその要員が各週に勤務する日数で除算し、勤務日の平均時間を取得するには、このオプションを選択します。

出勤日の標準勤務時間数: システムで各休日の期間を決定する際に、全ての要員について、このページで定義される組織の出勤日の標準勤務時間数を使用する場合に選択します。

注: *[出勤日の標準勤務時間数]* オプションは、適切な休日カレンダーで時間が指定されていない場合にのみ使用します。カレンダーでこれらの時間が指定されている場合は、このオプションは無視されます。

最終使用予定 ID

要員スケジュール予定について最終システム生成 ID を表示します。このフィールドには、テスト モードから本稼動モードにデータベースを再初期化したり、予定 ID をリセットする場合にのみ、値を入力します。

Defining Holidays on Resource SchedulesPeopleSoft Resource Management を参照してください。

要員オプション

非従業員を要員として設定する

人事ステータスが *[従業員]* ではない個人に要員になる資格を与える場合に、このオプションを選択します。

このオプションを選択すると、非従業員要員の適格性を制御でき、そのコンピテンシー、資格およびスケジュールを管理して、非従業員要員を検索し、非従業員要員をプロジェクトおよび作業指示に割り当てることができます。また、従業員と非従業員を区別できるように、システム全体にわたって要員の人事ステータスを表示できます。

管理者への電子メール通知

コンピテンシーおよび資格が FSCM データベースで更新されたときに、要員管理者への自動電子メールを生成する場合に選択します。このフィールドは、従業員コンピテンシー情報のソース データベースとして FSCM データベースを使用する場合にアクティブ化されます。

評価タイプ

要員管理で有効なコンピテンシー プロファイルとして使用する評価のタイプを選択します。このフィールドは、従業員コンピテンシー情報のソース データベースとして HRMS データベースを使用する場合にアクティブ化されます。

PeopleSoft HRMS プロファイル管理を使用すると、従業員自身、管理者、顧客などが評価を実行できるようになります。要員管理では、要員プロファイルに表示したり、要員マッチング エンジンでコンピテンシー適合度スコアの計算に使用する評価のタ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

イプを決定できます。このオプションは、コンピテンシーおよび資格のソース データベースとして HRMS データベースを使用する場合にのみ適用されます。コンピテンシーおよび資格の唯一のソースとして FSCM データベースを使用する場合、評価タイプ値は *[自分]* となります。

要員オプション - データ ソース

従業員および非従業員のデータのソースを選択します。

PeopleSoft HCM 8.0+

従業員および非従業員のソース データを PeopleSoft 要員管理 (HRMS) でのみ管理する場合に、[PeopleSoft HCM 8.0+] を選択します。これにより、要員管理において、要員のコンピテンシーおよび資格を HRMS からの情報を使用して更新 (上書き) する完全同期プロセスが可能となります。

ソース データベースに関係なく、全ての従業員または非従業員のレコードを要員管理で確認できます。

PeopleSoft HCM8.0+ および Financials データベース

従業員データ レコードを HRMS で管理し、非従業員データ レコード、つまり人事ステータス フィールド (PER_STATUS) 値が *N* である従業員 ID (EMPLID) を HRMS および要員管理で管理する場合に選択します。このオプションを使用すると、非従業員データ レコードをどちらのデータベースでも作成できます。

このオプションでは、完全同期プロセスにより、HRMS で作成された非従業員データ レコードについて*のみ*、HRMS データを使用して Financials データベースが更新されます。要員管理で作成される非従業員データ レコードが、完全同期プロセスによって影響を受けることはありません。

要員管理では、HRMS からの従業員および非従業員のレコードを確認したり、要員管理からの非従業員レコードを更新できます。

PeopleSoft Financials データベース

従業員および非従業員のデータ レコードを Financials データベースでのみ管理する場合に選択します。

Understanding PeopleSoft Resource Management and PeopleSoft HCMPeopleSoft Resource Management を参照してください。

Understanding PeopleSoft Resource Management Without PeopleSoft HCMPeopleSoft Resource Management を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

所在地の設定

次のコンポーネントを使用して、所在地を設定します。

- 国 (COUNTRY_TABLE)
- 都道府県/州 (STATE_DEFN)
- 所在地 (LOCATION_TBL)
- 国別統計 (COUNTRY_STAT)

これらのコンポーネントのテーブルへのータをロードするには、LOCATION_TBL_CI コンポーネント インターフェイスを使用します。

所在地の設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
国名ページ	COUNTRY_DEFN	国名を追加または確認します。
住所フォーマット ページ	ADDR_FORMAT_TABLE	適切なフォーマットで住所が表示されるように、国の住所フィールドを選択します。
所在地 - 都道府県/州ページ	STATE_DEFN	州コードまたは都道府県コードを追加、確認します。
所在地 - 定義ページ	LOCATION_TBL	支店や出荷担当事務所などの所在地コードを定義します。
所在地 - 詳細ページ	LOCATION_TBL2	所在地定義に詳細を追加します。
国別統計レポート コード ページ	COUNTRY_STAT_PNL	国コードを入力します。指定する国コードごとに、レポートおよびレポート オプションが必要です。

国名ページ

国名ページ (COUNTRY_DEFN) を使用して、国名を追加または確認します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [所在地], [国], [国名]

国コード (2 桁) 消費税 (VAT) の要件に合うように、国コード (2 桁) を入力します。システムにより、国コード (2 桁) が消費税登録 ID に追加さ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

れると、消費税登録 ID は、消費税の要件に合わせて 20 桁の数字となります。

EU 加盟国 欧州連合加盟国である場合に選択します。イントラスタットレポートのプロンプトで、国を含める場合に、このオプションを選択する必要があります。

関連リンク

Establishing Intrastat CharacteristicsPeopleSoft Global Options and Reports

住所フォーマット ページ

住所フォーマット ページ (ADDR_FORMAT_TABLE) を使用して、適切なフォーマットで住所が表示されるように、国の住所フィールドを選択します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [所在地], [国], [住所フォーマット]

使用可能 システム内のどこからでもフィールドを使用できるようにする場合に選択します。

ラベル ページに表示するとおりに、フィールドの名前を入力します。

たとえば、[都道府県/州] フィールドの値を *[都道府県/州]* または *[部門]* に変更します。

[住所 1]、[住所 2]、[住所 3] および [住所 4] 選択した国によって通常使用される住所フィールドを選択します。

郵便番号検索 所在地定義ページに [郵便番号検索] リンクを表示する場合に選択します。このリンクを使用すると、ユーザーは郵便配達コードを検索できます。

[番号 1]、[番号 2]、[住居タイプ]、[フィールド 1 ラベル]、[フィールド 2 ラベル] および [フィールド 3 ラベル] これらのフィールドを選択すると、ページ上の [住所 4] フィールドが、これらのフィールドで置き換わります。

所在地 - 都道府県/州ページ

所在地 - 都道府県/州ページ (STATE_DEFN) を使用して、都道府県または州のコードを追加または確認します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [所在地], [都道府県/州], [都道府県/州]

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

数値コード 統計およびレポートの都道府県または州に数値を割り当てる場合に使用します。

都道府県/州 都道府県/州の略称を入力します。

国 国を選択します。

説明 都道府県/州または地域の説明を入力します。

所在地 - 定義ページ

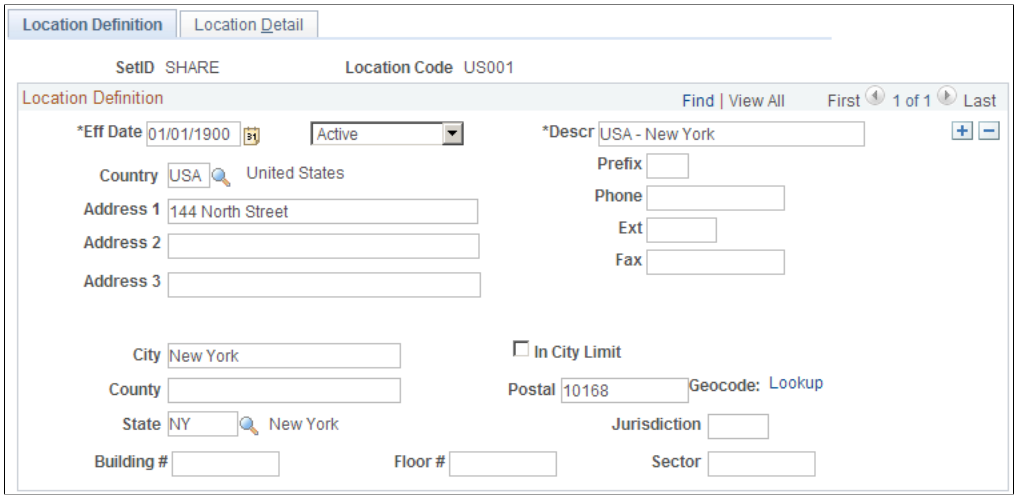
所在地 - 定義ページ (LOCATION_TBL) を使用して、支店や出荷担当事務所などの所在地コードを定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [所在地], [所在地], [所在地定義]

画像: 所在地定義ページ

次の例では、所在地定義ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



説明を入力して、電話番号および住所の情報用のフィールドを入力します。

表示される住所フィールドは、住所フォーマット ページで定義されます。

市内 サードパーティの税計算ソフト製品を使用し、追加の市税情報にアクセスする必要がある場合に選択します。

注: [市内] は、Vertex O Series 税ソリューションでは使用されません。

フリガナ セット クリックすると、フリガナ セットでフィールド値を入力または表示 (あるいはその両方) できるページにアクセスします。このボタン

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

は、ユーザー基本設定 - 基本設定ページで、[フリガナ] チェックボックスを選択した場合にのみ表示されます。

[住所 2] および [住所 3]

この所在地で使用されていない場合、これらのフィールドに *Printing Division* や *Western Annex* などの値を入力して、所在地の詳細を指定できます。

住所 4

ページに住所を表示するために使用可能な領域は、制限されています。[住所 4] フィールドは、住所フォーマット ページでオプションの住所フィールドの一部 ([番号 1] や [住居タイプ] など) を選択した場合には、表示されません。

地域コード

この値は、所在地定義を税計算アルゴリズムにリンクするために、サードパーティの税計算アプリケーションで使用されます。地域コードが選択されていない場合、このフィールドには [検索] リンクが表示されます。地域コード値または [検索] リンクをクリックして、税地域コード選択ページにアクセスし、このページで、所在地定義の地域コードを選択します。

サードパーティの税アプリケーションと適切に統合するには、所在地定義ごとに地域コードを選択する*必要があります*。

このフィールドについて表示されるエラー メッセージは、サードパーティ アプリケーションによって発行されるものです。詳細については、サードパーティ アプリケーションのドキュメントを参照してください。

関連リンク

住所フォーマット ページ

所在地 - 詳細ページ

所在地詳細ページ (LOCATION_TBL2) を使用して、所在地定義に詳細を追加します。

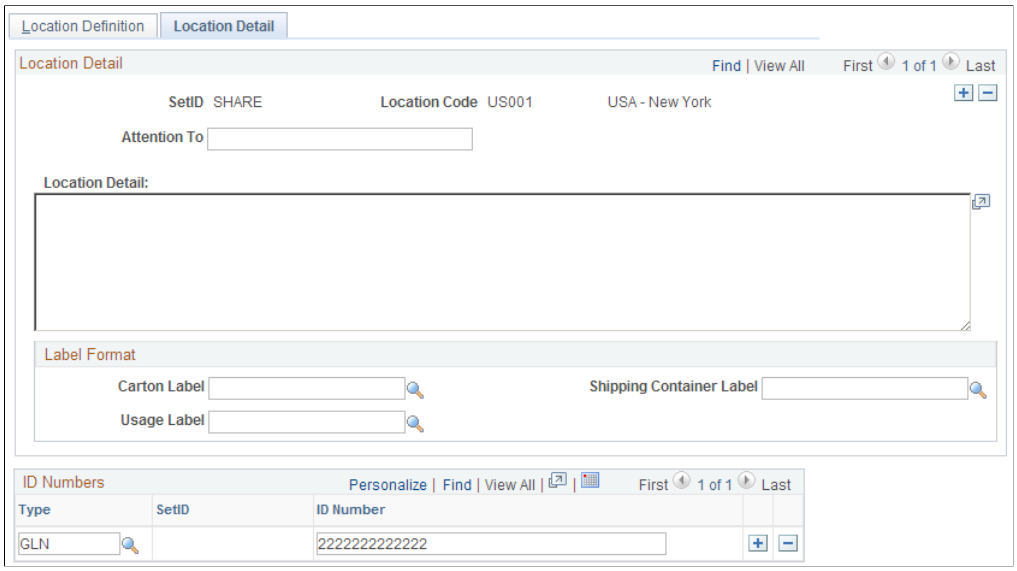
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [所在地], [所在地], [所在地詳細]

画像: 所在地詳細ページ

次の例では、所在地詳細ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



担当者

この所在地の連絡先の担当者領域に表示する名前を入力します。

所在地詳細

この所在地について管理する必要がある追加情報を入力します。

カートン ラベル

この所在地について印刷カートン ラベルのデフォルト フォーマットを選択します。

出荷コンテナ ラベル

この所在地について印刷する出荷コンテナ ラベルのデフォルト フォーマットを選択します。

消費ラベル

この所在地について印刷するアイテム消費ラベルのデフォルト フォーマットを選択します。

ID 番号

このセクションを使用して、追加タイプの所在地 ID を任意で指定します。システムでは、GLN (13 桁の数値) やダンズ ナンバーなど、番号タイプのリストがサポートされています。GLN を除き、ここで入力されたその他の ID 番号は、保存時に検証されません。

[セットID] フィールドは、全ての ID タイプの編集に使用できるわけではありません。システム内で指定された所在地ごとに、指定された任意のタイプの ID 番号を 1 つのみ入力できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

国別統計レポート コード ページ

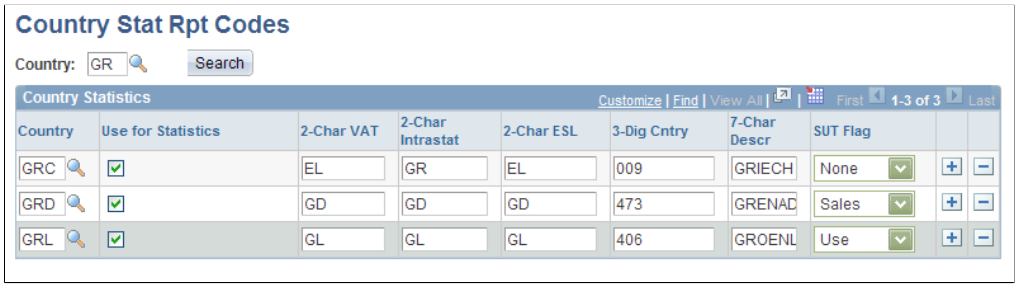
国別統計レポート コード ページ (COUNTRY_STAT_PNL) を使用して、国コードを入力します。指定する国コードごとに、レポートおよびレポート オプションが必要です。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [所在地], [国別統計], [国別統計レポート コード]

画像: 国別統計レポート コード

次の例では、国別統計レポート コードのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



統計用

このチェック ボックスを選択すると、国際標準化機構 (ISO) で認識されている国が、欧州統計局によっても国として認識されます。[統計用] が選択されていない場合、その国は ISO では認識されますが、欧州統計局では認識されません。その場合、欧州統計局では、GNP などの統計データを生成する目的で、この国が別の国の一部であると仮定します。たとえば、ISO では、モナコ公国に独自の国コードを設定していますが、統計的な目的のために、モナコがフランスの一部であると仮定して、フランスと同じ統計国コードを設定しています。

消費税国 (2 桁)

特定の国の特別な消費税 (VAT) の要件に合うように、国コード (2 桁) を入力します。これは、消費税登録 ID と共に ISO 3166 国コードを使用していない一部の国にとって役立ちます。国コード (2 桁) が消費税登録 ID に追加されると、Financials はこの個別の国コードにアクセスします。消費税登録 ID は、消費税の要件に合わせて 20 桁の数字になります。

2 文字イントラスタット

欧州統計局用の国 ID を表示します。このコードは、一部のイントラスタット レイアウト フォームで印刷されます。

2 文字 ESL (2 文字のヨーロッパ販売リスト)

欧州連合加盟国に使用されます。このコードは、通常、ヨーロッパ販売リスト (ESL) での消費税登録情報の一部として印刷されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

3 桁国コード	このコードは、欧州統計局の国 ID として使用され、通常、商品の出荷元または出荷先であるソース国または仕向国を識別するために、イントラスタット レポートに印刷されます。
7 文字名称	ファーム バンキングの送受信国を識別するために、ドイツ国際ファーム バンキング レイアウトに使用されます。
売上/使用税	情報のみです。

地域および地域コードの設定

地域および地域コードを設定するには、地域タイプ コード コンポーネント (REGION_TYPE) と地域コード コンポーネント (REGION_CD) を使用します。

コンポーネント インターフェイス REGION_CD_CI および REGION_TYPE_CI を使用して、これらのコンポーネントのテーブルにデータを追加します。

地域および地域コードの設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
地域タイプ コード ページ	REGION_TYPE	特定の地域で実行されるアクティビティのタイプを指定します。
地域コード ページ	REGION_CD	地域について特別な価格設定スキーマを設定するために、または会計入力の配布の決定で役立つように、販売地域を設定します。
地域コード住所ページ	REGION_CD_ADDR	地域コードが物理的なエンティティを表す場合に、所在地情報を入力します。

地域および地域コードの設定について

地域は、物理的なエンティティや地理的な地域である場合も、そうでない場合もあります。地域には、カテゴリ、タイプおよびコードの 3 つのカテゴリ分類レベルがあります。各レベルのさまざまな使用について理解することが重要です。たとえば、備品の修理を行うサービス センター地域タイプを定義する場合があります。また、地域タイプを使用して、階層関係、支店地域、本社などにおける地域の配置を指定することもできます。

地域カテゴリはシステムによって定義されており、地域コードの機能を決定します。たとえば、それぞれ異なる目的で、顧客を多数の地域コードに関連付けることができます。1 人の顧客を価格設定用に 1 つの地域コードに関連付ける一方で、輸送リード タイムの決定用に別の地域コードに関連付けることもできます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

地域が物理的なエンティティを表す場合、その地域コードにはビジネスと同じ特性 (つまり住所と言語) が含まれます。地域コードを使用すると、セールス フォース用の地域を定義したり、地域に対して特別な価格設定スキーマを設定できます。また、会計入力の配布の決定で役立つように、地域コードを使用することもできます。

地域コードの使用例

地域コードは、地域をセールス フォースに、東部、西部、南部および北部として割り当てる必要がある場合に役立ちます。このように地域コードを使用するには、最初に地域タイプ [販売] を定義した後、東部、西部、南部および北部の地域コードを定義します。それぞれを作成する場合は、地域カテゴリ ID として [チーム メンバー] を選択します。チーム メンバーを設定する場合は、チーム メンバー個人データ ページで適切な地域コードを選択します。

地域タイプ コード ページ

地域タイプ コード ページ (REGION_TYPE) を使用して、特定の地域で実行されるアクティビティのタイプを指定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [所在地], [地域タイプ コード], [地域タイプ コード]

地域コード ページ

地域コード ページ (REGION_CD) を使用して、地域に対して特別な価格設定スキーマを設定するために、または会計入力の配布の決定で役立つように、販売地域を設定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [所在地], [地域コード], [地域コード]

地域コード住所ページ

地域コード住所ページ (REGION_CD_ADDR) を使用して、地域コードが物理的なエンティティを表す場合に、所在地情報を入力します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [所在地], [地域コード], [地域コード住所]

配布ルールおよび配布セットの設定

配布ルールおよび配布セットを設定するには、配布セット コンポーネント (DST_SET_OM) および配布ルール コンポーネント (DST_RULE_OM) を使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

配布ルールおよび配布セットの設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
配布セット ページ	DST_SET_OM	配布セットを定義します。配布率ページで配布コードを設定します。
配布ルール ページ	DST_RULE_OM	配布ルールを定義して、受注、契約および RMA が入力されたときに、配布セット マトリックスについてシステムにより一致を検索する順序を決定します。

配布ルールおよび配布セットの設定について

受注、RMA または契約について、製品、製品グループ、顧客、顧客グループ、地域、受注グループ、在庫管理ビジネス ユニットまたはこれらのエレメントの任意の組合せ別に勘定科目配布を決定する必要がある場合は、配布セットおよび配布ルールを定義する必要があります。合計が 100 パーセントになるのであれば、収益、割引および割増の複数のコードを設定できます。

注: 契約、割戻契約および RMA では、収益コードのみが使用されます。

配布セットにより、勘定科目配布情報が決定エレメントの組合せに割り当てられます。

ビジネス ユニットの設定時に、PeopleSoft 受注管理ビジネス ユニットの会計処理と請求ページで、受注と RMA に対して配布ルールを 1 つ選択できます。割戻契約の配布ルールは、PeopleSoft 受注管理ビジネス ユニットの割戻設定ページで定義できます。このビジネス ユニットに入力された全ての受注では、選択した配布ルールを使用して、デフォルトの配布コードが決定されます。配布ルールによって受注に対する配布セットの一致が検出できない場合、この受注では、会計処理と請求オプション ページで定義した配布コードが使用されます。配布勘定ページで受注を入力するときに、デフォルトの配布コードを上書きできます。RMA の場合は、収益配布勘定を使用して収益コードを変更します。

契約の配布コードは、ビジネス ユニット定義ページで設定されます。

受注の配布セットおよび配布ルールの例

全ての勘定科目配布は倉庫管理 (在庫管理ビジネス ユニット) に基づいており、製品は、1 件の大口顧客 (顧客 ID 50006) を除いて、4 つの倉庫 A、B、C および D から出荷されています。この顧客の受注情報は、一意の収益、割引および割増の勘定科目に配布されています。

[顧客] フィールドに 50006 と入力して、配布セットを設定します。次に、4 つの追加配布セットを設定します。それぞれ、在庫管理ビジネス ユニット フィールドに個別の値を指定し、一意の収益、割引および割増コードを使用します。次に、デフォルトと呼ばれる 2 行の配布ルールを設定します。最初の行では [顧客] フィールドを選択し、2 行目では [在庫管理 BU] フィールドを選択します。

このデフォルトの配布ルールを受注管理ビジネス ユニット OM2 にリンクします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

システムにより、ビジネス ユニット OM2 に入力されている全ての受注が検索されます。顧客 50006 の受注を入力する場合、顧客について一致が検出されると、配布ルールの最初の行で検索が停止します。顧客 50006 について配布セットで設定した配布コードには、デフォルトでその受注へのアクセス権があります。その他全ての受注では、2 行目へと検索が続行され、そこで在庫管理ビジネス ユニットについての一致が検出されます。在庫管理ビジネス ユニット A について配布セットで選択した配布コードには、デフォルトで、在庫管理ビジネス ユニット A を参照する全ての受注へのアクセス権があります。同じことが、倉庫 B、C および D を参照する受注にも当てはまります。

配布セット ページ

配布セット ページ (DST_SET_OM) を使用して、配布セットを定義します。

配布率ページで配布コードを設定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [配布会計処理], [配布セット]

ドキュメント タイプ

選択によって、借方に転記される勘定科目が決まります。有効なオプションは、*[割戻契約]*、*[契約]*、*[受注]* および*返品承認*です。

[製品 ID]、[製品グループ]、[顧客]、[顧客グループ]、[地域]、[受注グループ] および [在庫管理ビジネス ユニット]

個別に、またはこれらのエレメントの組合せについて、勘定科目配布を設定することを選択できます。使用可能なオプションからフィールドを選択します。

注: 組合せには、各顧客と顧客グループの両方または各製品と製品グループの両方を含めることはできません。
"顧客" とは、出荷先顧客のことを表します。

配布タイプ

配布タイプは、配布セットの属性です。これは、配布会計処理の取得には使用されません。

配布ルール ページ

配布ルール ページ (DST_RULE_OM) を使用して配布ルールを定義し、受注、契約および RMA が入力されたときに、配布セット マトリックスについてシステムにより一致を検索する順序を決定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [配布会計処理], [配布ルール]

注: 配布セット ページで選択したものと同じエレメントが、このページでオプションとして表示されます。

デフォルト

ビジネス ユニットでその他のルールが指定されていない場合に、この配布ルールを使用することを示す場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

連番

配布セットを使用して、一致の検索階層を決定します。単一の一致が検出されると、システムでは、セットを使用して受注、契約、割戻契約または RMA に配布コードを割り当てます。

最初の連番に最も詳細なセット定義を選択し、粒度を下げながら組合せを入力していきます。つまり、単一の顧客に適用する配布セットを定義する場合は、最初の行の [顧客] チェック ボックスのみを選択します。地域および顧客グループに適用する配布セットを定義する場合は、2 行目などのチェック ボックスを選択します。

注: "顧客" とは、出荷先顧客のことを表します。

運送業者の設定

運送業者テーブル (CARRIER_TBL) コンポーネントを使用して、運送業者情報を定義します。

運送業者の定義に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
運送業者ページ	CARRIER_TBL	組織で積荷の移動に使用する運送業者を定義します。
運送業者 - 電話番号情報ページ	CARRIER_PHONEPOP	運送業者の電話番号情報を入力します。 詳細については、「運送業者ページ」を参照してください。
運送業者 URL 運送業者ページ	CARRIER_URL	外部運送業者による配送の出荷追跡を設定します。サードパーティの運送アプリケーションによる運送費計算を有効化します。
運送業者カレンダー例外ページ	CARRIER_SHIP_EXCPT	できる限り正確に輸送リード タイムを計算するために、運送業者が配達や集荷を行わない時間を設定します。

運送業者情報について

PeopleSoft には、サードパーティ システムまたは別の PeopleSoft アプリケーション (CRM など) と運送業者データを送受信するための数多くのエンタープライズ インテグレーション ポイント (EIP) が用意されています。これらの EIP は、PeopleSoft インテグレーション ブローカー内のサービス オペレーションです。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft では、PeopleSoft インテグレーション ブローカーで、デフォルト ステータスが *[非アクティブ]* のサービス オペレーションを提供しています。サードパーティのソースまたは別の PeopleSoft システム (CRM など) との間でデータを送受信しようとする前に、各サービス オペレーションをアクティブ化する必要があります。

次の表の情報を使用して、PeopleSoft サプライ チェーン マネジメント インテグレーションの製品ドキュメントSetting Up Service OperationsPeopleSoft Supply Chain Management Integration の設定指示を参照してください。

サービス オペレーション	*方向およびタイプ*	*ハンドラ*	*使用可能なチャンク*	*統合対象*
CARRIER_ FULLSYNC	アウトバウンド 非同期			CRM、サードパーティ
CARRIER_ FULLSYNC_EFF	アウトバウンド 非同期			CRM、サードパーティ
CARRIER_SYNC	インバウンド 非同期	CarrierSync CarrierSyncEff		CRM、サードパーティ
CARRIER_SYNC_ EFF	アウトバウンド 非同期			CRM、サードパーティ

製品ドキュメントの*『PeopleTools: PeopleSoft Integration Broker』*を参照してください。

関連リンク

Setting Up Service OperationsPeopleSoft Supply Chain Management Integration

運送業者ページ

運送業者ページ (CARRIER_TBL) を使用して、組織で積荷の移動に使用する運送業者を定義します。

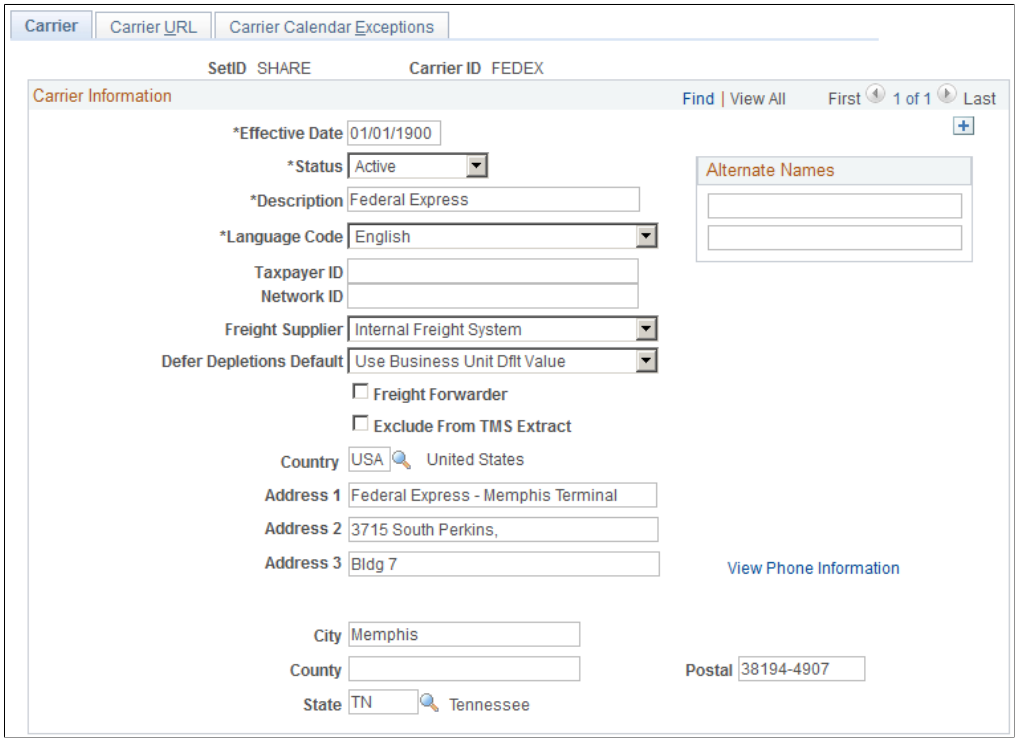
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [出荷/受領], [運送業者テーブル], [運送業者]

画像: 運送業者ページ

次の例では、運送業者ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



注: 国 – 住所フォーマット ページで、国ごとに表示されるフィールドを選択し、ユーザー定義ラベルを割り当てることができます。結果として、このページに表示されるフィールドは、説明するフィールドと一致しない場合があります。

言語コード

B/L および出荷品目録上の運送業者情報の印刷に使用する言語。

運送費計算システム

次のオプションから 1 つ選択します。

内部: システムにより、PeopleSoft 受注管理を使用して、運送費が内部的に計算されます。

外部: サードパーティ プロバイダにより、運送費が計算されます。外部的に運送費が計算されるようにするには、サードパーティの運送および処理アプリケーションをインストールする必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: このオプションは、運送業者ページのここだけでなく、運送業者 URL ページでも設定できます。運送業者 URL ページで [運送費計算システム] オプションを変更すると、システムによりこのページが更新されます。

納税者 ID この値は、輸出ドキュメントで使用されます。

運送業者 このチェック ボックスを選択して運送業者として指定した運送業者は、PeopleSoft 受注管理および PeopleSoft 在庫管理で使用される輸出ドキュメントで、中間荷受人として指定される場合があります。

ネットワーク ID B/L や出荷品目録などの出荷書類の電子データ交換 (EDI) 送信の対象となる、運送業者の指定に使用されます。このフィールドは情報のみであり、標準的な PeopleSoft レポートまたはトランザクションでは使用されません。

TMS 抽出から除外 輸送管理システム (TMS) へのダウンロード処理から、この運送業者を含む需要行を除外する場合に選択します。選択されている場合、この運送業者が割り当てられている全ての受注行は、TMS 出庫要求リリース TMS_ORDER_RELEASE エンタープライズ インテグレーション ポイント (EIP) に対する TMS ダウンロードの選択処理中に除外されます。

繰延払出デフォルト 繰延払出機能を使用すると、顧客からの署名済配送受領書の取得やその他必要な事務処理など、全てのシステム外処理を完了するまで、在庫出荷の請求および原価計算を遅延させることができます。PeopleSoft 在庫管理の製品ドキュメントDelaying the Billing and Costing of Inventory ShipmentsPeopleSoft Inventory を参照してください。オプションは次のとおりです。

- *デフォルト繰延払出を "なし" に設定:* この運送業者 ID を使用する需要行ごとに、[繰延払出] フィールドのデフォルト値を *N* (なし) に設定する場合に選択します。このデフォルトは出荷処理時に適用され、これにより、出庫処理設定 - 出荷ページ (ビジネス ユニット レベル) の値セットが上書きされます。
- *デフォルト繰延払出を "する" に設定:* この運送業者 ID を使用する需要行ごとに、[繰延払出] フィールドのデフォルト値を *Y* (する) に設定する場合に選択します。このデフォルトは出荷処理時に適用され、これにより、出庫処理設定 - 出荷ページ (ビジネス ユニット レベル) の値セットが上書きされます。
- *ビジネス ユニットのデフォルト値を使用:* 出庫処理設定 - 出荷ページ (ビジネス ユニット レベル) の [繰延払出デフォルト]

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

フィールドで定義されたデフォルト値を使用する場合に選択します。

国 住所フィールドは、このフィールドでの選択によって動的に制御されます。

電話情報表示 クリックすると、電話番号情報ページにアクセスして、この運送業者の電話番号情報を入力できます。

関連リンク

Maintaining Additional Order Header InformationPeopleSoft Order Management
Maintaining Header and Line InformationPeopleSoft Order Management
Delaying the Billing and Costing of Inventory ShipmentsPeopleSoft Inventory

運送業者 URL ページ

注: [運送費計算システム] オプションは、運送業者 URL ページのここだけでなく、運送業者ページでも設定できます。運送業者ページで [運送費計算システム] オプションを変更すると、システムにより、このページが同時に更新されます。

インターリンク DLL 名 *[外部]* を選択すると、このフィールドの値を別の DLL のフル パスで上書きできます。サードパーティの運送および処理アプリケーションを使用する場合、出荷時の運送費を計算するときに、デフォルトのインターリンク .DLL 名がシステムに指定されます。Federal Express などの特定の運送業者に直接リンクする必要がある場合、その運送業者のインターリンク .DLL 名をここに入力すると、デフォルトのインターリンク .DLL 名が上書きされます。運送業者のインターリンク .DLL 名は、その運送業者から取得します。

独自にカスタマイズした .DLL リンクをこのフィールドに追加して運送業者に統合し、運送費を取得できます。

注: デフォルトのインターリンク DDL 名は、このフィールドには表示されませんが、別のインターリンク DLL 名を入力しない限りアクティブです。

プロセス番号による追跡 URL/プロセス番号追跡 URL サフィックス 外部的に受注を追跡するには、プロセス番号と受注書番号の 2 つの番号のうちいずれかを使用できます。プロセス番号は、外部運送業者によって出荷に割り当てられた追跡番号です。サードパーティの運送および処理アプリケーションでは、出荷費用を計算するときに、この番号が取得されます。[受注追跡照会] の出荷ページで、プロセス番号によって追跡できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プロセス番号によって出荷を追跡する必要がある場合は、両方のフィールドに値を入力します。これらは、外部運送業者の受注追跡ページ URL の一部であり、それぞれプロセス番号の前後に配置されています。外部運送業者の受注追跡ページ URL は、その外部運送業者から取得します。出荷履歴ページで [プロセス番号による追跡] をクリックすると、システムにより、プロセス番号が URL (プレフィックスとサフィックスの間) に挿入されます。

受注書番号による追跡 URL/受注書番号追跡 URL サフィックス

受注書番号は、PeopleSoft 受注管理で作成する受注に割り当てる番号です。受注追跡 - 受注別追跡ページおよび出庫要求ページから、受注書番号によって追跡できます。

PeopleSoft 受注管理の受注書番号によって出荷を追跡する必要がある場合は、両方のフィールドに値を入力します。これらは、外部運送業者の受注追跡ページ URL の一部であり、それぞれ受注書番号の前後に配置されています。外部運送業者の受注追跡ページ URL は、その外部運送業者から取得します。受注追跡ページで [受注別追跡] をクリックすると、システムにより受注書番号が URL (プレフィックスとサフィックスの間) に挿入されます。

注: 受注書番号によって出荷を追跡する場合、ほとんどの外部運送業者では、引き続きプロセス番号が出荷に割り当てられます。内部受注書番号を出荷に添付できることから、出荷には、プロセス番号 (外部運送業者により割当) と受注書番号 (ユーザーにより割当) の 2 つの ID 番号が付与されることになります。プロセス番号は主要キーとして機能します。ほとんどの外部運送業者では、複数の顧客が同じ受注書番号を使用することが許可されていますが (10 件の利用先からの 10 個の出荷全てについて、受注書番号が同じになる可能性があります)、プロセス番号が繰り返し使用されることはないため、プロセス番号によって受注を追跡する方が効率的な場合があります。

運送業者カレンダー例外ページ

運送業者カレンダー例外ページ (CARRIER_SHIP_EXCPT) を使用して、できる限り正確に輸送リード タイムを計算するために、運送業者が配達や集荷を行わない時間を設定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [出荷/受領], [運送業者テーブル], [運送業者カレンダー例外]

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

休暇のための取扱休止や、運送業者が配送または集荷を行わない特定の日付など、その運送業者を一定期間使用できなくなる時間を設定します。これらのパラメータは、輸送リード タイムの設定に使用されます。

集荷なし 運送業者が集荷を行わない時間を指定する場合に選択します。

配達なし 運送業者が配達を行わない時間を指定する場合に選択します。

関連リンク
Creating Transportation Lead Times and Freight ChargesPeopleSoft Order Management

---

売上税/使用税の税務当局および税コードの定義

"売上税/使用税の税務当局" (TAX_AUTHORITY) および"売上税/使用税の税コード" (TAX_CODE) コンポーネントを使用して、税テーブルを定義します。

売上税/使用税の税務当局および税コードの定義に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
税務当局ページ	TAX_AUTHORITY	売上税/使用税の税務当局に追加するか、税務当局を更新します。
税コード ページ	TAX_CODE	売上税/使用税の税コードを追加するか、税コードを更新します。

PeopleSoft 税テーブルについて

PeopleSoft 税テーブルは単純な売上税要件を満たしており、この税テーブルを使用する場合、次の売上税/使用税情報を定義して管理する必要があります。

- 税務当局。税負債を一般会計に転記するために使用される、個別の税率および会計処理情報を含みます。
- 税コード。税務当局のグループで構成されます。

税務当局は、税を設定する権限を持つ機関です。当局が課すことのできる税のタイプには、地方税、州税、連邦税または法定のコミッション税があります。

税コードは、税務当局のグループです。税コードのパーセント率は、そのコード内に含まれる全ての税務当局のパーセント率の合計です。特定の地域に市税、取引使用税、郡税および州税が存在する場合、個別に 4 つの税務当局を作成し、単一の税コードに統合します。請求行レベルで出荷先顧客を入力したとき

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

に、システムでデフォルトの税コードを使用できるよう、税コードを出荷先顧客に関連付けることができます。出荷先顧客に定義された税コードは、受注行およびスケジュールに自動的に表示されます。

PeopleSoft 請求管理の請求行には、1 つの税コードが含まれますが、標準請求書 - 行 - 税情報ページで税が計算された後、各税務当局からの個別の率および金額を表示できます。PeopleSoft 受注管理では、受注行ごとに 1 つの税コードが含まれますが、各受注行には複数のスケジュールを含めることができます。さらに、各スケジュールには、同じ受注行について異なる税コードを含めることができます。PeopleSoft 受注管理では、税情報は受注入力フォーム ページのサマリに表示されます。

税務当局ページ

税務当局ページ (TAX_AUTHORITY) を使用して、売上税/使用税の税務当局に追加したり、税務当局を更新します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [売上税/使用税], [当局], [税務当局]

税率 当局で使用するパーセント税率を入力します。

注: PeopleSoft システムでは、税務当局の税負債を一般会計に転記する場合、[パーセント] フィールドと組み合わせて、[詳細] グループ ボックスでチャートフィールドを使用します。[勘定科目] フィールドは必須です。ビジネス ニーズに応じて、その他のチャートフィールドを定義し、一般会計情報をより詳細に追跡します。

税コード ページ

税コード ページ (TAX_CODE) を使用して、売上税/使用税の税コードを追加したり、税コードを更新します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [売上税/使用税], [コード], [税コード]

税率

[税率] グループ ボックスで、税コードの税務当局を追加または削除できます。

税務当局 事前定義された有効な税務当局を選択します。税務当局ページで、売上税/使用税の税務当局を追加または更新できます。

税率 各当局で使用する率を入力します。税コードのパーセント合計 (ページの上部に表示) は、当局を追加または削除したり、税務当局テーブルを更新すると、自動的に更新されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

計算パラメータ

計算パラメータを全て入力します。

消費税を含む 消費税額も課税対象とする必要がある場合に選択します。このチェック ボックスを選択すると、システムにより、売上税および使用税の計算前に、全ての消費税額が純額に加算されます。このオプションは、売上税/使用税および消費税の請求行ごとに、個別の税コード フィールドが存在する場合に関連します。売上税/使用税および消費税に個別の税コードを指定する場合、特定の行に両方の税コードを含めることができ、結果として、税に税を課す状況が発生します。これらのインスタンスでは、通常、システムにより最初に消費税が計算されます。次に、システムにより、その行の純額または純額と消費税額の合計のいずれかに対して、売上税および使用税が計算されます。

運送費込 選択した場合、運送費に課税する必要があることを示します。システムにより、売上税および使用税の計算前に、運送費が純額に加算されます。

割引込 選択した場合、システムにより、売上税および使用税の計算前に、割引額が純額から減算されます。

諸費用込 選択した場合、諸費用に課税する必要があることを示します。システムにより、売上税および使用税の計算前に、諸費用が純額に加算されます。

注: 税コードを定義した後、これらの税コードを出荷先顧客住所に割り当てることができます。税コードを顧客住所に割り当てると、関連する出荷先顧客住所を使用する受注行と請求行に、税コードが自動的に表示されるようになります。

追加の共通情報の定義

次のコンポーネントを使用して、追加の共通情報を定義します。

- 会計入力テンプレート (ACCOUNTINGENTRY)
- アクティビティ モニター登録 (PV_WL_REGISTRY)
- 添付 (ATTACHMENT_TBL)
- 自動採番 (AUTO_NUM_PNL)
- 商品コード (COMMOD_CODE)
- 物流ネットワーク (DS_NETWORK)

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 運送条件 (FREIGHT_TERMS)
- 税計算ソフトの地域コード更新 (RUN_TAXGEOUPD)
- 関税統計品目コード (HRMN_TARIFF_CD)
- イメージ ロケーション (IMAGE_LOCATION)
- 個人データ編集 (EX_PERSONAL_DATA2)
- 計画作成者コード (PLANNER_CODE)
- 理由コード (REASON_CD)
- 運送方法コード (SHIP_VIA_CD)
- 出荷先所在地 (SHIP_TO_CODES)
- 最終使用コード (SUT_USE_CD)
- 計測単位 (UNITS_OF_MEASURE)

次のコンポーネント インターフェイスを使用して、対応する各コンポーネント テーブルにデータをロードします。

- 商品コード コンポーネントのテーブルにデータをロードするには、COMMOD_CODE_CI コンポーネント インターフェイスを使用します。
- 関税統計品目コード コンポーネントのテーブルにデータをロードするには、HRMN_TARIFF_CD_CI コンポーネント インターフェイスを使用します。
- 運送方法コード コンポーネントのテーブルにデータをロードするには、SHIP_VIA_CD_CI コンポーネント インターフェイスを使用します。
- 最終使用コード コンポーネントのテーブルにデータをロードするには、SUT_USE_CI コンポーネント インターフェイスを使用します。

このセクションで説明するページは、[共通定義] メニューの全てのページを表しているわけではありません。追加の共通ページについては、そのページを含むビジネス プロセスの一部として説明します。

関連リンク

即時転記プロセス オプションの設定

追加の共通情報の定義に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
添付タイプ ページ	ATTACHMENT_TBL	添付タイプを定義します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
会計入力テンプレート ページ	ACCTG_TEMPLATE_AP	会計入力テンプレートを定義または修正します。
アクティビティ モニターのワークリストの登録	PV_WL_REGISTRY	購買者のアクティビティ モニター ページレットに表示可能なワークリスト エントリを選択します。
自動採番ページ	AUTO_NUM_PNL	固定客や取引先でもある顧客に固有のプレフィックスなど、PeopleSoft フィールドの自動採番詳細を定義します。番号は、自動的に 1 ずつ増分されます。
ユニット別自動採番ページ	AUTO_NUM_BU_PAGE	PeopleSoft フィールドの自動採番詳細をビジネス ユニット レベルで定義します。
商品コード ページ	COMMOD_CODE	商品コードを定義します。商品コードは運送クラスとも呼ばれ、B/L で使用して、運送格付および保険の目的で出荷製品をグループ化して識別します。
物流ネットワーク ページ	DS_NETWORK	物流ネットワーク コードを定義します。
予測セット ページ	FORECAST_SET	PeopleSoft 供給計画の予測のバージョンを定義します。
運送条件ページ	FREIGHT_TERMS	運送条件を設定します。
税計算ソフトの地域コード更新ページ	RUN_TAXGEOUPD	地域コード一括更新プロセス アプリケーション エンジン プロセス (TAXGEOUPD) を使用して、税に関する取引、所在地および住所の地域コードを更新します。 地域コード一括更新レポート TAXXGEOX0 (BI Publisher) を使用して、地域コードの一括更新プロセス中に発生した全てのエラーをリストするレポートを生成します。
関税統計品目コード ページ	HRMN_TARIFF_CD	関税統計品目コードを設定します。これらのコードは、国家間およびカナダの国境を越える出荷に添付される各種ドキュメントで必要となります。これらのコードは、アメリカ合衆国商務省によって、全ての商品について事前に設定されています。
イメージ ロケーション ページ	IMAGE_LOCATION	イメージの保存場所を設定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
ファイル ロケーション ページ	FILE_DIR_FS	システムで認識する必要があるファイル拡張子、取引の添付ファイル用のシステムの場所、電子メールやファックス ファイルの拡張子およびファイル サーバー ディレクトリを定義します。
個人データ ページ	EX_PERSONAL_DATA	従業員の住所データを確認および編集します。
個人データ編集ページ	EX_PERSONAL_DATA2	住所データなど、従業員情報を追加および編集します。 「個人データ ページ」を参照してください。
計画作成者コード ページ	PLANNER_TBL	計画作成者コードを入力します。
理由コード ページ	REASON_CD	理由コードを定義して、システムで実行されるさまざまなアクティビティの説明を指定します。 PeopleSoft 購買管理で受領したアイテムについて、返品理由コードおよび拒否理由コードを定義することもできます。
運送方法コード ページ	SHIP_VIA_CD	PeopleSoft 在庫管理、購買管理および受注管理での複数の機能で使用する、運送方法コード (出荷方法コードとも呼ばれます) を定義します。運送方法コードにより、出荷車両の寸法やオプションを記述します。
出荷先所在地 - 売上/使用税ページ	SUT_DFLT_TBL	出荷先所在地ごとに、売上税および使用税のデフォルトの情報を入力します。売上税率および使用税率は、通常、最終出荷先 (出荷先所在地) に基づきます。
標準産業分類コード ページ	SIC_CODE_PNL	取引先の SIC コードを表示、修正または追加します。このページでは、さまざまな方法を使用して特定のコードを検索できます。SIC コード別または親 - 標準産業分類コード別に検索できます。
最終使用コード ページ	SUT_ULTIMATE_USE	取引先の最終使用コードを定義します。最終使用コードは、税の適用を決定する場合に使用します。
計測単位ページ	UNITS_OF_MEASURE	リソースの単位を設定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

添付タイプ ページ

添付タイプ ページ (ATTACHMENT_TBL) を使用して、添付タイプを定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [添付], [添付タイプ], [添付タイプ]

定義する添付の [添付タイプ]、[名称] および[略称] を入力します。

会計入力テンプレート ページ

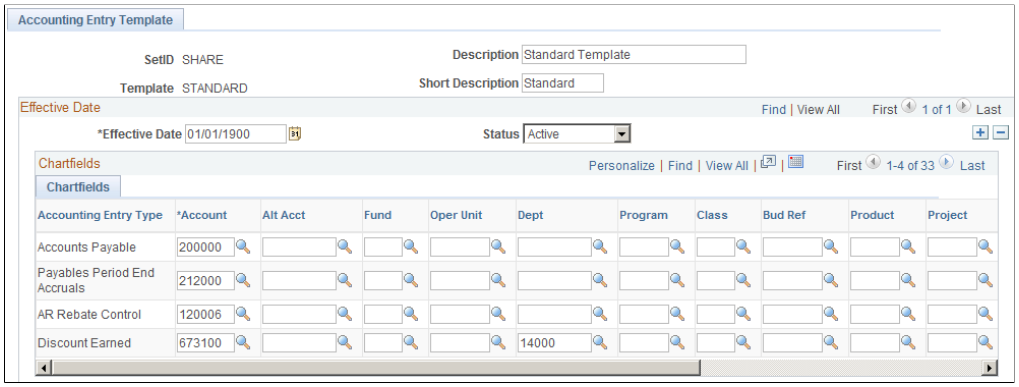
会計入力テンプレート ページ (ACCTG_TEMPLATE_AP) を使用して、会計入力テンプレートを定義または修正します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [会計入力テンプレート], [テンプレート], [会計入力テンプレート]

画像: 会計入力テンプレート ページ

次の例では、会計入力テンプレート ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



伝票の経費行アイテムを個別に入力した場合でも、ユーザーが定義して個別の伝票に関連付ける会計入力テンプレートに基づいて、追加の会計入力行がシステムにより生成されます。これらの追加の会計入力行には、買掛金、運送費および税経費の各入力に対する相殺が含まれます。

PeopleSoft 買掛金管理の伝票と支払の転記処理では、会計入力テンプレートを個別の伝票に適用し、貸借が一致した会計入力を作成します。複数のビジネス ユニットで同じ (または異なる) 会計入力を共有できるように、セットID ごとに会計入力テンプレートを設定します。

新しいテンプレートを作成する場合、*[買掛金]*、*[現金配布]*、*[従業員仮払金]* などの標準タイプを含む、会計入力タイプのリストが提示されます。このリストは、システムにより提供されますが、組織で相殺に使用する特定の勘定科目値を追加する必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

勘定科目	会計入力タイプごとに、関連付けられる勘定科目値を指定します。

[代替勘定科目]、[資金コード]、[業務ユニット] などの、その他のチャートフィールド値を指定することもできます。勘定科目タイプごとに 1 行が割り当てられ、これは転記を実行する際にシステムで使用するチャートフィールド値を示します。それぞれについて勘定科目値は必須ですが、その他のチャートフィールドの値はオプションです。

PeopleSoft 買掛金管理の継承を設定する際に、継承グループの継承オプションとして [継承しない] を選択すると、システムにより、会計入力テンプレートで設定されたチャートフィールド値が使用され、適切な会計入力行が生成されます。

PeopleSoft 買掛金管理およびプロジェクト コスト管理を使用して、会計入力テンプレートで [プロジェクト ID] フィールドを空白のままにし、PeopleSoft 買掛金管理の一般管理ページの [割引配賦方針] フィールドを選択する場合、プロジェクト ID についてチャートフィールド継承を使用する必要があります。これにより、同じプロジェクトに対して元のソース金額として割引を計上できます。

会計入力テンプレートを設定した後、各会計入力テンプレートに入力したデータを表示するレポートを生成できます。会計入力テンプレート レポート (APY0012) には、説明に加えて、システムに定義した会計入力テンプレートのリストが含まれます。

関連リンク

勘定科目ページ
アプリケーションの基礎のレポート: 一般的な説明

アクティビティ モニターのワークリストの登録

アクティビティ モニターのワークリストの登録ページ (PV_WL_REGISTRY) を使用して、購買者のアクティビティ モニター ページレットに表示可能なワークリスト エントリを選択します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [アクティビティ モニター], [アクティビティ モニター登録], [アクティビティ モニターのワークリストの登録]

自動採番ページ

自動採番ページ (AUTO_NUM_PNL) を使用して、固定客や取引先でもある顧客に固有のプレフィックスなど、PeopleSoft フィールドの自動採番詳細を定義します。番号は、自動的に 1 ずつ増分されます。

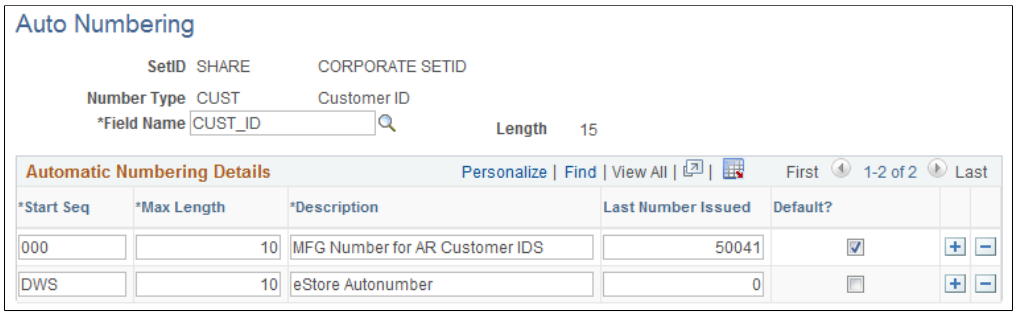
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [コード/自動採番], [自動採番], [自動採番]

画像: 自動採番ページ

次の例では、自動採番ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



フィールド名 自動採番の対象となるフィールドを選択します。

開始連番 最大 3 文字使用して、プレフィックスを入力します。たとえば、CUST_ID フィールドの場合、固定客には固有のプレフィックス *CST* を使用し、取引先でもある固定客には *VND* を使用することが必要な場合があります。

最大長 数字の最大長を入力します。

連番済最終番号 最終割当番号を入力すると、自動採番は、連番済最終番号を 1 ずつ増分することで開始されます。

このフィールドを空白にしておくと、システムでは、デフォルトで自動採番が使用されます。

デフォルト システムで自動採番をデフォルトで使用する必要がある場合に選択します。

注: 自動採番テーブルのデフォルト フラグは、発注書、調達依頼書、受領書、取引先 (サプライヤ) 返品には適用されません。

ユニット別自動採番ページ

ユニット別自動採番ページ (AUTO_NUM_BU_PAGE) を使用して、PeopleSoft フィールドの自動採番詳細をビジネス ユニット レベルで定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [コード/自動採番], [ユニット別自動採番], [ユニット別自動採番]

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このページは、自動採番に使用する自動採番ページと類似していますが、ビジネス ユニット別自動採番では、自動採番がフィールドごとに 1 つの連番に制限されます。このページを使用すると、ビジネス ユニット全体にわたるフィールドに、単一の自動採番連番を設定できます。これにより、ビジネス ユニット内で採番をより広範囲にわたって制御できます。設定される採番連番は、ビジネス ユニット内の指定されたフィールドについて 1 つのみとなるため、[デフォルト] フィールド値が常に選択されます。

このページのフィールドの説明については、自動採番の設定に関する前のトピックを参照してください。

商品コード ページ

商品コード ページ (COMMOD_CODE) を使用して、商品コードを定義します。

商品コードは運送クラスとも呼ばれ、B/L で使用して、運送格付および保険の目的で出荷製品をグループ化して識別します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [出荷/受領], [商品コード], [商品コード]

物流ネットワーク ページ

物流ネットワーク ページ (DS_NETWORK) を使用して、物流ネットワーク コードを定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [出荷/受領], [物流ネットワーク], [物流ネットワーク]

物流ネットワークは、在庫管理ビジネス ユニットの優先順位付リストで構成されます。顧客が製品を注文すると、物流ネットワークを使用して、在庫を出荷する倉庫が決定されます。

一般情報 - 出荷先オプション ページで、出荷先顧客ごとに物流ネットワーク コードを指定できます。その後、このコードは、顧客の受注出荷スケジュールにデフォルトで表示されます。

PeopleSoft 受注管理を使用する場合、受注管理ビジネス ユニットの出荷と返品ページで、デフォルトの出荷元の在庫管理ビジネス ユニットを設定することもできます。全ての受注行およびスケジュールについて、これをデフォルトの在庫管理ビジネス ユニットとして使用できます。このオプションは、物流ネットワークが複雑でない場合や常に 1 つの所在地から出荷する場合に役立ちます。出荷と返品ページのもう 1 つ別のオプションでは、物流ネットワーク コードが割り当てられていない出荷先顧客の受注について、システムで使用されるデフォルトの物流ネットワーク コードを選択できます。使用できるオプションはどちらか一方です。

在庫管理ユニット 物流ネットワークに含める必要がある、在庫管理ビジネス ユニットを入力します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

予測セット ページ

予測セット コンポーネント (FORECOST_SETS) を使用して、予測セットを設定します。

予測セット ページ (FORECAST_SET) を使用して、PeopleSoft 供給計画の予測のバージョンを定義します。

ナビゲーション

[在庫管理], [予測アイテム], [予測セット]

PeopleSoft 供給計画の予測のさまざまなバージョンを定義できます。たとえば、予測に関する異なるバージョンとして、慎重、確実、オプティミスティックの 3 つを定義できます。それぞれのケースについて、製品またはアイテムごとの予測数量を定義し、異なる予測に基づいた異なるバージョンの資材と生産能力計画を含む What-if シナリオを作成できます。予測セットを PeopleSoft 受注管理の製品予測および PeopleSoft 在庫管理のアイテム予測と関連付けます。

OPTIMISTIC や *LIKELY* など、固有の 2 つの予測セットを作成することが必要な場合もあります。システムでユーザーが定義するアイテムまたは製品の予測レコードはそれぞれ、これらのセットのいずれかに関連付けられます。これにより、同じアイテムまたは製品について複数バージョンの予測が存在可能となります。次の表では、このしくみの例を示しています。

オプティミスティック予測	*見込予測*
アイテム: 1000	アイテム: 1000
日付: 2000/12/1	日付: 2000/12/1
数量: 3500	数量: 2500
予測セット: オプティミスティック	予測セット: 見込

運送条件ページ

運送条件ページ (FREIGHT_TERMS) を使用して、運送条件を設定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [出荷/受領], [運送条件], [運送条件]

運送条件により、出荷の権利を渡す時期が決定されます。PeopleSoft 受注管理において、運送条件情報は、在庫の出庫処理リクエストと共に PeopleSoft 在庫管理に渡されます。運送条件コードおよび説明は、見積書、受注確認通知、梱包リスト、B/L、出荷品目録および請求書に印刷されます。

納入条件 1 値は、欧州連合加盟国のイントラスタット レポートで使用されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

中間荷受人	輸送中の商品に責任を負う運送会社を使用する場合に選択します。

関連リンク

Understanding Intrastat ReportingPeopleSoft Global Options and Reports

税計算ソフトの地域コード更新ページ

税計算ソフトの地域コード更新ページ (RUN_TAXGEOUPD) を使用して、地域コード一括更新プロセス アプリケーション エンジン プロセス (TAXGEOUPD) を実行し、税に関する取引、所在地および住所の地域コードを更新します。

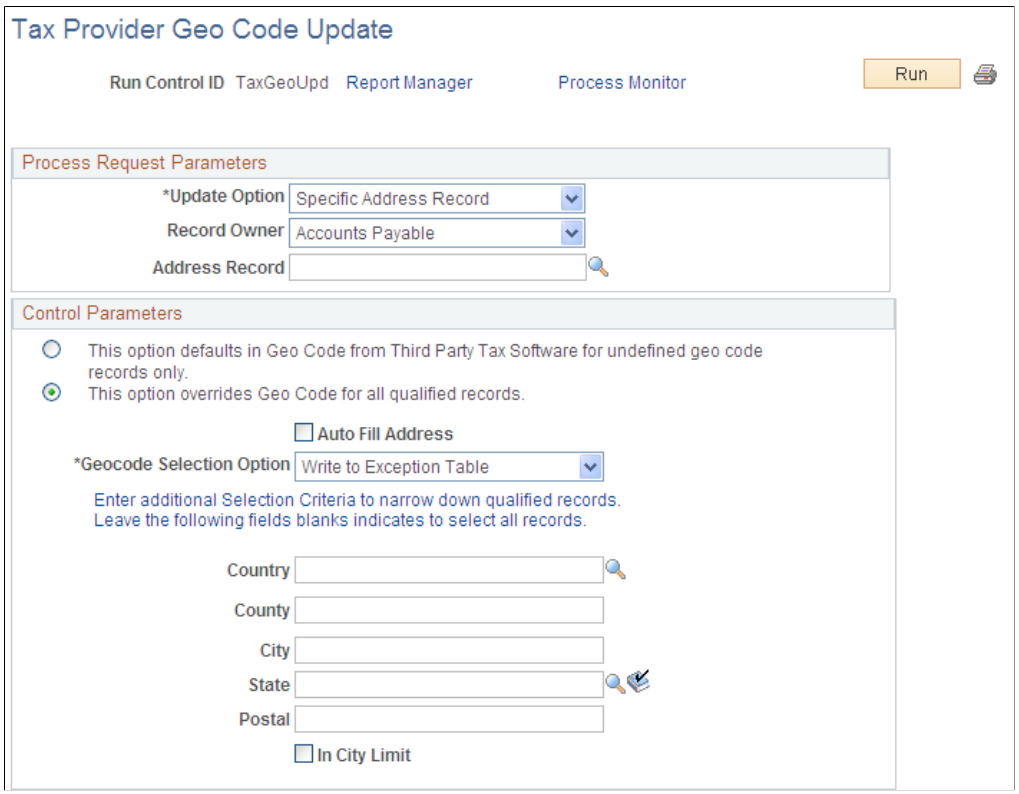
地域コード一括更新レポート TAXXGEOX0 (BI Publisher) を使用して、地域コードの一括更新プロセス中に発生した全てのエラーをリストするレポートを生成します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [売上税/使用税], [税計算ソフトの地域コード更新], [税計算ソフトの地域コード更新]

画像: 税計算ソフトの地域コード更新ページ

次の例では、税計算ソフトの地域コード更新ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

更新オプション

単一のテーブルで地域コードを更新するには、*[住所レコードを指定]* を選択します。税関連住所を含む全てのテーブルで地域コードを更新するには、*[全ての税関連住所レコード]* を選択します。[レコード オーナー] コントロールを使用して、更新テーブルを特定の PeopleSoft アプリケーションで所有されているテーブルに制限することもできます。

レコード オーナー

更新対象の住所テーブルを所有する PeopleSoft アプリケーションを選択します。全ての税関連住所レコードを処理するには、空白のままにしておきます ([更新オプション] が *[全ての税関連住所レコード]* に設定されている場合)。

住所レコード

更新対象の住所を含むアプリケーション テーブルを指定します。[住所レコード] フィールドは、[更新オプション] が *[住所レコードを指定]* に設定されている場合に有効化されます。

コントロール パラメータ

選択条件に一致し、地域コードが現在割り当てられていない全ての行について、システムにより地域コードを更新する必要がある場合は、*[地域コードが未定義のレコードに対し、サードパーティの税計算ソフトの地域コードをデフォルト値とします。]* というラベルのオプションを選択します。

選択条件に一致する全ての行について、システムにより地域コードを更新する必要がある場合は、*[適合する全てのレコードに対し、地域コードを上書きします。]* というラベルのオプションを選択します。

住所の自動記入

システムで、選択した地域コードからの情報を住所データに移入する場合に選択します。

地域コード選択オプション

地域コード一括更新プロセスで最初に見つかった地域コード レコードを使用したり、1 つの住所について複数の地域コード入力が見つかった場合にエラーとしてこの住所レコードにフラグを付ける必要があるかどうかを選択します。地域コード一括更新レポート (TAXGEOX0 または TAXXGEOX0) を実行して、地域コード更新エラーのリストを表示します。

追加選択条件

追加の選択条件フィールドを設定し、処理対象住所を制限します。

注: 地域コードの更新が必要となる頻度に関する推奨事項については、Taxware または Vertex のドキュメントを参照してください。地域コード一括更新プロセス アプリケーション エンジン プロセス (TAXGEOUPD) の実行を適宜スケジュールできます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

関税統計品目コード ページ

関税統計品目コード ページ (HRMN_TARIFF_CD) を使用して、関税統計品目コードを設定します。

これらのコードは、国家間およびカナダの国境を越える出荷に添付される各種ドキュメントで必要となります。これらのコードは、アメリカ合衆国商務省によって、全ての商品について事前に設定されています。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [出荷/受領], [関税統計品目コード], [関税統計品目コード]

イメージ ロケーション ページ

イメージ ロケーション ページ (IMAGE_LOCATION) を使用して、システムで認識する必要があるファイル拡張子、取引の添付ファイル用のシステムの場所、電子メールやファックス ファイルの拡張子およびファイル サーバー ディレクトリを定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ファイル/イメージ ロケーション], イメージ ロケーション

ファイル ロケーション ページ

ファイル ロケーション ページ (FILE_DIR_FS) を使用して、従業員住所データを確認および編集します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ファイル/イメージ ロケーション], [ファイル ロケーション], [ファイル ロケーション]

個人データ ページ

個人データ ページ (EX_PERSONAL_DATA) を使用して、従業員住所データを確認および編集します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [従業員データ], [個人データの確認], [個人データ]

個人データ編集ページ (EX_PERSONAL_DATA2) を使用して、住所データを含む従業員情報を追加および編集します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [従業員データ], [個人データ編集], [個人データ編集]

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ヒューマン リソース システムで従業員テーブルを更新し、その従業員データを PeopleSoft アプリケーションにロードすることをお勧めします。ただし、Financials データベースまたはサプライ チェーン マネジメント データベースを追加したり編集することが必要になる場合があります。従業員情報は機密であるため、これらのページへのアクセス権は、慎重に承認することをお勧めします。

注: システムでヒューマン リソースからのデータを受信する場合、個人データ ページを使用して行う全ての変更は、ロード処理を設定しない限り、ヒューマン リソースからのそれ以降の更新で上書きされる可能性があります。

計画作成者コード ページ

計画作成者コード ページ (PLANNER_TBL) を使用して、計画作成者コードを入力します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [製品関連], [計画], [計画作成者コード], [計画作成者コード]

理由コード ページ

セットID

新規値の追加ページで、複数のアプリケーションおよび複数のビジネス ユニットからアクセスできるように、セットID を含む理由コードを設定します。

理由タイプ

理由コードを分類する情報を入力します。たとえば、[理由タイプ] が *[事前通知理由]* に設定された理由コードが 3 つ存在する場合、これはこのコードが自動引落し事前通知で使用されることを示します。別の例として、*[売買契約]* は、理由コードが売買契約に関連して使用されることを示します。

理由コード

自動引落し事前通知のステータスが銀行 FB ファイル処理によって変更されたことを示すために *BANKEFT* と定義するなど、理由を最も的確に表すコードを定義して入力します。顧客のリクエストに応じて受注がキャンセルされたことを示すために、CUST-CA という理由コードを設定することもできます。理由コードにより、返品された在庫の説明、受注ヘッダー、受注行または発注スケジュールに対する変更の説明、自動引落し事前通知確認の説明などが提示されます。

注: 理由コードには、日付ごとに変更を行ったり変更を追跡できるように、効果的に日付が表示されます。

名称

この理由コードの意味を定義する略称と名称を入力します。

電子メール詳細説明

ワークフローに基づいて電子メールを生成する場合に、このチェック ボックスを選択します。PeopleSoft ワークフロー アドミニ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ストレータを使用して、組織内のワークフローについてアクセス、モニター、分析および制御を行います。

『*PeopleTools: Workflow Technology*』を参照してください。

品質メトリックに含む

検査、受入、拒否および返品される期間別の取引先出荷数量のパーセントと実際の数を追跡する品質メトリックに、この理由コードを自動的に含める場合、このチェック ボックスを選択します。このチェック ボックスを空白にしておくと、サプライヤのパフォーマンス メトリックに反映される不良個数のパーセントから、受信する特定の拒否理由コードまたは返品理由コードを除外する (またはパーセントに含める) ことができます。

たとえば、製品品質のパフォーマンス測定として未完成出荷を使用しないことが必要になる場合があります。返品理由/拒否理由ページを使用して、[品質メトリックに含む] フラグを特定の理由コードから削除できます。

注: このフィールドには、PeopleSoft サプライヤでのサプライヤパフォーマンスに関連する品質メトリックに定義された理由コードのみが表示されます。

Understanding Supplier Performance MetricsPeopleSoft eSupplier Connection を参照してください。

運送方法コード ページ

運送方法コード ページ (SHIP_VIA_CD) を使用して、PeopleSoft 在庫管理、購買管理および受注管理での複数の機能で使用する、運送方法コード (出荷方法コードとも呼ばれます) を定義します。

運送方法コードにより、出荷車両の寸法やオプションを記述します。

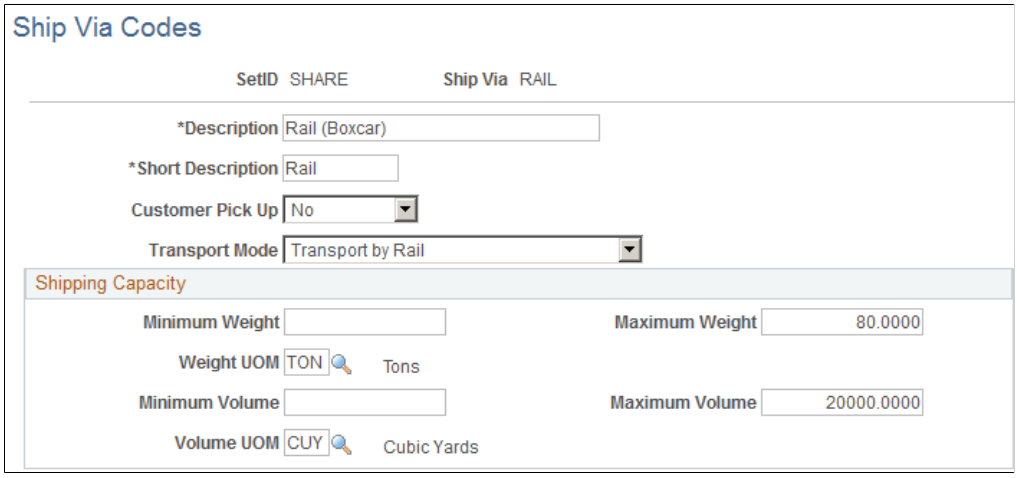
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [出荷/受領], [運送方法コード], [運送方法コード]

画像: 運送方法コード ページ

次の例では、運送方法コード ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



PeopleSoft 在庫管理、購買管理および受注管理での複数の機能で使用する、運送方法コード (出荷方法コードとも呼ばれます) を定義します。運送方法コードにより、出荷車両の寸法やオプションを記述します。

顧客店頭受取

倉庫から受注を出荷するのではなく、顧客が店頭で受注を受け取ることを示すには、*[はい]* を選択します。このフィールドは、PeopleSoft 受注管理で店頭販売機能と共に使用されます。多くの場合、店頭販売用に別の運送方法コードを設定することになります。この運送方法コードは、出荷先顧客 (または短期顧客のテンプレート)、受注グループまたは売買契約から継承できます。

輸送手段

受注の輸送方法を選択します。

[最小重量]、[最大重量]、[最小容積]、[最大容積]、[重量単位] および [容積単位]

この情報は、PeopleSoft 在庫管理で配送 ID、積載 ID、経路および出荷 ID を設定する際に、出荷容量をシステムでモニターする場合に使用されます。

標準産業分類コード ページ

標準産業分類コード ページ (SIC_CODE_PNL) を使用して、取引先の SIC コードを表示、修正または追加します。

このページでは、さまざまな方法を使用して特定のコードを検索できます。SIC コード別または親 - 標準産業分類コード別に検索できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [顧客], [標準産業分類コード], [標準産業分類コード]

標準産業分類 (SIC) コードを使用して、さまざまなタイプの産業を指定します。これらの SIC コードは階層構造で構成されており、その最も詳細なレベルには、何千ものあらゆる産業タイプが含まれます。PeopleSoft システムでは、カナダ、ドイツ、フランス、イギリス、アメリカ合衆国およびオーストラリアの標準的なコード階層が提供されています。

取引先または顧客を分類する追加手段として、SIC ID を使用できます。取引先の産業分類に基づいて購買を分析する必要がある場合、親 - 標準産業分類コードを使用して、取引先トランザクションを産業グループ別にレポートすることもできます。

検索条件

SIC コード SIC コードによって既存の値をシステム内で検索するには、SIC コードを入力または選択します。選択した SIC コード タイプについて既存の SIC コード全てを検索するには、データを何も入力せずに、[検索] ボタンをクリックします。

親 - 標準産業分類コード 親 - 標準産業分類コードによって既存の値をシステム内で検索するには、親 - 標準産業分類コードを入力または選択します。

標準産業分類コード

SIC コード 検索対象として選択した SIC コードを表示します。新しい SIC コードを追加する場合、このフィールドに新しいコードを入力します。

親 - 標準産業分類コード 検索対象として選択した親 - 標準産業分類コードを表示します。新しい SIC コードを追加する場合、新しい SIC コードが属する親 - 標準産業分類コードを選択します。

最終使用コード ページ

最終使用コード ページ (SUT_ULTIMATE_USE) を使用して、取引先の最終使用コードを定義します。

最終使用コードは、税の適用を決定する場合に使用します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [売上税/使用税], [最終使用コード], [最終使用コード]

最終使用コード 最終使用コードおよびその説明を入力します。PeopleSoft システムでは、売上税/使用税 (SUT) の適用のタイプとして最終使

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

用コードを使用します。出荷先所在地ごとに、これらのコードを税率およびその他の条件 (アイテム ID や取引先 ID など) と関連付けて、アイテムの最終使用に応じた代替税率を設定できます。

伝票の出荷先所在地に定義された任意の最終使用コードを、伝票コンポーネントの伝票に直接入力できます。

たとえば、個人用またはオフィス用にコンピュータを購入する場合、5% の税率が課せられる可能性があります。同じコンピュータを購入し、何か他のものを製造するために使用する場合、課せられる税率は 3% のみとなる可能性があります。3% の税率で定義された最終使用コードを使用して、出荷先所在地の売上税および使用税のデフォルトを設定すると、この最終使用コードを伝票に割り当てて、5% の税率の代わりに 3% の税率を取得できます。

出荷先所在地 - 売上/使用税ページ

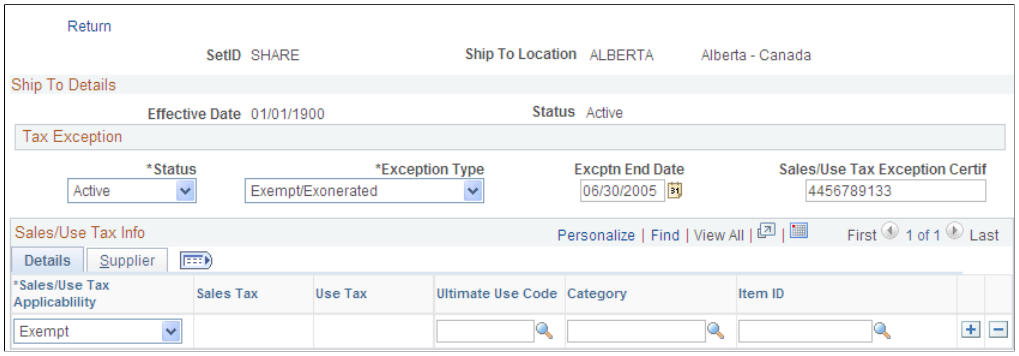
出荷先所在地 - 売上/使用税ページを使用して、最終使用コードを出荷先所在地に指定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [製品関連], [調達オプション], [購買管理], [出荷先所在地][売上税/使用税] リンクをクリックします。

画像: 出荷先所在地 - 売上/使用税ページ

次の例では、出荷先所在地 - 売上/使用税ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



出荷先所在地レベルには、5 つのオプションがあります。

1. 最終使用コードを入力し、[売上税/使用税適用] フィールドで *[課税対象]* を選択して、[売上税] フィールドに税コードを入力します。

   これにより、購入するアイテムの用途に基づいて代替税率を設定できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

2. 最終使用コードを入力し、[売上税/使用税適用] フィールドで *[非課税]* を選択します。

   この出荷先所在地の伝票でこの最終使用コードを選択すると、その伝票は非課税となります。

3. 最終使用コードを入力し、特定の取引先および取引先所在地に指定します。

   この出荷先所在地に出荷する取引先および取引先所在地のデフォルトの税コードは、伝票で上書きしない限り、ここで入力する税コードとなります。

4. 最終使用コードを入力し、特定のアイテム カテゴリに指定します。

   出荷先所在地に対するこのカテゴリ内のアイテムは、伝票で上書きしない限り、税コードで示された率で課税されます。

5. 最終使用コードを入力し、特定のアイテムに指定します。

   出荷先所在地については、このアイテムのデフォルトの税率は、ここで入力する税コードで示される税率となります。

関連リンク
Defining Ship To LocationsPeopleSoft Source to Settle Common Information
Entering Invoice Information for Online VouchersPeopleSoft Payables

計測単位ページ

計測単位ページ (UNITS_OF_MEASURE) を使用して、リソースの単位を設定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [単位], [計測単位]

この単位と別の単位との間のデフォルト変換率を割り当てるには、変換先単位を選択して変換率を入力します。変換率の逆数は自動的に計算されます。

単位およびそれらの単位が割り当てられるリソースに関する情報は、単位レポートで表示できます。

共通仕訳定義の定義

共通仕訳定義を定義するには、次のコンポーネントを使用します。

- 仕訳クラス (JRNL_CLASS)
- 仕訳入力テンプレート (GL_JRNL_TMPLT)
- 仕訳ソース (SOURCE)
- スケジュール (SCHEDULES)

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

共通仕訳定義の定義に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
分割チャートフィールド入力ページ	PROC_PART_CF_ENTRY	分割 ID を作成および修正します。PeopleSoft 一般会計処理では、仕訳転記処理 (GL_JP) を同時に実行する際に、分割 ID を使用して取引データをグループ化します。
仕訳クラス ページ	JRNL_CLASS	あらゆるタイプの仕訳入力および一部のレポートについてヘッダー ページで選択可能な仕訳分類値は、レポート目的で使用され、このページを使用して JRNL_CLASS_TBL に追加されます。
仕訳入力テンプレート - チャートフィールド ページ	GL_JRNL_TMPLT	仕訳入力テンプレート ページを使用して、仕訳入力ページに表示するグリッド列を管理します。
仕訳ソース - 定義ページ	SOURCE1	仕訳ソース - 定義ページを使用して、仕訳ソースを定義します。
仕訳ソース - 仕訳オプション ページ	SOURCE2	仕訳ソース - オプション ページを使用して、特定のソースの仕訳エラー処理オプションを指定します。
仕訳ソース - 仮計上チャートフィールド - 貸借一致 ページ	SRC_JE_BS_CFS_SEC	仮計上勘定のチャートフィールドおよびチャートフィールド値を指定します。
仕訳ソース - 仮計上チャートフィールド - 編集 ページ	SRC_JE_ES_CFS_SEC	仮計上勘定のチャートフィールドおよびチャートフィールド値を指定します。
仕訳ソース - 仮計上チャートフィールド - 金額 ページ	SRC_JE_AS_CFS_SEC	仮計上勘定のチャートフィールドおよびチャートフィールド値を指定します。
仕訳ソース - 通貨オプション ページ	SOURCE3	特定のソースの通貨オプションを指定します。
仕訳ソース - 承認オプション ページ	SOURCE4	特定のソースについて定型仕訳および予算仕訳の仕訳入力承認オプションを指定します。
スケジュール ページ	SCHEDULE	定型仕訳入力または繰返仕訳入力の生成を自動化および管理するスケジュールを作成します。

分割チャートフィールド入力ページ

分割チャートフィールド入力ページ (PROC_PART_CF_ENTRY) を使用して、分割 ID を作成および修正します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

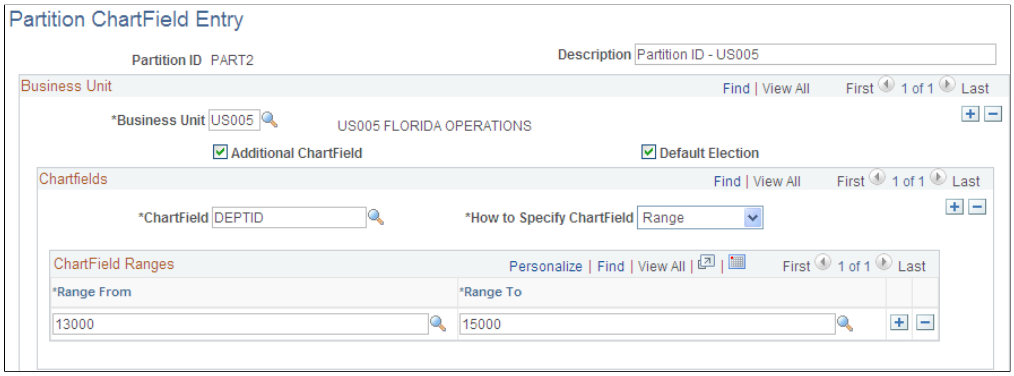
PeopleSoft 一般会計処理では、仕訳転記処理 (GL_JP) を同時に実行する際に、分割 ID を使用して取引データをグループ化します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [分割処理 ID], [分割チャートフィールド入力], [分割チャートフィールド入力]

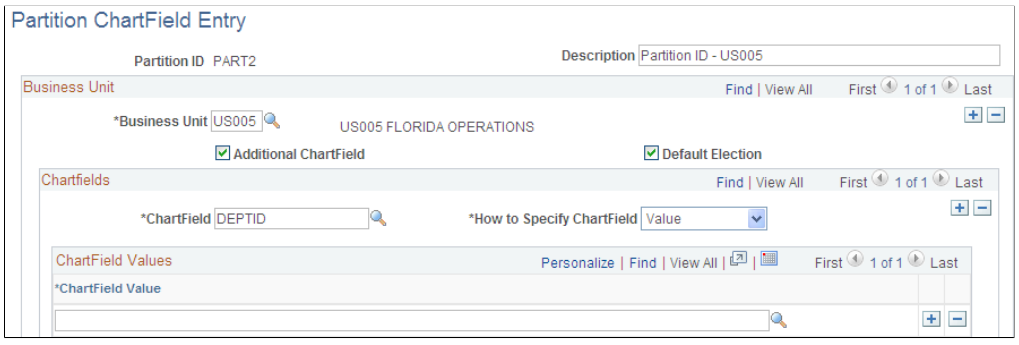
画像: 範囲としてチャートフィールドを指定する場合の、分割チャートフィールド入力ページ

次の例では、範囲としてチャートフィールドを指定する場合の、分割チャートフィールド入力ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



画像: 値としてチャートフィールドを指定する場合の、分割チャートフィールド入力ページ

次の例では、値としてチャートフィールドを指定する場合の、分割チャートフィールド入力ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



注: このテーブルへのアクセス権限は、DBA またはシステム管理者にのみ付与する必要があります。

分割 ID の新規インスタンスを追加するには、タブを選択して新しい値を追加し、[分割 ID] フィールドにその名前を入力して、[追加] ボタンをクリックします。表示される分割処理ページで、分割 ID の新規インスタンスを定義できます。

分割 ID

入力した分割 ID が表示され、これにより、単一のデータ セットとして同時に処理する必要がある取引のグループが一意に識別されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

説明 分割 ID の説明を入力します。

ビジネス ユニット 最初に、ビジネス ユニットおよびチャートフィールド スキーマを作成し、相互に排他的なデータ セットに取引を分類します。次に、スキーマで定義された分割 ID (固有のデータ セット) ごとに、適切なビジネス ユニットをここで入力します。1 つの分割 ID に複数のビジネス ユニットを設定できます。

追加チャート フィールド ビジネス ユニットに加えて、チャートフィールド別にデータをグループ化する場合に、このオプションを選択します。このビジネス ユニットについて、ビジネス ユニット別にのみ取引を処理する必要があり、処理用にさらに取引を分割しない場合は、空白のままにしておきます。ビジネス ユニットの下位に複数のチャートフィールドを設定できます。

デフォルト選択 ビジネス ユニットのデフォルトとして、この分割 ID を指定します。他のどの分割処理にも含まれない取引は、このデフォルトのグループに含められます。1 つのビジネス ユニットについて選択できるデフォルトは、1 つのみです。

チャートフィールド データ セットのグループ化に使用するチャートフィールドを選択します。

チャートフィールド指定方法 チャートフィールド値は、範囲としてまたは単一値として定義できます。

チャートフィールド値の範囲を指定するには、*[範囲]* を選択します。このオプションを選択すると、次の 2 つのフィールドのための編集ボックスが表示されます。

範囲開始 プロセス グループに含める必要があるチャートフィールドの下限値を指定します。

終了 プロセス グループに含める必要があるチャートフィールドの上限値を指定します。

単一のチャートフィールド値を指定してプロセス グループを定義するには、*[値]* を選択します。このオプションを選択すると、次のフィールドのための編集ボックスが表示されます。

チャートフィールド値 プロセス グループに含める必要があるチャートフィールドの単一値を指定します。

不要な分割 ID を削除するには、SQL を使用します。

仕訳クラス ページ

仕訳クラス ページ (JRNL_CLASS) を使用して、仕訳クラスを追加および管理します。

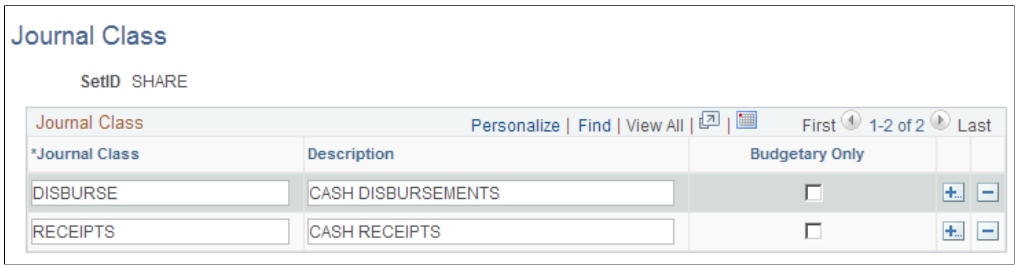
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [仕訳], [クラス], [仕訳クラス]

画像: 仕訳クラス ページ

次の例では、仕訳クラス ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



仕訳クラス

仕訳クラス カテゴリの略称を入力します。仕訳クラスは、レポート目的および PeopleSoft 以外の会計システムからの入力を分類することを目的として、仕訳入力を複数のカテゴリに分割するために設定されたカテゴリです。これらの値の有効なセットを設定して使用し、選択した 1 つ以上の仕訳クラス値を対象に仕訳入力レポートを実行できます。ここで入力する各仕訳クラス値によって、JRNL_CLASS_TBL レコードが更新されます。

これらの値 (仕訳クラス フィールド値) は、一般会計の仕訳入力 ヘッダー ページでのみ選択できます。

名称

名称は、仕訳クラスの略称の意味を正確に説明し、仕訳クラス レポート (GLC4008) に表示されます。

予算目的のみ

[仕訳クラス] フィールドは、予算仕訳入力 - 予算行 – 基本通貨詳細ページにも表示されます。ここで定義する全ての仕訳クラス カテゴリ (特に、コミットメント コントロール予算仕訳に関連するもの) について、このオプションを選択する必要があります。

関連リンク

アプリケーションの基礎のレポート: 一般的な説明

仕訳入力テンプレート - チャートフィールド ページ

仕訳入力テンプレート ページ (GL_JRNL_TMPLT) を使用して、仕訳入力ページに表示するグリッド列を管理します。

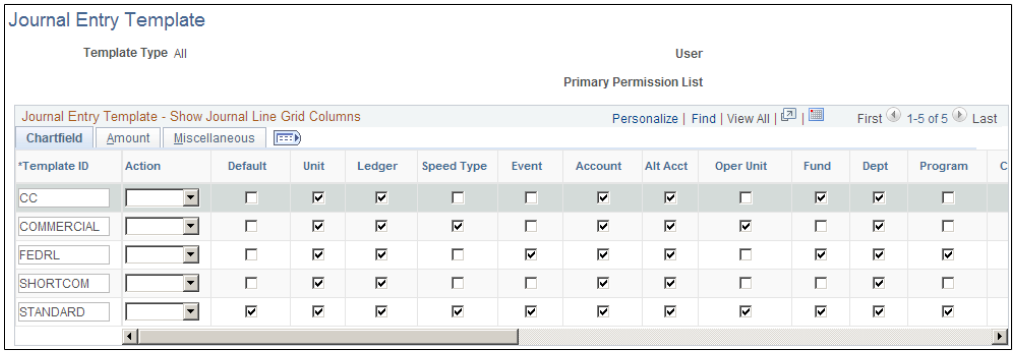
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [仕訳], [入力テンプレート], [仕訳入力テンプレート]

画像: 仕訳入力テンプレート - チャートフィールド ページ

次の例では、仕訳入力テンプレート - チャートフィールド ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



PeopleSoft 一般会計は、仕訳入力ページ グリッドに表示される多数のフィールドと共に提供されます。使用しているフィールド数が提供されるフィールド数より少ない場合、このページを使用して、不要な列をグリッドから削除できます。たとえば、入力中の仕訳でユニット間取引を使用しない場合、その仕訳の入力ページから、ユニット間フィールドを削除できます。

全てのユーザー、特定のユーザー ID または特定のプライマリ権限リストのユーザーによって使用される仕訳入力テンプレートを定義できます。

チャートフィールド

[チャートフィールド] タブを使用して、テンプレート用に仕訳入力ページに含める必要があるデータの列を管理します。

テンプレート ID 仕訳入力テンプレートの名前。

デフォルト 仕訳入力ページを使用する際に、デフォルトとしてこのテンプレートを使用する必要がある場合に選択します。

アクション デフォルトのチェック ボックスを除く全てのチェック ボックスをオンまたはオフにするアクションを選択します。

ユニット 取引のソースであるアプリケーション ビジネス ユニット。

元帳 会計入力を転記する必要がある特定の元帳。

スピード入力 チャートフィールド値の組合せを表すコード。スピード入力を使用すると、通常一緒に使用されるチャートフィールドの入力が簡略化されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

残りのチェック ボックスの名前は、アプリケーションで提供される仕訳入力ページに表示されるチャートフィールドに対応しています。仕訳入力ページに表示する必要があるフィールドごとに、チェック ボックスを選択します。

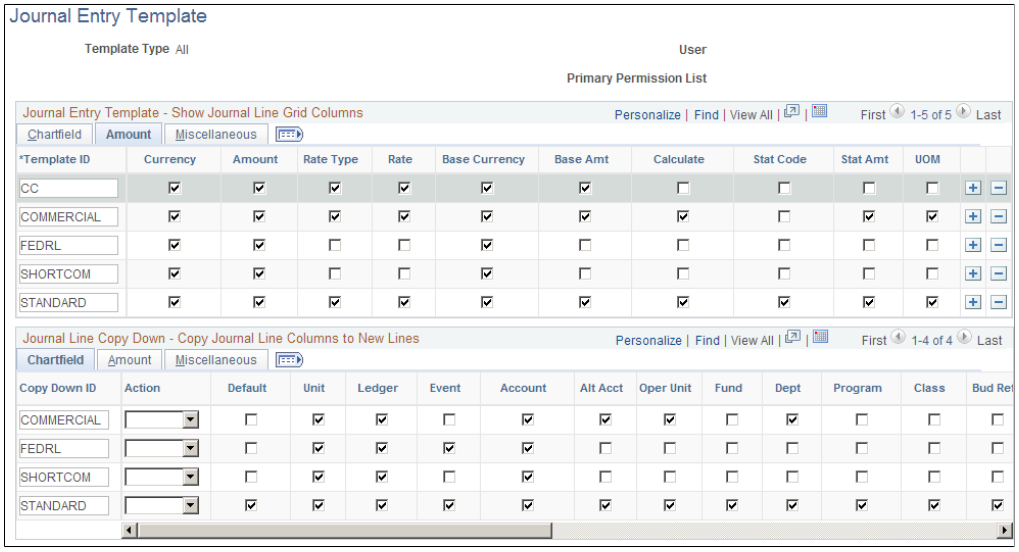
注: [プロジェクト チャートフィールド] チェック ボックスを選択する場合、関連する全てのプロジェクト チャートフィールドが、仕訳入力ページで使用可能となります。プロジェクト チャートフィールドに関連付けられるチャートフィールドは、[アクティビティ]、[ソース タイプ]、[カテゴリ]、[サブカテゴリ]、[プロジェクト コスト管理ユニット] および [分析タイプ] です。[プロジェクト チャートフィールド] が選択されていないか、選択が解除された場合、関連するチャートフィールドは使用できません。

金額

[金額] タブを選択します。

画像: 仕訳入力テンプレート ページ - [金額] タブ

次の例では、仕訳入力テンプレート ページ - [金額] タブのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



チェック ボックスの名前は、仕訳入力ページに表示される通貨および金額に関連するフィールドに対応しています。仕訳入力ページに表示する必要があるフィールドごとに、チェック ボックスを選択します。その他のフィールドから、表示する必要があるものを選択します。

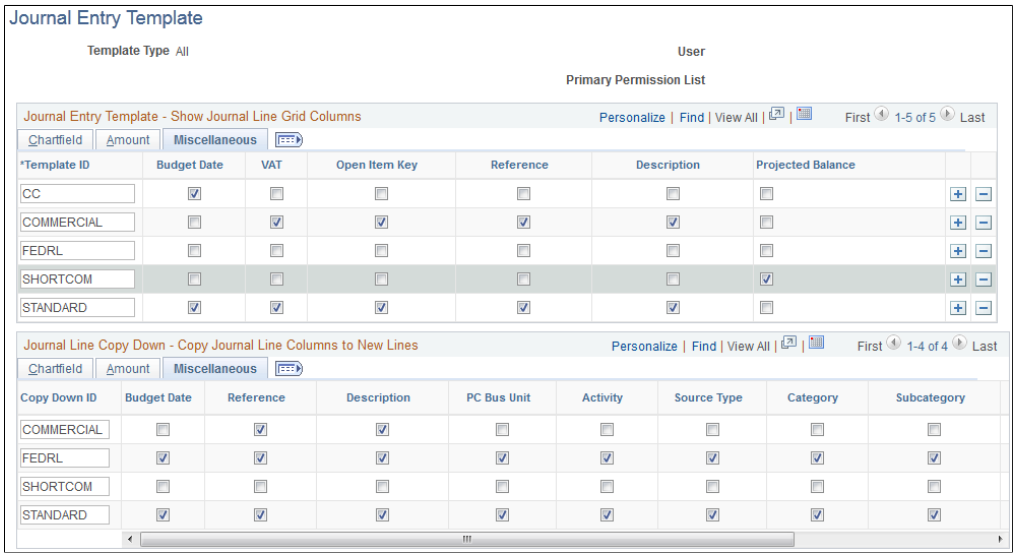
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

その他

[その他] タブを選択します。

画像: 仕訳入力テンプレート ページ: [その他] タブ

次の例では、仕訳入力テンプレート ページ: [その他] タブのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



予算日付 コントロール予算用の仕訳の日付。

参照 仕訳行の参照。

説明 仕訳行の説明。

[消費税] および [仮勘定キー] は、[その他] タブからも使用できます。



[全ての列を表示] ボタンをクリックすると、タブを使用せずに [チャートフィールド]、[金額]、[その他] の全ての列が表示されます。



全ての列が表示されたビューで [タブを表示] ボタンをクリックすると、タブ フォーマットに戻ります。

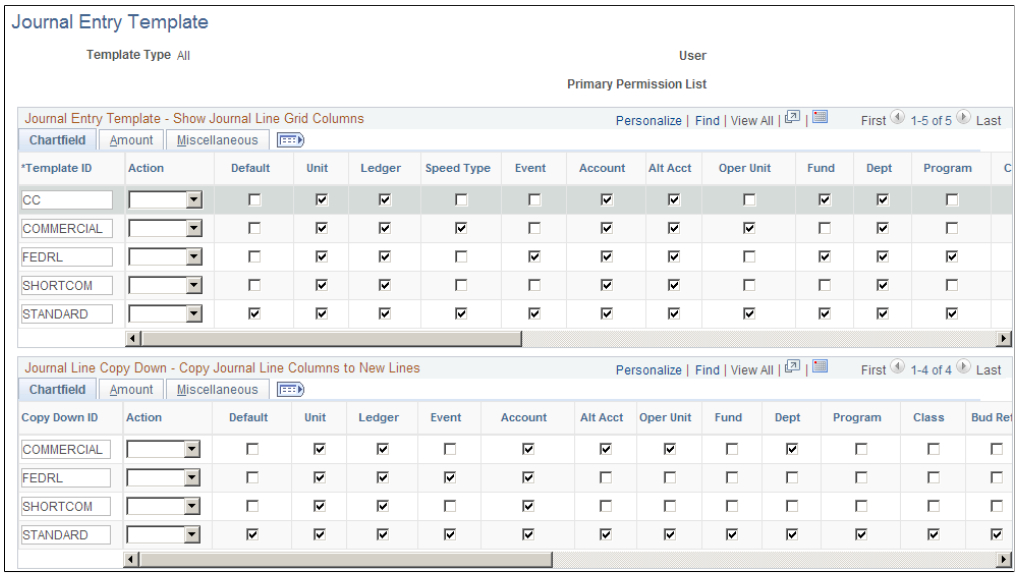
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

仕訳行コピー

テンプレート用の [仕訳行コピー] の設定は、仕訳行グリッド表示テンプレートと同じページに表示されます。これには、仕訳行グリッド表示について説明したものと同じタブと、全ての列を表示したり、タブを表示するための同じ切り替えボタンが含まれます。

画像: 仕訳入力テンプレート ページ - [仕訳行コピー] グリッド

次の例では、仕訳入力テンプレート ページ - [仕訳行コピー] グリッドのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



仕訳行ページに仕訳行を追加する場合、仕訳入力テンプレートで選択したフィールドが、先行する行からコピーされます。

仕訳入力テンプレート ページを使用すると、さまざまなコピー先テンプレートを定義できます。たとえば、全てのフィールドをコピーするテンプレートを定義したり、金額フィールドを除く全てのフィールドをコピーする別のテンプレートを定義できます。

テンプレートをデフォルトとして指定するには、[デフォルト] を選択します。

関連リンク

Creating Journal EntriesPeopleSoft General Ledger

仕訳ソース - 定義ページ

仕訳ソース - 定義ページ (SOURCE1) を使用して、仕訳ソースを定義します。

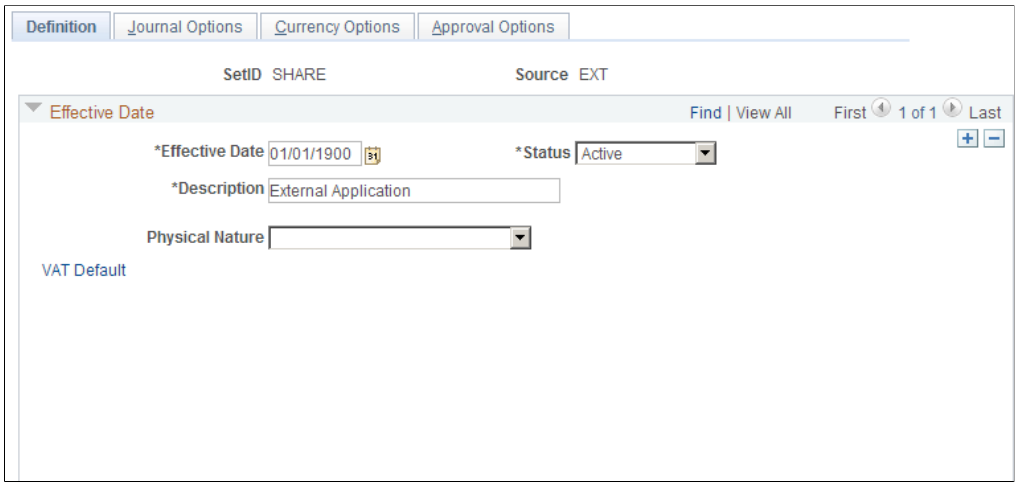
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [仕訳], [ソース], [定義]

画像: 仕訳ソース - 定義ページ

次の例では、仕訳ソース - 定義ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



有効日 デフォルトで現在日付を表示します。ロードする可能性のある全ての履歴データに対応できるよう、十分に早期の有効日を入力します。

ステータス *[アクティブ]* または *[非アクティブ]* のいずれかを選択します。このソースが有効日以降の処理について有効であるかどうかを指定します。

説明 システム全体でレポート、その他のページおよびオンライン照会で使用するための説明を入力します。

物理特性 このソースが、通常、消費税によって影響を受ける商品またはサービスに関連する場合、消費税の値を入力できます。

消費税デフォルト このリンクをクリックして主要な消費税デフォルト ページにアクセスし、仕訳ソースに追加のデフォルト オプションを入力します。

各仕訳入力元を指定する以外に、PeopleSoft アプリケーションを使用すると、特定のデータ入力ソースに特別な処理オプションを定義でき、これにより、特定のソースをいつアクティブにするかを管理できます。

*ソース*により、仕訳入力元が特定されます。また、特別な仕訳入力のエラー処理オプションを定義することもできます。ソースを使用して、仕訳入力を取引タイプや取引グループに関連付けることもできます。ソースには、仕訳を入力する個人、ファイナンスや会計などの部門、および一般会計への買掛金や給与の入力といった取引を生成するサブシステムを含めることができます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ソースを使用して、照会およびレポートを簡易化できます。通常、ソースは仕訳入力を参照する画面やレポートに表示され、これらのソースを使用して、類似したソースからの仕訳入力を特定したりグループ化できます。たとえば、さまざまな収益タイプ (販売、サービス、利息、支払遅延金など) またはさまざまな経費発生元 (給与計算処理、給与の計上と逆仕訳、返金、供給品経費など) を指定するソースを定義できます。

設定は通常、ソース、元帳、ビジネス ユニット レベルの順に*優先*されます。逆に、*デフォルト*は、ビジネス ユニット、元帳、ソース レベルの順になります。たとえば、元帳設定はビジネス ユニット設定より優先されますが、ソース設定は、同じオプションについて元帳とビジネス ユニット レベルでのどちらの設定よりも優先されます。

仕訳ソース - 仕訳オプション ページ

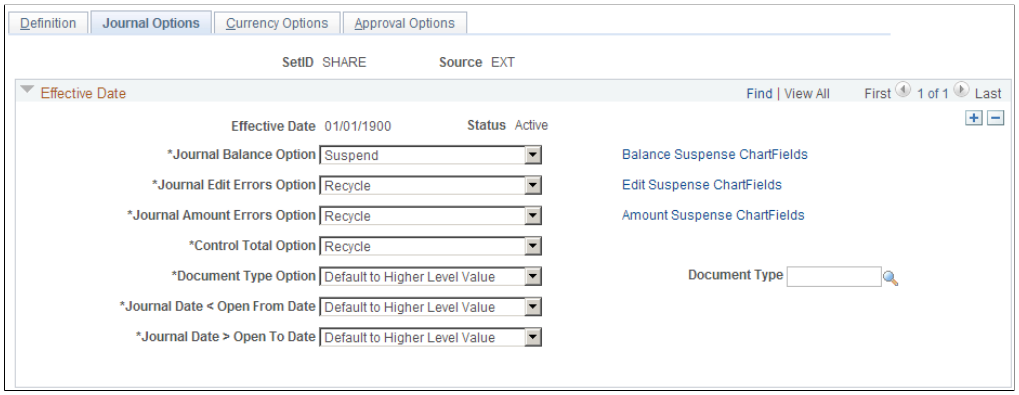
仕訳ソース - 仕訳オプション ページ (SOURCE2) を使用して、特定のソースの仕訳エラー処理オプションを指定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [仕訳], [ソース], [仕訳オプション]

画像: 仕訳ソース - 仕訳オプション ページ

次の例では、仕訳ソース - 仕訳オプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



入力エラー処理では、[仕訳貸借一致オプション]、[仕訳編集エラー オプション]、[仕訳金額エラー オプション]、[コントロール合計オプション] および [ドキュメント タイプ オプション] を使用します。

上位レベルの値を継承 ビジネス ユニット用元帳ページと一般会計定義ページで定義されたエラー処理オプションを使用します。(ドキュメント タイプの場合、オプションは、ソースまたはビジネス ユニット用元帳ページでのみ定義できます。)

再検討 エラーを含む仕訳入力が無効としてマークされ、転記不可となります。仕訳を修正して再編集した後、その仕訳を正常に転記できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

なし	コントロール合計エラーについてのみ使用できます。コントロール合計は実際の合計に対してチェックされません。
仮計上	各仕訳を一致させるために必要な金額が、仮計上勘定に転記されます (貸借一致していない場合)。仕訳編集エラーの場合、無効なチャートフィールドを参照する行からの金額が転記されます。エラー行の金額はゼロになります。 [仮計上] を選択する場合、[仮計上チャートフィールド - 貸借一致]、[仮計上チャートフィールド - 編集] または [仮計上チャートフィールド - 金額] の各リンクをクリックして、仮計上勘定のチャートフィールドおよびチャートフィールド値を指定できるページにアクセスします。
指定	[ドキュメント タイプ] に対してのみ使用できます。ドキュメント連番を使用している場合に、ドキュメント タイプを指定できます。
オープン開始日に変更	[仕訳日 < オープン開始日] に対してのみ使用できます。
オープン終了日に変更	[仕訳日 > オープン終了日] に対してのみ使用できます。

注: ソース レベルで仕訳オプションを定義する場合、そのソースのみを使用する仕訳についてビジネス ユニット レベルまたは元帳レベルで指定したエラー処理は、全て上書きされます。

そのソースについてエラーで入力された仕訳入力のシステムによる処理方法を指定できます。設定は通常、ソース、元帳、ビジネス ユニット レベルの順に優先されます。逆に、デフォルトは、ビジネス ユニット、元帳、ソース レベルの順になります。たとえば、元帳設定はビジネス ユニット設定より優先されますが、ソース設定は、同じオプションについて元帳とビジネス ユニット レベルでのどちらの設定よりも優先されます。

次のエラー タイプの設定は、ソース レベルで指定できます。

仕訳貸借一致エラー

仕訳貸借一致エラー グループ ボックスのオプションを使用して、貸借不一致仕訳が貸借一致した元帳に転記された場合のシステムによるエラーの処理方法を定義します。貸借不一致仕訳は、予算元帳など、貸借不一致元帳として設定された元帳にのみ転記できます。

仕訳編集エラー オプション

[仕訳編集エラー] グループ ボックスのオプションを使用して、無効なチャートフィールドの値または組合せが仕訳行に入力された場合のシステムによるエラーの処理方法を定義します。仕訳行を入力すると、PeopleSoft 一般会計により、全てのチャートフィールド値が仕訳入力日時点で有効であることがチェックされます。システムで無効なチャートフィールド値またはチャートフィールド組合せが検出されると、エラーが発生します。このエラー カテゴリには、空白の通貨コードや無効な仮勘定参照値などのその他の行エラーも含まれます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

仕訳金額エラー オプション

[仕訳金額エラー オプション] グループ ボックスのオプションを使用して、外貨金額と通貨額が同じ符号でない場合のシステムによるエラーの処理方法を定義します。たとえば、外貨金額が 10.00 USD であり、通貨額が −200.00 USD である仕訳についてのエラーの処理方法を指定します。

コントロール合計エラー

仕訳行を入力すると、PeopleSoft 一般会計により、仕訳に入力した行、借方、貸方およびユニットの数の累計が表示されます。コントロール合計エラー グループ ボックスのオプションを使用して、仕訳行合計が仕訳ヘッダー レベルで入力したコントロール合計と一致しない場合のシステムによるエラーの処理方法を定義します。この機能はオプションです。

ドキュメント タイプ オプション

これは、インストール オプション コンポーネント内でドキュメント連番を有効化した場合にのみ適用されます。このドキュメント タイプは、一般会計の仕訳入力コンポーネントを使用して入力される仕訳のデフォルトとなります。

関連リンク

Setting Up a System for Document SequencingPeopleSoft Global Options and Reports

仕訳ソース - 仮計上チャートフィールド - 貸借一致 ページ

仕訳ソース - 仮計上チャートフィールド - 貸借一致 ページ (SRC_JE_BS_CFS_SEC) を使用して、仮計上勘定のチャートフィールドおよびチャートフィールド値を指定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [仕訳], [ソース], [仕訳オプション], [仮計上チャートフィールド - 貸借一致]

[仮計上チャートフィールド - 貸借一致] リンクをクリックします。

仮計上勘定のチャートフィールドおよびチャートフィールド値を入力します。

仕訳ソース - 仮計上チャートフィールド - 編集 ページ

仕訳ソース - 仮計上チャートフィールド - 編集 ページ (SRC_JE_ES_CFS_SEC) を使用して、仮計上勘定のチャートフィールドおよびチャートフィールド値を指定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [仕訳], [ソース], [仕訳オプション], [仮計上チャートフィールド - 編集]

[仮計上チャートフィールド - 編集] リンクをクリックします。

仮計上勘定のチャートフィールドおよびチャートフィールド値を入力します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

仕訳ソース - 仮計上チャートフィールド - 金額 ページ

仮計上チャートフィールド - 金額 ページ (SRC_JE_AS_CFS_SEC) を使用して、仮計上勘定のチャートフィールドおよびチャートフィールド値を指定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [仕訳], [ソース], [仕訳オプション], [仮計上チャートフィールド - 金額]

[仮計上チャートフィールド - 金額] リンクをクリックします。

仮計上勘定のチャートフィールドおよびチャートフィールド値を入力します。

仕訳ソース - 通貨オプション ページ

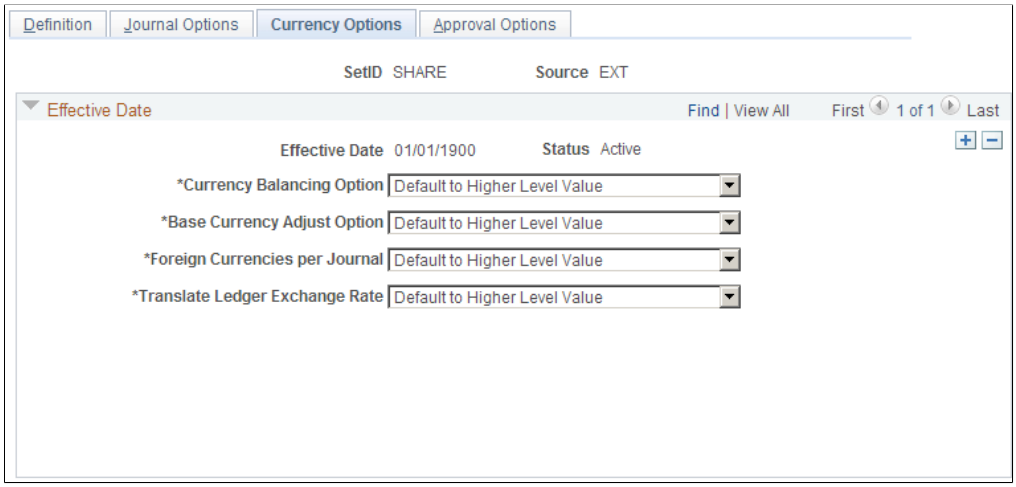
仕訳ソース - 通貨オプション ページ ページ (SOURCE3) を使用して、特定のソースの通貨オプションを指定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [仕訳], [ソース], [通貨オプション]

画像: 仕訳ソース - 通貨オプション ページ

次の例では、仕訳ソース - 通貨オプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



通貨貸借一致オプション

このソースの仕訳行の貸借一致方法を指定する、通貨貸借一致オプションを選択します。

上位レベルの値を継承 ユニット別元帳ページと一般会計定義ページで定義された通貨オプションを使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

全ての通貨で貸借一致 個別の通貨タイプで外貨仕訳行の外貨金額を貸借一致させます。たとえば、カナダ ドルでの全ての行は全体で貸借一致され、メキシコ ペソでの全ての行は全体で貸借一致されます。

基本通貨のみ貸借一致 全ての仕訳行を基本通貨でのみ貸借一致させます。

基本通貨調整オプション

外貨仕訳での基本通貨に対する手動調整を管理する、基本通貨調整オプションを選択します。

上位レベルの値を継承 ユニット別元帳ページと一般会計定義ページで定義された通貨オプションを使用します。

基本通貨調整可 外貨仕訳行の基本通貨額を直接変更できます。

基本通貨調整の却下 外貨仕訳行の基本通貨額を直接変更することはできません。

外貨仕訳

仕訳ごとの外貨数を管理する、外貨仕訳オプションを選択します。

上位レベルの値を継承 ユニット別元帳ページと一般会計定義ページで定義された通貨オプションを使用します。

複数外貨 複数の外貨での行を仕訳に含めることができます。

単一外貨のみ 基本通貨または単一外貨でのみ行を仕訳に含めることができます。仕訳ヘッダーで外貨を指定する必要があります。

外貨なし 基本通貨でのみ行を仕訳に含めることができます。

注: ソース レベルで通貨オプションを定義する場合、そのソースのみを使用する仕訳についてビジネス ユニット レベルまたは元帳レベルで指定した通貨処理は、全て上書きされます。

元帳為替レート換算

指定された仕訳ソースの元帳を換算するために使用する、為替レートのソースを選択をします。

上位レベルの値を継承 [ユニット別元帳] または [一般会計定義] のレベルで定義された、[元帳為替レート換算] オプションを使用します。

主要元帳から継承 このオプションは、仕訳編集にのみ適用されます。編集時、主元帳行の外貨が換算元帳行の基本通貨の外貨と同じである場合、主元帳行の為替レートは換算元帳行にコピーされ、主行の外貨金額は換算行の基本金額の外貨金額と同じになります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

為替レート保持 このオプションは、仕訳編集にのみ適用されます。このオプションが選択されている場合、換算元帳行の基本金額為替レートは変更されません。

注: 換算元帳行に主行の為替レートが既に含まれている場合、その値が保持されます。したがって、*[主要元帳から継承]* が選択された状態で仕訳を編集した後に、*[為替レート保持]* (継承しない) オプションが選択された状態でその仕訳を再度編集した場合、最初の編集時に継承された為替レートが保持されます。2 番目のオプションにより、為替レート値が保持されます。

仕訳ソース - 承認オプション ページ

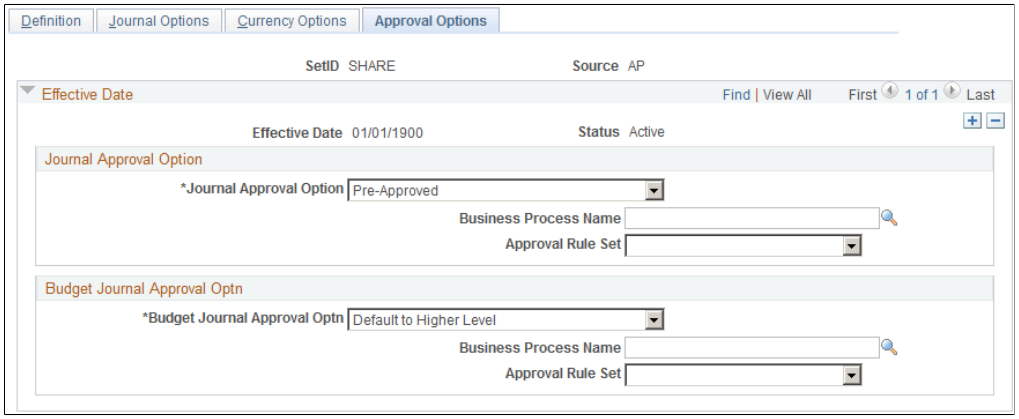
承認オプション ページ (SOURCE4) を使用して、特定のソースについて定型仕訳および予算仕訳の仕訳入力承認オプションを指定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [仕訳], [ソース], [承認オプション]

画像: 仕訳ソース - 承認オプション

次の例では、仕訳ソース - 承認オプションのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



仕訳承認プロセスでは、バーチャル アプルーバまたは承認フレームワークという方法のいずれかを使用できます。インストール オプション - 一般会計ページで、仕訳承認の承認方法を選択します。承認オプション ページの選択肢は、インストール オプションで使用するために選択する方法によって決まります。バーチャル アプルーバ方法を使用する場合、[ビジネス プロセス名] および [承認ルール セット] の各フィールドがページに表示されます。承認フレームワーク方法を使用する場合、PeopleTools と通信するための独自のビジネス プロセスと承認ルール セットが承認フレームワークで提供されるため、これらのフィールドは表示されません。

Understanding Configurable WorkflowPeopleSoft General Ledger を参照してください。

Approving Journals Using the GL Journal Approval ComponentsPeopleSoft General Ledger を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

仕訳承認オプションおよび予算仕訳承認オプションを選択します。

事前承認	ワークフローによる承認なしで仕訳入力が可能となります。
上位レベルの値を継承	ユニット別元帳ページと一般会計定義ページで定義された承認オプションを使用します。
承認要	ワークフローによる承認が必要です。インストール オプション - GL ページでこのオプションと承認方法を選択した場合は、[ビジネス プロセス名] および関連する [承認ルール セット] を選択する必要があります。[ビジネス プロセス名] と [承認ルール セット] の各フィールドは、インストール オプションで、承認方法が承認フレームワークに設定されている場合には表示されません。仕訳を処理する際に、仕訳入力 - 行ページの [処理] ドロップダウン リスト ボックスから、[仕訳の提出] を選択する必要もあります。

注: ソース レベルで承認オプションを定義する場合、そのソースのみを使用する仕訳についてビジネス ユニット レベルまたは元帳レベルで指定した承認処理は、全て上書きされます。

スケジュール ページ

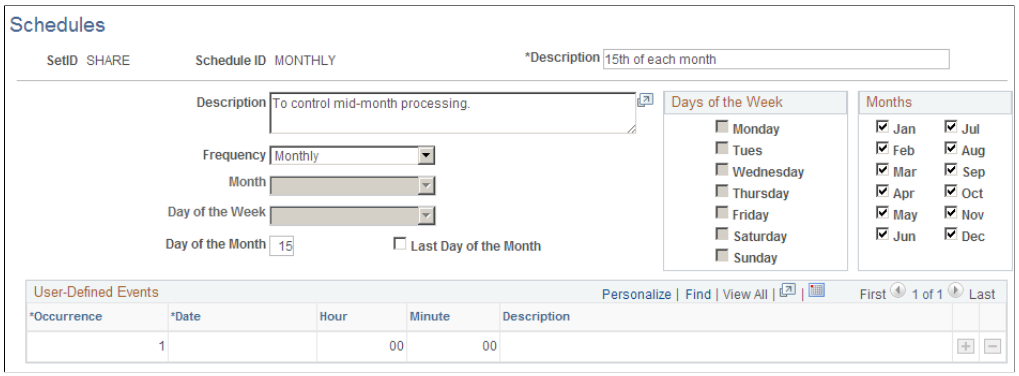
スケジュール ページ (SCHEDULE) を使用して、定型仕訳入力または繰返仕訳入力の生成を自動化および管理するスケジュールを作成します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [カレンダー/スケジュール], [スケジュール]

画像: スケジュール ページ

次の例では、スケジュール ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



スケジュールは、繰返仕訳入力の生成を自動化および管理するために使用されます。締めスケジュールなどの繰返取引について日次、週次、月次または年次スケジュールを定義したり、経費レポート期日などの特定のユーザー定義イベントをスケジュールできます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

スケジュールにより、処理の頻度を管理します。たとえば、各月の 15 日にレンタル料を支払う場合は、日付を 15 日として指定する月次スケジュールを選択します。会計処理環境に応じたスケジュールを定義することにより、定型仕訳入力 (SJE) または一連の SJE の作成を簡単に自動化できます。日次、週次、月次、年次またはユーザー定義スケジュールを設定できます。ユーザー定義スケジュールを使用すると、特定の日時を指定できます。

注: 定型仕訳入力と共に使用するスケジュールを定義する場合は、単一日を複数回定義しないでください。

頻度

これにより、イベントの繰返頻度を指定します。値は次のとおりです。

年単位: 年次スケジュールを指定します。このオプションを選択すると、値を入力できるように、[月] および [日付] がアクティブ化されます。

日単位: 日次スケジュールを指定します。*[日単位]* オプションを選択すると、特定の曜日を選択または選択解除できるように、[曜日] チェック ボックスがアクティブ化されます。

月単位: 月次スケジュールを指定します。このオプションを選択すると、個別の月を選択または除外できるように、[日付]、[末日] および [月] チェック ボックスがアクティブ化されます。

ユーザ定義 : イベントが実行される特定の日付についてユーザー定義イベント スケジュールを設定します。このオプションを使用する場合、発生数 (複数回発生する場合)、日付および説明を入力できます。SJE に使用されるスケジュールについては、時間または分を指定しないでください。

週単位: 週次スケジュールを指定します。[週単位] オプションを使用すると、値を入力できるように、[曜日] がアクティブ化されます。

注: 月次スケジュールに日付を指定する場合は、[日付] 編集ボックスを使用して、28 日までの任意の日を入力します。[末日] 編集ボックスを使用して、28、29、30 または 31 のいずれであっても絶対末日を入力します。

関連リンク

Creating Journal EntriesPeopleSoft General Ledger
Setting Up a System for Document SequencingPeopleSoft Global Options and Reports

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ワークフロー トランザクションの設定

ワークフロー トランザクションを設定するには、次のコンポーネントを使用します。

- ワークフロー トランザクション カテゴリ (EO_TRAN_CATS)
- ワークフロー トランザクション (EO_TRANSACTIONS)
- ワークフロー システム ルール (EO_SYS_WF_RULES)

ワークフロー トランザクションの設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
ワークフロー トランザクション カテゴリ ページ	EO_TRAN_CATS	ワークフロー トランザクション カテゴリを作成します。
ワークフロー トランザクション ページ	EO_TRANSACTIONS	ワークフロー トランザクションを作成します。
ワークフロー システム ルール ページ	EO_SYS_WF_RULES	ワークフロー システム ルールを作成します。

ワークフロー トランザクションの設定について

PeopleSoft ワークフローを使用する場合、ワークフロー承認処理の機能は、これらの設定トランザクションによって定義された特定のルールに基づきます。承認、リクエスト、振替などのビジネス イベントについて、適切な関係者に通知するトランザクションを作成できます。ワークフロー トランザクションのカテゴリを設定することで、通知プロセスをトリガするワークフロー機能にトランザクションのグループを関連付けることができます。

ワークフロー トランザクション カテゴリ ページ

ワークフロー トランザクション カテゴリ ページ (EO_TRAN_CATS) を使用して、ワークフロー トランザクション カテゴリを作成します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ワークフロー], [カテゴリ], [ワークフロー トランザクション カテゴリ]

トランザクション カテゴリ

ワークフロー トランザクションを分類するグループの名前。各ワークフロー トランザクションは、ワークフロー カテゴリに配置されます。ワークフロー ルールはカテゴリに対して定義されるため、ルールはカテゴリ内のトランザクションにそれぞれ適用されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ワークフロー トランザクション ページ

ワークフロー トランザクション ページ (EO_TRANSACTIONS) を使用して、ワークフロー トランザクションを作成します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ワークフロー], [トランザクション], [ワークフロー トランザクション]

カテゴリ ワークフロー トランザクションを分類するグループの名前。

説明 ワークフロー トランザクションに関する説明またはコメント。

ワークフロー システム ルール ページ

ワークフロー システム ルール ページ (EO_SYS_WF_RULES) を使用して、ワークフロー システム ルールを作成します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ワークフロー], [システム ルール], [ワークフロー システム ルール]

トランザクション カテゴリ ワークフロー トランザクションを分類するグループの名前。

ワークフロー ルール 機能を実行する必要がある場合に、ユーザーに通知する方法を指定します。次の値から選択します。

両方: 電子メールとワークリストによって通知します。

電子メール: 電子メッセージでユーザーに通知します。

なし: 通知は実行されません。

ユーザー: 通知方法は、システム設定時にユーザー基本設定ページで指定されます。これは、PeopleSoft ワークフローが実装されているアプリケーションによって異なります。

ワークリスト: ユーザーのワークリストにエントリを作成することによってユーザーに通知します。

入力時に通知 ユーザーは、トランザクションの開始時に確認を受け取ります。

全て通知 ユーザーは、自分が作成したトランザクションを他のユーザーが処理した場合に通知を受け取ります。ユーザーのトランザクションを処理するのに複数人が必要な場合、ユーザーは、トランザクションが処理されるたびに通知を受け取ります。

 Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

最終処理時に通知 ユーザーは、トランザクションの処理が完了したときにのみ通知されます。

クレジット カード暗号化の変更

クレジット カード暗号化キーを変更するには、FS_CC_CNVRT コンポーネントを使用します。

暗号化キーの変更に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
暗号化キーの変更ページ	FS_CC_CNVRT	このユーティリティを使用して、クレジット カード番号の暗号化に使用するキーを変更します。ユーティリティを実行し、新しい暗号化キーを使用してクレジット カード番号を再暗号化します。

クレジット カード暗号化について

注: クレジット カード暗号化は、従来のクレジット カード実装を使用しているシステムでのみ必要となります。ホスト実装でサードパーティのクレジット カード支払プロセッサを使用しているシステムには、必要*ありません*。

PeopleTools Pluggable Cryptography は、クレジット カード データを暗号化するためのアプリケーションのセキュリティ モデルを提供する高度なセキュリティ フレームワークです。データは、3DES アルゴリズムおよび 168 ビット暗号化キーを使用して暗号化されます。また、最後の 4 桁のみが表示されるように、クレジット カード番号の表示が変更されます。システムでは、各クレジット カード番号の最後の 4 桁以外の位置に *X* が表示されます。これには、表示専用のクレジット カード番号と編集可能なクレジット カード番号が含まれます。

PeopleTools Pluggable Cryptography を使用しているため、Payment Card Industry (PCI) データ セキュリティ規格のカード所有者データ保護要件および Visa のカード所有者情報保護プログラム (CISP) への準拠がサポートされます。この機能によって、顧客や受講者など、外部サードパーティの支払者のクレジット カード番号が暗号化されます。

暗号化キーの変更ステップ

クレジット カード暗号化キーを変更するには、次の手順に従います。

1. カード番号再暗号化ページに移動します。
2. [ランダム キーの生成] ボタンをクリックして、新しい 16 進数のランダム暗号化キーを生成します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このボタンをクリックして、新しい 16 進数のランダム暗号化キーを生成します。このキーは変更できますが、16 進数の 24 バイト文字列としてフォーマットする必要があります。最初の 2 文字は *0x* である必要があり、残りの部分は、数値と小文字の *a* から *f* を組み合わせて、正確に 48 文字である必要があります。

3. [再暗号化アクション] 列の値に *[復号化後暗号化]* が表示されない場合は、*[復号化後暗号化]* が表示されるまで [暗号化アクション] ボタンをクリックします。

4. [実行] ボタンをクリックして、変換プロセスを開始します。

   クレジット カード変換プロセスによって、グリッドの各フィールドが変換されます。なんらかの理由でプロセスが失敗した場合は、標準的な方法でプロセスを再開でき、停止したところからプロセスが開始されます。プロセスを再開できない場合は、プロセスを最初から実行すると、既に処理されたフィールドが自動的に省略されます。

製品ドキュメントの『*PeopleTools: Security Administration*』の「Securing Data with Pluggable Cryptopgraphy」を参照してください。

暗号化キーの変更ページ

暗号化キーの変更ページ (FS_CC_CNVRT) を使用して、クレジット カード番号の暗号化に使用するキーを変更します。

ユーティリティを実行し、新しい暗号化キーを使用してクレジット カード番号を再暗号化します。

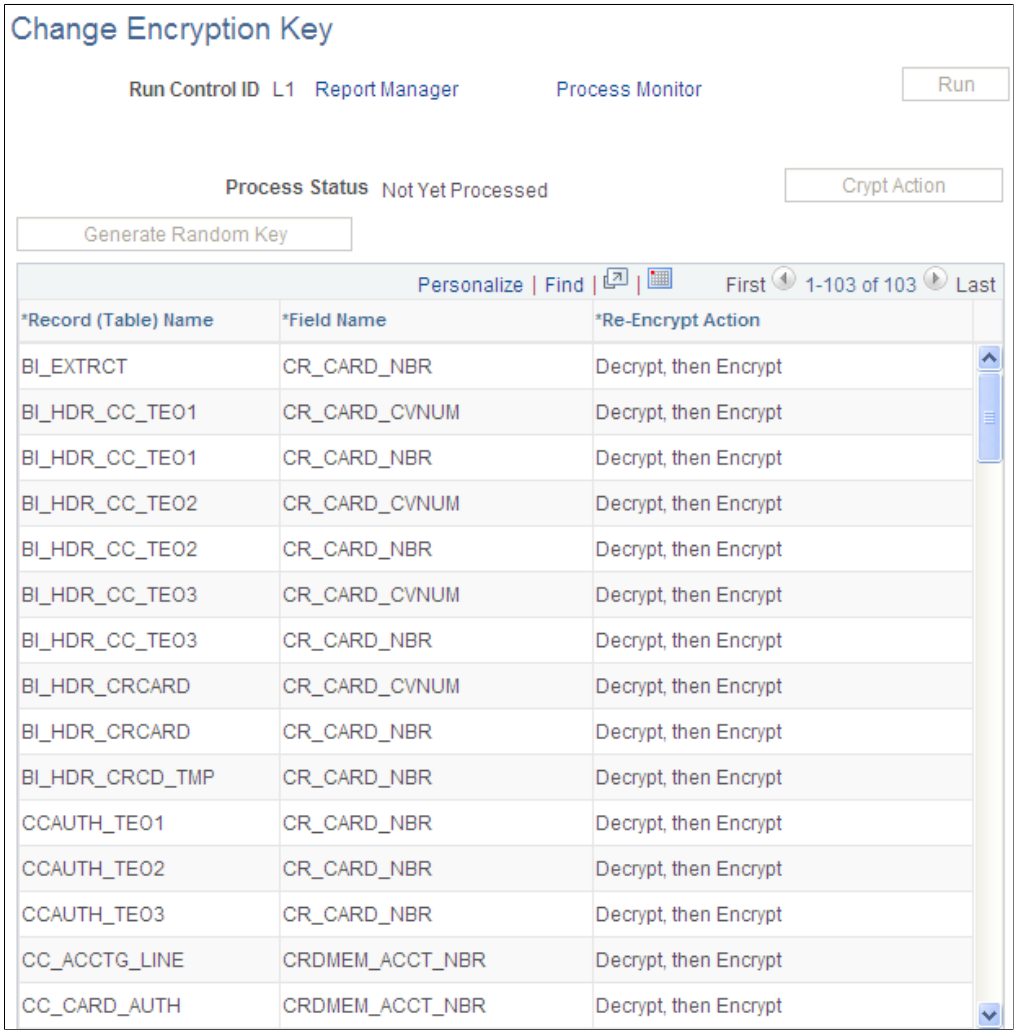
 Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [クレジット カード], [暗号化キーの変更], [暗号化キーの変更]

画像: 暗号化キーの変更ページ

次の例では、暗号化キーの変更ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



重要 暗号化キーの変更ページは、クレジット カード番号の更新 (FS_CC_CNVRT) プロセスが実行されていないか、現在実行中の場合は使用できません。更新プロセスが完了すると、暗号化キーの変更ページが使用可能になります。

暗号化アクション このボタンをクリックして、グリッドの [再暗号化アクション] 列の値を切り替えます。

ランダム キーの生成 クリックすると、クレジット カードの暗号化および復号化プロファイルに使用される暗号化アルゴリズムによって必要とされるフォーマットでランダム キーが生成されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

生成されたキーを変更するか、または独自のキーを入力する場合は、24 バイトの 16 進数文字列としてフォーマットする必要があります。最初の 2 文字は *0x* である必要があり、残りの部分は、数値と小文字の *a* から *f* を組み合わせて、正確に 48 文字である必要があります。

レコード (テーブル) 名 レコード名が表示されます。

フィールド名 フィールド名が表示されます。

再暗号化アクション 次の値があります。

- *復号化後暗号化:* プラガブル暗号化クレジット カード暗号化プロファイルを使用して現在暗号化されているデータの場合。
- *アクションなし:* 変換プロセスでは、各行の処理後にこの値が適用されます。このフィールド値を使用すると、エラーが発生した場合に、変換済フィールドを再処理することなく、プロセスを再実行できます。

ホスト上の実装に対するクレジット カード処理の設定

このトピックでは、従来のクレジット カード モデルからホスト クレジット カード モデルに変換する手順について説明します。

1. トークン化を定義します。

   オンライン送信を提供する FSCM アプリケーションの場合、サードパーティ ホストによって作成されたトークン化されたクレジット カード プロファイルがサポートされます。

2. クレジット カード データを変換します。

   このフェーズでは、ローカルで保管されているクレジット カード データをプロファイルに変換し、サードパーティ クレジット カード プロセッサにプロアイルを送信します。

   サードパーティ クレジット カード プロセッサとの統合を設定するには、エンタープライズ コンポーネントの設定情報Setting Up Credit Card Integration for Integration BrokerIntegration Interfaces を参照してください。

3. ローカルで保管されているクレジット カード データを消去します。

   PeopleSoft 受注から請求システムがホスト クレジット カード実装に切り替わると、セキュア消去プログラムによって、全てのクレジット カード情報が完全に消去されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

関連リンク

Understanding Credit Card ProcessingPeopleSoft Order to Cash Common Information

ホスト クレジット カード モデルへの変換について

PeopleSoft FSCM では、受注から請求モジュール (受注管理、請求管理、eBill Payment および売掛金管理) でフレームワークが提供され、サードパーティ クレジット カード ホストによる支払情報の収集と処理が行われます。受注から請求システムを使用するビジネスでは、従来のクレジット カード モデル (クレジット カード データのローカル保管) からサードパーティによってクレジット カード データがホストまたは保管されるホスト モデルに変換できます。

注: ホスト モデルに変換することを選択した場合は、データをロールバックできません。これが必要なクレジット カード支払モデルであることを確認してください。

---

*従来の*実装では、次のデータがローカルで保管されます。

- 氏名
- クレジット カード番号 (暗号化)
- クレジット カード番号の最後の 4 桁
- クレジット カード タイプ
- 有効期限 (月と年)
- クレジット カードの住所フィールド
- 電子メール アドレス
- 電話番号

PeopleSoft 受注から請求システムでは、*ホスト*実装への変換後は、次のフィールドのみが保持されます。

- クレジット カード タイプ
- クレジット カード番号の最後の 4 桁
- 支払プロセッサ
- プロファイル ID

プロファイル ID によって、PeopleSoft システムとサードパーティ プロセッサの両方で顧客と支払を指定できます。

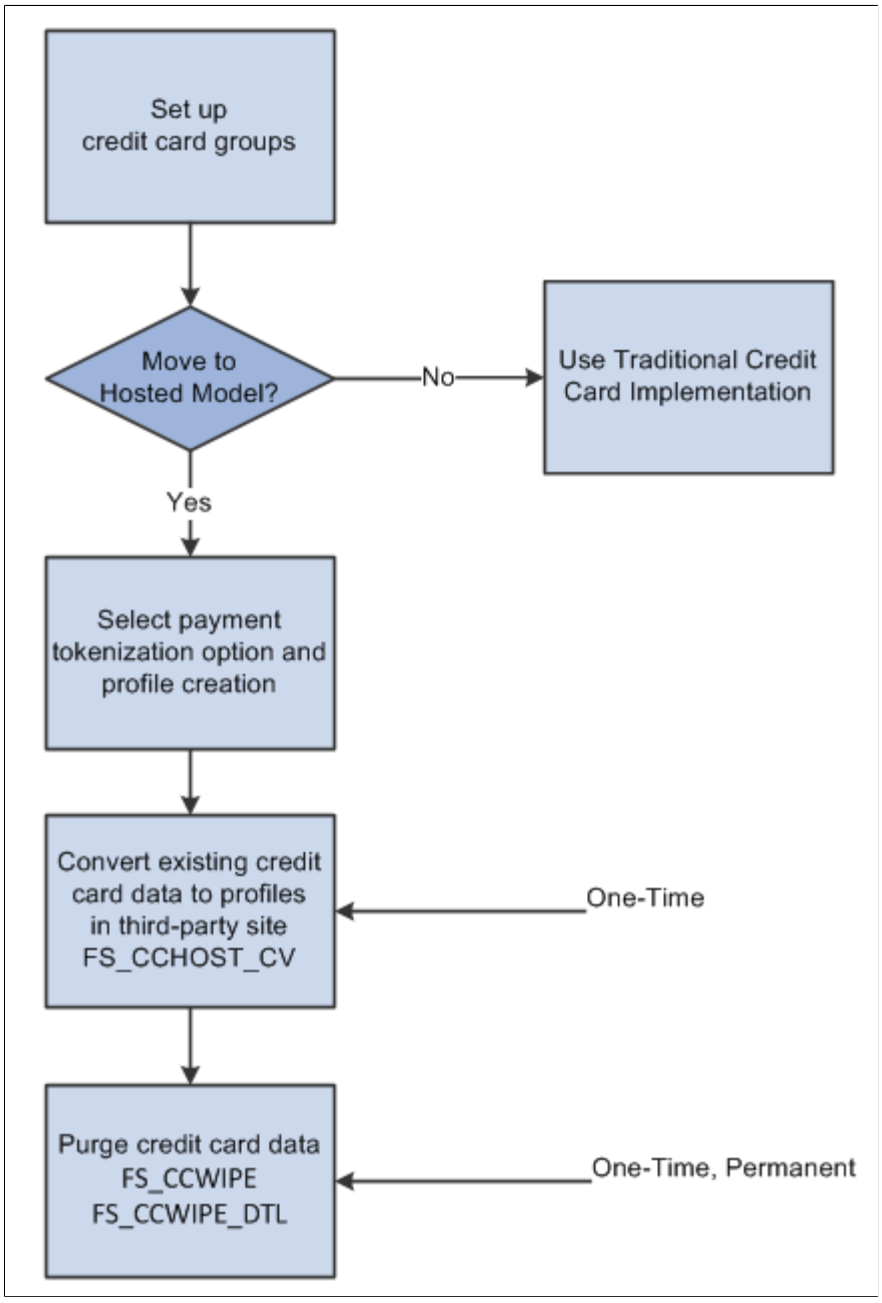
注: 各クレジット カードのデータのプロファイルへの変換に関連付けられた手数料がある場合があります。実際のコストは、選択した支払プロセッサによって決定されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

次の図は、従来の実装からホスト実装に移動する手順を示しています。

画像: ホスト クレジット カード モデルへの変換のフロー

ホスト クレジット カード モデルへの変換のフロー



前提条件

サードパーティ支払プロセッサを設定する必要があります。複数のプロセッサを設定して、特定のクレジット カード タイプに割り当てることができるようになりました。クレジット カード インターフェイスの設定の詳細については、*『Enterprise Componentsエンタープライズ コンポーネント: PeopleSoft インテグレーション インターフェイス』*を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

特定のクレジット カード タイプのデフォルト クレジット カード グループをシステム レベルで作成する必要があり、オプションでビジネス ユニット レベルでも作成します。「クレジット カード オプションおよびグループの設定」を参照してください。

また、Function GetPSCardType および Function GetVendorCardType でプロセッサに固有のコードを使用して、プロセッサ クレジット カード タイプを PeopleSoft クレジット カード タイプにマッピングする必要があります。各関数にコード例が提供されています。変換プロセスを実行する前に、コードで自身のプロセッサを参照する必要があります。

FUNCLIB_CREDCRD.CR_CARD_TYPE.FieldFormula で、プロセッサに固有のコードを次の関数に追加します。

- Function GetPSCardType - プロセッサ クレジット カード タイプを PeopleSoft で定義されたクレジット カード タイプにマッピングします。

```
Function GetPSCardType(&Vendor As string, &CardType As string, &PSCardType As ⇒
string);
   rem ================================================================;
   rem Vendor Credit Card Types to PS Credit Card Types                 ;
   rem ================================================================;
   /* Declare Function GetPSCardType PeopleCode FUNCLIB_CREDCRD.CR_CARD_TYPE F⇒
ieldFormula; */
   /* Dev Note:  Modify codeline to support your processors */
```

- Function GetVendorCardType - PeopleSoft で定義されたクレジット カード タイプをプロセッサ クレジット カード タイプにマッピングします。

```
Function GetVendorCardType(&PSCardType As string, &Vendor As string, &CardType⇒
 As string);
   rem ================================================================;
   rem PS Credit Card Types to Vendor Credit Card Types                 ;
   rem ================================================================;
   /* Declare Function GetVendorCardType PeopleCode FUNCLIB_CREDCRD.CR_CARD_TY⇒
PE FieldFormula; */
   /* Dev Note:  Modify codeline to support your processors */
```

または製品ドキュメント*『PeopleSoft Financials/Supply Chain Management 8.9 to 9.2 Upgrade』*、*『PeopleSoft Financials/Supply Chain Management 9.0 to 9.2 Upgrade』*または*『PeopleSoft Financials/Supply Chain Management 9.1 to 9.2 Upgrade』*を参照してください。

クレジット カード変換

このフェーズでは、既存のクレジット カード データをプロファイルに変換し、ローカルで保管されているクレジット カード データをサードパーティ クレジット カード プロセッサに送信します。このオプションは、PeopleSoft FSCM の受注から請求システムでのみ使用可能です。変換後に PeopleSoft テーブルに保管されるクレジット カード データは、クレジット カード番号の最後の 4 桁、プロファイル ID、クレジット カード タイプおよび支払プロセッサのみです。

変換プロセスを開始する前に、次を実行します。

1. 全てのクレジット カード トランザクションを評価して、トランザクションの締切日を決定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

2. 顧客ベースを評価します。非アクティブな顧客がいますか。いる場合は、変換プロセスでその顧客のデータを除外できます。

クレジット カード消去

クレジット カード データをプロファイルに変換し、データを選択したサードパーティ支払プロセッサに送信した後に、全てのクレジット カード データをご使用の PeopleSoft システムのレコードからパージする必要があります。

注: クレジット カード データの削除プロセスによって、全てのクレジット カード データが PeopleSoft システムのレコードから完全に削除されます。このプロセスは、取り消すことができません。

このコンポーネントでは、CR_CARD_NBR フィールドと CR_CARD_CVNUM フィールドを含む全てのレコードが表示されます。ユーザーは、安全に消去される必要があるレコードを選択し、このプロセスを実行して消去できます。

クレジット カード データの削除プロセスによって、ランダムな順序の文字が生成されてクレジット カード フィールドに書き込まれ、データベース コミットの実行によりデータベースに保存されます。このプロセスでは、[上書き数] フィールドに入力した値に応じて、データが 8 回から 30 回上書きされます。デフォルト値は 8 です。

PeopleSoft 請求管理では、クレジット カード データの削除ページのドキュメントで説明されているように、クレジット カード データの削除プロセスを PeopleCode から直接呼び出して、特定のインターフェイス レコードが処理されます。

ホスト クレジット カード ストレージおよび支払への切替に使用するページ

ページ名	*定義名*	*ナビゲーション*	*用途*
クレジット カード データの変換	FS_CCHOST_CNV	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [アップグレード], [クレジット カード ホスティング], [クレジット カード データの変換], [クレジット カード データの変換]	クレジット カード ホスティング変換プロセス (FS_CCHOST_CV) を実行して、クレジット カード データをホスト トークン (プロファイル) に変換します。
クレジット カード データの削除	FS_CCWIPE	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [アップグレード], [クレジット カード ホスティング], [クレジット カード データの削除], [クレジット カード データの削除]	クレジット カード データの削除アプリケーション エンジン プロセス (FS_CCWIPE) を使用して、クレジット カード データの完全パージを実行します。
クレジット カード オプション	CR_CARD_OPT	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [クレジット カード], [クレジット カード オプション], [クレジット カード オプション]	システム レベルでのデフォルト クレジット カード グループの指定

クレジット カード データの削除プロセスについて

消去されるレコードに含まれているデータの行数に応じて、このプロセスの実行には時間がかかる場合があります。Oracle PeopleSoft では、複数のセキュアな消去プロセスを並行して実行することをお勧めしま

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

す。複数のプロセスを並行して実行するには、複数のラン コントロール ID を作成し、各ラン コントロール ID に固有の一連のレコードを選択します。ラン コントロール ID のレコードに重複がある場合は、複数のインスタンスで同時に同じレコードは消去されないため、いずれかのプロセスでこのレコードがスキップされます。

なんらかの理由でクレジット カード データの削除プロセスが異常終了した場合は、ページに戻って、同じラン コントロール ID を使用してプロセスを再開できます。プロセスの終了時に処理されていたレコードに関するエラーが返されます。他のレコードと共にエラーのあるレコードを選択して、プロセスを再実行できます。

消去ステータスとプロセス ステータス

マスター クレジット カード消去レコード (FS_CCWIPE_MST) には、消去する必要がある全てのレコードが含まれています。全てのラン コントロール ID は、このマスター レコードからデータを読み取り、プロセスの各実行によって、マスター レコードの行 (レコード別) ステータスが更新されます。ステータスは、マスター クレジット カード消去レコードで直接更新されます。現在のステータスを表示するには、クレジット カード データの削除ページをリフレッシュする必要がある場合があります。

レコード別の消去ステータス

各レコードまたは行の処理ステータスが表示されます。

処理可能 – その行のレコードは、まだ消去されていません。

処理中 – 特定のレコードを消去するプロセスが開始されると、ステータスが [処理中] に変更され、並行プロセスではこのレコードがスキップされます。このレコードの消去プロセスが終了すると、すぐに、ステータスが [完了] に更新されます。

完了 – 消去プロセスによるレコードの消去が終了すると、すぐに、ステータスが [完了] に変更されます。[完了] ステータスのレコードであっても、選択して再処理することができます。

エラー – プロセスが異常終了した特定のレコードを示します。このレコードは再選択でき、処理では [処理可能] ステータスのレコードと同様に扱われます。

ラン コントロール ID 別のプロセス ステータス

ラン コントロール ID のヘッダーに処理ステータスが表示されます。

処理可能 – ヘッダーの [消去ステータス] フィールドに [処理可能] が表示されている場合は、行を選択し、セキュア消去プロセスを実行できます。

プロセスが終了すると、[処理可能] ステータスも表示されますが、マスター クレジット カード消去レコードには未処理のレコードがまだ存在します。

処理中 – [実行] ボタンをクリックすると、ステータスが [処理中] に変更されます。異なるラン コントロール ID を作成して、他の行またはレコードを選択し、処理を実行します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

全てのレコード消去済 – マスター クレジット カード消去レコードの全てのレコードが行レベルで [完了] としてマークされると、全ての新規および既存のクレジット カード データの削除ページでヘッダーに [全てのレコード消去済] が表示されます。

ホスト クレジット カード実装への変換後に、クレジット カード データ ページには、PeopleSoft 受注から請求システムとサードパーティ プロセッサで管理されるようになったプロファイルの情報を照合するトークン ID の作成に必要なクレジット カード データのみが表示されます。詳細については、「Understanding Credit Card Processing」を参照してください。

関連リンク

Understanding Credit Card ProcessingPeopleSoft Order to Cash Common Information

クレジット カード データの変換ページ

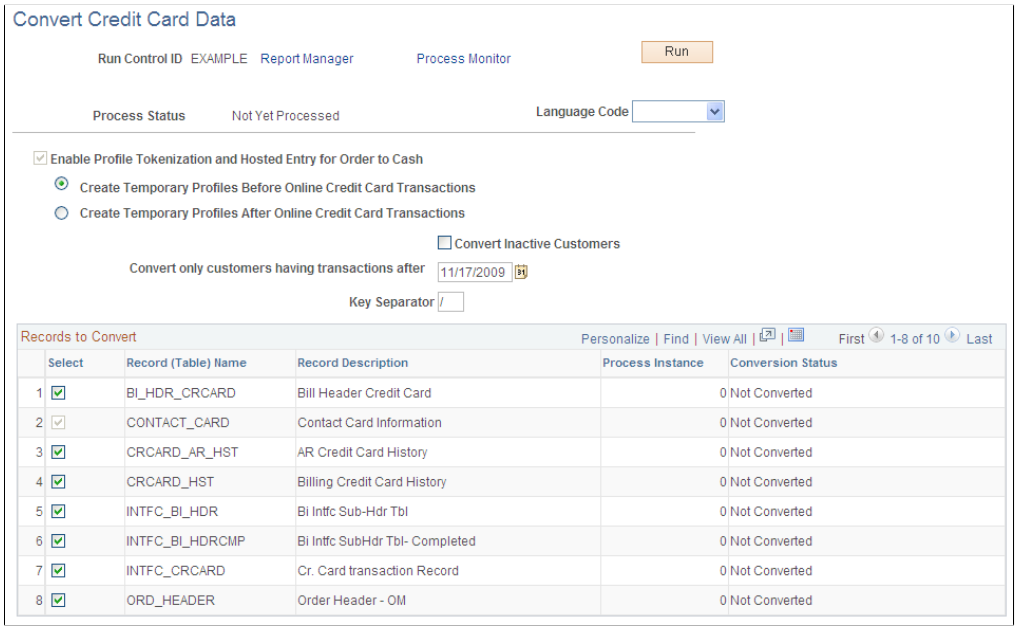
クレジット カード データの変換ページ (FS_CCHOST_CNV) を使用して、クレジット カード データをプロファイルに変換し、データをサードパーティ支払プロセッサに送信するクレジット カード ホスティング変換プロセス (FS_CCHOST_CV) を実行します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [アップグレード], [クレジット カード ホスティング], [クレジット カード データの変換], [クレジット カード データの変換]

画像: クレジット カード データの変換ページ

次の例では、クレジット カード データの変換ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



言語コード 言語コードを選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

受注から請求に対するプロファイル トークン化およびホスト上の入力の有効化

クレジット カード データの削除アプリケーション エンジン プロセス (FS_CCWIPE) を実行すると、自動的に選択されます。FS_CCWIPE プロセスでは、クレジット カード オプション ページの同じ名前の設定フィールドも選択され、システムでホスト クレジット カード モデルが使用されていることが示されます。

注: *従来の*クレジット カード実装を使用する場合は、このプロセスを実行せず、このオプションが選択されないようにします。

一時クレジット カード プロファイルが作成される時期を定義します。

- オンライン クレジット カード取引の前に一時プロファイルを作成
- オンライン クレジット カード取引の後に一時プロファイルを作成

ここで選択したオプションは、クレジット カード オプション ページにも表示されます。

非アクティブな顧客の変換

非アクティブな顧客のクレジット カード データを変換に含める場合は、このチェック ボックスを選択します。

後に取引がある顧客のみ変換

カレンダー日付の締切を入力して、指定した日付の後にトランザクションがある顧客のクレジット カード データのみを変換します。

キー区切り

キー区切りを入力します。

クレジット カード データの削除ページ

クレジット カード データの削除ページ (FS_CCWIPE) を使用して、クレジット カード データを含む既存のデータベース フィールドをクリアする FS_CCWIPE アプリケーション エンジン プロセスを実行します。

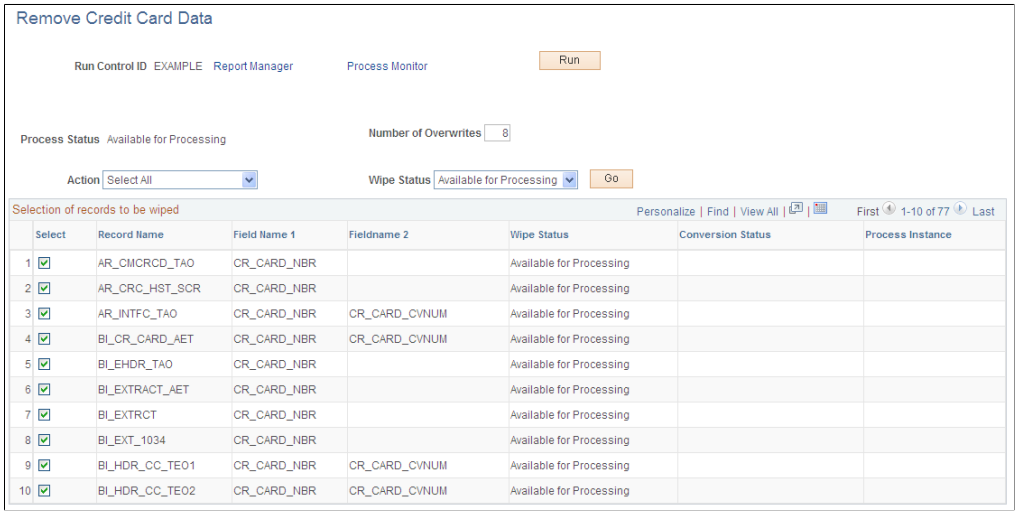
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [アップグレード], [クレジット カード ホスティング], [クレジット カード データの削除], [クレジット カード データの削除]

画像: クレジット カード データの削除ページ

次の例では、クレジット カード データの削除ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



プロセス ステータス

ラン コントロール ID のマスター レコードの処理ステータスが表示されます。

処理可能 – ヘッダーの [消去ステータス] フィールドに [処理可能] が表示されている場合は、行を選択し、セキュア消去プロセスを実行できます。プロセスが終了すると、[処理可能] ステータスも表示されますが、マスター クレジット カード消去レコードには未処理のレコードがまだ存在します。

処理中 – [実行] ボタンをクリックすると、ステータスが [処理中] に変更されます。異なるラン コントロール ID を作成して、他の行またはレコードを選択し、処理を実行します。

全てのレコード消去済 – マスター クレジット カード消去レコードの全てのレコードが行レベルで [完了] としてマークされると、全ての新規および既存のクレジット カード データの削除ページでヘッダーに [全てのレコード消去済] が表示されます。

上書き数

9 から 30 の値を入力するか、またはデフォルトの 8 を受け入れます。このプロセスでは、[上書き数] フィールドに入力した値に応じて、データが 8 回から 30 回上書きされます。

アクション

次のオプションから選択します。

- *全て選択*

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *全て選択解除*

[実行] ボタンをクリックすると、選択したアクションによって、指定した消去ステータスを持つレコードが選択または選択解除されます。また、個別のレコードまたは行を手動で選択するには、レコードまたは行の [選択] チェック ボックスをクリックします。

消去ステータス

このフィールドを使用して、特定の消去ステータスのレコードをフィルタし、アクションを選択し、[実行] ボタンをクリックして特定の消去ステータスの一連のレコードを選択または選択解除します。

次のオプションから選択します。

- *処理可能* – 初回処理で使用可能なレコードをフィルタします。
- *完了* – 既に消去されたレコードをフィルタします。ただし、必要に応じて、完了ステータスのレコードを選択して、プロセスを再度実行できます。
- *エラー* – セキュア消去処理が異常終了したレコードをフィルタします。そのレコードを選択して、プロセスを再度実行できます。
- *処理中* – 現在処理されているレコードをフィルタします。

実行

このボタンをクリックすると、消去ステータス フィルタが適用され、[アクション] フィールドの選択に応じてレコードが選択または選択解除されます。[実行] ボタンを消去ステータス フィルタと共に使用して、レコードのバッチ選択を行います。

変換ステータス

変換されたレコードおよび変換されなかったレコードが表示されます (この情報が使用可能な場合のみ)。まだ変換されていないレコードを選択すると、警告が発行されます。

PeopleSoft 請求管理でのクレジット カード データの削除プロセスの使用

PeopleSoft 請求管理は、レガシー サードパーティ システムからのクレジット カード トランザクションを毎日受信する可能性があります。PeopleSoft 請求管理システムでインターフェイスから受信したクレジット カード データがホスト プロファイルに変換された後に、クレジット カードの削除プロセスによって、INTFC_BI_HDR レコードの特定の一連の行が消去される必要があります。実行中のシナリオで、セキュア消去プロセスを使用するには、ホスト モデルを使用している PeopleSoft 請求管理システム管理者は、特定の要件に従って FS_CCWIPE アプリケーション エンジン プロセスを呼び出す必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

次の表は、PeopleSoft 請求管理の FS_CCWIPE アプリケーション エンジン プロセスを呼び出す前の FS_CCWIPE レコードのフィールドへの入力内容を示しています。

フィールド	*このフィールドの必須値*	*コメント*
OPRID	%operatorid	
RUN_CNTL_ID	BI Publisher は新しいラン コントロール ID を作成する必要があります。	
PROCESS _FREQUENCY	'A'	
CCWIPE_STATUS	'N'	
PROCESS_INSTANCE	0	
CCWIPE_QTY	8 から 30 の数値を入力します。	これは CC フィールドが上書きされる回数です。
CCWIPE_INTERF	'Y'	請求管理から送信されるグループを指定します。

次の表は、PeopleSoft 請求管理の FS_CCWIPE アプリケーション エンジン プロセスを呼び出す前に FS_CCWIPE_DTL レコードのフィールドに入力する必要がある内容を示しています。

フィールド	*このフィールドの必須値*	*コメント*
RUN_CNTL_ID	BI Publisher は新しいラン コントロール ID を作成する必要があります。	FS_CCWIPE に入力されているのと同じラン コントロール ID が入力されます。
RECNAME	'INTFC_BI_HDRCMP'	別のレコードを消去する必要がある場合は、同じ RUN_CNTL_ID にもう 1 行追加できます。このフィールドを新しい RECNAME で更新します。
FIELDNAME1	'CR_CARD_NBR'	通常 'CR_CARD_NBR' ですが、別のフィールド (Char 44 のみ) を消去する必要がある場合は、単に名前をここに追加します。
FIELDNAME2	' '	この用途の場合、通常 '' ですが、同じレコードの 2 番目のフィールド (Char 44 のみ) を消去する必要がある場合は、このフィールドを使用できます。
FIELDNAME3	' '	この用途の場合、通常 '' ですが、同じレコードの 2 番目のフィールド (Char 44 のみ) を消去する必要がある場合は、このフィールドを使用できます。
CCWIPE_SEL	'Y'	

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

フィールド	*このフィールドの必須値*	*コメント*
SQL_STMT_254	<消去する必要がある行を指定する文>	'WHERE' で開始する必要があり、そうしない場合、AE で無視され、何も処理されません。 次に例を示します。 'WHERE INTFC_ID = 41'

クレジット カード データの削除アプリケーション エンジン プロセスによって正常にレコードが消去された後の FS_CCWIPE.CCWIPE_STATUS の値は C (完了) です。処理が異常終了した場合、プロセスによってフィールドが更新されないため、CCWIPE_STATUS の値は P (処理中) になります。プロセスによって、WHERE で開始されない Where 句が送信された場合、FS_CCWIPE.CCWIPE_STATUS の値は E (エラー) に変更されます。

プロファイル トークン化およびホスト上の入力の設定

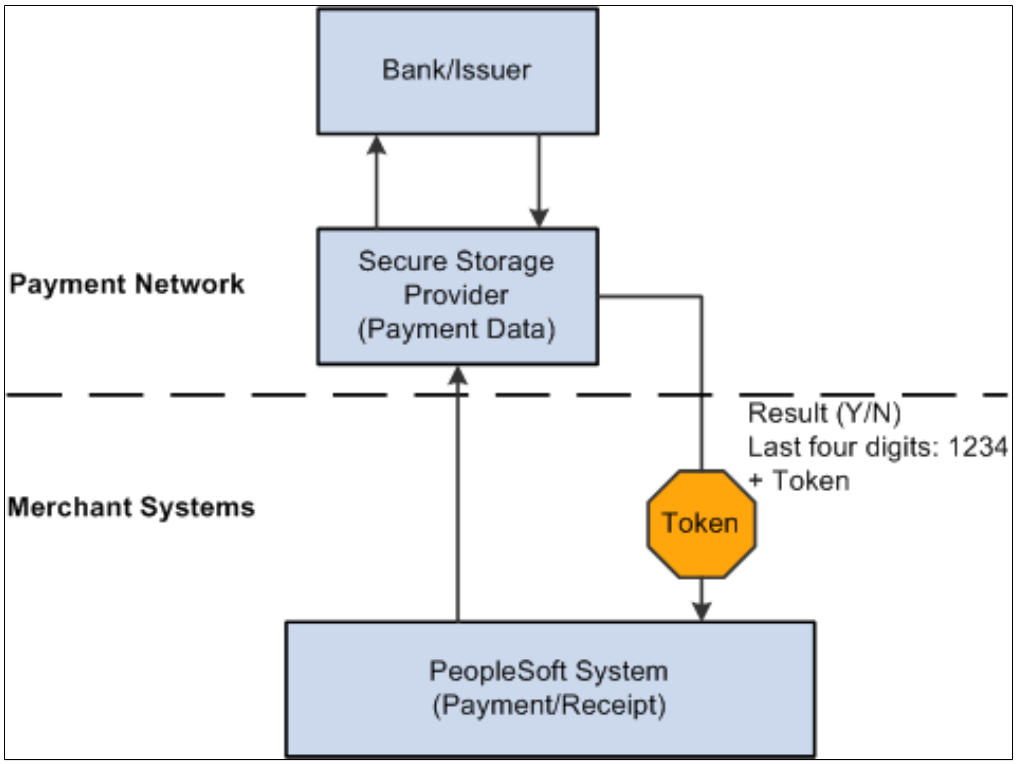
トークン化は、アプリケーションおよびデータベース内の機密クレジット カード データ プロファイルを置き換えるデータ セキュリティ モデルです。通常、クレジット カード タイプ、クレジット カード番号、名前、姓、請求先住所、電話番号および電子メール アドレスで構成されるクレジット カード データ プロファイルは、サード

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

パーティ ホスト サイトに送信され、保管および暗号化されます。サードパーティ ホストでは、プロファイルからトークンが作成され、トークンはソース PeopleSoft システムに送り返されて保存されます。

画像: 支払トークン化プロセス

支払トークン化プロセスでは、通常、クレジット カード タイプ、クレジット カード番号、名前、姓、請求先住所、電話番号および電子メール アドレスで構成されるクレジット カード データ プロファイルは、サードパーティ ホスト サイト (セキュア ストレージ プロバイダ) に送信され、保管および暗号化されます。サードパーティ ホストでは、プロファイルからトークンが作成され、トークンはソース PeopleSoft システムに送り返されて保存されます。



注: ホスト実装と従来の実装の組合せはサポートされません。ホスト モデルに移行した後は、従来のモデルに戻すことはできません。

クレジット カード オプション ページ (CR_CARD_OPT) を使用して、トークン化およびホスト上の入力を設定します。全てのフィールドが編集できるわけではありません。詳細については、「クレジット カード オプションおよびグループの設定」を参照してください。

プロファイル トークン化およびホスト上の入力は、クレジット カード データ変換プロセスによって自動的に有効化され、ホスト上の入力および PeopleSoft 受注から請求アプリケーションでのクレジット カードの保管のみがサポートされることが示されます。このオプションを選択解除すると、PeopleSoft システムでクレジット カード データを収集および保管する従来のクレジット カード モデルのみが使用されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

電子入金オプションの設定

このトピックでは、セルフサービス アプリケーション用のシステムレベルの電子入金オプションの設定について説明します。特に、eBill Payment を使用して電子入金をサポートするようにシステムを設定できます。

セルフサービス アプリケーションでの電子入金オプションの設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
セルフサービスの電子入金オプションページ	EPAY_OPTIONS	eBill Payment での自動引落し、クレジット カードおよび電子小切手の入金方法を使用可能にします。

セルフサービス アプリケーションの電子入金オプションについて

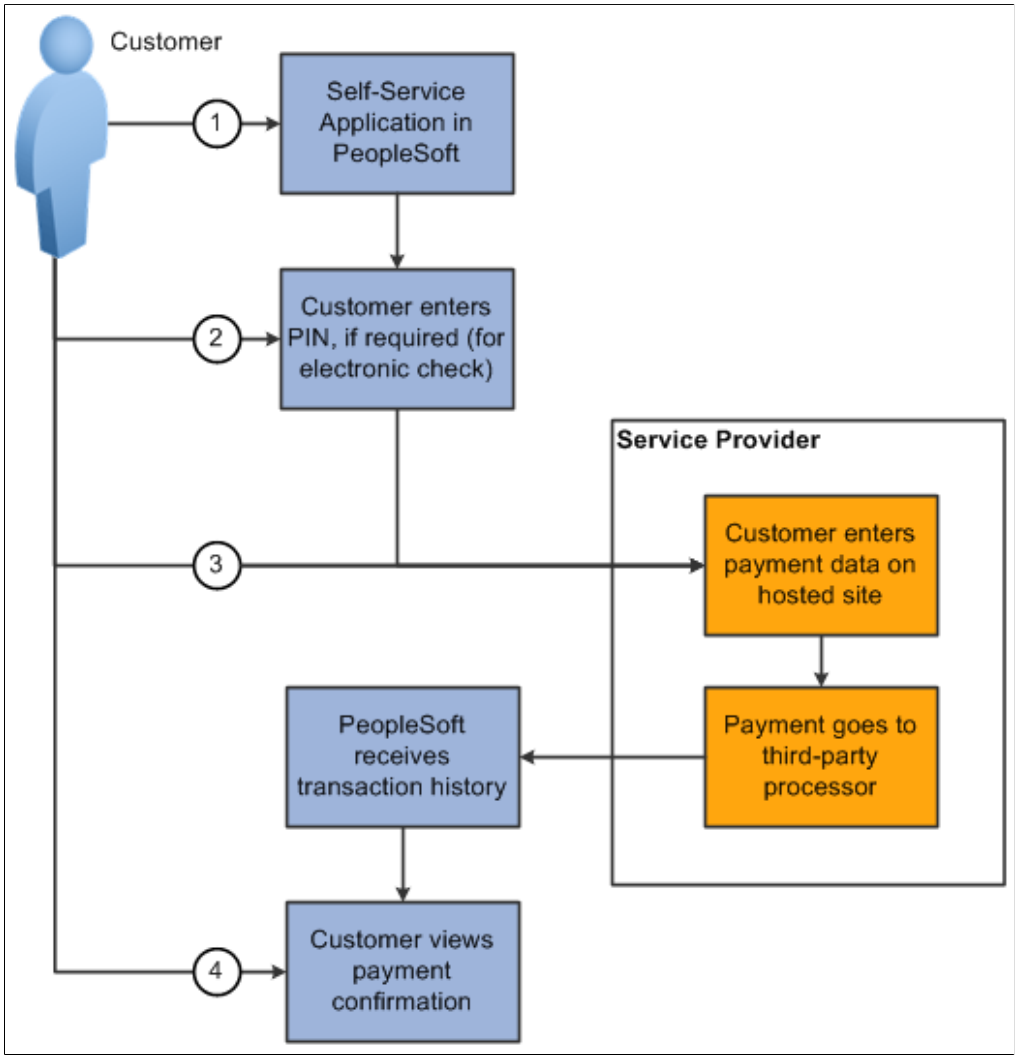
PeopleSoft 売掛金管理では、eBill Payment によって、入金の収集、保管および送信が支払サービス プロバイダを使用して行われるセルフサービス入金の電子入金 (ePayment とも呼ばれる) オプションがサ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ポートされます。この場合、顧客は eBill Payment での入金方法として電子小切手を選択して、USD でリアルタイムに支払うことができます。

画像: セルフサービス アプリケーションでの電子入金プロセス フロー

次の図は、セルフサービス アプリケーションからサービス プロバイダまでの電子入金プロセス フローを示しています。



関連リンク

Understanding Payments in PeopleSoft eBill PaymentPeopleSoft eBill Payment

セルフサービスの電子入金オプション ページ

セルフサービスの電子入金オプション ページ (EPAY_OPTIONS) を使用して、eBill Payment で電子小切手入金を使用可能にします。

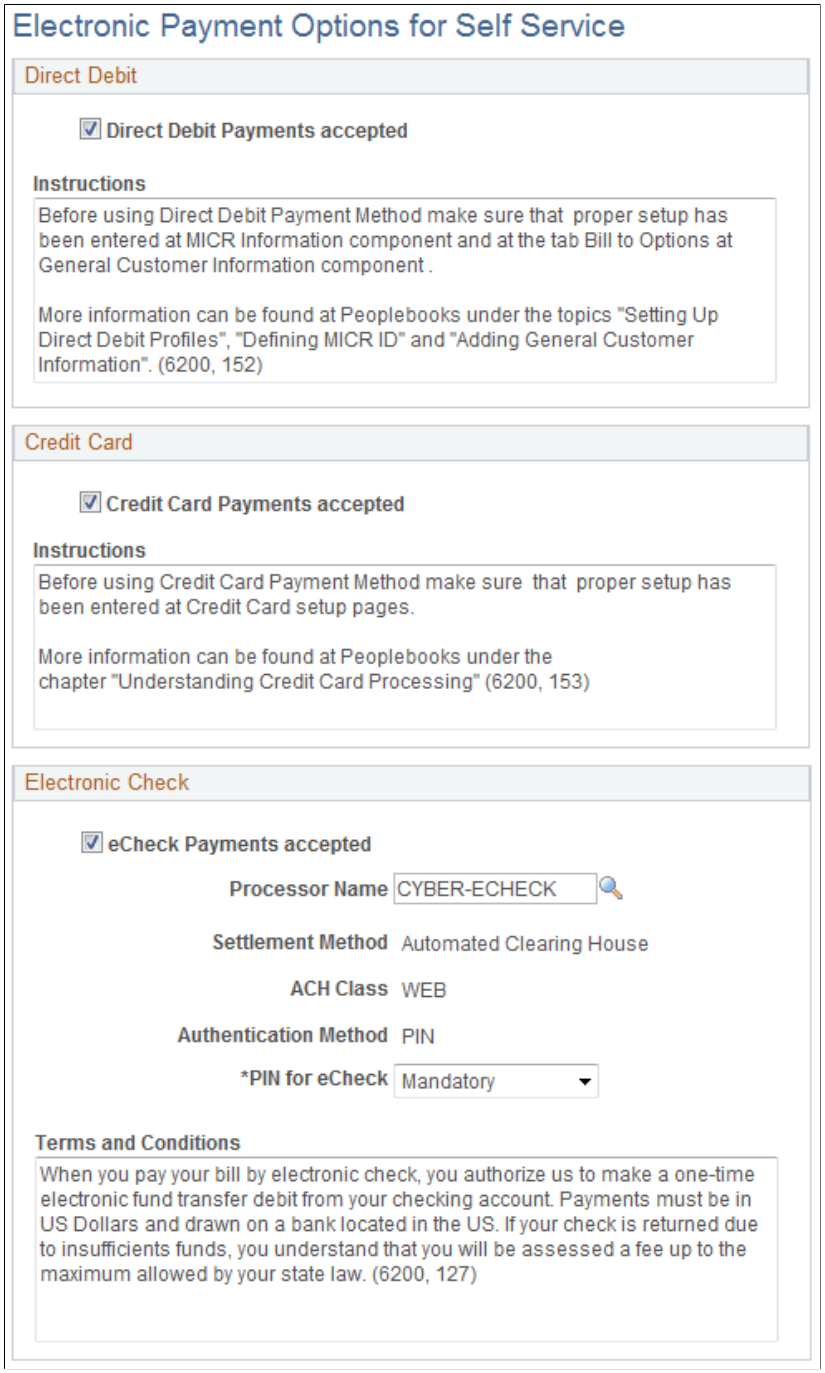
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [電子入金], [セルフサービスの電子入金オプション]

画像: セルフサービスの電子入金オプション ページ

次の例では、セルフサービスの電子入金オプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

自動引落し

自動引落し入金承認済

[お支払カート] のセルフサービス入金オプションとして自動引落しを使用可能にする場合は、このチェック ボックスを選択します。

指示

セルフサービス入金オプションとして自動引落しを使用可能にした後に、自動引落し方法の設定手順が表示されます。メッセージ カタログ入力 (6200, 152) を変更して、自動引落しの設定手順をカスタマイズできます。

クレジット カード

クレジット カード入金承認済

[お支払カート] のセルフサービス入金オプションとしてクレジット カード入金を使用可能にする場合は、このチェック ボックスを選択します。

指示

セルフサービス入金オプションとしてクレジット カード入金を使用可能にした後に、クレジット カード入金方法の設定手順が表示されます。メッセージ カタログ入力 (6200, 153) を変更して、クレジット カードの設定手順をカスタマイズできます。

電子小切手

電子小切手

[お支払カート] のセルフサービス入金オプションとして電子小切手を使用可能にする場合は、このチェック ボックスを選択します。

プロセッサ名

電子小切手プロセッサの定義済名を指定します。このフィールドは、電子小切手入金オプションを選択した場合に必須です。

契約条件

電子小切手入金の入金契約条件を入力します。メッセージ カタログ入力 (6200, 127) を変更して、電子小切手による入金の独自の契約条件を表示できます。

決済方法

米国トランザクションが自動決済機関 (ACH) ネットワークを使用して入金されたことを示す [自動決済機関 (ACH)] が表示されます。

ACH クラス

National ACH によって電子承認が行われることを示す WEB (Web 開始エントリ) が表示されます。http://www.nationalach.com を参照してください。

認証方法

PIN (個人 ID 番号) が表示されます。電子小切手の処理では、電子小切手トランザクションを開始するユーザーを特定するための 6 桁の値が連絡先プロファイルに設定されている必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Contact Information - Maintain Contacts PagePeopleSoft Order to Cash Common Information のフィールドおよびコントロールの定義を参照してください。

電子小切手の PIN

[必須] または *[任意]* を選択します。このフィールドおよび連絡先管理ページで入力された PIN を使用して、電子小切手による入金の PIN 要件が決定されます。

- *必須*: 連絡先管理ページで PIN が指定される必要があります。セルフサービス ユーザーは [お支払カート] に一致する PIN を正確に入力して、電子小切手入金に進む必要があります。
- *任意*: 連絡先管理ページに PIN がある場合、ユーザーは [お支払カート] にこの PIN を入力して、電子小切手入金に進む必要があります。連絡先管理ページに PIN がある場合は、[お支払カート] の [PIN] フィールドが非表示になり、検証が省略されます。

添付ファイルの定義

このトピックでは、新しいサーバーを設定し、アクティブ サーバーを指定する方法について説明します。

添付ファイルの定義に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
添付ファイル管理ページ	SAC_ATT_ADMIN	新しいサーバーを設定し、アクティブ サーバーを指定します。FTP サーバーの FTP ルート フォルダおよびコンポーネントに固有のサブフォルダを追加または変更できる管理者。

添付ファイル管理ページ

添付ファイル管理ページ (SAC_ATT_ADMIN) を使用して、新しいサーバーを設定し、アクティブ サーバーを指定します。FTP サーバーの FTP ルート フォルダおよびコンポーネントに固有のサブフォルダを追加または変更できる管理者。

PeopleSoft 買掛金管理トランザクションの添付ファイルは、ここで定義される場所に保管され、そこから取得されます。システム管理者は、1 つ以上のサーバーを設定して、添付ファイルを保管できます。

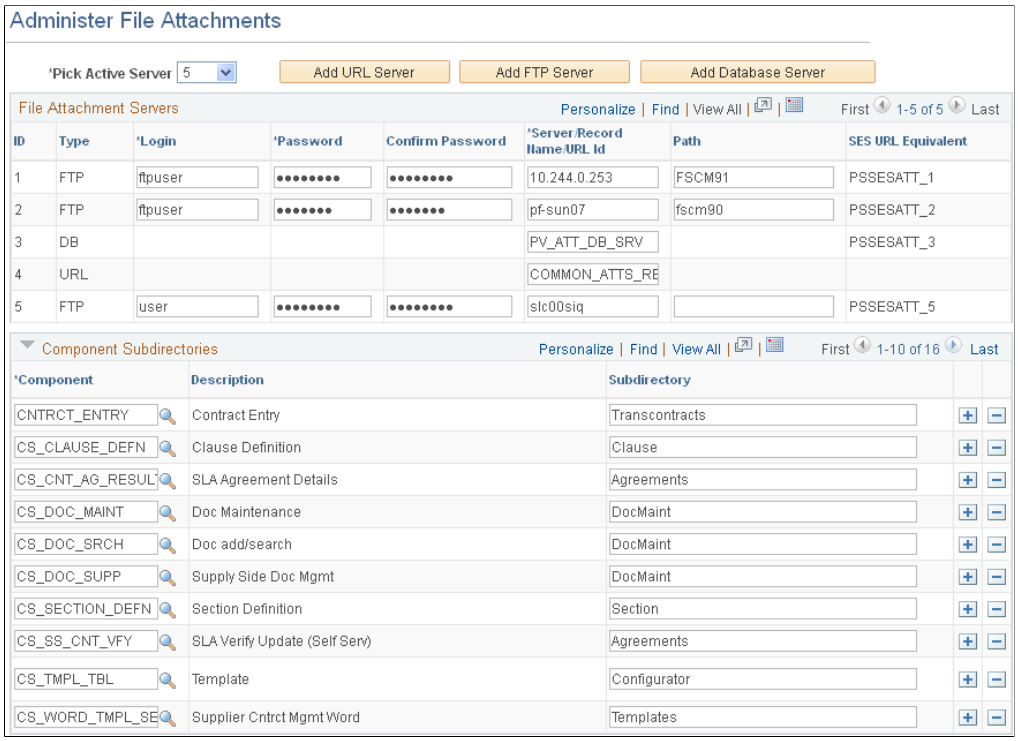
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [添付ファイル], [添付ファイル管理]

画像: 添付ファイル管理ページ

次の例では、添付ファイル管理ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



添付ファイル サーバー

アクティブ サーバーを選択

新しく作成された全ての添付ファイルが保管されるアクティブ (またはデフォルト) サーバーのサーバー ID を選択します。アクティブ サーバーは、いつでも切り替えることができます。以前に作成された添付ファイルは全て最初に保管されたサーバーから取得されます。添付ファイルは元のサーバーへの参照を維持します。これは必須フィールドです。

URL サーバーの追加

添付ファイルの URL サーバーを定義できるように、グリッドに新しい行を挿入する場合に選択します。

注: Oracle PeopleSoft では、PeopleSoft リリース 9.2 以降のユーザーには、他のタイプのサーバーではなく、URL 添付ファイル サーバーを使用することをお勧めします。URL サーバーでは、パスワードを暗号化する機能が提供されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

FTP サーバー追加 (File Transfer Protocol サーバー追加)

グリッドに新しい行を挿入して、添付ファイルの新しい FTP サーバーを定義する場合に選択します。

データベース サーバー追加

グリッドに新しい行を挿入して、添付ファイルの新しいデータベース サーバーを定義する場合に選択します。

ID

このページの各サーバーのシステム割当 ID 番号が表示されます。添付文書がサーバーに保管される際に、サーバー ID が添付レコードに挿入されます。この添付ファイルのダウンロード (表示) をリクエストすると、サーバー ID に基づき元のサーバーから添付ファイルが取得されます。

タイプ

[URL サーバーの追加]、[FTP サーバー追加] または [データベース サーバー追加] ボタンのいずれをクリックしたかに応じて、サーバーのタイプが指定されます。行を保存し、コンポーネントを終了した後は、サーバー タイプを変更できません。値は次のとおりです。

- *FTP* (File Transfer Protocol サーバー)。
- *DB* (データベース サーバー)。
- *URL* (Universal Resource Locator) (HTTP、SFTP または FTPS など)。

ログイン

ログイン名を入力または変更します。これは FTP サーバーの場合のみ必須です。

パスワード

ログインに対応するパスワードを入力または変更します。パスワードは FTP サーバーの場合のみ必須です。

サーバー/レコード名/URL ID

FTP サーバーおよびデータベース サーバーの値を入力します。FTP サーバーの場合は、マシン名を入力します。

情報を保存した後に同じ FTP サーバーの名前が変更された場合は、マシン名のみを変更します。異なる FTP サーバーを追加するには、[FTP サーバー追加] ボタンをクリックして、グリッドに新しい行を挿入し、新しいサーバーを定義します。

注: 添付ファイルが既に保管されているため、サーバーは削除できません。

データベース サーバーの場合は、添付ファイルを保管するデータベースのレコード名を入力します。データベース サーバーに関するエントリはこれだけです。このフィールドは、PeopleSoft eProcurement 添付ファイル用の PV_ATT_DB_SRV に自動的に変更されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

URL ID の場合は、PeopleTools URL 関数 ([PeopleTools]、[ユーティリティ]、[管理]、[URL]) を使用して作成された有効な URL 名を入力します。URL は FTP または DB サーバーの代替となります。たとえば、URL を FTP、SFTP またはレコードとして定義できます。

パス

全ての添付ファイルが保管されるサーバーの FTP ルートの下のサブディレクトリ パスを入力します。これは FTP サーバーの場合のみ必須です。

同等の SES URL

[保存] ボタンをクリックした場合に、同等の SES URL が作成および表示されます。このフィールドには、"PSSESATT_<#>" などの値が表示されます。定義されている URL 以外の添付タイプの数に基づいて値が作成されます。このページの変更は、PeopleTools URL ページに自動的に反映されます。PeopleTools URL ページで URLID PSSESATT_<#> を変更しないでください。

PeopleSoft 検索が使用可能な場合は、この URL が PeopleSoft 検索フレームワーク添付ファイルの URLID リストに反映される必要があります([PeopleTools]、[検索フレームワーク]、[管理]、[添付ファイル URLID リスト])。

添付ファイル URL ID リストの詳細については、*『PeopleTools: Search Technology』*を参照してください。

注: 行を保存し、コンポーネントを終了した後は、サーバーを削除できません。終了後は、添付ファイルがこのサーバー ロケーションに既に保管されると見なされます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第6章

PeopleSoft アプリケーションのインストール オプションの設定

クロスアプリケーション インストール オプションの設定

インストール オプション コンポーネント (INSTALLATION) を使用して、クロスアプリケーション インストール オプションを設定します。

クロスアプリケーション インストール オプションの設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
インストール オプション ページ	INST_LINKS	一般オプションおよび製品オプションにアクセスします。
インストール オプション - 製品ページ	INSTALLATION_FS	ライセンスを取得している PeopleSoft 製品を選択します。
インストール オプション - 基本設定ページ	INSTALLATION_FS1	インストール情報を設定し、クロスアプリケーション機能の使用方法を指定します。
金融制裁オプション ページ	SDN_SRCH_OPT_SEC	PeopleSoft 財務管理、買掛金管理、eSettlements、および受注管理に対して財務検証オプションを定義します。
DB アカウント ページ	DB_ACCOUNT_SEC	ログオン ID とパスワードを各 Dun and Bradstreet アカウントのセットID 別に入力します。
フリガナ ページ	ALT_CHAR_PNL	特定の言語コードで使用されるフリガナを選択します。
ドキュメンタム ページ	OPER_DEF_TABLE_DC	ドキュメンタム インストール オプションを設定します。
連邦処理オプション ページ	INSTALLATION_FD	取引先または顧客に対する連邦登録処理を有効にします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	定義名	用途
入力イベント ページ	INSTALLATION_EE	一般会計、買掛金管理、発注、売掛金管理、および請求管理での入力イベントの使用を有効にし、さらにコミットメント コントロール予算への上方/下方調整を有効にします。
インストール オプション - コミットメント コントロール ページ	INSTALLATION_KK	コミットメント コントロールのさまざまなインストール オプション (デフォルト予算日付、逆仕訳日付、予算期間調整、資金ソース、およびオンライン予算チェック) を入力します。
インストール オプション - 顧客ページ	INSTALLATION_CU	顧客階層の全体的なデフォルト オプションを定義します。

インストール オプション - 製品ページ

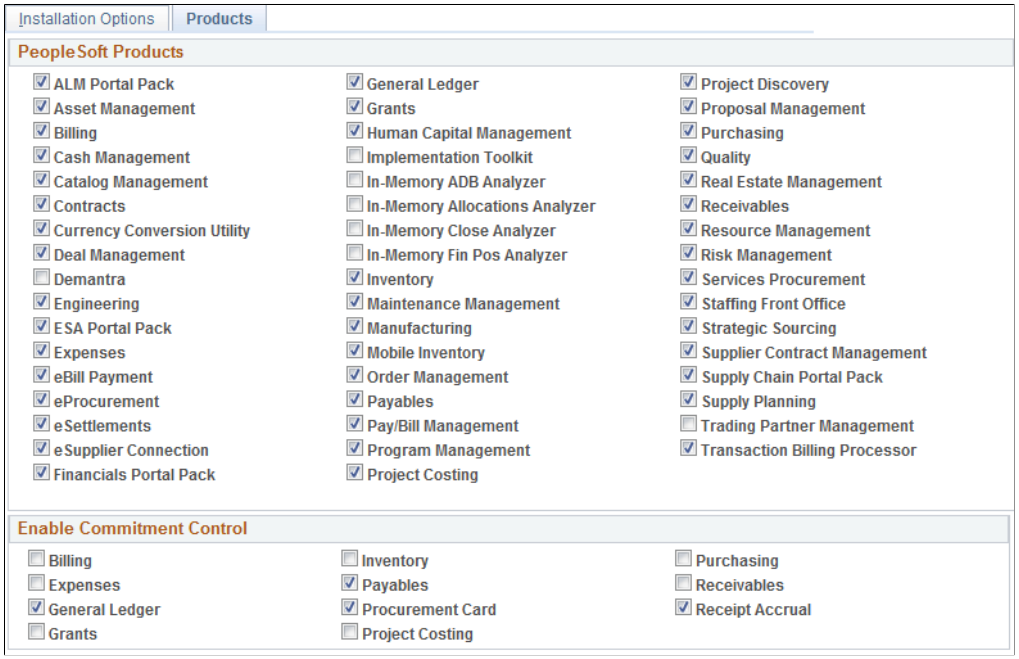
インストール オプション - 製品ページ (INSTALLATION_FS) を使用して、ライセンスを取得している PeopleSoft 製品を選択します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [製品]

画像: インストール オプション - 製品ページ

次の例では、インストール オプション - 製品ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



ライセンスを取得していない全ての製品のチェック ボックスはオフにしてください。ライセンスを取得し、データベース内で有効にする必要がある製品のチェック ボックスをオンにします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

全ての PeopleSoft 製品は、購入製品およびライセンス取得済製品で提供されます。ライセンスを取得していない全ての製品のチェック ボックスはオフにしてください。ライセンスを取得し、データベース内で有効にした製品のチェック ボックスをオンにします。

ライセンスを取得していない製品の選択を解除しない限り、それらの製品に関連して不要なプロセスやデータベース アクティビティがトリガされると、パフォーマンスの問題や他の処理上の問題が発生します。

たとえば、チェック ボックスがオンのままのライセンスを取得していない製品が原因で、それらの製品に特に関連しているチャートフィールドのために不要な処理が発生する場合があります。プロジェクト コスト管理、経費管理、要員管理のいずれの製品のライセンスも取得していない場合も、ページには、チャートフィールド (PC ビジネス ユニット、アクティビティ、ソース タイプ、カテゴリ、またはサブカテゴリ) が表示されます。インストール オプション - 製品ページで、これらの 3 つの製品のチェック ボックスをオフにした後、チャートフィールドの設定によって、該当するチャートフィールドを非アクティブにします (これらのチャートフィールドはこれらの 3 つの製品に固有であるため)。

PeopleSoft 製品

全ての PeopleSoft 製品は、データベースに納入され、システムによって自動的に選択されます。ライセンスを取得していない全ての製品の選択を解除してください。

注: PeopleSoft アプリケーションの購入に伴い、ライセンスを取得していない可能性があるアプリケーションがデータベースに納入されると、これら全てのアプリケーションがこのページで選択され、システムによって有効と見なされます。
ライセンスを取得していない製品の選択を解除しない限り、それらの製品に関連して不要なプロセスやデータベース アクティビティがトリガされると、パフォーマンスの問題や処理上の問題が発生します。たとえば、ライセンスを取得していない製品が原因で、それらの製品に関連した不要なチャートフィールド設定アクティビが発生します。

コミットメント コントロールを使用

コミットメント コントロールを有効にする各 PeopleSoft 製品 (アプリケーション) のチェック ボックスをクリックします。

各製品に対するコミットメント コントロールはいつでも有効または無効にできますが、予算期間中にアプリケーションに対するコミットメント コントロールを無効にすると、データの一貫性と整合性が失われる可能性があります。

多くのアプリケーションには、有効な予算チェックと予算通知のためのアプリケーション間のインテグレーション ポイント管理に必要な他のアプリケーションとの依存関係があります。自分のアクションが他のアプリケーションに与える影響を正確に理解するまでは、アプリケーションに対するコミットメント コントロールを有効または無効にしないでください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: また、プロジェクト コスト管理のライセンスは取得していないが経費管理や要員管理のライセンスは取得しているときに、ページに、ソース タイプ、カテゴリ、またはサブカテゴリがまだ表示されている場合は、インストール オプション - 製品ページで、ライセンスを取得していない製品のチェック ボックスをオフにし、チャートフィールドの設定を使用して該当するチャートフィールドを非アクティブにします (これらのチャートフィールドはプロジェクト コスト管理に固有であるため)。
ライセンスを取得していない製品のチェック ボックスがオフになっていない場合に発生する他の問題には、ユニット別元帳および元帳テンプレートに対するオンデマンド処理と定義があります。
リストされているアプリケーションに対してコミットメント コントロール処理を有効または無効にします。

関連リンク

Understanding Basic Commitment Control SetupPeopleSoft Commitment Control
Understanding Commitment Control SecurityPeopleSoft Commitment Control

インストール オプション - 基本設定ページ

インストール オプション - 基本設定ページ (INSTALLATION_FS1) を使用して、インストール情報を設定し、クロス アプリケーション機能の使用方法を指定します。

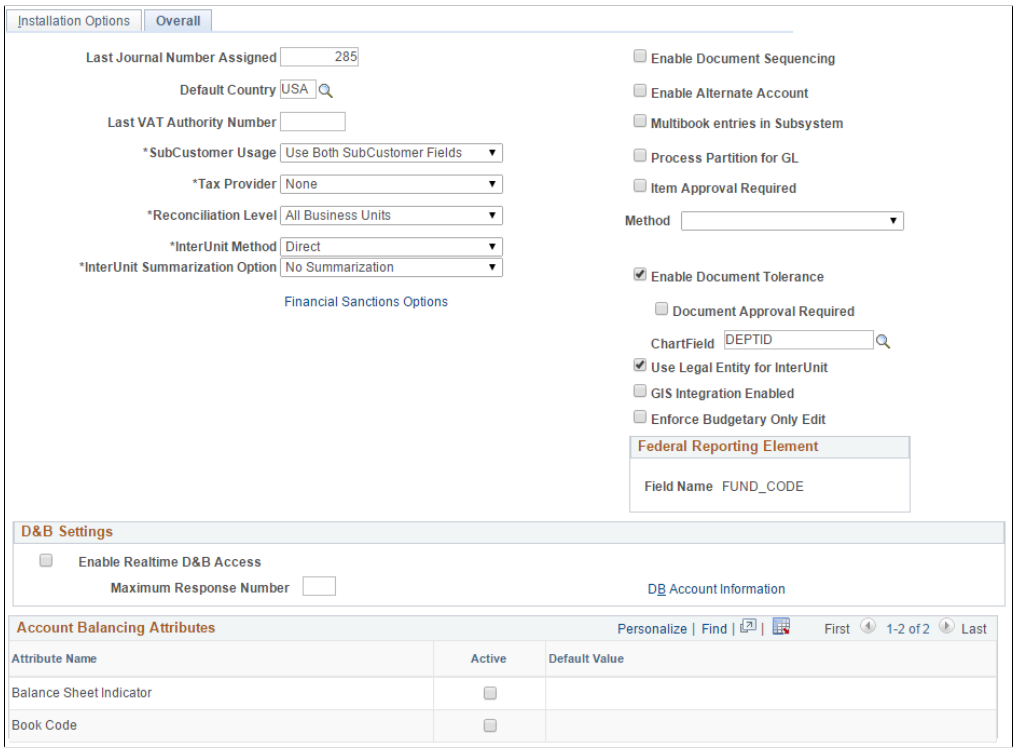
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [基本設定]

画像: インストール オプション - 基本設定ページ

次の例では、インストール オプション - 基本設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



最終割当仕訳番号 仕訳の採番開始番号が表示されます。仕訳に対する採番は、このフィールドに表示されている番号より 1 つ大きい番号が次の割当仕訳番号になるように変更できます。全ての仕訳は、最初に作成した仕訳から連番で増分されます。

デフォルト国 デフォルトでページに表示する国を選択します。このデフォルトは実際のページで上書きできます。

最終消費税税務当局番号 消費税税務当局番号を新規に作成する際に、システムで自動的に割当を開始するために使用する最終消費税税務当局番号を入力します。このフィールドを編集できるのは、消費税税務当局番号を変更する場合のみです。エクスプレス消費税コード機能を使用している場合、消費税税務当局番号は、消費税コードの作成時にシステムによって自動的に作成されます。次に、消費税コードに 1 つ以上の税務当局を割り当て、その消費税コードに適用する消費税率を定義します。

顧客サブ グループ使用 顧客サブ グループのレベルをシステム内で有効にしている場合は、顧客内のサブディビィジョンに対して履歴、エージング、イベント、および一部のプロファイルを使用できます。最初の [顧

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

客サブグループ] フィールドを使用するか、2 つの [顧客サブグループ] フィールドを使用するか、またはいずれの [顧客サブグループ] フィールドも使用しないのどれかを選択します。これらのフィールドは、顧客サブグループがある顧客が表示の対象となる全てのページに表示されます。

税計算ソフト

使用する税計算ソフトのタイプとして、*[なし]*、*[TAXWARE]*、または *[VERTEX]* を選択します。このオプションによって、売上税/使用税に関連して PeopleSoft アプリケーションのページに表示されるフィールドが決定します。サードパーティの税計算アプリケーションを選択するには、事前にそのアプリケーションをインストールして、PeopleSoft システムと通信するように設定する必要があります。

注: 税計算ソフトを変更するとプロセスが実行され、地域コードおよびビジネス ユニットの税計算ソフト設定が更新されます。このプロセスのステータスは、米国税計算ソフト インストール ページに表示できます。税金計算ソフトを *[なし]* に変更すると、地域コードの選択が解除されます。サードパーティ ソリューションでは、プロセスが終了するまで税金を計算できません。PeopleSoft の税テーブルを使用するように設定したビジネス ユニットの取引は、この変更による影響を受けません。

米国税計算ソフト設定

[米国税計算ソフト] リストからサードパーティを選択すると、[米国税計算ソフト設定] リンクが表示されます。このリンクをクリックして、選択した税計算ソフト ソリューションに対する設定を完了します。

照合レベル

銀行口座照合プロセスに使用するビジネス ユニットレベル セキュリティのタイプを指定します。システムに設定した全てのビジネス ユニットを照合プロセスに含める場合は、*[全ビジネス ユニット]* を選択します。定義済のビジネス ユニット セキュリティに従って照合する場合は、*[単一ユニット]* を選択します。*[単一ユニット]* を選択した場合は、自動照合プロセスの実行パラメータで、照合の実行対象となるビジネス ユニットを選択する必要があります。リストには、ユーザーがアクセスできるビジネス ユニットが表示されます。

ユニット間貸借一致方法

ユニット間取引に対する借勘定と貸勘定の貸借一致方法を次の値から 1 つ選択します。

直接: 取引内で各エンティティの貸借一致に使用する借勘定と貸勘定のチャートフィールドは、そのエンティティのユニット間/内テンプレート定義から取得されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

間接: 取引内で各エンティティの貸借一致に使用する借勘定と貸勘定のチャートフィールドは、関係会社エンティティのユニット間/内テンプレート定義から取得されます。

ペア: 取引内で各エンティティの貸借一致に使用する借勘定と貸勘定のチャートフィールドは、その取引に関連するエンティティまたはビジネス ユニットのペアに対する定義から取得されます。ユニット間ペア管理ページには、複数のペアが定義されています。

「ユニット間インストール オプション基本設定の設定」を参照してください。

ユニット間要約オプション

以下のオプションの 1 つを選択します。

注: Sybase のユーザーは、データベースの技術的な制約のため、[ユニット間要約オプション] を使用できません。

- *要約:* 関連するチャートフィールドを使用していない場合、[要約] オプションは処理にのみ影響を与えます。このオプションは、全てのフィールド (金額と行連番のフィールドを除く) が等しい場合、まとめて要約するシステム生成のユニット間/内相殺行に対して選択します。たとえば、ビジネス ユニット A がビジネス ユニット B と C の経費を支払う場合にユニット間要約を使用しない場合、2 つのユニット間貸借一致行がビジネス ユニット A (1 つは B 用でもう 1 つは C 用) に作成されます。ただし、ユニット間要約を使用すると、ユニット間処理で 2 つではなくビジネス ユニット A のユニット間売掛金仕訳行が 1 つのみ作成されます。ビジネス ユニット A、B、および C の間で追加のアクティビティがある場合、ユニット間プロセッサはビジネス ユニット間の貸借一致全体を管理しながら、アクティビティを要約して最小数のユニット間仕訳行を作成します。
- *要約なし:* システム生成のユニット間/内相殺行を要約しない場合、つまり関連するチャートフィールドを使用している場合に選択します。

「ユニット間インストール オプション基本設定の設定」を参照してください。

金融制裁オプション

クリックして金融制裁オプション ページにアクセスし、金融制裁の検証を設定できます。

ドキュメント連番使用

インストール全体に対してドキュメント連番を使用する場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

代替勘定科目使用

代替勘定科目処理を有効にする場合に選択します。代替勘定科目によって、法定レポート要件に合わせた仕訳行および取引レベルの残高が作成されます。主要勘定科目フィールドには企業の勘定科目が、代替勘定科目には法定勘定科目が設定されます。各代替勘定科目に対してマッピング オプションを定義するか、定義しない場合は、ユニット別元帳ページに定義されている仮計上勘定がデフォルトでアクセスされます。他のアプリケーションで代替勘定科目を使用するために、一般会計をインストールする必要はありません。

サブシステムに複数帳簿会計入力を作成

サブシステムの補助ページに複数の帳簿会計入力が作成されるようにする場合に選択します。このオプションを使用するには、一般会計をインストールする必要があります。

一般会計での分割処理

処理パフォーマンスを改善する場合に選択します。固有のデータ分割と同時に実行するには、複数の一般会計転記プロセスを有効にするために必要な手順を実行しておく必要がります。このオプションは、一般会計がインストールされている場合のみ使用できます。

アイテム承認要: 方法

承認方法として、*[手動]* または *[ワークフロー]* を選択します。*[手動]* を選択した場合、権限のあるユーザーは、アイテム承認ページで個々のアイテムのステータスを *[承認済]* または *[却下]* に設定できます。ワークフロー承認を選択した場合は、PeopleSoft ワークフロー内のビジネス プロセスとしてアイテム承認を設定する必要があります。

ドキュメント許容差異使用

ドキュメント許容差異のチェックを実行する場合に選択します。これは、調達依頼書と発注書間または発注書と伝票間のパーセントまたは金額上の不一致をチェックする編集です。この許容差異チェックは、配布行レベルで実行されます。許容差異しきい値はチャートフィールド値ごとに定義します。[チャートフィールド] フィールドには、ドキュメント許容差異チェックの定義に使用する値のチャートフィールドを入力します。

ドキュメント承認要

伝票が承認されていることをドキュメント許容差異チェック アプリケーション エンジン プロセス (FS_DOC_TOL) でチェックする場合に選択します。伝票が承認されていない場合、プロセスでは例外が発行されます。このオプションを選択しない場合、プロセスでは通常の検証 (伝票が承認されているかどうか) が続行され、許容差異内の伝票はパスし、許容差異を超えている伝票に対しては例外を生成します。

チャートフィールド

ドキュメント許容差異チェックの定義に使用する値のチャートフィールドを入力します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユニット間取引に法人を使用

ビジネス ユニットのユニット間取引を法人、パートナシップ、個人事業主などの法人別に区分けする場合、および取引が法人間または法人内かに従って、異なるユニット間買掛金管理と売掛金管理を使用する場合に選択します。ユニット間貸借一致方法がペアの場合は、このフィールドの選択を解除します。

GIS インテグレーション可 (地理情報システム インテグレーション可)

地理情報システム (GIS) と PeopleSoft Maintenance Management および PeopleSoft 資産管理とのインテグレーションを有効にする場合に選択します。

PeopleSoft Maintenance Management および PeopleSoft 資産管理と ESRI を統合するには、特定の設定要件があります。

- 各ユーザーのコンピュータのブラウザに合った Adobe Flash Player のインストール。
- PeopleSoft インストール オプションのオプション ページでの GIS インテグレーションの設定。([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[インストール]、[インストール オプション]、基本設定ページ。)
- 資産管理 (AM) ビジネス ユニットでの GIS インテグレーションの設定。([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[ビジネス ユニット関連]、[資産]、[資産管理定義]、インターフェイス オプション ページ。)
- PeopleSoft Maintenance Management の作業指示ビジネス ユニットでの GIS インテグレーションの設定。([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[ビジネス ユニット関連]、[Maintenance Management]、作業指示定義、インテグレーション ページ。)

Location/Comments/Attributes PagePeopleSoft Asset Management も参照してください。

予算目的のみ編集

取引の保存時に予算目的のみ編集を実施する場合に選択します。これによって、予算目的のみの異なる値を持つ有効日が設定された複数の値がある場合は、予算目的のみチャートフィールドの値を編集できます。この編集が不要な場合は、このオプションの選択を解除してください。

このオプションによって、チャートフィールド ページの既存の編集ではサポートされていない取引ページへの追加編集が提供されます ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[共通定義]、[チャートフィールド設定]、[値の定義]、[チャートフィールド値]、<チャートフィールド>)。一部の取引ページ内では、既存のプロンプト テーブル編集でユーザーが予算目的のみチャートフィールドを選択することが制限されています。ただし、チャートフィー

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ルド ページに複数の有効日行がある場合は、プロンプト テーブル編集で [予算目的のみ] フラグを認識できない場合があります。このオプションによって、必要なオンライン編集機能が、既存のオンライン編集に加えて提供されます。

連邦政府レポート要素

これは表示専用フィールドで、連邦政府レポート用の取引を追求します。このフィールド名は、連邦政府取引のレポート時にクロス リファレンスとして使用されます。

リアルタイム信用情報アクセス可 (Dun and Bradstreet へのリアルタイム アクセスの有効化)

ユーザーが Dun and Bradstreet インターフェイスを使用し、Dun and Bradstreet のレポートを注文して購入できるようにする場合に選択します。

最大応答数

データ統一採番システム (DUNS) ナンバーを検索しているときに、Dun and Bradstreet システムから受信する最大行数を入力します。

DB アカウント情報 (Dun and Bradstreet アカウント情報)

クリックして DB アカウント ページにアクセスし、各 Dun and Bradstreet アカウントに関するログイン情報を入力します。

勘定残高属性

適切なチェック ボックスをオンにして、次の勘定残高属性をアクティブにします。

貸借対照表: 勘定科目値をバランス シートまたはオフバランス シートとして定義している場合は、必要な貸借一致を実行するために、適切なバランス シートまたはオフバランス シートの勘定科目と共に、仕訳編集、評価替、締め処理、ポジション勘定科目など、さまざま一般会計プロセスも割り当てる必要があります。

台帳コード: 台帳コード機能を使用して、取引を同じ元帳内の複数の貸借一致サブセットにさらに区分けする場合、適切な貸借一致を確実にするために特に重要なことは、台帳コード チャートフィールド値と貸借対照表値が適切にグループ化されていて、自分の勘定科目チャートフィールドに一致していることです。台帳コードと貸借対照表値の組合せは、勘定残高グループとして定義します。この 2 つは属性として勘定科目に関連付けます。

アクティブにできるのは、いずれか 1 つの勘定残高属性です。1 つのみアクティブにする場合は、両方をアクティブにする必要はありません。[デフォルト値] フィールドには、チャートフィールドの設定時に設定したデフォルトの勘定残高グループ値が移入されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: 台帳コードをサポートしている製品は、一般会計および資産管理のみです。台帳コードを使用する資産ビジネス ユニットと使用しない資産ビジネス ユニットが資産管理に混在している場合は、空白の台帳コードが必要になる場合があり、その空白の台帳コード値を使用するには、新しい勘定残高グループとユニット間テンプレートが必要です。

関連リンク

ユニット間およびユニット内処理の設定
チャートフィールド継承の使用
税計算ソフト インストール オプションの定義
アプリケーションの基礎のレポート: 一般的な説明
PeopleSoft チャートフィールドについて
PeopleSoft チャートフィールドについて
貸借一致チャートフィールド
勘定科目のタイプおよび属性の定義と使用
[貸借対照表] と [台帳コード] の使用
Setting Up VAT Authorities and Tax CodesPeopleSoft Global Options and Reports
Understanding Document TolerancesPeopleSoft Payables
Setting Up Document TolerancesPeopleSoft Payables

金融制裁オプション ページ

金融制裁オプション ページ (SDN_SRCH_OPT_SEC) を使用して、PeopleSoft 財務管理、買掛金管理、eSettlements、および受注管理に対して財務検証オプションを定義します。

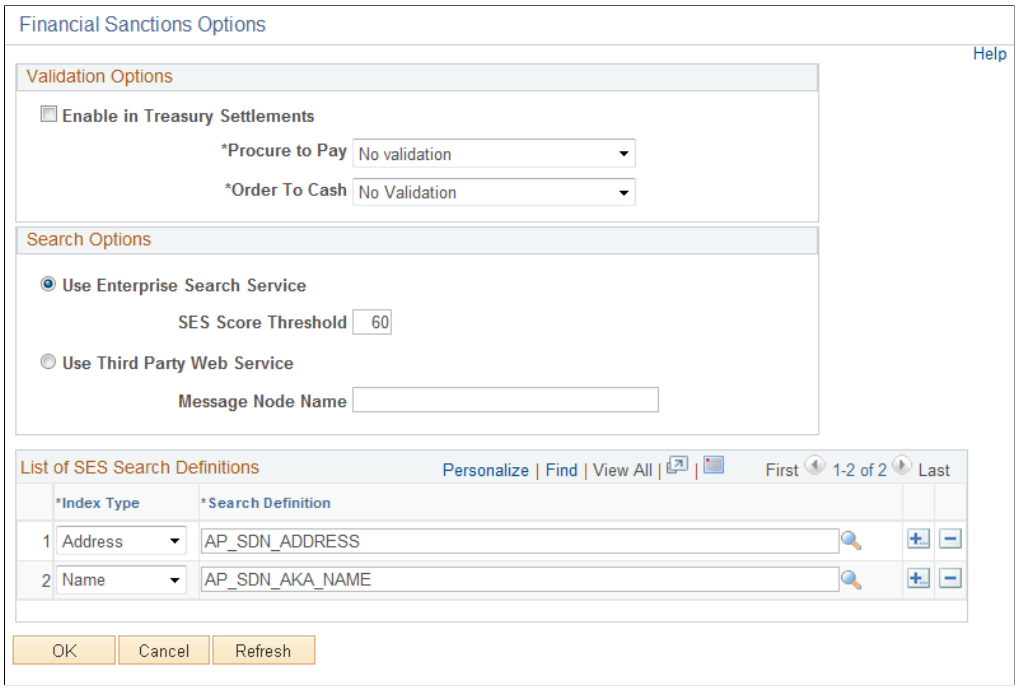
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

インストール オプション - 基本設定ページの [金融制裁オプション] リンクをクリックします。

画像: 金融制裁オプション ページ

次の例では、金融制裁オプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



検索オプションを選択し、SES (Oracle Secure Enterprise Search) 検索定義を指定します。

金融制裁オプション ページで指定した検索用索引と照合して、支払先、銀行、取引先、および顧客を検証できます。検証オプションをどのように設定したかに応じて、アプリケーションでは、照合が適正であることを確認して、該当する個人または企業による財務取引の実行を防止するためのプロセスが管理者に対して提供されます。

Understanding the Financial Sanctions ServicePeopleSoft Banks Setup and Processing を参照してください。

Understanding Financial Sanctions ValidationPeopleSoft Source to Settle Common Information を参照してください。

Validating Financial SanctionsPeopleSoft Order to Cash Common Information を参照してください。

有効性検証オプション

資金管理で有効にする

PeopleSoft 資金管理で金融制裁の検証を有効にする場合に選択します。このオプションを選択すると、銀行情報ページで [金融制裁の検証] チェック ボックスがオンになっている銀行からの取引に関係する決済プロセスで、SDN の支払先検証検索が開始します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Bank Information PagePeopleSoft Banks Setup and Processing を参照してください。

Understanding the Settlements Payment ProcessPeopleSoft Cash Management を参照してください。

支払対象調達

次のいずれかのオプションを選択して、PeopleSoft 買掛金管理、および eSettlements サプライヤの金融制裁の検証を有効にします。

銀行レベルで有効: 銀行情報コンポーネント (COUNTERPARTY_DEFN) で金融制裁の検証が必須として指定されている銀行と取引があるサプライヤの金融制裁の検証を有効にします。

インストール レベルで有効: 全てのサプライヤについて金融制裁の検証を有効にします。

検証なし: 金融制裁の検証は実行されません。

受注から請求

オプションを選択して、PeopleSoft 請求管理、受注管理、および在庫管理の顧客について金融制裁の検証を有効にします。オプションは、次のとおりです。

ビジネス ユニット レベルで有効: 在庫定義、受注管理定義、請求管理定義の各コンポーネント (それぞれ INV_BUSIN_UNIT、BUS_UNIT_TBL_OM、BUS_UNIT_TBL_BI) で金融制裁のスクリーニングが必須として指定されているビジネス ユニットと取引がある顧客の金融制裁の検証を有効にします。

インストール レベルで有効: システム全体および全てのビジネス ユニットについて金融制裁の検証を有効にします。

検証なし: 金融制裁の検証は実行されません。

検索オプション

検索を実行するには、FSCM データベースに格納されている金融制裁データの検索を呼び出すか、またはサードパーティ Web サービスを使用して検索を呼び出します。共通アプリケーション パッケージ (FS_SDN_SEARCH) には、FSCM データベースに格納されている金融制裁データにアクセスするか、またはサードパーティ Web サービスを使用して金融制裁データにアクセスするための検索インターフェイスが用意されています。

エンタープライズ検索サービスの使用

FSCM データベースに格納されている金融制裁データにアクセスする場合に選択します。

SES スコアしきい値 (Secure Enterprise Search スコアしきい値)

マッチング候補がある場合にシステムで判断するために使用するスコアを入力します。システムでは、金融制裁データに対して作成された Oracle SES 検索定義について検索が実行されます。SES によって返されたスコアは、入力したスコアと比較され

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ます。返されたスコアが入力したスコア以上の場合は、マッチング候補と見なされます。

注: 入力する数字が大きいほど、より正確に金融制裁データとマッチします。入力する数字が小さいほど、より多くのマッチング候補が返されます。組織に対する許容値を決定する必要があります。

警告 提供された SES スコアしきい値を変更するには、SES 検索エンジンが PeopleSoft 検索フレームワーク内でどのように機能するかについての十分な知識が必要です。

*『PeopleTools: PeopleSoft Search Technology』*を参照してください。

サードパーティ Web サービスの使用 サードパーティ Web サービスを使用して金融制裁データにアクセスする場合に選択します。

メッセージ ノード名 XML でフォーマットされた IP メッセージを PeopleSoft とサードパーティ Web サービス間で交換する際に使用するノード名を入力します。このノードは、サードパーティ Web サービスを呼び出すように設定する必要があります。また、サードパーティ Web サービスで受信したアウトバウンド IP リクエスト メッセージ、およびサードパーティ Web サービスから送信されたインバウンド IP レスポンス メッセージは変換する必要があります。

Understanding the Financial Sanctions ServicePeopleSoft Banks Setup and Processing を参照してください。

Defining Integration Broker Settings for PaymentsPeopleSoft Financial Gateway を参照してください。

注: この PeopleSoft アプリケーションには、FSCM データベースに格納されている金融制裁データにアクセスする Web サービス (SDN 検索) が用意されています。この Web サービスは、インテグレーション ブローカーを使用するか、または Business Process Execution Language (BPEL) マップを使用することによって提供されます。Web サービスの有効化については、*『PeopleTools: Integration Broker』*の「Creating Third-Party Integrations Using WSDL」のトピックで説明しています。

SES 検索定義のリスト

SES 検索エンジンでは、金融制裁データの検索が実行されます。

検索定義 金融制裁の検証に使用する名前検索定義および住所検索定義を入力します。最も正確なマッチング結果を特定するために、

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

システムでは、名前検索定義と照合した名前フィールドの検索、および住所検索定義と照合した住所フィールドの検索のみが実行されます。名前と住所の両方の検索定義が必要です。最初に、検索用索引管理ページ ([PeopleTools]、[検索エンジン]、[管理]、[検索用索引管理]) を使用して検索定義を作成する必要があります。

注: Oracle PeopleSoft には、特別指定国 (SDN) リスト用の名前と住所の検索用索引 (SDN_SEARCH_NAME と SDN_SEARCH_ADDR) が用意されています。

索引タイプ

検索用索引に関連する索引タイプを選択します。オプションは、次のとおりです。

住所: 住所フィールドおよび加重係数が住所検索用索引に渡されます。次に、SES 検索エンジンの複数の結果が比較され、スコアが [SES スコアしきい値] フィールドの値より大きい場合は、マッチする可能性がレポートされます。

名前: 名前フィールドおよび加重係数が名前検索用索引に渡されます。次に、SES 検索エンジンの複数の結果が比較され、スコアが [SES スコアしきい値] フィールドの値より大きい場合は、マッチする可能性がレポートされます。

DB アカウント ページ

Dun and Bradstreet インターフェイスを介してレポートを購入するための個別の請求アカウントがあるビジネス ユニットごとに、セットID を入力します。各セットID について、ログオンに使用するユーザー ID とパスワードを入力します。

フリガナ ページ

フリガナ ページ (ALT_CHAR_PNL) を使用して、特定の言語コードで使用されるフリガナを選択します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション]。[フリガナ] リンクをクリックします。

PeopleSoft のフリガナ アーキテクチャは、言語の表音要件を調整し、主として、EFT 処理用の日本語フリガナ要件をサポートします。その実装を拡張して、他の言語のニーズを含めることができます。

言語コード

使用可能なオプションから、フリガナの値を割り当てることができるコードを選択します。(セキュリティ設定時に) ユーザーに対してコードを選択し、フリガナを使用できるようにした場合、ユーザーは、関連する [フリガナ] フィールドが付随する全てのフィー

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ルドについて、そのユーザーの言語コードに割り当てられた文字セットのみを使用できます。



特定のユーザーに対してフリガナを有効にすると、関連する[フリガナ] フィールドが付随するシステム内の全フィールドの右側に、このボタンが表示されます。[フリガナ] ボタンをクリックし、[フリガナ セット] にフィールド値を入力して表示します。フリガナ セットは言語コードとリンクされ、ユーザー ID 別に使用するように選択されます。[フリガナ] フィールドで使用できるのは、このページでユーザー ID の特定の言語コードに対して指定した文字セットのみです。

関連リンク

ユーザー基本設定 - 基本設定ページ

ドキュメンタム ページ

ドキュメンタム ページ (OPER_DEF_TABLE_DC) を使用して、ドキュメンタムのインストール オプションを設定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション]。[ドキュメンタム] リンクをクリックします。

ドキュメント管理システムを有効にしたり、システムレベルの設定を指定する特定のドキュメント管理コントロール オプションをいくつか設定できます。

注: このページの全てのフィールドでは、大文字と小文字が区別されます。

ドキュメント管理 組込みのエンタープライズ ドキュメント管理システムを有効にする場合に選択します。このオプションを選択すると、ドキュメンタムのインストール オプションがアクティブになります。

ドキュメンタム ドックベース名 特定の PeopleSoft 製品のページを使用してアクセスするドキュメントが格納されているドキュメント データベースの名前が表示されます。

クエリーの最大ドキュメント数 ドキュメンタムが有効な製品内でドキュメント管理システムのクエリーを実行したときに取得されるドキュメントの最大数が表示されます。この値は、ドキュメント管理システム クエリー自体の結果の最大ドキュメント数ではなく、クエリー結果ページに返される最大ドキュメント数です。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: この設定では、1 つのページに関連付けることができる最大ドキュメント数ではなく、1 つのクエリーによって返される最大ドキュメント数が制限されます。

ドキュメントのオブジェクト タイプ ドキュメント データベースのドキュメントにアクセスする場合に使用するドキュメント管理システム オブジェクト スーパータイプが表示されます。オブジェクト タイプによって、ドキュメンタム内のドキュメントの有効な属性のセットが管理されます。このオブジェクト タイプには、PeopleSoft 設計管理のドキュメント クエリー ページから参照する全ての属性 (フィールド) を含める必要があります。

連邦処理オプション ページ

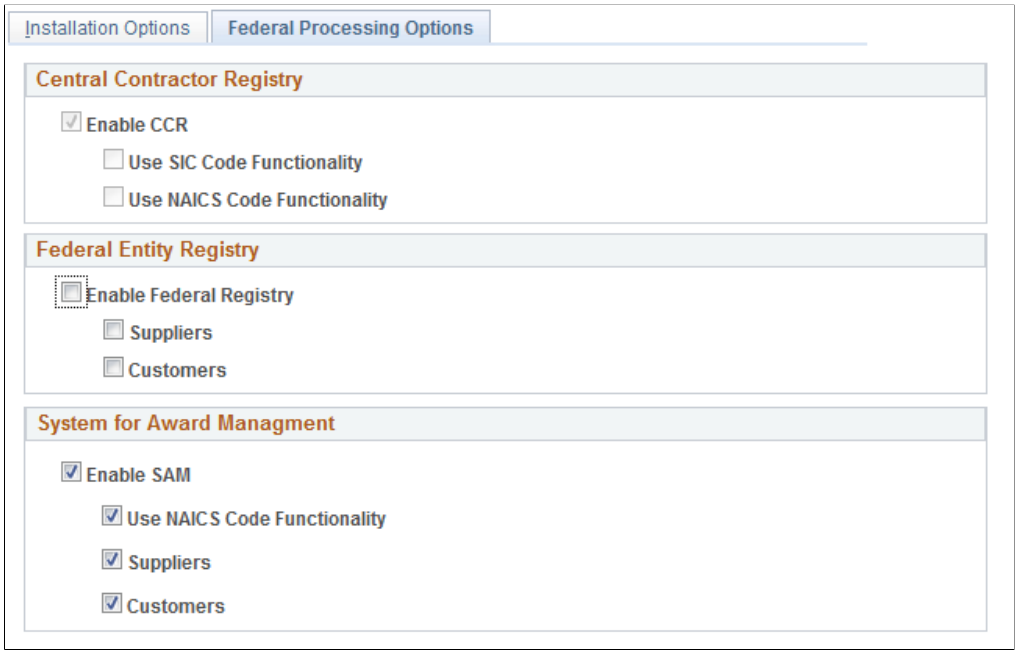
連邦処理オプション ページ (INSTALLATION_FD) を使用して、取引先または顧客に対する連邦登録処理を有効にします。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [連邦処理]

画像: 連邦処理オプション

次の例では、連邦処理オプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



[CCR] グループ ボックスの設定は買掛金インストール オプションのページで定義されています。このページでは、フィールドは表示のみで編集はできません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

連邦登録使用 連邦登録からインターフェイス ファイルをロードできるようにする場合は、このチェック ボックスをオンにします。

サプライヤ ユーザーが連邦登録データから取引先を作成できるようにする場合は、このチェック ボックスをオンにします。

顧客 ユーザーが連邦登録データから顧客を作成できるようにする場合は、このチェック ボックスをオンにします。

入力イベント ページ

入力イベント ページ (INSTALLATION_EE) を使用して、一般会計、買掛金管理、発注、売掛金管理、および請求管理での入力イベントの使用を有効にし、さらにコミットメント コントロール予算への上方/下方調整を有効にします。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション]。[入力イベント] リンクをクリックします。

請求管理、一般会計、買掛金管理、購買管理、売掛金管理 次のオプションのいずれかを選択して、入力イベントの使用方法を製品ごとに指定します。

- *使用不可*

  選択した製品では、入力イベントを使用できません。

- *オプション*

  選択した製品では、入力イベントを使用しても使用しなくてもかまいません。

- *必須*

  選択した製品では、入力イベントを使用する必要があります。

注: プロジェクト コスト管理予算の入力イベント インターフェイス プロセッサ (PC_TO_EE) を有効にして、プロジェクト コスト管理予算取引から補足会計入力を生成するには、インストール オプション - 入力イベント ページで [一般会計] に対して *[必須]* または *[オプション]* を選択します。

上方/下方調整 コミットメント コントロールで失効年度資金が含まれていると特定されたコミットメント コントロール予算に対し、入力イベントを使用して上方/下方調整を実行する場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: 入力イベントは、資金ソース機能ではサポートされていません。

インストール オプション - コミットメント コントロール ページ

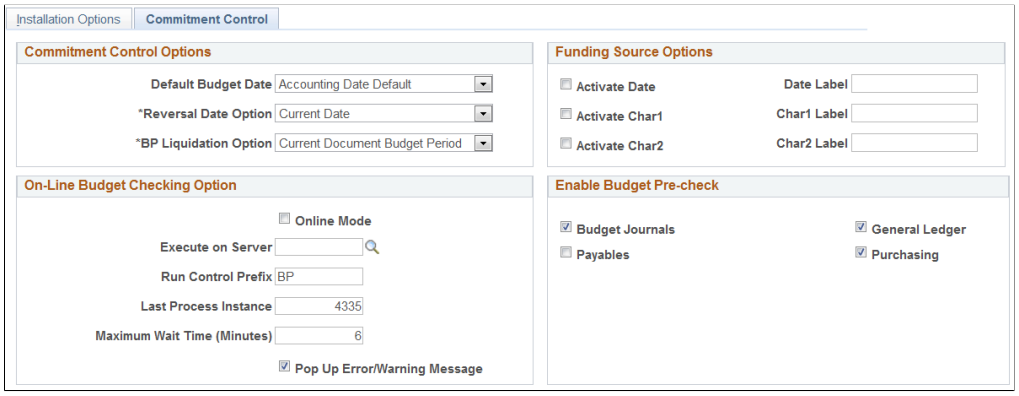
インストール オプション - コミットメント コントロール ページ (INSTALLATION_KK) を使用して、コミットメント コントロールのさまざまなインストール オプション (デフォルト予算日付、逆仕訳日付、予算期間調整、資金ソース、およびオンライン予算チェック) を入力します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション]。[コミットメント コントロール] リンクをクリックします。

画像: インストール オプション - コミットメント コントロール ページ

次の例では、インストール オプション - コミットメント コントロール ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



コミットメント コントロール オプション

デフォルト予算日付

調達依頼書、発注書、伝票に対する予算日付のデフォルト スキームを選択します。

次の値があります。

ドキュメント会計処理日: ドキュメント会計処理日を予算日付のデフォルトとして指定する場合に選択します。

前ドキュメント予算日付: 予算日付を前のドキュメントからコピーする場合に選択します。

逆仕訳日オプション

ドキュメントの逆仕訳 (再予算チェック) を管理する日付を選択します。

値は次のとおりです。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

前回日: 入力が最初に記録された会計年度と会計期間を使用して元の入力に戻す場合は、このオプションを選択します。たとえば、期間 1 で最初に作成された発注は、期間 1 のエンカンバランス入力として記録されます。ただし、期間 2 で発注を変更して新しい会計処理日を指定した場合は、期間 1 の発注が逆仕訳されて期間 2 に再計上されます。

現在日: 入力は現在日オプションを使用して期間 2 に戻されて再計上され、期間 1 は未変更のままです。その後、期間 2 にはドキュメントに対する正味変更が保持されます。

予算期間調整オプション

値は次のとおりです。

現在のドキュメントの予算期間: 処理対象ドキュメントの予算期間がデフォルトとなるように調整する場合に選択します。たとえば、予算期間 1 のエンカンバランスとして最初に記録された発注は、結果的には、実際に発生して予算期間 2 に割り当てられた支出の予算期間におけるエンカンバランスの調整となります。

このオプションには特別なシナリオが 1 つあります。ルールセット チャートフィールドが現在のドキュメントと前回のドキュメントとの間で変更され、この 2 つのルールセット チャートフィールドが異なる予算期間カレンダーを含む異なるルールセットに属している場合、調整入力の予算期間では、現在のドキュメントのルールセットは使用されません。代わりに、前回のドキュメントのルールセット チャートフィールドを使用して対応する予算期間カレンダーが取得され、そのカレンダーと現在のドキュメントの予算日付に基づいて調整予算期間が決定されます。

前回のドキュメントの予算期間: 前回のドキュメントの予算期間をデフォルトとして指定する場合に選択します。たとえば、発注に予算期間 1 があり、エンカンバランスを調整する支出が発生した場合、その調整は元のエンカンバランスを作成した発注に割り当てられた予算期間 (予算期間 1) で発生します。

資金ソース オプション

日付をアクティブ、日付ラベル

ユーザー定義情報専用の日付フィールドを使用可能にして、15 文字までのユーザー定義ラベルを指定する場合は、このチェック ボックスをオンにします。このフィールド名は資金ソース (KK_FUND_SOURCE) ページに表示されますが、このフィールドは情報のみで、論理演算が関連付けられることも、資金ソース クエリーの一部として提供されることもありません。

文字 1 をアクティブ、文字 1 ラベル

30 文字のユーザー定義情報フィールドを使用可能にして、そのフィールドに 15 文字までのユーザー定義ラベルを指定する場合は、このチェック ボックスをオンにします。定義したフィールド名

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

は資金ソース (KK_FUND_SOURCE) ページに表示されますが、このフィールドは情報のみで、論理またはプログラム演算が関連付けられることも、資金ソース クエリーの一部として提供されることもありません。

文字 2 をアクティブ、文字 2 ラベル

30 文字の第 2 のユーザー定義情報フィールドを使用可能にして、そのフィールドに 15 文字までのユーザー定義ラベルを指定する場合は、このチェック ボックスをオンにします。このフィールド名は資金ソース (KK_FUND_SOURCE) ページに表示されます。このフィールドは情報のみで、プログラム演算が関連付けられることも、資金ソース クエリーの一部として提供されることもありません。

オンライン予算チェック オプション

オンライン モード

予算チェック プロセスをオンライン モードで実行するように指定する場合に選択します。選択すると、予算チェック プロセスは取引ページで開始され、ユーザーは作業を続行できる一方、プロセスはアプリケーション サーバーで完了します。

予算チェック プロセスをバッチ モードで実行するように指定する場合は選択を解除します。選択を解除すると、予算チェック プロセスはプロセス スケジューラで実行されます。

[オンライン モード] を選択せずに仕訳転記プロセスを実行すると、プロセスの完了を待機するかどうかをたずねるポップアップ メッセージが表示されます。

- *[はい]* を選択すると、プロセスが完了するまでページが保留になります。
- *[いいえ]* を選択すると、ページがクリアされ、作業を続行できます。

実行サーバー

オンライン予算チェックを実行するプロセス スケジューラ サーバーを選択します。サーバーを指定しないと、実行時に使用可能なサーバーがシステムによって選択されます。

ラン コントロール プレフィックス

オンライン予算プロセスのラン コントロールを区別するプレフィックスを入力します。オンライン取引に対して予算チェックを実行すると、システムでは、オンライン取引の予算チェック リクエストが作成されて、予算プロセッサが実行されます。システムによって [最終プロセス インスタンス] の値が 1 ずつ増分されてラン コントロール プレフィックスと結合され、固有のコントロール ID が作成されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

最終プロセス インスタンス これは、オンライン予算チェック リクエストのラン コントロール ID を作成するためにシステムで使用される最終プロセス インスタンスです。最終プロセス インスタンス値はシステムで管理されるため、変更する必要はありません。

最大待機時間 (分) これは、オンライン予算チェック リクエストが完了するまでユーザーが待機する最大時間 (分) です。プロセスの完了を待機している間、オンライン取引ページは凍結されます。プロセスが完了すると、ページがリフレッシュされて予算チェック ステータス (取引が予算チェックをパスしたか、パスしなかったか) が表示されます。ただし、最大待機時間が経過しても予算プロセッサが完了しない場合、予算プロセッサは処理を続行しますが、ページは凍結されなくなります。ユーザーはさらに待機する必要はありませんが、予算チェック ステータスを表示するためにページがリフレッシュされることはありません。予算プロセッサ ステータスを確認するには、プロセス モニターを使用します。プロセス モニターで予算プロセッサが終了した後は、コンポーネントを終了して再度起動し、更新された予算ステータスを確認する必要があります。

ポップアップ エラー/警告メッセージ オンライン予算チェック プロセスの完了後にポップアップ メッセージが表示されるように指定する場合は、このオプションを選択します。このメッセージが表示されるのは、取引で予算チェック エラーまたは警告が発生した場合のみです。

予算事前チェック使用

[予算事前チェック使用] グループ ボックスで、チェックのみの予算チェックを有効にする PeopleSoft アプリケーションを選択します。チェックのみの機能を使用すると、取引や予算をコミットメント コントロール予算元帳に転記しなくても、取引および予算仕訳の予算チェックをオンラインまたはバッチで実行できます。このグループ ボックスに表示されるアプリケーションは、インストール オプション - 製品ページの[コミットメント コントロールを使用] グループ ボックスの指定に従って、コミットメント コントロールに対して有効化された製品に応じて変化します。

Understanding Budget Check Only (Budget Pre-Check)PeopleSoft Commitment Controlを参照してください。

インストール オプション - 顧客ページ

インストール オプション - 顧客ページ (INSTALLATION_CU) を使用して、顧客階層の全体的なデフォルト オプションを定義します。

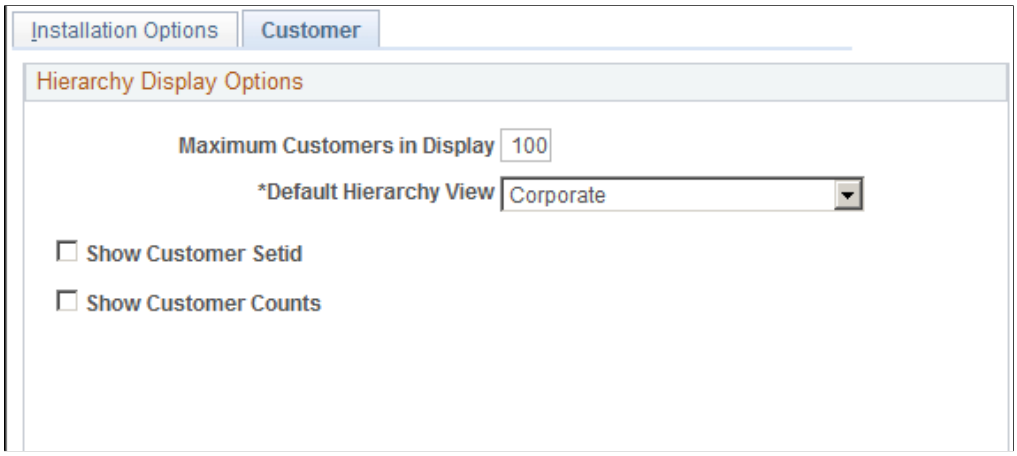
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [顧客]

画像: インストール オプション - 顧客ページ

次の例では、インストール オプション - 顧客ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このページで選択した値は、次のコンポーネントでの顧客階層ページの表示方法に影響を与えます。

- [顧客情報]、[一般情報] の顧客階層ページ ([顧客]、[顧客情報]、[一般情報] で、[連絡先の選択] リンク、[回収先の選択] リンク、または [代表顧客の選択] リンクをクリック)。
- 顧客階層コンポーネント ([売掛金管理]、[顧客勘定]、[顧客情報]、[顧客階層])。
- 回収ワークベンチ コンポーネント ([売掛金管理]、[顧客勘定]、[回収ワークベンチ] で、[階層] タブをクリック)。

最大表示顧客数

デフォルト値の 100 が表示されます。この値は上書きできます。

この値によって、表示される顧客数、およびユーザーが階層に追加できる顧客数が管理されます。

階層関係 (法人、連絡先、回収先) に追加できる顧客数に制限はありません。ただし、追加した顧客数がデフォルト値の 100 を超えた場合、またはこのフィールドに入力した数字を超えた場合は、ツリー全体がページに表示されなくなり、このページで入力した [最大表示顧客数] の値を超える顧客が階層に含まれていることを示すメッセージがグラフィックの階層に表示されます。

デフォルト階層表示

デフォルト値の *[法人]* を受け入れるか、または次のいずれかの値が顧客階層ページのレベル フィールドに表示されるように選択します。

- *法人*

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *連絡先*
- *回収先*

顧客セットID の表示 顧客階層ページまたは回収ワークベンチの「階層」タブにある顧客階層ツリーの顧客詳細ノードおよび顧客サマリ ノードに顧客のセットID を表示する場合は、このチェック ボックスをオンにします。

顧客数の表示 顧客階層ページまたは回収ワークベンチの「階層」タブにある顧客階層ツリーの各ノードに関連付けられた顧客数を表示する場合は、このチェック ボックスをオンにします。

関連リンク

Understanding the Collections WorkbenchPeopleSoft Receivables
Adding General Customer InformationPeopleSoft Order to Cash Common Information

税計算ソフト インストール オプションの定義

税計算ソフト情報と免税証情報の指定は、2 ステップのプロセスです。最初に、インストール オプション - 基本設定ページのインストール レベルで税計算ソフトを指定します。次に、米国税計算ソフト インストール ページで税計算ソフト インストール オプションを設定します。

米国税計算ソフト インストール コンポーネント (TAX_PROV_INFO) を使用して、税計算ソフト インストール オプションを定義します。

税計算ソフト インストール オプションの定義に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
米国税計算ソフト	TAX_PROV_INFO	税計算ソフト情報と免税証情報を指定します。 • [ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [米国税計算ソフト インストール], [米国税計算ソフト] • インストール オプション - 基本設定ページで[米国税計算ソフト設定] リンクをクリックします。 **注:** このリンクは税計算ソフトを選択した場合に使用できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

アプリケーション固有のインストール オプションの設定

インストール オプション コンポーネント (INSTALLATION) を使用して、PeopleSoft アプリケーションのアプリケーション固有のインストール オプションを設定します。

アプリケーション固有のインストール オプションの設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
インストール オプション - 資産管理ページ	INSTALLATION_AM	提供された取引タイプの確認、資産処理機能の有効化、減価償却属性の有効化、システム オプションの設定および資産ライフサイクル管理ソリューション インテグレーション オプションの有効化を行います。
請求管理 - 一般オプション ページ	INSTALLATION_BI	請求管理に固有のインストール オプションを定義します。
請求 - 連邦オプション ページ	INSTALLATION_BI3	請求管理に固有のインストール オプションを定義します。
請求管理-インテグレーション オプション ページ	INSTALLATION_BI2	請求管理に固有のインストール オプションを定義します。
インストール オプション - 契約管理ページ	INSTALLATION_CA	契約管理に固有のインストール オプションを定義します。
インストール オプション - eSettlement-決済管理ページ	INSTALLATION_EM	eSettlement-決済管理のインストール オプションを定義します。
インストール オプション - 経費管理ページ	INSTALLATION_EX	経費管理のインストール オプションを定義します。
インストール オプション - 緊急 (日数) ページ	EX_URGENCY_SETUP	取引の高、中または低の各緊急レベルを計算およびトリガする際にシステムで使用される日数を入力して、経費レポート、勤務時間レポート、出張申請および仮払金の緊急レベルを設定します。
インストール オプション - 一般会計ページ	INSTALLATION_GL	一般会計のインストール オプションおよびモバイル承認オプションを定義します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
インストール オプション - Grants ページ	INSTALLATION_CSR	Grants インストール オプションを定義します。このページを使用して、任意の添付ファイルを含めることが可能であるとの指定、Grants のコスト配分機能の使用を計画している各供給システムに対するコスト配分分析タイプの設定、連邦財務レポートの未清算債務残高を計算するためのソースの決定を行います。
インストール オプション - Grants ポータル ページ	INSTALLATION_GMPT	Grants ポータル オプションを定義します。
インストール オプション - 在庫管理ページ	INSTALLATION_INV	PeopleSoft 在庫管理で使用される複数の設定を定義します。これらの設定には、ステージ日オプション、ユニット間取引オプション、バーコード取引の単位変換方法、会計入力行の採番方法、保管場所検索ページの検索制限、およびロット ID、シリアル番号、受領情報のデフォルト値などがあります。また、このページでは、資材出庫要求が [取引禁止業者のスクリーニング] プロセス (SCM_FSS) をパスできない場合にこれらの資材出庫要求に適用されるデフォルトの保留コードを定義します。
インストール オプション - 在庫管理カウンタ ページ	INSTALL_IN_COUNTERS	自動採番の開始値を定義します。
インストール オプション - Lease Administration ページ	INSTALLATION_RE	リースに対してリースのアクティブ化を有効にする場合に選択します。選択した場合、定義されたロールによりリースをアクティブ化できます。また、サイト マップ ページのマッピング指示を設定します。
インストール オプション - 生産管理ページ	INSTALLATION_MG	計算された組立使用数 (QPA) の端数処理桁数を設定します。この端数処理桁数は、PeopleSoft 生産管理、設計管理、原価管理および供給管理に反映されます。
インストール オプション - モバイル在庫管理ページ	INSTALLATION_MIN	モバイル在庫管理のインストール オプションを定義します。
インストール オプション - 買掛金管理ページ	INSTALLATION_AP	転記方法を定義し、買掛金管理アプリケーションについて、連邦政府支払スケジュール処理、支払遅延金計算、評価済割引およびドキュメント関連付け処理オプションを有効にします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
インストール オプション - プランニング ページ	INSTALLATION_PL	供給管理について、メッセージ番号およびデフォルト プランニング インスタンスを定義します。
インストール オプション - Program Management ページ	INSTALLATION_PGM	ワークフローおよび電子メール通知について、Program Management のシステム デフォルトを設定します。
インストール オプション - プロジェクト コスト管理ページ	INSTALLATION_PC	プロジェクト コスト管理全体で使用されるプロジェクト フィールドおよびコントロール フィールドのデフォルト設定を指定します。
インストール オプション - プロジェクト コスト管理インテグレーション ページ	INSTALLATION_PCINT	プロジェクト コスト管理とその他のアプリケーションの間におけるインテグレーション プロセスのパラメータを設定します。
インストール オプション - 購買管理ページ	INSTALLATION_PO	一般購買コントロール、調達依頼ローダー パラメータ、購買用クレジット カード コントロールおよび取引先属性を定義します。さらに、各種 PeopleSoft 購買管理ページに表示する最大行数を定義し、PeopleSoft 購買管理および PeopleSoft eProcurement-調達管理の両方について、Oracle BI Publisher を発注レポート ツールとして選択できます。
インストール オプション - 売掛金管理ページ	INSTALLATION_AR	売掛金管理アプリケーションに固有のインストール オプションを定義します。
売掛金管理 - 勘定科目残高概要ページ	ACCT_BAL_SBP	顧客売掛金の概要 - 残高ページに表示する残高を指定します。
インストール オプション - 受注管理ページ	INSTALLATION_OM	受注、見積および売買契約のチャンク パラメータを設定し、SES 検索、割戻および機能関数セキュリティを有効にします。
要員管理インストール オプションの定義	INSTALLATION_RS	要員管理アプリケーションに固有のインストール オプションを定義します。
サービス プロキュアメント インストール オプション ページ	INSTALLATION_SP	サービス プロキュアメント インストール オプションを定義します。
インストール オプション - Staffing のインストール オプション ページ	INSTALLATION_FO	Staffing Front Office および Pay/Bill Management のインストール オプションを定義します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
PeopleTools オプション ページ	PSOPTIONS	複数のジョブを有効にします。これにより、従業員検索ページおよび職務データページに表示する従業員レコード番号が有効になります。
ストラテジック ソーシングのインストール オプション ページ	INSTALLATION_AUC	落札詳細 - 入札表示オプションおよびマルチチャネル フレームワーク ソーシングのデフォルトを設定します。
インストール オプション - サプライヤ契約管理ページ	INSTALLATION_CS	サプライヤ契約管理のインストール オプションを設定します。
インストール オプション - 財務管理ページ	INSTALLATION_TR	会計処理、JD Edwards 一般会計および PeopleSoft ファイナンシャル ゲートウェイ機能に対してインテグレーション オプションを定義します。

インストール オプション - 資産管理ページ

資産管理ページ (INSTALLATION_AM) を使用して、提供された取引タイプの確認、資産処理機能の有効化、減価償却属性の有効化、システム オプションの設定および資産ライフサイクル管理ソリューション インテグレーション オプションの有効化を行います。

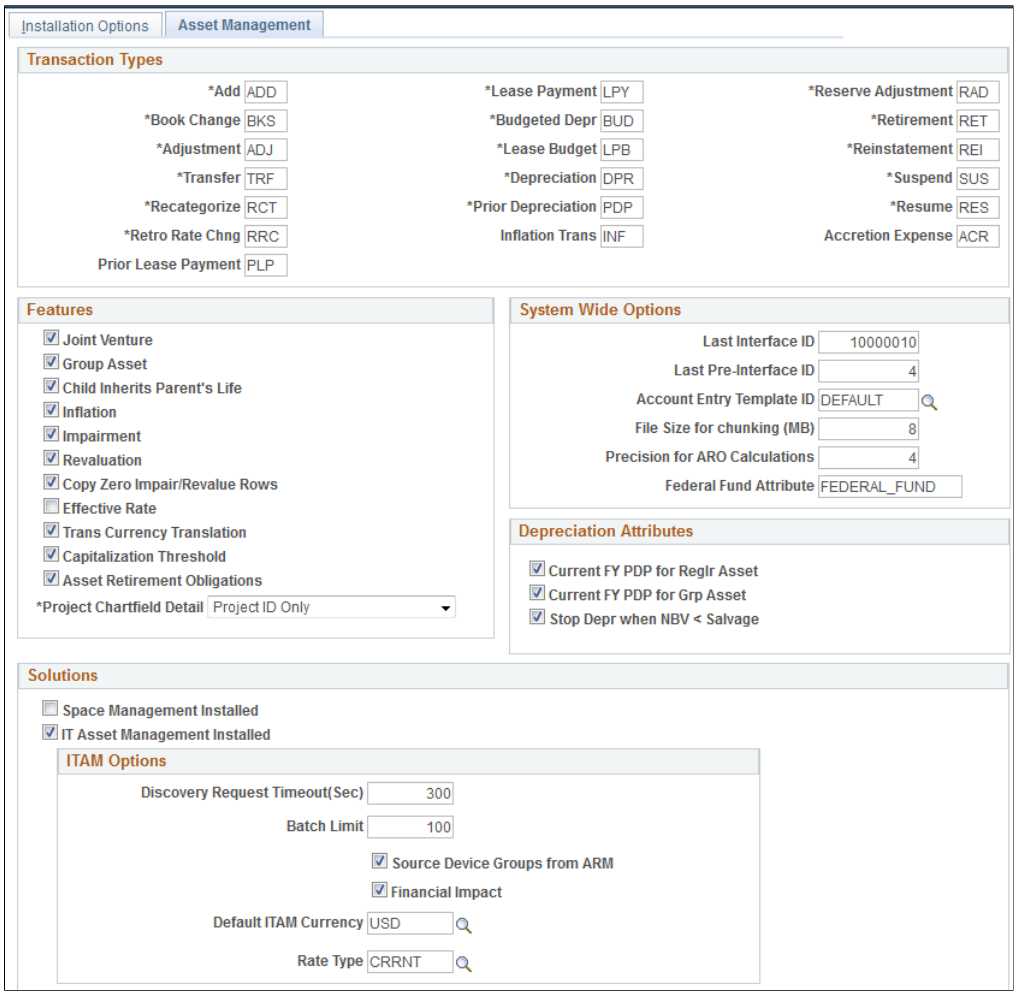
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [資産管理]

画像: インストール オプション - 資産管理ページ

次の例では、インストール オプション - 資産管理ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



取引タイプ

表示される取引タイプはシステムに付属しており、一般的な資産取引のタイプを示します。必要に応じて新規略称を使用して取引タイプ名を変更できますが、実際の資産取引をシステムに入力し始めるまでに限ります。一度行うと、取引タイプ テーブルは変更できなくなります。

増価費用

この取引タイプは、損益計算書用に費用として記録された資産処分債務の繰越金額における各期の変動を記録する場合に使用されます。このフィールドは、資産処分債務機能 ([機能] グループ ボックスの [資産処分債務] チェック ボックス) をオン

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

にした場合に表示されます。Accounting for Asset Retirement ObligationsPeopleSoft Asset Management を参照してください。

前のリース料支払 この取引タイプは、当期間に前期間分のリース料の支払が行われた場合に使用されます。[前のリース料支払] (PLP) 取引タイプは、会計入力の目的では [リース料支払] (LPY) 取引タイプと同様に機能します。Accounting Entry Template IDs PageAsset Lifecycle Management Fundamentals を参照してください

Creating Accounting EntriesPeopleSoft Asset Management

機能

資産管理では、所在地または業種の要件を満たすためにさまざまな処理機能をサポートしています。

ジョイント ベンチャー 資産管理のジョイント ベンチャ オプションを有効にする場合に選択します。これにより、2 つ以上のビジネス ユニットが資産の所有権を共有できるようになります。この機能のデフォルトは無効です。

グループ資産 グループ資産処理機能を有効にする場合に選択します。この機能のデフォルトは無効です。

親資産の耐用年数を継承 親資産の残存耐用年数を子コンポーネント資産が継承できるようにする機能を有効にする場合に選択します。この機能のデフォルトは無効です。

インフレーション インフレーションの資産残高 (コスト、期間別減価償却、年間累計減価償却および減価償却累計額) を調整する月次インフレーション調整取引 (取引タイプ *INF*) を提供する、インフレーション処理機能を使用する場合に選択します。これは主に米国以外の国で使用されます。この機能のデフォルトは無効です。

減損 国の減損基準を満たすことのできる資産のテストを提供する、減損処理を使用する場合に選択します。

評価替 公正市場価値に対して定期的な資産取得価額調整を行う評価替処理を使用する場合に選択します。

減損ゼロ/評価替の行をコピー 減損ゼロまたは評価替の行を別の台帳に作成し、これらの台帳において減損または評価替が処理されない場合でも同期性を保持する場合に選択します。

有効レート このオプションを選択すると、資産の取引日ではなく、PeopleSoft プロジェクト コスト管理で提供される有効日を使用して取引通貨を基本通貨に換算する機能が有効になります。このオプションは、プロジェクト コスト管理で発生している取引についてのみ有効です。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

取引通貨換算 (取引通貨換算)

このオプションを選択すると、会計入力 (AM_AMAEDIST) および減価償却費確定 (AM_DPCLOSE) プロセスに対し、主台帳の基本通貨を取引通貨として利用するよう指示されます。会計入力および減価償却費確定プロセスで、元の取引通貨を個々の取引ごとに貸借一致させる必要がある場合、このオプションを選択解除します。このオプションは、PeopleSoft 一般会計の仕訳入力に直接影響します。

資産計上許容額

このオプションを選択すると、システム レベルでの資産計上許容額処理が有効になります。インストール オプション内でこのオプションが有効になっていない場合、ビジネス ユニット レベルまたはプロファイル レベルで設定された資産計上許容額は無視されます。資産計上許容額機能が実装されている場合、PeopleSoft 資産管理では、資産取得価額に基づく資産のさまざまなプロファイルに関するユーザー定義ルールに従って資産を計上する必要性を自動的に評価できます。指定された許容額を使用して、資産を計上対象、計上対象外または経費のいずれに分類するかが決定されます。

*『PeopleSoft Asset Lifecycle Management Fundamentals』の「Setting Up Accounting Entry and Financial Processing for PeopleSoft Asset Management」、「Defining Financial Processing for PeopleSoft Asset Management」*を参照してください。

資産処分債務

このオプションを選択すると、資産処分債務処理が有効になります。この機能は、リース資産、グループ資産および資産減損について、財務会計基準 (FAS 143) に従って資産処分債務測定およびレポートを実行します。

Accounting for Asset Retirement ObligationsPeopleSoft Asset Management を参照してください

プロジェクト チャートフィールド詳細

ソース システムから PeopleSoft 資産管理へのプロジェクト コスト管理 (PC) 詳細のチャートフィールド値のインターフェイスを有効にするための値を選択します。このチェック ボックスを正しく設定すると、チャートフィールド値 ([プロジェクト]、[プロジェクト コスト管理ユニット]、[アクティビティ]、[ソース タイプ]、[カテゴリ] および [サブカテゴリ]) は資産管理ページ、さらに一般会計まで引き継がれます。値は次のとおりです。

- プロジェクト ID のみ - [プロジェクト ID] のみ保持します
- プロジェクトIDからアクティビティIDまで - [プロジェクト原価管理ビジネス ユニット]、[プロジェクト ID] および [アクティビティ ID] を保持します
- 全てを保持 – 全てのプロジェクト コスト管理チャートフィールド、つまり [プロジェクト原価管理ビジネス ユニット]、[アク

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ティビティ ID]、[リソース タイプ]、[リソース カテゴリ] および [リソース サブカテゴリ] を保持します

デフォルト値は [プロジェクト ID のみ] であり、これはシステム ソースの [プロジェクト ID] の値のみがインターフェイス プログラムによって資産管理に、そして最終的には一般会計に引き継がれることを意味します。

システム一般オプション

最終インターフェイス ID

主に参考用であり、システムによってインクリメンタルに割り当てられます。この番号を設定した後、設定した番号より 1 大きい値が次のインターフェイスに割り当てられます。

最終プレインターフェイス ID

主に参考用であり、システムによってインクリメンタルに割り当てられます。この番号を設定した後、設定した番号より 1 大きい値が次のプレインターフェイスに割り当てられます。

注: プレインターフェイス ID は、PeopleSoft 買掛金管理/購買管理から資産管理へのインターフェイスで使用されるプレインターフェイス テーブルへのキーの 1 つです。プレインターフェイス テーブルにデータを挿入するとき、買掛金管理および購買管理では [最終プレインターフェイス ID] フィールドが使用され、その後 ID カウンタが 1 ずつ増加します。インターフェイスを使用する前に別の最終プレインターフェイス ID を入力できます。入力しない場合、値 1 が使用されます。プレインターフェイス テーブルにデータ行が含まれる場合、最終プレインターフェイス ID は、テーブル内で最も大きいプレインターフェイス ID 番号以上である必要があります。

会計入力テンプレート ID

使用するデフォルトを選択します。会計入力テンプレート ID を使用すると、複数の勘定科目チャートを 1 つの資産に関連付けられるようになり、会計入力テンプレートの入力を迅速化できます。

チャンクのファイル サイズ (MB) (メガバイト)

サードパーティの取引先向けに資産管理の実地棚卸機能によって生成されるメッセージ (PIDATA の取得) のチャンク サイズを指定します。[チャンクのファイル サイズ (MB)] が [8] であり、メッセージの合計サイズが [18MB] である場合、メッセージはこのフィールドに指定された値に基づいて、3 つのチャンク (1 つ目および 2 つ目のチャンクはそれぞれ 8 メガバイト、3 つ目のチャンクは 2MB) に分割されます。このフィールドに値 0 が割り当てられている場合、ツール インストール レベル変数 (%MaxMessageSize) がチャンク サイズの決定に使用されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ARO 計算の桁数

このフィールドは、資産処分債務機能 ([機能] グループ ボックスの [資産処分債務] チェック ボックス) をオンにした場合に表示されます。資産処分債務の計算における文字数を入力します。

例: 債務の算式は、(市場リスク用に調整された予想キャッシュフロー) * (1/(1+ 貸方調整済リスク フリー レート) ^ 見積耐用期間) となります。

この算式では小数点以下の桁数が多くなることがあり、レポートの桁数の要件がさまざまとなります。したがって、結果の端数処理にはこのフィールドに指定された数値が使用されます。

ARO 計算の桁数が 4 であるとします。債務は次のように計算されます。

A = 市場リスク用に調整された予想キャッシュフロー

B = round((1+ 貸方調整済リスク フリー レート) ^ 見積耐用期間, 4)

債務 = A * round(1/B,4)

詳細については、Accounting for Asset Retirement ObligationsPeopleSoft Asset Management を参照してください。

連邦政府資金属性

連邦政府資金属性の名前を入力します。

連邦政府資金属性は、資金が連邦政府資金かどうかを指定するために、チャートフィールド属性ページでチャートフィールド属性を設定する際に使用されます。

Understanding Federal Funds TransfersPeopleSoft Asset Management を参照してください

減価償却属性

通常資産の当年度 PDP (通常資産の当年度前期減価償却期間)

このオプションは、[計算タイプ] が *[未償却残高]* である資産を追加する際に、資産の [使用開始日] が取引日より前である場合に選択します。同一会計年度内の資産を追加する場合、このオプションが選択されている限りは、[使用開始日] に基づいて前期減価償却期間 (PDP) が計算されます。これはデフォルトで選択されます。

たとえば、会計年度が 01/01/05 から 12/31/05、資産の使用開始日が 03/01/05、取引日が 05/01/05、会計処理日が 05/01/05、計算タイプが *[未償却残高]*、償却ルールが *[翌月]* である場合、PDP は 04/01/05 から計算されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

グループ資産の当年度 PDP (グループ資産の当年度前期減価償却期間) このオプションは、[計算タイプ] が *[未償却残高]* である資産を追加する際に、資産の [使用開始日] が取引日より前である場合に選択します。同一会計年度内の資産を追加する場合、このオプションが選択されている限りは、[使用開始日] に基づいて PDP が計算されます。これはデフォルトで選択されます。

たとえば、会計年度が 01/01/05 から 12/31/05、資産の使用開始日が 03/01/05、取引日が 05/01/05、会計処理日が 05/01/05、計算タイプが *[未償却残高]*、償却ルールが *[翌月]* である場合、PDP は 04/01/05 から計算されます。

簿価 < 残存価額の場合償却中止 (帳簿価額が残存価額未満の場合償却中止) 帳簿価額が残存価額未満になった場合に減価償却計算を中止する場合に選択します。この選択により、マイナス減価償却が生成されなくなります。

ソリューション

資産管理は、PeopleSoft 資産ライフサイクル管理 (ALM) ソリューションの統合製品スイートに含まれるコア製品です。他には次の製品があります。

- Real Estate Management。
- IT Asset Management。
- Maintenance Management。

Space Management インストール済 このチェック ボックスを選択すると、Real Estate Management の空間配賦オプションが有効になります。資産レコードの [資産 ID] フィールドは有効になっています。

IT Asset Management インストール済 このチェック ボックスを選択すると、IT Asset Management のオプションが有効になります。

ディスカバリ リクエスト タイムアウト (秒) 資産ディスカバリ ツールとインターフェイスする際のタイムアウトしきい値 (秒) を入力します。

バッチ制限 バッチで処理される行の最大限度を入力します。

ARM からデバイス グループを取得 IT Asset Management 内で新規ソフトウェア デバイス グループを作成する際に、資産リポジトリ フィールド (ARM) からデバイス グループを取得するようグループ作成のデフォルトを設定する場合に選択します。このデフォルトは、グループの作成または編集時に上書きされる場合があります。

財務への影響 このオプションを選択すると、IT Asset Management による [例外管理] および [レポートなしの資産] ページレットおよび詳細の処理時に、財務への影響分析を含めることができます。このオプションにより経理情報 (資産取得価額、帳簿価額および公正

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

市場価値) が表示され、これらの情報でファイナンシャル マネージャが IT 資産の財務への影響を直ちに確認し、法定要件に従って適切に開示できます。

デフォルト ITAM 通貨 [財務への影響] の値について、通貨コードを基本通貨に設定します。このオプションは、[財務への影響] チェック ボックスが選択されている場合のみ表示されます。[例外管理] および [レポートなしの資産] の [財務への影響] の値は、ここで指定した通貨で保存されます。実際の値が表示されるとき、個々のユーザー設定内で指定された通貨に換算されます。

レート タイプ [財務への影響] の値について、レート タイプを設定します。このオプションは、[財務への影響] チェック ボックスが選択されている場合のみ表示されます。[例外管理] および [レポートなしの資産] の [財務への影響] の値は、ここで指定したとおりに保存されます。実際の値が表示されるとき、個々のユーザー設定内で指定されたレート タイプに変換されます。

関連リンク

PeopleSoft Asset Lifecycle Management Application Fundamentals OverviewAsset Lifecycle Management Fundamentals

IT Asset Management OverviewPeopleSoft IT Asset Management

請求管理 - 一般オプション ページ

請求管理 - 一般オプション ページ (INSTALLATION_BI) を使用して、請求管理固有のインストール オプションを定義します。

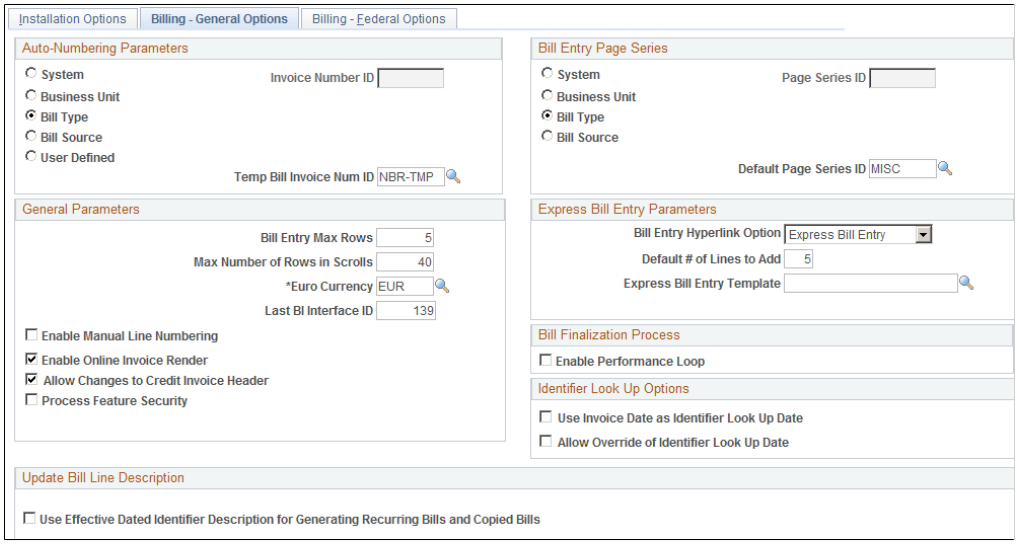
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [請求管理 - 一般オプション]

画像: 請求管理 - 一般オプション ページ

次の例では、請求管理 - 一般オプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



注: 最初に、請求書番号ページで有効な請求書番号 ID を定義し、請求書入力ページ シリーズ ページで有効なページ シリーズ ID を定義する必要があります。

[自動採番パラメータ] グループ ボックスでは、請求書番号の割当を制御するシステム レベルを決定します。[請求書入力ページ シリーズ] グループ ボックスでは、請求書入力または照会時にアクセスする請求ページおよびアクセス順を決定します。たとえば、ほとんど使用しないページをページ シリーズの最後に配置できます。各グループ ボックスで、次のオプションから選択します。

システム

[自動採番パラメータ] または [請求書入力ページ シリーズ] のいずれかのグループ ボックスで選択した場合、[システム] フィールドの隣のフィールドに入力できます。自動採番パラメータの場合、事前定義された有効な請求書 ID を選択します。請求書番号ページで有効な請求書 ID を定義します。全ての請求アクティビティにおいて、同じ請求書番号採番方法が使用されます。[請求書入力ページ シリーズ] では、事前定義された有効なページ シリーズ ID を選択し、全ての請求アクティビティで同じページ シリーズの定義が使用されていることを確認します。請求書入力ページ シリーズ ページでページ シリーズ ID を定義します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ビジネス ユニット、請求タイプおよび請求ソース システム以外のレベルでデフォルトの請求書番号またはページ シリーズ ID を指定するには、別のページで必要なレベルのデフォルト値を定義する必要があります。たとえば、ページ シリーズ ナビゲーションをビジネス ユニット レベルで定義するには、[ビジネス ユニット] を選択します。このオプションを選択すると、請求管理定義 - ビジネス ユニット 1 ページの [ページ シリーズ ID] フィールドがアクティブになり、ビジネス ユニット 1 ページに戻ってビジネス ユニット レベル (ビジネス ユニット レベル) のデフォルト ページ シリーズ ID を指定することが必要になります。

請求書番号およびページ シリーズ ID のデフォルト レベルの変更

次のレベルで定義する場合	*移動先*
ビジネス ユニット	請求管理定義 - ビジネス ユニット 1 ページ
請求タイプ	請求タイプ 2 ページ
請求ソース	請求ソース 2 ページ
ユーザー定義条件 (請求書番号 ID の場合のみ)	請求書番号ページ

重要 [自動採番パラメータ] グループ ボックスで定義したレベルの請求書番号 ID が必要です。このグループ ボックスでパラメータを変更する場合、適切なページに移動し、目的のレベルのデフォルト値を定義する必要があります。たとえば、自動採番パラメータを [請求タイプ] から [請求ソース] に変更する場合、請求ソース ページに移動し、請求書採番 ID を請求ソース レベルで割り当てる必要があります。また、システムで設定した全ての請求ソースに請求書番号 ID が定義されていることを確認する必要があります。これらの実装要件に従わない場合、将来のプロセス実行で予期しない結果となる可能性があります。

仮請求書 ID (仮請求書番号 ID) 各仮請求書を仮請求書番号 ID に割り当てます。請求書番号ページで仮請求書番号 ID を定義します。

デフォルト ページ シリーズ ID [請求書入力ページ シリーズ] オプションをビジネス ユニット、請求タイプまたは請求ソースのレベルで定義しており、ビジネス ユニット、請求タイプまたは請求ソースに対してページ シリーズ ID が定義されていない場合、このデフォルト ID が使用されます。

一般パラメータ

請求書入力最大行数およびスクロールの最大行数 請求書入力またはエクスプレス請求書入力でスクロール領域内に一度に表示される行数を制限するためのデフォルト最大行数を定義し、請求書検索または請求行検索でスクロール領域に表示される最大行数を定義します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

たとえば通常 200 行の請求データを取得する検索パラメータを定義したにもかかわらず、最大行数を 40 に設定した場合、スクロールのチャンクごとに 40 行表示されます。チャンク矢印を使用して、残りの取得済データを一度に 40 行ずつ表示できます。また、請求書入力、エクスプレス請求書入力、請求書検索または請求行検索で直接表示される最大行数を変更できます。

警告 これらのフィールドに入力する値が大きくなるほど、システムの応答時間が長くなる可能性が高くなります。

ユーロ通貨

請求テーブル全体でユーロ通貨金額に使用される通貨コントロール コード。デフォルトで *[EUR]* と表示されますが、これは PeopleSoft システムにより [通貨コード] テーブルに提供されるユーロ通貨コードです。国際標準化機構 (ISO) の通貨コードを使用していない場合、このデフォルト値を使用中のユーロ通貨コードに変更します。

最終 BI インターフェイス ID (最終請求管理インターフェイス ID)

請求取引を請求インターフェイス構造に渡す外部ソースによって使用される最終インターフェイス ID を保存します。この ID を使用する外部ソースは、このフィールドの番号を使用するたびに、値を更新および管理する必要があります。

手動行採番使用

手動請求書行採番を有効にします。請求書行採番機能により、オンラインでの請求書入力時に請求書行番号を入力できます。請求行を新規または既存の請求書に挿入する場合、既存の請求行を削除する場合、または既存の請求行の請求書行番号を更新する場合に、請求書行番号を制御できます。手動請求書行採番は、オンライン入力された請求行にのみ適用されます。請求インターフェイスによりインポートされた請求行には適用されません。

このオプションを選択すると、ヘッダー - 情報 2 ページの [手動行採番] フラグがアクティブになります。手動行採番は、ここでこの機能を有効にし、請求書ヘッダーの [手動行採番] フラグを *[オン]* に設定した場合のみ機能します。

注: 手動請求書行採番では、請求管理のチャンク機能は省略されます。このオプションを選択すると、チャンクのボタンが無効になり、請求書入力請求行の各ページの [請求書入力最大行数] の値が [99999] に設定されます。このシナリオでは、請求書にアクセスすると、行セット全体が表示されます。

オンライン請求書表示可

このチェック ボックスを選択すると、請求書フォームが BI Publisher フォーマットである見積請求書の印刷職務について、オンライン請求書の表示が可能になります。このチェック ボック

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

スを選択した場合、請求書ドキュメントは PDF フォーマットでオンライン表示されます。

貸方請求書ヘッダーの変更を許可

このチェック ボックスを選択すると、貸方請求書の特定のヘッダー フィールドを変更できます。このチェック ボックスを選択した場合、ユーザーはフィールドを編集して保存できます。ただし、変更が推奨されないという内容の警告メッセージがユーザーに表示されます。このチェック ボックスを選択しない場合、ユーザーが貸方請求書ヘッダーのフィールドを変更しようとするとエラーが表示され、変更は許可されません。

このオプションを使用して編集できるヘッダー フィールドは、[通貨]、[顧客]、[タイプ]、[ソース]、[サイクル ID]、[支払条件]、[請求担当者] および [販売担当者] です。

機能セキュリティを処理

このチェック ボックスを選択すると、[機能セキュリティを処理] が有効になります。

機能セキュリティにより、ユーザー/ロール セキュリティを機能およびフィールド レベルまで定義し、機能全体または特定の受注管理機能内の個々のフィールドへのアクセスを制御できます。

請求管理において機能セキュリティは、サードパーティ税を使用し、請求管理ビジネス ユニットの無償提供品の使用税を計算するオプションを使用する顧客に影響します。これは、入力時の使用税基準および使用税額 (行税)、照会 (行税)およびインターフェイスの各ページの入力/表示を制限します。

Defining Feature Function SecurityPeopleSoft Order Management を参照してください。

エクスプレス請求入力パラメータ

請求書入力リンク オプション

請求書検索ページ上のリンクにより *[標準請求書入力]* (デフォルト値) または *[エクスプレス請求書入力]* のどちらに移動するかを決定します。

デフォルト追加行数

請求書エクスプレス入力 - 行リスト ページの [追加行数] フィールドに、この値がロードされます。

エクスプレス請求入力テンプレート

使用可能なテンプレートのリストからテンプレートを選択します。

エクスプレス請求入力テンプレートを使用することで、要件に基づいてエクスプレス請求書入力ページを設定できます。ヘッダー セクションおよび行タブは非表示にできます。行タブ内では、選択したフィールドのみが表示されます。単一の会計処理配布ページもテンプレートを使用して設定できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

請求書の確定プロセス

ループ実行可

請求書の処理時にビジネス ユニット全体を順にループするよう確定プロセスに指示する場合に選択します。

このオプションを使用すると、取引をランダムな順序で処理せずにビジネス ユニット全体をループすることで、処理パフォーマンスを向上させます。

このオプションは、非合算請求書の確定プロセスにのみ適用されます。合算請求書は複数のビジネス ユニットの請求書で構成できるため、確定プロセスによって合算請求書にこのタスクを実行できません。

ID 検索オプション

請求日を ID 検索日付として使用

請求日を ID 検索のデフォルト日付として設定する場合に選択します。このオプションを選択しない場合、ID 検索には現在日が使用されます。これにより、ユーザーは全ての価格設定で現在日を使用する機能を保持できます。

ID 検索日付の上書きを許可

ID 検索日付の上書きを許可する場合に選択します。このオプションを選択した場合、請求書入力またはエクスプレス請求書入力で、請求行ごとに ID 検索日付が表示されます。このフィールドは行ごとに変更できます。

請求行の名称の更新

繰返請求書およびコピー済請求書を作成するには、有効日付きの ID 名称を使用

このフラグを選択すると、新規作成された請求書における最新の ID 名称が更新されます。名称の更新は、請求書のコピーおよび繰返請求によって作成された新規請求書が対象となります。

関連リンク

Understanding Foreign Currency ProcessingPeopleSoft Global Options and Reports
Understanding the Bill Data StructurePeopleSoft Billing
Assigning Invoice Number IDsPeopleSoft Billing
Defining Bill SourcesPeopleSoft Billing

請求 - 連邦オプション ページ

請求 - 連邦オプション ページ (INSTALLATION_BI3) を使用して、請求管理固有のインストール オプションを定義します。

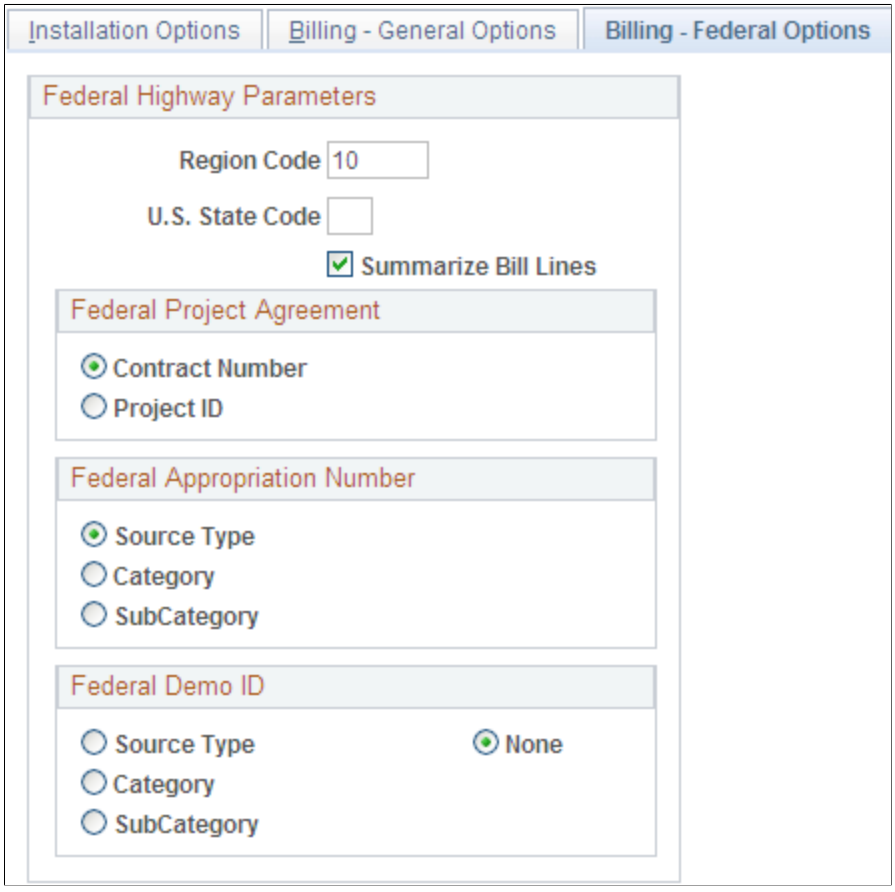
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [請求 - 連邦オプション]

画像: 請求 - 連邦オプション ページ

次の例では、請求 - 連邦オプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



地域コード 2 文字の地域コードを入力します。[地域コード] フィールドにプロンプト リストはありません。

都道府県/州コード プロンプト リストから都道府県/州コードの値を選択します。

[連邦政府支出番号] グループ ボックスでいずれかのオプションを選択し、連邦政府支出の値の保存に使用するフィールドを定義します。有効なオプションは、*[ソース タイプ]*、*[カテゴリ]*、*[サブカテゴリ]* および *[なし]* です。選択したフィールドは、連邦道路請求フラット ファイル抽出プロセスによって、詳細行のグループ化に使用されます。[連邦政府支出番号] が *[なし]* 以外の値に設定されている場合、フラグが *[なし]* に設定されていないときは [地域コード] および [都道府県/州コード] フィールドに基づいて抽出フラット ファイルが作成されるため、これらのフィールドは空白にできません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

請求管理-インテグレーション オプション ページ

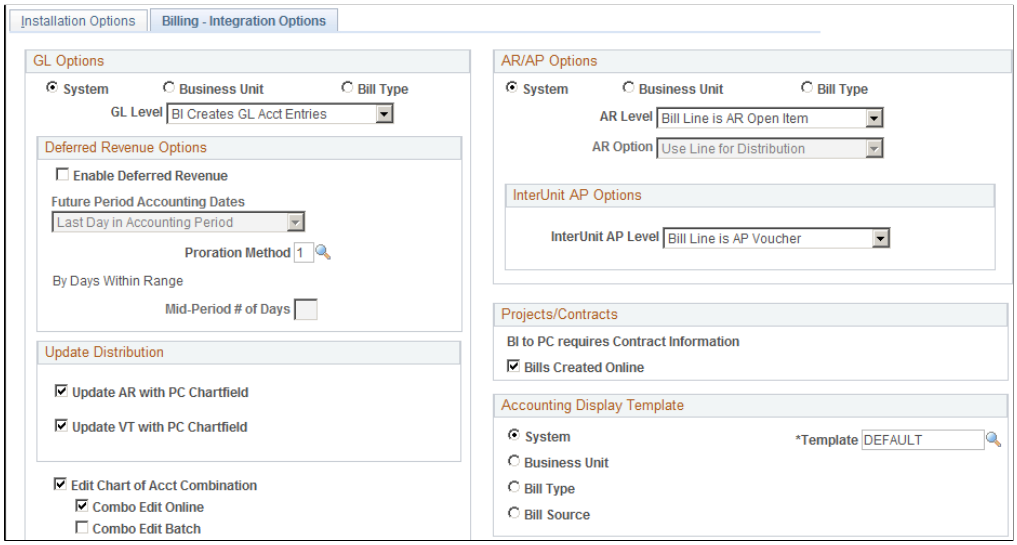
請求管理-インテグレーション オプション ページ (INSTALLATION_BI2) を使用して、請求管理固有のインストール オプションを定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [請求管理-インテグレーション オプション]

画像: インストール オプション - 請求管理-インテグレーション オプション ページ

次の例では、インストール オプション - 請求管理-インテグレーション オプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



GL オプション

GL オプション

一般会計入力を生成するシステムに渡す詳細のレベルを定義します。

[ビジネス ユニット] または [請求タイプ] を選択した場合、GL オプション ページが表示され、ここで [一般会計レベル] オプションを定義できますが、デフォルトでそれぞれ既存の全てのビジネス ユニットまたは請求タイプに設定されます。

注: [繰延] モードでは、[ビジネス ユニット] または [請求タイプ] を選択した場合、GL オプション ページは [保存] または [リフレッシュ] ボタンをクリックした後に表示されます。

一般会計レベル

(必須) 一般会計システムに会計入力を渡す方法を定義します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

[GL オプション] グループ ボックスで [システム] を選択した場合、このページの [一般会計レベル] フィールドに入力できるようになります。次の値のいずれかを選択します。

AR から GL 会計入力: 売掛金管理により会計入力が作成され、一般会計システムに渡されます。請求管理において会計情報が追跡されないように指示し、ステータスを *[準備完了]* に変更した場合に請求の収益行ごとに定義された値の検証条件を無効にするには、この値を選択します。

BI から GL 会計入力: 請求管理により会計入力が作成され、一般会計システムに渡されます。

GL 会計入力なし: 一般会計システムに会計入力を渡しません。

繰延収益オプション

[GL オプション] グループ ボックスで [システム] を選択した場合、次のフィールドに入力できます。[GL オプション] グループ ボックスで [ビジネス ユニット] または [請求タイプ] を選択した場合、GL オプション ページでは次のフィールドが入力可能であり、ここではビジネス ユニットまたは請求タイプの定義についてデフォルト値を定義できます。

繰延収益使用

会計入力の計算および作成を、将来の会計期間用に一般会計に転記できるようにします。将来の会計期間に実現する収益が含まれる請求を処理する場合、このオプションを使用します。このオプションは、[一般会計レベル] フィールドで *[BI から GL 会計入力]* を選択した場合のみ入力できます。

繰延会計入力を生成する前に、このチェック ボックスを選択し、GL オプションを設定したときと同じレベルで [当期以降の会計処理日] パラメータを定義する必要があります。たとえば、ビジネス ユニット レベルで GL オプションを定義した場合、[繰延収益使用] を選択し、GL オプション ページで [当期以降の会計処理日] パラメータを定義して、デフォルトで全てのビジネス ユニットが表示されるようにします。請求管理定義 - ビジネス ユニット 2 ページでは、GL オプション ページで選択したデフォルトと異なる値を選択できます。請求タイプ レベルで GL オプションを定義した場合、[繰延収益使用] を選択し、GL オプション ページで [当期以降の会計処理日] パラメータを定義して、デフォルトで全ての請求タイプが表示されるようにします。請求タイプ 2 ページでは、GL オプション ページで選択したデフォルトと異なる値を選択できます。

注: 繰延収益を有効にした場合、一般会計システムで繰延収益勘定科目を設定してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

当期以降の会計処理日

先日付の会計入力の作成時に使用される会計処理日を決定するものであり、[繰延収益使用] チェック ボックスを選択した場合のみ使用できます。実現会計期間の開始日に繰延収益を適切な実現収益勘定科目に転記するには、*[会計期間の開始日]* を選択します。実現会計期間の終了日に転記するには、*[会計期間の終了日]* を選択します。

配分方法

複数の会計期間にまたがって繰延収益を分割および配布する際に使用される計算方法。[詳細] ボタンをクリックすると、次の有効な配分方法の値にアクセスできます。

(1) *範囲内日数に応じて:* 期間内の収益日数が範囲内の日数で除算されます。

(2) *全期間で均等に* (期間): 請求書行金額の合計が範囲内の期間数で除算されます。各期間の日数に関係なく、収益は会計期間ごとに均等に認識されます。

(3) *半期ルールで均等に*: 請求書行金額の合計が範囲内の認識可能な期間数で除算されます。開始日/終了日および半期日にルールを適用し、最初の期間および最終期間が認識可能であるか、計算から完全に除外されるかを決定することで、認識可能な期間数が取得されます。

(4) *日数に応じて均等/分割*: 請求書行金額の合計が範囲内の認識可能な期間数で除算されます。開始日/終了日および半期日にルールを適用し、最初の期間および最終期間が認識可能であるか、計算から完全に除外されるかを決定することで、認識可能な期間数が取得されます。

(5) *ユーザー定義の配分法:* 独自の配分方法を作成する場合に使用できます。

半期日数

会計期間が完全に認識可能であるかまったく認識できないかを決定する会計期間内の日を入力します。ここに半期日を指定するか、日付の自動割当を許可できます。会計期間内の日数を 2 で除算し、四捨五入して整数にすることで、半期日が定義されます。このフィールドは、配分方法 *[半期ルールで均等に]* を選択した場合のみ使用できます。

勘定科目組合せチャート編集

請求書入力におけるオンライン チャートフィールド組合せ編集プロセスを有効にし、無効なチャートフィールド組合せを一般会計に渡さないようにする場合に選択します。

組合せ編集バッチ

[チャートフィールド継承] がオンになっていない取引について、組合せ編集プロセスのバッチによる実行を有効にする場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

オンライン組合せ編集

[チャートフィールド継承] がオンになっていないオンライン取引について、組合せ編集プロセスの実行を有効にする場合に選択します。

売掛金/買掛金オプション

売掛金/買掛金オプション

売掛金管理および買掛金管理システムに渡す詳細のレベルを定義します。

このグループ ボックスで [ビジネス ユニット] または [請求タイプ] を選択した場合、デフォルト売掛金/買掛金レベル ページが表示され、ここで [売掛金レベル]、[売掛金配布] または [AP レベル] オプションを定義できますが、デフォルトでそれぞれ既存の全てのビジネス ユニットまたは請求タイプが表示されます。

注: [繰延] モードでは、[ビジネス ユニット] または [請求タイプ] を選択した場合、デフォルト売掛金/買掛金レベル ページは [保存] または [リフレッシュ] ボタンをクリックした後に表示されます。

売掛金レベル

請求管理によってオープン アイテムが売掛金管理システムに渡されるレベルを定義します。このフィールドは、[売掛金オプション] グループ ボックスで [システム] を選択した場合のみ入力できます。次の値から選択します。

請求行 = 売掛金オープン アイテム: 請求管理では、各請求行が売掛金管理システムのオープン アイテムとして渡されます。

ヘッダー = 売掛金オープン アイテム: 請求管理では、各請求が売掛金管理システムのオープン アイテムとして渡されます。

売掛金オープン アイテムなし: 請求管理では、売掛金管理システムにオープン アイテムが渡されません。

注: チャートフィールド継承処理の対象となる請求書では、[売掛金レベル] が *[ヘッダー = 売掛金オープン アイテム]*、[売掛金オプション] が *[配布ヘッダー使用]* に設定されている場合、[会計入力タイプ] が*売掛金*である貸借一致チャートフィールドの要約セットに基づいて、[売掛金未転記アイテムのロード] プロセスにより売掛金管理システムの未転記アイテムが作成されます。

売掛金オプション

売掛金勘定科目配布を売掛金管理システムに渡すための詳細のレベルを定義します。このフィールドは、[売掛金オプション] グループ ボックスで [システム] を選択した場合のみ入力できます。次の値から選択します。

配布ヘッダー使用: 各請求書/オープン アイテムごとに売掛金勘定科目を送信します。この売掛金オプションは、売掛金レベル

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

が *[ヘッダー = 売掛金オープン アイテム]* または *[売掛金オープン アイテムなし]* である場合にのみ使用します。

配布行使用: 請求書の行ごとに売掛金勘定科目を送信します。これは、売掛金レベル *[請求行 = 売掛金オープン アイテム]* を選択した場合に使用できる唯一のオプションです。

注: オープン アイテムとして 1 つの請求書が必要であるが複数の売掛金勘定科目を使用する場合は、売掛金オプション *[配布行使用]* を選択します。売掛金管理では、アイテム配布レベルでプロジェクト データが追跡されます。プロジェクト コスト データが請求管理を経由して売掛金管理に流れるようにするには、このオプションを使用する必要がある可能性があります。

ユニット間 AP レベル

PeopleSoft 請求管理によって買掛金伝票ステージング レコードがロードされるレベルを定義します。次の値から選択します。

請求行は AP 伝票です: 請求管理によって請求行ごとに買掛金伝票が生成されます。

ヘッダーは AP 伝票です: 請求管理によって請求ヘッダーごとに買掛金伝票が生成されます。

AP 伝票がありません: 伝票は作成されません。

プロジェクト コスト管理/契約管理

オンラインで作成済みの請求書

このチェック ボックスを選択した場合、手動入力した請求がプロジェクト コスト管理とインターフェイスするためには、契約書番号、請求プランおよびプロジェクト情報を入力する必要があります。このチェック ボックスを選択解除した場合、手動入力した請求がプロジェクト コスト管理とインターフェイスするためには、プロジェクト情報のみが必要です。

インターフェイスに作成された請求書

このオプションは、[オンラインで作成済みの請求書] オプションに契約書情報が必要ない場合のみ使用できます。このオプションは、BBI または空白のシステム ソースに対して請求管理インターフェイスによりロードされた請求書が、プロジェクト コスト管理とインターフェイスするために契約書情報を必要とするかどうかを決定します。このオプションは、他のシステム ソースからのインターフェイスには影響しません。

会計表示テンプレート

会計表示テンプレート

請求書入力の会計テンプレートを使用すると、請求書入力ページを表示している間に作業するチャートフィールドの選択肢を定義できます。請求書について会計情報を入力する際に定数値のままとなるチャートフィールドがある場合、このチャートフィー

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ルドを除外するためのテンプレートを設定できます。会計テンプレートを定義することで、データ入力でのキーストロークが最小限になり、ページに不要な情報が含まれないよう維持されます。会計テンプレートは請求書入力 - 会計テンプレート ページで定義します。

請求書入力の会計テンプレートは、システム、ビジネス ユニット、請求タイプまたは請求ソースのレベルで定義できます。[システム] を選択した場合、[テンプレート] フィールド オプションが入力可能になり、ここでは事前定義された有効な請求書入力の会計テンプレート ID を選択し、全ての請求アクティビティで同じ請求書入力の会計テンプレートが使用されていることを確認できます。

請求書入力の会計テンプレートをビジネス ユニット、請求タイプまたは請求ソース レベルで定義する場合、デフォルト テンプレート ID を入力します。

注: [繰延] モードでは、[テンプレート ID] の各フィールドは [保存] または [リフレッシュ] ボタンをクリックしたときに表示されます。

注: 請求書入力の会計テンプレートは、どのチャートフィールドがオンライン表示されるかに影響します。これらによって、チャートフィールドに値がロードされるかどうかが決定されることはありません。チャートフィールドには、配布コードで定義された値が自動的にロードされる場合があります。

関連リンク

Definition of the Accounting EnvironmentPeopleSoft Payables
Generating Deferred Revenue Accounting EntriesPeopleSoft Billing

インストール オプション - 契約管理ページ

契約管理ページ (INSTALLATION_CA) を使用して、契約管理固有のインストール オプションを定義します。

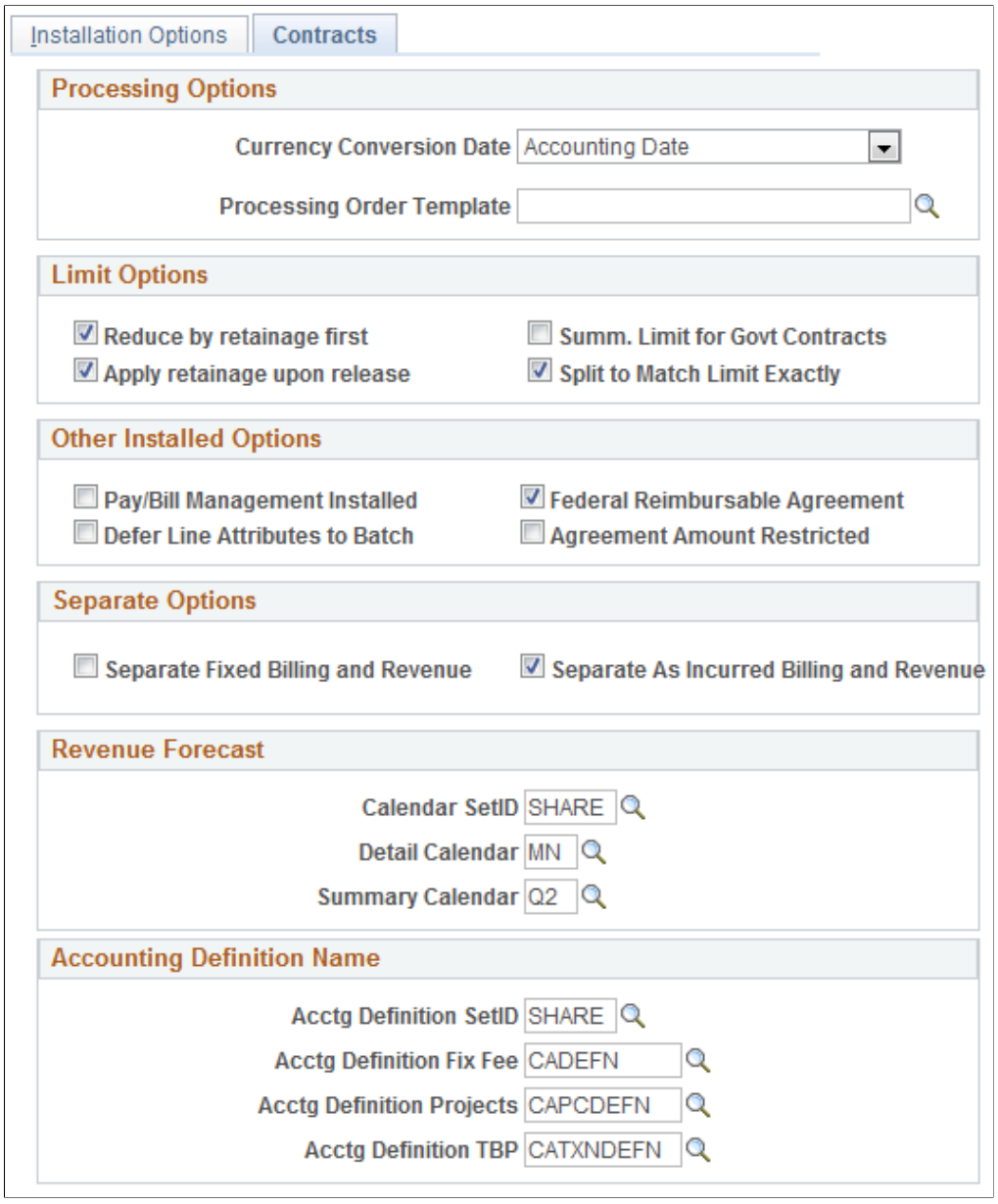
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], 契約管理

画像: インストール オプション - 契約管理ページ

次の例では、インストール オプション - 契約管理ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



処理オプション

通貨換算日 契約管理の請求プロセスで通貨換算に使用される日付を選択します。値には、*[会計処理日]* および *[取引日]* があります。この

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

フィールドは、通貨換算における発生ベースの収益処理 (PSA_ACCTGGL) にも使用されます。

限度額オプション

限度額オプションを使用すると、契約行に対して定義した限度額に留保分を適用できます。たとえば、ある契約行が限度額 10,000.00 USD のプロジェクトに関連付けられ、その契約行が 10% の留保分に関連付けられているとします。[初回に留保分を減額] を選択した場合、取引が限度額と比較される前に、10% の留保分がその取引に適用されます。したがって、5,000.00 USD の取引が発生した場合、限度額に対して 4,500.00 USD (5,000.00 USD - 留保分 500.00 USD) のみ適用されます。[リリース時に留保分を適用] を選択した場合、契約行を関連付けた請求プランで留保分をリリースした後は、契約行の限度額に留保分の累計が適用されます。この例では、請求プランで留保分をリリースすると、500.00 USD が限度額に適用されます。どちらのオプションも選択しない場合、事前に取引総額が限度額に適用されます。

初回に留保分を減額 および リリース時に留保分を適用

[初回に留保分を減額] を選択し、[リリース時に留保分を適用] を選択しない場合、減額された取引が限度額に適用され、留保分は限度額に適用されません。

[初回に留保分を減額] および [リリース時に留保分を適用] の両方を選択した場合、取引から留保分が差し引かれ、請求プランで留保分をリリースする際に留保分が限度額に適用されます。

警告 [リリース時に留保分を適用] を選択する際には、[初回に留保分を減額] も選択してください。そうでないと、限度額に対して留保分が二重に適用されることになります。(前述の例を使用した場合、取引の初回処理時に 5,000.00 USD が限度額に適用され、その後留保分のリリース時に 500.00 USD が追加で限度額に適用されるため、5,000.00 USD の取引で 500.00 USD が二重に適用されます。)

政府契約の限度額要約

[上限] プロセス (CA_LIMITS) の実行時にサマリ限度額の計算を有効にする場合に選択します。このオプションは、政府契約にのみ使用されます。

このオプションは、政府契約のサマリ限度額で使用される特定のフィールドおよびページを表示するかどうかを決定します。たとえば、このオプションを選択した場合、契約管理 (CA) ユニット - デフォルト ページおよび契約ヘッダー - 請求オプション ページに、[PVN 作成レベル] フィールドが表示されます。

このオプションを選択した場合、PROJ_RESOURCE に行を追加する際に、[上限] プロセスにより契約行ごとに超過額が要約されます。要約行は、請求可能 (BIL) および収益 (REV) の分析タイプにより PeopleSoft 請求管理に渡され、場合によっては一般会計および売掛金管理に渡されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このオプションを選択しない場合、PROJ_RESOURCE に入力取引を追加する際に、[上限] プロセスにより入力取引が要約されることはありません。その代わり、限度額を超えた場合、このプロセスにより限度超過 (OLT) および限度額超過収益 (ROL) 分析タイプの行が作成されます。つまり、このオプションを選択しない場合、政府契約を処理するときの [上限] プロセスのロジックは標準契約と同じになります。しかし、このオプションを選択した場合は、政府契約の場合のみ、[上限] プロセスにより入力取引が要約されます。

注: このオプションを選択した場合、[限度額と一致するように分割] オプションは通常の契約にのみ適用され、政府契約には適用されません。このオプションを選択解除した場合、[限度額と一致するように分割] オプションは通常の契約および政府契約に適用されます。

サマリ限度額プロセスの詳細:

Understanding Summary LimitsPeopleSoft Contracts for Government Contracting を参照してください。

限度額と一致するように分割

限度額のある契約行について限度超過分割を有効にする場合に選択します。このオプションを選択すると、限度超過行が 1 つの請求行と 1 つの限度超過行に分割されます。これにより、請求行では正確に限度額に到達でき、残額は限度超過行に置かれます。

サマリ限度額の有効化オプションを選択した場合、このオプションは通常の契約にのみ適用され、政府契約には適用されません。

注: 留保分がある場合、オプションで契約請求インターフェイスにより留保分のリリース時に限度額がチェックされます。限度超過の行は、RRT ではなく限度超過としてプロジェクト コスト管理に返されます。限度超過分割では、RRT が RRT および限度超過に分割されます。

分類が *[政府]* である契約の場合、[上限] プロセスで収益限度と比較して収益取引が評価されると、結果の収益 (REV) 行は一般会計に渡されるか、限度額超過収益 (ROL) としてマークされ、プロジェクト コスト管理に渡されます。[限度額と一致するように分割] チェック ボックスを選択すると、収益取引が契約行に対して定義された限度額に違反している場合、REV (収益) 行が 1 つの収益行および 1 つの ROL (限度額超過収益) 行に分割されます。この選択により、収益行では正確に限度額に到達でき、取引残額は限度額超過収益行に渡されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: 個別の収益取引行の作成および個別の収益限度への適用が該当するのは、手数料タイプ (コストプラス) に関連付けられたレートベース契約行が含まれる政府契約のうち、[請求と収益の分離] チェック ボックスが選択されているもののみとなります。

処理順序テンプレート

ビジネス プロセスに基づいて取引が処理される順序を決定する、[上限] プロセス時に使用するテンプレートを選択します。このリストは、プロセス順序テンプレート ページで定義された処理順序テンプレート に基づきます。

Setting Up a Processing Order TemplatePeopleSoft Contracts を参照してください。

注: 処理順序テンプレート はオプションです。処理順序テンプレート を使用しない場合、デフォルトにより RESOURCE_ID_FROM および RESOURCE_ID フィールドの値に基づいて取引が処理されます。

Understanding Accounting DistributionsPeopleSoft Contracts を参照してください。

その他のインストール オプション

Pay/Bill Management

Pay/Bill Management アプリケーションがシステムにインストールされている場合に選択します。

行属性をバッチで処理

リアル タイムではなくバッチで処理する場合に選択します。契約行を契約に保存すると、会計処理配布が作成され、オプションで請求プランおよび収益プランが作成されます。データ量が多い場合、これらの属性のリアル タイムからバッチへの繰延処理により、契約データ入力を迅速化できます。ただし、このオプションを選択した場合、契約属性は直ちには使用できません。

連邦払戻契約

払戻契約機能を有効にする場合に選択します。このオプションを選択すると、新規契約を追加する際に、[契約区分] フィールドのドロップダウン リストに *[連邦払戻契約]* の値が表示されます。[契約区分] フィールドの値はデフォルトで *[標準]* に設定されますが、契約を払戻契約として指定することを選択できます。払戻契約は、*『PeopleSoft Contracts』*ドキュメントに記載されているように、追加編集の対象となります。

契約金額の制限

契約一般ページの [金額] フィールドがオープンであり契約の追加時に編集可能であるか、または入力不可であるかを制御します。このチェック ボックスを選択した場合、契約一般ページの [金額] フィールドは入力不可となり、[金額] フィールドにロードされます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このフィールドは、[連邦払戻契約] チェック ボックスを選択した場合のみ、ページに表示されます。

分離オプション

固定請求/収益の分離 金額ベースおよびパーセント ベースの契約行における請求および収益に対し、別々の金額を定義および適用する場合に選択します。ここで選択したオプションは、新規ビジネス ユニットの作成時にデフォルトで [契約管理 (CA) ユニット] となります。デフォルトでは、このオプションは選択されません。

発生ベース請求/収益の分離 レート ベースの契約行における請求および収益に対し、別々のレートを定義および適用する場合に選択します。ここで選択したオプションは、新規ビジネス ユニットの作成時にデフォルトで [契約管理 (CA) ユニット] となります。デフォルトでは、このオプションは選択されません。

収益予測

詳細カレンダーおよび要約カレンダーによって、収益を予測する期間が制御されます。事前定義済の日付に基づく予測 (進行中の配分収益プランなど) の場合、イベントは各カレンダーの対応する期間に要約されます。見積開始日および終了日を使用する予測 (発生ベースの収益プランなど) の場合、金額が詳細カレンダーの各期間に均等に分散されてから、これらの期間が要約カレンダーの各期間にグループ化されます。

カレンダー セットID カレンダーのセットID を選択します。

詳細カレンダー 収益予測を合計して表示する最下位レベルの期間が設定されたカレンダーを選択します。

要約カレンダー 収益予測を合計して表示する、詳細カレンダーより上位レベルの期間が設定されたカレンダーを選択します。

注: 詳細カレンダーおよび要約カレンダーに表示される選択肢を変更するには、予算期間カレンダーを使用してください。

会計処理定義名

会計処理定義セットID (会計処理定義セットID) 仕訳ジェネレータの会計処理定義セットID を選択します。このフィールドの値を使用することで、収益処理が効率化されます。

会計処理定義固定費 (会計処理定義固定費) 固定手数料契約行の会計処理定義を選択します。このフィールドの値を使用することで、収益処理が効率化されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

会計処理定義プロジェクト (会計処理定義プロジェクト) レートベース契約行の会計処理定義を選択します。このフィールドの値を使用することで、収益処理が効率化されます。

会計処理定義 TBP (会計処理定義トランザクション請求プロセッサ) トランザクション請求プロセッサから受け取った契約行の会計処理定義を選択します。このフィールドの値を使用することで、収益処理が効率化されます。

インストール オプション - eSettlement-決済管理ページ

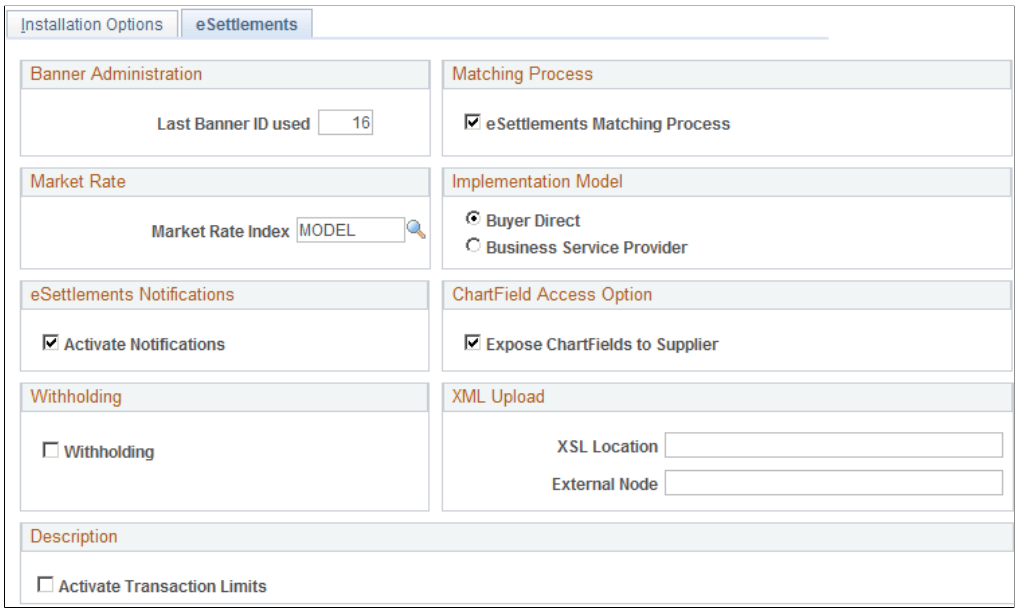
eSettlement-決済管理ページ (INSTALLATION_EM) を使用して、eSettlement-決済管理のインストール オプションを定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [eSettlement-決済管理]

画像: インストール オプション - eSettlement-決済管理ページ

次の例では、インストール オプション - eSettlement-決済管理ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



重要 特定の eSettlement-決済管理プロセスは、このトピックで説明しているインストール済製品ページのチェック ボックスの選択内容に依存しているため、そのページの [買掛金管理] チェック ボックスを選択していることを確認してください。買掛金管理を購入していない場合でも、このチェック ボックスを選択する必要があります。

最終バナー ID システムで使用される広告バナーの最終連番。バナー ID はシステムで作成され、ここに保存されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

eSettlement マッチング プロセス

買掛金管理のマッチング アプリケーション エンジン プロセス (AP_MATCH) の完了後に、後続の追加伝票承認を必要とする場合に選択します。eSettlement-決済管理では、買掛金管理ビジネス ユニット レベルで設定されたマッチング プロセスが使用されます。ただし、購買者の登録時に追加の伝票承認を指定できます。このチェック ボックスを選択しない場合、マッチング プロセスをパスした伝票は承認済に設定されます。

市場レート インデックス

PeopleSoft システム全体における組織の最上位レベル。為替レートを計算する際には、eSettlement-決済管理全体で使用されるインデックスを入力します。

購買者直接

単一の購買組織 (購買者) がアプリケーションを制御し、多くのサプライヤにインターフェイスを提供する購買者直接実装について選択します。

ビジネス サービス プロバイダ

コンソリデータがアプリケーションを制御し、多くのサプライヤと購買者の間にインターフェイスを提供することで、仲介の役割を果たし、複数の購買者に対する複数のサプライヤからの請求書を回収または集計する、ビジネス サービス プロバイダ実装について選択します

通知のアクティブ化

購買者およびサプライヤへの電子メール通知の送信を有効にする場合に選択します。通知は、eSettlement-決済管理の購買者詳細コンポーネントの購買者通知の定義 - 通知タイプの定義ページで定義した通知設定に従って受信者に送信されます。

サプライヤへのチャートフィールド公開

サプライヤによる請求書の会計情報の参照を可能にする場合に選択します。購買者の指定によっては、サプライヤが情報の表示のみでなく編集できる場合があります。

このチェック ボックスを選択すると、購買者は購買者登録レベルでチャートフィールドを表示、編集可能または非表示のままにするよう定義できます。このチェック ボックスを選択すると、全ての購買者が購買者詳細コンポーネントのチャートフィールド設定ページにアクセスできます。

注: このオプションを選択することで、サプライヤは発注書なしの請求書についてチャートフィールドにアクセスし更新できるようになります。

源泉徴収

ユーザーによるサプライヤの源泉徴収情報の入力を可能にする場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

XSL の場所 cXML 添付ファイルのアップロード機能で使用する CXML_IN.XSL ファイルのアプリケーション サーバー上の場所を入力します。

外部ノード cXML ルーティング用の外部ノードを入力します。提供されているデータでは、外部ノードは PSFT_SUPPLIER_NETWORK です。この値は cXML 添付ファイルのアップロード機能で使用されます。

取引経過期間 選択される取引の経過期間を、年数、月数および日数で入力します。

関連リンク

PeopleSoft eSettlements OverviewPeopleSoft eSettlements
Creating BuyersPeopleSoft eSettlements
Creating BuyersPeopleSoft eSettlements
Defining PeopleSoft Payables Business UnitsPeopleSoft Payables

インストール オプション - 経費管理ページ

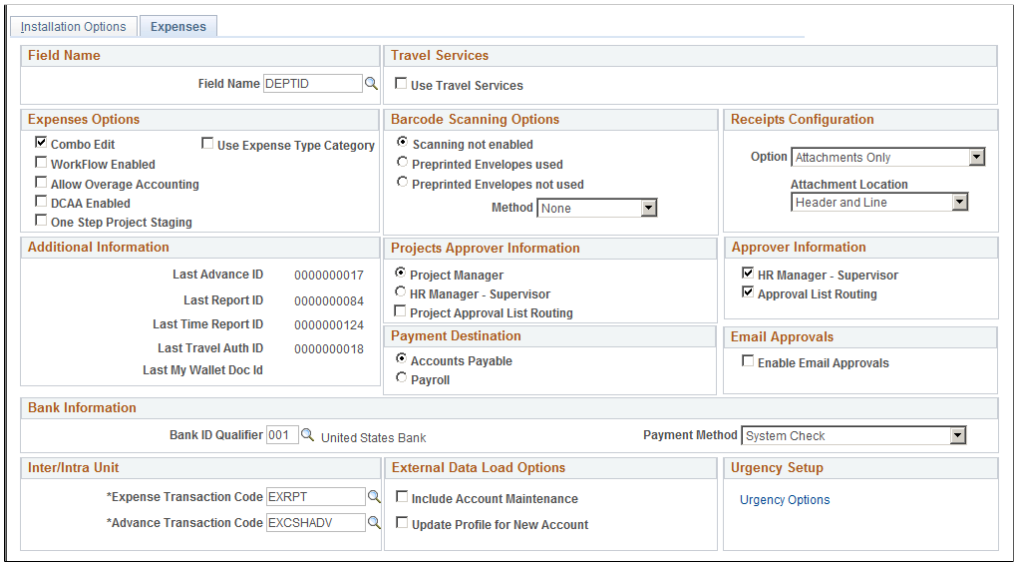
経費管理ページ (INSTALLATION_EX) を使用して、経費管理のインストール オプションを定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], 経費管理

画像: インストール オプション - 経費管理ページ

次の例では、インストール オプション - 経費管理ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

フィールド名

フィールド名

デフォルトで *[DEPTID]* と表示されます。チャートフィールド設定を実行したか、組織構造内の部門を表す別のフィールドを作成した場合は、部門チャートフィールドのフィールド名を選択します。

出張サービス

経費管理で提供されるインテグレーション ソリューションにより、経費管理顧客はオンライン出張パートナにすばやく容易に接続し、従業員の出張プロファイルとそれに関連付けられた出張予約を管理できます。経費管理の出張サービス機能を使用するには、インストール オプション レベルで出張サービス機能を有効にする必要があります。

出張サービスの使用

経費管理アプリケーションの出張サービス機能をアクティブ化する場合に選択します。[出張サービスの使用] チェック ボックスを選択した場合、従業員プロファイルが追加、変更または削除されたときはいつでも、変更が加えられたことを示すフラグが従業員出張プロファイル テーブルに設定されます。

[出張プロファイルのインポート] または [出張プロファイルのエクスポート] プロセスが実行されると、出張プロファイル テーブル (TV_TRVL_PROF) の [変更] フラグ (CHANGE_FLAG) が *[Y]* (はい) に設定された出張プロファイルについて、従業員出張プロファイル データが出張パートナに渡されます。

経費オプション

次の一部または全ての経費管理システム オプションを実装するかどうかを決定します。

組合せ編集

無効なチャートフィールドの組合せが含まれる行の追加を回避する、組合せ編集をアクティブ化します。

ワークフロー使用

経費管理に関連するビジネス プロセスを自動化し、経費レポート、承認、仮払金などに関する電子メールを従業員に送信できるよう、経費管理システムが PeopleSoft ワークフローにリンクされます。

超過会計処理可

経費管理において経費タイプの承認済限度額を超える金額の処理を可能にする場合に選択します。経費タイプを設定する際に、その経費タイプについて超過と呼ばれる請求コード パラメータを選択できます。

このオプションを選択すると、経費タイプ 2 ページの [超過] 列がアクティブ化されることにより、従業員は経費タイプの承認済限度額を超えて支出する金額について、別の勘定科目に請求

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

できます。DCAA を有効化している場合、このオプションを選択する必要があります。

DCAA 有効 (国防契約監査局有効) 勤務時間レポートに DCAA 監査要件を適用する場合に選択します。選択すると、特定のビジネス ユニットまたは従業員に対して DCAA 処理を無効にしない限り、経費管理により DCAA 認定および機能が適用されます。

Expenses Definition - Business Unit 1 PagePeopleSoft Expenses を参照してください。

Maintaining Employee Organizational DataPeopleSoft Expenses を参照してください。

ワン ステップ プロジェクト ステージ ユーザーが経費管理で勤務時間レポートおよび調整をステージし、PeopleSoft プロジェクト コスト管理テーブルにデータをステージするよう PC_EX_TO_PC アプリケーション エンジン を自動的に呼び出せるようにする場合に選択します。このオプションを無効にした場合、経費管理プロセスでは単に取引がステージされるのみです。その後、[プロジェクト コスト管理] メニューから PC_EX_TO_PC プロセスを手動で実行する必要があります。

注: 経費管理でこのチェック ボックスが表示されるのは、プロジェクト コスト管理がインストールされている場合のみです。プロジェクト コスト管理に経費データを自動的にロードするためにワンステップ ステージ プロセスを使用している場合、この機能によって経費管理データをプロジェクト コスト管理に正常にステージするには、EX_PC_TM_STG および PC_EX_TO_PC の両方のアプリケーション エンジン プロセスに同一のラン コントロール ID を設定する必要があります。

経費タイプ カテゴリを使用 このチェック ボックスを選択すると、ユーザーは経費タイプをカテゴリで検索できます。デフォルトでは、このチェック ボックスは選択されません。このチェック ボックスを選択すると、経費レポートを作成または変更した場合に必ず、[経費タイプ カテゴリの選択] ボタンが [経費タイプ] フィールドの隣に表示されます。

バーコード スキャン オプション

経費管理では、ドキュメントの追跡を容易にするために、バーコード スキャンの使用がサポートされています。次のスキャン オプションのいずれかを選択します。

スキャナを使用しない 経費管理システムでバー コード スキャンの使用を回避する場合に選択します。

印刷済封筒を使用する このオプションを選択した場合、領収書バーコード検証ページから印刷済封筒をスキャンすると、[受領書 ID] フィールドに [レ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ポート ID] フィールドとは別の値がロードされます。領収書を追跡するには、バーコードが印刷された封筒に領収書を含めます。経費レポートを追跡するには、レポート自体に印刷されたバーコードを使用します。

このオプションを選択しない場合、領収書バーコード検証ページの [受領書 ID] フィールドは非アクティブになります。

印刷済封筒を使用しない

このオプションを選択した場合、領収書バーコード検証ページから経費レポート ID を選択すると、[レポート ID] フィールドおよび [受領書 ID] フィールドに値がロードされます。したがって、経費レポートと同じバーコードを使用して領収書を追跡できます。

方式

クライアント マシンに保存されたフォントを使用するには *[フォント]* を選択し、バーコード方式がない場合は *[なし]* を選択します。

注: バーコードをスキャンするには、PeopleSoft アプリケーションに付属していないコード 39 の TrueType フォントを取得しインストールする必要があります。

領収書設定

オプション

領収書の保存方法を指定するオプションを選択します。

オプションは、次のとおりです。

- 添付のみ – 経費取引で添付機能を使用する場合に選択します。
- イメージ化と添付の両方 – 経費取引で領収書イメージ化機能および添付機能を使用する場合に選択します。
- イメージ化/添付なし – この機能を使用していない場合に選択します。
- 領収書イメージ化のみ – 添付機能を使用せずに領収書イメージ化機能を使用する場合に選択します。

添付所在地

経費取引で添付が可能な場所を示すオプションを指定します。オプションには、[ヘッダー レベル]、[ヘッダーと行]、[行レベル] または [添付不可] があります。

このフィールドは、[オプション] フィールドで [添付のみ] または [イメージ化と添付の両方] オプションが選択されている場合のみ表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

追加情報

最終仮払 ID、最終レポート ID、最終時間レポート ID、最終出張申請 ID および 最終支出記録ドキュメント ID

経費管理では、自動採番を使用して経費ドキュメントを特定します。このリージョンには、仮払金、経費レポート、勤務時間レポートおよび出張申請について、一番最近使用された番号が表示されます。

プロジェクト承認者情報

プロジェクト コスト管理を使用する場合、プロジェクト マネージャが経費ドキュメントを最終処理前に承認できるよう設定できます。このオプションは、PeopleSoft ワークフローおよび電子メール システムで、経費ドキュメントを第一承認用にルーティングするために使用されます。

プロジェクト マネージャ

選択した場合、指定されたプロジェクト マネージャがプロジェクト コスト管理システムで検索され、経費ドキュメントがその個人にルーティングされます。

人事部長 - 監督者

選択した場合、指定の承認者である従業員のマネージャが従業員テーブルで検索されます。

プロジェクト承認リスト

プロジェクト マネージャ承認の後に特別承認または追加承認を必要とする場合に選択します。

承認者情報

[人事部長 - 監督者]、[承認リスト] またはその両方を選択します。ただし、少なくとも 1 つは選択する必要があります。両方のチェック ボックスを選択した場合、人事監督者の承認後に特別承認または追加承認が行われます。経費管理承認システムでは、これらのオプションを使用して承認用に経費ドキュメントをルーティングします。

人事部長 - 監督者

指定の承認者である従業員のマネージャまたは監督者が従業員テーブルで検索されます。

承認リスト

従業員のビジネス ユニットにおける正しい承認者が承認テーブルで検索されます。

支払出力先

買掛金管理または給与計算

従業員経費払戻がどこから行われるかを選択します。この選択は、従業員への経費支払にのみ適用されます。クレジット カード発行元など、他の受取人に対する経費支払には、買掛金管理システムを使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

電子メール承認

電子メール承認使用

システムにリスク テンプレートが定義されていない、またはリスク テンプレートが承認者に割り当てられていないときに、経費取引の電子メール承認を有効にする場合に選択します。リスク テンプレートが定義され、承認者に割り当てられている場合、インストール オプション - 経費管理ページの電子メール承認設定がテンプレートで上書きされます。

注: このオプションを使用する場合、電子メール承認を決定する階層があります。

Setting Up Risk Templates for PeopleSoft ExpensesPeopleSoft Expenses を参照してください。

銀行情報

このセクションには、給与計算システムから経費管理への直接入金データの移動を設定するために使用される各フィールドが含まれます。

銀行 ID タイプ

同じ国の銀行を区別するために使用される銀行テーブルの一部が表示されます。

支払方法

経費支払方法を選択します。値は次のとおりです。

- *自動決済機関 (ACH):* 経費支払を全て 1 つの場所に送信し、個々の従業員の銀行口座に配布します。
- *ファーム バンキング:* 従業員の銀行口座へのファーム バンキングまたは直接入金を使用して、払戻が行われます。
- *Giro-EFT:* ファーム バンキングを使用して払戻が行われます。このタイプのファーム バンキングは、シンガポールでのみサポートされている支払方法です。
- *システム小切手:* 払戻は紙の小切手の形式で行われます。これはデフォルトの支払方法です。

ユニット間/ユニット内

経費取引コード

経費レポートのユニット間およびユニット内処理に使用する取引コードを選択します。取引コードは、各種会計入力タイプのチャートフィールド値に関連付けられます。

仮払金取引コード

仮払金のユニット間およびユニット内処理に使用する取引コードを選択します。取引コードは、各種会計入力タイプのチャートフィールド値に関連付けられます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

外部データ ロード オプション

勘定科目管理を含める

外部データ ソース ロード プロセス中に勘定科目管理プロセスを実行する必要がある場合に選択します。これは American Express、Visa および MasterCard のクレジット カードに適用されます。

外部データ ソース ロード プロセス中に取引データのみロードする場合は、選択解除します

新規口座のプロファイル更新

既存の従業員とマッチング可能なファイルにクレジット カード番号があるときに、外部データ ソース ロード プロセスによって新規口座を従業員プロファイルに自動的に追加する場合に選択します。これは American Express、Visa および MasterCardV3 (XML ファイル) に適用されます。

注: MasterCardV2 (フラット ファイル) では従業員 ID が渡されないため、新規口座は全てエラー テーブルに送信され、ここでエラー メッセージを修正する必要があります。さらに、MasterCardV2 フラット ファイルから受け取った新規口座は従業員プロファイルに手動で追加する必要があります。

注: このオプションを選択する前に、[勘定科目管理を含める] を選択する必要があります。

新規クレジット カード情報を全てエラー テーブルに送信し、そこでエラー メッセージをレビューおよび修正する必要がある場合、選択解除します。

緊急セットアップ

緊急オプション

クリックすると、緊急 (日数) ページにアクセスできます。

インストール オプション - 緊急 (日数) ページ

インストール オプション - 緊急 (日数) ページ (EX_URGENCY_SETUP) を使用して、取引の高、中または低の各緊急レベルを計算およびトリガする際にシステムで使用される日数を入力し、経費レポート、勤務時間レポート、出張申請および仮払金の緊急レベルを設定します。

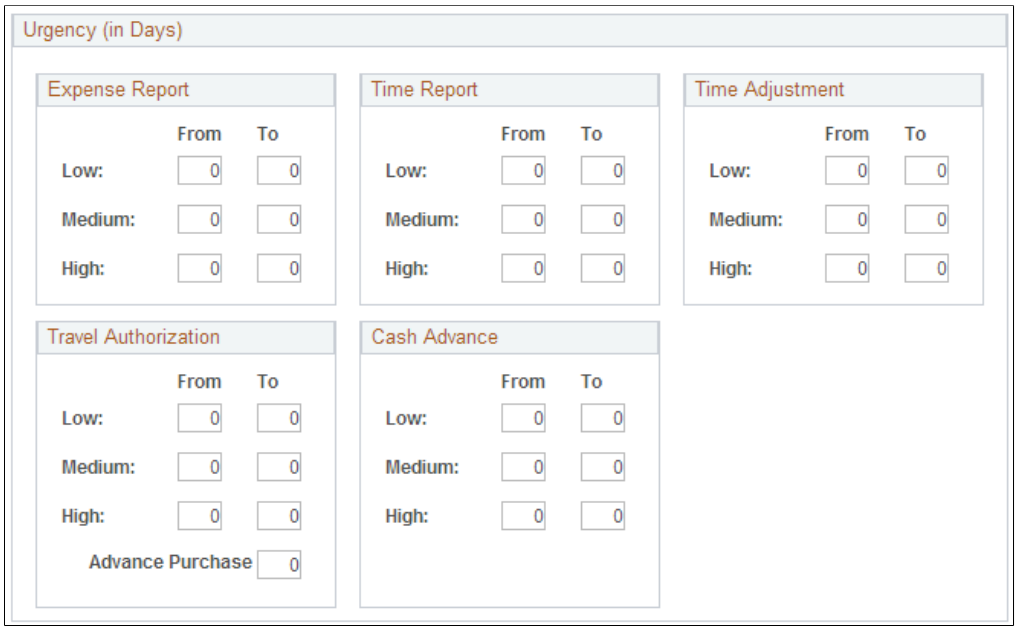
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

インストール オプション - 経費管理ページで [緊急オプション] リンクをクリックします。

画像: インストール オプション - 経費管理緊急 (日数) ページ

次の例では、インストール オプション - 経費管理緊急 (日数) ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



緊急設定により、承認者は早急な対応が必要な経費取引を判別できます。緊急 (日数) ページを使用して、経費取引ごとに低、中または高の緊急アイコンをトリガする日数を設定します。経費取引に対して緊急レベルがトリガされた場合、承認サマリ ページ、レポートおよび電子メール承認において、適切な緊急アイコンが取引の隣に表示されます。

経費取引を表示するとき、[緊急レベル] 列に各種緊急レベルを示す次の記号が表示されます。

緊急レベル	*アイコン*
高	赤色の四角形
中	黄色の三角形
低	緑色の丸印

開始および終了

各レポートの緊急レベルが低、中または高と見なされる経過日数を表す日数を入力します。

経費レポート、仮払金、勤務時間レポートおよび勤務時間レポート調整では、レポートの提出日から現在日までの日数の差異が計算されます。たとえば、レポートが 0-10 日未処理であるときに緊急レベル低と見なされる場合、[開始] フィールドに 0 と入力し、[終了] フィールドに 10 と入力します。レポートが 11-20

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

日未処理であるときに緊急レベルが中と見なされる場合、[開始] フィールドに 11 と入力し、[終了] フィールドに 20 と入力します。レポートが 21-999 日未処理であるときに緊急レベルが高と見なされる場合、[開始] フィールドに 21 と入力し、[終了] フィールドに 999 と入力します。その結果、21 日を超えて承認者のキューに入っているレポートは、緊急レベルが高として表示されます。

出張申請では、現在日から出張申請の入力ページの [開始日] フィールドまでの日数の差異が計算されます。その他のレポートとは設定が異なります。出張申請の例としては、緊急レベル低が 999 から 15 日、緊急レベル中が 14 から 4 日、緊急レベル高が 3 から 0 日のようになります。

仮払発注

仮払発注の計算時に高、中または低の値に加算される日数を入力します。

一部の業種では、仮払発注 (2 週間など) により価格が下がることがあります。これに対応するために、出張申請には [仮払発注] フィールドが含まれています。このフィールドには、緊急レベルの計算時に低、中および高の値に加算される数値が含められます。たとえば、緊急レベル高が 3-0 日に設定されており、[仮払発注] フィールドが 14 日に設定されている場合、緊急レベル高は出張開始の 17-0 日前にトリガされます。これにより、出張申請レポートが価格上昇の前に承認されるよう、確実に緊急レベル高として表示されます。

インストール オプション - 一般会計ページ

インストール オプション - 一般会計ページ (INSTALLATION_GL) を使用して、一般会計の仕訳入力および標準予算仕訳の仕訳ワークフロー オプションを指定します。

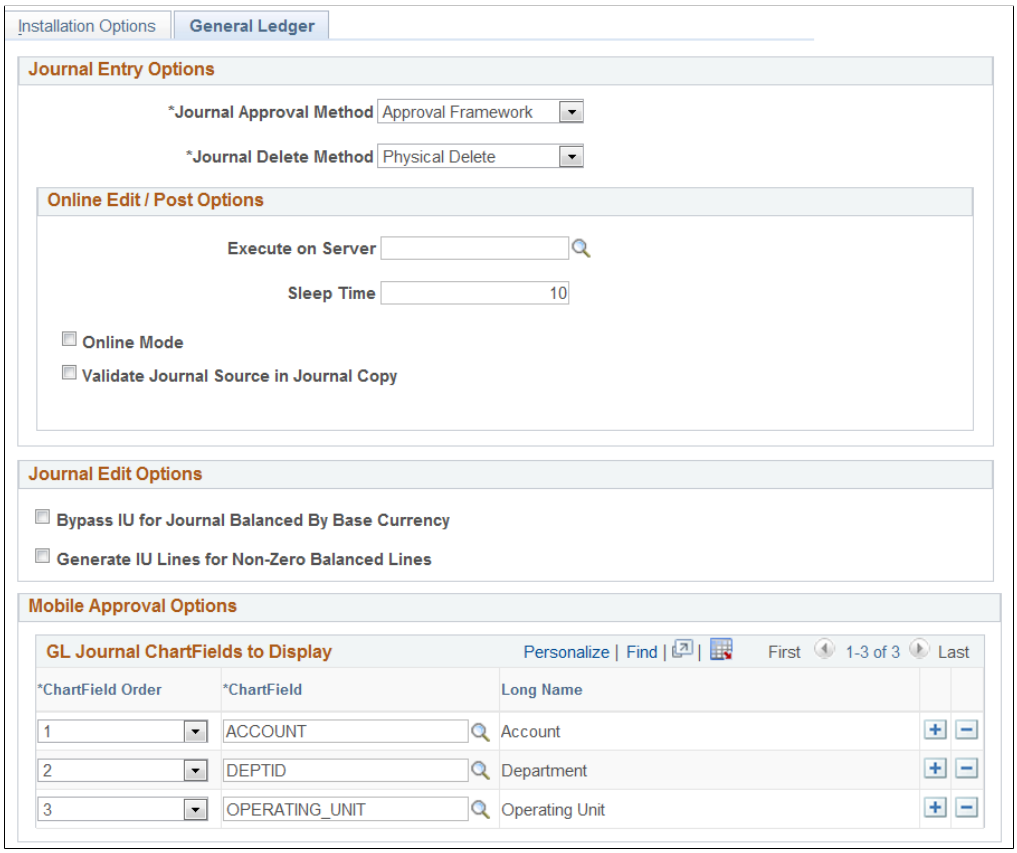
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[インストール]、[インストール オプション]、[一般会計]

画像: インストール オプション - 一般会計ページ

次の例では、インストール オプション - 一般会計 ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



仕訳入力オプション

仕訳承認方法

一般会計の仕訳入力および標準予算仕訳について、次のいずれかの仕訳ワークフロー承認方法を指定します。

- *承認フレームワーク:* このワークフロー方法では、承認プロセスの実装を簡略化するために PeopleSoft インターネット アーキテクチャ 内に設定可能なフレームワークが提供されます。また、モバイル承認フレームワークを有効にしている場合にこのオプションを選択します。

  Understanding Configurable WorkflowPeopleSoft General Ledger を参照してください

  また、Understanding Mobile Approvals in General LedgerPeopleSoft General Ledger を参照してください

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *バーチャル アプルーバ:* この仕訳承認ワークフロー方法では、PeopleSoft アプリケーション デザイナを使用して、ビジネス プロセス、アクティビティ、ビジネス イベント、ワークリスト、ルーティングおよび承認ルール セットを定義する必要があります。これはフィールドのデフォルト値です。

  Setting Up Journal Entry Approval in PeopleSoft WorkflowPeopleSoft General Ledger を参照してください

仕訳削除方法

次のいずれかの仕訳削除処理方法を選択します。

- *物理削除:* このオプションを使用しており、仕訳入力 - 行 ページから仕訳を削除する場合、関連する全ての仕訳テーブルから関連する全ての仕訳データが削除されます。これは仕訳を削除する方法としてデフォルトであり、以前使用されていたものです (旧リリースと同じ方法)。この方法では、削除済仕訳のトレースで唯一残っているのは、削除済仕訳について監査ログが有効であったかどうかです。

- *論理削除:* このオプションを使用しており、仕訳入力 - 行 ページを使用して仕訳を削除する場合、次の処理は物理削除と同じ方法で行われます。

  - コミットメント コントロール レコードからコミットメント コントロール データが削除されます。
  - 承認方法 (バーチャル アプルーバまたは承認フレームワーク (AF、旧称 AWE)) に関係なく、承認データが削除されます。
  - 仮計上仕訳クロス リファレンスが削除されます。

  物理削除方法とは異なり、削除済の仕訳データは次のレコードに保持されます。

  - 仕訳ヘッダー (JRNL_HEADER)
  - 仕訳ヘッダー添付 (JRNL_HEADER_ATT)
  - 仕訳行 (JRNL_LN)
  - 仕訳貸借一致 (JRNL_CF_BAL_TBL)
  - 仕訳ユニット間基準値 (JRNL_IU_ANCHOR)
  - 仕訳消費税 (JRNL_VAT)
  - 仮勘定 (OPEN_ITEM_GL)
  - 仕訳ヘッダー エラー (TSE_JHDR_FLD)

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 仕訳行エラー (TSE_JLNE_FLD)

論理削除された仕訳は、転記済仕訳の表示 ([表示のみ] モード) と同じ方法で、仕訳入力コンポーネント (および仕訳照会コンポーネント) により表示でき、実行できる唯一のアクションは、削除済仕訳のコピーのみです。論理削除された仕訳は次のように設定されます。

- 仕訳ヘッダー ステータス = *D* (削除済)。
- 予算ヘッダー ステータス = *N* (予算未チェック)。
- 承認ステータス = *N* (なし)。

仕訳入力 - 行ページ

オンライン編集/転記オプション

実行サーバー

仕訳がオンライン編集される場合に使用するオンライン仕訳編集プロセスについて、デフォルトのプロセス スケジューラ サーバー名を入力します。このフィールドが空白の場合、オンライン仕訳編集プロセスはプロセス スケジューラ名なしでスケジュールされます。この場合、プロセスは通常はマスター スケジューラによって取得され、次の使用可能なプロセス スケジューラ サーバーに割り当てられます。

スリープ時間

オンラインの PeopleCode が仕訳編集プロセス ステータスをチェックする合間にスリープ状態になる間隔 (秒数) を入力します。仕訳編集プロセスが完了し、ステータスがチェックされた後、コンポーネントがリフレッシュされて編集済の仕訳が表示されます。組織のニーズを満たす適切な間隔を指定することは、複数の仕訳編集プロセスが継続的に送信されている場合に、ボトルネックまたはデッドロックを回避する上で重要な要素となる可能性があります。オンライン仕訳編集では、前の編集プロセスが終了するまで仕訳入力ページはリリースされません。旧リリースでは、PeopleCode によりプロセス スケジューラ サーバー ステータスがチェックされる間隔 (秒数) は 10 秒でした。これは、特にコミットメント コントロールを使用している場合は長すぎることがあります。環境およびプロセス スケジューラ サーバーの設定に応じて、組織にとって理想的な秒数を選択します。

オンライン モード

[仕訳編集] および [仕訳転記] プロセスをオンライン モードで実行し、これによってアプリケーション エンジン プロセスをページから呼び出す場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

[仕訳編集] および [仕訳転記] プロセスをバッチ モードで実行する場合は、選択解除します。

仕訳のコピーで仕訳ソースを検証します このオプションを選択すると、非アクティブな仕訳ソースを含む仕訳をコピーしたときにエラーを受け取ります。

仕訳編集オプション

基本通貨で貸借一致している仕訳の IU を省略 (基本通貨で貸借一致している仕訳のユニット間を省略) 全ての仕訳行が基本通貨で貸借一致しているときに、仕訳のユニット間処理を省略する場合に選択します。

残高がゼロでない行のユニット間行を生成 (残高がゼロでない行のユニット間/ユニット内行を生成) このオプションを選択すると、取引金額合計がゼロであるが基本金額合計がゼロでない場合に、ゼロでない取引金額行のユニット間およびユニット内行が生成されます。合計金額を計算するために仕訳行をグループ化する際に使用されるフィールドには、[ビジネス ユニット]、貸借一致チャートフィールド、ユニット間/ユニット内処理について [システム取引定義] で指定された [その他残高フィールド]、[外貨]、[基本通貨]、[レート タイプ]、[レート除数]、[レート乗数] および [勘定残高属性] (選択した場合) があります。

[モバイル承認オプション] – [表示する GL 仕訳チャートフィールド]

このセクションを使用して、表示するチャートフィールドおよび仕訳のモバイル承認の表示順序を選択できます。アクティブなチャートフィールドを 9 個のみ表示できます。これらのフィールド値の検証は行われません。同じチャートフィールドを複数回表示するために選択しないよう注意してください。

Understanding Mobile Approvals in General LedgerPeopleSoft General Ledger を参照してください。

インストール オプション - Grants ページ

インストール オプション - Grants ページ (INSTALLATION_CSR) を使用して、Grants のインストール オプションを定義します。

このページを使用して、任意の添付ファイルを含めることが可能であるとの指定、Grants のコスト配分機能の使用を計画している各供給システムに対するコスト配分分析タイプの設定、連邦財務レポートの未清算債務残高を計算するためのソースの決定を行います。

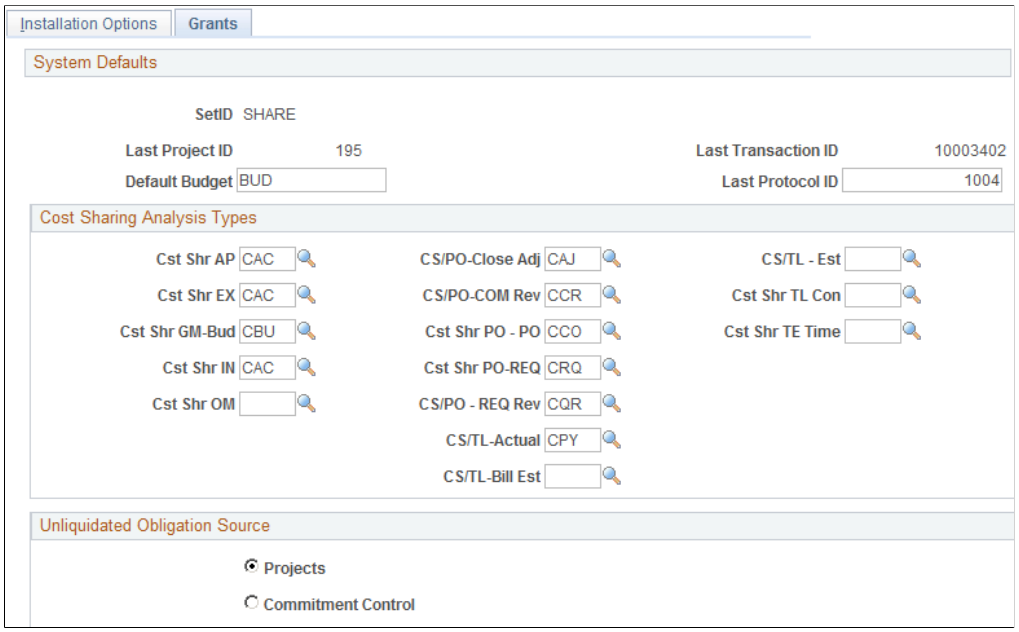
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [Grants]

画像: インストール オプション - Grants ページ

次の例では、インストール オプション - Grants ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Grants のコスト配分機能の使用を計画している供給システムごとにコスト配分分析タイプを設定するには、[コスト配分分析タイプ] グループ ボックスを使用します。取引が発生した供給システムによっては、指定のコスト配分チャートフィールドが含まれる取引に、コスト配分分析タイプが自動的に割り当てられます。

連邦財務レポートにおける連邦および受取人の未清算債務残高を計算するためのソースを指定するには、[未清算債務ソース] グループ ボックスを使用します。

プロジェクト

PROJ_RESOURCE が次の分析タイプを使用した残高計算のソースである場合に選択します。

- スポンサ: CCA、COM および CRV。
- コスト配分: CCO、CSA および CSC。

コミットメント コントロール

次を指定する場合に選択します。

- スポンサ付残高は、ファシリティおよび管理オプション ページで選択されたコスト配分チャートフィールド値を除外して計算されます ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [ビジネス ユニット関連], [Grants], ファシリティ管理オプション)。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 受領書残高は、ファシリティおよび管理オプション ページで選択されたコスト配分チャートフィールド値のみを使用して計算されます。

関連リンク

Establishing Facilities and Administration and Direct-Cost Cost-Sharing OptionsPeopleSoft Grants
PeopleSoft Grants Reports and Forms: A to ZPeopleSoft Grants

インストール オプション - Grants ポータル ページ

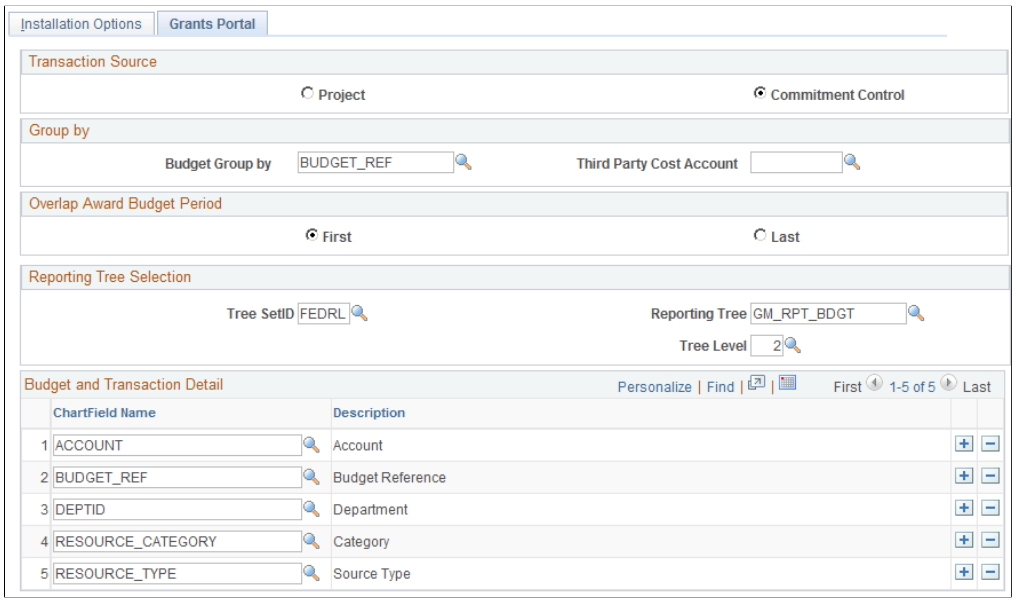
Grants ポータル ページ (INSTALLATION_GMPT) を使用して、[Grants ポータル] オプションを定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [Grants ポータル]

画像: インストール オプション - Grants ポータル ページ

次の例では、インストール オプション - Grants ポータル ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このページを使用して、Grants ポータルのインストール オプションを設定します。

取引ソース

このページに表示されるフィールドは、[取引ソース] グループ ボックスで選択したオプションによって異なります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プロジェクト

サマリ、詳細および取引ページで取引残高を計算する際のソースとしてプロジェクトを使用する場合に選択します。*[プロジェクト]* を選択した場合、[レポート分析グループ] グループ ボックスがこのページに表示されます。さらに、*[プロジェクト]* を選択した場合、PROJ_RESOURCE で取引データを管理するために、次のプロセスを実行する必要があります。

- 購買管理からプロジェクト コスト管理へプロセス (PC_PO_TO_PC)。
- 買掛金管理からプロジェクト コスト管理へプロセス (PC_AP_TO_PC)。
- 調達依頼からプロジェクト コスト管理へプロセス (PC_PO_TO_PC)。

コミットメント コントロール

サマリ、詳細および取引ページで取引残高を計算する際のソースとしてコミットメント コントロールを使用する場合に選択します。*[コミットメント コントロール]* を選択した場合、次のようになります。

- [サードパーティ原価会計] フィールドがこのページに表示されます。
- 予算元帳には、プロジェクト コスト管理のビジネス ユニット、プロジェクト ID/アクティビティ ID および勘定科目が含まれる必要があります。
- 予算チェックは行単位で行われる必要があります。
- 経費取引は KK_ACTIVITY_LOG テーブルに基づいており、月末日がスタンプされます。

グループ単位

予算グループ単位

[取引ソース] が *[プロジェクト]* である場合、PROJ_RESOURCE テーブルで定義されたチャートフィールドを選択します。PC 取引ソースのある値のみが表示されます。

[取引ソース] が *[コミットメント コントロール]* である場合、KK_TRANS_LOG テーブルで定義されたチャートフィールドを選択します。KK 取引ソースのある値のみが表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

警告 アクティビティ チャートフィールドの使用を選択した場合、全てのアクティビティの無制限リストを受け取る場合があります。このアクティビティの無制限リストは非常に大きく、システムのパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。たとえば、組織が資本プロジェクトおよび IT プロジェクトに PeopleSoft プロジェクト コスト管理を使用している場合、何千ものアクティビティが含まれることがあり、ユーザーが [予算グループ単位] フィールドのプロンプトをクリックすると、全てのアクティビティが返されます。

サードパーティ原価会計 支出詳細の照会ページのサードパーティ コスト セクションに取引を表示するために使用する勘定科目を選択します。これはオプションのフィールドです。このフィールドを空白にし、取引ソースが *[コミットメント コントロール]* の場合、サードパーティ コストは分離されません。

先行報酬予算期間

[先行報酬予算期間] グループ ボックスを使用して、同一落札内の重複する予算期間について、Grants ポータル ステージ ルールを設定できます。

Grants ポータル ステージ プロセスで、同一期間内の複数の予算期間を早い方の予算期間に設定する必要がある場合は、[最初] を選択します。

Grants ポータル ステージ プロセスで、同一期間内の複数の予算期間を遅い方の予算期間に設定する必要がある場合は、[最後] を選択します。

レポート ツリー選択

ツリー セットID 落札詳細ページおよびプロジェクト詳細ページの [予算ステータス] タブに表示される実績残高の計算に使用するセットID を選択します。

レポート ツリー 落札詳細ページおよびプロジェクト詳細ページの [予算ステータス] タブに表示される実績残高の計算に使用するツリーを選択します。勘定科目ベースのツリーのみ使用可能です。レポート ツリーを選択しない場合、または取引データ内の勘定科目がレポート ツリーに見つからない場合、取引データは予算カテゴリとして *UNKNOW* を使用して合計されます。

レポート分析グループ

スポンサ支出 スポンサ支出残高をレポートするための分析グループを選択します。Grants スポンサ実際原価 (SPACT) 分析グループがデフォルトとして表示されます。選択した分析グループにより、取引残高計算に含められる分析タイプが制御され、これらは

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

	落札およびプロジェクトのサマリ ページおよび詳細ページに表示されます。SPACT 分析グループに含まれる分析タイプは、ACT、GLE、PAY および SFA です。
スポンサ エンカンバランス	スポンサ エンカンバランス残高をレポートするための分析グループを選択します。Grants スポンサ エンカンバランス (SPENC) 分析グループがデフォルトとして表示されます。選択した分析グループにより、取引残高計算に含められる分析タイプが制御され、これらは落札およびプロジェクトのサマリ ページおよび詳細ページに表示されます。SPENC 分析グループに含まれる分析タイプは、COM です。
スポンサ プレエンカンバランス	スポンサ プレエンカンバランス残高をレポートするための分析グループを選択します。Grants スポンサ必要条件 (SPREQ) 分析グループがデフォルトとして表示されます。選択した分析グループにより、取引残高計算に含められる分析タイプが制御され、これらは落札およびプロジェクトのサマリ ページおよび詳細ページに表示されます。SPREQ 分析グループに含まれる分析タイプは、REQ です。
サードパーティ支出	サードパーティ支出残高をレポートするための分析グループを選択します。サードパーティ支出の分析タイプおよび分析グループは、ユーザー定義です。そのため、分析グループはデフォルトでは表示されません。
コスト配分支出	コスト配分支出残高をレポートするための分析グループを選択します。コスト配分分析グループ (CSTSH) 分析グループがデフォルトとして表示されます。
コスト配分エンカンバランス	コスト配分エンカンバランス残高をレポートするための分析グループを選択します。コスト配分コミットメント残高 (CSCOM) 分析グループがデフォルトとして表示されます。
コスト配分プレエンカンバランス	コスト配分プレエンカンバランス残高をレポートするための分析グループを選択します。コスト配分調達依頼 (CRQ) 分析グループがデフォルトとして表示されます。

予算/取引詳細

取引照会ページに表示するチャートフィールドを選択します。

インストール オプション - 在庫管理ページ

インストール オプション - 在庫管理ページ (INSTALLATION_INV) を使用して、PeopleSoft 在庫管理で使用される複数の設定を定義します。これらの設定には、ステージ日オプション、ユニット間取引オプション、バーコード取引の単位変換方法、会計入力行の採番方法、保管場所検索ページの検索制限、およびロット ID、シリアル番号、受領情報のデフォルト値などがあります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

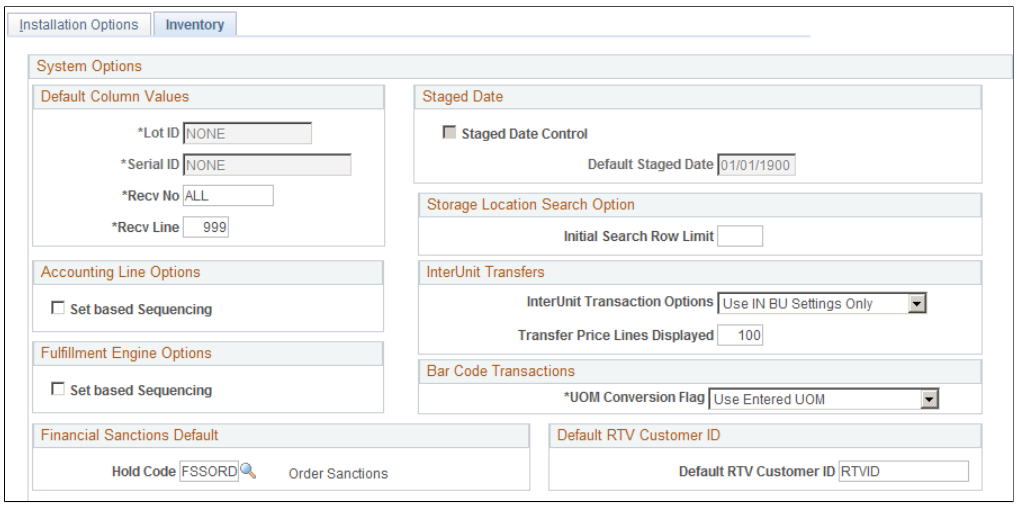
また、このページでは、資材出庫要求が [取引禁止業者のスクリーニング] プロセス (SCM_FSS) をパスできない場合にこれらの資材出庫要求に適用されるデフォルトの保留コードを定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [在庫管理]

画像: 在庫管理ページ

次の例では、在庫管理ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



[ロット ID]、[シリアル ID]、受領書番号、[受領行] および [デフォルト ステージ日]

フィールドの入力値を入力します (入力しない場合は空白)。アイテムがシリアル管理、ステージ日管理またはロット管理されて*いない*場合、あるいは特定の在庫で受領書 ID および行番号が適用されないか不明である場合のみ、これらの値がシステムテーブルに記録されます。

ロット、シリアルおよびステージ日のデフォルト列値を設定し、在庫の格納を開始した後は、これらのフィールドを変更できません。この制限により、取引テーブルの整合性が維持されます。

ステージ日管理

ステージ日により在庫資材を追跡する場合に選択します。これは、在庫が受け取られ、在庫管理に格納された日付です。アイテム定義コンポーネントでアイテムが設定される際に、この設定がデフォルトとして使用されます。FIFO (先入先出法) および LIFO (後入先出法) ピッキングにはステージ日追跡が必要です。

初回検索結果の最大表示行数

保管場所検索ページの初回表示で取得する、資材保管場所の最大数を指定します。このフィールドが空白またはゼロの場合、初回検索で取得される場所の数に制限はありません。

PeopleSoft 在庫管理のいくつかのページは、[保管場所検索] アイコンによって保管場所検索ページにリンクしています。この

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

機能により、在庫管理ページにおける設定、格納、出庫処理およびその他のアクティビティで、資材保管場所のリストにアクセスし、最適な場所を選択できます。ただし、最初の在庫管理ページの検索条件情報が不完全である場合、多数の資材保管場所が取得され、その結果保管場所検索ページへのアクセスに遅延が生じる可能性があります。[初回検索結果の最大表示行数] フィールドを使用して、初回表示を制限します。ユーザーが保管場所検索ページを表示してからは、正しい資材保管場所をより広範囲に検索できるよう、検索条件がこのフィールドによって制限されなくなります。保管場所検索ページの表示後のパフォーマンス遅延を防ぐには、別の検索を実行する前に、検索条件を完全に入力するようにしてください。

セット ベース連番

[会計行オプション] グループ ボックスでこのチェック ボックスを選択すると、原価管理の [会計行作成] プロセスで、連番の会計行番号が生成されます。これらの行番号は、会計入力行の採番に使用されます。

[出庫処理エンジン オプション] グループ ボックスでこのチェック ボックスを選択すると、在庫管理の [手持数量払出] プロセスで、連番の取引履歴行番号が生成されます。これらの行番号は、受注出庫処理からの取引履歴入力 (需要行) の採番に使用されます。

行ベースの処理を使用するには、これらのチェック ボックスを選択解除します。Oracle プラットフォームを使用しているか、他のデータベース プラットフォームで DMS を実行した場合を除き、これらのフィールドは非表示となります。

ユニット間取引オプション

ユニット間在庫移動のパラメータの取得方法を指定します。オプションは、次のとおりです。

GL ユニットの設定のみ使用: インストール オプション - 基本設定ページで [ユニット間貸借一致方法] に対して定義されたとおりに、集中管理会計モデルから全てのユニット間移動パラメータが取得されます。

IN ユニットの設定のみ使用: 在庫管理ビジネス ユニットから全てのユニット間移動パラメータが取得されます。

両方使用: 最初に在庫管理ビジネス ユニットを検索して、ユニット間移動パラメータが取得されます。パラメータが見つからない場合、インストール オプション - 基本設定ページで [ユニット間貸借一致方法] に対して定義されたとおりに、集中管理会計モデルが検索されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

表示移動価格行 移動価格設定定義コンポーネントのチャンク サイズを入力します。

単位変換フラグ (単位変換フラグ) システムがバーコード対応である場合、次の 3 つのうちいずれかの方法で取引を処理できます。

デフォルトの在庫単位に変換 (デフォルトの在庫単位 [UOM] に変換): 入力取引の単位がデフォルトの在庫単位に変換されます。

標準単位に変換 (標準単位に変換): 入力取引の単位がアイテムの標準単位に変換されます。このオプションを選択すると、全ての在庫を標準単位で保管し、アイテムに対して有効な単位を使用して資材移動取引を実行できます。

入力単位を使用 (入力単位を使用): ユーザーが入力した単位を使用して取引が処理されます。

保留コード 資材出庫要求が [取引禁止業者のスクリーニング] プロセス (SCM_FSS) によるスクリーニングをパスできない場合に自動適用される保留コードを入力します。資材出庫要求に対してこの金融制裁プロセスを実行するために、このフィールドを入力する必要があります。

デフォルト取引先返品顧客 ID 在庫を取引先に返品するための資材出庫要求を作成する際に使用される出荷先顧客 ID を入力します。この顧客 ID は、顧客テーブルで各取引先を顧客として定義せずに、取引先への返品在庫の出荷を可能にするプレースホルダです。出庫要求が作成されると、取引先返品顧客 ID がデフォルトで顧客 ID フィールドの値になり、(取引先返品からの) 取引先の名前が顧客名のフィールドに入力され、取引先住所が出庫要求の上書きとして IN_DEMAND_ADDR レコードに入力されます。取引先返品出庫要求では、住所の上書きが必要であり、上書き住所は変更可ですが削除できません。

関連リンク

PeopleSoft SCM Inventory ImplementationPeopleSoft Inventory
Using Item Quantity UOMPeopleSoft Managing Items
Using Item Quantity UOMPeopleSoft Managing Items
Defining Items at the SetID LevelPeopleSoft Managing Items

インストール オプション - 在庫管理カウンタ ページ

在庫管理カウンタ ページ (INSTALL_IN_COUNTERS) を使用して、自動採番の開始値を定義します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [在庫管理カウンタ]

デフォルト ユニット間 ID のプレフィックス 自動生成されたユニット間移動 ID が初期化されます。ユニット間 ID が企業全体で一意となるように、ユニット間 ID の自動採番がインストール レベルで設定されます。

自動引当カウンタ [資材引当] プロセスが資材出庫要求コンポーネントから開始された場合に作成される、新規ラン コントロール ID の開始番号が定義されます。出庫処理設定ページで、在庫管理ビジネス ユニットに対して自動引当オプションが選択された場合のみ、このカウンタが使用されます。

自動確認カウンタ [ピッキング確認] プロセスがピッキング フィードバック ページから開始された場合に作成される、新規ラン コントロール ID の開始番号が定義されます。出庫処理設定ページで、在庫管理ビジネス ユニットに対して自動確認オプションが選択された場合のみ、このカウンタが使用されます。

自動払出カウンタ [払出] プロセスが出荷/払出コンポーネントから開始された場合に作成される、新規ラン コントロール ID の開始番号が定義されます。出庫処理設定ページで、在庫管理ビジネス ユニットに対して自動払出オプションが選択された場合のみ、このカウンタが使用されます。

ユニット間 ID カウンタ 在庫管理ビジネス ユニット間のユニット間移動に使用される連番が定義されます。

インストール オプション - Lease Administration ページ

インストール オプション - Lease Administration ページ (INSTALLATION_RE) を使用して、リースのアクティブ化を可能にするよう選択します。

選択した場合、定義されたロールによりリースをアクティブ化できます。また、サイト マップ ページのマッピング指示を設定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [Real Estate Management]

システム デフォルト

リース自動承認 リースに対してリースのアクティブ化を有効にする場合に選択します。選択した場合、*内部管理者*および*内部マネージャ*として定義

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

されたロールによって、リースをアクティブ化できます。選択解除した場合、*内部マネージャ*として定義されたロールによってのみ、リースをアクティブ化できます。

Defining Lease Administration RolesPeopleSoft Real Estate Management を参照してください。

Google Map API キー

サイト ページで Google Map を表示するには、このフィールドで API キーの生成および入力が必要です。API キーは、URL "http://code.google.com/apis/maps/signup.html" から生成されます。

API キーの生成および入力後は、サイト マップの所在地はサイトの緯度および経度に基づきます。

インストール オプション - 生産管理ページ

インストール オプション - 生産管理ページ (INSTALLATION_MG) を使用して、計算された組立使用数 (QPA) の端数処理桁数を設定します。

この端数処理桁数は、PeopleSoft 生産管理、設計管理、原価管理および供給管理に反映されます。

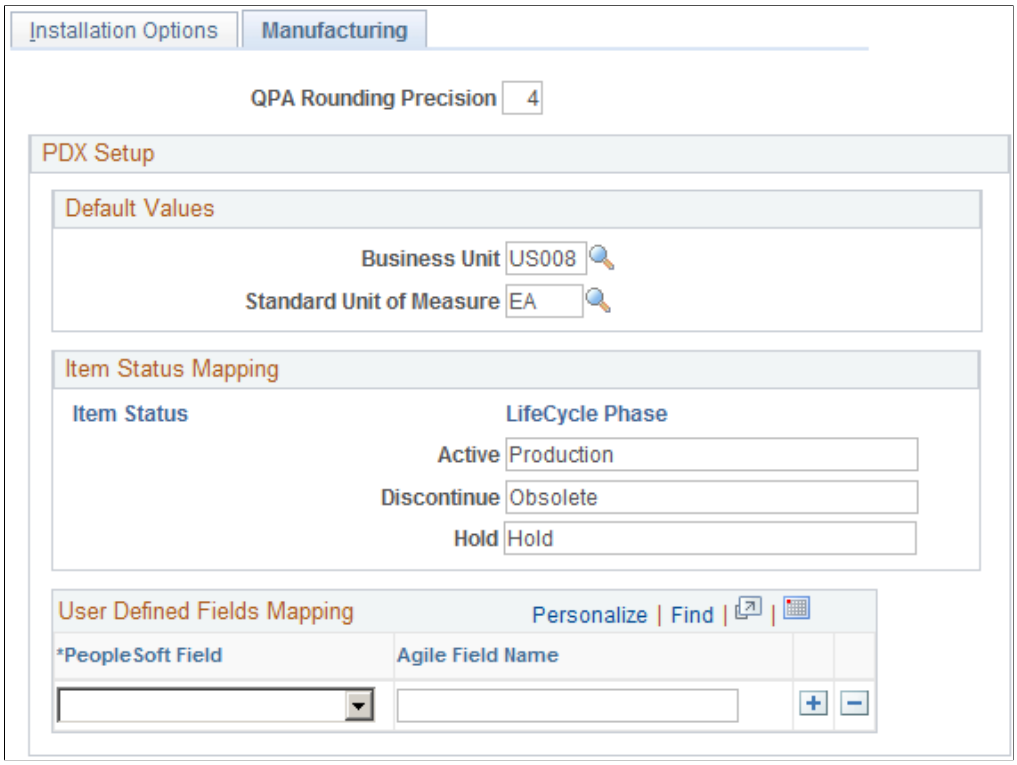
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [生産管理]

画像: インストール オプション - 生産管理ページ

次の例では、生産管理ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



組立使用数の端数処理桁 (組立使用数の端数処理桁)

小数点以下の桁数として、4 から 10 の値を入力します。

使用する部品表 (BOM) 数量が多く、組立使用数 (QPA) が相対的に少ない場合、数量の端数処理桁数の設定は特に重要となります。部品表を管理し、組立使用数または受注ごとの数量を定義している場合、小数点以下の桁数は 4 桁に制限されます。

ただし、*単位*数量は、入力した*単位*数量を部品表数量で除算して計算され、生産管理ページで定義された桁数に端数処理されます。そのため、たとえば組立使用数の計算が 6.54321 となり、インストール設定が 4 桁に設定されている場合、これは 6.5432 と認識されます。

PDX 設定

ビジネス ユニット

PeopleSoft 製品ライフサイクル管理 (PLM) システムから変更を受け取る生産ビジネス ユニットの値を選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: PeopleSoft システムでは単一サイトが前提とされるため、ここで PeopleSoft システムに対しサイトを定義します。

標準単位

追加される全てのインバウンド アイテムの値を定義します。これは、PLM システムからの全てのインバウンド アイテムが同じ単位 (EA など) を共有する場合に役立ちます。

注: または、PLM システムで適切なアイテムに関するユーザー定義フィールドを管理し、このフィールドを PDX XML 内の追加属性値から、このページのユーザー定義フィールド マッピング グループ ボックスの [PeopleSoft フィールド] の値である *[アイテム単位]* にマップできます。

重要 PLM フィールドの値は、XML で定義されたフィールドと一致する*必要があります*。

アイテム ステータスのマッピング

次のステータスを持つアイテムに対して、アイテム ライフ サイクル ステータスのマッピングを定義します。

- *アクティブ*
- *使用中止*
- *保留*

この値は、PeopleSoft システムに変更オーダーがリリースされた場合に使用されます。PeopleSoft アイテム ステータス (セットID およびビジネス ユニット) は、PDX XML 内の変更オーダーにおける、各アイテムの影響を受けるアイテム ライフ サイクル値に基づいています。したがって、PeopleSoft システムに送信された変更オーダーに含まれる可能性のある有効なライフ サイクル ステータスは、このグループ ボックスにマップされる*必要があります*。

このページの [ライフサイクル フェーズ] フィールドには、PeopleSoft システムと PLM システムの間に 1 対 1 のマッピングを定義するために、カンマを含めることができます。たとえば、スクリーン ショットでは、ライフ サイクル ステータスである *[生産]* および *[準備]* が、PeopleSoft システムのアイテム ステータスでどのように [アクティブ] アイテム ステータスと見なされるかを示しています。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: [アクティブ] ステータスの*新規*アイテムが PLM システムから追加され、有効日が今日の日付より後である場合、影響を受けるアイテムの PLM システム有効日は PeopleSoft システムでは無視され、現在日 (今日) がアイテム レベル (セットID およびビジネス ユニット) で使用されます。これにより、PeopleSoft システムのアイテムに対して、改訂および生産部品表を作成できます。
ただし、アイテムまたは改訂の開始日、さらに [将来] アイテム ステータスに関連付けられた将来の有効日には、*将来の* PLM システム有効日が使用されます。たとえば、PeopleSoft システムでアイテムが現在アクティブである場合、PLM システムの影響を受けるアイテムに、将来の日付およびアイテムの失効を目的とした将来のステータスを指定することで、アイテムの将来の失効を指定するための PLM システム変更オーダーを送信できます。この場合、現在の PeopleSoft システム ステータスは [アクティブ] のままとなり、将来のステータスは [使用中止] に指定されます。

インストール オプション - モバイル在庫管理ページ

インストール オプション – モバイル在庫管理ページ (INSTALLATION_MIN) を使用して、モバイル在庫管理のインストール オプションを定義します。

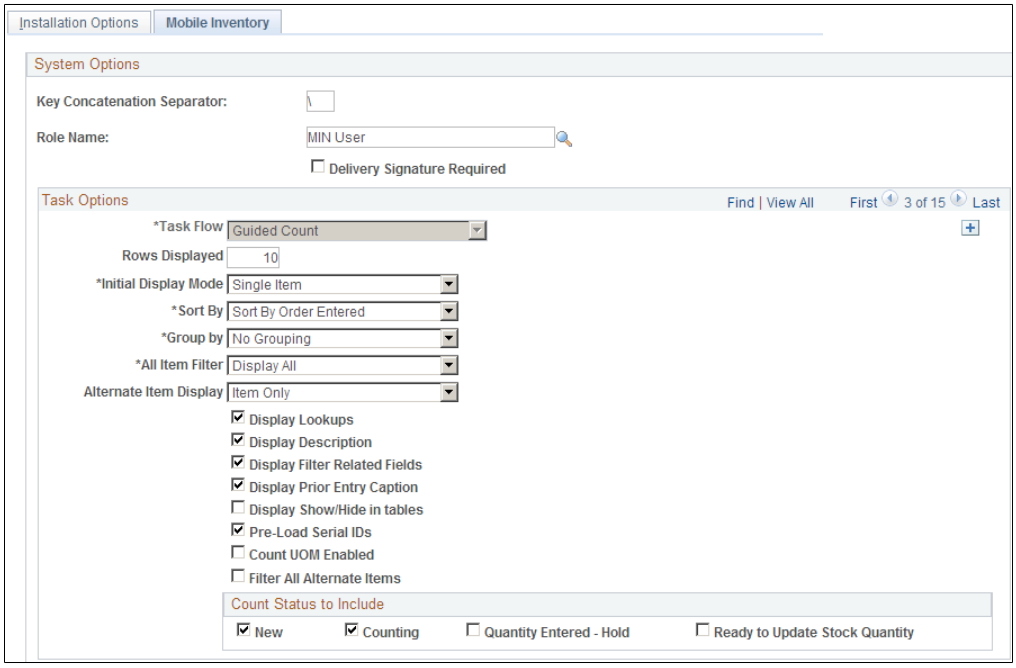
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[インストール]、[インストール オプション]、[モバイル在庫管理]

画像: インストール オプション - モバイル在庫管理: ガイド付き棚卸タスク フロー ページ

次の例では、インストール オプション - モバイル在庫管理: ガイド付き棚卸タスク フロー ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



モバイル在庫管理インストール オプションのページを使用して、PeopleSoft モバイル在庫管理タスク フローをモバイル デバイス用に調整します。このページの値は、ユーザー設定に使用される値と同じです。

モバイル在庫管理で、次のタスク フローのインストール オプションを定義できます。

- 調整
- 場所移動
- 配送、配送カート
- エクスプレス払出
- 保管場所別棚卸、アイテム別棚卸、ガイド付き棚卸および任意指定棚卸
- アイテム在庫照会
- 棚卸
- 格納の実行
- アドホック受領および発注受領

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

インストール オプション - 買掛金管理ページ

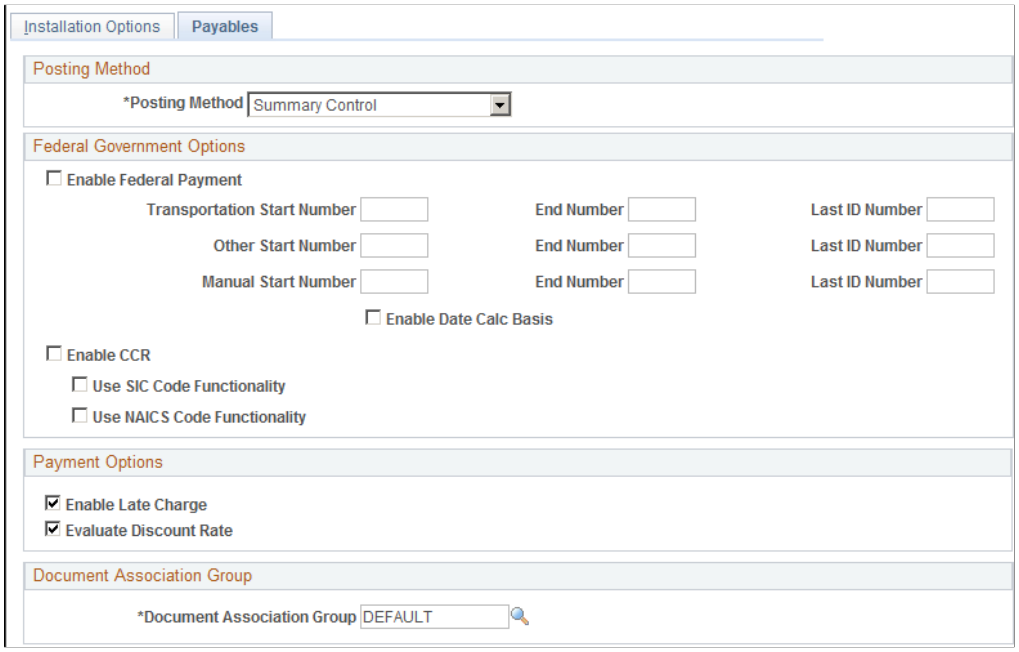
買掛金管理ページ (INSTALLATION_AP) を使用して、転記方法を定義し、買掛金管理アプリケーションについて、連邦政府支払スケジュール処理、支払遅延金計算、評価済割引およびドキュメント関連付け処理オプションを有効にします。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [買掛金管理]

画像: インストール オプション - 買掛金管理ページ

次の例では、買掛金管理ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



転記方法

転記方法

次の値から選択します。

明細行相殺: 個々の配布行を貸借一致させます。配布行に対する相殺は、設定済の継承ルールに基づいて、非勘定科目チャートフィールド値を継承します。

サマリ コントロール: 個々の行ではなく伝票を貸借一致させます。

警告 実装時に転記方法を 1 つ選択したら、変更*しないようにしてください*。後から戻って別の転記方法を選択した場合、一般会計仕訳に貸借不一致入力などの予期しない問題が発生する可能性があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

連邦政府オプション

連邦政府支払を使用

インストールについて米国連邦支払スケジュールの生成を有効にする場合に選択します。スケジュール番号は一意である必要があるため、これらの範囲は重複できません。このオプションは米国連邦機関のみを対象とします。

このオプションを選択した場合、[輸送]、[その他] および [手動] スケジュール タイプについて、開始および終了スケジュール番号を入力する必要があります。

輸送開始番号、その他開始番号、手動開始番号 および 終了番号

各種支払スケジュール タイプに対してスケジュール番号の範囲を定義します。輸送、その他および手動のそれぞれについて開始番号および終了番号を入力し、支払スケジュール タイプごとに範囲を定義します。

最終 ID 番号

支払スケジュール タイプごとに、最後に使用した支払スケジュール ID を入力します。後続の支払スケジュールの採番が、次に大きい番号で自動的に開始されます。支払サイクル アプリケーション エンジン プロセス (AP_APY2015) により、最終 ID 番号が更新されます。

日付計算基準使用 (日付計算基準使用)

インストールについて即時支払期日の計算を有効にする場合に選択します。

CCR を使用 (CCR を使用)

実装に対して CCR 処理を有効にする場合に選択します。

SIC コード機能を使用 (標準産業分類機能を使用)

買掛金管理の実装において既に SIC コードが更新されており、CCR 処理にこれらの更新済コードを使用する必要がある場合に選択します。このチェック ボックスを選択すると、既存の取引先情報から更新済の SIC コードが取得されます。このオプションを選択しない場合、更新済の正しいコード情報が CCR ID 番号ページに直接追加されます。

NAICS コード機能を使用 (NAICS コード機能を使用)

買掛金管理の実装において既に NAICS コードが更新されており、CCR 処理にこれらの更新済コードを使用する必要がある場合に選択します。この機能は、[SIC コード機能を使用] フィールドの機能と類似しています。

支払オプション

支払遅延金を使用

インストール レベルでの支払遅延金の計算を有効にする場合に選択します。このオプションを選択しない場合、全ての支払遅延金情報がユーザーに対して非表示となります。

割引率評価

割引済伝票を早期に支払うのと、期日まで待機してその期間の受取利息を受け取るのとで、どちらの方法で割引を受けるのがより有利かを比較する場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

割引評価パラメータの設定は、銀行口座および支払サイクルの設定時に行います。

ドキュメント関連付けグループ

ドキュメント関連付けグループ マッチング プロセスで使用するドキュメント関連付けグループを指定します。ドキュメント関連付けグループにより、マッチング プロセスで実行されるマッチング関連付けおよび採番のタイプが定義されます。

関連リンク

Defining Late Interest ChargesPeopleSoft Source to Settle Common Information
Understanding Federal Payment ProcessingPeopleSoft Payables
Handling Pay Cycle Exceptions and AlertsPeopleSoft Payables
Understanding the Voucher Posting and Payment Posting ProcessesPeopleSoft Payables
Establishing Matching and Document Association OptionsPeopleSoft Source to Settle Common Information

インストール オプション - プランニング ページ

インストール オプション - プランニング ページ (INSTALLATION_PL) を使用して、供給管理について、メッセージ番号およびデフォルト プランニング インスタンスを定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [プランニング]

デフォルト プランニング インスタンス 供給プランの入出力データを構成するデフォルト データ セット (ビジネス ユニット、アイテム、供給および需要) が表示されます。

メッセージ番号 発注、移動オーダーおよび生産オーダーに関する供給管理メッセージの自動採番の開始点として使用される番号が表示されます。

インストール オプション - Program Management ページ

インストール オプション - Program Management ページ (INSTALLATION_PGM) を使用して、ワークフローおよび電子メール通知について、Program Management のシステム デフォルトを設定します。

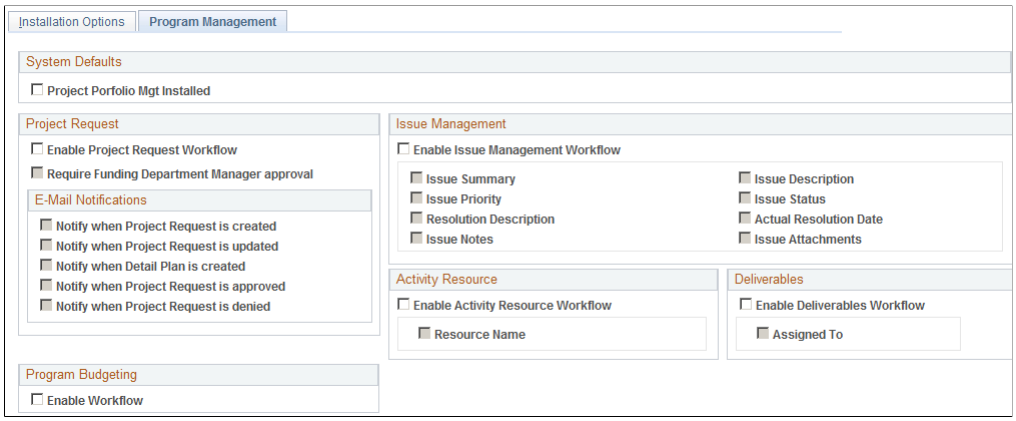
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [Program Management]

画像: インストール オプション - Program Management ページ

次の例では、インストール オプション - Program Management ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



システム デフォルト

プロジェクト ポートフォリオ管理インストール済 (プロジェクト ポートフォリオ管理インストール済) PeopleSoft プロジェクト ポートフォリオ管理がインストールされていることを示す場合に選択します。プロジェクト ポートフォリオ管理がインストールされている場合、プロジェクト リクエストは、Program Management ではなくプロジェクト ポートフォリオ管理でのみ開始できます。

『*PeopleSoft Project Portfolio Management*』を参照してください

プロジェクト リクエスト

プロジェクト リクエスト ワークフロー使用 このページのプロジェクト リクエスト ワークフローのオプションをアクティブ化する場合に選択します。

資産管理部門の管理者の承認が必要 プロジェクトを作成してリソースを割り当てる前に、資産管理部門の管理者によるプロジェクト リクエストの承認を必要とする場合に選択します。

プロジェクト リクエスト - 電子メール通知

プロジェクト リクエストの作成時に通知 プロジェクト リクエストの作成時に適切な関係者に電子通知を送信する場合に選択します。

プロジェクト リクエストの更新時に通知 プロジェクト リクエストの更新時に適切な関係者に電子通知を送信する場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

詳細プランの作成時に通知	プロジェクト リクエストの詳細プランの作成時に適切な関係者に電子通知を送信する場合に選択します。
プロジェクト リクエストの承認時に通知	プロジェクト リクエストが承認されてプロジェクトが作成可能になったとき、適切な関係者に電子通知を送信する場合に選択します。
プロジェクト リクエストの却下時に通知	プロジェクト リクエストの却下時に適切な関係者に電子通知を送信する場合に選択します。

プログラム予算

ワークフロー使用	プログラム予算ワークフローを有効にする場合に選択します。

イシュー管理

イシュー管理ワークフロー使用	このページのイシュー管理ワークフローのオプションをアクティブ化する場合に選択します。
イシュー サマリ	ユーザーがイシュー ページでイシュー サマリを変更した際に、適切なプログラム、プロジェクトまたはアクティビティ オーナーへのワークフローをトリガする場合に選択します。
イシュー優先度	ユーザーがイシュー ページでイシュー優先度を変更した際に、適切なプログラム、プロジェクトまたはアクティビティ オーナーへのワークフローをトリガする場合に選択します。
解決策の説明	ユーザーがイシュー ページでイシュー解決策の説明を変更した際に、適切なプログラム、プロジェクトまたはアクティビティ オーナーへのワークフローをトリガする場合に選択します。
イシュー コメント	ユーザーがイシュー - コメント/添付情報ページでイシュー コメントを変更した際に、適切なプログラム、プロジェクトまたはアクティビティ オーナーへのワークフローをトリガする場合に選択します。
イシューの説明	ユーザーがイシュー ページでイシューの説明を変更した際に、適切なプログラム、プロジェクトまたはアクティビティ オーナーへのワークフローをトリガする場合に選択します。
イシュー ステータス	ユーザーがイシュー ページでイシュー ステータスを変更した際に、適切なプログラム、プロジェクトまたはアクティビティ オーナーへのワークフローをトリガする場合に選択します。
実際解決日	ユーザーがイシュー ページでイシューの実際解決日を変更した際に、適切なプログラム、プロジェクトまたはアクティビティ オーナーへのワークフローをトリガする場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

イシュー添付情報 ユーザーがイシュー - コメント/添付情報ページでイシュー添付情報を追加した際に、適切なプログラム、プロジェクトまたはアクティビティ オーナーへのワークフローをトリガする場合に選択します。

アクティビティ リソース

アクティビティ リソース ワークフロー使用 このページの [リソース名] ワークフロー オプションをアクティブ化する場合に選択します。

リソース名 プロジェクト マネージャがリソース ページから新規アクティビティ割当についてリソースに通知できるようにする場合に選択します。

成果物

成果物ワークフロー使用 このページの [割当先] ワークフロー オプションをアクティブ化する場合に選択します。

割当先 プロジェクト マネージャに対し、割当済の成果物に関するリソースへの電子メール通知をトリガするオプションを提供する場合に選択します。

インストール オプション - プロジェクト コスト管理ページ

インストール オプション - プロジェクト コスト管理ページ (INSTALLATION_PC) を使用して、プロジェクト コスト管理全体で使用されるプロジェクト フィールドおよびコントロール フィールドのデフォルト設定を指定します。

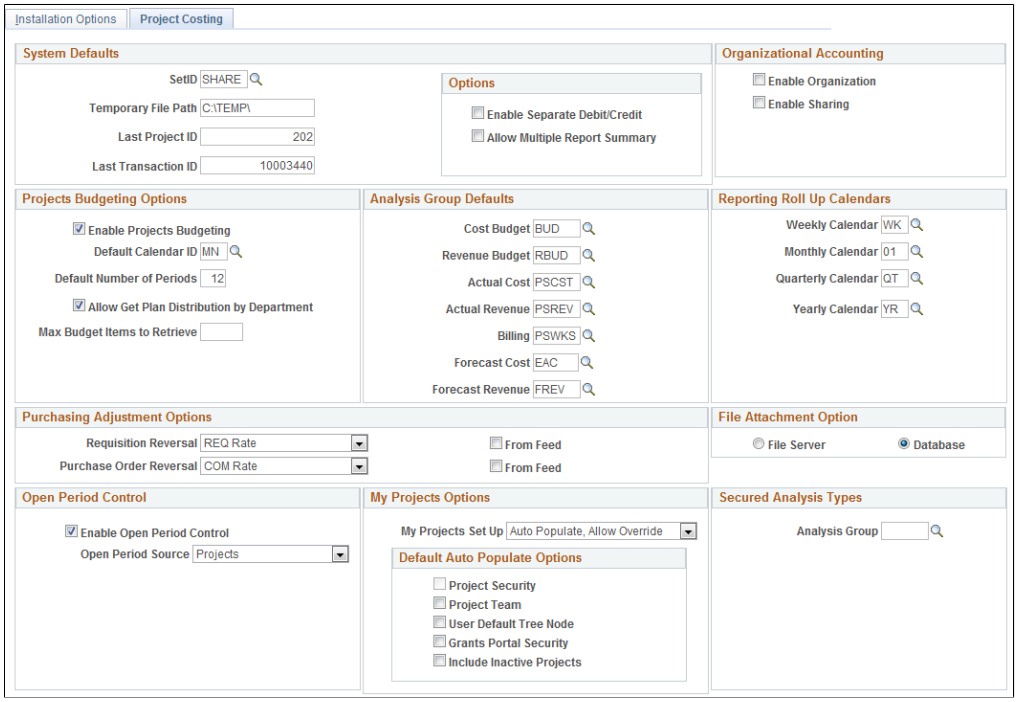
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [プロジェクト コスト管理]

画像: インストール オプション - プロジェクト コスト管理ページ

次の例では、インストール オプション - プロジェクト コスト管理ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



インストール オプション - プロジェクト コスト管理ページおよびインストール オプション - プロジェクト コスト管理インテグレーション ページは、多くの PeopleSoft アプリケーション間で共有されるコア テーブルに関して作成されています。これらのページに入力した値は、業務上のデフォルトの定義に使用されるテーブル構造に影響します。特定のテーブルはグループ単位で連動するため、テーブルの設定順序としては、いくつかのテーブルのデータを他のテーブルより前に設定する必要があります。財務取引を追跡するために一般会計などの他の PeopleSoft アプリケーションを既に使用している場合、多くの財務フレームワークは既に設定されています。

インストール オプション - プロジェクト コスト管理ページで設定したプロジェクトおよびコントロール フィールドのデフォルト値の多くは、個々のプロジェクトおよびアクティビティのレベルで上書きできます。

このページでは、少なくとも 1 つのレコードを入力する必要があります。

警告 プロジェクト コスト管理がインストールされている場合、[チャートフィールド設定] メニューでプロジェクトを作成しないでください。これはプロジェクト情報のサブセットを表しており、ビジネス ユニットの代わりにセットID によって作動されているためです。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

システム デフォルト

セットID

デフォルト コントロール テーブルのテーブルセットを指定するセットID を入力します。

一時ファイル パス

サードパーティ アプリケーションおよびプロジェクト ツリーをプロジェクト コスト管理にインポートするために必要な、アプリケーション サーバー上のファイル パスおよびディレクトリを入力します。プロジェクト コスト管理へのプロジェクトおよびアクティビティのロードに使用されるプロジェクト/アクティビティのロード アプリケーション エンジン プロセス (PC_INTF_GEN) は、プロジェクト ツリーをフラット ファイル形式でこのディレクトリにステージし、プロジェクト ツリー インテグレーション アプリケーション エンジン プロセス (PC_TREE_LOAD) を実行して、このプロジェクト ツリーをプロジェクト コスト管理にロードします。

デフォルト値は *c:\temp* です。

最終プロジェクト ID

発行済の最終プロジェクト ID を指定する数値を入力します。

最終トランザクション ID

発行済の最終トランザクション ID を指定する数値を入力します。デフォルト値は *10000000* です。

貸借個別入力機能

勘定科目処理について借方および貸方の個別入力を有効にする場合に選択します。デフォルト値は非選択です。

複数レポート サマリ可

ユーザーのユーザー ID およびそのユーザーに対して定義されたセキュリティに基づいて、プロジェクト取引レポート テーブル (PC_RPO) の行をリフレッシュする場合に選択します。選択解除した場合、レポート サマリ アプリケーション エンジン プロセス (PC_RPO) が実行され、プロジェクトレベル セキュリティの対象外であるごとに、プロジェクト取引レポート テーブルが上書きされます。

Creating and Modifying Reports Using the Report Summarization ProcessPeopleSoft Project Costing を参照してください。

組織会計処理

組織使用

取引を作成するリソースの組織エンティティとは別の組織エンティティに取引の請求をする機能である、複数組織会計処理を有効にする場合に選択します。

収支配分可能

リソースの組織およびプロジェクトまたはアクティビティを所有する組織の間で、コストおよび収益の配分を可能にする場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プロジェクト予算オプション

プロジェクト予算使用可

オンライン ページでの予算作成または Microsoft Project 2002 との統合を含む、プロジェクト コスト管理の予算機能をアクティブ化する場合に選択します。

このオプションを選択し、予算計画を作成した場合、予算はプロジェクト予算計画 (PC_BUD_PLAN) およびプロジェクト予算詳細 (PC_BUD_DETAIL) テーブルに保存されます。これらの予算を確定すると、取引はプロジェクト取引テーブル (PROJ_RESOURCE) に送信され、要約予算データ テーブル (PC_BUD_SUMMARY) で更新されます。要約予算データ テーブルは、提供されているレポート分析に使用されます。

プロジェクト取引テーブルにのみ取引を送信するには、このオプションを選択解除します。デフォルト値は非選択です。

デフォルト カレンダー ID

プロジェクト予算に使用するデフォルト カレンダーを選択します。デフォルト値は *MN* (1 月 1 日に開始する月次期間カレンダー) です。このフィールドは、[プロジェクト予算使用可] オプションを選択した場合のみ使用できます。

Program Management を使用している場合、プログラム予算機能を使用して予算詳細行を作成すると、このフィールドはデフォルト予算期間として使用されます。計画ごとに異なる予算カレンダーが使用される場合があります。

デフォルト期間数

プロジェクト コスト管理の予算で使用するデフォルト期間数を入力します。デフォルト値は *12* であり、このフィールドは 2 桁のフィールドです。そのため、値 *[99]* を超える値は指定できません。このフィールドは、[プロジェクト予算使用可] オプションを選択した場合のみ使用できます。

予算計画配布の部門別ロードを許可

ユーザーが予算プロセス時に、リソース コストを予算詳細行に配布する際に使用される 1 つ以上の一般会計 (GL) ビジネス ユニット、部門および配布率を入力できるようにする場合に選択します。このオプションを選択解除すると、Program Management のアクティビティ別リソース ページに入力した予算アイテムからの GL ビジネス ユニットおよび部門に基づいて、コストが予算詳細行に配布されます。

このオプションを選択した場合、予算計画ページの [計画の取得] ボタンをクリックすると、アクティビティ リソース金額の配布ページが表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このフィールドは、Program Management を使用している場合のみ表示されます。デフォルト値はオプションが選択されています。

最大取得予算アイテム数

予算詳細ページに初回表示される予算アイテムの数を制御する値を入力します。値 0 (ゼロ) では全ての予算アイテムが表示されます。パフォーマンスの問題が発生しない限り、この値を指定することをお勧めします。このフィールドを使用して、アクティビティまたは予算アイテムの数が多い可能性がある予算計画のページの初回表示に必要な時間を短縮できます。

このインストール レベルのフィールドは、新規予算計画を追加する際のデフォルト値です。ただし、予算計画ページで予算計画ごとに上書きできます。

分析グループ デフォルト

コスト予算

プロジェクト コスト管理予算でコスト予算に使用するデフォルト分析グループを選択します。このフィールドに入力した分析グループは、新規プロジェクトで [コスト予算] 分析グループのデフォルト値として表示されます。デフォルト値はプロジェクト レベルで上書きできます。

収入予算

プロジェクト コスト管理予算で収益予算に使用するデフォルト分析グループを選択します。このフィールドに入力した分析グループは、新規プロジェクトで [収入予算] 分析グループのデフォルト値として表示されます。デフォルト値はプロジェクト レベルで上書きできます。

実績コスト

プロジェクト コスト管理システム全体で実績コスト取引に使用するデフォルト分析グループを選択します。このフィールドに入力した分析グループは、新規プロジェクトで [実績コスト] 分析グループのデフォルト値として表示されます。デフォルト値はプロジェクト レベルで上書きできます。

実際収益

プロジェクト コスト管理システム全体で収益取引に使用するデフォルト分析グループを選択します。このフィールドに入力した分析グループは、新規プロジェクトで [実際収益] 分析グループのデフォルト値として表示されます。デフォルト値はプロジェクト レベルで上書きできます。

請求

プロジェクト コスト管理システム全体で請求取引に使用するデフォルト分析グループを選択します。

予測管理人件費

プロジェクトの完了時見積コストを表すデフォルト分析グループを選択します。このフィールドに入力した分析グループは、新規プロジェクトで [予測] 分析グループのデフォルト値として表

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

示されます。デフォルト値はプロジェクト レベルで上書きできます。

収益予測

プロジェクト コスト管理定義ページにデフォルト収益予測分析グループとして表示される、デフォルト分析グループを選択します。*FREV* 分析グループが事前定義済であり、PSREV 分析グループと同じ分析タイプおよび ETB (完了までの請求見積) 分析タイプが含まれます。ユーザーは、この値をシステムで定義されている任意の分析グループに変更できます。

Analysis GroupsPeopleSoft Project Costing を参照してください。

レポート ロールアップ カレンダー

プロジェクト取引テーブルの週別、月別、四半期別および年別の要約方法を決定するカレンダー ID を入力します。カレンダーには、各期間の開始日および終了日が含まれます。

購買調整オプション

調達依頼リバーサル

対応する発注書が送付された時点で調達依頼の残高を減らすために使用される計算方法を決定するオプションを選択します。有効値は次のとおりです。

発注金額: 対応する発注書の送付時に、その数量および金額の分を調達依頼から減らします。

調達レート: 調達依頼のコミット済数量と単位原価を掛け合わせた値を使用して、調達依頼を減らします。これはデフォルト オプションです。

調達合計: 対応する発注がコミットされたとき、調達依頼は完全に取り消されます。

フィーダーより

購買管理からプロジェクト コスト管理へアプリケーション エンジン プロセス (PC_PO_TO_PC) が実行されたときに、[購買調整] プロセス (PC_POADJUST) を自動的に実行する場合に選択します。[購買調整] プロセスでは、プロジェクト取引テーブルに調達依頼リバーサル行が作成されます。

発注リバーサル

対応する伝票および資材要求が処理された時点で調達依頼の残高を減らすために使用される計算方法を決定するオプションを選択します。有効値は次のとおりです。

発注レート: 発注伝票または資材要求の実際数量と発注の行単位原価を掛け合わせた値に基づき、発注を減らします。これはデフォルト オプションです。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

実際レート: 実際の数量およびコスト分を発注から減らします。

フィーダーより 買掛金管理からプロジェクト コスト管理へアプリケーション エンジン プロセス (PC_AP_TO_PC) の実行時に、[購買調整] プロセスを自動的に実行する場合に選択します。[購買調整] プロセスでは、プロジェクト取引テーブルに発注リバーサル行が作成されます。

添付ファイル オプション

ファイル格納システムでは、FTP (File Transfer Protocol) を使用して、データベースまたはファイル サーバーのいずれかにファイルを保存します。使用されるシステムは、添付ファイルのビルトイン関数で最初のパラメータとして渡され、URL 管理ページで管理されている URL によって決まります。

*『PeopleSoft Asset Lifecycle Management, Enterprise Service Automation, Financial Management, Staffing Front Office, and Supply Chain Management Product-Specific Installation Instructions』*を参照してください。

添付ファイル オプション 添付ファイルの保存場所を選択します。有効値は次のとおりです。

ファイル サーバー: ファイル サーバーにファイルを保存する場合に選択します。このオプションではファイルをより効率的に保存できますが、ファイル サーバーへの FTP を設定する必要があります。これはデフォルト オプションです。このオプションを選択した場合、[FTP ルート] フィールドに添付ディレクトリを入力する必要があります。

データベース: データベースにファイルを保存する場合に選択します。

重要 電子メール メッセージで添付ファイルを送信する場合、*[ファイル サーバー]* オプションを選択する必要があります。

FTP ルート ファイル サーバーに添付ファイルを保存する場合、添付ファイルが保存されるホーム ディレクトリを入力します。このフィールドは、[ファイル サーバー] オプションを選択した場合のみ表示されます。

オープン期間コントロール

オープン期間コントロールを使用 新規作成されたプロジェクト取引のオープン期間検証を有効にする場合に選択します。プロジェクト コスト管理のオープン期間または GL オープン期間に対して、プロジェクト取引の会計処理日が検証されます。会計処理日がオープン期間内でない場

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

合、この日付は最も近いオープン期間日付で上書きされます。デフォルト値は非選択です。予算取引は検証されません。

オープン期間ソース

プロジェクト取引の会計処理日の検証で比較対象とするソースを選択します。このフィールドは、[オープン期間コントロールを使用] を選択した場合のみ表示されます。使用可能なオプションは次のとおりです。

プロジェクト管理: プロジェクト コスト管理のビジネス ユニットのカレンダーに基づいて、オープン期間が検証されます。これはデフォルト オプションです。

一般会計: GL ビジネス ユニット カレンダーに基づいて、オープン期間が検証されます。

担当プロジェクト オプション

このセクションを使用して、担当プロジェクト ページに表示されるプロジェクトのリストが、担当プロジェクトのロード ページを使用して、[担当プロジェクトのロード] プロセス (RUN_PC_MY_PRJ) により自動的にロードされる必要があるかどうかを決定します。

担当プロジェクト設定

担当プロジェクト ページに表示されるプロジェクトのリストを自動的にロードするかどうかを決定するオプションを選択します。オプションは、次のとおりです。

- *手動*: 担当プロジェクト ページに表示されるプロジェクトのリストを各ユーザーが手動で管理するよう指定する場合に選択します。

  選択した場合、[担当プロジェクトのロード] プロセスは使用されず、このセクションの追加のチェック ボックスは表示されません。

- *自動ロード*: 担当プロジェクト ページに表示されるプロジェクトのリストが全てのプロジェクト コスト管理ユーザーに代わって自動的に更新されるよう指定する場合に選択します。

  選択した場合、ユーザーはシステム生成のプロジェクト リストを変更できません。このセクションの追加のチェック ボックスが表示されます。

- *自動ロード*、*上書き可* : 担当プロジェクト ページに表示されるプロジェクトのリストが全てのプロジェクト コスト管理ユーザーに代わって自動的に更新されるよう指定する場合に選択します。

  選択した場合、ユーザーはシステム生成プロジェクト リストを変更でき、「ユーザー基本設定 - プロジェクト コスト管理

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ」を使用して、プロジェクト リストの優先ロード方法を選択できます。このセクションの追加のチェック ボックスが表示されます。

デフォルト自動ロード オプション

各ユーザーの担当プロジェクト ページでプロジェクト リストの生成に使用する方法を決定する、1 つ以上のオプションを選択します。

- [担当プロジェクト設定] オプションが *[手動]* の場合、このセクションは表示されません。
- [担当プロジェクト設定] オプションが *[自動ロード]* の場合、このセクションが表示され、選択したオプションが全てのユーザーに適用されます。
- [担当プロジェクト設定] オプションが *[自動ロード、上書き可]* の場合、このセクションが表示されます。各ユーザーは、「ユーザー基本設定 - プロジェクト コスト管理ページ」を使用して、各自のプロジェクト リストを自動ロードするための独自の方法を選択できます。ただし、ユーザーのユーザー基本設定 - プロジェクト コスト管理 ページで方法を選択していない場合、このページで選択したチェック ボックスによって、[担当プロジェクトのロード] プロセスの実行時に使用される方法が決定されます。

少なくとも 1 つのオプションを選択する必要があります。オプションは、次のとおりです。

- *プロジェクト セキュリティ*: 選択または選択解除の状態で表示されます。このオプションは表示専用です。
  - [プロジェクト セキュリティ] が有効である場合、プロジェクト セキュリティは常に適用されるため、このオプションは選択されます。

    そのため、[担当プロジェクトのロード] プロセスでは、ユーザーがアクセス権を持つプロジェクトのみが選択されます。
  - [プロジェクト セキュリティ] が無効である場合、このオプションは選択解除されます。
- *プロジェクト チーム*: 担当プロジェクトのロード プロセスにおいて、ユーザーがチーム メンバーとして属する全てのプロジェクトが担当プロジェクト リストに追加されるようにする場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *ユーザーのデフォルト ツリー ノード*: 担当プロジェクトのロード プロセスにおいて、ユーザーの基本設定で指定されているデフォルト ツリー ノード下の全てのプロジェクトが担当プロジェクト リストに追加されるようにする場合に選択します。
- *Grants ポータル セキュリティ*: 担当プロジェクトのロード プロセスにおいて、[Grants ポータル セキュリティ - プロジェクト レベル] 設定に基づいてユーザーがアクセス権限を持つ全てのプロジェクトがプロジェクト リストに追加されるようにする場合に選択します。

  このオプションは、Grants がインストール済製品である場合にのみ使用できます。
- *非アクティブなプロジェクトを含める*: 非アクティブなプロジェクトをプロジェクト リストに含める場合に選択します。

  非アクティブなプロジェクトはデフォルトでは表示されません。

セキュリティ対象分析タイプ

分析グループ

セキュリティ対象となる分析タイプが含まれる分析グループを選択します。これらの分析タイプの取引行は、取引リスト ページでは読取専用行として表示されます。履歴の修正モードでページを開いた場合のみ、セキュリティ対象分析タイプに属する取引を追加または削除できます。

インストール オプション - プロジェクト コスト管理インテグレーション ページ

インストール オプション - プロジェクト コスト管理インテグレーション ページ (INSTALLATION_PCINT) を使用して、プロジェクト コスト管理とその他のアプリケーションの間におけるインテグレーション プロセスのパラメータを設定します。

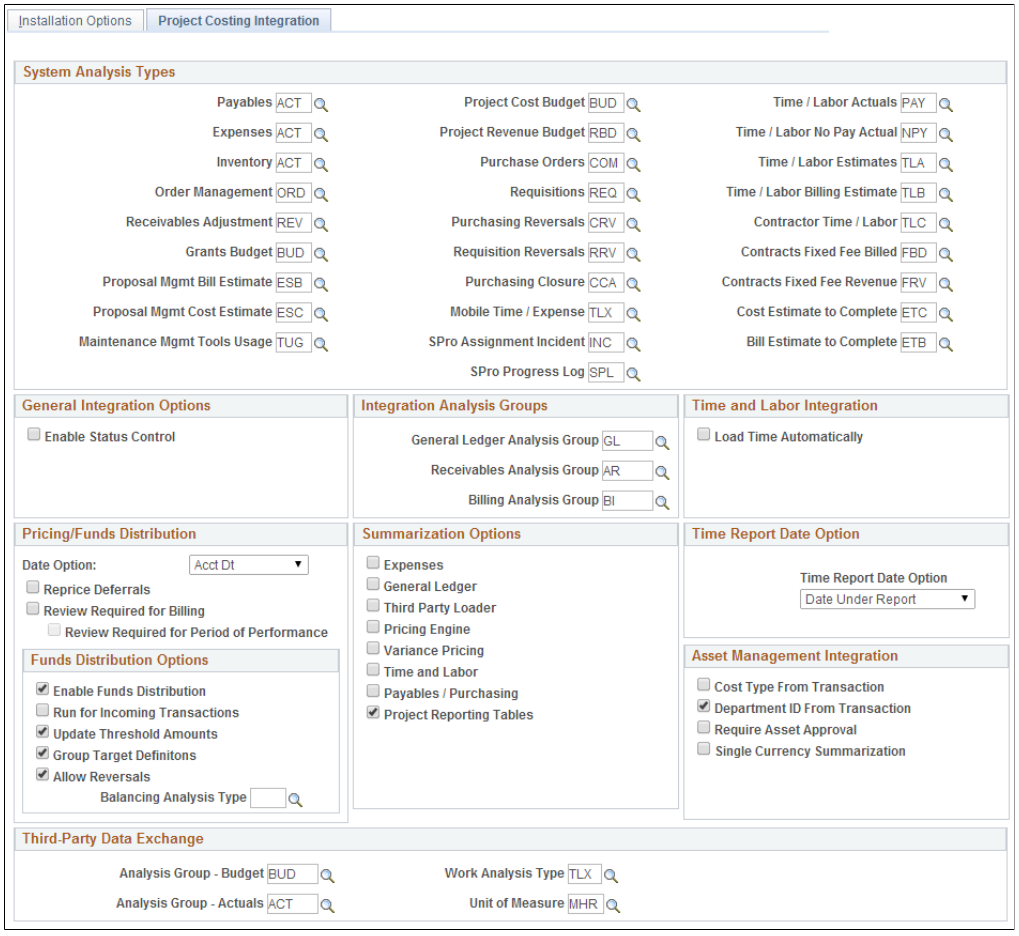
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [プロジェクト コスト管理インテグレーション]

画像: プロジェクト コスト管理インテグレーション ページ

次の例では、プロジェクト コスト管理インテグレーション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



このページでは、少なくとも 1 つのレコードを入力する必要があります。

システム分析タイプ

インストール済の各供給アプリケーションからプロジェクト コスト管理に提供される取引に関連付ける分析タイプを入力します。インテグレーション プロセスの際、アプリケーション エンジンではこのページに入力した分析タイプが使用されます。

Proposal Management 請求見積 (Proposal Management 請求見積) Proposal Management での [生成] プロセスの実行時に作成される収益予算行のデフォルト分析タイプを入力します。デフォルト値は *ESB* (請求見積) です。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Configuring Labor Defaults Bill Options and SecurityPeopleSoft Proposal Management を参照してください。

Proposal Management コスト見積 (Proposal Management コスト見積)

Proposal Management での [生成] プロセスの実行時に作成されるコスト予算行のデフォルト分析タイプを入力します。デフォルト値は *ESC* (コスト見積) です。

Maintenance Management ツール使用 (Maintenance Management ツール使用)

Maintenance Management から実際のツール使用行を指定するためのデフォルト分析タイプを入力します。デフォルト値は *TUG* (ツール使用) です。

Maintenance Management Tools Usage ProcessPeopleSoft Project Costing を参照してください。

サービス プロキュアメント進捗ログ

PeopleSoft サービス プロキュアメントから成果物進捗ログ行をインポートするためのデフォルト分析タイプを入力します。提供されているデフォルト値は *SPL* です。

完了までのコスト見積

アクティビティの残存作業 (見積作業 - 実績作業) にアクティビティ コスト レートを掛け合わせた場合に作成される行に割り当てられる分析タイプを入力します。デフォルト値は *ETC* です。このフィールドは、Program Management を使用している場合のみ使用できます。

Viewing and Loading Estimate to Complete TransactionsPeopleSoft Program Management を参照してください。

完了までの請求見積

アクティビティの残存作業 (見積作業 - 実績作業) にアクティビティ請求レートを掛け合わせた場合に作成される行に割り当てられる分析タイプを入力します。デフォルト値は *ETB* です。このフィールドは、Program Management を使用している場合のみ使用できます。

『*PeopleSoft Project Costing*』ドキュメントには、他の PeopleSoft アプリケーションとの統合に関する個別のトピックが含まれており、統合ごとに使用される分析タイプについて説明しています。

一般インテグレーション オプション

ステータス コントロール使用

ステータス コントロール機能を有効にして、分析タイプおよび有効日に基づいて取引をコントロールできるようにする場合に選択します。ステータス コントロール オプションを使用することで、プロジェクトのステータス ページまたはアクティビティのステータス ページでプロジェクトまたはアクティビティのステータスが変更された場合に、供給アプリケーションからの取引を中止できます。デフォルト値は非選択です。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Controlling Incoming TransactionsPeopleSoft Project Costing を参照してください。

インテグレーション分析グループ

一般会計分析グループ

仕訳入力に使用する分析タイプが含まれる分析グループを指定します。

売掛金分析グループ

売掛金管理取引とのインテグレーションに使用する分析タイプが含まれる分析グループを指定します。

Understanding Transaction-Related Control DataPeopleSoft Project Costing および Setting Up Transaction-Related InformationPeopleSoft Project Costing を参照してください。

請求分析グループ

手動請求取引とのインテグレーションに使用する分析タイプが含まれる分析グループを指定します。

Understanding Transaction-Related Control DataPeopleSoft Project Costing および Setting Up Transaction-Related InformationPeopleSoft Project Costing を参照してください。

勤務管理インテグレーション

時間を自動的にロード

PeopleSoft 勤務管理において、給与計算の完了後すぐに勤務管理の実際の PAY 行を プロジェクト取引テーブル (PROJ_RESOURCE) にパブリッシュする場合に選択します。選択解除した場合、勤務管理からプロジェクト コスト管理へアプリケーション エンジン プロセス (PC_TL_TO_PC) を手動で実行して、ステージングテーブルからプロジェクト取引テーブルにデータをロードする必要があります。デフォルト値は非選択です。

Reviewing and Loading Data to PeopleSoft Project Costing TablesPeopleSoft Project Costing を参照してください。

価格設定/資金配布

日付オプション

価格設定および資金配布の両方のレートの解決に使用する日付のタイプ (会計処理または取引) を指定します。このどちらのプロセスのレートも有効日が指定されます。デフォルト値は会計処理日です。

繰延価格再設定

価格設定済であるが未請求の行の価格を再設定する場合に選択します。デフォルト値は非選択です。

請求処理のレビュー要

プロジェクト取引の請求前にレビューを必要とする場合に選択します。このオプションは、プロジェクト タイプ レベルで、個々の

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プロジェクトについて上書きできます。プロジェクト マネージャ レビュー コンポーネント (PC_PM_REVIEW) を使用してレビューを実行します。デフォルト値は非選択です。

Reviewing and Adjusting Project Cost TransactionsPeopleSoft Project Costing を参照してください。

実行期間のレビュー要 マネージャ取引レビュー検索ページ で実行期間例外を分離する場合に選択します。

注: このチェック ボックスは、[請求処理のレビュー要] チェック ボックスを選択した場合のみ有効です。

資金配布オプション

インストール レベルでの資金配布の処理方法を決定する際に、これらの設定が使用されます。

資金配布可 資金配布機能を有効にする場合に選択します。資金配布ページでは、配布に適格なコスト取引を指定し、資金配布 - ターゲット定義ページでは、資金ソース間でコストを配布するためのターゲット行を定義します。

外部発生取引に実行 プロジェクト コスト管理に取引を送信する供給システムからの入力取引を処理する際に、資金配布 (PC_FND_DIST) プロセスの自動実行が必要であることを指定する場合に選択します。これには、取引追加ページおよびサードパーティ ローダー プロセスから作成された取引が含まれます。このオプションを選択した場合、資金配布プロセスでは、[賦課レートを適用] および [資金配布後に価格設定を実行] オプションが資金配布ラン コントロール ページで選択されていることが前提となります。

このオプションは、[資金配布可] オプションが選択されている場合のみ有効です。

限度額更新 限度に対してコストが処理された後、配布ルール ページで限度額を変更できるようにする場合に選択します。限度は配布金額未満に下げることはできません。

限度に対してコストが処理された後は限度額を変更できないようにするには、選択解除します。

このオプションは、[資金配布可] オプションが選択されている場合のみ有効です。

グループ ターゲット定義 資金ソース ルールを手動でグループ化できるようにする場合に選択します。各ターゲット定義は、ルール セットに関連付けることができます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

各資金ソース ルールが個別のターゲット定義に関連付けられるようにするには、選択解除します。

このオプションは、プロジェクト コスト管理ビジネス ユニット レベルで上書きできます

このオプションは、[資金配布可] オプションが選択されている場合のみ有効です。

逆仕訳可

資金配布 - ターゲット ページに [逆仕訳] チェック ボックスを表示する場合に選択します。予算チェックおよび残高一般会計入力により送信するための逆仕訳取引が生成されます。

資金配布 - ターゲット ページで [逆仕訳] チェック ボックスを非表示にする場合は、選択解除します。

このオプションは、[資金配布可] オプションが選択されている場合のみ有効です。

貸借一致分析タイプ

資金配布ターゲット行を定義する際に [貸借一致] チェック ボックスが自動的に選択される必要がある分析タイプを選択します。

Understanding Funds DistributionPeopleSoft Project Costing を参照してください。

要約オプション

このグループ ボックスを使用して、供給および価格設定の要約オプションを決定します。このグループ ボックスでは、取引要約を実行する統合アプリケーション (経費管理、一般会計、サードパーティ ローダーなど) および価格設定エンジン プロセスを選択できます。

経費管理

経費管理からプロジェクト コスト管理への統合プロセス (PC_EX_TO_PC) 中に要約プロセスを実行する場合に選択します。

一般会計

一般会計からプロジェクト コスト管理への統合プロセス (PC_GL_TO_PC) 中に要約プロセスを実行する場合に選択します。

サードパーティ ローダー

サードパーティ ローダーからプロジェクト コスト管理への統合プロセス中に要約プロセスを実行する場合に選択します。

価格設定エンジン

価格設定エンジン プロセス (PC_PRICING) 中に要約プロセスを実行する場合に選択します。

変更差異価格設定

変更差異価格設定プロセスで要約エンジンを使用してターゲット行および履歴行を相殺する場合に選択します。

変更差異価格設定プロセスで固定フィールド セットを使用して行を相殺する必要がある場合は、選択解除します。フィールドは次のとおりです。[ビジネス ユニット]、[プロジェクト]、[アクティビティ]、開始リソース ID、[分析タイプ]、[リソース タイプ]、[カテ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ゴリ]、[サブカテゴリ]、[契約書番号]、[契約行番号]、[単位]、[一般会計ビジネス ユニット]、[勘定科目]、[部門 ID]、[業務ユニット]、[製品]、[資金コード]、[クラス]、[プログラム]、[予算参照]、[関係会社]、[関係会社 - ユニット内 1]、関係会社 - ユニット内 2、[チャートフィールド 1]、[チャートフィールド 2]、[チャートフィールド 3]、[外貨]、[通貨コード] および [通貨有効日]。

変更差異価格設定製品コードの要約テンプレートも設定する必要があります。そうしない場合、固定フィールド セットが使用されます。

勤務管理

勤務管理からプロジェクト コスト管理への統合プロセス (PC_TL_TO_PC) 中に要約プロセスを実行する場合に選択します。

買掛金管理/購買管理

買掛金管理からプロジェクト コスト管理への統合プロセス (PC_AP_TO_PC)、購買管理からプロジェクト コスト管理への統合プロセス (PC_PO_TO_PC) および購買調整統合プロセス (PC_POADJUST) 中に要約プロセスを実行する場合に選択します。

プロジェクト レポート テーブル

レポート テーブルのリフレッシュ プロセス (PC_SUM_PR) またはサマリ テーブルのリフレッシュ プロセス (PC_SUM_RFSH) を使用するか、供給プロセスを使用してプロジェクト リソースを要約する場合に選択します。

供給および価格設定の要約の追加情報は、次を参照してください。

Understanding Feeder and Pricing SummarizationPeopleSoft Project Costing を参照してください。

勤務時間レポート日付オプション

日付オプション

経費管理で作成されてプロジェクト コスト管理に送信される勤務時間レポートの処理に使用する日付オプションを選択します。使用可能なオプションは次のとおりです。

レポート日付: 経費管理で作成された勤務時間レポートに入力された日付は、勤務時間レポートがプロジェクト コスト管理にインポートされる際に使用される日付と同じになります。これはデフォルト値です。

期間終了日: 勤務時間レポートの終了日により、プロジェクト コスト管理で時間の割当先となる会計期間が決定されます。レポート期間の範囲がある会計期間の最後から別の会計期間の最初までの場合、この設定は特に重要です。たとえば、月次会計期間を使用しており、週次勤務時間レポートに入力するとします。月が週の半ばで終わり、レポート期間が 2 つの会計期間の終了から開始にまたがる場合、プロジェクト コスト管理では、レポート期間が終了した会計期間 (2 つの会計期間の後者) に時間が割り当てられます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Setting Up Time and Expense ChartFields for PeopleSoft Project CostingPeopleSoft Project Costing を参照してください。

資産管理インテグレーション

取引のコスト タイプ

資産管理に送信する取引を、資産定義ページで指定されたコスト タイプではなく、プロジェクト取引テーブルの行のコスト タイプ別にグループ化および要約する場合に選択します。デフォルト値は非選択です。

Define Assets PagePeopleSoft Project Costing を参照してください。

取引の部門 ID

資産管理に送信する取引を、資産定義ページで指定された部門ではなく、プロジェクト取引テーブルの行の部門 ID 別にグループ化および要約する場合に選択します。デフォルトで選択されています。

資産承認必須

資産計上取引が資産管理ローダー テーブルに送信される前に承認を必要とする場合に選択します。このオプションは、プロジェクト コスト管理で作成または調整する資産に適用されます。資産処分取引には適用されません。

オプションの資産承認を有効にする場合、このオプションは選択解除します。承認がオプションの場合、ステータスが *[新規]* および *[承認済]* である資産は資産管理への送信に適格です。デフォルト値は非選択です。

Reviewing and Approving AssetsPeopleSoft Project Costing を参照してください。

単一通貨集計

単一通貨環境において、資産計上時に取引通貨詳細を資産管理に送信する必要がない場合、このオプションを選択します。資産計上プロセスでは、上位レベルの要約を行うために、5 つの通貨フィールド (取引通貨コード、[通貨有効日]、[レート乗数]、[レート除数] および [レート タイプ]) が無視されます。

資産計上時に通貨取引詳細を資産管理に送信する場合、このオプションを選択解除します。

Currency Summary OptionsPeopleSoft Project Costing を参照してください。

サードパーティ データ エクスチェンジ

プロジェクト コスト管理と Microsoft Project 2002 スケジュール アプリケーションの間でデータを交換する際に、これらの設定が使用されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

分析グループ - 予算

Microsoft Project からインポートする予算行に割り当てる分析タイプが属する分析グループを選択します。このグループ内の分析タイプは、後で Microsoft Project 統合プロセス中に選択されます。

Understanding Integration of PeopleSoft Project Costing with Microsoft ProjectPeopleSoft Project Costing を参照してください。

分析グループ - 実績

分析タイプが特定の分析グループに属している全ての取引行が、その分析グループ単位でプロジェクト コスト管理から Microsoft Project に送信される場合に、その分析グループを選択します。指定した分析グループ内の分析タイプの取引のみが、プロジェクト コスト管理と Microsoft Project の間で同期されます。

作業分析タイプ

Microsoft Project からプロジェクト取引テーブルに送信された作業取引 (時間入力) に割り当てる分析タイプを選択します。デフォルト値は *TLX* です。

単位

Microsoft Project からプロジェクト コスト管理に送信される予算行の単位を選択します。デフォルト設定は時間数 (MHR) です。

関連リンク

Understanding Transaction-Related Control DataPeopleSoft Project Costing
Reviewing and Adjusting Project Cost TransactionsPeopleSoft Project Costing

インストール オプション - 購買管理ページ

インストール オプション - 購買管理ページ (INSTALLATION_PO) を使用して、一般購買コントロール、調達依頼ローダー パラメータ、購買用クレジット カード コントロールおよび取引先属性を定義します。

さらに、各種 PeopleSoft 購買管理ページに表示する最大行数を定義し、PeopleSoft 購買管理および PeopleSoft eProcurement-調達管理の両方について、Oracle BI Publisher を発注レポート ツールとして選択できます。

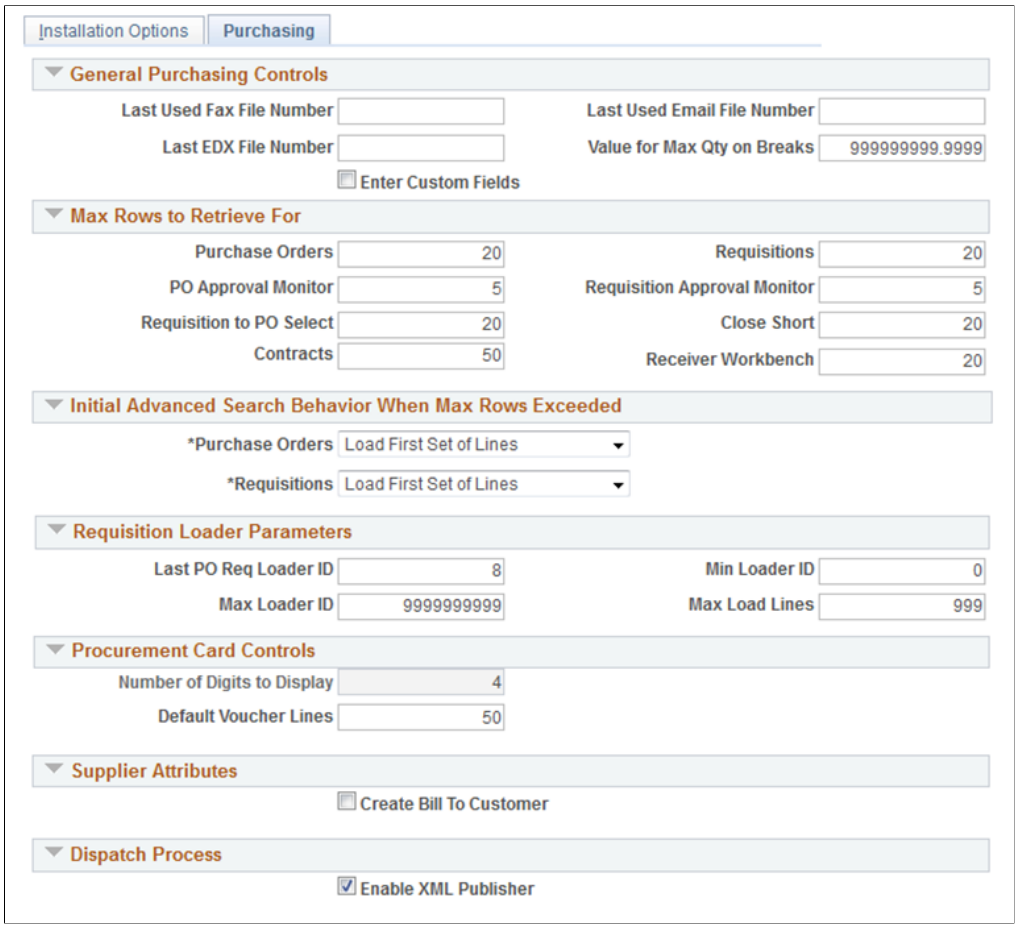
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [購買管理]

画像: インストール オプション - 購買管理ページ

次の例では、インストール オプション - 購買管理ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



一般購買コントロール

最終ファックス ファイル番号、最終 EDX ファイル番号 および 最終電子メール番号

最後に使用したファイル番号が表示されます。次の連番を使用してファイルが自動的に採番されます。

条件別最大数量の値 (条件別最大数量の値)

従量価格設定の価格計算に使用される最大数量が表示されます。

カスタム フィールドの入力

調達取引でユーザー定義フィールドを使用できるようにする場合、チェック ボックスを選択します

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

最大取得行数

このグループ ボックスを使用して、検索機能の実行時に取得される行数を定義します。たとえば、PeopleSoft 購買管理アプリケーションを使用して発注を検索しており、500 件の発注行があり、発注チャンク サイズが 20 に設定されている場合、[検索] ボタンをクリックすると、一度にロードおよび表示される発注行は 20 件のみとなります。

発注 発注関連情報の検索時に返されるようにする最大行数を入力します。

調達依頼 調達依頼関連情報の検索時に返されるようにする最大行数を入力します。

PO 承認モニター 発注承認情報の検索時に返されるようにする最大行数を入力します。

調達依頼承認モニター 調達依頼承認情報の検索時に返されるようにする最大行数を入力します。

調達依頼PO選択 発注に対して選択された調達依頼の検索時に返されるようにする最大行数を入力します。

不足クローズ 金額不足でクローズされた発注の検索時に返されるようにする最大行数を入力します。

契約 契約情報の検索時に返されるようにする最大行数を入力します。

受領書ワークベンチ 受領書ワークベンチでの検索時に返されるようにする最大受領書数を入力します。

最大行超過時の初回詳細検索の動作

このリージョンを使用して、発注行および調達依頼行の検索の初期化に使用するデフォルトの方法を指定します。チャンクにより、発注書または調達依頼書を開いたときに最初にロードされる行数が制御されます。これは、取引行の小さいサブセットをバッファに置くプロセスです。

注: チャンクはページ全体のデータと同じではありません。指定した時点におけるスクロールに含まれる全ての行を表します。

チャンクに対して定義された最大行数を超えると、デフォルトの方法が使用されます。デフォルトの方法は、[最大取得行数] リージョンの [発注] および [調達依頼] フィールドで指定されます。たとえば、チャンク サイズが 10 であり、発注または調達依頼に 20 行が含まれる場合、取引をオープンすると、このページで定義した方法を使用して行の初回検索が処理されます。あるいは、チャンク サイズが 10 であり、発注または調達依頼に 2 行のみ含まれる場合、チャンクは実装されず、取引をオープンするとその 2 行が表示されます。

発注 発注行がチャンク サイズを超えている場合に使用する方法を選択します。次の値があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *詳細検索ページを表示:* 行数が最大行数限度を超える発注書をオープンするよう選択したときに、詳細検索ページを表示する場合に選択します。発注行の検索条件を定義するまで、行はロードされません。
- *最初の行セットをロード:* チャンク ルールに基づいて発注書を表示する場合に選択します。発注行の最初のチャンクがロードされ、発注書の管理ページが表示されます。この値はこのフィールドのデフォルト値です。

調達依頼 調達依頼行がチャンク サイズを超えている場合に使用する方法を選択します。発注についての値が調達依頼にも適用されます。

調達依頼ローダー パラメータ

最終調達依頼ローダー ID (最終調達依頼ローダー ID) システムで処理された最終調達依頼ローダー リクエストの番号が表示されます。初期設定では、多くの場合 0 (ゼロ) となります。調達依頼ローダー アプリケーション エンジン プロセス (PO_REQLOAD) によるリクエストの処理時に、ここに入力した番号で始まる自動採番が行われます。

最小ローダー ID (最小ローダー ID) 調達依頼ローダー リクエストの指定に使用する最小番号を入力します。

最大ローダー ID (最大ローダー ID) 調達依頼ローダー リクエストの指定に使用する最大番号を入力します。調達依頼ローダーがこの番号に到達すると、リクエスト採番が [最小ローダー ID] に入力した番号にリセットされます。

最大ロード行 (最大ロード行) 調達依頼ローダー プロセス インスタンスでロードできる最大行数を入力します。この数を超える行数は無視されます。

購買用クレジット カード コントロール

表示桁数 購買用クレジット カードについて表示される桁数を入力します。

注: デフォルトでは、カードの末尾 4 桁のみが表示されます。

を更新対象に指定 伝票について作成される購買用クレジット カード取引の最大数を入力します。

注: このページの値は、伝票ステージ ラン コントロール ページにデフォルトで表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

取引先属性

請求先顧客の作成 取引先情報 - ID 情報ページを使用して取引先を定義する際に請求先顧客を自動作成できるようにする場合、このチェックボックスを選択します。このチェック ボックスを選択した場合、取引先情報 - ID 情報ページに [請求先顧客の作成] グループボックスが表示され、デフォルトで選択状態になるため、デフォルト情報で請求先顧客を迅速に作成できます。

送付処理

XML Publisher 使用 (または BI Publisher) Oracle の XML Publisher (BI Publisher) を使用して送付処理時に発注書を書式設定および印刷する場合、このチェックボックスを選択します。Oracle BI Publisher は、Oracle Fusion Middleware ファミリーに含まれるレポート用の Java ベース製品です。このチェック ボックスは、PeopleSoft 購買管理および PeopleSoft eProcurement-調達管理における送付処理に影響します。このチェック ボックスを選択しない場合、発注書の書式設定および印刷には SQR が使用されます。

製品ドキュメントの*『PeopleTools: BI Publisher for PeopleSoft』*を参照してください。

インストール オプション - 売掛金管理ページ

インストール オプション - 売掛金管理ページ (INSTALLATION_AR) を使用して、売掛金管理アプリケーションに固有のインストール オプションを定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [売掛金管理]

スクロールの最大行数 (スクロールの最大行数) 一部の売掛金管理ページでは、数百行の情報が保存および表示されます。このフィールドを使用して、スクロール領域に表示できる行数を制限し、パフォーマンスを向上させます。

直接仕訳顧客追跡 ユーザーが通常入金グループ - 入金ページに直接仕訳入金の顧客 ID を入力できるようにする場合に選択します。これによりユーザーは、照会のページで顧客の直接仕訳入金について表示できます。

転記取消理由 このチェック ボックスを選択すると、ユーザーは PeopleSoft 売掛金管理取引の転記を取り消すたびに理由コードを選択する必要があります。このチェック ボックスを選択しない場合、転記取消理由のユーザー選択はオプションです。

複数未転記アイテムの選択不可 (複数未転記アイテムの選択不可) あるアイテムについて転記取消未転記アイテムが存在するか、別のワークシートで既に選択されている場合に、振替、メンテナ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

	ンス、手形または入金ワークシートでそのアイテムの選択を回避する場合に選択します。この制限は入金プレディクタにも適用されます。
並列処理オプション	売掛金管理 - 並列処理オプション ページにアクセスする場合にクリックします。このページでは、入金プレディクタ (ARPREDCT)、売掛金更新 (ARUPDATE)、エージング (AR_AGING) および取引明細 (AR_STMTS) 並列プロセスで生成されるデータ分割数を定義します。並列処理オプションには、AR_AGE、AR_PGG、AR_POST、AR_PREDICT および AR_STMT があります。処理ごとの最大分割数を入力します。
勘定科目残高概要表示オプション	売掛金管理 - 勘定科目残高概要ページにアクセスする場合にクリックします。このページでは、顧客売掛金の概要 - 残高ページに表示する残高を指定します。
取引明細番号、督促状番号 および 遅延金チャージ番号	取引明細、督促状および遅延金チャージ請求書で使用された最終番号を入力します。連絡先を印刷するたびに番号が 1 ずつ増やされます。
1099 - C フォーム	組織が 1099-C、債務のキャンセル フォームを生成する必要がある場合に選択します。このフォームは、特定の個人について償却された債務金額を要約するために、米国国税庁から要求されています。
DMS インターフェイス (DMS インターフェイス)	会社が米国連邦組織であり、米国財務省の DMS インターフェイスを使用する場合に選択します。
売掛金管理財務レポート	会社が米国連邦組織であり、売掛金管理財務レポート (TROR) を必要とする場合に選択します。 TROR は管理レポートとして機能し、連邦政府の意思決定者に対して、公的機関および連邦機関が所有する非税金売掛金の総帳簿価額および連邦政府の債務ポートフォリオのステータスについて通知します。
メモ ステータス使用	会社が米国連邦組織であり、遅延アイテムについてステータスの変更を追跡するメモ ステータス コードをユーザーが入力できるようにする場合に選択します。その他の組織は、ユーザー定義のメモ ステータス コードを作成して変更を追跡する場合のみ、このオプションを選択します。
売掛金管理 IPAC インターフェイス (売掛金管理 IPAC インターフェイス)	会社が米国連邦組織であり、米国財務省の IPAC インターフェイスを使用する場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

回収与信エクスポージャ

回収管理与信エクスポージャ グループ ボックスのフィールドで、条件モニター プロセス (AR_CNDMON) における顧客の未決済残高の計算方法を決定します。このプロセスでは、顧客の与信限度額に近づきつつあるか超過しているかを判別するために、調整済残高が使用されます。

未消込入金含む プロセスにおいて、顧客の未決済残高から指定された全ての入金を差し引く場合に選択します。

処理中の入金を含む プロセスにおいて、未決済残高から顧客アイテムに関連付けられたエクスプレス入金グループ、ワークシートまたは消込済入金を差し引く場合に選択します。

未解決アイテム プロセスにおいて、未決済残高から未解決アイテムの残高を差し引く場合に選択します。

次の表では、チェック ボックスを選択しないか、1 つのオプションを選択しており、顧客の与信限度額が 65,000,000.00 である場合に、使用可能な与信および未回収売掛金 (AR) の残高がどれくらいになるかを示しています。

金額のタイプ	*選択なし*	*[未消込入金] を選択*	*[処理中入金] を選択*	*[未解決アイテム] を選択*
与信限度額	65,000,000.00	65,000,000.00	65,000,000.00	65,000,000.00
オープン AR 残高	65,475,343.21	65,475,343.21	65,475,343.21	65,475,343.21
未消込入金	該当なし	35,876,525.91	該当なし	該当なし
処理中入金	該当なし	該当なし	125,000.00	該当なし
未解決アイテム	該当なし	該当なし	該当なし	91,276.10
未回収 AR 残高	65,475,343.21	29,598,817.30	65,350,343.21	65,384,067.11
割引可能額	-475,343.21	35,401,182.70	-350,343.21	-387,067.11

回収オプション

[回収オプション] グループ ボックスのフィールドでは、回収および例外モニターの追加オプションを定義します。

自動エスカレーション使用 (自動エスカレーション使用) 既に回収アクション プランを持つ顧客がより優先度の高い回収ルールに違反しているとき、回収 (COLL) 条件について新規アクション プランを設定する場合に選択します。

ビジネス ユニットのモニターを許可 回収 (COLL)、入力タイプ/理由コード (ETRC)、主要統計値超過 (KSTE) および高額支払期日 (LACD) の各条件をビジネス ユニット別にモニターする場合に選択します。条件モニターで

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

は、ビジネス ユニットと回収顧客の各組合せが個別の顧客として扱われます。

ビジネス ユニットのモニターは、これらの条件におけるアクション実行者の割当にも影響します。条件モニターでは、ビジネス ユニットと回収顧客の組合せにおける全てのオープン アイテムがグループ化されます。[アクション実行者] フィールドでこの全ての取引の値が同じである場合、その値が割当済のアクション実行者に使用されます。そうでない場合、回収顧客に基づいて実行者が割り当てられます。

次に例を示します。

顧客 FRA01 がビジネス ユニット FRA02 および FRA05 で取引を行うとします。この顧客に回収担当者 DKB を割り当てました。FRA02 ビジネス ユニットにおけるこの顧客の全ての取引は、回収担当者 JKB に割り当てられます。FRA05 ビジネス ユニットにおける全ての取引は、回収担当者 MLM に割り当てられます。両方のビジネス ユニットにおいて顧客が回収条件に違反した場合、条件モニターは、回収担当者 JKB に割り当てる FRA02/FRA01 用のアクション プランと、回収担当者 MLM に割り当てる FRA05/FRA01 用のアクション プランの計 2 つのアクション プランを作成します。ただし、FRA02 ビジネス ユニットの一部の取引が回収担当者 JKB に割り当てられ、一部が回収担当者 CCC に割り当てられる場合、FRA02/FRA01 用のアクション プランは顧客の回収担当者 DKB に割り当てられます。

デフォルト割当担当者

割当済のアクション実行者がユーザー ID を持たない場合に、アクション リスト アイテムのアクション実行者とする組織内の個人のユーザー ID を選択します。条件モニター プロセスに条件を定義する前に、デフォルトの実行者を指定する必要があります。

関連リンク

Setting Up Parallel ProcessingPeopleSoft Receivables
Understanding Exception and Collection Processing OptionsPeopleSoft Receivables

売掛金管理 - 勘定科目残高概要ページ

売掛金管理 - 勘定科目残高概要ページ (ACCT_BAL_SBP) を使用して、顧客売掛金の概要 - 残高ページに表示する残高を指定します。

ナビゲーション

売掛金管理ページで [勘定科目残高概要表示オプション] リンクをクリックします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

顧客売掛金の概要 - 残高ページに顧客の残高リストが表示されます。デフォルトにより、全ての残高がリストに表示されます。組織について表示しない残高のチェック ボックスを選択解除します。

インストール オプション - 受注管理ページ

受注管理ページ (INSTALLATION_OM) を使用して、受注、見積および売買契約のチャンク パラメータを設定し、SES 検索、割戻および機能関数セキュリティを有効にします。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [受注管理]

受注/見積デフォルト

最大表示行数 チャンクの使用前に受注または見積で表示される最大行数を入力します。

行別最大スケジュール数 チャンクの使用前に表示される受注行別最大スケジュール数を入力します。

最大オンライン価格設定行数 オンラインで価格設定する最大スケジュール数を入力します。受注のスケジュール数が最大数を超えた場合、受注価格再設定プロセス (OM_REPRICE) が表示されます。

最大供給ソース行数 チャンクの使用前にソーシングできる最大行数を入力します。

PTSF 検索 (PeopleSoft 検索フレームワーク) PeopleSoft 検索フレームワークにおいて、受注入力時に顧客および製品の検索機能を拡張可能にする場合に選択します。

*『PeopleTools: PeopleTools Global Technology』の「Translating Application Definitions」*を参照してください

割戻を処理 割戻を処理する場合に選択します。

チャンク時に保存の確認 チャンクの保存を確認する場合に選択します。選択解除した場合、チャンク間を移動すると受注が自動的に保存されます。

機能セキュリティを処理 機能セキュリティを使用可能にする場合に選択します。

売買契約デフォルト

最大表示行数 チャンクの使用前に売買契約で表示される最大行数を入力します。

ワークベンチ デフォルトを保留

ワークベンチ行の最大保留数 受注保留ワークベンチで表示される最大行数を入力します。受注保留ワークベンチに表示される行数は、最大値として選択お

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

よびカウントされた行のタイプ (ヘッダー、行またはスケジュール) の検索条件によって決まります。

関連リンク

Understanding Large Order ProcessingPeopleSoft Order Management
Understanding Alternate Sources of SupplyPeopleSoft Order Management
Understanding PeopleSoft ClaimbacksPeopleSoft Order Management
Managing Holds Using the Order Hold WorkbenchPeopleSoft Order Management

要員管理インストール オプションの定義

このセクションでは、要員管理アプリケーション固有のインストール オプションの設定方法を説明します。要員管理の初回インストール時にこのページにデフォルトで表示されるフィールド値は、アプリケーションに付属するデモンストレーション データをサポートする必要があります。組織のビジネス構造、慣行、ルールおよび手順に基づいて、各オプションを評価し、値を入力する必要があります。

インストール オプション - 要員管理ページは、次のリージョンに分類されます。

- 作業指示オプション
- 組織構造
- レポート オプション - 請求レート
- レポート オプション - タスク カテゴリ
- カレンダー オプション
- PeopleSoft サービス プロキュアメント インテグレーション オプション
- PeopleSoft サービス プロキュアメント インテグレーション オプション - 個人用職務デフォルト
- プロファイル セキュア データ オプション
- プロファイル表示オプション
- 最適化
- 要員配置計画設定 - デフォルト単位表示
- 要員配置計画設定 - 要員配置計画デフォルト地域
- 要員配置計画設定 - 単位変換

Understanding PeopleSoft Resource Management and PeopleSoft HCMPeopleSoft Resource Management を参照してください。

Resource MatchingPeopleSoft Resource Management を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft Resource Management ImplementationPeopleSoft Resource Management を参照してください。

インストール オプション - 要員管理ページ

インストール オプション - 要員管理ページ (INSTALLATION_RS) を使用して、要員管理アプリケーションに固有のインストール オプションを定義します。

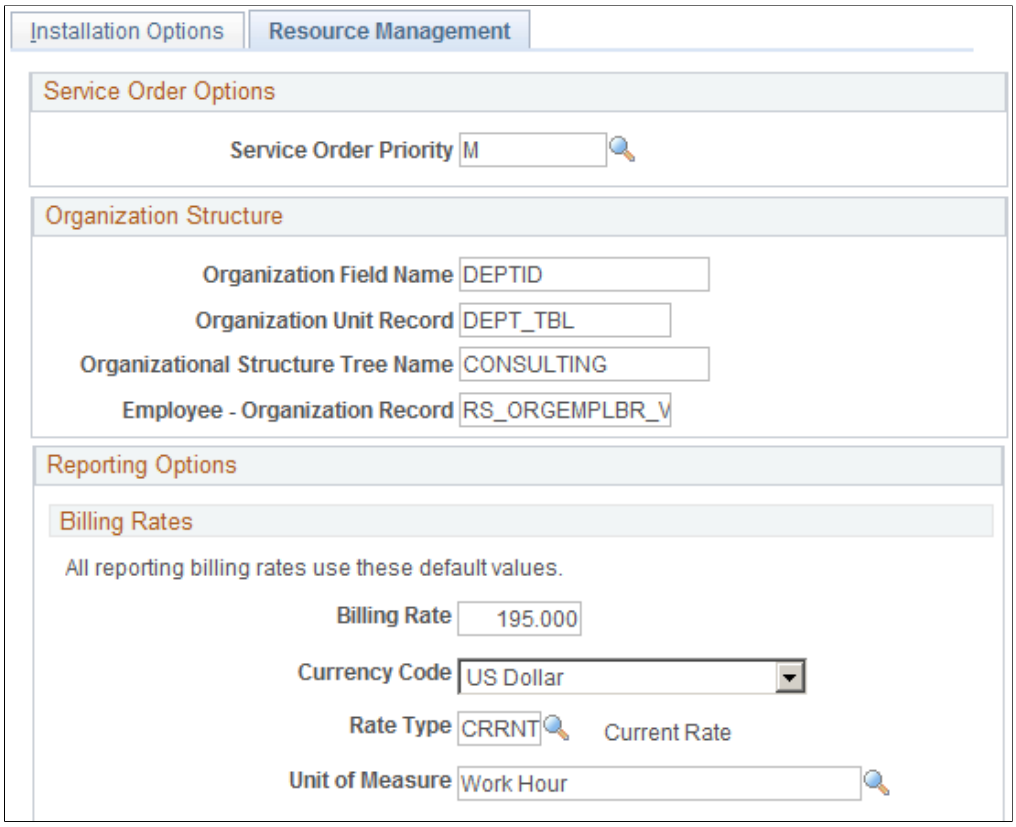
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [要員管理]

画像: インストール オプション - 要員管理ページ (1/7)

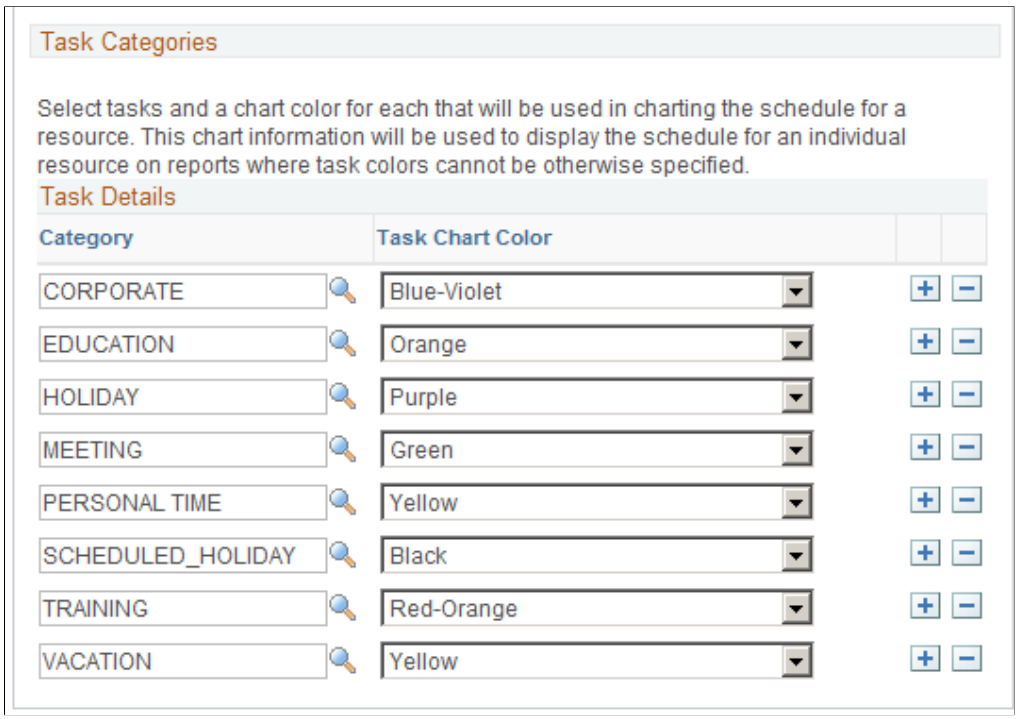
次の例では、インストール オプション - 要員管理ページ (1/7) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

画像: インストール オプション - 要員管理ページ (2/7)

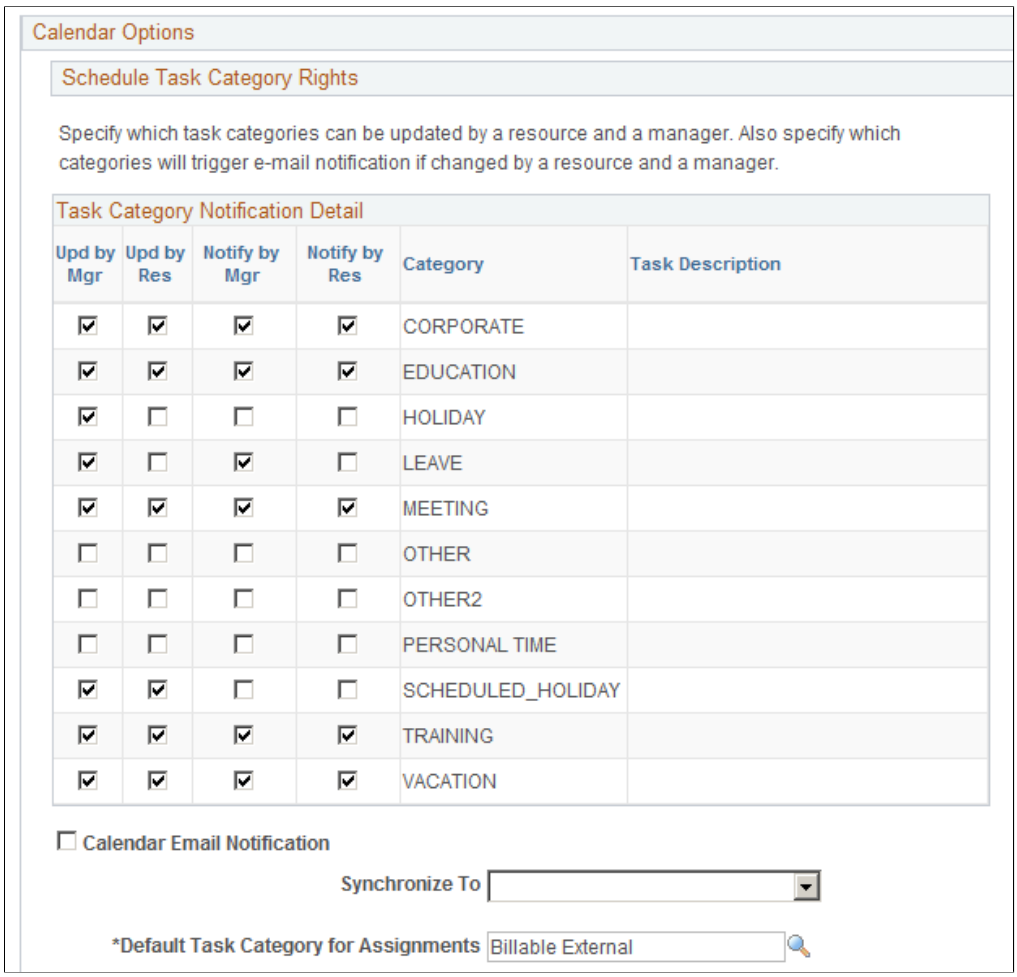
次の例では、インストール オプション - 要員管理ページ (2/7) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

画像: インストール オプション - 要員管理ページ (3/7)

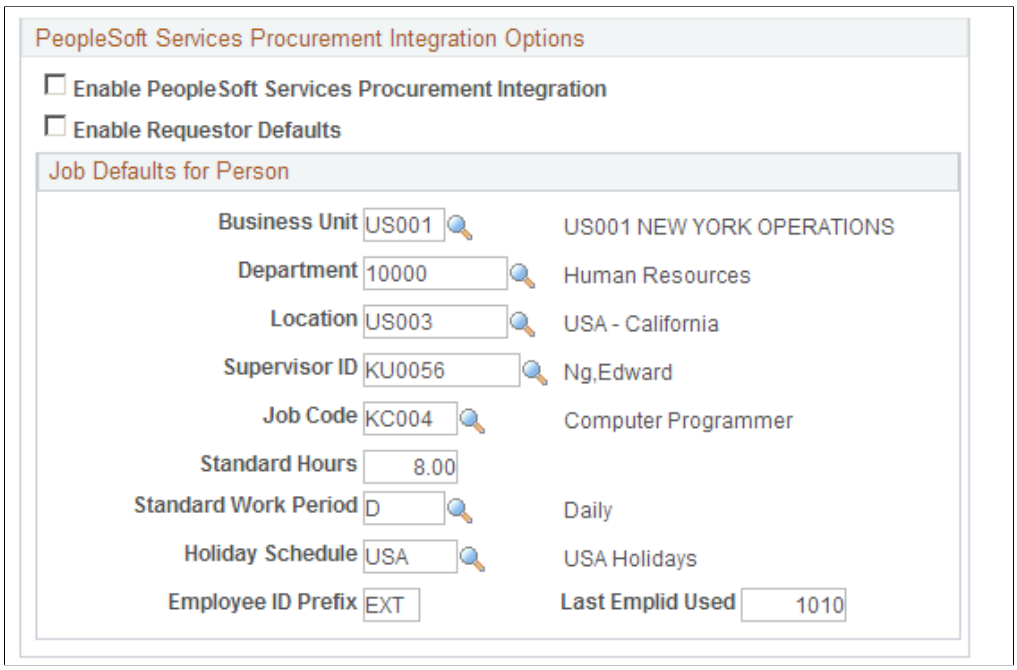
次の例では、インストール オプション - 要員管理ページ (3/7) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

画像: インストール オプション - 要員管理ページ (4/7)

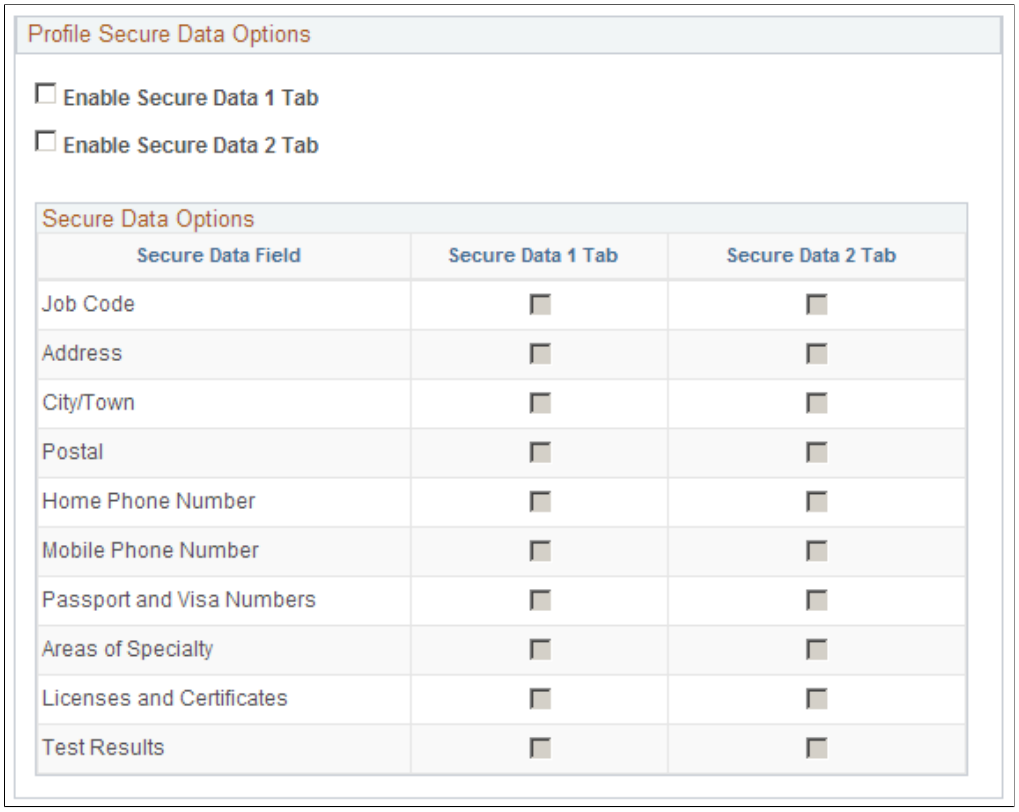
次の例では、インストール オプション - 要員管理ページ (4/7) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

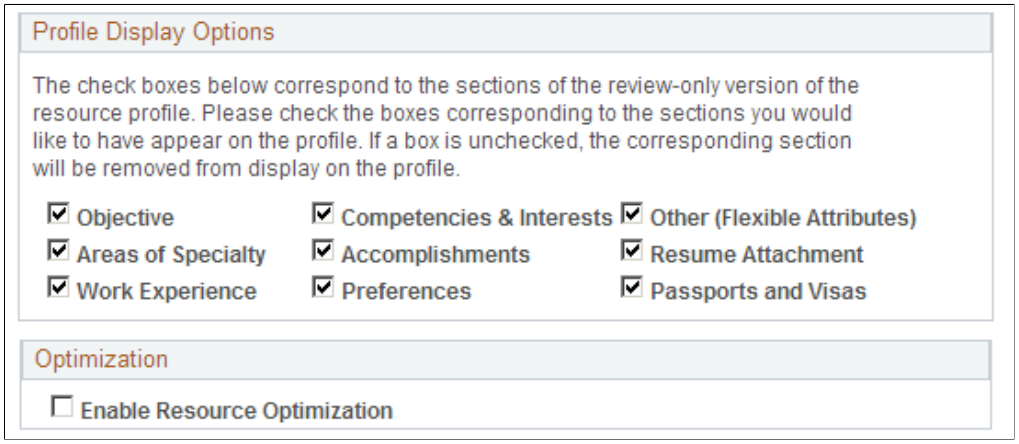
画像: インストール オプション - 要員管理ページ (5/7)

次の例では、インストール オプション - 要員管理ページ (5/7) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



画像: インストール オプション - 要員管理ページ (6/7)

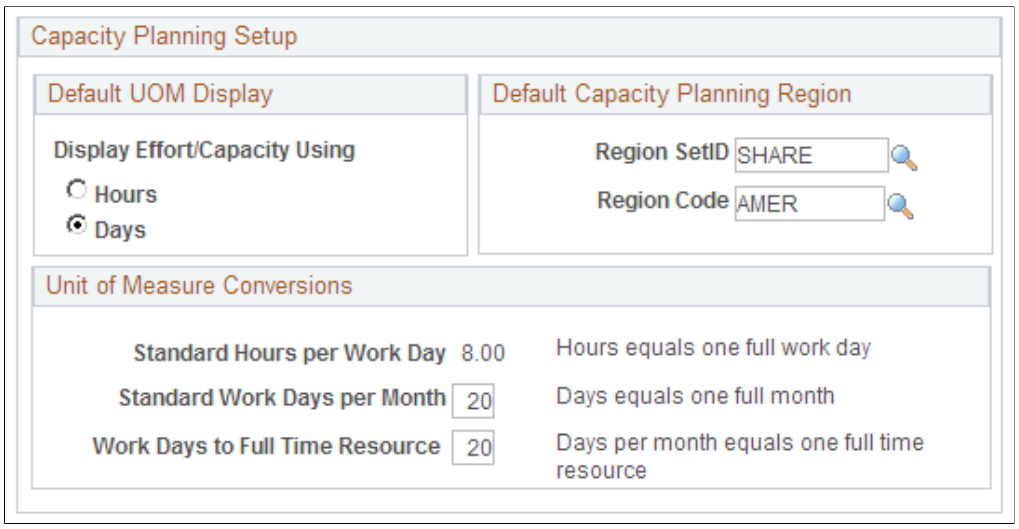
次の例では、インストール オプション - 要員管理ページ (6/7) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

画像: インストール オプション - 要員管理ページ (7/7)

次の例では、インストール オプション - 要員管理ページ (7/7) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



作業指示オプション

作業指示優先度

新規作業指示について表示するデフォルトの優先度 (つまり重要度) を選択します。有効な値は、要員管理優先度テーブル (RS_PRIORITY_TBL) に含まれます。優先度は参照およびレポートに使用されます。作業指示の処理は制御されません。

Defining Service Order PrioritiesPeopleSoft Resource Management を参照してください。

組織構造

組織フィールド名

要員管理で管理される全ての要員をカテゴリ分類する組織ユニットを表すフィールド名を入力します。組織ユニットのフィールドは、次のケースで使用されます。

- ユーザーが作業指示担当組織を選択した場合。
- 組織のさまざまな部署において要員の検索を行うために使用される要員グループを定義する場合。
- 要員配置ワークベンチ - 稼働率管理ページに表示する要員グループを定義する場合。
- 予定稼働時間、未割当要員、作業割当終了、割当リスト、要員スケジュール チャートおよび平均要員配置時間のレポートで分析する組織ユニットを指定する場合。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 要員マッチング エンジンおよび要員最適化機能により作業指示について要員を評価するために、要員組織ユニットと作業指示担当組織をマッチングする場合。

多くの組織では、部門を使用して要員を業務領域別に論理グループに編成しており、その場合、組織フィールド名の値は *DEPTID* となります。

組織ユニット レコード

組織ユニット フィールドを定義するアプリケーション レコード名を入力します。

部門を組織ユニット フィールドとして使用する場合、組織ユニット レコードは [部門] (DEPTID) フィールドを定義する *DEPT_TBL* となります。

組織構造ツリー名

階層ビジネス構造に配列された組織ユニットが含まれるツリーの名前を入力します。ツリーは、アプリケーションにおいて組織構造を表します。ユーザーが次の操作を実行したとき、要員管理で組織ユニット ツリーを使用できます。

- 個々の作業指示または作業指示テンプレートについて、または作業指示のデフォルト担当組織として、担当組織を選択します。
- 要員グループを定義します。
- レポートで分析する組織ユニットを指定します。

組織ユニット ツリーは、[組織ユニット レコード] フィールドで指定したレコードについて構築されたツリー構造を基礎としている必要があります。

注: 要員管理で追跡される要員は全て、組織ユニット ツリーに含まれる組織ユニットに属している必要があります。

従業員 - 組織レコード

各要員が属する組織ユニットを追跡するレコードの名前を入力します。

組織ユニット フィールドが [部門] フィールド (DEPTID) である場合、従業員 - 組織レコード *RS_ORGEMPLBR_VW* を提供された状態で使用できます。従業員 - 組織レコードは、全ての従業員の部門を識別する職務レコード (JOB) のビューです。職務レコードは、組織内の全ての従業員について、部門、所在地、職務コードおよびその他の各種属性を定義する PeopleSoft HRMS レコードです。

Understanding the Organizational Unit Tree StructurePeopleSoft Resource Management を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

レポート オプション - 請求レート

請求レート

このフィールドは、現時点では要員管理で使用されません。デフォルトの請求レートを使用する設定を作成する場合、デフォルト値を使用するか、フィールドを空白にするか、将来使用できる値を入力できます。

通貨コード

要員最適化機能において全ての要員請求レートを比較用に 1 つの通貨に換算するために使用される通貨コードを入力します。

レート タイプ

市場レート データ タイプ テーブル (RT_TYPE_TBL) から、要員請求レートおよび通貨コードを換算するためのデフォルト換算レートを決定するレート タイプを選択します。

単位

このフィールドは、現時点では要員管理で使用されません。デフォルトの請求レート単位を使用する設定を作成する場合、将来使用できる値を入力できます。

レポート オプション - タスク カテゴリ

カテゴリ および タスク チャートの色

次から要員スケジュール チャートを表示する場合に、このチャートに表示するタスク カテゴリおよび対応するチャートの色を選択します。

- 要員割当ページ。
- 担当割当ワークベンチ - 割当ページ。
- 要員配置ワークベンチ - 稼働率管理ページ (稼働率オプション ページでタスク カテゴリおよび色のオプションを指定しない場合)。

  Specifying Staffing Workbench and Resource Utilization OptionsPeopleSoft Resource Management を参照してください。
- Program Management の要員ページ。
- 作業割当終了詳細レポート。

カレンダー オプション

更新 (管理者) (更新 (管理者))

要員スケジュールへのアクセス権を持つ管理者が変更できる非割当 (予定) タスク カテゴリを選択します。この選択は、月次スケジュール ページへのアクセス権を持つ管理者に適用されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

更新 (要員) (更新 (要員))

要員が自身の要員スケジュール内で変更できる非割当タスク カテゴリを選択します。

通知 (管理者) (通知 (管理者))

要員スケジュールの変更権限を持つ管理者が要員スケジュールで指定カテゴリ内のタスクを変更した場合に要員および要員管理者への通知メッセージをトリガする、非割当タスク カテゴリを選択します。

注: タスク カテゴリの選択後、[カレンダー電子メール通知] チェック ボックスを選択して、ワークフローをアクティブ化する必要があります。

通知 (要員) (通知 (要員))

要員が要員スケジュールで指定カテゴリ内のタスクを変更した場合に要員管理者への通知メッセージをトリガする、非割当タスク カテゴリを選択します。

注: タスク カテゴリの選択後、[カレンダー電子メール通知] チェック ボックスを選択して、ワークフローをアクティブ化する必要があります。

カテゴリ および タスク説明

全ての非割当タスク カテゴリの名前および説明が表示されます。

カレンダー電子メール通知

要員管理の電子メール通知ワークフロー機能をアクティブ化して、選択したタスク カテゴリへの変更について要員または要員管理者に通知する場合、このチェック ボックスを選択します。

注: 選択したタスク カテゴリのワークフロー通知メッセージをアクティブ化するには、このオプションを選択する必要があります。

同期

[Outlook] デスクトップ カレンダー アプリケーションを選択して要員管理の要員スケジュールと同期するか、フィールドを空白のままにします。

同期機能を実行するには、最初に Microsoft Exchange または Microsoft Outlook を別に実装し、そのいずれかとのインテグレーションを行うよう PeopleSoft アプリケーションを設定しておく必要があります。

割当スケジュールから休日を除外

割当の作成時に要員の休日スケジュール上の要員の休日をスキップする場合、このオプションを選択します。割当は指定の日付範囲に対して作成されます。ただし、このオプションを選択しており、割当の日付範囲内に要員の休日スケジュールからの休日がある場合、要員のカレンダーにおけるそれらの日付には割当がスケジュールされません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

要員の休日を含め、割当日付範囲内の全ての営業日に割当をスケジュールする場合、このオプションを選択解除します。

このオプションは、Program Management がインストールされていない場合のみ表示されます。Program Management がインストールされている場合、要員管理の割当の作成時には常に休日がスキップされます。

注: [割当スケジュールから休日を除外] インストール オプションを変更した場合、要員カレンダーおよび対応可能性が影響されます。このオプションを変更した後で、休日のロード アプリケーション エンジン プロセス (RS_HOLIDAY) および キャッシュ管理 - 要員スケジュール キャッシュのリフレッシュの 2 つのプロセスを、この順序で実行する必要があります。

割当のデフォルト タスク カテゴリ

次についてのデフォルト カテゴリ値として表示されるタスク カテゴリを選択します。

- 要員管理のエクスプレス検索ページから作成する要員割当。
- 要員管理で発生する作業指示要員リクエスト。
- Program Management の要員詳細ページ。

ユーザーはこれらのページでデフォルト値を変更できます。

有効な値は、要員管理のタスク カテゴリ ページで [割当に使用] オプションが選択されているタスク カテゴリに基づきます。

Defining Holidays on Resource SchedulesPeopleSoft Resource Management を参照してください。

PeopleSoft サービス プロキュアメント インテグレーション オプション

このグループ ボックスは、サービス プロキュアメントをインストールし、要員設定 - 共通インストール オプション ページで [非従業員を要員として設定する] オプションを選択した場合のみ表示されます。

PeopleSoft sPro のインテグレーションを使用

要員管理とサービス プロキュアメントの統合を有効にすることで、ユーザーが要員管理からサービス プロキュアメントのサービス調達依頼を開始して要員リクエストに対して配置し、調達依頼に移動して更新できるようにする場合に選択します。

このオプションを選択しない場合、要員配置ワークベンチ - 作業指示への配置ページに [外部要員検索] アイコンが表示されません。

依頼者デフォルト可

要員管理で開始するサービス プロキュアメントのサービス調達依頼の依頼者名としてプロジェクト マネージャを使用する場合に、このオプションを選択します。このオプションを選択しない場

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

合、ユーザーはサービス調達依頼の開始時に依頼者名の入力を求められます。

重要 このオプションを選択する場合、ユーザーは作業指示にプロジェクトを関連付け、プロジェクト マネージャをプロジェクトに割り当てる必要があり、プロジェクト マネージャはサービス プロキュアメントで有効な依頼者として設定される必要があります。要員管理でサービス調達依頼が開始されると、依頼者名として使用するためにプロジェクト マネージャ名が要員管理からサービス プロキュアメントに渡され、ユーザーはサービス調達依頼において依頼者名を変更できません。

Understanding Integration with PeopleSoft Services ProcurementPeopleSoft Resource Management を参照してください。

PeopleSoft サービス プロキュアメント インテグレーション オプション - 個人用職務デフォルト

FSCM データベースにおける非従業員データの管理を許可している場合、要員として設定されているサービス プロキュアメントの個人 ID について、新規非従業員データ レコードを自動または手動で作成できます。個人 ID を要員として設定すると、これらのフィールドに入力した値がデフォルトで個人 ID を要員に変換ページに表示されます。ユーザーは、個人 ID を要員に変換ページまたは従業員個人データ コンポーネント (RS_CM_PERSONAL) で、必要に応じて値を変更できます。

ビジネス ユニット サービス プロキュアメントの個人 ID について作成された新規非従業員データ レコード (EMPLID) のデフォルトの HR ビジネス ユニットとするビジネス ユニットを選択します。これは個人のデータ レコードでは必須フィールドです。

部門 デフォルト部門を選択します。これは個人のデータ レコードでは必須フィールドです。

所在地、監督者 ID および 職務コード 各フィールドのデフォルト値を選択します。これらは個人のデータ レコードでは必須フィールドではありません。

標準勤務時間 出勤日の標準勤務時間数のデフォルト値を入力します。標準勤務時間は、要員マッチング エンジンにおいて、適格な要員とオープン要員リクエストの組合せごとに対応可能度適合度スコアを計算する際に使用されます。

標準作業期間 デフォルトの標準作業期間を選択します。標準作業期間は、要員マッチング エンジンにおいて、適格な要員とオープン要員リクエストの組合せごとに対応可能度適合度スコアを計算する際に使用されます。

休日スケジュール 新規非従業員データ レコード (EMPLID) について作成された要員スケジュールをロードするデフォルトの休日スケジュールを選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

従業員 ID プレフィックス サービス プロキュアメントの個人 ID について作成された新規要員の従業員 ID のプレフィックスとする最大 3 文字を入力します。ユーザーが非従業員の要員として個人 ID を設定した場合、従業員 ID のデフォルト値は、このプレフィックスおよび [最終使用従業員 ID] フィールド値を連結したものとなります。

最終使用従業員 ID [従業員 ID プレフィックス] フィールド値と共に、サービス プロキュアメントの個人 ID について作成された最終システム生成従業員 ID となる、最大 8 桁の番号を入力します。

たとえば、従業員 ID プレフィックスが *EXT* であり、最終使用従業員 ID が *500* である場合、従業員 ID *EXT00000501* が次の個人 ID に割り当てられ、要員管理で要員に変換されます。

Creating Employee DataPeopleSoft Resource Management を参照してください。

Establishing PeopleSoft Services Procurement Service Providers as ResourcesPeopleSoft Resource Management を参照してください。

プロファイル セキュア データ オプション

[プロファイル セキュア データ オプション] グループ ボックスでは、要員プロファイルのデータ タブをセキュリティ保護または保護解除できます。このページを表示すると、[セキュア データ 1 タブの有効化] および [セキュア データ 2 タブの有効化] チェック ボックスを対応する [データ フィールド] チェック ボックスと共に表示するために、グループ ボックスが拡張されます。

[セキュア データ 1 タブの有効化] チェック ボックスを選択するまでは、対応する [データ フィールド] チェック ボックスは選択できません。いずれかの列でデータ フィールドを選択すると、要員プロファイル コンポーネントのセキュリティ保護されたタブにフィールドを表示できます。

注: いずれかのタブまたは両方のタブに表示する 1 つ以上のフィールドを選択できます。[セキュア データ 1 タブ] または [セキュア データ 2 タブ] (あるいはその両方) に表示するフィールドを選択した場合、このフィールドはセキュア フィールドと見なされます。

職務コード 要員の [職務コード] フィールドをセキュリティ保護する場合、このオプションを選択します

住所 要員の住所行 1 から 4 をセキュリティ保護する場合、このオプションを選択します。

市/町 要員の市または町をセキュリティ保護する場合、このオプションを選択します

郵便番号 要員の郵便番号をセキュリティ保護する場合、このオプションを選択します

自宅電話番号 [電話タイプ] が [自宅] である電話番号をセキュリティ保護する場合、このオプションを選択します

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

パスポート番号およびビザ番号 パスポート番号およびビザ番号をセキュリティ保護する場合、このオプションを選択します

専門分野 [専門分野] セクション全体をセキュリティ保護する場合、このオプションを選択します

免許と資格 [免許と資格] セクション全体をセキュリティ保護する場合、このオプションを選択します

テスト結果 [テスト結果] セクション全体をセキュリティ保護する場合、このオプションを選択します

注: パスポートとビザおよびそれらのビザの有効期限は、セキュア データへのアクセス権がないユーザーにも表示されます。このデータへのセキュリティ アクセス権がないユーザーには、パスポート番号およびビザ番号のみが表示されなくなります。

プロファイル表示オプション

<要員プロファイル セクション> 読取専用の要員プロファイル サマリ ページに表示する要員プロファイル セクションに対応するチェック ボックスを選択します。選択しないセクションはサマリ ページでは非表示となりますが、プロファイルを更新するセキュリティ権限を持つユーザーは、プロファイルで参照できます。

Maintaining Resource ProfilesPeopleSoft Resource Management を参照してください。

最適化

[要員最適化を有効にする] オプションを選択すると、要員最適化に必要なメッセージのパブリッシュが可能になります。このチェック ボックスを選択解除した場合、メッセージがアクティブであっても、最適化メッセージはパブリッシュされません。

注: メッセージはパブリッシュの前にアクティブ化する必要があります。

要員配置計画設定 - デフォルト単位表示

[時間] または [日] 作業を時間と日のいずれで表すかを決定する単位を選択します。[時間] を選択した場合、要員配置計画データの全てにおいて、主要な表示フィールドおよび更新フィールドが時間で表示されます。

要員配置計画設定 - 要員配置計画デフォルト地域

地域セットID 要員配置計画 - 統合シナリオ分析で使用されるデフォルト地域セットID を入力します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

地域コード

要員配置計画 - 統合シナリオ分析で使用されるデフォルト地域コードを入力します。この地域は次の目的に使用されます。

- 統合シナリオ分析における供給の追加または削除。

  注: 地域を指定せずに、上位レベルで要員配置を追加または削除できます。その場合、デフォルト地域コードが使用されます。

- 需要予測における常勤要員数の計算。
- 統合シナリオ分析における需要に対する常勤要員数の計算。

要員配置計画設定 - 単位変換

出勤日の標準勤務時間数

常勤 1 日あたりの勤務時間数が表示されます。出勤日の標準勤務時間数は、要員設定 - 共通インストール オプション ページで指定されます。

「要員の設定」を参照してください。

標準勤務日数/月

要員配置計画用に、常勤 1 か月あたりの勤務日数を入力します。

常勤要員勤務日数

要員配置計画用に、常勤要員 1 人あたりの 1 か月の勤務日数を入力します。通常、この値は [標準勤務日数/月] と同じです。

サービス プロキュアメント インストール オプション ページ

サービス プロキュアメント インストール オプション ページ (INSTALLATION_SP) を使用して、サービス プロキュアメントのインストール オプションを定義します。

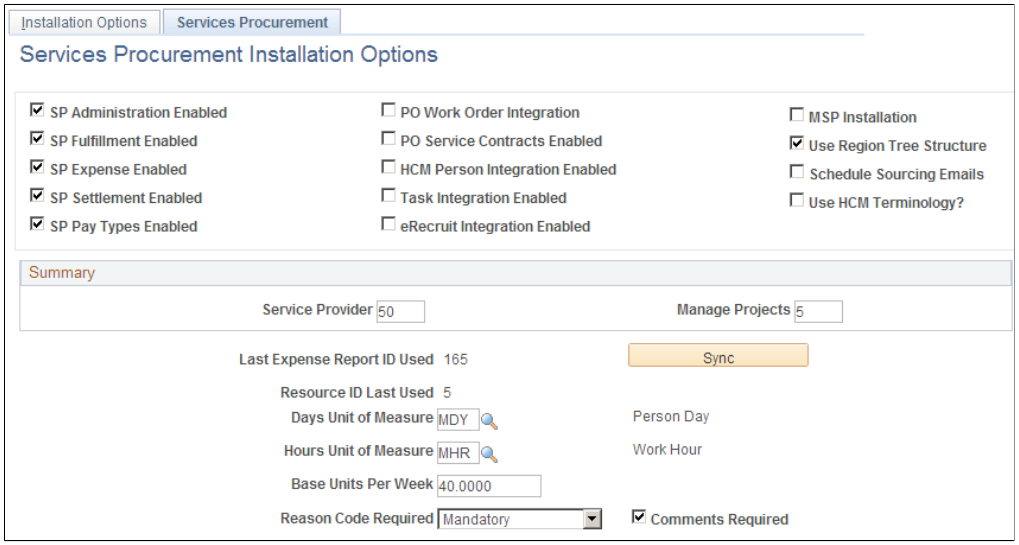
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [サービス プロキュアメント]

画像: サービス プロキュアメント インストール オプション ページ

次の例では、サービス プロキュアメント インストール オプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



マネージド サービス プロバイダのインストール

サービス プロキュアメントでマネージド サービス プロバイダ (MSP) 機能を有効にする場合にクリックします。組織が MSP でない場合、このチェック ボックスは選択しないでください。

選択した場合、[PO 作業指示と統合] および PO サービス契約書 チェック ボックスが無効になります。また、[HCM 統合] チェック ボックスも無効となります。

逆に、[PO 作業指示と統合] または [HCM 統合] チェック ボックスを選択した場合、[マネージド サービス プロバイダのインストール] チェック ボックスが無効になります。

実行モジュールを使用 (サービス プロキュアメントの実行モジュールを使用)

サプライヤへの調達依頼のソーシング、候補者提出の受領および入札交渉の実行が可能なサービス プロキュアメントの実行モジュールを有効にする場合に選択します。

管理モジュールを使用 (サービス プロキュアメントの管理モジュールを使用)

サービス プロキュアメントの管理モジュールを有効にして、プロジェクトおよびアクティビティなどの調達管理基本データを設定できるようにする場合に選択します。

経費モジュールを使用 (サービス プロキュアメントの経費モジュールを使用)

特定の作業指示の設定に基づく経費をサプライヤが送信できるようにする場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: このオプションは、SP 管理モジュールが有効な場合のみ使用できます。

決済モジュールを使用 (サービス プロキュアメントの決済モジュールを使用)

請求書の作成、変更、承認および印刷、さらに買掛金管理への統合を含む、請求書発行機能へのアクセスを許可する場合に選択します。

注: このオプションは、SP 管理モジュールが有効な場合のみ使用できます。

SP 支払タイプを使用 (サービス プロキュアメントの支払タイプを使用)

支払タイプの使用を有効にする場合に選択します。支払タイプを使用して、サプライヤ レート合計をレート コンポーネント (支払レート、固定価格、取引先マークアップおよびサードパーティ マークアップ) に分類できます。

注: このオプションを選択した場合、レート シート、調達依頼、入札および作業指示でレート内訳を使用できます。

発注と作業指示の統合 (作業指示と発注の統合)

作業指示から発注を作成する場合に選択します。このオプションは、購買管理がインストールされている場合のみ使用できます。

PO サービス契約書を使用

サービス プロキュアメントで購買管理のサービス契約書を使用し、指定したサービスの既存の契約書に対してサプライヤ入札金額を検証できるようにする場合に選択します。

注: このオプションは、購買管理がインストールされており、発注と作業指示の統合が有効な場合のみ使用できます。

地域ツリー ストラクチャを使用

グラフィカル ツリー ストラクチャを使用し、所在地およびサプライヤを地域に関連付ける場合に選択します。

ソーシング電子メールのスケジューリング

バッチ処理でソーシング電子メールをスケジュールする場合に選択します。

HCM 用語を使用

サービス プロキュアメント全体で HCM 用語を使用する場合に選択します。このオプションを選択した場合、全てのラベルにおいて、*サービス*および*サービス タイプ*という用語が*職務コード*および*職務系列*に変更されます。

採用管理ソリューションと統合

採用管理ソリューションとの統合を有効にする場合に選択します。このオプションを選択した場合、採用管理ソリューション製品で作成された調達依頼は全て、配置のためにサービス プロキュアメントに渡すことができます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

HCM 個人データと統合 サービス プロキュアメントの作業指示に関連付けられた臨時作業者のレコードのシステムとして HCM データベースを使用する場合に選択します。

サービス プロバイダ許容性のステータス理由コードの使用 許容できないサービス プロバイダを識別する理由コードを入力します。このコードは、新規割当に不適格と識別されたサービス プロバイダを追跡します。許容できないサービス プロバイダが追跡およびモニターされ、新規作業指示に対応するためにこれらのサービス プロバイダを選択できない旨の警告が発生します。

最終経費レポート ID 経費レポート ID を割り当てるための開始番号が表示されます。[同期] ボタンをクリックすると、表示された番号がシステムにおける現在の次の番号と同期します。

最終使用リソース ID 統合により渡されるタイムシート、進捗ログまたは経費レポートの金額に対する一意の ID。

注: このオプションは、プロジェクト コスト管理がインストールされている場合のみ使用できます。

検索で取得可能な最大件数 (検索で取得可能な最大件数) リスト ページ検索で取得される値の最大数を入力します。このフィールドは、プロジェクトまたはアクティビティの検索ページにのみ適用されます。

基本単位 標準単位を入力します。この標準単位に対する換算が定義されている単位のみが、単位プロンプトのフィールドに表示されます。たとえば、時間を指定した場合、ポンドなどの無関係な単位ではなく、日などの単位が単位プロンプトに含められます。

基本単位/週 通常の週間勤務時間に含まれる基本単位数を選択します。

警告 組織において PeopleSoft Customer Relationship Management およびサービス プロキュアメントを使用している場合、PERSON_ID フィールドが含まれるソース テーブルは、今回のリリースのサービス プロキュアメントでは統合されません。サービス プロキュアメントで PERSON_ID の使用を実装する方法によっては、一方のテーブルの値がもう一方のテーブルの値を上書きする可能性があります。

インストール オプション - Staffing のインストール オプション ページ

インストール オプション - Staffing のインストール オプション ページ (INSTALLATION_FO) を使用して、Staffing Front Office および Pay/Bill Management のインストール オプションを定義します。

ナビゲーション

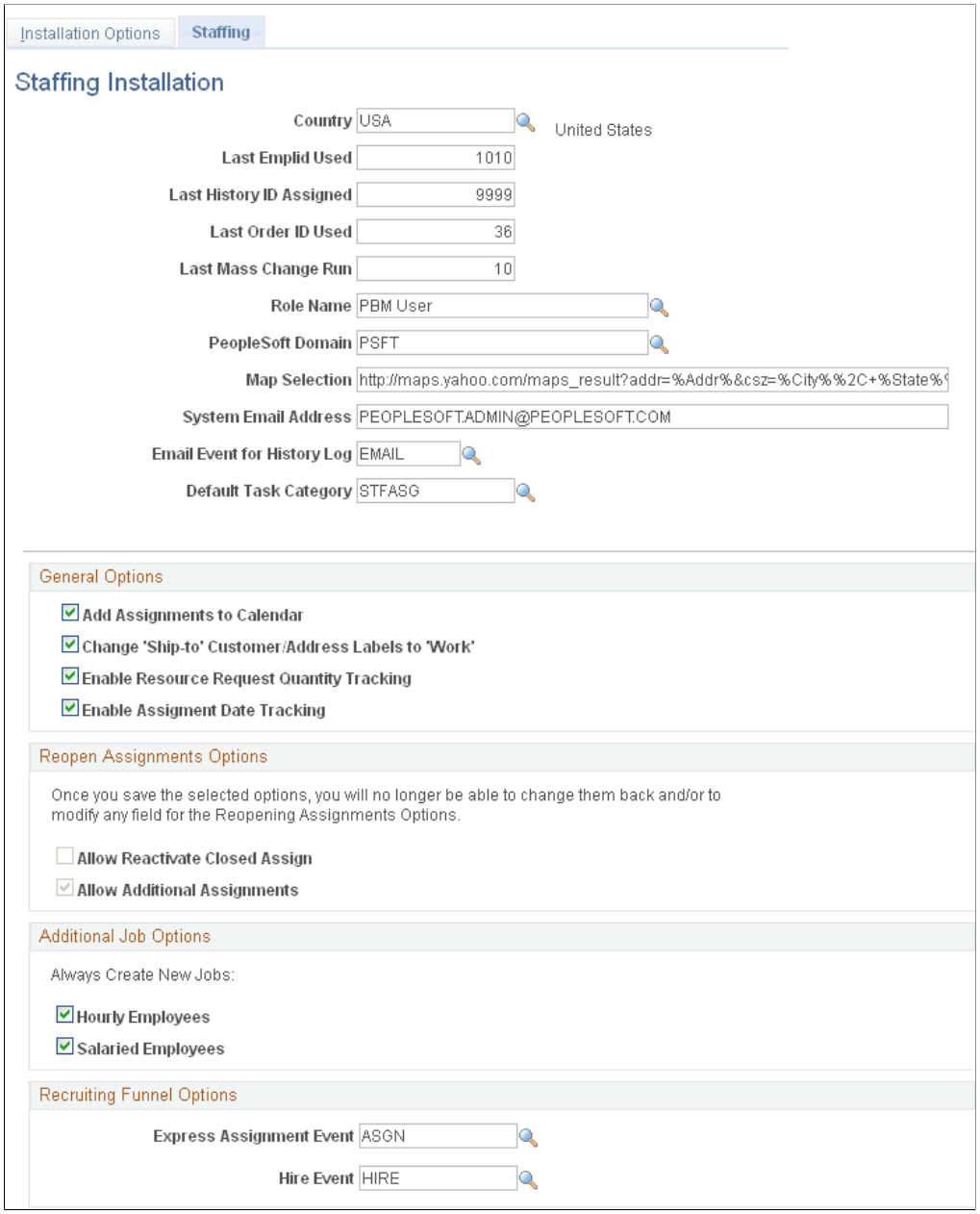
[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [Staffing]。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: このページは Staffing Front Office および Pay/Bill Management で共有されます。オプションによっては、両方のアプリケーションに共通するものと、Staffing Front Office または Pay/Bill Management のいずれかにのみ適用されるものがあります。

画像: Staffing のインストール オプション ページ (1/2)

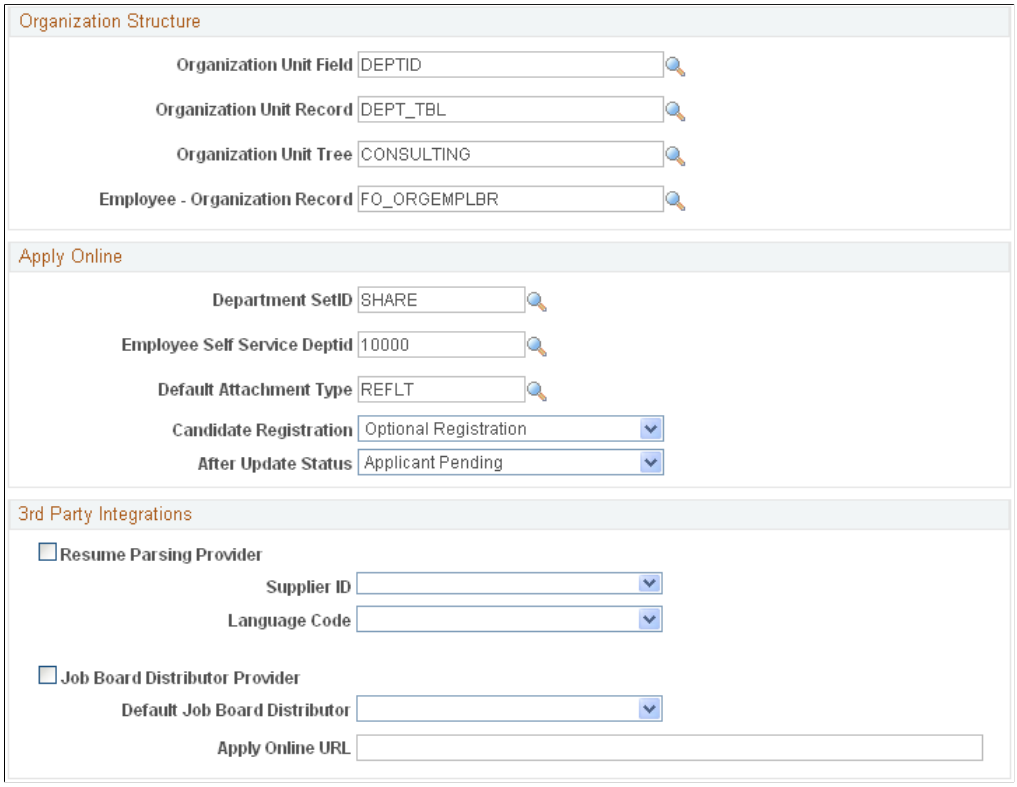
次の例では、Staffing のインストール オプション ページ (1/2) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

画像: Staffing のインストール オプション ページ (2/2)

次の例では、Staffing のインストール オプション ページ (2/2) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



システムでトランザクションを完了する前に、[インストール オプション] テーブルの情報を確認します。[インストール オプション] テーブルはグローバルであり、セットID によって駆動されません。データ行が 1 行のみ含まれます。

注: Staffing Front Office の使用時、さらに個人マッチングおよび個人検索の条件を絞り込むために要員グループを使用している場合、4 つの組織構造フィールドが必要です。示しているページは、部門ツリーを使用したこれらのフィールドの入力方法の例です。

国

Staffing Front Office および Pay/Bill Management におけるデフォルトの国を選択します。この 2 つのアプリケーションにおける複数のページの住所を書式設定するためのデフォルトとして、このフィールドのエントリが使用されます。

最終使用従業員 ID (最終使用従業員 ID)

Staffing Front Office への採用時に従業員に割り当てられた最終従業員 ID を入力します。このフィールドは、Staffing Front Office がインストールされており、Pay/Bill Management がインストールされていない場合のみ使用されます。Pay/Bill Management がインストールされている場合、HRMS の類似フィールドがこの目的で使用されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

最終割当履歴 ID

Staffing Front Office で履歴アイテムの作成に使用された最終履歴 ID 番号を入力します。

最終使用オーダー ID

Staffing Front Office、Pay/Bill Management および要員管理で受注の作成に使用された最終受注 ID を入力します。この 3 つのアプリケーションは同じ受注テーブルを共有しており、同じ自動採番ロジックに従っています。

最終マス チェンジ実行

割当レート マス チェンジのリクエスト プロセスに使用された最終番号を入力します。

ロール名

日程/履歴の確認プロセスへの管理者アクセス権を持たせるユーザーのユーザー ロールを選択します。

PeopleSoft ドメイン

サードパーティとの統合を使用している場合、ドメイン名を入力します。このフィールドにより、サードパーティ サプライヤとのマッピング プロセスに対して PSFT ドメインが定義されます。

マップ選択

住所のマッピングに使用する URL を入力します。例: http://maps.mapapplication.com/maps_result?addr=%Addr%&csz=%City

%%2C+%State%%2C+%Postal%&country=%Country%&new=1&name=&qty=

使用しているマッピング ソフトウェアに関係なく、URL に次の値を使用する必要があります: %Addr%、%City%、%State%、%Postal% および %Country%。

顧客データ コンポーネント内でマップを起動する際、これらの変数が使用されます。

システム電子メール アドレス

システム電子メールの送信時に使用する汎用電子メール アドレスを入力します。

履歴ログの電子メール イベント

ユーザーが送信済電子メールの履歴アイテムを記録する際に使用されるイベントを選択します。

デフォルト タスク カテゴリ

要員カレンダーでの割当の作成時に使用されるタスク カテゴリを選択します。

一般オプション

割当をカレンダーに追加

割当の作成時に要員カレンダーにロードする場合、このチェックボックスを選択します。このオプションは、Staffing Front Office がインストールされている場合のみ使用されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

"出荷先" の顧客ラベルおよび住所ラベルを "勤務地" に変更 顧客情報コンポーネント内の出荷先住所および出荷先顧客について、*出荷先*ラベルを*勤務地*に変更できるようにするには、このチェック ボックスを選択します。

要員リクエスト数の追跡を使用 要員リクエスト数の変更を追跡可能にする場合、このチェック ボックスを選択します。

割当日の追跡の使用 割当日の変更を追跡可能にする場合、このチェック ボックスを選択します。

割当再オープン オプション

クローズ済割当の再アクティブ化可 適切な権限を持つユーザーが、以前クローズした割当を再アクティブ化できるようにする場合に選択します。このオプションを選択した場合、[追加割当可] オプションは選択できません。ページを保存した後は、このオプションを変更できません。

追加割当可 追加割当の作成を可能にする場合に選択します。このオプションを選択した場合、[クローズ済割当の再アクティブ化可] オプションは選択できません。ページを保存した後は、このオプションを変更できません。

職務オプションの追加

これらのオプションは、Pay/Bill Management がインストールされている場合のみ適用されます。これらのオプションでは、複数の割当間で従業員職務レコードを再使用したり、割当ごとに新規従業員職務レコードを必ず作成するよう選択できます。割当間で職務レコードを再使用するよう決定した場合でも、パワーユーザーに対しては、必要に応じて特定の 1 つの割当について追加の職務を強制的に作成するオプションが提供されます。

Staffing Front Office がインストールされており、Pay/Bill Management がインストールされていない場合、このアプリケーションでは全ての割当について従業員職務レコード番号 0 (ゼロ) が使用されます。

時間給従業員 時間給従業員に対する新規割当ごとに追加の職務を自動作成する場合、このチェック ボックスを選択します。このチェック ボックスを選択しない場合、職務レコードの再使用が試行されます。

給与所得従業員 給与所得従業員に対する新規割当ごとに追加の職務を自動作成する場合、このチェック ボックスを選択します。このチェック ボックスを選択しない場合、職務レコードの再使用が試行されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

採用管理ファネル オプション

これらのオプションを設定することで、オンボーディング プロセスを割当および採用プロセスと統合できます。採用管理ファネルの候補者サマリ ページから、イベント タイプを追加することで、割当ヘッダー ページまたは応募者 - 連絡先情報ページが自動的に表示されます。

エクスプレス割当イベント

割当イベント タイプを入力します。このイベント タイプは、採用管理ファネルの候補者サマリ ページから追加機能を提供します。このページで割当イベントをクリックすると、割当ヘッダー ページが表示されます。

Candidate Summary PagePeopleSoft Staffing Front Office を参照してください

採用イベント

採用イベント タイプを入力します。このイベント タイプは、採用管理ファネルの候補者サマリ ページから追加機能を提供します。このページで採用イベントをクリックすると、応募者 - 連絡先情報ページが表示されます。ここから、応募者を従業員または非従業員として採用できます。

Candidate Summary PagePeopleSoft Staffing Front Office を参照してください

組織構造

これらのオプションは、Staffing Front Office がインストールされている場合のみ適用されます。要員グループの定義に使用されたツリーに関する情報が取得されます。個人マッチングおよび個人検索で、要員グループを使用して検索条件を絞り込むことができます。候補者部門 ID または所在地コード別のツリーを使用して、要員グループを定義できます。

組織ユニット フィールド

組織ユニット ツリーとの結合に使用されるフィールドの名前を入力します。

組織ユニット レコード

[組織ユニット フィールド] フィールドに入力した組織ユニット フィールドの有効な値および説明が含まれるテーブルを入力します。

組織ユニット ツリー

要員グループの定義に使用するツリーの名前を入力します。

従業員 - 組織レコード

指定した [組織ユニット フィールド] により、要員が属する組織ユニットを追跡するレコードを入力します。

オンラインで適用

これらのオプションは、Staffing Front Office がインストールされている場合のみ表示されます。Pay/Bill Management のみがインストールされている場合、この機能は使用できません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

部門セットID オンラインで適用コンポーネントを使用する候補者に自動的に関連付けるデフォルト部門セットID を入力します。システム内の全ての応募者に部門が必要です。ただし、この情報は、[オンラインで適用] 機能を使用する候補者が使用するコンポーネントでは取得されません。

従業員セルフサービス部門 ID (従業員セルフサービス部門 ID) オンラインで適用コンポーネントを使用する候補者に自動的に関連付けるデフォルト部門 ID を入力します。システム内の全ての応募者に部門が必要です。ただし、これは [オンラインで適用] 機能を使用する候補者が使用できるフィールドではありません。

デフォルト添付タイプ オンラインで適用コンポーネントにより添付された履歴書に自動的に関連付けられるデフォルト添付タイプを選択します。

候補者登録 候補者の登録が必要かどうかを決定するオプションを選択します。オプションは、次のとおりです。

任意登録: 候補者の登録は不要ですが、必要に応じて登録できます。

登録不要: 候補者は適用前にシステムにログインする必要はありません。

登録要: 候補者はオンラインで適用コンポーネントにアクセスする前に登録する必要があります。

ステータス更新後 候補者が自分のレコードを更新した後に応募者ステータスを決定する際に使用されるオプションを選択します。オプションには、*アクティブ応募者*および *[保留中応募者]* があります。

サードパーティ インテグレーション

履歴書解析プロバイダ 組織が履歴書解析プロバイダを使用したことを示す場合に選択します。

サプライヤ ID 履歴書解析プロバイダを選択します。サプライヤは、ここで選択する前にオープン インテグレーション フレームワークで設定する必要があります。

*『PeopleSoft Staffing Front Office』*製品ドキュメントを参照してください。「Structuring PeopleSoft Staffing Front Office Processing Environment」、「Understanding Resume Parsing」。

言語コード ロードされる履歴書の言語を選択します。

求人サイト配信元プロバイダ 求人サイト配信元プロバイダを使用していることを示す場合、このチェック ボックスを選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

デフォルト求人サイト配信元	求人サイト配信元を選択します。配信元は、ここで選択する前にオープン インテグレーション フレームワークで設定する必要があります。
オンライン応募 URL	求人サイト配信元の有効な URL を入力します。

PeopleTools オプション ページ

PeopleTools オプション ページ (PSOPTIONS) を使用して、複数の職務を有効にします。

これにより、従業員検索ページおよび職務データ ページに表示する従業員レコード番号が有効になります。

ナビゲーション

[PeopleTool], [ユーティリティ], [管理], PeopleTools オプション

[一般オプション] グループ ボックスで、複数の職務を許可チェック ボックスを選択し、ページを保存します。

ストラテジック ソーシングのインストール オプション ページ

ストラテジック ソーシングのインストール オプション ページ (INSTALLATION_AUC) を使用して、落札詳細 - 入札表示オプションおよびマルチチャネル フレームワーク ソーシングのデフォルトを設定します。

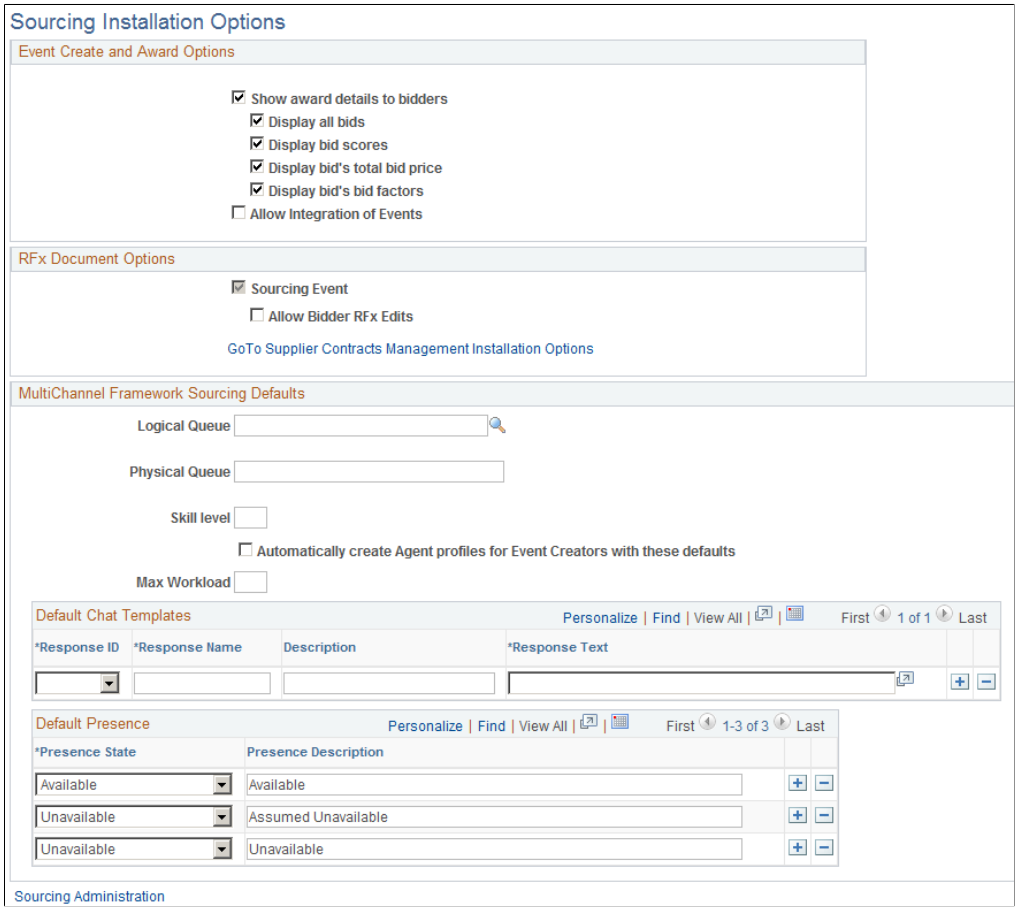
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [ストラテジック ソーシング]

画像: ストラテジック ソーシングのインストール オプション ページ

次の例では、ストラテジック ソーシングのインストール オプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



イベント作成と落札のオプション

落札詳細を入札者に開示

落札詳細を入札者に表示可能にする場合に選択します。次の処理を選択できます。

- 全入札を表示
- 入札スコアを表示
- 入札総額を表示
- 入札要因を表示

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ここで設定した値は、ソーシング イベントごとに落札詳細ページで上書きできます。

イベントのインテグレーション可 サードパーティ サイトへのイベントの転記を許可する場合に選択します。選択した場合、ソーシング ビジネス ユニットについてイベントのサードパーティ インテグレーションを設定できます。

RFx ドキュメント オプション

ソーシング イベント サプライヤ契約を使用して RFx ドキュメントを作成できるようにする場合に選択します。

入札者 RFx の編集を許可 入札者による RFx ドキュメントの編集を許可する場合に選択します。

マルチチャネル フレームワーク ソーシングのデフォルト

イベント作成者に対し、これらのデフォルト値で自動的にエージェントのプロファイルを作成する ここに情報を入力すると、イベント作成者はマルチチャネル フレームワークのチャット機能を使用して、入札者とチャットを行うことができます。

選択した場合、ユーザーの最初のソーシング イベントを転記すると、MCF エージェントとしてユーザーが自動作成されます。その後入札者は、入札回答のページからイベント作成者とのチャットをリクエストできます。

注: PeopleTools の MCF エージェント設定ページ (MCF_AGENT_PG) で選択したエージェントについて、ここで設定したデフォルトが上書きされる場合があります。

論理キュー [イベント作成者に対し、これらのデフォルト値で自動的にエージェントのプロファイルを作成する] チェック ボックスを選択した場合のみ、マルチチャネル フレームワークのデフォルトを全て入力します。

論理キューはアプリケーションレベルのキューであり、売上情報に関するチャット リクエストなどのアプリケーション区分に関連する作業リクエスト (タスク) を受け取り、作業を処理できるエージェントにそのリクエストをルーティングします。たとえば、入札者の発行について *SOURCING* と呼ばれる論理キューを設定する可能性があります。

物理キュー スケーラビリティを向上させるため、論理キューのタスクがフレームワークによって全ての使用可能な物理キューに分配されるよう、このキューが無作為に選択されます。たとえば、*SOURCING*

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

キューは、2 つの物理キュー *SOURCING1* および *SOURCING2* 全体で 2 つの MCF クラスタにより処理できます。

技能レベル

このタスクの処理に必要なエージェントの最低技能を指定します。

キュー サーバーは、そのキューに対する最低技能レベルがタスクで要求される技能レベル以上である対応可能なエージェントに、このタスク タイプを割り当てます。

最小値は *0* であり、最大値はありません。

ここで指定した値は、EnQueue() または InitChat() ビルトイン関数の呼出で上書きされる場合があります。

最大作業量

タスクが保留されるか他のエージェントに割り当てられるまでに、このエージェントに割り当てることができる最大作業量を選択します。これは必須フィールドです。

受入済の各タスクの負荷がエージェントの現在の作業量に加算されます。タスクの負荷によってエージェントの現在の作業量が最大値を超える場合、タスクはそのエージェントに割り当てられません。

回答 ID

エージェントのプロファイルごとにデフォルトのチャット テンプレートを作成する場合に使用します。チャット テンプレートは、入札者に回答を送信する際に使用されます。値には、*[廃棄]*、*[承諾]*、*[却下]*、*[終了]*、*[転送]* および *[その他]* があります。回答 ID ごとに、回答名、回答の説明および回答テキストを追加できます。

在席状態

エージェントのプロファイルごとに 1 つ以上のデフォルトの在席状態を定義する場合に使用します。オプションには、*[対応可能]* および *[不可]* があります。エージェントが対応可能かどうかを確認する際に表示される在席状態の説明を追加します。

製品ドキュメントの『*PeopleTools: PeopleSoft MultiChannel Framework*』を参照してください。

関連リンク

Setting Up Instant Messaging by Using MultiChannel FrameworkPeopleSoft Strategic Sourcing

インストール オプション - サプライヤ契約管理ページ

インストール オプション - サプライヤ契約管理ページ (INSTALLATION_CS) を使用して、サプライヤ契約管理のインストール オプションを設定します。

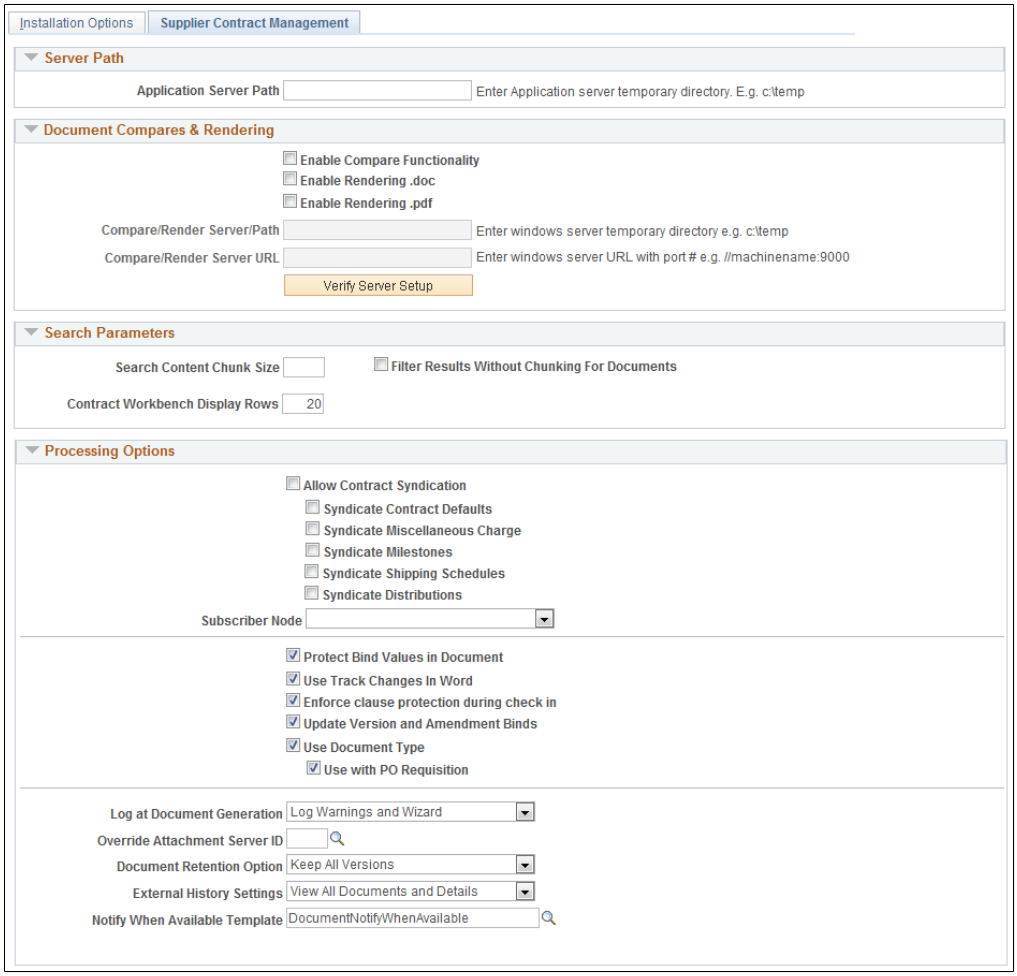
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [サプライヤ契約管理]

画像: インストール オプション - サプライヤ契約管理ページ (1/3)

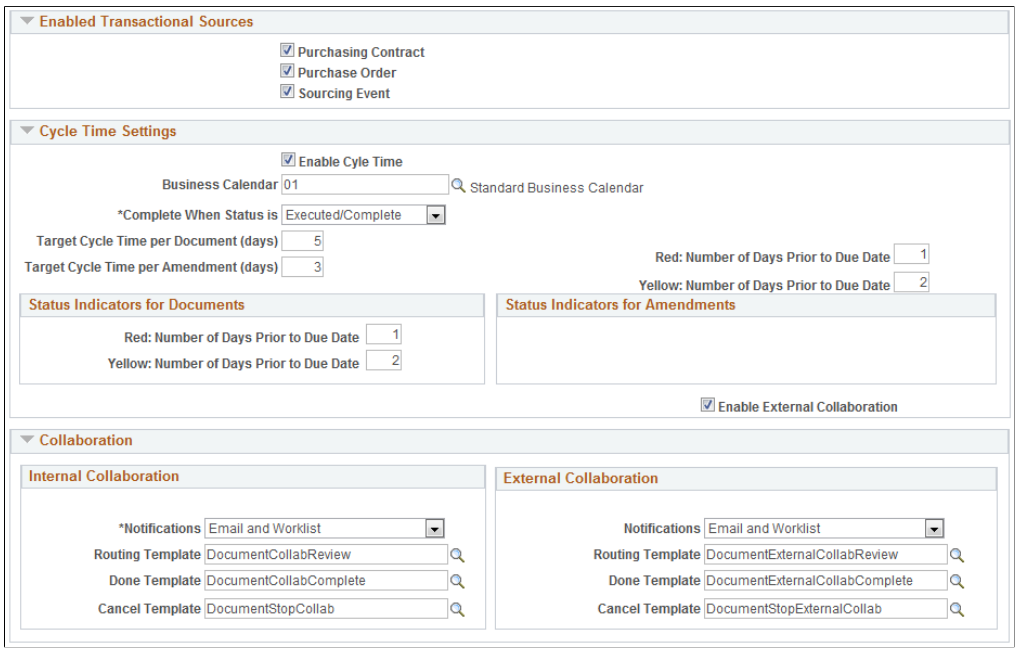
次の例では、インストール オプション - サプライヤ契約管理ページ (1/3) のフィールドおよびコントロールを説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

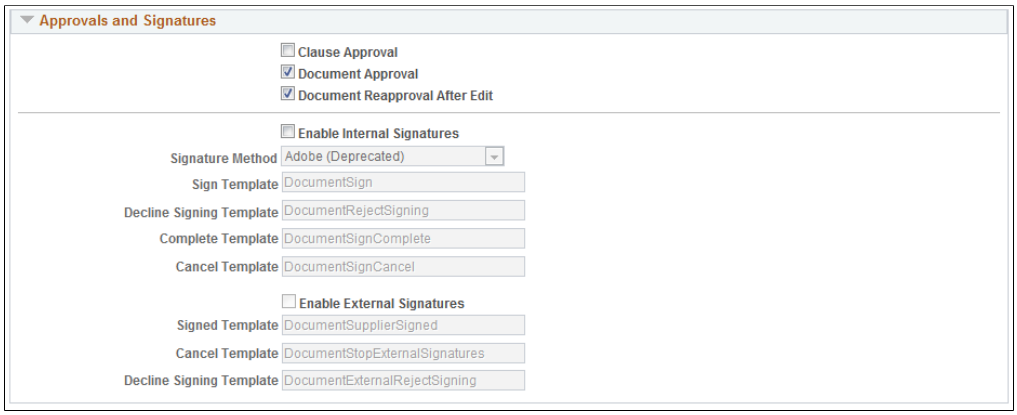
画像: インストール オプション - サプライヤ契約管理ページ (2/3)

次の例では、インストール オプション - サプライヤ契約管理ページ (2/3) のフィールドおよびコントロールを説明します。



画像: インストール オプション - サプライヤ契約管理ページ (3/3)

次の例では、インストール オプション - サプライヤ契約管理ページ (3/3) のフィールドおよびコントロールを説明します。



このページを使用して、サーバー、サーバー パス、比較と表示のオプション、検索、シンジケーション オプションおよび必要な承認を定義できます。

サーバー パス

このグループ ボックスを使用して、PeopleSoft サプライヤ契約管理内のファイル作成プロセスに使用するデフォルトのサーバーの場所を定義できます。

アプリケーション サーバー パス サーバー側の一時ファイルが作成されるサーバー上のディレクトリを入力します。たとえば、作成ドキュメントが生成されると、

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

アプリケーション サーバー上のこの一時ドキュメントを使用してファイルが作成された後、添付ファイル サーバーに転送されます。Windows アプリケーション サーバーに存在する *c:\temp* などのディレクトリを選択できます。

注: 全てのアプリケーション サーバーの実装で単一オペレーティング システムが使用されている場合、一時ディレクトリはオペレーティング システム固有である必要があります。Unix および Windows など複数のオペレーティング システム アプリケーション サーバーが実装に含まれる場合、このフィールドは空白にする必要があります。

ドキュメントの比較と表示

このセクションを使用して、サーバー側の Microsoft Word の処理を有効にできます。ここには、現在の作成ドキュメントと一時的に作成されたバージョンのリフレッシュ済または再作成済ドキュメントの比較が含まれます。サーバー側の処理を有効にすると、ドキュメント管理ページで [比較] ボタンが使用可能になります。

オプションにより、Microsoft Word の .doc または Adobe の .pdf バージョンの XML 生成ドキュメントを作成し、使用しているシステム上の Microsoft Word より前のバージョンの Microsoft Word を使用している可能性のあるサプライヤに送信できます。表示を有効にすると、連絡先への送信ページおよび連絡先への送付ページに正しい表示オプションが表示されます。URL およびゲートウェイの設定をテストし、これらが正しくかつ動作中であることを確認できます。

ドキュメントの比較および表示の詳細については、Setting Up Document Comparison and RenderingPeopleSoft Supplier Contract Management を参照してください。

比較機能使用可

現在の作成ドキュメントと再作成バージョンまたはリフレッシュバージョンのドキュメントのサーバー側での比較について、ドキュメント管理者が実行できるようにする場合に選択します。比較は差異を表示するものであり、情報提供のみを目的としています。比較機能では、訂正済の主契約を最後に実行されたバージョンと比較することもできます。

.doc の表示可

ドキュメントを送付したり連絡先に送信したりする際に .doc 形式のドキュメントを生成できるようにする場合に選択します。組織で使用するものと同じバージョンの Microsoft Word をサプライヤが使用しておらず、.xml バージョンのファイルを読み取れない場合、このチェック ボックスを選択します。

.pdf の表示可

ドキュメントを送付したり連絡先に送信したりする際に Adobe の .pdf 形式のドキュメントを生成できるようにする場合に選択します。

比較/表示サーバー/パス

サーバー側での .xml ドキュメントの比較および表示におけるドキュメント処理の一時的な場所となる、Windows アプリケーショ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ン サーバーのディレクトリ パス名を入力します。一時的な場所の例として、c:\temp があります。

注: 全てのアプリケーション サーバーの実装で単一オペレーティング システムが使用されている場合、一時ディレクトリはオペレーティング システム固有である必要があります。複数のオペレーティング システム アプリケーション サーバーが実装に含まれる場合 (Unix および Windows など)、インストール オプション ページのアプリケーション サーバー パス フィールドは空白のままにします。

比較/表示サーバー URL (比較/表示サーバー URL)

Microsoft Word および CSDOCUTIL.DLL ファイルで設定された Windows アプリケーション サーバーのマシン名およびポートを入力します。[比較/表示サーバー URL] フィールドに Web サーバーは不要です。この通信は PeopleTools 内で行われ、メッセージの送受信はアプリケーションサーバー レベルで行われます。アプリケーションからのリクエストは、Windows マシンを使用してアプリケーション サーバーに送信されます。マシンは Windows アプリケーション サーバー マシンです。マシンおよびポートは、内部同期メッセージを使用してパラメータとして渡され、このメッセージは PeopleTools によって解析され、Microsoft Word または Adobe Acrobat がインストールされている Windows マシン上で確実にリクエストが実行されるため、.doc または .pdf との比較またはこれらの形式での表示が可能になります。

ポートは Jolt サーバー リスナー ポートであり、Windows マシン上の PeopleSoft アプリケーション サーバーに設定されているものと同じポートである必要があります。

サーバー パスの検証

表示機能をテストする場合にクリックします。DOC または PDF での表示をテストすると、[比較/表示サーバー URL] フィールドに入力したアプリケーション サーバーおよびゲートウェイが正しく設定されており、稼働中であるかどうかが検証されます。Microsoft Word および Adobe PDF 形式のドキュメント表示設定について、対応するチェック ボックスが選択されている場合にテストが実行されます。テストは、ドキュメント管理コンポーネントの比較および表示機能 (ドキュメント比較、送付形式および電子署名など) の設定に役立ちます。

テスト中、サーバー接続に関連する情報メッセージが示されます。たとえば、[比較/表示サーバー URL] フィールドが空白である場合、フィールドにデータが見つからないことを示すメッセージが表示されます。

テストが正常に完了すると、[ドキュメントの比較と表示] セクションの表示のチェック ボックスが選択されている場合、次のメッセージが表示されます: [アプリケーション サーバー *(サーバー*

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

名) への接続: 成功、.doc 形式のドキュメントを表示するためのテスト: 成功、PDF のドキュメントを表示するためのテスト: 成功]。続いてボタン名が [設定成功] に更新され、接続のテストにいつでも使用できます。

注: 各機能のテストに成功すると、入力したデータが保存されます。

テスト結果についてのその他の条件は、次のとおりです。

- ローカル ゲートウェイが設定されていない場合、システム エラーがエラー情報と共に表示されます。
- ゲートウェイから応答がない場合、メッセージが表示されます。
- [比較/表示サーバー URL] で指定されたアプリケーション サーバーが稼働していない場合、システム エラーが表示されます。
- [比較機能使用可]、[.doc の表示可] または [.pdf の表示可] チェック ボックスが選択されており、間違った URL を入力した場合、システムはタイムアウトとなります。

設定成功

比較および表示機能を再テストする場合にクリックします。このボタンは、初回テストに成功した後表示されます。このボタンを使用した機能の再テストが可能であり、たとえば、[.doc の表示可] をクリックした場合、表示設定が正しくかつ動作しているかどうかが検証されます。

検索パラメータ

このセクションを使用して、PeopleSoft 検索テクノロジを使用してライブラリ内のエレメントについてコンテンツ検索を実行する際の検索オプションを指定できます。たとえば、条項および項、最新バージョンの契約ドキュメント コンテンツおよび購買契約の取引関連契約データを検索できます。

コンテンツ検索チャンク サイズ

検索実行時に取得および表示する、返される行数を入力します。値を入力しない場合、一度に 20 行取得されます。

ドキュメントのチャンクなしで結果をフィルタ

ドキュメントへのユーザー セキュリティ アクセス権に基づく検索結果のフィルタを可能にする場合に選択します。このチェックボックスを選択すると、ドキュメントへのアクセス権を持つユーザーの行のみが検索結果に表示されます。これらのユーザーには、例として管理者または関係者が含まれる可能性があります。これにより、結果の数を減らすことができます。このチェックボックスを選択すると、ドキュメントの検索時にチャンク サイズの値が無視されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

契約ワークベンチ表示行

サプライヤ契約ワークベンチで結果を表示する際の表示行数をシステムに指示する数値を入力します。

警告 この値を入力するときは注意してください。数値が大きすぎると、システムのパフォーマンスに影響する可能性があります。

処理オプション

このグループ ボックスを使用して、購買契約シンジケーションのシステム処理オプションおよび各種機能に関するドキュメント設定を決定します。シンジケーションとは、PeopleSoft 契約管理とサードパーティ システムの間で契約情報を交換することです。シンジケーションを使用することで、契約情報が PeopleSoft 購買契約からサードパーティ システムにパブリッシュされます。これによってサードパーティ システムは契約を作成できるようになります。シンジケーションを使用して、サードパーティ システムから契約パフォーマンス情報を受け取り、連結することもできます。

シンジケート オプションにより、契約と共にパブリッシュされる追加情報が制御されます。リモート システムの性能および 2 つのシステム間における設定データの一貫性によっては、このオプション情報をシンジケートできないことがあります。

このグループ ボックスの全てのチェック ボックスのデフォルト値は、非選択です。Understanding Contract SyndicationPeopleSoft Supplier Contract Management を参照してください。

契約シンジケーション可

契約プロセスの一部としてシンジケーションを含める場合に選択します。このチェック ボックスを選択すると、契約入力 - 契約ページに [シンジケーション] タブが表示されます。

契約シンジケーションを使用し、後で [契約シンジケーション可] チェック ボックスを選択解除した場合、シンジケーション機能は、既にシンジケートされている契約についてのみ表示されます。シンジケートされていない契約については、シンジケーション機能が非表示となります。

契約デフォルトのシンジケート

シンジケート契約の一部として発注書デフォルトを含める場合に選択します。デフォルトには、ヘッダーおよび出荷情報が含まれます。これらのデフォルトを表示するには、契約入力 - 契約ページで [発注書デフォルト] リンクをクリックします。

諸費用のシンジケート

シンジケート契約に諸費用を含める場合に選択します。売上税、使用税および消費税に加えて、発注書に諸費用を追加できます。諸費用には、運送費、設定コスト、保険、および購買商品を住所に配送するために発生するその他の各種コストを含めることができます。

マイルストーンのシンジケート

シンジケート契約にマイルストーン情報を含める場合に選択します。マイルストーンは、契約履行の指定期間またはパーセントなどの契約サイクルにおけるポイントであり、このポイントで契約

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

当事者が承認または再評価を行います。多くの場合、部分報酬がマイルストーンにリンクされます。PeopleSoft サプライヤ契約管理では、マイルストーン行のリリースにおける取引金額の変更について検証されます。

出荷スケジュールのシンジケート

シンジケート契約にシンジケート出荷スケジュールを含める場合に選択します。出荷テンプレートの行数量が最小行数量を超えているかどうかが検証されます。

配布のシンジケート

シンジケート契約にシンジケート配布を含める場合に選択します。シンジケート中、配布率および配布額が処理され、配布額が契約行金額を超えていないかどうかが検証されます。

サブスクライブ ノード

契約をシンジケートできるデフォルト ノードを選択します。サブスクライブ ノードを定義するまで契約をシンジケートできません。[契約シンジケーション可] が選択されている場合、このサブスクライブ ノードはサプライヤ契約でデフォルト値として指定されます。

ヘッダー レベルでノードが定義されていない場合、処理時にメッセージが生成されます。シンジケーションをバッチ処理として実行した場合、ノードが定義された契約のみ、処理用に選択できます。

ドキュメントのバインド値を保護

ドキュメントのバインド値を保護する場合に選択します。バインド値を保護して作成ドキュメントが生成されると、Microsoft Word により、ドキュメント内のトランザクション バインドまたはウィザード バインドの値がそれぞれ保護タグで囲まれます。これは、作成ドキュメント内でバインド値を直ちに変更せず、主に PeopleSoft システム内のウィザードまたはトランザクションによる変更で制御する場合に便利です。

Microsoft Word の保護が適用されている場合、バインド値は容易に変更できません。保護を上書きするためのコントロールが Microsoft Word 内に存在します。ドキュメント保護の詳細については、Microsoft Word のヘルプを参照してください。

Word の変更追跡を使用

ドキュメントの生成時に [変更追跡] をデフォルト オプションとする場合に選択します。このチェック ボックスを選択しない場合、ユーザーは Microsoft Word で変更追跡機能を手動で設定できます。

チェック イン時に項目を保護

項目を保護する必要がある場合に選択します。これにより、特定の項目が Microsoft Word の保護タグで囲まれ、ユーザーが項目に変更を加えないようにすることができます。このチェック ボックスを選択すると、ドキュメントの保護された項目が Microsoft Word 内でユーザーによって変更された場合に、そのドキュメントへのチェックインが防止されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このチェック ボックスを選択しない場合、変更された保護項目に関する警告が表示されますが、ドキュメントへのチェックインは可能です。

バージョンと修正バインドの更新

契約作成ドキュメント内で、バージョンおよび修正バインドの値 (存在する場合) を自動更新する場合に選択します。更新は、ドキュメントのチェックイン、再作成またはリフレッシュの一部として、あるいは修正の作成時に実行されます。

このチェック ボックスを選択しない場合、契約作成ドキュメント内でバージョンまたは修正バインドの値は自動更新されません。

ドキュメント タイプを使用

契約ドキュメントのドキュメント タイプをカテゴリ分類する場合に選択します。ドキュメント タイプにより、ドキュメントをカテゴリ分類でき、システム内の追加機能が有効になります。このチェック ボックスを選択すると、システムで新規作成された全てのドキュメントに対し、ドキュメント タイプ値が指定される必要があります。

ドキュメント タイプを使用して、特定の設定、デフォルトおよびセキュリティを定義できるため、ドキュメント作成のフローおよびドキュメント ライフ サイクルをより効果的に制御できます。

このチェック ボックスを選択すると、[調達依頼と併用] チェック ボックスも使用可能になります。

Setting Up Document TypesPeopleSoft Supplier Contract Management を参照してください。

調達依頼と併用 (発注調達依頼と併用)

新規契約が必要な調達依頼に関連するドキュメントを作成する場合、このチェック ボックスを選択します。このシナリオでは、依頼者から追加情報を取得する関連ドキュメントおよびウィザードを定義できます。この情報は、実際の購買契約ドキュメントの作成時に取り込むことができます。このチェック ボックスを選択すると、この調達依頼への関連付けを可能にするドキュメント タイプを設定できます。

契約リクエストの状況に対してドキュメント タイプが設定された場合、PeopleSoft eProcurement-調達管理または購買管理の調達依頼でこのタイプを使用するよう指定できます。この場合、調達依頼と共に、依頼者は契約リクエストに関する情報を取得するウィザードを起動して、補足リクエスト ドキュメントを生成できます。続いて依頼者は、サポート ドキュメントに必要な情報を提供します。調達依頼が契約に割り当てられると、担当者は元のリクエスト ドキュメントを参照し、リクエスト ドキュメント内のウィザードの回答を使用してコンテンツの駆動に役立て、実際の契約に必要なデータを入力できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このオプションを選択した場合、購買管理の調達依頼書の管理ページおよび eProcurement-調達管理の調達依頼書の作成ページに [リクエスト ドキュメントの追加] リンクが表示されます。

このチェック ボックスのデフォルト値は非選択です。ドキュメント タイプ ページで [調達依頼と併用] 機能が有効になっているため、このオプションを選択する前に、[ドキュメント タイプを使用] チェック ボックスを選択する必要があります。

フィールドをクリアした場合、発注調達依頼で現在使用できるドキュメント タイプがないかどうかが検証されます。ドキュメント タイプが有効である場合、更新の保存を試行するとエラー メッセージが表示されます。

ドキュメント作成時のログ

システムでのドキュメント作成時にエラーを記録するデフォルトの方法を選択します。最初にドキュメント コンフィギュレータを作成したときに、この値がデフォルト値として提供されます。2 つのレベルのログを使用できます。ドキュメント作成プロセスで完全なエラー詳細を記録する必要がある場合、*[詳細]* を選択します。完全ログでは作成プロセスの速度が低下することがありますが、新規コンフィギュレータの作成時にウィザード パスをデバッグおよびテストする際に役立ちます。また、完全ログではコンフィギュレータ内で使用されるバインド変数が検証され、ドキュメント作成時に評価されるルールのチェックにより、コンフィギュレータの拡張が検証されます。

指定されたドキュメント作成についてバインド値およびサマリ ウィザード履歴が欠落しているなどの警告のみを記録するには、*[警告とウィザード]* を選択します。この設定は、コンフィギュレータを一般に使用できるようになった後で使用する必要があります。

上書き添付サーバー ID

添付サーバー ID を選択します。このフィールドを使用してインストール済のサーバーを上書きすることで、PeopleSoft サプライヤ契約管理関連のドキュメントおよび添付ファイル専用に添付サーバーを定義できます。別のサーバーを選択すると、インストール済サーバーの上書きに関する警告メッセージが表示されます。

警告 添付サーバーの上書きは例外とし、不可欠な場合のみ実行してください。サーバーの上書きは、PeopleSoft サプライヤ契約管理での SES 検索の使用にも影響します。サプライヤ契約管理のデータベース サーバーを使用するよう選択した場合、添付サーバー上書きの値は空白にする必要があります。

Setting Up Document Comparison and RenderingPeopleSoft Supplier Contract Management およびOverriding FTP

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Attachment ServersPeopleSoft Supplier Contract Management を参照してください。

ドキュメント保存オプション

実行済ドキュメントの保存方法を指定するドキュメント保存オプションを選択します。値は次のとおりです。

- *全てのバージョンを保持:* ドキュメントの実行後に全てのバージョンのドキュメントを保持する場合に選択します。ドキュメント履歴により、引き続き全ての中間バージョンへのリンクが提供されます。
- *実行済バージョンのみ保持:* ドキュメントの実行後に全ての中間バージョンをシステムからパージする場合に選択します。新規ドキュメント サイクルでは、ドキュメントが実行されるまで、全てのバージョンにアクセスできます。ドキュメントの実行後は、システムおよび FTP サーバーから全ての中間バージョンがパージされます。これには、コラボレーション中間コピーおよび署名済中間コピーが含まれます。実行済最終バージョンのみがシステムに残ります。

外部履歴設定

サプライヤ ポータルの外部ユーザーの表示アクセス権を決定するオプションを選択します。値は次のとおりです。

- *実行済の表示を無効化:* サプライヤ ポータルで外部サプライヤが実行済契約を表示できないようにする場合に選択します。このオプションでは、サプライヤが最終署名者であったために参照用の内部コピーを保持していることを前提としています。保持していない場合、署名済バージョンをサプライヤに送信できます。
- *全てのドキュメントと詳細の表示:* コラボレーション バージョン、添付ファイルおよび以前実行された全てのバージョンを含む、全てのドキュメント詳細に対する表示アクセス権をサプライヤに提供する場合に選択します。
- *実行済ドキュメントのみ表示:* 各交渉の完了後、最終的な署名済および実行済のドキュメントに対する表示アクセス権のみを外部サプライヤに提供する場合に選択します。このオプションではアクションおよび履歴のサマリ行が表示されますが、レビューおよびコラボレーションの詳細は含まれません。

テンプレート使用可能時に通知

ドキュメント管理ページの[自分に通知] ボタンと共に使用する通知テンプレートを選択します。[自分に通知] ボタンを使用して、ドキュメントが PeopleSoft システムにチェックインされたときに自分に通知するよう指定できます。ドキュメントがチェックインされると、そのドキュメントについて通知を要求したユーザーに通知されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

使用可能取引ソース

このセクションでは、PeopleSoft サプライヤ契約管理ユーザーが、PeopleSoft 購買管理アプリケーションで購買契約または発注を使用して契約を作成できるかどうかを定義します。

チェック ボックスを選択すると、ドキュメントまたはドキュメント タイプを追加するときなどに、ソース取引の値リストにその選択内容が含められます。また、選択した取引ソースに基づいて、検索フレームワークの検索を実行できます。アドホック ソースは常に使用可能であるため、有効にする必要はありません。

購買契約

PeopleSoft 購買管理の契約入力機能を使用した、取引購買契約からのドキュメント作成を有効にする場合に選択します。チェック ボックスはデフォルトで選択されています。Transactional Purchasing ContractsPeopleSoft Supplier Contract Management を参照してください。

発注書

PeopleSoft 購買管理でのドキュメント作成または取引発注書との関連付けを有効にする場合に選択します。このチェック ボックスのデフォルト値は非選択です。Transactional Purchase OrdersPeopleSoft Supplier Contract Management を参照してください。

ソーシング イベント

PeopleSoft ストラテジック ソーシングでのドキュメント作成または取引ソーシング イベントとの関連付けを有効にする場合に選択します。このチェック ボックスのデフォルト値は非選択です。

サイクル期間設定

このセクションでは、契約ドキュメントおよび訂正を完了するためのサイクル期間設定を定義します。たとえば、ドキュメントを完成させるためのタイム フレームを設定して、期間内に契約要件に到達することを確認できます。このページで定義する設定は、この PeopleSoft サプライヤ契約管理のインストールに適用されます。ただし、ドキュメント タイプ機能を使用して、特定のドキュメント タイプについてこれらの設定を上書きできます。

また、インジケータを表示するターゲット サイクル期間までの日数を設定できます。[赤: 期日前の日数] および [黄: 期日前の日数] フィールドを使用して、ドキュメントおよび訂正のインジケータを設定できます。

サイクル設定を定義した後、既存ドキュメントの検索ページを使用してドキュメントを検索し、アクセスします。ドキュメント検索結果を使用して、コラボレーションおよび承認の期日を経過している、または保留中であるドキュメントおよび訂正を表示できます。ワークベンチを使用して、サイクル期間設定に基づきドキュメントを検索することもできます。

サイクル期間の使用

この PeopleSoft サプライヤ契約管理のインストールに対してサイクル期間を有効にする必要がある場合に選択します。チェック ボックスを選択すると、関連フィールドが使用可能になります。

ビジネス カレンダー

ドキュメントおよび訂正のサイクル期間に使用するビジネス カレンダーを選択します。ビジネス カレンダーを使用して、休日また

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

は週末などの日を決定し、サイクル期間の計算から除外する必要があります。また、ドキュメント専用のカレンダーを作成できます。ビジネス カレンダーを定義するには、[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [カレンダー/スケジュール], [ビジネス カレンダー], [ビジネス カレンダー]を選択します。

次のステータスの場合に完了

ドキュメントのサイクル期間の追跡を停止するステータスを選択します。たとえば、多くのレビュー担当者または承認者がサイクルにかかわるより重要なステージでドキュメント サイクルを追跡し、レビュー サイクル全体については追跡しないようにできます。あるいは、組織は重要な契約ドキュメントが署名および実行されるまで追跡できます。

次のステータスで、ドキュメントおよび訂正サイクルの追跡を終了できます。

- *承認済*
- *送付済*
- *実行済/完了*
- *承認待ち*

ドキュメントごとのターゲット サイクル時間 (日数)

契約ドキュメントの完成までにかかるターゲット営業日数を入力します。このサイクルは、ドキュメントの作成時に開始され、ドキュメントが [次のステータスの場合に完了] フィールドで選択したステータスになったとき終了します。サイクル期間はビジネス カレンダーを使用して計算されるため、カレンダーに基づいて公的な営業日のみがカウントされます。

修正ごとのターゲット サイクル時間 (日数)

契約訂正の完了までにかかるターゲット日数を入力します。

赤: 期日前の日数

赤のフラグ インジケータでドキュメントにフラグを設定する、期日前の日数を入力します。ドキュメントが入力した日数の範囲に入ると、既存ドキュメントの検索ページの検索結果に赤のフラグ インジケータが挿入されます。たとえば、期日が 3 月 10 日のドキュメントについて *2* を入力した場合、ビジネス カレンダーによっては、3 月 8 日にフラグが挿入されます。

このフィールドではより緊急性の高い警告を定義するため、入力する日数は、黄色のフラグ インジケータに入力する日数より少なくする必要があります。ドキュメントおよび訂正について値を定義できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

黄: 期日前の日数 ドキュメント ワークベンチで黄色のフラグ インジケータを挿入する、期日前の日数を入力します。ドキュメントおよび訂正について値を定義できます。

内部コラボレーション

このセクションでは、内部および外部コラボレーションの設定を定義します。内部および外部コラボレーションは類似していますが、外部コラボレーションでは、外部ユーザーがドキュメントにアクセスできるように設定する必要があります。

通知 ドキュメントがコラボレーションのために内部コラボレータにルーティングされたことを内部コラボレータに通知する際に使用する方法を選択します。値は次のとおりです。

- *電子メール:* 電子メールのみを使用してコラボレータに通知する場合に選択します。
- *電子メールとワークリスト:* 電子メールおよびワークリストの両方の手段でコラボレータに通知する場合に選択します。
- *なし:* 通知が不要である場合に選択します。
- *ユーザー基本設定:* ユーザーの基本設定で定義された方法を使用する場合に選択します。
- *ワークリスト:* ワークリストのみを使用してコラボレータに通知する場合に選択します。

ルーティング テンプレート 内部コラボレーション用にドキュメントをルーティングする際に使用する汎用テンプレートを選択します。このテンプレートにより、コラボレーション用にドキュメントがルーティングされる際に、電子メール通知に関する情報の書式が制御されます。システムにより指定された *DocumentCollabReview* の値が、テンプレートのデフォルト値として表示されます。『*PeopleTools: Workflow Technology*』の「Using Notification Templates」、「Defining Generic Templates」を参照してください。

完了テンプレート ドキュメントの内部コラボレーションが完了したときに使用されるテンプレートを選択します。このテンプレートにより、コラボレーション サイクルの完了時に管理者への電子メールに表示される情報が制御されます。システムにより指定された *DocumentCollabComplete* の値が、完了テンプレートのデフォルト値として表示されます。

キャンセル テンプレート ドキュメントの内部コラボレーションがキャンセルされたときに、保留中のコラボレータへの警告に使用されるテンプレートを選

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

択します。システムにより指定された *DocumentStopCollab* の値が、キャンセル テンプレートのデフォルト値として表示されます。

外部コラボレーション

外部コラボレーション

サプライヤ ポータルにより PeopleSoft サプライヤ契約管理ドキュメントへのアクセス権を持つサプライヤとの外部コラボレーションを有効にする場合に選択します。外部コラボレーションを実行するには、組織が使用するのと同じバージョンの Microsoft Word をサプライヤ ユーザーが使用することをお勧めします。これにより、サプライヤは .xml ドキュメントとしてドキュメントを変更したりチェックインできます。サプライヤが同じバージョンの Microsoft Word を使用しない場合、サプライヤはドキュメントの .doc バージョンにチェックインできますが、契約管理者は手動で変更を照合する必要があります。

注: ドキュメント タイプ ページでドキュメント タイプに対して外部コラボレーションを有効にする前に、このチェック ボックスを使用して外部コラボレーションを有効にしておく必要があります。

Understanding Document CollaborationPeopleSoft Supplier Contract Management のトピックにある「外部ユーザーのドキュメント コラボレーション」を参照してください。

通知

ドキュメント コラボレーション プロセスでコラボレータとしてリストされた外部コラボレータへの通知に使用する方法を選択します。値は次のとおりです。

- *電子メール:* 電子メールのみを使用してコラボレータに通知する場合に選択します。
- *電子メールとワークリスト:* 電子メールおよびワークリストの両方を使用してコラボレータに通知する場合に選択します。
- *なし:* 通知が不要である場合に選択します。
- *ユーザー基本設定:* ユーザーの基本設定で定義された方法を使用する場合に選択します。
- *ワークリスト:* ワークリストのみを使用してコラボレータに通知する場合に選択します。

ルーティング テンプレート

外部コラボレーション用にドキュメントをルーティングする際に使用する汎用テンプレートを選択します。このテンプレートにより、外部コラボレーション用にドキュメントがルーティングされる際に、電子メール通知に関する情報の書式が制御されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

システムにより指定された *DocumentExternalCollabReview* の値が、テンプレートのデフォルト値として表示されます。『*PeopleTools: Workflow Technology*』の「Using Notification Templates」、「Defining Generic Templates」を参照してください。

完了テンプレート ドキュメントの外部コラボレーションが完了したときに使用されるテンプレートを選択します。このテンプレートにより、コラボレーションの完了時に管理者への電子メールに表示される情報が制御されます。システムにより指定された *DocumentExternalCollabComplete* の値が、完了テンプレートのデフォルト値として表示されます。

キャンセル テンプレート ドキュメントの外部コラボレーション サイクルがキャンセルされたときに、外部コラボレータへの警告に使用されるテンプレートを選択します。システムにより指定された *DocumentStopExternalCollab* の値が、キャンセル テンプレートのデフォルト値として表示されます。

承認と署名

このセクションでは、条項およびドキュメントにワークフロー承認が必要かどうか、また内部ユーザーと外部ユーザーがドキュメントに電子署名できるかどうかを指定します。

条項承認 条項に承認が必要である場合に選択します。このチェック ボックスを選択すると、条項のワークフロー承認が有効になります。このチェック ボックスを選択しない場合、条項を管理する個人が条項ステータスを承認済に設定できます。

Understanding PeopleSoft Supplier Contract Management WorkflowPeopleSoft Supplier Contract Management および Understanding Document ApprovalsPeopleSoft Supplier Contract Management を参照してください。

ドキュメント承認 ドキュメントに承認が必要である場合に選択します。このチェック ボックスを選択した場合、ドキュメント管理者は承認用にドキュメントを提出する必要があります。このチェック ボックスを選択しない場合、ドキュメント管理者は [承認] ボタンをクリックしてドキュメントを承認し、最終署名のためにサプライヤに送信できます。Understanding Document ApprovalsPeopleSoft Supplier Contract Management を参照してください。

編集後のドキュメント再承認 ドキュメントが初回承認後に編集された場合に再承認が必要であるときに選択します。組織でのドキュメントに関する内部統制によっては、これが不要な場合もあります。

電子署名の詳細については、Understanding Digital SignaturesPeopleSoft Supplier Contract Management を参照してください

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

内部署名使用

内部ユーザーが Adobe または Microsoft Word の署名を使用してドキュメントに電子署名できるようにする場合に選択します。このチェック ボックスを選択した場合、次のようになります。

- [署名方法] フィールドでオプションを選択する必要があります。
- [外部署名使用] チェック ボックスが開きます。

通常、電子版の契約で紙ベースの契約を置き換えることができます。

内部署名を有効にすると、ドキュメント管理ページに [署名用ドキュメント準備] ボタンが表示されます。このボタンを使用して、ドキュメントを .pdf ファイルに変換し、署名のためにステージして、署名可能であることを示すことができます。これにより、ドキュメント管理ページに、ドキュメントを変換できる追加ボタンが表示されます。

注: 電子署名の方法はインストール レベルで決定されるため、ドキュメント タイプ ページでドキュメント タイプについて内部署名を有効にする前に、このチェック ボックスを使用して内部署名を有効にする必要があります。

署名方法

契約ドキュメントの署名方法、または契約ドキュメントの PDF での表示方法を選択します。Adobe 電子署名には Adobe (Word) を使用し、ドキュメントの送信には Adobe PDF を使用することをお勧めします。[内部署名使用] チェック ボックスを選択した場合、あるいは契約ドキュメントを .doc、.docx または .pdf ファイル形式で送信する場合、このフィールドで値を選択する必要があります。オプションを選択しない場合、設定を保存するとエラーメッセージが表示されます。署名方法の値は次のとおりです。

- *Adobe (非推奨):* Adobe Systems ソフトウェアを使用してドキュメントに署名する場合に選択します。

  この署名方法を使用するには、Windows マシン上に Adobe Acrobat があり、サーバーが設定されており、[ドキュメントの比較と表示] セクションで URL が定義されている必要があります。さらに、管理者は Adobe Professional 8 をインストールし、ドキュメントに署名する必要があるユーザーは Adobe Reader をインストールしておく必要があります。

- Adobe (Word): 契約ドキュメントを PDF で送信するか、Adobe 電子署名を使用する場合に選択します。

  この署名方法を使用する場合、Adobe Acrobat は不要です。ただし、Microsoft Word 2007 以上のバージョンが

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Windows マシンにインストールされている必要があります。さらに、Adobe の電子署名を使用する場合、ドキュメント管理者は Adobe Acrobat をインストールし、ドキュメントに署名する必要があるユーザーは Adobe Reader をインストールしておく必要があります。

- *Word:* Microsoft Word を使用してドキュメントに署名する場合に選択します。

  この署名方法を使用するには、Windows マシン上に Microsoft Word 2007 以上のバージョンがあり、アプリケーション サーバーの URL が [ドキュメントの比較と表示] セクションで定義されている必要があります。さらに、ドキュメントに署名する必要があるユーザーは、Microsoft Word 2007 以上のバージョンを使用してドキュメントに署名する必要があります。

署名テンプレート

電子署名のためにドキュメントがルーティングされた内部署名者が使用するテンプレートを選択します。システムにより指定された署名テンプレートの値 *DocumentSign* が、フィールドのデフォルト値として表示されます。

署名拒否テンプレート

内部ユーザーがドキュメントの署名を拒否する際に使用するテンプレートを選択します。システムにより指定された署名拒否テンプレートの値 *DocumentRejectSigning* が、フィールドのデフォルト値として表示されます。

完了テンプレート

内部署名者がルーティング プロセスの完了時に使用するテンプレートを選択します。システムにより指定された完了テンプレートの値 *DocumentSignComplete* が、フィールドのデフォルト値として表示されます。

キャンセル テンプレート

内部署名プロセスのルーティングがキャンセルされた場合に保留中の署名者に警告するためのテンプレートを選択します。システムにより指定されたキャンセル テンプレートのデフォルト値 *DocumentSignCancel* が、フィールドのデフォルト値として表示されます。

外部署名使用

外部ユーザーが電子署名を使用してドキュメントに署名できるようにする場合に選択します。このチェック ボックスを選択すると、外部署名テンプレートが使用可能になります。これらの汎用テンプレートを使用して、ドキュメント承認者間の特定のアクションについて、電子メールの内容を定義できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: 電子署名の方法はインストール レベルで定義されるため、ドキュメント タイプ ページでドキュメント タイプについて外部署名を有効にする前に、このチェック ボックスを使用して外部署名を有効にする必要があります。

署名済テンプレート 外部ユーザーがドキュメントの電子署名を行った場合に使用するテンプレートを選択します。システムにより指定された署名済テンプレートの値 *DocumentSupplierSigned* が、フィールドのデフォルト値として表示されます。

キャンセル テンプレート 外部署名プロセスがキャンセルされた場合に外部ユーザーに警告するためのテンプレートを選択します。システムにより指定されたキャンセル テンプレートの値 *DocumentStopExternalSignatures* が、フィールドのデフォルト値として表示されます。

署名拒否テンプレート 外部ユーザーがドキュメントの署名を拒否した場合に契約管理者に警告するためのテンプレートを選択します。システムにより指定された署名拒否テンプレートの値 *DocumentExternalRejectSigning* が、フィールドのデフォルト値として表示されます。

関連リンク

PeopleSoft Supplier Contract Management ImplementationPeopleSoft Supplier Contract Management

インストール オプション - 財務管理ページ

インストール オプション - 財務管理ページ (INSTALLATION_TR) を使用して、会計処理、JD Edwards 一般会計および PeopleSoft ファイナンシャル ゲートウェイ機能についてインテグレーション オプションを定義します。

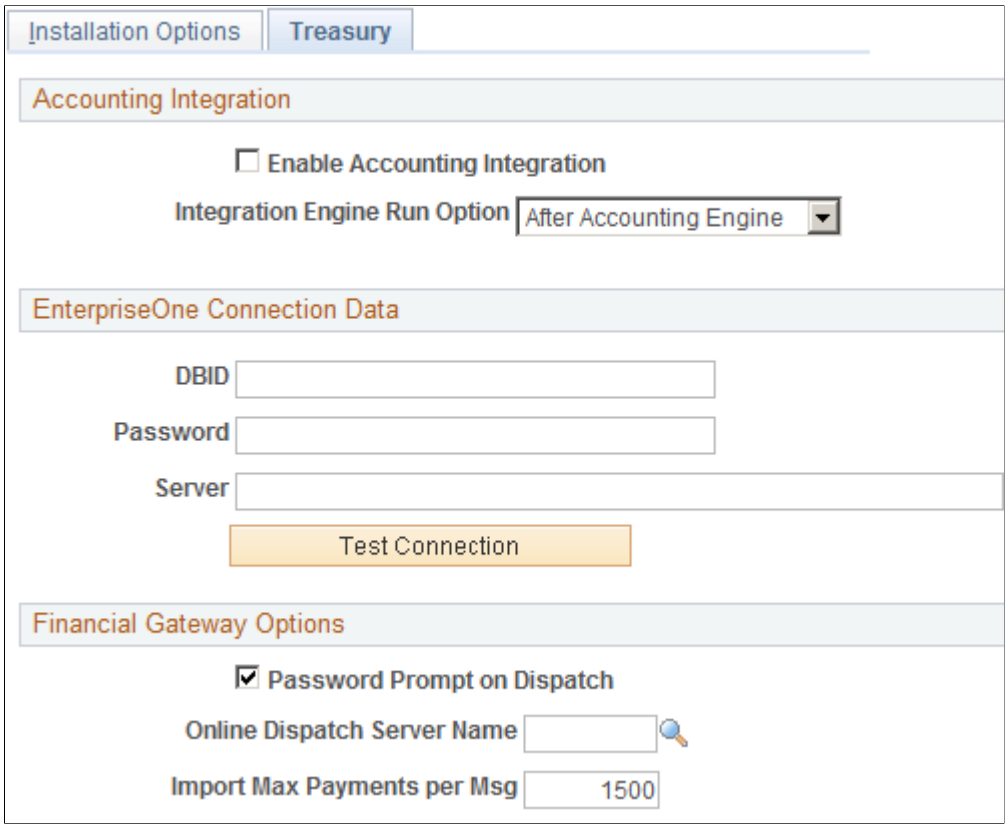
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [財務管理]

画像: インストール オプション - 財務管理ページ

次の例では、インストール オプション - 財務管理ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



会計処理インテグレーションの有効化 PeopleSoft 財務管理アプリケーションと JD Edwards (EnterpriseOne) 一般会計の統合を可能にする場合に選択します。

インテグレーション エンジン実行オプション インテグレーション エンジン プロセス (TR_JRNL_INT) の実行が必要な場合に選択します。値は次のとおりです。

- *会計処理エンジン後:* インテグレーション エンジンは、財務会計アプリケーション エンジン プロセス (TR_ACCTG) の実行が必要なあらゆる財務イベントの直後に実行されます。
- *スケジュール設定済:* プロセス スケジューラの設定に基づいてインテグレーション エンジンが実行されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

EnterpriseOne 接続データ

[EnterpriseOne 接続データ] グループ ボックスのフィールドは、Enterprise 資金管理でキャッシュ ポジション ワークシートを作成する目的で、Oracle の JD Edwards (EnterpriseOne) 一般会計テーブルからデータをインポートする場合のみ必要です。

DBID (データベース ID) データのインポート元である (EnterpriseOne) JD Edwards データベースを入力します。

パスワード DBID フィールドで指定した (EnterpriseOne) JD Edwards データベースへのログインに必要なパスワードを入力します。

サーバー (EnterpriseOne) JD Edwards インテグレーション サーバーを入力します。

*『JD Edwards EnterpriseOne Application Integrations with PeopleSoft Enterprise Applications』*を参照してください。

ファイナンシャル ゲートウェイ オプション

送信時パスワード プロンプト 支払の送信ページから支払を送信する際にユーザーがパスワードを再入力する必要があるセキュリティ対策を有効にする場合、このチェック ボックスを選択します。

オンライン送信サーバー名 支払の送信アプリケーション エンジン プロセス (PMT_DISPATCH) を実行するサーバーの名前を入力します。入力すると、プロセス スケジューラは使用可能な次のサーバーではなく、選択したサーバーでのみ支払の送信アプリケーション エンジン プロセスを実行します。このオプションは、機密扱いの支払ファイルの送信に対応できます。

メッセージ別最大インポート支払数 買掛金管理などのソース システムからファイナンシャル ゲートウェイに渡される PAYMENT_REQUEST アプリケーション メッセージで許可されている支払数を入力します。メッセージ別支払数を増やすには、送信メッセージ数を減らす必要がありますが、処理により多くのメモリが必要となり、システム的な制約によってパフォーマンスが影響を受ける可能性があります。デフォルト値は、メッセージあたりの支払数が 1,500 となります。

関連リンク

Registering a Source Application with Financial GatewayPeopleSoft Financial Gateway

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第7章

ユーザー基本設定の定義

ユーザー基本設定について

PeopleSoft アプリケーションのユーザー基本設定を設定するには、デフォルト コードおよび値を定義するユーザーのユーザー ID を事前に設定しておく必要があります。テーブルの設定が完了し、全てのデフォルト値を定義したら、ユーザー基本設定ページを使用して、PeopleSoft システム ユーザーのプロファイルを定義します。

ユーザー基本設定の設定後、[ユーザー基本設定] レポート (FIN0006) を生成して、各ユーザーに定義されている基本設定の一覧を含む情報を表示できます。

クロスアプリケーション ユーザー基本設定の定義

ユーザー基本設定コンポーネント (OPR_DEFAULT) を使用して、アプリケーション間共通のユーザー基本設定を定義します。

このコンポーネントのテーブルにデータをロードするには、OPR_DEFAULT_FIN コンポーネント インターフェイスを使用します。

クロスアプリケーション ユーザー基本設定の定義に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
ユーザー基本設定 - 基本設定ページ	OPR_DEF_TABLE_FS1	特定の PeopleSoft システム ユーザーにデフォルトのユーザー基本設定を定義します。
OLE 情報ページ	OPR_DEF_TABLE_OLE1	オブジェクトのリンクと埋込み (OLE) 情報、つまりクライアント オペレーティング システムとユーザーの Web ブラウザを指定します。
ユーザー基本設定 - プロセス グループ ページ	OPR_DEF_TBL_RTM	ユーザーがオンデマンド処理に使用できるプロセス グループをソーストランザクション別に指定します。

関連リンク

即時転記プロセスの設定について

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユーザー基本設定 - 基本設定ページ

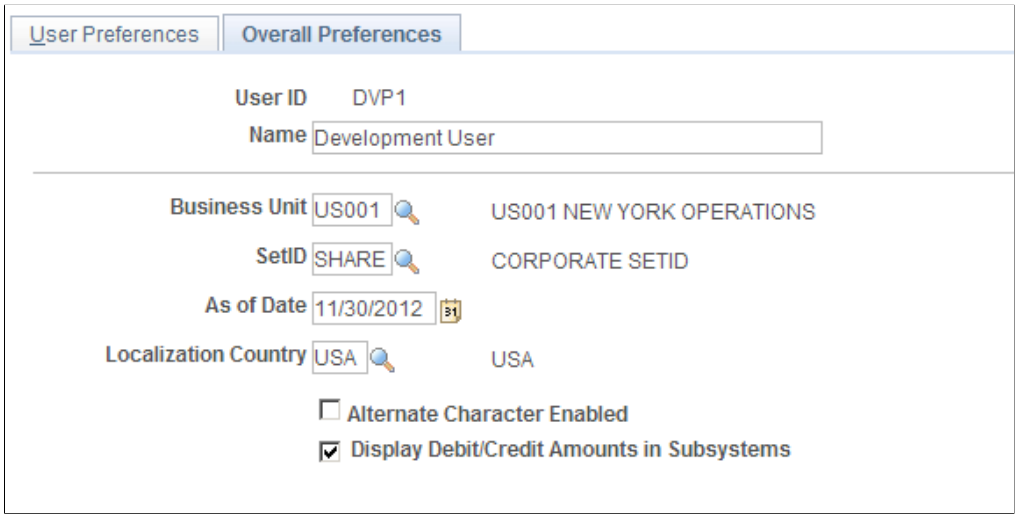
基本設定ページ (OPR_DEF_TABLE_FS1) を使用して、特定の PeopleSoft システム ユーザーにデフォルトのユーザー基本設定を定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [基本設定]

画像: ユーザー基本設定 - 基本設定ページ

次の例では、ユーザー基本設定 - 基本設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



[ビジネス ユニット], [セットID] ビジネス ユニットおよびセットID の検索フィールドでユーザーのデフォルト値として使用する値を選択します。

指定日 組合せ編集プロセスのデフォルトの指定日が表示されます。

ローカリゼーション対象国 このユーザー ID のデフォルトのローカリゼーション対象国が表示されます。

代替文字使用 多くのアプリケーション ページのフィールドの右側に表示される代替名称ボタンまたはリンクをアクティブ化する場合に選択します。ボタンまたはリンクをクリックすると、代替文字を入力または表示するための補助ページが表示されます。

サブシステム内の貸方/借方金額を表示 仕訳入力ページおよび照会ページにデフォルト ビジネス ユニットの貸方/借方金額を表示する場合に選択します。サブシステムとは、PeopleSoft 一般会計への入力に関係する PeopleSoft アプリケーション (買掛金管理や売掛金管理など) です。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

関連リンク

フリガナ ページ

OLE 情報ページ

OLE 情報 (オブジェクトのリンクと埋込み情報) ページ (OPR_DEF_TABLE_OLE1) を使用して、クライアント オペレーティング システムとユーザーの Web ブラウザを指定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [OLE 情報], [OLE 情報]

OLE 機能を使用すると、取引先 ID 情報と共にインターネット アドレスを格納できます。Web アクセスを提供するページ (取引先情報コンポーネント (VNDR_ID) の所在地ページなど) を使用する場合、ユーザーはボタンまたはリンクをクリックして Web ブラウザをアクティブ化し、取引先の Web サイトにアクセスできます。

クライアント オペレーティング システム ユーザーのオペレーティング システムを選択します。

WWW ブラウザ (World Wide Web ブラウザ) ユーザーの Web ブラウザを選択します。

注: OLE インターフェイスに対応していない一部のブラウザでは、この機能を使用できません。

関連リンク

Entering Supplier Contact InformationPeopleSoft Source to Settle Common Information

ユーザー基本設定 - プロセス グループ ページ

ユーザー基本設定 - プロセス グループ ページ (OPR_DEF_TBL_RTM) を使用して、ユーザーがオンデマンド処理に使用できるプロセス グループをソース トランザクション別に指定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [プロセス グループ], [プロセス グループ]

「即時転記プロセスの設定について」を参照してください。

アプリケーション固有のユーザー基本設定の定義

ユーザー基本設定コンポーネント (OPR_DEFAULT) を使用して、PeopleSoft アプリケーション固有のユーザー基本設定を定義します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このコンポーネントのテーブルにデータをロードするには、OPR_DEFAULT_FIN コンポーネント インターフェイスを使用します。

アプリケーション固有のユーザー基本設定の定義に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
資産管理 - ユーザー基本設定ページ	OPR_DEF_TABLE_AM1	ユーザーに対して日付デフォルト値、取引ローダー処理オプション、インターフェイス テーブルの取引編集オプションおよび固定資産ページレットのデフォルト値を設定します。
ユーザー基本設定 - IT Asset Management ページ	OPR_DEF_TABLE_IT1	IT Asset Management に固有のユーザー基本設定を定義します。
ユーザー基本設定 - 請求管理ページ	OPR_DEF_TABLE_BI1	請求管理に固有のデフォルトのユーザー基本設定を定義します。
ユーザー基本設定 - 契約管理ページ	OPR_DEF_TABLE_CA1	契約管理に固有のデフォルトのユーザー基本設定を定義します。
ユーザー基本設定 - 一般会計ページ	OPR_DEF_TABLE_GL1	一般会計のユーザー デフォルトを設定します。
ユーザー基本設定 - 在庫管理ページ	OPR_DEF_TABLE_IN1	在庫管理ユーザーの基本設定を定義します。
Lease Administration - ユーザー基本設定ページ	RE_OPR_DFLTS	Real Estate Management ユーザーのデフォルトのリース管理基本設定を定義します。
ユーザー基本設定 - 生産管理ページ	OPR_DEF_TABLE_MG1	ユーザー ID 別にデフォルト サーバーを管理します。ピッキング計画および自動資材リリースの更新プロセス (SFCONREL) を実行するようにデフォルト サーバーを設定します。
受注 - 見積ページ	OPR_DEF_TABLE_OM2	ユーザー基本設定ページの [受注 - 見積] リンクをクリックして、ユーザーの見積処理ページのデフォルト ビジネス ユニットを設定します。見積の開始連番コードを指定することもできます。
受注 - その他ページ	OPR_DEF_TABLE_OM3	ユーザー基本設定ページの [受注 - その他] リンクをクリックして、返品承認 (RMA) を入力するユーザーのデフォルト値を設定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
ユーザー基本設定 - 受注 - 販売ページ	OPR_DEF_TABLE_OM1	受注情報を入力するユーザーのビジネス ユニット、受注ソースおよび受注グループのデフォルト値を設定します。受注の開始連番コードを指定することもできます。
ユーザー基本設定 - 支払サイクル ページ	OPR_DEF_TBL_PYCYCL	支払サイクル マネージャ コンポーネントおよびエクスプレス支払マネージャ コンポーネント (それぞれ PYCYCL_MGR および EXP_PYCYCL_MGR) のデフォルトの出力先を定義します。支払サイクル処理を実行する際には、これらのデフォルト値は不要です。
ユーザー基本設定 - 供給計画ページ	OPR_DEF_TABLE_PL1	デフォルトのプランニング インスタンスを選択します。プランニング インスタンスとは、供給計画の入力および出力となる一連のデータ (ビジネス ユニット、アイテム、供給および需要) です。
ユーザー基本設定 - プロジェクト コスト管理ページ	OPR_DEF_TABLE_PC1	取引処理のデフォルト パラメータを割り当て、データ入力デフォルトを設定します。
ユーザー基本設定 - 購買ページ	OPR_DEF_TABLE_PM1	購買管理ユーザーのオプションおよび権限を定義します。
購買 - 契約プロセス ページ	OPR_DEF_CNTRCT_SEC	ユーザーのデフォルトの契約ステータスおよび実行可能アクションを指定して契約プロセスの基本設定を定義します。 「ユーザー基本設定 - 購買ページ」を参照してください。
ユーザー基本設定 - リベート権限ページ	OPR_DEF_VRBT_SEC	リベート管理者の管理権限と取引先リベート契約へのアクセス権限を定義します。
購買 - 見積依頼プロセス ページ	OPR_DEF_RFQ_SEC	購買ページの [見積依頼プロセス] リンクをクリックして、ユーザーのデフォルトの見積依頼 (RFQ) ステータスおよび実行可能アクション (RFQ の送付先となる取引先の選択権限を含む) を指定します。
ユーザー基本設定 - 買掛金オンライン伝票処理ページ	OPR_DEF_TABLE_AP1	ユーザーの伝票権限、オンライン伝票処理およびクイック請求書設定オプションを指定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
購買 - 伝票タイプ ページ	VCHR_AUTHORITY_SEC	買掛金オンライン伝票処理ページの [伝票タイプ セキュリティ] リンクをクリックして、伝票タイプ別のユーザー権限 (セキュリティ) を定義します。選択した内容に基づいて、さまざまなタイプの伝票を追加または変更するための権限がユーザーに付与されます。 [請求伝票可] チェック ボックスをオンにするには、更新/表示モードに切り替える必要があります。 「ユーザー基本設定 - 買掛金オンライン伝票処理ページ」を参照してください。
ユーザー基本設定 - 受領/取引先返品ページ	OPR_DEF_RECV_SEC	受領書と返品のユーザー基本設定を定義します。
ユーザー基本設定 - 調達依頼ユーザー権限ページ	OPR_REQ_AUTH	該当する依頼者の調達依頼書を開始および更新する権限をユーザーに付与します。該当する依頼者に対するユーザーの調達依頼書処理権限を定義します。
ユーザー基本設定 - 発注ユーザー権限ページ	OPR_PO_AUTH	該当する購買者の発注書を作成および更新する権限をユーザーに付与します。該当する購買者に対するユーザーの発注書処理権限を定義します。
購買 - サプライヤ処理権限ページ	OPR_DEF_TABLE_VND1	サプライヤ管理機能 (入力、承認、非アクティブ化) を実行する権限をユーザーに付与します。
ユーザー基本設定 - ドキュメント許容差異例外の上書きページ	OPR_DEF_DOC_TOL	ドキュメント許容差異の上書き権限をユーザーに付与します。
ユーザー基本設定 - プロモーション マネジメント ページ	OPR_DEF_TABLE_TD1	プロモーション マネジメントのデフォルトのユーザー基本設定を定義します。
ユーザー基本設定 - 売掛金データ入力 1 ページ	OPR_DEF_TABLE_AR1	ユーザーに関連するデフォルトのグループ ユニット、入金グループ ユニットおよび住所を定義します。
ユーザー基本設定 - 売掛金データ入力 2 ページ	OPR_DEF_TABLE_AR2	償却許容額と割引許容額を指定します。
ユーザー基本設定 - ストラテジック ソーシング ページ	OPR_DEF_TBL_SS	ストラテジック ソーシングのユーザー基本設定とデフォルト値を作成します。
ユーザー基本設定 - Staffing - 一般基本設定ページ	OPR_DEF_TABLE_FO1	Staffing Front Office と Pay/Bill Management の一般的なユーザー基本設定を定義します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
Staffing - 職務データ ページ	OPR_DEF_TABLE_FO2	応募者設定ページの [職務データ] セクションにデフォルトで入力する Staffing Front Office および Pay/Bill Management の値を定義します。 「Staffing 職務データ基本設定の定義」を参照してください。
ユーザー基本設定 - サプライヤ契約管理 ページ	OPR_DEF_TABLE_CS	契約ドキュメントをそのライフ サイクル全体を通して管理するためのユーザー権限を定義し、[ユーザー ID] フィールドに定義されているユーザーに許可するドキュメント管理のタイプを指定します。
ユーザー基本設定 - Maintenance Management ページ	OPR_DEF_TABLE_WM1	Maintenance Management のデフォルトの基本設定を定義します。
ユーザー基本設定 - モバイル在庫管理 ページ	MIN_USER_TASK_OPT	モバイル在庫管理のユーザー基本設定を定義します。

資産管理 - ユーザー基本設定ページ

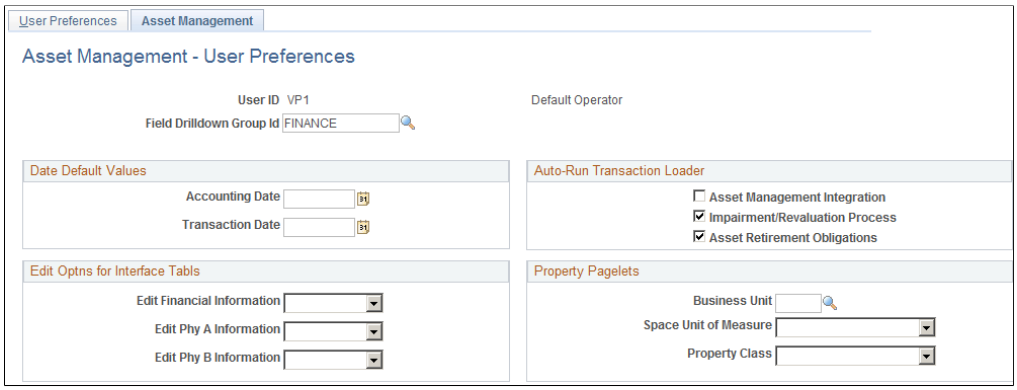
資産管理 - ユーザー基本設定ページ (OPR_DEF_TABLE_AM1) を使用して、ユーザーに対して日付デフォルト値、取引ローダー処理オプション、インターフェイス テーブルの取引編集オプションおよび固定資産ページレットのデフォルト値を設定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [資産管理], [資産管理 - ユーザー基本設定]

画像: 資産管理 - ユーザー基本設定ページ

次の例では、ユーザー基本設定 - 資産管理ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

フィールド ドリルダウン グループ ID オンライン レポート作成によってデータをフィルタする際に使用するドリルダウン グループを選択します。

日付デフォルト値

会計処理日 この取引を一般会計に配布するデフォルト日付を指定します。会計処理日は、FIN_OPEN_PERIOD テーブルで資産管理に対して設定したオープン期間に照らして検証され、転記先の期間が決定されます。取引日と会計処理日の差異に応じて、前期減価償却の計算が必要かどうかが決まります。たとえば、2006 年 3 月 15 日にコンピュータを取得し、使用開始しましたが、2006 年 8 月 1 日まで資産管理に入力しなかったものとします。8 月より前の一般会計期間は全てクローズされています。この場合、資産管理では、3 月から開始される減価償却が自動的に計算され、8 月の一般会計に転記されます。

取引日 資産取引のデフォルト日付を指定するか、このフィールドを空白にしてシステム日付を使用します。

注: 取引日は、必ず会計処理日以前の日付にする必要があります。

取引ローダーの自動実行

資産管理インテグレーション Maintenance Management 内の取引を取引ローダー プロセス (AMIF1000) に追加する場合に選択します。

減損/評価替処理 取引ローダー プロセスの実行時に常に減損/評価替処理を実行する場合に選択します。

Understanding Adjusting Transferring and Evaluating AssetsPeopleSoft Asset Management を参照してください。

資産処分債務 取引ローダー プロセス (AMIF1000) の実行時に ARO 測定ページまたは ARO 一括測定 - プロセス パラメータ ページのいずれかで [ARC 生成] ボタンをクリックしたときに、[資産処分債務] 取引処理を常に自動的に実行する場合、このオプションを選択します。

Reviewing ARO Processing ResultsPeopleSoft Asset Management を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

インターフェイス テーブル オプションの編集

経理情報の編集

資産管理の財務取引テーブルの編集権限として、このユーザーに許可する編集オプションを選択します。有効なオプションは次のとおりです。

全て: 財務取引テーブルの全てのエントリの編集をこのユーザーに許可する場合、このオプションを選択します。

日付: 財務取引テーブルの取引日と会計処理日の編集をこのユーザーに許可する場合、このオプションを選択します。

なし: 財務取引テーブルのエントリの編集をこのユーザーに一切許可しない場合、このオプションを選択します。

物理情報 A の編集

資産管理の物理 A テーブルの編集権限として、このユーザーに許可する編集オプションを選択します。有効なオプションは次のとおりです。

全て: 物理 A テーブルの全てのエントリの編集をこのユーザーに許可する場合、このオプションを選択します。

なし: 物理 A テーブルのエントリの編集をこのユーザーに一切許可しない場合、このオプションを選択します。

物理情報 B の編集

資産管理の物理 B テーブルの編集権限として、このユーザーに許可する編集オプションを選択します。有効なオプションは次のとおりです。

全て: 物理 B テーブルの全てのエントリの編集をこのユーザーに許可する場合、このオプションを選択します。

なし: 物理 B テーブルのエントリの編集をこのユーザーに一切許可しない場合、このオプションを選択します。

注: インターフェイスのステータスが *[エラー]*、*[保留]* または *[未処理]* になると、取引テーブルの編集オプションが有効になります。*[全て]* オプションが選択されていても、ロード タイプによっては編集できないフィールドもあります。たとえば、*FAD* (Financial Addition) トランザクションでは、処分に関連する売却代金や処分費用を入力できません。

プロパティ ページレット

ビジネス ユニット

ビジネス ユニットを選択します。このユーザーは、選択したビジネス ユニット内から固定資産にアクセスできるようになります。

面積の単位

ユーザーが空間配分に関する作業を行うときに使用するデフォルトの単位を選択します。有効なオプションは次のとおりです。

エーカー

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

フィート

ヘクタール

メートル

固定資産クラス

このユーザー ID を持つユーザーが固定資産に関する作業を行うときに一般に使用するデフォルトの固定資産クラスを選択します。有効なオプションは次のとおりです。

エリア

建物

フロア

サイト

スペース

ユーザー基本設定 - IT Asset Management ページ

ユーザー基本設定 - IT Asset Management ページ (OPR_DEF_TABLE_IT1) を使用して、IT Asset Management に固有のユーザー基本設定を定義します。

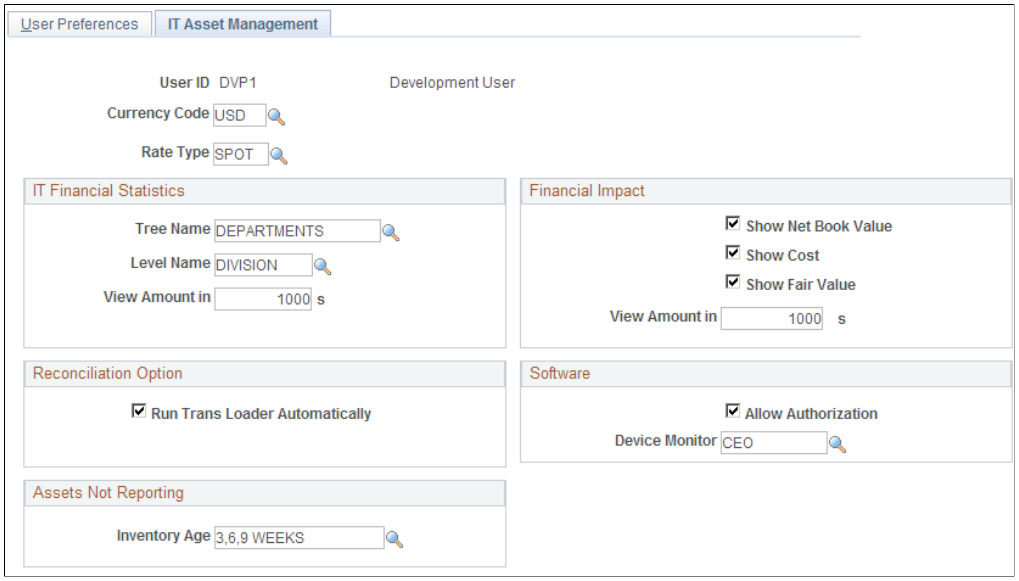
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [IT Asset Management], [IT Asset Management]

画像: ユーザー基本設定 - IT Asset Management ページ

次の例では、ユーザー基本設定 - IT Asset Management ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



通貨コード

特定のユーザーを対象として、IT Asset Management 内の財務値、統計およびレポートで使用する通貨コードを入力します。ユーザー ID レベルの通貨コードは、このユーザーに対してインストール オプション レベルで指定されている通貨コードよりも優先されます。

レート タイプ

特定のユーザーを対象として、IT Asset Management 内の財務値、統計およびレポートで使用するレート タイプを入力します。ユーザー ID レベルのレート タイプは、このユーザーに対してインストール オプション レベルで指定されているレート タイプよりも優先されます。

IT 財務統計

ツリー名

IT Asset Management 内のアプリケーション ページやレポートでユーザーが使用するデフォルト ツリーを選択します。

レベル名

IT Asset Management 内のレポートでユーザーが使用するツリー内のデフォルト ツリー レベルを選択します。

表示金額単位

ユーザー基本設定に従い、このフィールドに指定した内容に基づいて、アプリケーション内の財務統計を端数処理した金額として

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

表示する場合に選択します。このフィールドを空白にした場合、財務統計は整数として表示されます。

財務への影響

帳簿価額を表示

特定のユーザーを対象として、IT Asset Management 内のアプリケーション ページやポータル ページレットに資産の帳簿価額 (NBV) を表示する場合に選択します。NBV は、法定要件に応じた財務への影響分析に使用されます。

取得価額表示

特定のユーザーを対象として、IT Asset Management 内のアプリケーション ページやポータル ページレットに資産の基準額を表示する場合に選択します。基準額は、法定要件に応じた財務への影響分析に使用されます。

公正価値を表示

特定のユーザーを対象として、IT Asset Management 内のアプリケーション ページやポータル ページレットに資産の公正価値を表示する場合に選択します。公正価値は、法定要件に応じた財務への影響分析に使用されます。

表示金額単位

ユーザー基本設定に従い、このフィールドに指定した内容に基づいて、レポートなしの資産および例外管理ページレット内の財務への影響の金額を端数処理した金額として表示する場合に選択します。このフィールドを空白にした場合、財務への影響は整数として表示されます。

照合オプション

トランザクション ローダー自動実行

取引ローダー プロセスを自動的に実行する場合に選択します。[例外管理] で資産追加を処理する場合、追加を完了するために取引ローダーを実行する必要があります。このオプションを選択すると、取引ローダーが自動的に実行され、追加が処理されます。

ソフトウェア

承認処理を許可

ソフトウェア インベントリ ディスカバリ詳細ページに表示されるソフトウェア タイトルに対する従業員承認をユーザーに許可する場合に選択します。

デバイス モニター

ソフトウェア デバイス モニター ポータル ページレットでデフォルト値として使用するソフトウェア デバイス グループを選択します。これにより、ユーザーにデバイス グループ (エンタープライズ ソフトウェア デバイス グループ階層内) を効果的に割り当て、

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユーザーがソフトウェア デバイス モニター ページレットでそのデバイス グループを確認できるようにすることができます。

レポートなしの資産

インベントリ期間

レポートなしの資産の照会とレポートなしの資産ポータル ページレットの両方に対するデフォルトのインベントリ期間を選択します。

ユーザー基本設定 - 請求管理ページ

ユーザー基本設定 - 請求管理ページ (OPR_DEF_TABLE_BI1) を使用して、請求管理に固有のデフォルトのユーザー基本設定を定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [請求管理], [請求管理]

注: ユーザー基本設定を定義する前に、デフォルトのプロセス スケジューラ サーバーを設定する必要があります。

サーバー名

ボタンにより請求管理プロセスを実行したときにシステムで使用されるサーバーとデフォルトの出力先を選択します。

実行オプション

ボタンにより複数プロセス ジョブを開始するときに、複数プロセス ジョブと共に通貨換算、売掛金未転記のロード、事前ロード、一般会計インターフェイスのロード、コミットメント コントロール、連邦請求書フォーマット 1080 および 1081 のプロセスを実行するかどうかを決定する、ジョブ実行オプションを選択します。オプションは、次のとおりです。

ロードなし: 通貨換算、AR ロード、事前ロード、GL ロード、コミットメント コントロール、標準フォーム 1080 および 1081 を除く各プロセスをジョブで実行する場合に選択します。

印刷ロード: 通貨換算、AR ロード、事前ロード、GL ロード、コミットメント コントロール、連邦請求書フォーマット 1080 および 1081 のプロセスを含め、全てのプロセスを複数プロセス ジョブで実行する場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: コミットメント コントロール プロセスは、インストール オプション - インストール済製品ページでコミットメント コントロールを有効化している場合にのみ開始されます。
出荷時請求ジョブでは、連邦請求書フォーマット 1080 および 1081 は印刷されません。

リストの印刷

PeopleSoft 請求管理でボタンにより AR ロード、GL ロード、AP 支払伝票作成 (買掛金支払伝票作成) の各プロセスを開始したときに常に生成されるレポートの印刷を有効化します。

AR ロード、GL ロード、AP 支払伝票作成の各プロセスでは、印刷レポートの生成の有無に関係なく、サマリ情報がメッセージ ログに書き込まれます。メッセージ ログ ページで、メッセージ ログに書き込まれたサマリ情報 (特定のプロセス実行で使用された入力パラメータや処理された請求書の数など) を確認できます。

AR ロードと GL ロードのプロセス サマリ情報については、売掛金未転記アイテムのロード ページ、仕訳別会計入力 - 会計入力ページ、および請求書別会計入力 - 会計入力ページでも確認できます。

[Web]、[ファイル]、[プリンタ]

請求書の出力先が表示されます。

出力先

ファイルまたはプリンタのパスを指定します。

注: プロセス メニューからプロセスを開始した場合、請求ジョブ デフォルトは使用されません。プロセス リクエストのスケジュール ページを使用して、出力タイプと出力先を指定します。

[請求書入力]、[請求書照会]、[請求書サマリ] の各コンポーネントのボタンおよび出荷時請求テスト ページから請求管理プロセスを開始できます。

注: ボタンにより複数プロセス ジョブを実行する場合、ジョブ内の全てのプロセスを対象とした出力先を 1 つのみ指定できます。ジョブ内のプロセスごとに出力先を変えることはできません。

在庫管理では、出荷/払出 - 出庫要求サマリ ページにあるリンクをクリックして、請求管理プロセスを開始できます。プロセスを開始するときに、サーバー名や出力先などのプロセス オプションを選択できます。

単一アクション請求および出荷時請求の代替ジョブ

単一アクション請求および出荷時請求の複数プロセス ジョブは、サーバーに 1 つの単位として送信するプロセス グループで構成されます。請求管理には、単一アクション請求および出荷時請求の複数プロセス ジョブの代わりとなる代替ジョブ セットが用意されています。これらの代替ジョブでは、請求書印刷までに限って実行し、残りのプロセスは後で別途実行できます。

単一アクション請求および出荷時請求の複数プロセス ジョブの代わりとなる代替ジョブ セットには、次のプロセスは含まれていません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 通貨換算 (BICURCNV)
- 売掛金未転記アイテムのロード (AR 未転記アイテムのロード) (BILDAR01)
- 請求管理 - 事前ロード (BIPRELD)
- 一般会計インターフェイスのロード (GL インターフェイスのロード) (BILDGL01)
- 連邦請求書フォーマット SF1080 および SF1081 レポート (BISF108X)
- コミットメント コントロール予算プロセッサ (FSPKBDP3)

単一アクション請求および出荷時請求ジョブとそれに対応する代替ジョブ

次の表には、特定のプロセスを含む複数プロセス ジョブと、これに対応する、プロセスを含まない代替ジョブがリストされています。

BICURCNV、BILDAR01、BIPRELD、BILDGL01、FSPKBDP3 および BISF108X を含む複数プロセス ジョブ	***関連ページ***	***BICURCNV、BILDAR01、BIPRELD、BILDGL01、FSP および BISF108X を含まない代替ジョブ***
DIRCTIVC	出荷/払出ページ	DIRCTIV2
BIDIRIVC	出荷時請求テスト ページ	BIDIRIV2
BIINIU	出荷/払出ページ	BIINIU2
BIJOB03、BIJOB03K	請求書入力、請求書照会、請求書サマリの各ページ	BIJOB08

注: BIJOB03K にコミットメント コントロールが含まれるのは、コミットメント コントロールをインストール レベルで有効化している場合のみです。

通貨コード ビジネス ユニットに関連しない機能のデータを入力するときに使用されるデフォルトの通貨コードが表示されます。たとえば、累計、請求管理チャージ コード、割引/割増 ID などの機能が当てはまります。

製品ドキュメントの*『PeopleTools: PeopleSoft Process Scheduler』*を参照してください。

関連リンク

を参照してください。

ユーザー基本設定 - 契約管理ページ

ユーザー基本設定 - 契約管理ページ (OPR_DEF_TABLE_CA1) を使用して、契約管理に固有のデフォルトのユーザー基本設定を定義します。

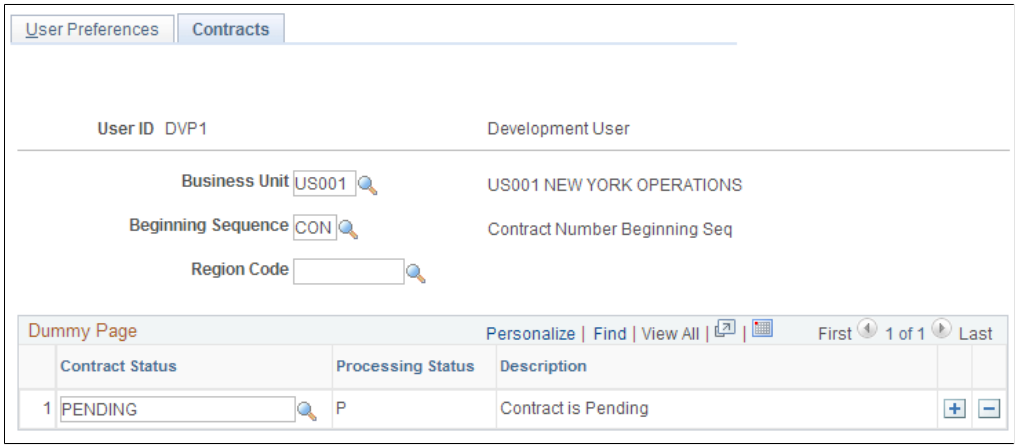
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [契約管理], [契約管理]

画像: ユーザー基本設定 - 契約管理ページ

次の例では、ユーザー基本設定 - 契約管理ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



注: 契約ステータス セキュリティを有効化している場合、このユーザーに設定を許可する契約ステータスの一覧を定義する必要があります。

ビジネス ユニット

契約処理ページでのデータ入力を最小限に抑えるために、このユーザーが頻繁に使用するデフォルトの契約管理ビジネス ユニットを選択します。

開始連番

このユーザー向けにシステムによって生成される契約番号のプレフィックスとして使用する 3 文字の値を選択します。たとえば、西部地域の契約の場合、先頭に *WES* を付けることができます。

地域コード

このユーザー向けに新規契約を設定するときに使用するデフォルトの地域コードを選択します。契約管理では、地域コードを使用して契約を地域別 (東部、西部、北部、南部など) に分類できます。契約管理における地域コードは単なる情報です。

契約ステータス承認

契約ステータス

契約管理定義 - ビジネス ユニット定義ページで契約ステータス セキュリティを適用するように指定した場合、このユーザーに変更を許可する契約ステータスの一覧を定義します。契約ステータス セキュリティが有効化されている場合、このユーザーが変更可能な契約ステータスがここで指定する値に制限されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

	このユーザーに変更を許可する契約ステータスを選択してください。
処理ステータス	契約ステータスを選択すると、その契約ステータスがマッピングされている処理ステータスが表示されます。
説明	契約ステータスの説明が表示されます。

ユーザー基本設定 - 一般会計ページ

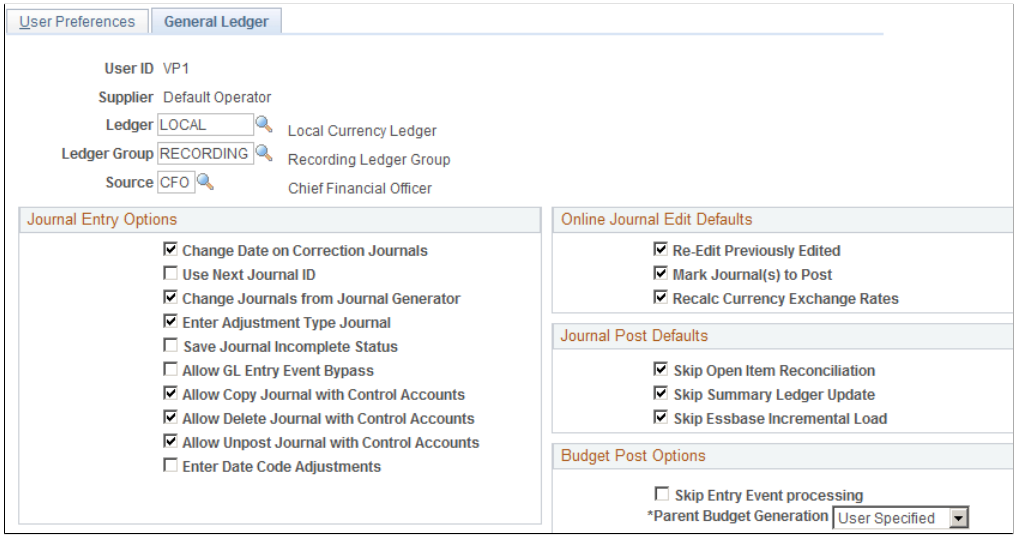
ユーザー基本設定 - 一般会計ページ (OPR_DEF_TABLE_GL1) を使用して、一般会計のユーザー デフォルトを設定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [一般会計], [一般会計]

画像: ユーザー基本設定 - 一般会計ページ

次の例では、ユーザー基本設定 - 一般会計ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



ユーザー デフォルトとして使用する元帳、元帳グループおよびソースを選択します。

仕訳入力オプション

修正仕訳の日付変更	修正仕訳 (仮計上仕訳修正ページ上) の仕訳日付を変更する場合に選択します。
次の仕訳 ID 使用	このユーザー ID を、次の仕訳 ID (オンライン仕訳入力で自動入力された) に制限する場合に選択します。このオプションを選

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

択すると、このユーザー ID に対して [仕訳 ID] フィールドが使用不可になり、ユーザーは仕訳 ID を手動で入力できなくなります。

仕訳ジェネレータから仕訳変更

仕訳ジェネレータ プロセスによって作成された仕訳について、仕訳入力ページにおけるチャートフィールドと金額の更新を特定のユーザーに許可する場合に選択します。

警告 [仕訳ジェネレータの仕訳を変更] を選択してから、チャートフィールドの値を変更し、仕訳を再編集する場合、サブシステム データと一般会計データの間で矛盾が生じる可能性があります。また、コミットメント コントロールをサポートするサブシステムに対して生成された仕訳の場合、チャートフィールドの値や金額が変更されていても、仕訳により予算が再チェックされることはありません。

調整タイプ仕訳入力

台帳コード調整タイプ仕訳の入力を特定のユーザーに許可する場合に選択します。

注: このオプションは、[調整入力] 機能ではなく、[台帳コード] 機能で使用されます。

仕訳未完了ステータスを保存

特定のユーザーに対してこのオプションを選択すると、そのユーザーが新規仕訳を追加するときに、選択したオプションが各種仕訳入力オプションの仕訳ヘッダー ページに表示されます。このオプションを選択することで、ユーザーが未完了ステータスの仕訳入力トランザクションを保存できるようになり、完了するまで編集や転記は禁止されます。

注: このオプションはデフォルト オプションです。選択解除しても、ヘッダーのオプションが非表示になるわけではありませんが、ユーザーはデフォルトの仕訳ヘッダー ステータスを未完了に設定できなくなります。

GL 入力イベント省略可

インストール オプション - 入力イベント ページで入力イベントを必須にした場合でも、PeopleSoft 一般会計の仕訳入力で入力イベントの選択を省略できるようにする場合に選択します。

コントロール勘定のある仕訳のコピーの許可

コントロール勘定のある仕訳のコピーを許可する場合に選択します。これはオンラインまたはバッチ仕訳コピーに適用されます。

コントロール勘定のある仕訳の削除の許可

コントロール勘定のある仕訳の削除を許可する場合に選択します。これはオンラインまたはバッチ仕訳削除に適用されます。

コントロール勘定のある仕訳の転記取消の許可

コントロール勘定のある仕訳の転記取消を許可する場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: 勘定科目は、勘定科目ページでコントロール勘定として指定され、一般に、PeopleSoft によって一般会計に転記される、供給アプリケーション (PeopleSoft 買掛金管理など) からの詳細の要約を表します。目的は、これらの勘定科目を仕訳ジェネレータか、スプレッドシートまたはサードパーティ システムからのロードプロセスによってのみ更新できるようにし、勘定科目への手動転記を禁止することにより、一般会計と補助元帳の照合に使用されるコントロール残高を変更することです。前述のオプションを選択して一般会計でコントロール勘定への転記を許可した場合、補助元帳のコントロール勘定残高と一般会計のコントロール勘定残高が一致しなくなる可能性があることに留意してください。

日付コード調整入力

仕訳入力の日付コード調整の入力をユーザーに許可する場合に選択します。日付コードは、[日付コード調整入力] チェック ボックスをオンにしたユーザーに対してのみ仕訳行に表示されます。

日付コード調整の入力をユーザーに許可し、元帳グループに対して日付コードを有効化している場合、ユーザーは仕訳入力 - ヘッダー ページで仕訳入力に日付コード調整のフラグを設定できます。

オンライン仕訳編集デフォルト

前回編集済仕訳の再編集

有効と指定されている仕訳を再編集する場合に選択します。このオプションを選択解除した場合、仕訳入力ページで [編集] ボタンをクリックして仕訳編集を実行するときに、有効な仕訳は再編集されません。

注: PeopleSoft 一般会計では、仕訳入力ページで [編集] ボタンをクリックして仕訳を編集するときには常にこれらのデフォルト値が使用されます。

転記仕訳指定

有効な仕訳のプロセス リクエスト ステータスを [転記] に指定する場合に選択します。このオプションを選択解除した場合、バッチ仕訳を転記対象として指定できなくなります。

注: ユーザーが仕訳入力 - 行ページからオンライン転記を行う場合は、このオプションの選択の有無に関係なく転記が許可されることに留意してください。

為替レート再計算

仕訳行レベルで外貨換算を再処理する場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

仕訳転記デフォルト

仮勘定照合を省略

オンライン仕訳転記プロセス中に特定のユーザー ID の仮勘定を省略し、ユーザーが後で仮勘定管理ページを使用して仮勘定を照合できるようにする場合に選択します。

要約元帳の更新を省略

オンライン仕訳転記プロセス中に特定のユーザー ID の要約元帳更新を省略する場合に選択します。

Essbase 増分ロードのスキップ

オンライン仕訳転記プロセス中に特定のユーザー ID の Essbase 増分ロードを省略する場合に選択します。

予算転記オプション

入力イベント処理省略

入力イベント プロセッサにより入力イベントを生成することなく、仕訳入力または配賦に関連する予算を転記することを特定のユーザーに許可する場合に選択します。このような状況は、入力イベント処理が正しいのにトランザクションでエラーが発生した場合に生じます。

親予算作成

子予算仕訳の転記時に親予算への影響を作成することを特定のユーザーに許可する場合に選択します。このオプションにより、コミットメント コントロール - 予算仕訳 - 予算仕訳入力 - 予算ヘッダー ページの [親予算作成] オプションの動作が決まります。使用可能なオプションは次のとおりです。

- *常に作成:* 親予算への影響を常に作成する場合、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、予算ヘッダー ページの [親予算作成] オプションも選択され、フィールドが無効化されて変更不可になります。
- *作成しない:* 親予算への影響を作成しない場合、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、予算ヘッダー ページの [親予算作成] オプションが選択解除され、フィールドが無効化されて変更不可になります。
- *ユーザー指定:* 親予算への影響を作成するかどうかを予算仕訳ごとに指定する場合、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、予算ヘッダー ページの [親予算作成] オプションが選択可能になります。

関連リンク

仕訳ジェネレータについて

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユーザー基本設定 - 在庫管理ページ

ユーザー基本設定 - 在庫管理ページ (OPR_DEF_TABLE_IN1) を使用して、在庫管理ユーザーの基本設定を定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [在庫管理], [在庫管理]

受注キー デフォルト

在庫管理で受注キーのプロンプトに使用するデフォルト値を入力します。

需要ソース

需要ソースを選択します。オプションは、インストールしているPeopleSoft アプリケーションに応じて異なります。候補は次のとおりです。

IN: 資材出庫要求 (在庫管理から)。

OM: 受注 (受注管理から)。

PL: 生産計画からの調達依頼 (供給計画から)。

PO: (未使用)。

PR: 購買管理からの調達依頼 (購買管理から)。

RT: 取引先返品リクエスト (購買管理から)。

SF: 工場からの生産要求 (生産管理から)。

WM: 作業指示。

ソース ビジネス ユニット

需要のソースとなるビジネス ユニットです。

自動採番

[資材出庫要求開始連番]、[受領書開始連番]

自動採番を使用して出庫要求およびアイテム番号を管理する場合、値を入力します。

格納デフォルト

アイテムに自動格納を設定

在庫管理に用意されている自動格納機能を使用する場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

スケジュール プロセス デフォルト

サーバー名 プロセス スケジューラではなく在庫管理ページから自動的にプロセスを開始するときに使用されるデフォルト サーバーです。

関連リンク

Understanding Receiving and Putaway ProcessingPeopleSoft Inventory

Lease Administration - ユーザー基本設定ページ

ユーザー基本設定 - Lease Administration ページ (RE_OPR_DFLTS) を使用して、Real Estate Management ユーザーのデフォルトのリース管理基本設定を定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [Lease Administration], [Lease Administration - ユーザー設定]

Lease Administration ページにアクセスします ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[共通定義]、[ユーザー基本設定]、[ユーザー基本設定の定義]、[Lease Administration]、[Lease Administration - ユーザー設定])。

画像: Lease Administration - ユーザー基本設定ページ

次の例では、Lease Administration - ユーザー基本設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このページに入力する情報は、ページ上部に指定されている特定のユーザー ID にのみ適用されます。デフォルト値を選択することでデータ入力を最小限に抑えることができます。

ビジネス ユニット リースを作成し、ページレットを表示するときにデフォルトで使用するビジネス ユニットを選択します。

通貨 リースを作成し、ページレットを表示するときにデフォルトで使用する通貨を選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

地域 新しいリースを作成し、ページレットを表示するときにデフォルトで使用する地域を選択します。

ユーザー基本設定 - 生産管理ページ

ユーザー基本設定 - 生産管理ページ (OPR_DEF_TABLE_MG1) を使用して、ユーザー ID 別にデフォルト サーバーを管理します。

ピッキング計画および自動資材リリースの更新プロセス (SFCONREL) を実行するようにデフォルト サーバーを設定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [生産管理]

サーバー名 ピッキング計画および資材リリースの更新プロセス (SFCONREL) を実行するデフォルト サーバーを選択します。このプロセスはサーバーでのみ実行できます。生産ピッキング計画をレビューするときには、ピッキング計画を確認した後で必要に応じて資材をリリースできます。

関連リンク

Creating and Processing Picking PlansPeopleSoft Manufacturing
Creating and Processing Picking PlansPeopleSoft Manufacturing

ユーザー基本設定 - 受注 - 販売ページ

ユーザー基本設定 - 受注 - 販売ページ (OPR_DEF_TABLE_OM1) を使用して、受注情報を入力するユーザーのビジネス ユニット、受注ソースおよび受注グループのデフォルト値を設定します。

受注の開始連番コードを指定することもできます。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [受注 - 販売]

受注デフォルト

ユーザー ID に対して受注関連のデフォルト オプションを選択します。

受注管理ユニット 受注に対してデフォルトで使用するビジネス ユニットを指定します。

デフォルト受注ソース コード ユーザーに対して受注のソースを指定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

開始連番 受注番号のデフォルトのプレフィックスを選択します。

デフォルト受注数量 受注に対してデフォルトで使用する受注数量を指定します。

出荷元の在庫管理ユニット 受注が通常はピッキングされる在庫管理ビジネス ユニットを選択します。このオプションは、顧客が特定の場所に来て該当のオーダーを受け取る店頭販売環境に使用します。

キャッシュ ドロア ID ユーザーが使用することになるキャッシュ ドロアを選択します。

価格調整理由 価格調整の理由コードを選択します。このオプションは、調整が必要な製品ごとにユーザーが毎回コードを入力しなくても済むように、マージン調整の理由コードをデフォルト設定する場合に使用します。

受注オーナー 受注のオーナーを選択します。このフィールドは店頭販売用です。

受注表示

このセクションは、受注入力時の情報の初期表示形式 (ビジネス ユニットのデフォルトに基づく) を示します。

顧客住所 *初期*: 顧客住所は、新しい受注ヘッダーを入力するか、追加ページまたは検索ページから既存の受注ヘッダーを表示する場合にのみ、受注ヘッダー ページに表示されます。

[ヘッダー サマリ]、[ヘッダー情報領域]、[購買履歴領域]、[価格サマリ領域]、[受注サマリ]、[マージン調整]、[行エクスプレス入力タブ]、[請求先領域]、[請求先顧客オプション]、[販売先領域]、[販売先顧客オプション]、[出荷先領域]、[出荷先顧客オプション]、[行のフィルタ]、[行のアクション]

情報表示を受注入力フォーム ページの指定領域にデフォルトで移動する場合に選択します。受注入力時には、領域を必要に応じて展開したり折りたたむことができます。オプションは、次のとおりです。

折りたたむ: セクションは折りたたみモードで表示されます。

デフォルト: [ヘッダー サマリ]、[ヘッダー情報領域]、[価格サマリ]、[受注書サマリ]、[行エクスプレス入力タブ]、[請求先領域]、[販売先領域]、[出荷先領域]、[行のアクション] は、展開モードで表示されます。[購買履歴領域]、[マージン調整]、[請求先顧客オプション]、[販売先顧客オプション]、[出荷先顧客オプション]、[行のフィルタ] は、折りたたみモードで表示されます。

展開: セクションは展開モードで表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユーザー基本設定 - 支払サイクル ページ

ユーザー基本設定 - 支払サイクル ページ (OPR_DEF_TBL_PYCYCL) を使用して、支払サイクル マネージャおよびエクスプレス支払マネージャ コンポーネント (それぞれ PYCYCL_MGR および EXP_PYCYCL_MGR) のデフォルトの出力先を定義します。

支払サイクル処理を実行する際には、これらのデフォルト値は不要です。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [支払サイクル]

出力先

サーバー ファイル パス ファイルのデフォルトの出力先を入力します。サーバー ファイル パスを指定する際にメタ文字列 (%%OutputDirectory%% など) は使用できません。フル ディレクトリ パスを指定し、その後に円記号を付加する必要があります (C:\TEMP\ など)。

サーバーの出力先プリンタ デフォルトの出力先プリンタを入力します。

サーバー サーバーを選択します。

電子メール ID (ファイナンシャル ゲートウェイ統合の電子メール通知用) 支払エラー通知用の受信者電子メール アドレスを指定します。このフィールドは 70 文字に制限されています。

複数の電子メール アドレスをカンマ (,) で区切って入力できます。これは次のような状況で役立ちます。

- 複数のユーザーが同じユーザー ID を共有する場合。
- 1 人のユーザーが複数の電子メール アドレスを保有している場合。

注: これらのデフォルト値を指定しなかった場合、支払サイクル マネージャおよびエクスプレス小切手コンポーネント (それぞれ PYCYCL_MGR および PYMNT_EXPRESS) から開始されたレポート プロセスごとに出力先の入力が必要になります。

関連リンク

Understanding Pay Cycle ProcessingPeopleSoft Payables

ユーザー基本設定 - 供給計画ページ

計画ページ (OPR_DEF_TABLE_PL1) を使用して、デフォルトのプランニング インスタンスを選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プランニング インスタンスとは、供給計画の入力および出力となる一連のデータ (ビジネス ユニット、アイテム、供給および需要) です。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [計画]

計画ページにアクセスします ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[インストール]、[インストール オプション]、[計画])。

デフォルト プランニング インスタンス	ユーザーのデフォルト プランニング インスタンスが表示されます。プランニング インスタンスとは、供給計画の入力および出力となる一連のデータ (ビジネス ユニット、アイテム、供給および需要) です。
オーダー キー区切文字	[供給計画] グリッドの受注および見積の行番号、スケジュール番号、キット番号を含む単一フィールドの表示フォーマットに使用される文字が表示されます。

ユーザー基本設定 - プロジェクト コスト管理ページ

ユーザー基本設定 - プロジェクト コスト管理ページ (OPR_DEF_TABLE_PC1) を使用して、取引処理のデフォルト パラメータを割り当て、データ入力デフォルトを設定します。

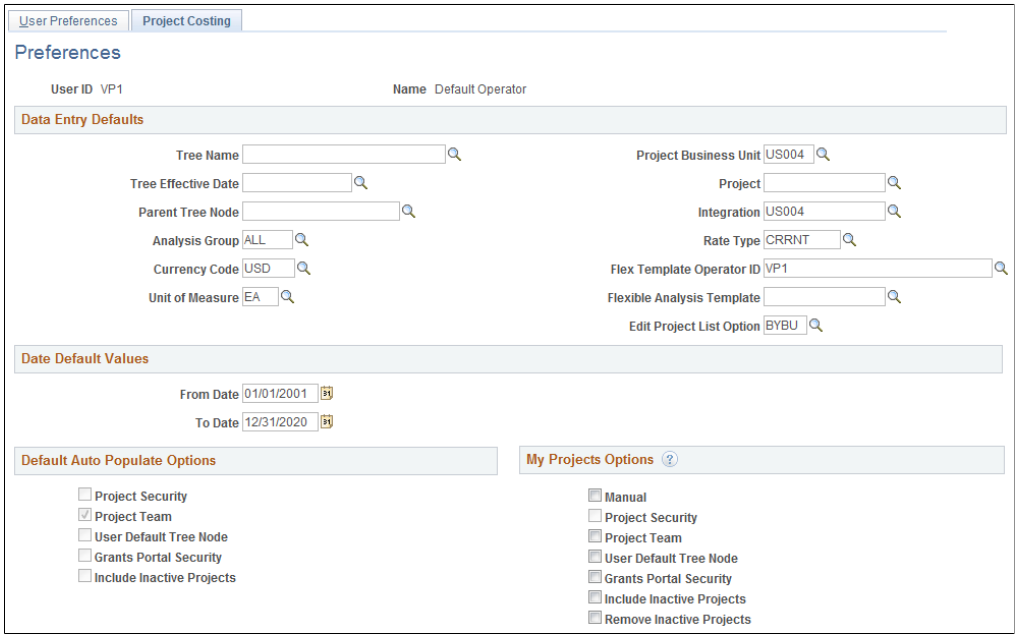
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [プロジェクト コスト管理]

画像: ユーザー基本設定 - プロジェクト コスト管理ページ

次の例では、ユーザー基本設定 - プロジェクト コスト管理ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



このページに入力する情報は、ページ上部に指定されている特定のユーザー ID にのみ適用されます。デフォルト値を選択することでデータ入力を最小限に抑えることができます。

データ入力デフォルト値

[ツリー名]、[ツリー有効日]、[親ツリー ノード] プロジェクトをツリーに割り当てるときにデフォルトで表示される値を入力します。

プロジェクト ビジネス ユニット プロジェクト コスト管理アプリケーションのプロジェクト ビジネス ユニット検索フィールドにデフォルトで表示される値を入力します。

プロジェクト プロジェクト検索フィールドにデフォルトで表示される値を入力します。

インテグレーション プロジェクトの作成時にプロジェクト定義 - 一般情報ページの [インテグレーション] フィールドにデフォルトで表示されるインテグレーション テンプレートを入力します。

分析グループ 取引リスト ページで取引を検索するときにデフォルトで表示される値を入力します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

レート タイプ

取引追加ページを使用して取引を追加し、ビジネス ユニットの入力取引レート タイプが *[ソース]* である場合にデフォルトで使用される換算レートを入力します。

通貨コード

取引追加ページを使用して取引を追加するときに [ソース通貨] フィールドにデフォルトで表示される値を入力します。

フレックス分析テンプレート

フレックス分析ページにフレックス分析データをどのように表示するかを指定するデフォルト テンプレートを入力します。

プロジェクト リスト編集オプション

担当プロジェクト ページに選択用のプロジェクトをどのように表示するかを指定するオプションを選択します。使用可能なオプションは次のとおりです。

BYBU: ビジネス ユニット別。

BYTR: プロジェクト ツリー別。

日付デフォルト値

[開始日]、[終了日]

取引を検索するときにデフォルトで表示される日付範囲を入力します。

デフォルト自動ロード オプション

このセクションを使用して、インストール オプション - プロジェクト コスト管理ページで選択されている自動ロード オプションを確認します。このセクションは、[担当プロジェクト設定] フィールドで *[自動ロード、上書き可]* が選択されている場合にのみ表示されます。このセクションは表示専用であり、ユーザーがインストール レベルのオプションを上書きするかどうかを判断しやすくする目的で用意されています。インストール レベルのオプションを上書きするには、ページの [担当プロジェクト オプション] セクションを使用します。

担当プロジェクト オプション

このセクションを使用して、ユーザーに対して自動ロード オプションを選択し、インストール レベルのオプションを上書きします。このセクションは、[担当プロジェクト設定] フィールドで *[自動ロード、上書き可]* が選択されている場合にのみ表示されます。

- *手動*: プロジェクト リストを手動で管理する場合に選択します。選択した場合、担当プロジェクトのロード プロセスにおいて、このユーザー ID が無視され、このセクション内の他の全てのオプションが使用不可になります。
- プロジェクト セキュリティ: 担当プロジェクトのロード プロセスにおいて、プロジェクト セキュリティが有効になっている場合に、ユーザーがアクセス権限を持つプロジェクトが担当プロジェクト リストに追加されるようにする場合に選択します。
- *プロジェクト チーム*: 担当プロジェクトのロード プロセスにおいて、ユーザーがチーム メンバーとして属する全てのプロジェクトが担当プロジェクト リストに追加されるようにする場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *ユーザーのデフォルト ツリー ノード*: 担当プロジェクトのロード プロセスにおいて、ユーザーの基本設定で指定されているデフォルト ツリー ノード下の全てのプロジェクトが担当プロジェクト リストに追加されるようにする場合に選択します。
- *Grants ポータル セキュリティ*: 担当プロジェクトのロード プロセスにおいて、[Grants ポータル セキュリティ - プロジェクト レベル] 設定に基づいてユーザーがアクセス権限を持つ全てのプロジェクトがプロジェクト リストに追加されるようにする場合に選択します。

  このオプションは、Grants がインストール済製品である場合にのみ使用できます。
- *非アクティブなプロジェクトを含める*: 非アクティブなプロジェクトをプロジェクト リストに含める場合に選択します。

  非アクティブなプロジェクトはデフォルトでは表示されません。
- *非アクティブなプロジェクトを削除*: 担当プロジェクトのロード プロセスにおいて、非アクティブなプロジェクトをプロジェクト リストから削除する場合に選択します。

  このオプションと *[非アクティブなプロジェクトを含める]* オプションは矛盾するため、一緒に選択することはできません。

ユーザー基本設定 - 購買ページ

ユーザー基本設定 - 購買ページ (OPR_DEF_TABLE_PM1) を使用して、購買管理ユーザーのオプションおよび権限を定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [購買]

所在地 リクエストされたアイテムを取引先から受け取る際のデフォルトの配送場所を入力します。

オリジン このユーザーの PO のデフォルト オリジンを入力します。オリジンはレポート作成目的で使用されます。

依頼者 このユーザーが調達依頼の入力を代行できる依頼者の名前を入力します。

購買者 このユーザーが PO の入力を代行できる購買者の名前を入力します。

ユーザー基本設定 - 契約プロセス ページ

ユーザー基本設定 - 購買 - 契約プロセス ページ (OPR_DEF_CNTRCT_SEC) を使用して、ユーザーのデフォルトの契約ステータスおよび実行可能アクションを指定して契約プロセスの基本設定を定義します。

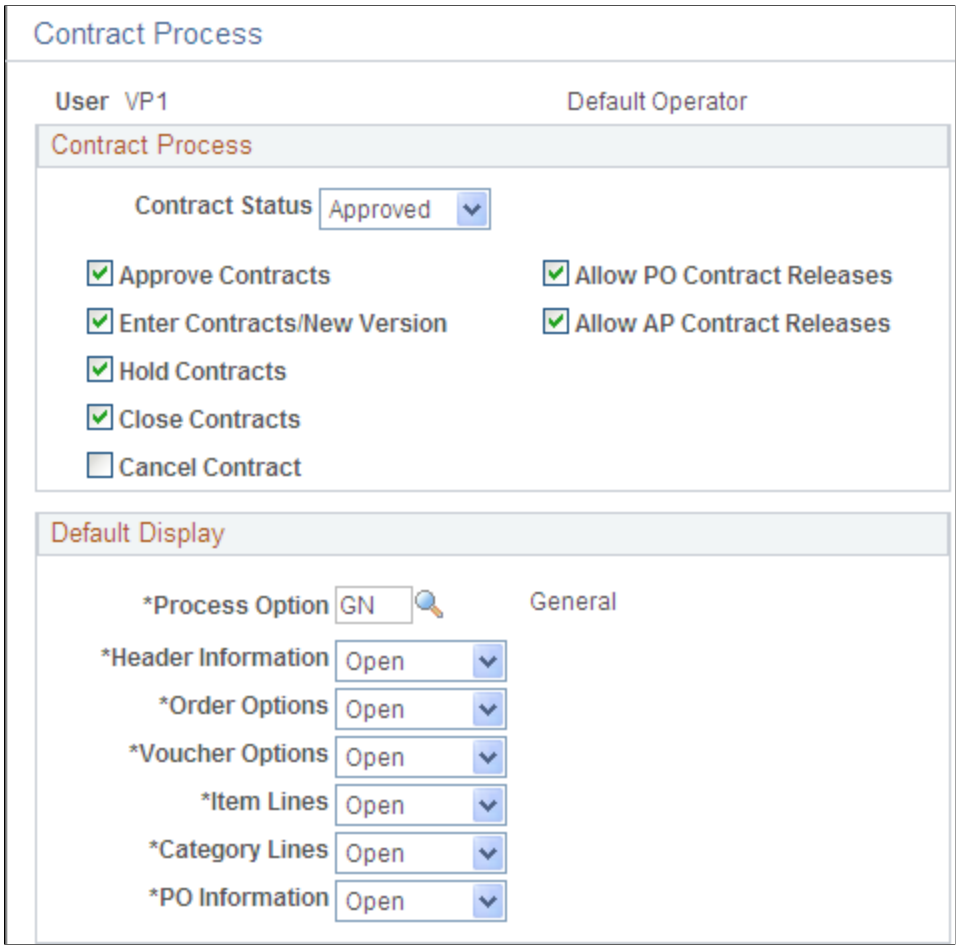
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

ユーザー基本設定 - 購買ページの [契約プロセス] リンクをクリックします。

画像: ユーザー基本設定 - 購買 - 契約プロセス ページ

次の例では、購買 - 契約プロセス ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このページを使用して、ユーザーのデフォルトの契約ステータスおよび実行可能アクションを指定し、契約ページの折りたたみ可能領域の初期表示形式を定義します。

契約プロセス

契約ステータス このユーザーが契約をオープンするときのステータスを選択します。ユーザーが契約を作成するときに、ここで選択する値に基づくステータスがデフォルトで表示されます。

契約の承認 ユーザーに購買契約の承認権限を付与する場合に選択します。

PO 契約リリース可 (発注契約リリース可) ユーザーに発注契約のリリース権限を付与する場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

契約の入力/新規バージョン ユーザーに契約および新規契約バージョンの作成権限を付与する場合に選択します。

AP 契約リリース可 (買掛金契約リリース可) ユーザーに買掛金契約のリリース権限を付与する場合に選択します。

契約の保留 ユーザーに購買契約の保留権限を付与する場合に選択します。

契約のクローズ ユーザーに購買契約のクローズ権限を付与する場合に選択します。

契約のキャンセル ユーザーに購買契約のキャンセル権限を付与する場合に選択します。

表示オプション

このグリッドを使用して、契約ページの折りたたみ可能領域の初期表示形式を定義します。このページで指定する表示設定に従って、グループ ボックスの展開/折りたたみが切り替えられます。グループ ボックスは契約プロセス タイプに基づいて表示されます。したがって、たとえば、プロセス タイプが [前払伝票] の契約に表示オプションを適用した場合、[ヘッダー]、[金額サマリ] および [アイテムの追加] グループ ボックスしか展開/折りたたみの対象になりません。

プロセス オプション このユーザーに対して設定する契約プロセス オプションを選択します。契約プロセス オプションを選択することにより、契約のライフ サイクル全体を通して使用する特定の契約プロセスを指定できます。

[ヘッダー情報]、[発注オプション]、[伝票オプション]、[アイテム行]、[カテゴリ行]、[発注情報] このユーザーに対して適用するグループ ボックス オプションを選択します。選択する値によって、契約ページのグループ ボックスの初期表示形式が決まります。グループ ボックスに有効な値は次のとおりです。

- *折りたたむ:* ユーザーが契約ページに最初にアクセスしたときにグループ ボックスを折りたたむ (非表示にする) 場合に選択します。
- *展開:* ユーザーが契約ページに最初にアクセスしたときにグループ ボックスを展開する (開く) 場合に選択します。

ユーザー基本設定 - リベート権限ページ

ユーザー基本設定 - 購買 - リベート権限ページ (OPR_DEF_VRBT_SEC) を使用して、リベート管理者の管理権限と取引先リベート契約へのアクセス権限を定義します。

ナビゲーション

ユーザー基本設定 - 購買ページの [リベート権限] リンクをクリックします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

リベート契約のデフォルト値

リベート契約ステータス 取引先リベート契約を作成する際のリベート管理者向けのデフォルト ステータスを選択します。ステータスは、*[承認]* および *[オープン]* です。

実行可能なリベート契約アクション

リベート管理者に許可する特定のアクションの横にあるチェック ボックスをオンにします。

リベート管理者アクセス

アクセス制限がないリベート管理者 このチェック ボックスはデフォルトではオフになっています。このリベート管理者に全ての取引先リベート契約への無制限アクセスを許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。この管理者は、全ての取引先リベート契約を表示、変更 (選択された全てのアクションの実行)、処理および分析できます。

詳細については、*『PeopleSoft Purchasing: Defining Supplier (Vendor) Rebate Agreements』*を参照してください。

ユーザー基本設定 - 買掛金オンライン伝票処理ページ

ユーザー基本設定 - 購買 - 買掛金オンライン伝票処理ページ (OPR_DEF_TABLE_AP1) を使用して、ユーザーの伝票権限、オンライン伝票処理およびクイック請求書設定オプションを指定します。

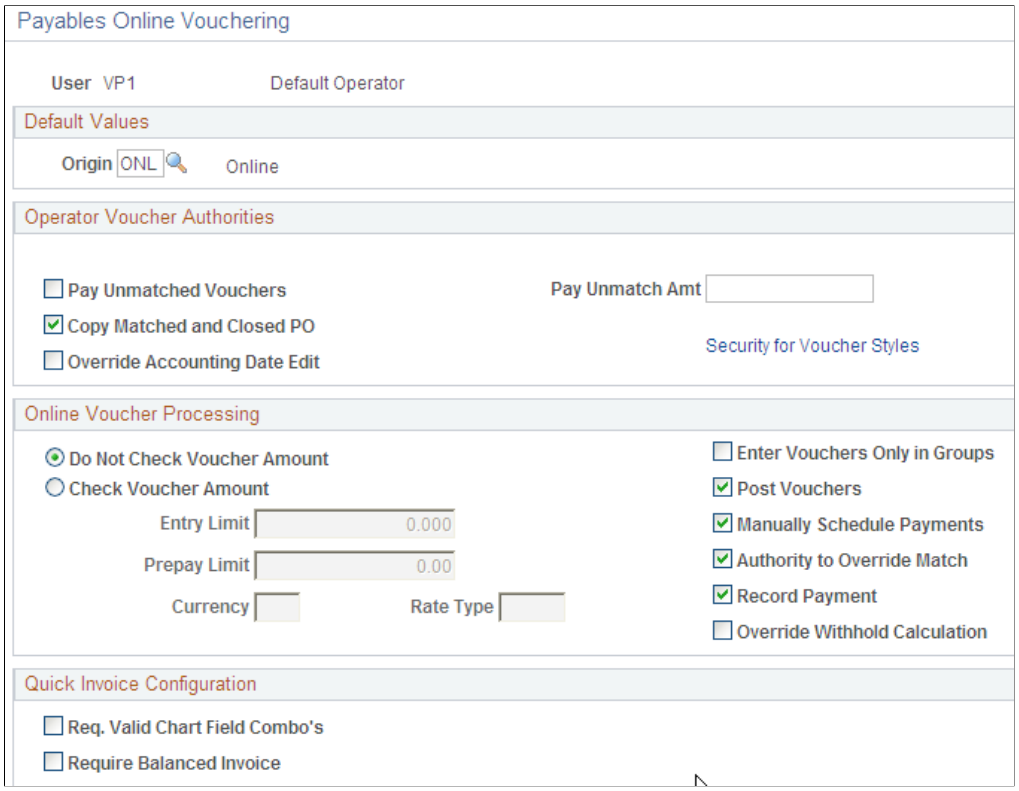
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

ユーザー基本設定 - 購買ページの [買掛金オンライン伝票処理] リンクをクリックします。

画像: 購買 - 買掛金オンライン伝票処理ページ

次の例では、購買 - 買掛金オンライン伝票処理ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



オリジン

このユーザーの支払伝票オリジンを選択します。このユーザーが入力する全ての支払伝票にこのオリジンがタグ付けされ、このオリジンの処理設定に基づいて支払伝票が処理されます。

[マッチしない伝票の支払]、[支払限度額]

[支払限度額] フィールドで指定する上限金額にマッチしていない支払伝票の支払権限をユーザーに付与する場合、[マッチしない伝票の支払] を選択します。権限を付与されたユーザーは、伝票コンポーネント (VCHR_EXPRESS) の伝票属性ページで [マッチしない伝票の支払] チェック ボックスをオンにし、支払サイクル アプリケーション エンジン プロセス (AP_APY2015) でその支払伝票が選択されるようにする必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

	注: [マッチしない伝票の支払] オプションを選択した場合、マッチング ステータス (MATCH_STATUS_VCHR) が *T* (予定)、*E* (例外)、*D* (未解決)、*O* (上書き) および *C* (貸方メモ) の支払伝票が支払可能になります。 [マッチしない伝票の支払] オプションを選択しなかった場合、マッチング ステータスが *M* (マッチ済) または *N* (マッチなし) の支払伝票のみが支払可能です。
マッチングとクローズ済POのコピー (マッチングとクローズ済発注のコピー)	マッチ済 PO とクローズ済 PO のコピーをユーザーに許可する場合に選択します。
	注: ユーザー基本設定でこのオプションが選択されていて、作成する支払伝票中で参照する PO にマッチ済行 (以前の支払伝票でも同じ PO が参照されていたため) とマッチしない行の両方が含まれている場合、この PO を支払伝票にコピーするときに、マッチ済 PO 行は金額と数量がどちらもゼロの状態でコピーされます。
会計処理日編集を上書き	購買会計処理コントロール - 一般管理ページにおける会計処理日編集オプションの上書きをユーザーに許可する場合に選択します。
伝票タイプ セキュリティ	クリックすると、伝票タイプ ページにアクセスし、該当するチェック ボックスをオンにして伝票タイプごとにユーザー権限を定義できます。
[支払伝票金額チェックなし]、[支払伝票金額チェック]	これらのオプションのいずれかを選択して、オンライン支払伝票入力時に支払伝票総額に対する編集を実行するかどうかを指定します。
入力限度額	[支払伝票金額チェック] を選択した場合、このユーザーに対して支払伝票入力限度額を指定します。入力限度額を指定する場合、その通貨とレート タイプも指定する必要があります。
前払限度額	このユーザーに支払伝票前払の権限がある場合、ユーザーが入力できる各前払の上限金額を指定できます。前払の通貨とレート タイプも指定する必要があります。
通貨	入力限度額または前払限度額の通貨を指定します。
レート タイプ	支払伝票への入力に使用される取引通貨に換算するためのレート タイプを指定します。
グループ単位で伝票入力	コントロール グループ情報ページに定義されているコントロール グループ ID に関連付けられている支払伝票の入力のみを許可する場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

支払伝票転記

承認済伝票の転記をユーザーに許可する場合に選択します。

マニュアル支払管理

支払の手動スケジュールをユーザーに許可し、システムの自動支払スケジュールを上書きできるようにする場合に選択します。このオプションを選択しない限り、ユーザーは伝票 - 支払ページでスケジュール済支払情報を変更できません。

マッチング省略可

支払伝票のマッチング ステータスの上書きをユーザーに許可する場合に選択します。支払伝票でマッチングが必要な場合、ユーザーは支払伝票のマッチング ステータスを *[適用不可]* に変更する権限を持っています。

また、マッチング アプリケーション エンジン プロセス (AP_MATCH) の実行時にマッチング例外またはエラーが発生した場合、ユーザーはマッチング例外を上書きできます。例外の上書き時に、ユーザーはマッチング プロセスを再実行でき、それにより、支払伝票のマッチング ステータスが *[マッチ済]* に更新されます。

注: マッチング プロセスでは、[マッチング省略可] オプションを選択していない場合でも、ユーザーに対して例外のワークフロー通知が生成されます。ただし、ユーザーはマッチング ステータスを上書きできません。

支払情報記録

支払伝票の支払情報の手動記録をユーザーに許可する場合に選択します。このオプションを選択解除した場合、ユーザーは伝票コンポーネントの支払ページで支払アクションとして *[レコード]* を指定できなくなります。

注: 支払伝票の支払情報を記録できるようにするには、[マニュアル支払管理] オプションも選択する必要があります。

源泉徴収計算上書き

伝票コンポーネントの源泉徴収ページにおける源泉徴収税計算タイミングの上書きをユーザーに許可する場合に選択します。源泉徴収税計算は、源泉徴収税務当局の設定に従って支払時または支払伝票転記時に行うことができます。

有効なチャートフィールドの組合せが必要

クイック請求書の支払伝票でチャートフィールドの組合せを自動的に検証するには、このチェック ボックスをオンにします。チャートフィールドの組合せが無効な場合、ユーザーは支払伝票を保存できません。

請求書の貸借一致が必要

クイック請求書の支払伝票で貸借一致アルゴリズムを自動的に実行するには、このチェック ボックスをオンにします。支払伝票の貸借が一致しない場合、ユーザーは支払伝票を保存できません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

AP ユーザー プロファイル レポート (APY0003) には、買掛金勘定のユーザー デフォルトがセットID 別に表示されます。

関連リンク

アプリケーションの基礎のレポート: 一般的な説明
Defining Voucher OriginsPeopleSoft Payables
Defining Procurement Controls for General Ledger Business UnitsPeopleSoft Payables

ユーザー基本設定 - 受領/取引先返品ページ

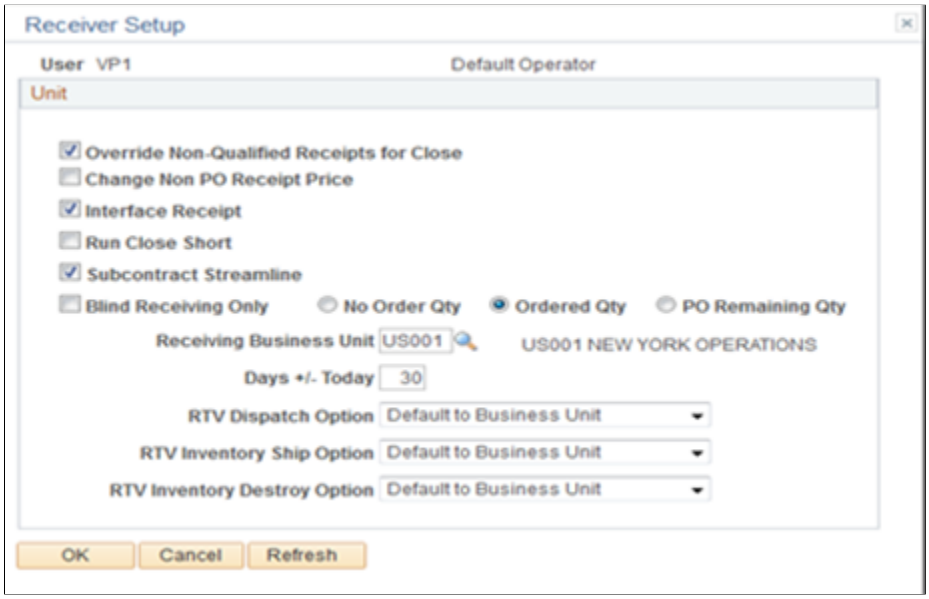
ユーザー基本設定 - 購買 - 受領書設定ページ (OPR_DEF_RECV_SEC) を使用して、受領書と返品のユーザー基本設定を定義します。

ナビゲーション

ユーザー基本設定 - 購買ページの [受領書/返品設定] リンクをクリックします。

画像: ユーザー基本設定 - 購買 - 受領書設定ページ

次の例では、ユーザー基本設定 - 購買 - 受領書設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



クローズ用に不適格受領書を上書き 不適格受領書の強制クローズをユーザーに許可する場合に選択します。

発注書なし受領の価格変更 発注書なしの受領書におけるアイテムの受領価格変更をユーザーに許可する場合に選択します。

受領インターフェイス [受領書インターフェイス (プッシュ)] プロセス (PO_RECVPUSH) を通して在庫情報および資産情報の伝達を自動化する場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

不足クローズの実行

[受領書インターフェイス (プッシュ)] の処理 (PO_RECVPUSH) で [不足クローズ] プロセス (PO_CLSSHORT) を自動的に呼び出す場合に選択します。

外注処理の効率化

このユーザーに対して外注発注受領書の [外注処理の効率化] チェック ボックスをデフォルトでオンにした状態で表示する場合、このチェック ボックスをオンにします。ユーザーは、外注発注受領書でこのフィールド設定を上書きできます。システムでは、受領書から外注処理の効率化を実行する (つまり、生産 ID に対する発注受領書と生産完了の処理を 1 つのステップで行う) かどうか判断されます。

外注返品の効率化処理では、関連する受領書に対して生産完了が実行されている場合に返品を処理できます。外注に対する返品工程に応じて、生産完了と生産スクラップがマイナスとして処理されます。

このチェック ボックスをオフにした場合、このユーザーに対して外注発注受領書の [外注処理の効率化] チェック ボックスがオフの状態で表示されます。ユーザーは、外注発注受領書でこのフィールド設定を変更できません。つまり、このユーザーに対して外注処理の効率化は有効化されていないと考えられます。

無照合受領のみ

受領者に対して発注書の発注数量または残数量を非表示にする場合に選択します。受領者は、受領数量を入力する前にアイテム数を数える必要があります。このチェック ボックスをオンにすると、[発注数量なし]、[発注数量]、[発注残数量] の各チェック ボックスがオフになります。

発注数量なし

受領者に対して発注数量を非表示にする場合に選択します。受領者は、アイテム数をその場で数えて実際の受領数量を指定する必要があります。

発注数量

発注数量をデフォルトの受領数量として使用する場合に選択します。

発注残数量

発注の残数量 (当初の発注数量から受領済数量を差し引いたもの) をデフォルトの受領数量として使用する場合に選択します。

受領ビジネス ユニット

ユーザーのデフォルトの受領ビジネス ユニットを選択します。このビジネス ユニットは受領プロセスで上書きし、商品を有効な任意の購買管理ユニットで受領するように変更できます。

現在からの日数(+/-)

現在のシステム日付からの日数 (+/-) を入力します。この日数範囲は、受領の対象となる発注スケジュールを選択するときに受領ページでデフォルトの検索条件として使用されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

取引先返品の送付オプション

このユーザーの取引先返品機能の基本設定として送付方法を選択します。この機能は、取引先返品をサプライヤに送付する際にデフォルト値として使用されます。

取引先返品送付オプションの値は次のとおりです。

ビジネス ユニットを継承: ビジネス ユニット レベルで定義されている送付オプションを使用する場合に選択します。購買管理定義ページの [ビジネス ユニット オプション] タブを使用して、ビジネス ユニットの取引先返品送付オプションの値を定義します。*[ビジネス ユニットを継承]* オプションを選択すると、取引先返品オプションの処理時に最初にユーザー基本設定、次にビジネス ユニットがチェックされます。

手動: 取引先返品の送付処理を手動で実行する必要がある場合に選択します。

多くの場合、取引先返品行を送付する前に、購買管理担当者と別のグループとの間でコラボレーションが必要になります。たとえば、取引先返品を送付する前に、倉庫担当者に商品の在庫移動について確認する必要がある場合があります。

Inventory Return RecordsPeopleSoft Purchasing を参照してください。

Selecting RTV Source DetailsPeopleSoft Purchasing を参照してください。

取引先返品在庫出荷オプション

このユーザーに対して取引先返品行の [在庫処理] フィールドのデフォルト値として使用する取引先返品出荷オプションを選択します。このオプションは、取引先返品行の在庫移動の値が [出荷] になっている場合にのみ取引先返品機能で使用されます。システムでは、最初にユーザー基本設定の出荷オプションの値をチェックすることにより、出荷オプションのデフォルト値が決定されます。ユーザー基本設定の値が *[手動]*、*[エクスプレス]* または *[出庫処理]* の場合、その値がデフォルト値として使用されます。ユーザー基本設定の値が *[ビジネス ユニットを継承]* の場合、ビジネス ユニット レベルで定義されている出荷オプションの値が使用されます。

取引先返品在庫出荷オプションの値は次のとおりです。

ビジネス ユニットを継承: ビジネス ユニット レベルで定義されている在庫出荷オプションを使用する場合に選択します。

エクスプレス: 取引先返品エクスプレス オプションを使用して購買管理と在庫管理のデータ収集トランザクションを同時に処理する場合に選択します。つまり、ユーザーは、購買管理の取引先

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

返品コンポーネント内から在庫管理の払出 (自動払出) アクションを実行できます。取引先返品行の在庫移動が [出荷] の場合、ステータスが [出荷済] の資材出庫要求が作成され、在庫が更新されます。

注: *[エクスプレス]* の値は、Warehouse Management System (WMS) タイプとして定義されている在庫管理ビジネス ユニットに関連付けられている取引先返品行ではデフォルト値として使用されません。在庫管理のビジネス ユニット オプション ページにある [他社倉庫管理システムを使用] チェック ボックスを使用して、倉庫設定を定義します。

出庫処理: 取引先返品トランザクションで在庫出庫処理を実行するようにユーザー基本設定を設定する場合に選択します。この場合、ユーザーは、在庫管理の資材出庫要求トランザクションを作成し、在庫出庫処理を通してそのトランザクションを処理できます。*[出庫処理]* 値は、取引先返品行の在庫移動が [出荷] の場合にのみ取引先返品処理で有効です。

手動: 取引先返品出荷トランザクションを手動で完了する必要がある場合に選択します。このオプションを選択した場合、在庫管理のエクスプレス払出機能を使用して、アイテムをサプライヤに出荷する必要があります。在庫出荷オプションとして *[手動]* を使用した場合、取引先返品エクスプレス機能は自動的には実行されません。ユーザーは、在庫管理のエクスプレス払出コンポーネントを使用して、取引先に出荷される在庫返品の払出を行う必要があります。

取引先返品在庫破棄オプション

このユーザーに対して取引先返品行の [在庫処理] フィールドのデフォルト値として使用する取引先返品破棄オプションを選択します。このオプションは、取引先返品行の在庫移動の値が [廃棄] になっている場合にのみ取引先返品機能で使用されます。システムでは、最初にユーザー基本設定の破棄オプションをチェックすることにより、破棄オプションのデフォルト値が決定されます。ユーザー基本設定の値が *[手動]* または *[エクスプレス]* の場合、その値がデフォルト値として使用されます。ユーザー基本設定の値が *[ビジネス ユニットを継承]* の場合、ビジネス ユニット レベルで定義されている破棄オプションが使用されます。

取引先返品在庫破棄オプションの値は次のとおりです。

ビジネス ユニットを継承: ビジネス ユニット レベルの在庫破棄オプション設定を使用する場合に選択します。

エクスプレス: 取引先返品エクスプレス オプションを使用して購買管理と在庫管理のデータ収集トランザクションを同時に処理

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

する場合に選択します。つまり、ユーザーは、購買管理の取引先返品コンポーネント内から在庫管理の調整 (自動調整) アクションを実行できます。

手動: 取引先返品破棄トランザクションを手動で完了する必要がある場合に選択します。このオプションを選択した場合、在庫管理の調整機能を使用して、取引先に返品されるアイテムの在庫を更新する必要があります。

モバイル受領プリンタ

このグループ ボックス内のオプションは、PeopleSoft モバイル在庫管理で使用されます。このグループ ボックスを使用して、プリンタのデフォルト値を設定します。これらの値は、モバイル納品受領レポートの印刷時に発注受領コンポーネントおよびアドホック受領コンポーネントで使用されます。

サーバー名 配送レポートの印刷を実行するときに使用するプロセス スケジューラ サーバー名を選択します。

出力タイプ 出力先タイプとしてプリンタを選択し、配送レポートをプリンタに送信します。

出力先フォーマット 配送レポートの印刷に使用する出力先フォーマットを選択します。

出力先 納品受領レポートを印刷するためのプリンタを選択します。

PeopleSoft モバイル在庫管理の詳細:

Understanding How to Receive Stock in PeopleSoft Inventory Using Mobile ReceivingPeopleSoft Mobile Inventory Management を参照してください。

関連リンク

Receiving Non-Purchase Order ItemsPeopleSoft Purchasing

ユーザー基本設定 - 調達依頼ユーザー権限ページ

ユーザー基本設定 - 購買 - 調達依頼権限ページ (OPR_REQ_AUTH) を使用して、該当する依頼者の調達依頼書を開始および更新する権限をユーザーに付与します。

該当する依頼者に対するユーザーの調達依頼書処理権限を定義します。

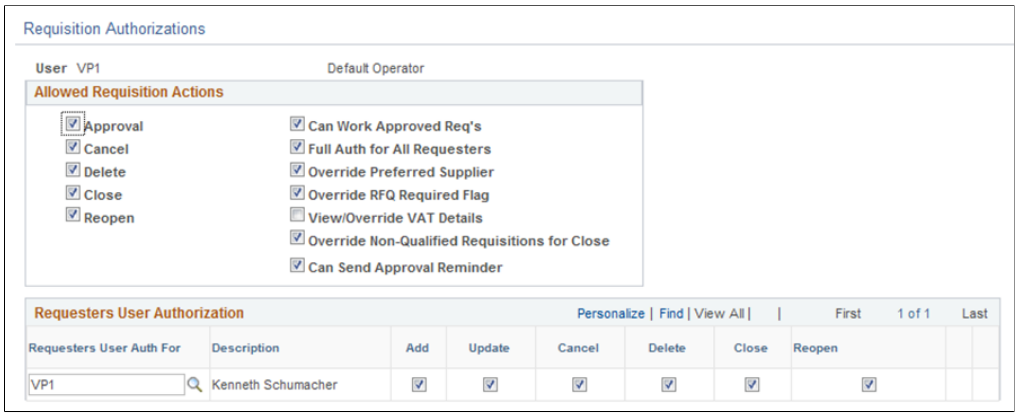
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

ユーザー基本設定 - 購買ページの [調達依頼権限] リンクをクリックします。

画像: 調達依頼ユーザー権限ページ

次の例では、調達依頼ユーザー権限ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



承認済要求の変更 承認済調達依頼書の変更をユーザーに許可する場合に選択します。

全依頼者/全権限 全依頼者の調達依頼書の追加、更新、キャンセル、削除およびクローズ権限をユーザーに付与する場合に選択します。このオプションを選択した場合、このページの残りの部分の設定は不要です。

指定取引先の上書き 調達依頼行のデフォルトの取引先の変更をユーザーに許可する場合に選択します。この権限を選択しなかった場合、ユーザーは取引先を手動で提案できません。

見積依頼必須ルール フラグの上書き 調達依頼書コンポーネントで調達依頼書に対して以前に指定された [見積依頼の必須ルール] オプションの上書きをユーザーに許可する場合に選択します。

消費税詳細の表示/上書き 調達依頼書コンポーネント内で消費税詳細を表示および上書きする場合に選択します。

クローズ用に不適格調達依頼書を上書き クローズ不適格調達依頼書のクローズをユーザーに許可する場合に選択します。

承認督促の送信可 調達依頼書の保留承認者への督促の送信をユーザーに許可する場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

調達依頼者別ユーザー権限

依頼者 このユーザーが調達依頼書の処理を代行できる依頼者です。依頼者名の左側にあるチェック ボックスをオンにして、ユーザーのデフォルトの依頼者として指定する依頼者を選択します。

[追加]、[更新]、[キャンセル]、[削除]、[クローズ]、[再オープン] この依頼者の調達依頼書の追加、更新、キャンセル、削除、クローズおよび再オープンをユーザーに許可する場合に選択します。

ユーザー基本設定 - 発注ユーザー権限ページ

ユーザー基本設定 - 購買 - 発注権限ページ (OPR_PO_AUTH) を使用して、該当する購買者の発注書を作成および更新する権限をユーザーに付与します。

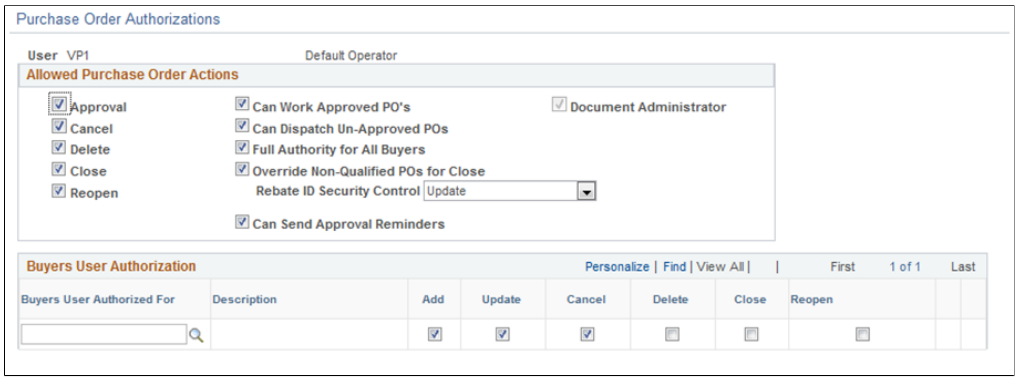
該当する購買者に対するユーザーの発注書処理権限を定義します。

ナビゲーション

ユーザー基本設定 - 購買ページの [発注権限] リンクをクリックします。

画像: ユーザー基本設定 - 購買 - 発注権限ページ

次の例では、ユーザー基本設定 - 購買 - 発注権限ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



許可する発注アクション

承認済発注書の編集可 承認済発注書または送付済発注書の変更をユーザーに許可する場合に選択します。

未承認発注書の送付可 承認待ちステータスの発注書の送付をユーザーに許可する場合に選択します。

全購買者/全権限 全購買者の発注書の追加、更新、キャンセル、削除およびクローズ権限をユーザーに付与する場合に選択します。このオプションを選択した場合、このページの残りの部分の設定は不要です。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

クローズ用に不適格発注書を上書き クローズ不適格発注書のクローズをユーザーに許可する場合に選択します。

リベート ID セキュリティ コントロール 発注書に対する取引先リベート契約セキュリティ コントロール オプションを選択します。オプションは、次のとおりです。

- *非表示:* このユーザーが発注書を管理するときに、取引先リベート契約フィールドを非表示にします。
- *更新:* このユーザーが発注書を管理するときに、取引先リベート契約フィールドを更新可能にします。
- *表示専用:* このユーザーが発注書を管理するときに、取引先リベート契約フィールドを表示専用にします。

承認督促の送信可 発注書の保留承認者への督促の送信をユーザーに許可する場合に選択します。

購買者別ユーザー権限

承認購買ユーザー このユーザーが発注書の入力を代行できる購買者を選択します。

[追加]、[更新]、[キャンセル]、[削除]、[クローズ]、[再オープン] この購買者の調達依頼書の追加、更新、キャンセル、削除、クローズおよび再オープンをユーザーに許可する場合に選択します。

購買 - サプライヤ処理権限ページ

購買 - サプライヤ処理権限ページ (OPR_DEF_TABLE_VND1) を使用して、サプライヤ管理機能 (入力、承認、非アクティブ化) を実行する権限をユーザーに付与します。

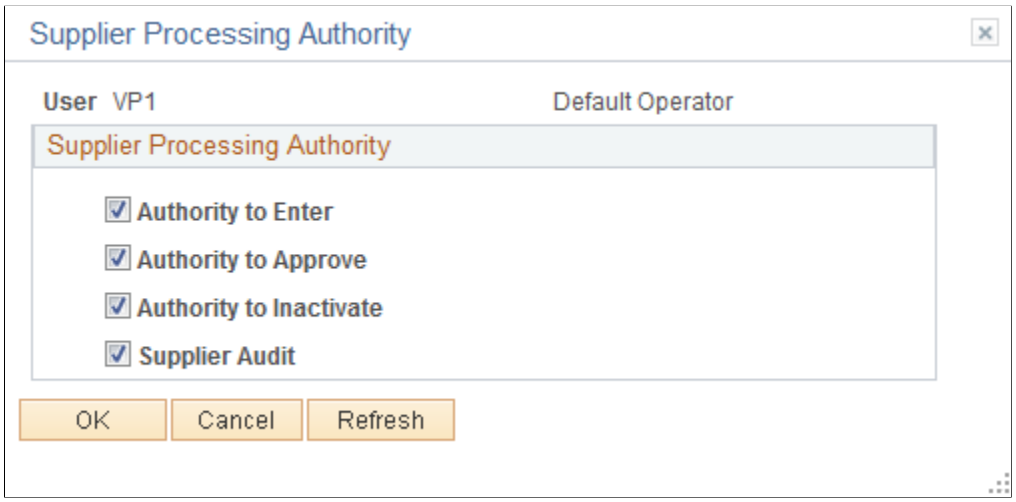
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

ユーザー基本設定 - 購買ページの [サプライヤ処理権限] リンクをクリックします。

画像: 購買 - サプライヤ処理権限ページ

次の例では、購買 - サプライヤ処理権限ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



サプライヤ詳細の作成または更新権限をユーザーに付与するには、[入力権限] チェック ボックスをオンにします。[サプライヤ オーディット] チェック ボックスはデフォルトではオンになっています。チェック ボックスがオンになっている場合、オーディットをセットID レベルまたはサプライヤ レベルで設定できます。チェック ボックスがオフになっている場合、ユーザーはオーディットを設定できませんが、サプライヤ オーディットを照会したり、オーディット ログ レポートを実行することはできます。

サプライヤ オーディット設定テンプレートを使用すると、目的のフィールドをオーディットの対象として選択したり、理由フラグを設定して理由コードやコメントの取得を必須にすることができます。

サプライヤ オーディット テンプレートでは、サプライヤ住所、電話情報、サプライヤ連絡先電話の各フィールドが H グリッド (階層グリッド) 形式で編成されており、ユーザーはメイン フィールドに対してオーディットおよび理由フラグを有効化/無効化できます。保存すると、メイン フィールドに関連付けられている従属フィールドに対してオーディットおよび理由フラグが有効化されます。セットID ごとに 1 つのデフォルト テンプレート ID を使用できます。

ユーザー基本設定 - ドキュメント許容差異例外の上書きページ

ユーザー基本設定 - ドキュメント許容差異例外の上書きページ (OPR_DEF_DOC_TOL) を使用して、ドキュメント許容差異の上書き権限をユーザーに付与します。

ナビゲーション

ユーザー基本設定 - 購買ページの [ドキュメント許容差異] リンクをクリックします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

調達依頼例外による発注書の上書き ドキュメント許容差異チェックにおいてエンカンバランスがプレエンカンバランスを超えた場合に生成されるドキュメント許容差異例外の上書きを許可します。

発注書例外による支払伝票の上書き ドキュメント許容差異チェックにおいて支出がエンカンバランスを超えた場合に生成されるドキュメント許容差異例外の上書きを許可します。

関連リンク

Setting Up Document TolerancesPeopleSoft Payables
Defining Document TolerancesPeopleSoft Source to Settle Common Information

ユーザー基本設定 - プロモーション マネジメント ページ

ユーザー基本設定 - プロモーション マネジメント ページ (OPR_DEF_TABLE_TD1) を使用して、プロモーション マネジメントのデフォルトのユーザー基本設定を定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [プロモーション マネジメント]

[銀行セットID]、[銀行コード]、[銀行口座] 入金処理でデフォルト値として使用する値を選択します。支払方法にフィールド ドラフトを指定して請求書を作成する場合に、ここで定義された銀行コードと銀行口座の値がシステムにより提供されます(これらの値は上書きできます)。入金インターフェイスを使用してこの請求書を買掛金管理に送信すると、支払伝票または支払が作成されます。

[共通アローワンス番号]、[プロモーション番号]、[請求プレフィックス] プレフィックスを選択します。これらのプレフィックスは、共通アローワンスや顧客指定プロモーションの作成時または請求書の処理時に自動採番プロセスで使用されます。自動採番ページで番号タイプを定義するときに、プレフィックス値を作成します。請求書番号タイプを作成するときには、請求プレフィックスの値を作成します。共通アローワンス プレフィックスとプロモーション プレフィックスの値は、プロモーション コード番号タイプに関連付けられます。

製品コストの表示 PeopleSoft プロモーション マネジメントでの製品コスト詳細の表示をユーザーに許可する場合に選択します。製品コスト詳細を表示できる場合、顧客指定プロモーションの計画と実績のメトリックを分析するときに、このデータを決定因子と見なすことができます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

関連リンク

自動採番ページ
Understanding Bank SetupPeopleSoft Banks Setup and Processing

ユーザー基本設定 - 売掛金データ入力 1 ページ

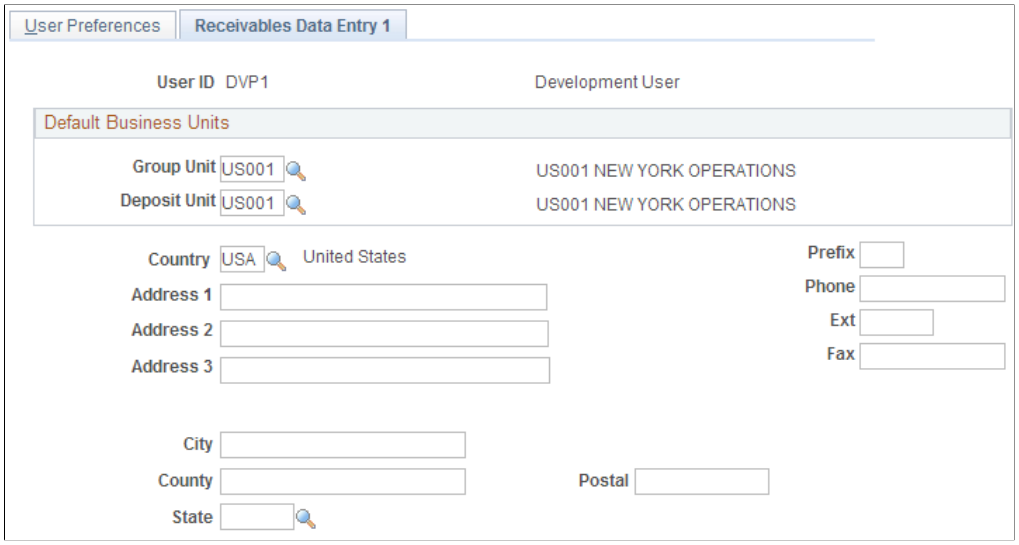
ユーザー基本設定 - 売掛金データ入力 1 ページ (OPR_DEF_TABLE_AR1) を使用して、ユーザーに関連するデフォルトのグループ ユニット、入金グループ ユニットおよび住所を定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [売掛金データ入力 1]

画像: ユーザー基本設定 - 売掛金データ入力 1 ページ

次の例では、ユーザー基本設定 - 売掛金データ入力 1 ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



[グループ ユニット]、[入金グループ ユニット] ユーザーのデフォルトのビジネス ユニットとして使用する値を入力します。ユーザーはこれらのデフォルト値を上書きできますが、ユーザーが頻繁に使用するビジネス ユニットを入力することでデータ入力を最小限に抑えることができます。このグループ ユニットと入金グループ ユニットは、オンラインの未転記グループ、入金グループおよびワークシートでデフォルトのビジネス ユニットとして使用されます。

住所フィールドを使用して、フォローアップ レターの送付先住所を保存できます。このページに入力する住所情報はどのテーブルに対しても検証されません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユーザー基本設定 - 売掛金データ入力 2 ページ

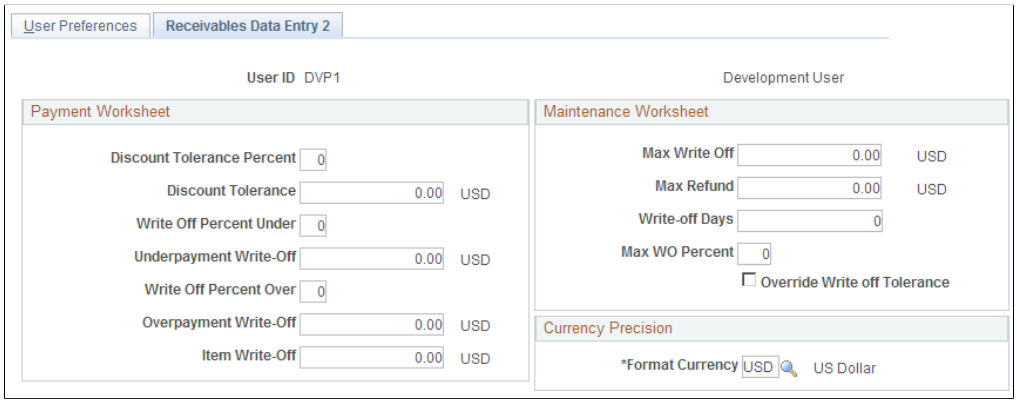
ユーザー基本設定 - 売掛金データ入力 2 ページ (OPR_DEF_TABLE_AR2) を使用して、償却許容額と割引許容額を指定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [売掛金データ入力 2]

画像: ユーザー基本設定 - 売掛金データ入力 2 ページ

次の例では、ユーザー基本設定 - 売掛金データ入力 2 ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



入金ワークシート

入金ワークシート用の償却許容額および割引許容額を入力します。

[割引許容率 (%)]、[割引許容額]

割引許容額の計算に使用する率 (%) と金額を入力します。これらの許容値を入力することにより、ユーザーはその値以下の過分割引金額を入力できるようになります。ユーザーが支払条件に追加できる付加的な率を入力します。

たとえば、アイテムが 700.00、割引条件が 2% (10/Net30) である場合、標準割引金額は 14.00 になります。パーセント フィールドに *10* と入力した場合、ユーザーは標準割引金額の 10% (つまり 1.40) を上限として追加で割り引くことができます。割引金額合計は 15.40 になります。ただし、割引金額合計は金額フィールドの値を超えてはなりません。

[率以下償却]、[入金不足額償却]、[超過率償却]、[入金超過額償却]

入金不足および入金超過の最大償却を定義する率 (%) と金額を入力します。これらの値は償却 (入力タイプ WAU や WAO など) に*のみ*適用されます。これらの値は入金超過または入金不足に関連する調整や控除には適用されません (これらは償

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

却ではありません)。ユーザーは、金額が支払の指定された償却率を超えない範囲で償却金額を入力できます。

アイテムの償却

このユーザーが入金ワークシートで個々のアイテムの金額を償却する場合の最大許容償却金額を入力します。

メンテナンス ワークシート

メンテナンス ワークシート用の償却許容額を入力します。

警告 ユーザーに対して償却許容額を定義しなかった場合、償却許容額はゼロになり、ユーザーはアイテムを償却できません。

償却限度額

ユーザーが個々のアイテムか、標準グループまたはマッチング グループの残高のいずれかについて償却できる上限額を入力します。ユーザーは、アイテムの元の金額の割合を超えない範囲で、上限額以下の金額を償却できます。たとえば、金額として *25.00* を入力した場合、ユーザーは最大で 25.00 を償却できます。ただし、最大償却率として 10% を入力し、アイテムの元の金額合計が 240.00 である場合、ユーザーは 24.00 までしか償却できません。

制限を適用しない場合、全て *9* を入力します。

返金限度

ユーザーに作成を許可する返金限度額を入力します。

償却日数

ユーザーに対してメンテナンス ワークシートでの償却を認めるまでのアイテムの最低経過日数を入力します。制限を適用しない場合、*0* を入力します。

最大償却率

このユーザーに許可するアイテムの最大償却率を入力します。制限を適用しない場合、*100* を入力します。

償却許容額上書き

償却がユーザーの償却許容額を超えない限り、ビジネス ユニット、顧客または入力理由に対して定義されている償却許容額に沿わないアイテムまたは金額の償却をユーザーに許可する場合に選択します。ユーザーの償却アクションがビジネス ユニット、顧客または入力理由レベルの許容額を超えた場合、警告のみが発行されます。

通貨桁数

フォーマット通貨

償却許容額の換算用通貨を入力します。この通貨を使用してアイテムの許容額が計算されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

関連リンク

Understanding Customer Account MaintenancePeopleSoft Receivables

ユーザー基本設定 - ストラテジック ソーシング ページ

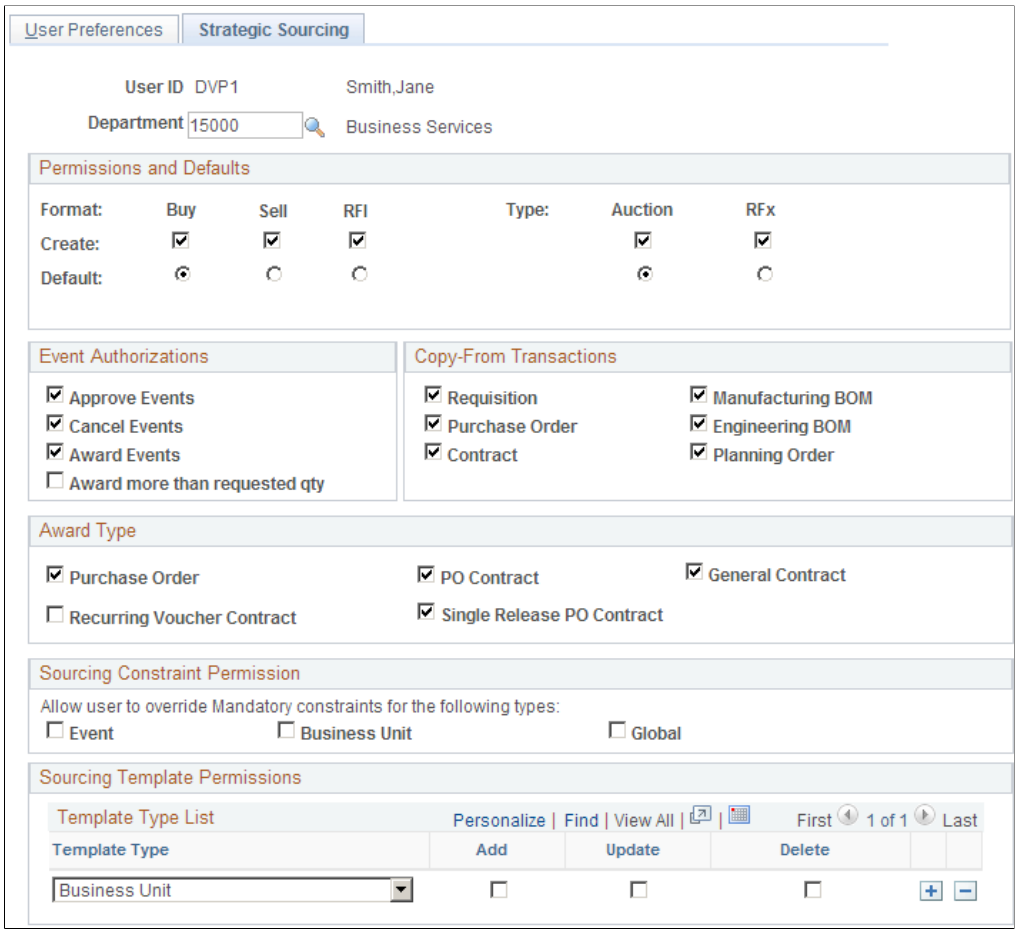
ユーザー基本設定 - ストラテジック ソーシング ページ (OPR_DEF_TBL_SS) を使用して、ストラテジック ソーシングのユーザー基本設定とデフォルト値を作成します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [ストラテジック ソーシング]

画像: ユーザー基本設定 - ストラテジック ソーシング ページ

次の例では、ストラテジック ソーシング ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



作成権限とデフォルト

ユーザーに作成を許可するイベントのフォーマットとタイプを設定し、それぞれのデフォルト値を指定します。オークション タイプまたは RFx タイプの購買、販売、RFI イベントの作成権限をユーザーに付与できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

イベント権限

選択したユーザー ID に対して許可するイベント アクションを選択し、ユーザーがイベントを承認、キャンセル、落札したり、要求数量以上を落札できるようにします。

注: 購買管理と統合する場合、ユーザー基本設定管理 - 取引先処理権限ページで取引先の入力および承認権限が付与されている必要があります。ここでイベント落札オプションを選択しても、購買管理の取引先ページにアクセスできるようになるわけではありませんが、落札詳細ページで実際に落札を転記できるようになります。また、発注または契約を目的としたイベントを落札するには、購買管理での発注および契約の作成権限が必要になります。

コピー元のトランザクション

ストラテジック ソーシング イベントの基準として、調達依頼、生産部品表、発注、設計部品表、契約または計画オーダーを使用できます。イベントの作成時に、ユーザー基本設定ページで選択された任意のトランザクションからコピーできます。

落札タイプ

[イベント権限] 領域で [イベント落札] オプションを選択した場合、[落札タイプ] で少なくとも 1 つのオプションを選択する必要があります。ユーザーが作成できるのは、ここで選択されたドキュメントのみです。オプションは、次のとおりです。

- 発注
- 発注契約
- 一般契約
- 単一リリース発注契約

注: ユーザーが発注または契約を落札するには、ユーザー基本設定 - 購買ページにアクセスして契約および発注を作成できる必要があります。ストラテジック ソーシングのビジネス ユニット定義で [落札時に取引先作成可] オプションを選択した場合、取引先を入力および承認するための適切な取引先処理権限を購買 - 取引先処理権限ページでユーザーに付与する必要もあります。

『*PeopleSoft Strategic Sourcing*』の「Analyzing Bids and Awarding Events」の「Posting Awards」を参照してください。

『*PeopleSoft Strategic Sourcing*』の「Setting Up Business Units in PeopleSoft Strategic Sourcing」を参照してください。

「ユーザー基本設定 - 購買ページ」を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ソーシング制約の権限

デフォルト必須制約の上書きを許可する制約タイプを選択します。オプションは、次のとおりです。

- イベント
- ビジネス ユニット
- グローバル

落札の転記時に、ユーザーの権限がチェックされます。1 つ以上のデフォルト必須制約に違反している場合、次のようになります。

- 必須制約の上書き権限がある場合、制約違反を示す警告が表示されます。

  この場合、落札をキャンセルすることも、続行することもできます。

- 必須制約の上書き権限がない場合、制約違反を示すエラーが表示されます。

  この場合、落札を転記できません。

注: 必須制約をイベントに手動で追加した場合、その制約に対して違反があっても落札の転記は禁止されません。イベントにデフォルト制約として渡されるのは*必須*制約のみです。これらの必須制約はデフォルト ルールに基づいており、落札の続行可否を判断するためにシステムでチェックされます。

Understanding Global Policies and ConstraintsPeopleSoft Strategic Sourcing を参照してください。

テンプレート タイプ

選択したユーザー ID に対して有効化するソーシング テンプレート タイプを選択します。値は次のとおりです。

- *ビジネス ユニット:* ユーザーは、自分が属するデフォルト ビジネス ユニット用に作成された全てのソーシング ビジネス ユニット テンプレートにアクセスできます。
- *部門:* ユーザーは、自分が属する特定の部門 ID 用に作成された全てのソーシング部門テンプレートにアクセスできます。
- *個人:* ユーザーは、自分が作成した全てのソーシング個人テンプレートにアクセスできます。

該当するチェック ボックスをオンにして、テンプレートの追加、更新または削除権限をユーザーに付与します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

関連リンク

Creating RFI EventsPeopleSoft Strategic Sourcing
Defining Basic Event InformationPeopleSoft Strategic Sourcing

ユーザー基本設定 - Staffing - 一般基本設定ページ

ユーザー基本設定 - Staffing - 一般基本設定ページ (OPR_DEF_TABLE_FO1) を使用して、Staffing Front Office と Pay/Bill Management の一般的なユーザー基本設定を定義します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

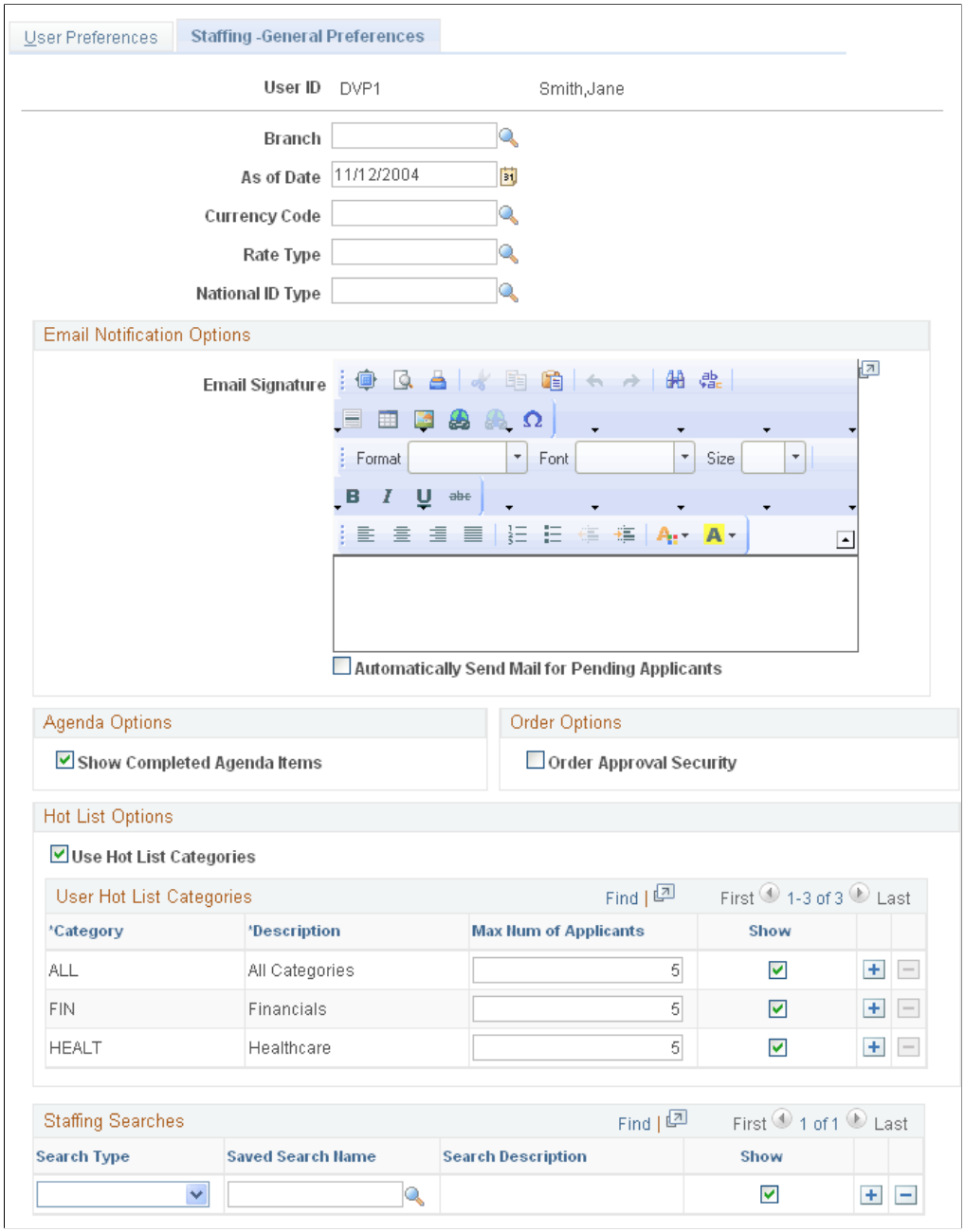
ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義]

[Staffing - 一般基本設定] リンクをクリックします。

画像: ユーザー基本設定 - Staffing - 一般基本設定ページ

次の例では、Staffing - 一般基本設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



支店 ユーザー ID に関連付ける要員配置担当支店を入力します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

指定日 一部のレポートで *AsOfDate* 変数への入力に使用する日付を選択します。

通貨コード 新規顧客の追加時に顧客 - 一般情報ページ ([顧客]、[顧客情報]、[一般情報]) でデフォルト値として自動的に使用するオプションを選択します。

レート タイプ 新規顧客の追加時に顧客 - 一般情報ページ ([顧客]、[顧客情報]、[一般情報]) でデフォルト値として自動的に使用するオプションを選択します。

国民 ID タイプ 応募者ページや従業員ページで個人の納税 ID 番号 (社会保障番号や社会保険番号) を追跡するためのデフォルト フォーマットを選択します。

検索 検索ページレットに表示する検索を設定します。この定義は、ページレットで [カスタマイズ] ボタンをクリックして行うこともできます。

電子メール通知オプション

電子メール署名 電子メール送信ページから送信する電子メールで使用する署名を入力します。

保留中応募者に自動的にメールを送信 ユーザーが応募者のステータスを [有効] または [無効] に変更したときに、その応募者に自動的に電子メールが送信されるようにする場合に選択します。この手順は、保留中応募者ページレットの [アクション] ボタンを使用して実行します。

日程オプション

完了日程アイテムの表示 日程ページに完了アイテムを初期表示する場合に選択します。このオプションは、Staffing Front Office がインストールされている場合にのみ適用されます。

発注オプション

受注承認セキュリティ このオプションでは、*[承認済]* ステータスの受注の保存をユーザーに許可するかどうかを指定します。このチェック ボックスをオフにした場合、ユーザーは *[承認待ち]* ステータスの受注のみを保存できます。承認待ちの受注は *[ドラフト]* ステータスでのみ保存でき、割当は作成できません。受注顧客セルフサービス コンポーネントではこの機能を使用することを検討してください。たとえば、顧客に付与されているユーザー ID に対して受注承認アクセス権を付与しない方が望ましい場合があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ホット リスト オプション

ホット リスト カテゴリを使用

ホット リストのカテゴリを設定するには、このチェック ボックスをオンにします。

このオプションを選択した場合、[ユーザー ホット リスト カテゴリ] グリッドが表示されます。

ホット リスト カテゴリは、ホット リスト カテゴリ ページを使用して設定します。

ユーザー応募者ホット リスト カテゴリ

最大応募者数の値を入力して、ページレットに表示する応募者数を指定します。

ページレットにカテゴリを表示する場合、[表示] チェック ボックスをオンにします。

[全て] カテゴリはシステム データです。カテゴリ分類に関係なく、ページレットに全てのホット要素が表示されます。

新規行の追加アイコンを使用して、新規ホット リスト カテゴリを定義できます。ユーザーがこのページに独自のホット カテゴリを定義する場合、カテゴリ コード、説明、最大応募者数を入力し、ページレットにそのカテゴリを表示するかどうかを指定する必要があります。ユーザーはカテゴリを削除することもできます。

ホット リスト カテゴリは、ホット リスト カテゴリ ページを使用して定義することもできます。

要員配置検索

検索タイプ

検索タイプを選択します。

保存済検索名

検索名を選択します。

表示

該当する検索タイプを検索ページレットに表示する場合に選択します。

ユーザー ホット リスト カテゴリ

応募者ホット リスト ページレットに表示するユーザー固有カテゴリを指定します。

このグリッドは、応募者ホット リスト カテゴリの設定チェック ボックスをオンにした場合にのみ表示されます。

カテゴリ

カテゴリのタイトルを入力します。

説明

カテゴリの説明を入力します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

最大応募者数	応募者ホット リスト ページレットに表示する最大応募者数を入力します。
表示	ホット リストへの応募者の追加時に表示されるグリッドにカテゴリを表示する場合に選択します。

注: 応募者が関連付けられているカテゴリは削除できません。

Staffing 職務データ基本設定の定義

ユーザー基本設定 - Staffing - 職務データ ページ (OPR_DEF_TABLE_FO2) を使用して、応募者設定ページの [職務データ] セクションにデフォルトで入力する Staffing Front Office および Pay/Bill Management の値を定義します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

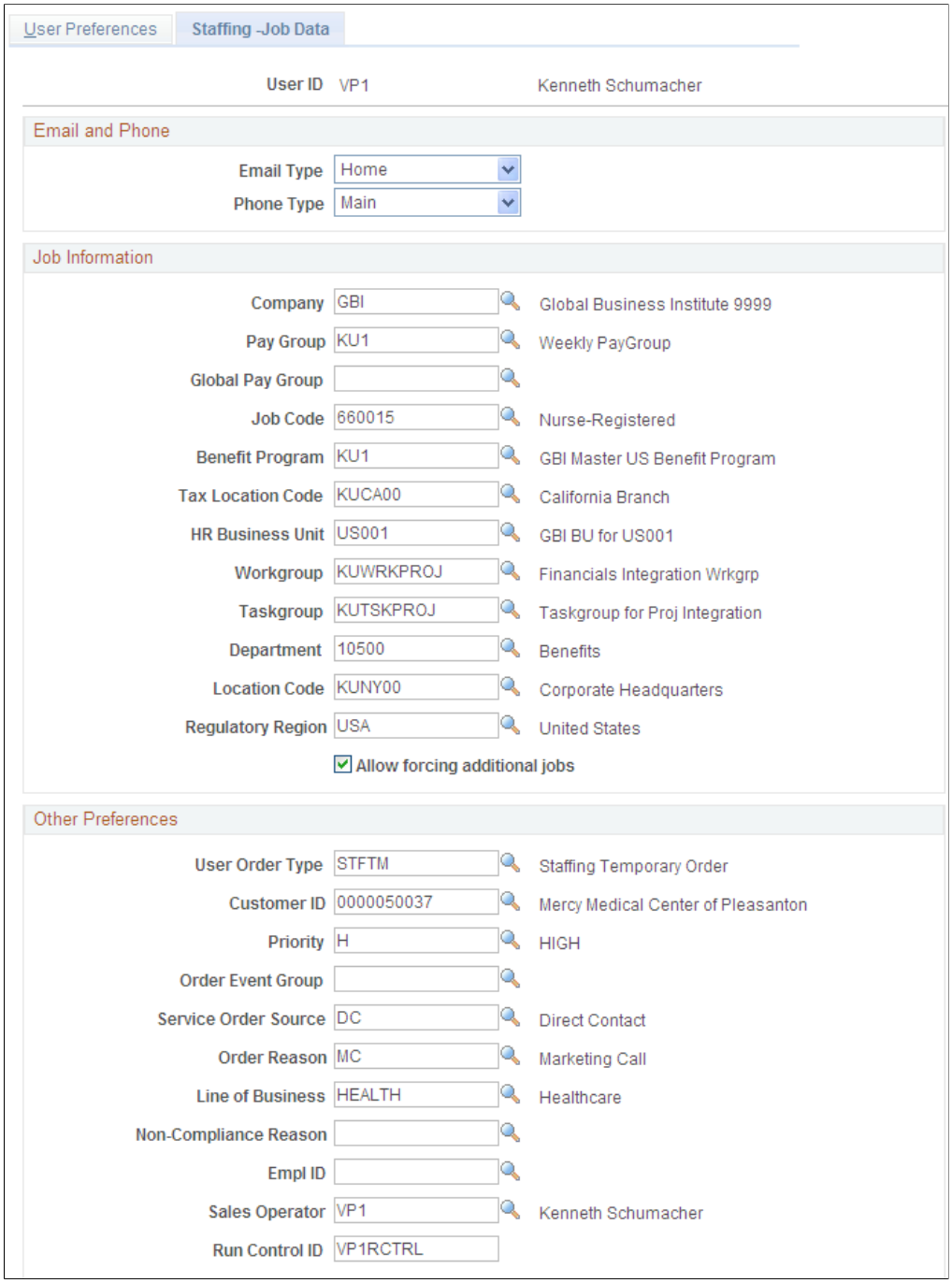
ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義]

[Staffing - 職務データ] リンクをクリックします。

画像: ユーザー基本設定 - Staffing - 職務データ ページ

次の例では、ユーザー基本設定 - Staffing - 職務データ ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

電子メールと電話

電子メール タイプ

[勤務先]、*[大学]*、*[寮]*、*[自宅]* または *[その他]* を選択して、システムに応募者を追加するときにデフォルトで使用する電子メール アドレス タイプを指定します。

電話タイプ

[事務所]、*[ファックス]*、*[主要]* などのタイプを選択して、システムに応募者を追加するときにデフォルトで使用する優先電話番号タイプを指定します。

職務情報

次のフィールドに入力する値は、システムに応募者、受注および新規レポートを追加するときにデフォルトで使用されます。ユーザーは、これらのデフォルト値を上書きすることも、維持することもできます。Pay/Bill Management がインストールされている場合、応募者の雇用後、応募者フィールドの値に基づいて HRMS に従業員職務レコードが作成され、従業員への支払に使用されるプロセスが実行されるようになります。

会社

システムに追加する応募者に関連付ける会社のデフォルト値を入力します。会社とは、従業員を雇用する雇用主または法人のことです。

支払グループ

システムに追加する応募者に関連付ける Payroll for North America 支払グループのデフォルト値を入力します。Payroll for North America では、週単位の支払、隔月単位の支払、月単位の支払など、複数の支払グループを使用できます。各組織にはそれぞれ独自の有効な支払グループ セットがあります。

グローバル ペイ グループ

システムに追加する応募者に関連付けるグローバル ペイロール支給グループのデフォルト値を入力します。

注: このフィールドは、Pay/Bill Management およびグローバル ペイロールがインストールされている場合にのみ適用されます。

職務コード

システムに追加する応募者に関連付ける職務コードのデフォルト値を入力します。

福利厚生プログラム

システムに追加する応募者に関連付ける福利厚生プログラムのデフォルト値を入力します。HRMS では、会社が従業員に提供している各種福利厚生に基づいて、複数の福利厚生プログラムを定義できます。

課税地コード

システムに追加する応募者に関連付けるデフォルトの課税地を入力します。この情報は、Payroll for North America において源泉徴収の方法を決定するために使用されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ヒューマン リソース管理ユニット	システムに追加する応募者に関連付けるデフォルトのビジネス ユニットを入力します。この情報は、Pay/Bill Management がインストールされている場合にのみ適用されます。
ワークグループ	システムに追加する応募者に関連付けるデフォルトのワークグループを入力します。ワークグループは、特に勤務管理アプリケーションにおいて、勤務時間に適用する勤務管理ルール プログラム、グループ内の従業員が利用可能な勤務時間レポート コード、および勤務時間入力承認の必要性を決定するために使用されます。この情報は、Pay/Bill Management がインストールされている場合にのみ適用されます。
タスク グループ	システムに追加する応募者に関連付けるデフォルトのタスク グループを入力します。タスク グループは、特に勤務管理アプリケーションにおいて、システムへの勤務時間入力時に取得するタスク関連情報を決定するために使用されます。この情報は、Pay/Bill Management がインストールされている場合にのみ適用されます。
部門	システムに追加する応募者に関連付けるデフォルトの部門 ID を入力します。
所在地コード	システムに追加する応募者に関連付けるデフォルトの所在地コードを入力します。
法定区域	システムに追加する応募者に関連付けるデフォルトの法定区域を入力します。この情報は、PeopleSoft Pay/Bill Management がインストールされている場合にのみ適用されます。
ユーザー オーダー タイプ	新規受注に関連付けるユーザー オーダー タイプを入力します。
顧客 ID	新規受注および履歴アイテムに関連付ける顧客 ID を入力します。
優先順位	新規受注に関連付ける優先順位を入力します。
オーダー イベント グループ	新規受注に関連付けるオーダー イベント グループを入力します。
作業指示ソース	新規受注に関連付ける作業指示ソースを入力します。
受注理由	新規受注に関連付ける受注理由を入力します。
業種	新規受注に関連付ける業種を入力します。
非遵守理由	新規レポートに関連付ける非遵守理由を入力します。
従業員 ID	新規レポートに関連付ける従業員 ID を入力します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

営業オペレータ 新規受注およびレポートに関連付ける営業オペレータを入力します。

ラン コントロール ID レポートの実行に使用するラン コントロール ID を入力します。

職務の強制追加可 従業員職務レコードを異なる割当間で再利用するシステム ロジックの上書きをパワー ユーザーに許可する場合に選択します。このオプションは、Pay/Bill Management がインストールされている場合にのみ適用されます。

ユーザー基本設定 - サプライヤ契約管理ページ

ユーザー基本設定 - サプライヤ契約管理ページ (OPR_DEF_TABLE_CS) を使用して、契約ドキュメントをそのライフ サイクル全体を通して管理するためのユーザー権限を定義し、[ユーザー ID] フィールドに定義されているユーザーに許可するドキュメント管理のタイプを指定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義]

[サプライヤ契約管理] リンクをクリックします。

このユーザー基本設定ページは、作成された契約の管理権限を持つユーザーに対してのみ有効です。これらのユーザーは、ライブラリ セクションを承認し、コンフィギュレータ ステータスを設定できます。

ドキュメント承認

アプリケーション管理者は、このグループ ボックスを使用して、セクションの承認とコンフィギュレータのステータス変更の管理を担当するドキュメント管理者やユーザーに対してユーザー セキュリティを設定できます。

全てのドキュメントを承認 このページに一覧表示される全てのタスクの実行権限をユーザーに付与する場合に選択します。このユーザーは、システム内の全てのユーザーに対する完全な権限を持ち、システム内の契約に対して全てのアクションを実行できるスーパー ユーザーと見なされます。このチェック ボックスをオンにすると、残りのフィールドとチェック ボックスが無効化され、変更できなくなります。全てのドキュメントに対する完全な権限をユーザーに付与しない場合、ドキュメント タスクの各権限を個別に選択できます。

ドキュメント管理者 選択した契約ドキュメント タスクを実行するためのドキュメント管理者権限をユーザーに付与する場合に選択します。ユーザーは、ドキュメント管理者として、ドキュメントを作成、再作成、リフレッシュ、チェックアウト、編集およびチェックインできます。このグリッドで 1 つまたは全てのタスクを選択できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ドキュメント管理者は、コラボレーションや承認の対象として契約を送信することにより、作成者の代わりに契約のライフ サイクルを管理することもできます。

セクションを承認 ドキュメントで使用できるようにセクションを承認済として指定することをユーザーに許可する場合に選択します。セクション ステータスは、セクション定義ページを使用して [承認済] に変更または設定できます。

コンフィギュレータ ステータス変更 ドキュメント コンフィギュレータのステータスの更新をユーザーに許可する場合に選択します。コンフィギュレータ ステータスは、コンフィギュレータ定義ページを使用して変更できます。

承認を省略 ドキュメントの承認省略の設定をユーザーに許可する場合に選択します。これにより、ドキュメントは自動的に承認済に設定されるようになります。通常、承認ステップは必須ですが、必要に応じて、ユーザーはドキュメント処理の迅速化を図ることができます。承認を通してドキュメントをプッシュする権限がユーザーにある場合、ドキュメント管理ページに [承認を省略] ボタンが表示されます。

送付にリセット ドキュメントの [送付済] ステータスへのリセットをユーザーに許可する場合に選択します。サプライヤと顧客の間で完了したドキュメントは、[実行済] ステータスになります。このステータスになると、ドキュメント管理ページの [送付にリセット] ボタンが使用可能になります。この機能は、訂正処理を省略して現在のバージョンのドキュメントで軽微な変更 (誤字修正など) を行う場合に役立ちます。

承認済ドキュメント アクセス

特定のユーザーにこれらの権限を付与することによって、グリッドの [ドキュメント管理者] 列で選択されている他のユーザーの代行を許可します。この機能は、シニア契約管理者などのユーザーを対象として使用します。部門やグループのメンバーが社内にいないときに、それらのメンバーの担当ドキュメントに対するタスクを代わりに実行する権限を指定ユーザーに付与します。

ドキュメント管理者 (列) 選択されたユーザーがドキュメント タスクを代行できる、追加のユーザーを選択します。指定ユーザーの権限を定義するには、該当するチェック ボックスを使用します。

ドキュメント管理者 (チェック ボックス) 該当するユーザーの担当ドキュメントに対するドキュメント管理者権限を指定ユーザーに付与する場合に選択します。これにより、指定ユーザーは、管理者であるかのように、ユーザーのドキュメントを作成および編集できるようになります。

送付にリセット 該当するユーザーの処理済契約ドキュメントを送付にリセットする権限を指定ユーザーに付与する場合に選択します。この権限

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

は、このグリッドで選択するその他のタスク権限に追加されます。

承認を省略 該当するユーザーの契約ドキュメントの承認を省略し、処理の迅速化を図る権限を指定ユーザーに付与する場合に選択します。この権限は、このグリッドで選択するその他のタスク権限に追加されます。

ユーザー基本設定 - Maintenance Management ページ

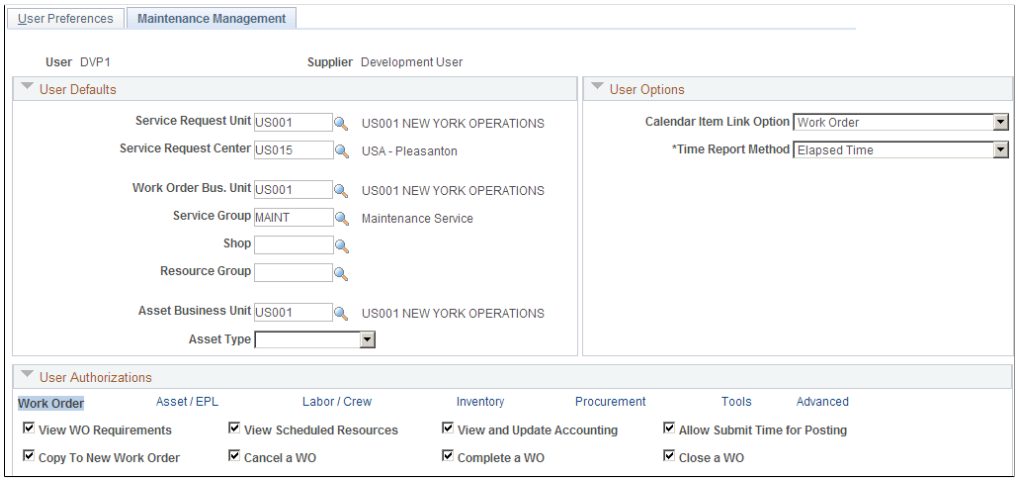
Maintenance Management ページ (OPR_DEF_TABLE_WM1) を使用して、Maintenance Management のデフォルトの基本設定を定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [Maintenance Management]

画像: ユーザー基本設定 - Maintenance Management ページ

次の例では、ユーザー基本設定 - Maintenance Management ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



ユーザー デフォルト

サービス リクエスト ビジネス ユニット このユーザーがサービス リクエストを作成するときにデフォルトのサービス リクエスト ビジネス ユニット値として使用するビジネス ユニットを選択します。通常、ビジネス ユニットはセルフサービス ユーザーには公開されず、上書きできませんが、エージェント サービス リクエスト コンポーネントを使用して新規サービス リクエストを作成するエージェントは、デフォルトのビジネスユニットを上書きできます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

サービス リクエスト センター

このユーザーがサービス リクエストを作成するときに常にデフォルト値として使用するサービス リクエスト センターを選択します。ユーザーはサービス リクエストでこの値を上書きできます。

作業指示ビジネス ユニット

このユーザーがサービス リクエストを利用せずに作業指示を作成するときにデフォルトの作業指示ビジネス ユニット値として使用するビジネス ユニットを選択します。ユーザーは作業指示レベルでこの値を上書きできます。このビジネス ユニットは、技術者ワークベンチ、作業指示ワークベンチ、作業班スケジューリング ワークベンチおよび作業者割当ワークベンチで使用されるタスク検索ページでもデフォルト値として表示されます。

注: サービス リクエストから作成される作業指示では、ユーザー基本設定ではなく、問題ツリー設定に基づいて作業指示ビジネス ユニットが決定されます。

サービス グループ

このユーザーが作成する作業指示でデフォルト値として使用するサービス グループを選択します。ユーザーは作業指示レベルでこの値を上書きできます。

作業所

このユーザーが作成する作業指示でデフォルト値として使用する作業所を選択します。ユーザーは作業指示レベルでこの値を上書きできます。

リソース グループ

作業指示でデフォルト値として使用するリソース グループ値を選択します。

注: リソース グループは、マッチング プロセスでリソース要求に対してグループ内のメンバーのマッチングを行うために使用されます。このデフォルト値は、通常、作業指示をスケジュールし、マッチング プロセスを使用するユーザーに対して設定されます。

注: このオプションは、技術者ワークベンチの時間入力ページにのみ適用されます。作業指示完了コンポーネントで入力された時間には適用されません。

資産管理ユニット

このユーザーの作業指示でデフォルトの資産管理ビジネス ユニット値として使用するビジネス ユニットを選択します。ユーザーは作業指示でこの値を上書きできます。

資産タイプ

作業指示にデフォルト値として表示する資産タイプを選択します。この資産タイプは、作業指示でメンテナンスまたは修繕対象の資産を検索するときに使用されます。

作業指示でこの値を上書きできます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユーザー オプション

カレンダー アイテム リンク オプション

リソースのカレンダーで作業指示割当リンクを選択したときにアクセスするコンポーネントを選択します。リソースのカレンダーで作業指示タスク割当リンクをクリックすると、次のうちどちらを選択するかに応じて、このユーザーに作業指示または 技術者ワークベンチのいずれかが表示されます。

- *技術者ワークベンチ* (デフォルト)
- *作業指示*

勤務時間レポート方法

技術者ワークベンチの時間入力ページで、このユーザーが作業指示タスクに費やした時間を記録するときに使用するフォーマットを選択します。オプションは、次のとおりです。

経過時間: 勤務時間を 1 日当たりの合計勤務時間としてレポートする場合に選択します。

記録時刻: 開始時刻と終了時刻を入力して勤務時間をレポートする場合に選択します。

Creating Work Order TasksPeopleSoft Maintenance Management を参照してください。

ユーザー権限 - 作業指示

作業指示要件の表示

作業指示コンポーネントの要件ページで [作業者]、[在庫]、[購買/手持アイテム] および [ツール] リンクへのアクセスを有効化して、作業指示要件を表示することをこのユーザーに許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにしない限り、作業指示コンポーネントの要件ページで [作業者]、[在庫]、[購買/手持アイテム] および [ツール] リンクを使用できません。

注: このユーザーは、作業指示のビジネス ユニットで [作業のスケジュール作成]、在庫のスケジュール作成、[工具のスケジュール作成] のいずれかのオプションが選択されている場合にのみ、この情報を表示できます。

スケジュール作成済リソースの表示

作業指示コンポーネントのスケジュール ページで作業指示リソース スケジュールを表示したり、作業班スケジュール照会ページからドリルダウンすることをこのユーザーに許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: このユーザーは、作業指示のビジネス ユニットで [作業のスケジュール作成]、在庫のスケジュール作成、[工具のスケジュール作成] のいずれかのオプションが選択されている場合にのみ、この情報を表示できます。

会計処理情報の表示/更新

作業指示コンポーネントの作業者、在庫、購買/手持アイテムおよびツールのスケジュール ページで勘定科目チャートフィールド配布を表示および更新することをこのユーザーに許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにすると、技術者ワークベンチおよび作業指示完了コンポーネントのツール使用ページの [ツール コスト] タブでチャートフィールド配布を表示および更新することも可能になります。

さらに、このチェック ボックスをオンにすると、作業指示コンポーネントで在庫、作業者および購買/手持アイテム スケジュールの配布テンプレートにアクセスできるようになります。ただし、これらのオプションは、技術者ワークベンチまたは作業指示完了コンポーネントでは使用できません。

転記用の時間提出許可

技術者ワークベンチおよび作業指示完了コンポーネントの時間入力ページで転記用時間提出ボタンを選択することをユーザーに許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスはデフォルトではオンになっています。このチェック ボックスをオンにしない限り、このユーザーは作業指示タスクの時間入力を転記対象として経費管理に提出できません。ただし、ユーザーは引き続き時間を入力できます。また、このオプションを選択すると、ユーザーのマネージャまたは監督者が必要に応じて時間入力を編集し、転記対象として提出できるようになります。

このチェック ボックスをオンにしない限り、このユーザーに対して、技術者ワークベンチまたは作業指示完了コンポーネントの時間入力ページの転記用時間提出ボタンは表示されません。

新規作業指示にコピー

新規作業指示に既存の作業指示をコピーすることをこのユーザーに許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。

注: このチェック ボックスをオンにしない限り、作業指示に [コピー] ボタンが表示されません。

作業指示キャンセル

作業指示を手動でキャンセルすることを選択したユーザーに許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。

作業指示の完了

作業指示コンポーネント、技術者ワークベンチおよび作業指示完了コンポーネントで作業指示のステータスを *[完了]* に変更することをこのユーザーに許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: このオプションは手動クローズにのみ適用され、このユーザーに対して WO_CLOSE バッチ クローズ プロセスの実行は許可されません。

作業指示のクローズ

作業指示をオンラインでクローズすることをこのユーザーに許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。

注: このオプションは手動クローズにのみ適用され、このユーザーに対して WO_CLOSE バッチ クローズ プロセスの実行は許可されません。

ユーザー権限 - 資産/EPL

資産アクションの設定権限

作業指示の要件ページでタスクの資産アクションを選択することを特定のユーザーに許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。[資産アクション] ドロップダウン リストを使用すると、資産を設置、処分および再調達できます。

コスト回収請求の承認

保証請求を作成することをこのユーザーに許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにしない限り、作業指示コンポーネントのスケジュール ページで [保証請求] リンクを使用できません。

資産計上限度額の上書き

作業指示で使用される資産に対して [Maintenance Management]、[設定]、資産計上ルールコンポーネントで設定された資産計上制限をタスク会計処理で上書きすることをこのユーザーに許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。ユーザーは、作業指示タスクで資産を修繕するために必要な最小金額を増減し、その後でプロジェクト コスト管理で資産計上できます。

注: このチェック ボックスをオンにしない限り、このユーザーは資産計上制限にアクセスできません。

WO Capitalization Limit PagePeopleSoft Maintenance Management を参照してください。

停止時間計画の入力許可

作業指示タスクに指定された資産に対する停止時間*計画*を入力することをユーザーに許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。ユーザーは、停止時間入力コンポーネント、作業指示コンポーネントの作業指示タスク レベルのリンク、および技術者ワークベンチの作業指示タスク レベルのリンクを使用して、資産の停止時間計画と実際の停止時間を入力できます。作業指示がクローズされると、資産の停止時間に基づいて [資産メンテナンス履歴] が更新されます。この情報は、資産の停止時間に基づいて保証請求を作成するのに役立ちます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このチェック ボックスをオンにしない限り、停止時間の [計画] タブは表示されず、ユーザーは実際の停止時間のみを入力できます。

注: 停止時間の入力は保証請求処理に対しては更新されません。

非特定備品部品リスト更新可

このユーザーに対して EPL に追加ボタンを有効化する場合、このチェック ボックスをオンにします。このボタンは、作業指示コンポーネントとエクスプレス作業指示コンポーネントの要件ページおよびスケジュール ページの [在庫] グリッドと [購買/手持アイテム] グリッドの上、さらに作業指示タスク テンプレート コンポーネントの [要件] グリッドの上に表示されます。

備品部品リスト (EPL) テンプレートは、PeopleSoft 資産管理 ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[製品関連]、[資産管理]、[サービス/修繕]) で資産カテゴリ (資産タイプ、資産サブタイプ、製造元 ID、モデルなど) に基づいて設定されます。EPL テンプレートには、これらの資産カテゴリに分類される資産のメンテナンスおよび修繕に使用される部品の一覧が示されています。非特定 EPL テンプレートとは、作業指示タスクの対象となる資産用に選択されたデフォルト EPL テンプレート以外の全ての EPL テンプレートのことを指します。

このユーザーが作業指示タスクの対象となる資産を選択し、1 つ以上の在庫または購買/手持アイテム タスク行を選択して EPL に追加ボタンをクリックすると、備品部品リストに追加ページが表示されます。このページには、タスクの対象として選択された資産に適用される 1 つ以上の資産カテゴリ用に設定されている 1 つ以上の非特定 EPL テンプレートの一覧が表示されます。

たとえば、次の 3 つの EPL テンプレートは、資産タイプが [ファシリティ]、資産サブタイプが HVAC/暖房のカテゴリ用に設定されています。

- B&GWaterPump
- LIEBERT AC
- PUMP_IMPELLER

資産 ID MMFACTLTY0009 は、資産タイプが [ファシリティ]、資産サブタイプが HVAC/暖房のカテゴリに分類される空調装置です。

作業指示タスクの対象として資産 ID MMFACTLTY0009 を選択した場合、1 つ以上の EPL テンプレートに追加する在庫アイテム行を 1 つ以上定義および選択し、EPL に追加ボタンをク

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

リックします。備品部品リストに追加ページにこれら 3 つの EPL テンプレートが全て表示されます。ユーザーは、各 EPL テンプレート行のチェック ボックスをオンにし、EPL に追加ボタンをクリックすることによって、これらの EPL テンプレートのいずれかまたは全てに対して、タスクの対象として選択した 1 つ以上の在庫アイテムを追加します。

資産デフォルト備品部品リスト更新可

このユーザーに対して EPL に追加ボタンへのアクセスを有効化する場合、このチェック ボックスをオンにします。このボタンは、作業指示コンポーネントとエクスプレス作業指示コンポーネントの [在庫] グリッドと [購買/手持アイテム] グリッドの上、さらに作業指示タスク テンプレート コンポーネントの在庫および購買/手持アイテムの [要件] グリッドの上に表示されます。

PeopleSoft 資産管理で資産定義を設定し、資産ごとにデフォルトの EPL テンプレートを選択できます。[資産デフォルト備品部品リスト更新可] チェック ボックスをオンにし、このユーザーがこれらの資産のいずれかを選択し、1 つ以上の在庫または購買/手持アイテム行を定義および選択して EPL に追加ボタンをクリックすると、選択した資産用に定義されているデフォルト EPL テンプレートが備品部品リストに追加ページに事前選択済の状態で表示されます。

重要 [非特定備品部品リスト更新可] と [資産デフォルト備品部品リスト更新可] の両方のボタンを選択した場合、選択した資産の定義でデフォルト EPL が指定されている限り、備品部品リストに追加ページには資産デフォルト EPL と非特定 EPL の両方が表示されます。

Setting Up Work Order TemplatesPeopleSoft Maintenance Management を参照してください。

Understanding Work Order Task Resource RequirementsPeopleSoft Maintenance Management を参照してください。

Understanding Resource SchedulingPeopleSoft Maintenance Management を参照してください。

ユーザー権限 - 作業者/作業班

作業レートの表示/更新

作業指示で作業レートを表示および更新することをこのユーザーに許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。このオプションをオンにした場合、ユーザーはビジネス ユニット、作業所または技能職のデフォルト レートを上書きできます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: 作業指示完了コンポーネントで人件費レートや請求レートを更新することはできません。

作業のスケジュール作成

作業指示タスク用の作業者リソースをスケジュールすることをユーザー (技能監督者など) に許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。組織における作業者リソースのスケジューリング担当者に対しては、このチェック ボックスをオンにする必要があります。

作業班スケジュール メトリックの更新

作業班スケジュール メトリック コンポーネントの作業班スケジュール コンプライアンス改訂ページで作業班スケジュール コンプライアンスを手動で更新することを特定のユーザーに許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。それにより、スケジュール完了レポートのメンテナンス スケジュール完了レポート リクエスト ページでスケジュール メトリックの更新チェック ボックスをオンにできるようになります。

メトリックの上書き許可

作業班スケジューリング ワークベンチで選択した作業班を対象に、過去または現在の期間のメトリックの確認を許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。

作業班割当完了の報告

完了時間報告フィールドおよび完了日報告フィールドにアクセスすることを特定のユーザーに許可する場合、このオプションを選択します。ユーザーは、技術者ワークベンチまたは作業班スケジューリング ワークベンチの作業班割当グリッドからアクセス可能な作業班割当時間報告コンポーネントで完了時間フィールドおよび完了日フィールドを更新できるようになります。

作業班の繰越時間の報告

繰越時間報告アクションにアクセスし、技術者ワークベンチからアクセス可能な作業班割当時間報告コンポーネントで繰越時間フィールドを更新することを特定のユーザーに許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。

ユーザー権限 - 在庫管理

在庫管理の入力権限

作業指示で在庫アイテムを選択および入力することをこのユーザーに許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。

注: このチェック ボックスをオフのままにした場合、作業指示コンポーネントの要件ページとスケジュール作成ページ、エクスプレス作業指示ページおよび作業指示ワークベンチの [在庫] リンクは選択できません。この設定は、作業指示ビジネス ユニット/作業所で選択した内容よりも優先されます。

在庫引当許可

作業指示コンポーネントで [引当金] ボタンを選択してオンラインで即時引当を作成することをこのユーザーに許可する場合、こ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

のチェック ボックスをオンにします。[引当金] ボタンを選択すると、コミットおよび引当ルールのデフォルト階層を上書きし、作業指示タスクで選択したアイテムの引当を即時に行うことができます。デフォルト階層は、ビジネス ユニット、作業所および作業指示タイプでルールがどのように指定されているかによって決まります。

ピッキング計画の実行

[ピッキング計画] ボタンを選択してピッキング計画を作成することをこのユーザーに許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。

注: このチェック ボックスをオンにしない限り、作業指示のスケジュール ページ、技術者ワークベンチおよび作業指示完了コンポーネントの [ピッキング計画] ボタンは選択できません。

ピッキング計画のラン コントロール

このリンクをクリックして、在庫管理のプロセス/出力オプション ページにアクセスし、ピッキング計画ラン コントロール データを設定する必要があります。このデータは、Maintenance Management で選択した部品を在庫管理に割り当てたり、SQR を実行してピッキング計画リストを作成するために使用されます。

Schedules Page - Inventory SchedulesPeopleSoft Maintenance Management を参照してください。

ユーザー権限 - 購買

購買権限

作業指示コンポーネントの購買/手持アイテム スケジュール ページ内で各種購買オプションを選択することをこのユーザーに許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。このオプションを選択しない限り、ユーザーは作業指示からアイテムを調達できません。

ユーザー権限 - ツール

ツール レートの表示/更新

作業指示、技術者ワークベンチおよび作業指示完了コンポーネントでツールのコスト レートや請求レートを表示および更新することをユーザーに許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオフのままにした場合、これらのレートにはアクセスできません。

工具のスケジュール作成

作業指示タスク用のツールをスケジュールすることをユーザー (ツール監督者など) に許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。組織におけるツールのスケジューリング担当者に対しては、このチェック ボックスをオンにする必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユーザー権限 - 詳細

検索ビューへのアクセス許可

技術者ワークベンチの [表示] ボタンを選択してタスク検索ページにアクセスし、このページに入力した検索条件に基づいてタスクを検索してアクセスすることをユーザーに許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。

このチェック ボックスをオンにしない限り、このユーザーに対して、技術者ワークベンチの [表示] ボタンは表示されません。この場合、技術者 (ユーザー) は、事前に定義されたビューに基づいて特定の作業指示タスクにのみアクセスできます。

他者のタスクへのアクセス権限

技術者ワークベンチで他の技術者の作業指示タスクにアクセスすることを許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにすると、割当済ユーザー以外のユーザーがタスク検索ページの [割当先] フィールドから技術者のユーザー ID を削除または変更したり、複数のユーザーの担当タスクを検索できるようになります。このチェック ボックスをオンにしない限り、技術者ワークベンチに関連付けられているタスク検索ページの [割当先] フィールドに割当済技術者がデフォルトで入力され、変更できません。

注: このチェック ボックスの設定は、技術者ワークベンチにのみ適用され、作業指示完了コンポーネントには適用されません。作業指示完了コンポーネントへのアクセス権限を持つユーザーは、選択した作業指示に関連付けられている 1 つ以上のタスクに割り当てられた複数の従業員の勤務時間を入力できます。

作業指示セキュリティへのアクセス許可

作業指示コンポーネントのその他ページにある技術者作業指示アクセス リンクをクリックして作業指示アクセス ページを表示することをユーザー (作業指示へのリソース アクセスを管理するユーザー) に許可する場合、このチェック ボックスをオンにします。定義ページで技術者作業指示セキュリティ オプションとして [作業所] または作業所/リソース プールが選択されたビジネス ユニットを使用して作業指示を作成した場合、このユーザーは、このビジネス ユニットを使用して作成された全ての作業指示の作業指示アクセス ページで作業所を追加または削除できます。

作業指示の作成に使用された作業所は一覧に自動的に追加され、削除できません。作業指示の作業指示アクセス ページに一覧表示された作業所に割り当てられているリソースは、作業指示コンポーネント、エクスプレス作業指示コンポーネントおよび技術者ワークベンチで作業指示と作業指示タスクにアクセスできます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Setting Up a Work Order Business UnitPeopleSoft Maintenance Management を参照してください。

「Using the Work Order Miscellaneous Page」を参照してください。

作業指示アクセス権限の適用

リソース プール、作業所、または作業所/リソース プールに技術者作業指示セキュリティが設定されているビジネス ユニットに関連付けられている特定の作業指示、作業指示タスクおよびエクスプレス作業指示のみにユーザーのアクセスを制限する場合、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにしない限り、このユーザーは、作業指示コンポーネント、エクスプレス作業指示コンポーネントおよび技術者ワークベンチで作業指示と作業指示タスクに完全にアクセスできます (ただし、これらのコンポーネントに対するユーザーの PeopleSoft セキュリティ設定により異なります)。

注: 特定の技術者に対して、他の技術者に割り当てられている作業指示タスクに技術者ワークベンチからアクセスできるようにする場合も、[他者のタスクへのアクセス権限] チェック ボックスをオンにする必要があります。

Business Unit Setup OptionsPeopleSoft Maintenance Management を参照してください。

Work Order Creation Using the Work Order ComponentPeopleSoft Maintenance Management を参照してください。

Using the Work Order Miscellaneous PagePeopleSoft Maintenance Management を参照してください。

ユーザー基本設定 - モバイル在庫管理ページ

ユーザー基本設定 - モバイル在庫管理ページ (MIN_USER_TASK_OPT) を使用して、モバイル在庫管理のユーザー基本設定を定義します。

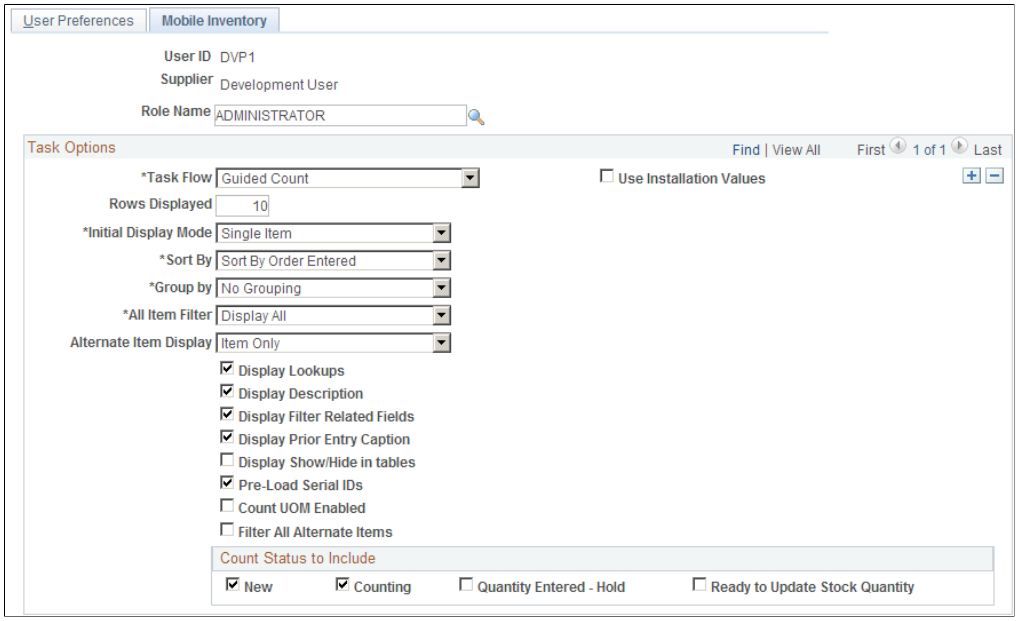
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [モバイル在庫管理] を選択し、タスク フローを選択します。

画像: ユーザー基本設定 - モバイル在庫管理ページ

次の例では、ユーザー基本設定 - モバイル在庫管理: ガイド付き棚卸ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



モバイル在庫管理ページでは、ユーザーごとに PeopleSoft モバイル在庫管理のページを調整できます。ユーザー基本設定のページはモバイル在庫管理ではオプションです。ユーザー ID に対してこのページが定義されていない場合、または [インストール値の使用] チェック ボックスがオンになっている場合、インストール値に定義されている値が使用されます。

モバイル在庫管理では、次のタスク フローに対してユーザー基本設定を定義できます。

- 調整
- 場所移動
- 配送、配送カート
- エクスプレス払出
- 保管場所別棚卸、アイテム別棚卸、ガイド付き棚卸および任意指定棚卸
- アイテム在庫照会
- 棚卸
- 格納の実行

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- アドホック受領、発注受領

各タスク フローと各タスク フローで表示されるフィールドの詳細:

Mobile Inventory Management OverviewPeopleSoft Mobile Inventory Management を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第8章

システムのセキュリティ保護

PeopleSoft アプリケーション セキュリティについて

PeopleSoft アプリケーションでは、複数レベル セキュリティを使用して共有データ環境を管理できます。システム内の複数のエントリ ポイントからのデータ アクセスを設定し、複数のビジネス グループ、テーブル、部門、ページなどにわたるデータに対して最も効率的なパスを定義します。各種オプションを選択し、さまざまな権限によるユーザーのデータ アクセスを有効化または制限するマトリックスを作成して、セキュリティ定義を完全に制御します。

注: ユーザー プロファイルでは、個々の PeopleSoft ユーザーを定義します。それぞれのユーザーは一意のものです。ユーザー プロファイルは多数のユーザー属性を指定します。ユーザー プロファイルは、ユーザー プロファイル コンポーネント (USERMAINT) を使用して設定します。

---

*『PeopleTools: Security Administration』*を参照してください。

セキュリティ アクセスはネットワーク、データベース、およびアプリケーションの 3 つの領域をカバーしています。ネットワーク セキュリティはシステム ハードウェアおよびソフトウェア リソースへのエントリ ポイント全体を制御します。データベース セキュリティはユーザーの情報アクセスの範囲を限定します。アプリケーション レベルでは、セキュリティはフィールド レベルに及びます。

PeopleSoft アプリケーション セキュリティ レベルは次のとおりです。

- ワークステーション ユーザー。
- ネットワーク サーバー セキュリティ。
- データベース管理 (RDBMS) セキュリティ。
- PeopleSoft アプリケーション セキュリティ。

ユーザーは定義済の一連の機能、ページ、およびフィールドにアクセスできます。たとえば、監査人は照会ページを確認してレポートを作成し、管理担当者は PeopleSoft ビジネス プロセスを実行し、管理情報システムのスタッフはページおよびレコードを構成し、管理できます。

このセクションでは、次の事項について説明します。

- セキュリティ用語。
- PeopleSoft Financials の行レベル セキュリティ。
- 権限リスト。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

セキュリティ用語

次の表では、PeopleSoft アプリケーション セキュリティの各種タイプについて説明します。

セキュリティ タイプ	*場所*	*機能*
ネットワーク	ネットワーク ソフトウェア	ネットワークへのエントリを制御し、共有リソースを使用する権限を付与します。
リレーショナル データベース管理システム (RDBMS)	オペレーティング システム	データベースへのアクセスを制御します。
ユーザー	PeopleTools	アプリケーション ページ、機能、およびビジネス コンポーネントへのアクセスを制御します。
オブジェクト	PeopleTools	アプリケーション開発に使用するオブジェクトまたはオブジェクト グループへのアクセスを制御します。
クエリー	PeopleTools	システム クエリーの実行のためにアクセス可能なテーブル行セットを定義します。
行レベル	PeopleTools および PeopleSoft アプリケーション	ユーザーに確認または更新する権限があるテーブル内のデータ行サブセットへのアクセスを制御します。
フィールドレベル	PeopleCode	ページの各フィールドへのアクセスを制御します。

PeopleSoft Financials の行レベル セキュリティ

セキュリティを設定するには、必要なレベル、セキュリティで保護するキー フィールド、ユーザー ID または権限リストのどちらでセキュリティを定義するかを最初に決定する必要があります。行レベル サポートでは、セキュリティを実装して、次のキー フィールドで制御される特定のデータ行から各ユーザーまたは権限リストを制限する必要があります。

- ビジネス ユニット
- セットID
- 元帳 (および元帳グループ)
- 台帳
- プロジェクト
- 支払サイクル
- プランニング インスタンス

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

特定の行サブセットにアクセスを限定することもできます。たとえば、ユーザー ID セキュリティを指定して、パリの監査人をヨーロッパ事業部のビジネス ユニットに限定できます。または、監査人チームがある場合は、その全員に 1 つのプライマリ権限リストを割り当て、次に権限リスト セキュリティを指定し、アクセスできる情報を適切に制限します。

あるセキュリティ レベルにどの程度のユーザーが割り当てられているかによって、ユーザー ID または権限リストのどちらに基づくセキュリティを使用するかを決定できます。1,000 ユーザーのアクセス要件が同じであれば、権限リスト セキュリティの使用を検討します。これらのユーザーを単一ロールに割り当てることによって、後でアクセス要件の変更が必要なときの操作が 1,000 回ではなく 1 回で済みます。

注: 行レベル セキュリティの適用は、バッチ処理で選択されたデータを制限*しません*。

権限リスト

次の表では、ユーザーが使用できる権限リストのサンプルと対応するメニューおよびコンポーネントを示します。

注: ロール割当によってユーザーと関連付ける権限リストは、PeopleSoft Financials の行レベル セキュリティには使用されません。権限リストで行レベル アクセスを設定する場合は、ユーザーのプライマリ権限リストのみが関連します。

次の表には、さまざまな一般会計ユーザーに付与された権限がリストされています。

権限リスト ID	***説明***	***メニュー***	***コンポーネント***
EPGL1000	GL 取引/処理	仕訳処理	仕訳入力

次の表には、会計処理マネージャ ロールに付与された権限がリストされています。

権限リスト ID	***説明***	***メニュー***	***コンポーネント***
EPGL9100	ビジネス ユニット設定 - GL	ビジネス ユニット設定	一般会計定義、ユニット別元帳、一般会計ユニット、ユニット別元帳、レコード グループ、テーブルセット コントロール、テーブルセットID
EPGL9000	一般会計	チャートフィールドの設定	勘定科目、製品、シナリオ、統計コード、チャートフィールド編集テンプレート、組合せ定義、組合せルール、組合せグループ、スピード入力、組合せデータ作成、メッセージ ログ、組合せデータ、バックグラウンド処理、代替勘定科目クロス リファレンス、部門、プロジェクト、チャートフィールドの設定

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

権限リスト ID	説明	メニュー	コンポーネント
EPGL9000	一般会計	一般オプション定義	勘定科目タイプ、会計入力定義、カレンダー ビルダー、通貨コード、通貨換算、詳細カレンダー、ドキュメント タイプ、Dun and Bradstreet、ファイル ロケーション、インストール オプション、仕訳コード、仕訳ジェネレータ テンプレート、仕訳ソース、仕訳タイプ、市場レート タイプ、市場レート、ポジション勘定科目、スケジュール、都道府県/州、要約カレンダー、タイムスパン、単位、クロス/相互レート計算、ドキュメント連番範囲、ユーザー基本設定
EPGL9000	一般会計	予算調整	予算詳細管理、予算コピー定義、予算コピー グループ、予算コピー リクエスト、メッセージ ログ、予算コピー計算ログ
EPGL3000	コミットメント コントロール	コミットメント コントロール管理	ソース取引定義、コントロール予算定義、予算属性、関連予算、チャートフィールド値セット、予算締め処理ルール、セキュリティ フィールド設定
EPGL2000	配賦	配賦プロセス	配賦、配賦グループ、配賦リクエスト、コピー/名称変更/削除ステップ、メッセージ ログ、共有テーブル統計、配賦ステップ
EPGL1100	元帳レビュー/レポート	連結処理	消去セット、少数株主持分セット、連結定義、子会社連結持分
EPGL1100	元帳レビュー/レポート	元帳管理	換算ルール、換算ステップ、元帳内換算、多通貨グループ、多通貨処理、換算定義レポート、換算計算ログ レポート、元帳内換算ステップ レポート、元帳内換算ログ レポート、仕訳締め処理ステータス レポート

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

権限リスト ID	*説明*	*メニュー*	*コンポーネント*
EPGL1110	元帳レビュー/レポート	元帳管理	評価替ステップ、多通貨グループ、多通貨処理、買掛金評価替、売掛金評価替、買掛金評価替照会、売掛金評価替照会、評価替定義レポート、評価替計算ログ
EPGL1100	元帳レビュー/レポート	元帳管理	元帳アーカイブ処理、フラットファイル元帳のロード処理、元帳ファイル作成処理、元帳パブリッシュ処理、元帳テンプレート、明細元帳、明細元帳グループ、元帳アーカイブ ログ照会、元帳テンプレート レポート、明細元帳定義レポート
EPGL1100	元帳レビュー/レポート	元帳管理	日中平均残高定義、日中平均残高処理
EPGL1100	元帳レビュー/レポート	元帳管理	要約元帳定義、要約元帳処理、, 元帳セット、要約元帳ステータス照会、要約元帳定義レポート、要約元帳明細レポート
EPGL1100	元帳レビュー/レポート	元帳管理	チャートフィールド値セット、締め処理ルール、締め処理、締め処理ルール レポート、締め処理試算表レポート
EPGL1100	元帳レビュー/レポート	仕訳処理	元帳照会、元帳期間比較、元帳グループ照会
EPGL1000	GL 取引/処理	仕訳処理	仕訳入力、仕訳コピー処理
EPGL1000	GL 取引/処理	仕訳処理	仕訳ジェネレータ処理
EPGL1000	GL 取引/処理	仕訳処理	定型仕訳入力、定型仕訳処理、定型仕訳照会、定型仕訳レポート
EPGL1000	GL 取引/処理	仕訳処理	受信ファイル、仕訳ロード処理、バッチ仕訳インポート処理、ワークブック インポート処理
EPGL1000	GL 取引/処理	仕訳処理	仕訳入力承認

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

権限リスト ID	*説明*	*メニュー*	*コンポーネント*
EPGL1000	GL 取引/処理	仕訳処理	仮計上仕訳修正、仕訳転記指定処理、仕訳転記取消指定処理、仕訳編集処理、仕訳予算チェック処理、仕訳のロック解除処理、仕訳転記処理、仮計上仕訳クロス リファレンス照会
EPGL1000	GL 取引/処理	仕訳処理	仕訳アーカイブ処理、仕訳アーカイブ ログ
EPGL1000	GL 取引/処理	仕訳処理	仕訳照会、仕訳ステータス照会、給与計算仕訳入力照会、一般会計入力照会、仕訳入力明細レポート、仕訳入力編集エラー レポート、転記済仕訳 - サマリ レポート、元帳と仕訳の整合性レポート、試算表レポート、法定試算表レポート、法定一般会計アクティビティ レポート、法定仕訳アクティビティ レポート、法定仕訳反対アクティビティ レポート、仮計上アクティビティ レポート、ユニット間アクティビティ レポート
EPGL1000	GL 取引/処理	仕訳処理	仮勘定、仮勘定照合処理、仮勘定ステータス照会、仮勘定リスト レポート
CPPT1040	レポート マネージャ	レポート マネージャ	レポート リスト
CPPT1050	プロセス スケジューラ	プロセス スケジューラ	プロセス タイプ定義、プロセス定義、ジョブ定義、定期処理定義、サーバー定義、レポート ノード定義、システム設定、バッチのタイミング、サンプル処理
CPPT1010	nVision レポート	nVision	レイアウトの定義、レポートの編集、レポートの実行、レポートの保存、レポートの削除、スコープを開く、スコープの編集、スコープの保存、スコープの削除
CPPT1020	レポート台帳	レポート台帳	レポート台帳定義、ドリルダウン レイアウト登録、ドリルダウンの実行、レポート リクエスト、スコープ定義

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

権限リスト ID	説明	メニュー	コンポーネント
CPPT1030	ツリー マネージャ	ツリー マネージャ	新規、開く、名称変更、削除、印刷、ツリー ノード、ツリー レベル

システム セキュリティ オプションの指定

セキュリティ オプション コンポーネント (SECURITY_OPTIONS) を使用して、システム セキュリティ オプションを指定します。

システム セキュリティ オプションの指定に使用するページ

ページ名	定義名	用途
セキュリティ オプション ページ	SECURITY_OPTIONS	実装するセキュリティのタイプ (ユーザー別または権限リスト別)、およびセキュリティ対象のキー フィールドを選択します。システムの設定に使用したほとんどのページとは異なり、このページはセットIDまたはビジネス ユニットをキーとしていません。
セキュリティの適用ページ	RUN_FIN9001	プロセスを実行してオプションを適用します。パラメータは不要です。

セキュリティ オプション ページ

セキュリティ オプション (SECURITY_OPTIONS) ページを使用して、実装するセキュリティのタイプ (ユーザー別または権限リスト別)、およびセキュリティ対象のキー フィールドを選択します。

システムの設定に使用したほとんどのページとは異なり、このページはセットID またはビジネス ユニットをキーとしていません。

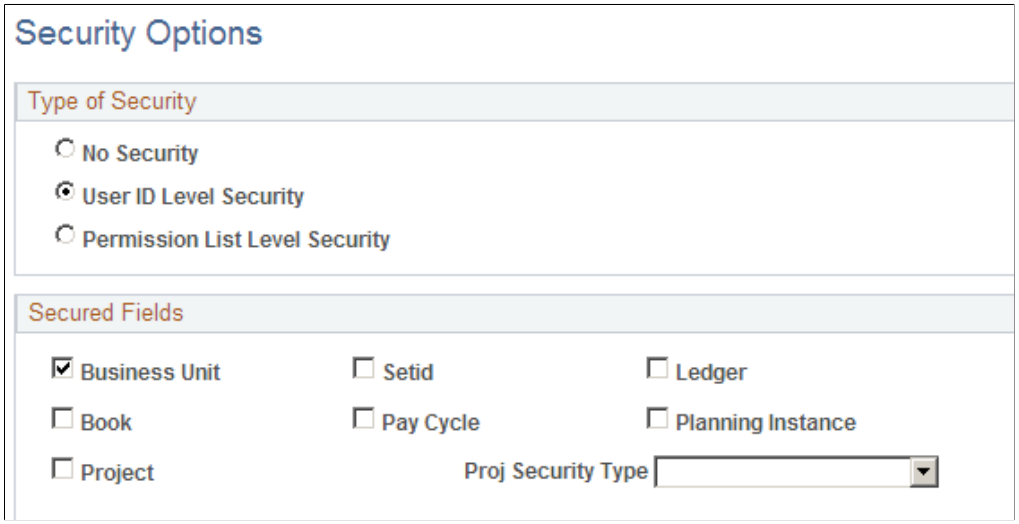
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [セキュリティ オプション], [セキュリティ オプション]

画像: セキュリティ オプション ページ

次の例では、セキュリティ オプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



セキュリティ タイプ

なし 選択すると PeopleSoft アプリケーション セキュリティが無効になります。このページにアクセスする権限があるすべてのユーザーは、セットID、ビジネス ユニット、または元帳を選択できます。

ユーザーID レベル 選択するとユーザー ID 別のセキュリティが有効になります。ユーザーのアクセスは、そのユーザー ID で指定されているセットID、ビジネス ユニット、プロジェクト、および元帳に関連付けられているアプリケーション ページまたはプロンプト値に限定されます。

権限リスト レベル 選択すると権限リスト別のセキュリティが有効になります。ユーザーのアクセスは、そのユーザー ID を割り当てたプライマリ権限リストで指定されているキー フィールドに限定されます。つまり、特定の権限リストに割り当てられたユーザーは全て、同じレベルのセキュリティを保持します。

注: 選択肢はユーザー ID または権限リストのいずれかであり、全製品に及びます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

セキュリティ対象フィールド

ビジネス ユニット 選択すると [ビジネス ユニット] フィールドのセキュリティを実装できます。これは全てのトランザクション データの主要キーです。

セットID 選択すると [セットID] フィールドのセキュリティを実装できます。これは全ての会計処理構造およびルール テーブルの主要キーです。

元帳 選択すると [元帳] フィールドのセキュリティを実装できます。これは全ての元帳残高のキーです。

台帳 選択すると [台帳] フィールドのセキュリティを実装できます。このコードはビジネス ユニット固有のものです。このフィールドは資産管理で使用される*台帳*を参照します。

支払サイクル 選択すると [支払サイクル] フィールドのセキュリティを実装できます。支払サイクルは日次、週次、月次、またはその他の間隔で指定できます。

プランニング インスタンス 選択すると [プランニング インスタンス] フィールドのセキュリティを実装できます。

プロジェクト 選択すると [プロジェクト] フィールドのセキュリティを実装できます。これは全ての PeopleSoft プロジェクト コスト管理データの主要キーです。

[プロジェクト セキュリティ タイプ] プロジェクト セキュリティ タイプ ユーザーおよび権限リストのセキュリティを定義する際、プロジェクトがどのように選択されるかを決定します。*[リスト]* を選択してプロジェクトのリストから選択します。*[ツリー]* を選択してプロジェクトの詳細を示すツリーから選択します。

セキュリティの適用ページ

セキュリティの適用ページ (RUN_FIN9001) を使用して、オプションを適用するプロセスを実行します。

パラメータは不要です。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [セキュリティ設定の適用], セキュリティの適用

データベースのデフォルトの言語を指定し、プロセスを実行します。これにより、全てのキー フィールドのプロンプト テーブルが指定したセキュリティ ビューに変更されます。

製品ドキュメントの*『PeopleTools: Security Administration』*および*『PeopleTools: PeopleCode Language Reference』*を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

セキュリティ ビューの定義

セキュリティ ビュー名 コンポーネント (SECURITY_VIEWS) を使用してセキュリティ ビューを定義します。

セキュリティ ビューの定義に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
セキュリティ ビュー ページ	SECURITY_VIEWS	各セキュリティ タイプに対して、システムのセキュリティ ビューを指定します。セキュリティ設定の適用プロセスにより、ここで指定したセキュリティ ビュー名に基づいてプロンプト編集テーブルが変更されます。このページは新しいセキュリティ ビューをシステムに追加した場合のみ更新してください。

セキュリティ ビューについて

注: 新しいセキュリティ ビューの定義はオプションです。

ビューは SQL ステートメントであり、キー値が特定のユーザーに対してアクセス可能でないデータ行をフィルタによって除外します。これにより、ユーザーは水平方向に複数のテーブルでデータにアクセスし、編集テーブルから該当する値のサブセット (セットID、ビジネス ユニット、または元帳) のみを参照できます。

ビジネス ユニット、セットID、および元帳はシステム全体で主要キーとして管理され、ページからアクセスされます。プロンプト編集テーブルでは、ユーザーが選択可能な値リストが表示され、その選択肢はユーザーがアクセス権限を持つ値に限定されています。PeopleSoft の行レベル アプリケーション セキュリティでは、特定のビューで特定の値のみを使用できる編集テーブルを使用して指定できます。

PeopleSoft アプリケーションでは、システムのキー フィールドのプロンプト テーブルにセキュリティ ビューが表示されません。特定のセキュリティ オプションを有効にしたり、独自のビューを作成することもできます。ビューを設定すると、特定のセキュリティ対象フィールド値にアクセスできるユーザーまたは権限リストを指定できます。

セキュリティ ビュー名には、次の 3 つのファイル拡張子のいずれかが使用され、プロンプトに使用されるセキュリティ ビューのタイプを反映しています。

拡張子	*説明*
NONVW	このビューをプロンプト テーブルとして使用するフィールドにセキュリティが選択されていないことを示します。
OPRVW	このビューをプロンプト テーブルとして使用するフィールドにユーザー ID セキュリティが選択されていることを示します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

拡張子	*説明*
CLSVW	このビューをプロンプト テーブルとして使用するフィールドに権限リスト セキュリティが選択されていることを示します。

セキュリティ ビュー ページ

セキュリティ ビュー ページ (SECURITY_VIEWS) を各セキュリティ タイプに使用して、システムのセキュリティ ビューを指定します。

セキュリティ設定の適用プロセスにより、ここで指定したセキュリティ ビュー名に基づいてプロンプト編集テーブルが変更されます。このページは新しいセキュリティ ビューをシステムに追加した場合のみ更新してください。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [セキュリティ ビュー名], [セキュリティ ビュー]

注: セキュリティ ビューをカスタマイズしていない限り、このページにアクセスする必要はありません。

検索テキスト

アプリケーションから提供されるビュー名プレフィックスを表示します。セキュリティ設定の適用プロセスでは、このプレフィックスで始まるプロンプト編集テーブルが検索されます。編集テーブル名がこのリストのプレフィックスで始まる場合、適切な列の編集テーブルがアクセスされます。このテーブルはセキュリティ オプション (セキュリティなし、ユーザー ID セキュリティ、または権限リスト セキュリティ) を指定したときに選択したセキュリティ タイプと一致します。

タイプ

各ビューでセキュリティ保護されるフィールドのタイプを選択します。値は*[台帳]*、*[元帳]*、*[支払サイクル]*、*[問題インスタンス]*、*[プロジェクト]*、*[セットID]* および *[ユニット]* のいずれかです。SEC_VIEW_NAMES テーブルのリストはシステムに保存され、そこで情報を確認および更新することができます。

行レベル セキュリティの定義

このトピックでは、行レベル セキュリティとそのナビゲーション、および用途を定義する場合に使用するページを示します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

行レベル セキュリティの定義に使用するページ

ページ名	*定義名*	*ナビゲーション*	*用途*
権限リスト別ビジネス ユニット セキュリティ ページ	SEC_BU_CLS	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [権限リスト別ユニット], [権限リスト別ビジネス ユニット セキュリティ]	権限リストを使用してビジネス ユニットへのアクセス権限を付与します。
ユーザー ID 別ビジネス ユニット セキュリティ ページ	SEC_BU_OPR	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [ユーザー ID 別ユニット], [ユーザー ID 別ビジネス ユニット セキュリティ]	ユーザー ID を使用してビジネス ユニットへのアクセス権限を付与します。
権限リスト別テーブルセット セキュリティ ページ	SEC_SETID_CLS	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [権限リスト別テーブルセット], [権限リスト別テーブルセット セキュリティ]	権限リストを使用してテーブルセットへのアクセス権限を付与します。
ユーザー ID 別テーブルセット セキュリティ ページ	SEC_SETID_OPR	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [ユーザー ID 別テーブルセット], [ユーザー ID 別テーブルセット セキュリティ]	ユーザー ID を使用してテーブルセットへのアクセス権限を付与します。
権限リスト別元帳セキュリティ ページ	SEC_LEDGER_CLS	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [権限リスト別元帳], [権限リスト別元帳セキュリティ]	権限リストを使用して元帳または元帳グループへのアクセス権限を付与します。
ユーザー ID 別元帳ページ	SEC_LEDGER_OPR	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [ユーザー ID 別元帳], [ユーザー ID 別元帳セキュリティ]	ユーザー ID を使用して元帳または元帳グループへのアクセス権限を付与します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*ナビゲーション*	*用途*
nVision 元帳セキュリティ ページ	LEDGER_SECURITY	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [nVision 元帳セキュリティ]	ロールではなくユーザーにより、nVision 元帳フィールドをセキュリティ保護して PS/nVision レポート作成時にビジネス ユニットと元帳をアクセス可能に指定します。PS/nVision レポートの対象範囲がビジネス ユニットと元帳の境界を超えているため、他のタスクの実行時にはアクセスできないフィールド データを使用してレポートを生成するユーザーに対して、特定のセキュリティ アクセスの指定が必要になる場合があります。
プロジェクト セキュリティ ページ ユーザー、ツリー ベースのセキュリティ	SEC_PROJECT_OPR	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [プロジェクト セキュリティ], [プロジェクト セキュリティ]	ユーザー ID によりプロジェクト ロールへのアクセス権限を付与します。このページは 2 バージョンあり、*[リスト]* または *[ツリー]* のどちらがセキュリティ オプション ページのセキュリティ タイプとして選択されているかに応じて決定されます。
プロジェクト セキュリティ ページ	SEC_PROJLST_CLS	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [プロジェクト セキュリティ], [プロジェクト セキュリティ]	これはこのページの 2 つ目のバージョンです。権限リストによりプロジェクト ロールへのアクセス権限を付与します。
台帳/権限リスト ページ (権限リスト別ビジネス ユニット)	SEC_BUBOOK_CLS	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [権限リスト別台帳セキュリティ], [台帳/権限リスト]	権限リストを使用してビジネス ユニット台帳へのアクセス権限を付与します。
ユーザー ID 別台帳ページ (ユーザー ID 別ビジネス ユニット台帳)	SEC_BUBOOK_OPR	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [ユーザー ID 別台帳セキュリティ], [ユーザー ID 別台帳]	ユーザー ID を使用してビジネス ユニット台帳へのアクセス権限を付与します。
権限リスト別支払サイクル ページ	SEC_PYCYCL_CLS	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [権限リスト別支払サイクル], [権限リスト別支払サイクル]	権限リストを使用して支払サイクルへのアクセス権限を付与します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*ナビゲーション*	*用途*
ユーザー ID 別支払サイクル ページ	SEC_PYCYCL_OPR	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [ユーザー ID 別支払サイクル], [ユーザー ID 別支払サイクル]	ユーザー ID を使用して支払サイクルへのアクセス権限を付与します。
グラント ユーザー セキュリティ ページ	GM_SEC_DEPT_OPR	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], グラント セキュリティ, グラント ユーザー セキュリティ	ユーザー ID により部門別アクセス権限を付与します。
提案管理セキュリティ ページ	GM_PM_SEC_DEPT_OPR	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], 提案管理セキュリティ, 提案管理セキュリティ	ユーザー ID により部門別アクセス権限を付与します。
プランニング インスタンス ページ	SEC_PRBINS_OPR	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [ユーザー ID 別プランニング インスタンス], [プランニング インスタンス]	ユーザー ID によりプランニング インスタンスへのアクセス権限を付与します。
プランニング インスタンス ページ	SEC_PRBINS_CLS	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [権限リスト別プランニング インスタンス], [プランニング インスタンス]	権限リストによりプランニング インスタンスへのアクセス権限を付与します。

行レベル セキュリティの定義について

次のコンポーネントを使用して行レベル セキュリティを定義します。

- 権限リスト別ユニット セキュリティ (SEC_BU_CLS)
- ユーザー ID 別ユニット セキュリティ (SEC_BU_OPR)
- 権限リスト別テーブルセット セキュリティ (SEC_SETID_CLS)
- ユーザー ID 別テーブルセット セキュリティ (SEC_SETID_OPR)
- 権限リスト別元帳セキュリティ (SEC_LEDGER_CLS)
- ユーザー ID 別元帳セキュリティ (SEC_LEDGER_OPR)
- nVision 元帳セキュリティ (LEDGER_SECURITY)
- ユーザー ID 別支払サイクル (SEC_PYCYCL_OPR)
- 権限リスト別支払サイクル (SEC_PYCYCL_CLS)

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- プロジェクト セキュリティ (SEC_PROJECT)

次のコンポーネント インターフェイスを使用して、対応する各コンポーネント テーブルにデータをロードします。

- 権限リスト別ユニット セキュリティ コンポーネントのテーブルにデータをロードするには、SEC_BU_CLS コンポーネント インターフェイスを使用します。
- ユーザー ID 別ユニット セキュリティ コンポーネントのテーブルにデータをロードするには、SEC_BU_OPR コンポーネント インターフェイスを使用します。
- 権限リスト別元帳セキュリティ コンポーネントのテーブルにデータをロードするには、SEC_LEDGER_CLS コンポーネント インターフェイスを使用します。
- ユーザー ID 別元帳セキュリティ コンポーネントのテーブルにデータをロードするには、SEC_LEDGER_OPR コンポーネント インターフェイスを使用します。
- nVision 元帳セキュリティ コンポーネントのテーブルにデータをロードするには、SECURITY_NVISION_LEDGER コンポーネント インターフェイスを使用します。

セキュリティ オプションを選択し、必要に応じてセキュリティ ビュー名を更新した後、各ユーザーまたは権限リストに対してセキュリティ対象フィールドの値を定義します。権限リストまたはユーザー ID を使用して、ビジネス ユニット、テーブルセット、元帳、ビジネス ユニット台帳、支払サイクルへのアクセス権限を付与します。アプリケーション内でキー フィールドをセキュリティで保護する場合、使用するページは選択したシステム セキュリティのレベルによって異なります。権限リスト セキュリティを選択した場合は、権限リスト セキュリティ ページのフィールドをセキュリティで保護します。ユーザーレベル セキュリティを選択した場合は、ユーザー ID セキュリティ ページのフィールドをセキュリティで保護します。

注: ビジネス ユニット、セットID、元帳、台帳、プランニング インスタンス、支払サイクルの行レベル アクセスを権限リストに付与する場合は、ユーザーのプライマリ権限リストが使用されます。

警告 ラン コントロールを再利用した場合、セキュリティ対象フィールドに入力された値は行レベル セキュリティ権限に対してチェックされません。ユーザーが最初にラン コントロールを作成した後、そのフィールドへの行レベル セキュリティ アクセスを失っても、引き続きセキュリティ対象フィールド値のプロセスを実行できます。セキュリティ プロファイルを変更した場合は、セキュリティ対象データを使用するラン コントロールを検証し、ユーザーがアクセスできなくなったセキュリティ対象フィールド値についてはラン コントロールを削除します。

ユーザーへのアクセス権限の付与

このトピックでは、次の方法について説明します。

- ビジネス ユニット アクセスの付与。
- テーブルセット アクセスの付与。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 元帳アクセスの付与。
- nVision レポート アクセスの付与。
- プロジェクト アクセスの付与。
- ビジネス ユニット台帳アクセスの付与。
- 支払サイクル アクセスの付与。
- グラント アクセスの付与。
- 提案管理アクセスの付与。
- プランニング インスタンス アクセスの付与。

ビジネス ユニット アクセスの付与

権限リスト別ビジネス ユニット セキュリティ ページにアクセスします ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[セキュリティ]、[権限リスト別ユニット]、[権限リスト別ビジネス ユニット セキュリティ])。

それぞれのプライマリ権限リストで、アクセス可能なビジネス ユニットを選択します。

ユーザー ID 別ビジネス ユニット ページにアクセスします ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[セキュリティ]、[ユーザー ID 別ユニット]、[ユーザー ID 別ビジネス ユニット セキュリティ])。

それぞれのユーザー ID で、アクセス可能なビジネス ユニットを選択します。

テーブルセット アクセスの付与

権限リスト別テーブルセット セキュリティ ページにアクセスします ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[セキュリティ]、[権限リスト別テーブルセット]、[権限リスト別テーブルセット セキュリティ])。

それぞれのプライマリ権限リストで、アクセス可能なセットID を選択します。

ユーザー ID 別テーブルセット セキュリティ ページにアクセスします ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[セキュリティ]、[ユーザー ID 別テーブルセット]、[ユーザー ID 別テーブルセット セキュリティ])。

それぞれのユーザー ID で、アクセス可能なセットID を選択します。

元帳アクセスの付与

権限リスト別元帳セキュリティ ページにアクセスします ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[セキュリティ]、[権限リスト別元帳]、[権限リスト別元帳セキュリティ])。

それぞれのプライマリ権限リストで、アクセス可能な元帳タイプを選択します。[コミットメント] および [要約] 元帳タイプには元帳名が必要です。[詳細] 元帳タイプには元帳グループ名が必要です。

ユーザー ID 別元帳 ページにアクセスします ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[セキュリティ]、[ユーザー ID 別元帳]、[ユーザー ID 別元帳セキュリティ])。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

それぞれのユーザー ID で、アクセス可能な元帳タイプを選択します。[コミットメント] および [要約] 元帳タイプには元帳名が必要です。[詳細] 元帳タイプには元帳グループ名が必要です。

nVision レポート アクセスの付与

nVision 元帳セキュリティ ページにアクセスします ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[セキュリティ]、[nVision 元帳セキュリティ])。

それぞれのユーザー ID で、アクセス可能なビジネス ユニットおよび対応する元帳を選択します。各ビジネス ユニットには複数の元帳を指定できます。

プロジェクト アクセスの付与

これらのページは全て行レベル セキュリティを提供することを目的としており、ページの外観は実装したプロジェクト行レベル セキュリティの方法によって異なります。

次の表には、各プロジェクト セキュリティ方法の目的、およびそれぞれの方法を実装するためにセキュリティ オプション ページ ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[セキュリティ]、[セキュリティ オプション]、[セキュリティ オプション]) およびプロジェクト セキュリティ ページ ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[セキュリティ]、[プロジェクト セキュリティ]、[プロジェクト セキュリティ]) で実行するアクションがリストされています。

セキュリティ方法	*目的*	*セキュリティ オプション ページのアクション*	*プロジェクト セキュリティ ページのアクション*
チームベースのセキュリティ	プロジェクト チームの従業員のメンバーシップに基づいてプロジェクトへのアクセス権限を付与します。	1. [セキュリティ タイプ] グループ ボックスで [ユーザーID レベル] を選択します。 2. [セキュリティ対象フィールド] グループ ボックスで [プロジェクト] を選択します。 3. [プロジェクト セキュリティ タイプ] フィールドで *[リスト]* を選択します。	ユーザーがチーム メンバーである全てのプロジェクトの読み取り専用リスト、および各プロジェクトに関するメンバーのセキュリティ プロファイルを参照します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

セキュリティ方法	*目的*	*セキュリティ オプション ページのアクション*	*プロジェクト セキュリティ ページのアクション*
ユーザー、ツリーベースのセキュリティ	プロジェクト ツリーで選択したノードに基づいてプロジェクトへのアクセス権限を付与します。	1. [セキュリティ タイプ] グループ ボックスで [ユーザーID レベル] を選択します。 2. [セキュリティ対象フィールド] グループ ボックスで [プロジェクト] を選択します。 3. [プロジェクト セキュリティ タイプ] フィールドで *[ツリー]* を選択します。	ユーザーのセキュリティを定義します。プロジェクト セキュリティを制御するためシステムで使用するプロジェクト ツリーを指定し、そのツリーでノード (プロジェクト) を選択して各ユーザーに特定プロジェクトへのアクセス権限を付与し、各プロジェクトでユーザーのプロジェクト ロールを選択します。
権限リスト、リストベース セキュリティ	権限リストに添付されたプロジェクトへのユーザー アクセスを可能にする権限リストに対してアクセス権限を付与します。	1. [セキュリティ タイプ] グループ ボックスで [権限リスト レベル] を選択します。 2. [セキュリティ対象フィールド] グループ ボックスで [プロジェクト] を選択します。 3. [プロジェクト セキュリティ タイプ] フィールドで *[リスト]* を選択します。	権限リストのセキュリティを定義します。ユーザーがアクセスする権限のある特定の権限リスト内で、ビジネス ユニット、プロジェクト ID、およびプロジェクト ロールを指定します。
権限リスト、ツリーベース セキュリティ	権限リストに添付されたツリーに属するプロジェクトへのユーザー アクセスを可能にする権限リストに対してアクセス権限を付与します。	1. [セキュリティ タイプ] グループ ボックスで [権限リスト レベル] を選択します。 2. [セキュリティ対象フィールド] グループ ボックスで、[プロジェクト] を選択します。 3. [プロジェクト セキュリティ タイプ] フィールドで *[ツリー]* を選択します。	権限リストのセキュリティを定義します。プロジェクト ツリー、プロジェクト (ツリー ノード)、およびプロジェクト ロールを指定します。

ユーザーのプロジェクト セキュリティ プロファイルでは、ユーザーがプロジェクト データに対して保持するアクセス権限の程度とタイプをさらに定義します。

Defining Project SecurityPeopleSoft Project Costingを参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ビジネス ユニット台帳アクセスの付与

台帳/権限リスト ページにアクセスします ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[セキュリティ]、[権限リスト別台帳セキュリティ]、[台帳/権限リスト])。

それぞれのプライマリ権限リストで、アクセス可能なビジネス ユニットおよび対応する台帳名を選択します。各ビジネス ユニットに複数の台帳へのアクセス権限を指定できます。

ユーザー ID 別台帳 ページにアクセスします ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[セキュリティ]、[ユーザー ID 別台帳セキュリティ]、[ユーザー ID 別台帳])。

それぞれのユーザー ID で、アクセス可能なビジネス ユニットおよび対応する台帳名を選択します。各ビジネス ユニットに複数の台帳へのアクセス権限を指定できます。

支払サイクル アクセスの付与

権限リスト別支払サイクル ページにアクセスします ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[セキュリティ]、[権限リスト別支払サイクル]、[権限リスト別支払サイクル])。

それぞれのプライマリ権限リストで、アクセス可能な支払サイクルを選択します。

ユーザー ID 別支払サイクル ページにアクセスします ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[セキュリティ]、[ユーザー ID 別支払サイクル]、[ユーザー ID 別支払サイクル])。

それぞれのユーザー ID で、アクセス可能な支払サイクルを選択します。

グラント アクセスの付与

グラント ユーザー セキュリティ ページにアクセスします ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[セキュリティ]、グラント セキュリティ、グラント ユーザー セキュリティ)。

それぞれのユーザー ID に、グラント セキュリティ ツリーのセットID、ツリー名、およびツリーの有効日を入力します。ページの下部には、部門と適切なアクセス コードを入力します。部門は必要な数だけ入力できます。

これは複数セキュリティ ステップのうちの 1 つのステップであり、*『PeopleSoft Grants』*製品ドキュメントで詳細に説明しています

関連リンク

PeopleSoft Grants SecurityPeopleSoft Grants

提案管理アクセスの付与

提案管理セキュリティ ページにアクセスします ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[セキュリティ]、提案管理セキュリティ、提案管理セキュリティ)。

それぞれのユーザー ID に、提案セキュリティ ツリーのセットID、ツリー名、およびツリーの有効日を入力します。ページの下部には、部門と適切なアクセス コードを入力します。部門は必要な数だけ入力できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

これは複数ステップ セキュリティ処理のうちの 1 つのステップであり、『*PeopleSoft Proposal Management*』製品ドキュメントで詳細に説明しています。

関連リンク

Understanding PeopleSoft Proposal Management SecurityPeopleSoft Proposal Management

プランニング インスタンス アクセスの付与

プランニング インスタンス ページにアクセスします ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[セキュリティ]、[ユーザー ID 別プランニング インスタンス]、[プランニング インスタンス])。

ユーザー ID で問題インスタンスにアクセスする場合、ユーザー ID によって*プランニング* インスタンスへのアクセス権限を付与できます。

権限リストで問題インスタンスにアクセスする場合、権限リストによって*プランニング* インスタンスへのアクセス権限を付与できます。

プランニング インスタンスのセキュリティについては、供給管理のドキュメントで詳しく説明しています。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第9章

Financials and Supply Chain Management での PeopleSoft Search

Financials and Supply Chain の検索について

このトピックでは、次について説明します。

- PeopleSoft 検索テクノロジ。
- コンポーネント内のグローバル検索ページおよび検索ページ。
- PeopleSoft Financials and Supply Chain Management の検索カテゴリ。
- 検索の推奨
- 用語
- PeopleSoft 検索を Verity の代わりに使用するアプリケーション。

PeopleSoft 検索テクノロジ

PeopleSoft は People Tools との組合せによって Oracle Secure Enterprise Search (SES) を使用する検索機能を提供します。この機能は PeopleSoft 検索フレームワークによって実装されます。

PeopleSoft 検索フレームワークは、全ての PeopleSoft アプリケーションで検索用索引を使用する標準の方法を提供します。検索フレームワークは Secure Enterprise Search (SES) エンジンによって異なります。

PeopleSoft クエリーおよび接続クエリーは、検索用索引で使用されるコンテンツを定義する検索定義で使用されます。検索用索引は増分が更新されるため、頻繁に更新できます。

Financials/Supply Chain 製品エリアでは、PeopleSoft 検索フレームワークの索引が次のエリアに実装されています。

1. これまで検索機能に Verity を使用してきた全てのコンポーネント。

   Verity は PeopleSoft Financial および Supply Chain アプリケーションのリリース 9.2 以降は使用されなくなりました。代わりに、PeopleSoft 検索フレームワークおよび SES を使用する必要があります。

   また、PeopleSoft 検索フレームワークは Oracle SES を構成している場合のみ使用可能です。これは前のリリースで Verity を使用していたシステムの全エリアで必須です。

   SES および PeopleSoft 検索フレームワーク設定の詳細については、次を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleTools: PeopleSoft Search Technology

<使用中のプラットフォーム> への PeopleTools のインストール

2. 支払対象調達ビジネス プロセス内の主要コンポーネント。

   これにより、ユーザーは、特定のフィールド値またはセキュリティ アクセス権限が付与されているキーワードに基づいて、これらのコンポーネントに対してキーワード検索を実行できます。

3. キーワード検索ボックスを使用したグローバル検索。

   キーワード検索ボックスは Oracle ポータル ヘッダーにあります。これにより、適切なセキュリティ権限のあるユーザーは、キーワード検索を使用してビジネス プロセスを検索できます。

PeopleSoft 検索機能では、次の機能を提供することを目的としています。

- キーワードを使用した検索により、トランザクションの検索およびデータの処理を行う際のメニューによる移動が不要になります。
- ファセットを使用して結果を絞り込みます。
- 検索結果から直接アクションを実行します。
- ネストされたデータをより詳細なレベルまで検索します。
- 複数のデータ場所に対して特定の値と非構造化テキストを検索します。



このリンクをクリックして、FSCM用のPeopleSoft グローバル検索についての短いビデオをご覧ください。

コンポーネント内のグローバル検索ページおよび検索ページ

PeopleSoft 検索フレームワークでは、2 つの検索機能を提供します。

- グローバル検索 (Global Search) は、グローバル検索 (Global search) とも呼ばれます。
- キーワード検索ページは選択したコンポーネントに対して使用可能です。

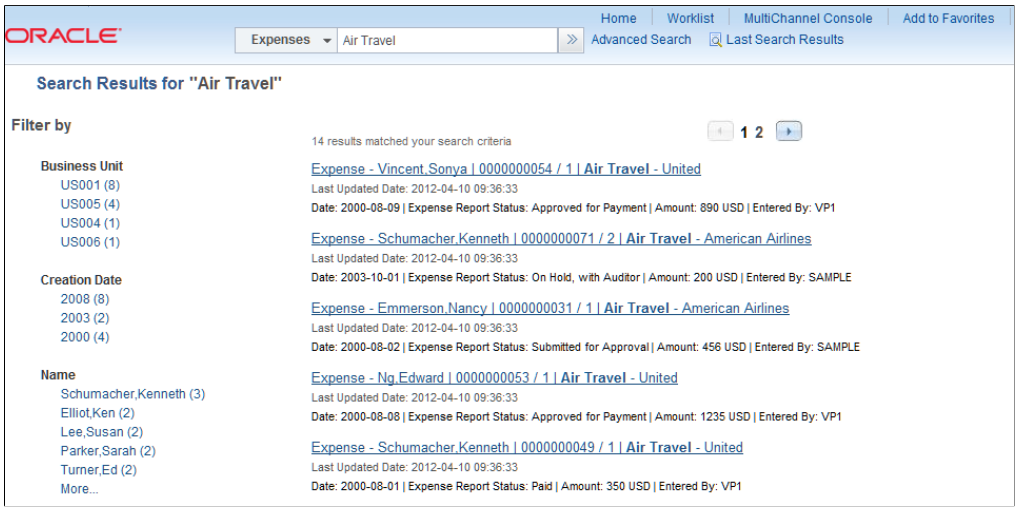
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

グローバル検索

グローバル検索は Oracle ポータル ヘッダーに表示される検索カテゴリのグループで構成されます。場所を検索すると、常にユーザーが使用可能になります。検索カテゴリの選択にはドロップ ダウン リストが使用され、検索対象のデータを入力するには自由形式テキスト検索フィールドを使用できます。

画像: 例: [グローバル検索] フィールド

次の例では、[グローバル検索] フィールドを使用して [経費] カテゴリを選択し、自由形式テキスト検索フィールドに "Air Travel" を入力する例を説明します。



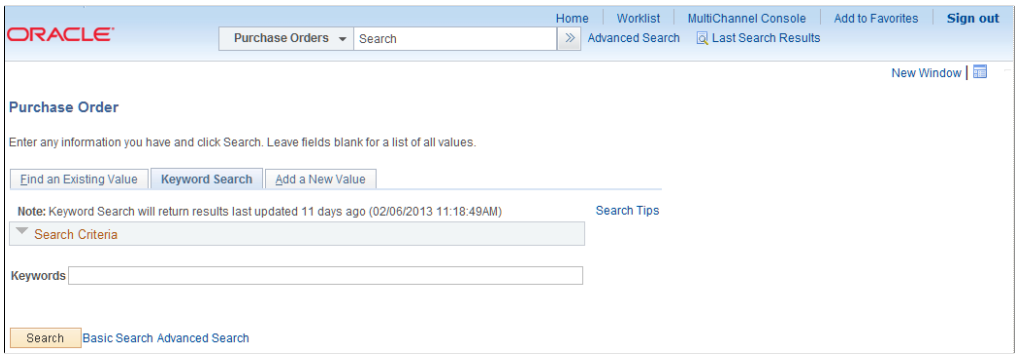
グローバル検索の詳細については、「グローバル検索について」を参照してください。

コンポーネント内の検索ページ

コンポーネント内の検索ページは、選択したコンポーネントの [既存の値の検索] タブと [新規値の追加] の間にある [キーワード検索] タブからアクセスします。[キーワード検索] タブでは、コンポーネントを検索する場合に自由形式テキストを入力できます。

画像: 例: コンポーネント検索 (発注書)

次の例では、発注書の追加/更新コンポーネントに移動し、[キーワード検索] タブをクリックする例を説明します



コンポーネント検索の詳細については、「コンポーネント内の検索ページについて」を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

グローバル検索はユーザー ロールによってセキュリティ保護されます。コンポーネント内の検索ページは、アプリケーション コンポーネントに固有のものです。どちらの機能も、PeopleSoft 検索フレームワーク上に構築されています。

PeopleSoft Financials and Supply Chain Management の検索カテゴリ

検索カテゴリは PeopleSoft によって定義され、PeopleTools セキュリティ内のロールによってセキュリティ保護されます。グローバル検索が有効な場合、検索カテゴリを選択し、キーワード編集フィールドで自由形式テキストを入力できます。検索カテゴリを使用すると、検索対象の索引の数が削減され、検索のパフォーマンスが向上します。

次の表には、PeopleSoft 検索フレームワーク テクノロジで拡張された機能領域がリストされています。

サプライヤ関係管理	*経理情報管理サービス*	*エンタープライズ サービス オートメーション*
発注	伝票	経費レポート
eProcurement- 調達管理	GL 仕訳	資産
調達依頼	支払	
購買受領	サプライヤ	
購買契約	サプライヤ交渉	
ストラテジック ソーシング イベント		
アイテム カタログ		
サプライヤ契約ドキュメント		

検索の推奨

グローバル検索で PeopleSoft 検索フレームワークに表示される検索結果は、検索結果に表示される、基礎となるコンポーネントへのユーザーのセキュリティ アクセス権限 (権限リスト) に基づいています。このため、ユーザーに特定のコンポーネントへのアクセス権限がない場合、そのユーザーには検索結果が表示されません。また、ユーザーの行レベルのアクセス権限に基づいて、行レベル セキュリティが検索ページのキーワード検索結果に適用されます。これは特に、セットID とビジネス ユニット セキュリティの場合に該当します。ビジネス ユニット セキュリティが使用可能な場合、使用可能なビジネス ユニットで有効な検索結果のみユーザーに表示されます。セキュリティのビジネス ユニット/セットID タイプが使用されている場合、検索用索引を作成する前に設定し、全ての結果に必須のセキュリティ属性が含まれるようにする必要があります。

全般的にセキュリティを設定する方法には、セキュリティ条件と個々のユーザー ID の設定など、複数の方法があります。ユーザー ID 別のセキュリティを PeopleSoft 検索で使用するための設定は、検索用索引関連のメンテナンスが必要になるため推奨しません。ユーザーによる索引のセキュリティ保護は、ユーザーが

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

追加または削除されるたびに再作成する必要が生じます。索引が大規模になると、これによって大幅な遅延が生じます。このため、ビジネス ユニット/セットID セキュリティが有効な場合は、権限リスト別セキュリティを推奨します。

FSCM アプリケーションによっては、行レベル セキュリティが適用され、ユーザーが特定の検索結果にアクセスできなくなります。このセキュリティは制限の粒度の必要性に応じて、アプリケーションによって提供されます。このようなセキュリティの例としては、サプライヤ契約やユーザーによる経費レポートなどがあります。これらの索引は、特定のユーザーが個々の検索結果ごとにメンテナンスする必要があるため、管理がさらに複雑になります。場合によっては、サプライヤ契約管理など、ユーザーが検索可能な特定のオブジェクトを変更し、自動更新が実行される場合など、索引増分の更新によって更新されることがあります。他にも、詳細な検索セキュリティを変更する場合、新規のセキュリティを反映させるため、索引の再作成が必要になります。このアプリケーションで使用可能になる行レベル セキュリティの情報については、アプリケーション固有のドキュメントを参照してください。実装されているセキュリティのタイプによっては、これらの索引は、組織内でパラメータ変更の頻度が高い場合、索引作成が必要になる頻度も高くなります。

注: ビジネス ユニット/セットID が有効な場合は、権限リスト別セキュリティを使用して、組織内での変更ごとに頻繁に索引が再作成されないようにすることをお薦めします。

用語

次の表には、PeopleSoft 検索機能に関連する用語がリストされています。

グローバル検索

ユーザー ロールによってセキュリティ保護される Oracle Portal ヘッダーからの検索。

*『PeopleTools: Search Technology』*ドキュメントでは、次のようにグローバル検索について説明しています。*有効な場合、[グローバル検索] バーがアプリケーションのヘッダーに表示されます。キーワード編集ボックスの他に、[グローバル検索] バーに検索対象の特定の検索カテゴリを選択するドロップ ダウン リストが表示されます。*

検索ページ

検索ページとは、PeopleTools の用語です。*『PeopleTools: PeopleSoft Search Technology』* のドキュメントでは、検索ページを次のように説明しています。

検索ページ機能がコンポーネントに対して有効な場合、コンポーネントへの移動でエンド ユーザーに表示される検索ページで [キーワード検索] タブが表示されます。キーワード検索ページでは、さらに詳細な自由形式の検索を実行してアプリケーション データにアクセスできます。たとえば、[既存の値の検索] タブはレベル 0 のデータに制限されますが、[キーワード検索] タブではユーザーがカスタムのキーワードを入力すると、レベル 0 から 3 の検索用索引を持つデータが検索されます。

この検索タイプはユーザー ロールによってセキュリティ保護されます。その他のセキュリティも [検索定義] で指定され、特定のビジネス ユニットまたはセットID にアクセスが制限されます。追

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

	加のセキュリティ属性を作成し、PeopleCode を記述してセキュリティ レベルを定義すると、さらにセキュリティを追加できます。
ファセット	ユーザーが検索結果を参照、または絞り込むことができる、検索に関連するフィールド。たとえば、ユーザーは必要なファセット値をクリックし、ビジネス ユニット、発注日、またはサプライヤ別に発注書の検索結果を絞り込むことができます。ファセットには、検索条件が一致した調達依頼、発注書、仕訳などのドキュメントの数を示すカウントがあり、検索結果に表示されます。
PeopleSoft 検索フレームワーク	PeopleTools 内の PeopleSoft 検索フレームワークでは、全ての PeopleSoft アプリケーションで検索用索引を使用する標準の方法を提供します。検索フレームワークは Secure Enterprise Search (SES) エンジンによって異なります。
検索カテゴリ	検索カテゴリは PeopleSoft 検索フレームワークの一部であり、1 つ以上の検索定義が含まれています。 検索カテゴリは SES にデプロイ済の検索定義を管理し、それを機能的に関連するグループに組み合わせる方法を提供します。Oracle Portal ヘッダーで検索カテゴリを選択すると、グローバル検索の範囲を絞り込むことができるため、確認する必要のある検索結果の数を削減できます。 **注:** ファセットを正しく使用するには、検索カテゴリ内の全ての検索定義にファセット (属性) 名が必要です。全ての検索定義に共通ではないファセットを検索カテゴリで使用すると、結果セットはそのファセットを含む索引に限定されます。製品ドキュメントの*『PeopleTools: PeopleSoft Search Technology』*を参照してください。
検索定義	検索定義は PeopleSoft 検索フレームワークの一部であり、検索用索引の主な構造を定義します。検索定義は検索用索引の作成に必要なものを全て備えており、ファセット、セキュリティ、添付ファイル、前処理、後処理、およびコンポーネント マッピングを含みます。
Secure Enterprise Search (SES)	PeopleSoft 検索フレームワークで、索引の結果を作成し返すために使用する Oracle 検索エンジン。
検索グループ	Oracle Portal ヘッダー内の検索バーでカテゴリを使用可能にする検索カテゴリ上のフラグ。
コールバック セキュリティ (別名検索定義セキュリティ)	コールバック セキュリティとは、情報を検索するときに SES で実行される*処理*です。SES は、検索される検索カテゴリによって指定された全ての属性のデータベースに対するコールバックによ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

り、どのデータが表示されるかを決定します。SES はこの情報をキャッシュし、以降の検索で使用します。

検索定義セキュリティは、結果へのアクセス権限を決定する検索定義上にある PeopleCode です。セキュリティは、アクセスの許可または禁止を指定するため、検索定義に定義されている属性または属性セットに関連付けられます。

定義済の属性はクエリー上に存在する必要があります。また SES に送信され、後で定義済の PeopleCode によって生成される結果と照合されます。検索定義セキュリティは、ユーザー ID (非推奨)、ロール、インストール設定、またはその他のユーザー定義パラメータに基づいています。

PeopleSoft 検索を Verity の代わりに使用するアプリケーション

一部の PeopleSoft FSCM アプリケーションまたは製品分野では、以前のリリースで Verity を検索エンジンとして使用していましたが、現在は Secure Enterprise Search (SES) テクノロジの使用が必須です。

組織がリリース 9.2 にアップグレードした*後*で、PeopleSoft 検索テクノロジを使用可能にするため、アプリケーションまたは製品を更新する必要があります。更新の必要なアプリケーションは次のとおりです。

- 買掛金管理および eSettlement – OFAC の検索および検証サプライヤ。
- 資金管理 – OFAC チェックのためのサプライヤの検索および検証。
- eProcurement – 調達依頼書を作成する場合のカタログ検索。
- Maintenance Management – 作業指示推奨の作業およびツール。
- 受注管理 – ドロップダウン ボックスを使用する顧客、カタログ、および製品検索。
- 要員管理 – 要員配置ワークベンチおよびエクスプレス検索
- サービス プロキュアメント – 適格および不適格プロバイダの検索。
- 要員配置 – 人の検索、個人マッチング、および交渉プロジェクト マッチング。
- サプライヤ契約管理 – コンテンツ ページの検索

製品固有の設定の詳細については、個々のアプリケーションのドキュメントを参照してください。

グローバル検索について

このトピックでは、次の概要について説明します。

- グローバル検索カテゴリ。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- グローバル検索カテゴリのファセット。
- グローバル検索 - 詳細検索。
- 特殊な詳細検索フィールド。
- 例: 詳細検索

グローバル検索カテゴリ

[グローバル検索] は支払対象調達ビジネス プロセス内の複数の製品分野で有効化されています。

特定の検索カテゴリが、グローバル検索カテゴリと呼ばれる検索グループとして定義され、ポータル ヘッダー検索で使用できるよう指定されています。これらのカテゴリは、ユーザーが自由形式検索フィールドにキーワードを入力したときに、全ての索引から結果が返されるように関連する検索定義を組み合わせます。グローバル検索カテゴリは、検索対象の特定のビジネスまたは製品トランザクションを対象とするように索引をグループ化します。

グローバル検索カテゴリの使用は、ロールレベルのセキュリティによって制御されます。

次の表には、PeopleSoft で定義された、特定の検索用索引を含むグローバル検索カテゴリがリストされています。

注: この表のグローバル検索カテゴリは、[グローバル検索] バーで表示されるように、検索フレームワークの [検索カテゴリのデプロイ] タブで手動でデプロイする必要があります。検索カテゴリをデプロイする場合、[グローバル検索] バーにカテゴリが表示されるようにするには、ユーザーは PeopleSoft システムからログアウトし、再度ログインする必要があります。

グローバル検索カテゴリの説明および名前	*トランザクション/検索定義*
買掛金 EP_PAYABLES	支払 伝票
資産管理 EP_ASSETS	資産
カタログ アイテム EP_CATALOG_ITEMS	サプライヤありのカタログ アイテム サプライヤなしのカタログ アイテム カタログ エクスプレス アイテム
経費 EP_EXPENSES	経費レポート
一般会計 EP_GENERAL_LEDGER	仕訳

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

グローバル検索カテゴリの説明および名前	*トランザクション/検索定義*
支払対象調達 EP_PROCURE_TO_PAY	資産 仕訳 伝票 発注 調達依頼 受領 支払 購買契約 発注契約ドキュメント 発注ドキュメント ソーシング イベント 経費
購買管理/調達管理 EP_PROCUREMENT	購買契約 発注 受領 調達依頼 発注契約ドキュメント 発注ドキュメント
ストラテジック ソーシング EP_SOURCING	イベント ソーシング ドキュメント ソーシング イベント
サプライヤ契約ドキュメント EP_CS_AUTHORED_DOC	アドホック ドキュメント イベント ソーシング ドキュメント 発注契約ドキュメント 発注ドキュメント
サプライヤ情報 EP_VENDORS	サプライヤ サプライヤ交渉

支払対象調達の検索カテゴリは、支払対象調達のビジネス プロセス内の*取引*の検索に使用されます。これにはサプライヤおよびカタログ アイテムなどの設定コンポーネントの検索は含まれません。設定コン

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ポーネントを検索する場合は、全ての検索カテゴリを使用するか、サプライヤ情報やカタログ アイテムなど、特定のデータに適用される検索カテゴリを使用する必要があります。

製品ベースのグローバル検索カテゴリには、特定の製品内の定義が含まれており、検索結果が特定の製品分野に限定されます。

次の表には、PeopleSoft データベースで検索カテゴリをセキュリティ保護するために作成された権限リストとロールがリストされています。これらの権限リストは、権限リストの [検索グループ] タブで指定された権限グループ (カテゴリ) に応じて設定されます。該当するロールのあるユーザーには、グローバル キーワード検索ボックス内にドロップ ダウン オプションとして関連するカテゴリが表示されます。

グローバル検索カテゴリ名	*ロール*	*権限リスト*
買掛金	買掛金の検索	EPSR1040
資産管理	資産検索	EPSR1030
カタログ アイテム	カタログの検索	EPSR1080
経費	経費の検索	EPSR1050
一般会計	一般会計の検索	EPSR1060
支払対象調達	支払対象調達の検索	EPSR1000
購買管理/調達管理	調達の検索	EPSR1020
ストラテジック ソーシング	ソースの検索	EPSR1010
サプライヤ契約ドキュメント	作成ドキュメントの検索	EPSR1090
サプライヤ情報	サプライヤ情報の検索	EPSR1080

注: 支払対象調達の検索カテゴリ内にある製品の一部ライセンスを購入していない場合は、製品の検索定義をデプロイする必要があります。ただし、索引を作成する必要はありません。
代わりに、支払対象調達検索カテゴリでライセンスのない製品に関連する検索定義を削除できます。これはマイナー カスタマイズと見なされます。

グローバル検索カテゴリのファセット

ファセットは、ユーザーによって動的に選択された検索結果を、フィルタを適用せずに絞り込みます。グローバル検索カテゴリには、一意のファセットのセットがあります。

資産管理、経費、一般会計、またはストラテジック ソーシングなど、グローバル検索カテゴリに含まれる検索定義が 1 つのみの場合、ファセットは検索定義と同じである必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

検索カテゴリに複数の検索定義が含まれている場合、ファセットは、カテゴリで使用できるそれぞれの検索定義に共通するものになります。パフォーマンス上の理由から、検索カテゴリで使用されない共通ファセットがあります。代わりにサブセットが定義されます。

注: カテゴリ内で 1 つ以上の検索定義に存在しない検索カテゴリにファセットが定義されている場合、結果はファセットが定義されている検索定義に限定されます。

一部のファセットはグローバル検索カテゴリに対して定義されており、同様の情報がありますが、この情報は各アプリケーション内で個別に指定されています。このようなファセットは、それぞれの検索定義に適用される共通のファセットを提供するよう設計されています。

各グローバル検索カテゴリに共通するよう作成されるファセットは次のとおりです。

- カテゴリ
- ビジネス ユニット/セットID (デフォルトでは無効)。
- ドキュメント日付
- サプライヤ名
- 入力者 (デフォルトでは無効)。

注: ファセットを有効化すると、索引作成と検索のパフォーマンスに追加のオーバーヘッドが発生します。ビジネス ユニット/セットID および入力者グローバル ファセットは、検索パフォーマンスを向上させるため、デフォルトで無効に設定されて配信されています。

ファセットの詳細については、「検索結果ファセット」を参照してください。

カテゴリ

カテゴリとは、PeopleTools で自動的に作成される特殊なファセットであり、検索カテゴリで参照される各検索定義を識別します。結果が検出されたカテゴリのみが表示されます。受領書番号など、共通する値のグローバル キーワード検索を実行すると、各カテゴリに検索結果が表示されるため、ビジネス プロセス内のコンポーネント全体の検索方法が提供されます。

検索カテゴリ	***説明***
EP_AP_PAYMENTS	支払
EP_AP_VOUCHERS	伝票
EP_EX_REPORT	経費レポート
EP_GL_JOURNAL	仕訳
EP_PO_CONTRACTS	購買契約

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

検索カテゴリ	*説明*
EP_PO_PURCHASE_ORDERS	発注
EP_PO_RECEIPTS	受領
EP_PO_REQUISITIONS	調達依頼
EP_SS_EVENTS	ソーシング イベント
EP_AM_ASSET	資産
EP_AP_VENDOR	取引先/サプライヤ
EP_AP_VENDOR_CONVER	取引先/サプライヤ交渉
_PV_EXPRESSITEMS_SD	カタログ エクスプレス アイテム
EP_PV_MASTERITEMVENDOR_SD	サプライヤありのカタログ アイテム
EP_PV_MASTERITEM_SD	サプライヤなしのカタログ アイテム
EP_CS_AUTHORED_DOCS	サプライヤ契約ドキュメント

ビジネス ユニット/セットID

ビジネス ユニット/セットID (デフォルトでは無効) は支払対象調達のグローバル検索カテゴリに作成されたファセットです。一部の検索定義にはビジネス ユニット ファセットが含まれており、その他の検索定義には基礎となる検索定義で必要なファセット値にセットID が含まれています。たとえば、発注はビジネス ユニットにマップされており、発注契約はセットID にマップされています。このため、[ビジネス ユニット/セットID] のファセットは検索カテゴリに表示され、その結果にはビジネス ユニットとセットID が含まれます。

注: この属性は、さまざまな検索定義にありますが、ファセット値は作成と検索のパフォーマンスを向上させるために無効にされています。マイナー カスタマイズとして、必要に応じてこのファセットを有効にすると決定すると、パフォーマンスが許容範囲になります。

ドキュメント日付

ドキュメント日付は、支払対象調達、購買、調達、買掛金など、グローバル検索カテゴリの取引に対して作成される共通のファセットです。[ドキュメント日付] ファセットは、複数の取引の取引日を示し、異なる名前を使用して取引日を示します。たとえば、発注日、受領日、仕訳日などがあります。資産では [取得日] を [ドキュメント日付] として使用します。

このファセットは [グローバル検索] カテゴリレベルに表示されます。ただし、ユーザーが特定のカテゴリまたはコンポーネントを選択すると、そのコンポーネントに該当する取引日フィールドが表示されます。たとえ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ば、ユーザーが [支払対象調達] を検索すると、[ドキュメント日付] がファセットとして表示されます。次に、ユーザーが [受領] カテゴリ ファセットをクリックすると、ファセットとして [受領日] が表示されます。

[ドキュメント日付] ファセットは階層構造です。年度が最初に表示され、年度の詳細から特定の月または日付を選択できます。サブファセットでは、取引の月日を定義します。月ファセットには数値が割り当てられており、カレンダーに表示されるように数値順でソートできます。

ファセットの詳細については、「検索結果ファセット」を参照してください。

サプライヤ名

[サプライヤ名] ファセットはサプライヤの名前を表し、[サプライヤ略称] と [サプライヤ ID] で全検索定義の標準ファセットとして選択されています。

注: ファセット値のラベルは 30 文字に制限されており、名前が切り捨てられることがあります。

入力者

デフォルトで無効にされている [入力者] は、取引を*作成*したユーザーを表すファセットです。このファセットはトランザクションの*オーナー*とは異なる場合があります。たとえば、User-1 の経費レポートが User-2 によって提出されます。[入力者] は User-2 になります。

注: この属性は、さまざまな検索定義にありますが、ファセット値は作成と検索のパフォーマンスを向上させるために無効にされています。マイナー カスタマイズとして、必要に応じてこのファセットを有効にすると決定すると、パフォーマンスが許容範囲になります。

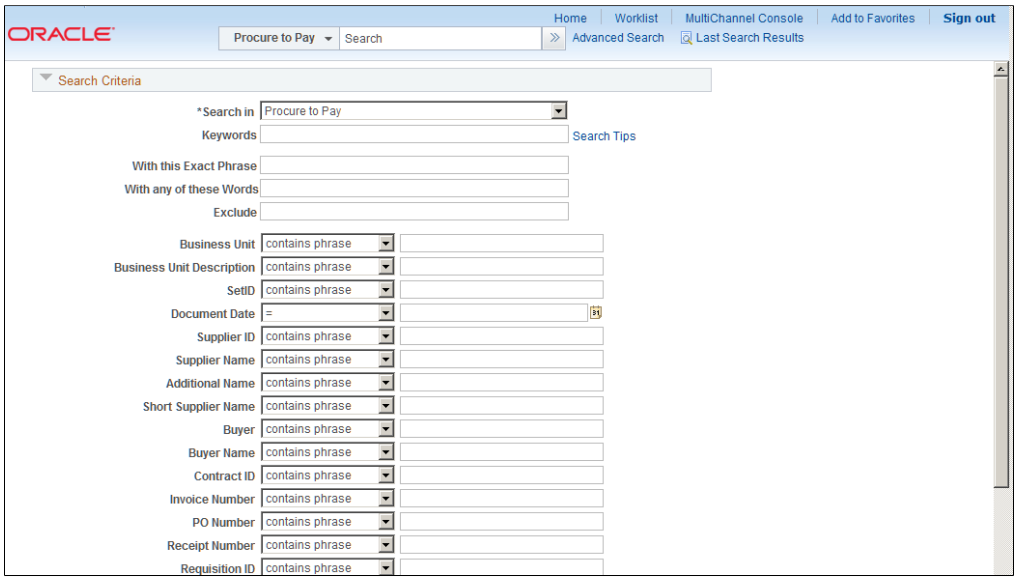
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

グローバル検索 - 詳細検索

グローバル検索の [詳細検索] オプションは、ポータル ヘッダーのアプリケーション キーワード フィールドの右側にあります。

画像: 例: グローバル検索 - 詳細検索

次の例では、グローバル検索 - 支払対象調達の詳細検索を説明します。



[詳細検索] は標準の PeopleSoft 検索ダイアログと類似しており、ユーザーは 1 つ以上のフィールド値を指定するか、値の一部を指定して検索結果を絞り込むことができます。また、ユーザーは [等しい]、[より大きい] などの演算子も使用できます。使用可能な演算子は、使用されているフィールドのデータ型によって異なります。検索カテゴリにはそれぞれ、固有の詳細検索フィールドのセットがあります。

注: グローバル検索のフィールドのコンテキストはコンポーネント内ではなく、上位レベルのキーが不明なため、ほとんどの詳細検索属性にはプロンプト オプションはありません。

検索対象 検索カテゴリ オプション [全て]、[資産管理]、[経費レポート]、[支払対象調達]、[調達依頼]、または [購買管理/調達管理] のいずれかを選択します。

検索のヒント クリックして、[キーワード] フィールドでの検索をフォーマットする方法を説明するウィンドウを参照します。

検索カテゴリに含まれている検索定義が 1 つのみの場合、検索フィールドは、検索定義の定義対象、およびそれ以下のサブセットに限定されます。

検索カテゴリに含まれている検索定義が複数ある場合、検索フィールドは、そのカテゴリの検索定義で共通するフィールド、およびそれ以下のサブセットになります。

特殊な詳細検索フィールド

これらの共通フィールドは、グローバル検索を拡張するために定義されています。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

調達コメント

このフィールドは、適切なコメント フィールドがマップされている全ての検索定義に含まれる共通フィールドです。一部の共通フィールドは、[調達コメント] にはマップされていません。これらのフィールドは通常、個別の検索フィールドです。

このフィールドでは、ユーザーがどのコメントを検索するか不明な場合に、特定のキーワードについて関連するコメント タイプのフィールドを全て検索できます。たとえば、発注に関連するコメントは、ヘッダー、行、または出荷先レベルに保存されます。ユーザーが [調達コメント] フィールドを使用してキーワードを検索すると、全てのヘッダー、行、および出荷先コメントのフィールドが検索されます。

標準の SES ルールは検索キーワードの入力方法に応じて適用されます。標準検索の場合:

- 句: 句を構成する語の前後に一重引用符 (' ') を使用します。たとえば、'year-end report' とします。
- 全ての単語: 結果に全ての単語を表示するよう指定する場合は、アンパサンド (&) を使用します。たとえば、documents & reports とします。
- いずれかの単語: 結果にいずれかの単語を表示するよう指定する場合は、パイプ (|) を使用します。たとえば、'year-end report' | report とします。
- 複数文字のワイルドカード: 部分文字列で複数の文字を検索する場合は、アスタリスク (*) を使用します。たとえば、document* で、documents、documentary、documentation など、document で始まる単語が返されます。アスタリスクは検索文字列の最初の文字には使用できません。

調達コメント属性を含む検索定義は次のとおりです。

- サプライヤ
- サプライヤ交渉
- 調達依頼
- ソーシング イベント
- 購買契約
- 伝票
- 支払

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

全サプライヤ名

このフィールドは、[サプライヤ情報] 検索カテゴリ内で使用されます。次のいずれかのフィールドで、要求された名前が検出されます。

- サプライヤ追加名
- サプライヤ略称
- サプライヤ名
- 法人追加名
- 法人サプライヤ略称
- 法人サプライヤ名
- 請求書追加名
- 請求書サプライヤ略称
- 請求書サプライヤ名
- 送金先追加名
- 送金先サプライヤ略称
- 送金先サプライヤ名

全サプライヤ住所

このフィールドは、[サプライヤ情報] 検索カテゴリ内で使用されます。次のいずれかのフィールドで、要求された住所が検出されます。

- 法人住所 1
- 法人住所 2
- 法人住所 3
- 法人住所説明
- 請求書住所 1
- 請求書住所 2
- 請求書住所 3
- 請求書住所説明
- 振込先住所 1
- 振込先住所 2
- 振込先住所 3

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

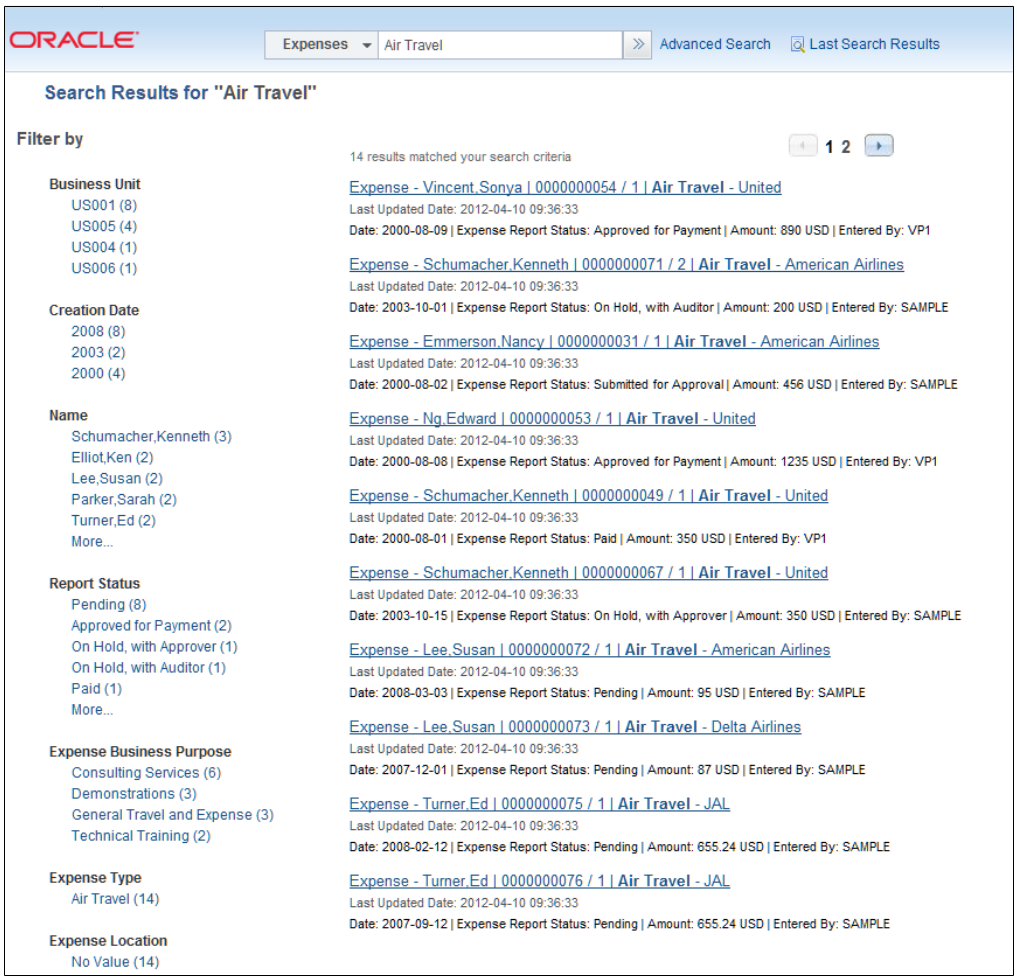
- 送金先住所説明
- サプライヤ住所 1
- サプライヤ住所 2
- サプライヤ住所 3
- サプライヤ住所摘要

例: 詳細検索

この例では、マネージャは「グループ内の誰が過去数か月の間に、空路出張の経費を作成したか」について把握する必要があります。

画像: 例: グローバル検索 - 検索結果 (空路出張経費)

次の例では、グローバル検索 - 検索結果 (空路出張経費) を説明します。



検索結果には、ページの左側に有効なファセットが表示されており、マネージャはビジネス ユニット、作成日、名前などに基づいて結果を絞り込むことができます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

検索結果は右側に表示され、通常はドキュメント ヘッダー レベルを示します。ただし、経費レポートなどの場合は、検索結果は行レベルで関連情報が表示されるため、ユーザーがトランザクションの詳細を検索する必要はありません。この例では、マネージャーにとって最も重要な金額と説明が経費行に含まれています。

注: エンド ユーザーには、セキュリティのある経費レポートが全て表示されます。これは、ユーザーが経費レポート コンポーネントを検索するときに必要なものと同じセキュリティに基づいています。

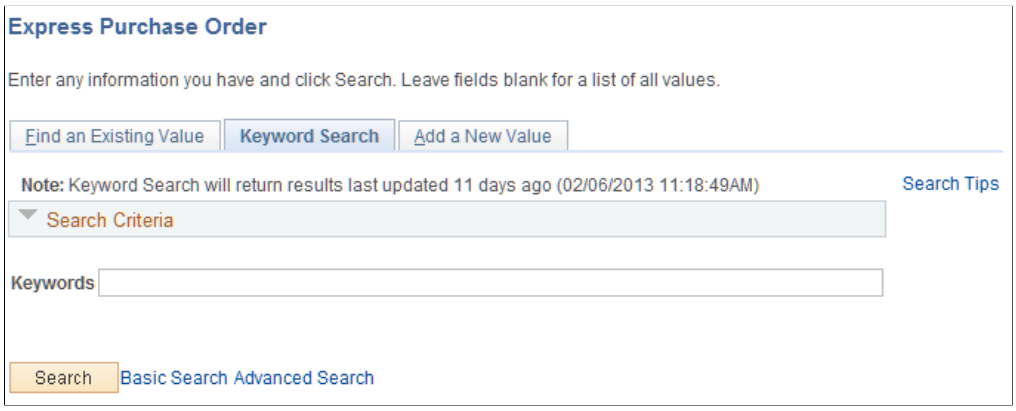
検索結果の詳細については、「検索結果について」を参照してください。

コンポーネント内の検索ページについて

コンポーネント検索では、[キーワード検索] タブを使用して、標準ツール検索より多くのフィールドを検索します。グローバル検索カテゴリは、表示されるページに基づいて自動的に変更されます。

画像: 例: コンポーネント キーワード検索 (エクスプレス発注書)

次の例では、コンポーネント キーワード検索 (エクスプレス発注書) を説明します。



検索のヒント [キーワード] フィールドに自由形式テキストを入力する方法を説明します。

基本検索 [検索基準] フィールド、および [キーワード] フィールドで単一フィールドを選択できます。

キーワードのみ [キーワード] フィールドのみ表示します。

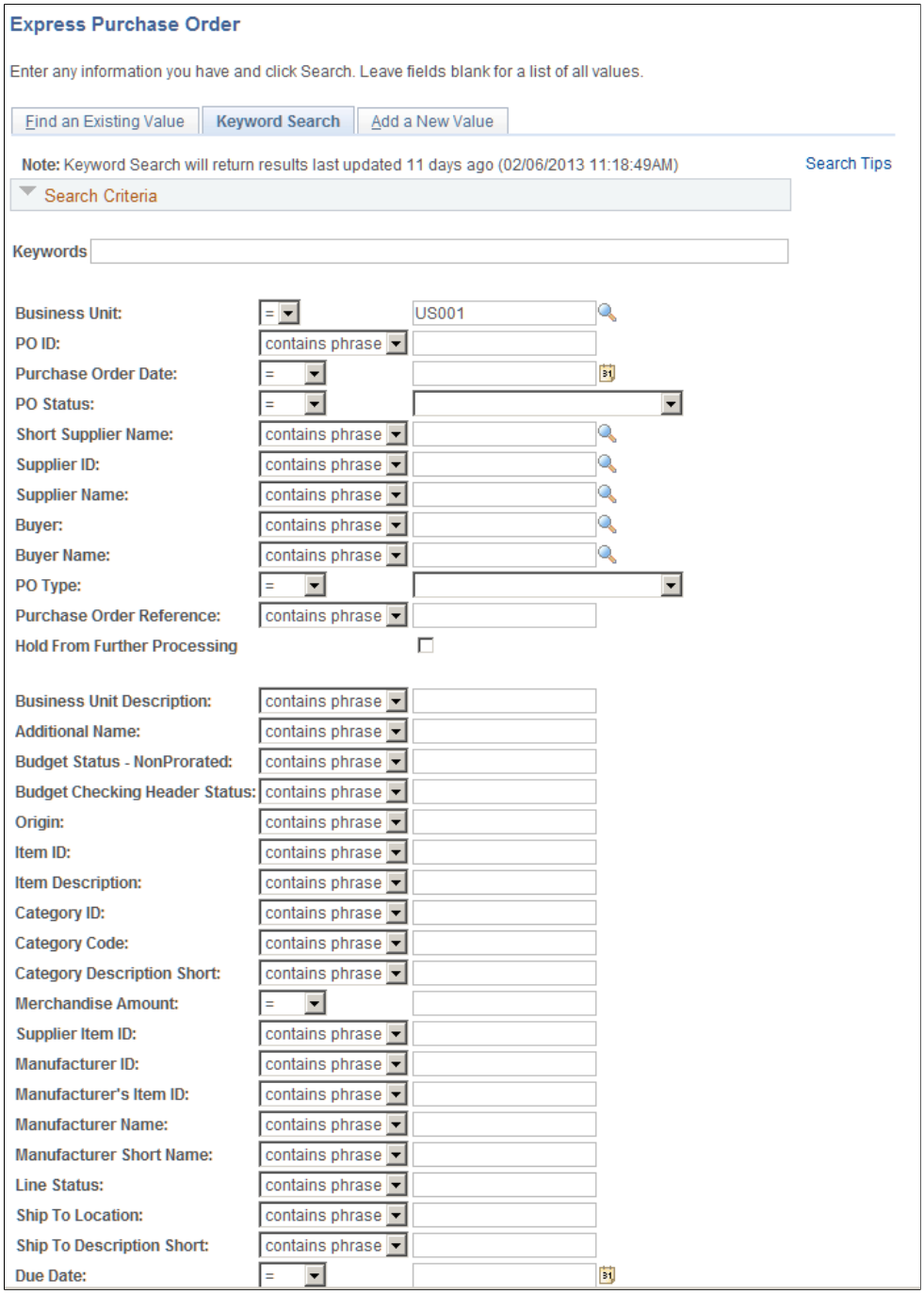
詳細検索 複数のフィールド、および [キーワード] フィールドにフィールド値を入力できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

詳細検索ページが表示されている場合、全ての必須フィールドにも入力が必要です。この操作は [既存の値の検索] タブも同様です。

画像: 例: コンポーネント キーワード検索 - 詳細検索 (エクスプレス発注書)

次の例では、コンポーネント キーワード検索 - 詳細検索 (エクスプレス発注書) を説明します。



この例では、[ビジネス ユニット] から [以降の処理を保留] までのフィールドが、[既存値の検索] タブに表示される検索フィールドと同じであることを示しています。[ビジネス ユニット説明] から [サプライヤ アイ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

テム ID] までのフィールドは、検索カテゴリごとに定義され、検索カテゴリ定義の [詳細検索フィールド] タブに定義された順序で表示されます。

グローバル検索と同様に、コンポーネント検索では前回の検索ビルドまたは増分索引に基づいて結果が返され、*リアルタイム*ではないと見なされます。既存値の検索タブを使用すると、*リアルタイム*と見なされます。

コンポーネント検索は、PeopleTools 検索フレームワーク内の検索定義へのコンポーネントのマッピングによって作成され、PTSF_GENFEED アプリケーション エンジンの実行によって更新されます。

この設定およびメンテナンス処理の詳細については、*『PeopleTools: Search Technology』*を参照してください。

検索結果について

このトピックでは、次の情報について説明します。

- PeopleSoft 検索結果の表示。
- 検索結果ブレッドクラム。
- 検索結果ファセット。
- 検索結果リスト フォーマット。
- [前回検索結果] ウィンドウ。

PeopleSoft 検索結果の表示

有効なカテゴリに対して検索を実行すると、検索結果にはユーザーに表示が許可されているデータのみが含まれます。これは検索定義で定義されている URL の参照に基づいています。たとえば、ユーザーに発注メニューへのアクセス権限がない場合、そのユーザーには発注書を含む検索結果が表示されません。また、コンポーネント検索結果は、ほとんどの場合、コンポーネントの定義の場合と同じように、行レベルセキュリティに基づいて限定されています。ユーザーにビジネス ユニットまたはセットID へのアクセス権限がない場合、そのコンポーネントに直接アクセスしてビジネス ユニットまたはセットID にアクセスできるようになるまで、そのセットID またはビジネス ユニットの検索結果は表示されません。

グローバル検索の結果を表示するときとコンポーネント検索の結果を表示するときでは、ページがわずかに異なります。

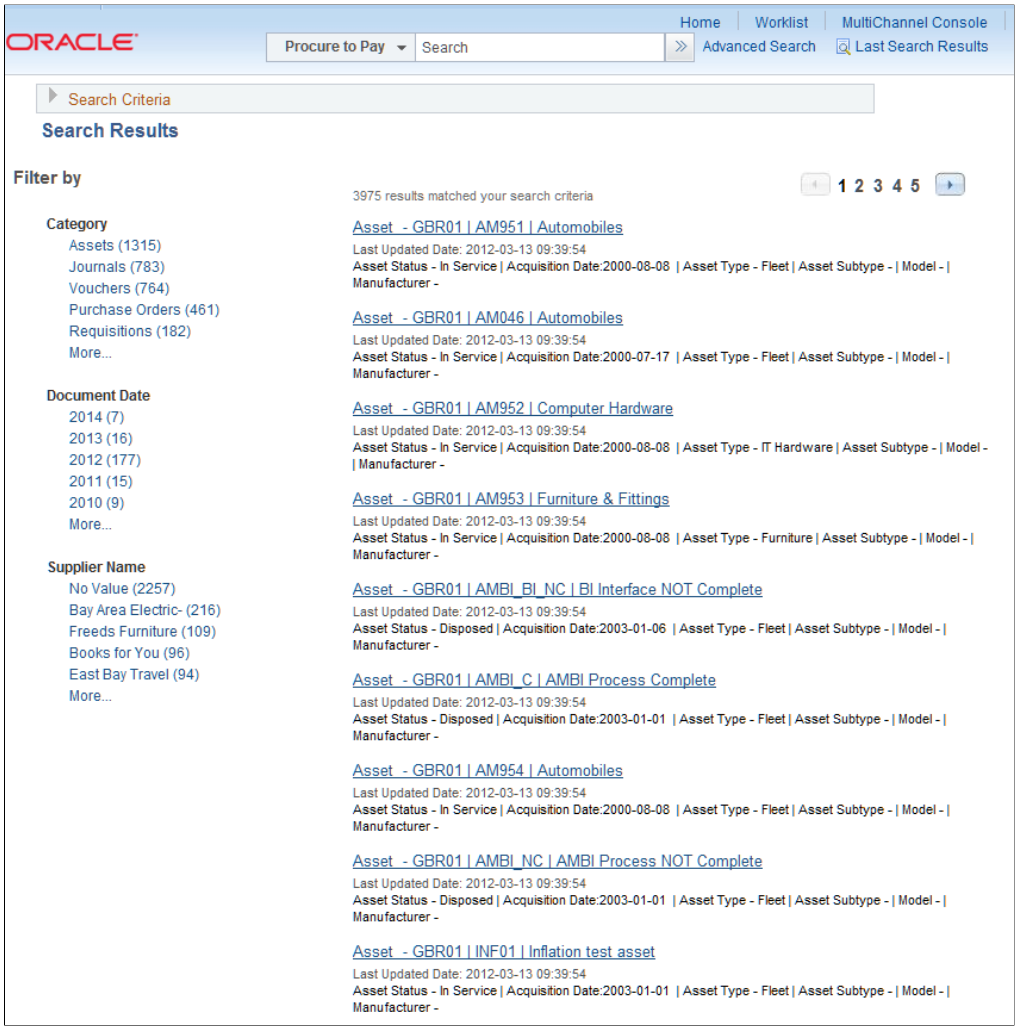
- グローバル検索の検索結果は、常にリスト フォーマットで表示されます。
- コンポーネント検索の検索結果は、2 つのフォーマットで表示できます。
    - PeopleSoft の標準フォーマットであるグリッド フォーマット。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 詳細検索に使用されるフォーマットと同じリスト フォーマット。

画像: グローバル詳細検索 - 検索結果

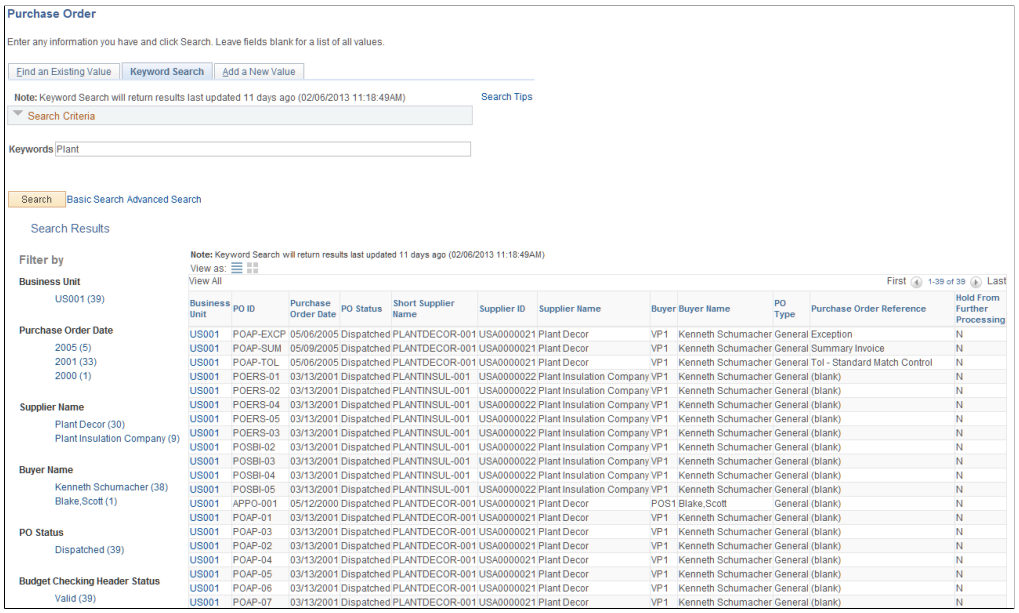
次の例では、グローバル検索: 詳細検索 - 検索結果を説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

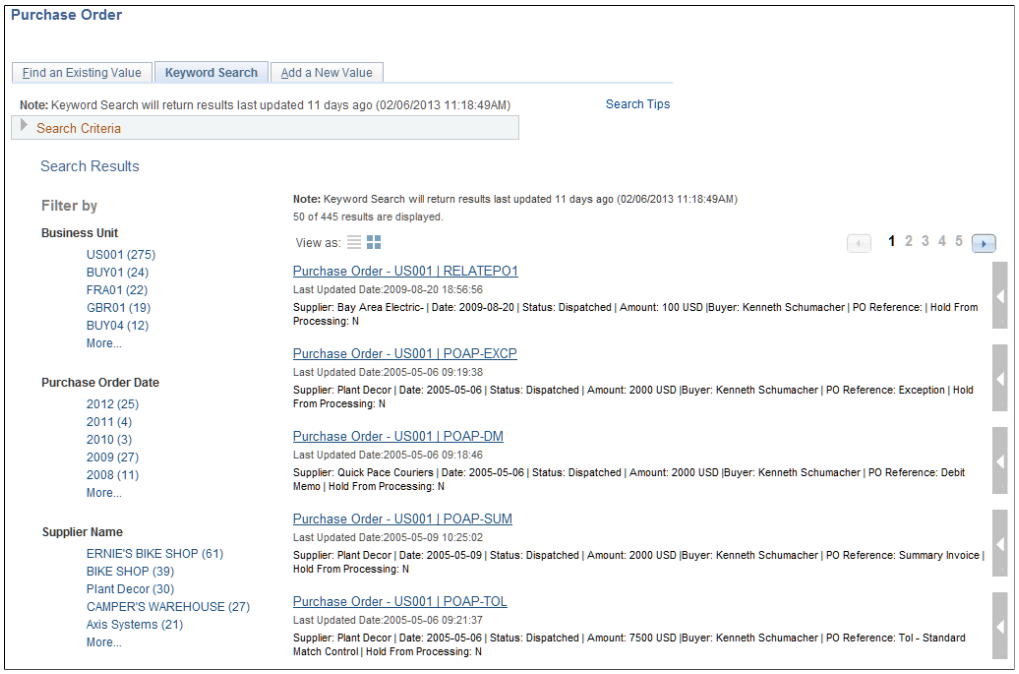
画像: 例: コンポーネント検索: キーワード検索結果グリッド フォーマット (発注書)

次の例では、コンポーネント検索: キーワード検索結果グリッド フォーマット (発注書) を説明します。



画像: 例: コンポーネント検索: キーワード検索結果リスト フォーマット (発注書)

次の例では、コンポーネント検索: 検索結果リスト フォーマット (発注書) を説明します。



検索結果は 3 つのセクションに分けられます。

- 選択された順序で、選択済ファセットをリストするブレッドクラム セクション。
- 検索カテゴリに定義された全てのファセットをリストする [フィルタ基準] セクション。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- グリッド フォーマットまたはリスト フォーマットで結果を表示する結果セクション。

検索結果ブレッドクラム

ユーザーが検索結果を削減するためファセットを選択すると、ブレッドクラムと呼ばれる選択済のオプションが [検索結果] セクションの上部に表示されます。ユーザーは隣にある [X] を選択すると、ファセットを削除できます。ファセットはどのような順序でも削除でき、表示される結果にはフィルタが反映されなくなります。

検索結果ファセット

ファセットは、ユーザーによって選択されると、検索結果を絞り込みます。ファセットは検索カテゴリによって定義し、その検索カテゴリを含む検索定義ごとに定義する必要があります。

検索結果の左側は、検索結果を絞り込むための [フィルタ基準] ファセットです。

それぞれのファセットには、ファセット値の結果件数を示す数値がかっこで囲まれて表示されます。これにより、検索結果を絞り込む方法が提供されます。[フィルタ基準] セクションのファセット値をクリックすると、その特定の値を使用して別の検索が開始されます。

たとえば、"Business Unit – US001 (19)" のファセット値をクリックすると、検索結果が 19 に絞り込まれます。

いずれかのファセット値を選択した後最終的に検索対象のレコードが検出されるまで、引き続き別のファセット値を選択できます。選択したファセットはそれぞれ、[フィルタ基準] の上にラベル別に表示され、別のフィルタを選択する場合は削除できます。

Financials および Supply Chain では、特定の共通ファセットがコンポーネント内で有効化されており、作成日付など、さまざまな領域で検索する場合の整合性が保たれます。作成日付については、「グローバル検索カテゴリのファセット」のドキュメントも参照してください。

場合によっては、ファセットの数量が全体のファセットと一致しないことがあります。たとえば、[ビジネス ユニット] のファセット結果には、5 つのビジネス ユニットの合計 25 が表示されます。また、[アイテム ID] のファセット結果には、合計 45 が表示されます。この理由としては、1 つの索引にトランザクション ID が同じアイテムが複数あることが考えられます。たとえば、アイテム ID がビジネス ユニットより低い子レベルにある場合などです。

検索結果リスト フォーマット

それぞれの検索結果については、検索基準と一致する設定された結果数、およびその結果を含む表示ページの件数が表示されます。結果セットは、PeopleTools の PeopleSoft 検索フレームワーク設定で決定されます。ページ番号を選択するか、[次ページ] および [前ページ] アイコンを使用して各ページを表示できます。

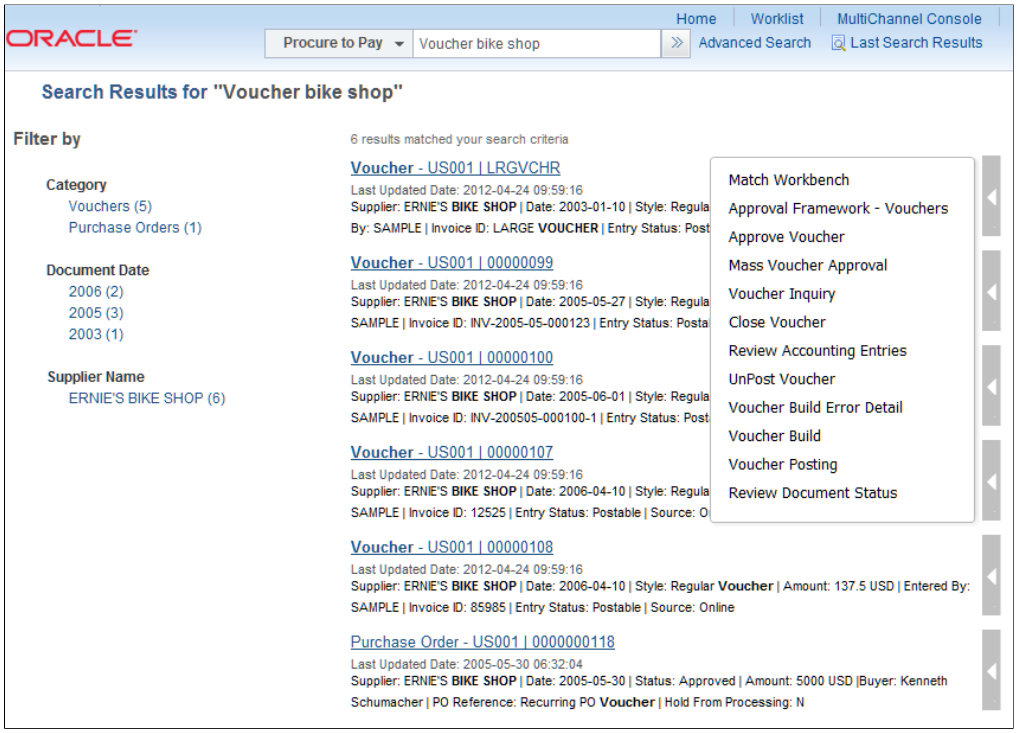
グローバル - 詳細およびコンポーネント検索の結果はリスト フォーマットで表示できます。実際の結果は次によって識別されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- [タイトル] リンク
- 最終更新日
- サマリ情報
- [関連アクション] 表示可能セクション

画像: 例: グローバル検索: [タイトル]、[最終更新]、[サマリ]、および [関連アクション] を示す検索結果

次の例では、グローバル検索: [タイトル]、[最終更新]、[サマリ]、および [関連アクション] を示す検索結果を説明します。



タイトルの最初の単語は結果を識別するよう設計されており、この例では買掛金支払伝票です。次に、システム キー情報が続きます。サマリ情報には、作成日付、ステータス、金額、およびシステムへの情報入力者など、返された結果の詳細情報が含まれます。

[タイトル] リンク

検索結果タイトルはリンクであり、それぞれの検索結果アイテムに一意の文字を識別します。[タイトル] リンクをクリックすると、該当するページに進み、情報を表示または情報にアクセスできます。ユーザーはそこで必要なタスクを実行できます。

警告 [タイトル] リンクには基礎となるコンポーネントと関連アクションを詳細に検索するために返された値が含まれています。このため、[タイトル] へのカスタマイズは注意して作成する必要があります。

検索結果タイトルのフォーマットには、検索結果アイテムの全てのキーが含まれており、次のフォーマットで表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

<ドキュメント ラベル> - <キー 1> I <キー 2> I <キー 3> I <キー 4>

画像: 例: 検索結果リスト タイトル (ページの一部)

次の例では、[タイトル] リンク (ページの一部) を説明します。



最終更新日

最終更新日は参照としてユーザーに表示されます。これは、このドキュメントの検索用索引が前回更新された日時を表します。

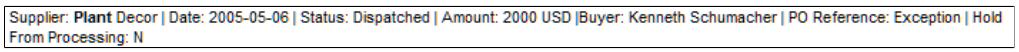
サマリ情報

検索結果サマリでは、ユーザーは、それぞれの結果アイテムが検索対象の 1 つであるかどうかを判断します。このフォーマットは次のとおりです。

<ラベル>: <ラベル データ> I <ラベル データ>

画像: 例: 検索結果リスト サマリ (ページの一部)

次の例では、[サマリ情報] (ページの一部) を説明します。



表示されるデータは、検索結果に返されたドキュメントのタイプに基づいて異なります。アプリケーション固有の情報については、アプリケーションのドキュメントを参照してください。

注: [タイトル] リンクと [サマリ情報] に表示される情報は、[検索定義] 上で定義されます。[タイトル] リンクには検索用索引でドキュメントを一意に特定するために十分な情報を含んでいる必要があります。その他の情報は、検索結果に表示する情報を増減するために変更が可能です。詳細については、『*PeopleTools: Search Technology*』のドキュメントを参照してください。

関連アクション

関連アクションは、検索結果に返されたドキュメントのタイプに基づいて異なり、ロール固有です。アプリケーションで設定されている場合、リスト フォーマットの検索結果ページにのみ表示されます。関連アクションにより、ユーザーは選択したドキュメントで、関連コンポーネントのメニューに移動せずに特定のアクションを実行できます。

関連アクションは動的であり、ユーザーのセキュリティによって異なります。たとえば、関連アクションに関連付けられているコンポーネントへのアクセス権限がユーザーにない場合、そのアクションは表示されません。また、一定の状況では、関連アクションは、ヘッダー ステータスなど検索結果のアイテム コンテキストによって表示/非表示が決定されます。

ほとんどの場合、関連アクションはモーダル ウィンドウで有効化されています。ただし、システム内の他の場所へのリンクを含むなど、関連アクションが複雑になる場合は、新規ウィンドウが表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

場合によっては、ユーザーにセキュリティがあれば、返された検索結果に関連アクションの詳細がない場合でも、関連アクションが表示されることがあります。これは、サイズの大きいリストで、関連アクションのレスポンスについてのパフォーマンスの考慮事項が、特定の関連アクションを非表示にする必要性を上回った場合などに該当します。

アイテムの上にマウスを置き、関連アクションが使用可能であることを示すグリフが表示されます。

注: 関連アクションにはこの機能が提供されていますが、PeopleTools セキュリティを使用して設定し、定義できます。『*PeopleTools: Portal Technology*』の「Developing and Configuring Related Content」を参照してください

[前回検索結果] ウィンドウ

このリンクでは、検索結果内の他の行でアクションを実行する場合に、検索結果に戻ることができます。別の検索結果を選択するか、[詳細検索] リンクを選択して別の結果アイテムにアクセスします。

ページ上部の [前回検索結果] リンクをクリックして、[前回検索結果] ウィンドウを表示します。これらの結果は SES 検索から得られるものも含まれます。

画像: [前回検索結果] ウィンドウ

次の例では、[前回検索結果] ウィンドウを説明します。



ユーザーがシステムにサインオンしている間は、その前回検索結果が保持されます。システムからサインオフすると、前回検索結果がクリアされます。

添付ファイルの検索について

検索用添付ファイルは、検索用索引に含めることのできるドキュメントです。アプリケーションおよび設定によって、添付ファイルは FTP サーバー、SFTP サーバーまたはデータベースに保存できます。添付ファイルが検索用索引に含まれている場合、[検索定義] の [添付ファイル プロパティ] を定義する必要があります。添付ファイルはアプリケーションの用途に応じて、動的または静的になります。添付ファイル管理ページを使用するアプリケーションでは、動的添付ファイルを使用する必要があります。動的設定では、長時間にわたって、アクティブ サーバーを柔軟に変更できます。これにより、クエリーによるアクティブ サーバーまたは前のサーバーの添付ファイルへの動的アクセスを柔軟に実行できます。PeopleSoft 検索フレームワー

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

クでは、いずれかの添付ファイルの内容を含む検索用索引を作成し、キーワード検索でこの添付ファイルにアクセスできるようにします。

添付ファイルの検索を実行すると、パフォーマンスが低下することがあります。パフォーマンスの考慮事項の詳細については、「Financial and Supply Chain Management の検索でのパフォーマンス考慮事項について」を参照してください。

次の表では、添付ファイルを検索できるファイナンシャルおよびサプライ チェーン検索定義を説明します。

検索定義	*説明*	*使用*
EP_AM_ASSET	資産	グローバル/検索ページ
EP_AP_VENDOR	サプライヤ	グローバル/検索ページ
EP_AP_VOUCHERS	伝票	グローバル/検索ページ
EP_CS_DOC_ADHOC	アドホック ドキュメント	[サプライヤ契約管理] のコンテンツの検索
EP_CS_DOC_CONTRACTS	契約ドキュメント	[サプライヤ契約管理] のコンテンツの検索
EP_CS_DOC_PURCHORDRS	発注ドキュメント	[サプライヤ契約管理] のコンテンツの検索
EP_CS_DOC_SOURCING	ソーシング イベント ドキュメント	[サプライヤ契約管理] のコンテンツの検索
EP_PO_CONTRACTS	発注契約	グローバル/検索ページ
EP_PO_PURCHASE_ORDERS	発注	グローバル/検索ページ
EP_PO_REQUISITIONS	調達依頼	グローバル/検索ページ
EP_SS_EVENTS	ソーシング イベント	グローバル/検索ページ

添付ファイルの索引を正しく作成するには、次を定義する必要があります。

- 「添付ファイル管理ページ」を使用した FSCM 添付ファイル定義。
- PeopleSoft 検索フレームワークの添付ファイル URL ID リスト ([PeopleTools], [検索フレームワーク], [管理], [添付ファイル URLID リスト])。

テーブルにリストされている各種検索定義で索引が作成される、システム添付ファイルに関連する全ての URL の ID は、検索フレームワークの添付ファイル URLID リスト ページにリストされている必要があります。このリストは、各種添付ファイル サーバーによって異なる検索定義をデプロイする前に定義し、表示する必要があります。PeopleTools 検索フレームワークでは、このリストと関連する資格証明を SES システ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ムに発行し、索引関連のドキュメントをクローリングするときに必要な、適切な資格証明をこのシステムに持たせる必要があります。

製品ドキュメントの『*PeopleTools: Search Technology*』を参照してください。

Financial and Supply Chain Management の検索でのパフォーマンス考慮事項について

このトピックでは、Financials and Supply Chain Management (FSCM) 内でアプリケーションおよびコンポーネント検索を有効にした場合のパフォーマンス上の考慮事項について説明します。ここでは、システムをカスタマイズする際にエンド ユーザーの体験およびサポートを改善できる可能性のある考慮事項のトピックを提供します。次のトピックがあります。

- 有効化されたファセット
- 有効化された添付ファイル
- 有効化された属性 (チャートフィールド セキュリティを含む)
- 有効化されたクエリー

有効化されたファセット

Financials and Supply Chain Management (FSCM) では、検索定義 (および関連する検索カテゴリ) 内の特定のフィールド属性が PeopleSoft 検索フレームワーク内のファセットとして有効化されています。

注: SES では、ファセット値の入力が必須です。つまり、ファセットとして定義された全てのフィールドについて、空白の値を SES に送信することはできません。

PeopleSoft 検索フレームワークで検索属性がファセットとして定義されている場合、索引の作成時および検索の実行時にパフォーマンスの低下が発生する可能性があります。原則として、多数の値を含むフィールドはファセットとして有効化しないでください。FSCM 環境によって異なりますが、これにはサプライヤ名や入力者などのファセット値が含まれます。ファセット値の候補が数千個ある場合、これらのタイプの属性をファセットとして有効化すると、システム パフォーマンスに問題が発生する可能性があります。環境とデータ量によりますが、機能面でのニーズとシステム パフォーマンスの均衡を保つために、追加のファセットを有効化または無効化することを検討してください。

注: 検索定義内でのファセット値の変更は、マイナー カスタマイズと見なされます。全てのカスタマイズにおいて、既存の検索定義またはその他の PeopleSoft によって提供されるオブジェクトに対する全ての変更を追跡する必要があります。

有効化された添付ファイル

PeopleSoft 検索フレームワーク内では、FSCM 内で使用されるいくつかの検索定義に対して添付ファイルが許可されます。たとえば、発注書、調達依頼および契約検索定義内で添付ファイルを有効化できます。

 Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

多数の添付ファイルを有効化すると、索引の作成時および検索の実行時にパフォーマンスの低下が発生する可能性があります。

FSCM 環境とデータ量によりますが、機能面でのニーズとシステム パフォーマンスの均衡を保つために、添付ファイルの検索機能を有効化または無効化することを検討してください。

添付ファイルを索引に含めないように除外するには、検索定義ページの添付ファイル プロパティ ページからその添付ファイルを削除します。ただし、後で添付ファイルを検索定義に含めることを決定した場合は、必要時に参照を再び追加できるように、このページの現在の設定を追跡しておく必要があります。

注: 検索定義内での添付ファイルの削除は、マイナー カスタマイズと見なされます。全てのカスタマイズにおいて、既存の検索定義またはその他の PeopleSoft によって提供されるオブジェクトに対する全ての変更を追跡する必要があります。検索定義の詳細については、このセクションの最下部にある*『PeopleTools: PeopleSoft Search Technology』*のリンクを参照してください。

有効化された属性 (チャートフィールドのセキュリティを含む)

FSCM には、検索定義をサポートするプライマリ テーブルおよび関連テーブルの優先リストが含まれています。これは、発注書などのより複雑なデータ構造をサポートする、接続クエリーを使用して実装されます。検索定義内では、適正な SES 作成パフォーマンスをサポートするために、優先属性のサブセットのみが有効化されています。検索フレームワーク内で属性を追加すると、増分コストが発生します。属性の数を減らすと、システム パフォーマンスを改善できます。

チャートフィールド

PeopleSoft では、チャートフィールドなどの特定の属性は、ほとんどの検索定義内で無効化して提供しています。これは、パフォーマンス上の理由ではなく、セキュリティのためです。PeopleSoft 検索フレームワーク内でチャートフィールド属性を有効化すると、検索定義を使用して検索を実行できる*全ての*ユーザーが、チャートフィールド値も検索できるようになります。

たとえば、提供される製品で、プロジェクト番号別に全ての発注書を検索することが可能になります。PeopleSoft 検索フレームワークの実装では、PeopleSoft システム内では実装可能なチャートフィールドの行レベルのセキュリティがサポートされていません。このため、グローバル検索ページまたは検索ページでチャートフールドを有効化する前に、組織で検索カテゴリへのアクセス権限を持つユーザーにこれらの値を使用した検索を許可するかどうかを慎重に検討してください。

FSCM 環境とデータ量によりますが、機能面でのニーズとシステム パフォーマンスの均衡を保つために、検索属性を無効化することを検討してください。

注: 検索定義内での属性の有効化または無効化は、マイナー カスタマイズと見なされます。全てのカスタマイズにおいて、既存の検索定義またはその他の PeopleSoft によって提供されるオブジェクトに対する全ての変更を追跡する必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: クエリー アクセスに対してチャートフィールドを無効化した場合、検索定義でこのフィールドが使用されているのであれば、検索定義ページ (PTSF_FIELD_MAPPING) の [索引付けするフィールド] チェックボックスの選択を手動で解除する必要があります。チャートフィールドが無効化されている場合にこのステップを実行しないと、検索用索引の作成プロセスがエラーになります。

有効化されたクエリー

FSCM には、検索定義をサポートする主要クエリー、関連クエリーおよび接続クエリーの優先リストが含まれています。これは、発注書などのより複雑なデータ構造をサポートする、接続クエリーを使用して実行されます。これらの接続クエリーには、必ずしも全ての関連テーブルおよび関連情報が含まれているわけではありません。

FSCM 環境とデータ量によりますが、機能面でのニーズとシステム パフォーマンスの均衡を保つために、接続クエリーと検索定義に対してクエリーを削除または追加することを検討してください。

注: 接続クエリーに対するクエリーの追加または削除は、検索定義内の属性に影響を与える重要なカスタマイズと見なされます。全てのカスタマイズにおいて、既存の接続クエリーと検索定義、またはその他の PeopleSoft によって提供されるオブジェクトに対する全ての変更を追跡する必要があります。

PeopleSoft の検索およびカスタマイズの詳細については、*『PeopleTools: Search Technology』*を参照してください。

索引の作成プロセスについて

このトピックでは、次の概要について説明します。

- 索引の構成要素
- 索引のデプロイ
- 索引の作成

索引の作成プロセスの詳細については、*『PeopleTools: Search Technology』*を参照してください。

索引の構成要素

このトピックでは、次について説明します。

- クエリーと検索定義。
- 検索カテゴリ

クエリーと検索定義

PeopleTools 検索フレームワークでは、検索を作成するためにクエリーが必要です。クエリーおよび接続クエリーは、PeopleSoft によって提供される全ての索引に対して事前定義されています。クエリーを作成および

 Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

実行するには、検索インスタンス ページで定義されたコールバック ユーザーにクエリー セキュリティが付与されている必要があります。クエリーに対する変更は、常に詳細に文書化しておく必要があります。

必要に応じて、索引とトランザクション テーブルを同期するために、削除クエリーも提供されます。

クエリーは検索定義に関連付けられており、データの検索可能な全ての部分を定義します。フィールド (属性とも呼ばれます) は、検索で使用でき、そのアクセス権限は検索定義で付与されます。一部のフィールドは、検索ページを変更することなくオンまたはオフにできます。これは、コンポーネント キーワード検索およびグローバル検索の場合です。索引付けされるフィールドの数は、パフォーマンスに影響します。検索定義は、作成される物理索引であると見なすこともできます。

ファセットは、検索定義でも定義され、オンまたはオフにできます。

注: 検索定義に関連付けられているファセット、つまり属性を変更する場合、同様の変更を検索カテゴリに対しても行う必要があります。索引付けされるファセットの数は、パフォーマンスに影響します。

「Financial and Supply Chain Management の検索でのパフォーマンス考慮事項について 」を参照してください

検索カテゴリ

検索カテゴリは、検索に使用されるオブジェクトです。1 つの検索カテゴリには、1 つの検索定義または 1 つの検索定義のグループ (索引とも呼ばれます) が含まれています。複数の索引間で値を検索するには、最初にそれらの索引を 1 つの検索カテゴリにまとめる必要があります。PeopleSoft により、定義済の検索カテゴリが提供されます。

重要 検索定義に関連付けられている既存の検索カテゴリ、ファセットまたは属性に対する変更は、マイナー カスタマイズと見なされ、詳細に文書化しておく必要があります。

索引のデプロイ

索引を定義した後、作成プロセスにおける次のステップは、検索定義をデプロイすることです。常に検索定義をデプロイし、さらに複数の索引を含む検索カテゴリをデプロイする必要があります。検索定義と同名の 1 つの索引のみを含む検索カテゴリは、自動的にデプロイされます。

警告 検索定義のデプロイ ページでは、検索定義を削除することもできます。削除した検索定義を元に戻すことはできません。

検索定義をデプロイするには、左側の列にあるチェック ボックスを選択し、検索定義のデプロイ ページの最下部にスクロールして [デプロイ] ボタンを選択します。[デプロイ] ボタンを選択した後、[検索カテゴリ] タブを選択して、検索定義と同名のカテゴリが自動的にデプロイされたことを確認できます。

カテゴリに複数の検索定義 (EP_PROCURE_TO_PAY など) が含まれている場合、検索定義の場合と同じステップ従って、[検索カテゴリ] タブを使用してそれをデプロイできます。これらの検索カテゴリのデプロイは、個々の検索定義を索引付けする前、または後に実行できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

検索定義のデプロイ ページと検索カテゴリのデプロイ ページの詳細については、『*PeopleTools: PeopleSoft Search Technology*』の「Administering PeopleSoft Search Framework」および「Administering Search Definitions and Search Categories」を参照してください。

索引の作成

索引付けする検索定義を送信または作成するには、検索用索引のスケジューリング ページを使用します([PeopleTools]、[検索フレームワーク]、[管理]、[検索用索引のスケジューリング])。作成する索引を表す名前を割り当てます。複数のユーザーが 1 つの特定の索引を作成する場合、各ユーザーが独自のラン コントロールを作成する必要があります。

検索用索引の作成ラン コントロール ページから、次の手順に従います。

- [検索定義] フィールドの検索オプションには、デプロイ済の検索定義のみがリストされます。
- 索引作成タイプも選択する必要があります。
    - 全索引は、古いデータを削除して完全に新規のデータを索引に適用する、索引の完全な再作成です。

      パフォーマンス上の理由により、大量のデータがある場合は全索引を使用しないでください。
    - 増分索引は、既存の索引を更新するために使用され、古い無効なレコードを削除して、前回の索引作成後に変更または追加された新規レコードを追加します。

      索引付きのドキュメントではヘッダー レベルで日時が保持され、これはヘッダーまたは子レコードが変更されるたびに、さまざまなページ、トランザクションおよびバッチ ジョブから更新されます。索引が前回作成されている場合、最新の作成に関する情報がラン コントロール ページに表示されます。一般に、増分索引は、特に大量のデータがある場合に全索引よりも効率的です。
- 検索結果が頻繁に変更される場合は、夜間またはシステム使用率が低い時間に増分索引の作成を実行してください。

  これにより、検索データが最新に保たれます。ただし、索引の再作成が必要となる例外がいくつかあります。これは次のような場合です。
    - 購買者 ID が格納されている場所で更新されていない、購買者名などの関連データが変更された場合。
    - 既存の日付に対して修正モードを使用した有効日の情報があり、新規の有効日が作成されない場合。

検索用索引の作成ページの詳細については、『*PeopleTools: PeopleSoft Search Technology*』の「Administering PeopleSoft Search Framework」および「Working with Search Indexes」を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第10章

チャートフィールドのセキュリティ保護

チャートフィールド セキュリティについて

チャートフィールド セキュリティでは、組織内のユーザーのロールに固有のデータ アクセス セキュリティを構成できます。チャートフィールド セキュリティは、ビジネス ユニットおよび元帳セキュリティなどの他のセキュリティ機能と連携して機能するように設計されています。主な相違点は、チャートフィールド セキュリティでは、PeopleSoft 製品で提供される他のセキュリティ機能とは異なり、アクセスの構成および 1 つ以上の製品に固有のルールの構成に使用するチャートフィールドを選択できることです。データ セキュリティに関する組織のポリシーに対応するために、必要に応じて製品または製品の一部の機能を除外できます。

製品ごとに異なるルールを定義でき、必要に応じて例外を許可できます。この機能の一般的な使用例は、職種とアクティビティに基づくアクセスの構成です。次に例を挙げます。

- 買掛金管理のユーザーは、買掛金管理機能については全部門の取引にアクセスできますが、セルフサービス調達依頼の入力時、または元帳または予算アクティビティの表示時には、自分の部門のみにアクセスが制限されます。
- 会計担当者は、各部門の仕訳アクティビティにアクセスして表示できますが、予算残高の表示は自分の部門についてのみ許可されます。
- マネージャは、自分の職務上の責任範囲に応じて 1 つまたは多数の部門の支出および収益アクティビティを監視できます。

セキュリティはユーザー、ロールまたは権限リスト別に適用できるため、組織はこの機能をできる限り効率的に実装できます。このセキュリティの最適な実装方法を決定するために、業務エリア全体で評価を実行してください。また、他の設定 (組合せ編集、配布コード) の選択についても、データの競合がないかを確認してください。

デフォルトでは、製品自体が有効化されている場合、各製品のほとんどのコンポーネントが保護されます。各製品の特定のコンポーネントを、例外あり、または例外なしで有効化または無効化できます。

チャートフィールド セキュリティ機能は、金額フィールドまたはその他の機密データを含むチャートフィールドを表示するページにのみ実装されます。機密データの例として、資産、在庫および経費アイテムがあります。設定定義ページなど、非機密データを含むチャートフィールドを表示するページは、チャートフィールド セキュリティをサポートしません。

チャートフィールド セキュリティ機能では、次のことが可能です。

- 製品に基づいてチャートフィールド セキュリティを有効化または無効化する。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- コンポーネントに基づいてチャートフィールド セキュリティを有効化または無効化する。
- ユーザー ID、ロールまたは権限リスト別にチャートフィールド セキュリティを有効化または無効化する。
- 未承認のチャートフィールド値を含む取引へのアクセスを制限する。
- 関連するコンポーネントの配布コード値へのアクセスを制限する。
- 照会コンポーネント内の権限のないチャートフィールド値を含む財務データへのアクセスを制限する。
- データ入力中の権限のないチャートフィールド値へのアクセスを制限する。
- ユーザー、ロール、または権限リストに対する例外としてコンポーネントを指定する。

前述の機能は、金額フィールドを含むチャートフィールドを 1 つ以上表示するページを含め、オンライン ページに表示される会計情報へのアクセスのセキュリティをセキュリティ保護します。チャートフィールド セキュリティが必要でない場合 (つまり、コンポーネントが取引データの照合に使用されている場合)、そのコンポーネントをチャートフィールド セキュリティから除外できます。

チャートフィールドのセキュリティ保護は、次の全ての方法で可能です。

- コンポーネント検索リストから取引をセキュリティ保護する。
- 照会ページ リストから取引をセキュリティ保護する。
- 照会結果をセキュリティ保護する。
- 取引のコンポーネントへのドリルをセキュリティ保護する。
- プロンプト編集テーブルの値をセキュリティ保護する。
- 配布コードをセキュリティ保護する。

注: チャートフィールド セキュリティ機能では、配布コードのプロンプト値のみが保護され、コンポーネントへのアクセスは保護されません。

次の表には、チャートフィールド セキュリティに対して有効化できる PeopleSoft 製品と各製品に関する情報がリストされています。チャートフィールド セキュリティは、選択したフィールドに対して有効化できます。たとえば、買掛金管理を使用している場合、チャートフィールド セキュリティを取引と照会に対して有効化し、配布コードに対しては有効化しない (この製品には適用されないため) ようにできます。

PeopleSoft 製品	***取引***	***照会***	***配布コード***
買掛金管理	X	X	N/A
売掛金管理	X	X	X
資産管理	X	X	N/A
請求管理	X		X

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft 製品	*取引*	*照会*	*配布コード*
コミットメント コントロール	X	X	
契約管理	X	X	X
原価管理	X		N/A
eProcurement-調達管理	X	X	N/A
経費管理	X	X	N/A
一般会計	X	X	N/A
Grants Management	X	X	N/A
在庫管理	X		N/A
受注管理	X		N/A
プロジェクト管理	X	X	N/A
購買管理	X	X	N/A
サービス プロキュアメント	X	X	N/A
財務管理	X	X	N/A

「PeopleSoft 買掛金管理のチャートフィールドのセキュリティ保護」を参照してください。

「PeopleSoft 売掛金管理のチャートフィールドのセキュリティ保護」を参照してください。

「PeopleSoft 資産管理のチャートフィールドのセキュリティ保護」を参照してください。

「PeopleSoft 請求管理のチャートフィールドのセキュリティ保護」を参照してください。

「PeopleSoft コミットメント コントロールのチャートフィールドのセキュリティ保護」を参照してください。

「PeopleSoft 契約管理のチャートフィールドのセキュリティ保護」を参照してください。

「PeopleSoft 原価管理のチャートフィールドのセキュリティ保護」を参照してください。

「PeopleSoft eProcurement-調達管理のチャートフィールドのセキュリティ保護」を参照してください。

「PeopleSoft 経費管理のチャートフィールドのセキュリティ保護」を参照してください。

「PeopleSoft 一般会計のチャートフィールドのセキュリティ保護」を参照してください。

「PeopleSoft Grants Management のチャートフィールドのセキュリティ保護」を参照してください。

「PeopleSoft 在庫管理のチャートフィールドのセキュリティ保護」を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

「PeopleSoft 受注管理のチャートフィールドのセキュリティ保護」を参照してください。

「PeopleSoft プロジェクト コスト管理のチャートフィールドのセキュリティ保護」を参照してください。

「PeopleSoft 購買管理のチャートフィールドのセキュリティ保護」を参照してください。

「PeopleSoft サービス プロキュアメントのチャートフィールドのセキュリティ保護」を参照してください。

「PeopleSoft 財務管理のチャートフィールドのセキュリティ保護」を参照してください。

チャートフィールドのセキュリティ保護で使用される共通要素

空白のチャートフィールド値

チャートフィールド セキュリティ ルールは、チャートフィールドの空白値には適用されません。保護されているチャートフィールドの空白値が行に含まれている場合、別のチャートフィールドに権限のない値が含まれていない限り、アクセス権が付与されます。

作成処理

チャートフィールド セキュリティ ルールをフラット テーブルに作成する処理。

コンポーネント

機能的に関連しているページのグループ。

配布コード

通常は取引の配布に適用される、デフォルトのチャートフィールド値の組合せを表すコード。配布コード セキュリティは、コンポーネント別に有効化または無効化できます。配布コード セキュリティは、エンド ユーザーがアクセス権を持っている値リストを制御し、チャートフィールド セキュリティと同様に動作します。配布コード セキュリティは、ルール作成時の検証プロセスを除き、チャートフィールド セキュリティから独立しています。検証プロセスでは、配布コードの同等のチャートフィールドと、ユーザーに割り当てられた既存のチャートフィールド ルールの間の競合がテストされます。

照会

データのオンライン クエリーをサポートするために使用されるページ。

保護されたプロンプト リストの上書き

チャートフィールドのセキュリティ保護されたプロンプト リストをバイパスすることをユーザーに許可する、セキュリティ ルールの構成。

一部のアクセス権

一部のアクセス権のオプションを *[アクセス却下]* または *[アクセス許可]* に設定できます。たとえば、チャートフィールドの複数の行を含む取引 (仕訳入力など) の場合、一部の行にはチャートフィールドの承認済の値が含まれ、それ以外の行には未承認の値が含まれていることがあります。この場合、ユーザーは一部に対してのアクセス権を持ちます。また、ある行の 1 つのチャート

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

	フィールドに承認済の値が含まれ、同じ行の別のチャートフィールドには未承認の値が含まれている場合、一部のアクセス権のオプションが適用されます。つまり、ユーザーは部門 41000 に対するアクセス権は持っていますが、プログラム 6700 に対するアクセス権は持っていません。 「セキュリティ オプション - チャートフィールド セキュリティ ページ」を参照してください。
セキュリティ方法	セキュリティを制御するために選択する方法 (ユーザー、ロールまたは権限リスト)。
ソース製品	セキュリティの値を製品別に分割する方法。たとえば、買掛金管理担当者の場合、買掛金管理と一般会計ではセキュリティの設定が異なる可能性があります。

一般的なチャートフィールド セキュリティ機能の説明

この項では、一般的なチャートフィールド セキュリティ機能の概要、前提条件、および次の基本機能について説明します。

- 取引ページへのアクセスのセキュリティ保護。
- 会計データへのアクセスのセキュリティ保護。
- チャートフィールド プロンプト編集値のセキュリティ保護。
- デフォルト設定されたチャートフィールド値のセキュリティ保護。
- 配布コード プロンプト値のセキュリティ保護。

注: この項では、チャートフィールド セキュリティの基本機能と、チャートフィールド セキュリティをサポートするコンポーネント ページの一般的な動作について説明します。この動作は、チャートフィールド セキュリティをサポートする全ての製品で共通です。ただし、この動作は一部の製品では異なる可能性があります。この項で説明する一般的な動作とは異なる特別な動作については、個々の製品の項に記載します。製品固有の情報は、このトピックの関連製品の項を参照してください。

取引ページへのアクセスのセキュリティ保護

チャートフィールド セキュリティは、保護されたチャートフィールド値を含む行が 1 つ以上ある取引にアクセスできないようにすることを目的としています。

チャートフィールド セキュリティは、伝票、仕訳または発注書などの単一取引を表示する、コンポーネント ページへのアクセスを制限します。その取引の会計データを表示する権限がセキュリティ設定で定義されている場合にのみ、そのページへのアクセスが許可されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

次のものに対するアクセスをセキュリティ保護できます。

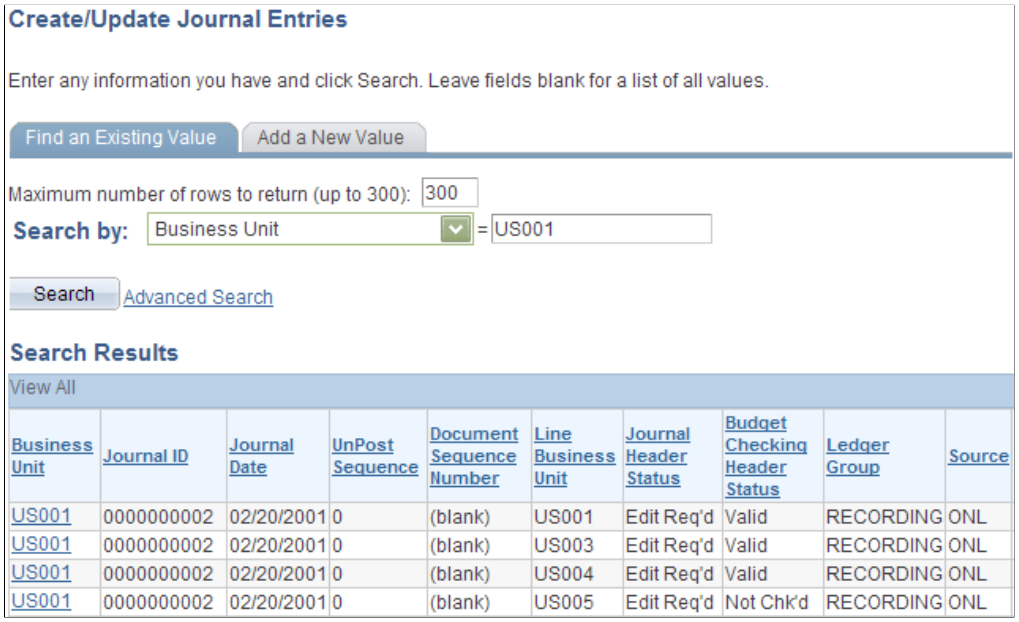
- コンポーネント検索リスト。
- ページ ドリル リンク。
- コンポーネント アクション オプション。

コンポーネント検索リストへのアクセスのセキュリティ保護

コンポーネント検索リストから取引を選択するときに、チャートフィールド セキュリティが適用されます。取引のチャートフィールド値を表示する権限がある場合にのみ、そのコンポーネント ページへのアクセスが許可されます。コンポーネントを開くと、検索リストを含む検索ページが表示されます。検索リストには、アイテム(取引) のリストが含まれており、このリストから選択してコンポーネント ページを開くことができます。チャートフィールド セキュリティでは、コンポーネント検索リストはフィルタされません。このため、次の例に示すように、検索条件に基づいてコンポーネント検索リスト全体を表示できます。

画像: コンポーネント検索ページからのアクセスのセキュリティ保護の例

コンポーネント検索ページからのアクセスのセキュリティ保護の例



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

コンポーネント検索リストから取引を選択するときに、チャートフィールド セキュリティにより、そのユーザーにコンポーネント ページを開く権限があるかどうかが特定されます。権限がない場合は、次のメッセージが表示され、アクセスが拒否されます。

画像: チャートフィールド セキュリティのアクセス エラー メッセージ

チャートフィールド セキュリティのアクセス エラー メッセージ

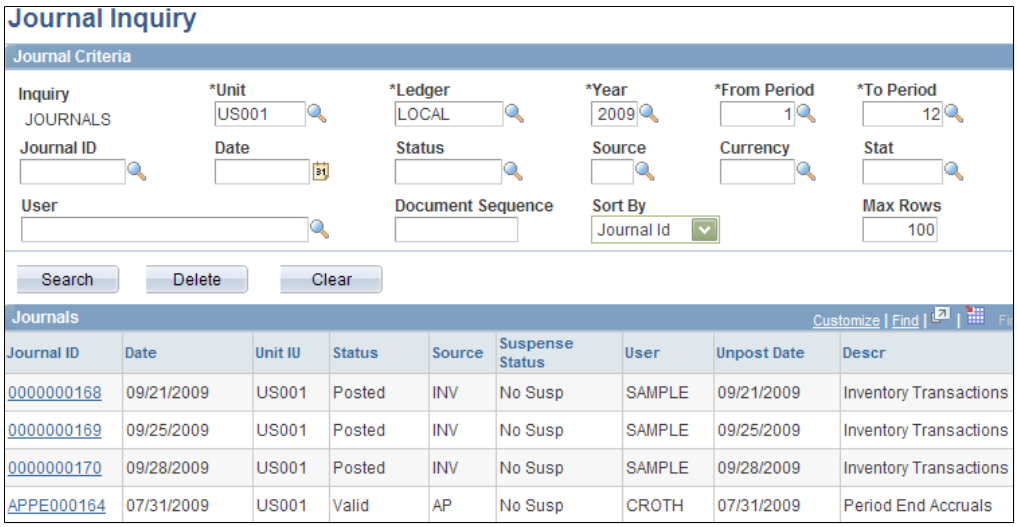


ページ ドリル リンクへのアクセスのセキュリティ保護

一部のコンポーネント ページには、取引データを表示するページにドリルできるリンクおよびボタンがあります。チャートフィールド セキュリティは、ドリル リンクからの取引ページへのアクセスをセキュリティ保護します。次に、ドリル リンクからのセキュリティの例を示します。

画像: ドリル リンクからのアクセスのセキュリティ保護の例

ドリル リンクからのアクセスのセキュリティ保護の例



取引詳細にドリルするリンクを選択するときに、チャートフィールド セキュリティが適用されます。

一部の製品ページでは、値のプロンプト リストを使用する代わりに、チャートフィールド値を直接入力できます。この方法は、アクセス可能な承認済の値リストを制御する、保護されたビューをバイパスします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

コンポーネント セキュリティ アクションのオプションへのアクセスのセキュリティ保護

チャートフィールド セキュリティでは、ユーザーが単一取引内の一部の会計行の表示または変更権限のみを持っている場合のアクセス動作を決定するオプションがサポートされています。使用可能なオプションの値は、次のとおりです。

- *アクセス却下:* ユーザーが取引内の少なくとも 1 つのチャートフィールド値へのアクセス権を持っていない場合、その取引ページへのアクセスを制限します。ユーザーが取引内の全てのチャートフィールド値へのアクセス権を持っている場合にのみ、アクセス権が付与されます。
- *アクセス許可:* ユーザーが取引内の全てのチャートフィールド値の表示または変更権限を持っていない場合、その取引ページへのアクセスを制限します。ユーザーが取引内の少なくとも 1 つのチャートフィールド値へのアクセス権を持っている場合、アクセス権が付与されます。

次のシナリオを使用した、アクション オプションのセキュリティ動作の例を下に示します。

- 保護されるチャートフィールドは、部門および業務ユニットです。
- 承認された部門の値は、11000、12000、13000、14000 および 15000 です。
- 承認された業務ユニットの値は、CALIF です。

次の表には、前述のセキュリティによるシナリオと、2 つの各アクション オプションにおけるアクセス動作を示しています。

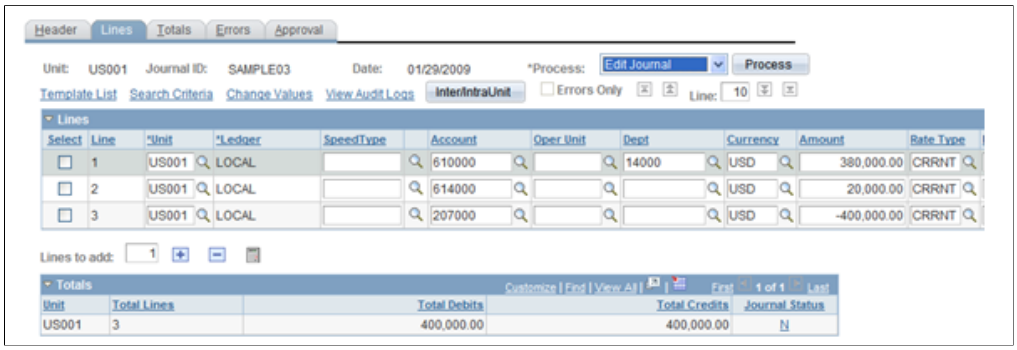
シナリオ	*[アクセス却下] オプション*	*[アクセス許可] オプション*
取引の配布: • 部門 20000 • 業務ユニット CALIF	アクセスは拒否されます。	ユーザーが少なくとも 1 つのチャートフィールド値に対する権限を持っているため、アクセスが付与されます。
取引の配布: • 部門 14000 • 業務ユニット NEWYORK	アクセスは拒否されます。	ユーザーが少なくとも 1 つのチャートフィールド値に対する権限を持っているため、アクセスが付与されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド セキュリティでは、空白の値は承認済の値として認識されます。前述の例では、いずれのオプションでも、ユーザーに取引ページへのアクセス権が付与されます。

画像: 承認済の値としての空白値の例

次の例では、「承認済の値としての空白値の例」のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



会計データへのアクセスのセキュリティ保護

チャートフィールド セキュリティでは、さまざまな方法を使用して、複数の取引から入力された会計情報へのアクセスをセキュリティ保護します。ページへのアクセスをセキュリティ保護する代わりに、チャートフィールド セキュリティでは、ユーザーがアクセスを許可されているデータのみを表示します。このデータには、通常、元帳などの転記済会計データを表示する照会コンポーネントが含まれます。

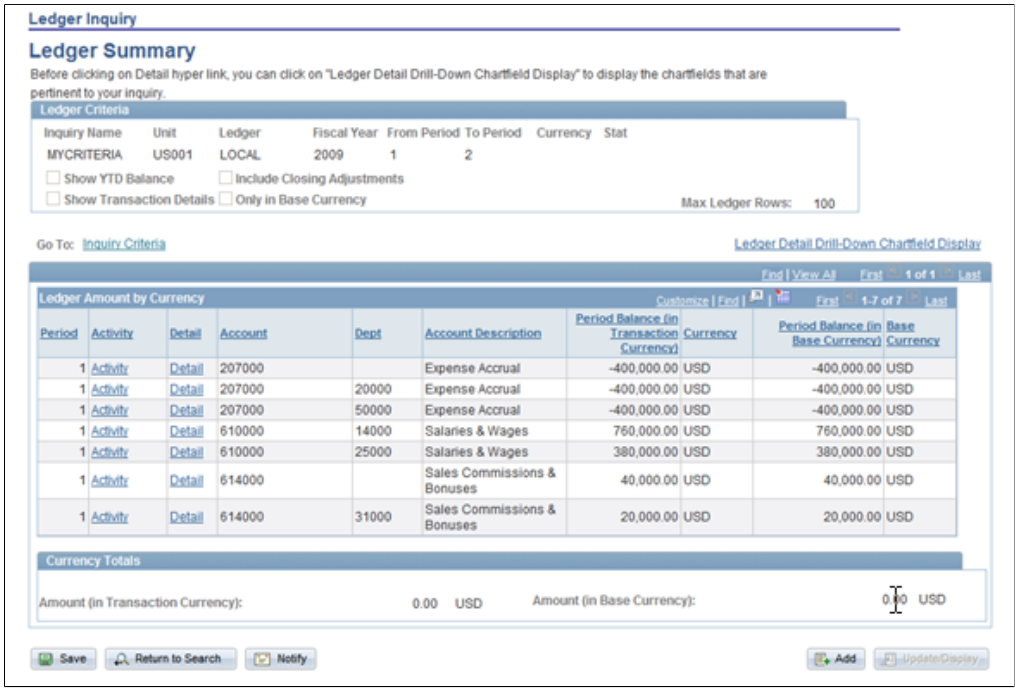
次の例は、照会の結果を示しています。1 つ目はチャートフィールド セキュリティが有効化されていない場合を示しており、2 つ目はこれが有効化されている場合を示しています。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド セキュリティが有効化されていない場合、元帳選択条件に全ての元帳行が表示されます。

画像: 有効化されていないチャートフィールド セキュリティ

次の例では、「有効化されていないチャートフィールド セキュリティ」のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。

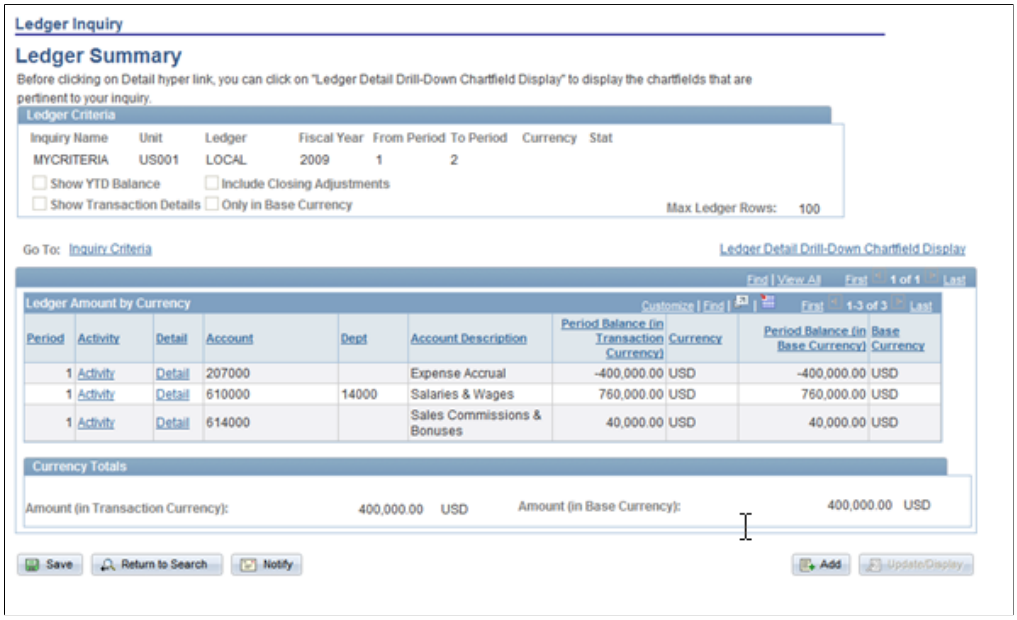


Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド セキュリティが有効化されている場合、そのユーザーが表示権限を持っている行のみが表示されます。この例では、ユーザーは部門 14000 の表示権限のみを持っています。

画像: 有効化されたチャートフィールド セキュリティ

次の例では、「有効化されたチャートフィールド セキュリティ」のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



注: チャートフィールド セキュリティはこれらのコンポーネントの情報を制限するため、特定のユーザーに対してセキュリティが必要かどうかを決定する必要があります。たとえば、日常業務を実行するために全情報にアクセスする必要のあるユーザーは、セキュリティを必要としません。チャートフィールド セキュリティでは、コンポーネント レベルでのセキュリティの無効化と、特定のユーザーに対するセキュリティの上書きがサポートされています。

注: コンポーネント セキュリティ アクションのオプションは、これらのコンポーネントではサポートされません。

チャートフィールド プロンプト編集値のセキュリティ保護

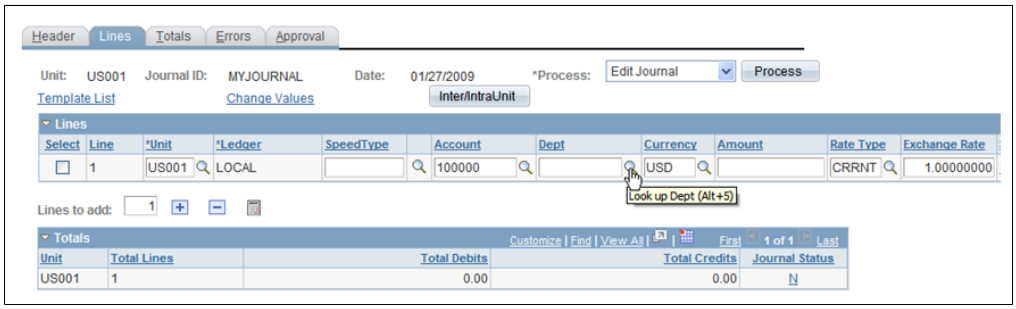
チャートフィールド セキュリティは、ユーザーが承認済のチャートフィールド値のみを選択または直接入力できるように制限します。これは、取引入力コンポーネント、およびユーザーに取引のチャートフィールドの更新を許可するコンポーネントに適用されます。これは、プロンプト フィールド値が取引データの更新に使用されない限り、照会コンポーネントには適用されません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

次に、承認済の値のみを含むプロンプト リストの例を示します。

画像: 仕訳入力 - 行ページ: 承認済の値のみを含むプロンプトの選択の例

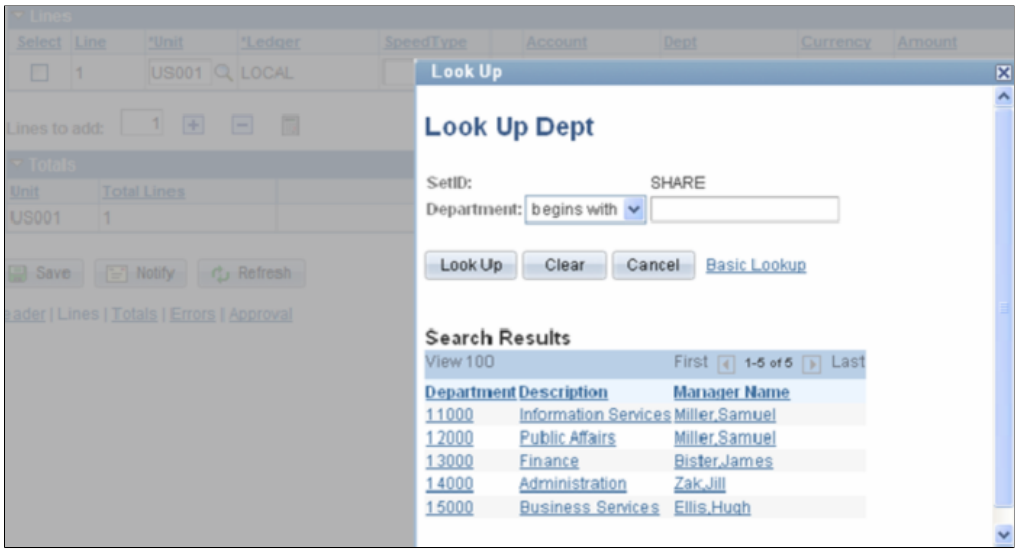
仕訳入力 - 行ページ: 承認済の値のみを含むプロンプトの選択の例



[部門] プロンプトを選択すると、ユーザーは承認済の値にのみアクセスできます。

画像: 承認済のプロンプト リストの例

承認済のプロンプト リストの例

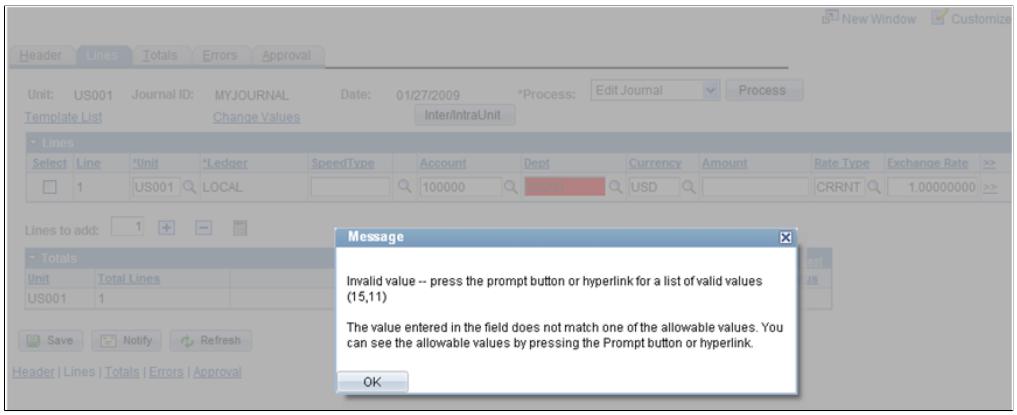


Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユーザーが保護されているフィールドに未承認の値を直接入力しようとすると、次のエラーが表示されます。

画像: チャートフィールド セキュリティのプロンプト エラー メッセージ

チャートフィールド セキュリティのプロンプト エラー メッセージ



デフォルト設定されたチャートフィールド値のセキュリティ保護

複数の製品で、事前定義された設定からデフォルト チャートフィールド値を提供する機能がサポートされています。たとえば、一部のオンライン会計処理ページでは、デフォルト チャートフィールド値を提供するためにスピード入力およびスピードチャートが使用されます。

注: 一般に、製品固有の項に記載されていない限り、デフォルト値は保護されます。ただし、スピード入力およびスピードチャートからデフォルトで設定されるチャートフィールド値は、ユーザー ID または権限リスト別に設定できるため、保護されません。

配布コード プロンプト値のセキュリティ保護

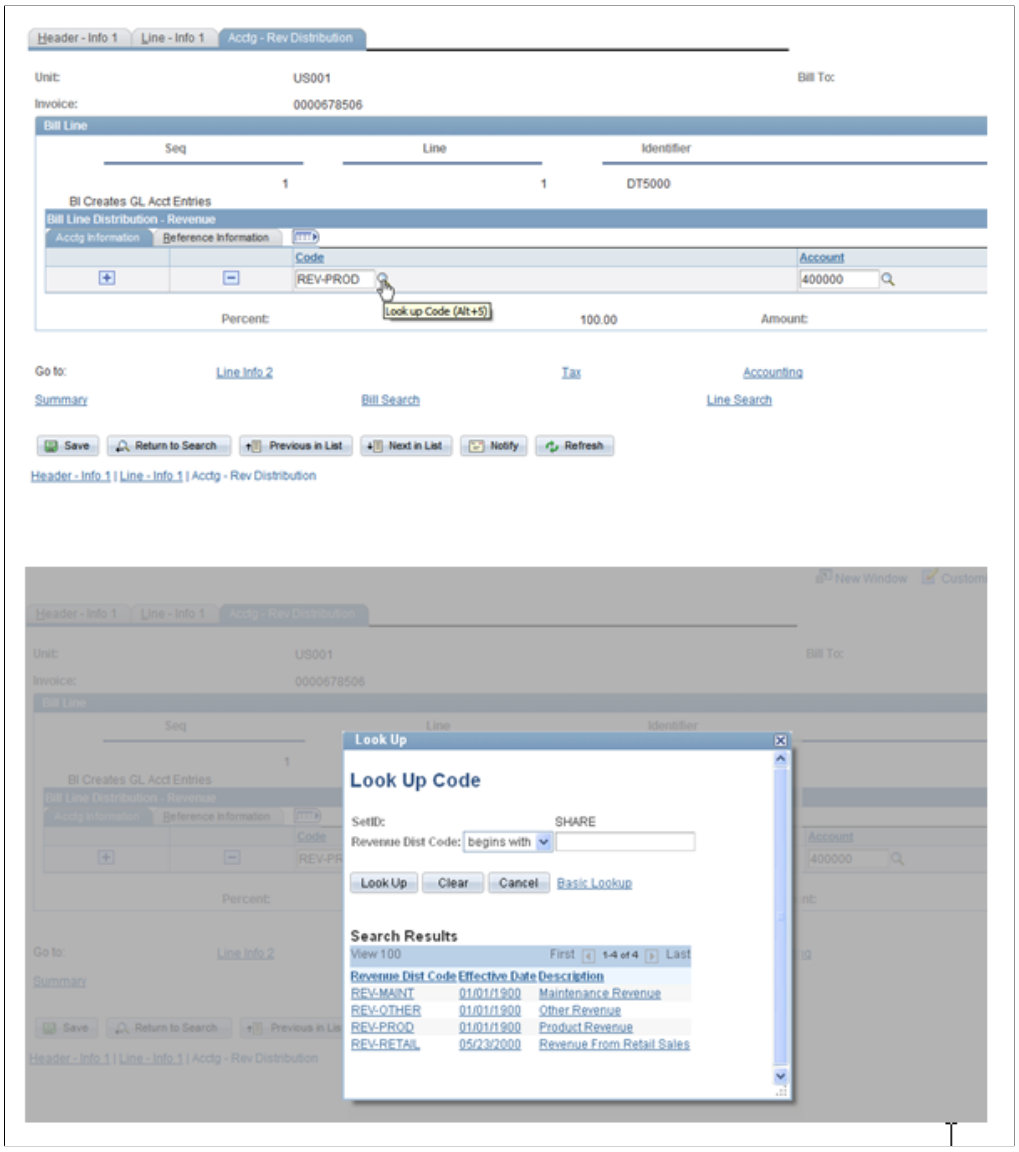
チャートフィールド セキュリティは、デフォルト チャートフィールド値を提供するために配布コードを使用する製品に対して、配布コード プロンプト値のセキュリティ保護をサポートしています。チャートフィールド プロンプト値と同様に、チャートフィールド セキュリティでは、プロンプト リストに承認済の値のみが表示されます。チャートフィールド セキュリティでは、取引ページへのアクセス権を承認するために配布コードを検索することはありません。配布コード プロンプト値のみが保護されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

次の例では、プロンプト リストには承認済の配布コードのみが含まれています。

画像: 承認済のコードを示すコード検索プロンプトの例

次の例では、「承認済のコードを示すコード検索プロンプトの例」のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



注: 配布コードのセキュリティは、コンポーネント レジストリ ページでコンポーネント レベルで有効化または無効化できます。

「コンポーネント レジストリ - セキュリティ対象コンポーネント ページ」を参照してください。

「PeopleSoft 売掛金管理のチャートフィールドのセキュリティ保護」を参照してください。

「PeopleSoft 請求管理のチャートフィールドのセキュリティ保護」を参照してください。

「PeopleSoft 契約管理のチャートフィールドのセキュリティ保護」を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド セキュリティの有効化

チャートフィールド セキュリティの有効化に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
セキュリティ オプション - チャートフィールド セキュリティ ページ	SEC_FIELDS	チャートフィールドをセキュリティに対して有効化し、セキュリティ レベル (ユーザー、ロール、権限リスト) を設定し、個別の製品を有効化します。
チャートフィールド保護オプション - 製品 ページ	SEC_CF_PROD	チャートフィールド セキュリティに対して有効化または無効化する製品を選択します。
コンポーネント レジストリ - セキュリティ対象コンポーネント ページ	SEC_COMP_REG	チャートフィールド セキュリティ コンポーネントをリストします。コンポーネントに対してチャートフィールド セキュリティを無効化または有効化します。
コンポーネント詳細ページ	SEC_COMP_SEC	コンポーネント詳細レコードをリストし、([編集テーブル セット] で定義された) チャートフィールド プロンプト編集テーブルを詳細レコードに関連付けます。 「コンポーネント レジストリ - セキュリティ対象コンポーネント ページ」を参照してください。
チャートフィールド セキュリティ編集テーブル ページ	SEC_EDIT_TBLS	編集テーブル セットは、プロンプト編集テーブルと対応するセキュリティ ビューのセットを定義します。 移動先: [ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [チャートフィールド セキュリティ], [セキュリティ編集テーブル], [デフォルト編集設定]。
ダイナミック編集テーブル ページ	SEC_DYN_EDITTBL	編集テーブル割当が製品選択条件に基づいてコンポーネントで動的に割り当てられ、製品ごとに異なる可能性がある場合、ダイナミック編集テーブルを使用します。 移動先: [ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [チャートフィールド セキュリティ], [セキュリティ編集テーブル], [ダイナミック編集テーブル]。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド セキュリティ設定について

チャートフィールド セキュリティを設定するには、次のことが必要です。

- チャートフィールド セキュリティ ページ グループを使用して、セキュリティ オプションおよび製品を定義します。
- コンポーネント レベルでのセキュリティ要件を特定します。コンポーネント レジストリ ページを使用して、コンポーネントを有効化または無効化し、コンポーネント レベルのオプションを設定します。
- チャートフィールド セキュリティ ルール ページを使用して、セキュリティ ルールを定義します。
- ルールの割当、例外、セキュリティ値ページを使用して、セキュリティ ルールを割り当てます。
- (オプション) ユーザー、ロール、権限リスト、またはこれら 3 つ全てに対するセキュリティ ルールをコピーします。

チャートフィールド セキュリティをこの順序で設定します。

1. 保護するチャートフィールドを選択します。
2. ルールを定義します。
3. ルールをユーザー、ロール、権限リスト、または 3 つ全てに割り当てます。
4. ルールを作成します。
5. [チャートフィールド セキュリティ] オプションを有効化します。

「コンポーネント レジストリ - セキュリティ対象コンポーネント ページ」を参照してください。

「チャートフィールド セキュリティ ルール ページ」を参照してください。

「ユーザー ID のセキュリティ ルール設定ページ」を参照してください。

前提条件

チャートフィールド セキュリティを有効化する前に、次のステップを完了しておく必要があります。

- 独自の要件を満たすようにチャートフィールドを定義します。
- 保護する必要のあるチャートフィールドを特定します。
- ニーズに最適なセキュリティ レベルを特定します。

「PeopleSoft チャートフィールドについて」を参照してください

「PeopleSoft アプリケーション セキュリティについて」を参照してください。

 Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

セキュリティ オプション - チャートフィールド セキュリティ ページ

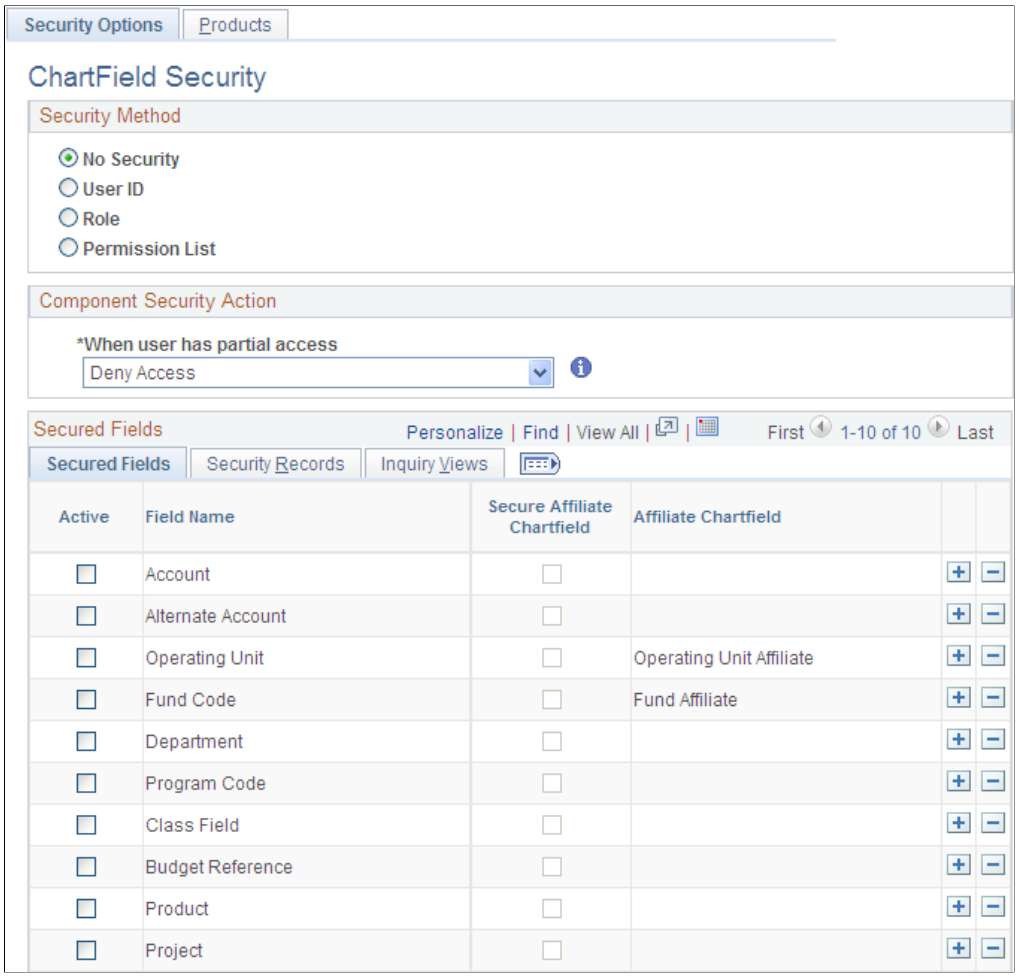
セキュリティ オプション - チャートフィールド セキュリティ ページ (SEC_FIELDS) を使用して、チャートフィールドをセキュリティに対して有効化し、セキュリティ レベル (ユーザー、ロール、権限リスト) を設定し、個別の製品を有効化します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [チャートフィールド セキュリティ], [チャートフィールド保護オプション], [セキュリティ オプション]

画像: セキュリティ オプション - チャートフィールド セキュリティ ページ

次の例では、セキュリティ オプション - チャートフィールド セキュリティ ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このページでの選択により、チャートフィールド セキュリティ方法、セキュリティ対象フィールド、およびレコードが決定されます。

なし

以前にチャートフィールド セキュリティがユーザー ID、ロール、または権限リスト別に有効化されていた場合に、チャートフィールド セキュリティを無効化するために選択します。また、チャートフィー

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ルド セキュリティを後日に有効化するが、今すぐ設定を完了したい場合にも、このフィールドを選択します。

ユーザー ID ユーザーに直接割り当てるルールを定義する場合に選択します。

ロール PeopleSoft PeopleTools セキュリティで作成されたロール別にセキュリティ ルールを割り当てる場合に選択します。大きいユーザー グループに類似したルールを割り当てると、設定が容易になります。

権限リスト Tools ユーザー プロファイル ページの行セキュリティ権限リストを使用して、セキュリティ ルールを割り当てる場合に選択します。PeopleTools ユーザー プロファイル ページでは、行セキュリティ権限リストを定義できます。これは、プライマリ権限リストとは異なっていてもかまいません。

コンポーネント セキュリティ アクション

このフィールドでの選択により、ユーザーが単一取引における一部の行、または単一取引における一部のチャートフィールド値の表示または変更権限のみを持っている場合のデフォルト アクセス動作が決定されます。

ユーザーに一部のアクセス権がある場合 ユーザーに一部のアクセス権を許可するには、*[アクセス許可]* を選択します。*[アクセス却下]* を選択すると、ユーザーは全てのチャートフィールド値または取引にアクセスできなくなります。

注: 空白のチャートフィールド値は、暗黙的に承認済の値として扱われることに注意してください。これは、一部のアクセス権のオプション [アクセス許可] を使用している場合に重要になる可能性があります。いくつかのオンライン ページでは、ユーザー設定に基づいて、チャートフィールドの完全なセットが表示されません。この一例は予算仕訳入力で、ここでは予算定義で予算キーとして設定されたチャートフィールドのみが表示されます。保護されたチャートフィールドのいずれか 1 つが予算キーとして設定されていない場合は、このページに対して一部のアクセス権のオプション [アクセス許可] を使用しないでください。この場合、このチャートフィールド値は常に空白になります。

セキュリティ対象フィールド

アクティブな、提供されたチャートフィールドを表示および選択します。チャートフィールドを選択せずに、セキュリティ設定を保存できます。

警告 1 つまたは 2 つのチャートフィールドのみを選択できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

アクティブ

特定のフィールドに対してセキュリティを有効化または無効化する場合に選択します。

チャートフィールド セキュリティでは、次のチャートフィールド選択がサポートされます。

ACCOUNT

ALTACCT

DEPTID

OPERATING_UNIT

PRODUCT

FUND_CODE

BUDGET_REF

PROGRAM_CODE

CLASS

CHARTFIELD1

CHARTFIELD2

CHARTFIELD3

PROJECT_ID

注: チャートフィールド セキュリティでは、チャートフィールド設定中に追加された、カスタマイズされた提供外のチャートフィールドもサポートします。その他の必要な設定については、「カスタマイズされたチャートフィールドのセキュリティ保護」を参照してください。

関係会社チャートフィールドのセキュリティ保護

関連するチャートフィールド関係会社プロンプト値をセキュリティ保護するには、このチェック ボックスをオンにします。たとえば、[関係会社 - 資金] が有効化されている場合、関係会社のプロンプト ビューには、ユーザーがアクセス権を持っている資金コード値に関連付けられた値のみが表示されます。

セキュリティ レコード

チャートフィールドに関連付けられた、提供されたレコードを表示します。セキュリティに対して有効化された各チャートフィールドは、ユーザー ID、ロール、または権限リストのセキュリティ レコードに関連付けられます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: テーブル名は変更できません。チャートフィールド設定処理により、セキュリティ レコードが作成されます。

照会ビュー

[照会ビュー] タブには、保護されたチャートフィールド値を表示するセキュリティ値ページで使用される各チャートフィールドのセキュリティ ビューが表示されます。このページで使用されている照会ビューを変更できます。

提供される照会セキュリティ ビューを確認します。セキュリティに対して有効化された各チャートフィールドは、ユーザー ID、ロール、または権限リストの照会セキュリティ ビューに関連付けられます。

注: これは提供されるメタデータであり、既存データの変更はお勧めしません。

チャートフィールド保護オプション - 製品ページ

チャートフィールド保護オプション - 製品ページ (SEC_CF_PROD) を使用して、チャートフィールド セキュリティに対して有効化または無効化する製品を選択します。

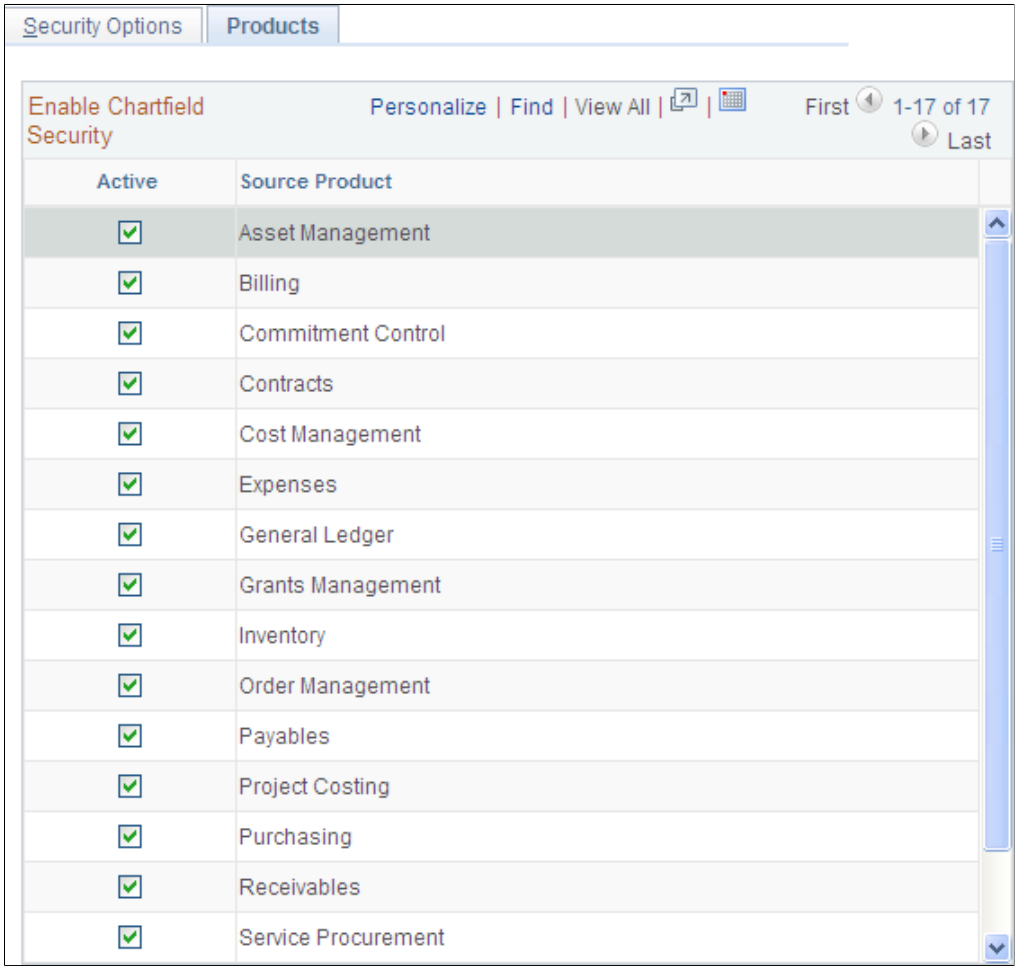
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [チャートフィールド セキュリティ], [チャートフィールド保護オプション], [製品]

画像: チャートフィールド保護オプション - 製品ページ

次の例では、チャートフィールド保護オプション - 製品ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このページでの選択により、チャートフィールド セキュリティに対して製品を有効化するか無効化するかが決定されます。製品を無効化すると、その製品の全ての登録済コンポーネントもチャートフィールド セキュリティに対して無効化されます。製品を有効化して、そのコンポーネントの一部を無効化することもできます。

アクティブ

リスト内のソース製品に対してセキュリティを有効化するには、このチェック ボックスをオンにします。ソース製品を有効化または無効化すると、コンポーネント レジストリでそのソース製品に関連付けられている全てのコンポーネントも有効化または無効化されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: 製品およびそのコンポーネントがチャートフィールド セキュリティに対して有効化されている場合、ルールを定義して、ユーザー、ロールおよび権限リストを割り当てる必要があります。ルールを定義しないと、ユーザーは製品コンポーネントにアクセスできず、取引の入力または表示もできません。製品およびその 1 つまたは全てのコンポーネントを有効化すると、チャートフィールド セキュリティが厳格に適用されます。

コンポーネント レジストリ - セキュリティ対象コンポーネント ページ

コンポーネント レジストリ - セキュリティ対象コンポーネント ページ (SEC_COMP_REG) を使用して、チャートフィールド セキュリティ コンポーネントをリストします。

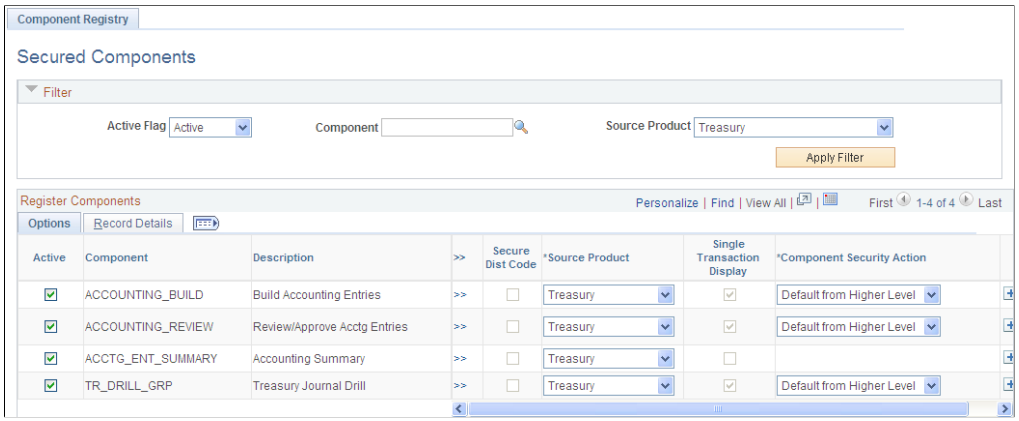
コンポーネントに対してチャートフィールド セキュリティを無効化または有効化します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [チャートフィールド セキュリティ], [コンポーネントの登録], [コンポーネント レジストリ]

画像: コンポーネント レジストリ - セキュリティ対象コンポーネント

次の例では、コンポーネント レジストリ - セキュリティ対象コンポーネントのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



フィルタ

アクティブ フラグ

アクティブ コンポーネントと非アクティブ コンポーネントの両方を表示するには、[アクティブ フラグ] フィールドで空白値を選択します。チャートフィールド セキュリティが有効化されている全てのコンポーネントを表示するには、*[アクティブ]* を選択します。チャートフィールド セキュリティがない全てのコンポーネントを表示するには、*[非アクティブ]* を選択します。

コンポーネント

チャートフィールド セキュリティの選択結果をフィルタする、特定のコンポーネントを選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ソース製品 特定の製品を選択して、その製品に関連付けられている全てのコンポーネントをリストします。

フィルタの適用 コンポーネントのビューを制御するクエリーを実行するには、このボタンをクリックします。

コンポーネントの登録 - オプション

アクティブ このチェック ボックスをオンまたはオフにして、コンポーネントに対してチャートフィールド セキュリティを有効化または無効化します。

注: ほとんどのコンポーネントは、[アクティブ フラグ] フィールドが有効化されて提供されます。ただし、いくつかのコンポーネントは、チャートフィールド セキュリティに対して無効化されて提供されます。これらのコンポーネントは、通常、セキュリティを必要としませんが、これらのコンポーネントに対してセキュリティを有効化することもできます。

>> コンポーネントへドリル クリックすると、コンポーネントへ直接移動します。

配布コードのセキュリティ保護 (配布コードのセキュリティ保護) 配布コードをサポートするコンポーネントを有効化するには、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスは、配布コードを使用しないコンポーネントに対してはグレー表示になります。配布コード セキュリティ ルールは、チャートフィールド セキュリティ ルールとほぼ同じ方法で機能します。コンポーネントに対してこのチェック ボックスをオンにする場合、配布コードのルールを定義して、そのコンポーネントへのアクセス権を持っているエンド ユーザーにそれらのルールを割り当てる必要があります。

注: チャートフィールド セキュリティでは、配布コードのプロンプト値のみが保護され、コンポーネントへのアクセスは保護されません。

ソース製品 コンポーネントが関連付けられているソース PeopleSoft 製品をリストし、製品とそれらのコンポーネント間のリンクを確立します。コンポーネントに対するソース製品割当を変更して、それを異なる製品とグループ化し、複数の製品で共有される可能性のあるコンポーネントに追加の柔軟性を提供できます。

注: このリスト ボックスがグレー表示になっている場合、その製品はチャートフィールド セキュリティで保護されません。

このフィールドを使用して、コンポーネントを別の製品に再割当します。たとえば、PeopleSoft 一般会計の例外テーブルのユーザーは PeopleSoft コミットメント コントロールのユーザーであるため、

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

これらのテーブルを PeopleSoft コミットメント コントロールに再割当できます。

ここでの選択は、製品の機能とその使用方法に関連しています。

注: 2 つの異なる製品で共有されるコンポーネントが存在することがあります。1 つの製品はセキュリティに対して有効化されており、もう 1 つの製品は有効化されていない場合があります。たとえば、予算仕訳例外コンポーネントはコミットメント コントロールの所有ですが、一般会計と共有されます。一般会計はセキュリティに対して有効化されており、コミットメント コントロールは有効化されていない場合、予算仕訳例外コンポーネントは、チャートフィールド セキュリティに対してアクティブに*なりません*。この場合、予算仕訳例外コンポーネントのソース製品をここで一般会計に変更すると、それがセキュリティの適用に対して有効化されます。

単一取引表示

コンポーネントに 1 つの取引を表示することを指定するには、このチェック ボックスをオンにします。コンポーネントに多数の取引情報の行を表示する場合は、このチェック ボックスをオフにします。取引情報の新規行が追加された場合、このチェック ボックスを編集できます。この設定によってチャートフィールド セキュリティの実行方法が決定されるため、いったん保存すると、この情報は変更できなくなります。

単一取引表示ページの一例として、経費レポートまたは買掛伝票があります。コンポーネントを入力するユーザーは、一度に 1 つの取引のみを表示します。

コンポーネント セキュリティ アクション

このフィールドは、チャートフィールド ルール間で競合が発生した場合のアクセス動作を決定します。これは*一部のアクセス権*と呼ばれます。一部のアクセス権の条件について、セキュリティ オプション ページでセキュリティ アクション設定を上書きできます。また、セキュリティに対して有効化されている製品のコンポーネントを個別に選択して無効化できます。

オプションは、次のとおりです。

アクセス却下: アクセスを許可しません。

アクセス許可: 取引へのアクセスを許可します。

上位レベルの値を継承: チャートフィールド セキュリティ オプション ページで選択されたオプションをデフォルトとして使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: この選択は、[単一取引表示] フィールドが有効化されているコンポーネントにのみ適用されます。

コンポーネントの登録 - レコード詳細

ヘッダー レコード コンポーネントで使用されるヘッダー レコード名を指定します。この値は変更しないでください。このレコードには、取引を識別するキー構造が含まれています。

詳細 コンポーネント詳細ページにアクセスするには、このリンクを選択します。このページでは、コンポーネントの追加情報を表示して、[編集テーブル セット] で定義されたプロンプト編集テーブルを詳細レコードに関連付けることができます。

コンポーネント詳細ページ

コンポーネント詳細ページ (SEC_COMP_SEC) を使用して、コンポーネント詳細レコードをリストし、([編集テーブル セット] で定義された) チャートフィールド プロンプト編集テーブルを詳細レコードに関連付けます。

ナビゲーション

コンポーネント レジストリ - レコード詳細ページにある [詳細] リンクをクリックします。

画像: コンポーネント詳細ページ

次の例では、コンポーネント詳細ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このページには、各コンポーネントに提供される 1 つまたは複数の詳細レコードが表示されます。各コンポーネントの特定の詳細レコードを有効化または無効化できます。チャートフィールド セキュリティを有効化するには、少なくとも 1 つのレコードをアクティブにする必要があります。

詳細レコードには、ヘッダー レコードと同じキー フィールドが含まれています。チャートフィールド セキュリティでは、複数の詳細レコードがサポートされます。取引入力または取引データ修正コンポーネントについてのみ、[編集テーブル セット] を指定する必要があります。照会コンポーネントについては、[編集テーブル セット] フィールドは空白にする必要があります。これは、コンポーネントに条件選択のプロンプト編集が含まれている場合であっても、このフィールドは照会コンポーネントを必要としないためです。

アクティブ チャートフィールド セキュリティに詳細レコードを含める場合に選択します。たとえば、請求書入力では、全ての詳細レコードをセ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

キュリティ保護する必要がない場合があります。アクティブな各詳細レコードにより、コンポーネントを開くときのオーバーヘッドが増加します。

注: ほとんどのコンポーネントには、1 つまたは 2 つの詳細レコードのみが含まれています。これらのコンポーネントについては、オーバーヘッドは問題にはなりません。

詳細レコード

この列は、コンポーネントの登録 - オプション ページから [単一取引表示] チェック ボックスがオンになっている場合に表示されます。詳細レコードには、チャートフィールドと配布コードが格納されます。

詳細レコード/検索ビュー

この列は、コンポーネントの登録 - オプション ページから [単一取引表示] チェック ボックスがオフになっている場合に表示されます。このフィールドには、チャートフィールド、または照会ページでデータを検索するために使用される検索ビューを格納する、関連付けられた詳細レコードが含まれています。1 つの製品コンポーネントで、コンポーネントのセキュリティのために複数の詳細レコードまたは検索ビューが使用されている場合、次の図に示す例のように、各レコードを個別の行で指定する必要があります。

セキュリティ ビュー

照会ページで会計データを検索するために使用される、関連付けられたセキュリティ検索 ビューが含まれています。取得されるビューは、インストール プロセス中に設定された登録済のメタデータに基づきます。値リストは、ユーザーまたは製品に対して承認された値のみに制限されます。

編集テーブル セット

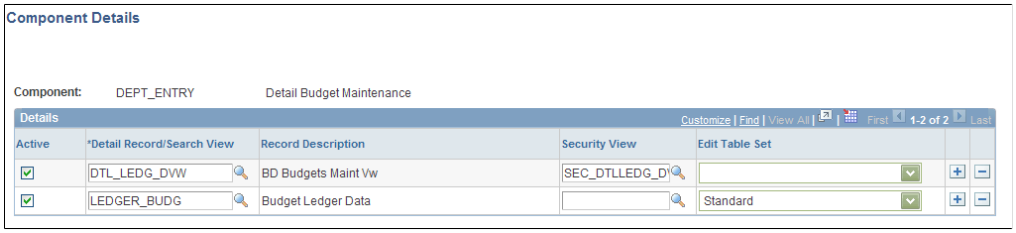
製品コンポーネントによって使用されるプロンプト編集テーブルのセットを定義します。[編集テーブル セット] フィールドは、セキュリティに対して有効化された各チャートフィールドのプロンプトを制御します。1 つの詳細レコードには [編集テーブル セット] の値を 1 つのみ割り当てることができ、この割当は、製品によって取引ページでの標準チャートフィールド検証に使用されるものと同じガイドラインを使用して行う必要があります。ページがプロンプト値のセキュリティを必要としない場合は、このフィールドは空白になります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

図に示されている例は、予算詳細管理コンポーネントのコンポーネント詳細を示しています。このコンポーネントには複数の詳細レコード (DTL_LEDG_DVW および LEDGER_BUDG) があります。

画像: コンポーネント詳細ページ (コンポーネントの登録 - オプション ページで [単一取引表示] チェックボックスがオフになっている場合)

次の例では、コンポーネント詳細ページ (コンポーネントの登録 - オプション ページで [単一取引表示] チェック ボックスがオフになっている場合) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



共有コンポーネントの使用

チャートフィールド セキュリティは、コンポーネント レベルで実装されます。1 つのコンポーネントが 2 つの異なる製品によって共有されていることがあります。1 つの製品はセキュリティに対して有効化されており、もう 1 つの製品は有効化されていない場合があります。たとえば、調達依頼コンポーネントは eProcurement-調達管理によって所有されますが、購買管理と共有されます。購買管理はセキュリティに対して有効化されており、eProcurement-調達管理は有効化されていない場合、調達依頼コンポーネントは、チャートフィールド セキュリティに対してアクティブ*になりません*。このシナリオでは、ソース コンポーネント - コンポーネント レジストリ ページを使用して、調達依頼コンポーネントのソース製品を購買管理に変更できます。この変更により、調達依頼コンポーネントがセキュリティの適用に対して有効化されます。

「コンポーネント レジストリ - セキュリティ対象コンポーネント ページ」を参照してください。

チャートフィールド セキュリティ ルール、例外および値の定義

チャートフィールド セキュリティ ルール、例外および値の定義に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
チャートフィールド セキュリティ ルール ページ	SEC_RULE_DEFN	チャートフィールド セキュリティ ルールを確立および更新します。
ルール定義対象ユーザー ページ	SEC_RULE_ASCUSER	ユーザーをルール定義に関連付けます。
チャートフィールド セキュリティ ルール - ロール ページ	SEC_RULE_ASCROLE	ロールをルール定義に関連付けます。 「ルール定義対象ユーザー ページ」で、[ロール] タブをクリックします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
チャートフィールド セキュリティ ルール - 権限リスト ページ	SEC_RULE_ASCPERM	権限リストをルール定義に関連付けます。 「ルール定義対象ユーザー ページ」で、[権限リスト] タブをクリックします。
ソース プロダクト選択ページ	SEC_RULE_PRD_SEC	ユーザー ルール定義を割り当てる製品または製品グループを選択します。 「ルール定義対象ユーザー ページ」を参照してください。
ユーザー ID のセキュリティ ルール設定ページ	SEC_RULE_USER	1 人のユーザーへの複数のルールの割当が容易になります。組織的変更 (従業員の雇用終了、転属、新規採用など) が生じたときに、セキュリティ ルールの割当の継続的な更新を実行します。
構成部品例外ページ	SEC_COMPEX_USER	ユーザーに対するチャートフィールド セキュリティのコンポーネント例外を指定します。
セキュリティ ルール値ページ	SEC_RULE_DV_U	セキュリティ作成処理からセキュリティ テーブルに移入されたセキュリティの値を表示します。
ロールのセキュリティ ルール設定ページ	SEC_RULE_ROLE	1 つのロールへの複数のルールの割当が容易になります。 「追加のセキュリティ ルールの管理」を参照してください。
ロールのルール設定 - 構成部品例外ページ	SEC_COMPEX_ROLE	ロールに対するチャートフィールド セキュリティのコンポーネント例外を指定します。 「追加のセキュリティ ルールの管理」を参照してください。
ロールのルール設定 - セキュリティ ルール値ページ	SEC_RULE_DV_R	セキュリティ作成処理からセキュリティ テーブルに移入されたセキュリティの値を表示します。 「追加のセキュリティ ルールの管理」を参照してください。
権限リストのセキュリティ ルール設定ページ	SEC_RULE_PERM	1 つの権限リストへの複数のルールの割当が容易になります。 「追加のセキュリティ ルールの管理」を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
権限リストのルール設定 - 構成部品例外ページ	SEC_COMPEX_PERM	権限リストに対するチャートフィールド セキュリティのコンポーネント例外を指定します。 「追加のセキュリティ ルールの管理」を参照してください。
権限リストのルール設定 - セキュリティ ルール値ページ	SEC_RULE_DV_P	セキュリティ作成処理からセキュリティ テーブルに移入されたセキュリティの値を表示します。 「追加のセキュリティ ルールの管理」を参照してください。
ソース プロダクトの選択ページ	SEC_RULE_U_PRD	セキュリティ ルールに割り当てるソース製品を選択します。 「追加のセキュリティ ルールの管理」を参照してください。

チャートフィールド セキュリティ ルール ページ

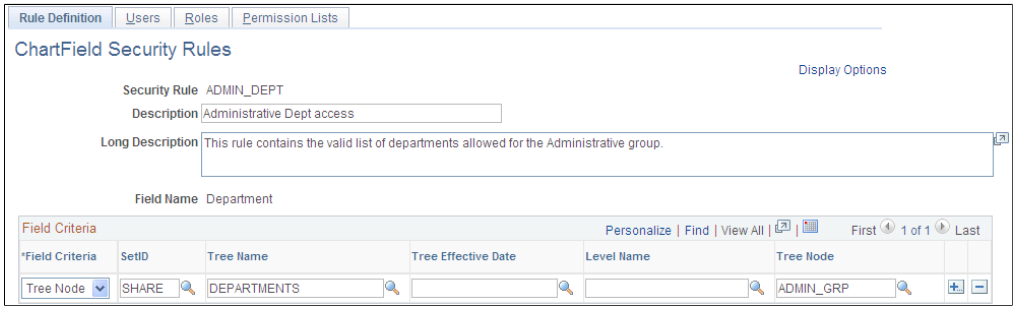
ルール定義 - チャートフィールド セキュリティ ルール ページ (SEC_RULE_DEFN) を使用して、チャートフィールド セキュリティ ルールを確立および更新します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [チャートフィールド セキュリティ], [セキュリティ ルールの管理], [セキュリティ ルール定義], [ルール定義]

画像: ルール定義 - チャートフィールド セキュリティ ルール ページ

次の例では、ルール定義 - チャートフィールド セキュリティ ルール ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



チャートフィールド セキュリティ ルールの有効値を定義するためのフィールド条件を入力します。

フィールド条件 チャートフィールド セキュリティ ルールの有効なフィールド値を定義する方法として、次のいずれかを選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *ツリー ノード* - ツリーを使用して有効なフィールド値を定義する場合に選択します。ツリーを選択する場合、ツリー ノードを選択する必要があります。
- *値* - 詳細値を使用して有効なフィールド値を定義する場合に選択します。
- *範囲* - 有効なフィールド値を定義する値範囲を選択します。
- *ワイルドカード* - 有効なフィールド値を定義するための、ワイルドカードを使用した部分値を入力します。

レベル名 ツリー ノード値のプロンプトを制御します。ルールのチャートフィールド値を定義するためにツリーを使用する場合、常にツリー ノードを選択する必要があります。

ツリー有効日 ツリー ノード値のプロンプトを制御します。ルールのチャートフィールド値を定義するためにツリーを使用する場合、常にツリー ノードを選択する必要があります。

オプション表示 このリンクをクリックすると、割当ページが表示されます。割当ページでは、単一のルール定義に複数のユーザー、ロールまたは権限リストを割り当てるための便利な方法が提供されます。

このチェック ボックスは、セキュリティ オプション ページで使用されるセキュリティ方法に対して有効化されます。たとえば、セキュリティ オプション ページで [ユーザー ID] を選択すると、ユーザー割当ページが表示されます。

注: PeopleSoft プロジェクト コスト管理がインストールされている場合、フィールド条件は PC ビジネス ユニットによって制御されます。PeopleSoft プロジェクト コスト管理がインストールされていない場合は、フィールド条件はセットID によって制御されます。

ルール定義対象ユーザー ページ

セキュリティ ルール定義 - ルール定義対象ユーザー ページ (SEC_RULE_ASCUSER) を使用して、ユーザーをルール定義に関連付けます。

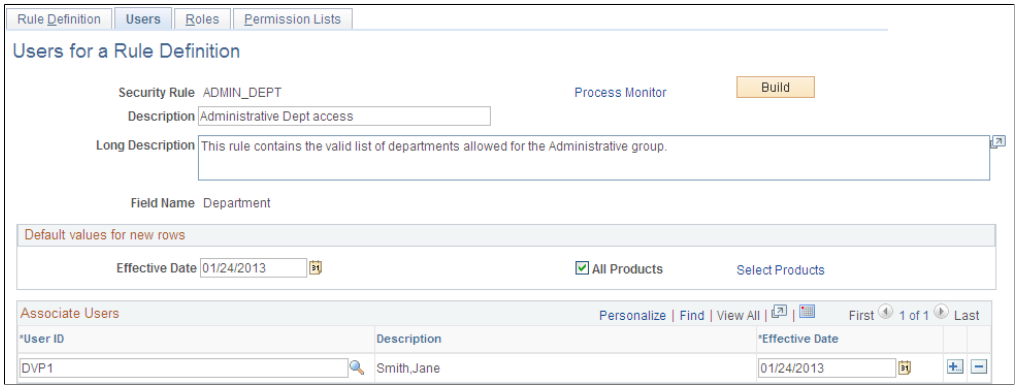
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [チャートフィールド セキュリティ], [セキュリティ ルールの管理], [セキュリティ ルール定義], [ユーザー]

画像: セキュリティ ルール定義 - ルール定義対象ユーザー ページ

次の例では、セキュリティ ルール定義 - ルール定義対象ユーザー ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



セキュリティ アクセス対象の特定のユーザーをルール定義に関連付けます。これと同じ関連付けは、[ロール] タブと[権限リスト] タブを使用して、ロールと権限リストについても行われます。

注: ルール定義をユーザー、ロールまたは権限リストに割り当てるには、ルールの割当ページを使用します。ルールの割当ページは、割当を作成および更新するために使用します。このページは、複数のユーザー、ロールまたは権限リストを 1 つのルール定義に関連付けるために使用します。割当がまだ存在しない場合、このページで新規割当が作成されます。このページを使用して、既存の割当を削除することもできます。

新規行のデフォルト値:

有効日 関連付けられたユーザーにデフォルト有効日が割り当てられます。[ユーザー ID] に新規行を追加する場合、その行のデフォルト有効日を上書きできます。

全ての製品 全製品を対象とした特定のルールにユーザーを関連付ける場合に選択します。選択した製品を対象としたルールにユーザーを関連付ける場合は、このチェック ボックスをオフにします。

製品選択 このリンクをクリックすると、ソース プロダクト選択ページ (SEC_RULE_PRD_SEC) が表示され、選択した製品グループにルールを割り当てることができます。

ユーザーの関連付け:

ユーザー ID チャートフィールド セキュリティ ルールに関連付けるユーザー ID を選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

説明 ルール割当が既に存在する場合、詳細は、ルール割当ページにドリル ダウンできるリンクになります。

有効日 ユーザーは、有効日までセキュリティ ルールに割り当てられます。デフォルトでは、追加される各行の有効日は、デフォルトの [有効日] フィールド値からの値になります。新規ユーザーに対する値を使用するように選択するか、または入力中に特定の日付で上書きするように選択できます。

この日付は、ルール作成処理の指定日を表しています。どの時点でも、1 つのルール セットのみが 1 人のユーザーまたは 1 つのロールまたは権限に対して有効になります。

作成 クリックすると、このルール定義に割り当てられた全てのルール割当に対してセキュリティ値を作成する作成処理が実行されます。それと同時に、作成処理では、日付条件を満たす同じユーザーに割り当てられた他のルール定義も作成されます。ルール割当に対する変更は、新規構成がセキュリティ テーブルに作成されるまで有効になりません。

注: このページを使用して行ったユーザーへのルールの割当は、無効にしない限り、自動的に全ての製品に割り当てられます。

ユーザー ID のセキュリティ ルール設定ページ

ユーザー ID のセキュリティ ルール設定ページ (SEC_RULE_USER) を使用すると、1 人のユーザーへの複数のルールの割当が容易になります。

組織的変更 (従業員の雇用終了、転属、新規採用など) が生じたときに、セキュリティ ルールの割当の継続的な更新を実行します。

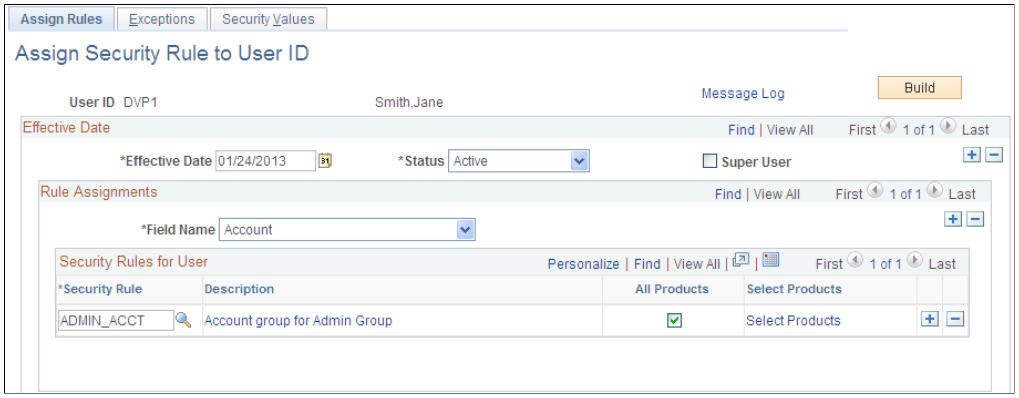
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [チャートフィールド セキュリティ], [セキュリティ ルールの管理], [ユーザーのルール設定], [ルールの割当]

画像: ユーザー ID のセキュリティ ルール設定ページ

次の例では、ユーザー ID のセキュリティ ルール設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



有効日

割り当てられるセキュリティ ルールの有効日を入力します。割当の有効日に応じて、新規のルール割当および変更されたルール割当を作成する必要があります。1 つの有効日レコードのみを作成でき、どの時点でも 1 つの有効日レコードのみが有効になります。実装日以前に将来日付のセキュリティ ルールに対する変更を設定できますが、その日付に作成処理を実行する必要があります。

ステータス

セキュリティ ルールの有効日ステータス。

スーパー ユーザー

チャートフィールド セキュリティをキャンセルして、保護されたチャートフィールドの全ての値へのアクセス権を持つユーザーとしてそのユーザーを指定する場合に選択します。このチェック ボックスをオンにした場合、セキュリティ ルールまたは例外を割り当てる必要はありません。

フィールド名

ルールの割当対象となる、保護されたチャートフィールドを選択します。セキュリティが有効になっているチャートフィールドのみを使用できます。

注: フィールドのセキュリティ テーブルでセキュリティ ルール値が作成された場合、そのフィールド名を変更または削除することはできません。このフィールドを変更または削除する前に、セキュリティ値を削除する必要があります。ラン コントロールから値を削除するプロセス リクエストをスケジュールするか、または [作成] をクリックできます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

セキュリティ ルール このユーザーに割り当てるチャートフィールド セキュリティ ルールを選択します。

 値グループをユーザーに割り当てる必要がある場合、このアイコンを選択します。

説明 セキュリティ ルールの詳細を表示します。詳細のリンクをクリックすると、そのセキュリティ ルールの詳細にドリル ダウンします。

全ての製品 全ての製品コンポーネントに適用されるルール割当を有効化するための単純な方法を提供します。チャートフィールド セキュリティ ルール - 定義ページを使用して行う割当のデフォルトでは、そのルールが全ての製品コンポーネントのユーザーに割り当てられます。

製品選択 [全ての製品] チェック ボックスがオフになっている場合、[製品選択] のテキストは、個々の製品を選択するページを開くリンクになります。

作成 セキュリティ ルール値をセキュリティ テーブルに作成する作成処理をスケジュールする場合にクリックします。[作成] をクリックすると、セキュリティ ルール作成ページが表示されます。

メッセージ ログ このリンクをクリックすると、メッセージ ログ ページに移動して、作成後のメッセージ ログを確認できます。

「チャートフィールド セキュリティ ルール ページ」を参照してください。

構成部品例外ページ

ユーザーのルール設定 - 構成部品例外ページ (SEC_COMPEX_USER) を使用して、ユーザーに対するチャートフィールド セキュリティのコンポーネント例外を指定します。

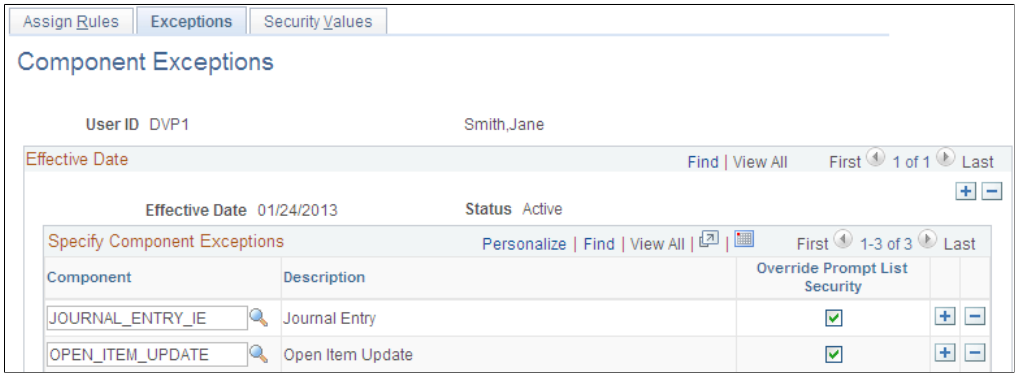
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [チャートフィールド セキュリティ], [セキュリティ ルールの管理], [ユーザーのルール設定], [例外]

画像: 構成部品例外ページ

次の例では、構成部品例外ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



例外は、選択したコンポーネントに対するチャートフィールド セキュリティを上書きします。また、そのコンポーネントの全てのチャートフィールド値へのアクセスを許可します。

コンポーネント 例外にするコンポーネントの名前を選択します。

プロンプト リスト セキュリティの上書き このチェック ボックスを使用して、アクセス ルールを詳細に設定できます。保護されたプロンプト リストを上書きし、そのコンポーネント内の全てのチャートフィールド値への編集アクセスを許可するには、このオプションを選択します。

セキュリティ ルール値ページ

セキュリティ ルール値ページ (SEC_RULE_DV_U) を使用して、セキュリティ作成処理からセキュリティ テーブルに移入されたセキュリティ値を表示します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [チャートフィールド セキュリティ], [セキュリティ ルールの管理], [ユーザーのルール設定], [セキュリティ値]

フィールド名 一度に 1 つの値のみが表示されます。

ソース製品 特定のソース製品で結果をフィルタする場合に選択します。

取得 作成処理によって移入されたセキュリティ値を取得するには、このボタンをクリックします。これまでにルール割当を作成したことがない場合、値は表示されません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

製品ドキュメントの『*PeopleTools: Security Administration*』の「User Profile Table and Rule Assignment」を参照してください。

追加のセキュリティ ルールの管理

ロールのセキュリティ ルール設定ページ (SEC_RULE_ROLE) を使用すると、1 つのロールへの複数のルールの割当が容易になります。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [チャートフィールド セキュリティ], [セキュリティ ルールの管理], [ロールのルール設定], [ルールの割当]

ロールのルール設定 - 構成部品例外ページ (SEC_COMPEX_ROLE) を使用して、ロールに対するチャートフィールド セキュリティの構成品目例外を指定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [チャートフィールド セキュリティ], [セキュリティ ルールの管理], [ロールのルール設定], [例外]

ロールのルール設定 - セキュリティ ルール値ページ (SEC_RULE_DV_R) を使用して、セキュリティ作成処理からセキュリティ テーブルに移入されたセキュリティ値を表示します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [チャートフィールド セキュリティ], [セキュリティ ルールの管理], [ロールのルール設定], [セキュリティ値]

権限リストのセキュリティ ルール設定ページ (SEC_RULE_PERM) を使用すると、1 つの権限リストへの複数のルールの割当が容易になります。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [チャートフィールド セキュリティ], [セキュリティ ルールの管理], [権限リストのルール設定], [ルールの割当]

製品選択 このリンクをクリックすると、ソース プロダクトの選択ページ (SEC_RULE_U_PRD) にアクセスでき、ここでセキュリティ ルールに割り当てるソース製品を選択できます。

権限リストのルール設定 - 構成部品例外ページ (SEC_COMPEX_PERM) を使用して、権限リストに対するチャートフィールド セキュリティの構成品目例外を指定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [チャートフィールド セキュリティ], [セキュリティ ルールの管理], [権限リストのルール設定], [例外]

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

権限リストのルール設定 - セキュリティ ルール値ページ (SEC_RULE_DV_P) を使用して、セキュリティ作成処理からセキュリティ テーブルに移入されたセキュリティ値を表示します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [チャートフィールド セキュリティ], [セキュリティ ルールの管理], [権限リストのルール設定], [セキュリティ値]

チャートフィールド セキュリティ ルールの作成

チャートフィールド セキュリティ ルールの作成に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
セキュリティ ルール作成ページ	SEC_BUILD_PARMS	増分変更を実装して、セキュリティ テーブルにセキュリティ ルール値を作成する作成処理のスケジュールを可能にします。
セキュリティ作成リクエスト ページ	SEC_BUILD_REQ	作成処理をスケジュールして実行します。

セキュリティ ルール作成ページ

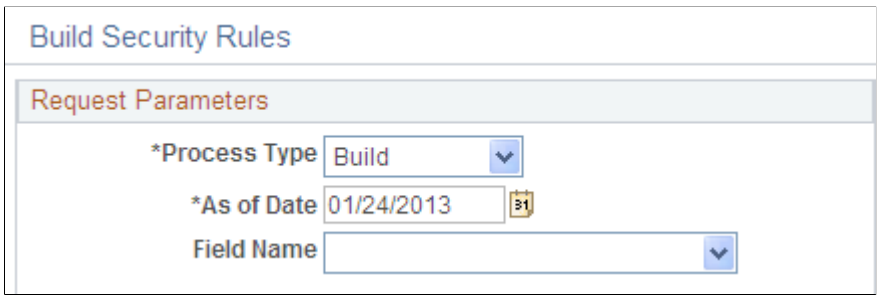
セキュリティ ルール作成ページ (SEC_BUILD_PARMS) を使用して、増分変更を実装し、セキュリティ テーブルにセキュリティ ルール値を作成する作成処理のスケジュールを可能にします。

ナビゲーション

ユーザー、ロール、または権限リスト コンポーネントのルールの割当ページから、[作成] ボタンをクリックします。

画像: セキュリティ ルール作成ページ

次の例では、セキュリティ ルール作成ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: システム パフォーマンスを強化し、情報を更新するために、ラン コントロール プロセスを作成して定期的にスケジュールした作成を実行してください。

処理タイプ セキュリティ テーブルにセキュリティ ルールを作成するには、*[作成]* を選択します。セキュリティ テーブルの既存の値を削除するには、*[削除]* を選択します。

指定日 デフォルトでは、現在のシステム日付が指定されます。この値は、ルール割当の選択の有効日処理に使用されます。作成処理では、[指定日] と同じかそれ以前の最も最近の有効日が指定された、ユーザー/ロール/権限に対するルール割当が使用されます。

フィールド名 [フィールド名] リストで特定のフィールドを選択します。このフィールドを空白にすると、作成処理により、ルール割当の全フィールドの値が作成されます。

注: 作成処理では、作成処理で使用される 1 つまたは複数のルールを指定するために有効日が使用されます。フラット テーブルには、1 つのルール セットのみが含まれます。このため、作成処理では、その他全ての有効日の行が無視されます。将来のルールを有効にするには、将来日付の行の日付に作成処理を実行する必要があります。

「セキュリティ作成リクエスト ページ」を参照してください。

セキュリティ作成リクエスト ページ

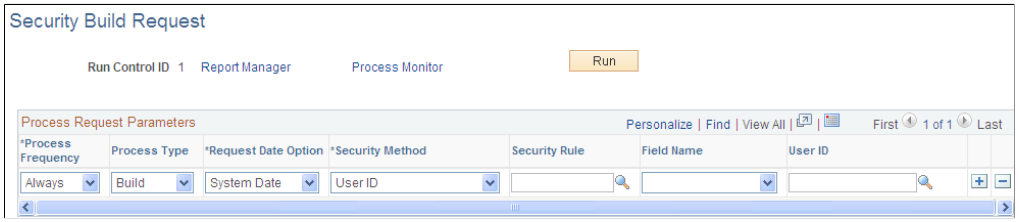
セキュリティ作成リクエスト ページ (SEC_BUILD_REQ) を使用して、作成処理をスケジュールおよび実行します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [チャートフィールド セキュリティ], [セキュリティ ルールの管理], [セキュリティ作成リクエスト]

画像: セキュリティ作成リクエスト ページ

次の例では、セキュリティ作成リクエスト ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

処理タイプ セキュリティ テーブルにセキュリティ ルールを作成するには、*[作成]* を選択します。セキュリティ テーブルの既存の値を削除するには、*[削除]* を選択します。

リクエスト日付オプション ルール割当およびツリー データの選択の有効日処理に使用する日付を選択します。現在のシステム日付を使用するには、*[指定日]* または *[システム日付]* を選択します。

セキュリティ方法 セキュリティ オプション ページで選択した、デフォルトのセキュリティ方法の値が提供されます。ユーザー ID、ロール、または権限リストの値について、チャートフィールド セキュリティ テーブルの作成および移入を実行する場合に選択します。

フィールド名 セキュリティ ルールを作成する、またはセキュリティ値を削除する特定のフィールドを選択します。このフィールドを空白のままにすると、作成処理により、ルール割当の全てのフィールドの値が作成されます。

ユーザー ID/ロール/権限リスト [ユーザー ID] フィールドの値を作成または削除する、特定のユーザー、ロール、または権限リストを指定します。このフィールドを空白のままにすると、作成処理により、全てのルール割当が処理対象として選択されます。

注: 有効日が指定されたルール割当の変更を処理するために、作成処理を定期的にスケジュールしてください。

「セキュリティ オプション - チャートフィールド セキュリティ ページ」を参照してください。

チャートフィールド セキュリティ ルール割当のコピー

チャートフィールド セキュリティ ルール割当のコピーに使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
ユーザー ルール割当のコピー ページ	SEC_USER_COPY	あるユーザーの権限リストに割り当てられたセキュリティ ルールのセットを別のユーザーにコピーします。
ロール ルール割当のコピー ページ	SEC_ROLE_COPY	あるロールの権限リストに割り当てられたセキュリティ ルールのセットを別のロールにコピーします。
権限リスト ルール割当のコピー ページ	SEC_PERM_COPY	ある権限リストに割り当てられたセキュリティ ルールのセットを別の権限リストにコピーします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユーザー ルール割当のコピー ページ

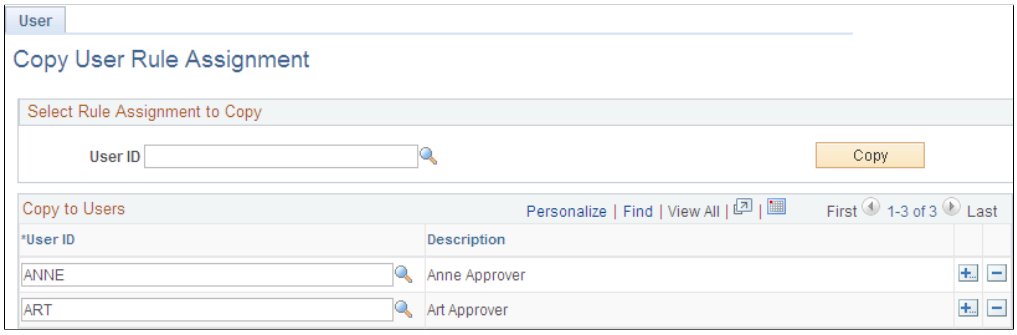
ユーザー ルール割当のコピー ページ (SEC_USER_COPY) を使用して、あるユーザーの権限リストに割り当てられたセキュリティ ルールのセットを別のユーザーにコピーします。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [チャートフィールド セキュリティ], [セキュリティ ルールの管理], [ユーザー割当のコピー]

画像: ユーザー ルール割当のコピー ページ

次の例では、ユーザー ルール割当のコピー ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



ユーザー ルール割当のコピー元となるユーザー ID を選択し、ユーザー ルール割当のコピー先となる 1 つまたは複数のユーザー ID を選択します。ルール割当をコピーするには、[コピー] ボタンをクリックします。

このプロセスは、それぞれロール ルール割当のコピー ページと権限リスト ルール割当のコピー ページを使用した、ロールおよび権限リストに対するプロセスと同じです。

ロール ルール割当のコピー ページ

ロール ルール割当のコピー ページ (SEC_ROLE_COPY) を使用して、あるロールの権限リストに割り当てられたセキュリティ ルールのセットを別のロールにコピーします。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [チャートフィールド セキュリティ], [セキュリティ ルールの管理], [ロール割当のコピー]

権限リスト ルール割当のコピー ページ

権限リスト ルール割当のコピー ページ (SEC_PERM_COPY) を使用して、ある権限リストに割り当てられたセキュリティ ルールのセットを別の権限リストにコピーします。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [チャートフィールド セキュリティ], [セキュリティ ルールの管理], [権限リスト割当のコピー]

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

カスタマイズされたチャートフィールドのセキュリティ保護

このトピックでは、提供外のチャートフィールドをセキュリティ保護する方法について説明します。

カスタマイズされたチャートフィールドのセキュリティ保護ステップ

チャートフィールド設定ユーティリティを使用して新しいチャートフィールドをシステムに追加する場合、およびカスタマイズされたチャートフィールドのいずれかに対してチャートフィールド セキュリティを有効化する場合は、追加の設定ステップを完了する必要があります。

注: 提供されたチャートフィールドは全て、潜在的なチャートフィールド セキュリティ実装の準備段階で既に設定されているため、これらのステップは必要ありません。

チャートフィールド セキュリティの実装対象となる新しいチャートフィールドに対して、次の設定ステップを完了してください。

1. チャートフィールド セキュリティのプロンプト編集テーブルで使用する、新しいワーク フィールドを作成します。
2. 新しいワーク フィールドを、FSCM オンライン ページで使用されるワーク レコードに追加します。
3. 新しいワーク フィールドをチャートフィールド セキュリティ ページに追加します。
4. 取得ワーク フィールドを使用するように、プロンプト テーブル フィールドのプロパティを設定します。
5. 新しいチャートフィールドをチャートフィールド セキュリティ オプション ページに追加します。
6. 新しいチャートフィールド プロンプト編集ビューをチャートフィールド セキュリティ編集テーブル ページに追加します。

新しいワーク フィールドの作成

チャートフィールド設定ユーティリティを使用して、新しい (カスタマイズされた) チャートフィールドを追加できます。

*『PeopleSoft アプリケーションの基礎』の「チャートフィールドの設定」*を参照してください。

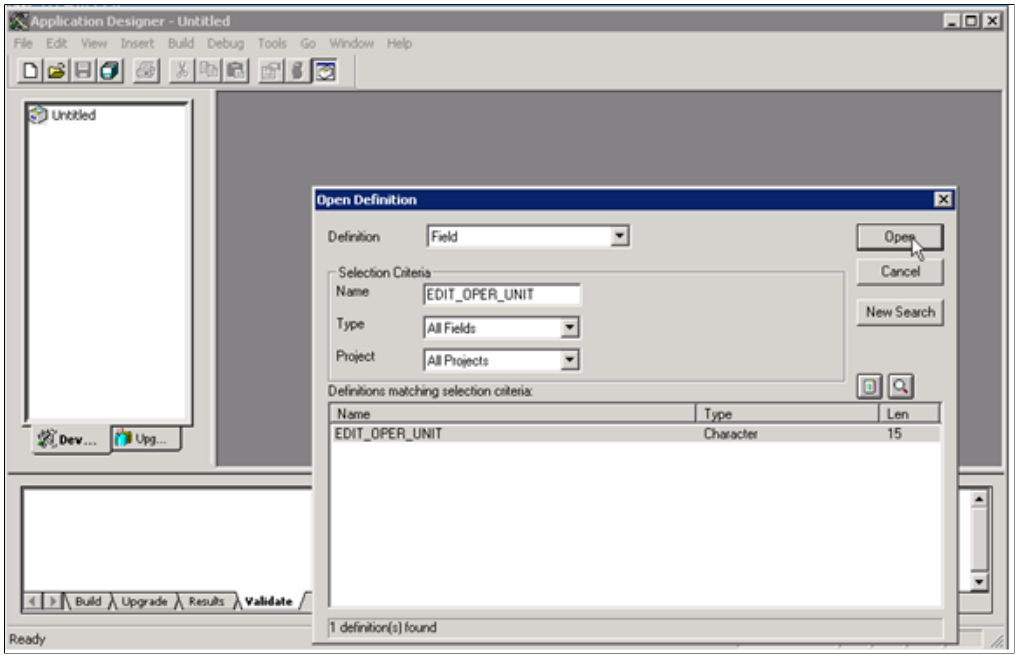
チャートフィールド セキュリティを使用して保護する新しいチャートフィールドそれぞれに対して、ワーク フィールドを作成します。これらのワーク フィールドは、オンライン プロセスによって実行時に動的に割り当てられる、プロンプト編集テーブルのプレースホルダとして使用されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

新しいチャートフィールドに対して新しいワーク フィールドを作成するには、[アプリケーション デザイナ] - [定義を開く] を使用して既存のワーク フィールドをコピーします。

画像: [アプリケーション デザイナ] - [定義を開く] (フィールド)

次の例では、[アプリケーション デザイナ] - [定義を開く] (フィールド) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



定義 *[フィールド]* を選択して、新しいワーク フィールド用にコピー可能なフィールドを開きます。

名称 フィールドの選択条件としてプレフィックス *EDIT_* を入力し、選択するワーク フィールドのリストを取得します。

開く このボタンをクリックして、選択するフィールドのリストを取得します。EDIT_OPER_UNIT などの既存のフィールドをダブルクリックして開きます。

[保存] アイコンをクリックして、*EDIT_<新しいチャートフィールド名>* として保存します。たとえば、新しいチャートフィールド名が *CFQ* である場合、新しいワーク フィールドを *EDIT_CFQ* として保存します。ワーク フィールドは "EDIT_" で始まる必要があります。ただし、ワーク フィールド名に新しいチャートフィールド名を含めることは必須ではありません。正確でわかりやすいサフィックスを選択してください。[フィールド タイプ]、[フィールド長]、または [フィールド ラベル] などのフィールド属性は全て変更しないでください。

ワーク レコードへの新しいワーク フィールドの追加

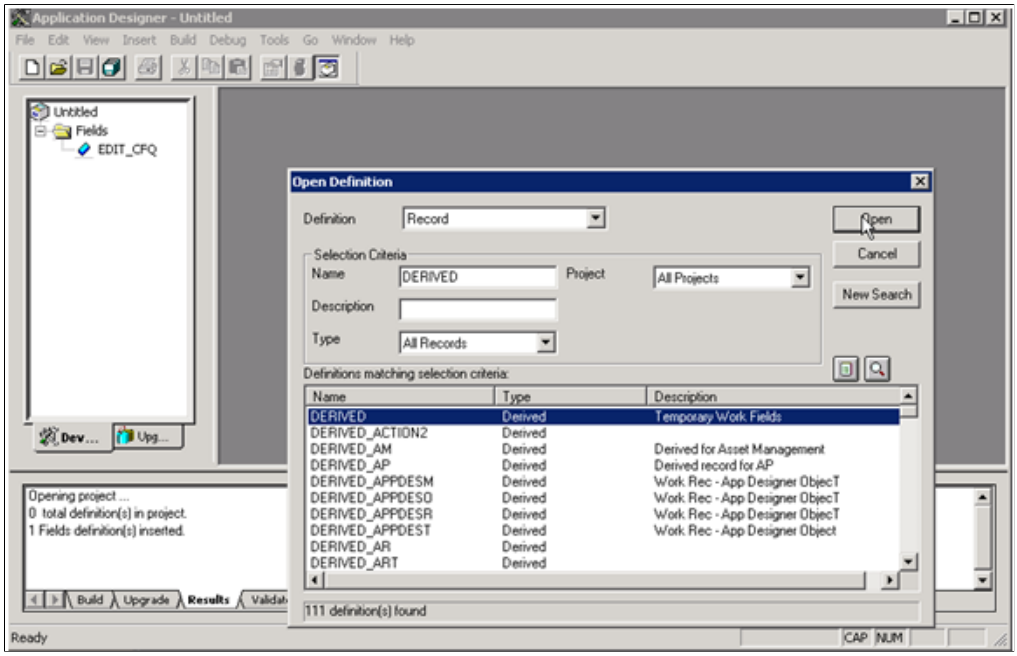
PeopleTools アプリケーション デザイナを使用して、カスタマイズされたチャートフィールドに対して作成した新しいワーク フィールドをワーク レコード DERIVED に追加します。これは、FIN および SCM オンライン ページで使用される共通のワーク レコードです。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

新しいワーク フィールドを DERIVED ワーク レコードに追加するには、PeopleTools アプリケーション デザイナ - [定義を開く] を使用してこのレコードにアクセスします。

画像: [アプリケーション デザイナ] - [定義を開く] (レコード)

次の例では、[アプリケーション デザイナ] - [定義を開く] (レコード) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



定義 *[レコード]* を選択して、ワーク レコード DERIVED を取得します。

名称 フィールドの選択条件としてレコード名 *DERIVED* を入力し、[開く] ボタンをクリックしてレコードを取得します。

検索結果グリッドから DERIVED レコードをダブルクリックして、このレコードを開きます。最初のステップで作成した新しいワーク フィールドを追加します (複数追加が可能です)。レコード定義内でのフィールドの位置は、重要ではありません。レコードを保存します。

チャートフィールド セキュリティ ページへの新しいワーク フィールドの追加

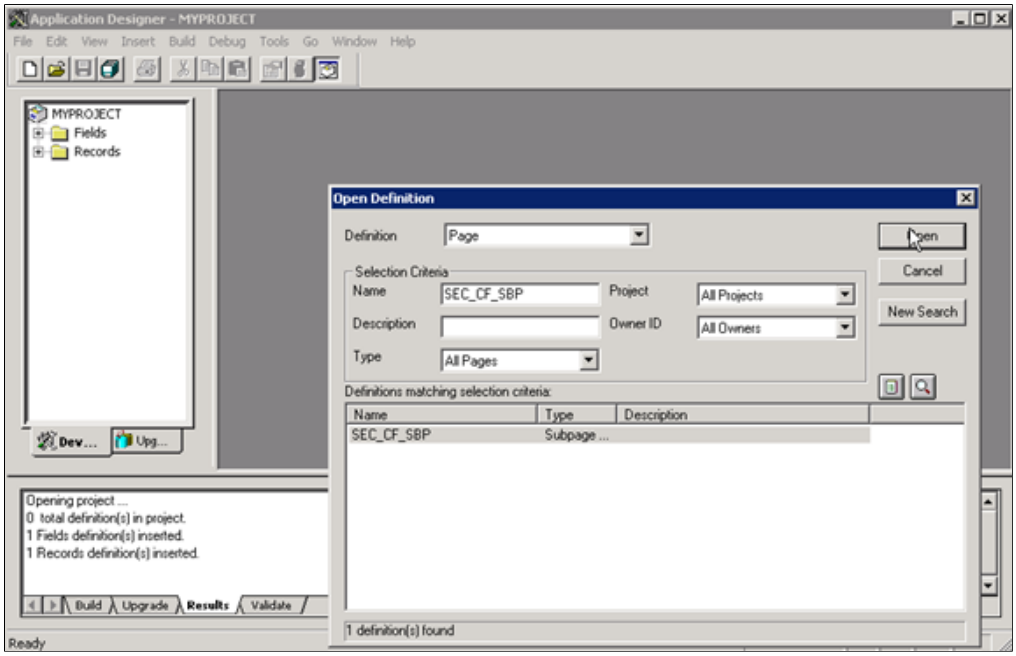
PeopleTools アプリケーション デザイナを使用して、カスタマイズされたチャートフィールドに対して作成した新しいワーク フィールドをチャートフィールド セキュリティ SEC_CF_SBP サブ ページおよび INV_SEC_CF_SBR 2 次ページに追加します。これらのページは、チャートフィールド セキュリティをサポートするオンライン ページで使用されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

新しいワーク フィールドをこれらのサブ ページおよび 2 次ページに追加するには、PeopleTools アプリケーション デザイナ - [定義を開く] 内でそれぞれにアクセスします。

画像: [アプリケーション デザイナ] - [定義を開く] (ページ)

次の例では、[アプリケーション デザイナ] - [定義を開く] (ページ) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



定義 *[ページ]* を選択して、サブ ページまたは 2 次ページを取得します。

名称 選択条件としてページ名 *SEC_CF_SBP* または *INV_SEC_CF_SBR* を入力し、[開く] ボタンをクリックしてページを取得します。

検索結果グリッドからページをダブルクリックして、それを開きます。ワーク フィールドを追加できるように、ページをウィンドウ全体に拡大します。各ページで次のステップを実行して、新しいワーク フィールドを追加します。

1. 最上部の [アプリケーション デザイナ] メニューから、[挿入]、[編集ボックス] を選択します。
2. 編集ボックスをページ (SEC_CF_SBP) および (INV_SEC_CF_SBR) にそれぞれ追加します。
3. 編集ボックスをダブルクリックして編集ボックスのプロパティ ウィンドウを開き、次の値を選択します。
   - レコード名 - *DERIVED*
   - フィールド名 - *<新しいワークフィールド>*
4. [ラベル] タブから、[タイプ] として*なし*を選択します。
5. 用途タブから、*[表示専用]* および *[非表示]* チェック ボックスをオンにします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

6. ページを保存します。

プロンプト テーブル フィールドのプロパティの設定

PeopleTools アプリケーション デザイナ内で、レコード フィールドのプロンプト テーブルのプロパティを変更して、チャートフィールド セキュリティ サブ レコードで編集テーブルの代わりに取得ワーク フィールドが使用されるようにします。提供された全てのチャートフィールド セキュリティ サブ レコードを設定します。

- CFS14_AN_SBR
- CFS15_AN_SBR
- CFS16_AN_SBR
- CFS18A_AK_SBR
- CFS21_AN_SBR
- CFS29_AN_SBR
- CFS9A_AK_SBR
- CFS9B_AK_SBR

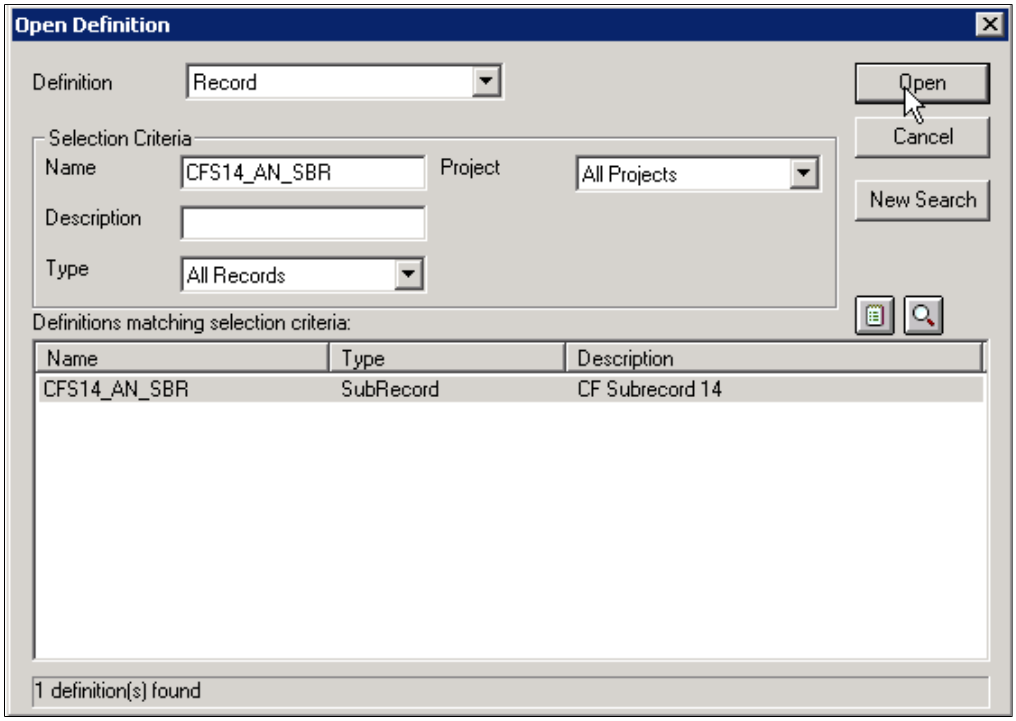
警告 変更するチャートフィールド セキュリティ サブ レコードを選択する際には、通常のチャートフィールド サブ レコード*を選択しないように*十分に注意してください。チャートフィールド セキュリティ サブ レコードのプレフィックスは CFS で、通常のチャートフィールド サブ レコードのプレフィックスは CF です。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド セキュリティ サブ レコードのレコード フィールド プロパティを設定するには、PeopleTools アプリケーション デザイナ - [定義を開く] 内で各レコードにアクセスします。

画像: [アプリケーション デザイナ] - [定義を開く] (レコード)

次の例では、[アプリケーション デザイナ] - [定義を開く] (レコード) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



定義

[レコード] を選択して、設定するサブ レコードを取得します。

名称

選択条件として、チャートフィールド セキュリティ サブ レコード名 (たとえば、*CFS14_AN_SBR* または *CFS15_AN_SBR*) を入力し、[開く] ボタンをクリックしてレコードを取得します。

警告 誤って CF14_AN_SBR を選択しないように注意してください。これは対応するチャートフィールド サブ レコードで、変更してはなりません。

検索結果グリッドからレコードをダブルクリックして、それを開きます。プロパティを設定するには、次のステップを完了します。

1. サブ レコード内の新しい (チャートフィールド設定ユーティリティによって作成された) チャートフィールドをダブルクリックします。これにより、レコード フィールド プロパティが開きます。

2. [編集] タブを選択して、[プロンプト テーブル] フィールド値を、作成したワーク フィールド値に置き換えます。ワーク フィールド値の先頭に % を付ける必要があります。たとえば、新しいチャートフィールド値が CFQ である場合、(ステップ 1 で) 作成したワーク フィールドは EDIT_CFQ になります。この場合、元の [プロンプト テーブル] フィールド値 *CFQ_TBL* を新しいワーク フィールド値 *%EDIT_CFQ* に置き換えます。レコード フィールド プロパティ内のその他全てのフィールド値は変更しないでください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

3. [OK] をクリックして保存します。
4. この項の最初にリストされているその他全てのチャートフィールド セキュリティ サブ レコードについて、これらのステップを繰り返します。

チャートフィールド セキュリティ オプション ページ

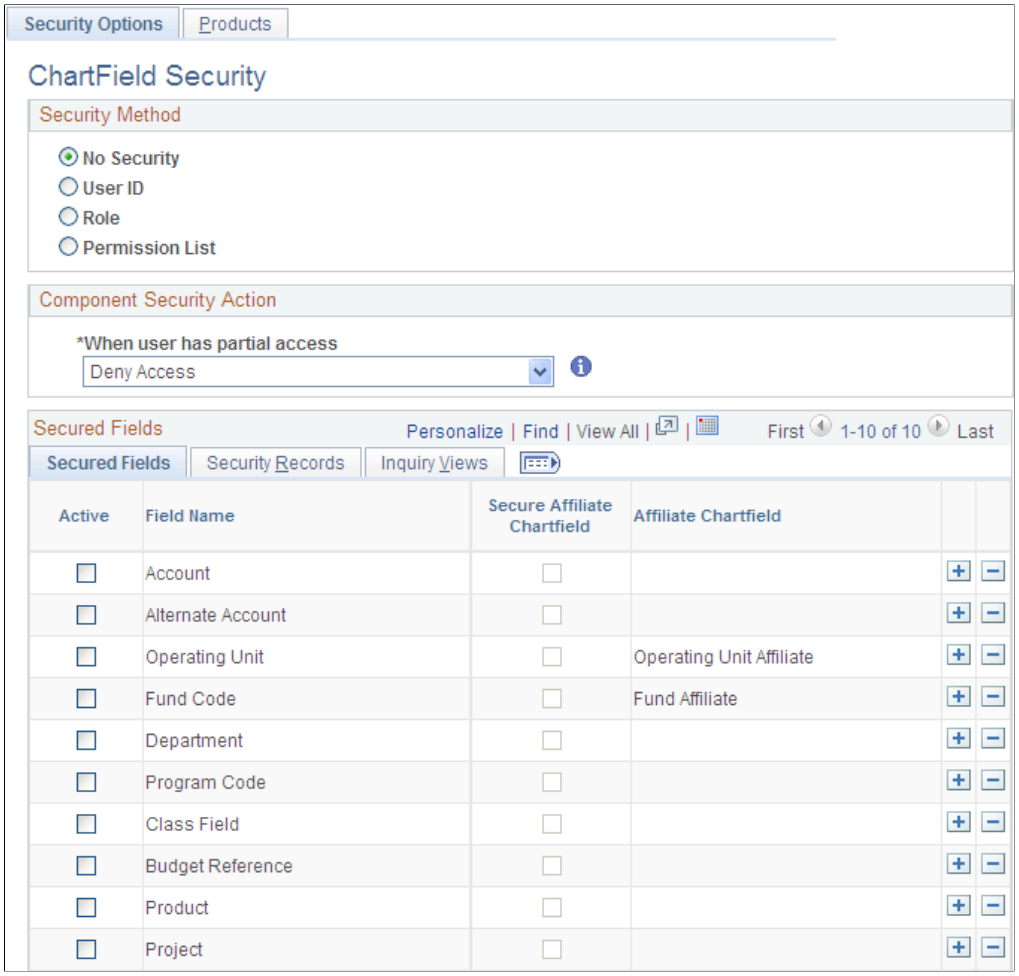
チャートフィールド セキュリティ オプション ページを使用して、新しい (チャートフィールド設定ユーティリティによって作成された) チャートフィールドを追加します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [チャートフィールド セキュリティ], [チャートフィールド保護オプション]

画像: セキュリティ オプション - チャートフィールド セキュリティ

次の例では、セキュリティ オプション - チャートフィールド セキュリティのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



「セキュリティ オプション - チャートフィールド セキュリティ ページ」を参照してください。

次のステップを実行します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

1. [セキュリティ対象フィールド] タブ - 新しい行を追加して、プロンプト リストから新しいチャートフィールドを選択します。[アクティブ] チェック ボックスをオンにして、そのチャートフィールドに対してチャートフィールド セキュリティを有効化します。

2. [セキュリティ レコード] タブ - 新しいチャートフィールドのユーザー、ロール、および権限リストのチャートフィールド セキュリティ テーブルを選択します。チャートフィールド セキュリティ テーブルには、保護されたチャートフィールドの値が格納されます。これらのテーブルは、新しいチャートフィールドの作成時にチャートフィールド設定処理によって作成されます。

3. [照会ビュー] タブ - 新しいチャートフィールドのユーザー、ロール、および権限リストのチャートフィールド セキュリティ照会ビューを選択します。これらのビューは、セキュリティ値ページで保護された値を表示するために使用されます。これらのテーブルは、チャートフィールド設定処理によってコピーされます。

新しいチャートフィールド プロンプト編集ビューの追加

チャートフィールド セキュリティ編集テーブル ページを使用して、チャートフィールド セキュリティ編集テーブル コンポーネントに新しいチャートフィールド プロンプト編集ビューを追加します。

ナビゲーション

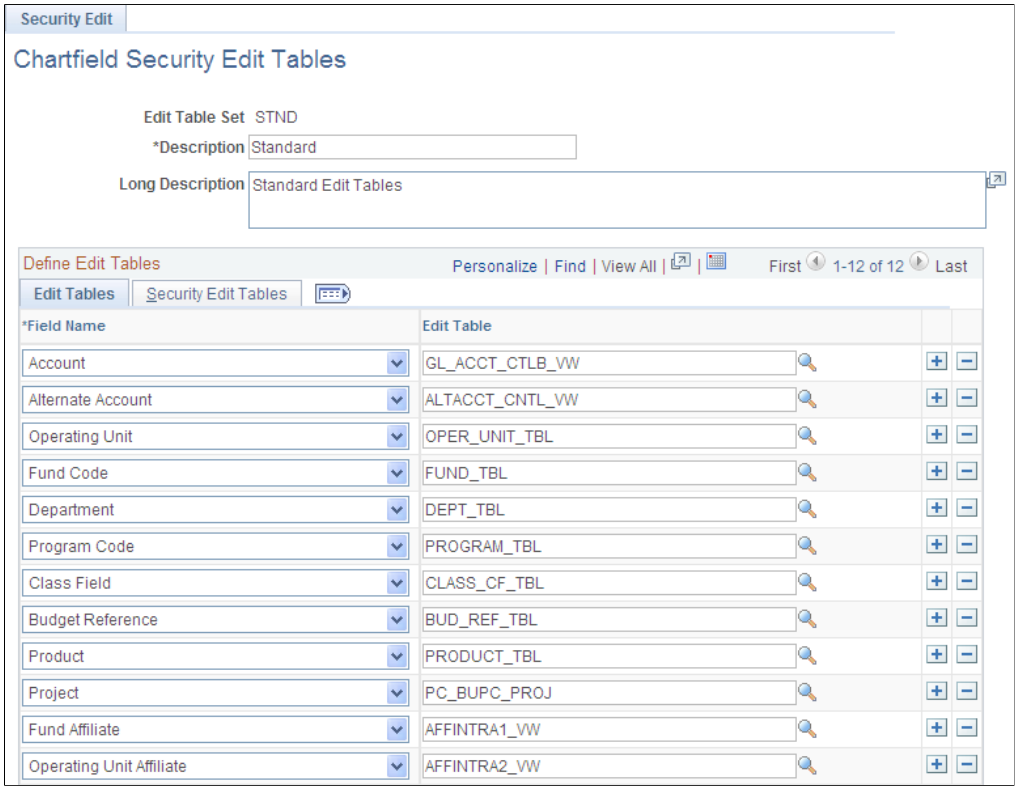
[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [セキュリティ], [チャートフィールド セキュリティ], [セキュリティ編集テーブル], [デフォルト編集設定], [チャートフィールド セキュリティ編集テーブル]

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

これらのビューは、チャートフィールド セキュリティをサポートするトランザクション オンライン ページのプロンプト編集リストで使用されます。

画像: チャートフィールド セキュリティ編集テーブル - 編集テーブル

次の例では、チャートフィールド セキュリティ編集テーブル - 編集テーブルのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このコンポーネントから新しいチャートフィールド、関連付けられた編集テーブルおよびセキュリティ編集テーブル (SEC_EDIT_TBLS) を選択します。提供される標準の編集テーブルセット (STND) と GL ビジネス ユニット (BUGL) の両方を変更します。

編集テーブル

フィールド名 プロンプト リストから新しいチャートフィールドを選択します。

編集テーブル プロンプト リストからチャートフィールド テーブルを選択します。

セキュリティ編集テーブル

ユーザー、ロール、および権限リストのチャートフィールド セキュリティ ビューを選択します。これらのビューは、チャートフィールド設定処理によって作成されます。

フィールド名 [編集テーブル] タブから選択した、新しいチャートフィールドを表示します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユーザー ID セキュリティ ビュー ユーザーのチャートフィールド セキュリティ ビューを選択します。このビューは SEC_OU_UVW からコピーされます。

ロール セキュリティの表示 ロールのチャートフィールド セキュリティ ビューを選択します。このビューは SEC_OU_RVW からコピーされます。

権限リスト セキュリティ ビュー 権限リストのチャートフィールド セキュリティ ビューを選択します。このビューは SEC_OU_PVW からコピーされます。

PeopleSoft 買掛金管理のチャートフィールドのセキュリティ保護

次の表には、チャートフィールド セキュリティをサポートする PeopleSoft 買掛金管理のコンポーネントがリストされています。

コンポーネント	*コンポーネント説明*
AP_GL_DRILL	仕訳ドリルダウン
AP_PARTIAL224	AP Partial 224 再分類
AP_SESSION_DEFAULT	セッション デフォルト
EE_VCH_DRILL	入力イベント ドリルダウン
OPEN_ITEM_UPDATE	仮勘定更新
RVL_AP_ACCTG_ENTS	買掛金評価替
VCHR_ACCTG_ENTRIES	会計入力
VCHR_CMPL_UNPST_LC	伝票登録完了
VCHR_CORRECTION	伝票エラー訂正
VCHR_EXPRESS	支払伝票
VCHR_LINE_DISPLAY	支払伝票行
VCHR_MASS_MAINT	支払伝票マス メンテナンス
VCHR_QUICK_PNL	クイック請求書入力
KK_XCP_AP1N	支払伝票 (NP) 例外
KK_XCP_AP1	支払伝票例外
KK_XCP_AP2	AP 支払伝票例外/会計行

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

コンポーネント	*コンポーネント説明*
KK_XCP_AP3	PE 計上例外/会計行

PeopleSoft 資産管理のチャートフィールドのセキュリティ保護

次の表には、チャートフィールド セキュリティをサポートする PeopleSoft 資産管理のコンポーネントがリストされています。

コンポーネント	*コンポーネント説明*
AM_DISPOSAL_WKSHT	処分ワークシート
AM_EXTENDED_DEPR	追加減価償却
AM_GL_DRILL	仕訳ドリルダウン
AM_IMPAIR	減損ワークシート
AM_REPORTING	取得価額/減価償却サマリ
AM_REVALUE	資産評価替
ASSET_CONSOL	ロード資産統合
ASSET_DIST	資産会計入力
ASSET_ENTRY	資産エクスプレス追加
ASSET_NF_DIST	経費入力の確認
ASSET_PRINT	資産の印刷表示
ASSET_SEARCH	資産検索
ASSET_UNIT	ロード資産分割
BASIC	資産基本情報
BASIC_PARENT_CHILD	親子資産基本情報
BD_CAP	資産取得計画
COPY_ASSET	資産コピー作成
COST_BAL	資産取得価額調整/移動
COST_HISTORY	資産履歴情報

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

コンポーネント	*コンポーネント説明*
DEPR_ACCUM_ADJ	減価償却引当金調整
DEPR_HISTORY	資産減価償却
DEPR_PARCHILD_NBV	親 - 子資産帳簿価額
DEPR_SUM_HISTORY	減価償却サマリ
INF_INQ	インフレーション情報
INTFC_FIN	ロード プレビュー 経理情報
INTFC_FINPHY_SS	経理インターフェイス スプレッドシート ソフトウェア
INTFC_PRE_AM	ロード プレビュー プレ AM
LEASE	リース資産
LEASE_ENTRY	リース資産エクスプレス追加
LEASE_OPER_TFR	オペレーティング リース移動
NF_DIST_LN	非計上配布
NON_CAP_COSTS	資産計上対象外価額
PEND_TRANS_UPD_DEL	保留取引の更新/削除
RETIRE	処分と処分取消
WHAT_IF_DEPR	減価償却予想計算結果

PeopleSoft 売掛金管理のチャートフィールドのセキュリティ保護

このトピックでは、PeopleSoft 売掛金管理のチャートフィールドのセキュリティ保護の概要およびチャートフィールド セキュリティをサポートする PeopleSoft 売掛金管理のコンポーネントについて説明します。

PeopleSoft 売掛金管理のチャートフィールドのセキュリティ保護について

いくつかのコンポーネントには、配布コードのプロンプトが含まれています。配布コードは、チャートフィールドではありませんが、保護が必要な可能性のあるチャートフィールドの組合せを示しています。このため、配布コードのプロンプトが表示された場合は常に、その値が保護されます。

次の表に記載されている 5 つのコンポーネントには、セキュリティ コードがありません。ユーザーがこれらのコンポーネントのいずれかから、チャートフィールド セキュリティが適用されているチャートフィールドを含む

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

アイテムにドリル ダウンすると、エラーが発生します。したがって、これらのコンポーネントは保護されていると見なされ、表に含まれています。これらのコンポーネントは、次のとおりです。

- CUST_PENDING_ITEM
- DD_ALL
- DRAFT_ALL
- ITEM_RVW_CST_SS
- REF_REASON_CHNG

次の表には、チャートフィールド セキュリティをサポートする PeopleSoft 売掛金管理のコンポーネントがリストされています。

コンポーネント	*コンポーネント説明*
AR_CC_TRAN	収入見積確認
AR_CC_TRAN_ACT	収入見積確認
AR_CC_TRAN_ERROR	収入見積修正
AR_ITEM_DRILL	GL/AR へ移動
AR_PAYMISC_DRILL	GL/その他入金へ移動
AR_RVL_DRILL	GL/評価替へ移動
AUTO_ENTRY_TABLE2	自動入力タイプ
CUST_PENDING_ITEM 概要の 2 段落目を参照。	未転記顧客アイテム
DD_ACCT_ENTRIES	会計入力
DD_ALL 概要の 2 段落目を参照。	自動引落し (全)
DD_WORKSHEET	自動引落しワークシート
DRAFT_ALL 概要の 2 段落目を参照。	全手形
DRAFT_REVIEW	手形レビュー
ENT_EXTAID_UPDT	外部アイテム入力
ENT_EXTNID_ADD1	外部追加用グループ フォーマット

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

コンポーネント	*コンポーネント説明*
ENT_EXTSID_ERRORS	外部エラー修正
ENT_EXSID_UPDT	外部単一入力フォーマット
ENT_ONLAID_UPDT	未転記アイテムのオンライン入力
ENT_ONLNID_ADD1	オンライン追加用グループ フォーマット
ENT_ONLSID_ERRORS	オンライン エラー修正
ENT_ONLSID_UPDT	オンライン単一入力フォーマット
FIN_CHG_ERRORS	ファイナンス チャージ エラー修正
FIN_CHG_UPDT	ファイナンス単一入力フォーマット
ITEM_DATA3	アクティビティ会計入力
ITEM_ENTRY_TABLE2	アイテム入力タイプ
ITEM_LIST	アイテム リスト — 照会リスト
ITEM_MAINTAIN	アイテム管理
ITEM_REV_CST_SS 概要の 2 段落目を参照。	カスタマ ポータル – アイテムの表示
KK_XCP_AR1	AR 収入見積例外
KK_XCP_AR2	AR 直接仕訳例外
MAINT_DST	ワークシート会計入力
MAINT_DST_CORR	ワークシート エラー修正
MAINT_DST_CORR1	自動引落しエラー修正
MAINT_DST_CORR2	手形エラー修正
MAINT_DST1	手形会計入力
NONCUST_PAYMENTS	直接仕訳入力
PAR224_ARENTRIES	AR 入力の再分類
PAR224_DIRJRNL	Partial 224 売掛金入力
PAYMENT_DST	会計入力レビュー

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

コンポーネント	*コンポーネント説明*
PAYMENT_DST_CORR	転記エラー修正
PAYMENT_WS_CC	クレジット カード ワークシート更新
REF_REASON_CHNG 概要の 2 段落目を参照。	参照理由の更新
RVL_AR_ACCTG_ENTS	売掛金評価替の確認
RVW_CASH_CNTRL	キャッシュ コントロール確認
RVW_DTLAID_ANY	全アイテム会計入力
RVW_DTLAID_ANY1	全アイテム明細
RVW_DTLAID_ANY2	全アイテム明細
RVW_DTLAID_ANY3	全手形アイテム明細
RVW_DTLAID_ANY4	自動引落し全アイテム明細
RVW_DTLSID_ANY_	単一アイテム会計入力
RVW_DTLSID_ANY1	単一アイテム明細
RVW_DTLSID_ANY2	単一アイテム明細
RVW_DTLSID_ANY3	単一手形アイテム明細
RVW_DTLSID_ANY4	単一自動引落しアイテム明細
RVW_MISC_PAYMENT	直接仕訳レビュー
TRANS_DST_CORR	振替エラー修正
TRANS_DST	振替会計入力
UNPOST_DST_CORR	転記取消エラー修正
WS_WORKSHEET_IC	メンテナンス ワークシート

PeopleSoft 請求管理のチャートフィールドのセキュリティ保護

このトピックでは、PeopleSoft 請求管理のチャートフィールドのセキュリティ保護の概要およびチャートフィールド セキュリティをサポートする PeopleSoft 請求管理のコンポーネントについて説明します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft 請求管理のチャートフィールドのセキュリティ保護について

PeopleSoft 請求管理では、この項で説明されているコンポーネントで、チャートフィールドおよび配布コードセキュリティが提供されます。

請求管理の取引入力ページでは、プロンプト リストを使用せずに配布コードを直接入力できます。これらのページは、ユーザーの入力値をセキュリティ プロンプト リストと照合して検証するために保護される必要があります。

PeopleSoft 請求管理では、多くのチャートフィールドおよび配布コードがデフォルト値として指定されます。デフォルト値は、チャートフィールド セキュリティ ルールに対して検証されません。このため、ユーザーがチャートフィールドへのアクセス権を持っていない場合でも請求書が作成されるように、チャートフィールドをデフォルトで指定できます。この場合、ユーザーはデフォルト情報を含む請求書を保存できますが、チャートフィールド セキュリティ機能により、ユーザーがそのコンポーネントを終了した後にその取引ページへのアクセスが制限されることがあります。

次の表には、チャートフィールド セキュリティをサポートする PeopleSoft 請求管理のコンポーネントがリストされています。

コンポーネント	*コンポーネント説明*
BI_ACCT_ENTRY_INV	請求書別会計入力
BI_ACCT_ENTRY_JRNL	仕訳別会計入力
*BI_ACCT_STG_COR	ステージ済会計エラー修正
BI_BILL_SEARCH-I	請求書検索
BI_BILL_SEARCH-U	請求書検索 - 未発行分
*BI_ENTRY	請求書入力
*BI_ENTRY_X	エクスプレス請求書入力
*BI_INQUIRY	請求書照会
BI_IVC_MAINT	請求書管理
BI_KK_COR	コミットメント コントロール修正
BI_TMP_SEARCH	請求書ワークシート
INTFC_BI_C_VW	インターフェイス確認 - 完了
INTFC_BI_E_VW	インターフェイス レビュー - エラー
INTFC_BI_N_VW	インターフェイス レビュー - 保留
INTFC_BI_N_VW_INQ	インターフェイス レビュー - 保留

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

コンポーネント	*コンポーネント説明*
KK_XCP_BI1	BI 請求書例外

注: コンポーネント名の前にあるアスタリスク (*) は、そのコンポーネントのレジストリ エントリが、チャートフィールド セキュリティが有効な詳細レコードのサブセットのみで提供されることを示しています。ビジネス要件に応じて、詳細レコードをチャートフィールド セキュリティに対して有効化または無効化できます。有効化する詳細レコードが増えるたびに、コンポーネントを開く際のオーバーヘッドが増加します。

「コンポーネント レジストリ - セキュリティ対象コンポーネント ページ」を参照してください。

PeopleSoft コミットメント コントロールのチャートフィールドのセキュリティ保護

次の表には、チャートフィールド セキュリティをサポートする PeopleSoft コミットメント コントロールのコンポーネントがリストされています。

コンポーネント	*コンポーネント説明*
KK_ACT_LOG	アクティビティ ログ
KK_BD_XFER2	予算振替
KK_BUDGET_ENTRY	予算仕訳入力
KK_GEN_TRANS_ENTRY	一般取引入力
KK_INQ_BD_DETAIL	予算詳細
KK_INQ_LEDGER	予算概要
KK_XCP_BD	予算例外

注: PeopleSoft コミットメント コントロールの予算照会および予算概要コンポーネントの取引のドリルダウンは、チャートフィールド セキュリティによって保護できません。したがって、取引レベルのドリルダウンは保護されません。ユーザーが予算レベルのデータへのアクセス権を持っている場合、ユーザーがアクセス権を持っていない場合でもアクセスできる取引レベルのデータは保護されません。アクティビティ ログについては、検索の実行時に予算レベルのデータのみが保護されます。

PeopleSoft 契約管理のチャートフィールドのセキュリティ保護

次の表には、チャートフィールド セキュリティをサポートする PeopleSoft 契約管理のコンポーネントがリストされています。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

コンポーネント	*コンポーネント説明*
CA_ACCT_CRM_JRNL	CRM 仕訳会計行
CA_ACCT_LINE_JRNL	契約会計行仕訳
CA_ACCT_RATE_JRNL	会計通貨仕訳
CA_AP_DTL_ASIN	発生ベース収益情報の確認
CA_AP_PC_SUMM_PNLG	発生ベース収益情報行の再配布
CA_AP_REDST_CRM	CRM 収益情報行の再配布
CA_AP_SUMM_PNLG	固定手数料収益情報行の再配布
CA_DETAIL_DST	会計処理配布
CA_DETAIL_DST_RED	会計配布 - 割引/割増
CA_PGP_TERMS	プログレス ペイメント条件
CA_PPD_BY_CONTRACT	契約による前受金残高
CA_PREVIEW_REVENUE	収益表示
CA_REV_MGMT_DTL	固定手数料収益の履歴
INQ_RMC18_CRITERIA	払戻契約の確認

PeopleSoft 契約管理の収益照合コンポーネント (CA_RECON_COMP) では、チャートフィールド セキュリティはサポートされません。

PeopleSoft 原価管理のチャートフィールドのセキュリティ保護

次の表には、チャートフィールド セキュリティをサポートする PeopleSoft 原価管理のコンポーネントがリストされています。

コンポーネント	*コンポーネント説明*
CM_COST_ADJ	平均原価の調整
CM_COST_ADJ_RETRO	移動平均原価の遡及調整
CM_ACCTG_LINE	会計入力
CM_DRILL_UNPST_DET	未転記会計行

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

コンポーネント	*コンポーネント説明*
CM_DRILL_JRNL_DET	転記済会計行
CM_APRECN_INQ	CM/AP 照合サマリ
CM_APRECN_DETAIL	CM/AP 照合詳細
CM_DRILL_ACCT_INV	在庫取引 - 取引入力
CM_DRILL_ACCT_ERN	実績加工費 - トランザクション入力
CM_DRILL_ACCT_VAR	生産差異 - トランザクション入力
CM_DRILL_ACCT_SCP	生産スクラップ原価 - トランザクション入力
CM_DRILL_ACCT_MFG	実際生産原価 - 取引による入力
CM_DRILL_ACCT_REV	標準原価の評価替 - トランザクション入力
CM_DRILL_ACCT_ADJ	平均原価調整入力 - トランザクション入力
CM_DRILL_ACCT_UAD	実際原価調整入力 - 取引入力
CM_DRILL_ACCT_NSS	直接供給出荷 - トランザクション入力
CM_DRILL_INV_DET	在庫取引 - 取引詳細明細
CM_DRILL_ERN_DET	実績加工費 - トランザクション明細
CM_DRILL_VAR_DET	生産差異 - トランザクション明細
CM_DRILL_SCP_DET	生産スクラップ原価 - トランザクション明細
CM_DRILL_ACCT_MFG	実際生産原価 - トランザクション明細
CM_DRILL_REV_DET	標準原価の評価替 - トランザクション明細
CM_DRILL_ADJ_DET	平均原価調整詳細 - トランザクション明細
CM_DRILL_UADJ_DET	実際原価調整詳細 - 取引詳細
CM_DRILL_NSS_DET	直接供給出荷 - トランザクション明細
EXD_DRILL_JRNL_DET	物品税仕訳ドリルダウン (物品税と売上税/消費税 IND、仕訳行)

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft eProcurement-調達管理のチャートフィールドのセキュリティ保護

このトピックでは、チャートフィールド セキュリティをサポートする PeopleSoft eProcurement-調達管理のコンポーネントについて説明します。

次の表には、チャートフィールド セキュリティをサポートする PeopleSoft eProcurement-調達管理のコンポーネント、および各コンポーネントで使用されるチャートフィールド セキュリティ タイプがリストされています。

コンポーネント	*コンポーネント説明*
PV_REQUISITIONS	調達依頼書の作成
PV_REQ_APPROVAL	承認ステータス
PV_PO_REQ_SELECT	調達依頼エクスペディタ
PV_REQ_PO_DETAILS	調達依頼/発注詳細ページ

PeopleSoft 経費管理のチャートフィールドのセキュリティ保護

このトピックでは、PeopleSoft 経費管理のチャートフィールドのセキュリティ保護の概要およびチャートフィールド セキュリティをサポートする PeopleSoft 経費管理のコンポーネントについて説明します。

PeopleSoft 経費管理のチャートフィールドのセキュリティ保護について

PeopleSoft 経費管理では、取引ページおよび会計データへのアクセスは保護されません。

PeopleSoft 経費管理には独自のセキュリティがあります。このため、取引ページおよび会計データへのアクセスを制限するためにチャートフィールド セキュリティは使用されません。従業員は、特定のチャートフィールドを表示する権限がなくなったとしても、常に自分の過去の取引を表示できる必要があります。たとえば、従業員 A は部門 ID 42000 へのアクセス権を持っていましたが、部門 50000 に異動しました。彼または彼女は、自分がメンバーだった、またはメンバーである全ての部門の全ての経費レポートを表示できます。

製品ドキュメントの*『PeopleSoft FSCM: アプリケーションの基礎』*を参照してください。

チャートフィールド プロンプト値のセキュリティ保護

経費管理コンポーネントでは、[プロジェクト ID] フィールドを除くチャートフィールド プロンプト値が保護されます。

経費管理コンポーネントで [プロジェクト ID] プロンプト値が保護されるかどうかは、PeopleSoft プロジェクト コスト管理がインストールされているかどうかによって決まります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- PeopleSoft プロジェクト コスト管理がインストールされている場合、経費管理ではチャートフィールド セキュリティから [プロジェクト ID] フィールドが除外されます。

  経費管理では、プロジェクト チーム セキュリティに従って [プロジェクト ID] フィールドが保護されます。

- PeopleSoft プロジェクト コスト管理がインストールされていない場合、経費管理ではチャートフィールド セキュリティから [プロジェクト ID] フィールドが除外されません。

注: この例外は勤務時間入力コンポーネントと従業員プロファイル コンポーネントで、これらのコンポーネントでは、[プロジェクト ID] フィールドは常にチャートフィールド セキュリティから除外され、プロジェクト コスト管理がインストールされているかどうかに依存しません。

次の表には、チャートフィールド セキュリティをサポートする PeopleSoft 経費管理のコンポーネントがリストされています。

コンポーネント	*コンポーネント説明*
EX_ACCTG_DRILLDWN	仕訳入力
EX_BGTCHK_TAUTH	出張申請のキャンセル
EX_EE_PROFILE	従業員プロファイル
EX_EE_PROFILE2	従業員プロファイル
EX_SHEET_APPR	経費レポートの承認
EX_TAUTH_APPR	出張申請の承認
KK_XCP_EX1	出張申請例外
KK_XCP_EX2	経費レポート例外
KK_XCP_EX3	期末未払例外
KK_XCP_EX4	期末未払例外
TE_EXPENSE_SHEET	仕訳経費レポート
TE_EXPENSE_SHEET2	仕訳経費レポート
TE_EXPENSE_SHEET_J	仕訳経費レポート
TE_TIME_ENTRY	勤務時間レポート入力
TE_TIME_ENTRY2	勤務時間レポート入力

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

コンポーネント	*コンポーネント説明*
TE_TRAVEL_AUTH	出張申請の入力
TE_TRAVEL_AUTH2	出張申請の入力
TE_UNPOSTED_SHEET	転記取消済経費レポート

PeopleSoft 一般会計のチャートフィールドのセキュリティ保護

次の表には、チャートフィールド セキュリティをサポートする PeopleSoft 一般会計のコンポーネントがリストされています。

コンポーネント	*コンポーネント説明*
AV_DRILL_PNL	Contributor Relations コンポーネント
DEPT_ENTRY	予算詳細管理
EE_GLADJ_DRILL	GL 調整ドリル ダウン
EE_GLBUD_DRILL	予算仕訳入力イベントドリル
ELM_JRNL_DRILL	ELM 会計入力ドリル ダウン
F2_STAGE_REV	FACTS II データの確認
FSAH_ACCT_DRILL	FSAH 会計ドリル
GL_OPEN_ITEM_INQ	仮勘定
INQUIRY_CRITERIA	元帳
INQ_COMPARE	元帳比較
INQ_LED_CMP_PNL	元帳期間比較
JGEN_ACCTG_DRILL	一般会計入力
JOURNAL_ENTRY_IE	仕訳入力
JOURNAL_FS	仕訳ステータス
JOURNAL_INQUIRY	仕訳
JOURNAL_OPEN_ITEMS	仮勘定管理

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

コンポーネント	*コンポーネント説明*
JOURNAL_POST_MARK	仕訳転記指定
JOURNAL_UNPOST_MRK	仕訳転記取消指定
JRNL_SUSPENSE_COR	仮計上仕訳修正
KK_XCP_GEN	GEN 一般取引例外
KK_XCP_GL1	GL 仕訳例外
KK_XCP_GL2	予算仕訳例外
KK_XCP_HR1	HR 給与計算例外
MARK_JRNLS_OVERIDE	予算例外上書き
MULTIBOOK_JOURNALS	元帳グループ
ORT_ACCT_DRILL	ORT 一般会計入力
ORT_ACCT_ENT	Oracle Retail 会計入力
PY_DRILL_PNL	給与会計ドリル
SF_DRILL_PNL	Student Financials ドリル
PROJ_ENTRY	プロジェクト詳細管理

PeopleSoft Grants Management のチャートフィールドのセキュリティ保護

次の表には、チャートフィールド セキュリティをサポートする PeopleSoft Grants Management のコンポーネントがリストされています。

コンポーネント	*コンポーネント説明*
GM_BUD_DETAIL	プロジェクト予算詳細
GM_FA_INQ	Grants F&A (ファシリティ管理) サマリ
KK_XCP_GM1	GM ファシリティ管理例外

PeopleSoft Grants Management では、全ての提案コンポーネントおよび Grants 部門セキュリティを使用するコンポーネントでは、チャートフィールド セキュリティはサポートされません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft 在庫管理のチャートフィールドのセキュリティ保護

次の表には、チャートフィールド セキュリティをサポートする PeopleSoft 在庫管理のコンポーネント、および各コンポーネントで使用されるチャートフィールド セキュリティ タイプがリストされています。

コンポーネント	*コンポーネント説明*
ADJUSTMENT_INV	調整
CART_TEMPLATE_INV	基準保管場所の定義
EXPRESS_ISSUE_INV	エクスプレス払出
INV_CHG	出庫要求更新
IN_DEMAND_ERRORS	需要エラーの修正
IN_WO_ISSUES	作業指示 - 部品払出
KK_XCP_CM1	原価管理例外
MATERIAL_ISSUES	出庫要求の作成/更新
PUTAWAY_ENTRY1_INV	エクスプレス格納
PUTAWAY_EXP_ISSUE	エクスプレス払出返品
PUTAWAY_FEEDBK_INV	倉庫フィードバック
PUTAWAY_REVIEW_INV	計画レビュー
PUTAWAY_STAGE_INV	手動格納ステージ
RECEIVE_RMA	ユニット間移動/返品の受領
STAGED_ITEM_E_INV	ステージ エラー修正
USAGE_INV	消費情報
USAGE_INV_DE	消費情報入力

PeopleSoft 受注管理のチャートフィールドのセキュリティ保護

次の表には、チャートフィールド セキュリティをサポートする PeopleSoft 受注管理のコンポーネントがリストされています。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

コンポーネント	*コンポーネント説明*
CB_ACCRUALS_INQ	割戻計上の照会
CB_GL_ACCRUAL	GL 未収収益の照会
*RMA_FORM_INV	返品ヘッダー (在庫管理)

アスタリスク (*) は、「取引ページへのアクセスのセキュリティ保護」の項で説明しているように、そのコンポーネントの取引ページへのアクセスに対してセキュリティが適用されないことを示しています。このコンポーネントでユーザーが入力するチャートフィールド値は例外であり、ルールおよび設定からデフォルトで提供されるチャートフィールド値を上書きします。このコンポーネントでは、チャートフィールド プロンプト値が保護されます。

PeopleSoft プロジェクト コスト管理のチャートフィールドのセキュリティ保護

このトピックでは、チャートフィールド セキュリティをサポートする PeopleSoft プロジェクト コスト管理のコンポーネントについて説明します。

注: プロジェクト コスト管理では、プロジェクト ID はプロジェクト チャートフィールドではなくプロジェクト コスト管理 ID フィールドであると見なされるため、[プロジェクト ID] フィールドはチャートフィールド セキュリティから除外されます。このため、[プロジェクト ID] フィールドがチャートフィールド セキュリティに含まれている場合、プロジェクト コスト管理は [プロジェクト ID] フィールドがチャートフィールド セキュリティに*含まれていない*かのように動作します。

重要 予算計画コンポーネントおよび予算詳細コンポーネントでチャートフィールド セキュリティを使用している場合、予算金額に全額が反映されない可能性があります。これは、チャートフィールド セキュリティによって未承認の値がフィルタされ、それらが予算金額に反映されなくなるためです。

次の表には、チャートフィールド セキュリティをサポートする PeopleSoft プロジェクト コスト管理のコンポーネントがリストされています。

コンポーネント	*コンポーネント説明*
EE_PCBUD_DRILL	入力イベント - 予算ドリルダウン
INTERFACE_RESOURCE	取引詳細の確認
INTFC_PROJ_EXPRESS	リソースの追加
KK_XCP_PC1	PC プロジェクト仕訳例外
KK_XCP_PC5	プロジェクト コスト管理予算
PC_ACCTG_JNL_COMP	会計処理履歴コンポーネント

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

コンポーネント	*コンポーネント説明*
PC_ACCTG_LN_COMP	プロジェクト会計行
PC_ADJ_ACCT_ASSGN	調整済取引割当
PC_AM_APPROVE	資産のレビュー/承認
PC_AM_DEFN	プロジェクト資産定義
PC_AM_DEFN_INQ	資産定義照会
PC_AM_EXPRESS	PC AM エクスプレス
PC_AM_RESOURCES	資産へのリソース割当
PC_BUD_DETAIL	プロジェクト予算詳細
PC_FND_DIST	資金配布ソース
PC_FND_DIST_LN	資金配布ターゲット
PC_FND_INTFC_EXCPT	資金予算例外
PC_FND_UNAPPL_BAJ	プロジェクト請求調整
PC_KK_INTFC_EXCEPT	コミットメント コントロールのレビュー
PROJECT_EXPRESS	プロジェクト リソース
PROJ_RES_ARCH	リソース アーカイブ詳細
PROJ_SUM_ARCH	リソース アーカイブ サマリ
RESOURCE_ADJUST	リソース調整
TIMELABOR_INTFC	勤務管理インターフェイス

PeopleSoft 購買管理のチャートフィールドのセキュリティ保護

次の表には、チャートフィールド セキュリティをサポートする PeopleSoft 購買管理のコンポーネントがリストされています。

コンポーネント	*コンポーネント説明*
CNTRCT_ENTRY	契約入力
CNTRCT_RELEASES	契約リリース

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

コンポーネント	*コンポーネント説明*
EE_PO_DRILL	入力イベント発注書ドリルバック
EE_RCV_DRILL	入力イベント受領書ドリルバック
EE_REC_DRILL	EE PO 調達依頼書ドリルバック
KK_XCP_PO1	発注書例外
KK_XCP_PO1N	発注書 (価格設定外) 例外
KK_XCP_PO2	調達依頼例外
KK_XCP_PO2N	調達依頼例外/NP
KK_XCP_PO3	PO 購買クレジット カード例外
KK_XCP_PO4	受領済費用の例外
KK_XCP_PO5	受領エンカンバランス例外
CC_RECON_WB	購買カード照合ワークベンチ *
MAINTAIN_PO_CF	配布管理
PO_ACCTG_LN_INQ	発注書会計入力
PO_APPROVAL_CHRT	発注チャートフィールド承認
PO_GL_DRILL	仕訳ドリルダウン
PO_INQUIRY	発注書照会
PO_RC_WB	発注書ワークベンチ *
PO_REQ_SELECT	調達依頼選択
PURCHASE_ORDER	発注書
PURCHASE_ORDER_EXP	エクスプレス発注
RECV_CHARTFIELDS	受領チャートフィールド
RECV_INQ	受領書
RECV_LN_ACCTG_INQ	受領済未払金入力照会
RECV_PO	購買受領
REQUISITIONS	調達依頼

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

コンポーネント	*コンポーネント説明*
REQUISITION_LOADER	調達依頼ロード リクエスト
REQ_ACCTG_LN_INQ	調達依頼の会計入力
REQ_APPROVAL_CHRT	調達依頼チャートフィールドの承認
REQ_INQUIRY	調達依頼書の照会
REQ_RC_WB	依頼者ワークベンチ *
RFQ_AWARDS	見積採択
RTV_HEADER	返品先サプライヤ
RTV_HEADER_INQ	サプライヤ照会に戻る
VRBT_AGREEMENT	リベート契約の追加/更新
VRBT_AGREEMENT_INQ	リベート契約照会
VRBT_CLAIM_MGM	請求の詳細管理

アスタリスク (*) の付いたコンポーネントは、選択解除されて提供されます。それらを選択して、チャートフィールド セキュリティに対して有効にすることもできます。

PeopleSoft サービス プロキュアメントのチャートフィールドのセキュリティ保護

次の表には、チャートフィールド セキュリティをサポートする PeopleSoft サービス プロキュアメントのコンポーネントがリストされています。

コンポーネント	*コンポーネント説明*
SPF_REQ_LINE	サービス調達依頼行管理
SPF_REQ_SUMMARY	調達依頼サマリ
SPF_WORDERCOMP	作業指示コンポーネント
SPF_WORK_ORDER_CMP	作業指示コンポーネント

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft 財務管理のチャートフィールドのセキュリティ保護

次の表には、チャートフィールド セキュリティをサポートする PeopleSoft 財務管理のコンポーネントおよびその説明がリストされています。

コンポーネント	*コンポーネント説明*
ACCOUNTING_BUILD	会計入力
ACCOUNTING_REVIEW	会計入力の表示/承認
ACCTG_ENT_SUMMARY	会計処理サマリ
TR_DRILL_GRP	TR 仕訳ドリル

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第11章

チャートフィールドの定義と使用

PeopleSoft チャートフィールドについて

オラクル社の PeopleSoft アプリケーションでは、勘定科目チャートを保存したり、取引データや予算データを分類するための基本構造を提供するフィールドのことをチャートフィールドと呼びます。各チャートフィールドには固有の属性が設定されるため、対象カテゴリのデータを最も効率的かつ柔軟な方法で記録、レポート、分析することができます。1 つのチャートフィールドは常に 1 つのデータ カテゴリを表しますが、同一データを詳細に分類するため、複数の値が保存されます。

取引金額の基本カテゴリとして、勘定科目チャートフィールドが用意されています。これに加え、他のチャートフィールドを適切な値と共に使用することにより、製品別、プロジェクト別、投資ポートフォリオ別、ポリシー別、寄付金別、資金別、サービス別など任意の数のカテゴリ別に、同一取引について同時に記録することができます。この場合、同じ取引データに対して追加サブセットが作成されます。

PeopleSoft では、ほとんどの会計要件やレポート要件に対応するチャートフィールド セットとその関連機能を用意しています。チャートフィールドは、ユーザー固有の要件を満たすようにユーザーが設定する設計になっています。

このトピックでは、次について説明します。

- 標準チャートフィールド
- 貸借一致チャートフィールド
- 代替勘定科目と法定会計
- チャートフィールド値
- チャートフィールド組合せ編集

関連リンク

標準のチャートフィールド設定の使用
詳細なチャートフィールド設定の使用

標準チャートフィールド

PeopleSoft には、以下のチャートフィールドが標準で用意されています。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ラベル名	*ラベル略称*	*チャートフィールド名 (フィールド長)*	*コンポーネント名とコンポーネント インターフェイス*	*説明*
勘定科目	勘定科目	ACCOUNT (10)	コンポーネント: GL_ACCOUNT コンポーネント インターフェイス: ACCOUNT_CF	取引の種別を分類します。これは必須フィールドです。企業で使用される勘定科目に使用します。
代替勘定科目	代替勘定	ALTACCT (10)	コンポーネント: ALTACCT コンポーネント インターフェイス: ALTACCT_CF	行政機関の取引の種別を分類します。法定会計に使用します。
業務ユニット	業務ユニット	OPERATING_UNIT (8)	コンポーネント: OPERATING_UNIT コンポーネント インターフェイス: OPER_UNIT_CF	流通倉庫や販売センターなどの場所の指定に使用できます。
資金コード	資金	FUND_CODE (5)	コンポーネント: FUND_DEFINITION コンポーネント インターフェイス: FUND_CF	教育/公的機関の会計処理における基本的な構成単位です。
部門	部門	DEPTID (10)	コンポーネント: DEPARTMENT コンポーネント インターフェイス: DEPT_CF	組織の部門別に情報を追跡管理します。取引の責任者や取引の影響を受ける人物の指定に使用できます。
プログラム コード	プログラム	PROGRAM_CODE (5)	コンポーネント: PROGRAM_DEFINITION コンポーネント インターフェイス: PROGRAM_CF	組織内または組織全体のプログラムの収益と支出を追跡管理します。関連するアクティビティのグループ、コストセンター、収益センター、責任センターおよび学問的プログラムの識別に使用できます。
クラス フィールド	クラス	CLASS_FLD (5)	コンポーネント: CLASS_PNL コンポーネント インターフェイス: CLASS_CF	特定の充当金の識別に使用できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ラベル名	*ラベル略称*	*チャートフィールド名 (フィールド長)*	*コンポーネント名とコンポーネント インターフェイス*	*説明*
予算参照	予算参照	BUDGET_REF (8)	コンポーネント: BUDREF_PNL コンポーネント インターフェイス: BUDGET_REF_CF	個々の予算が予算キーと重複する予算期間を共有している場合、それぞれの予算を一意に識別する際に使用します。
製品	製品	PRODUCT (6)	コンポーネント: PRODUCT コンポーネント インターフェイス: PRODUCT_CF	収益性やキャッシュ フローを、販売または製造した製品別に分析する際に役立つ追加情報を取得します。
[プロジェクト コスト管理ユニット]	PC ビジネス ユニット	BUSINESS_UNIT_PC (5)	コンポーネント: PC_BU_DEFN コンポーネント: PC_BUS_UNIT_OPT コンポーネント インターフェイス: PROJECT_BU_OPTIONS	これを組織の機能サブセットとして使用することで、財務取引の計上やレポートに関する組織の標準会計手順の制約を受けずに、プロジェクト アクティビティを管理できます。PC ビジネス ユニットはプロジェクト コスト管理定義ページで作成します。
プロジェクト ID/グラント	プロジェクト	PROJECT_ID (15)	コンポーネント: PROJECT コンポーネント インターフェイス: PROJECT_CF	グラントとプロジェクトの会計処理に役立つ追加情報を取得します。 プロジェクト チャートフィールドには、有効日はありません。
アクティビティ	アクティビティ	ACTIVITY_ID (15)	コンポーネント: FS_ACTIVITY_TBL コンポーネント インターフェイス: PC_STD_ACT_INTFC	アクティビティはプロジェクトを構成する特定のタスクです。アクティビティは、プロジェクト アクティビティ ページまたはアクティビティ詳細ページで作成します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ラベル名	*ラベル略称*	*チャートフィールド名 (フィールド長)*	*コンポーネント名とコンポーネント インターフェイス*	*説明*
ソース タイプ	ソース タイプ	RESOURCE_TYPE (5)	コンポーネント: PROJ_RES_TYPE コンポーネント インターフェイス: PC_RES_TYPE_INTFC	ソース タイプは取引の目的またはソースを識別します。たとえば、[人件費] というソース タイプを作成して、プロジェクトの合計人件費を追跡できます。
カテゴリ	カテゴリ	RESOURCE_CATEGORY (5)	コンポーネント: PROJ_CATG_DEFN コンポーネント インターフェイス: PC_CATG_DEFN_INTFC	ソース タイプをさらに細かく定義する場合にカテゴリを使用します。 カテゴリとサブカテゴリの定義はオプションですが、これらを使用すると、コストをより細かく柔軟に追跡および分析できます。
サブカテゴリ	サブカテゴリ	RESOURCE_SUB_CAT (5)	コンポーネント: PROJ_SUBCAT_DEFN コンポーネント インターフェイス: PC_SUBCAT_DEFN_INTFC	カテゴリをさらに細かく定義する場合にサブカテゴリを使用します。
チャートフィールド 1	該当なし	CHARTFIELD1 (10)	コンポーネント: CHARTFIELD1 コンポーネント インターフェイス: CHARTFIELD1	汎用拡張チャートフィールドはデフォルトで非アクティブです。使用、非表示または削除に設定できます。
チャートフィールド 2	該当なし	CHARTFIELD2 (10)	コンポーネント: CHARTFIELD2 コンポーネント インターフェイス: CHARTFIELD2	汎用拡張チャートフィールドはデフォルトで非アクティブです。使用、非表示または削除に設定できます。
チャートフィールド 3	該当なし	CHARTFIELD3 (10)	コンポーネント: CHARTFIELD3 コンポーネント インターフェイス: CHARTFIELD3	汎用拡張チャートフィールドはデフォルトで非アクティブです。使用、非表示または削除に設定できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ラベル名	*ラベル略称*	*チャートフィールド名 (フィールド長)*	*コンポーネント名とコンポーネント インターフェイス*	*説明*
関係会社	関係会社	AFFILIATE (5)	該当なし	1 つのユニット間勘定科目を使用している場合に、ビジネス ユニット間での取引の関連付けに使用します。
関係会社 - 資金	関係会社 - 資金	AFFILIATE_INTRA1 (10)	該当なし	1 つのユニット内勘定科目を使用している場合に、資金間での取引の関連付けに使用します。
関係会社 - 業務ユニット	関係会社 - 業務	AFFILIATE_INTRA2 (10)	該当なし	1 つのユニット内勘定科目を使用している場合に、業務ユニット間での取引の関連付けに使用します。
シナリオ	シナリオ	BD_SCENARIO (10)	コンポーネント: BD_SCENARIO コンポーネント インターフェイス: BUDGET_SCENARIO	使用している仮定が異なる複数の予算を区別します。
台帳コード	台帳コード	BOOK_CODE (4)	該当なし	元帳行のサブセットを識別することで、同一元帳内で、異種会計環境の取引のさまざまな会計、記録、レポート要件を区別して管理します。
調整タイプ	調整	GL_ADJUST_TYPE (4)	該当なし	前期の調整のさまざま会計処理に関連付ける調整タイプを定義します。
統計コード	統計コード	STATISTICS_TBL	コンポーネント: STATISTICS_TBL コンポーネント インターフェイス: STATISTICS_CODE	ユニット数など、統計データを定義する場合に使用します。

PeopleSoft プロジェクト コスト管理チャートフィールドについては、『*PeopleSoft FSCM: Project Costing*』の製品ドキュメントに詳しく記載されています。

ビジネス ユニットはチャートフィールドとは見なされません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

警告 PeopleSoft プロジェクト コスト管理、経費管理、要員管理またはサービス プロキュアメントのライセンスを取得していない場合で、ページに [プロジェクト コスト管理ユニット]、[アクティビティ]、[ソース タイプ]、[カテゴリ] または [サブカテゴリ] が表示される場合は、インストール オプション - 製品ページでこれらの製品のチェック ボックスをオフにしてチャートフィールド設定を実行し、これらの製品固有のチャートフィールドを非アクティブにしてください。
プロジェクト コスト管理のライセンスを取得しておらず、経費管理、要員管理またはサービス プロキュアメントのライセンスを取得している場合で、ページに [ソース タイプ]、[カテゴリ] または [サブカテゴリ] が表示される場合は、インストール オプション - 製品ページでライセンスを取得していない製品のチェックボックスをオフにしてチャートフィールド設定を実行し、プロジェクト コスト管理固有のチャートフィールドを非アクティブにしてください。必要のないチャートフィールドをアクティブのままにしておくと、パフォーマンスに影響したり、その他の処理で問題が発生することがあります。

「標準のチャートフィールド設定の使用」を参照してください。

Understanding Project-Related Control DataPeopleSoft Project Costingを参照してください。

関連リンク

チャートフィールド継承の使用
Dealing with the Implications of Multiple GAAPs in One Ledger for Various ProcessesPeopleSoft Global Options and Reports
Setting Up for Journal Entries Using StatisticsPeopleSoft General Ledger

プロジェクト チャートフィールド

プロジェクト チャートフィールドは次で構成されています。

- PC ビジネス ユニット
- プロジェクト
- アクティビティ
- ソース タイプ
- カテゴリ
- サブカテゴリ

プロジェクト チャートフィールドを追加するページは、プロジェクト コスト管理がインストールされているかどうかによって異なります。PeopleSoft プロジェクト コスト管理がインストールされていない場合は、プロジェクト ページ (PROJECT_GL) を使用してプロジェクト チャートフィールドの値を入力します。そうでない場合は、プロジェクト コスト管理 (PROJECT_GEN_01A) 内でプロジェクトを追加するときにプロジェクト チャートフィールドを追加します。

その他 5 つのプロジェクト コスト管理チャートフィールドの値およびコントロール データは、共通定義内の個別のページを*使用せず*に入力します。これらは、前述のチャートフィールドのリストに記載されているペー

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ジとコンポーネントを使用して入力します。この詳細については、PeopleSoft プロジェクト コスト管理のドキュメントに記載されています。

プロジェクト コスト管理チャートフィールドは、プロジェクト コスト管理や経費管理、要員管理、一般会計内で使用する各種のページ表示や入力グリッドで使用できます。この例としては、仕訳入力 - 行ページやスピード入力があります。

注: リソース分析タイプがプロジェクト コスト管理チャートフィールドのリストに含まれていないのは、これがチャートフィールドと見なされていないためであり、これは標準設定ページにも詳細設定ページにも表示されません。しかし、これは一般会計の仕訳入力 - 行ページで入力可能で、[アクティビティ] フィールドと [ソース タイプ] チャートフィールドの間に表示されます。チャートフィールドの設定でプロジェクト コスト管理チャートフィールドの表示順序が変更された場合、[リソース分析タイプ] の相対的な位置は維持された状態で順序が変更されています。

Understanding Project-Related Control DataPeopleSoft Project Costingを参照してください。

「標準のチャートフィールド設定の使用」を参照してください。

貸借一致チャートフィールド

特定のビジネス ユニットまたはチャートフィールドについて、借方と貸方の金額を一致させ、貸借の一致した勘定科目セットを維持することを要求した場合、このビジネス ユニットまたはチャートフィールドのことを*貸借一致*と呼びます。

貸借一致チャートフィールドは、元帳グループ - 貸借一致ページの [元帳グループ] 定義で定義します。貸借一致の明細元帳では、ビジネス ユニット、基本通貨コード、台帳コードおよび調整タイプの借方と貸方の金額が一致している必要があります。

さらに別のチャートフィールドを貸借一致として選択した場合、出現する個々の値の組合せが全て一致することが求められます。貸借一致チャートフィールドの値を複数含む取引に対しユニット内貸借一致入力を自動的に生成するよう、システムを設定できます。このオプションをアクティブにしなかった場合、またはその他の理由で仕訳の貸借が一致しない場合、仕訳編集オプション ページで設定した仕訳貸借一致のためのルール (仮計上、再検討など) が仕訳編集で使用されます。

たとえば、貸借一致チャートフィールドとして [部門] を定義した場合、作成する全ての仕訳でビジネス ユニット FR001 と部門 A は借方と貸方が一致する必要があります。そうでない場合、その仕訳入力は貸借が一致しないことになります。これはビジネス ユニット USA01 と部門 B も貸借一致が要求されるという意味です。

このことから、勘定科目と代替勘定科目を貸借一致チャートフィールドにできない理由を説明できます。たとえば、勘定科目を貸借一致チャートフィールドにできるとしたら、ビジネス ユニット A と勘定科目 101200 は借方と貸方が一致しなければならず、その結果、勘定科目 101200 の残高が常に 0 になってしまうからです。

関連リンク

元帳について

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

代替勘定科目と法定会計

PeopleSoft の代替勘定機能を使用すると、分析用の勘定科目や主要勘定科目と共に、法定勘定科目表について、詳細な取引レベルで入力できます。代替勘定科目を使用して、法定報告書類の要件に合わせた仕訳行や取引レベルの残高が得られます。主要勘定科目チャートフィールドには企業で使用する勘定科目が、代替勘定科目チャートフィールドには法定勘定科目が設定されます。代替勘定機能は、内部管理や親会社への提出用と、地方管轄機関や中央政府への提出用の、2 種類の異なるレポートを作成する必要のある企業にとって便利な機能です。

PeopleSoft アプリケーションでは、分析用または主要な勘定科目チャートフィールドは ACCOUNT です。

一方、地方行政監督機関から*法定*勘定科目の使用を求められる場合があります。PeopleSoft アプリケーションでは、この法定勘定科目のことを代替勘定科目チャートフィールド (ALTACCT) と呼びます。

ユーザーは、代替勘定科目チャートフィールドの値と勘定科目チャートフィールドの値を関連付けます。これにより、勘定科目チャートフィールドに値を入力すると、関連付けられた代替勘定科目にも自動的に値が入力されます。また、代替勘定科目チャートフィールドに値を入力すると、関連付けられた勘定科目にも自動的に値が入力されます。デフォルトの値は、選択リストから別の値を選択して上書きすることができます。選択リストに表示されるのは、あらかじめユーザーが勘定科目チャートフィールドまたは代替勘定科目チャートフィールドにマッピングした勘定科目値だけです。

さまざまな法定報告書類用に別々の代替勘定科目を作成するには、チャートフィールドの設定時に PeopleSoft セットID 機能を使用します。

関連リンク

代替勘定科目について

チャートフィールド値

PeopleSoft の標準のチャートフィールドを使用する場合、サンプルのチャートフィールド値が既に設定されているため、多くの場合サンプルの金額が入力されています。全ての PeopleSoft サンプル値またはモデル値は、01/01/1900 の有効日で入力されます。自社のデータと区別するため、この日付は使用せず、これよりも早い 01/01/1901 などの日付を使用してください。

各チャートフィールドに入力できる値の数に制限はありません。値はオンラインのチャートフィールド値ページで入力できますが、多数の入力を要するチャートフィールドでは、バッチ インポート プロセスや Microsoft Excel スプレッドシートを使用し、PeopleSoft コンポーネント インターフェイスでチャートフィールドテーブルに値を最初にロードすることもできます。

前述のチャートフィールド リストに記載されているプロジェクト チャートフィールド コンポーネント インターフェイスについては、プロジェクト コスト管理のドキュメントに詳しく記載されています。

「Excel スプレッドシートによるコンポーネント インターフェイス処理へのチャートフィールド値のロード」を参照してください。

 Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: チャートフィールド値には、特殊文字や組み込みブランクを使用しないことをお勧めします。一般的に使用される英数字やアンダースコアを使用してください。チャートフィールド値を定義するときには基本的に、アポストロフィなどの特殊文字は使用せず、ブランクも含めないようにしてください。特殊文字やブランクが含まれていると問題が生じやすくなり、特に、配賦や組合せ編集、仮勘定会計などの一部のバッチ処理で問題を引き起こすことがあります。(この注意事項は、ビジネス ユニットや元帳、仕訳 ID にも該当します。)

最初にチャートフィールド テーブルに値を入力すると、以降はチャートフィールド値ページで管理できます。企業で変更が必要になった場合や組織の拡大に応じ、PeopleTools ツリー マネージャを使用してチャートフィールド値を追加したり更新したりできます。

ほとんどのチャートフィールド値は定義の変更に対して有効日を設定できるため、部門を*アクティブ*にする日、製品ラインを*導入する*日、口座を*閉鎖する*日などを設定できます。有効日機能をアクティブ/非アクティブ機能と共に使用することにより、全ての変更や追加に関する完全な履歴を保持し、完全な監査証跡を提供し、過去、現在、将来の状況について比較することができます。あるチャートフィールド値を今後使用しない場合は、元の行を非アクティブにするのではなく、行を追加して有効日を設定した*非アクティブ*なエントリを作成します。既存の行を*非アクティブ*に設定するだけでは、チャートフィールド値がアクティブだったときの履歴が残りません。

プロジェクト チャートフィールド値はアクティブまたは非アクティブにすることができますが、ステータスについては有効日を設定できません。

ただし、プロジェクト コスト管理がインストールされていない場合は、プロジェクトの[予算計上済]、[終了]、[保留]、[オープン]、[提案中]の各プロジェクト ステータスに有効日を設定できます。これらのステータスはメモとしての役割しかなく、コントロール機能はありません。

チャートフィールド組合せ編集

オプションでチャートフィールド値の組合せを編集し、勘定科目をどの部門、資金、業務ユニットで有効にするかなどを指定できます。会計入力に規制を設け、会計に関する余計な分析、照合作業を極力減らすには、チャートフィールドの組合せ編集を使用します。チャートフィールド組合せ編集は、チャートフィールド検証編集に加えて行います。

チャートフィールド組合せ編集は、コミットメント コントロール予算入力に対しても使用できます。

関連リンク

チャートフィールド組合せ編集について

前提条件

チャートフィールドを定義する前に次の手順を完了しておく必要があります。

- インストールする PeopleSoft 製品のインストール オプションを完成させます。
- 自社の要件を満たすようにチャートフィールドを設定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 通貨、市場レート、単位、休日、カレンダー、タイムスパンを管理するその他の共有リソース テーブルを完成させます。
- VAT のオプションと設定を定義します (自社のアクティビティに該当する場合)。

チャートフィールドの定義と使用で使用される共通要素

有効日

新しいチャートフィールド値を追加すると、デフォルト値として現在日が設定されます。新しい値をアクティブにする日を入力することもできます。将来の日付を使用すると、処理に影響を及ぼすことなく、設定する有効日より前にチャートフィールド値を設定できます。有効日時点におけるチャートフィールド値のステータスとして、*アクティブ* または *非アクティブ* を入力します。(プロジェクト ID チャートフィールドに有効日設定はありませんが、有効日時点の有効なステータスが含められます。)

説明

レポートやページ、プロンプト リスト、オンライン照会でチャートフィールド値を識別します。ページや表示領域が制限されているドロップダウン リスト ボックスに表示する略称を入力します。

詳細説明

チャートフィールド値に関する詳細情報を提供する長い説明を入力します。これは特に公的機関などで、提供者から指定されたとおりの資金名を入力する必要がある場合や、名称や説明が細かくて長いソースを入力する場合に便利です。

勘定科目のタイプおよび属性の定義と使用

勘定科目のタイプおよび属性を定義するには、次のコンポーネントを使用します。

- 勘定科目タイプ (ACCT_TYPE)
- チャートフィールド属性 (CF_ATTRIBUTES)
- インストール オプション (INSTALLATION)
- 勘定残高グループ (ACT_BAL_GRP)
- 仕訳ソース (SOURCE)

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

勘定科目のタイプと属性の定義に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
勘定科目タイプ ページ	ACCT_TYPE	各 GL 勘定科目に割り当てる勘定科目タイプを定義します。通常、貸借対照表勘定科目または損益計算書勘定科目を指定するときに使用します。
チャートフィールド属性ページ	CF_ATTRIBUTES	ユニット内連結消去や政府レポート、支払処理などに使用するチャートフィールド属性を作成します。
チャートフィールド属性値ページ	CF_ATTRIB_VALUES	ユニット内連結、連邦政府レポート要件および支払処理をサポートするユーザー定義値を選択します。
インストール オプション - 基本設定ページ	INSTALLATION_FS1	[台帳コード] 属性と [貸借対照表] 属性をアクティブまたは非アクティブにします。 「勘定残高グループのインストール オプションの設定」を参照してください。
勘定残高グループ ページ	ACT_BAL_GRP	台帳コードの値と貸借対照表属性を使用して、アクティブの勘定科目属性値の組合せを定義します。
仮計上チャートフィールド - 貸借一致ページ	SRC_JE_BS_CFS_SEC	仕訳処理に使用する貸借一致仮計上チャートフィールドを選択するときに使用します。

勘定科目タイプ ページ

勘定科目タイプ ページ (ACCT_TYPE) を使用して、各 GL 勘定科目に割り当てる勘定科目タイプを定義します。

通常、貸借対照表勘定科目または損益計算書勘定科目を指定するときに使用します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [勘定科目タイプ], [勘定科目タイプ]

勘定科目タイプ または 勘定科目タイプ

勘定科目タイプは勘定科目に割り当てる分類で、年度末締め処理やレポートなどの処理における勘定科目の取り扱いを決定します。勘定科目タイプの分類は、通常の貸借対照表や損益計算書の資産、負債、資本、収益、費用の分類と同じです。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

勘定科目ページを使用して勘定科目を追加するときには、標準の勘定科目タイプを使用します。

PeopleSoft には、以下の勘定科目タイプが用意されています。

- *[A]* (資産)
- *[E]* (費用)
- *[L]* (負債)
- *[Q]* (資本)
- *[R]* (収益)

残高繰越

次の値の中から 1 つ選択します。

- 繰り越す — この勘定科目タイプの残高を次期に繰り越します。
- 繰り越さない — この勘定科目タイプの残高を次期に繰り越しません。
- その他 – この勘定科目タイプを年度末締め時に無視します。

通常、[残高繰越] チェック ボックスは資産、負債、資本の勘定科目の場合はオンにして、収益と費用の勘定科目の場合はオフにします。

年度末締め処理では繰り越さない勘定科目の残高が合計され、剰余金に転記する金額が算出されます。

勘定科目の設定後に勘定科目タイプ レポート (FIN0004) を生成すると、貸借対照表と損益計算書用に定義した勘定科目のリストと説明がそのレポートに表示されます。

特殊な事情がある場合は勘定科目タイプを追加することもできますが、システムに新たな変更が必要になるため、大規模な改修を計画している場合を除き、お勧めしません。

たとえば勘定科目タイプを追加すると、締め処理試算表レポート (GLS1003.SQR) にも変更が必要になります。

チャートフィールド属性ページ

チャートフィールド属性ページ (CF_ATTRIBUTES) を使用して、ユニット内連結消去や政府レポート、支払処理などに使用するチャートフィールド属性を作成します。

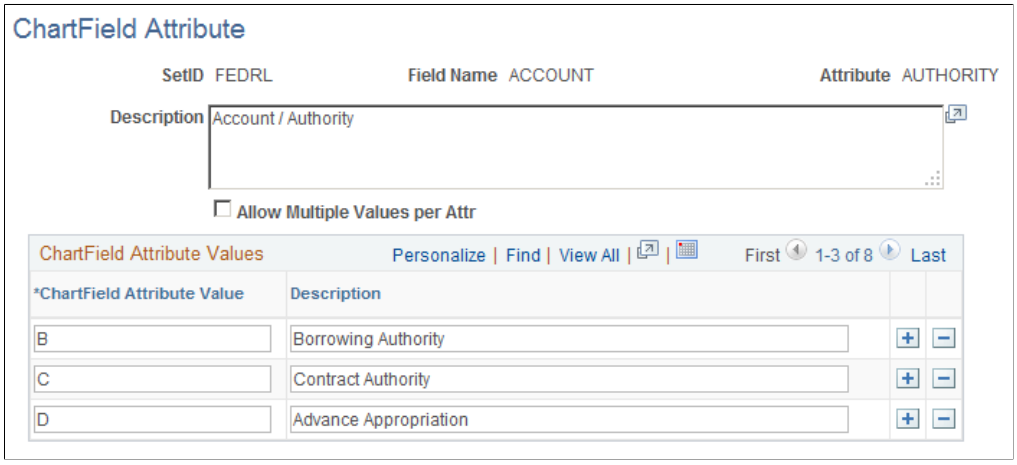
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [設定], [属性], [チャートフィールド属性]

画像: チャートフィールド属性ページ

次の例では、チャートフィールド属性ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



汎用チャートフィールド属性はオプションの機能で、ユニット内連結消去や米国連邦政府レポート要件、支払処理などをサポートします。

チャートフィールド値に関連付けた属性値は、チャートフィールド属性ページを使用して削除することが*できません*。しかし、チャートフィールド値属性の 2 次ページを使用して、属性と属性値を削除できます。

属性は自身の関連付け先のチャートフィールド値と有効日設定を共有します。プロジェクト チャートフィールドには、有効日はありません。プロジェクト チャートフィールド属性にはデフォルトの有効日 01/01/1900 が自動的に割り当てられます。

注: 必要に応じ、該当するチャートフィールドに属性を追加または削除してください。ただし、一度チャートフィールド値に関連付けた属性値は削除*できません*。

フィールド名

属性機能を有効にするチャートフィールドを、*次の該当する*チャートフィールドの中からいくつかまたは全て入力します。

- ACCOUNT
- ALTACCT
- BUDGERT_REF
- CLASS_FLD
- FUND_CODE
- PROGRAM_CODE

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- OPERATING_UNIT
- DEPTID
- PRODUCT
- PROJECT_ID
- CHARTFIELD1
- CHARTFIELD2
- CHARTFIELD3

どのチャートフィールドがアクティブであるかは FS_CF_TEMPLATE で判別されます。このフィールドのドロップダウン リスト ボックスに、*該当する*アクティブのチャートフィールドが表示されます。

属性

属性名を付けるためのユーザー定義フィールド。

注: 資産管理と連邦政府資金の振替でこのフィールドを使用する場合は、この属性名がインストール オプション - 資産管理 ページの [連邦政府資金属性] フィールドに入力した値と一致するようにしてください。

属性別に複数値可

複数値を持つ属性をチャートフィールド値に関連付けることを許可する場合は、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオフにした場合、チャートフィールド値には 1 つの属性値しか関連付けることができません。

注: 通常、勘定科目には複数の組合せが関連付けられますが、このオプションは該当する全てのチャートフィールドで使用可能です。

チャートフィールド属性値

これはユーザー定義です。たとえば、資金の単年レポートと複数年レポートを区別するため、属性に対して 2 つの値を作成できます。いずれかの値を資金値に関連付けることで、この 2 つを区別できます。

注: 資産管理と連邦政府資金の振替 (FEDERAL FUND 属性) でこのフィールドを使用する場合、連邦政府資金であるかどうかの識別に Y (YES) 値と N (NO) 値を使用し、これを資金値に関連付けることで 2 つを区別できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド属性値ページ

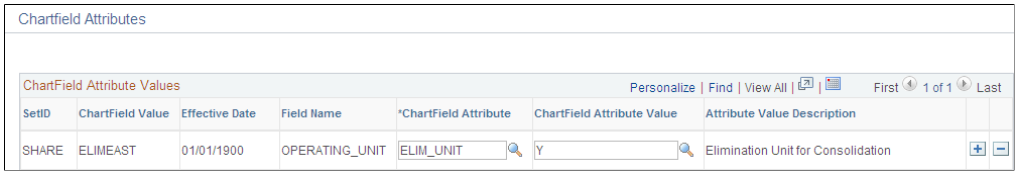
チャートフィールド属性値ページ (CF_ATTRIB_VALUES) を使用して、ユニット内連結、連邦政府レポート要件および支払処理をサポートするユーザー定義値を選択します。

ナビゲーション

該当するチャートフィールド値ページから [属性] リンクをクリックします。

画像: チャートフィールド属性ページ

次の例では、チャートフィールド属性ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このページを使用して、特定の該当するチャートフィールド用に作成したチャートフィールド属性と属性値の組合せを 1 つ以上選択し、選択したチャートフィールド値に適用します。

注: 資産管理と連邦政府資金の振替でこのページを使用する場合、チャートフィールド属性ページで作成した連邦政府資金チャートフィールド属性を関連付け、[チャートフィールド属性値] フィールドで連邦政府資金の場合は Y、連邦政府資金でない場合は N を指定します。

関連リンク

Understanding Federal Government and Statutory ReportsPeopleSoft General Ledger

[貸借対照表] と [台帳コード] の使用

金融サービス業界では会計実務の慣例として、オンバランス (貸借対照表に計上) であるかオフバランス (貸借対照表に計上しない) で勘定科目を区別しています。この勘定科目の区別を利用して、貸借の一致するオフバランスとオンバランスの仕訳入力を同時に記録して生成できます。処理の中で貸借を一致させるための行を仕訳入力に追加で自動生成することは特に大きな問題ではありません。

[貸借対照表] 属性の選択

PeopleSoft には標準で次の貸借一致属性が用意されています。これを勘定科目チャートフィールド値に使用して、ビジネス ユニットと元帳内で取引を区別し別個の取引を管理できます。

- *BS* (オンバランス)。
- *OB* (オフバランス)。

この処理は柔軟性が高いため、システムへの変更なしで追加の勘定科目属性の貸借一致をサポートします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

勘定科目値をオンバランスまたはオフバランスのいずれかとして定義する場合、仕訳入力や評価替、締め処理、ポジション会計などの各種の一般会計処理にも、必要な貸借一致処理を実行する貸借対照表勘定科目またはオフバランス勘定科目を割り当てる必要があります。

台帳コード機能を使用して、同一の元帳内で取引を貸借一致サブセットにさらに分類する場合は、貸借一致が正しく行われるように、台帳コード チャートフィールド値と貸借対照表値を正しくグループ化し、勘定科目チャートフィールドと一致させる必要があります。台帳コードと貸借対照表値の組合せを勘定残高グループとして定義します。この 2 つを属性として勘定科目に関連付けます。

勘定残高グループのインストール オプションの設定

インストール オプション - 基本設定ページ (INSTALLATION_FS1) を使用して、[台帳コード] 属性と [貸借対照表] 属性をアクティブまたは非アクティブにします。

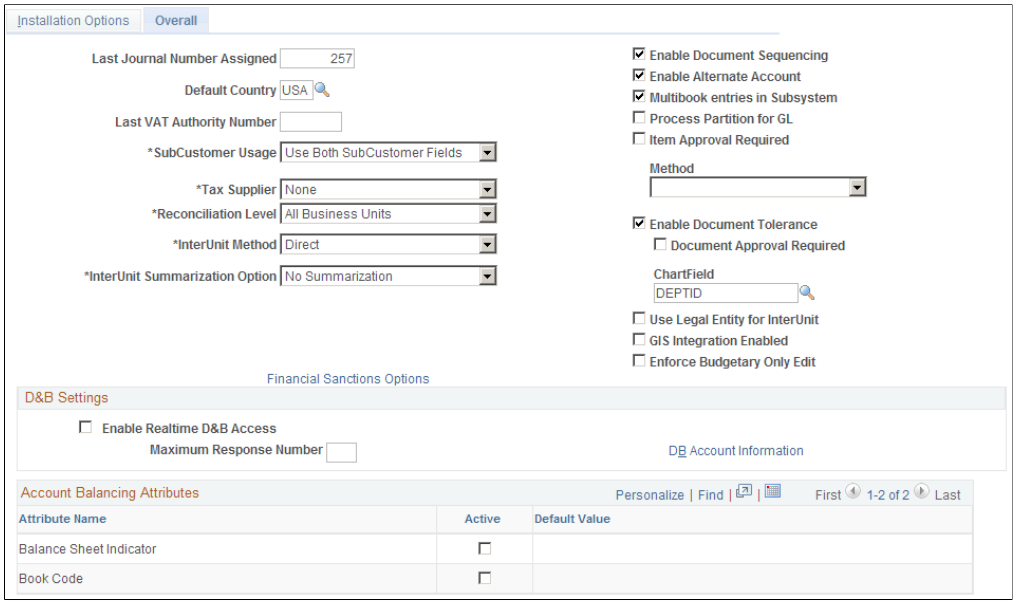
ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション], [インストール オプション]

インストール オプション ページで 基本設定リンクをクリックします。

画像: インストール オプション - 基本設定ページ

次の例では、インストール オプション - 基本設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



勘定残高属性

次のフィールドは勘定残高属性に該当します。

アクティブ 属性名をシステムに含めるときに選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

デフォルト値 デフォルトの勘定残高グループ値からシステムによって入力されます。

勘定残高グループ ページ

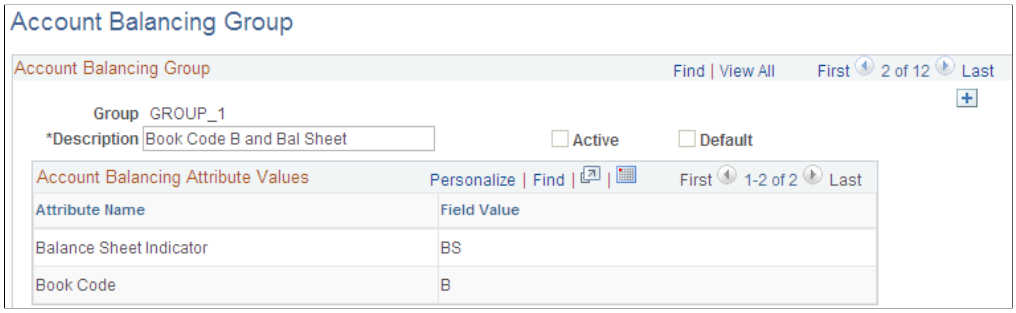
勘定残高グループ ページ (ACT_BAL_GRP) を使用し、台帳コードの値と貸借対照表属性を使用して、アクティブの勘定科目属性値の組合せを定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [設定], [勘定残高グループ], [勘定残高グループ]

画像: 勘定残高グループ ページ

次の例では、勘定残高グループ ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



グループ 勘定残高グループ ページを使用して、さまざまな属性値の組合せまたはサブセットを選択し、これらに一意の名前と説明を付与します。

アクティブ オンまたはオフにして、勘定残高グループをアクティブまたは非アクティブにします。

システムには勘定残高属性が含まれていないデフォルトの勘定残高グループが含まれています。インストール オプション - 基本設定ページで勘定残高グループをアクティブにした場合は、デフォルトの勘定残高グループを非アクティブにする必要があります。その後にアクティブの勘定残高属性を含めた新しい勘定残高グループを追加します。

デフォルト インストール オプション - 基本設定ページで、この属性値をデフォルトとして表示する場合にオンにします。

属性名 *貸借対照表*値には PeopleSoft 標準の値が移入されますが、*台帳コード*値は台帳コード ページを使用して定義できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

グループについて、このページで属性のフィールド値を選択します。

仮計上チャートフィールド - 貸借一致 ページ

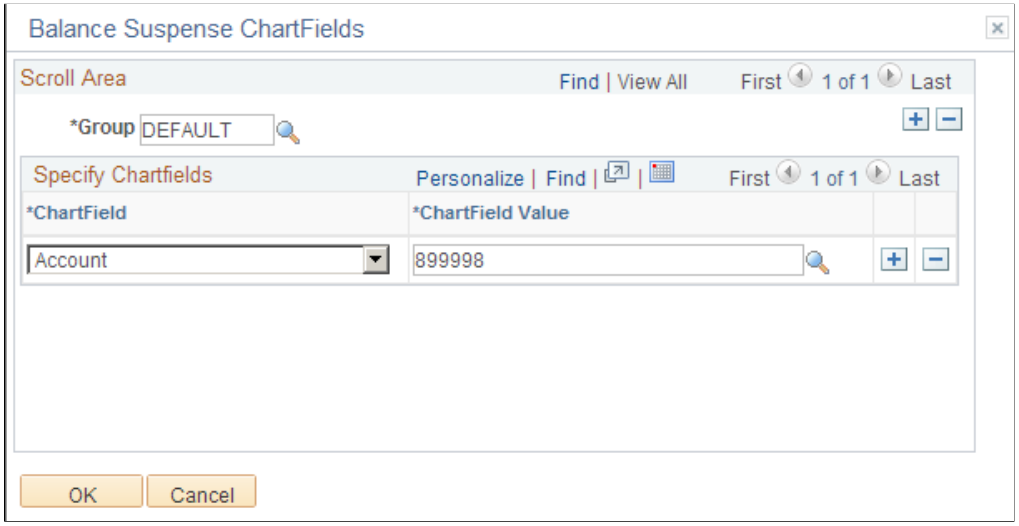
仮計上チャートフィールド - 貸借一致 ページ (SRC_JE_BS_CFS_SEC) を使用して、仕訳処理に使用する貸借一致仮計上チャートフィールドを選択します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [仕訳], [ソース], [仕訳オプション]仮計上チャートフィールド - 貸借一致 リンクをクリックします。

画像: 仮計上チャートフィールド - 貸借一致 ページ

次の例では、仮計上チャートフィールド - 貸借一致 ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



グループ

仕訳貸借一致仮計上処理で使用する、1 つ以上の勘定残高グループと貸借一致仮計上チャートフィールドおよびチャートフィールド値を選択します。

勘定残高属性をアクティブにしなかった場合、勘定残高グループが 1 つのみ存在することになります。これはシステム標準のデフォルト グループです。このデフォルト グループに貸借一致仮計上チャートフィールドを 1 つ定義する作業のみ行います。

ただし、勘定残高属性を 1 つ以上アクティブにした場合、勘定残高グループ ページでデフォルト グループを非アクティブにして、自分の勘定残高グループ (アクティブの勘定残高属性値の多様な組合せが含まれている) を追加します。その後、各グループに貸借一致仮計上チャートフィールドを 1 つずつ定義する必

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

要があります。貸借一致仮計上チャートフィールドの勘定科目値には勘定残高グループと同じ勘定残高属性値が必要です。

たとえば、貸借一致インジケータをアクティブにしたとします。次に、デフォルト グループを非アクティブにして、新しい勘定残高グループを 2 つ追加します。1 つは貸借一致グループ、もう 1 つはオフバランス グループ用です。次に、各グループに 1 つずつ、2 つの貸借一致仮計上チャートフィールドを定義する必要があります。貸借対照表グループの勘定科目値には、貸借対照表と一致する貸借対照表値が必要です。同様に、オフバランス グループの勘定科目値には、オフバランスシートと一致する貸借対照表値が必要です。

勘定残高グループによって同一元帳内で台帳コードと貸借対照表を同時に使用する残高サブセットが識別されます。各グループまたはサブセットそれぞれに、グループ内の貸借一致を維持するためのさまざまな処理で使用される貸借一致勘定科目または仮計上勘定科目を定義する必要があります。

たとえば次について、該当する各勘定残高グループに仮計上または貸借一致チャートフィールドが必要になります。

- 仮計上チャートフィールド - 貸借一致
- 仮計上チャートフィールド - 編集
- 仮計上チャートフィールド - 金額
- 端数調整チャートフィールド
- ポジション勘定科目

チャートフィールド値の入力と管理

チャートフィールド値を入力して管理するには、次のコンポーネントを使用します。

- チャートフィールド値 (FS_CF_VALUE_HOME)
- 調整タイプ (ADJUST_TYPE)
- 台帳コード (BOOK_CODE)
- シナリオ (BD_SCENARIO)
- 勘定科目 (GL_ACCOUNT)
- 業務ユニット (OPERATING_UNIT)
- 資金 (FUND_DEFINITION)
- 部門 (DEPARTMENT)

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 製品 (PRODUCT)
- 代替勘定科目 (ALTACCT)
- PC ビジネス ユニット (PC_BU_DEFN, PC_BUS_UNIT_OPT)
- プロジェクト ID (PROJECT)
- アクティビティ (FS_ACTIVITY_TBL)
- ソース タイプ (RESOURCE_TYPE)
- カテゴリ (PROJ_CATG_DEFN)
- サブカテゴリ (PROJ_SUBCAT_DEFN)
- 統計コード (STATISTICS_TBL)
- 予算参照 (BUDREF_PNL)
- クラス フィールド (CLASS_PNL)
- プログラム コード (PROGRAM_DEFINITION)
- チャートフィールド 1 (CHARTFIELD1)
- チャートフィールド 2 (CHARTFIELD2)
- チャートフィールド 3 (CHARTFIELD3)

データを個々のコンポーネント テーブルにロードするには、次のコンポーネント インターフェイスを使用します。

- シナリオ コンポーネントの各テーブルへデータをロードするには、BUDGET_SCENARIO コンポーネント インターフェイスを使用します。
- 勘定科目コンポーネントの各テーブルへデータをロードするには、ACCOUNT_CF コンポーネント インターフェイスを使用します。
- 業務ユニット コンポーネントの各テーブルへデータをロードするには、OPER_UNIT_CF コンポーネント インターフェイスを使用します。
- 資金コンポーネントの各テーブルへデータをロードするには、FUND_CF コンポーネント インターフェイスを使用します。
- 部門コンポーネントの各テーブルへデータをロードするには、DEPT_CF コンポーネント インターフェイスを使用します。
- 製品コンポーネントの各テーブルへデータをロードするには、PRODUCT_CF コンポーネント インターフェイスを使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 代替勘定科目コンポーネントの各テーブルへデータをロードするには、ALTACCT_CF コンポーネント インターフェイスを使用します。
- PC ビジネス ユニット コンポーネントの各テーブルへデータをロードするには、PROJECT_BU_OPTIONS コンポーネント インターフェイスを使用します。
- プロジェクト ID コンポーネントの各テーブルへデータをロードするには、PROJECT_CF コンポーネント インターフェイスを使用します。
- アクティビティ コンポーネントの各テーブルへデータをロードするには、PC_STD_ACT_INTFC コンポーネント インターフェイスを使用します。
- ソース タイプ コンポーネントの各テーブルへデータをロードするには、PC_RES_TYPE_INTFC コンポーネント インターフェイスを使用します。
- カテゴリ コンポーネントの各テーブルへデータをロードするには、PC_CATG_DEFN_INTFC コンポーネント インターフェイスを使用します。
- サブカテゴリ コンポーネントの各テーブルへデータをロードするには、PC_SUBCAT_DEFN_INTFC コンポーネント インターフェイスを使用します。
- 統計コードコンポーネントの各テーブルへデータをロードするには、STATISTICS_CODE コンポーネント インターフェイスを使用します。
- 予算参照コンポーネントの各テーブルへデータをロードするには、BUDGET_REF コンポーネント インターフェイスを使用します。
- クラス フィールド コンポーネントの各テーブルへデータをロードするには、CLASS_CF コンポーネント インターフェイスを使用します。
- プログラム定義コンポーネントの各テーブルへデータをロードするには、PROGRAM_CF コンポーネント インターフェイスを使用します。
- チャートフィールド 1 コンポーネントの各テーブルへデータをロードするには、CHARTFIELD1 コンポーネント インターフェイスを使用します。
- チャートフィールド 2 コンポーネントの各テーブルへデータをロードするには、CHARTFIELD2 コンポーネント インターフェイスを使用します。
- チャートフィールド 3 コンポーネントの各テーブルへデータをロードするには、CHARTFIELD3 コンポーネント インターフェイスを使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールドの定義に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
内容ページ	CF_LONG_DESCR	チャートフィールド値に関する長い説明と詳細情報を入力します。これは特に公的機関などで、提供者から指定されたとおりの資金名を入力する必要がある場合や、名称や説明が細かくて長いソースを入力する場合に便利です。
台帳コード ページ	BOOK_CODE	元帳行のサブセットを識別することで、同一元帳内で、異種会計環境の取引のさまざまな会計、記録、レポート要件を区別して管理します。
調整タイプ ページ	ADJUST_TYPE	前期の調整のさまざま会計処理に関連付ける調整タイプを定義します。
勘定科目ページ	GL_ACCOUNT	新しい勘定科目チャートフィールドの値を設定します。
代替勘定科目マッピング ページ	ACC_XREF	法人勘定科目チャートを 1 つ以上の法定勘定科目チャートにマップします。たとえば、国と地方の機関に対する法定会計および報告用に 1 つずつ勘定科目チャートを用意できます。
代替勘定科目ページ	ALTACCT	代替勘定科目値を追加します。
勘定科目へのマッピング ページ	ALT_XREF	代替勘定科目を 1 つ以上の勘定科目にマッピングします。
業務ユニット ページ	OPERATING_UNIT	工場、事業所、物理的な場所、支店、建物、店舗、病院、外来診療所、クリニック、地理的な場所などを識別する値を作成します。通常これは責任報告に関連します。
資金コード ページ	FUND_DEFINITION	全てのタイプの資金について値を定義します。
部門ページ	DEPARTMENT	業務ユニットを表す部門を追加します。多くの場合、責任会計に関連付けられます。
製品ページ	PRODUCT	製品コードを追加して、製品のパフォーマンスと財務情報を追跡します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
プロジェクト ページ	PROJECT_GL	プロジェクト値を追加して、チャートフィールド ステータスをアクティブまたは非アクティブに設定します。プロジェクト コスト管理をインストールしていない場合は、プロジェクトの開始日や終了日、プロジェクト マネージャ情報、プロジェクト ステータスなどを備忘録として追加できます。 プロジェクト コスト管理および全てのプロジェクト チャートフィールドを必要とするその他のアプリケーションをインストールしている場合、前述のチャートフィールド リストに記載されているコンポーネントを使用してチャートフィールド値とそのコントロール データを作成します。これらのコンポーネントおよびページについては、プロジェクト コスト管理のドキュメントに詳しく記載されています。
統計コード ページ	STATISTICS_TBL	統計コードを追加または変更し、金銭に関連しない情報を追跡します。
シナリオ ページ	BD_SCENARIO	さまざまな予算シナリオを定義します。
プログラム コード ページ	PROGRAM_DEFINITION	予算コントロールを適用する金額を追跡します。
クラス フィールド ページ	CLASS_PNL	資産、部門およびプログラムに同時に記録されるアクティビティをさらに細かいカテゴリに分類して、給与や部品などのクラス別の金額を追跡します。
予算参照ページ	BUDGET_REF	個々の予算が予算キーと重複する期間を共有している場合、それぞれの予算を一意に識別します。
チャートフィールド 1 ページ	CHARTFIELD1	チャートフィールド値を追加し、チャートフィールド値の詳細説明と略称を入力します。メニューで使用できるようにするには、標準チャートフィールド設定を使用してチャートフィールド 1 をアクティブにする必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
チャートフィールド 2 ページ	CHARTFIELD2	チャートフィールド値を追加し、チャートフィールド値の詳細説明と略称を入力します。メニューで使用できるようにするには、標準チャートフィールド設定を使用してチャートフィールド 2 をアクティブにする必要があります。 「チャートフィールド 1 ページ」を参照してください。
チャートフィールド 3 ページ	CHARTFIELD3	チャートフィールド値を追加し、チャートフィールド値の詳細説明と略称を入力します。メニューで使用できるようにするには、標準チャートフィールド設定を使用してチャートフィールド 3 をアクティブにする必要があります。 「チャートフィールド 1 ページ」を参照してください。
標準チャートフィールド設定ページ	STANDARD_CF_TMPLT	このページを使用するにはユーザー セキュリティが付与されている必要があります。チャートフィールドはアクティブにされていないと、ナビゲーション メニューに表示されません。関連チャートフィールドによって、関係会社チャートフィールドの値が決定されます。ユニット間関係会社チャートフィールドにはビジネス ユニットが必要です。アクティブのユニット内関係会社チャートフィールドにはそれぞれ、フィールド長が同じ固有のユニット内関連チャートフィールドを割り当てます。

チャートフィールド値の入力と管理について

現在または将来のアクセスのため、あるいは完全なオーディット トレールを維持しながらチャートフィールド値を非アクティブまたは変更できるようにするには、有効日とステータスの両方を使用して新しいチャートフィールド値を追加します。

注: 一部のチャートフィールドは非アクティブの状態で出荷されています。チャートフィールドはアクティブにしないとメニューに表示されません。アクティブ化は標準設定ページで行います。

チャートフィールドは全ての財務取引データの検索キーです。データ関係の整合性を維持するため、PeopleSoft ではチャートフィールド内の全ての値を削除してページを保存することは*できません*。ただし、チャートフィールド テーブルで各チャートフィールド値の最終行以外の行は削除できます。

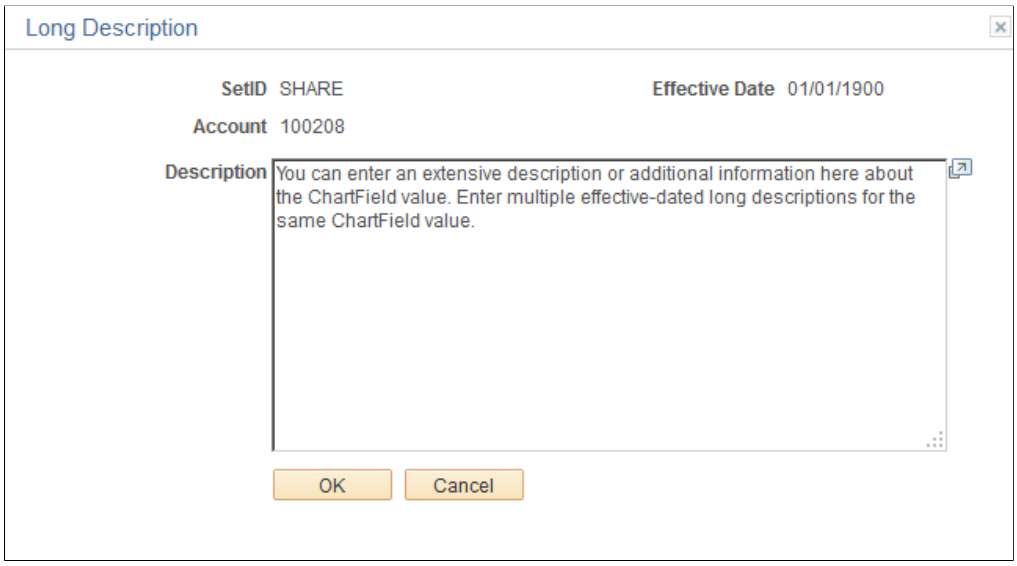
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: チャートフィールド値には、特殊文字や組み込みブランクを使用しないことをお勧めします。一般的に使用される英数字やアンダースコアを使用してください。チャートフィールド値を定義するときには基本的に、アポストロフィなどの特殊文字は使用せず、ブランクも含めないようにしてください。特殊文字やブランクが含まれていると問題が生じやすくなり、特に、配賦や組合せ編集、仮勘定会計などの一部のバッチ処理で問題を引き起こすことがあります。(この注意事項は、ビジネス ユニットや元帳、仕訳 ID にも該当します。)

内容ページ

画像: 内容ページ

次の例では、内容ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



新しいチャートフィールド値を入力するときにチャートフィールド ページの [内容] リンクをクリックすると、内容ページにアクセスして、特定のチャートフィールド値に関する長い説明または追加情報を入力できます。同一のチャートフィールド値に複数の有効日付きの長い説明を入力できます。[内容] の用途は情報提供のみです。

[内容] リンクは、各チャートフィールド入力ページにあります。ただし、PeopleSoft プロジェクト コスト管理がインストールされている場合、[チャートフィールド設定] メニュー内のプロジェクト ページに [内容] リンクが表示されません。プロジェクト関連チャートフィールドの詳細説明は、PeopleSoft プロジェクト コスト管理内で、関連するチャートフィールドの一般情報ページで入力します。

PeopleSoft プロジェクト コスト管理がない環境でプロジェクト チャートフィールドを使用する場合、プロジェクト ページ上のリンクを使用して、詳細説明を追加できます。

台帳コード ページ

台帳コード ページ (BOOK_CODE) を使用して元帳行のサブセットを識別することで、同一元帳内で、異種会計環境の取引のさまざまな会計、記録、レポート要件を区別して管理します。

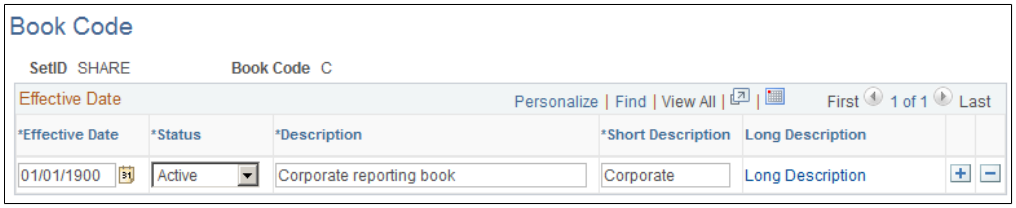
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [チャートフィールド値], [台帳コード]

画像: 台帳コード ページ

次の例では、台帳コード ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



台帳コードは勘定科目属性であり、貸借一致チャートフィールドです。台帳コードはインストール オプション - 基本設定ページでアクティブ化できます。台帳コードをアクティブにした場合、各勘定科目値に台帳コードを指定する必要があります。勘定科目ページで設定される [台帳コード上書き可] オプションにより、この台帳コードを取引行で上書きできるかどうかが決まります。

通常、会計基準は各国、各管轄権によって異なります。企業は自社の規則だけでなく地域の会計要件に従って自社の事業について記録および報告する義務がありますが、さらに国際的な管轄権の規制を受けることも多く、その場合、別の会計基準を適用しなければなりません。たとえば、地域の規則で規定されている台帳のオープン期間が企業の規則よりも長かったり、前期の調整に関する扱いが異なる場合もあります。

元帳コードおよび調整タイプ チャートフィールドと共に使用することで、オープン、クローズ期間が異なるさまざまな GAAP 間で共通台帳コードの取引を解決できます。台帳コードは貸借対照表属性と共に使用すると、*オン*バランスと*オフ*バランスの入力について適正な貸借一致を確保できます。

PeopleSoft には、会計処理ルールごとに別々の元帳を保持する機能や、代替勘定科目を使用してさまざまな法定規則に従って取引を記録する機能のほか、自動的に同期を行う複数帳簿の機能があります。しかし、台帳コードを使用することでエントリのセットを*同時に*生成できるため、*同一*元帳内で*同一*ビジネス ユニットの取引を複数の会計基準 (GAAP) に従って記録できます。たとえば、地域と企業の会計基準が異なる場合、地域 (L) と企業 (C) という台帳コードを定義します。要件がほぼ同じである場合は、両方 (B) というコードを定義します。これらの台帳コードを属性として勘定科目に関連付けます。これにより勘定科目のグループが作成され、関連する取引を地域、企業または両方のルールに従って同時に記録できます。

1 つの台帳コードを 1 つの勘定科目値を関連付けることもできます。この方法では、台帳コード インスタンスの数だけ勘定科目値を作成する必要があります。たとえば、関連する金額を同じ元帳に記録しながら実質的には異なる台帳に記録するようにするには、勘定科目 500001 には台帳コード C、勘定科目 500002 には台帳コード L、勘定科目 500003 には台帳コード B をそれぞれ関連付けます。この方法を選択すると勘定科目を入力するときに、仕訳入力ページで台帳コードが読取専用フィールドとして表示されるため、仕訳入力時に台帳コードを変更できません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft には [台帳コード上書き可] オプションがあり、これを使用すると仕訳入力時に台帳コードと勘定科目の別の組合せを選択できます。これにより、任意の台帳コードを勘定科目値に関連付け、該当の金額を同じ元帳に記録できます。たとえば、台帳コード C、L、B を勘定科目 500001 に関連付けることができます。この方法の最大のメリットは必要になる勘定科目値が少なくなることです。勘定科目に関連付けることのできる台帳コードは、仕訳入力時にドロップダウン リストに表示されます。

台帳コード 値を追加または選択します。[有効日] と [ステータス] フィールドは、勘定科目ページで台帳コードを属性として割り当てた勘定科目値と同じ設定にする必要があります。

調整タイプ ページ

調整タイプ ページ (ADJUST_TYPE) を使用して、前期の調整のさまざま会計処理に関連付ける調整タイプを定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [チャートフィールド値], [調整タイプ]

画像: 調整タイプ ページ

次の例では、調整タイプ ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



調整タイプは貸借一致チャートフィールドとして用意されています。これを元帳コードおよび台帳コードと共に使用することで、複数の会計処理ルール環境を持つ組織は取引を容易に記録できるようになります。元帳コードごとにオープン期間を更新することを選択した場合、他の元帳コードよりも早くクローズする元帳コードに調整タイプ値を指定する必要があります。これを行うことで、複数の GAAP 共通の台帳コード内で発生した取引が既にクローズした元帳コードに属している場合に、システムはその元帳コードに関連付けられている調整タイプに調整を生成し、その取引を効率的にオープン期間に移動することができます。

調整タイプ 勘定科目を共有している元帳コードと台帳コードの組合せの中で、クローズ日や前期調整の指定が異なる別の会計処理ルールに所属している (複数の GAAP) 各組合せに使用するタイプを作成します。

関連リンク

Understanding Multiple GAAPs and Prior Period AdjustmentsPeopleSoft Global Options and Reports

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

勘定科目ページ

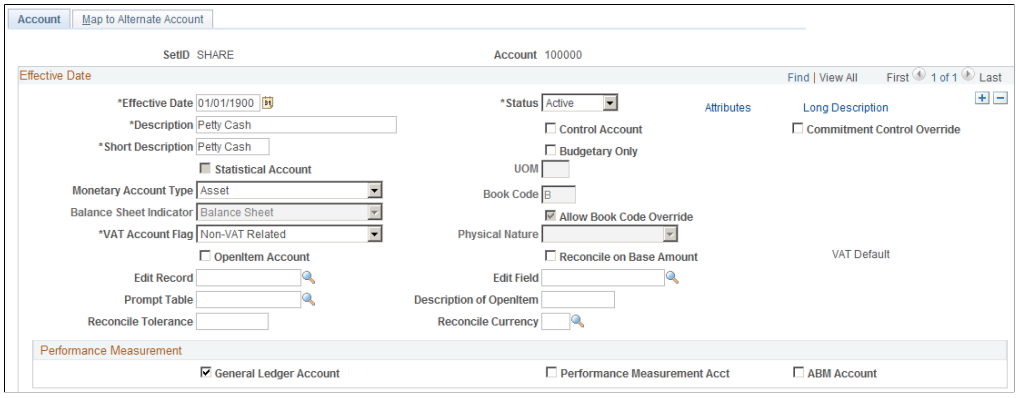
勘定科目ページ (GL_ACCOUNT) を使用して、新しい勘定科目チャートフィールド値を設定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [チャートフィールド値], [勘定科目]

画像: 勘定科目ページ

次の例では、勘定科目ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



勘定科目値はその他のチャートフィールド値と共に使用されて、仕訳入力を作成します。

統計科目

面積や人員数などの統計データを追跡する場合に選択します。統計科目は統計値の取得にのみ使用され、金額の取得には使用されません。このチェック ボックスをオンに設定した場合は、単位 (UOM) を指定する必要があります。

[残高繰越] チェック ボックスが自動的に使用可能になり、デフォルトでオンに設定されます。収益や費用に関連する統計勘定など、繰り越さない勘定科目のチェック ボックスをオフにして、このデフォルトを上書きできます。

勘定科目タイプ

勘定科目タイプ ページで定義した値から選択します。

消費税勘定科目

この勘定科目値の消費税処理との関連を示す、次のいずれかの値を選択します。

消費税関連外: 消費税処理には使用されません。

消費税勘定科目: 算出消費税が適用される勘定科目。仕訳入力内の消費税該当勘定科目、および消費税環境とオプションに設定した値に基づき、消費税勘定科目の仕訳入力が計算され、自動的に生成されます。消費税勘定科目行を仕訳入力に直接入力することもできます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

消費税適用勘定科目: 仕訳入力を追加する金銭的な勘定科目。

物理特性

消費税関連の勘定科目について、オブジェクトが*商品*であるか*サービス*であるかを示します。商品とサービスの販売および購入について別々の報告が義務付けられている国が多数あります。

勘定科目値に対してここで設定した値が物理特性設定のデフォルトになるとは限りません。消費税デフォルト階層に従って、仕訳ソースやビジネス ユニットの設定からデフォルト値が決まる場合もあります。デフォルトは仕訳行で上書きできます。

消費税デフォルト

消費税関連の勘定科目では、このリンクをクリックして消費税デフォルト設定コンポーネントにアクセスし、この勘定科目の消費税設定を定義または上書きできます。消費税処理は元帳に直接入力された売掛金以外および買掛金以外のアイテムに使用できます。消費税デフォルト設定コンポーネント

Establishing VAT DefaultsPeopleSoft Global Options and Reportsを参照してください。

仮勘定科目

仮勘定科目処理をアクティブ化して、この勘定科目に転記される借方と貸方を追跡し一致させる場合に選択します。このオプションを選択した場合、6 つの関連フィールドへの入力が必要になります。このチェック ボックスをオフにした場合、関連フィールドに入力した情報は保持されず、ページの保存時に選択が解除されます。

注: 仮勘定科目を消費税関連勘定科目にすることはできません。

基本金額での照合

仮勘定の照合処理で、基本金額の残額がゼロおよび取引 (外貨) 金額の残額がゼロの仮勘定をクローズする場合は、このチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオフにした場合、処理時に取引 (外貨) 金額の残額しか認識されず、取引 (外貨) 金額の残額がゼロの仮勘定しかクローズされません。

編集レコード

仮勘定科目検索キーの検証に使用するテーブル名を選択します。たとえば、仮勘定科目キーが従業員 ID である場合は、有効な従業員 ID のリストを含むテーブル (EMPLOYEE_TBL など) を入力します。

編集フィールド

仮勘定科目キーとの照合を行う編集レコード内のフィールド名を入力します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プロンプト テーブル

この勘定科目の現在の実際の仮勘定行を返すプロンプト テーブルの名前を入力します。

仮勘定名称

プロンプト リスト、レポートおよびオンライン照会に表示する説明を入力します。通常これは、仕訳入力ページの [参照] フィールドで指定する必要のある仮勘定科目キーを識別するために使用されます。

照合許容金額、照合通貨

許容金額を入力し、使用する照合通貨を選択します。差額がこの許容金額以下である場合は、仮勘定科目行をクローズできます。バックグラウンド照合の場合、許容はなしです。差額はゼロである必要があります。

GL 勘定科目、パフォーマンス測定、ABM 勘定

PeopleSoft Enterprise Performance Management (EPM) を使用している場合のみ、[GL 勘定科目]、[PF 勘定] (勘定) および [ABM 勘定] (アクティビティ ベース マネジメント勘定科目) チェック ボックスをオンにします。

Understanding Cost StructurePeopleSoft Cost Management を参照してください。

属性

リンクをクリックして、このトピックで説明したチャートフィールド属性ページにアクセスします。

内容

リンクをクリックして、このトピックで説明した内容ページにアクセスします。

コントロール勘定

この勘定科目を、仕訳ジェネレータまたは*サードパーティシステムからのロード処理*による更新のみを許可するコントロール勘定にする場合に選択します。これを指定する目的は、一般会計内で勘定科目に対する手動またはオンライン入力を防止することです。

勘定科目チャートフィールドは、コントロール勘定の指定が同じ代替勘定科目チャートフィールドにのみマッピングできます。

システムによって一般会計に転記された供給側アプリケーション内 (買掛金管理など) の詳細が、要約されてコントロール勘定に反映されます。たとえば、買掛金のコントロール勘定は、買掛金システム内のサプライヤごとの金額を合計し、これを買掛金詳細アクティビティのサマリとして一般会計に提供します。*コントロール勘定を更新できるのは仕訳ジェネレータのみです。*

予算目的のみ

勘定科目値が予算目的でのみ使用される場合に選択します。この勘定科目に実際の取引入力を記録できなくなります。予算目的のみの機能は、全て設定可の全てのチャートフィールドで使用できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

コミットメント コントロール上書き コミットメント コントロールを使用している場合で、この勘定科目に自動上書きを指定する場合に選択します。これが適用されるのは、*予算超過*などの上書き可能なエラーのみです。*予算なし*など、上書きできないエラーは上書きされません。この上書きは取引の上書きと同様で、編集を通過するには少なくとも金額ゼロの予算が必要です。

台帳コード インストール オプション - 基本設定ページで台帳コードを有効にした場合、この勘定科目値のほとんどの使用ケースに該当する適切なデフォルト台帳コードを入力する必要があります。

台帳コード上書き可 このチェック ボックスはデフォルトでオンであり、取引行でこの勘定科目のデフォルトの台帳コードの上書きを可能にします。勘定科目値にデフォルト台帳コードを常に関連付け、取引行での変更を許可しない場合は、このチェック ボックスをオフにします。

貸借対照表 インストール オプション - 基本設定ページでオンにすると、勘定科目をオフバランスまたはオンバランスとして指定できます。

関連リンク

チャートフィールド属性ページ
Understanding Open Item AccountingPeopleSoft General Ledger
[貸借対照表] と [台帳コード] の使用

代替勘定科目マッピング ページ

代替勘定科目マッピング ページ (ACC_XREF) を使用して、法人勘定科目チャートを 1 つ以上の法定勘定科目チャートにマップします。

たとえば、国と地方の機関に対する法定会計および報告用に 1 つずつ勘定科目チャートを用意できます。

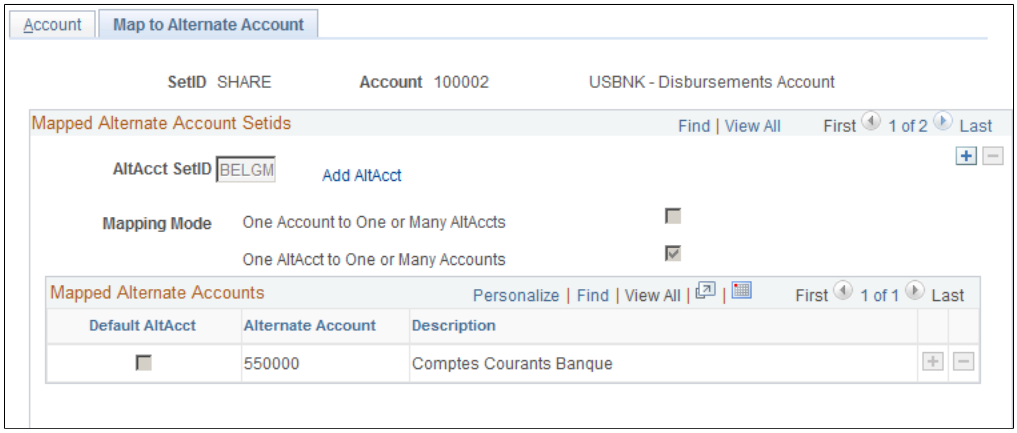
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [チャートフィールド値], [勘定科目], [代替勘定科目マッピング]

画像: 代替勘定科目マッピング ページ

次の例では、代替勘定科目マッピング ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



代替勘定科目セットID 勘定科目を関連付ける代替勘定科目のセットID を入力します。

代替勘定科目追加 クリックして代替勘定科目ページにアクセスし、新しい代替勘定科目を追加します。このページについては後述します。

マッピング モード これはシステム デフォルトで、値は変更できません。

[1 つの勘定科目を 1 つまたは複数の代替勘定科目へ] は、1 つの勘定科目値を 1 つまたは複数の代替勘定科目値にマッピングすることを意味します。1 つの勘定科目値を複数の代替勘定科目にマッピングできます。

[1 つの代替勘定科目を 1 つまたは複数の勘定科目へ] は、1 つの代替勘定科目値を 1 つまたは複数の勘定科目値へマッピングすることを意味します。勘定科目値を 1 つの代替勘定科目にのみマッピングできます。

注: 勘定科目値を 1 つ以上の代替勘定科目にマッピングしない限り、マッピング モード設定は更新されません。勘定科目へのマッピング ページで勘定科目を 1 つの代替勘定科目にマッピングしたことがある場合、マッピング モードが既に選択されている可能性があります。1 つ以上の代替勘定科目を追加して、代替勘定科目の 1 つにデフォルトを選択したときに、システムによって [1 つの勘定科目を 1 つまたは複数の代替勘定科目へ] が選択されます。また、勘定科目または代替勘定科目にマッピングする各セットID に対して、デフォルトの勘定科目または代替勘定科目を指定する必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

マッピング済代替勘定科目 スクロールの矢印を使用して勘定科目にマッピングする代替勘定科目を選択します。取引ページで勘定科目値を入力するときに使用できるのは、このスクロールで選択した代替勘定科目値のみです。

デフォルト代替勘定科目 この代替勘定科目を取引入力ページのデフォルトにする場合は、チェック ボックスをオンにします。

代替勘定科目 勘定科目にマッピングする代替勘定科目を選択します。代替勘定科目の説明はシステムによって自動的に入力されます。

代替勘定科目ページ

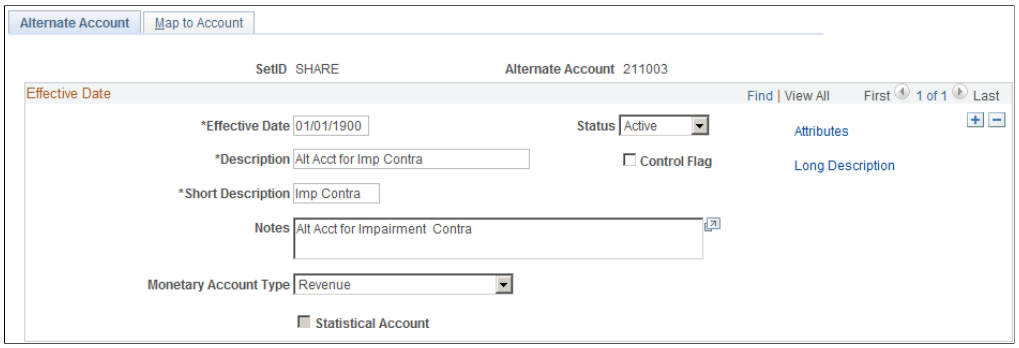
代替勘定科目ページ (ALTACCT) を使用して代替勘定科目値を追加します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [チャートフィールド値], [代替勘定科目]

画像: 代替勘定科目ページ

次の例では、代替勘定科目ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



詳細説明 代替勘定科目の目的や用途、および転記される取引のタイプの説明を任意で入力できます。

注: 別のセットID が設定されていない限り、代替勘定科目チャートフィールドをマッピングできるのは同じ属性の勘定科目チャートフィールドのみです。

勘定科目タイプ 勘定科目タイプ ページであらかじめ定義したタイプから選択します。

統計科目 このチェック ボックスをオンにすると、金額が通貨額ではなく統計値として使用されます。このチェック ボックスをオンに設定した場合は、単位を指定する必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

属性 リンクをクリックして、チャートフィールド属性ページにアクセスします。

コントロール フラグ このチェック ボックスをオンに設定すると、仕訳ジェネレータによってのみ、この代替勘定科目を更新可能であることを示します。コントロール勘定科目は、アプリケーションに記録された明細のサマリを表します。たとえば、買掛金のコントロール勘定は、買掛金システム内のサプライヤごとの金額を合計して、これを買掛金アクティビティのサマリとして提供します。

関連リンク

代替勘定科目について
Setting Up for Journal Entries Using StatisticsPeopleSoft General Ledger

勘定科目へのマッピング ページ

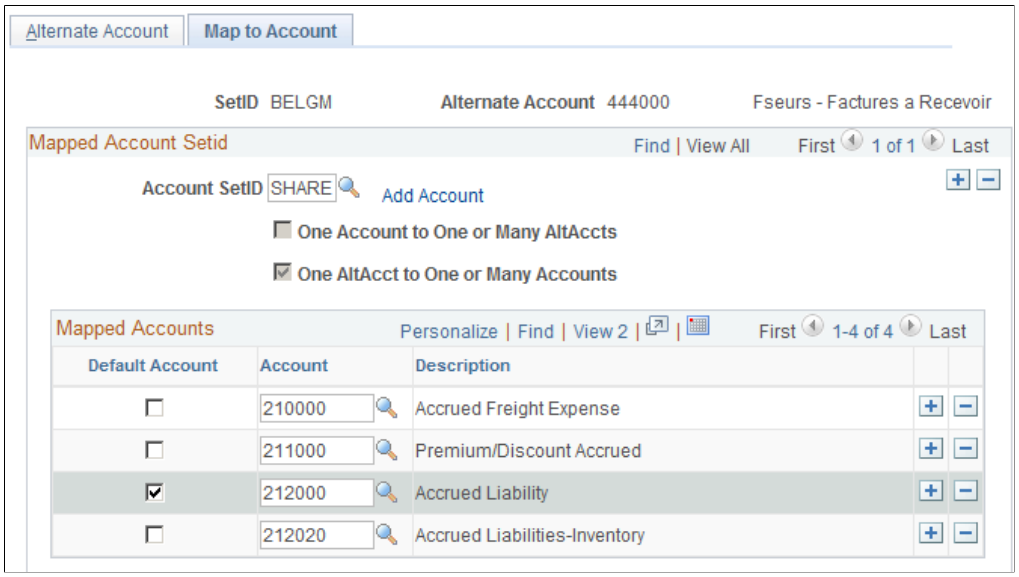
勘定科目へのマッピング ページ (ALT_XREF) を使用して、代替勘定科目を 1 つ以上の勘定科目にマッピングします。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [チャートフィールド値], [代替勘定科目], [勘定科目へのマッピング]

画像: 勘定科目へのマッピング ページ

次の例では、勘定科目へのマッピング ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

勘定科目セットID 代替勘定科目を関連付ける勘定科目のセットID を入力します。

勘定科目の追加 リンクをクリックして勘定科目ページにアクセスし、新しい勘定科目チャートフィールド値を追加します。

マッピング モード これはシステム デフォルトです。値は変更できません。

- [1 つの勘定科目を 1 つまたは複数の代替勘定科目へ] は、1 つの勘定科目値を 1 つまたは複数の代替勘定科目値にマッピングすることを意味します。代替勘定科目値を 1 つの勘定科目にのみマッピングできます。
- [1 つの代替勘定科目を 1 つまたは複数の勘定科目へ] は、1 つの代替勘定科目値を 1 つまたは複数の勘定科目値へマッピングすることを意味します。この代替勘定科目値を複数の勘定科目にマッピングできます。

注: 代替勘定科目を 1 つ以上の勘定科目にマッピングしない限り、マッピング モードは更新されません。代替勘定科目マッピング ページで代替勘定科目を 1 つの勘定科目にマッピングしたことがある場合、マッピング モードが既に選択されている可能性があります。1 つ以上の勘定科目を追加して、勘定科目の 1 つにデフォルト勘定科目を選択したときに、システムによって [1 つの代替勘定科目を 1 つまたは複数の勘定科目へ] が選択されます。

マッビング済勘定科目 スクロールの矢印を使用して代替勘定科目にマッピングする勘定科目を選択します。取引ページで代替勘定科目値を入力するときに使用できるのは、このスクロールで選択した勘定科目値のみです。

デフォルト勘定科目 この勘定科目を取引入力ページのデフォルト勘定科目にする場合はオンにします。

勘定科目 代替勘定科目にマッピングする各勘定科目値を入力します。勘定科目の説明はシステムによって自動的に入力されます。

業務ユニット ページ

業務ユニット ページ (OPERATING_UNIT) を使用して、工場、事業所、物理的な場所、支店、建物、店舗、病院、外来診療所、クリニック、地理的な場所などを識別する値を作成します。通常これは責任報告に関連します。

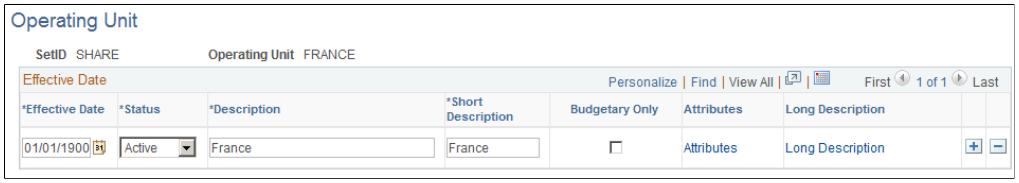
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [チャートフィールド値], [業務ユニット]

画像: 業務ユニット ページ

次の例では、業務ユニット ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このチャートフィールド値を使用して、工場、事業所、物理的な場所、支店、建物、店舗、病院、外来診療所、クリニック、地理的な場所などを識別します。通常このチャートフィールドは責任報告に関連します。また、税金関連の報告で利用したり、国や都道府県、市町村レベルで損益計算書 (P&L) や貸借対照表を作成する場合にも使用できます。

予算目的のみ 値が予算目的でのみ使用される場合に選択します。この業務ユニットに、ほとんどの製品の実際の取引を記録できなくなります。一般会計では仕訳入力時に予算目的と予算目的ではない値のいずれも選択できますが、仕訳編集時に元帳タイプに対する検証が行われます。予算目的のみの機能は、全て設定可の全てのチャートフィールドで使用できます。

属性 このリンクをクリックして、チャートフィールド属性ページにアクセスします。

資金コード ページ

資金コード ページ (FUND_DEFINITION) を使用して、全てのタイプの資金について値を定義します。

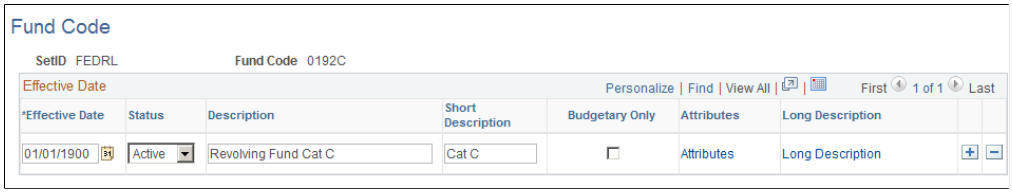
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [チャートフィールド値], [資金コード]

画像: 資金コード ページ

次の例では、資金コード ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



資金は、教育/公的機関の会計処理における基本的な構成単位です。資金は貸借一致の勘定科目セットとして管理され、財務報告書の作成に使用されます。

資金コードは貸借一致チャートフィールドで、資金コード ページを使用して全てのタイプの資金を作成します。

名称 資金名と関連する詳細を示すために使用します。

予算目的のみ 資金値が予算目的でのみ使用される場合に選択します。この資金に実際の取引入力を記録できなくなります。予算目的のみの機能は、全て設定可の全てのチャートフィールドで使用できます。

属性 このリンクをクリックして、チャートフィールド属性ページにアクセスします。

部門ページ

部門ページ (DEPARTMENT) を使用して、業務ユニットを表す部門を追加します。

多くの場合、責任会計に関連付けられます。

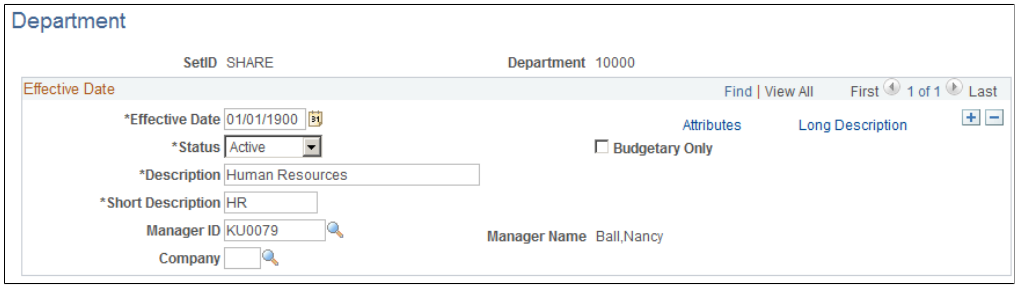
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [チャートフィールド値], [部門]

画像: 部門ページ

次の例では、部門ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



一般的に、部門は、組織を大きな単位で分類した区分 (事業部、業務ユニット、大学内の学部、関係官庁の支局など) を表します。通常、部門では予算と責任会計が重要視されます。

ステータス 部門の現在のステータスとして *[アクティブ]* または *[非アクティブ]* を選択します。

名称と略称 名称と略称を入力します。これらのフィールドはページとレポート上に表示されます。

属性 このリンクをクリックして、チャートフィールド属性ページにアクセスします。

予算目的のみ 部門値が予算目的でのみ使用される場合に、このチェック ボックスをオンにします。この部門に実際の取引入力を記録できなくなります。予算目的のみの機能は、全て設定可の全てのチャートフィールドで使用できます。

管理者 ID 個人データ ページで入力した ID のリストから選択します。システムによって [管理者名] フィールドに名前が自動的に挿入されます。ユーザーがこれを変更することはできません。または、管理者名のみ入力します。テーブルに手動で入力した名前はシステムによって編集されることはありません。

会社 この部門の所属先であり報告先である給与支払企業。給与支払企業を使用して、従業員の給与が算出されます。従業員の適切な給与レートを検索するため、システムは部門と州も使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: 複数の会社で構成される組織で、1 つの部門を複数の会社で共有する場合は、このフィールドを空白にしておきます。このフィールドは PeopleSoft Staffing Front Office がインストールされている場合にのみ表示されます。

製品ページ

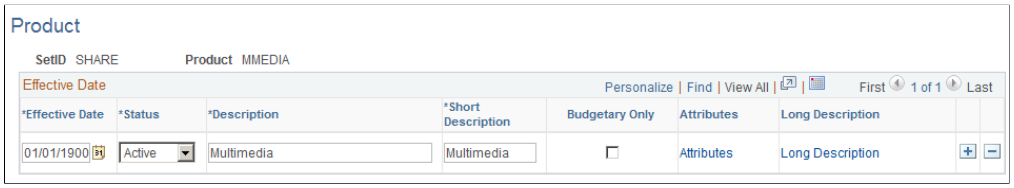
製品ページ (PRODUCT) を使用して製品コードを追加し、製品のパフォーマンスと財務情報を追跡します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [チャートフィールド値], [製品]

画像: 製品ページ

次の例では、製品ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



予算目的のみ 値が予算目的でのみ使用される場合に選択します。この製品に、ほとんどの製品の実際の取引を記録できなくなります。一般会計では仕訳入力時に予算目的と予算目的ではない値のいずれも選択できますが、仕訳編集時に元帳タイプに対する検証が行われます。予算目的のみの機能は、全て設定可の全てのチャートフィールドで使用できます。

属性 このリンクをクリックして、チャートフィールド属性ページにアクセスします。

プロジェクト ページ

プロジェクト ページ (PROJECT_GL) を使用して、プロジェクト値を追加し、チャートフィールド ステータスをアクティブまたは非アクティブに設定します。

プロジェクト コスト管理をインストールしていない場合は、プロジェクトの開始日や終了日、プロジェクト マネージャ情報、プロジェクト ステータスなどを備忘録として追加できます。プロジェクト コスト管理および全てのプロジェクト チャートフィールドを必要とするその他のアプリケーションをインストールしている場合、前述のチャートフィールド リストに記載されているコンポーネントを使用してチャートフィールド値とそのコン

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

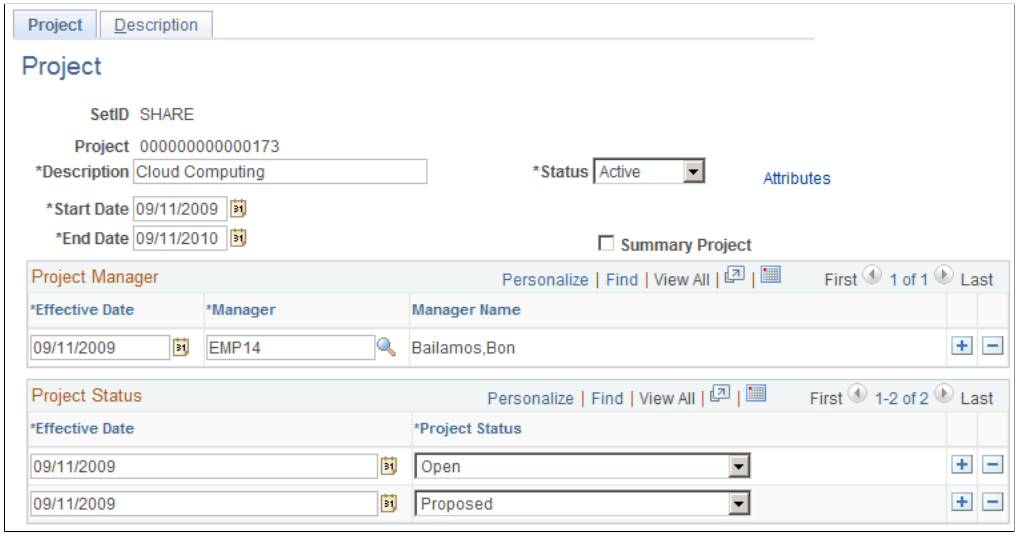
トロール データを作成します。これらのコンポーネントおよびページについては、プロジェクト コスト管理のドキュメントに詳しく記載されています。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [チャートフィールド値], [プロジェクト], [プロジェクト]

画像: プロジェクト ページ - PeopleSoft プロジェクト コスト管理アプリケーションがインストールされていない場合

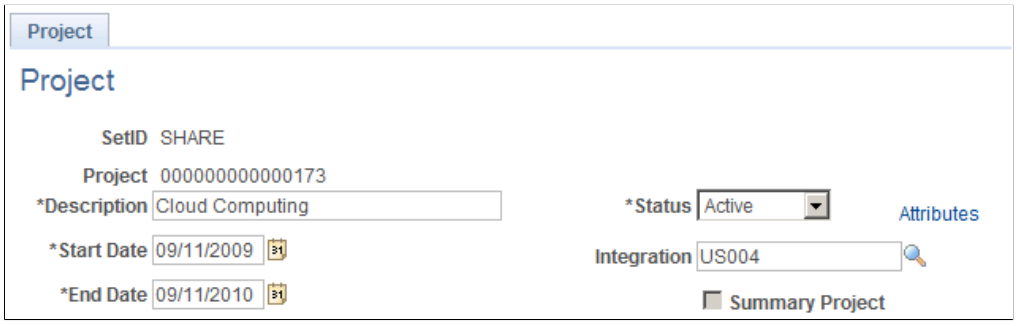
次の例では、プロジェクト ページのフィールドおよびコントロールを説明します (PeopleSoft プロジェクト コスト管理アプリケーションがインストールされていない場合)。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このページは、インストール オプション - 製品ページでプロジェクト コスト管理が選択されていない場合に表示されます。

画像: プロジェクト ページ - PeopleSoft プロジェクト コスト管理アプリケーションがインストールされている場合

次の例では、プロジェクト ページのフィールドおよびコントロールを説明します (PeopleSoft プロジェクト コスト管理アプリケーションがインストールされている場合)。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このページは、プロジェクト コスト管理がシステムにインストールされていて、さらに、インストール オプション - 製品ページで選択されている場合に表示されます。

6 つのチャートフィールドのうち [プロジェクト] 値は、チャートフィールド属性値ページを使用して選択し設定できます。他の 5 つのチャートフィールドは定義済で、コントロールはプロジェクト コスト管理アプリケーションを使用して設定されます。他の 5 つのプロジェクトチャートフィールドは、プロジェクト コスト管理のドキュメントに記載されているページを使用して定義します。

PeopleSoft Project Costing ImplementationPeopleSoft Project Costingを参照してください。

プロジェクト コスト管理アプリケーションがある場合でもない場合でも、プロジェクト ID チャートフィールドは使用できます。このオプションによってページの設定が異なります。

注: プロジェクト コスト管理を使用している場合、説明タブと、プロジェクト管理者およびプロジェクト ステータスに関連付けられているフィールドがプロジェクト ページに表示されません。これは、これらのコントロールの入力と管理がプロジェクト コスト管理アプリケーションのページで行われるためです。また、一般会計や統合データベース内のその他のアプリケーションでプロジェクト ID を使用した場合、作成元がどこであるかに関係なく、プロジェクト ID は標準チャートフィールド編集で検証されます。このような重要な考慮事項については、プロジェクト コスト管理、一般会計および供給システムの統合と設定に関するプロジェクト コスト管理のドキュメントに詳しく記載されています。

インテグレーション

プロジェクトとプロジェクト レベルに対して、インテグレーション テンプレートを選択します。

ステータス

チャートフィールド編集ではこの値を使用してプロジェクト ID 値がアクティブか非アクティブであるかを判別します。

開始日 と 終了日

PeopleSoft プロジェクト コスト管理をインストールして*いない*場合、これらのフィールドはメモとしての役割しかなく、一般会計処理で使用されることはありません。

注: どの編集でもこれらの日付は任意であり、コミットメント コントロール予算処理による予算チェックでこれらの日付が使用されることはありません。

プロジェクト マネージャ

プロジェクト コスト管理をインストールして*いない*場合、これらのフィールドにプロジェクト マネージャ ID を指定し、マネージャ名と入力の有効日を表示させることができます。プロジェクト コスト管理を使用している場合、これらのフィールドはこのページに表示されません。

プロジェクト ステータス

プロジェクト コスト管理をインストールして*いない*場合、有効日を入力し、プロジェクトのさまざまなライフサイクルを示すプロジェクト ステータスを選択できます (*[提案中]*、*[予算計上済]*、*[保留]*、*[オープン]*、*[終了]*など)。プロジェクト コスト管理を使用している場合、これらのフィールドはこのページに表示されません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: これらのフィールドはメモとしての役割しかなく、一般会計処理に使用されることはありません。このページで同様に設定されるチャートフィールド ステータス (アクティブまたは非アクティブ) を使用するチャートフィールド編集や、予算の開始日と終了日を使用するコミットメント コントロールの予算チェックとこれらのフィールドを混同しないようにしてください。

属性 選択して、チャートフィールド属性ページにアクセスします。

注: 通常、属性は自身の関連付け先のチャートフィールド値と有効日設定を共有しますが、プロジェクト チャートフィールドには有効日がありません。プロジェクト チャートフィールド属性にはデフォルトの有効日 01/01/1900 が自動的に割り当てられます。

サマリ プロジェクト このオプションを選択すると、コミットメント コントロールでプロジェクト ID 値が、予算の詳細取引レベルではなく予算サマリ レベルで使用されます。プロジェクト コスト管理製品がインストールされている場合、プロジェクト ID 値はロールアップまたはサマリ レベルのプロジェクトであり詳細アクティビティには使用されないことを示す効果があります。

Grants

プロジェクト値を設定および管理して grants を追跡することもできます。

製品ドキュメントの『*PeopleSoft Grants*』を参照してください。

統計コード ページ

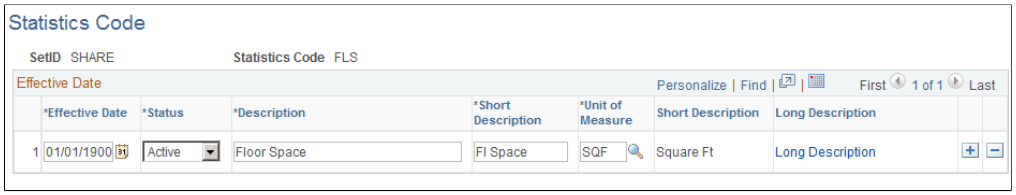
統計コード ページ (STATISTICS_TBL) を使用して、統計コードを追加または変更し、金銭に関連しない情報を追跡します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [チャートフィールド値], [統計コード]

画像: 統計コード ページ

次の例では、統計コード ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

統計を使用して、金銭に関連しないさまざまな値を追跡できます。統計コードを使用して統計値が管理され、財務分析やレポートに活用されます。統計コードを使用する場合は、単位も設定する必要があります。

単位 入力した統計値を保存するデフォルトの単位を選択します。仕訳行でデフォルトとは異なる単位で値を入力した場合、単位ページで単位変換率を定義していれば、ここで指定した単位に自動的に単位が変換されます。

関連リンク

計測単位ページ
Understanding Statistical JournalsPeopleSoft General Ledger

シナリオ ページ

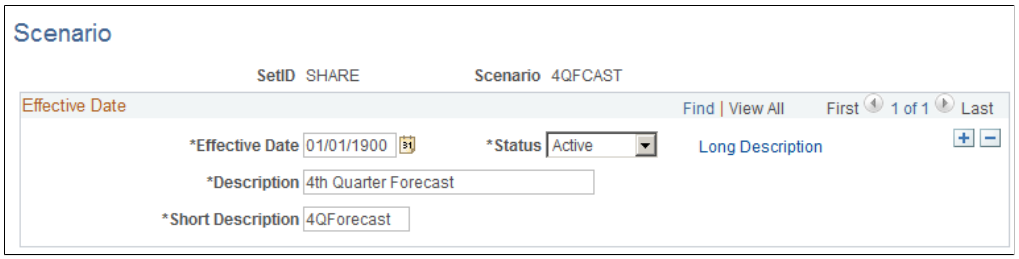
シナリオ ページ (BD_SCENARIO) を使用して、さまざまな予算を定義できます。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [チャートフィールド値], [シナリオ]

画像: シナリオ ページ

次の例では、シナリオ ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



さまざまな予算のバージョンを*シナリオ*を使用して簡単に追跡できます。シナリオは、使用している仮定が異なる複数の予算を識別するために使用するチャートフィールド値です。

関連リンク

Understanding General Ledger Standard BudgetsPeopleSoft General Ledger
PeopleSoft Commitment Control ImplementationPeopleSoft Commitment Control

プログラム コード ページ

プログラム コード ページ (PROGRAM_DEFINITION) を使用して、予算コントロールを適用する金額を追跡します。

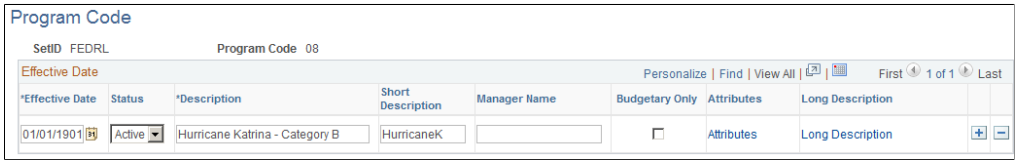
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [チャートフィールド値], [プログラム コード]

画像: プログラム コード ページ

次の例では、プログラム コード ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



これらの値は、有毒廃棄物の除去プログラムや大学の研究活動など、予算コントロールを適用する収益と費用を識別し追跡する場合に適しています。

管理者名 通常プログラムは責任会計に関連します。

予算目的のみ 値が予算目的でのみ使用される場合に選択します。このプログラムに、ほとんどの製品の実際の取引を記録できなくなります。一般会計では仕訳入力時に予算目的と予算目的ではない値のいずれも選択できますが、仕訳編集時に元帳タイプに対する検証が行われます。予算目的のみの機能は、全て設定可の全てのチャートフィールドで使用できます。

属性 選択して、チャートフィールド属性ページにアクセスします。属性は自身の関連付け先のチャートフィールド値と有効日設定を共有します。

クラス フィールド ページ

クラス フィールド ページを使用します。

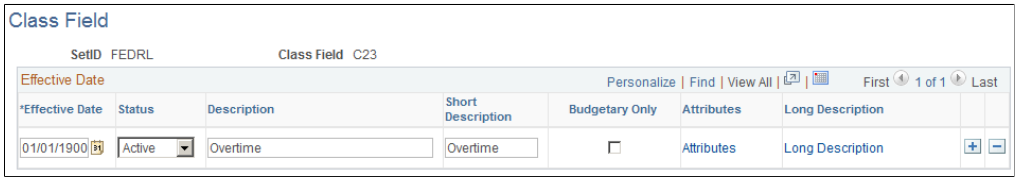
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [チャートフィールド値], [クラス フィールド]

画像: クラス フィールド ページ

次の例では、クラス フィールド ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



クラス値を使用して資産、部門およびプログラムに同時に記録されるアクティビティをさらに細かいカテゴリに分類して、給与や部品などのクラス別の金額を追跡します。

予算目的のみ 値が予算目的でのみ使用される場合に選択します。このクラスフィールドに、ほとんどの製品の実際の取引を記録できなくなります。一般会計では仕訳入力時に予算目的と予算目的ではない値のいずれも選択できますが、仕訳編集時に元帳タイプに対する検証が行われます。予算目的のみの機能は、全て設定可の全てのチャートフィールドで使用できます。

属性 選択して、チャートフィールド属性ページにアクセスします。属性は自身の関連付け先のチャートフィールド値と有効日設定を共有します。

予算参照ページ

予算参照ページ (BUDGET_REF) を使用して、個々の予算が予算キーと重複する期間を共有している場合、それぞれの予算を一意に識別する際に使用します。

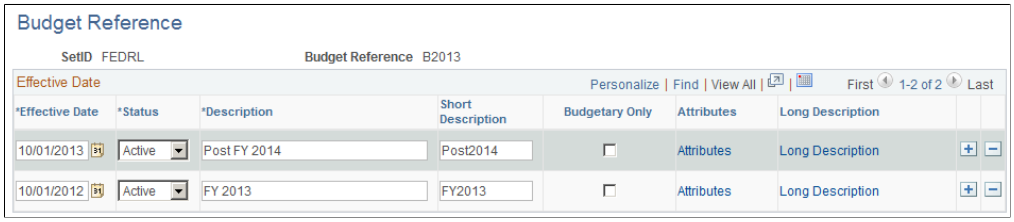
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [チャートフィールド値], [予算参照]

画像: 予算参照ページ

次の例では、予算参照ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



個々の予算を識別するために使用します。個々の予算が予算キーと重複する予算期間を共有している場合に必要です。予算参照値を貸借一致チャートフィールドとして使用すると、予算ごとに貸借が一致する台帳セットを維持できます。

予算目的のみ 値が予算目的でのみ使用される場合に選択します。この値に、ほとんどの製品の実際の取引を記録できなくなります。一般会計では仕訳入力時に予算目的と予算目的ではない値のいずれも選択できますが、仕訳編集時に元帳タイプに対する検証が行われます。予算目的のみの機能は、全て設定可の全てのチャートフィールドで使用できます。

属性 選択して、チャートフィールド属性ページにアクセスします。属性は自身の関連付け先のチャートフィールド値と有効日設定を共有します。

関連リンク

Setting Commitment Control Installation OptionsPeopleSoft Commitment Control
Setting Commitment Control OptionsPeopleSoft Commitment Control

チャートフィールド 1 ページ

チャートフィールド 1 ページ (CHARTFIELD1) を使用して、チャートフィールド値を追加し、チャートフィールド値の詳細説明と略称を入力します。

メニューで使用できるようにするには、標準チャートフィールド設定を使用してチャートフィールド 1 をアクティブにする必要があります。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [チャートフィールド値], [チャートフィールド 1]

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド 2 ページ (CHARTFIELD2) を使用して、チャートフィールド値を追加し、チャートフィールド値の詳細説明と略称を入力します。

メニューで使用できるようにするには、標準チャートフィールド設定を使用してチャートフィールド 2 をアクティブにする必要があります。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [チャートフィールド値], [チャートフィールド 2]

チャートフィールド 3 ページ (CHARTFIELD3) を使用して、チャートフィールド値を追加し、チャートフィールド値の詳細説明と略称を入力します。

メニューで使用できるようにするには、標準チャートフィールド設定を使用してチャートフィールド 3 をアクティブにする必要があります。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [チャートフィールド値], [チャートフィールド 3]

PeopleSoft にはすぐに設定できる拡張チャートフィールドが 3 つ用意されています。チャートフィールドが追加で必要になった場合は、新しいチャートフィールドを追加する代わりに、これらの拡張フィールドをアクティブ化できます。チャートフィールド 1、2 および 3 は標準チャートフィールド設定ページでアクティブ化します。

注: 3 つの拡張チャートフィールドでは足りない場合は、チャートフィールド設定 - 詳細を使用してさらにチャートフィールドを追加できます。

関連リンク

PeopleSoft チャートフィールド設定について

標準チャートフィールド設定ページ

標準チャートフィールド設定ページ (STANDARD_CF_TMPLT) を使用するには、このページを使用するユーザー セキュリティが付与されている必要があります。

チャートフィールドはアクティブにされていないと、ナビゲーション メニューに表示されません。関連チャートフィールドによって、関係会社チャートフィールドの値が決定されます。ユニット間関係会社チャートフィールドにはビジネス ユニットが必要です。アクティブのユニット内関係会社チャートフィールドにはそれぞれ、フィールド長が同じ固有のユニット内関連チャートフィールドを割り当てます。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [設定], [標準設定]

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ビジネス ユニット、資金、業務ユニットなど複数の関連エンティティ間で同じ勘定科目チャートフィールド値を使用して、ユニット間またはユニット内の取引を管理する場合は、関係会社チャートフィールド値を使用します。たとえば、各エンティティにおいて、勘定科目 140000 をユニット間の売掛金および買掛金の両方の勘定科目として使用するとします。各エンティティにそれぞれ別の勘定科目値を用意することもできます。ただし、売掛金または買掛金の相手先エンティティを識別するため、各インスタンスにおいて、関係会社チャートフィールド値が会計処理行または仕訳行に割り当てられている必要があります。

PeopleSoft では、以下の関係会社チャートフィールドが標準で用意されています。

- 関係会社チャートフィールド

  これは設定不可のチャートフィールドで、ビジネス ユニットと関連した*ユニット間*会計処理でのみ使用されます。

- 関係会社 - 資金チャートフィールド

  これは全て設定可のチャートフィールドで、名称変更、削除、サイズ変更、ラベル変更が可能です。エンティティ間の*ユニット内*会計処理で使用されます。標準でこのチャートフィールドは資金チャートフィールドと関連付けられていますが、全て設定可の任意のチャートフィールドに関連付けることができます。

- 関係会社 - 業務ユニット チャートフィールド

  これは全て設定可のチャートフィールドで、名称変更、削除、サイズ変更、ラベル変更が可能です。エンティティ間の*ユニット内*会計処理で使用されます。標準でこのチャートフィールドは業務ユニット チャートフィールドと関連付けられていますが、全て設定可の任意のチャートフィールドに関連付けることができます。

関係会社チャートフィールドは、標準のスタンドアロン チャートフィールドとして使用*できません*。必ず他の関連チャートフィールドに関連付けて使用する必要があります。これは、関係会社チャートフィールドの値は関連するチャートフィールドの値であるからです。つまり、勘定科目や部門などのように、単独のチャートフィールドとして関係会社の値を入力するための関係会社チャートフィールド ページが存在するわけではありません。

関係会社用に、ビジネス ユニットをユニット間関連チャートフィールドとして入力する必要があります。この値を入力すると、仕訳入力ページの [関係会社] フィールドのドロップダウン リスト ボックスで使用可能な値が設定されます。

アクティブのユニット内関係会社チャートフィールドにはそれぞれ、固有のユニット内関連チャートフィールドを指定する必要があります。ユニット内関連チャートフィールドはユニット内関係会社チャートフィールドと共に使用する必要があり、ユニット間の目的で使用することはできません。ユニット内関連チャートフィールドの長さは、マッピング先のユニット内関係会社チャートフィールドの長さ以下にする必要があります。

関連チャートフィールドによって関係会社チャートフィールドのプロンプト値が提示されます。

関連リンク

PeopleSoft チャートフィールド設定について
チャートフィールド継承の使用

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft プロジェクト会計処理製品のチャートフィールド値の追加

プロジェクト コスト管理アプリケーション固有のチャートフィールドについては、PeopleSoft プロジェクト コスト管理のドキュメントに詳しく記載されています。

Excel スプレッドシートによるコンポーネント インターフェイス処理へのチャートフィールド値のロード

PeopleSoft コンポーネント インターフェイスには Microsoft Excel スプレッドシートが用意されており、これを使用してチャートフィールド データを PeopleSoft データベースに入力できます。コンポーネント インターフェイスについては、該当するチャートフィールドおよび関連機能のトピックに記載されています。

コンポーネント インターフェイスの詳細については、PeopleTools ドキュメントを参照してください。

製品ドキュメントの『*PeopleTools: Component Interfaces*』を参照してください。

ツリーの使用によるチャートフィールドの要約

PeopleTools ツリー マネージャを使用して、チャートフィールドの要約ルールやレポート階層、ロールアップ構造を設定できます。ツリー マネージャによって追加される便利なグラフィック レイヤーには、チャートフィールド値間の関係が表示されます。個々のチャートフィールド値が全体の構成内のどこに位置するのかがわかり、ツリー マネージャから直接チャートフィールドを管理できます。

ツリー マネージャは勘定科目表の設計を簡素化します。直感的なツリー ダイアグラム上に個々のチャートフィールド値を配置できるため、画面の表示とまったく同じ要約レベルまたは階層を作成できます。チャートフィールド値の保守と同時に、それらを適切なロールアップ構造に含めることができます。

関連リンク

ツリーの使用によるチャートフィールドの要約

スピード入力の定義と使用

スピード入力を定義して使用するには、スピード入力コンポーネント (SPEEDTYPE) を使用します。

スピード入力の定義と管理に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
スピード入力ページ	SPEEDTYPE	スピード入力キーを選択したときに仕訳に自動入力されるチャートフィールド値の組合せを定義します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
スピード入力の削除ページ	SPEEDTYPE_DELETE	複数の既存のスピード入力を一度に削除する場合に選択します。

スピード入力の定義と使用について

チャートフィールド値を同じ組合せで入力する取引は頻繁に発生します。これらの頻繁に使用されるチャートフィールドの組合せに対しスピード入力と呼ばれるショートカット キーを作成しておくと、効率的な仕訳入力が可能となり入力ミスも少なくなります。

たとえば、ある製品の売上を特定の収益勘定科目に定期的に転記しているとします。この取引の仕訳入力を作成するたびに、同じ製品コード、部門 ID、勘定科目番号を入力しています。スピード入力を定義して使用すると、スピード入力コードまたはスピード入力コードの先頭の 1 文字または数文字を入力してドロップダウン メニューをクリックできます。表示されたリストからコードを選択するだけで、これら 3 つのチャートフィールド値が全て自動的に入力されます。たとえば、この取引の入力用に SREV というスピード入力を作成した場合、SREV と入力するか、S または SR と入力すると、[スピード入力] フィールドのドロップダウン メニューをクリックしたときに、スピード入力が絞り込まれてスピード入力 リスト ページに表示されます。

スピード入力ページ

スピード入力 ページ (SPEEDTYPE) を使用して、スピード入力キーを選択したときに仕訳に自動入力されるチャートフィールド値の組合せを定義します。

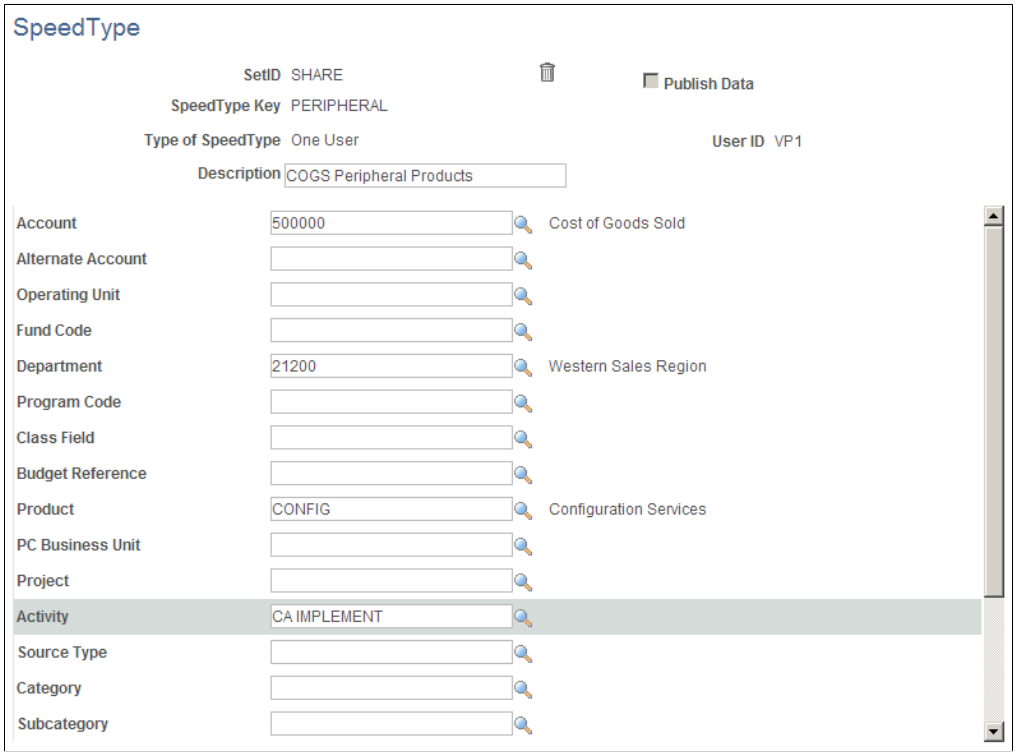
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [スピード入力], [スピード入力]

画像: スピード入力ページ

次の例では、スピード入力ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



スピード入力ページには、システムに定義されている全てのチャートフィールドが一覧表示されます。チャートフィールド値を自由に組み合わせて、スピード入力を一から定義できます。

注: プロジェクト コスト管理をインストールしている場合は、詳細プロジェクト コスト管理チャートフィールドを使用できます。そうでない場合、使用できるのはプロジェクト チャートフィールドのみです。

警告 PeopleSoft プロジェクト コスト管理、経費管理、要員管理またはサービス プロキュアメントのライセンスを取得していない場合で、ページに [プロジェクト コスト管理ユニット]、[アクティビティ]、[ソース タイプ]、[カテゴリ] または [サブカテゴリ] が表示される場合は、インストール オプション - 製品ページでこれらの製品のチェック ボックスをオフにしてチャートフィールド設定を実行し、これらの製品固有のチャートフィールドを非アクティブにしてください。
プロジェクト コスト管理のライセンスを取得しておらず、経費管理、要員管理またはサービス プロキュアメントのライセンスを取得している場合で、ページに [ソース タイプ]、[カテゴリ] または [サブカテゴリ] が表示される場合は、インストール オプション - 製品ページでライセンスを取得していない製品のチェック ボックスをオフにしてチャートフィールド設定を実行し、プロジェクト コスト管理固有のチャートフィールドを非アクティブにしてください。必要のないチャートフィールドをアクティブのままにしておくと、パフォーマンスに影響したり、その他の処理で問題が発生することがあります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

スピード入力キー スピード入力キーを識別する名称を入力します。

スピード入力タイプ キーを特定のユーザーまたは権限リストに制限する場合に選択します。値は次のとおりです。

- *全てのユーザー*: 全てのユーザーにこの組合せを使用する権限が付与されます。新しい値を追加するときに全てのユーザー用のスピード入力を作成する場合は、*[ユーザー ID]* または *[プライマリ権限リスト]* の値を入力しません。
- *ユーザー指定*: [ユーザー ID] フィールドで指定したユーザーにこの組合せを使用する権限が付与されます。
- *権限指定*: [プライマリ権限リスト] フィールドで指定した権限にこの組合せを使用する権限が付与されます。

通貨コード 元帳の通貨がデフォルトになるので、値の選択は任意です。ここで通貨を指定し、通貨の異なる元帳への仕訳入力でスピード入力を使用した場合、仕訳行の外貨についてスピード入力の通貨は使用されません。

注: 新規または更新したスピード入力のチャートフィールド値を PeopleSoft HCM に送信する必要がある場合は、[データ パブリッシュ] チェック ボックスを使用します。PeopleSoft HCM はこの値を使用して勘定科目コード (ACCT_CD_TBL) テーブルを更新します。このチェック ボックスは、スピード入力のタイプが *[全てのユーザー]* であり、かつ、HCM インストール オプションが選択されている場合にのみ使用できます。スピード入力ページで [データ パブリッシュ] チェック ボックスが表示されているのに使用できない場合は、メッセージ オブジェクト HR_CHARTFIELD_COMBO_SYNC がアクティブになっていません。[データ パブリッシュ] チェック ボックスが使用可能な場合、そのデフォルトは未選択です。このオプションはスピード入力データの一部ではないため、スピード入力定義には保存されません。

注: スピード入力 レコード (SPEEDTYP_TBL) がデータ ソースであるため、データ パブリッシュのコンテンツには詳細プロジェクト チャートフィールド値が含まれます。

関連リンク

Creating Journal EntriesPeopleSoft General Ledger

スピード入力の削除ページ

スピード入力の削除ページ (SPEEDTYPE_DELETE) を使用して、複数の既存のスピード入力を一度に削除します。

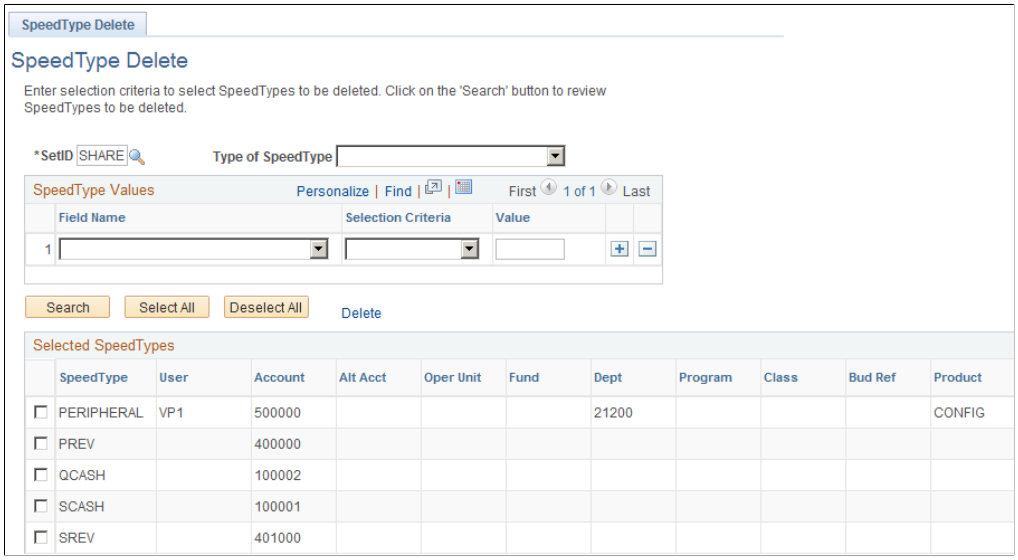
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [スピード入力のマス削除]

画像: スピード入力の削除ページ

次の例では、スピード入力の削除ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



スピード入力の削除ページを使用して、複数の既存のスピード入力を選択して 1 回の操作で削除します。複数のスピード入力を一度に削除する必要があるのは、勘定科目やユーザーを非アクティブ化するときや、組織内でチャートフィールド関係が無効になった場合です。

削除するスピード入力を検索します。セットID を入力する必要があります。セットID 内の全てのスピード入力を一覧表示させるには、[スピード入力タイプ]、[フィールド名]、[選択条件]、[値] フィールドを空白にします。または、これらのフィールドに値を入力して検索対象を絞り込み、[検索] ボタンをクリックしてスピード入力を検索します。結果セットから削除するスピード入力を選択するか、全てを削除する場合は [全て選択] ボタンをクリックして、[削除] リンクをクリックします。

チャートフィールド値セットの定義と使用

チャートフィールド値セットを定義して使用するには、チャートフィールド値セット コンポーネント (CF_VALUE_SET) を使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド値セットの定義に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
チャートフィールド値セット ページ	CF_VALUE_SET	締め処理やコミットメント コントロール予算締め処理、持分処理、連結処理などに使用する、チャートフィールド値のセットを定義します。

チャートフィールド値セットの定義と使用について

チャートフィールド値セットを使用してチャートフィールド値の組合せを定義し、一般会計の締め処理やコミットメント コントロール元帳締め処理時にこれらをソース データとして使用できます。これを使用して、連結処理や持分処理などさまざまな処理に使用するソース データも作成できます。

たとえば、仮締めに使用する損益計算書勘定科目のチャートフィールド値セットを 1 つ作成し、さらに年度末締め用に別のセットを作成することが考えられます。仮締め処理または年度末締め処理の締め処理ルールを定義するときに、使用するチャートフィールド値セットを選択します。

チャートフィールド値セット ページ

チャートフィールド値セット ページ (CF_VALUE_SET) を使用して、締め処理やコミットメント コントロール予算締め処理、持分処理、連結処理などに使用する、チャートフィールド値のセットを定義します。

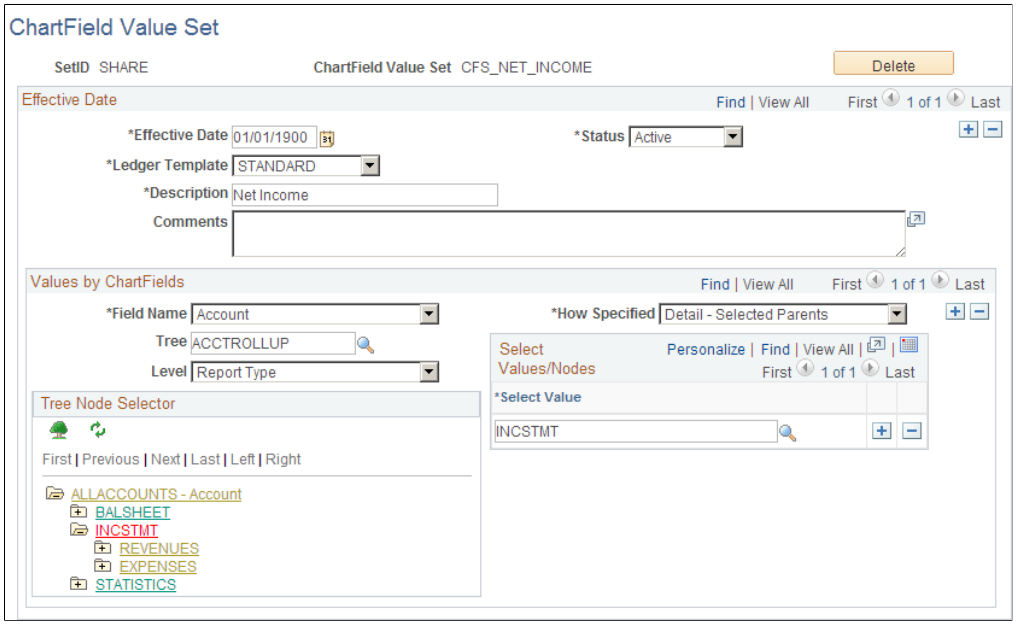
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド値セット], [チャートフィールド値セットを設定します。], [チャートフィールド値セット]

画像: チャートフィールド値セット ページ

次の例では、チャートフィールド値セット ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



元帳テンプレート [フィールド名] ドロップダウン リスト ボックスに表示するチャートフィールドを識別します。

要約元帳 選択した元帳テンプレートが要約元帳のテンプレートである場合、要約元帳 ID を選択します。これにより、[値/ノードの選択] グループ ボックスで選択できるチャートフィールド値が決まります。

名称 ページや表示領域が制限されているドロップダウン リスト ボックスに表示する、チャートフィールド値セットの略称を入力します。

後続のフィールドには、レポートやページ、プロンプト リスト、レポートまたはオンライン照会でチャートフィールド値セットを識別するための詳細説明を入力します。使用法に関するコメントや情報を自由に入力します。

[チャートフィールド値] グループ ボックスで、この値セットに含める値を識別します。

フィールド名 入力した元帳テンプレートに基づいて使用可能なチャートフィールドが決まります。この値セットに含めるチャートフィールドを選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

指定方法

値は次のとおりです。

- *選択した詳細値:* セットに含めるチャートフィールド値を 1 つずつ選択する場合。
- *詳細 - 選択した親:* ツリー ノードに基づいて値を選択する場合。このオプションにより [ツリー] 編集ボックスがアクティブになり、ノードを選択するツリーを指定できます。このオプションにより、オプションの [レベル] 編集ボックス (レベルを使用するツリーを選択した場合) もアクティブになるため、プロンプトの範囲を選択したレベルに限定できます。
- *値の範囲: 開始*値と終了値を入力します。

値/ノードの選択

選択した [指定方法] オプションに応じて、勘定科目またはツリー ノードの入力を要求されます。[追加] ボタンをクリックして、各勘定科目またはノード値を追加します。



[指定方法] として [詳細 - 選択した親] を使用する場合は、[ツリーの表示] ボタンをクリックし、参照するツリーにアクセスします。



[指定方法] フィールドの右側にある [追加] ボタンをクリックして値セットにチャートフィールドを追加し、そのチャートフィールドに説明のとおりに含める値を選択するように、フィールドを完成させます。

チャートフィールド レポートの作成

チャートフィールド レポート (FS_CF_REPORT_HOME) コンポーネントを使用して、レポート ページにアクセスします。

次に示すレポートは、チャートフィールドや関連する機能を実装する際、その進捗の監視に使用できる標準のチャートフィールド レポートです。

レポートを実行するには、メニューからレポートを選択し、必要なパラメータを入力します。レポート パラメータの入力後、プロセス スケジューラを使用してレポートを実行します。プロセス スケジューラは処理を管理し、ステータスを追跡して、レポートを生成します。

PeopleTools には、標準レポートの編集や自分専用のレポートの作成、レポートの出力形式の変更を可能にするためのさまざまなレポート オプションが用意されています。詳細については、PeopleTools のドキュメントを参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド レポートの作成に使用するページ

ページ名	*定義名*	*ナビゲーション*	*用途*
勘定科目タイプ	RUN_FIN0004	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [勘定科目タイプ], [勘定科目タイプ]	勘定科目タイプ レポートを実行するためのパラメータを指定します。勘定科目タイプ レポート (FSX0004) には、勘定科目タイプと長いまたは短い説明的な名称のほか、その勘定科目タイプの残額がシステムによって繰り越されるかどうかが表示されます。これは BI Publisher レポートであるため、チャートフィールドを設定していれば、レポートを手動で変更する必要はありません。
スピード入力 リスト	RUN_FIN0007	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [スピード入力], [実行], [プロセス リクエスト], 、[スピード入力 リスト] を選択 [ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [スピード入力], [実行], [プロセス リクエスト], 、BI Publisher: 有効なスピード入力のリスト	スピード入力レポートを実行するためのパラメータを指定します。スピード入力レポート (FSX0007) は有効なスピード入力のリストを生成します。スピード入力を使用すると、仕訳入力時に*速記用の*キーを入力して、1 つ以上のフィールドに事前指定のチャートフィールド値を移入できます。このレポートには、スピード入力を使用できるのが 1 つのユーザー ID であるのか、権限リスト全体であるのかも表示されます。 FSX0007 は BI Publisher レポートであるため、チャートフィールド構成をサポートするための手動の変更は必要ありません。
勘定科目	RUN_FIN0010	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [勘定科目]	有効総勘定元帳勘定科目リストを実行するためのパラメータを指定します。有効総勘定元帳勘定科目リスト (FSX0010) は、ユーザーがセットID と指定日を指定する BI Publisher レポートで、有効な全ての勘定科目チャートフィールドを一覧表示します。 チャートフィールドを設定していれば、BI Publisher レポートを手動で変更する必要はありません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*ナビゲーション*	*用途*
部門	RUN_FIN0011	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [部門]	有効部門コード レポートを実行するためのパラメータを指定します。有効部門コード レポート (FSX0011) は、セットIDごとに部門情報を一覧表示します。これは BI Publisher レポートであるため、チャートフィールドを設定していれば、レポートを手動で変更する必要はありません。
製品	RUN_FIN0012	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [製品]	有効製品コード レポートを実行するためのパラメータを指定します。有効製品コード レポート (FSX0012) は指定されたセットID の有効な製品コードを一覧表示します。これは BI Publisher レポートであるため、チャートフィールドを設定していれば、レポートを手動で変更する必要はありません。
プロジェクト ID	RUN_FIN0013	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [プロジェクト], [プロジェクト ID]	有効プロジェクト コード レポートを実行するためのパラメータを指定します。有効プロジェクト コード レポート (FSX0013) は、セットID ごとに有効なプロジェクト コードを一覧表示します。これは BI Publisher レポートであるため、チャートフィールドを設定していれば、レポートを手動で変更する必要はありません。
元帳コード レポート	RUN_GLC1001	[一般会計], [元帳], [元帳コード レポート]	元帳コード レポート (GLX1001) は、セットID ごとにアクティブの元帳コードと関連付けられている台帳コードを一覧表示します。 これは BI Publisher レポートであるため、チャートフィールドを設定していれば、レポートを手動で変更する必要はありません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*ナビゲーション*	*用途*
調整タイプ	RUN_GLC4004	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [調整タイプ]	調整タイプ レポートを実行するためのパラメータを指定します。調整タイプ レポート (GLX4004) は調整タイプを一覧表示します。 これは BI Publisher レポートであるため、チャートフィールドを設定していれば、レポートを手動で変更する必要はありません。
台帳コード	RUN_GLC4005	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [台帳コード]	台帳コード レポートを実行するためのパラメータを指定します。台帳コード レポート (GLX4005) は有効な台帳コードを一覧表示します。 これは BI Publisher レポートであるため、チャートフィールドを設定していれば、レポートを手動で変更する必要はありません。
勘定残高グループ	RUN_GLC4006	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [勘定残高グループ]	勘定残高グループ レポートを実行するためのパラメータを指定します。勘定残高グループ レポート (GLX4006) は、勘定科目貸借一致グループの台帳コードと貸借対照表の組合せを一覧表示します。 これは BI Publisher レポートであるため、チャートフィールドを設定していれば、レポートを手動で変更する必要はありません。
予算参照	RUN_FIN0024	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [予算参照]	予算参照レポートを実行するためのパラメータを指定します。予算参照レポート (FSX0024) は、指定されたセットID の指定日における有効な予算参照値を一覧表示します。これは BI Publisher レポートであるため、チャートフィールドを設定していれば、レポートを手動で変更する必要はありません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*ナビゲーション*	*用途*
シナリオ	RUN_FIN0025	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [シナリオ]	シナリオ レポートを実行するためのパラメータを指定します。シナリオ レポート (FSX0025) は有効な予算シナリオを一覧表示します。これは BI Publisher レポートであるため、チャートフィールドを設定していれば、レポートを手動で変更する必要はありません。
統計コード	RUN_FIN0015	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [統計コード]	有効統計コード レポートを実行するためのパラメータを指定します。有効統計コード レポート (FSX0015) は統計コード テーブルの内容を一覧表示します。 これは BI Publisher レポートであるため、チャートフィールドを設定していれば、レポートを手動で変更する必要はありません。
業務ユニット	RUN_FIN0032	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [業務ユニット]	業務ユニット レポートを実行するためのパラメータを指定します。業務ユニット レポート (FSX0032) は選択されたセットID の有効な業務ユニットを一覧表示します。これは BI Publisher レポートであるため、チャートフィールドを設定していれば、レポートを手動で変更する必要はありません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*ナビゲーション*	*用途*
代替勘定科目	RUN_FIN0033	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [代替勘定科目]	代替勘定科目レポートを実行するためのパラメータを指定します。代替勘定科目レポート (FSX0033) はセットID の代替勘定科目を一覧表示します。勘定科目タイプは、資産や負債など、この勘定科目のタイプを示します。[仮勘定] ヘッダーの下に表示される [はい] または [なし] は、勘定科目が仮勘定であるかどうかを示しています。[統計科目] ヘッダーの下に表示される [はい] または [なし] は、勘定科目が統計科目であるかどうかを示しています。コントロール フラグは、[はい] または [いいえ] を持つ代替勘定科目がコントロール勘定であるかどうかを示します。[有効ステータス] は勘定科目のステータスを示し、[有効日] はそのステータスが有効になる日を示します。 これは BI Publisher レポートであるため、チャートフィールドを設定していれば、レポートを手動で変更する必要はありません。
代替勘定科目クロス リファレンス	RUN_FIN0036	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [代替勘定科目クロス リファレンス], [代替勘定科目クロス リファレンス]	代替勘定科目クロス リファレンス レポートを実行するためのパラメータを指定します。代替勘定科目クロス リファレンス レポート (FIN0036) は、勘定科目とそれに対応するクロス リファレンス代替勘定科目を表示します。これは SQR レポートです。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*ナビゲーション*	*用途*
チャートフィールド 1	RUN_FIN0037	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[共通定義]、[チャートフィールド設定]、[レポート]、[チャートフィールド レポート]、[チャートフィールド 1]	有効チャートフィールド 1 リスト レポートを実行するためのパラメータを指定します。このレポート (FSX0037) は、指定されたセットID の指定日における有効な値を一覧表示します。 これは BI Publisher レポートであるため、チャートフィールドを設定していれば、レポートを手動で変更する必要はありません。
チャートフィールド 2	RUN_FIN0038	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[共通定義]、[チャートフィールド設定]、[レポート]、[チャートフィールド レポート]、[チャートフィールド 2]	有効チャートフィールド 2 リスト レポートを実行するためのパラメータを指定します。このレポート (FSX0038) は、指定されたセットID の指定日における有効な値を一覧表示します。 これは BI Publisher レポートであるため、チャートフィールドを設定していれば、レポートを手動で変更する必要はありません。
チャートフィールド 3	RUN_FIN0039	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[共通定義]、[チャートフィールド設定]、[レポート]、[チャートフィールド レポート]、[チャートフィールド 3]	有効チャートフィールド 3 リスト レポートを実行するためのパラメータを指定します。このレポート (FSX0039) は、指定されたセットID の指定日における有効な値を一覧表示します。 これは BI Publisher レポートであるため、チャートフィールドを設定していれば、レポートを手動で変更する必要はありません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*ナビゲーション*	*用途*
資金コード	RUN_FIN0050	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [資金コード]	有効資金コード リスト レポートを実行するためのパラメータを指定します。有効資金コード リスト レポート (FSX0050) は、指定されたセットID の指定日における有効な値を一覧表示します。 これは BI Publisher レポートであるため、チャートフィールドを設定していれば、レポートを手動で変更する必要はありません。
プログラム コード	RUN_FIN0052	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [プログラム コード]	有効プログラム コード リスト レポートを実行するためのパラメータを指定します。有効プログラム コード リスト レポート (FSX0052) は、指定されたセットID の指定日における有効な値を一覧表示します。 これは BI Publisher レポートであるため、チャートフィールドを設定していれば、レポートを手動で変更する必要はありません。
クラス フィールド	RUN_FIN0053	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [クラス フィールド]	有効サブクラス リスト レポートを実行するためのパラメータを指定します。有効サブクラス リスト レポート (FSX0053) は、指定されたセットID の指定日における有効な値を一覧表示します。 これは BI Publisher レポートであるため、チャートフィールドを設定していれば、レポートを手動で変更する必要はありません。
チャートフィールド属性	RUN_FIN0061	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド属性], [チャートフィールド属性]	チャートフィールド属性レポートを実行するためのパラメータを指定します。チャートフィールド属性レポート (FIN0061) は、選択されたチャートフィールドのセットID ごとに実行する SQR です。チャートフィールド属性の設定を一覧表示します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*ナビゲーション*	*用途*
チャートフィールド レポート オプション	FS_REPORT_CF_SETUP	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[共通定義]、[チャートフィールド設定]、[レポート]、[チャートフィールド レポート オプション]、[チャートフィールド レポート オプション]	チャートフィールドを選択し、請求管理用の特定の SQR レポートでの表示順序を定義します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第12章

チャートフィールドの組合せの編集

チャートフィールド組合せ編集について

このオプションの機能を使用すると、チャートフィールドとその値の組合せに基づき、望まない仕訳入力を元帳に転記をさせないための条件を設定して強制できます。

コミットメント コントロールを使用している場合は、予算仕訳入力の編集および転記を行う予算プロセッサ (FS_BP) アプリケーション エンジン プロセスで行われる転記またはバッチ転記処理とは別に、コミットメント コントロール予算仕訳の編集をオンラインで実行できます。

Combination Editing for Budget and Budget Adjustment JournalsPeopleSoft Commitment Control を参照してください。

Using Combination Editing with Budget Transfer and Adjustment JournalsPeopleSoft Commitment Control を参照してください。

チャートフィールド組合せ編集は次の方法で実装できます。

- アプリケーション固有の製品ドキュメントの説明に従って、一般会計供給側アプリケーションで組合せ編集を設定します。
- 一般会計仕訳入力で組合せ編集が実行されるように設定します。

注: 組合せ編集は要約元帳には適用されません。

注: 組合せ編集では詳細プロジェクト チャートフィールドの HCM へのパブリッシュはサポートされません。これはソース レコードが COMBO_DATA_TBL であり、このテーブルには詳細プロジェクト チャートフィールドが含まれていないためです。パブリッシュされるプロジェクト チャートフィールドは PROJECT_ID のみです。

取引の処理と記録が行われる詳細元帳グループで組合せ編集をアクティブにすると、仕訳編集処理を実行したときにチャートフィールド組合せ編集処理も呼び出されます。

チャートフィールド組合せ編集では、チャートフィールドの組合せが、ユーザーが定義したチャートフィールド組合せの定義およびルールと比較されます。たとえば、PeopleSoft の基準チャートフィールドに値を割り当て、これに基準外チャートフィールドおよびその値を関連付けると、入力がチャートフィールド組合せルールおよび定義に確実に準拠するように、チャートフィールド組合せ編集によって if-then テストに似た処理が実行されます。有効または無効の条件のどちらが効率的に望まない入力を阻止するかに応じ、いずれかの条件でチャートフィールド組合せを設定できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド組合せ編集の実装方法と基礎テーブルとして使用するテーブルのタイプは、保守の効率性やスピード、容易性に大きく影響します。

このセクションでは、次の事項について説明します。

- 組合せ編集のチャートフィールド、ルールおよびツリー
- 組合せ編集でさまざまなテーブル タイプを使用することのメリット
- PeopleSoft アプリケーションでのオンラインおよびバッチ組合せ編集の使用可否
- 取引ソースごとの組合せ編集
- オンラインのチャートフィールド組合せ編集
- バッチまたはバックグラウンド処理でのチャートフィールド組合せ編集
- マスター セレクタ テーブルから生成された詳細値の保持
- Financials データベース外アプリケーションの Web サービスを使用したオンライン組合せ編集
- PeopleSoft コミットメント コントロールでの組合せ編集
- マスター セレクタ テーブル
- チャートフィールド組合せ編集テンプレート
- 組合せ編集グループ
- 各種の例

組合せ編集のチャートフィールド、ルールおよびツリー

次に、効率性、チャートフィールド、ルールおよびツリーに関する一般的な推奨事項を示します。

使用するチャートフィールドの数

たとえば、資産、負債および資本の勘定科目への転記を特定の部門のみに許可し、他の部門には収益と費用の勘定科目への転記のみを許可する場合があります。最初の例では、2 つのチャートフィールド (勘定科目チャートフィールドと、貸借対照表勘定科目に制限する部門値の部門チャートフィールド) を含む編集ルールを定義します。

組合せ定義に製品という 3 つ目のチャートフィールドを導入すると、損益計算書勘定科目への転記を許可する部門に対し、特定の製品原価の記録のみという制限を課すことができます。

定義できる組合せの数に制限はありませんが、チャートフィールドの組合せを 3 つ以下にすると最大限のパフォーマンスを得られます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

使用する組合せルールの数

提案された組合せルールを分析し、重要であるものとそうでないものを判別してください。実装するルールの数が多くなればなるほど、取引の編集とルールの管理に要する時間が増えます。

組合せ編集ルールのツリー内のチャートフィールド値の範囲

PeopleSoft ツリーを使用すると、チャートフィールドの静的な値ではなく、チャートフィールド値の範囲を持つ組合せ編集ルールを設定できます。値の範囲を使用することで、組織内で発生したチャートフィールド値の変更に応じ、チャートフィールド組合せ編集ルールを簡単に最新の状態にすることができます。

春、夏、冬のツリーを組合せ編集で使用しツリー レベルとノードを使用すると、ツリー内の値をさらに制限できます。

関連リンク

PeopleSoft チャートフィールドについて

組合せ編集でさまざまなテーブル タイプを使用することのメリット

組合せ編集をサポートするため、PeopleSoft ではさまざまなテーブル タイプが使用されます。次にそれらのメリットとデメリットを記載します。

テーブル タイプ	*メリット*	*デメリット*
COMBO_DATA_TBL テーブル	簡素な作りで、比較的高速な編集が可能です。	組合せの変更の程度が小さく、必要な組合せの数を含めるとテーブル サイズが中規模になる場合は、このテーブル タイプを使用します。 これは組合せ作成処理で作成される静的なテーブルです。一度作成が行われると、それ以降のルール変更を考慮するための新たな処理は実行されません。組合せの数によってはテーブル サイズが非常に大きくなり、作成処理に時間がかかることがあります。 オンラインとバックグラウンドの組合せ編集をサポートしています。
ユーザー定義テーブル	簡素な作りで、比較的高速な編集が可能です。	これは静的なテーブルで、場合によっては高度な保守が必要になります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

テーブル タイプ	*メリット*	*デメリット*
静的マスター セレクタ テーブル	比較的小規模で簡素な作りのテーブルが短時間で作成されます。	COMBO_DATA_TBL と比較すると、このテーブルはチャートフィールド値の変更の導入が容易であり、サイズも小さいためより短い時間で作成されます。 結果の直感性の程度は劣ります。静的なテーブルであることは変わりませんが、COMBO_DATA_TBL ほどの制限はありません。静的マスター セレクタ テーブルは、一般会計およびサブシステムでのオンラインおよびバックグラウンド処理をサポートしています。
動的マスター セレクタ テーブル	静的なものは一切含まれず、編集は最新の組合せルールおよびチャートフィールド値と整合します。	このテーブル タイプはチャートフィールドの頻繁な変更により効率よく対応します。これらのテーブルの作成と削除は、一般会計のバックグラウンド編集の編集処理中に行われます。 このテーブルは、一般会計のバックグラウンドまたはバッチ処理にのみ適用されます。
PS_COMB_EXPLODED テーブル	[詳細値を保持] を使用するこのオプションは、静的マスター セレクタ テーブルの使用バリエーションの 1 つであり、ツリー ノードが多数のチャートフィールド値を網羅する場合に特に便利です。作成処理に要する時間は長くなりますが、バッチとオンラインの組合せ編集のパフォーマンスが大幅に向上します。これはマスター セレクタ テーブルから生成された詳細値が永続テーブル (PS_COMB_EXPLODED) に保持されるためで、編集リクエストがあるたびに一時テーブルに詳細値を展開する必要がなくなります。	ツリー ノードに含まれる既存の値範囲で発生した変更は、その変更以前に作成された PS_COMB_EXPLODED テーブルには反映されません。ツリーや組合せ定義およびルールで変更が発生した場合は、このテーブルを再作成する必要があります。
混合テーブル	複数のテーブルを使用して処理を調整し、パフォーマンスを最大化し、保守を最小限に抑えることができます。たとえば、COMBO_DATA_TBL では少数の変更が発生しない組合せを使用し、頻繁に変更される組合せルールには動的マスター セレクタ テーブルを使用します。	実装と保守を行う専門家が必要です。

次に、テーブルとそのメリットに関する詳細を記載します。

通常マスター セレクタ テーブルには、他のテーブルと比較した場合に次のような特徴があります。

- 作成と保守に要する時間が短くなります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 使用するデータベース領域が少なくなります。
- 任意の数の有効日付き PeopleSoft ツリーを網羅する日付範囲または期間に対して、作成を実行できます。

注: ツリー内の値範囲を使用する場合、再作成が必要になるのは、ツリー内のノードまたは範囲を変更したとき、またはルールで使用されているツリー ノードを変更したときのみです。

ツリー内の詳細値を使用する場合は、ツリー内の詳細値に変更を加えるたびにセレクタ テーブルを再作成する必要があります。マスター セレクタ テーブルの再作成は、COMBO_DATA_TBL よりも短い時間で終了します。

PeopleSoft 一般会計供給側システムでは、バッチおよびサブシステム オンライン編集の両方をサポートする静的マスター セレクタ テーブル用のパラメータ セットを作成できます。

一般会計のバッチ編集で静的マスター セレクタ テーブルまたは動的セレクタ テーブルを使用することを選択できます。マスター セレクタ テーブルの作成オプションを使用して組合せデータ作成を実行しなかった場合、組合せ編集プログラムによってバッチ編集処理中に動的セレクタ テーブルが作成されます。

静的セレクタ テーブルを使用し、追加の一時テーブルに値を保存した場合、ツリー ノードで定義されたチャートフィールド値の範囲をシステム側で展開する必要があります。一時テーブルに移入するための展開処理は、新しい取引の編集が行われるたびに繰り返されます。一時テーブルは現在の編集の間しか保持されませんが、生成された詳細値の組合せを PS_COMB_EXPLODED という永続テーブルに保存することで、後続の組合せ編集でも使用できるようになります。PS_COMB_EXPLODED テーブルを使用した場合、作成処理に要する時間は長くなりますが、バッチの組合せ編集のパフォーマンスが大幅に向上します。これは繰り返し行われる値の展開と一時テーブルの作成を回避できるためです。

また、ユーザー定義組合せデータ テーブルを設定して管理できます。この方法では、データ テーブルへのデータ移入を自分で完全に制御できるため、他のテーブル タイプよりもテーブルのサイズを小さくして、効率性の向上を期待できます。

ただし、COMBO_DATA_TBL やマスター セレクタ テーブルと比較すると、通常ユーザー定義テーブルは時間が経過するにつれ、チャートフィールド環境の変化についてより注意深い分析と保守が必要になります。COMBO_DATA_TBL テーブルとマスター セレクタ テーブルについては PeopleSoft から保守機能が提供されますが、ユーザー定義テーブルについては、該当するチャートフィールドまたは値の変更の検出や検知、古い組合せや新しい組合せの削除や追加をお客様の責任で行う必要があります。

テーブルに関するこれらのアプローチをさまざまな組合せ編集グループと組み合わせて、効率性を向上できます。チャートフィールド組合せ定義およびルールの変更頻度が低い場合、これはユーザー定義テーブルの候補といえます。処理を高速化するために犠牲になる柔軟性の程度が十分許容できる範囲であるためです。組合せ定義およびルールに定期的な変更が発生する場合は、マスター セレクタ テーブルを使用すると速度と柔軟性の面でパフォーマンスを向上できる可能性があります。COMBO_DATA_TBL を展開する方法が望ましいと考えられるのは、テーブルのサイズがシステムの負担にならない、または処理時間の増加が正常の範囲内であり、かつ、チャートフィールドの組合せの変更に伴うテーブル更新がたまにしか発生しないような場合です。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

選択した組合せ編集オプションは、バッチ組合せ編集とオンライン PeopleCode 編集の両方でサポートされます。処理を実行して両タイプのテーブルにデータを移入しますが、マスター セレクタ テーブルを使用する場合、テーブルの再作成にかかる時間が COMBO_DATA_TBL 展開よりも圧倒的に短いというメリットがあります。また、ツリーの範囲を使用した場合、勘定科目チャートに対してチャートフィールド値の追加や削除を行ったときに、COMBO_DATA_TBL の場合とは異なり、動的セレクタ テーブルを作成する必要がありません。

バッチおよびオンラインの PeopleCode 編集はいずれも、ビジネス ユニットに関連付けらた複数の組合せグループ (異なる組合せ編集オプションを使用する) をサポートします。

PeopleSoft アプリケーションでのオンラインおよびバッチ組合せ編集の使用可否

次の表に示すとおり、各種の PeopleSoft アプリケーションでチャートフィールド組合せ編集をオンラインまたはバックグラウンド (バッチ) 処理で使用できます。

アプリケーション	*オンライン編集*	*バックグラウンド編集*
資産管理	可	可
請求管理	可	可
契約管理	可	可
原価管理	可	不可
eProcurement-調達管理	可	不可
経費管理	可	不可
一般会計	不可 *	可
在庫管理	可	不可
生産管理	可	不可
買掛金管理	可	可
Pay/Bill Management	可	不可
生産管理	可	不可
プロジェクト コスト管理	可	可
購買管理	可	可
売掛金管理	可	可
sPro	可	不可

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

アプリケーション	*オンライン編集*	*バックグラウンド編集*
サプライヤ契約管理	可	不可
財務管理	可	可
Work Order Management	可	不可
エンタープライズ ラーニング マネジメント	可 **	不可
Human Capital Management (HCM)	可 **	不可
コミットメント コントロール ***	可	可

* 一般会計内のオンライン仕訳入力の組合せ編集は、仕訳編集時に実行されます。オンライン仕訳入力の保存後すぐに仕訳編集を実行できます。一般会計とその他のアプリケーションの違いは、一般会計ではバックグラウンド編集プログラムを使用するのに対し、その他のアプリケーションはオンラインのルーチンを使用してオンライン編集を実行するという点です。

** PeopleSoft エンタープライズ ラーニング マネジメント (PeopleSoft ELM) と PeopleSoft Human Capital Management (HCM) は Financials とは異なるデータベースで実行されるため、付属する Web サービスを使用して組合せ編集を実行します。組合せ編集リクエスト サービスを使用し、組合せ編集オンライン検証ロジックを呼び出して ELM で結果を取得してから、転記するデータを ELM から一般会計に送信します。

*** コミットメント コントロールはアプリケーションではありませんが、さまざまな PeopleSoft アプリケーションで使用される主要なオプション機能です。コミットメント コントロールの予算仕訳編集で組合せ編集を使用できます。予算仕訳の組合せ編集については、コミットメント コントロールのドキュメントに記載されています。

前述の一覧内のアプリケーションまたはその他の PeopleSoft アプリケーションでチャートフィールド組合せ編集がどのように使用されているか、およびエラーの解決方法については、アプリケーション固有の製品ドキュメントを参照してください。

取引ソースごとの組合せ編集

処理効率を上げるため、PeopleSoft Financials ではプロセス グループの組合せ編集を取引ソースごとに実行できます。取引ソースとは、資産管理取引や買掛金会計行、売掛金アイテム、一般会計の仕訳などです。取引ソースをプロセス グループに関連付け、組合せ編集処理中にルール グループで全てのソースの全データを処理するのではなく、指定した取引ソースのデータのみが処理されるようにします。

「取引ソースごとの組合せ編集の定義」を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

オンラインのチャートフィールド組合せ編集

通常は、[編集] または [保存] ボタンをクリックして PeopleCode を開始し、特定のアプリケーションで入力した取引のオンライン編集を開始します。たとえば買掛金伝票を保存すると、オンライン組合せ編集 (実装されている場合) を含むさまざまな編集や処理が自動的に開始されます。

組合せ編集処理で使用できる基礎テーブルには、オンライン編集をサポートしているものが多くあります。これらの基礎テーブルのオプションについては、このトピック内で別のトピックで説明します。

テーブル タイプを決定して基礎テーブルを作成すると、オンライン組合せ編集をサポートしているシステムであれば、そのテーブルを使用して会計行や伝票行をテーブル内の組合せに対してオンラインで検証できるようになります。これにより PeopleSoft 買掛金管理などの PeopleSoft 一般会計供給側システムは、仕訳ジェネレータを実行して仕訳編集を実行する前に、スタンドアロンのアプリケーションとしてエラーを検出して修正できます。供給側システムで組合せ編集を実行することで、仕訳を一般会計に転記する前にソース側でエラーをすぐに修正できます。

オンライン編集処理では一度に 1 件の取引行が編集されます。ビジネス ユニットに関連付けられている全てのプロセス グループに対して各行が編集されます。オンライン編集処理では動的にテーブルを作成できないため、供給側システム アプリケーションでオンライン編集を使用する前に、COMBO_DATA_TBL、マスター セレクタ テーブル、PS_COMB_EXPLODED テーブルまたはユーザー定義テーブルを作成しておく必要があります。

供給側システムのオンライン組合せ編集処理では次が行われます。

- 組合せがテーブルに存在する場合、選択した [組合せグループ定義] オプションに応じて行に有効または無効のマークを付けます。
- テーブルで見つからない取引行を分析し、基準チャートフィールドの値が、組合せルールで定義した値でないかどうかを確認します。
    - 基準チャートフィールドの値に組合せルールが定義されている場合で、組合せ全体が見つからない場合は、その組合せは失敗となります。
    - チャートフィールド組合せグループ ページで、[ルールにない基準値] フィールドの値を選択できます。このオプションは、仕訳行に含まれる基準チャートフィールド値に組合せルールが定義されていない場合に、その仕訳行に有効または無効のマークを付けるかどうかを決定するものです。

供給側システムは次の 3 とおりの方法でオンライン ロジックを開始します。

- FUNCLIB_FS.EDIT_COMBINATION FieldFormula レコード PeopleCode の edit_combo 関数を使用します。
- FS_COMBO_EDIT アプリケーション パッケージの ComboEdit アプリケーション クラスを使用します。
- 組合せ編集サービス操作を使用して、ファイナンシャル データベース以外から発生したデータの編集を実行します。この Web サービスによって ComboEdit が呼び出されて組合せ編集が実行され、リク

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

エスト側である PeopleSoft アプリケーションまたはサードパーティ アプリケーションに結果が返されます。

edit_combo 関数を使用する全てのページ コンポーネントには COMBO_EDIT_WRK ページを含める必要があります。[保存] ボタンを選択すると、組合せ編集グループおよびルールからの情報がワーク ページに移入されます。オンライン組合せ編集はワーク ページ上の情報を使用して取引行を処理します。ビジネス ユニットが変わるとワーク ページがリフレッシュされます。

ComboEdit アプリケーション クラスを使用するコンポーネントの場合、COMBO_EDIT_WRK ページは不要です。ComboEdit アプリケーション クラスはコンポーネント レベルでインスタント化して、クラス オブジェクトに保存される組合せ編集グループおよびルールを、同じビジネス ユニットになる全ての取引で再利用できるようにする必要があります。PeopleSoft では、供給側システムで edit_combo 関数の代わりに ComboEdit アプリケーション パッケージを使用することをお勧めしています。

バッチまたはバックグラウンド処理でのチャートフィールド組合せ編集

組合せ編集のバックグラウンド処理を汎用化して全ての PeopleSoft アプリケーションで使用できるようにするため、組合せ編集ではチャートフィールド組合せ編集テンプレートを使用します。これについては、このトピック内の別のトピックで説明します。テンプレートはさまざまなアプリケーション取引レコードのテーブル構造を定義します。組合せ編集処理はこの構造情報を使用して編集を実行します。

レコード テンプレートには特定の PeopleSoft アプリケーションに対応する一意の名前が付与されています。この名前を指定して、アプリケーションでバックグラウンド組合せ編集処理を有効にします。

チャートフィールド組合せテンプレート ページの [テンプレート] フィールドで、組合せ編集テンプレートの名前を選択します。このテンプレートはバックグラウンドまたはバッチ処理にのみ使用されます。

組合せ編集で使用できる基礎テーブルには、バッチ編集をサポートしているものが多くあります。これらの基礎テーブルのオプションについては、このトピック内で別のトピックでも説明します。

各種の PeopleSoft 一般会計供給側システムで仕訳入力や会計行編集、伝票行編集が行われているときに、システムによってバッチまたはバックグラウンドの組合せ編集が実行されます。いずれの場合も、編集が行われるのは仕訳が一般会計に転記される前です。

注: 仕訳入力中 Transaction Set Editor (TSE) は、仕訳行にチャートフィールドがあるかどうかを確認することで、その行の有効性を確認し、次に見つかったチャートフィールドをチャートフィールド テーブルと照合して、チャートフィールド自体の有効性を確認します。チャートフィールドが無効である場合、TSE は無効のマークを付け、その仕訳行を組合せ編集処理から除外します。

組合せ編集では、組合せグループにビジネス ユニットと元帳グループが関連付けられているかどうかの検証もバッチ組合せ編集処理中に行われます。

プロジェクト コスト管理チャートフィールドのバッチ検証

次の PeopleSoft アプリケーションでは、バッチ組合せ編集処理をとおしてプロジェクト コスト管理チャートフィールド検証を実行できます。

- 資産管理

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 一般会計
- Grants
- 買掛金管理
- 売掛金管理
- 購買管理
- プロジェクト コスト管理

詳細プロジェクト チャートフィールドのオンライン検証と同様に、PeopleSoft では PC_EDIT を呼び出すことでバッチ組合せ編集をとおしてプロジェクト チャートフィールド検証を実行できます。オンライン組合せ編集はプロジェクト検証を呼び出しませんが、既存のオンライン プロジェクト編集が検証を処理します。

バッチ組合せ編集には次のプロジェクト コスト管理編集が含まれます。

- プロジェクト コスト管理ビジネス ユニット、プロジェクト ID および アクティビティ ID の組合せの検証
- プロジェクトとアクティビティのステータス コントロール チェックの強制 ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[インストール]、[インストール オプション]、[プロジェクト コスト管理インテグレーション])
- 入力コントロール オプションの強制 ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[ビジネス ユニット関連]、[プロジェクト コスト管理]、[プロジェクト コスト管理オプション])
- ダイナミック編集テーブル オプションの強制 ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[ビジネス ユニット関連]、[プロジェクト コスト管理]、[プロジェクト コスト管理定義])
- プロジェクト コスト管理統合テンプレートを使用した、プロジェクト コスト管理と一般会計のビジネス ユニットのマッピングの検証 ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[製品関連]、[プロジェクト コスト管理]、[プロジェクト オプション]、[インテグレーション テンプレート]、[一般会計インテグレーション])
- 分析タイプの強制は必須です (一般会計仕訳のみ)

バッチ組合せ編集によるプロジェクトチャートフィールド検証を実装するには、次が必要です。

- プロジェクト コスト管理がインストール済製品である必要があります。
- プロジェクト コスト管理オプション ページを使用して、他の PeopleSoft アプリケーションの取引をインポートするのに必要なプロジェクト関連の取引フィールドを設定します ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[ビジネス ユニット関連]、[プロジェクト コスト管理]、[プロジェクト コスト管理オプション])。

一般会計ではバッチ編集を使用して、スプレッドシート仕訳またはフラット ファイル仕訳インポートに対しプロジェクト コスト管理チャートフィールド検証を実行できます。たとえば買掛金管理では、伝票作成処理中にバッチ処理が発生します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

My Oracle Support にある「PeopleSoft General Ledger 9.1 Documentation Update: Project Costing Edit, Note number 1063525.1」(https://support.oracle.com/CSP/ui/flash.html) を参照してください。

組合せデータ テーブルまたはユーザー定義データ テーブルを使用したバッチ組合せ編集

組合せ編集処理は、組合せデータ テーブルまたはユーザー定義組合せデータ テーブルが選択され、ビジネス ユニットおよび元帳グループに関連付けらた各組合せグループに対し、次の処理を実行します。

- 組合せ編集は全ての取引行をテーブルと照合します。

  組合せがデータ テーブルに存在する場合、選択した [組合せグループ定義] オプションに応じて行に有効または無効のマークを付けます。

  基準チャートフィールドの値に組合せルールが定義されている場合で、組合せ全体が見つからない場合は、その組合せの編集は失敗となります。

  基準チャートフィールドの値が組合せルールで定義された値ではない場合、その行には、[チャートフィールド組合せ編集グループ] の [ルールにない基準値] フィールドで選択した *[無効に指定]* または *[有効に指定]* のいずれかの状態が付与されます。

- 無効な組合せが検出されると、組合せテンプレートで定義されたエラー ログ レコードに、エラー ステータス メッセージ付きで無効な取引が記録されます。

マスター セレクタ テーブル オプションを使用したバッチ組合せ編集

組合せグループに対してマスター セレクタ テーブル オプションを選択した場合、バッチ組合せ編集処理は次を実行します。

- 指定されたビジネス ユニットおよび元帳グループに関連付けられている組合せグループを取り出します。

- 組合せグループ内をループし、そのグループのマスター セレクタ テーブルが作成されているかどうかを確認します。まだ作成されていない場合は、アプリケーション エンジン一時テーブルを使用し、ルールに従ってテーブルを動的に作成します。

- マスター セレクタ テーブルを展開し、組合せの順列を格納したアプリケーション エンジン一時テーブル COMB_EXP_TAO テーブルを作成します。

- 各仕訳行を COMB_EXP_TAO テーブルと照合し、組合せがテーブルにある場合は、[組合せグループ定義] フィールドで選択したオプションに応じて、その行に有効または無効のマークを付けます。

- テーブルで見つからない取引行を分析し、基準チャートフィールドの値が、組合せルールで定義した値でないかどうかを確認します。

  - 基準チャートフィールドの値に組合せルールが定義されている場合で、組合せ全体が見つからない場合は、その組合せは失敗となります。

  - 基準チャートフィールドの値が組合せルールで定義された値ではない場合、その行には、[チャートフィールド組合せ編集グループ] の [ルールにない基準値] フィールドで選択した *[無効に指定]* または *[有効に指定]* のいずれかの状態が付与されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: つまり、組合せが失敗と判断された場合、このフィールドで選択した属性に応じて、組合せに有効または無効のマークが付きます。

- 無効な組合せが検出されると、チャートフィールド組合せ編集テンプレートで定義されたエラー ログ レコードに、エラー ステータス メッセージ付きで無効な取引が記録されます。
- 編集の終了後、COMB_EXP_TAO テーブルは削除されます。

マスター セレクタ テーブルから生成された詳細値の保持

マスター セレクタ テーブルとツリーを使用してチャートフィールド組合せ値を指定したとき、静的マスター セレクタ テーブルの作成処理で保存されるのはツリー ノードが示す値の範囲のみです。作成処理ではノードで網羅される詳細値を保存しません。組合せ編集バッチ処理中の取引の編集時に、各編集リクエストの各チャートフィールドの値の範囲が展開され一時テーブルに保存されます。一時テーブルは編集の終了後に削除されるため、編集リクエストが発生するたびに再作成する必要があります。

しかし、チャートフィールド組合せ編集グループ ページでマスター セレクタ テーブルに [詳細値を保持] オプションを選択すると、作成処理で詳細値が生成された後に、詳細値の組合せが PS_COMB_EXPLODED という永続テーブルで維持されます。これにより、一度生成した組合せ詳細値を繰り返し生成する必要がなくなります。

[詳細値を保持] オプションは、ツリー ノードが多数のチャートフィールド値を網羅する場合に特に便利です。このオプションを使用した場合、作成処理に要する時間は長くなりますが、バッチの組合せ編集のパフォーマンスが大幅に向上します。これは繰り返し行われる値の展開を回避できるためです。

ただし、ツリー ノードに設定されているチャートフィールド範囲内に新しい値を追加した場合、チャートフィールド組合せ編集グループの設定ページで増分オプションを選択していても、その新しい値は永続チャートフィールド値組合せテーブルに自動的には追加されません。ツリーのバージョンは変わらないため、新しい値を範囲に追加しても、マスター セレクタ テーブルの詳細値の再作成にはつながりません。

[詳細値を保持] オプションを選択し既に組合せデータを作成している状態で、ツリー ノードの値の範囲内に新しいチャートフィールド値を追加した場合は、作成処理を再実行し、新しく追加した値を PS_COMB_EXPLODED テーブルに含める必要があります。

注: 組合せグループの [詳細値を保持] チェック ボックスがオンになっていても、組合せセレクタ テーブル確認で表示されるのはセレクタ テーブルからの結果です。

Financials データベース外アプリケーションの Web サービスを使用したオンライン組合せ編集

PeopleSoft 同期 Web サービスである COMBO_CF_EDIT_REQUEST を使用して、Financials のコア データベース外で実行されるシステムと製品でチャートフィールド組合せを検証できます。このサービスはチャートフィールド組合せ編集をブラック ボックス サービスとして他のシステムに公開します。これはサー

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ドパーティ製品や PeopleSoft Enterprise Learning Management (PeopleSoft ELM) など Financials データベースの外で実行される製品で使用できます。

PeopleSoft Enterprise Learning Management (ELM) を例にして、この処理ロジックについて説明します。

- 同期リクエストである COMBO_CF_EDIT_REQUEST サービスを一般会計の Financials データベースに送信することにより、ELM はチャートフィールド組合せ編集を開始し、応答を待ちます。
- 一般会計はこのサービスをリスニングしているため、組合せ編集アプリケーション クラスを呼び出して受信した取引を検証します。
- 一般会計は応答を待っている ELM 処理に同期応答で結果を通知します。
- ELM は組合せ編集の結果に従って取引を続けます。

注: この Web サービスはサードパーティ製品で使用できますが、PeopleSoft は公式にはサードパーティ製品をサポートしていません。

---

*『PeopleSoft Enterprise Learning Management』の「Managing Person and Organization Data」および「Setting Up Financial ChartField Data」*を参照してください。

General Ledger IntegrationsPeopleSoft General Ledger を参照してください。

PeopleSoft コミットメント コントロールでの組合せ編集

コミットメント コントロールはコミットメント会計や予算コントロールを提供するオプションの機能で、さまざまな PeopleSoft アプリケーションで使用できます。コミットメント コントロールを使用している場合は、予算および予算調整の仕訳入力でも組合せ編集を使用できます。

注: 冬と春のツリーを指定すると、複数のツリーをコミットメント コントロール組合せ編集に対応させる必要がなくなり、コントロール予算の組合せ編集を効率的に実行できます。

コミットメント コントロールの組合せ編集については、コミットメント コントロールのドキュメントに詳しく記載されています。

Combination Editing for Budget and Budget Adjustment JournalsPeopleSoft Commitment Control を参照してください。

Using Combination Editing with Budget Transfer and Adjustment JournalsPeopleSoft Commitment Control を参照してください。

マスター セレクタ テーブル

COMBO_DATA_TBL の代わりに、静的または動的なマスター セレクタ テーブルを作成できます。組合せルールの特性に基づいて、組合せ作成オプションを検討します。ルールの数と、基礎の値の変更に関連する変更がどれだけ発生するかの両方を検討してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

COMBO_DATA_TBL を作成することが現実的でない場合は、静的なマスター セレクタ テーブルのセットを作成し、一般会計供給側システムで行われるオンラインおよびバッチの PeopleCode 編集をサポートできるようにします。これに該当するのは、生成される組合せの数が多い場合や、組合せ値に変更を加えたときに COMBO_DATA_TBL のクリアおよび再作成に時間がかかる場合です。

静的マスター セレクタ テーブルは PeopleCode またはバッチ編集処理で動的には管理されないため、ツリーまたは組合せルールに変更を加えるたびにテーブルを再作成する必要があります。それでも、チャートフィールド値をシステムに追加するたびに再作成が必要になる COMBO_DATA_TBL と比べて優位性があります。追加したチャートフィールド値が、組合せルールで使用されているツリーで定義される値範囲内である場合は、マスター セレクタ テーブルを再作成する必要はありません。

ツリーを使用して組合せルールを定義した場合、システムはテーブルを作成するときに、マスター セレクタ テーブルの指定ツリー内の値の範囲を保存します。テーブルの特定の基データが変更した場合にのみ、テーブルの再作成が必要になります。たとえば、ツリーの別のノードを参照するように組合せルールを変更した場合や、100001-100099 の勘定科目範囲を持つツリーを変更し、特定のノードに新しい範囲 100004-100099 を付与するような場合にテーブルを再作成します。

任意の長さの期間について、マスター セレクタ テーブルを作成できます。指定した日付期間内の取引は正しく編集されます。テーブルには、組合せルールで参照されている PeopleSoft ツリーからのデータが格納されます。有効日付きのツリー バージョンの数がそれほど多くない場合は、たとえば 1900 年 1 月 1 日から 2999 年 1 月 1 日のように、非常に長い期間のマスター セレクタ テーブルを作成できます。

しかし、ツリーの変更頻度が高く、ツリーに変更を加えるたびに新しい有効日付きツリー バージョンを作成する場合は、マスター セレクタ テーブルの作成頻度を上げ、テーブルに含まれる期間を短くします。指定した期間内に含まれる有効日付きツリーの数に応じて、マスター セレクタ テーブル内のデータ量が増えます。仕訳または取引が頻繁に編集される期間についてのみマスター セレクタ テーブルを作成する方法がベスト プラクティスとされています。たとえば、1 または 2 会計期間または 1 会計年度のテーブルを一度に作成します。

仕訳入力などのバッチ処理は、編集対象の仕訳また伝票の日付が含まれる期間のマスター セレクタ テーブルが作成されていれば、そのテーブルを使用して行われます。作成されていない場合は、バッチ編集によってテーブルが動的に作成されます。編集のパフォーマンスを上げるため、バッチ編集しか使用しない場合でも、マスター セレクタ テーブルを作成することをお勧めします。

マスター セレクタ テーブルに対する組合せデータ作成リクエスト ページの実行

組合せデータ作成リクエスト ページを使用して、マスター セレクタ テーブルを作成する処理を実行します。

組み合せデータ作成処理を実行する前に、ビジネス ユニットの詳細元帳グループを定義し、組合せ編集グループをその元帳グループに関連付ける必要があります。

[作成オプション] フィールドで *[セレクタ テーブル作成]* を選択すると、期間を入力できる [開始日] および [終了日] フィールドが有効になります。ルールに含まれ、有効日がこの期間に含まれる全てのツリーが、マスター セレクタ テーブルの作成に含められます。

関連リンク

元帳の元帳グループへのリンク

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド組合せ編集テンプレート

チャートフィールド組合せ編集テンプレート ページは、バックグラウンドまたはバッチのチャートフィールド組合せ編集処理を使用する各 PeopleSoft アプリケーションの取引レコードの構造を定義するものです。オンライン処理ではチャートフィールド編集テンプレートは使用されません。

PeopleSoft にはバックグラウンド組合せ編集の実行に必要となるテンプレートが用意されています。たとえば、JOURNALS チャートフィールド組合せ編集テンプレートは一般会計の PeopleSoft 仕訳入力処理で使用され、VCHREDIT テンプレートは PeopleSoft 買掛金管理に含まれている伝票編集処理で使用されます。

次に、提供されるテンプレートのリストを示します。

テンプレート	*説明*
AMEDIT	PeopleSoft 資産管理会計用のテンプレート
AREDIT	売掛金会計用のテンプレート
BD_COMMIT	予算仕訳用のコミットメント コントロール編集テンプレート
BI_ACCT	請求取引用の組合せテンプレート
CA_TXN	契約管理取引用の組合せテンプレート
JOURNALS	仕訳用の組合せテンプレート
POBATCH	発注書バッチ作成用のテンプレート
POCCLOADLD	購買用クレジット カードの取引明細ロード処理用のテンプレート
POREQBATCH	調達依頼バッチ作成用のテンプレート
PROJECTS	プロジェクト会計用のテンプレート
PROJECTS_A	サービス会計処理モデルのテンプレート
PROJECTS_I	プロジェクト管理インターフェイス テンプレート
PROJECTS_P	プロジェクト管理価格設定テンプレート
TREASURY	財務管理会計用のテンプレート
VCHREDIT	伝票編集テンプレート

注: PeopleSoft には、組合せ編集バックグラウンド処理を使用する PeopleSoft アプリケーションで使用できるチャートフィールド編集テンプレートが用意されており、関連するテーブルやフィールド名を変えない限り、これらのテンプレートは変更する必要がありません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

組合せ編集グループ

組合せ編集グループは組合せルールのセットを定義するものです。組合せグループ ページを使用して、複数の組合せルールを組合せグループ定義に関連付けます。仕訳編集処理中に、これらのルールはグループとして適用されます。

たとえば、組合せ定義を作成し、ルールで ACCOUNT を基準チャートフィールド、DEPTID と PRODUCT を基準外チャートフィールドに指定した場合、同じグループに属する全てのルールはこの組合せ定義を使用する必要があります。PROJECT_ID および AFFILIATE の組合せ定義を作成した場合は、この組合せ定義を持つルール用に別のグループを作成する必要があります。

注: 同じチャートフィールド組合せ定義を使用して複数のグループを定義し、これらのグループ全てを特定のビジネス ユニットの元帳グループと関連付けることができます。しかし PeopleSoft では、同じ組合せ定義を持つルールは同一のグループに所属させることをお勧めしています。これにより処理するグループの数が減るため、組合せ編集処理のパフォーマンスが向上します。ユニット別元帳コンポーネントでは組合せ編集グループ (プロセス グループ) を取引ソースごとに処理することも選択でき、該当外のグループに対して不要な検証をしなくてよいため、この方法でも処理の効率性を高めることができます。

「取引ソースごとの組合せ編集の定義」を参照してください。

各種の例

次に代表的なさまざまな例について説明しますが、説明を読む前に次の点を理解してください。

- 組合せ*定義*では、組合せ編集に含まれる*チャートフィールド*を定義します。
- 組合せ*ルール*では、組合せ定義の有効なチャートフィールドの*値*を定義します。
- 1 つの組合せグループ内の組合せルールは全て、組合せ定義が同じである必要があります。

  また、1 つの組合せグループ内の複数の組合せルールで同じ基準チャートフィールドが指定されている場合は、問題の発生を回避するため、十分な検討が必要です。
- ルールと定義に一致した組合せに有効または無効のいずれかのマークを付けるよう指定できます。
- ルールと定義に一致しない組合せは無効であるため、有効のマークを付けることができません。

次の例では、組合せグループを定義してさまざまなパラメータを指定するときの、ロジックおよび機能面の考慮事項を説明します。

異なるルール内に同一の基準チャートフィールドがある場合のグループ分け

同じグループに含めた複数のルールに同一の基準チャートフィールドがある場合で、基準および基準外チャートフィールドに設定した値がもう一方のセットまたはサブセットである場合、混乱が生じやすくなります。

次の例で、ルール 1 とルール 2 は双方とも基準チャートフィールドとして勘定科目を使用しています。ルール 2 の基準の勘定科目の値 614000 は INCSTMT ツリー ノードが示す勘定科目値の範囲に含まれており、DeptID 値 10000 もまた、「任意の値」が示す値のセット (有効と見なされる) に含まれています。

 Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ルール	*基準チャートフィールド*	*基準チャートフィールドの値*	*基準外チャートフィールド*	*基準外チャートフィールドの値*	*組合せで有効または無効の組合せを定義*
ルール 1	勘定科目	INCSTMT	部門 ID	任意の値	有効
ルール 2	勘定科目	614000	部門 ID	10000	有効

これらのルールが同じ組合せグループに含まれていると、ルール 1 またはルール 2 の基準および基準外の値で指定される if-then 条件の一方が満たされた場合に、その行に有効のマークが付きます。この結果、ルール 1 またはルール 2 の条件を満たす行は全て有効と見なされます。同じ組合せグループに含めた場合、これらのルールは冗長ということになります。

これらのルールをそれぞれ別のグループに含めた場合、全てのルールの条件を満たした行のみに有効のマークが付きます。このシナリオでは、614000 が有効と見なされるのは部門 ID が 10000 の場合のみです。そのため、ルール 1 とルール 2 を別々の組合せグループに含めた場合、両方の組合せグループが同じ組合せ定義を使用しているか、組合せグループが有効な組合せを定義しているか、無効な組合せを定義しているか、有効無効の両方を定義しているのかについて、ブールおよびロジックが適用されます。

同じ基準チャートフィールドを持つルールが複数ある場合の、ルールに含まれない基準値の扱い

組合せグループで、ルールに含まれない基準値に無効のマークを付けることを指定した場合、オリジナルのルールに含まれない値を有効の組合せとしているルールがあっても、それらのルールは上書きされます。

ルール	*基準チャートフィールド*	*基準チャートフィールドの値*	*基準外チャートフィールド*	*基準外チャートフィールドの値*	*有効または無効の組合せを定義*	*ルールに含まれない基準値*
ルール 3	勘定科目	BALSHEET	部門 ID	空欄	有効	無効に指定
ルール 2	勘定科目	614000	部門 ID	10000	有効	有効に指定

このシナリオでは、ルール 2 の基準の勘定科目 614000 は損益計算書勘定科目であり、そのためルール 3 で指定されている BALSHEET ツリー ノードには含まれていません。勘定科目 614000 を使用する行は、部門 10000 と共に使用された場合は有効な勘定科目であると別のルールで指定されているのにもかかわらず、常に無効のマークが付きます。同じグループ内の複数のルールに同じ基準チャートフィールドがある場合は、十分な分析を行ったうえで、ルールに含まれない値への無効のマーク付けを行う必要があります。

有効と無効のルールの比較

組合せ定義が 2 つのチャートフィールドで構成されている場合、有効の組合せを定義するよりも無効の組合せを定義した方が効率的であることがあります。しかし、組合せ定義で 3 つのチャートフィールドを使用している場合、組合せグループを有効とした場合と無効にした場合で顕著な違いがあります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ルール	*基準チャートフィールド*	*基準チャートフィールドの値*	*基準外チャートフィールド*	*基準外チャートフィールドの値*	*組合せで有効または無効の組合せを定義*
ルール 4	勘定科目	BALSHEET	部門 ID	任意の値	有効
			製品	任意の値	有効
ルール 5	勘定科目	BALSHEET	部門 ID	空欄	無効
			製品	空欄	無効

この例では、ルール 4 とルール 5 が同じような結果を生成するように思えます。しかし、ルール 4 は、BALSHEET 勘定科目には有効な部門 ID と製品の両方が必要であると規定しています。

ルール 5 は BALSHEET 勘定科目には空欄の部門 ID と空欄の製品があってはならないと規定しています。ルール 5 で編集された組合せが条件を満たした場合、この組合せには無効のマークが付きます。

これらのルールの違いは、ルール 5 では、空欄の部門 ID または空欄の製品と共に BALSHEET 勘定科目が使用された場合、有効のマークが付くということです。このルールでは、BALSHEET 勘定科目と空欄の部門 ID および空欄の製品の組合せが無効であるということしか規定していません。組合せ定義に 3 つ以上のチャートフィールドが含まれる場合は、十分な分析を行ったうえで無効な組合せを定義し、意図した結果が得られるようにします。

チャートフィールド組合せグループ、ルールに含まれない基準値

仕訳編集処理をとおして、次の仕訳行のチャートフィールド値を実行します。

仕訳行	*勘定科目*	*部門 ID*	*製品*	*金額*
1	110100	0100	GLDB2	500.00
2	200002	0500	GLORACLE	<250.00>
3	200003	0400	GLORACLE	<250.00>

この例ではルールのグループで、勘定科目を基準チャートフィールド、部門 ID と製品を基準外の組合せとしています。有効な組合せとする値を次のように明確に指定します。

例参照	*勘定科目*	*部門 ID*	*製品*
組合せ 1	110100	0100	GLDB2
組合せ 2	110100	0400	GLDB2
組合せ 3	200002	0100	GLORACLE

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

例参照	*勘定科目*	*部門 ID*	*製品*
組合せ 4	200002	0400	GLORACLE

これらの組合せは 1 つの組合せグループに含まれています。仕訳編集処理を実行すると、どの [ルールにない基準値] オプションを選択したかによって、異なる組合せ編集結果が得られます。

有効に指定 このオプションを選択した場合、仕訳行 1 に有効のマークが付きます。仕訳行 1 には、組合せ 1 で明示的に指定した値が含まれているためです。仕訳行 2 には無効のマークが付きます。仕訳行 2 には組合せルールで指定された基準値の 1 つが含まれていますが、対応する部門 ID と製品の値が、組合せで指定されているものと異なるためです。仕訳行 3 には有効のマークが付きます。これは勘定科目 200003 のルールが存在しないためです。

無効に指定 このオプションを選択した場合、仕訳行 1 には有効のマークが付きます。仕訳行上の組合せ値が、組合せ 1 の勘定科目、部門 ID、製品に明示的に指定した値と一致するためです。仕訳行 2 のように、基準値がルールで定義された明示的な組合せを持っていない場合、それらの行には全て無効のマークが付きます。勘定科目 200003 のルールは存在しないため、仕訳行 3 には無効のマークが付きます。

[組合せグループ定義] オプションを使用して組合せの指定を定義し、定義した組合せを有効な組合せとするのか、無効な組合せとするのかを指定できます。含有と除外のどちらの方式を採用するかで、定義する組合せの数を大幅に減らせる場合があります。多数の有効な組合せにわたって編集を行うよりも、比較的少数の無効な組合せについて編集を行った方が効率的です。

組合せに無効と有効のどちらのマークが付くかは、組合せグループで選択した組合せの指定オプションによって決まります。選択した内容はグループ内の全てのルールに適用されます。

- 含有の方式を採用した場合、組合せルールに含まれている値と同じ値を持つ全ての行に有効のマークが付き、同じ基準値を持つけれども基準外の値が異なる全ての行に無効のマークが付きます。
- 除外の方式を採用した場合、組合せルールに含まれている値と同じ値を持つ全ての行に無効のマークが付き、同じ基準値を持つけれども基準外の値が異なる全ての行に有効のマークが付きます。

空欄の基準外チャートフィールド値を無効な組合せとして組合せを定義できるため、このオプションを 値必須 フラグの代わりに使用できます。空欄値を使用する組合せを定義するにはツリーを使用する必要があります。

注: 組合せ編集に PeopleSoft ルールを使用する場合は、少なくとも 1 つの有効な組合せルールを選択する必要があります。行を挿入して、任意の数のルールを追加できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド組合せの編集で使用される共通要素

基準チャートフィールド 組合せ定義ページに最初に入力したチャートフィールドが基準チャートフィールドになります。組合せ編集処理を実行すると、システムは最初に基準チャートフィールドを検索し、その後に組合せ内の他のチャートフィールドを照合します。

前提条件

新しいシステムを初めて使用するときにチャートフィールド組合せ編集を開始することが望ましいですが、実装後いつでも導入できます。実装の前提条件は次のとおりです。

- 一般会計とサブシステムのアプリケーションが存在します。
- PeopleSoft ツリーを使用したチャートフィールドの要約ルールとレポート構造があります。

  PeopleSoft ツリーの作成および使用方法を理解している必要があります。ツリーを使用すると、静的な値ではなくチャートフィールド値の範囲を参照する組合せ編集ルールを作成できます。

  『*PeopleTools: Tree Manager*』も参照してください。

取引ソースごとの組合せ編集の定義

PeopleSoft では、さまざまな取引ソース用に異なる組合せ編集ルールおよびグループを定義できるため、組合せ編集処理をプロセス グループごとに 1 つの取引ソースに限定させることができます。これにより処理の対象を特定の取引ソースの取引に絞ることができるため、処理のオーバーヘッドと所要時間を効率よく減らし、不要なデータ処理を回避できます。

ユニット別元帳 – 仕訳編集オプション ページで組合せ編集グループ (プロセス グループ) を特定のビジネス ユニットおよび元帳グループに関連付けるときに、特定のプロセス グループに適用する取引ソースを指定できます。プロセス グループに特定の取引ソースを指定しなかった場合、組合せ編集処理はそのプロセス グループの組合せルールを全ての取引に適用します。

「仕訳編集オプション ページ」を参照してください。

提供される取引ソースは次のとおりです。

取引ソース値	*取引ソースの説明*
AMT	資産管理取引
APA	買掛金管理会計行

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

取引ソース値	*取引ソースの説明*
ARI	売掛金アイテム
BDJ	コミットメント コントロール予算仕訳
BIA	請求管理会計行
CAA	契約管理会計行
CMA	原価管理
CSF	Campus Solutions SF 会計行
CSC	Campus Solutions CR 会計行
GLJ	一般会計仕訳 (Oracle Retail インテグレーション会計行を含む)
GMA	Grants 会計行
HCM	Human Capital Management
INV	在庫管理
PCA	プロジェクト会計行
PCI	プロジェクト リソース インターフェイス
PCP	プロジェクト価格設定
POA	購買管理会計行
POP	購買管理購買用カード取引
POR	調達依頼
TRA	財務管理会計行

注: 提供されるこれらの値は、既存のチャートフィールド編集テンプレートに基づいて定義されています。必要に応じて値を追加できます。最初の 2 文字は製品または共通機能を表し、最後の文字はその製品内の特定の取引ソースを表しています。

組合せ編集の設定

組合せ編集を設定するには、次のコンポーネントを使用します。

- チャートフィールド編集テンプレート (COMBO_EDIT_TMPL1)

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- テンプレート (LEDGER_TEMPLATE)
- 組合せ定義 (COMBO_CF_DEFN)
- 組合せルール (COMBO_RULE)
- 組合せグループ (COMBO_GROUP)
- ユニット別元帳 (BUSINESS_UNIT_LED)

BUSINESS_UNIT_LED コンポーネントの各テーブルへデータをロードするには、EM_BUS_UNIT_LED コンポーネント インターフェイスを使用します。

組合せ編集の設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
チャートフィールド組合せ編集テンプレート ページ	COMBO_EDIT_TMPL1	処理するテーブルとフィールドおよびそれらの処理方法を組合せ編集処理に指示するためのテンプレートを定義します。
元帳テンプレート - フィールド定義ページ	LEDGER_TEMPLATE2	組合せチャートフィールド編集の仕訳編集で使用できるよう、該当するアプリケーションのチャートフィールド組合せ編集テンプレートを元帳テンプレートに関連付けます。これは組合せ編集を使用するかどうかに関係なく、仕訳編集中のチャートフィールド検証でも必要になります。
チャートフィールド組合せ編集定義ページ	COMBO_CF_DEFN	編集するチャートフィールドの組合せを定義します。
ルール定義ページ	COMBO_RULE1	セットID、組合せルールの名前、ルールの組合せ定義および有効日を指定して、組合せルールを定義します。
チャートフィールド組合せページ	COMBO_RULE2	ルールに含める基準チャートフィールド値と基準外チャートフィールド値を定義します。
チャートフィールド組合せ編集グループ ページ	COMBO_GROUP	複数の組合せルールを組合せグループにまとめます。
仕訳編集オプション ページ	BUSINESS_UNIT_LED2	プロセス グループを元帳グループにまとめます。組合せ編集処理に制限を設けて効率性を上げる場合は、プロセス グループごとに取引ソースを割り当てます。
組合せ編集取引ソース ページ	COMBO_TRAN_ SOURCE	特定のプロセス グループに関連付ける取引ソースの名前を定義します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
組合せ編集取引ソース ページ (表示のみ)	COMBO_TRAN_SRC_COB	(表示のみ) 特定のプロセス グループに関連付けられている全ての組合せ取引ソースを表示します。このページは組合せデータ作成リクエスト ページからアクセスします。 詳細については、「組合せデータ作成リクエスト ページ」を参照してください。

組合せ編集の設定について

組合せ編集処理を設定するには、次の設定手順を実行します。

1. 買掛金管理や請求管理などのアプリケーションで、組合せ編集を有効にします。
2. バックグラウンドでの組合せ編集の実行に使用する、アプリケーション固有のチャートフィールド組合せ編集テンプレートを選択または定義します。
3. 組合せ編集テンプレートを、People Soft 一般会計の対応する元帳テンプレートに関連付けます。
4. ビジネス ユニットおよび元帳グループで組合せとして編集する 2 つ以上のチャートフィールドを指定して、組合せ定義を設定します。
5. 仕訳入力に使用するチャートフィールド組合せ値を関連付ける組合せルール 1 と 2 を定義します。

   これらのルールにより、仕訳編集処理を通過できるチャートフィールド値の組合せが決定します。次の点を検討します。

   - 有効な組合せと無効な組合せのどちらを編集するのかを、双方の効率性を分析したうえで決定します。
   - チャートフィールド値を特定の値として定義するのか、それとも PeopleSoft ツリーベースの基準を使用する値の範囲として定義するのか。
   - 各元帳グループに定義するルールおよびルールの数。

     ルールの数に制限はありませんが、ルールが多くなればなるほど処理速度は遅くなります。これは特に、組合せルールに必須チャートフィールドがある場合に顕著に現れます。
   - ルールは会計コントロールの要件が変わるたびに更新する必要があります。

6. 組合せ編集グループを定義します。

   複数の組合せルールを組合せグループ定義に関連付けます。各グループに所属させる組合せ編集ルールを含めます。これらの関連する組合せを使用して、仕訳編集処理中に仕訳入力が検証されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

7. ユニット別元帳 — 仕訳編集ページで、組合せグループを元帳グループに関連付けます。取引ソースを組合せグループに割り当てるかどうかを決定します。特定の取引ソースをプロセス グループに割り当てると、不要なデータ処理を回避できます。

8. 組合せデータ作成ページで、COMBO_DATA_TBL またはマスター セレクタ テーブルを作成する処理を実行します。

9. 必要に応じて、ユーザー定義データ テーブルを作成します。

10. 仕訳編集処理を実行してセレクタ テーブルを動的に生成し、チャートフィールド組合せを検証します。

11. [詳細値を保持] オプションを使用して、マスター セレクタ テーブルから組合せチャートフィールド値の永続テーブルを作成します。

12. 必要に応じて組合せルールを変更したりテーブルを再作成したりして、システムを保守します。

チャートフィールド組合せ編集テンプレート ページ

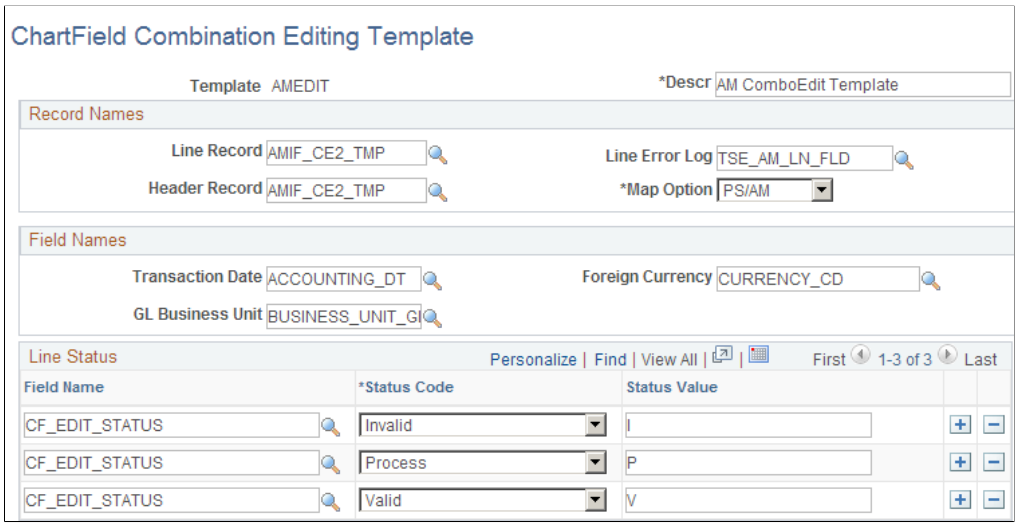
チャートフィールド組合せ編集テンプレート ページ (COMBO_EDIT_TMPL1) を使用して、処理するテーブルとフィールドおよびそれらの処理方法を組合せ編集処理に指示するためのテンプレートを定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [組合せ編集], [チャートフィールド編集テンプレート], [チャートフィールド組合せ編集テンプレート]

画像: チャートフィールド組合せ編集テンプレート ページ

次の例では、チャートフィールド組合せ編集テンプレート ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



この例のスクリーン ショットには、JOURNALS 組合せテンプレートが表示されています。これは提供される標準のテンプレートで、バックグラウンドの組合せ編集や仕訳編集処理で使用されます。PeopleSoft にはアプリケーション用の各種のテンプレートが用意されており、組合せ編集で使用されるレコード名やフィールド名、行のステータス値が、このテンプレートで定義されています。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: システムをカスタマイズしない限り、各種の PeopleSoft アプリケーション用の標準テンプレートを変更したり、新しいテンプレートを作成したりする必要はありません。

明細行レコード	組合せ編集処理の編集対象となるチャートフィールド組合せ (仕訳行) が含まれているレコードの名前。
ヘッダー レコード	組合せ編集処理の編集対象となる会計行入力の仕訳ヘッダーが含まれているレコードの名前。このフィールドはオプションであるため、空欄のままでもかまいません。
明細行エラー ログ	組合せの個々の行のエラー メッセージを格納するレコードの名前で、組合せ編集エラー確認処理で使用されます。
マッピング オプション	テンプレートの適用先アプリケーションを指定します。
取引日	取引日として使用されるフィールド名。
GL ビジネス ユニット	一般会計のビジネス ユニットとして使用されるフィールド名。
外貨	外貨コードとして使用されるフィールド名。
フィールド名	組合せ行のステータスが記録されるフィールドの名前。
ステータス コード	組合せ編集処理は行を各取引のステータスで更新するときに、ここで指定された値を使用します。 *無効:* エラーにより取引が失敗したことを示しています。 *処理:* 取引が処理中であることを示しています (現在使用されていません)。 *有効:* 有効または通過した取引であることを示しています。
ステータス値	組合せの各ステータス コードを表すためにアプリケーションが使用する値を、有効の場合は *0*、無効の場合は *1* などのように指定します。

元帳テンプレート - フィールド定義ページ

元帳テンプレート - フィールド定義ページ (LEDGER_TEMPLATE2) を使用して、組合せチャートフィールド編集の仕訳編集で使用できるよう、該当するアプリケーションのチャートフィールド組合せ編集テンプレートを元帳テンプレートに関連付けます。これは組合せ編集を使用するかどうかに関係なく、仕訳編集中のチャートフィールド検証でも必要になります。

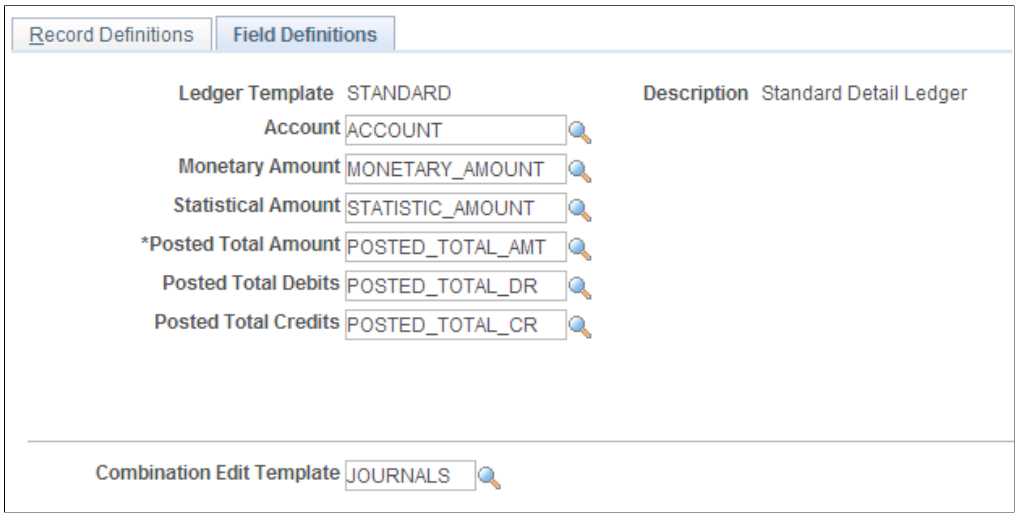
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[一般会計], [元帳], [テンプレート], [フィールド定義]

画像: 元帳テンプレート - フィールド定義ページ

次の例では、元帳テンプレート - フィールド定義ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



バックグラウンド組合せ編集処理を使用する PeopleSoft アプリケーションでは、元帳テンプレート - フィールド定義ページを使用して、アプリケーションの組合せ編集テンプレートを元帳テンプレートに関連付ける必要があります。仕訳編集処理は、指定された組合せ編集テンプレートを使用して、仕訳編集中にチャートフィールド検証を行います。

組合せ編集テンプレート ドロップダウン リスト ボックスから元帳テンプレートに対応するテンプレートを選択します。

警告 このテンプレートは仕訳編集処理によるチャートフィールド編集で必要になります。このフィールドが空欄の場合、仕訳編集処理は失敗します。

チャートフィールド組合せ編集定義ページ

チャートフィールド組合せ編集定義ページ (COMBO_CF_DEFN) を使用して、編集するチャートフィールドの組合せを定義します。

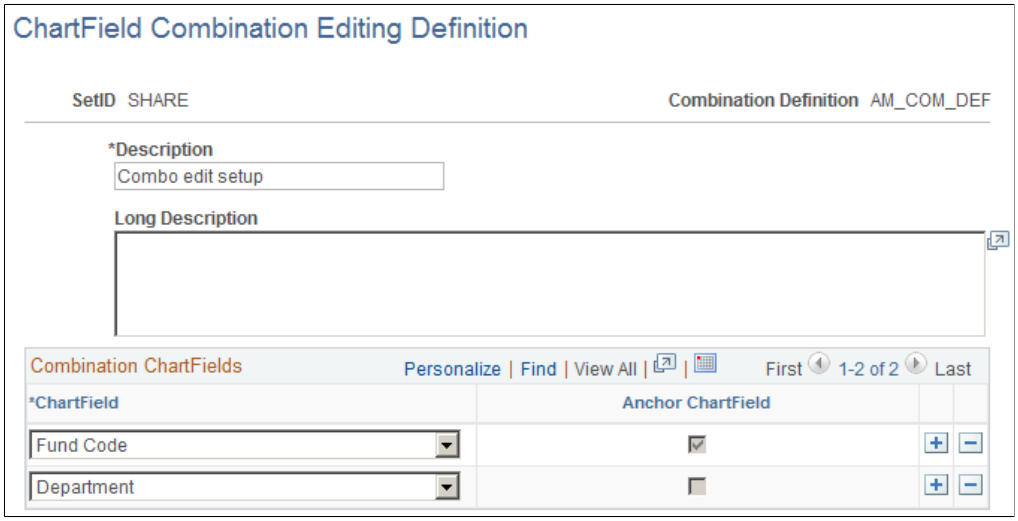
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [組合せ編集], [組合せ定義], [チャートフィールド組合せ編集定義]

画像: チャートフィールド組合せ編集定義ページ

次の例では、チャートフィールド組合せ編集定義ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



組合せ定義 セットID ごとの新しい組合せ定義について、チャートフィールドの一意のセットごとに名前を付与します。

チャートフィールド 組合せに含めるチャートフィールドを指定します。

注: デフォルトで、最初に入力したチャートフィールドが基準チャートフィールドとして選択されます。

基準チャートフィールド 基準チャートフィールドによって組合せ編集ルールが制御されます。最初にリストに含めたチャートフィールドが基準チャートフィールドとして自動的に指定されます。

組合せ編集処理を実行すると、組合せ定義で定義した基準チャートフィールドが最初に検索され、その後に組合せ内の他の基準外チャートフィールドの照合が行われます。

たとえば、ある定義で ACCOUNT を基準チャートフィールドとして定義し、DEPTID と PRODUCT を有効なチャートフィールド組合せとしてこの基準チャートフィールドに関連付けたとします。

次にルール定義ページを使用して、この ACCOUNT、DEPTID、PRODUCT のチャートフィールド組合せ定義の有効な組合せとするチャートフィールド値の組合せを作成します。チャートフィールド値を処理する組合せルールを次の手順で定義しますが、このルールは基準チャートフィールドによって制御されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: コミットメント コントロール予算仕訳組合せ編集の場合、分析タイプ (ANALYSIS_TYPE)、カテゴリ (RESOURCE_CATEGORY)、サブカテゴリ (RESOURCE_SUB_CAT) (プロジェクト コスト管理関連の詳細チャートフィールド) はサポートされません。

ルール定義ページ

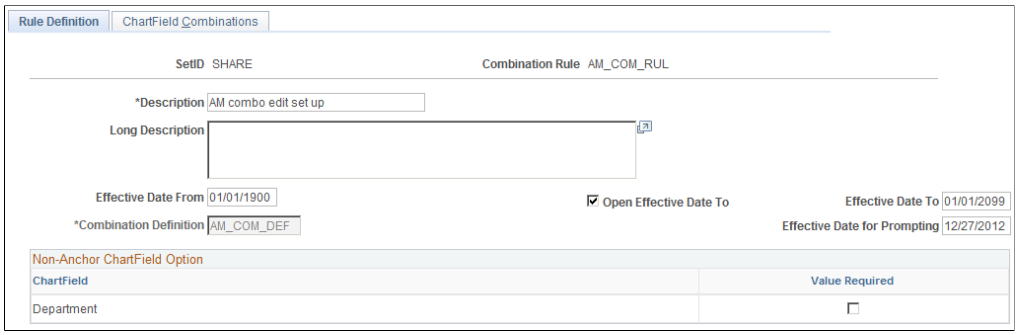
ルール定義ページ (COMBO_RULE1) を使用して、セットID、組合せルールの名前、ルールの組合せ定義および有効日を指定し、組合せルールを定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [組合せ編集], [組合せルール], [ルール定義]

画像: ルール定義ページ

次の例では、ルール定義ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



開始有効日と 終了有効日 ルールの有効期間を示す有効日の範囲を指定します。仕訳編集中にプログラムは、仕訳日を条件として使用し、この範囲内に含まれる有効な組合せルールのみを組合せに適用します。

オープン開始有効日 終了有効日を無期限として指定する場合は、このオプションを選択します。[終了有効日] フィールドの入力ができなくなり、*01/01/2099* と表示されます。

組合せ定義 この組合せルールに含まれるチャートフィールドを識別します。この定義に基づく組合せルールがない限り、これは変更できます。

プロンプトの有効日 この日付以前の詳細チャートフィールド値と PeopleSoft ツリーのプロンプトの有効日を入力します。このページには有効日ではなく日付の範囲が含まれているため、その範囲内の任意の期間のチャートフィールドを入力できます。これらのチャートフィールドのプロンプトの開始日を指定できますが、デフォルトは現在日までです。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

基準外チャートフィールド オプション

初めてルールを定義するときには、基準外チャートフィールドが表示されます。これらのチャートフィールドはチャートフィールド組合せ編集定義ページで入力します。ただし、最初に入力したチャートフィールドが基準チャートフィールドで、このページには表示されません。

値必須

空白以外の有効な値を必須値として要求する場合は、対象の基準外チャートフィールドのこのチェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにすると、関連する基準外チャートフィールドのルールでの値やツリー ノードの入力に制限が課されます。

注: このチェック ボックスをオンにすることでチャートフィールドに有効値を簡単に要請でき、ルールで各有効値を定義する必要がありません。
チャートフィールド組合せグループ ページで空白のツリー ノードまたはレベルを使用し、空白のチャートフィールド値を無効な組合せとして定義すると、同様の結果が得られます。

チャートフィールド組合せページ

チャートフィールド組合せページ (COMBO_RULE2) を使用して、ルールに含める基準チャートフィールド値と基準外チャートフィールド値を定義します。

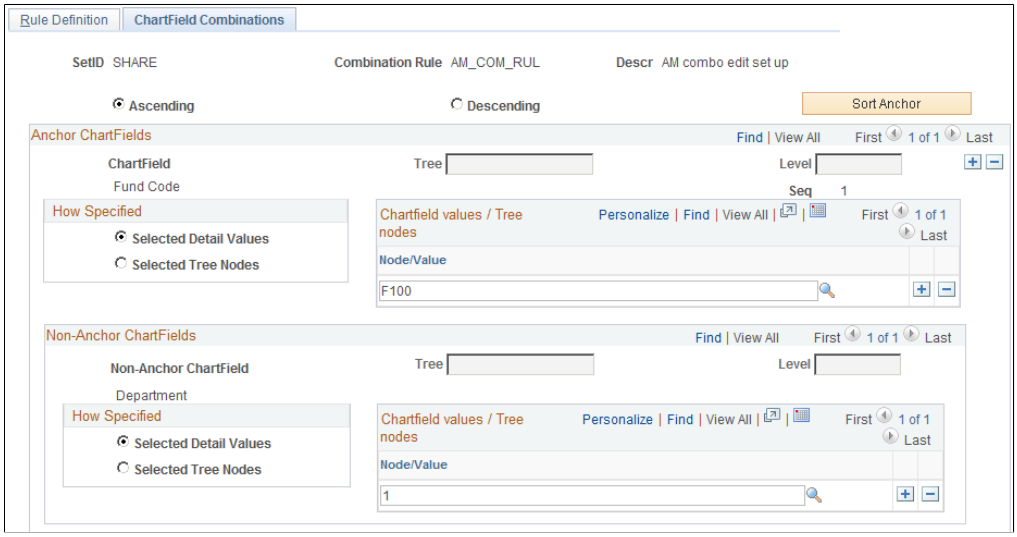
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [組合せ編集], [組合せルール], [チャートフィールド組合せ]

画像: チャートフィールド組合せページ

次の例では、チャートフィールド組合せページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



ルール定義ページで値必須チェック ボックスを選択した場合、このページに自動的にデータが入力されます。

昇順 基準チャートフィールドを昇順に並べ替える場合に選択します。

降順 基準チャートフィールドを降順に並べ替える場合に選択します。

ソート基準 基準チャートフィールドを選択した順序に並べ替える場合にクリックします。

基準チャートフィールド これは組合せの基準となる第 1 のレベルであり、変更できません。

基準外チャートフィールド この第 2 のレベルは、基準チャートフィールドと共に組合せを形成する基準外チャートフィールドを識別します。

ツリーおよびレベル これらのフィールドと [ノード/値] フィールドによって、組合せルールがツリー定義に基づく場合のノード プロンプトが決まります。このフィールドは、基準および基準外チャートフィールドのチャートフィールド値のソースとなるツリーおよびレベルを識別します。

夏、冬または春のツリーを選択できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

指定方法

[指定方法] ラジオ ボタンを使用して、選択した基準および基準外チャートフィールドのチャートフィールド値のソースとして次のいずれかを指定します。

[選択した詳細値] をクリックして、値/ノード フィールドで選択した個々のチャートフィールド値を含めます。

[選択したツリー ノード] をクリックすると編集ボックスがアクティブになるので、ここでレベルを含むツリーのツリー名とレベルを指定できます。ツリーのノードを、値/ノード フィールドで指定します。ノードの詳細値が空であるツリーも設定できます。

ノード/値

このフィールドと [ツリー] および [レベル] フィールドによって、組合せルールがツリー定義に基づく場合のノード プロンプトが決まります。選択した詳細チャートフィールド値を指定するときに、個々のチャートフィールド値を入力します。

注: 選択したツリーの構造内のノードが、ツリー ノード構造の標準のレコード TREE_NODE_TBL を使用しているのではなく、標準のツリー ノード レコードを参照するビューに基づいている場合、これらのビューをカスタマイズする必要があります。

チャートフィールド組合せ編集グループ ページ

チャートフィールド組合せ編集グループ ページ (COMBO_GROUP) を使用して、組合せルールを 1 つの組合せグループにまとめます。

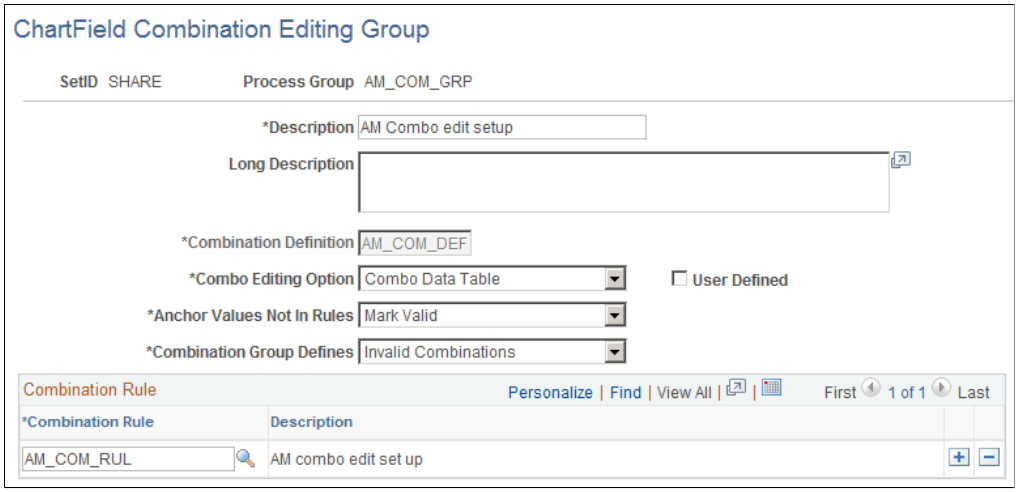
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [組合せ編集], [組合せグループ], [チャートフィールド組合せ編集グループ]

画像: チャートフィールド組合せ編集グループ ページ

次の例では、チャートフィールド組合せ編集グループ ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



組合せ定義

適切な組合せ定義を選択します。このフィールドは新しいプロセス グループの作成時に使用可能です。これは必須フィールドで、グループ内のルールで定義されているものと同じにする必要があります。

組合せ編集オプション

使用するテーブルのタイプを次から 1 つ指定します。

- *組合せデータ テーブル:* COMBO_DATA_TBL を使用してチャートフィールド組合せを編集します。
- *マスター セレクタ テーブル:* マスター セレクタ テーブルのセットを使用します。

バッチ編集では次のいずれかを使用して、会計、伝票行または仕訳行の組合せを編集します。

- 詳細組合せの行が多数含まれている COMBO_DATA_TBL
- PeopleSoft ツリー範囲が格納された複数のテーブルで構成されるマスター セレクタ テーブル

バッチおよびオンラインの PeopleCode 編集はいずれも、ビジネス ユニットに関連付けられた複数の組合せグループ (異なる組合せ編集オプションを使用する) をサポートします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユーザー定義

このチェック ボックスは、[組合せ編集オプション] フィールドで *[組合せデータ テーブル]* を選択した場合に使用可能になります。ユーザー定義でデータ移入された組合せデータ テーブルを仕訳編集処理で使用する場合に選択します。有効な組合せのテーブルを定義して保守するアプローチを作成し、要件に対応するための変更を加える場合は、この機能を使用します。このオプションを選択した場合、検証するチャートフィールド組合せを識別するための組合せ定義を要求されます。

仕訳編集処理で組合せルールを考慮する場合は、組合せデータでこのチェック ボックスをオンにしないでください。[ユーザー定義] オプションは [ルールにない基準値] オプションと [組合せグループ定義] オプションを有効または無効として認識します。

増分

このチェック ボックスは、[組合せ編集オプション] フィールドで *[マスター セレクタ テーブル]* オプションを選択した場合に使用可能になります。

マスター セレクタ テーブルの増分更新を行う場合に選択します。チャートフィールド ツリーまたは組合せルールに変更を加えると、組合せの作成中またはバッチ仕訳編集中に、マスター セレクタ テーブルが増分更新されます。

このフィールドは静的マスター セレクタ テーブルを使用するプロセス グループでのみ使用可能です。

デフォルトでこのチェック ボックスはオフであるため、処理は無効化されています。

詳細値を保持

このチェック ボックスは、[組合せ編集オプション] フィールドで *[マスター セレクタ テーブル]* オプションを選択した場合に使用可能になります。

マスター セレクタ テーブルの作成処理中に生成された詳細値の組合せを、PS_COMB_EXPLODED という永続テーブルに維持する場合に、このオプションを選択します。このオプションを選択しなかった場合、マスター セレクタ テーブルを使用して組合せ編集を実行するたび、詳細値が一時テーブルに生成されクリアされます。

デフォルトで、このチェック ボックスはオフです。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: 注:ツリー ノードに設定されているチャートフィールド範囲内に新しい値を追加する場合、[詳細値を保持] を選択しても、その新しい値は組合せに含まれません。これは組合せグループの設定で増分オプションを選択している場合でも同様です。
新しい値は、[詳細値を保持] オプションを選択してマスター セレクタ テーブルを再作成したときに PS_COMB_EXPLODED テーブルに格納されます。

ルールにない基準値

このオプションは、ルールに含まれていない基準チャートフィールド値を含む組合せに、どのような処理をするかを決定します。検証が行われるのは常に指定された基準値のみであり、このオプションはその他の基準値をどのように処理するかを決定します。

有効に指定: ルールに含まれていない基準チャートフィールド値が含まれている行に有効のマークが付きます。

無効に指定: ルールに含まれていない基準チャートフィールド値が含まれている行に無効のマークが付きます。

組合せグループ定義

グループで定義された組合せを、有効な組合せとするのか無効の組合せとするのかを定義するオプションです。

注: [ルールにない基準値] フィールドを *[無効に指定]*、[組合せグループ定義] フィールドを *[無効な組合せ]* に設定することは避けてください。この場合、全ての組合せが無効と見なされます。

このフィールドは次のように設定できます。

有効な組合せ: グループ内の組合せを含む行に有効のマークが付きます。

無効な組合せ: グループ内の組合せを含む行に無効のマークが付きます。

注: 組合せ編集に PeopleSoft ルールを使用する場合は、少なくとも 1 つの有効な組合せルールを選択する必要があります。行を挿入して、任意の数のルールを追加できます。

仕訳編集オプション ページ

仕訳編集オプション ページ (BUSINESS_UNIT_LED2) を使用して、プロセス グループを元帳グループに関連付けます。

組合せ編集処理に制限を設けて効率性を上げる場合は、プロセス グループごとに取引ソースを割り当てます。

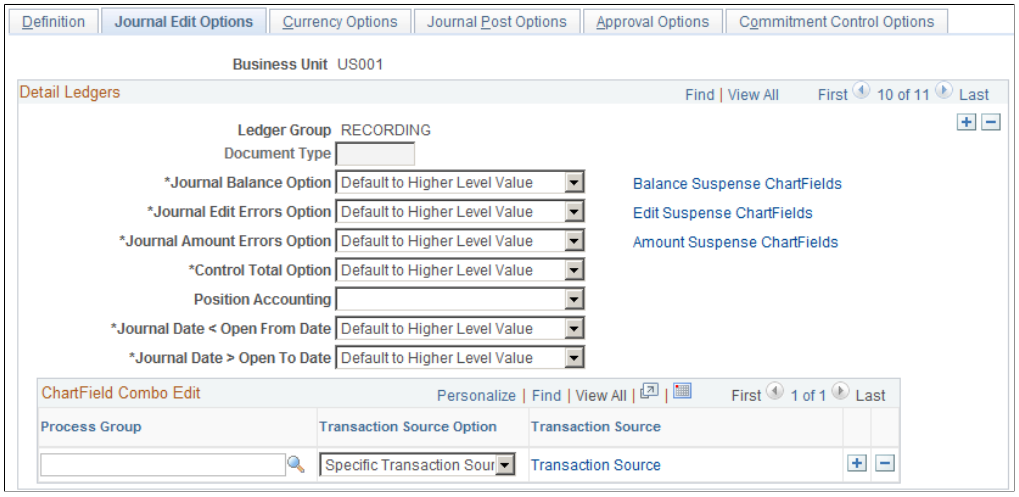
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [ビジネス ユニット関連], [一般会計], [ユニット別元帳], [仕訳編集オプション]

画像: ユニット別元帳 - 仕訳編集オプション ページ

次の例では、ユニット別元帳 - 仕訳編集オプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このページで組合せ編集グループ (プロセス グループ) を元帳グループに関連付け、どの組合せ編集ルールを特定の取引に適用するかを指定します。仕訳編集処理時に、仕訳に記載されている元帳グループが参照され適用するルールが決まります。各プロセス グループでどの取引グループを処理するかを判断するため、[ソース オプション] も参照されます。

警告 会計入力行で元帳グループを提供しないサブシステム (PeopleSoft 請求管理など) の場合は、ユニット別元帳定義ページで、元帳グループを仕訳ジェネレータ デフォルト元帳グループとして設定してください。

チャートフィールド組合せ編集

行を挿入して、任意の数のプロセス グループを追加できます。

プロセス グループ

組合せ編集プロセス グループを指定すると、取引編集処理は該当する各取引が有効であるか無効であるかを判断するため、各組合せグループに照らして取引を編集します。

[組合せグループ定義] オプションを有効または無効とするなど、異なる編集オプションを使用するプロセス グループを 1 つのビジネス ユニットおよび元帳グループに関連付けることも可能です。

このフィールドは要約元帳では使用できません。

ソース オプション

以下のオプションから 1 つ選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

指定取引ソース – 組合せ編集処理で編集する取引の取引ソース (1 つまたは複数) を指定する場合は、このオプションを選択します。このオプションを使用すると、プロセス グループで定義されたルールに適用可能なソースを含む取引のみが検証され、処理の効率が向上します。

全ての取引ソース - (デフォルト値) このオプションを使用すると、組合せ編集処理で全ての取引がプロセス グループに照らして編集されます。

取引ソース

このリンクは *[指定取引ソース]* オプションを選択した場合に表示されます。このリンクをクリックしてアクセスできる組合せ編集取引ソース ページで、特定のプロセス グループで処理する取引の取引ソース (1 つまたは複数) を定義します。組合せ編集プログラムは、プロセス グループに定義されたソースのみを処理します。

注: 組合せ編集を使用しない場合は、仕訳編集オプション ページで [プロセス グループ] フィールドに組合せ編集グループを入力しなければ組合せ編集を無効にできます。このフィールドにプロセス グループを入力しないと、組合せ編集ルールは一切適用されません。全てのグループを削除した後に組合せ編集エラーが表示される場合は、元帳テンプレートに組合せテンプレートが関連付けられていないか確認してください。このテンプレートは仕訳のみに適用され、供給側システムの取引には適用されません。

関連リンク

ビジネス ユニット用元帳の定義

組合せ編集取引ソース ページ

組合せ編集取引ソース 2 次ページ (COMBO_TRAN_ SOURCE) を使用して、特定のプロセス グループに関連付ける取引ソースの名前を定義します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

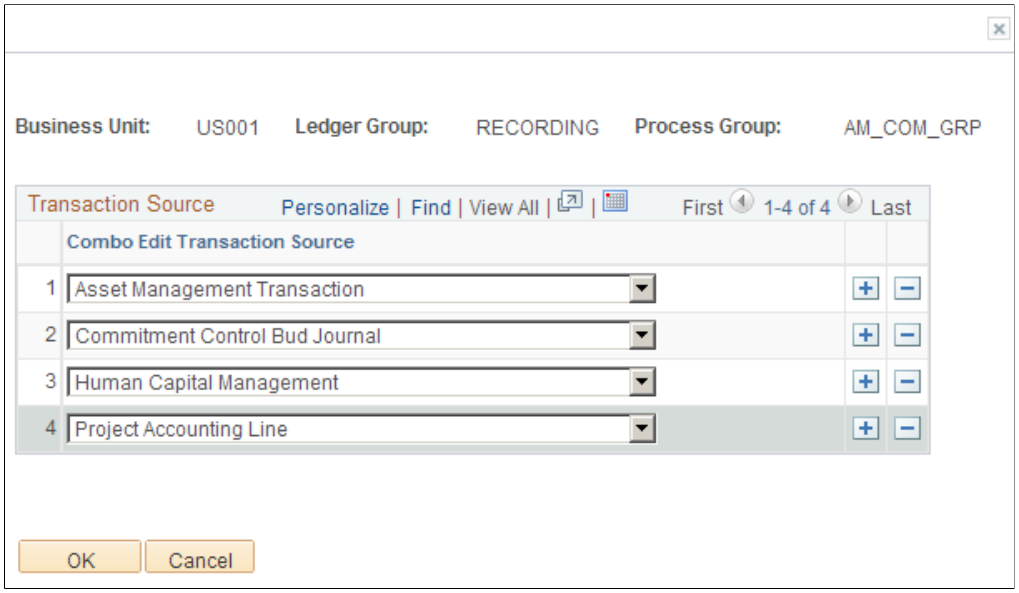
ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [ビジネス ユニット関連], [一般会計], [ユニット別元帳], [仕訳編集オプション]

[指定取引ソース] オプションを選択し、[取引ソース] リンクをクリックします。

画像: 組合せ編集取引ソース ページ

次の例では、取引ソース リンクのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



1 つ以上の組合せ編集取引ソースを選択し、特定のプロセス グループに関連付けます。組合せ編集プログラムは、このプロセス グループでこれらの取引のみを検証します。

提供される組合せ編集取引ソースのリストについては、次を参照してください。

「取引ソースごとの組合せ編集の定義」を参照してください。

注: 必要に応じて新しいトランスレート値を COMBO_TRAN_SRC フィールドに追加して、新しい取引ソースを追加できます。

組合せデータ作成処理の実行

組合せデータ作成処理を実行するには、組合せデータ作成コンポーネント (COMBO_BUILD_REQ) を使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

組合せ作成処理の実行に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
組合せデータ作成リクエスト ページ	COMBO_BUILD_REQ	COMBO_DATA_TBL またはマスター セレクタ テーブルを作成する処理を実行します。

組合せデータ作成処理の実行について

組合せデータ作成処理 (FS_CEBD) を実行して、次のいずれかを作成します。

- COMBO_DATA_TBL。組合せ展開処理によってデータが移入されます。
- 静的なマスター セレクタ テーブルのセット。

一般会計の仕訳編集処理の一環で仕訳行を編集するのに加え、供給側システムでこれらのテーブルと照らして伝票行や会計入力行を編集できます。組合せ編集はオンライン、バックグラウンドのいずれの場合も、COMBO_DATA_TBL または静的なマスター セレクタ テーブルのセットのいずれかを使用し、特定の編集で両方を使用することはありません。

組合せデータ作成リクエスト ページ

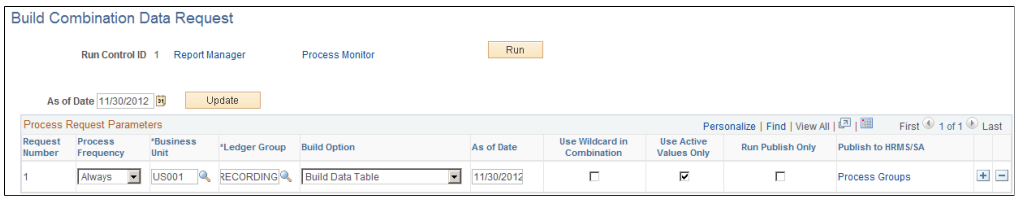
組合せデータ作成リクエスト ページ (COMBO_BUILD_REQ) を使用して、COMBO_DATA_TBL またはマスター セレクタ テーブルを作成する処理を実行します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [組合せ編集], [組合せデータ作成], [組合せデータ作成リクエスト]

画像: 組合せデータ作成リクエスト ページ

次の例では、組合せデータ作成リクエスト ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



注: 有効な組合せを維持するため、展開処理はいつでも実行できます。ただし、PeopleSoft アプリケーションで展開処理を実行する前に、システムの空き容量を確認し、容量を使い果たすことのないようにしてください。

組合せデータ作成処理では、COMBO_DATA_TBL またはマスター セレクタ テーブルへのデータ移入が行われます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

データ テーブルの作成オプションを選択した場合、ビジネス ユニットと元帳グループのルールが分析され、可能なチャートフィールド値の組合せが生成され、データ テーブルに挿入されます。これはCOMBO_DATA_TBL の展開と呼ばれています。組合せルールを展開することの利点は、仕訳編集時のパフォーマンス向上を期待できることです。

セレクタ テーブル作成オプションを選択した場合、ルールとツリーが分析されてチャートフィールド値の有効な範囲が生成され、その範囲がマスター セレクタ テーブルに格納されます。マスター セレクタ テーブルの場合はサイズが小さくなるので保守も容易です。

注: マスター セレクタ テーブルで [詳細値を保持] オプションを使用すると、テーブルを維持して再利用できるため、編集のたびにツリー範囲を展開して TAO テーブルに移入することもなく、さらに高い効率性を期待できます。

ビジネス ユニットの詳細元帳グループを定義し、組合せ編集グループをその元帳に関連付けると、組合せデータ作成リクエストの実行準備が整います。

指定日

その特定の日付に存在するチャートフィールドおよびチャートフィールド値について、COMBO_DATA_TBL を作成します。全ての行の [指定日] を更新するには、[更新] ボタンを使用します。

処理頻度

一括: 組合せデータ作成処理が次回実行されるときに、現在のリクエストを処理する場合に選択します。

しない: 一度実行した後は、処理の頻度はこの値に変更されます。

常時: 組合せデータ作成が実行されるたびに処理する場合に選択します。

作成オプション

データ テーブル作成: これを選択すると、ビジネス ユニットおよび元帳グループに関連付けられていて、組合せ編集オプションで COMBO_DATA_TBL が選択されている組合せグループが処理されます。このオプションでは、組合せルールで定義されている全ての有効な組合せがデータ テーブルに展開されます。通常これにより、仕訳編集処理のパフォーマンスが向上します。ただし、システムの容量を使い果たすことのないよう、作成される組合せの数と空き容量を考慮したうえで、このオプションを使用するかどうかを検討してください。

セレクタ テーブル作成: これを選択すると、ビジネス ユニットおよび元帳グループに関連付けられていて、組合せ編集オプションでマスター セレクタ テーブルが選択されている組合せグループが処理されます。組合せルールおよびツリー定義からチャートフィールド値の範囲が作成され、その範囲がマスター セレクタ テーブルに格納されます。このオプションを選択すると、[指定日] フィールドが [開始日] と [終了日] に置換されます。マス

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

	ター セレクタ テーブルに含める有効日付きツリーおよびツリー範囲を制限する場合は、[開始日] フィールドと [終了日] フィールドを使用します。
ワイルドカード使用	組合せデータ テーブルに含める組合せの数を減らす場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、ルールで値必須オプションが選択されているチャートフィールドを表現するために、ワイルドカード文字 % が使用されます。値必須オプションを使用するルールが多数ある場合は、データ テーブルの展開時にこのオプションを選択します。このオプションはマスター セレクタ テーブルの作成時には使用できません。
アクティブ値のみを使用	COMBO_DATA_TBL の作成時点でアクティブ状態であるチャートフィールド値のみを使用する場合に、選択します。このオプションを選択した場合、使用するチャートフィールド値が取引日時点ではアクティブだったとしても、そのチャートフィールド組合せは無効と見なされます。このオプションは COMBO_DATA_TBL のサイズを減らす場合に使用します。非アクティブ日より前の日付の取引を編集する必要がある場合は、このオプションは選択しないでください。
パブリッシュのみ実行	このオプションは PeopleSoft HCM アプリケーションがインストールされている場合にのみ使用できます。アプリケーション エンジン プログラム HR_ACCT_CD を実行して、HCM アプリケーションで必要となる組合せ編集情報をパブリッシュできます。組合せ編集作成処理を行わずにパブリッシュ処理のみを実行する場合は、このオプションを選択します。
HRMS/SA にパブリッシュ (Human Resources Management System/ Services Accounting にパブリッシュ)	このオプションは PeopleSoft HCM アプリケーションがインストールされているか、特定の取引ソースを処理する場合にのみ使用できます。[プロセス グループ] リンクを選択して別のページ (COMB_BLD_PG_REQ) または COMBO_TRAN_SRC_COB に移動し、パブリッシュまたは処理するプロセス グループを選択します。これによりアプリケーション エンジン プログラム HR_ACCT_CD が実行され、HR_ACCT_CD_LOAD アプリケーション サービスの使用により、選択された COMBO_DATA_TBL 内のデータがパブリッシュされます。

COMBO_DATA_TBL を使用している間は実際の編集で組合せルールは考慮されません。そのため、組合せルールのツリー情報を変更したり、チャートフィールドの追加や非アクティブ化を実施したときには、データ テーブルと組合せルールの同期が取れているかを必ず確認するようにしてください。組合せルールまたはツリーに新しいチャートフィールドが追加されても、COMBO_DATA_TBL は自動的に更新されません。勘定科目チャートと整合するようテーブルを再作成する必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

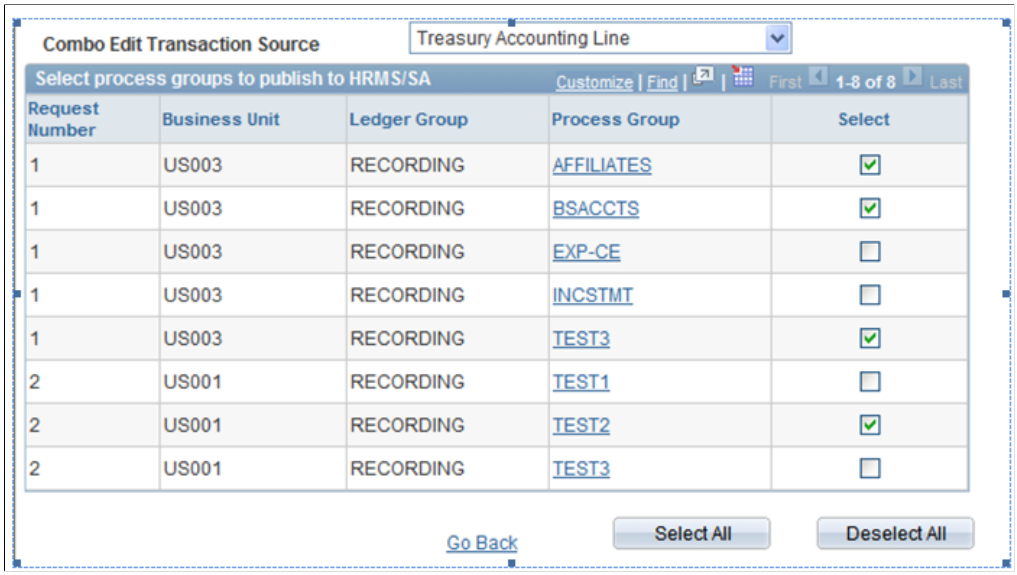
注: ビジネス ユニットに関連付けられている全ての組合せ編集グループの編集オプションが COMBO DATA TABLE であるときに、誤ってそのビジネス ユニットにマスター セレクタ テーブルを作成するオプションを選択した場合、展開処理では何も行われません。

プロセス グループの選択

組合せ作成で特定のビジネス ユニットに対して使用するプロセス グループを選択するには、組合せデータ作成リクエスト ページで [プロセス グループ] リンクを選択します。

画像: パブリッシュするためのプロセス グループの選択ページ

次の例では、パブリッシュするためのプロセス グループの選択ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



処理する個々のプロセス グループを選択します。プロセス グループの [全て選択] または [全て選択解除] をクリックすることもできます。

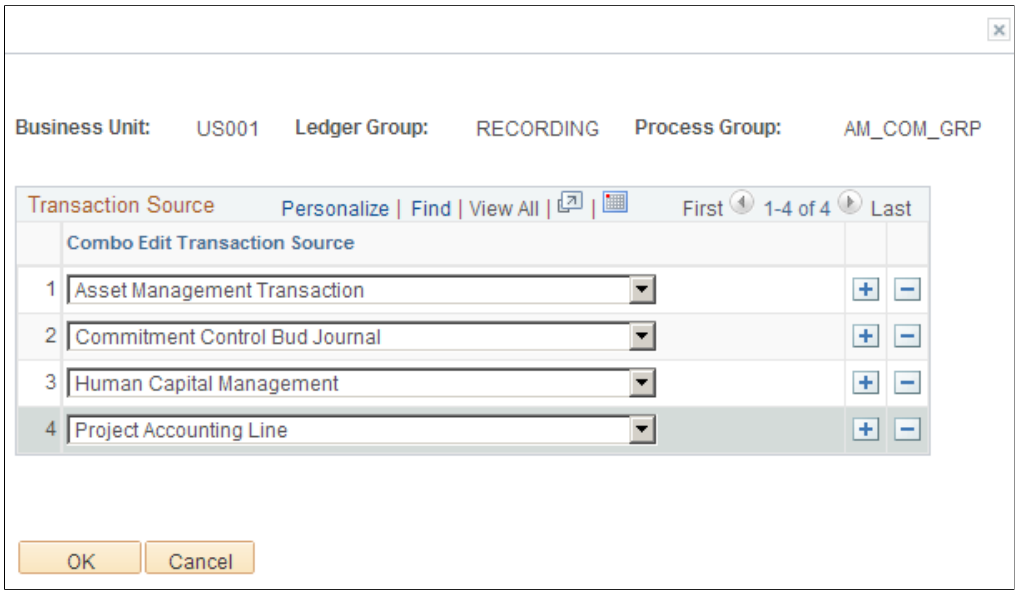
組合せ編集取引ソース 取引ソースを選択して、検索を絞り込みます。このフィールドが空白の場合、組合せ編集の取引ソースに関係なく、全てのプロセス グループが表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

特定のプロセス グループに定義されている組合せ編集取引ソースを表示するには、[プロセス グループ] リンクをクリックします。

画像: 組合せ編集取引ソース ページ (表示のみ)

次の例では、組合せ編集取引ソース ページ (表示のみ) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



『*PeopleSoft Human Resources Documentation: Manage Commitment Accounting*』も参照してください。

『*PeopleSoft Payroll for North America Documentation: Setting Up the Payroll Process*』も参照してください。

関連リンク

取引ソースごとの組合せ編集の定義

ユニット別元帳 - 仕訳編集オプション ページ

ユーザー定義組合せデータの使用

組合せ編集でユーザー定義組合せデータ機能を使用すると、自分で移入した組合せデータ テーブルを仕訳編集処理で使用できます。組合せルールは使用せず、有効なチャートフィールド組合せを指定してデータ テーブルにデータを入力します。仕訳編集は仕訳行をこのテーブルに照らして編集するため、組合せルールは考慮されません。仕訳編集で組合せルールを考慮するようにする場合は、このオプションは使用できません。

注: ユーザー定義組合せデータ機能を使用する場合、組合せデータ テーブル内のデータの整合性について自ら責任を持って管理する必要があります。

ユーザー定義組合せテーブルを使用するには、次を実行します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

1. 元帳テンプレート - レコード定義ページの [組合せデータ] フィールドで組合せテーブル名を指定します。
2. 組合せテーブルに組合せデータを格納します。

   PeopleSoft ではシステム内にある任意のテーブルを使用して組合せ編集を実行できますが、使用するテーブルの構造はデフォルトのテーブル COMBO_DATA_TBL と同じ構造である必要があります。デフォルトのテーブル (COMBO_DATA_TBL) を使用するか、同じ構造を持つ任意の名前のテーブルに変更できます。元帳テンプレートごとに 1 つずつ、複数の異なるテーブルを使用することもできます。
3. 編集するチャートフィールドを使用して組合せ定義を作成します。
4. 手順 2 で定義した組合せ定義を使用して、組合せグループを作成します。
5. チャートフィールド組合せ編集グループ ページで [組合せ編集オプション] を選択し、[ユーザー定義] チェック ボックスをクリックします。
6. ユニット別元帳ページで、手順 3 で定義した組合せグループを適切な元帳グループに関連付けます。

   組合せテーブルの PROCESS_GROUP フィールドに、手順 3 で定義した組合せグループの名前が含まれていることを確認します。
7. 組合せテーブルの COMBINATION フィールドには、PROCESS_GROUP フィールドと同じ名前が入力されている必要があります。

組合せオブジェクトの使用

組合せオブジェクトをコピー、名称変更または削除するには、組合せのコピー/名称変更/削除コンポーネント (RUN_GLS4003) を使用します。

組合せオブジェクトのコピー、名称変更または削除に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
組合せのコピー/名称変更/削除ページ	RUN_GLS4003	このページを使用して、組合せルールをコピー、名称変更または削除します。

組合せのコピー/名称変更/削除ページ

組合せのコピー/名称変更/削除ページ (RUN_GLS4003) を使用して、組合せルールをコピー、名称変更または削除します。

ユーザー ID セキュリティを実装して、このページへのアクセスを制限できます。権限がある場合は、ラン コントロール ID を入力してこのページにアクセスできます。

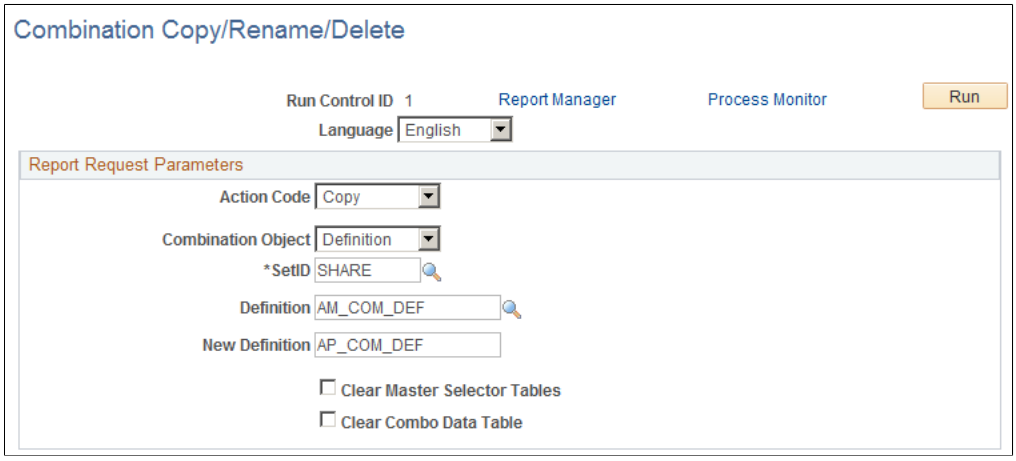
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [組合せ編集], [組合せのコピー/名称変更/削除], [組合せのコピー/名称変更/削除]

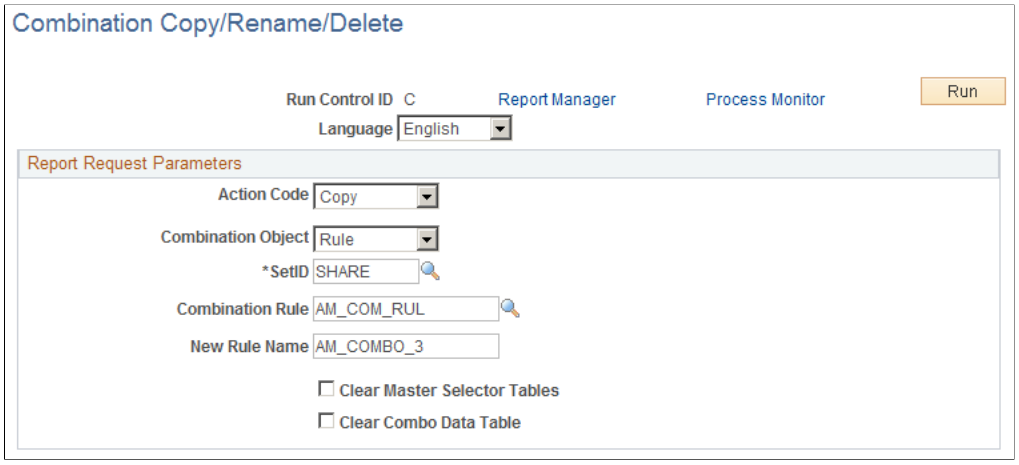
画像: 組合せのコピー/名称変更/削除ページ (1/2)

次の例では、組合せのコピー/名称変更/削除ページ (1/2) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



画像: 組合せのコピー/名称変更/削除ページ (2/2)

次の例では、組合せのコピー/名称変更/削除ページ (2/2) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



アクション コード 組合せオブジェクトの*コピー*、*名称変更*または*削除*を指定します。

組合せオブジェクト コピー、名称変更または削除する組合せオブジェクトのタイプを、*定義*、*グループ*または*ルール*から指定します。

値を選択すると、ドロップダウン リスト ボックスで指定したオブジェクトが動的に使用可能になり、フィールドおよび新しいオブジェクトのフィールドに適切なラベルが付きます。オブジェクトを

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

コピーまたは名称変更する場合は、使用可能になったフィールドに新しい名前を入力します。

セットID 組合せオブジェクトのセットID を指定します。これは必須フィールドです。

[組合せルール]、[定義] または [プロセス グループ] このフィールドの名前は、どの組合せオブジェクトを選択したかで異なります。名称変更、コピーまたは削除する組合せ定義、プロセス グループまたはルールを選択します。

[新規定義]、[新規グループ名] または [新規ルール名] 組合せオブジェクトをコピーまたは名称変更する場合に、このフィールドが表示されます。フィールドの名前は、どの組合せオブジェクトを選択したかで異なります。新しい組合せ定義、グループまたはルールの新しい名前を入力します。

マスター セレクタ テーブルをクリア マスター セレクタ テーブルのコンテンツを削除する場合は、このチェック ボックスをクリックします。

[マスター セレクタ テーブルをクリア] チェック ボックスをクリックして [削除] のアクション コードを選択すると、PS_COMB_EXPLODED テーブルからデータを削除できます。

組合せデータ テーブルをクリア 組合せデータ テーブルのコンテンツを削除する場合は、このチェック ボックスをオンにします。

組合せ編集データの表示

組合せ編集データの表示に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
セレクタ テーブル ページ	COMBO_SEL_INQ	ビジネス ユニットおよび元帳グループ用に作成された、マスター セレクタ テーブルを使用する組合せグループのリストを確認します。
組合せデータ ページ	COMBO_BLD_INQ	ビジネス ユニットおよび元帳グループ用に作成された、COMBO_DATA_TBL を使用する組合せグループのリストを確認します。 「セレクタ テーブル ページ」を参照してください。
組合せデータ確認ページ	COMBO_INQ	組合せテーブルの内容を問い合わせ、有効な組合せを確認します。ワイルドカード文字として % を使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
予算組合せデータ確認ページ	COMBO_INQ_BUDG	コミットメント コントロール予算組合せテーブルの内容を問い合わせ、有効な組合せを確認します。ワイルドカード文字として % を使用します。 コミットメント コントロール予算仕訳組合せ編集の場合、分析タイプ (ANALYSIS_TYPE)、カテゴリ (RESOURCE_CATEGORY)、サブカテゴリ (RESOURCE_SUB_CAT)、プロジェクト コスト管理関連のチャートフィールドはサポートされません。コミットメント コントロール予算仕訳編集でサポートされるのは、PC ビジネス ユニット、プロジェクト、アクティビティ、リソース タイプのチャートフィールドのみです。 「組合せデータ確認ページ」を参照してください。
組合せセレクタ テーブル データ確認ページ	COMBO_INQ_SEL	マスター セレクタ テーブルに格納されているチャートフィールド組合せを問い合わせます。ワイルドカード文字または空白以外の文字として % を使用します。

組合せ編集データの表示について

PeopleSoft には組合せ編集データを表示する機能があります。

この機能を使用して、次を実行できます。

- 組合せグループを確認します。
- 組合せデータを問い合わせます。
- クエリーをオンラインで作成し、結果をスプレッドシートにダウンロードします。

セレクタ テーブル ページ

セレクタ テーブル ページ (COMBO_SEL_INQ) を使用して、ビジネス ユニットおよび元帳グループ用に作成された、マスター セレクタ テーブルを使用する組合せグループのリストを確認します。

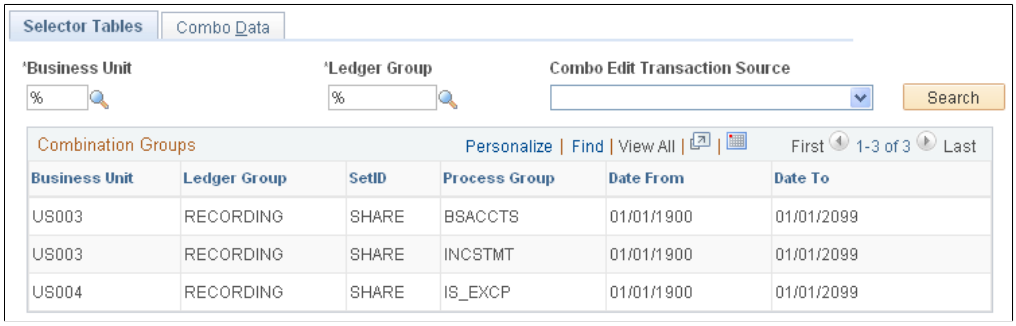
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [組合せ編集], [組合せ作成確認], [セレクタ テーブル]

画像: セレクタ テーブル ページ

次の例では、セレクタ テーブル ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



次を使用します。

- マスター セレクタ テーブルを使用する組合せグループを確認する場合は、セレクタ テーブル ページ。
- COMBO_DATA_TBL を使用する組合せグループを確認する場合は、組合せデータ ページ。

ビジネス ユニットと元帳グループ これらは必須フィールドです。ビジネス ユニットと元帳グループの全組合せのリストを表示するには、ワイルドカード文字 (%) を使用します。

検索 有効な組合せグループのリストを取得する場合にクリックします。

組合せデータ確認ページ

組合せ作成確認 - 組合せデータ ページ (COMBO_BLD_INQ) を使用して、ビジネス ユニットおよび元帳グループ用に作成された、COMBO_DATA_TBL を使用する組合せグループのリストを確認します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [組合せ編集], [組合せ作成確認], [組合せデータ]

組合せデータ確認ページ ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[共通定義]、[チャートフィールド設定]、[組合せ編集]、[組合せデータ確認]、[組合せデータ確認]) または予算組合せデータ確認ページ [ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [組合せ編集], [予算組合せデータ確認], [予算組合せデータ確認] のいずれかの照会ページを使用できます。

組合せデータ確認ページ (COMBO_INQ) を使用して、組合せテーブルの内容を問い合わせ、有効な組合せを確認します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

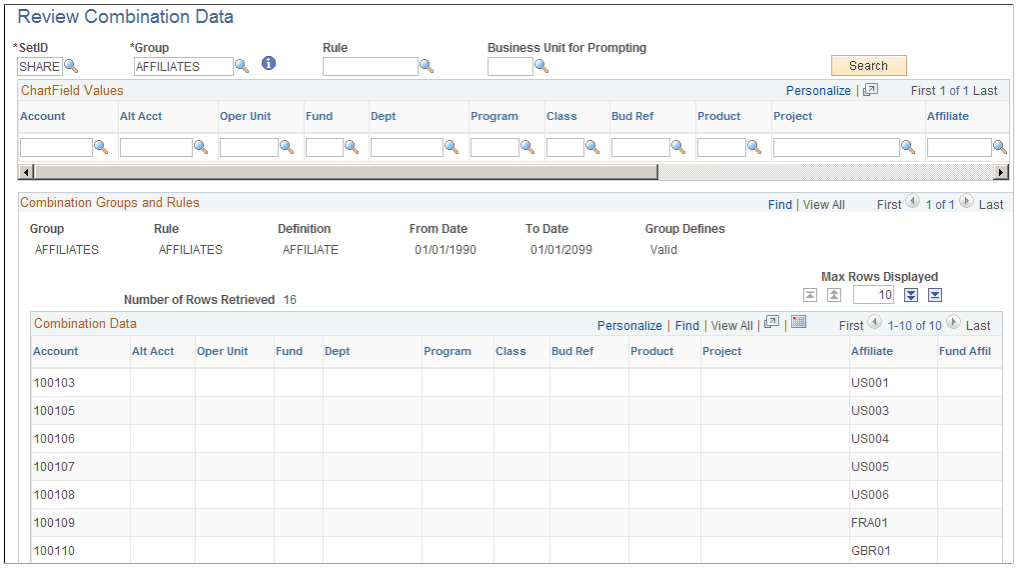
ワイルドカード文字として % を使用します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [組合せ編集], [組合せデータ確認], [組合せデータ確認]

画像: 組合せデータ確認ページ

次の例では、組合せデータ確認ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



セットIDとグループ

これらは必須フィールドです。問い合わせるセットID と組合せグループを選択します。ここで [検索] ボタンをクリックすると、入力したセットID とグループの全ての組合せデータが表示されます。

[情報のみ] ボタンをクリックすると、組合せグループの詳細が表示されます。

ルール

特定の組合せルールを選択することで、クエリーから返される結果をさらに絞り込むことができます。

プロンプト ビジネス ユニット

チャートフィールドのプロンプトの正しいセットID を提供するビジネス ユニットを入力します。このフィールドにビジネス ユニットを入力してもクエリーをさらに絞り込む条件が提供されるわけではありませんが、組合せデータのセットID と関連するチャートフィールドのセットID は異なる場合があるため、これを入力する必要があります。

勘定科目、代替勘定科目、業務ユニット、資金、部門、プログラム コード、クラス、予算参照、製品、プロジェクト、関係会社、関係会社 - 資金、関係会社 - 業

特定のチャートフィールド値に制限することでクエリーをさらに絞り込みます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

務ユニット、台帳コード、ステータス、または通貨

検索 [検索] ボタンをクリックして、検索条件に基づいて値組合せのリストを取得します。

[最初]、[最後]、次へ、前への各ボタンを使用して、取得した特定の行にナビゲートできます。[最大表示行数] フィールドを使用して、返される行の数を増減させることもできます。

組合せセレクタ テーブル データ確認ページ

組合せセレクタ テーブル データ確認ページ (COMBO_INQ_SEL) を使用して、マスター セレクタ テーブルに格納されているチャートフィールド組合せを問い合わせます。

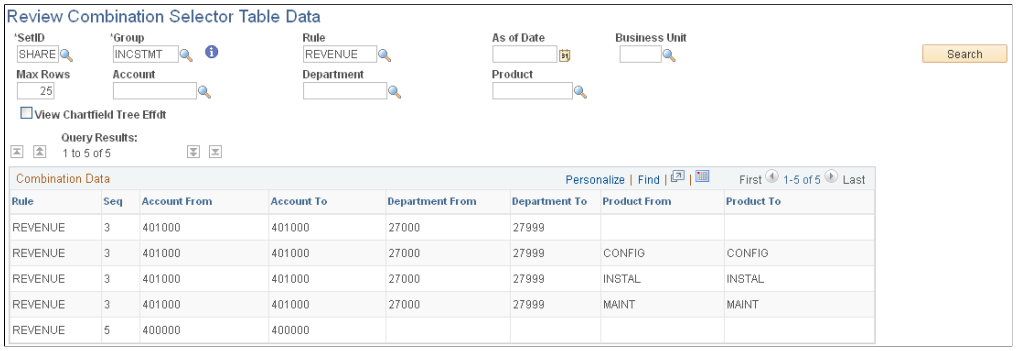
ワイルドカード文字または空白以外の文字として % を使用します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [組合せ編集], [組合せセレクタ テーブル確認], [組合せセレクタ テーブル データ確認]

画像: 組合せセレクタ テーブル データ確認ページ

次の例では、組合せセレクタ テーブル データ確認ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



セットIDとグループ これらは必須フィールドです。問い合わせるセットID と組合せグループを選択します。ここで [検索] ボタンをクリックすると、入力したセットID とグループの全てのルールが表示されます。

[情報のみ] ボタンをクリックすると、組合せグループの詳細が表示されます。

ルールと指定日 これらのオプション フィールドに値を入力すると、クエリーをさらに絞り込むことができます。

ビジネス ユニット チャートフィールド選択条件フィールドに正しいプロンプトを供給するため、ビジネス ユニットを入力します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

最大行数	検索で返される行の行数を制限する場合に使用します。デフォルトは 25 です。
勘定科目、部門、製品、関係会社、資金コード、および台帳コード	必要に応じてこれらのフィールドを使用して、クエリーをさらに絞り込みます。
チャートフィールド ツリー有効日を表示	結果にチャートフィールドの有効日を表示する場合は、このチェック ボックスをオンにします。
検索	検索条件の入力後に、このボタンをクリックします。入力したセットID とグループで検索条件に一致する行が、[組合せデータ] グリッドに表示されます。

注: この照会で表示されるのはセレクタ テーブルからの結果であり、組合せグループで [詳細値を保持] チェック ボックスをオンにしている場合でも詳細値は表示されません。



[ダウンロード] ボタンをクリックすると、セレクタ テーブル クエリーの結果が次のように Microsoft Excel スプレッドシートにダウンロードされます。

Microsoft Excel スプレッドシートにダウンロードされたクエリー結果

画像: Microsoft Excel スプレッドシートにダウンロードされたクエリーの結果

Microsoft Excel スプレッドシートにダウンロードされたクエリーの結果

A1 Rule

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	Rule	Seq	Account From	Account To	Department From	Department To	Product From	Product To
2	REVENUE	3	401000	401000	27000	27999		
3	REVENUE	3	401000	401000	27000	27999	CONFIG	CONFIG
4	REVENUE	3	401000	401000	27000	27999	INSTAL	INSTAL
5	REVENUE	3	401000	401000	27000	27999	MAINT	MAINT
6	REVENUE	5	400000	400000				

この例では、*INCSTMT* という名前のチャートフィールド組合せグループのデモ データと、*REVENUE* という名前の組合せルールについてクエリーが作成されています。この例では、このプロセス グループ、ルール、勘定科目、部門、および製品に関連付けられているチャートフィールドが表示されます。別のチャートフィールドを使用する他の組合せグループでは、それらのチャートフィールドが表示されます。

チャートフィールド組合せレポートの実行

このトピックでは、標準チャートフィールド組合せレポートの実行パラメータを指定するときに使用するページを一覧します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド組合せレポートの実行に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途/ナビゲーション*
チャートフィールド組合せ編集ルール レポート ページ	RUN_GLS4002	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [組合せ編集], [組合せルール レポート], [組合せルール]に移動し、組合せルール SQR レポート (GLS4002) の実行パラメータを指定します。このレポートには、選択したセットID の組合せ編集ルールに関する情報が表示されます。
チャートフィールド組合せ編集グループ レポート ページ (BI Publisher)	RUN_GLC4003	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [組合せ編集], [組合せグループ レポート], [チャートフィールド組合せ編集グループ レポート] に移動し、組合せグループ BI Publisher レポート (GLX4003) の実行パラメータを指定します。このレポートには、選択したセットID の組合せ編集グループに関する情報が表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第13章

チャートフィールドの設定

PeopleSoft チャートフィールド設定について

オラクル社の PeopleSoft アプリケーションは、民間企業や教育機関、官公庁に対応した一連の機能を全て提供しています。また、これをサポートするための広範な種類のチャートフィールドも用意されています。チャートフィールド設定機能を使用すると、ユーザーの企業特有の会計モデルに合わせてチャートフィールドにさまざま変更を加えることができます。

チャートフィールド設定に必要となる主なタスクは、次のとおりです。

- レポート要件を分析し、これに必要なチャートフィールドを決定する。
- 標準チャートフィールド設定ページ、または必要に応じて詳細チャートフィールド設定ページを完成させる。
- チャートフィールド設定プロセスを実行し、システムに設定を適用する。
- 設定に関連した手動タスクがあれば実施する。
- モバイル出張管理などの製品に固有の分析とチャートフィールド設定タスクを実行する。

このトピックでは、次について説明します。

- 正しい設定を作成するためのチェックリスト。
- チャートフィールド設定とチャートフィールド タイプ。
- プロジェクト チャートフィールド。
- チャートフィールド設定の対象範囲とレベル。
- チャートフィールドのレポート要件の分析。

注: 次の手順は、PeopleTools とアプリケーション デザイナに対する高度な知識と使用経験があるユーザーを対象としています。

製品ドキュメントの*『PeopleTools: Application Designer Developer's Guide』*を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

正しい設定を作成するためのチェックリスト

このセクションは、チャートフィールド設定の計画と実行に必要となる重点領域に注目し、情報を収集するためのチェックリストとして使用してください。このセクションはまた、一般的に間違いを起こしやすい領域の識別に役立ちます。

重要 実際に設定する前に、このセクションを読んで各項目の関連性について十分に理解しておくことをお勧めします。

全ての設定を実行する前に、次のことを実施します。

- オラクル社の My Oracle Support Web サイトにアクセスして、モバイル出張管理のチャートフィールド設定に関する情報を取得します。
- PeopleSoft の以前のリリースからアップグレードしている場合は、自分のアップグレード パスに該当するアップグレード ドキュメントを熟読します (重要)。
- チャートフィールドの設定に関して、このトピックを熟読します (重要)。
- 提供される各チャートフィールドの使用方法と自分に適した設定処理について、機能と技術の両面を理解し了承します。
- 可能であれば、PeopleSoft Global Services が開催する ChartField Assessment Fit-Gap Workshop に参加します。
- チャートフィールドの設定プロセスを反復型のプロセスと考えないでください。詳細な計画を立て、可能であれば 1 回の設定プロセスで実装します。
- 標準設定ページまたは詳細設定ページに変更を加えた場合は、システムを使用する前に、PeopleSoft で全ての設定を実行する AE (アプリケーション エンジン) プロセス (FS_CFCONFIG) を実行します。[設定] プロセスを実行する前に、インストール オプション - 製品ページで、プロジェクト コスト管理、経費管理、要員管理、サービス プロキュアメントのうち、ライセンスを保有していない製品のチェック ボックスの選択を解除します。そうすると、これらの製品に関連するチャートフィールドは自動的に非アクティブ化され、これらのチャートフィールドが含まれるページに表示されなくなります。
- 設定が完了し、[設定ステップ] レポートごとの索引が再作成されるまでは、新しいチャートフィールド値 ([勘定科目] や [部門] など) をロードしないでください。
- 全ての設定の実行によって変更されたオブジェクトは、アップグレード比較レポートで *[変更済]* としてレポートされることに注意してください。

  注: これらの変更を社内でのカスタマイズと区別するには、設定の実行にのみ使用する新しいユーザー ID を作成します。そしてその設定ユーザーによって変更されたオブジェクトを比較から除外します。

- プロセスを実行する前に、使用環境のデータベース設定がチャートフィールド設定用の推奨設定であることを確認します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 使用環境が複数言語に対応しており、ラベル変更や新規チャートフィールドの追加を予定している場合は、基本言語を使用してサインインし、ユーザー プロファイル ページの言語コードが基本言語に設定されていることを確認します。そうすると、基本言語と外国語のラベルがそれぞれ適用されます。
- 構造化照会レポート (SQR) 環境が正しく設定されていることを確認します (PeopleSoft 資産管理がインストールされている場合のみ)。
- SYSAUDIT を実行し、全てのエラーが修正されていることを確認します。
- [設定のプレビュー] プロセスを実行し、必要となる手動ステップをプレビューします。
- データベースをバック アップします。
- プロセス スケジューラのトレースをオフ (psprcs.cfg ファイルで TraceAE=0、TraceSQL=0、TracePC=0) にします。

  トレースをオンにすると処理時間が倍になります。
- 全ての設定プロセスを実行する前に、全てのユーザーがシステムからサインアウトしていることを確認します。

  これは、このトピックで説明するように、標準設定と詳細設定に適用されます。
- 全ての設定の実行を開始したら、アプリケーション サーバーをシャット ダウンし、OS のモニター (タスク マネージャー) を使用するかプロセスによって作成される AE ログのタイムスタンプを確認して、プロセスの進捗状況をモニターします。

全ての設定を実行した後に、次のことを実施します。

- PeopleSoft プロセス モニターのメッセージ ログでエラー メッセージをチェックします。
- PeopleSoft アプリケーション エンジンのログ ファイル (.stdout ファイルと .trc ファイル) でエラー メッセージをチェックします。
- チャートフィールドを並べ替えた場合は、Bulkops.log ファイルで "<ページ> を処理できません" というエラー メッセージをチェックします。

  プロセスで特定のページが*スキップ*されるのは、正常な動作です。
- 設定ステータス - アクション ステータス ページを使用して、全ての設定アクションのステータスが [完了] (標準アクション) または [自動設定完了] (詳細アクション) になっていることを確認します。
- 全ての設定の実行プロセスが完了前に失敗した場合は、エラーを修正し、[プロセス モニター] を使用してプロセスを再開します。

  最初のインスタンスが正常に完了するまで、新しいプロセス インスタンスを開始しないでください。
- 標準の AE ログに出力されるエラーの情報が十分でない場合は、psprcs.cfg に TraceAE=3 を設定すると、詳細な AET トレース ファイルが生成されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- SQR ディレクトリに AMCHARTS.SQC をコピーします (資産管理がインストールされている場合のみ)。
- [設定ステップ] レポートに概要が出力されている必須の手動ステップを実行し、これが完了したら、製品ステータス ページのステータスを [自動設定完了] から [完了] に設定します。

チャートフィールド設定とチャートフィールド タイプ

各チャートフィールドは、設定可能な程度に基づいて、次の 3 つのカテゴリに分類されます。

- 全て設定可 - 全てのチャートフィールド設定アクションを実行できます。
- 一部設定可 - 一部のチャートフィールド設定アクションのみを実行できます。
- 設定不可 - 必須のチャートフィールドであるため設定できません。

また、チャートフィールドは、標準チャートフィールドまたは関係会社チャートフィールドのいずれかになります。

標準チャートフィールドと関係会社チャートフィールドはいずれも経理トランザクションの分類とレポートに使用されますが、関係会社チャートフィールドには独自の値セットがありません。代わりに、関連する標準チャートフィールドの値を使用して、ユニット間勘定とユニット内勘定を可能にします。チャートフィールドに標準または関係会社のいずれかのタイプを定義した後で、別のタイプに変更することはできません。

次の表には、提供される一連のチャートフィールドの設定特性をまとめています。

チャートフィールド	*有効な設定アクション*
次のチャートフィールドは、全て設定可の標準チャートフィールドです。 • 業務ユニット • 資金コード • プログラム コード • クラス フィールド • 予算参照 • 製品 • チャートフィールド 1 (拡張チャートフィールド) • チャートフィールド 2 (拡張チャートフィールド) • チャートフィールド 3 (拡張チャートフィールド)	• アクティブ化または非アクティブ化 • 表示順序の変更 • ラベル変更 • 表示長の変更 • 名称変更 • 削除 • フィールド長の変更

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド	*有効な設定アクション*
[勘定科目] は一部設定可の標準チャートフィールドです。	• 表示順序の変更 • ラベル変更 • 表示長の変更 • フィールド長の変更
[代替勘定科目] は一部設定可の標準チャートフィールドです。	• アクティブ化または非アクティブ化 • 表示順序の変更 • ラベル変更 • 表示長の変更 • フィールド長の変更 (インストール オプションとして [代替勘定科目使用] を選択した場合は非アクティブ化できません。)
[部門] は一部設定可の標準チャートフィールドです。	• アクティブ化または非アクティブ化 • 表示順序の変更 • ラベル変更 • 表示長の変更 (PeopleSoft の資産管理、経費管理または要員管理がインストールされている場合は非アクティブ化できません。)
[プロジェクト コスト管理ユニット] は一部設定可の標準プロジェクト チャートフィールドです。	• ラベル変更 • 表示長の変更
[プロジェクト] (グラント チャートフィールドとしても使用される) は一部設定可の標準チャートフィールドです。	• アクティブ化または非アクティブ化 • 表示順序の変更 • ラベル変更 • 表示長の変更 (PeopleSoft のプロジェクト コスト管理、経費管理および要員管理アプリケーションがインストールされている場合は非アクティブ化できません。)
[アクティビティ] は一部設定可の標準プロジェクト チャートフィールドです。	• ラベル変更 • 表示長の変更

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド	*有効な設定アクション*
[ソース タイプ] は一部設定可の標準プロジェクト チャートフィールドです。	• アクティブ化または非アクティブ化 • ラベル変更 • 表示長の変更 ([プロジェクト コスト管理ユニット] で必要とされている場合または関連編集オプションが指定されている場合は非アクティブ化できません。)
[カテゴリ] は一部設定可の標準プロジェクト チャートフィールドです。	• アクティブ化または非アクティブ化 • ラベル変更 • 表示長の変更 ([プロジェクト コスト管理ユニット] で必要とされている場合または関連編集オプションが指定されている場合は非アクティブ化できません。)
[サブカテゴリ] は一部設定可の標準プロジェクト チャートフィールドです。	• アクティブ化または非アクティブ化 • ラベル変更 • 表示長の変更 ([プロジェクト コスト管理ユニット] で必要とされている場合または関連編集オプションが指定されている場合は非アクティブ化できません。)
[関係会社] は一部設定可の関係会社チャートフィールドです。	• アクティブ化または非アクティブ化 • 表示順序の変更 • ラベル変更 • 表示長の変更
次のチャートフィールドは、全て設定可の関係会社チャートフィールドです。 • 関係会社 - 資金 • 関係会社 - 業務ユニット	• アクティブ化または非アクティブ化 • 表示順序の変更 • ラベル変更 • 表示長の変更 • ユニット内関連チャートフィールドの変更 • 名称変更 • 削除 • フィールド長の変更

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド	*有効な設定アクション*
次の標準チャートフィールドは設定不可です。 • 統計コード • 通貨コード • シナリオ • 台帳コード • 調整タイプ • リソース分析タイプ	設定不可

プロジェクト チャートフィールド

プロジェクト チャートフィールドは関連チャートフィールドであり、次のような表示順序があります。

- プロジェクト コスト管理ユニット
- プロジェクト
- アクティビティ
- ソース タイプ
- カテゴリ
- サブカテゴリ

プロジェクト チャートフィールドには独特の表示順があります。全チャートフィールドの順序のどの位置にあっても、[プロジェクト] チャートフィールドとの位置関係は常に同じです。[プロジェクト] 以外の 5 つのプロジェクト チャートフィールドの表示順を直接変更することはできませんが、[プロジェクト] チャートフィールドの表示順を変更することはできます。他の 5 つのプロジェクト チャートフィールドについては、[プロジェクト] チャートフィールドとの相対位置が維持されます。相対的な位置は、前述のチャートフィールドのリストで示したとおりです。[プロジェクト] チャートフィールドの表示順を変更する場合は、6 つのプロジェクト チャートフィールドをグループとして移動する必要があります。また、他の全てのチャートフィールドも、表示順を変更する場合はこの要件に従う必要があります。

また、[リソース分析タイプ] はチャートフィールドとして考慮されないため、前述のプロジェクト チャートフィールドのリストに含まれていません。また、[標準設定] と [詳細設定] のどちらのページにも含まれていません。

プロジェクト チャートフィールドは [標準設定] と [詳細設定] の両方のページに表示されますが、プロジェクト チャートフィールドは標準設定にのみ関係しています。標準設定は [標準設定] または [詳細設定] のいずれかのページを使用して設定されるため、プロジェクト チャートフィールドは両方の設定ページで使用できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: PeopleSoft のプロジェクト コスト管理、経費管理、要員管理またはサービス プロキュアメント製品のライセンスを保有していない場合は、設定プロセスを実行する前に、インストール オプション - 製品ページでライセンスを保有していない製品のチェック ボックスの選択を解除します。そうすると、それらの製品に関連するチャートフィールドは自動的に非アクティブ化され、その関連チャートフィールドが含まれているはずのページで使用することができなくなります。

「プロジェクト チャートフィールド」を参照してください。

リソース分析タイプ

リソース分析タイプは、仕訳行ページの [アクティビティ] チャートフィールドと [ソース タイプ] チャートフィールドの間に表示されます。このフィールドの値は通常、取引に基づいてプログラムによって導出されます。ほとんどの取引入力ページで入力可能になっていません。ただし、[仕訳入力] は例外であり、このフィールドは入力可能です。そのため、このフィールドは仕訳入力行ページの[アクティビティ] チャートフィールドと [ソース タイプ] チャートフィールドの間に追加されます。

チャートフィールドの設定中に [プロジェクト] チャートフィールドの表示順を変更した場合は、[リソース分析タイプ] の相対位置も維持され、表示順が [プロジェクト] チャートフィールドと一緒に変更されます。

PeopleSoft のプロジェクト コスト管理アプリケーションがインストールされていない場合は、プロジェクト チャートフィールド ([プロジェクト ID] ではなく) と同様に、[リソース分析タイプ] を使用することができません。

プロジェクト チャートフィールドのアクティブ化と非アクティブ化

プロジェクト チャートフィールドは、アクティブ化された状態で提供されます。PeopleSoft のプロジェクト コスト管理、経費管理または要員管理のいずれかのアプリケーションがインストールされていない場合は、設定ページにナビゲートして保存し、次に [設定] プロセスを実行すると、一部のプロジェクト チャートフィールドは自動的に非アクティブ化されます。

- プロジェクト コスト管理アプリケーションがインストールされている場合、全てのプロジェクト チャートフィールドはアクティブ化されています。
- プロジェクト コスト管理アプリケーションがインストールされておらず、経費管理または要員管理のいずれかのアプリケーションがインストールされている場合、[プロジェクト コスト管理ユニット]、[アクティビティ]、[プロジェクト] の各チャートフィールドはアクティブ化されており、[ソース タイプ]、[リソース カテゴリ]、[サブカテゴリ] は非アクティブ化されています。
- プロジェクト コスト管理、経費管理または要員管理のいずれのアプリケーションもインストールされていない場合、[プロジェクト コスト管理ユニット]、[アクティビティ]、[ソース タイプ]、[リソース カテゴリ]、[サブカテゴリ] の各チャートフィールドが非アクティブ化されます (まだ非アクティブ化されていない場合)。

PeopleSoft のプロジェクト コスト管理、経費管理または要員管理アプリケーションがインストールされている場合、[プロジェクト] チャートフィールドを非アクティブ化することはできません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プロジェクト コスト管理定義 (BUS_UNIT_TBL_PC) のいずれかの行で [カテゴリ編集オプション] (CAT_EDIT_OPTION) フィールドが [関連] (REL) に設定されている場合、[ソース タイプ] を非アクティブ化することはできません。

プロジェクト コスト管理定義 (BUS_UNIT_TBL_PC) のいずれかの行で [サブカテゴリ編集オプション] (SUB_EDIT_OPTION) フィールドが [関連] (REL) に設定されている場合、[カテゴリ] を非アクティブ化することはできません。

プロジェクト チャートフィールドの表示長の前提条件と制限

PeopleSoft システムでは通常、チャートフィールドはグリッド内に配置されます。ただし、PeopleSoft プロジェクト コスト管理などの一部のアプリケーションでは通常、[プロジェクト コスト管理ユニット]、[プロジェクト]、[アクティビティ] の各チャートフィールドはグリッドの外に配置されます。そのため、設定プロセスでこれらのフィールドの表示長を変更することができません。ただし、チャートフィールドがグリッドの外に表示される場合は、この表示長を変更することができませんが、データ入力の表示長については標準設定ページで指定した長さに制限されます。たとえば、[プロジェクト] がグリッド内の 15 文字フィールドに表示されるとしても、標準設定ページで表示長を指定すれば、データ入力を 10 文字に制限することができます。

プロジェクト チャートフィールドの貸借一致制限とユニット間制限

プロジェクト チャートフィールドでは貸借一致が発生しません。[プロジェクト] チャートフィールドを貸借一致チャートフィールドとして指定することはできますが、その他の 5 つのプロジェクト チャートフィールドはできません。そのため、それらは設定ページの [ユニット内関連チャートフィールド] ドロップダウン リストボックスに表示されません。

プロジェクト チャートフィールド設定のその他の制限

チャートフィールド継承は、全て設定可のチャートフィールドでのみサポートされます。プロジェクト チャートフィールドは一部設定可であるため、サポートされません。

PeopleSoft のアプリケーションでチャートフィールド間に埋め込まれるグリッド タブを管理する場合は、チャートフィールド設定プロセスに、それらのページをレビューし変更するための手動ステップが必要になります。これは、埋め込みグリッド タブが設定プロセスによってチャートフィールド ブロックの末尾に自動的に移動されるためです。

チャートフィールド設定の対象範囲とレベル

チャートフィールド設定プロセスを使用して、次のものに対するチャートフィールドを設定します。

- *PeopleSoft の初期実装でインストールした製品。*全ての設定の実行プロセスによって、チャートフィールドが含まれるデータベース内の全てのレコードとページが更新されます。また、インストールされている製品ごとに、手動で更新する必要がある定義またはプログラムをリストした [設定ステップ] レポートが生成されます。標準チャートフィールドまたは詳細チャートフィールドの設定コンポーネントを使用します。

- *初期チャートフィールド設定の後にインストールされた製品。*初期チャートフィールド設定以降に追加の設定アクションが要求された場合は、全ての設定の実行プロセスによって、チャートフィールドが含まれるデー

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

タベース内の全てのレコードとページが更新されます。また、インストールされている製品ごとに、手動で更新する必要がある定義およびプログラムをリストした [設定ステップ] レポートが生成されます。標準チャートフィールドまたは詳細チャートフィールドの設定コンポーネントを使用します。

- *アップグレード オブジェクトまたはアプリケーションの更新と修正を含むプロジェクト。*製品の設定時に選択した設定アクションによっては、将来的に、アップグレード オブジェクトやアプリケーションの更新と修正が含まれるプロジェクトに対してそれらのアクションを適用することが必要になります。必要になった場合はオラクル社から通知します。プロジェクトによる CF 設定ページを使用します。

チャートフィールドのレポート要件の分析

レポート要件に合ったチャートフィールドの設定方法を検討する際には、次の点を考慮します。

- いくつのチャートフィールドが必要ですか。
- 既存のアクティブなチャートフィールドで要件に対応できますか、また、拡張チャートフィールド 1、2、3 のいずれかをアクティブ化する必要がありますか。
- 拡張チャートフィールドの他にチャートフィールドを追加する必要がありますか。これには、将来のアップグレードやアプリケーションの修正が複雑になるといった影響があります。新しいチャートフィールドの追加を検討する前に、提供される全てのチャートフィールドを使用してみることをお勧めします。
- 各チャートフィールドをどのくらいの長さにしますか。
- 各チャートフィールドをページやレポートに表示する場合の説明ラベル (名称と略称) を何にしますか。
- チャートフィールドをどのような順序で表示しますか。
- 代替勘定科目機能を使用しますか。使用する場合は、代替勘定科目をアクティブにする必要があります。
- PeopleSoft のプロジェクト コスト管理、経費管理、要員管理またはサービス プロキュアメントを実装していますか。実装している場合は、[プロジェクト コスト管理ユニット] と [アクティビティ] をアクティブにする必要があります。
- PeopleSoft の経費管理、資産管理または要員管理を実装していますか。実装している場合は、[部門] チャートフィールドをアクティブにする必要があります。
- ユニット間機能を使用していますか。使用している場合は、[関係会社] をアクティブにする必要があります。
- ユニット内機能を使用していますか。使用している場合は、ユニット内関係会社の 1 つまたは両方をアクティブにする必要があります。
- ユニット内貸借一致チャートフィールドを使用する場合、いくつ必要ですか。また、それらの関連チャートフィールドはどれですか。

 Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 提供されたチャートフィールドの名前を変更しますか。これによって将来のアップグレードやアプリケーションへの修正の適用が複雑になるため、お勧めしません。代わりに、チャートフィールドのラベルを変更することをお勧めします。
- 提供されたチャートフィールドを削除しますか。これによって将来のアップグレードやアプリケーションへの修正の適用が複雑になるため、お勧めしません。代わりに、チャートフィールドを非アクティブ化することをお勧めします。
- 提供されたチャートフィールドのフィールド長を短くしますか。これによって将来のアップグレードやアプリケーションへの修正の適用が複雑になるため、お勧めしません。代わりに、チャートフィールドの表示長を短くすることをお勧めします。

標準のチャートフィールド設定の使用

チャートフィールドを設定するには、標準設定コンポーネント (STANDARD_CF_TMPLT) を使用します。

標準チャートフィールド設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
標準チャートフィールド設定ページ	STANDARD_CF_TMPLT	表示順の変更、表示長の変更、ラベルの変更、チャートフィールドのアクティブ化と非アクティブ化などの標準チャートフィールド設定を実行します。
チャートフィールド ラベルの変更ページ	FS_CF_TMPLT_CONFIG	チャートフィールドの名称と略称を追加または変更します。 「標準チャートフィールド設定ページ」を参照してください。
設定のプレビュー ページ	FS_CF_PAGE_DEMO	設定を完了する前に結果をプレビューします。 「標準チャートフィールド設定ページ」を参照してください。

標準チャートフィールド設定の使用について

次の設定アクションは、標準設定を使用して実行できます。

- ページおよびレポートでのチャートフィールドの表示順序の変更
- チャートフィールドの名称と略称のラベル変更
- チャートフィールドの非アクティブ化またはアクティブ化
- ページおよびレポートに表示されるチャートフィールドのフィールド長の変更

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- ユニット内関係会社チャートフィールドの関連チャートフィールドの変更

非アクティブのチャートフィールドは、ページ、レポートまたはプロンプト リストに表示されません。また、索引にも含まれません。表示はされませんが、レコードまたはページから削除されているわけではありません。これにより、設定に要する時間と労力が大幅に削減されます。

標準設定を実行した後は、索引の再作成、ビューの再作成および nVIsion レポートの更新以外に、さらにデータベースを手動で変更する必要はありません。

注: 将来のアップグレードやアプリケーションへの修正の適用時に、チャートフィールド設定アクションを再適用する必要性を最小化できるので、可能であれば標準設定のみを使用することをお勧めします。

標準チャートフィールド設定ページ

標準チャートフィールド設定ページ (STANDARD_CF_TMPLT) を使用して、表示順の変更、表示長の変更、ラベルの変更、チャートフィールドのアクティブ化または非アクティブ化などの標準チャートフィールド設定を実行します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

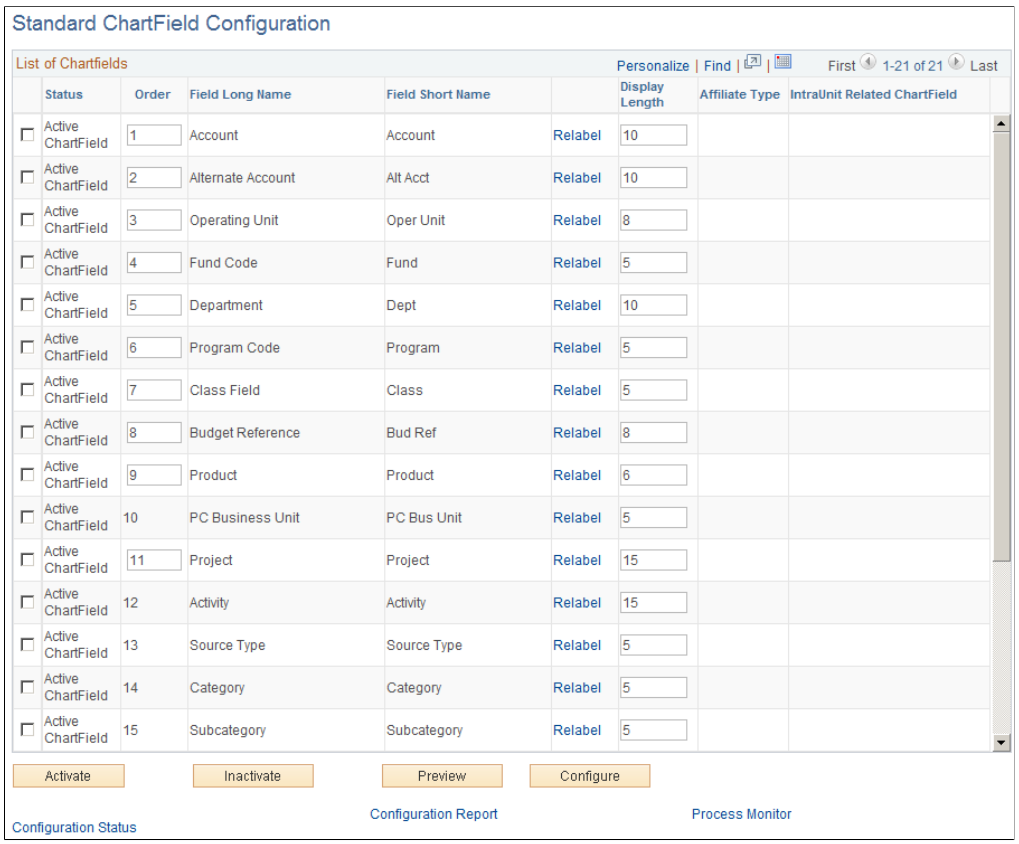
ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [設定], [標準設定], [標準チャートフィールド設定]

代わりに、詳細設定ページの [標準設定] タブを選択することもできます。

画像: 標準チャートフィールド設定ページ

次の例では、標準チャートフィールド設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このページを初めて表示するときには、提供された状態のチャートフィールドが表示されます。

ステータス

アクティブ チャートフィールドは、ページ、レポートおよびプロンプトリストに表示されます。

非アクティブ チャートフィールドは、ページ、レポートおよびプロンプトリストに表示されません。ただし、レコードおよびページから削除されたわけではありません。

拡張チャートフィールド 1、2 および 3 は非アクティブの状態で提供されていますが、アクティブの状態で提供されたチャートフィールドでは要件を満たしていない場合、アクティブに変更できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

警告 全ての設定を実行済みで、システムが稼動中の場合、チャートフィールドのステータスを変更しないでください。ステータスによって、チャートフィールドがシステム全体でページ、レポートおよびプロンプト リストに表示されるかどうかが決まります。

順序

このフィールドの順序連番を直接変更することによって、表示順序を変更できます。非アクティブのチャートフィールドの順序の値は *[99]* です。*アクティブ*なチャートフィールドには順序番号が必要です。非アクティブのチャートフィールドをアクティブに変更すると、使用可能な次の番号が自動的に割り当てられます。この番号は変更可能で、新たにアクティブにしたチャートフィールドに任意の連番を指定することができます。ページを保存するか [設定] ボタンを押したとき、およびプロジェクト チャートフィールドをグループとして再配置したときに、最終的な順序変更が完了し、連番のギャップや重複が排除されます。

[フィールド名称] および [フィールド略称]

チャートフィールドの現在の名称と略称を表示します。ページ、レポートおよびプロンプト リストには、チャートフィールドのデータベース フィールド名ではなく、これらのラベルが表示されます。チャートフィールドの説明のラベルを変更するには、[ラベル変更] リンクをクリックし、新しい名称および略称を基本言語と外国語の両方で指定します (該当する場合)。

ラベル変更

このリンクをクリックして、チャートフィールド ラベルの変更ページ (FS_CF_TMPLT_CONFIG) にアクセスします。そこで、ラベルとして使用するチャートフィールドの新しい名称と略称を基本言語で指定します。チャートフィールドのラベルに複数の基本言語ラベルが存在する場合または外国語の翻訳が存在する場合は、このリンクでこれらのラベルを編集できるようになります。

表示長

ページ上での表示長を変更するための新規の値を入力します。表示長には、チャートフィールドの実際のフィールド長よりも大きい値を指定できません。追加したチャートフィールドの場合、この値にはチャートフィールドの長さがデフォルトで設定されます。この値は後で変更できます。

関係会社タイプ

標準チャートフィールドには、関係会社タイプはありません。関係会社チャートフィールドは、ユニット間関係会社かユニット内関係会社のいずれかになります。

ユニット内関連チャートフィールド

アクティブのユニット内関係会社チャートフィールドにはそれぞれ、フィールド長が同じかそれより小さい固有のユニット内関連チャートフィールドを指定する必要があります。これが同じ設定プロセスの実行時に追加された新しいチャートフィールドを表している場合は、チャートフィールドの追加に必要な全てのステップが完了するのを待って、これをユニット内関連チャートフィールドとして指定する必要があります。チャートフィールドが正常に

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

	追加されたら、これをユニット内関連チャートフィールドとして指定し、別の設定プロセスを実行できます。(ユニット間関係会社チャートフィールドには [ビジネス ユニット] フィールドが必須です。)
アクティブ	アクティブ化するフィールドの隣にあるチェック ボックスをクリックし、[アクティブ] ボタンをクリックします。
非アクティブ	非アクティブ化するフィールドの隣にあるチェック ボックスをクリックし、[非アクティブ] ボタンをクリックします。
	注: プロジェクト コスト管理、経費管理および要員管理のいずれかの PeopleSoft アプリケーションをインストールしている場合、[プロジェクト] チャートフィールドを非アクティブ化することはできません。 [ソース タイプ]、[カテゴリ] および [サブカテゴリ] の各チャートフィールドを非アクティブ化できるのは、これらが [プロジェクト コスト管理] ビジネス ユニットに関連付けられていない場合のみです。 [ソース タイプ] および [カテゴリ] の各チャートフィールドが、プロジェクト コスト管理オプションページ (BUS_UNIT_OPT_PC) で必須入力コントロールとして定義されている場合、これらを非アクティブ化することはできません。
プレビュー	[設定] ボタンをクリックする前に、設定のプレビューページ (FS_CF_PAGE_DEMO) で [プレビュー] ボタンをクリックして、設定実行後のチャートフィールドのグリッド表示をプレビューします。
設定	[設定] ボタンを使用して設定を開始する前に、チャートフィールド設定の実行と検証に関するセクションを参照してください。

「チャートフィールド設定プログラムの実行と確認」を参照してください。

警告 トランザクション データが転記済みであるチャートフィールドは、非アクティブ化または削除しないでください。そうした場合、ページやレポートでそのチャートフィールドを表示することができなくなり、そのチャートフィールドがキーとして定義されているテーブルを変更する際にエラーが発生する可能性があります。

警告 標準設定ページまたは詳細設定ページに変更を加えた場合は、システムを使用する前に全ての設定プロセスを実行して、それらの変更を実装する必要があります。変更の保存後、全ての設定を実行する前にキャンセルしたい場合、設定ステータス - アクション ステータスページで、不要な設定アクションをキャンセルできます。これにより、チャートフィールドは元の設定にリセットされます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

詳細なチャートフィールド設定の使用

詳細チャートフィールド設定で使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
詳細設定ページ	FS_CF_TEMPLATE	チャートフィールドの追加、削除、名称変更、サイズ変更などの詳細チャートフィールド設定を実行します。
チャートフィールド名称変更ページ	FS_CF_TMPLT_CONFIG	チャートフィールドの名称を変更します。関連付けられているプロンプト テーブルの摘要、略称および名称の変更にも使用します。 「詳細設定ページ」を参照してください。
新規チャートフィールドの追加ページ	FS_CF_ADD_MODEL	ユニット内関連チャートフィールドまたは標準チャートフィールドを追加します。 「詳細設定ページ」を参照してください。
新規チャートフィールドの追加ページ	FS_CF_TMPLT_CONFIG	新規チャートフィールドを追加します。 「詳細設定ページ」を参照してください。
設定のプレビュー ページ	FS_CF_PAGE_DEMO	設定を完了する前にプレビューします。 「詳細設定ページ」を参照してください。

詳細なチャートフィールド設定の使用について

詳細設定を使用して、次の設定アクションを実行できます。

- 新規チャートフィールドの追加。
- チャートフィールドの削除。
- チャートフィールドのサイズ変更。
- チャートフィールドの名称変更。

提供されたチャートフィールドと標準設定では対応できない要件がある場合は、詳細設定を使用します。アップグレートまたはアプリケーションへの修正の適用によって新規オブジェクトを取得し、これにチャートフィールドが含まれている場合は、これらの設定アクションを適用する必要があることに注意してください。そのため、可能であれば、標準設定のみを使用してチャートフィールド要件に対応することをお勧めします。

次のリストに、詳細設定の代替となる標準設定の使用方法を提示します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 新規チャートフィールドを追加するのではなく、非アクティブになっているチャートフィールドをアクティブ化します。
- チャートフィールドを削除するのではなく、非アクティブ化します。
- チャートフィールドのサイズを小さくする場合は、フィールド長ではなく表示長を変更します。
- チャートフィールドの名称を変更するのではなく、ラベルを変更します。

PeopleSoft ソフトウェアでは、使用できるチャートフィールドの数に制限はありません。各チャートフィールドの最大長は 30 文字です。ただし、索引の長さにはプラットフォーム固有の制限があるため、ごくまれに、特定のテーブルにおいてチャートフィールドの組み合わせがこの制限を超えることがあります。次の表に、索引の制限を示します。これは、テーブルにある全てのキー フィールドの合計長を表しています。非アクティブなフィールドは索引に含まれないため、非アクティブなチャートフィールドを除外しています。

RDBMS プラットフォーム	*ANSI での索引の最大長*	*Unicode での索引の最大長*	*索引内の最大列数*	*テーブル内の最大列数*
MSSQLServer バージョン 2000	900	450	16	1024
DB2/Unix バージョン 7.0、8.0	1024 *	1024 **	16	4K ページの場合は 500。 8、16、32K ページの場合は 1012。
DB2/OS390 バージョン 6.1、7.1	255 *	Unicode はサポートされません。	64	750
Oracle バージョン 8i、9i	データベース ブロック サイズの 40% からオーバーヘッドを除いたサイズ。4K または 8K のブロック サイズが可能です。	データベース ブロック サイズの 40% からオーバーヘッドを除いたサイズ。推奨ブロック サイズは 8K です。	32	1000
Unicode 対応の Sybase ASE バージョン 12.5.03 ESD#4	ページ サイズ 2K の場合は 600。 ページ サイズ 4K の場合は 1250。 ページ サイズ 8K の場合は 2600。	ページ サイズ 8K の場合は 2600。	31	DOL (行レベル ロック) の場合は 1024
Informix バージョン 9.2、9.3	390	Unicode はサポートされません。	16	32K

* 日付、時間、日時、またはテキスト フィールド (NULL が許可されるキー列) として定義されている各キー フィールド用に 1 バイト引きます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

** 日付、時間、日時、またはテキストとして定義されている各キー フィールド用に 1 バイト引きます。文字として定義されている各キー フィールド用に 4 バイト引きます。キー フィールドのフィールド長を合計する際に、文字として定義されている各キー フィールドの長さを 2 倍にします。

たとえば、文字キー フィールド FLD1 の長さが 3 であるとすると、索引 サイズの計算には 2 倍の 6 が使用されます。4 バイト加算する必要があるため、索引 サイズ計算の結果、長さは最終的に 10 バイトになります。

詳細設定ページ

詳細設定ページ (FS_CF_TEMPLATE) を使用して、チャートフィールドの追加、削除、名称変更、サイズ変更などの詳細チャートフィールド設定を実行します。

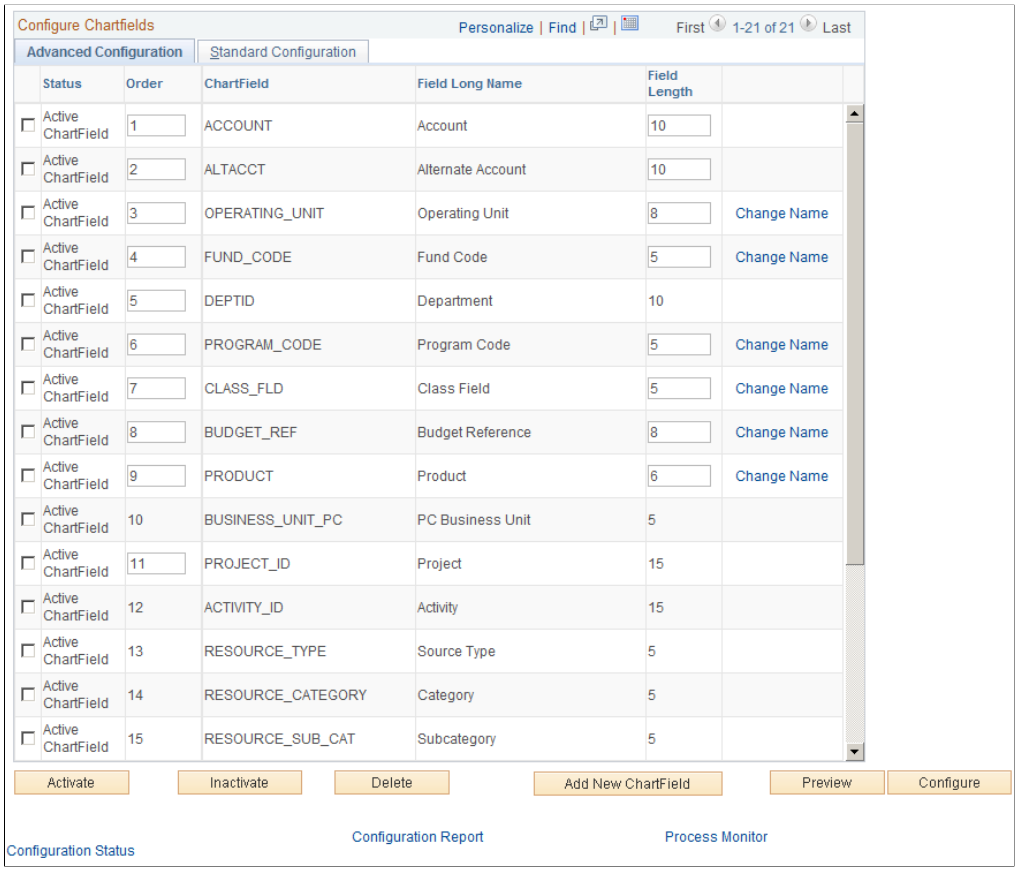
ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [設定], [詳細設定], [詳細設定]

このページの [標準設定] タブを選択して、標準設定ページにアクセスすることもできます。

画像: 詳細設定ページ

次の例では、詳細設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

1 つまたは複数の詳細アクションを選択します。

フィールド長

30 文字以内の値を入力し、データベースのチャートフィールドの長さを変更します。(新しいフィールド サイズが小さい場合、表示サイズはこれに合わせて自動的に調整されます。)

名称変更

チャートフィールド名称変更の 2 次ページ (FS_CF_TMPLT_CONFIG) にアクセスします。新しい一意の CF 名を入力し、名称と略称をそれぞれ変更します。

アクティブ

アクティブ化するフィールドの隣にあるチェック ボックスをクリックし、[アクティブ] ボタンをクリックします。

非アクティブ

非アクティブ化するフィールドの隣にあるチェック ボックスをクリックし、[非アクティブ] ボタンをクリックします。

削除

削除するフィールドの隣にあるチェック ボックスをクリックし、[削除] ボタンをクリックします。[勘定科目]、[代替勘定科目]、[部門]、[プロジェクト]、[関係会社] を削除することはできません。また、標準チャートフィールドまたは関係会社チャートフィールドが 1 つしか残っていない場合に、これを削除することはできません。

チャートフィールドを削除するのではなく、非アクティブ化することをお勧めします。

新規チャートフィールドの追加

このボタンをクリックして [新規チャートフィールドの追加] ダイアログ ボックスにアクセスし、標準チャートフィールドとユニット内関係会社チャートフィールドのどちらを追加するか選択します。[OK] をクリックし、新規チャートフィールドの追加の 2 次ページにアクセスします。

設定プロセスによってデータベースに追加される新規チャートフィールドのフィールド長を入力します。

[ユニット内関係会社] チェック ボックスを選択した場合は、新規チャートフィールドの追加の 2 次ページでも [ユニット内関係会社] が選択されており、ユニット内関係会社チャートフィールドを追加しようとしていることが示されます。この場合は、ユニット内関連チャートフィールドも選択する必要があります。標準チャートフィールドを追加する場合、これらの 2 つのフィールドはページに表示されません。*ユニット間*チャートフィールドを追加することはできません。

[モデル] には、選択したチャートフィールドに用意されているプロンプト テーブルがリストされます。これは [新規名] 列にもコピーされます。新規チャートフィールドには対応するプロンプト テーブルが必須であるため、[新規名] プロンプト テーブルの名称に新規チャートフィールドの名称を反映させます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

入力した新規プロンプト テーブルの名称は、PeopleSoft アプリケーション デザイナを使用して手動で作成する必要があります。これらは [設定ステップ レポート] にリストされます。チャートフィールドが含まれるレコードを開く前に、プロンプト テーブルを忘れずに作成してください。

プレビュー [設定] ボタンをクリックする前に、設定のプレビューページ (FS_CF_PAGE_DEMO) で [プレビュー] ボタンをクリックして、設定実行後のチャートフィールドのグリッド表示をプレビューします。

設定 [設定] ボタンを使用して設定を開始する前に、チャートフィールド設定の実行と検証に関するセクションを参照してください。

「チャートフィールド設定プログラムの実行と確認」を参照してください。

チャートフィールド設定プログラムの実行と確認

チャートフィールド設定プログラムを実行して確認するには、標準設定 (STANDARD_CF_TMPLT) コンポーネントとチャートフィールド定義 (CF_CHRTFLD_DEFN) コンポーネントを使用します。

チャートフィールド設定プロセスの実行と確認に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
標準チャートフィールド設定ページ	STANDARD_CF_TMPLT	表示順の変更、表示長の変更、ラベルの変更、チャートフィールドのアクティブ化と非アクティブ化などの標準チャートフィールド設定を実行します。
詳細設定ページ	FS_CF_TEMPLATE	チャートフィールドの追加、削除、名称変更、サイズ変更などの詳細チャートフィールド設定を実行します。 (このページの [標準設定] タブを選択して、標準設定ページにアクセスできます。) 「標準チャートフィールド設定ページ」を参照してください。
ダイナミック編集テーブル ページ	FS_FLD_PROMPT	PeopleCode によって動的に割り当てられるプロンプト テーブル名を取得します。 編集テーブルの取得機能が必要となるカスタマイズを実行しているのでなければ、このページを更新する必要はありません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
チャートフィールド定義ページ	CF_CHRTFLD_DEFN	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [設定], [チャートフィールド定義], [チャートフィールド定義]の順に選択します。 チャートフィールド設定ユーティリティは、このページのフィールドを参照します。このページを変更する必要はありません。
COBOL ページ	CF_COBOL	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [設定], [チャートフィールド関連プログラム], [COBOL]の順に選択します。 チャートフィールド設定ユーティリティは、このページを参照して手動で変更する必要がある COBOL プログラムを取得し、[設定ステップ] レポートにリストします。このページを変更する必要はありません。
nVision ページ	CF_NVISION	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [設定], [チャートフィールド関連プログラム], [nVision]の順に選択します。 チャートフィールド設定ユーティリティは、このページを参照して手動で変更する必要がある nVision レポートを取得し、[設定ステップ] レポートにリストします。このページを変更する必要はありません。
SQR/SQC ページ	CF_SQR	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [設定], [チャートフィールド関連プログラム], [SQR/SQC]の順に選択します。 チャートフィールド設定ユーティリティは、このページを参照して手動で変更する必要がある SQR を取得し、[設定ステップ] レポートにリストします。このページを変更する必要はありません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
マスチェンジ テンプレート ページ	CF_MC_TEMPLATE_2	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [設定], [マスチェンジ プログラム], [マスチェンジ テンプレート]の順に選択します。 チャートフィールド設定ユーティリティは、このページを参照して手動で変更する必要があるマスチェンジ テンプレートを取得し、[設定ステップ] レポートにリストします。このページを変更する必要はありません。
マスチェンジ タイプ ページ	CF_MC_TYPE2	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [設定], [マスチェンジ プログラム], [マスチェンジ タイプ]の順に選択します。 チャートフィールド設定ユーティリティは、このページを参照して手動で変更する必要があるマスチェンジ タイプを取得し、[設定ステップ] レポートにリストします。このページを変更する必要はありません。
資産管理 CF 作成リクエスト ページ	RUN_AMCFBULD_RQST	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [設定], [AM チャートフィールド SQC 更新], [資産管理 CF 作成リクエスト]の順に選択します。 この設定プロセスは通常、SQR 呼出 AMCFBULD をスケジュールします。設定プロセス自体は正常であったのにこの SQR が失敗した場合は、問題を解決した後に、このページを使用して SQR を単独で再送信できます。
アクション_ステータス ページ	INQ_CFHDRLOG_SUM	チャートフィールド設定アクションのステータスを照会します。
製品ステータス ページ	INQ_CFLNLOG_DTL	チャートフィールド設定アクションのステータスをインストール済製品ごとに照会します。 特定のチャートフィールド設定アクションについて、製品のステータスに完了のマークを付けるためにも使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド設定プログラムの実行と確認について

標準チャートフィールド設定または詳細チャートフィールド設定のいずれかが完了したら、次のことが可能になります。

- チャートフィールド設定プログラムを実行する。
- チャートフォールド設定アクションおよび製品ごとに、設定の進捗状況をモニターする。
- まだ処理されていないアクションをキャンセルする。
- 詳細設定アクションの全ての手動ステップが実行されたら、製品に完了のマークを付ける。
- 標準チャートフィールド設定または詳細チャートフィールド設定が正常に完了したことを確認する。

標準チャートフィールド設定ページ

標準チャートフィールド設定ページ (STANDARD_CF_TMPLT) を使用して、表示順の変更、表示長の変更、ラベルの変更、チャートフィールドのアクティブ化または非アクティブ化などの標準チャートフィールド設定を実行します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [設定], [標準設定], [標準チャートフィールド設定]

詳細設定ページの [標準設定] タブを選択して、標準チャートフィールド設定ページにアクセスすることもできます。

詳細設定ページ (FS_CF_TEMPLATE) を使用して、チャートフィールドの追加、削除、名称変更、サイズ変更などの詳細チャートフィールド設定を実行します。

(このページの [標準設定] タブを選択して、標準設定ページにアクセスできます。)

設定

[設定] ボタンをクリックして、プロセス リクエスト ページにアクセスし、設定プロセスを開始します。

[全てのコンフィグ設定の実行] ボタン、[OK] ボタンの順にクリックして、設定プロセスを実行し、必要な手動ステップの [設定ステップ] レポートを生成します。

チャートフィールド設定プログラムは、いくつかのページにアクセスしてこれを処理します。

「チャートフィールド設定プロセスの実行と確認に使用するページ」を参照してください。

全ての設定をコミットする前に必要な手動ステップをレビューする場合は、[コンフィグ設定ステップのプレビュー] を選択して

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

[OK] をクリックします。これによって、[設定ステップ] レポートのみが生成されます。

全ての設定を実行したら、設定プロセスが正常に完了するまで、チャートフィールド設定ページの変更やリクエストした設定アクションのキャンセルを行うことはできません。

警告 プロセスによって PeopleTools テーブルに対する大量の更新が実行されるので、ロック問題が発生するのを避けるために、プロセスの実行中にユーザーがデータベースにログオンすることがないようにします。同じ理由で、全ての設定を開始した直後からプロセスが完了するまで、アプリケーション サーバーをシャット ダウンします。オペレーティング システムのモニタリング機能 (NT のタスク マネージャーなど) を使用して、プロセスの進捗状況をモニターできます。プロセスによって AE_FS_CFCONFIG_XXX.STDOUT ファイル (XXX はプロセス インスタンス番号) も更新されます。プロセスが終了するまで、このファイルのサイズは 0 のままです。

プロセスを実行する前に、使用環境のデータベース設定が次のような推奨設定であることを確認します。

Oracle

- ロールバック テーブルスペース = 1536MB。
- ロールバック セグメントのサイズ: 最初の範囲 + (次の範囲 * 最大範囲) = 1024MB (およそ)。
- dml_locks = 1024 (init.ora で設定)。
- dml_locks 設定の変更にはインスタンスのリサイクルが必要になります。

Informix

- ログ スペース = 1800MB。
- LOCKS = 2,500,000。

Sybase - ログ スペース = 2000MB。

DB2/Unix

- ロック モードを共有に変更: db2set DB2_RR_TO_RS=yes (これにより、ロック モードのリクエストを次のキー共有 (NS) に設定)。
- 次のコマンドを DBMCFG.SQL 設定ファイルに含める: UPDATE DBM CFG USING QUERY_HEAP_SZ 64000。
- ログ ファイル サイズ (4KB) (LOGFILSIZ) = 24000
- プライマリ ログ ファイルの数 (LOGPRIMARY) = 20
- 最小テーブルスペース サイズ (必要に応じて増やす)。
    - BDAPP: 9720

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- BDAPPIDX: 2680

  BDLARGE: 1191

- FAAP: 11312

  FSLARGEIDX: 13568

- LCAPP: 28572

- LCAPPIDX: 2600

- 設定を変更したらインスタンスをリサイクルします。

DB2/OS390 - 変更しないことをお勧めします。

MSS 2000 - ログ スペース = 1500MB。

*『PeopleTools: PeopleSoft Process Scheduler』*も参照してください。

ダイナミック編集テーブル ページ

ダイナミック編集テーブル ページ (FS_FLD_PROMPT) を使用して、PeopleCode によって動的に割り当てられるプロンプト テーブル名を取得します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [設定], [ダイナミック編集テーブル]

編集テーブルの取得 PeopleCode 機能はダイナミック編集テーブルを使用して、PeopleCode によって動的に割り当てられるプロンプト テーブル名を取得します。たとえば、チャートフィールドが一般会計の元帳グループ コンポーネントでリフレッシュされた場合、これに関連付けられているプロンプト テーブルはここから割り当てられます。このページはチャートフィールド設定ユーティリティによって自動的に管理されています。編集テーブルの取得機能が必要となるカスタマイズを実行しているのでなければ、このページを更新する必要はありません。

アクション ステータス ページ

アクション ステータス ページ (INQ_CFHDRLOG_SUM) を使用して、チャートフィールド設定アクションのステータスを照会します。

ナビゲーション

詳細設定ページまたは標準設定ページのいずれかで [設定ステータス] リンクをクリックします。

次のステータスは、アクション ステータス ページと製品ステータス ページの両方に表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

未処理

チャートフィールド設定アクションがリクエストされ、標準設定ページまたは詳細設定ページに保存されましたが、全ての設定の実行はまだ正常に完了していません。

自動設定完了

全ての設定の実行プロセスは正常に完了しました。このステータスは詳細チャートフィールド設定アクションでのみ使用されます。

完了

標準チャートフィールド設定アクションの場合、このステータスは全ての設定の実行プロセスによって設定され、プロセスが正常に終了したことを示しています。ただし [設定ステップ] レポートにリストされている手動タスクを完了する必要があります。

詳細チャートフィールド設定アクションの場合、このステータスは製品ステータス ページの [マーク完了] ボタンを使用して手動で設定する必要があります。全ての製品に対するチャートフィールド設定アクションが完了すると、アクション ステータス ページのアクションのステータスは自動的に [完了] に変更されます。

注: 全ての設定の実行が正常に終了すると、標準アクションは完了としてマークされますが、索引の再作成やレポートの更新といった、必要な手動ステップを実行する必要があります。設定ステップ レポートを忘れずにレビューして、設定を完了するために必要な追加の手動ステップを確認してください。

製品ステータス

製品ステータス ページにアクセスして、選択したチャートフィールド設定アクションに対する各インストール済製品のステータスを表示します。全ての設定の実行または設定ステップのプレビュー プロセスのいずれかを実行して、製品ステータス ページを更新します。

キャンセル

[キャンセル] ボタンをクリックして、全ての設定の実行プログラムで処理しないチャートフィールド設定アクションをキャンセルします。チャートフィールド設定アクションに対してこのプログラムを実行した後に、アクションをキャンセルすることはできません。

また、順序変更アクションをキャンセルすることはできません。代わりに、標準設定ページで希望の順序を指定します。

非アクティブ化、追加、または削除アクションをキャンセルする場合は、標準設定ページで順序を確認し、必要に応じて調整します。

ラベル変更アクションをキャンセルする場合、以前の値にリセットされるのはデフォルトのラベルのみです。追加の基本言語または外国語のラベルは、手動で更新する必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

製品ステータス ページ

製品ステータス ページ (INQ_CFLNLOG_DTL) を使用して、チャートフィールド設定アクションのステータスをインストール済製品ごとに照会します。

特定のチャートフィールド設定アクションについて、製品のステータスに完了のマークを付けるためにも使用します。全ての設定の実行または設定ステップのプレビュー プロセスのいずれかを実行して、製品ステータス ページを更新します。

ナビゲーション

アクション ページの最下部にある [全製品ステータス] リンクをクリックするか、アクション ステータス ページの行で [製品ステータス] リンクをクリックします。

マーク完了

製品に対する詳細チェックフィールド設定アクションに関連付けられている手動ステップを完了したら、[マーク完了] ボタンをクリックして製品に完了のマークを付けます。これによってステータスが [自動設定完了] から [完了] に変更されます。全ての製品に完了のマークが付いたら、追加のチャートフィールド設定アクションをリクエストできるようになります。

設定アクションの結果の確認

設定ステータス - アクション ステータス ページにアクセスして、設定プログラムが各設定アクションを正常に処理したことを確認します。ステータスが *[未処理]* の設定アクションが残らないようにしてください。残っている場合は、設定プロセスが正常に終了していない可能性があります。次のステップに従って、問題を識別してください。

全ての設定を実行するアプリケーション エンジン プロセスが生成したメッセージ ログをレビューして、発生したエラーを確認します。手動設定タスクに進む前に、エラーを全て修正し、プロセスを再開 (正常に終了しなかった場合) します。

注: このプロセスが正常に終了するまでは、標準設定ページまたは詳細設定ページに新たな変更を加えないでください。

全ての設定の実行プロセスは、追加、削除、順序変更の各設定アクションの実行時に、PeopleSoft PeopleTools の一括操作機能を使用して、レコードとページを変更します。全ての設定の実行が終了したら、一括操作のログ ファイル (BulkOps.log) で、エラーとレコード (何が処理され何が処理されなかったかの記録) をレビューします。ログは、%PS_CFG_HOME%/appserv/prcs/<ドメイン>/log_output または (このディレクトリを更新できない場合) %PS_HOME% にあります。更新の必要がない特定のレコードとページがスキップされるのは、ユーティリティの正常な動作です。オブジェクトが複雑であるために、疑わしいレコードまたはページがユーティリティで更新された場合、そのレコードまたはページは BLK_*FieldName* というプロジェクトに書き込まれます。ユーティリティによって作成された BLK_*FieldName* プロジェクトがある場合は、この内容をレビューしてください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

順序または表示長を変更する設定アクションをリクエストしていて、プロセスが 1 つ以上のページにおいて順序または表示長を変更できなかったことを示すエラー メッセージがメッセージ ログに含まれている場合は、BulkOps.log ファイルをレビューして、処理されなかった特定のページを識別します。これらのページは手動で更新する必要があります。

最後に、チャートフィールドをアクティブ化または非アクティブ化した場合は、アプリケーション エンジンの TRC ファイルでプロセス インスタンスのエラー メッセージをレビューして、全ての索引定義が正しく更新されていることを確認します。設定プロセスで更新できなかった索引については、アプリケーション デザイナでレコード定義を開いて再保存してから、索引を再作成することで更新できます。

注: 一括操作機能についての詳細情報は、PeopleTools のドキュメントを参照してください。

詳細については、*『PeopleTools: PeopleSoft Application Designer』*を参照してください。

手動設定タスクの実行

このトピックでは、次の事項について概要と実施方法を説明します。

- ワンタイム手動設定タスクの実行。
- 製品固有の手動設定タスクの実行。
- 設定ステップ レポートと照会の実行。

手動設定について

一般的には、次のアイテムにチャートフィールド設定を実行した結果に対して、手動で変更を加える必要はありません。

- レコード定義
- ページ
- PeopleCode
- SQL オブジェクト
- 表示テキスト
- アプリケーション エンジン
- COBOL
- SQR

リクエストした設定アクションによっては、次のオブジェクトの手動変更が必要となる場合があります。

- クエリー

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- メッセージ定義
- コンポーネント インターフェイス
- ファイル レイアウト
- マス チェンジ タイプ/テンプレート
- 提供済 PS/nVision レイアウト

全てのチャートフィールド設定アクションは、設定を完了するために特定の手動ステップを実行する必要があります。通常、標準アクションの方が詳細アクションより必要なステップが少なくなります。手動ステップは、全ての設定の実行プロセスまたは設定ステップのプレビュー プロセスのいずれかを実行すると生成される [設定ステップ] レポートに実行順にリストされます。

[コンフィグ設定ステップのプレビュー] プロセスは、データベースの更新を行わずにレポートを生成します。これによって、全ての設定を実行する前に、チャートフィールド設定アクションに変更を加えることができます。全ての設定の実行プロセスは、該当するデータベースに更新を適用し、同じレポートを生成します。

[設定ステップ] レポートには、最初に全てのインストール済製品に対して 1 回だけ (*ワンタイム*) 実行するタスクがリストされ、続いて各インストール済製品に対して実行する*製品*固有のタスクがリストされます。製品が空白の定義は、複数の製品に使用されるものであり、1 回だけリストされます。

後続の説明に含まれる手動タスクのリストは、全てのチャートフィールド設定アクションをカバーしています。[設定ステップ] レポートには、リクエストされたアクションに該当するタスクのみがリストされます。

製品ドキュメントの*『PeopleTools: PeopleSoft Application Designer Developer's Guide』*を参照してください。

ワンタイム手動設定タスクの実行

次の表では、[設定ステップ] レポートにリストされ、インストール済製品の数にかかわらず、通常は 1 回のみ実行する手動設定タスクをまとめています。ただし、一部のタスクは、後続のプロジェクトベースの設定で繰り返し実行することが必要になる場合があります。

システムが正しく機能するためには、必須のステップを実行する必要があります。オプションのステップはシステムの機能には影響しませんが、ページやレポートの外観に影響します。

表内の連番は、ステップの実行順序の例を示します。(連番には飛び番があります。)

連番	***共通タスク***	***コメント/必須/オプション***
00010	設定プロセス全体の実行	ユニット内関係会社に関連するチャートフィールドの変更を除く、全てのアクションの必須プロセスとして [コンフィグ設定ステップのプレビュー] プロセスが実行される場合にのみ適用されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

連番	*共通タスク*	*コメント/必須/オプション*
00020	新規チャートフィールド検証テーブルの定義	追加アクションにのみ必須です。ユニット内関係会社チャートフィールドには適用されません。
00040	新規チャートフィールド プロンプト ビューの作成	追加アクションにのみ必須です。
00060	新規チャートフィールド定義ページ ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[共通定義]、[チャートフィールド設定]、[設定]、[チャートフィールド定義])。 (最初にアプリケーション デザイナでコンポーネントを作成する必要があります)。	追加アクションにのみ必須です。ユニット内関係会社チャートフィールドには適用されません。
00070	クエリー レポートを含むテーブルの作成	追加アクションのみ (オプション)。ユニット内関係会社チャートフィールドには適用されません。
10010	テーブルの変更/インデックスの作成	次の場合は必須: • 追加 • 削除 • 名称変更 • サイズ変更
10020	インデックスの作成	追加、削除、名称変更またはサイズ変更のリクエストなしに、アクティブ化/非アクティブ化がリクエストされた場合にのみ適用されます。
10040	ビューの作成	次の場合は必須: • 追加 • 削除 • 名称変更 • ユニット内関連チャートフィールドの変更 • サイズ変更
10050	新規テーブルセット レコード グループの追加	追加の場合は必須 (ユニット内関係会社チャートフィールドには適用されません)
10060	レポートを含むテーブルの更新	サイズ変更と名称変更の場合は必須。ラベル変更の場合はオプション。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: 最初に関連言語テーブルを作成する必要があります。これらのテーブルには、*Lxxx* というサフィックス (例: OPER_UNIT_LANG または OPER_UNIT_LN) が付けられています。

新規チャートフィールド検証テーブルの定義 (連番 00020)

[設定ステップ] レポートにリストされているモデル テーブルをコピーします。PeopleSoft アプリケーション デザイナで [ファイル]、[別名保存] の順に選択し、レポートに示されているとおりに新規検証テーブルの名前を付けます。テーブルが既に存在する場合は置き換えます。次のステップを実行します。

PeopleCode のコピーを保存するかどうかのプロンプトが表示されたら、*[はい]* と答えます。

新規検証テーブルを使用できるようになったら、モデル チャートフィールドを反転表示し、[挿入]、[フィールド] を選択して新規チャートフィールドを追加します。

モデル チャートフィールドの属性を新しいものと比較し、新規フィールド属性がモデルに一致するように変更します。

モデル チャートフィールドと関連付けられている PeopleCode があれば新規チャートフィールドにコピーし、必要に応じて変更します。

新規検証テーブルからモデル チャートフィールドを削除します。

レコード プロパティに関連言語レコードがある場合は、この名前を新規チャートフィールド用の正しいレコードに変更します。

レコード プロパティにあるテーブルの名称を変更します。

新規検証テーブルを保存します。

[作成]、現在のオブジェクトを使用して新規テーブルを作成します。警告メッセージがある場合は [OK] をクリックして全て確認します。

リストされている新規検証テーブルごとに同じ手順を実行します。

注: 最初に関連言語テーブルを作成する必要があります。これらのテーブルには、*_Lxxx* というサフィックス (例: OPER_UNIT_LANG または OPER_UNIT_LN) が付けられています。

新規チャートフィールド プロンプト ビューの作成 (連番 00040)

[設定ステップ] レポートにリストされているモデル プロンプト ビューをコピーします。アプリケーション デザイナで [ファイル]、[別名保存] の順に選択し、レポートに示されているとおりに新規プロンプト ビューの名前を付けます。

PeopleCode のコピーを保存するかどうかのプロンプトが表示されたら、*[はい]* と答えます。

新規プロンプト ビューを使用できるようになったら、モデル チャートフィールドを反転表示し、[挿入]、[フィールド] を選択して新規チャートフィールドを追加します。

モデル チャートフィールドの属性を新しいものと比較し、新規フィールド属性がモデルに一致するように変更します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

モデル チャートフィールドと関連付けられている PeopleCode があれば新規チャートフィールドにコピーし、必要に応じて変更します。

新規プロンプト ビューからモデル チャートフィールドを削除します。

新規チャートフィールド名を参照するようにビュー テキストを変更します。SQL オブジェクト (%Sql) が適切な新規チャートフィールド名または新規検証テーブル名を参照していることを確認してください。

レコード プロパティに関連言語レコードがある場合は、この名前を新規チャートフィールド用の正しいレコードに変更します。

レコード プロパティにあるプロンプト ビューの説明を変更します。

新規プロンプト ビューを保存します。

リストされている新規プロンプト ビューごとに、説明した同じ手順を実行します。

ビューは連番 10040 で作成されます。

警告 アプリケーション デザイナでチャートフィールドが含まれるレポートを開く前に、このステップを完了します。そうしないと、プロンプト テーブルが見つからないというエラーが発生します。

新規チャートフィールド定義ページとコンポーネントの定義 (連番 00060)

レポートにリストされているモデル ページをコピーし、新規ページに指定された名前を使用します。

関連付けられている PeopleCode を保存するかどうかのプロンプトが表示されたら、*[はい]* と答えます。

古い検証テーブルへの全ての参照が置き換えられたことを確認します。

既存のページからコピーされたページ PeopleCode があればレビューし、必要に応じて変更または削除します。

モデル コンポーネント (PeopleCode を含む) をコピーし、モデル チャートフィールドと検証テーブルへの参照を、新規チャートフィールドと検証テーブルに置き換えます。新規ページと同じ名前を使用し、新規ページを追加します。

次の 2 つのメッセージ定義 (PeopleCode を含む) をコピーし、モデル チャートフィールドと検証テーブルへの参照を、新規チャートフィールドと検証テーブルに置き換えます。

- <モデル チャートフィールド名>_CF_FULLSYNC
- <モデル チャートフィールド名>_CF_SYNC

アプリケーション デザイナで [ツール]、[コンポーネントの登録] を選択し、DESIGN_CHARTFIELDS メニュー、ポータル レジストリおよび適切な権限リストに新規コンポーネントを追加します。

次の値を使用します。リストに含まれていないフィールドにはデフォルト値を受け入れます。

- メニュー名: DESIGN_CHARTFIELDS

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- バー名: USE
- ポータル名: EMPLOYEE
- フォルダ名: EPCO_DESIGN_CHARTFIELDS_HIDDEN
- コンテンツ参照名: EP_<新規コンポーネント名>_GBL (例: EP_OPERATING_UNIT_GBL)
- コンテンツ参照ラベル: <新規チャートフィールドの名称>
- 内容: <新規チャートフィールドの名称>
- 連番: 99xx (xx はユーザーが割り当て)
- ノード名: ERP
- 権限リスト: <セキュリティ設定に基づいて選択>

クエリー レポートを含むテーブルの作成 (連番 00070)

PeopleTools で [セキュリティ]、[クエリー セキュリティ]、[クエリー アクセス マネージャ] にアクセスし、QUERY_TREE_ERP を開きます。

チャートフィールド アクセス グループをクリックし、[子レコードの挿入]アイコンをクリックします。新規チャートフィールドの検証テーブルの名前を入力し、[追加] をクリックしてツリーを保存します。

[レポート ツール]、[クエリー]、[クエリー マネージャ] の順にアクセスし、レポートにリストされているモデル クエリーを選択します。このクエリーをモデルとして使用して、新規チャートフィールドを表す新規クエリーをレポートに指定されている名前で作成します。新規クエリーは新規チャートフィールドの検証テーブルを参照する必要があるため、このクエリーをコピーして新規クエリーを作成するために使用*しない*でください。

「レポートのチャートフィールドの管理」を参照してください。

アプリケーション デザイナで [ツール]、[コンポーネントの登録] を選択し、DESIGN_CHARTFIELDS メニュー、ポータル レジストリおよび適切な権限リストに新規コンポーネントを追加します。

次の値を使用します。リストに含まれていないフィールドにはデフォルト値を受け入れます。

- メニュー名: DESIGN_CHARTFIELDS
- バー名: REPORT
- ポータル名: EMPLOYEE
- フォルダ名: EPCO_DESIGN_CHARTFIELDS_HIDDEN
- コンテンツ参照名: EP_<新規コンポーネント名>_GBL (例: EP_RUN_FIN9000_GBL)
- コンテンツ参照ラベル: <新規チャートフィールドの名称>
- 内容: <新規チャートフィールドの名称>

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 連番: 99xx (xx はユーザーが割り当て)
- ノード名: ERP
- 権限リスト: <セキュリティ設定に基づいて選択>

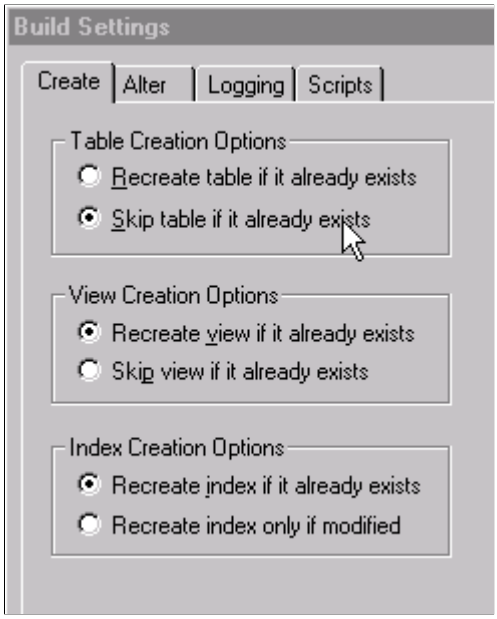
モデル チャートフィールドに関連する全ての PeopleCode をコピーして、新規チャートフィールドが含まれるように FS_PANELS_WRK.PB_SELECT_CF FieldChange PeopleCode を変更します。CheckSecurity および Xfer2Page 関数のパラメータは、それぞれ [メニュー バー名]、[メニュー アイテム名] および [コンポーネント アイテム名] です。

テーブルの変更/インデックスの作成 (連番 10010)

レポートにリストされているプロジェクトにオブジェクトを作成します。ビルド設定ページの[作成]タブを選択してビルド設定を確認します。

画像: ビルド設定: [作成]タブの確認

ビルド設定: [作成]タブの確認

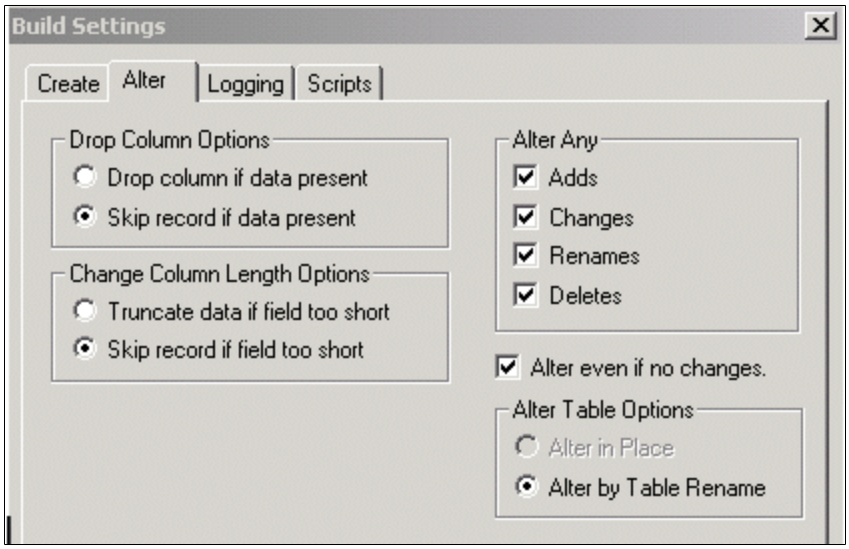


Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

変更タブを選択してビルド設定を確認します。

画像: ビルド設定: 変更タブの確認

ビルド設定: 変更タブの確認



警告メッセージがある場合は [OK] をクリックして全て確認します。

インデックスの作成 (連番 10020)

レポートにリストされているプロジェクトにオブジェクトを作成します。

[インデックスの作成] チェック ボックスを選択します。

ビルド設定が連番 10010 に示すとおりに設定されていることを確認します。

このタスクと連番 10010 は同時に指定できません。

ビューの作成 (連番 10040)

レポートにリストされているプロジェクトにオブジェクトを作成します。

[ビューの作成] チェック ボックスを選択します。

ビルド設定がステップ 10010 に示すとおりに設定されていることを確認します。

新規テーブルセット レコード グループの追加 (連番 10050)

[PeopleTools]、[ユーティリティ]、[管理]、[レコード グループ] で、FS_ を使用して使用可能な次の番号を選択し、追加する新規チャートフィールドごとに新規レコード グループを追加します。レポートにリストされている全てのレコードおよびビューを適切なレコード グループに追加します。

レポートを含むテーブルの更新 (連番 10060)

リストされているレポートにリクエストしたチャートフィールド設定アクションを反映して更新します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

製品固有の設定タスクの実行

次の表では、レポートにリストされる*製品固有*の手動設定タスクをまとめています。

連番	*製品タスク*	*コメント/必須/オプション*
20010	ページの更新	追加場合は必須 次の場合はオプション: • 順序変更 • 表示サイズ変更
40010	クエリーの更新	次の場合は必須: • 追加 • 削除
40020	レポートとクエリーの更新 「レポートのチャートフィールドの管理」を参照してください。	次の場合は必須: • 追加 • 削除 • 名称変更 • サイズ変更 次の場合はオプション: • アクティブ化/非アクティブ化 • ラベル変更 • 順序変更 • 表示サイズ変更
70030	AMCHARTS.SQC をユーザーの SQR フォルダにコピー	次の場合は必須: • 追加 • 削除 • 名称変更
80010	マス チェンジ テンプレートの更新	次の場合は必須: • 追加 • 削除

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

連番	*製品タスク*	*コメント/必須/オプション*
80020	マス チェンジ タイプの更新	次の場合は必須: • 追加 • 削除
80030	提供済 PS/nVision レイアウトの更新	次の場合は必須: • 追加 • 名称変更 • 削除 サイズ変更の場合はオプション。
80040	メッセージ定義の更新	アクティブ化/非アクティブ化の場合はオプション。
80050	ファイル レイアウトの更新	次の場合は必須: • 追加 • 名称変更 • 削除 • サイズ変更 アクティブ化/非アクティブ化の場合はオプション。
80070	コンポーネント インターフェイスの更新	次の場合は必須: • 追加 • 削除 アクティブ化/非アクティブ化の場合はオプション。
90010	設定ステータス ページ上でのマーク アクションの完了 - アクション ステータス ページ。	次の場合は必須: • 追加 • 名称変更 • 削除 • サイズ変更

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: システム設定データの確認 - チャートフィールドのビジネス リクエストおよび承認プロセスを使用する場合は、ビジネス リクエスト設定ページとコア テーブル フィールド ページを更新します。追加、名称変更および削除の場合は必須です。
「ビジネス リクエストおよび承認の設定と使用」を参照してください。

ページの変更 (連番 20010)

リストされているページにリクエストしたチャートフィールド設定アクションを反映して更新します。

新規に追加したチャートフィールドに関して、1 つのページに複数のグリッドが表示される場合のページ フィールド名をチェックします。ページ フィールド名は、ページ上のフィールドごとに一意である必要があります。複数のグリッドに追加されたチャートフィールドを変更して、ページ フィールド命名規則に従った各グリッド固有の名前にします。

クエリーの更新 (連番 40010)

PeopleTools にアクセスし、リストされているクエリーにリクエストしたチャートフィールド設定アクションを反映して更新します。

新規に追加したチャートフィールドに関して、クエリーに含める新規フィールドを選択します。新規チャートフィールドの [編集] ボタンをクリックし、チャートフィールドが希望した位置になるように列番号を変更します。フィールド プロパティと条件を編集し、モデル チャートフィールドと一致させるために必要な変更を加えます。

レポートとクエリーの更新 (連番 40020)

追加または削除したチャートフィールドに関して、リストされた各レポートに関連付けられているクエリーを更新します。リストされているレポートにリクエストしたチャートフィールド設定アクションを反映して更新します。

非アクティブ ステータスに設定されているチャートフィールドがある場合は、リストされたレポートを変更する必要があります。これらのレポートから非アクティブなチャートフィールドを削除する必要があります。これをするには、各レポートを開き、データベースの確認機能を使用して非アクティブなフィールドを削除します。

注:

「レポートのチャートフィールドの管理」を参照してください。

AMCHARTS.SQC をユーザーの SQR フォルダにコピー (連番 70030)

このステップは PeopleSoft 資産管理がインストールされている場合にのみ必須です。

プロセス モニターで、AMCFBULD SQR レポート プロセスの [詳細] リンクをクリックし、[ログ/トレースの表示] リンクを選択します。AMCHARTS.SQC エントリを右クリックし、そのファイルをユーザーの %HOME%\SQR フォルダにコピーします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

マス チェンジ テンプレートの更新 (連番 80010)

PeopleTools で [マス チェンジ] にアクセスし、[テンプレート] を選択します。

新規に追加したチャートフィールドに関して、リストされている各テンプレートにアクセスし、[条件とフィールド] タブを選択し、モデル チャートフィールド名が出現する全てのインスタンスを新規チャートフィールドにして各テンプレートを更新します。

削除したチャートフィールドに関して、削除したチャートフィールドへの参照が含まれる全ての行を削除します。

マス チェンジ タイプの更新 (連番 80020)

PeopleTools で [マス チェンジ]、[タイプ] にアクセスし、[レコードと結合] タブを選択します。

新規に追加したチャートフィールドに関して、リストされている各タイプにアクセスし、[条件とフィールド] タブを選択し、モデル チャートフィールド名が出現する全てのインスタンスを新規チャートフィールドに変更して各テンプレートを更新します。

削除したチャートフィールドに関して、削除したチャートフィールドへの参照が含まれる全ての行を削除します。コンポーネントのその他のページも更新します。

提供済 PS/nVision レイアウトの更新 (連番 80030)

アプリケーション デザイナで PS/nVision にアクセスします。新規に追加または名称変更したフィールドに関して、リストされている各レイアウトを開き、レイアウト上に新しい名前または該当する場合は新規チャートフィールドを入力します。

削除したチャートフィールドに関して、削除したチャートフィールドに対する全ての参照を削除します。

サイズ変更したチャートフィールドに関して、新しい長さが指定されたスペースに収まることを確認します。

メッセージ定義の更新 (連番 80040)

提供されるチャートフィールドのいずれかを非アクティブ化する場合は、それらをメッセージ定義からも除外します。その場合は、リストされているメッセージを開き、非アクティブ化するチャートフィールドの [含める] フラグを無効化します。

ファイル レイアウトの更新 (連番 80050)

リストされているファイル レイアウトにリクエストしたチャートフィールド設定アクションを反映して更新します。

提供されるチャートフィールドのいずれかを非アクティブ化する場合は、それらをファイル レイアウト定義からも除外します。その場合は、リストされている定義から非アクティブ化するチャートフィールドを削除します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

コンポーネント インターフェイスの更新 (連番 80070)

リストされているコンポーネント インターフェイスにリクエストしたチャートフィールド設定アクションを反映して更新します。

提供されるチャートフィールドのいずれかを非アクティブ化する場合は、非アクティブ化するチャートフィールドをリストされているコンポーネント インターフェイスから削除することもできます。

各チャートフィールドには、チャートフィールドに値をロードするためのコンポーネント インターフェイスが用意されています。これを使用すれば、オンライン ページを介して値を入力する必要がなくなります。

新規チャートフィールドを追加する場合は、提供される全て設定可のチャートフィールドのいずれか 1 つ ([業務ユニット] など) からコンポーネント インターフェイスをコピーし、新規チャートフィールドを使用するようにそのコピーを変更することで、関連するコンポーネント インターフェイスを作成できます。

アクションを完了としてマーク (連番 90010)

製品に対して詳細チャートフィールドアクションに関連付けられている手動ステップを完了したら、設定ステータス - アクション ステータスページの [製品ステータス] リンクの下にある [マーク完了] ボタンを使用して、製品を完了としてマークします。これによって、ステータスが [自動設定完了] から [完了] に変わります。

全ての製品が特定の詳細チャートフィールド アクションについて完了としてマークされると、アクションのステータスが [完了] に変更されます。標準チャートフィールド アクションのステータスは全ての設定の実行プロセスによって *[完了]* に設定されるので、このステップは標準チャートフィールド アクションには適用されません。

システム設定データのレビュー

ビジネス リクエストおよび承認プロセスを使用している場合は、『アプリケーションの基礎』ドキュメントの「ビジネス リクエストおよび承認の設定と使用」に記載されている新規チャートフィールドの追加ステップに従って、ビジネス リクエスト設定ページとコア テーブル フィールド ページに新規チャートフィールドを追加します。

既存のチャートフィールドを削除する場合は、ビジネス リクエスト設定ページにナビゲートし ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[共通定義]、[ビジネス リクエスト設定]、[ビジネス リクエスト設定]、[ビジネス リクエスト設定])、[有効] チェック ボックスが選択されている場合は解除します。

既存のチャートフィールドの名前を変更する場合は、前の段落で説明したとおりに、(古い名前のチャートフィールドを削除するために) ビジネス リクエスト設定ページの [有効] チェック ボックスの選択を解除します。次に、[ビジネス リクエスト設定] プロセスに従って、最初の段落で説明したとおりに新規チャートフィールド名用の新しい行を追加します。古い (使用不可にした) チャートフィールド名から全ての情報をコピーできます。

結果の確認

最も頻繁に使用するページをレビューし、トランザクションを入力し、重要なプロセスを実行して、リクエストしたチャートフィールド アクションが正しく適用されたことを確認します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

一般会計をインストールしている場合は、次のことも確認します。

- 仕訳インポート機能を使用している場合は、Excel ファイル JRNL1.XLS にリクエストしたチャートフィールド設定アクションを反映して更新します。
- 要約元帳を使用している場合は、要約元帳定義をレビューし、必要に応じて更新します。

設定ステップ レポートと照会の実行

[設定ステップ レポート] には、設定プロセスを完了するために必要な手動ステップと、変更が必要なオブジェクトおよび定義がリストされます。コンフィグ設定ステップのプレビューおよび全てのコンフィグ設定の実行プロセスの両方から自動的に開始されます。レポートは PeopleSoft 製品別にグループ化されます。複数の製品に共通するオブジェクトは別にグループ化され、最初にリストされます。これらの共通オブジェクトには製品が示されません。

手動ステップにはまた、設定ステップ照会ページからもアクセスできます。

新製品およびアプリケーション修正に対するチャートフィールド設定の実行

アプリケーション修正が含まれるオブジェクトに対するチャートフィールドの設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
プロジェクト チャートフィールド設定ページ	RUN_CF_CONFIG	システムに更新または修正を適用する前に、チャートフィールド設定に合わせて更新および修正を設定します。

プロジェクト チャートフィールド設定ページ

プロジェクト チャートフィールド設定ページ (RUN_CF_CONFIG) を使用して、システムに更新または修正を適用する前に、チャートフィールド設定に合わせて更新および修正を設定します。

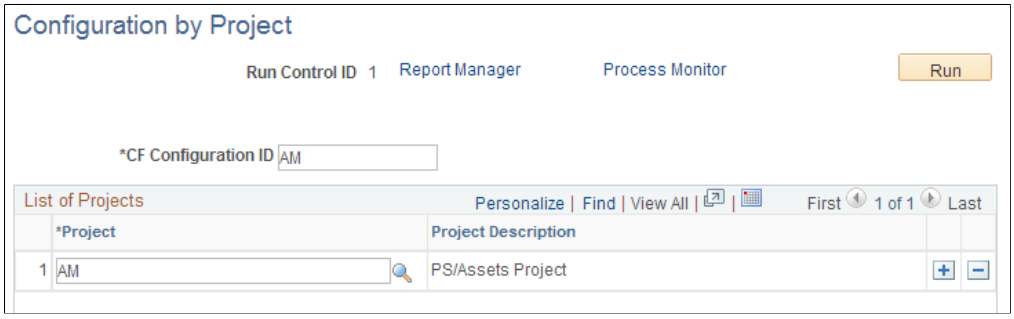
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [設定], [プロジェクト チャートフィールド設定], [プロジェクト チャートフィールド設定]

画像: プロジェクト チャートフィールド設定ページ

次の例では、プロジェクト チャートフィールド設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このページを使用して、ソフトウェアの修正で提供されたオブジェクトをチャートフィールド設定に合わせて設定します。

チャートフィールド設定 ID 適用するプロジェクトごとに設定を実行する場合に、複数の実行を区別するための値を入力します。このようにすると、以前の設定レポートを上書きすることなく、チャートフィールド設定 ID ごとの設定レポートが生成されます。

プロジェクト ソフトウェアの更新または修正とともに提供されたプロジェクトの名前を入力します。

プロジェクト設定は、*[完了]* ステータスの設定アクションのみを処理します。プロジェクトのオブジェクト リストを CF_xxxx プロジェクトと比較し、手動で変更する必要があるオブジェクトをリストします。修正に含まれる PS/nVision レポートは手動で確認する必要があります。

初回の設定後にインストールされた製品に対するチャートフィールドの設定

インストール済の全製品に設定を実行した後に新しい製品をインストールした場合は、リクエストした設定アクションを新しい製品に適用するために、全ての設定の実行プロセスを再度実行する必要があります。

チャートフィールド設定プログラムおよびプロセスのレビュー

このトピックでは、次について説明します。

- チャートフィールド設定ドライバ。
- チャートフィールド手動設定プログラム。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- チャートフィールド自動設定プログラム。

標準設定と詳細設定ではいずれも、PeopleSoft の自動設定プログラムと手動設定プログラムを使用します。次の 2 つのモードを使用できます。

- 全ての設定の実行は、チャートフィールド テンプレートから開始され、未処理のテンプレート アクションをデータベース全体に適用します。これは通常、システムを最初に実装したとき、またはテンプレートに新規チャートフィールド アクションが作成されたときに実行されます。
- プロジェクト設定は、プロジェクトによる CF 設定ページから開始され、ラン コントロール ページにリストされたプロジェクトに含まれるオブジェクトに、完了したテンプレート アクションを適用します。プロジェクト設定は通常、修正を適用する場合に使用します。

チャートフィールド設定ドライバ

全ての設定の実行では、PeopleSoft アプリケーション エンジン プログラム FS_CFCONFIG を使用して、手動設定プログラムと自動設定プログラムを呼び出します。設定レポートのスケジュールも行います。このドライバによって、両方のプログラムを 1 つのプロセスとして実行できるようになります。

各ステップの後にはコミットが実行されます。プログラムが異常終了した場合は、問題の原因を調査して修正してから、プログラムを再開する必要があります。これにより、プログラムをコミットされた最後のステップから再開できます。

プログラムを再開する理由は 2 つあります。

多くのデータベース レコードを更新することが必要となる一部の設定アクション (新規チャートフィールドの追加など) には時間がかかります。再開によって全体の処理時間を短くできます。

設定レポートの内容は手動設定によって決まり、未処理のアクションに基づいています。異常終了したプログラムをキャンセルして新しいプログラム インスタンスを開始した場合、レポートにはプログラムが開始された時点の未処理アクションのみが表示されます。異常終了する前に正常に処理された全てのアクションはリストされなくなります。

プログラムは次のように構成されます。

- 初期化: このステップでは、全ての設定の実行またはプロジェクト設定のいずれの処理であるかを決定します。プロジェクト設定の場合は、プロジェクトのリストがグローバル配列に保持され、手動設定プログラムと自動設定プログラムの両方に渡されます。さらに、モデルと一部設定可のチャートフィールドを決定します。これらは、後続の処理で作成対象レコードの決定に使用する文字列にロードされます (ビューおよび索引作成、テーブルの変更など)。
- 手動設定プログラムを呼び出します。
- 自動設定プログラムを呼び出します。
- 設定 BI Publisher レポートをスケジュールします (CFX001)。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド手動設定プログラム

手動設定では、アプリケーション エンジン プログラム (FS_CFMANUAL) を使用して、設定プロセスを完了するために必要な全ての手動ステップをリストしたレポートを、標準設定と詳細設定の両方について作成します。手動設定プログラムは常に、自動設定プログラムの前に実行されます。

このプログラムによって、インストール済の全ての製品または新規にインストールした製品に対して設定を実行できるようになります。または、ソフトウェアの修正として適用されるオブジェクトを含む特定のプロジェクトに対してプログラムを実行することができます。

最初に必要な手動ステップをプレビューするのみの場合は、標準設定ページまたは詳細設定ページで [コンフィグ設定ステップのプレビュー] プロセスを選択してプログラムを開始します。チャートフィールド自動設定プログラムを呼び出してデータベース更新に進む場合は、[全てのコンフィグ設定の実行] プロセスを選択することもできます。

チャートフィールドの状態が既にアクションで指定する状態になっているため、不要となるアクションがある場合は、プログラムがこれを削除します。これにより処理時間が短くなり、設定レポートにリストされる手動タスクの数が少なくなります。次に、未完了のアクションとインストール済製品の組合せごとに製品ログが作成されます。

次に、プログラムは各手動設定タスクと製品ログを確認し、選択されたアクションがそのタスクに適用されるかどうかをチェックして決定します。適用される場合、影響を受ける全てのオブジェクトが含まれ、処理する必要があるタスクがリストされます。製品固有のオブジェクトは製品別にグループ化され、複数の製品に共通のオブジェクトの後にリストされます。プログラムは、CF_xxx (xxx は製品コード) プロジェクト、および FS_CF_ADD、FS_CF_DELETE、FS_CF_REORDER の各プロジェクトで例外オブジェクトのリストを参照し、オブジェクトを使用する製品を決定します。これらのプロジェクトには、現在変更の記録が動的または機密でないオブジェクトが含まれています。また、チャートフィールド関連プログラム ページで、チャートフィールド関連プログラムに含まれる PS/nVision レポート、COBOL プログラムおよび SQR プログラムが現在空であることを確認します。さらに、マス チェンジ プログラム ページも確認します。

プログラムはまた、チャートフィールド定義ページで、チャートフィールド検証レコードや定義ページ、単一チャートフィールドのレポートおよびクエリーなどの、製品固有でないタスクを確認します。

プログラムは完了時に、チャートフィールド アクションおよび製品ログのステータスを N から P に変更します。

チャートフィールド自動設定プログラム

自動設定は、アプリケーション メタデータ更新を自動的に実行するアプリケーション エンジン プログラム (FS_CFUPDATE) です。これらは、チャートフィールド設定ページに対して行った追加または変更に対応するために必要となる、レコードおよびページに必要な直接更新と関連更新です。

アプリケーション エンジン プロセスの中で、システムは組み込みの PeopleCode 関数を使用してメタデータを更新します。また、フィールド ラベル変更やテーブルの名称変更、グリッド フィールド表示のサイズ変更、実際のフィールド サイズの変更、レコードおよびページへのフィールドの挿入または削除などの、ユーザーが指定した設定を実行します。これによって、変更された PeopleTools オブジェクトのキャッシュが正しく適用されていることが確認されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

全ての設定の実行は、ステータスが P のチャートフィールド アクションのみを処理します。このステータス値は、プログラムに対して、前提となる手動設定プログラムが実行されたことを示します。プロセスの完了時に、このステータスは完了 (詳細アクションの場合は U、標準アクションの場合は C) として設定されます。

プロジェクト設定では、完了したチャートフィールド アクション (例: ステータス値が U および C) のみが処理され、終了時のステータスはそのまま変更されません。

PeopleSoft 資産管理を使用しているインストール環境では、このプログラムによって AMCFBULD SQR プロセスのスケジュールも行われます。SQR によって資産管理に必要な AMCHARTS.SQC が作成されます。

SQC にはテンプレートで指定されたチャートフィールド定義が含まれており、資産管理の SQR 処理で使用されます。

プログラムはチャートフィールド設定アクションで構成されます。選択したアクションに対して、各チャートフィールドの*再開可能*な実行/選択が使用されます。これによって、プログラムが失敗した場合にプログラムの実行/選択ループの途中から再開できるようになります。

各ステップの後にデータベース コミットが実行されます。アプリケーション エンジン プログラムに指定されたコミット スキームとは別に、アプリケーション メタデータの更新に使用される PeopleCode 関数によって、完了時に変更がコミットされます。

プログラムの失敗後に再開する場合、同じ PeopleCode 関数を再度呼び出して、以前完了した更新を実行することができます。プログラムで使用する PeopleCode 関数は、このようなケースを追加の例外をスローすることなしに処理できるよう開発されているので、これによって問題が起こることはありません。

ただし、プログラムが失敗した場合に、PeopleCode のコミット ポリシーによって一部のメタデータが変更されることがあります。そのため、メタデータに影響を与えるアプリケーション デザイナおよびその他の PeopleTools に一般的なアクセス権限を与える前に、チャートフィールド設定プロセスが続行して完了する*必要があります*。

プログラムは次のように構成されます。

- 初期化: プログラムで使用するいくつかのグローバル値の設定に加えて、データベース オブジェクト (テーブル、ビュー、索引) の作成を可能にする、[一括操作] プロジェクトと [作成] プロジェクトという、2 つのセットのアプリケーション デザイナ プロジェクトを生成します。プロジェクト設定が開始されている場合は、ラン コントロール ページにあるプロジェクトに含まれるレコードおよびページから、一括操作プロジェクトが生成されます。全ての設定の実行が開始されている場合は、選択した一括操作によって影響を受けるレコードおよびページが、システムによって自動的に判別されます。これは、モデルと一部設定可のチャートフィールドを統合するレコードおよびページの相互参照によって行われます。いくつかの技術的な問題によって、提供されるレコードまたはページの一部が一括操作 API によって自動的に変更されない場合があります。これらのオブジェクトを識別する、次のような除外プロジェクトが数多く予約されています。

  注: システムに除外プロジェクトが存在しない場合もあります。PeopleSoft ソフトウェアにアクションから除外する必要がある特定のページが存在する場合にのみ提供されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- FS_CF_ADD - BulkInsertField() で処理できないオブジェクトを除外します。
- FS_CF_DELETE - BulkDeleteField() で処理できないオブジェクトを除外します。
- FS_CF_REORDER - BulkModifyPageFieldOrder() で処理できないオブジェクトを除外します。

このステップはデータベース管理を可能にする次のアプリケーション デザイナ プロジェクトの作成も行うため、システムの使用準備が完了する前に実行する必要があります。これは、処理されるチャートフィールド アクションの分析によって行われます。プロジェクトを次に示します。

- FS_CF_ALTER_TABLE - 変更する必要があるチャートフィールドが含まれるテーブル。ここには、モデル チャートフィールドと、削除、名称変更、サイズ変更された各チャートフィールドが含まれるレコード (フィールドがサブレコードに保持されている場合は親レコード) が含まれます。
- FS_CF_CREATE_INDEX - 索引を作成する必要があるチャートフィールドが含まれるテーブル。ここには、アクティブ化または非アクティブ化されたチャートフィールドが含まれるレコード (フィールドがサブレコードに保持されている場合は親レコード) が含まれます。
- FS_CF_CREATE_VIEW - 作成する必要があるチャートフィールドが含まれるビュー。ここには、モデル チャートフィールドと、削除および名称変更された各チャートフィールドが含まれるレコード (フィールドがサブレコードに保持されている場合は親レコード) が含まれます。また、ユニット内関連チャートフィールドの変更の影響を受けるビューも含まれます。チャートフィールドを含まないが、ビュー テキストで他のビューを参照するその他のビューも作成する必要がありますが、これをプログラムで識別することは簡単ではありません。これらは PeopleSoft が提供する FS_CF_VIEW_EXCEPTIONS というプロジェクトに定義されています。このプロジェクトに含まれるレコードも、ビュー作成プロジェクトに追加されます。
- アクティブ化/非アクティブ化 - このステップはチャートフィールド継承および銀行チャートフィールド継承アプリケーション テーブルのコンテンツを更新します。チャートフィールドがアクティブ化された場合は、これらのテーブルにレコードが追加されます。チャートフィールドを非アクティブ化した場合は、これらのテーブルから対応するデータが削除されます。チャートフィールド メタデータ プロパティは、PeopleCode 関数 SetDBFieldNotUsed() を使用して更新されます。このアクションは全ての設定の実行にのみ適用されます。
- 削除 - このステップは、元帳グループ チャートフィールド、チャートフィールド継承、および銀行チャートフィールド継承 アプリケーション テーブルからデータを削除します。チャートフィールドは、作成されるプロジェクトに含まれる全てのレコードおよびページから、初期化ステップの間に PeopleCode 関数 BulkDeleteField() を使用して削除されます。チャートフィールド メタデータ プロパティは、PeopleCode 関数 SetDBFieldNotUsed() を使用して非アクティブ化されます。一括操作の結果は BulkOps.Log というファイルにレポートされます。
- 追加 - このステップは、元帳グループ チャートフィールド、チャートフィールド継承、および銀行チャートフィールド継承 アプリケーション テーブルにデータを追加します。フィールドがまだ存在していない場合は、PeopleCode 関数の SetDBFieldCharDefn()、SetDBFieldAuxFlag、SetDBFieldFormatLength()、SetDBFieldLabel() を使用して新しいフィールドを作成します。フィールドは、作成されるプロジェクトに含まれる全てのレコードおよびページに、初期化ステップの間に PeopleCode 関数 BulkInsertField() および

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

SetRecFieldEditTable() を使用して追加されます。新しいフィールドがユニット内チャートフィールドである場合はさらに、チャートフィールド テンプレートに名前を入力したプロンプト テーブルを、関連チャートフィールドのテーブルセット レコード グループに配置します。PeopleSoft が内部処理目的で管理し、動的編集プロンプト テーブルの更新も行うチャートフィールド レコード リストに、プロンプト テーブルが追加されます。一括操作の結果は BulkOps.Log というファイルにレポートされます。

- ラベル変更 - このステップは、テンプレートで変更された基本言語と (該当する場合は) 外国語のラベルを更新します。PeopleCode 関数 SetDBFieldLabel() を使用します。このアクションは全ての設定の実行にのみ適用されます。

- サイズ変更 - このステップは、PeopleCode 関数 SetDBFieldLength() を使用してチャートフィールドのフィールド長を更新します。このアクションは全ての設定の実行にのみ適用されます。

- 順序変更 - このステップは、作成されるプロジェクトに含まれるページ上のチャートフィールドの順序と表示サイズを初期化ステップの間に変更します。グリッド内に含まれるチャートフィールドの順序変更と表示長の変更には、PeopleCode 関数 BulkModifyPageFieldOrder() を使用します。非グリッド編集ボックス内に表示されるチャートフィールドの表示長を変更する場合は、PeopleCode 関数 SetDBFieldFormatLength() も使用します。一括操作の結果は BulkOps.Log というファイルにレポートされます。

- ユニット内 - このステップは、ユニット内チャートフィールドに関連付けられているセットID レコードを、以前の関連チャートフィールドのレコード グループから新規関連チャートフィールドのレコード グループに移動します。

- 名称変更 - このステップは、PeopleCode 関数 RenameDBField() を使用してフィールドの名前を変更します。また、初期化ステップの間に PeopleCode 関数 SetPageFieldPageFieldName() を使用して、作成されるプロジェクトに含まれる全てのページ上のページ フィールド名を変更します。名称変更によって、古いフィールド名を参照している全てのメタデータと、レコード内でフィールド FIELDNAME を使用しているアプリケーション データが変更されます。一部のチャートフィールド名は、アプリケーション テーブルのフィールド FIELDNAME を使用しないレコードに保持されます。これらのアプリケーション テーブルのデータは、このステップの追加のプロセスで変更されます。

- 製品ログ - このステップは、製品ステータス ページで表示される、製品ログ ファイル内のステータスを更新します。

- SQL - このステップは、PeopleSoft ソフトウェア全体で使用され、ソフトウェアがチャートフィールド設定に動的に対応することを使用可能にする、共通 SQL オブジェクトを生成します。前述の AM SQR のスケジュールも行います。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第14章

ツリーの使用によるチャートフィールドの要約

ツリーを使用したチャートフィールド要約について

レポートの効率性と同様に、チャートフィールドの完全性を整理および管理するには、ツリーを使用することをお薦めします。ツリーを使用すると、勘定科目チャートの詳細値がどのように全体像またはレポート構成に適合するかを直感的かつ視覚的に表示できます。PeopleSoft ツリー マネージャを使用して、ツリー構造を詳細またはサマリにするかトップ ダウンで設定します。次に、チャートフィールド値をツリーのブランチに詳細として追加します。次の貸借対照表詳細ツリーの例では、BALSHEET ツリー ノードは ALLACCOUNTS ツリー ノードの子ノードで、(000000) - 全勘定科目は BALSHEET ツリー ノードに対する詳細値レポートです。ASSETS - [資産勘定科目] をクリックすると、資産勘定科目の詳細範囲が表示されます。レポートの要件により、各チャートフィールドに複数のツリーを作成できます。それぞれのツリーをレポートおよびプロセスの大部分で使用できるように、すべてのレポート要件でツリーを設定してください。プライマリ ツリーで指定レポートの要求と異なる値が分類される場合は、チャートフィールドのツリーを追加作成します。

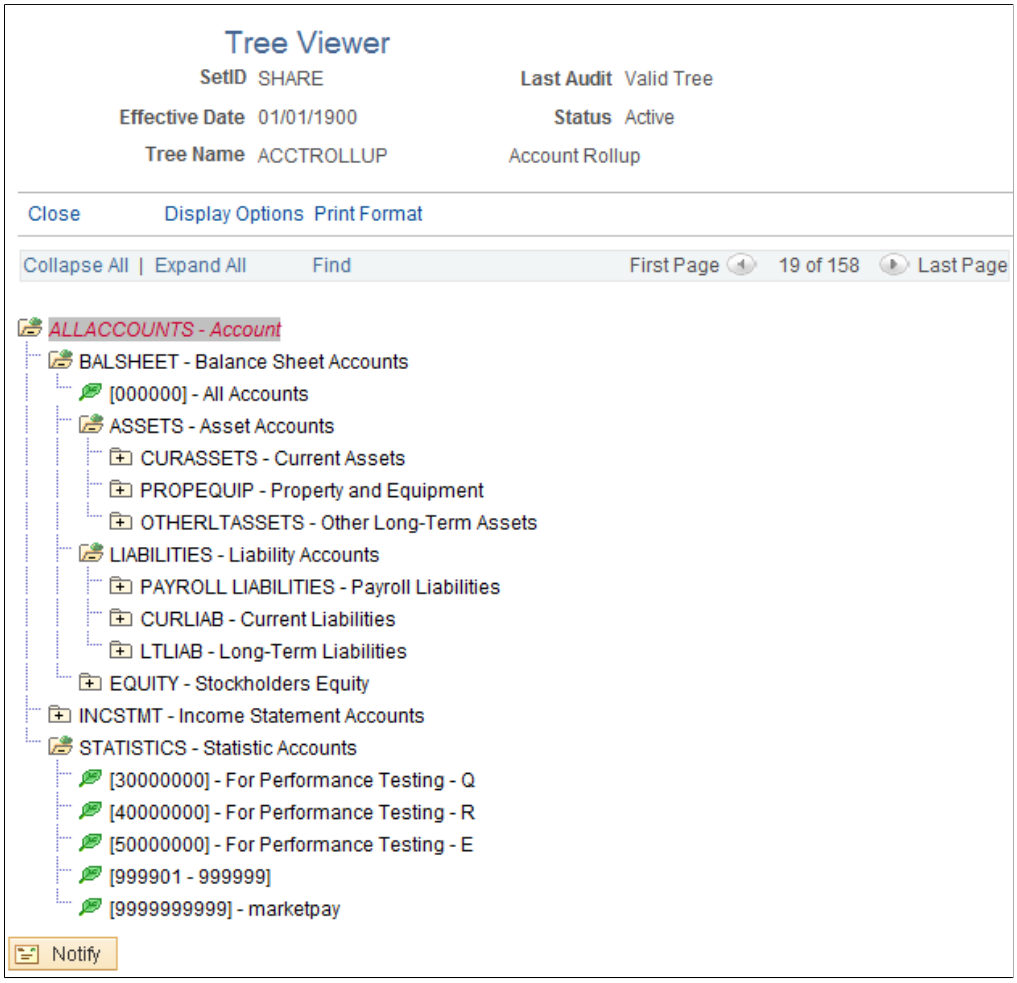
新規チャートフィールド値がコントロール テーブルに追加されると、ツリーにも追加されます。追加されない場合は、欠落値がツリーに追加されるまでツリーは無効になります。個々の新規値でツリーを頻繁に更新することをできるだけ避けるため、詳細値の範囲でツリーを作成することをお勧めします。財務レポートを作成するか、要約元帳、配賦、チャートフィールドの組合せ編集、または年度末締めなどのプロセスのルールを作成するには、適切なツリーを指定して、レベル、ノードまたはデータの使用元ブランチを示します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

次のイメージは、ACCOUNT チャートフィールドの ACCOUNT 構成を使用する ACCTROLLUP ツリーの一部を示しています。

画像: ツリー ビューア ページ - [勘定科目] ツリーの例

次の例では、ツリー ビューア ページ - [勘定科目] ツリーの例フィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



ツリーをコピーして、さまざまな他の用途に修正できます。PeopleSoft ツリー マネージャでツリーを修正すると、自動的に更新されたツリーにアクセスされます。

製品ドキュメントの『*PeopleTools: Tree Manager*』を参照してください。

関連リンク

ツリーの使用によるチャートフィールドの要約

前提条件

PeopleSoft ツリー マネージャを使用してツリーを作成する前に、次を実行します。

- 全チャートフィールドおよび使用されるチャートフィールド値を定義します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 組織構造を定義します。
- チャートフィールド要約レベルを定義します。
- レポート関連を定義します。

ツリーの作成と管理

次のトピックでは、PeopleSoft ツリーの作成で使用するステップをリストしています。

- PeopleSoft ツリー マネージャを使用します。
- ツリー構造を定義します。
- 新規ツリーを作成します。
- ツリー ノードを分岐します。
- ツリーをコピーします。
- PeopleSoft ツリー マネージャのチャートフィールドの管理
- ツリーを管理します。

これらのステップの詳細は、次の PeopleTools ドキュメントに記載されています。

『*PeopleTools: Tree Manager*』を参照してください。

関連リンク
ツリーの使用によるチャートフィールドの要約

ツリー単層化の使用

ツリーの単層化に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
OTBI ツリー フィールド ページ	OI_TFLT_FIELDS	各詳細ツリー フィールドの単層化されたテーブルを管理します。配布されたメタデータにより、プロジェクト ID を含む一般会計チャートフィールドの単層化されたツリー データがサポートされます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
ツリー単層化リクエスト ページ	OI_TFLT_REQ	[PS/FS ツリー単層化] プロセス (OI_TFLT) を実行すると、ツリー定義およびチャートフィールド値で発生する変更を定期的にピックアップするリクエストをスケジュールできます。

ツリー単層化について

PeopleSoft では、[ツリー単層化] 機能が用意されており、指定された PeopleSoft ツリーのツリー データの単層化 (および単層化されたツリー データの削除) に使用されます。[PS/FS ツリー単層化] プロセス (OI_TFLT) を実行すると、PS クエリーを使用して単層化ツリー データを含めたり、ツリー ノードやツリー レベルでデータをフィルタできます。

ツリー単層化は、次のタイプのツリーに対して使用できます。

- 厳密にレベルが適用されたツリー (レベルがノードの階層を決定)。
- 緩やかにレベルが適用されたツリー (ノードがツリー階層を決定)。
- レベルのないツリー (ノードがツリー階層を決定)。

注: PeopleSoft では、重複値を許可するツリー定義や、ノード値に基づいた動的値をサポートするツリー構造に対して、ツリー単層化機能をサポートしていません。

OTBI ツリー フィールド ページ

OTBI ツリー フィールド ページ (OI_TFLT_FIELDS) を使用して、各詳細ツリー フィールドの単層化されたテーブルを管理します。配布されたメタデータにより、プロジェクト ID を含む一般会計チャートフィールドの単層化されたツリー データがサポートされます。

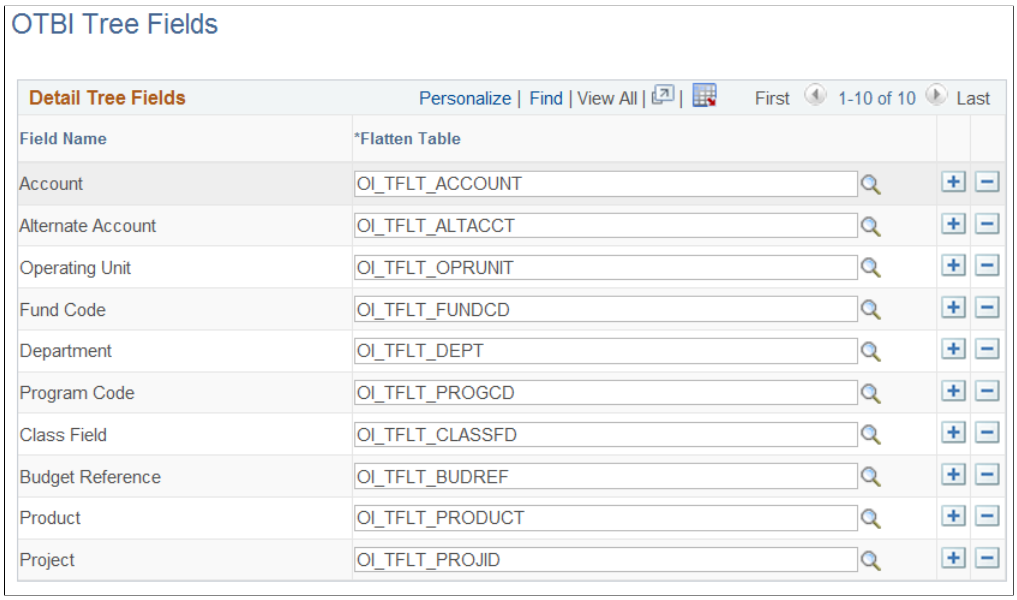
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [業務レポート], [ツリー単層化], [ツリー フィールド]

画像: OTBI ツリー フィールド ページ

次の例では、OTBI ツリー フィールド ページフィールドおよびコントロールを説明します。



各自の詳細ツリー フィールドと単層化テーブルを追加できます。[PS/FS ツリー単層化] プロセスでは、フィールド値の長さが 30 文字以下の詳細ツリー フィールドをサポートしています。

注: 単層化ツリー テーブルにデータがある場合、単層化ツリー テーブルの変更や行の削除はできません。

フィールド名

[ツリー単層化] テーブルの基になる詳細ツリー フィールドPeopleSoft では、チャートフィールドおよび [PS/FS ツリー単層化] プロセス (OI_TFLT) で使用されるテーブルがそれぞれ用意されています。このプロセスで使用する各自のフィールドと該当テーブルを追加できます。

単層化テーブル

PeopleSoft では、単層化されたツリー データの保存に使用される配布済チャートフィールドのレコードがそれぞれ用意されています。ユーザー定義チャートフィールドのツリー単層化プロセスで使用する各自のレコードを追加できます。配布されたチャートフィールドの単層化テーブルの変更はお勧めできません。

ツリー単層化リクエスト ページ

ツリー単層化リクエスト ページ (OI_TFLT_REQ) を使用して [PS/FS ツリー単層化] プロセス (OI_TFLT) を実行すると、ツリー定義およびチャートフィールド値で発生する変更を定期的にピックアップするリクエストをスケジュールできます。

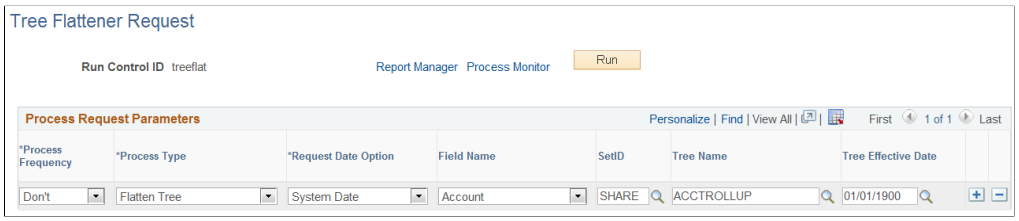
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [業務レポート], [ツリー単層化], [ツリー単層化リクエスト]

画像: ツリー単層化リクエスト ページ

次の例では、ツリー単層化リクエスト ページフィールドおよびコントロールを説明します。



プロセス タイプ

次の値の中から 1 つ選択します。

- *ツリーの単層化*: リクエスト データを単層化する場合に選択します。
- *値の削除*: 単層化ツリー テーブルから値をクリアする場合に選択します。

  プロセスでは、新しい単層化ツリー データを挿入する前に、古いツリー データが単層化ツリー テーブルから自動的に削除されるため、このオプションは、[ツリーの単層化] プロセス (プロセス タイプ = ツリーの単層化) の実行前は必要ありません。

  このオプションが選択された場合、表示されるのは [OTBI ソース インスタンス] フィールドのみです。

リクエスト日付オプション

有効日のツリー データの選択時に使用される日付オプションを選択します。

- *指定日*: 選択したツリーのユーザー定義日付を入力する場合に選択します。
- システム日付: 選択したツリーの有効日に最も近い日付を選択するために、システム日付を使用する場合に選択します。

このオプションは、[ツリー有効日] を指定する場合は使用されません。

フィールド名

対応するツリー データを単層化する際に使用する詳細ツリー フィールドを選択します。

セットID

ツリーのセットID を選択します (該当する場合)。セットID がキーとなる単層化ツリーにはセットID が必要です。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ビジネス ユニット	ビジネス ユニットを入力します。このフィールドは、ビジネス ユニットがキーとなるプロジェクト ツリーを選択するためにプロジェクト コスト管理がインストールされている場合は使用できます。セットIDまたはビジネス ユニットで管理されるツリーを指定できます。ツリー単層化プロセスでは、セットIDまたはセット コントロール値がキーとなるツリーがサポートされます。
ツリー名	[プロセス タイプ] フィールドで *[ツリーの単層化]* を選択した場合に必要なツリー名を選択します。
ツリー有効日	(オプション) ツリー有効日を入力します。
OTBI ソース インスタンス	[プロセス タイプ] フィールドで *[値の削除]* が選択された場合にツリー データを識別する単層化ツリー プロセスで使用される、固有の番号 (プロセス インスタンスとリクエスト連番) を入力します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第15章

ビジネス リクエストおよび承認の設定と使用

ビジネス リクエストおよび承認プロセスについて

このトピックでは、ビジネス リクエストおよび承認プロセスの概要と次の方法について説明します。

- ビジネス リクエストの設定
- ビジネス リクエストの承認フレームワークの設定
- チャートフィールド リクエストおよび承認の定義と使用
- ビジネス リクエスト承認プロセスの管理
- ビジネス リクエストの照会

ビジネス リクエストおよび承認は設定可能なワークフロー プロセスであり、セットID で制御されるフィールドおよび値 (チャートフィールドなど) の設定を依頼するときに使用します。フィールド値の追加や変更のリクエストを提出して、承認を受けることができます。最終承認が下りた時点で新しいフィールド値が保存され、変更が対応する基本テーブルにコミットされます。また、これらの値の設定と承認に対するオーディットトレイル機能も提供されます。

ビジネス リクエストおよび承認プロセスを設定して使用するための概略手順は次のとおりです。

1. ビジネス リクエスト機能を設定し、リクエストおよび承認プロセスで使用するフィールドを有効化します。
2. ビジネス理由や関連付けられているツリーなど、有効にするフィールドのフィールド情報を定義するためのビジネス リクエスト テンプレートを設定します。
3. フィールド値の新規作成または変更リクエストに対する組織の承認要件に従って、承認ワークフローを設定します。
4. チャートフィールド リクエストおよび承認を定義および使用します。
5. チャートフィールド リクエストを承認および管理します。
6. ビジネス リクエストの照会を行います。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ビジネス リクエストおよび承認の設定と使用

ビジネス リクエストの設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
ビジネス リクエスト設定ページ	FLD_REQ_SETUP	リクエスト承認プロセスで使用する各フィールドを有効化します。
コア テーブル フィールド ページ	FLD_REQ_S_FLDS	ビジネス リクエスト設定ページ上の各フィールドのコア テーブル情報を含めます。
ビジネス リクエスト テンプレート ページ	FLD_REQ_TMPLT	プロセスを設定するのに必要なビジネス理由、ツリーおよび質問情報を定義します。

ビジネス リクエストおよび承認プロセスについて

ビジネス リクエストおよび承認は設定可能なワークフロー プロセスであり、セットID で制御されるフィールドおよび値 (チャートフィールドなど) の設定を依頼するときに使用します。フィールド値の追加や変更のリクエストを提出して、承認を受けることができます。最終承認が下りた時点で新しいフィールド値が保存され、変更が対応する基本テーブルにコミットされます。また、これらの値の設定と承認に対するオーディットトレイル機能も提供されます。

ビジネス リクエストおよび承認機能を設定して使用するための概略手順は次のとおりです。

1. ビジネス リクエスト機能を設定し、リクエスト承認プロセスで使用するフィールドを有効化します。
2. ビジネス理由やツリーなど、有効にするフィールドのフィールド情報を定義するためのビジネス リクエスト テンプレートを設定します。
3. 承認ワークフローを設定します。
4. チャートフィールド リクエストおよび承認を定義および使用します。
5. ビジネス リクエストの照会を行います。

ビジネス リクエスト設定ページ

ビジネス リクエスト ページ (FLD_REQ_SETUP) を使用して、リクエスト承認プロセスで使用する各フィールドを有効化します。これがビジネス リクエストおよび承認機能の開始ポイントです。

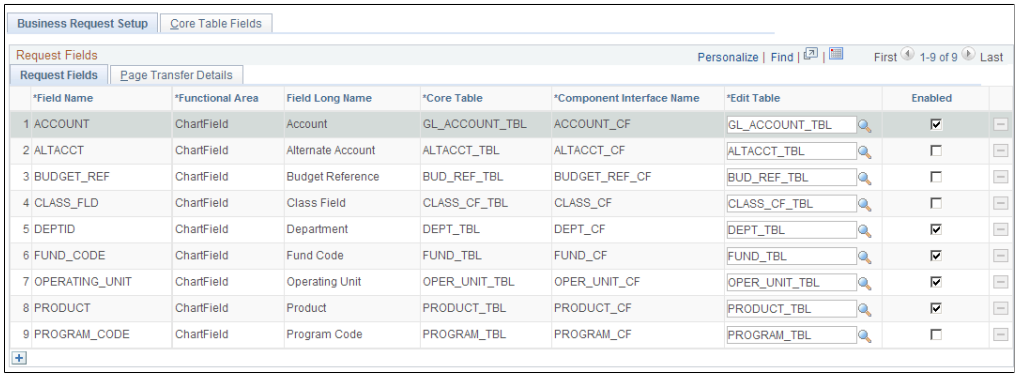
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ビジネス リクエスト設定], [ビジネス リクエスト設定], [ビジネス リクエスト設定]

画像: ビジネス リクエスト設定 - リクエスト フィールド タブ

次の例では、ビジネス リクエスト設定 - リクエスト フィールド タブのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



	*Field Name	*Functional Area	Field Long Name	*Core Table	*Component Interface Name	*Edit Table	Enabled
1	ACCOUNT	ChartField	Account	GL_ACCOUNT_TBL	ACCOUNT_CF	GL_ACCOUNT_TBL	☑
2	ALTACCT	ChartField	Alternate Account	ALTACCT_TBL	ALTACCT_CF	ALTACCT_TBL	☐
3	BUDGET_REF	ChartField	Budget Reference	BUD_REF_TBL	BUDGET_REF_CF	BUD_REF_TBL	☐
4	CLASS_FLD	ChartField	Class Field	CLASS_CF_TBL	CLASS_CF	CLASS_CF_TBL	☐
5	DEPTID	ChartField	Department	DEPT_TBL	DEPT_CF	DEPT_TBL	☑
6	FUND_CODE	ChartField	Fund Code	FUND_TBL	FUND_CF	FUND_TBL	☑
7	OPERATING_UNIT	ChartField	Operating Unit	OPER_UNIT_TBL	OPER_UNIT_CF	OPER_UNIT_TBL	☑
8	PRODUCT	ChartField	Product	PRODUCT_TBL	PRODUCT_CF	PRODUCT_TBL	☑
9	PROGRAM_CODE	ChartField	Program Code	PROGRAM_TBL	PROGRAM_CF	PROGRAM_TBL	☐

リクエスト フィールド タブ

リクエスト フィールド ページには、標準のチャートフィールドが 13 個含まれており、このページでは行を削除できません。[勘定科目]、[部門]、[資金コード]、[業務ユニット]、[製品] は使用頻度が高いため、標準で有効の状態になっています。

注: プロジェクト コスト管理がインストールされている場合、[プロジェクト ID] は表示されません。また、[チャートフィールド 1]、[チャートフィールド 2] および [チャートフィールド 3] がチャートフィールド設定でアクティブ化されていない場合、これらの行も表示されません。

(行 <番号> の下に行を追加

グリッドの下部にあるボタンは、フィールドの追加やカスタマイズが必要になったときに使用します。このページへの追加は、この機能について技術的な知識を持つユーザーが行うようにしてください。

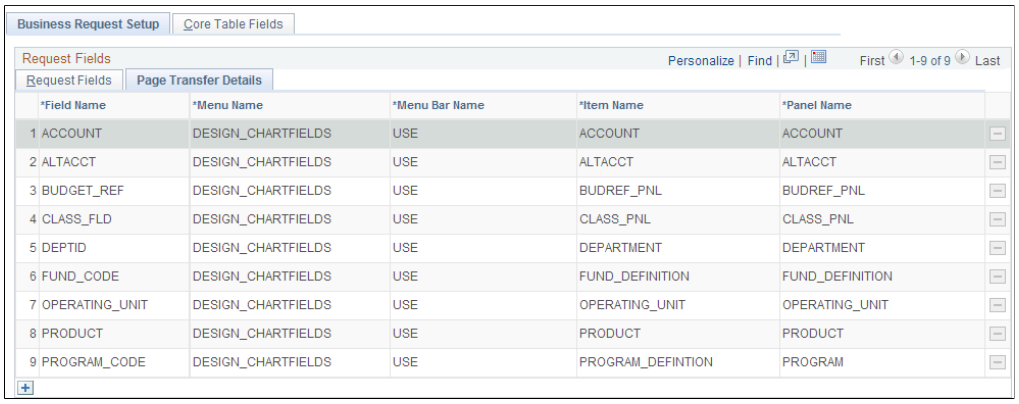
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ移動詳細タブ

各フィールドの入力ページのナビゲーション詳細を表示するには、ビジネス リクエスト設定ページのページ移動詳細タブをクリックします。これはチャートフィールド リクエスト ページからそのフィールドの入力ページに移動するときに使用されます。

画像: ビジネス リクエスト設定 - ページ移動詳細タブ

次の例では、ビジネス リクエスト設定 - ページ移動詳細タブのフィールドおよびコントロールを説明します。



	*Field Name	*Menu Name	*Menu Bar Name	*Item Name	*Panel Name
1	ACCOUNT	DESIGN_CHARTFIELDS	USE	ACCOUNT	ACCOUNT
2	ALTACCT	DESIGN_CHARTFIELDS	USE	ALTACCT	ALTACCT
3	BUDGET_REF	DESIGN_CHARTFIELDS	USE	BUDREF_PNL	BUDREF_PNL
4	CLASS_FLD	DESIGN_CHARTFIELDS	USE	CLASS_PNL	CLASS_PNL
5	DEPTID	DESIGN_CHARTFIELDS	USE	DEPARTMENT	DEPARTMENT
6	FUND_CODE	DESIGN_CHARTFIELDS	USE	FUND_DEFINITION	FUND_DEFINITION
7	OPERATING_UNIT	DESIGN_CHARTFIELDS	USE	OPERATING_UNIT	OPERATING_UNIT
8	PRODUCT	DESIGN_CHARTFIELDS	USE	PRODUCT	PRODUCT
9	PROGRAM_CODE	DESIGN_CHARTFIELDS	USE	PROGRAM_DEFINTION	PROGRAM

コア テーブル フィールド ページ

コア テーブル フィールド ページ (FLD_REQ_S_FLDS) を使用して、ビジネス リクエスト設定ページ上の各フィールドのコア テーブル情報を入力します。

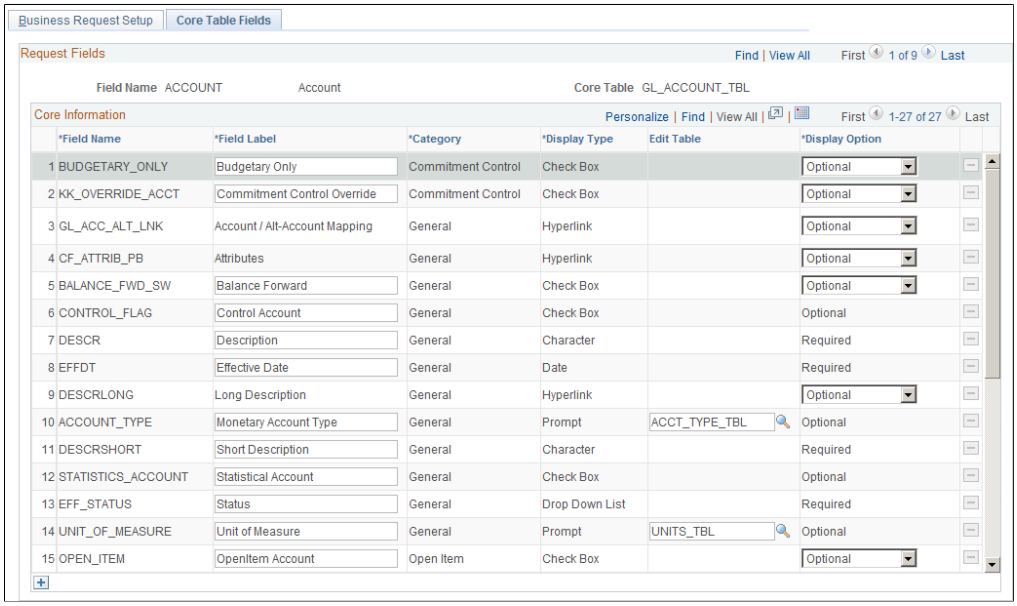
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ビジネス リクエスト設定], [ビジネス リクエスト設定], [コア テーブル フィールド]

画像: コア テーブル フィールド ページ

次の例では、コア テーブル フィールド ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このページには、ビジネス リクエスト設定ページ上の各フィールドのコア テーブル フィールド情報が含まれています。標準のチャートフィールドの場合、対応する入力ページで現在使用可能な状態であるコア テーブル フィールドは、このページから削除できません。

フィールド ラベル

デフォルトのフィールド ラベルは標準の状態で表示されます。全てのフィールドのフィールド ラベルを変更できます (表示タイプがハイパーリンクであるラベルを除く)。英語版ではこれらの標準のフィールド ラベルを変更しないことがベスト プラクティスとされています。標準のフィールド ラベルは標準のチャートフィールド入力ページに実装されているものと一致しているためです。英語以外の言語実装では、その言語のフィールド ラベルをここに入力して、チャートフィールド リクエスト ページに表示されるようにする必要があります。

編集テーブル

表示タイプが [プロンプト] のフィールド名の検証に使用する編集レコードを入力します。

表示オプション

基本テーブルでコア テーブル フィールドが必須になっており、レコード定義でデフォルト値が定義されていない場合、このページで [表示オプション] は *[必須]* に設定され、フィールドは無効の状態になります。その他のフィールドは全て標準で [オプション] です。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

勘定科目テーブルと代替勘定科目テーブルのフィールドで、[オプション] に設定されているのに無効な状態になっているフィールドがあります。これらのフィールドは関係が複雑なため、チャートフィールド リクエスト ページで検証を処理する必要があります。

コア テーブル フィールドの [表示オプション] がビジネス リクエスト設定ページで無効になっていない場合、ビジネス リクエスト テンプレート ページで上書きが可能です。これはセットID で制御されます。

ビジネス リクエスト テンプレート ページ

ビジネス リクエスト テンプレート ページ (FLD_REQ_TMPLT) を使用して、ビジネス リクエストを作成する各フィールドのテンプレートを作成または更新します。このビジネス リクエストとは、新しい値または既存の値の更新について承認を受けるためのビジネス リクエストです。特定のフィールドのテンプレートを別のセットID にコピーすることもできます。

ビジネス リクエスト テンプレート ページはセットID で制御されるため、新しいテンプレートを作成するときにビジネス リクエスト設定 – コア テーブル フィールド ページからコア情報がコピーされるだけでなく、ビジネス理由やツリー、質問などプロセスの設定に必要な情報も挿入されます。

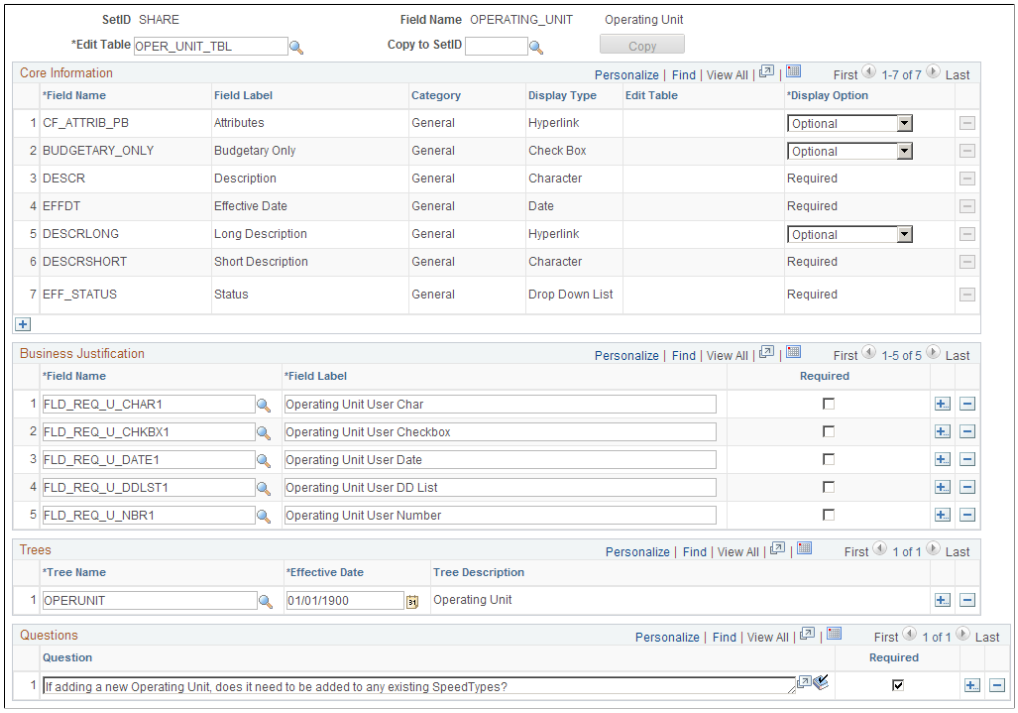
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ビジネス リクエスト設定], [ビジネス リクエスト テンプレート], [ビジネス リクエスト テンプレート]

画像: ビジネス リクエスト テンプレート ページ

次の例では、ビジネス リクエスト テンプレート ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



編集テーブル [フィールド名] の検証に使用する編集レコードを入力します。デフォルトでこのフィールドには、そのフィールドの基本テーブルが入力されています。

コピー先セットID このフィールドは新しいビジネス リクエスト テンプレートを保存した後にのみ表示されます。特定のフィールドの既存テンプレートのコピー先のセットID を選択すると、指定した新しいセットIDで新しいテンプレートが作成されます。

コピー [コピー先セットID] フィールドのセットID を選択し、フィールドから移動すると [コピー] ボタンが有効になります。[コピー] ボタンをクリックして、新しいセットID でフィールドに新しいテンプレートを作成します。

注: ツリー情報は新しいテンプレートにコピーされません。ツリーはセットID で制御され、現在のセットID のツリーが新しいセットID で有効であるとは限らないためです。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

コア情報

表示オプション

表示オプションの値は次のとおりです。

- *表示しない* - フィールドはチャートフィールド リクエスト ページに表示されません。
- *オプション* - フィールドはチャートフィールド リクエスト ページに表示されますが、値は必須ではありません。
- *必須* - フィールドはチャートフィールド リクエスト ページに表示され、値は必須です。

ビジネス理由

[ビジネス理由] グリッドでは、次の標準フィールドを選択できます。これらのフィールド ラベルをここで入力する必要があります。入力すると、チャートフィールド リクエスト ページに表示されます。アプリケーション デザイナを使用してさらにフィールドを追加することもできますが、次に示す命名規則、フィールド タイプ、長さに準拠している必要があります。

表示タイプ	*フィールド名のプレフィックス*	*標準の数値*	*フィールド タイプと長さ*
文字	FLD_REQ_U_CHAR	1、2、3、4	文字 254
チェック ボックス	FLD_REQ_U_CHKBX	1、2、3、4	文字 1
日付	FLD_REQ_U_DATE	1、2、3、4	日付 10
ドロップダウン リスト	FLD_REQ_U_DDLST	1、2、3、4	文字 4
数値	FLD_REQ_U_NBR	1、2、3、4	符号付き数値 23.3

注: [ドロップダウン リスト] フィールドを選択できるようにするには、対応するトランスレート値をアプリケーション デザイナで最初に定義しておく必要があります。そうしなかった場合、これらのフィールドは選択できません。

詳細については、*『PeopleTools: PeopleSoft Application Designer Developer's Guide』*を参照してください。

注: ビジネス リクエスト設定ページに加えた変更は、既に存在しているテンプレートには反映されません。必要な場合は、手動でテンプレートに変更を適用してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ビジネス リクエストの承認フレームワークの設定

ビジネス リクエストの承認フレームワークの設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
トランザクション登録ページ	EOAW_TXN	ビジネス リクエスト承認トランザクションを登録します。 「フィールド承認トランザクションの登録と設定」を参照してください。
トランザクション設定ページ	EOAW_TXN_NOTIFY	ビジネス リクエスト承認トランザクションを設定します。 「フィールド承認トランザクションの登録と設定」を参照してください。
汎用テンプレート定義ページ	WL_TEMPLATE_GEN	ビジネス リクエストおよび承認の通知テンプレートを使用してフィールド値を作成または変更します。 「フィールド承認トランザクションの登録と設定」を参照してください。
ロール - メンバー ページ	ROLE_MEMBER	承認フレームワーク内の [ユーザー リスト定義] からアクセスされる、特定ロールの承認者となるユーザーを一覧します。 「承認フレームワークの承認ロールおよびユーザー リストの定義」を参照してください。
ユーザー リスト定義ページ	EOAW_USER_LIST	AF 承認プロセスで使用する承認ユーザー リストを定義します。
プロセス定義の設定ページ	EOAW_PRCS_MAIN	ビジネス リクエスト承認定義プロセスのステージ、パス、ステップを定義します。
条件定義ページ	EOAW_CRITERIA	ビジネス リクエスト承認プロセスで使用するフィールドおよび金額条件を定義します。
承認パス定義ページ	EOAW_PATH_SEC	時間に関連するエスカレーション オプションや割り当て変更など、ビジネス リクエスト承認パスの詳細を定義します。
承認ステップ定義ページ	EOAW_STEP_SEC	承認者や承認者要件など、ビジネス リクエストの承認ステップの詳細を定義します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ビジネス リクエストの承認フレームワークの設定について

ビジネス リクエストの承認フレームワークを設定するには、次を実行します。

- フィールド承認トランザクションの登録と設定を完了します。
- 通知テンプレート定義を作成および変更します。
- 承認フレームワークの承認ロールとユーザー リストを定義します。
- 承認プロセス定義 (ルール) を設定します。

関連リンク

Understanding Configurable WorkflowPeopleSoft General Ledger

フィールド承認トランザクションの登録と設定

トランザクション登録 (EOAW_TXN) およびトランザクション設定 (EOAW_TXN_CONFIG) コンポーネントを使用して、ビジネス リクエスト設定ページで有効化したフィールドの、リクエスト承認プロセスを開始します。

トランザクション登録ページ (EOAW_TXN) を使用して、ビジネス リクエスト承認トランザクションを登録します。

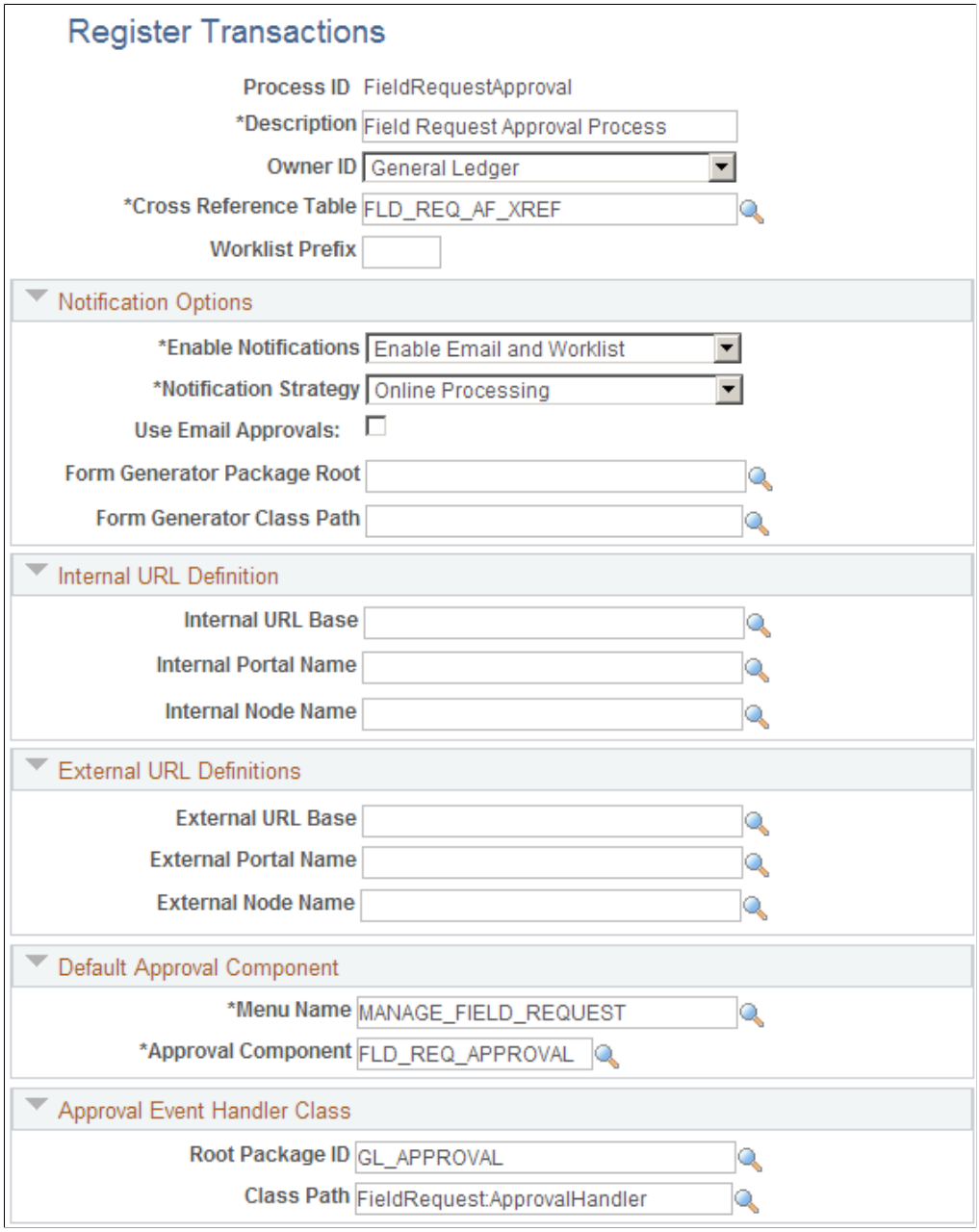
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[エンタープライズ コンポーネント], [承認], [承認], [トランザクション レジストリ], [トランザクション登録]FieldRequestApproval 値を選択します。

画像: トランザクション登録ページ - FieldRequestApproval 値 (1/2)

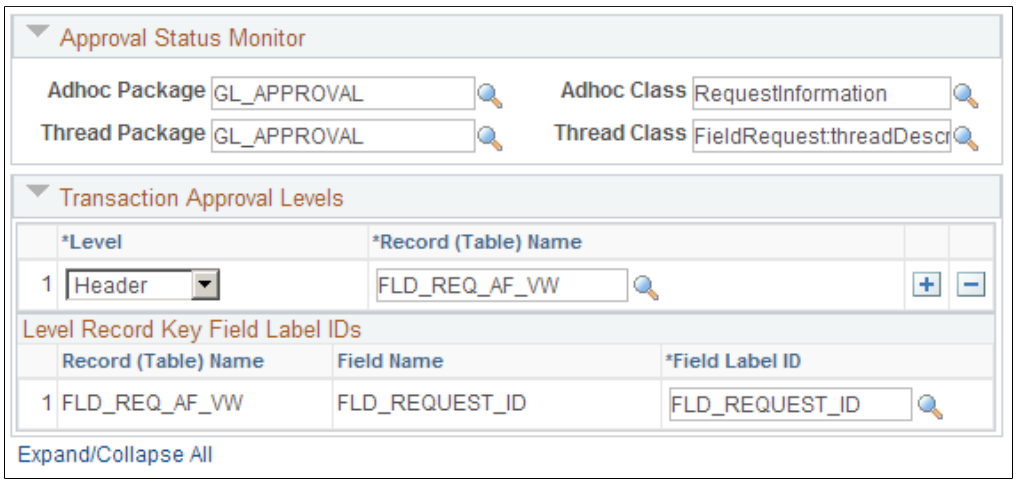
次の例では、トランザクション登録ページ - FieldRequestApproval 値 (1/2) のフィールドおよびコントロールを説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

画像: トランザクション登録ページ - FieldRequestApproval 値 (2/2)

次の例では、トランザクション登録ページ - FieldRequestApproval 値 (2/2) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



PeopleSoft には、承認用のビジネス リクエスト トランザクションに使用する FieldRequestApproval プロセス ID が標準で用意されています。この例に表示されている標準の値は、ビジネス リクエスト機能で承認フレームワークを使用するときに使用することを主な目的としています。

詳細については、PeopleSoft エンタープライズ コンポーネントのドキュメント: 承認フレームワーク、「承認トランザクション レジストリの定義」、「トランザクション レジストリの設定」を参照してください。

トランザクション設定ページ (EOAW_TXN_NOTIFY) を使用して、承認リクエストをルーティングし、最終の承認または却下を処理します。

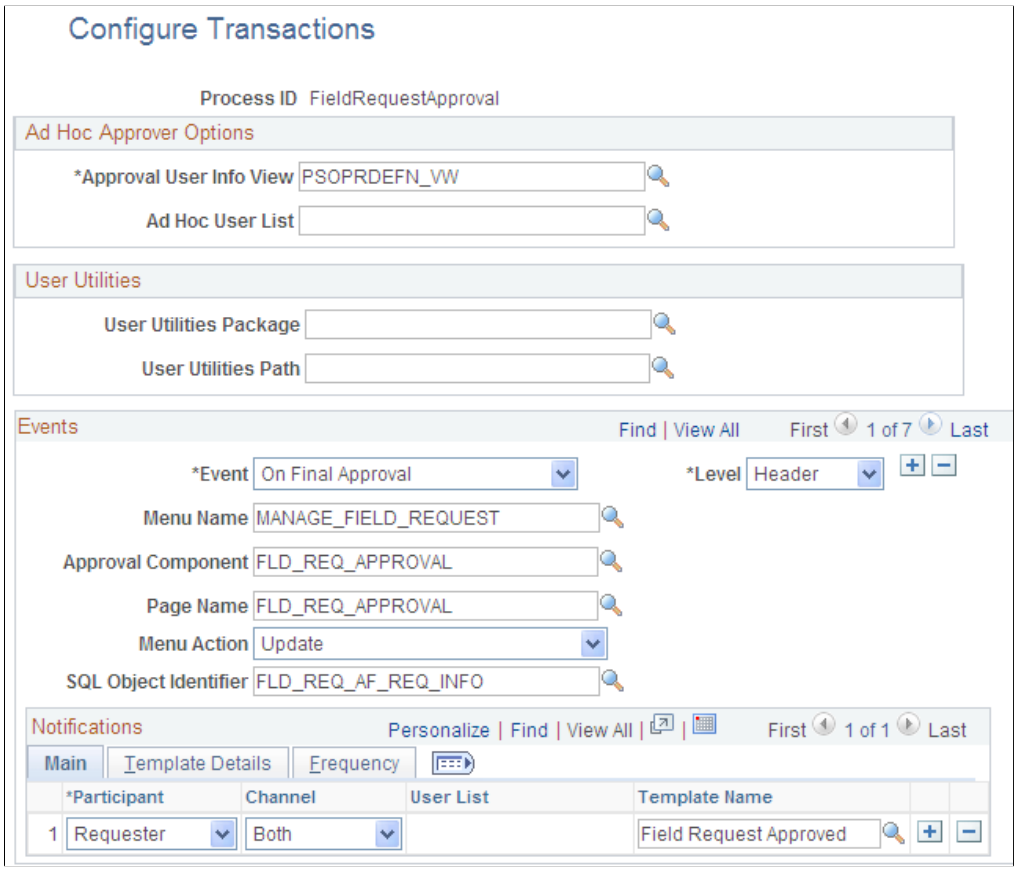
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[エンタープライズ コンポーネント], [承認], [承認], [トランザクション設定], [トランザクション設定]

画像: トランザクション設定ページ

次の例では、トランザクション設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



PeopleSoft には、ビジネス リクエスト承認トランザクションで使用する FieldRequestApproval プロセス ID 用に、次のイベントが用意されています。

[承認へ転送]、*[最終承認時]*、*[最終却下時]*、*[差戻し]*、*[保留 ステップ]*、*[割当変更時]*、*[終了時]*

詳細については、*承認フレームワーク*、*「承認トランザクション レジストリの定義」*、*「承認トランザクションの設定」*、*「Creating and Modifying Notification Template Definitions」*を参照してください。

汎用テンプレート定義コンポーネント (WL_TEMPLATE_GEN) の標準の通知テンプレートを使用して、リクエストまたは承認ワークフローでフィールド値の作成または変更について通知します。

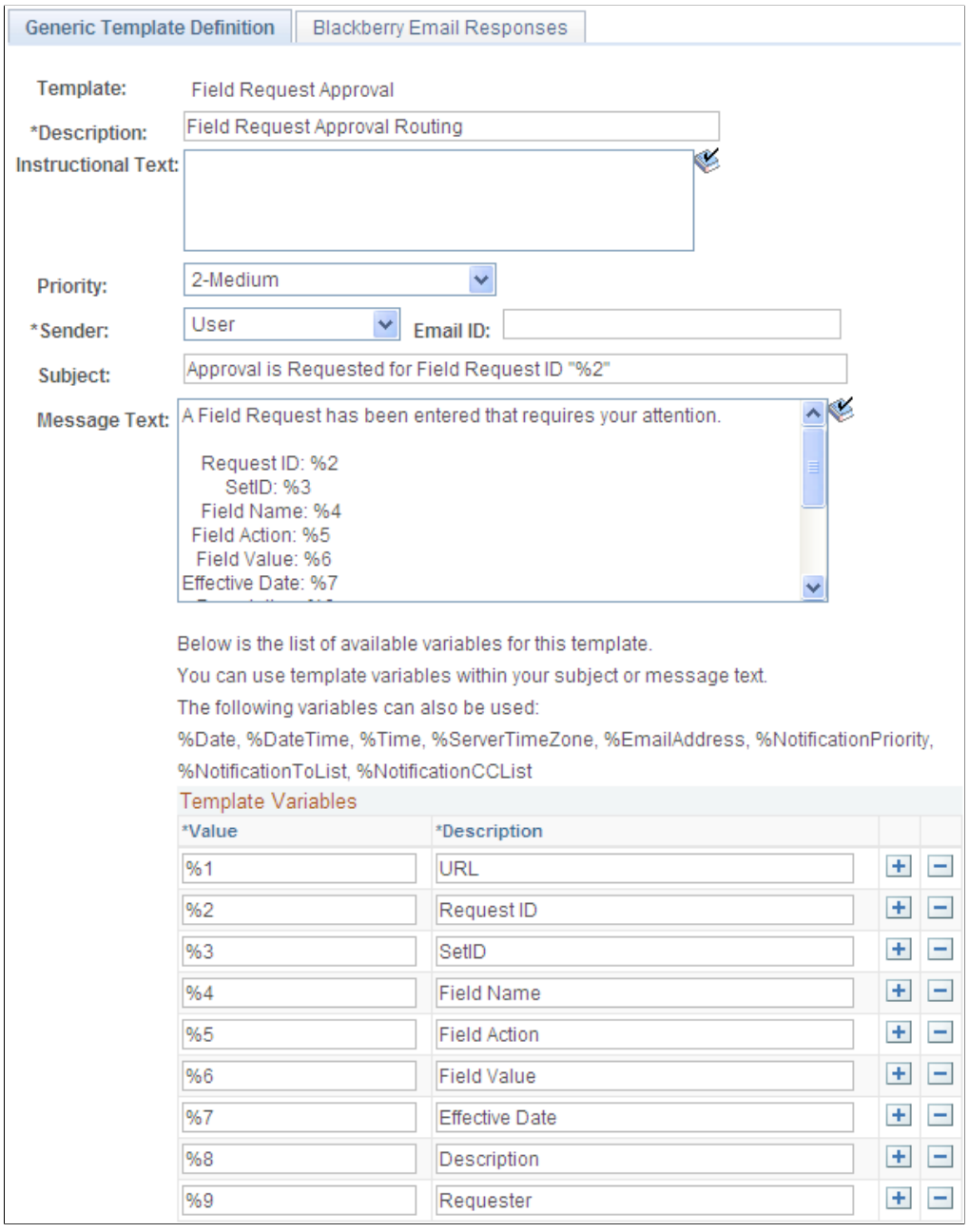
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[PeopleTools], [ワークフロー], [通知], [汎用テンプレート], [汎用テンプレート定義]

画像: 汎用テンプレート定義ページ

次の例では、汎用テンプレート定義ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



PeopleSoft には次の電子メール通知用の汎用テンプレート定義が用意されています。

- フィールド リクエスト承認
- 承認されたフィールド リクエスト
- 却下されたフィールド リクエスト

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 差し戻されたフィールド リクエスト
- 更新されたフィールド リクエスト
- 保留中のフィールド リクエスト

これらのテンプレートには、各アクションで送信する電子メール通知の構造が含まれています。これらのテンプレートはそのまま使用することも、ニーズに合わせてカスタマイズしてから使用することもできます。

画像: 次は、フィールド リクエスト承認のサンプルの電子メールを示しています。

次の例では、フィールド リクエスト承認のサンプル電子メールのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



承認フレームワークの承認ロールおよびユーザー リストの定義

PeopleSoft には、ビジネス リクエスト承認プロセスの特定の用途で使用できるサンプルのフィールド リクエスト承認者というロール名が用意されています。ロールを表示するには、ロール コンポーネントにアクセスします。

ナビゲーション

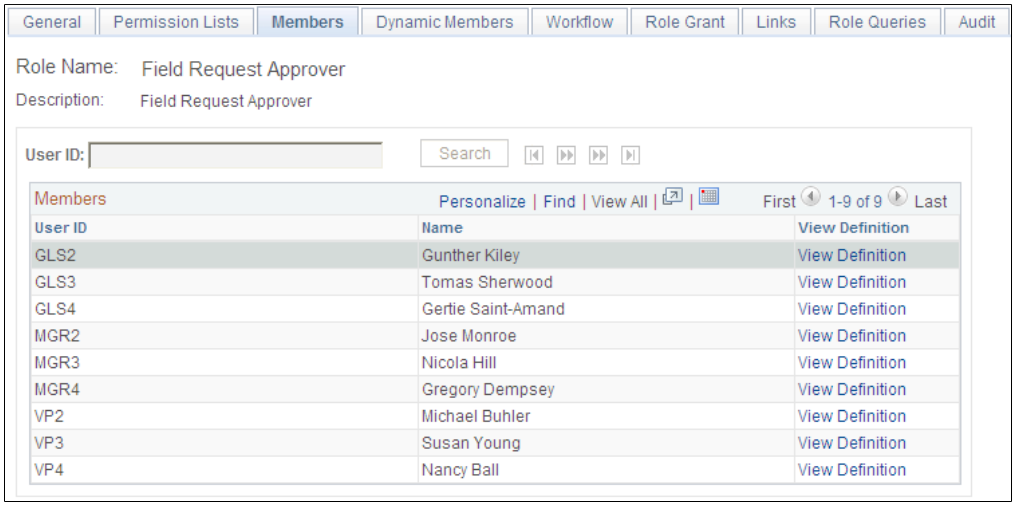
[PeopleTools], [セキュリティ], [権限 / ロール], [ロール]

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

次は、このコンポーネントのメンバー ページで、このサンプルのロール名に割り当てられているユーザーが表示されています。独自の承認ロール名を作成するか、または、これを使用してフィールド リクエスト承認者を自組織の有効な承認者に変更します。

画像: ロール コンポーネント - メンバー タブ

次の例では、ロール コンポーネント - メンバー タブのフィールドおよびコントロールを説明します。



詳細については、『*PeopleTools: Security Administration*』を参照してください。

ユーザー リスト定義ページ

ユーザー リスト定義ページ (EOAW_USER_LIST) を使用して、承認ユーザー リストを定義します。

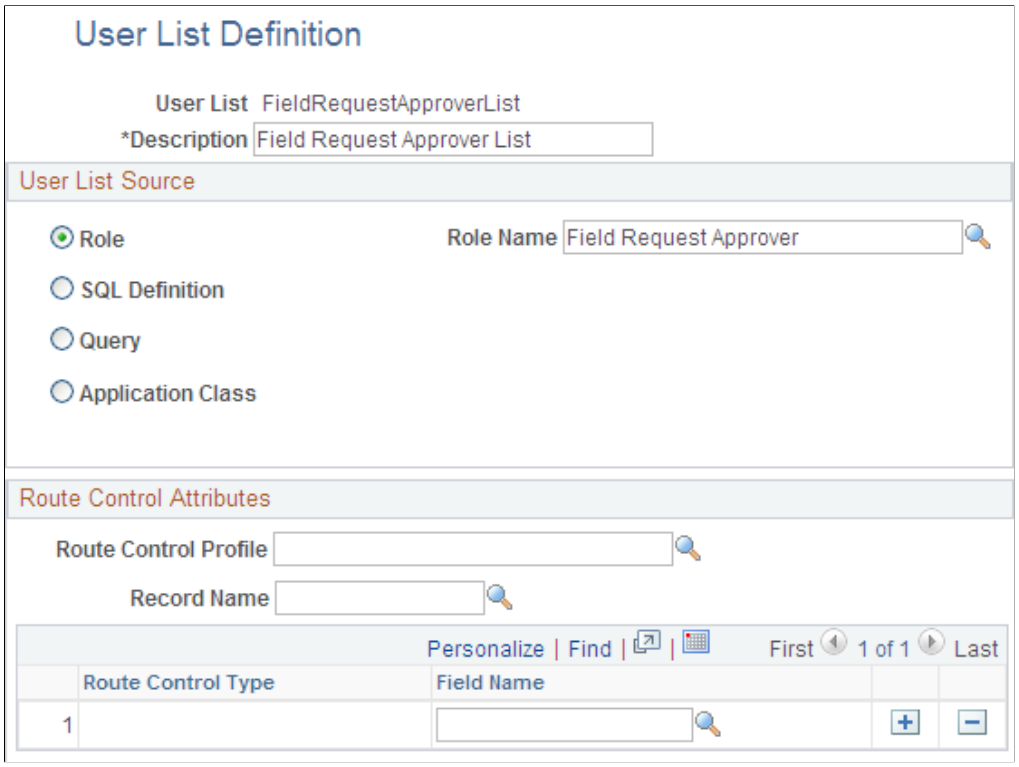
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[エンタープライズ コンポーネント], [承認], [承認], [ユーザー リスト設定]

画像: ユーザー リスト定義ページ - FieldRequestApproverList (ユーザー リスト値)

次の例では、ユーザー リスト定義ページ – FieldRequestApproverList (ユーザー リスト値) のフィールドおよびコントロールを説明します。



PeopleSoft には、ビジネス リクエスト承認プロセスで使用できるサンプルの FieldRequestApproverList ユーザー リスト定義値が用意されています。これは付属するサンプルのロール名であるフィールド リクエスト承認者を指し示しています。

詳細については、PeopleSoft エンタープライズ コンポーネントのドキュメント: 承認フレームワーク、「承認フレームワークの通知テンプレートおよびユーザーの定義」、「承認フレームワークのユーザーの定義」、「承認プロセス定義の設定 (ルール)」を参照してください。

承認プロセス定義の設定

承認プロセス定義を設定するには、承認プロセス設定コンポーネント (EOAW_PRCS) を使用します。

このセクションでは、次の方法を説明する標準の設定の例を示しています。

- 承認プロセスを定義します。
- 承認条件を定義します。
- 承認プロセスのパスを定義します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 承認プロセスのステップを定義します。

プロセス定義の設定ページ

プロセス定義の設定 ページ (EOAW_PRCS_MAIN) を使用して、ビジネス リクエスト承認定義プロセスのステージ、パス、ステップを定義します。

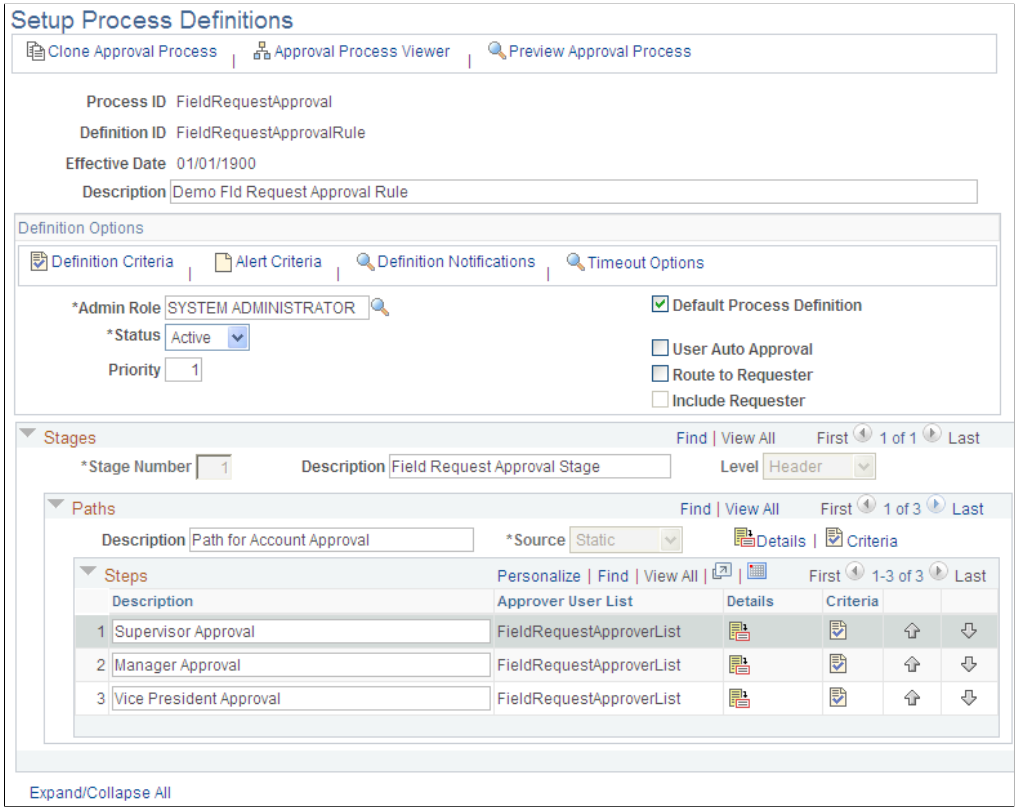
PeopleSoft には、ビジネス リクエスト承認プロセスの承認プロセス ルールを定義する FieldRequestApprovalRule 定義 ID が用意されています。この定義 ID を変更するか、独自の定義 ID を作成できます。

ナビゲーション

[エンタープライズ コンポーネント], [承認], [承認], [承認プロセス設定], [プロセス定義の設定]

画像: プロセス定義の設定ページ

次の例では、プロセス定義の設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



フィールド定義およびプロセス定義の設定ページの詳細については、PeopleSoft エンタープライズ コンポーネントのドキュメント: 承認フレームワーク、「承認フレームワーク プロセス定義の設定」を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

条件定義ページ

条件定義ページ (EOAW_CRITERIA) を使用して、ビジネス リクエスト承認プロセスで使用するフィールドおよび金額条件を定義します。

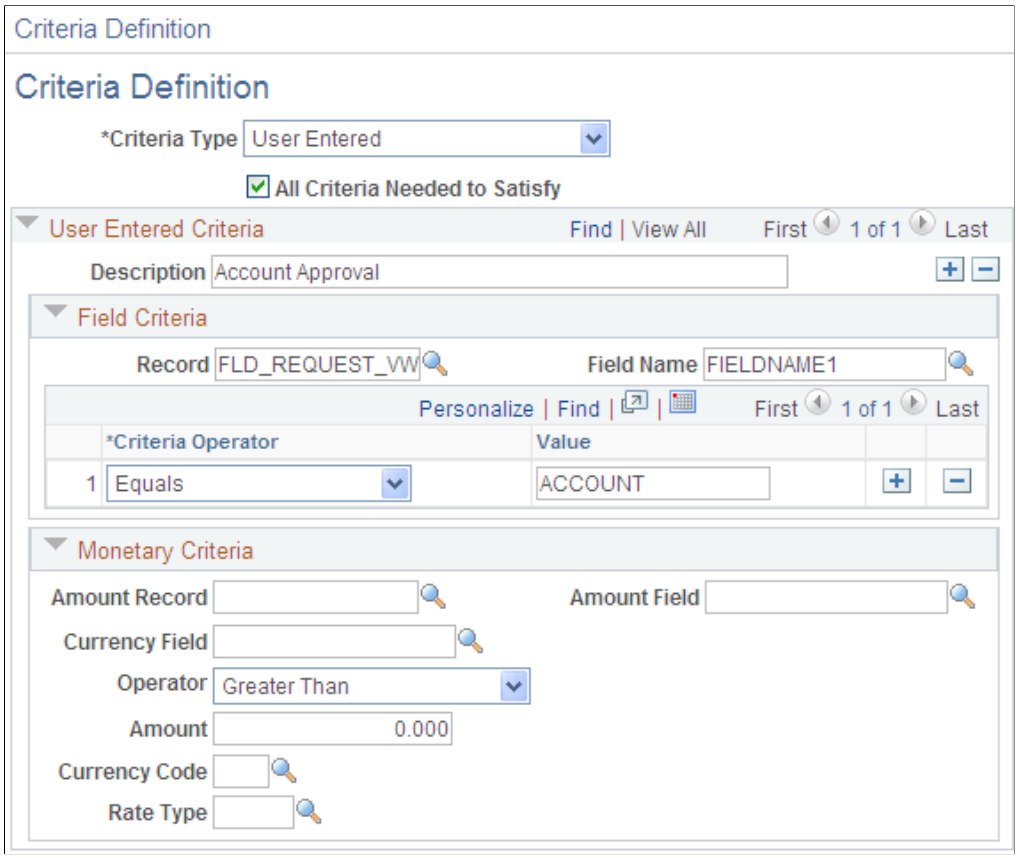
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[エンタープライズ コンポーネント], [承認], [承認], [承認プロセス設定], [プロセス定義の設定][定義条件] リンクをクリックします。

画像: 条件定義 - 勘定科目の承認ページ

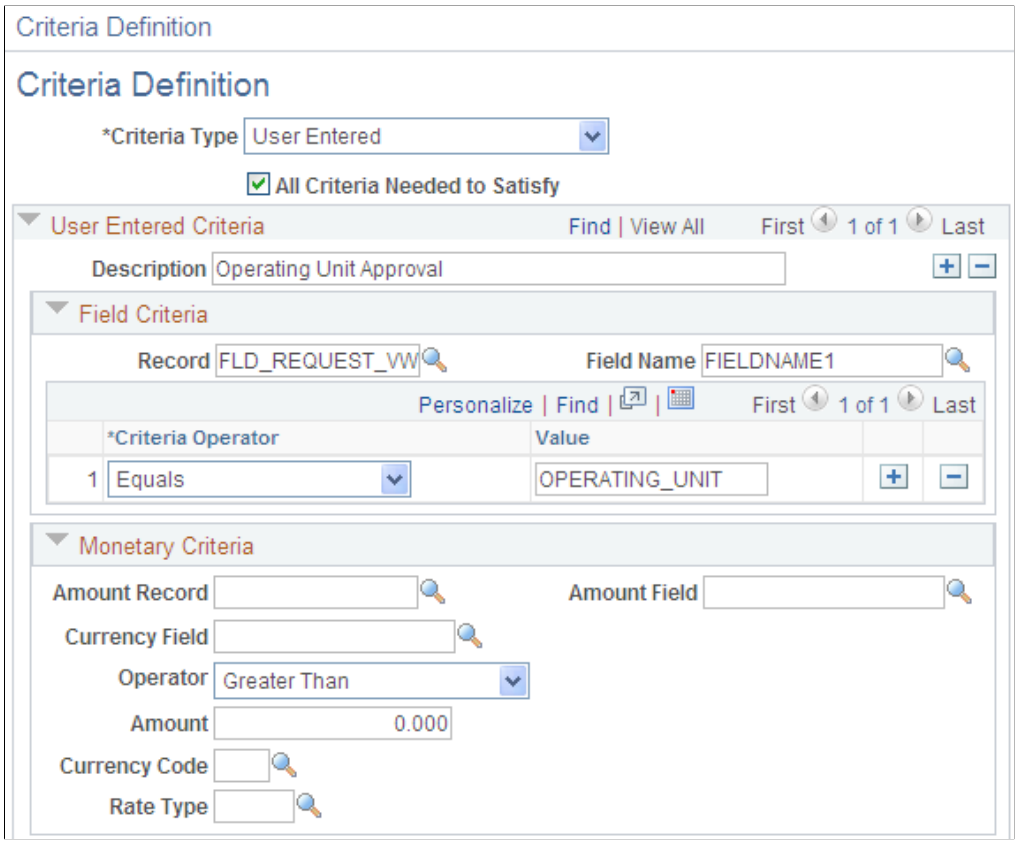
次の例では、条件定義 - 勘定科目の承認ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

画像: 条件定義 - 業務ユニットの承認ページ

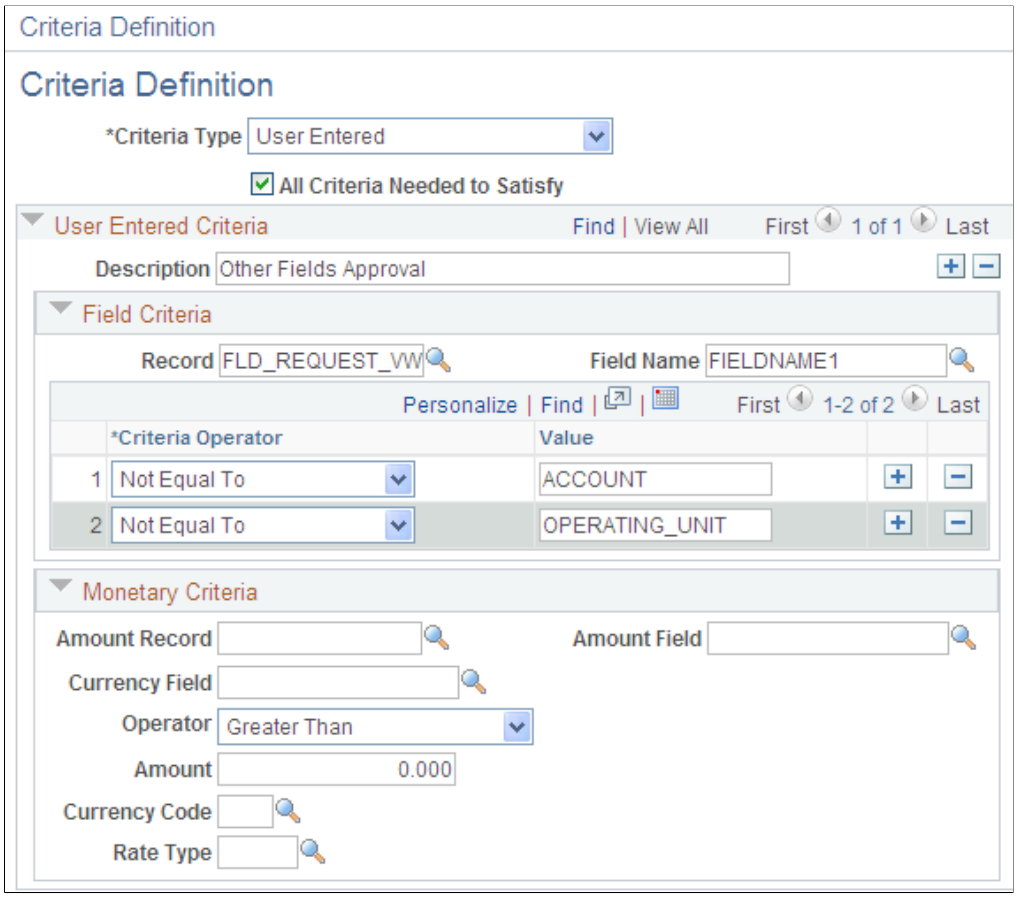
次の例では、条件定義 - 業務ユニットの承認ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

画像: 条件定義 - その他のフィールドの承認ページ

次の例では、条件定義 - その他のフィールドの承認ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



承認パス定義ページ

承認パス定義ページ (EOAW_PATH_SEC) を使用して、時間に関連するエスカレーション オプションや割り当て変更など、ビジネス リクエスト承認パスの詳細を定義します。

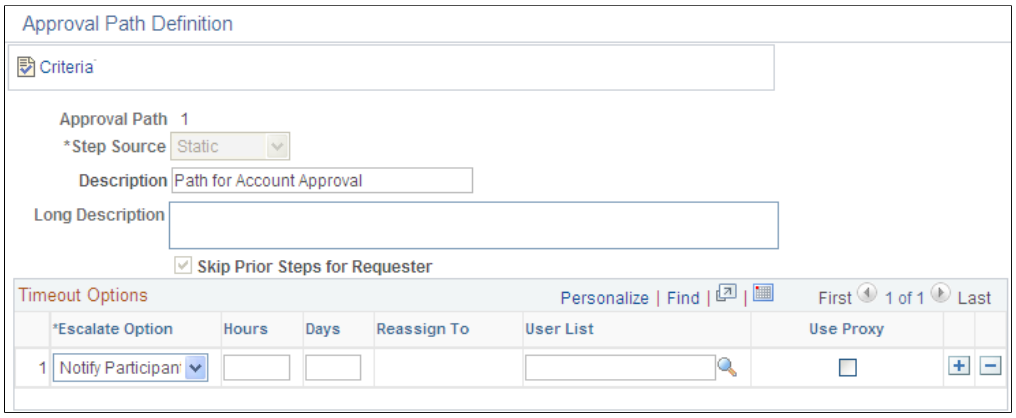
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[エンタープライズ コンポーネント], [承認], [承認], [承認プロセス設定]。プロセス定義の設定ページの [パス] グループ ボックスで、[詳細] リンクをクリックします。

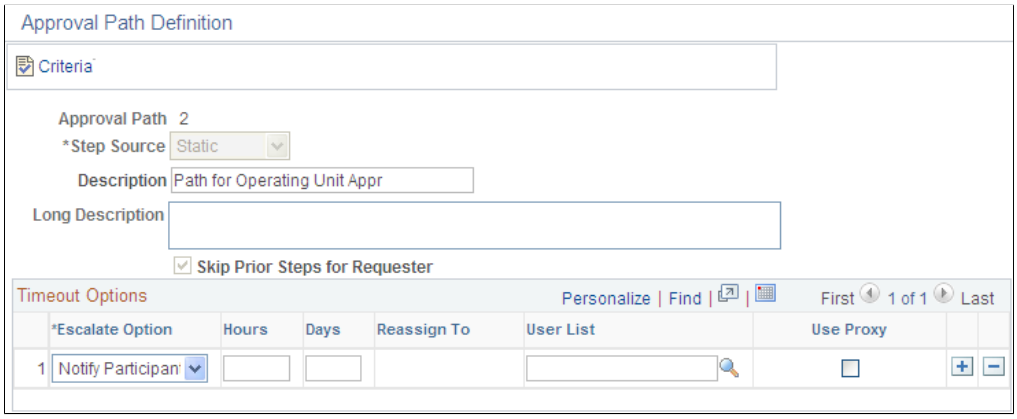
画像: 承認パス定義ページ - 承認パス 1

次の例では、承認パス定義ページ - 承認パス 1 のフィールドおよびコントロールを説明します。



画像: 承認パス定義ページ - 承認パス 2

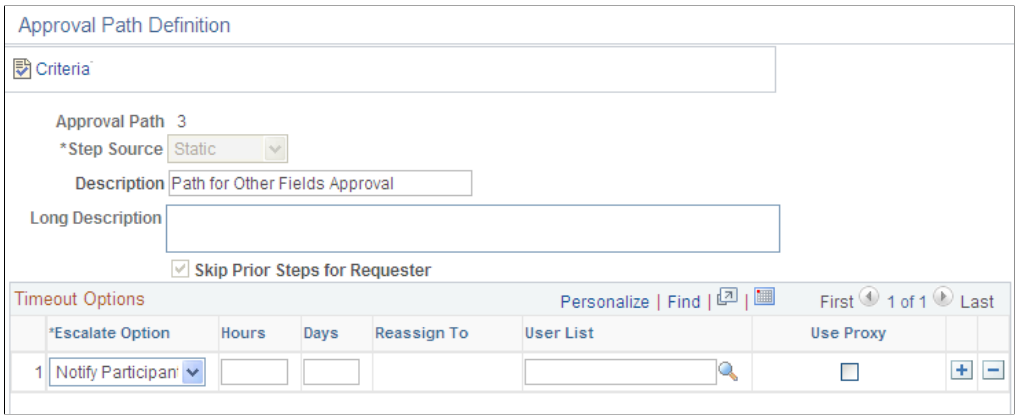
次の例では、承認パス定義ページ - 承認パス 2 のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

画像: 承認パス定義ページ - 承認パス 3

次の例では、承認パス定義ページ - 承認パス 3 のフィールドおよびコントロールを説明します。



承認ステップ定義ページ

承認ステップ定義ページ (EOAW_STEP_SEC) を使用して、承認者や承認者要件など、ビジネス リクエストの承認ステップの詳細を定義します。

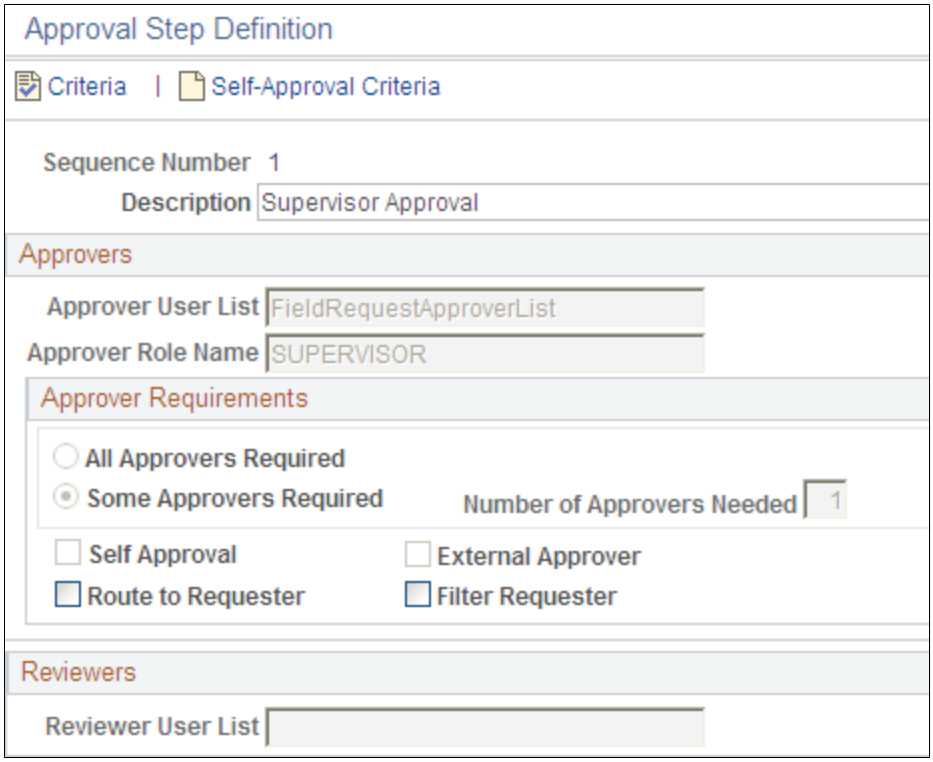
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[エンタープライズ コンポーネント], [承認], [承認], [承認プロセス設定]。プロセス定義の設定ページの [ステップ] グループ ボックスで、[詳細] アイコンをクリックします。

画像: 承認ステップ定義ページ - 連番 1

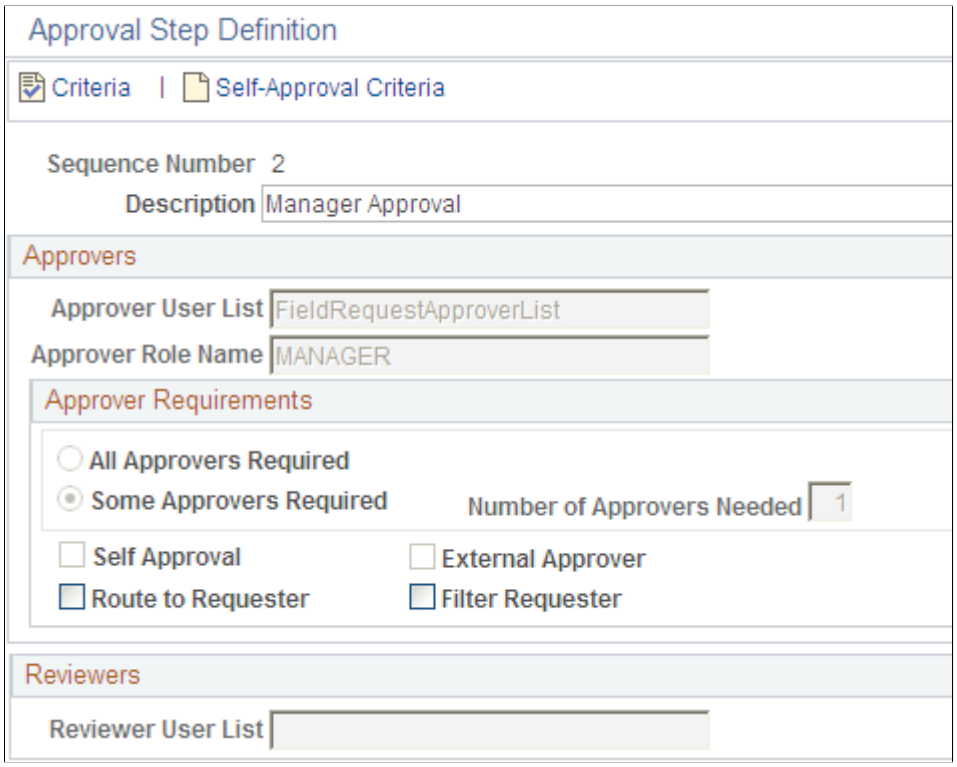
次の例では、承認ステップ定義ページ - 連番 1 のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

画像: 承認ステップ定義ページ - 連番 2

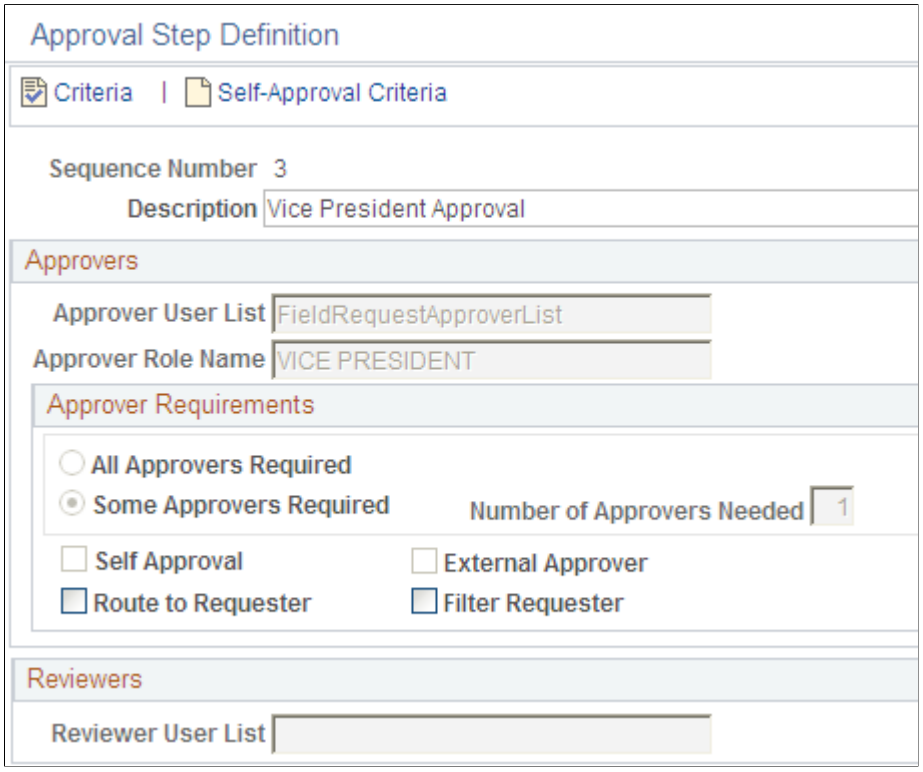
次の例では、承認ステップ定義ページ - 連番 2 のフィールドおよびコントロールを説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

画像: 承認ステップ定義ページ - 連番 3

次の例では、承認ステップ定義ページ - 連番 3 のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



詳細については、PeopleSoft エンタープライズ コンポーネントのドキュメント: 承認フレームワーク、「承認フレームワーク プロセス定義の設定」を参照してください。

チャートフィールド リクエストおよび承認の定義と使用

チャートフィールド リクエストおよび承認の定義と使用に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
チャートフィールド リクエスト ページ	FLD_REQUEST	承認のためのビジネス リクエストを定義します。
ビジネス リクエストの詳細説明ページ	FLD_REQ_LONG_DESCR	ビジネス リクエストの完全なタイトル説明に関する情報を含めます。 「チャートフィールド リクエスト ページ」を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
チャートフィールド属性値ページ	FLD_REQ_ATTRIB	ビジネス リクエストのチャートフィールド属性および値を確認または追加します (該当する場合)。 「チャートフィールド リクエスト ページ」を参照してください。
リクエスト コピー ページ	FLD_REQ_COPY_SEC	コピーする情報を選択します。
リクエスト添付情報ページ	FLD_REQ_ATT_SEC	ビジネス リクエストの必要書類を添付として追加するか、変更します。
勘定科目/代替勘定科目マッピング ページ	FLD_REQ_AC_XREF	マッピングする勘定科目/代替勘定科目情報を選択します (該当する場合)。 「チャートフィールド リクエスト ページ」を参照してください。
コンポーネント インターフェイス エラー ページ	FLD_REQ_CI_ERR	チャートフィールド リクエスト ページの [エラー] リンクをクリックすると、対応するコンポーネント インターフェイス アクションで基本テーブルへの挿入または更新が行われたときに発生したエラー (頻繁には発生しません) が表示されます。 「チャートフィールド リクエスト ページ」を参照してください。
承認フロー ページ	FLD_REQ_AF_MONITOR	チャートフィールド リクエスト ページまたはビジネス リクエスト承認の管理ページから、承認フロー ページにアクセスします。承認フローを表示または変更します (アドホック承認者の追加など)。

チャートフィールド リクエストおよび承認の定義と使用について

承認のためのビジネス リクエストを定義するときには、次のことが可能です。

- ビジネス リクエストの完全なタイトル説明に関する情報を含めます。
- ビジネス リクエストのチャートフィールド属性を定義します (該当する場合)。
- ビジネス リクエストの必要書類を添付として追加するか、変更します。
- コピーする情報を選択します。
- マッピングする勘定科目/代替勘定科目情報を選択します (該当する場合)。
- 対応するコンポーネント インターフェイス アクションで基本テーブルへの挿入または更新を行われたときに発生したエラーを表示します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- チャートフィールド リクエスト ページから承認フロー ページにアクセスし、承認フローを表示または変更します。

関連リンク

PeopleSoft チャートフィールドについて

チャートフィールド リクエスト ページ

チャートフィールド リクエスト コンポーネント (FLD_REQUEST) を使用して、チャートフィールド リクエストの新規作成または既存のチャートフィールド リクエストの更新を行います。

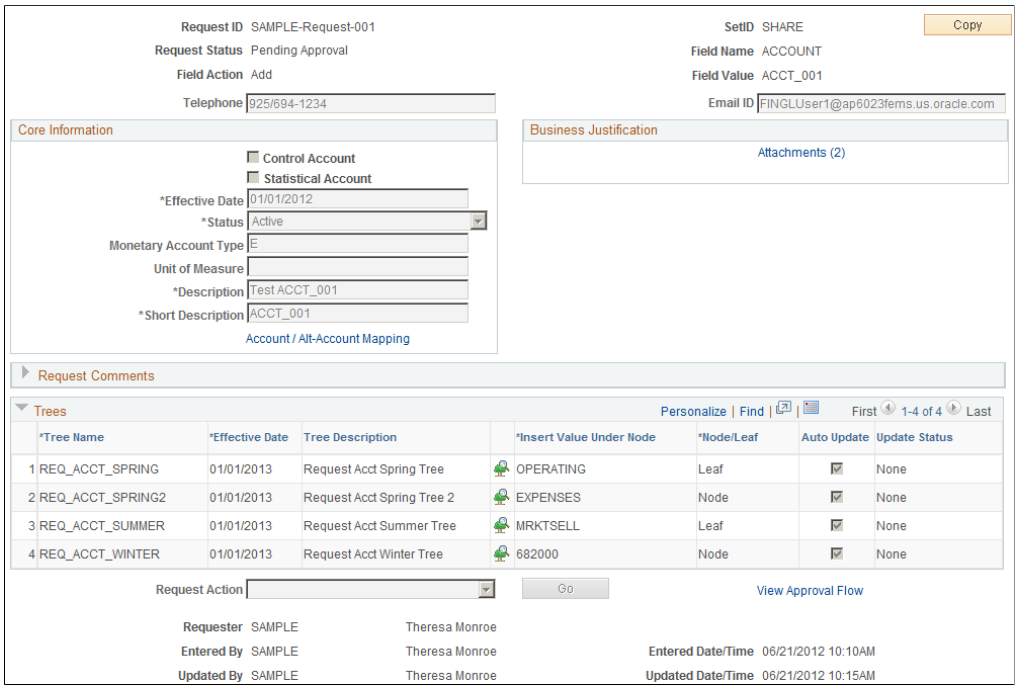
チャートフィールド リクエスト ページ (FLD_REQUEST) を使用して、承認用のビジネス リクエストを定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [チャートフィールド リクエスト]

画像: チャートフィールド リクエスト ページ

次の例では、チャートフィールド リクエスト ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このページ上のフィールドは、リクエストでどのチャートフィールドを選択したかによって異なります。承認された追加リクエストまたは更新リクエストの場合は、[フィールド名] の下に表示されたフィールド値のリンクをクリックして、その値のチャートフィールド定義入力ページにアクセスできます。

フィールド アクション フィールド値は次のとおりです。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 追加 - 新規チャートフィールド値の追加リクエストである場合に表示されます。
- 更新 - 既存チャートフィールド値の変更リクエストである場合に表示されます。

フィールド アクションに基づいて、入力したフィールド値がプロンプトに対して検証されます。追加リクエストの場合、コア基本テーブルに既に存在する値を入力すると、そのリクエストは追加されず、その旨メッセージで通知されます。更新リクエストの場合、値はプロンプト編集テーブルに存在している必要があり、値がテーブルに存在しない場合は、その旨メッセージで通知されます。同じ値に対する未完のリクエストがないことを確認するため、リクエスト自体もリクエスト テーブルに照らして検証されます。

リクエスト ID

リクエストの重複を回避するため、新しいチャートフィールド リクエストを作成するとシステムによってリクエスト ID が生成されます。セットID とフィールド名を指定します。事前定義テンプレート内の対応する情報が移入され、リクエスト ページが動的に作成されます。

フィールド名

フィールド名のプロンプトでは、入力したセットID のテンプレートで定義されているフィールド名のみがリストに表示されます。チャートフィールド リクエストのフィールド名とフィールド値を選択する必要があります。

フィールド値

既存の値を検索するときに、依頼者、リクエストを入力したユーザーおよびリクエストのステータス (承認済、キャンセル済、コンポーネント インターフェイス エラー、却下済、要注意、新規作成 承認待ち) に加え、リクエストを追加するのに必要な全てのフィールド値について条件を入力できます。

リクエスト ステータス

現在のチャートフィールド リクエストのステータスを表示します。値は次のとおりです。

- 承認済
- キャンセル済
- コンポーネント インターフェイス エラー
- 却下
- 要注意
- 新規作成

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 承認待ち

リクエスト アクション

新しいチャートフィールド リクエストの必須フィールドを入力しページを保存すると、[リクエスト アクション] フィールドが表示されます。以下のアクションから選択します。

- 承認者に提出 - 指定の承認者にリクエストをルーティングします。このアクションは [リクエスト ステータス] フィールドを [承認待ち] に変更します。承認のリクエストを再提出したユーザーが、依頼者になります。
- '要注意' とマーク - [リクエスト ステータス] フィールドを [要注意] に変更します。
- '新規' とマーク - [リクエスト ステータス] フィールドを [新規作成] に変更します。
- キャンセル - リクエストは無効化されます。[リクエスト ステータス] フィールドが [キャンセル済] に変わります。
- 却下 - リクエストは却下されます。
- 保留 - 情報がさらに必要なため、リクエストは保留になります。

  注: ステップを保留にした後でも、保留した承認者はそのステップを承認または却下できます。ステップの他の承認者は、要求される承認が 1 つであるステップでは無視されますが、複数の承認が必要なステップの場合は、これらの承認者もこのステップを承認または却下する必要があります。これは承認フレームワークと対応するルールの設定によって決まります。承認者が [保留] または [差戻し] のアクション (差戻しを使用できるステップの場合) を選択した場合、既に保留になっているステップには何も起こりません (ステータスは保留のままです)。

- 差戻し - 修正が必要なため承認者がリクエストを差し戻します。
- 更新 - リクエストが変更され、ページが編集可能になります。[リクエスト ステータス] が [要注意] に変更されます。
- コンポーネント インターフェイス実行 - コンポーネント インターフェイス エラーの修正に適しているリクエスト ステータス。
- 承認 - リクエストは承認されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: チャートフィールド リクエストのステータスが [承認待ち] のとき、そのリクエストの更新アクションを実行できるのは現在の承認者のみです。このアクションは実質的にはページを再び編集可能な状態にします。更新を実行すると現在の承認プロセスは終了し、依頼者と承認者の両方に電子メール/ワークリスト通知が送信されます。

実行

[リクエスト アクション] フィールドの選択が済んだら、このボタンをクリックします。

承認フローの表示

このリンクは [承認者に提出] アクションを選択すると表示されます。クリックすると承認フロー ページが表示されます。このページではアドホック承認者の追加やステータス確認が可能です。

「承認フロー ページ」を参照してください。

リクエスト ステータス	*リクエスト アクション値*	*更新および保存の可否*
承認済/キャンセル済	(なし)	不可。ページ フィールドは更新できません。
コンポーネント インターフェイス エラー	キャンセル コンポーネント インターフェイス実行 更新 (依頼者のみ使用可能) **注:** コンポーネント インターフェイスの実行は、CI エラーの修正でリクエスト データの変更が不要な場合に適しています。	不可。ページ フィールドは更新できません。 ただし、依頼者は [更新] アクションを実行して [リクエスト ステータス] を [要注意] にリセットし、ページを変更できる状態にすることができます。
却下	キャンセル '要注意' とマーク '新規' とマーク 承認者に提出	可。リクエスト ステータスは維持されます。
要注意	キャンセル '新規' とマーク 承認者に提出	可。リクエスト ステータスは維持されます。
新規作成	キャンセル '要注意' とマーク 承認者に提出	可。リクエスト ステータスは維持されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

リクエスト ステータス	*リクエスト アクション値*	*更新および保存の可否*
承認待ち	(以下は承認者のみ使用可能) 承認 却下 保留 差戻し (第 1 レベルを除く) 更新	不可。ページ フィールドは更新できません。 ただし現在の承認者は、現在実行中の承認プロセスを終了する [更新] アクションを実行して [リクエスト ステータス] を [要注意] にリセットし、ページを更新できる状態にすることができます。

コア情報

[コア情報] グループ ボックスの下にあるフィールドは、対応するビジネス リクエスト テンプレートからコピーされます。また、詳細説明、属性、勘定科目/代替勘定科目マッピングの各リンクも、テンプレートで有効化されていれば、このグループ ボックスの下に表示されます。必須フィールドのラベルには "*" が表示されます。これらの必須フィールドに値がない場合、保存時に検証が強制されます。

ビジネス理由

[ビジネス理由] グループ ボックス内のフィールドは対応するビジネス リクエスト テンプレートから挿入されます。このグループ ボックスには [添付] リンクも含まれています。「ビジネス リクエスト テンプレート ページ」を参照してください。

ツリー

ノード/リーフ (リーフがデフォルト値)

- 春ツリーの場合、リーフまたはノードを選択できます。
- 夏ツリーの場合、リーフに設定し、ノードは使用できません。
- 冬ツリーの場合、ノードに設定し、リーフは使用できません。

注: リクエストした値を春ツリー ノードとして挿入するとき、新しいツリーには詳細値 (リーフ) などの特定の範囲が含まれていないため、このツリーはドラフト ツリーとして保存されます。これ以外の全てのシナリオでは、ツリーにオーディット エラーがなければ、ツリーは有効なツリーとして保存されます。

自動更新 - 選択すると、リクエストの最終承認の時点でツリーが更新されます。

ステータスの更新 - システムが保守されます。使用される値は、無効、[成功]、[ドラフト保存]、[失敗] です。

注: 自動更新のステータスが *[ドラフト保存]* または *[失敗]* であるツリーについては、ツリーのオーディット問題を手動で解決するか、ツリー マネージャを使用して更新する必要があります。これは、リクエストした値は既に基本テーブルに挿入され (更新され)、リクエストがクローズされているためです。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

詳細説明ページ

詳細説明ページ (FLD_REQ_LONG_DESCR) を使用して、チャートフィールド リクエストに関する詳細を入力します。

ナビゲーション

チャートフィールド リクエスト ページに詳細説明リンクがある場合は、クリックします。特定のフィールドの表示オプションについては、「ビジネス リクエスト テンプレート ページ」を参照してください。これは、チャートフィールド リクエスト ページにリンクとフィールドのどちらを表示するかを決定します。

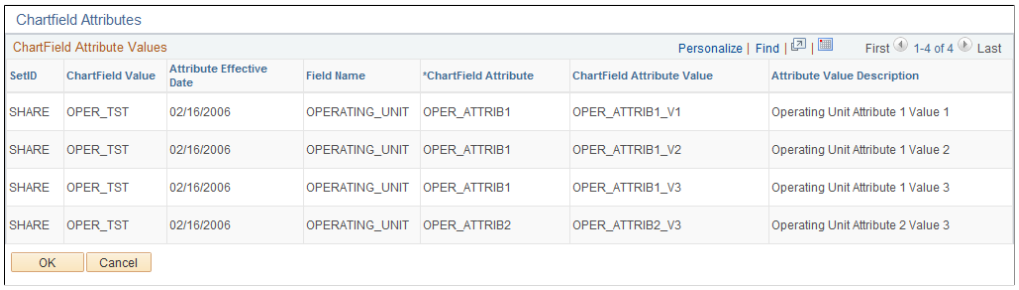
チャートフィールド属性値ページ

チャートフィールド属性値ページ (FLD_REQ_ATTRIB) を使用して、ビジネス リクエストのチャートフィールド属性および属性値を設定します (該当する場合)。

チャートフィールド リクエスト ページで [属性] リンクが使用可能の場合はクリックし、詳細を表示したり、属性と値を追加したりできます。

画像: チャートフィールド属性値ページ

次の例では、チャートフィールド属性値ページのフィールドおよびコントロールを説明します。


Chartfield Attributes

ChartField Attribute Values Personalize | Find | | First 1-4 of 4 Last

SetID	ChartField Value	Attribute Effective Date	Field Name	*ChartField Attribute	ChartField Attribute Value	Attribute Value Description
SHARE	OPER_TST	02/16/2006	OPERATING_UNIT	OPER_ATTRIB1	OPER_ATTRIB1_V1	Operating Unit Attribute 1 Value 1
SHARE	OPER_TST	02/16/2006	OPERATING_UNIT	OPER_ATTRIB1	OPER_ATTRIB1_V2	Operating Unit Attribute 1 Value 2
SHARE	OPER_TST	02/16/2006	OPERATING_UNIT	OPER_ATTRIB1	OPER_ATTRIB1_V3	Operating Unit Attribute 1 Value 3
SHARE	OPER_TST	02/16/2006	OPERATING_UNIT	OPER_ATTRIB2	OPER_ATTRIB2_V3	Operating Unit Attribute 2 Value 3

OK Cancel

詳細については、「汎用チャートフィールド属性の作成」、「チャートフィールド リクエスト ページ」を参照してください。

勘定科目/代替勘定科目マッピング

チャートフィールド リクエスト ページで [勘定科目/代替勘定科目マッピング] リンクが使用可能な場合 (勘定科目と代替勘定科目の場合のみ有効にできます) は、これをクリックし、リクエストした勘定科目にマッピングされている代替勘定科目 (またはその逆) の詳細を表示するか、マッピングを変更します。

注: チャートフィールド リクエスト ページで [勘定科目/代替勘定科目マッピング] リンクが使用可能な場合 (勘定科目と代替勘定科目の場合のみ有効にできます) は、これをクリックし、リクエストした勘定科目にマッピングされている代替勘定科目 (またはその逆) の詳細を表示するか、マッピングを変更します。

詳細については、「代替勘定科目の使用」、「勘定科目および代替勘定科目の追加とマッピング」を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

リクエスト コピー ページ

リクエスト コピー (FLD_REQ_COPY_SEC) ページを使用して、既存のリクエストから新しいリクエストに情報をコピーします。セットID とフィールド名の組合せは、両方のリクエストで同じである必要があります。保存されているチャートフィールド リクエスト ページで [コピー] ボタンをクリックし、リクエスト コピー ページを開きます。

注: [添付]、[勘定科目/代替勘定科目マッピング] は新しいリクエストには該当しないため、新しいリクエストにコピーされません。新しい更新リクエストへのコピー時に、基本テーブルから既存の勘定科目/代替勘定科目マッピングが新しい更新リクエストに導出されます。

リクエスト添付情報ページ

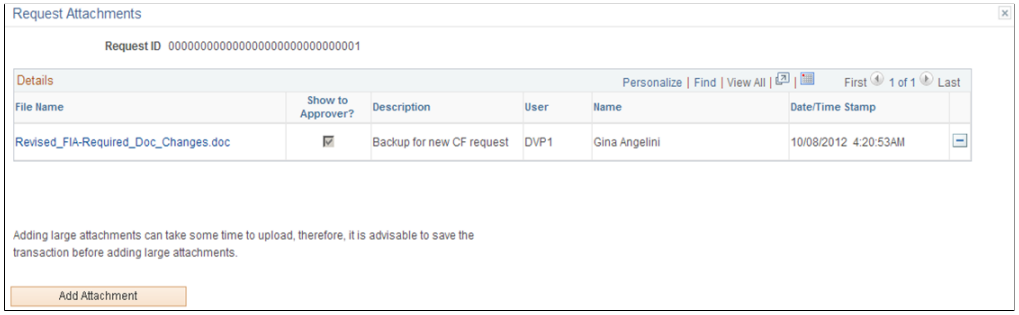
リクエスト添付情報ページ (FLD_REQ_ATT_SEC) を使用して、チャートフィールド リクエストの必要書類を添付ファイルとして追加、変更または削除できます。

ナビゲーション

チャートフィールド リクエスト ページで [添付] リンクをクリックします。

画像: リクエスト添付情報ページ

次の例では、リクエスト添付情報ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



承認者に表示 添付の隣にあるこのチェック ボックスをオンにすると、承認者がビジネス リクエスト承認の管理ページでこれを表示できます。「ビジネス リクエストおよび承認プロセスの管理」を参照してください。

説明 添付に関する簡単な説明を入力します。

添付の追加 このボタンはユーザーに権限がある場合にのみ表示されます。

注: 添付を追加したユーザーのみが、その添付を変更または削除できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

承認フロー ページ

承認フロー (FLD_REQ_AF_MONITOR) ページを使用して、承認フローを確認または変更します (アドホック承認者の追加など)。チャートフィールド リクエスト ページまたはビジネス リクエスト承認の管理ページから、このページにアクセスできます。

ナビゲーション

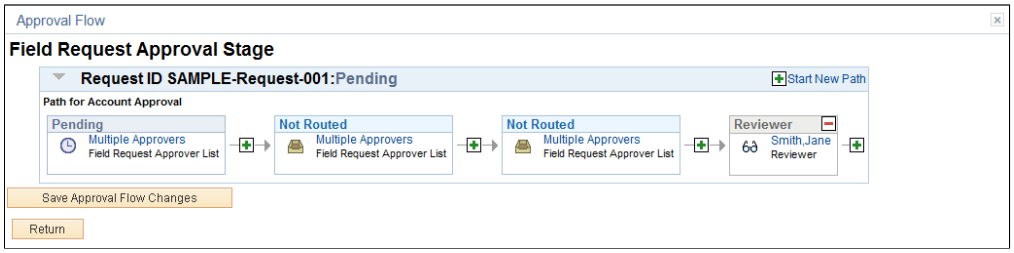
チャートフィールド リクエスト ページで [承認フローの表示] リンクをクリックします。

または

ビジネス リクエスト承認の管理ページで [承認フローの表示] アイコンをクリックします。

画像: 承認フロー ページ

次の例では、承認フロー ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



[複数の承認者] リンクをクリックして、承認者の名前を表示します。ステップの承認者またはレビュー担当者が 1 人の場合、その名前がリンクとして表示されます (この例では Smith, Jane)。承認プロセス パスの各ステップのステータスが表示されます。最初のステップから承認を受信すると、パス内の次のステップが適切なステータスに変更されます。

新しいパスを開始 新しい承認パスを開始し、レビュー担当者または承認者を挿入する場合にクリックします。

承認フローの変更を保存 このボタンはアドホック承認者の追加など、承認フロー ページに変更を加えた後にのみ表示されます。

既存のパス内のプラス ボタンをクリックして、アドホック承認者を承認パスに追加します。アドホック承認者の右上隅に表示されるマイナス記号を使用すると、必要に応じて簡単にアドホック承認者を削除できます。

表示された領域にコメントを入力できます。承認者がリクエストの*却下*、*[保留]*、*[差戻し]* または *[更新]* を選択した場合、コメントを入力する必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ビジネス リクエストおよび承認プロセスの管理

ビジネス リクエスト承認の管理コンポーネント (FLD_REQ_APPROVAL) を使用してビジネス リクエスト一括承認機能を処理し、リクエスト承認添付情報ページ (FLD_REQ_ATT_APPR) を使用して、添付を表示および追加します。

ビジネス リクエストおよび承認プロセスの管理に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
ビジネス リクエスト承認の管理ページ	FLD_REQ_APPROVAL	ビジネス リクエスト承認を処理します。
リクエスト承認添付情報ページ	FLD_REQ_ATT_APPR	依頼者がリクエスト添付情報ページ (FLD_REQ_ATT_SEC) で *[承認者に表示]* オプションを選択して添付情報を追加している場合に、ビジネス リクエスト承認の添付情報を表示します。
承認フロー ページ	FLD_REQ_AF_MONITOR	ビジネス リクエスト承認の管理ページから承認フロー ページにアクセスします。承認フローを表示または変更します (アドホック承認者の追加など)。

ビジネス リクエスト承認の管理ページ

ビジネス リクエスト承認の管理ページ (FLD_REQ_APPROVAL) を使用して、ビジネス リクエスト承認を処理します。

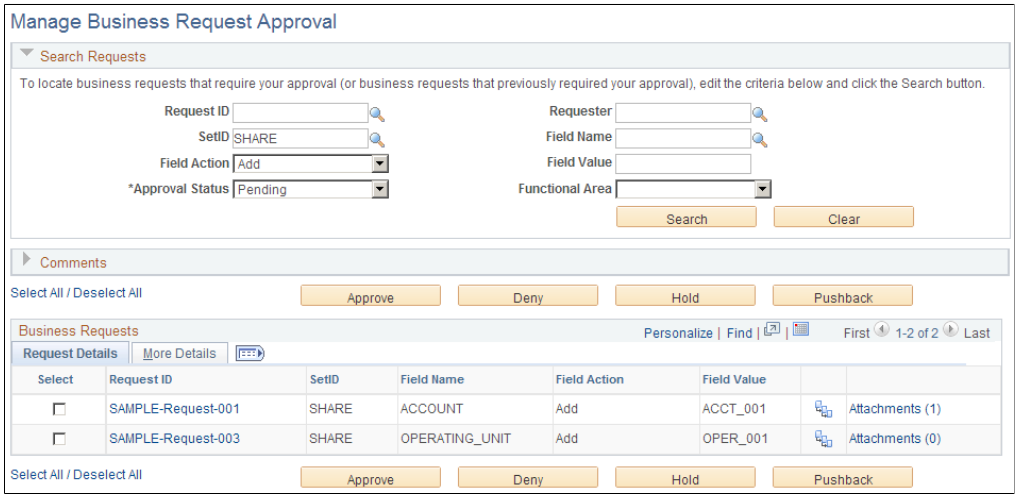
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ビジネス リクエスト設定], [ビジネス リクエスト承認]

画像: ビジネス リクエスト承認の管理ページ

次の例では、ビジネス リクエスト承認の管理ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



ビジネス リクエスト結果をフィルタする条件を選択し、[検索] ボタンをクリックすると、結果のビジネス リクエストが表示されます。ビジネス リクエストの [リクエスト ID] リンクをクリックすると、アクション実行前のリクエストの詳細にドリル ダウンして表示できます。

注: ビジネス リクエスト承認の管理ページに返されるリクエストは、現在のユーザーが承認者で、[リクエスト ステータス] が承認済、キャンセル済、コンポーネント エラー以外であるリクエストです。

 **([承認フローの表示] アイコン)**

[承認フローの表示] アイコンをクリックして、承認フロー ページにアクセスし、承認パス、詳細およびステータスを表示または変更します。

添付

このリンクをクリックしてリクエスト承認添付情報ページにアクセスし、ビジネス リクエスト承認の添付を確認できます。このリンクは、リクエスト ID に関連付けられている添付の数も表示します。

リクエスト承認添付情報ページ

リクエスト承認添付情報ページ (FLD_REQ_ATT_APPR) を使用して、依頼者がリクエスト添付情報ページ (FLD_REQ_ATT_SEC) で *[承認者に表示]* オプションを選択して添付情報を追加している場合に、ビジネス リクエスト承認の添付情報を表示します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ビジネス リクエスト設定], [ビジネス リクエスト承認][添付] リンクをクリックします。

画像: リクエスト承認添付情報ページ

次の例では、リクエスト承認添付情報ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



承認フロー ページ

承認フロー ページ (FLD_REQ_AF_MONITOR) を使用して、承認フローを表示または変更します。たとえば、アドホック承認者を追加できます。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ビジネス リクエスト設定], [ビジネス リクエスト承認][承認フローの表示] アイコンをクリックします。

承認フロー ページはチャートフィールド リクエスト ページからでもアクセスできます。

フィールド情報の詳細については、「承認フロー ページ」を参照してください。

ビジネス リクエストの照会

このトピックでは、既存のビジネス リクエストを現在のステータスや添付、承認フローなどを含めて確認する方法と、ビジネス リクエスト照会コンポーネントの添付の表示方法について説明します。

ビジネス リクエストの照会に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
ビジネス リクエスト照会ページ	FLD_REQ_INQUIRY	既存のビジネス リクエストを現在のステータスを含めて確認し、関連付けられている添付や承認フローを表示します。
リクエスト添付情報ページ	FLD_REQ_ATT_INQ	ビジネス リクエスト照会コンポーネントの添付を表示します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	定義名	用途
承認フロー ページ	FLD_REQ_AF_MONITOR	ビジネス リクエスト照会ページから承認フロー ページにアクセスします。承認フローを表示します (表示のみ)。

ビジネス リクエスト照会ページ

ビジネス リクエスト照会ページ (FLD_REQ_INQUIRY) を使用して、既存のビジネス リクエストの詳細とステータスを確認します。

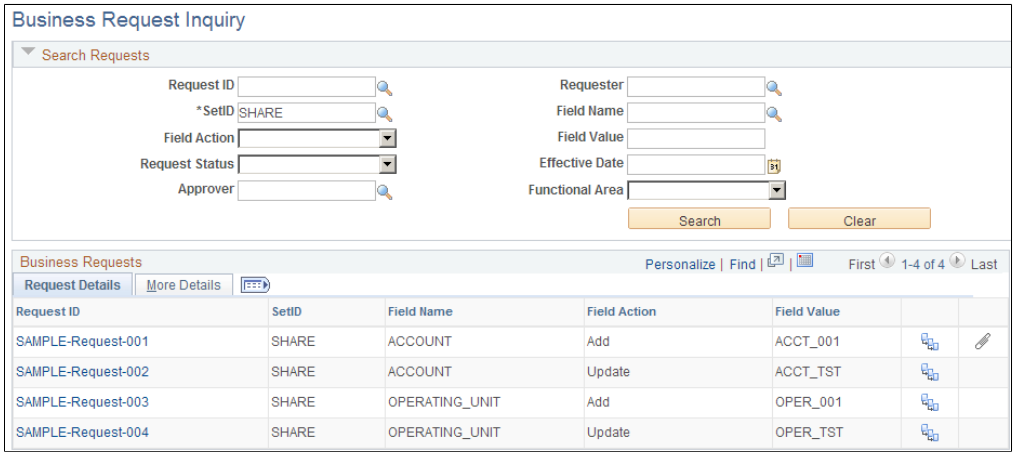
ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ビジネス リクエスト設定], [ビジネス リクエスト照会]

検索条件を入力して既存ビジネス リクエストの検索を絞り込みます。必須フィールドはセットID のみです。

画像: ビジネス リクエスト照会ページ

次の例では、ビジネス リクエスト照会ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



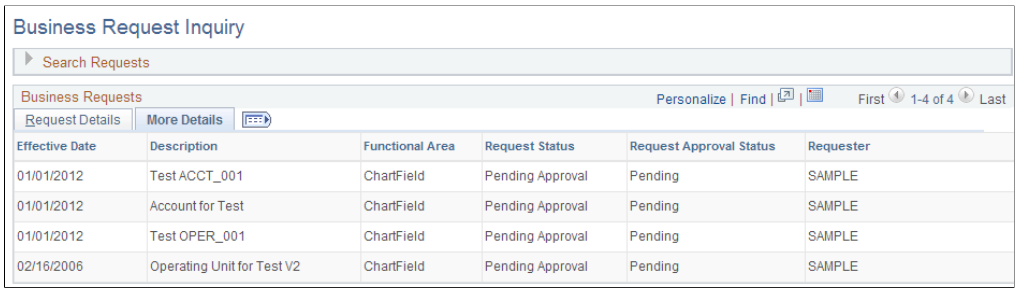
注: 承認のリクエストが提出された場合は [承認フローの表示] アイコンが、リクエストに添付がある場合は [添付の表示] アイコンが、[リクエスト ID] の一番右の列に表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

[追加詳細] タブを選択すると、既存のビジネス リクエストの有効日、依頼者、リクエストおよび承認ステータスが表示されます。

画像: ビジネス リクエスト照会 - 追加詳細タブ

次の例では、ビジネス リクエスト照会のフィールドおよびコントロールを説明します。



リクエスト添付情報ページ

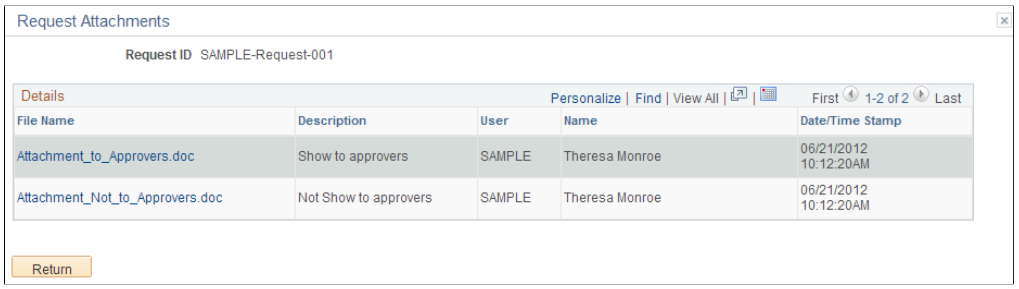
リクエスト添付情報ページ (FLD_REQ_ATT_INQ) を使用して、ビジネス リクエスト照会コンポーネントの添付情報を表示します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ビジネス リクエスト設定], [ビジネス リクエスト照会][添付の表示] アイコンをクリックします。

画像: リクエスト添付情報ページ

次の例では、リクエスト添付情報ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



承認フロー ページ

ビジネス リクエスト照会ページからアクセスする場合は、承認フロー ページ (FLD_REQ_AF_MONITOR) を使用して承認パスおよびステータスの詳細を確認します。

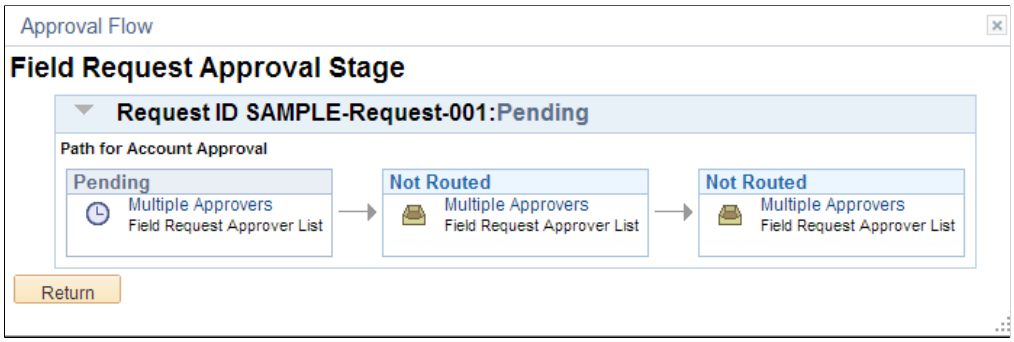
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ビジネス リクエスト設定], [ビジネス リクエスト照会][承認フローの表示] アイコンをクリックします。

画像: 承認フロー ページ (表示のみ)

次の例では、承認フロー ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



ビジネス リクエスト照会ページから承認フロー ページにアクセスした場合、詳細を表示することしかできません。変更を加えることはできません。承認フロー ページに変更を加える場合は、チャートフィールド リクエスト ページまたはビジネス リクエスト承認の管理ページからアクセスする必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第16章

入力イベントの使用

入力イベントについて

入力イベントは、PeopleSoft アプリケーション トランザクションで入力するユーザー定義コードです。入力イベント トランザクションは、1 つ以上のプロセスで構成されており、これらのプロセスは、最小限のユーザー入力により追加の借方および貸方の会計入力を一般会計に転記するために使用されるステップで構成されています。また、米国連邦政府は組織に対し、入力イベントを使用して特定のコア会計入力を分類すること、およびこれらのコードに固有の追加の借方および貸方入力を生成することを求めています。

さまざまなアプリケーションの取引行に入力イベント コードを入力するには、最初に、PeopleSoft システムに付属する特定の入力イベント プロセスおよびステップを使用するコードを設定する必要があります。これらのプロセスおよびステップは、定義済の入力イベント ソース取引定義にリンクされており、これにより、特定のタイプの取引のソース レコードおよびターゲット レコードが指定されます。入力イベント コードを設定した後で、PeopleSoft アプリケーションの取引行でこれらのコードを選択または入力します。実行する入力イベント プロセッサを選択できるか、または、アプリケーションの通常処理手順の一部としてプロセッサが自動的に実行されることがあります。これは、使用するアプリケーションによって異なります。入力イベント プロセッサは、入力イベント コードに対して設定された各プロセスおよびステップを実行し、入力イベント コードに対して設定された借方勘定および貸方勘定に基づいて適切な会計入力を生成します。

このトピックでは、前提条件と次の内容について説明します。

- 入力イベントの基本設定。
- 入力イベント ソース取引定義。
- プロセスのパフォーマンスの最適化。
- 入力イベント プロセスおよびステップ。
- 入力イベント コード。
- 入力イベントを使用する PeopleSoft 製品。
- 入力イベント処理。
- ソース ドキュメント調整入力および入力イベント処理。
- 上方調整と下方調整。
- 入力イベントのユーザー基本設定オプション。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

前提条件

入力イベントを設定して使用する前に、次のことを行う必要があります。

- セットID を設定します。
- チャートフィールドを設定します。
- ビジネス ユニットおよびアプリケーション固有の入力イベント情報を設定します。
- 元帳および元帳グループを設定します。
- インストール オプション - 入力イベント ページにリストされる各 PeopleSoft アプリケーションに対して入力イベントを有効にします。
- コミットメント コントロール予算を設定します (該当する場合)。
    - ユニット別元帳 - コミットメント コントロール オプション ページで、各ビジネス ユニットのコミットメント コントロール元帳グループに対して入力イベントを有効にします。

      明細コミットメント コントロール元帳グループを 1 つ以上設定する必要があります。この明細元帳グループは、入力イベント プロセッサでは PeopleSoft 購買管理の取引データ ソースとして機能します。
    - コミットメント コントロール - コントロール予算オプション ページで、[要貸借一致] チェック ボックスを選択し、コミットメント コントロールにおけるエンカンバランスおよびプレエンカンバランスとして購買管理の取引を処理するための相殺勘定科目を設定します。
    - コミットメント コントロール - 予算定義相殺ページで、購買管理の相殺勘定科目を設定します。

      予算入力相殺に対する繰延割増金勘定、およびこれらのソース取引タイプ (PO_POENC および REQ_PREENC) に対する繰延割引勘定を入力します。
    - 予算定義 - 有効期限チャートフィールド ページで、予算の有効期限チャートフィールドを設定します。

      このページに入力した情報により、ドキュメントに対して予算プロセッサを実行したときに資金の有効期限が切れているかどうかが判断されるため、上方調整および下方調整を必要に応じて行うことができます。

注: 入力イベントは資金ソース機能ではサポートされていません。

「入力イベント ページ」を参照してください。

Setting Up Control Budget DefinitionsPeopleSoft Commitment Control を参照してください。

Understanding Source Transaction Type SetupPeopleSoft Commitment Control を参照してください。

「元帳について」を参照してください。

 Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Budget Definition - Expiration ChartField PagePeopleSoft Commitment Control を参照してください。

入力イベントの基本設定

インストール オプション - 入力イベント ページにリストされる各アプリケーションに対して入力イベントを有効にします。入力イベント処理は次の設定によって異なります。

- 入力イベント ソース取引定義 (PeopleSoft アプリケーションに付属する PeopleSoft サンプル データの一部です)。
- 入力イベント プロセスおよびステップ (PeopleSoft アプリケーションに付属する PeopleSoft サンプル データの一部です)。
- 入力イベント コード (PeopleSoft サンプル データに付属する例に基づいて定義します)。

注: 入力イベント ソース取引定義は変更せず、特別な場合にのみ、入力イベント プロセスおよびステップを変更するようにしてください。

入力イベント ソース取引定義

各 PeopleSoft 製品には、定義済の入力イベント ソース取引が付属しています。入力イベント処理ではこれらの定義が必要なため、変更しないことが重要です。これらの定義により、入力イベントを使用するさまざまなタイプの取引のソース レコードとターゲット レコードが指定され、システムで取引を区別できるようになります。ユーザーがアプリケーションで入力イベント トランザクションを入力すると、入力イベント プロセッサはソース レコードにある元のサブシステムの会計取引を選択し、作成した取引をターゲット レコードに書き込みます。定義済の入力イベント ソース取引定義のリストは、このトピックの後半を参照してください。

重要 入力イベント ソース取引定義は変更しないでください。

入力イベント プロセスのパフォーマンスの最適化

ご使用の環境で次の索引を作成し、入力イベント プロセスのパフォーマンスを向上させます。

- フィールド PROCESS_INSTANCE、KK_SOURCE_TRAN、BUSINESS_UNIT、PO_ID、KK_TRAN_ID、KK_TRAN_DT がある PS_KK_SOURCE_HDR で新規索引を作成します。
- フィールド KK_REFD_ID、KK_REFD_DT、KK_REFED_LN、KK_TRAN_ID、KK_TRAN_DT、KK_TRAN_LN がある PS_KK_REFERENCED で新規索引を作成します。
- フィールド KK_SOURCE_TRAN、BUSINESS_UNIT、KK_PROCESS_STATUS、KK_TRAN_ID、KK_TRAN_DT がある PS_KK_SOURCE_HDR で新規索引を作成します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- フィールド KK_TRAN_ID、KK_TRAN_DT、EE_PROC_STATUS がある PS_KK_ACTIVITY_LOG で新規カスタム 索引を作成します。

上記の索引を作成してから、上記のレコードで [統計値の更新] を実行します。

入力イベント プロセスおよびステップ

各入力イベント プロセスは、入力イベント ソース取引定義に関連付けられ、ソース会計取引条件およびシステムで会計取引を保存するために使用するデータ構造を定義するステップで構成されます。アプリケーションで取引を入力し、入力イベント コードを選択して入力イベント プロセッサを実行すると、システムで入力イベント プロセスおよび関連付けられているステップが実行されます。各製品の定義済のプロセスのリストは、このトピックの後半を参照してください。

「入力イベントを使用する PeopleSoft 製品」を参照してください。

重要 通常、入力イベント プロセスおよびステップは変更できませんが、入力イベントを使用するコミットメント コントロール予算を設定している場合は、特別な考慮事項があります。

Setting Up Budget Journal Entry Event CodesPeopleSoft Commitment Control を参照してください。

入力イベント コード

各製品では、ユーザー独自の入力イベント コードを設定する例として、PeopleSoft サンプル データに含まれる定義済の入力イベント コードを使用できます。入力イベント コードを定義する場合は、定義済の入力イベント プロセスおよびステップを選択し、コードに関連付けます。入力イベント プロセッサの実行時に生成される借方勘定および貸方勘定も設定します。

たとえば、発注 (PO) で入力イベント コードを入力する場合、選択する入力イベント コードには入力イベント プロセス POPOST が含まれている必要があります。各製品の定義済のプロセスのリストは、このトピックの後半を参照してください。

「入力イベント コード定義ページ」を参照してください。

入力イベントを使用する PeopleSoft 製品

各 PeopleSoft 製品では、さまざまな入力イベント ソース取引定義、プロセス、ステップおよびコードを使用します。一部の製品では、入力イベントを使用するために追加のアクティビティの実行が必要です。

通常、配布行で製品ドキュメントに入力イベント コードを入力します。各製品内で表示される入力イベント コードは、コードに対して設定されているプロセスによって異なります。

次のアプリケーションでは入力イベントを使用します。

- 一般会計。
- 購買管理。
- 買掛金管理。

 Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 売掛金管理。
- 請求管理。
- プロジェクト コスト管理。

入力イベント トランザクションは、次の例外を除いて、コミットメント コントロール予算管理に関連付ける必要はありません。

- プレエンカンバランス、エンカンバランス、または特定のコミットメント コントロール予算の回収済収入金額を調整する一般会計予算調整で使用される入力イベント。
- 特定のコミットメント コントロール予算に対するプロジェクト予算金額を転記するプロジェクト コスト管理予算で使用される入力イベント。
- コミットメント コントロール予算管理で、プレエンカンバランス金額およびエンカンバランス金額に対する勘定科目に設定される調達依頼および PO に対して購買管理で使用される入力イベント。

注: 全ての請求管理入力イベントは売掛金管理にロードされ、ここでこれらのイベントは入力イベント生成用に処理されます。

各製品について、次の表に次の内容を示します。

- 入力イベントを使用する取引タイプ。
- 定義済の入力イベント ソース取引定義。
- 定義済の入力イベント プロセス。
- 追加の設定要件。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

製品または機能	*取引タイプ*	*入力イベント ソース取引の定義済の定義*	*定義済の入力イベント プロセス*	*追加の設定要件*
プロジェクト コスト管理	プロジェクト予算	PC_BUDGET (コントロール予算作成)	PCBUDG (PC 予算処理) 入力イベントを使用して、プロジェクト コスト管理予算に追加の借方入力および貸方入力を作成するために、PeopleSoft システムには次のステップを含む PC 予算プロセスが用意されています。 • PC_CHD (プロジェクト コスト管理子予算)。 • PC_PAR (プロジェクト コスト管理親予算)。 ただし、予算元帳名および予算元帳グループ名によっては、ステップの変更、追加または削除が必要になる場合があります。	予算計画は、入力イベント ジェネレータ プロセスで追加の会計入力を作成する前に、保存して確定し、正常に予算チェックされる必要があります。 プロジェクト コスト管理予算入力イベント インターフェイス プロセッサ (PC_TO_EE) は、入力イベント ジェネレータ (FS_EVENTGEN) を呼び出し、プロジェクト コスト管理予算データを処理して補足会計入力を生成することで、プロジェクト コスト管理ソース データの照会ドリルダウンをサポートします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

製品または機能	*取引タイプ*	*入力イベント ソース取引の定義済の定義*	*定義済の入力イベント プロセス*	*追加の設定要件*
請求管理。	請求管理。(請求管理で使用される全ての入力イベントは売掛金管理にロードされ、ここで入力イベントの生成用に処理されます。売掛金管理の情報を参照してください。) 請求管理取引では次の入力イベントを使用します。 • オンライン請求書。 • オンライン借方メモ。 • オンライン貸方メモ。 • 請求管理インターフェイスからの取引。	売掛金管理ソース定義。	ARUPDATE (AR 更新プロセス)。	なし。
一般会計。	• 仕訳入力。 • コミットメント コントロール予算調整仕訳。 • 定型仕訳。 • 配賦。 • ユニット間/ユニット内仕訳。	• GL_JCREV (調整仕訳/回収済収入)。 • GL_JENC (調整仕訳/エンカンバランス)。 • GL_JOURNAL (一般会計仕訳)。 • GL_JPRNC (調整仕訳/プレエンカンバランス)。 • GL_JRNLIU (一般会計ユニット間)。	• GLJE (GL 仕訳入力プロセス)。 • GLJEADJ (GL コミットメント コントロール調整プロセス)。	Setting Up Budget Journal Entry Event CodesPeopleSoft Commitment Control を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

製品または機能	*取引タイプ*	*入力イベント ソース取引の定義済の定義*	*定義済の入力イベント プロセス*	*追加の設定要件*
コミットメント コントロール機能。 **注:** コミットメント コントロール機能を使用するには、一般会計を使用する必要があります。	• コミットメント コントロール予算仕訳。 • コミットメント コントロール予算締め。	• GL_BUD_CLS (一般会計予算締め)。 • GL_BUDGET (一般会計予算)。 • GL_BUDROLL (一般会計予算繰越)。	BUDG (予算プロセス)。 **注:** 入力イベントを使用して、コミットメント コントロール予算仕訳を作成するために、PeopleSoft システムには次のステップを含む予算プロセスが用意されていますが、予算元帳名および予算元帳グループ名によっては、ステップの変更、追加または削除が必要になる場合があります。 • ALLOT (割当予算準備ステップ)。 • APPORT (配分予算準備ステップ)。 • APPR XFER (支出予算移動準備ステップ)。 • APPROP (支出予算準備ステップ)。 • ORG (業務計画設定ステップ)。 • ORG XFER (組織移動ステップ)。 • PRJGRT IND (プロジェクト/グラント間接費用予算ステップ)。 • PROJ_GRT (プロジェクト/グラント予算準備ステップ)。	Setting Up Budget Journal Entry Event CodesPeopleSoft Commitment Control を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

製品または機能	*取引タイプ*	*入力イベント ソース取引の定義済の定義*	*定義済の入力イベント プロセス*	*追加の設定要件*
			• REVEST (収入見積準備ステップ)。 • CORG (業務計画クローズ)。 • RORG (業務計画繰越)。 • CHILD (子予算)。 • PARENT (親予算)。	
買掛金管理。	• 支払伝票。 • 支払。 • キャッシュ クリアリング。 • ユニット間/ユニット内取引。 • 支払伝票上方/下方調整。	• AP_PAYMENT (支払)。 • AP_VCHADJ (支払伝票上方/下方調整)。 • AP_VOUCHER (支払伝票)。 • APCSHCLRNC (キャッシュ クリアリング)。	• CASHCLRNG (キャッシュ クリアリング プロセス)。 • PAYMENT (支払プロセス)。 • VCHRPOST (支払伝票転記プロセス)。	なし。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

製品または機能	*取引タイプ*	*入力イベント ソース取引の定義済の定義*	*定義済の入力イベント プロセス*	*追加の設定要件*
購買管理。	• PO。 • 調達依頼。 • PO 受領済未払分。 • PO の上方/下方調整。	• PO_CLS (PO クローズ)。 • PO_POADJDN (発注書下方調整)。 • PO_POADJUP (発注書上方調整)。 • PO_PURCH (発注)。 • PO_RECV (PO 受領済未払分)。 • PO_REQ (調達依頼)。 • PO_REV (発注リバーサル)。 • REQ_CLS (調達依頼クローズ)。 • REQ_REV (調達依頼リバーサル)。	• POPOST (PO 転記プロセス)。 • RECVACCR (受領済未払プロセス)。 • REQPOST (調達依頼転記プロセス)。	[コミットメント コントロール], [コントロール予算の定義], [予算定義], [コントロール予算オプション] を選択し、コントロール予算オプション ページにアクセスします。[要貸借一致] チェック ボックスを選択します。 [コミットメント コントロール], [コントロール予算の定義], [予算定義], [相殺] を選択し、相殺ページにアクセスします。ユニット別元帳 - コミットメント コントロール オプション ページで指定されているコミットメント コントロール明細元帳グループに対して相殺勘定科目を設定します。 次のソース取引タイプには、該当する勘定科目を選択します。 • PO_POENC • REQ_PREENC

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

製品または機能	*取引タイプ*	*入力イベント ソース取引の定義済の定義*	*定義済の入力イベント プロセス*	*追加の設定要件*
売掛金管理と請求管理。	• アイテム入力。 • 入金ワークシート。 • メンテナンス ワークシート。 • 振替。 • 全手形ワークシート。 • 自動引落し。 • ユニット間/ユニット内取引。	• AR_ITEMS (アイテム)。 • AR_ITEMSIU (ユニット間/ユニット内アイテム)。 • AR_JOURNAL (直接仕訳)。	• ARDIRJRNL (AR 直接仕訳取引プロセス)。 • ARUPDATE (AR 更新プロセス)。	ARUPDATE プロセスを含む入力イベント コードを設定すると、アイテムのアイテム配布行で入力イベントを入力および処理できます。 ARDIRJRNL プロセスを含む入力イベント コードを設定すると、支払に対する直接仕訳入力として入力イベント コードを入力および処理できます。 ARUPDATE プロセスを含む入力イベント コードを設定すると、請求書の請求管理配布行で入力イベント コードを入力および処理できます。

入力イベント処理

入力イベント コードを設定した後で、取引またはドキュメントを作成し、アプリケーションの指示に従って入力イベント プロセッサを実行します。入力イベント プロセッサが実行する順序は、ユーザーが処理するドキュメントまたは取引のタイプによって異なります。入力イベント処理には次の 6 つの方法があります。

- 通常の会計取引入力イベント処理。
- PeopleSoft 購買管理ドキュメント入力イベント処理。
- コミットメント コントロール予算仕訳入力イベント処理。
- コミットメント コントロール予算締め入力イベント処理。
- コミットメント コントロール一般会計予算調整仕訳入力イベント処理。
- プロジェクト コスト管理予算入力イベント処理。

通常の会計取引入力イベント処理

ここでは、入力イベントを使用する通常の会計取引処理のステップを説明します。

1. 通常どおり、取引行を編集します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

2. 入力イベント プロセッサは、入力イベント コードに対して設定されている手順およびステップに基づいて追加の会計行を実行および生成します。

3. 取引が予算によって管理されている場合、予算プロセッサは予算レコードの更新を実行します。

4. 全ての会計行が生成されると、仕訳ジェネレータにより、買掛金取引、売掛金取引および請求取引の仕訳が作成されます。

   注: 一般会計は、オンラインの仕訳入力取引に対して仕訳行を自動生成します。

5. 一般会計の各元帳に仕訳が転記されます。

PeopleSoft 購買管理ドキュメント入力イベント処理

会計入力は、通常、調達依頼および PO に対しては生成または転記されません。ただし、コミットメント コントロール予算を使用する場合は、コミットメント コントロール機能により、調達依頼および PO がプレエンカンバランスおよびエンカンバランスとしてそれぞれ追跡されます。一般会計の該当する実績元帳に最終的に転記されるプレエンカンバランスおよびエンカンバランスの会計行を生成するように、特定の入力イベント コードを設定します。

ここでは、入力イベントを使用する購買管理ドキュメント処理のステップを説明します。

1. 調達依頼または PO を入力および編集します。

2. 予算プロセッサが実行され、ユーザーが入力した購買管理ドキュメントに基づいて、プレエンカンバランスまたはエンカンバランス予算レコードが更新されます。

   注: ドキュメントが調達依頼の場合、特定の予算に対するプレエンカンバランス金額が更新され、予算の残額も更新されます。ドキュメントが PO でプレエンカンバランス金額が既に作成されている場合、プレエンカンバランス金額は清算され、エンカンバランス金額が更新されます。

3. 入力イベント プロセッサが実行され、入力イベント コードに設定されている勘定科目に基づいて購買管理ドキュメントに対する会計行が生成されます。

4. 仕訳ジェネレータにより、会計行から仕訳が作成されます。

5. 一般会計に仕訳が転記されます。

コミットメント コントロール予算仕訳入力イベント処理

入力イベントを使用してコミットメント コントロール予算仕訳を処理するには、次の手順に従います。

1. [コミットメント コントロール], [予算仕訳], [予算仕訳入力] を選択します。

2. コミットメント コントロール予算仕訳を入力し、該当する入力イベント コードを選択します。

3. [仕訳転記] を選択して予算仕訳を編集および処理し、入力イベント プロセッサを実行します。

   コミットメント コントロール予算仕訳をオンラインで転記する場合は、このオペレータに対してユーザー基本設定 - 一般会計ページの [入力イベント処理省略] チェック ボックスが*有効になっていない*場合

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

に仕訳が転記されると、入力イベント トランザクションが作成されます。同様に、コミットメント コントロール予算仕訳をバッチ処理によって転記する場合は、ユーザーが [入力イベント処理省略] チェックボックスを選択している場合を除いて、仕訳が転記されると入力イベント トランザクションが作成されます。どちらのケースも、入力イベント処理が省略される場合は、バッチ モードで入力イベント プロセッサを実行できます。

コミットメント コントロール予算締め入力イベント処理

入力イベントを使用してコミットメント コントロール予算締めを処理するには、次の手順に従います。

1. コミットメント コントロール予算締めプロセスを実行します。
2. 入力イベント プロセッサを実行し、会計行を生成します。
3. 仕訳ジェネレータを実行し、会計仕訳を作成します。
4. ビジネス ユニットに対して設定された実績元帳に仕訳を転記します。

「コミットメント コントロール予算での入力イベントの使用」を参照してください。

コミットメント コントロール一般会計予算調整仕訳入力イベント処理

コミットメント コントロール予算のプレエンカンバランス、エンカンバランスまたは回収済収入金額を調整するには、予算調整仕訳を作成して予算金額を更新し、入力イベント コードを使用して該当する実績元帳の金額を更新します。このプロセスは、購買管理ドキュメントのプロセスに類似していますが、購買管理では元のドキュメントは調整しません。

入力イベントを使用してコミットメント コントロール予算調整を処理するには、次の手順に従います。

1. 仕訳入力を作成し (実行する調整のタイプによって異なる)、プレエンカンバランス、エンカンバランスまたは回収済収入をコミットメント コントロール金額タイプとして選択します。
2. 仕訳行を作成し、予算調整仕訳の入力イベント コードを選択します。
3. 保存した後で、オンラインまたはバッチを使用して仕訳編集を実行します。
4. 予算チェックを実行し、調整の予算レコードを更新します。

   注: たとえば、エンカンバランス金額の調整の場合、エンカンバランスの金額は、予算の残額と共に更新されます。

5. 入力イベント プロセッサを実行し、入力イベント コードに基づいて調整の会計行を生成します。
6. 仕訳ジェネレータを実行し、会計仕訳を生成します。
7. 仕訳を該当する元帳に転記します。

プロジェクト コスト管理予算入力イベント処理

プロジェクト コスト管理の入力イベントを処理するには、次の手順に従います。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

1. 一般会計のインストール オプション - 入力イベント ページで入力イベント オプションを設定します。

   注: プロジェクト コスト管理予算では、一般会計入力イベント オプションを使用して入力イベントを処理します。必須またはオプションのインストール オプションにより、プロジェクト コスト管理予算入力イベント インターフェイス プロセッサ (PC_TO_EE) の実行方法が決まります。

2. コミットメント コントロール予算定義を設定し、PC 入力イベント プロセス内の入力イベント ステップおよびコードを設定します。

   注: コミットメント コントロール プロジェクト予算定義を定義する場合は、PC ビジネス ユニットがプロジェクト ID とは別のチャートフィールドであることを確認してください。プロジェクト コスト管理予算に影響を与える、元帳と元帳グループの組合せごとにステップを定義します。

3. ユニット別元帳 - コミットメント コントロール オプション ページで、プロジェクト コスト管理予算で使用されるコミットメント コントロール元帳グループごとに入力イベント オプションを設定します。

4. プロジェクト予算アイテム - 予算アイテム調整ページの [コミットメント コントロール詳細] タブで、プロジェクト コスト管理予算行に適用可能な入力イベント コードを選択します。

5. 予算計画を保存して確定すると、正常に予算チェックされます。

プロジェクト コスト管理予算入力イベント インターフェイス プロセッサ (PC_TO_EE) は、入力イベント ジェネレータ (FS_EVENTGEN) を開始してプロジェクト コスト管理予算データを処理し、入力イベントの生成およびプロジェクト コスト管理ソース データの照会ドリルダウンをサポートする補足会計入力を生成します。

プロジェクト コスト管理予算入力イベント インターフェイス プロセッサ (PC_TO_EE) は、次の 2 つの方法で実行できます。

- 入力イベントが、ユニット別元帳 - コミットメント コントロール オプション ページで [コミットメント コントロール元帳グループ] に対して *[必須]* として指定されている場合、確定された予算計画は、コミットメント コントロール アプリケーション エンジン予算転記インターフェイス プロセス (PC_TO_KK) に対するプロジェクト コスト管理を開始し、予算が元帳に正常に転記されると、コミットメント コントロール プロセスに対するプロジェクト コスト管理の最終ステップで、プロジェクト コスト管理予算入力イベント インターフェイス プロセッサ (PC_TO_EE) プロセスが自動的に呼び出されます。

- 入力イベント仕訳会計入力の生成に失敗するか、入力イベントがユニット別元帳 - コミットメント コントロール オプション ページで [コミットメント コントロール元帳グループ] に対して *[任意]* として指定されている場合は、プロジェクト コスト管理の入力イベント予算ラン コントロール ページでプロジェクト コスト管理予算入力イベント インターフェイス プロセッサ プロセス (PC_TO_EE) を手動で実行し、予算入力イベントを再処理する必要があります。

関連リンク

Working with Entry EventsPeopleSoft Project Costing

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ソース ドキュメント調整入力および入力イベント処理

入力イベント プロセッサがドキュメントに対する取引を作成し、ユーザーがソース システムでドキュメントに変更を加える場合があります。システムによって処理される入力イベント処理はアプリケーションによって異なります。

- 買掛金管理。

  転記プロセスにより調整入力 (入力イベント コードに対して設定されている勘定科目を含む) が作成され、これらの調整が通常の会計入力として処理されます。

- 購買管理。

  購買管理では調整入力は作成されません。代わりに、入力イベント プロセッサはドキュメントの変更を逆仕訳し、ターゲット レコードに調整入力を挿入します。ドキュメント全体を再処理し、入力イベント トランザクションを再作成する必要があります。たとえば、調達依頼から作成された PO を変更する場合は、プロセスを再処理する必要があります。

- ソース レコードとしてのコミットメント コントロール。

  通常処理では、コミットメント コントロール機能により、予算チェックが実行されるたびにドキュメントに対して行の削除および挿入が行われます。コミットメント コントロール プロセッサは、入力イベント プロセス ステータスが *[未生成]* の新規行を挿入します。入力イベント プロセッサの実行時に、これらの行は再生成されます。これが前に生成されたドキュメントの場合、システムにより逆仕訳入力が挿入され、ソース レコードの行に基づいてドキュメントに対する入力イベント トランザクションが作成されるため、入力イベント会計レコードのドキュメントは逆仕訳されます。入力イベント プロセッサが調整を作成するため、ユーザーが追加で設定する必要はありません。

  注: 調整処理では、入力イベント会計レコードに追加行が作成されます。

「入力イベント処理」を参照してください。

上方調整と下方調整

PeopleSoft 入力イベントを使用して、資金の有効期限が切れた後に処理される PO および伝票の上方調整および下方調整用の予算借方勘定および貸方勘定を自動的に個別生成します。

「入力イベント コードを使用した上方調整および下方調整」を参照してください。

入力イベントのユーザー基本設定オプション

ユーザー基本設定 - 一般会計ページでこれらのチェック ボックスを選択すると、特定のユーザーが次の内容を実行できるようになります。

- 一般会計での [GL 入力イベント省略可]。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このチェック ボックスを選択すると、特定のユーザーが一般会計で仕訳入力を作成するときに必須の入力イベント フィールドへの入力を省略でき、インストール オプション - 入力イベント ページの [一般会計] の [入力イベント] フィールドが [必須] に設定されます。

- コミットメント コントロール予算の転記中の [入力イベント処理省略]。

  このチェック ボックスを選択すると、コミットメント コントロールの予算仕訳をオンラインで転記するときに入力イベント処理が省略されます。

「ユーザー基本設定 - 一般会計ページ」を参照してください。

入力イベントの設定

入力イベントを設定するには、入力イベント コード定義コンポーネント (EE_EVENT_CODE_DEFN)、入力イベント プロセス定義コンポーネント (EE_PROCESS_STEP) および入力イベント ソース定義コンポーネント (EE_SRC_DEFN) を使用します。

注: 入力イベント ソース定義、入力イベント プロセスおよびステップは、システムで事前定義されています。この設定は変更しないでください。

入力イベントの設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
入力イベント ソース定義ページ	EE_SRC_DEFN	入力イベント プロセッサによって使用されるデータ構造およびレコードで事前定義された入力イベント ソース取引定義を表示します。 ***警告*** 入力イベント ソース取引定義は変更しないでください。
入力イベント プロセス定義ページ	EE_PROCESS_STEP	同様の処理のためにプロセスによってグループ化されている一連の事前定義ステップを表示します。プロセスに含まれている取引タイプごとにステップが事前定義されています。入力イベント プロセッサにより、プロセス内の各ステップが実行されます。これらのステップを変更しないでください。BUDG および PCBUDG プロセスは例外です。詳細については、「入力イベントを使用する PeopleSoft 製品」というタイトルの表を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	定義名	用途
入力イベント コード定義ページ	EE_EVENT_CODE_DEFN	会計取引の一部としてアプリケーションの詳細配布行に選択または入力される入力イベント コードを定義します。

入力イベント ソース定義ページ

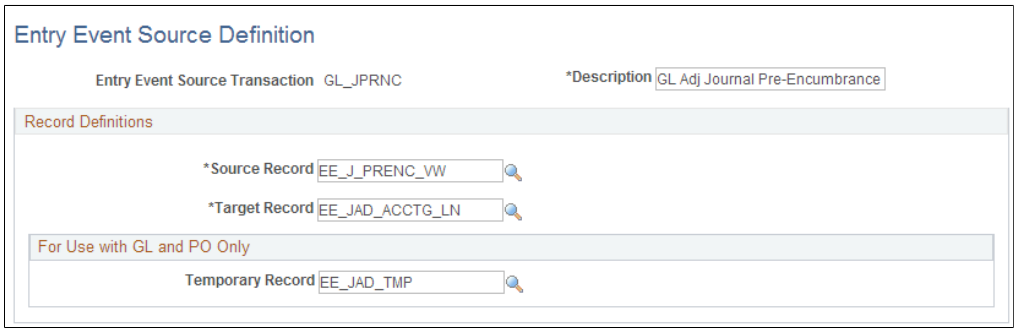
入力イベント ソース定義ページ (EE_SRC_DEFN) を使用して、入力イベント プロセッサによって使用されるデータ構造およびレコードで事前定義された入力イベント ソース取引定義を表示します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [入力イベント], [ソース], [入力イベント ソース定義]

画像: 入力イベント ソース定義ページ

次の例では、入力イベント ソース定義ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



[入力イベント ソース取引] および [説明] 処理されるドキュメントを指定します。たとえば、購買管理では、調達依頼、発注書、支払レコードおよび支払伝票会計行レコードが区別されます。

ソース レコード 関連 PeopleSoft 製品 (一般会計、買掛金管理、売掛金管理、購買管理、請求管理またはプロジェクト コスト管理) 用に元の会計入力が保管されているレコードを指定します。

ターゲット レコード 入力イベント会計取引が挿入されるレコードを指定します。

一時レコード 一般会計および購買管理で必要な一意の処理の追加レコードを指定します。一般会計では、一時レコードを使用して、仕訳行の再採番および一般会計予算調整の記録を行い、購買管理では、一時レコードを使用して、処理の取消および調整を行います。

注: 入力イベント ソース取引定義は変更しないでください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

入力イベント プロセス定義ページ

入力イベント プロセス定義ページ (EE_PROCESS_STEP) を使用して、同様の処理のためにプロセスによってグループ化されている一連の事前定義ステップを表示します。

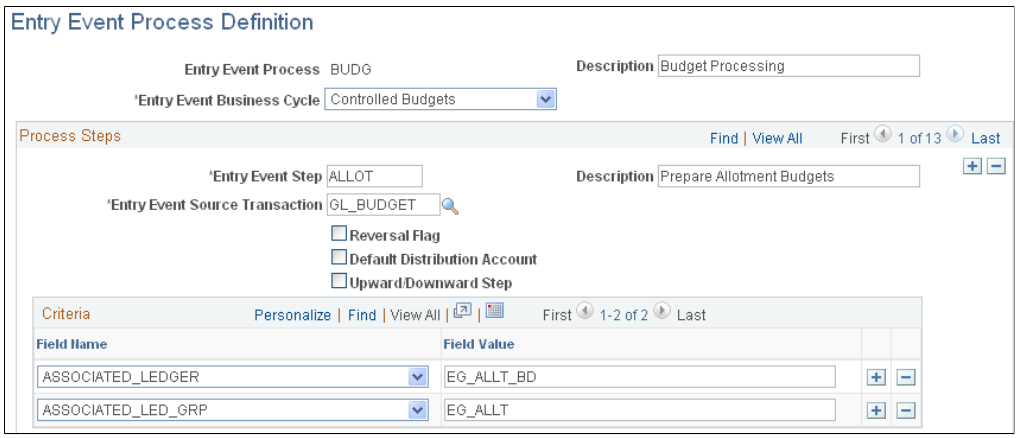
プロセスに含まれている取引タイプごとにステップが事前定義されています。入力イベント プロセッサにより、プロセス内の各ステップが実行されます。これらのステップを変更しないでください。BUDG および PCBUDG プロセスは例外です。詳細については、「入力イベントを使用する PeopleSoft 製品」というタイトルの表を参照してください。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [入力イベント], [プロセス], [入力イベント プロセス定義]

画像: 入力イベント プロセス定義ページ

次の例では、入力イベント プロセス定義ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



[入力イベント プロセス] および [説明] プロセス名および説明が表示されます。入力イベント プロセスおよびステップは、通常、事前定義されています。ただし、追加または変更された入力イベント コードに対応するため、プロセスおよびステップを変更できます。

入力イベント ステップ (入力イベント ステップ) Where 句で And 文を作成して、ソース レコードの行を選択します。

説明 入力イベント ステップの説明を入力します。

入力イベント ソース取引 ステップに関連付けるソース取引を選択します。

逆仕訳フラグ ソース取引を逆仕訳する場合に選択します。

デフォルト配布勘定科目 入力イベント コード定義ページで指定したデフォルト配布勘定科目にプロセスで転記されるようにする場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

上方/下方調整ステップ 入力イベント プロセッサが、上方および下方調整に関連付けられている入力イベント コードの処理にこのステップを使用するようにする場合に選択します。

フィールド名 システム ソース取引設定に従って定義されているソース レコードの値のリストからフィールド名を選択します。

フィールド値 フィールド値として APPL_JRNL_ID テンプレートを使用する APPL_JRNL_ID フィールドを除いて全てのフィールドの値を入力します。一般会計ビジネス ユニットの APPL_JRNL_ID 値は、実行時に選択されます。フィールド値マッピングを使用して、さまざまな行を区別して追加のエントリを作成する Where 句が作成されます。リストされている全てのフィールドでは、Where 句に And 文があります。

注: PeopleSoft システムでは、製品のサンプル データ内に、入力イベント プロセスおよびステップが用意されています。ただし、このページを使用して、プロセスとステップを追加、更新および修正できます。

入力イベント コード定義ページ

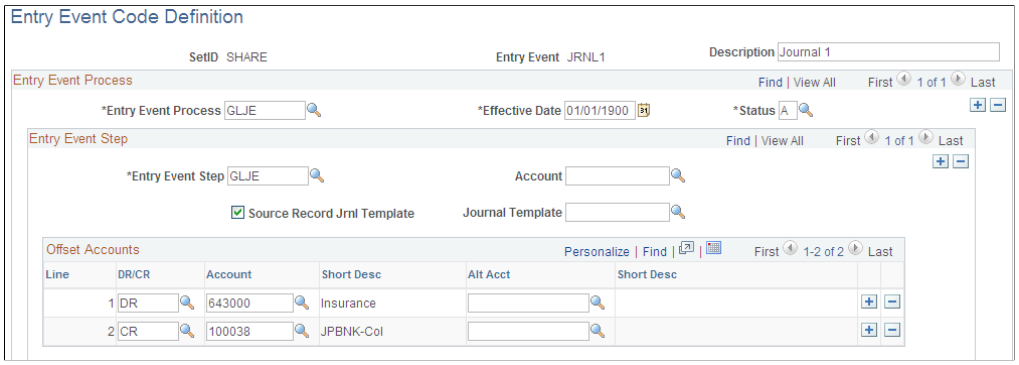
入力イベント コード定義ページ (EE_EVENT_CODE_DEFN) を使用して、会計取引の一部としてアプリケーションの詳細配布行に選択または入力される入力イベント コードを定義します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [入力イベント], [コード定義], [入力イベント コード定義]

画像: 入力イベント コード定義ページ

次の例では、入力イベント コード定義ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



セットID ビジネス ユニットおよびチャートフィールドの設定に使用したセットID と同じセットID を入力します。これにより、入力イベント処理エラーが回避されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

入力イベント

実行する入力イベント プロセスのタイプを表すコードを作成します。

説明

入力イベント コードの説明を入力します。この説明は、レポート、リストおよび照会に表示されます。

入力イベント プロセス

入力イベント コードに適用される入力イベント プロセスを選択します。

入力イベント ステップ

選択した入力イベント コードに適用されるステップを選択します。

勘定科目

入力イベント プロセス定義ページで使用するデフォルト配布勘定科目を入力します。

ソース レコード仕訳テンプレート

ソース取引で指定した仕訳ジェネレータ テンプレートを入力イベント トランザクションに対して実行する場合に選択します。一部のソース取引レコードには、転記プロセス時に入力される仕訳ジェネレータ テンプレート (APPL_JRNL_ID) があります。一部のドキュメント (予算仕訳など) では、仕訳ジェネレータ テンプレートを使用せず、このチェック ボックスを選択する必要がありません。

仕訳テンプレート

[ソース レコード仕訳テンプレート] オプションを選択しない場合は、取引に使用する仕訳テンプレートを選択する必要があります。ソース レコード仕訳テンプレートと仕訳テンプレートの両方を選択すると、エラーが表示されます。

通常、転記プログラム (伝票転記、支払転記、AR 更新) を使用して転記されるドキュメントでは、仕訳テンプレートが使用されます。転記されないその他のドキュメントには、ドキュメントに入力される仕訳テンプレートはありません。入力イベント プロセッサによって、仕訳生成できるように、入力イベント会計レコードで仕訳テンプレートが移入されます。

注: DEMO データベースには、プロジェクト コスト管理用の EE_PCBUD、購買管理用の EE_PURCH、PeopleSoft 一般会計予算トランザクション用の EE_BUDGET など、デフォルトの仕訳テンプレートが含まれています。データベースでのテンプレート設定のガイドとして、これらの仕訳テンプレートを使用できます。

相殺勘定科目

必要に応じて、勘定科目および代替勘定科目を追加して、処理時にこの入力イベント コードの借方および貸方を入力します。

借方/貸方 (借方および貸方)

入力イベント ジェネレータの実行時に自動的に生成される相殺勘定科目に対して *[借方]* または *[貸方]* を入力します。各入力

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

	イベント コードには、2 つ以上の借方/貸方ペアを関連付けることができます。
代替勘定科目	該当する場合は、代替勘定科目について借方/貸方を選択します。

注: 1 つのドキュメントの入力イベント コードを別のドキュメントにコピーする場合、この入力イベント コードが、各タイプのドキュメントに関連付けられている入力イベント プロセスの有効なコードとして定義されている必要があります。たとえば、入力イベント コードが発注書に入力され、これが支払伝票にコピー可能な場合、入力イベント コード定義には、発注書の入力イベント プロセスおよび支払伝票の入力イベント プロセスが含まれている必要があります。両方のコードが定義されていない場合、無効な入力イベント コードのため、処理エラーが発生します。

関連リンク

複数のドキュメントまたは製品での 1 つの入力イベント コードの使用

仕訳入力テンプレート - チャートフィールド ページ

入力イベント処理

このトピックでは、入力イベント プロセッサの実行方法について説明します。

入力イベントの処理に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
仕訳処理 - 入力イベント仕訳ページ	PST_EE_RUN_REQUEST	入力イベントプロセッサを実行して、予算調整仕訳入力の入力イベント プロセス GLJEADJ を処理します。 [一般会計], [仕訳], [仕訳処理], [入力イベント仕訳] の順に選択します。
入力イベント処理リクエスト ページ	PST_EE_RUN_REQUEST	入力イベントプロセッサを実行して、予算仕訳入力の入力イベント プロセス BUDG を処理します。

入力イベント仕訳ページ

入力イベント仕訳ページ (PST_EE_RUN_REQUEST) を使用して、入力イベント プロセッサを実行し、予算調整仕訳入力の GLJEADJ を処理します。

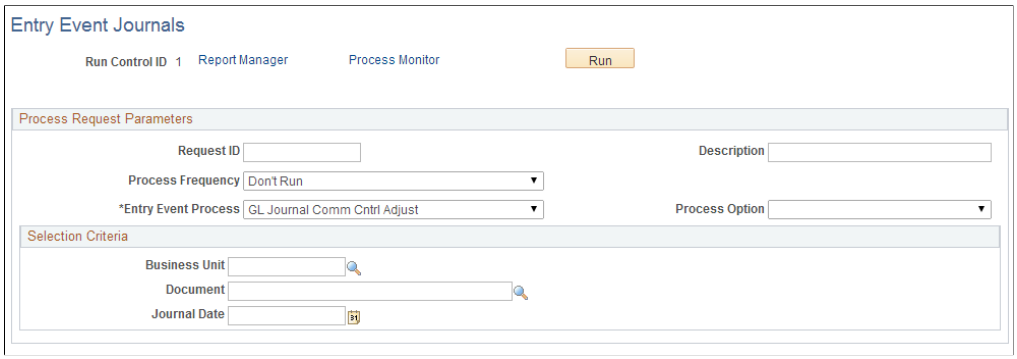
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[一般会計], [仕訳], [仕訳処理], [入力イベント仕訳]

画像: 入力イベント仕訳ページ

次の例では、入力イベント仕訳ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



入力イベント プロセス 実行するプロセスの名前を選択します。

処理オプション オプションは、次のとおりです。

全てのビジネス ユニット: このプロセスを使用する入力イベントを持つ取引を含む全てのビジネス ユニットのプロセスを実行します。

ビジネス ユニット: [選択条件] グループ ボックスでビジネス ユニットを指定して、そのビジネス ユニットに対してプロセスを実行します。

ドキュメント: [選択条件] グループ ボックスで特定のドキュメントを指定して、そのドキュメントに対してプロセスを実行します。

仕訳日 仕訳日を入力して、その日に入力イベントを処理します。このフィールドは、コミットメント コントロール予算および予算調整仕訳を処理している場合にのみ表示されます。

Creating and Processing Entry Event Journals Using GLJE Entry Event ProcessPeopleSoft General Ledger を参照してください。

入力イベント処理リクエスト ページ

入力イベント処理リクエスト ページ (PST_EE_RUN_REQUEST) を使用して、入力イベント プロセッサを実行し、予算仕訳入力の入力イベント プロセス BUDG を処理します。

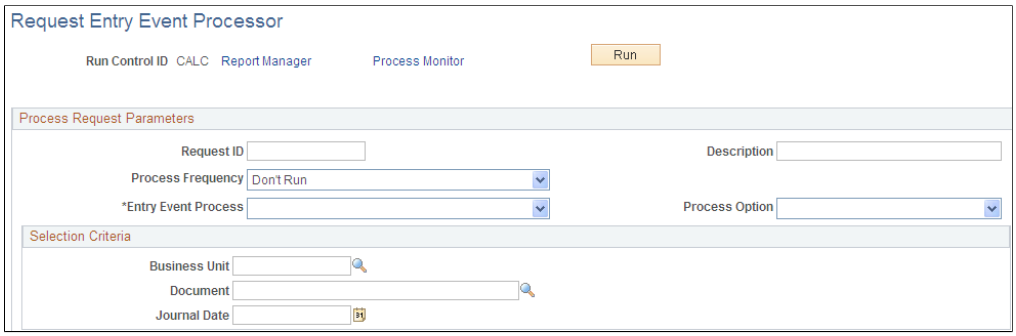
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[コミットメント コントロール], [コントロール予算仕訳の転記], [入力イベント処理リクエスト]

画像: 入力イベント処理リクエスト ページ

次の例では、入力イベント処理リクエスト ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



入力イベント プロセス 実行するプロセスの名前を選択します。

処理オプション オプションは、次のとおりです。

全てのビジネス ユニット: このプロセスを使用する入力イベントを持つ取引を含む全てのビジネス ユニットのプロセスを実行します。

ビジネス ユニット: [選択条件] グループ ボックスでビジネス ユニットを指定して、そのビジネス ユニットに対してプロセスを実行します。

ドキュメント: [選択条件] グループ ボックスで特定のドキュメントを指定して、そのドキュメントに対してプロセスを実行します。

仕訳日 仕訳日を入力して、その日に入力イベントを処理します。このフィールドは、コミットメント コントロール予算および予算調整仕訳を処理している場合にのみ表示されます。

各種アプリケーションおよびトランザクションの入力イベントの設定と処理

このトピックでは、次の方法について説明します。

- 複数のドキュメントまたは製品で 1 つの入力イベント コードを使用します。
- 調達依頼および PO の逆仕訳とクローズに入力イベントを使用します。
- 伝票、支払およびキャッシュ クリアリング取引を入力イベントを使用して処理します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 上方調整および下方調整に入力イベント コードを使用します。
- 売掛金取引および直接仕訳を入力イベントを使用して処理します。

複数のドキュメントまたは製品での 1 つの入力イベント コードの使用

複数のドキュメントまたは複数の製品で入力イベント コードを使用するには、入力イベント コード定義で各プロセスとそのステップを設定する必要があります。たとえば、PeopleSoft 支払対象調達プロセスを使用する場合は、調達依頼ドキュメントに入力イベント コードを入力するのは 1 回のみです。その後それは、各ドキュメントに対して入力イベント トランザクションを作成するプロセス全体で使用されます。ドキュメントおよび製品間で入力イベント コードを正常に移動するには、まず、支払対象調達サイクルの各プロセスで実行するために入力イベント コードを設定する必要があります。

PeopleSoft 支払対象調達サイクルは、複数のドキュメントおよびプロセスで構成されています。入力イベント処理では次のプロセスを使用します。

- REQPOST
- POPOST
- VCHRPOST
- PAYMENT

入力イベント コードを設定し、4 つ全てのプロセスに関連付ける必要があります。

「入力イベント コード定義ページ」を参照してください。

複数の PeopleSoft アプリケーションで使用する 1 つの入力イベント コードを定義する例

ここでは、複数の PeopleSoft アプリケーションに入力イベント コードを定義する方法の例を示します。

1. PROCURE 入力イベント コードを設定します。

入力イベント	PROCURE
説明	調達依頼からキャッシュ クリアリング

2. [入力イベント プロセス] グループ ボックスに、REQPOST プロセスを追加します。

入力イベント プロセス	REQPOST
発効日	1900 年 1 月 1 日
ステータス	A

3. [入力イベント ステップ] グループ ボックスに、REQPOST ステップを追加します。

入力イベント ステップ	REQPOST

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

勘定科目	696800 (例)
ソース レコード仕訳テンプレート	なし (NA)
仕訳テンプレート	EE_PURCH

4. [相殺勘定科目] グループ ボックスに、プレエンカンバランスおよび一般経費の相殺勘定科目を追加します。

借方/貸方	借方
[勘定科目] および [略称]	696700 (例) - Preenc Res
借方/貸方	貸方
[勘定科目] および [略称]	696500 (例) - GenExpOffs

5. [入力イベント プロセス] グループ ボックスに、POPOST プロセスを追加します。

入力イベント プロセス	POPOST
発効日	1900 年 1 月 1 日
ステータス	A

6. [入力イベント ステップ] グループ ボックスに、POPOST ステップを追加します。

入力イベント ステップ	POPOST
勘定科目	696800 (例)
ソース レコード仕訳テンプレート	ソース レコード仕訳テンプレートがある場合は選択します。
仕訳テンプレート	EE_PURCH

7. [相殺勘定科目] グループ ボックスに、エンカンバランスおよび一般経費の相殺勘定科目を追加します。

[借方/貸方]、[勘定科目] および [略称]	借方、696600 (例)、Enc Res
[借方/貸方]、[勘定科目] および [略称]	貸方、696500 (例)、GenExpOffs

8. [入力イベント プロセス] グループ ボックスに、VCHRPOST プロセスを追加します。

入力イベント プロセス	VCHRPOST
発効日	1900 年 1 月 1 日

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ステータス A

9. [入力イベント ステップ] グループ ボックスに、ACCRUAL ステップを追加します。

入力イベント ステップ ACCRUAL

勘定科目 696800 (例)

ソース レコード仕訳テンプレート このオプションを選択します。

仕訳テンプレート なし

10. [相殺勘定科目] グループ ボックスに、一般経費および買掛金の相殺勘定科目を追加します。

[借方/貸方]、[勘定科目] および [略称] 借方、696500 (例)、GenExpOffs

[借方/貸方]、[勘定科目] および [略称] 貸方、200000 (例)、Accts Paybl

11. [入力イベント プロセス] グループ ボックスに、PAYMENT プロセスを追加します。

入力イベント プロセス PAYMENT

発効日 1900 年 1 月 1 日

ステータス A

12. [入力イベント ステップ] グループ ボックスに、PAYMENT ステップを追加します。

入力イベント ステップ PAYMENT

勘定科目 なし

ソース レコード仕訳テンプレート このオプションを選択します。

仕訳テンプレート なし

13. [相殺勘定科目] グループ ボックスに、買掛金および銀行支払の相殺勘定科目を追加します。

[借方/貸方]、[勘定科目] および [略称] 借方、20000 (例)、Accts Paybl

[借方/貸方]、[勘定科目] および [略称] 貸方、10006 (例)、UBANK Disb

調達依頼リバーサルおよび発注リバーサルとクローズでの入力イベントの使用

PeopleSoft 購買管理の支払対象調達プロセスでは、同じ入力イベント コードを使用して、逆仕訳およびクローズを処理する方法を示しています。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

入力イベントによる調達依頼リバーサルおよびクローズ

調達依頼を作成して PO にソーシングする場合、コミットメント コントロール予算プロセッサは、プレエンカンバランス金額を調整して、エンカンバランス金額を増やします。調達依頼で生成した入力イベント会計行も逆仕訳されるように、定義済の入力イベント REQPOST プロセスには次の定義済の入力イベント ステップが含まれます。

- REQCLOSE
- REQPOST
- REQREVRSAL

調達依頼を作成して PO にソーシングする場合、コミットメント コントロール予算プロセッサは、予算のプレエンカンバランス金額を調整して、予算のエンカンバランス金額を増やします。

また、これは、REQREVRSAL ステップを既存の入力イベント プロセス REQPOST に追加した場合、入力イベント トランザクションで行われます。これにより、借方勘定および貸方勘定の設定が正しく行われるため、プレエンカンバランスの所有者勘定科目が貸方記帳され、一般経費の相殺が借方記帳されます。

入力イベント プロセッサは、PO に一部がソーシングされていないクローズされた調達依頼に対する締め入力も作成します。REQPOST プロセスに REQCLOSE ステップを設定する必要があります。同様に、REQREVRSAL ステップに借方勘定および貸方勘定を設定し、プレエンカンバランスの所有者勘定科目を貸方記帳し、一般経費の相殺を借方記帳します。

調達依頼に対する逆仕訳およびクローズの入力イベント トランザクションを作成するには、PO を作成して予算チェックを行った後に、調達依頼の入力イベント プロセッサを実行する必要があります。入力イベント プロセッサは、全てのビジネス ユニット、調達依頼のビジネス ユニット、またはユーザーが作成した特定の調達依頼に対して実行できます。[購買管理], [調達依頼], [調達依頼情報の確認], [会計入力] を選択し、会計入力照会を使用して全ての入力、入力イベントの逆仕訳および調達依頼のクローズを確認します。

逆仕訳プロセスとクローズ プロセスの例外

ここでは、逆仕訳プロセスおよびクローズ プロセスの使用におけるいくつかの例外を説明します。

- 調達依頼からソーシングされている PO のクローズ。

  調達依頼を PO にソーシングし、PO をキャンセルまたはクローズする場合は、調達依頼をオープンにしたまま、別の PO にソーシングできます。調達依頼がオープンになっている場合は、調達依頼が別の PO にソーシングされ、PO が予算チェックされるまで、逆仕訳またはクローズの入力イベント トランザクションは作成できません。ただし、調達依頼をクローズした場合は、逆仕訳入力および締め入力が作成されます。

- 調達依頼に対する入力イベントを処理しない PO のクローズ。

  購買管理の入力イベント プロセスではコミットメント コントロール プロセッサの出力が使用されるため、ソース ドキュメント (PO または調達依頼) の予算チェックを行い、入力イベント プロセッサを実行するまで、入力イベント トランザクションは変更されません。まれに、調達依頼を作成して予算チェッ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

クを行い、PO にソーシングしてから PO の予算チェックを行い、調達依頼で入力イベント プロセッサを実行せずに PO をクローズしようとする場合があります。調達依頼で入力イベント プロセッサを実行するまで、PO はクローズできません。

- 伝票への PO のコピー。

  購買プロセスでは、PO とその関連付けられた入力イベント コードを伝票にコピーできます。ただし、入力イベント コードの設定には、システムの VCHRPOST プロセスを含め、伝票を転記するときに入力イベント トランザクションを作成する必要があります。入力イベント コードを伝票にコピーして買掛金で処理するかどうかに関係なく、伝票を予算チェックする場合は、コピーされた PO に対して逆仕訳入力および締め入力を作成できます。コピーした PO の配布行で使用される入力イベント コードに、POPOST プロセスに定義された POREVERSAL ステップおよび POCLOSE ステップが含まれる場合は、PO に対して締め入力および逆仕訳入力を作成できます。

- PO に対する入力イベントを作成しない伝票のクローズまたは確定。

  PO への調達依頼のソーシングと同様に、入力イベント プロセッサは、コミットメント コントロール プロセッサの出力を使用して入力イベント トランザクションを作成します。PO で入力イベント プロセッサを実行するまで、PO から作成した伝票はクローズまたは確定できません。まれに、PO を作成して予算チェックを行い、伝票にコピーしてから伝票の予算チェックを行う場合があります。PO で入力イベント プロセッサを実行せずに伝票をクローズしようとすると、PO での入力イベント プロセッサの実行を要求するエラーが発生します。

入力イベントを使用した伝票取引、支払取引およびキャッシュ クリアリング取引の処理

入力イベントを設定し、伝票、支払およびキャッシュ クリアリングに対する取引を作成できます。定義済の VCHRPOST、PAYMENT および CASHCLRNG のプロセスおよびステップを含む入力イベント コードを設定する必要があります。入力イベント コードに対して作成する入力イベント トランザクションに応じて、各プロセスに異なるステップを設定する必要があります。入力イベント コードに CASHCLRNG プロセスを設定しない場合があります。次のプロセスおよびステップを設定し、見積請求書入力を作成できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プロセス	*ステップ*
VCHRPOST	• ACCRUAL (支払伝票計上)。 • DRAFTS (手形計上)。 • PREPAYMNT (前払)。 • USETAX (税負債)。 • VCHCLOSE (支払伝票クローズ)。 • WITHHOLD (源泉徴収)。 • ACIUP (計上/ユニット間買掛金)。 • ACIUPCLS (計上/ユニット間買掛金キャンセル)。 • ACIUR (計上/ユニット間売掛金)。 • ACIURCLS (計上/ユニット間売掛金キャンセル)。 • ACUAP (計上/ユニット内買掛金)。 • ACUAPCLS (計上/ユニット内買掛金キャンセル)。 • ACUAR (計上/ユニット内売掛金)。 • ACUARCLS (計上/ユニット内売掛金キャンセル)。 • ACRUP (計上/上方調整)。 • ACRDN (計上/下方調整)。 • DNADJUST (下方返金回収調整)。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プロセス	*ステップ*
PAYMENT	• DISCGAIN (割引利益)。 • CDISCGAIN (割引利益キャンセル)。 • DISCLOST (割引損失)。 • CDISCLOST (割引損失キャンセル)。 • LATEINT (支払遅延金)。 • CLATEINT (支払遅延金キャンセル)。 • PAYMENT (支払)。 • CPAYMENT (支払キャンセル)。 • PYMNTINP (支払/ユニット内買掛金)。 • CPYMNTINP (支払/ユニット内買掛金キャンセル)。 • PYMNTINR (支払/ユニット内売掛金)。 • CPYMNTINR (支払/ユニット内売掛金キャンセル)。 • PYMNTISP (支払/ユニット間買掛金)。 • CPYMNTISP (支払/ユニット間買掛金キャンセル)。 • PYMNTISR (支払/ユニット間売掛金)。 • CPYMNTISR (支払/ユニット間売掛金キャンセル)。 • PYMNTCAC (支払キャッシュ クリアリング)。 • CPYMNTCAC (支払キャッシュ クリアリング キャンセル)。 **注:** 最後の 2 つのステップは、キャッシュ クリアリングを使用する PAYMENT プロセスに含まれています。
CASHCLRNG	CASHCLR (キャッシュ クリアリング)。

伝票を作成して予算チェックを行うと、伝票転記と同時に入力イベント ジェネレータを実行して入力イベントトランザクションを生成するか、[買掛金管理], [バッチ処理], [支払伝票], [支払伝票入力イベント] を選択して、個別に入力イベントトランザクションを生成できます。買掛金支払伝票転記プロセスでは、VCHRPOST プロセスに含まれるステップで作成する前に、入力イベントトランザクションを作成する必要があります。

支払伝票には、支払会計情報が含まれます。伝票に入力イベント コードを入力するか、入力イベント コードを PO から伝票にコピーする場合は、その伝票に対して作成された支払にコードが転記されます。伝票から支払を作成すると、支払転記と同時に入力イベント ジェネレータを実行して入力イベントトランザクションを生成するか、[買掛金], [バッチ処理], [支払], [支払入力イベント] を選択して、個別に入力イベ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ントトランザクションを生成できます。買掛金支払転記プロセスでは、PAYMENT プロセスに含まれるステップで作成する前に、入力イベントトランザクションを作成する必要があります。買掛金を使用する場合、入力イベント コードに関連付けられた PAYMENT プロセスにキャッシュ クリアリング ステップを設定し、支払入力イベントトランザクションを作成する必要があります。

買掛金にキャッシュ クリアリングを設定し、入力イベント キャッシュ クリアリング入力を作成する場合、CASHCLRNG プロセスおよび CASHCLR ステップに入力イベント コードを関連付ける必要があります。CASHCLRNG プロセスに入力イベント コードが関連付けられている場合、全ての照合済支払は入力イベントトランザクションを作成します。システムで入力イベント プロセッサを実行し、キャッシュ クリアリング プロセスと同時に入力イベントトランザクションを生成するか、[買掛金], [バッチ処理], [支払], [キャッシュ クリアリング入力イベント] を選択して、個別に入力イベントトランザクションを生成できます。

関連リンク

入力イベント プロセス定義ページ
入力イベント コード定義ページ

入力イベント コードを使用した上方調整および下方調整

次の場合は、資金の有効期限が切れた後に処理される PO および伝票に対する米国連邦政府の調整用に予算借方勘定および貸方勘定を自動的に個別生成する必要があります。

- 資金の有効期限が切れている期間に既存の PO が増減する場合。
- 資金の有効期限が切れていて、商品、サービスまたは請求書を受領していない期間に新規 PO が入力される場合。
- 資金の有効期限が切れている期間に PO 金額の異なる伝票が既存の PO に対して処理される場合。
- 資金の有効期限が切れている期間に PO に関連付けられていない伝票が入力される場合。
- 資金の有効期限が切れている期間に調整伝票が入力される場合。

このセクションでは、次の事項について説明します。

- PeopleSoft 購買管理および買掛金管理における上方調整および下方調整のための入力イベント定義。
- PeopleSoft 購買管理での上方調整および下方調整。
- PeopleSoft 買掛金管理での上方調整および下方調整。
- 上方調整および下方調整の逆仕訳。

これらの予算借方勘定および貸方勘定を生成するには、PO に調整を入力するとき、または定義済の入力イベント ソース取引定義および定義済の入力イベント プロセスとステップを指定する PO 伝票を入力するときに入力イベント コードを選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

有効期限切れ資金期間にこれらの上方調整および下方調整を入力して処理するには、まず、次の内容を実行する必要があります。

- 予算に有効期限チャートフィールドを設定します。

  [コミットメント コントロール], [コントロール予算の定義], [予算定義], [有効期限チャートフィールド]に移動し、有効期限チャートフィールド ページにアクセスします。このページに入力した情報により、ドキュメントに対して予算プロセッサを実行するときに資金の有効期限が切れているかどうかが判断されます。

- 購買管理または買掛金管理で使用する入力イベント データを作成し、資金の有効期限が切れている場合に調整用の予算借方勘定または貸方勘定を自動的に生成および更新します。

- 購買管理または買掛金管理の上方調整および下方調整を入力および処理するユーザーに、失効年度資金の予算チェック エラーを上書きする権限があることを確認します。

「ユーザー基本設定 - 一般会計ページ」を参照してください。

「入力イベント ページ」を参照してください。

PeopleSoft 購買管理および買掛金管理における上方調整および下方調整のための入力イベント定義

予算定義 - 有効期限チャートフィールド ページにアクセスします ([コミットメント コントロール]、[コントロール予算の定義]、[予算定義]、[有効期限チャートフィールド])。

購買管理および買掛金管理で予算勘定科目調整を作成する入力イベントを使用する方法は次のとおりです。

1. 次の入力イベント ソース定義が存在することを確認します。

   警告 これらの値は定義済であるため、変更しないでください。

入力イベント ソース定義	*説明*	*ソース レコード*	*ターゲット レコード*	*一時レコード*
PO_POADJUP	発注書上方調整。	EE_PO_UP_VW	EE_PO_ACCTG_LN	EE_PO_TMP
PO_POADJDN	発注書下方調整。	EE_PO_DN_VW	EE_PO_ACCTG_LN	EE_PO_TMP
AP_VCHADJ	支払伝票上方調整または下方調整。	EE_VCH_TMP	EE_VCH_ACCTG_LN	なし

2. 次の入力イベント プロセス ステップがこれらの入力イベント プロセスに存在することを確認します。

   警告 これらの値は定義済であるため、変更しないでください。

 Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

入力イベント プロセス	*プロセス ステップ*	*プロセス ステップの説明*	*プロセス ステップの特性*
POPOST	POUP	発注書上方調整。	• 入力イベント ソース取引: PO_POADJUP。 • フィールド名および値: BALANCING_LINE、*Y*。 • フィールド名および値: CLOSED_VALUE、*N*。
POPOST	PODN	発注書下方調整。	• 入力イベント ソース取引: PO_POADJDN。 • フィールド名および値: BALANCING_LINE、*Y*。
VCHRPOST	ACRDN	支払伝票下方調整。	• 入力イベント ソース取引: AP_VCHADJ。 • フィールド名および値: DST_ACCT_TYPE、*APA*。 • フィールド名および値: POSTING_PROCESS、*ACCR*。
VCHRPOST	ACRUP	支払伝票上方調整。	• 入力イベント ソース取引: AP_VCHADJ。 • フィールド名および値: DST_ACCT_TYPE、*APA*。 • フィールド名および値: POSTING_PROCESS、*ACCR*。

3. ユーザー独自の入力イベント コードの設定基準として、定義済の上方調整および下方調整の入力イベント コードを使用します。

PeopleSoft 購買管理での上方調整および下方調整の処理

このセクションでは、購買管理で上方調整および下方調整を処理する方法について説明します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

発注書上方調整および下方調整は、失効年度資金に適用される PO への変更によって開始されます。

次に、重要な考慮事項をいくつか示します。

- 発注ヘッダー ページに入力される会計処理日は、実際の入力イベント トランザクションの会計処理日に使用されます。

  発注書配布行の予算日付は、有効期限切れ資金チャートフィールドの日付に対してチェックされます。会計処理日を変更すると、予算日付が変更され、資金が失効年度であるかどうかに影響を与える可能性があります。

- PO に失効年度資金が含まれ、本年度、予算チェックは行ったが、入力イベントが生成されていない場合、調整金額の計算は、現在の予算チェック済発注金額から本年度の予算チェック済最終金額を引いて行われます。

- PO に失効年度資金が含まれ、本年度、予算チェックが行われていない場合は、調整の必要はありません。

Purchasing Options PagePeopleSoft Purchasing を参照してください。

PeopleSoft 購買管理ドキュメントUnderstanding the Requisition Business ProcessPeopleSoft Purchasing の「Creating Requisitions Online」を参照してください。

例を示します。有効期限切れ資金に対して 7,000.00 USD の PO 1 と呼ばれる既存の PO があるとします。契約価格を調整するため、PO を 8,600.00 USD に増額します。組織は、商品、サービスまたは請求書を受領していません。これは、PO の上方調整となります。

上方調整するために PO を入力および処理するには、次の手順に従います。

1. 1,600.00 USD の上方調整変更オーダーを PO #1 に入力します。
2. PO の変更オーダーを承認します。

   コミットメント コントロール予算プロセッサは、有効期限チャートフィールドをチェックし、この変更が失効年度資金に適用されるかどうかを確認します。資金年度が失効している場合、予算プロセッサはエラーを発行して処理を中止します。
3. 予算エラー メッセージを確認します。
4. 資金年度が失効しているため予算チェックに失敗したというエラー メッセージが表示された場合は、予算エラーを上書きします。
5. 予算プロセッサを再実行し、予算情報が有効であることを確認します。
6. 予算が有効になったら、入力イベント プロセッサを実行し、入力イベントを生成します。

   PO の現在の金額と入力イベント会計行レコードに転記された行との差額がシステムで計算されます。

注: ユーザーの標準総勘定元帳の予算勘定科目は、この例で使用する勘定とは異なる場合があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

この例では、入力イベント プロセッサが次の予算会計行を生成します。

- 4650 (割当 - 失効済承認額) - $1,600.00。
- 4881 (前年度未払未消費失効上方調整) - <$1,600.00>。
- 所有者会計入力: NONE。

PeopleSoft 購買管理ドキュメントUnderstanding the Requisition Business ProcessPeopleSoft Purchasing の「Creating Requisitions Online」を参照してください。

PeopleSoft 買掛金管理での上方調整および下方調整の処理

このセクションでは、買掛金に対して上方調整および下方調整を処理する方法について説明します。

買掛金伝票の上方調整は次の場合に作成されます。

- 発注伝票が PO を超えている場合。
- 伝票に PO は関連付けられていないが、失効年度資金が含まれている場合。
- 発注伝票が PO を下回り、最終とマークされている場合。

次に、重要な考慮事項をいくつか示します。

- 伝票がヘッダー レベルで確定されている場合、伝票の全ての伝票配布行は調整が可能です。
- 伝票が行レベルで確定されている場合、行に対する全ての伝票配布は調整が可能です。
- 伝票が配布レベルで確定されている場合、最終とマークされている配布のみ調整が可能です。
- PO が失効年度資金に含まれ、伝票が有効期限切れ資金に含まれる場合、伝票の調整は必要ありません。
- 伝票が PO から作成されておらず、伝票が有効期限切れ資金に含まれる場合、伝票の全額を調整する必要があります。
- PO が有効資金に含まれ、伝票が有効資金 (今年) に含まれる場合、伝票の調整は必要ありません。

注: ユーザーの標準総勘定元帳の予算勘定科目および所有者勘定科目は、これらの例で使用する勘定科目とは異なる場合があります。

例を示します。有効期限切れ資金に対して 8, 600.00 USD の PO が存在するとします。PO に対して 9,000.00 USD の発注伝票が作成されました。

次の手順を使用して、上方調整するための伝票を入力および処理します。

1. 9,000.00 USD の発注伝票が買掛金に入力され、失効年度資金に適用されることを確認します。
2. 予算プロセッサで発注伝票がエラーになります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

3. 予算チェックに失敗し、伝票が有効期限切れ資金年度に適用されることを示す、伝票の予算チェック エラーを発行します。
4. この伝票の予算チェックを上書きします。
5. 予算チェックを再実行し、伝票の予算ステータスが有効であることを確認します。
6. 入力イベント プロセッサを実行し、会計入力を生成します。

   プロセッサは伝票と PO の差額を計算し、予算入力を上方調整します。

次の予算入力が生成されます。

- 4650 (割当 - 失効済承認額) - 400.00 USD
- 4881 (前年度未払未消費失効上方調整) - <400.00> USD
- 4801 (未消費債務 - 未払) - 9,000.00 USD
- 4901 (未消費承認額) <9,000.00> USD

次の所有者入力が生成されます。

- 6100 (営業経費) - 9,000.00 USD
- 2110 (買掛金) - <9,000.00> USD
- 3100 (未消費支出) - 9,000.00 USD
- 5700 (消費済支出) - <9,000.00> USD

買掛金伝票の下方調整は、次の特性が伝票に適用される場合に作成されます。

- 発注伝票が PO を下回っている場合。
- 伝票に失効年度資金が含まれる場合。
- 伝票が最終とマークされている場合。

たとえば、有効期限切れ資金に対して 4,700.00 USD の PO が存在するとします。2,700.00 USD の PO に対して発注伝票が処理されます。

次の手順を使用して、下方調整するための伝票を入力および処理します。

1. 2,700.00 USD の発注伝票が買掛金に入力され、失効年度資金に適用されることを確認します。
2. PO 金額が伝票金額より大きいため、コミットメント コントロール予算プロセッサはエラーを発行せず、予算チェックをパスします。
3. 入力イベント プロセッサを実行し、次の会計入力を生成します。

   プロセッサは伝票と PO の差額を計算し、予算入力を下方調整します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

次の予算入力が生成されます。

- 4871 (前年度未払未消費失効下方調整) - 2000.00 USD
- 4650 (割当 - 失効済承認額) - <2000.00> USD
- 4801 (未消費債務 - 未払) - 2,700.00 USD
- 4901 (未消費承認額) <2,700.00> USD

次の所有者入力が生成されます。

- 6100 (営業経費) - 2,700.00 USD
- 2110 (買掛金) - <2,700.00> USD
- 3100 (未消費支出) - 2,700.00 USD
- 5700 (消費済支出) - <2,700.00> USD

Entering Regular VouchersPeopleSoft Payables の「Entering and Processing Vouchers Online: General Voucher Entry Information」を参照してください。

上方調整および下方調整の逆仕訳

このセクションでは、上方調整および下方調整の逆仕訳をシステムで処理する方法について説明します。

調整を生成した入力イベントの逆仕訳処理は、伝票が転記され、次の内容が実行される場合に必要です。

- 伝票の転記が取り消され、伝票に対して作成された調整が取り消される場合。
- 伝票が部分化され、次に基づいて伝票が取消処理の対象として選択された場合。
    - 伝票の予算チェックが行われ、失効年度資金に含まれるかどうか。
    - 伝票が少なくとも一度転記されているか。
    - 伝票が配布レベルで部分化されているか。

      その場合、処理された最終配布のみ調整が可能です。

関連リンク

Understanding Entering and Posting Commitment Control Budget JournalsPeopleSoft Commitment Control
Understanding Basic Commitment Control SetupPeopleSoft Commitment Control
Entering Regular VouchersPeopleSoft Payables
Understanding the Purchase Order Business ProcessPeopleSoft Purchasing

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

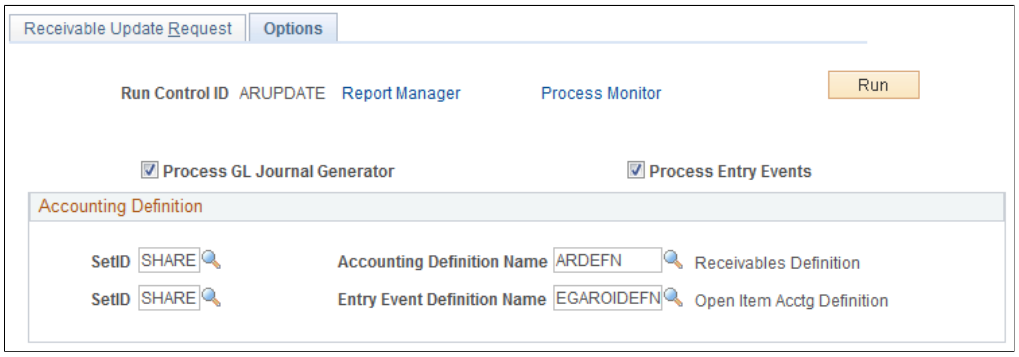
入力イベントを使用した売掛金取引および直接仕訳の処理

入力イベントを設定し、アイテム、支払、クレジット カード、手形、自動引落しおよび直接仕訳に対する取引を作成できます。定義済の ARUPDATE および ARDIRJRNL のプロセスおよびステップを含む入力イベント コードを設定する必要があります。

直接仕訳以外の全ての売掛金取引の場合、AR 転記ジョブ、売掛金更新 (ARUPDATE) の一部として入力イベント プロセスを実行できます。[売掛金管理], [売掛金更新], [売掛金更新リクエスト] に移動します。ラン コントロール リクエストの売掛金更新 - オプション ページで、[入力イベント処理] チェック ボックスを選択すると、ARUPDATE の実行後に入力イベント プロセスが自動的に実行されます。また、オプション ページを使用して、仕訳ジェネレータを自動的に実行し、GL 仕訳を作成できます。標準入力の会計処理定義名 (*ARDEFN*) を入力する必要があり、補足 (入力イベント) 入力の GL 仕訳を作成する場合は、[入力イベント定義名] フィールドに *EGAROIDEFN* を入力します。

画像: 売掛金更新の一部として入力イベント プロセスを実行するオプション ページの例

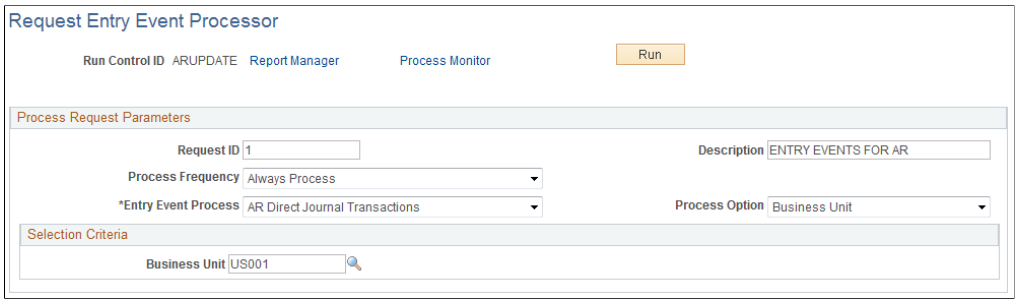
次の例では、売掛金更新の一部として入力イベント プロセスを実行するオプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



直接仕訳を含む全ての売掛金取引の場合、入力イベント処理リクエスト ページ (PST_EE_RUN_REQUEST) でスタンドアロン プロセスとして入力イベント プロセスを実行できます。[売掛金管理], [売掛金更新], [入力イベント処理リクエスト] に移動します。

画像: 直接仕訳を含む売掛金取引を実行する入力イベント処理リクエスト ページの例

次の例では、直接仕訳を含む売掛金取引を実行する入力イベント処理リクエスト ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



直接仕訳取引の場合、入力イベント プロセッサは、入力イベント入力を作成する前に一般会計に仕訳が正常に転記されることを想定しています。直接仕訳のプロセス フローは次のとおりです。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

1. 直接仕訳を入力し、完了とマークします。
2. (オプション) 必要に応じて予算プロセッサを実行します。
3. 仕訳ジェネレータを実行し、会計処理定義 ARDIRJRNL を使用して GL 仕訳を生成します。
4. 入力イベント プロセッサを実行します。
5. 仕訳ジェネレータを実行し、会計処理定義 EGARDJDEFN を使用して入力イベント入力に対する GL 仕訳を生成します。

会計入力修正ページを使用して、直接仕訳の標準および補足 (入力イベント) 会計入力の両方を表示できます。

Journaling Payments Directly to the General LedgerPeopleSoft Receivables を参照してください。

仕訳入力ドリル ダウン ページを使用して、標準および補足 (入力イベント) 会計入力の両方の GL 仕訳を表示できます。

Reviewing the Source Accounting Entries for Journal LinesPeopleSoft Receivables を参照してください。

コミットメント コントロール予算での入力イベントの使用

このトピックでは、前提条件と次の方法について説明します。

- 入力イベントを使用するコミットメント コントロール予算仕訳を設定および処理します。
- 入力イベントを使用する親予算、調整および振替の自動生成を設定します。
- 入力イベントを使用してコミットメント コントロール予算を設定およびクローズします。

前提条件

コミットメント コントロール予算で入力イベントを使用するには、先にコミットメント コントロールを設定する必要があります。

注: 入力イベント機能は、資金ソース機能ではサポートされていません。

Setting Commitment Control OptionsPeopleSoft Commitment Control、Setting Commitment Control Installation OptionsPeopleSoft Commitment Control を参照してください。

入力イベントを使用するコミットメント コントロール予算仕訳の設定および処理

予算仕訳に入力イベント コードを入力して、入力イベント トランザクションを作成できます。PeopleSoft システムには定義済の BUDG 入力イベント プロセスとその関連付けられたステップが用意されていますが、予算元帳および予算元帳グループ名に応じて既存のステップの変更が必要になる場合があります。BUDG プロセスには次のステップが含まれています。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プロセス	*ステップ*
BUDG	• ALLOT (割当予算準備)。 • APPORT (配分予算準備)。 • APPR XFER (支出予算移動)。 • APPROP (支出予算準備)。 • ORG (業務計画設定)。 • CORG (業務計画クローズ)。 • ORG XFER (組織移動)。 • PRJGRT IND (グラント間接費予算準備)。 • PROJ_GRT (プロジェクト/グラント予算準備)。 • REVEST (収入見積準備)。 • RORG (業務計画繰越)。 • CHILD (子予算)。 • PARENT (親予算)。

定義済のプロセスには、入力イベント ステップごとに 2 つのフィールドがあります。入力イベント予算仕訳の元帳および元帳グループ名は、これらの各ステップのフィールド値として表示される必要があります。そのため、ステップの定義済のフィールド値を変更し、組織の予算元帳および元帳グループ名の値と置き換える必要がある場合があります。定義済のフィールド名は次のとおりです。

- ASSOCIATED_LEDGER
- ASSOCIATED_LED_GRP

たとえば、元帳グループ CC_ORG および元帳 CC_ORG_BUD を使用する予算仕訳の入力イベント トランザクションを作成するには、定義済の入力イベント プロセス BUDG および入力イベント ステップ ORG の入力イベント プロセス定義ページ ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[共通定義]、[入力イベント]、[プロセス]、[入力イベント プロセス定義]) にアクセスし、次を実行します。

1. [フィールド名] および [フィールド値] グループ ボックスまでスクロールします。
2. フィールド名 ASSOCIATED_LEDGER の横にフィールド値 CC_ORG_BUD を入力します。
3. フィールド名 ASSOCIATED_LED_GRP の横にフィールド値 CC_ORG を入力します。

   重要 フィールド名は変更しないでください。

4. 新規入力イベント コード (BUDG 1 など) を作成するか、セットID FEDRL の定義済の入力イベント コード BUDGPOST を選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

5. 入力イベント コード定義ページ ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[共通定義]、[入力イベント]、[コード定義]、[入力イベント コード定義]) にアクセスします。

    - 定義済の入力イベント コード BUDGPOST を変更する場合は、相殺勘定科目を組織の勘定科目に変更します。
    - 新規入力イベント コードを作成する場合は、次の情報を追加して組織の該当する勘定科目を入力します。

入力イベント プロセス	BUDG
発効日	1900 年 1 月 1 日
ステータス	A
入力イベント ステップ	ORG
勘定科目	なし
ソース レコード仕訳テンプレート	なし
仕訳テンプレート	EE_BUDGET
相殺勘定科目	ユーザー定義

注: 組織で使用する予算のタイプごとにステップを追加する必要があります。BUDG プロセスではこれらのステップは定義済です。

関連リンク

Understanding Entering and Posting Commitment Control Budget JournalsPeopleSoft Commitment Control

入力イベント プロセス定義ページ

入力イベント コード定義ページ

入力イベントを使用する親予算、調整および振替の自動生成の設定

入力イベントは、元の子予算仕訳、調整仕訳および振替仕訳からの親予算の自動生成によってサポートされています。

入力イベントの使用および親予算の自動生成は、予算仕訳の転記を処理するコミットメント コントロールのトピックで説明しています。

Generate Parent Budgets, Budget Adjustments, and Budget Transfers AutomaticallyPeopleSoft Commitment Control を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

入力イベントを使用したコミットメント コントロール予算の設定およびクローズ

コミットメント コントロール予算をクローズする場合は、予算締め処理プロセスで予算元帳に転記される予算仕訳を作成します。通常、その期間の予算残高をクローズするか、次の会計年度および期間に残高を繰り越すかを選択します。どちらの場合も、予算締め処理プロセスで予算仕訳が作成されます。[インストール オプション] で入力イベントを有効にした場合、予算のクローズ時に入力イベント コードを選択することができます。調整期間に予算仕訳が作成され、予算仕訳調整期間に入力イベント プロセッサにより締め入力も作成されます。これらの会計入力に対して仕訳ジェネレータを実行した場合、指定された元帳に予算仕訳調整期間日付で転記されるように、調整期間が保持されます。

このトピックでは、次の方法について説明します。

- コミットメント コントロール予算締め処理の入力イベントを設定します。
- コミットメント コントロール予算締め処理で入力イベントを処理します。

コミットメント コントロール予算締め処理の入力イベントの設定

コミットメント コントロール予算締め処理の入力イベントを設定するには、次の手順に従います。

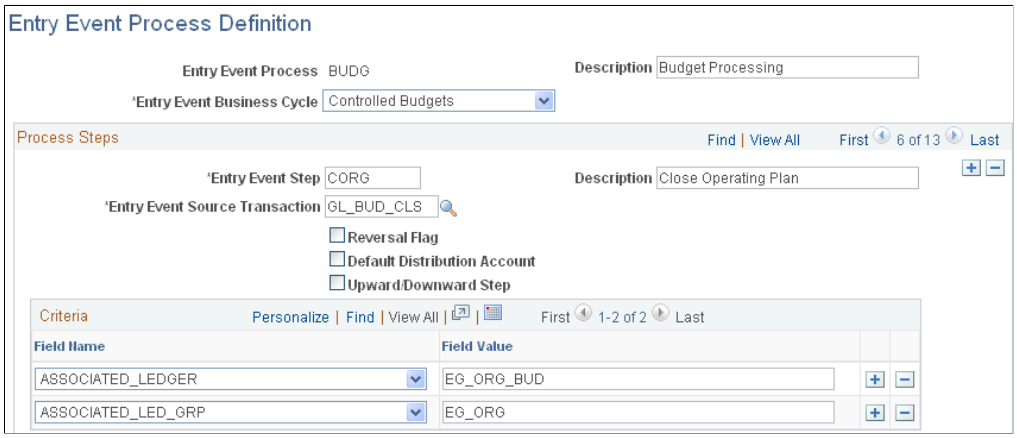
1. 入力イベント ソース取引に基づいて、次の 2 つの入力イベント ステップを含む入力イベント プロセス BUDG を設定します。
    - ステップ CORG の GL_BUD_CLS
    - ステップ RORG の GL_BUDROLL
2. 該当する元帳グループおよび元帳を関連付けます。
3. プロセス BUDG の入力イベント コード (CLOSEYEAR など) を作成し、次のステップを追加します。
    - CORG
    - RORG
4. 入力イベント ステップごとに予算締め処理会計入力を転記する勘定科目を追加します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: サンプルの入力イベント プロセス定義ページ ([ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[共通定義]、[入力イベント]、[プロセス]、[入力イベント プロセス定義]) を参照してください。

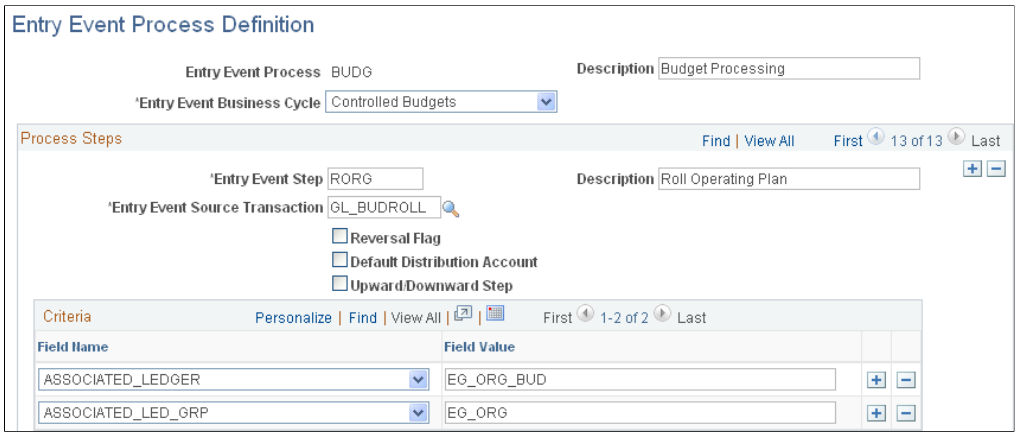
画像: 入力イベント プロセス定義ページ - 予算締め処理ステップ

次の例では、入力イベント プロセス定義ページ - 予算締め処理ステップのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



画像: 入力イベント プロセス定義ページ - 繰越ステップ

次の例では、入力イベント プロセス定義ページ - 繰越ステップのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



コミットメント コントロール予算締め処理での入力イベントの処理

例:

1. 2011 年度の予算: 1000.00 USD。
2. 消費済: 400.00 USD。
3. 残額: 600.00 USD。
4. 入力イベント コード: CLOSEYEAR。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 入力イベント ステップ: CORG および科目 4610 (借方) および 4510 (貸方)。
- 入力イベント ステップ: 科目 4510 (借方) および 4610 (貸方) に対する RORG。

この例に基づいて、コミットメント コントロール予算締め処理プロセスを実行した後で、入力イベント プロセッサを選択してこれらの会計行を生成すると、仕訳ジェネレータでは、これらを使用して、入力イベント プロセス定義ページで指定された元帳および元帳グループに転記される仕訳が作成されます。

勘定科目	***会計年度***	***会計期間***	***金額***
4610	2011	998	600.00 USD
4510	2011	998	<600.00> USD
4510	2012	0	600.00 USD
4610	2012	0	<600.00> USD

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第17章

代替勘定科目の使用

代替勘定科目について

このセクションでは、概要の他に次についても説明します。

- 代替勘定科目のマッピングおよびセットID の共有。
- 前提条件。

PeopleSoft では、多国籍組織の会計要件およびレポート要件に適したオプション機能として、アプリケーションに代替勘定科目の機能を提供しています。多国籍組織とは、法定またはローカルの勘定科目チャート ルールとレポート ルールが必須である複数の地域、管轄、または国で操業している組織です。

代替科目勘定を使用することによって、供給アプリケーション内と同様に、一般会計の明細トランザクション レベルで法定 (ローカル) 勘定科目値および法人 (内部) 勘定科目値の両方に進み、管理することができます。代替勘定科目は、内部管理および外部財務レポートに必要な従来の法人勘定科目チャートを完全にサポートして動作します。また、代替勘定科目でのみ、年度末決算処理も実行できます。

このドキュメントでは、ALTACCT、AltAccount、代替勘定科目およびローカル勘定科目または法定勘定科目は同義語であり、同じ意味で使用されます。

また、ACCOUNT、勘定科目、内部または法人勘定科目も同義語であり、同じ意味で使用されます。

一般会計とその供給システム (売掛金管理および買掛金管理など) に代替勘定科目を実装するには、システム内でのチャートフィールド、ビジネス ユニット、および元帳の厳密な調整が必要です。代替勘定科目は、当初の全体の実装計画に含めることを推奨しますが、後で追加することもできます。

注: 代替勘定科目は、法定またはローカルの仕訳行、レポート要件などを満たすことを目的としています。勘定科目構造を操作し、法人の勘定残高照合およびレポート要件を満たすには、ツリー、要約元帳、および PS/nVision を使用する法定外元帳レポートが最も適しています。法定コンプライアンスに関連しない元帳レベルのレポート要件には、代替勘定科目機能を使用しないでください。代替勘定科目機能では、代替勘定科目の追加の明細チャートが必要になるため管理が煩雑になります。

代替勘定科目は、仕訳行またはトランザクション レベルでローカルまたは国指定の法定要件を満たす必要がある多国籍企業向けに設計されています。このため、以下のリストに詳細を示す一般会計、一般会計の供給アプリケーション、サブシステム、その他の製品で使用できます。

- 買掛金管理
- 売掛金管理

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 資産管理
- 請求管理
- 経費管理
- 一般会計
- 在庫管理
- 資金管理
- 財務取引管理
- リスク管理
- 受注管理
- プロジェクト コスト管理
- 購買管理

その他の PeopleSoft 製品では、一般会計に代替勘定科目を使用する必要はありません。

ALTACCT と ACCOUNT の値を 1 対 1 または 1 対多の関係で相互にマップします。

レポートの基本レベルは法定勘定チャートの詳細レベルで定義されています。最も一般的なシナリオでは、1 つまたは複数の勘定科目値を 1 つの代替勘定科目値にマップします。このマッピングは代替勘定科目ページで実行されます。

1 つの勘定科目値を 1 つまたは複数の代替勘定科目値にマップするには、勘定科目ページを使用します。一般には、1 つの法人 (内部) 勘定科目を複数の法定代替勘定科目にマップすることはほとんどありません。このシナリオでは、詳細な代替勘定科目レポートをサポートするトランザクションの基本要素が ALTACCT レベルの詳細に含まれていません。

仮計上のため、ACCOUNT の値を ALTACCT に、ALTACCT の値を ACCOUNT に指定することもできます。仕訳編集プロセスでは、仕訳で使用される勘定科目または代替勘定科目の値が代替勘定科目または勘定科目にマップされていない場合、これらの入力を仮計上勘定科目および代替勘定科目として使用します。仮計上仕訳とは、修正が必要なエラーです。仮計上フィールドを空白のままにすると、仕訳編集プロセスでも、その行が修正が必要なエラーとして表示されます。

1 つの勘定科目を複数の代替勘定科目にマップし、1 つの代替勘定科目を複数の可能科目にマップしても、1 対 1 でトランザクションを入力できます。

主要勘定科目チャートフィールド、または法人勘定科目を使用して一般会計またはその供給システムにトランザクションを入力する場合も、代替勘定科目にトランザクションが入力されます。

同様に、法定勘定科目である代替勘定科目チャートフィールドにトランザクションを入力する場合も、法人または主要勘定科目チャートフィールドにトランザクションが入力されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

これらの値は、マッピング対象値のみを示すプロンプト リストから他の値を選択して上書きすることができます。

代替勘定科目の関係は、PeopleSoft セットID の機能を使用する国またはローカルのレポート主体によって異なることがあります。

代替勘定科目値はコントロール勘定として指定し、コントロール勘定の更新がシステム プロセスを介してのみ更新されるようにすることもできます。これにより、買掛金管理、請求管理、売掛金管理など、関連する各種供給システムの詳細の合計が、一般会計の供給システムで管理されているコントロール勘定科目の合計と等しくなることを確認できます。

代替勘定科目を基準チャートフィールドとして指定した場合、代替勘定科目と連結することができます。これにより、多国籍企業はローカルまたは行政のレポート要件に準拠して、法定の連結財務諸表を柔軟に用意することができます。

代替勘定科目のマッピングおよびセットID の共有

法人勘定科目チャートを 1 つまたは複数の法定勘定科目チャートにマップします。たとえば、国と地方の機関に対する法定会計および報告用に 1 つずつ勘定科目チャートを用意できます。これはセットID 共有機能と組み合わせると、効果的なソリューションになります。

セットID で識別された 1 つの勘定科目値は、1 つまたは複数の代替勘定科目値にマップできます。また、セットID で識別された 1 つの代替勘定科目値は、1 つまたは複数の勘定科目値にマップできます。ただし、任意の勘定科目または代替勘定科目も、このような 1 つのマッピングの一部にすることができます。

マッピングは次のルールで規定されます。

- 同一のセットID では、1 つの勘定科目を同じセットID の 1 つの代替勘定科目にマップできるのは 1 回のみです。また、同一のセットID では、1 つの代替勘定科目を同じセットID の 1 つの勘定科目にマップできるのも 1 回のみです。
- 同じセットID で、任意の 1 つの勘定科目をマップ済の 1 つの代替勘定科目に、または 1 つの代替勘定科目をマップ済の 1 つの勘定科目にマップしようとすると、その勘定科目または代替勘定科目は既にマップ済であることを示すエラー メッセージが返されます。
- 任意のセットID では、それぞれの代替勘定科目が別のセットID のものであれば、1 つの勘定科目を複数の代替勘定科目にマップできます。また、それぞれの勘定科目が別のセットID のものであれば、任意のセットID にある 1 つの代替勘定科目も、複数の勘定科目にマップできます。

以下の例を考えてみます。

例 1 - 勘定科目 > 代替勘定科目のマッピング (勘定科目と代替勘定科目のセットID は同じ):

ALTACCT 101000 が同じセットID のマッピング #1 で ACCOUNT 100100 にマップされているため、マッピング #3 は無効です。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ACCOUNT 140100 が同じセットID のマッピング #4 で ALTACCT 140000 にマップされているため、マッピング #5 は無効です。

マッピング #	*ACCOUNT セットID*	*ACCOUNT*	*ALTACCT セットID*	*ALTACCT*	*マッピングは有効ですか。*
#1	MFG	100100	MFG	101000	はい
#1	MFG	100100	MFG	101002	はい
#2	MFG	109000	MFG	101003	はい
#3	MFG	109100	MFG	101000	いいえ
#4	FS	140100	FS	140000	はい
#4	FS	140101	FS	140000	はい
#5	FS	140100	FS	140500	いいえ

例 2 - 勘定科目 > 代替勘定科目のマッピング (勘定科目と代替勘定科目のセットID が異なる):

例 2 では、マッピング #1 と #2 では、1 つの ACCOUNT 値がセットID の異なる複数の ALTACCT 値にマップされています。

同じセットID の同じ ACCOUNT 値 (CORP の 101000) がマッピング #1 で 1 つの勘定科目から複数の代替勘定科目へのマッピングの一部であるため、マッピング #3a は無効です。

同じセットID の ALTACCT 値 (FRNC の 101003) が同じ勘定科目値のセットID (CORP) にマップされているため、マッピング #3b は無効です。

同様に、同じセットID の ALTACCT 値 (SPAN の 106001) が同じ勘定科目値のセットID (CORP) にマップされているため、マッピング #4 は無効です。

マッピング #	*ACCOUNT セットID*	*ACCOUNT*	*ALTACCT セットID*	*ALTACCT*	*マッピングは有効ですか。*
#1	CORP	101000	FRNC	101001	はい
#1	CORP	101000	FRNC	101002	はい
#1	CORP	101000	SPAN	102001	はい
#1	CORP	101000	SPAN	101002	はい
#1	CORP	101000	GMNY	103001	はい

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

マッピング #	*ACCOUNT セットID*	*ACCOUNT*	*ALTACCT セットID*	*ALTACCT*	*マッピングは有効ですか。*
#1	CORP	101000	GMNY	103002	はい
#2	CORP	105000	FRNC	105001	はい
#2	CORP	105000	SPAN	106001	はい
#2	CORP	105000	GMNY	107001	はい
#3a	CORP	101000	FRNC	101003	いいえ
#3b	CORP	100000	FRNC	101003	いいえ
#4	CORP	110000	SPAN	106001	いいえ

勘定科目および代替勘定科目のプロンプト表示、およびテーブルセット共有

特定のビジネス ユニットに対して ACCOUNT および ALTACCT のプロンプト表示を有効にするには、テーブルセット共有定義を作成して、これらのプロンプトに適切なセットID を設定する必要があります。

ACCOUNT および ALTACCT に対するテーブルセット共有を定義する例を次に示します。

セット コントロール値	*ビジネス ユニット*	*テーブルセット レコード グループ*	*ACCOUNT セットID*	*ALTACCT セットID*
M60	M60	FS_05	CORP	
		FS_40		FRNC
M61	M61	FS_05	CORP	
		FS_40		SPAN
M62	M62	FS_05	CORP	
				GMNY

前述の表では、セット コントロール値によって定義されたそれぞれのビジネス ユニットは、特定のビジネス ユニットに対して指定されたセットID へのアクセスのみ許可されます。たとえば、ビジネス ユニット M60 仕訳を作成する場合、ACCOUNT および ALTACCT のプロンプトはそれぞれ CORP および FRNC として表示されます。その他のセットID の ACCOUNTS または ALTACCTS へのアクセスについては、ビジネス ユニット M60 は許可されていません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

前提条件

代替勘定科目を使用する場合、次の前提条件が適用されます。

- 代替勘定科目を使用する特定のビジネス ユニットを識別する場合、最初に一般会計ビジネス ユニットを設定する必要があります。
- 代替勘定科目を使用するためにサブシステム アプリケーションを有効にする場合、ユニット別元帳ページの代替勘定科目機能も使用する一般会計ビジネス ユニットにそのアプリケーションのビジネス ユニットを関連付ける必要があります。

関連リンク

チャートフィールド値の入力と管理
Defining General Ledger Business UnitsPeopleSoft General Ledger

代替勘定科目の有効化

代替勘定科目を有効化するには、インストール コンポーネント (INSTALLATION) と ユニット別元帳 コンポーネント (BUSINESS_UNIT_LED) を使用します。BUSINESS_UNIT_LED コンポーネントの各テーブルへデータをロードするには、EM_BUS_UNIT_LED コンポーネント インターフェイスを使用します。

代替勘定科目の有効化に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
インストール オプション - 基本設定ページ	INSTALLATION_FS1	代替勘定科目の使用を有効化します。 「インストール段階での代替勘定科目の有効化」を参照してください。
ユニット別元帳 - 定義ページ	BUSINESS_UNIT_LED1	代替勘定科目をインストール段階で有効化しておくと、代替勘定科目に対してビジネス ユニットの特定の元帳グループを有効化できます。 「元帳グループおよびビジネス ユニット レベルでの代替勘定科目の有効化」を参照してください。

インストール段階での代替勘定科目の有効化

インストール段階で代替勘定科目を有効化するには、[代替勘定科目使用] チェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにすると、代替勘定科目に関連するフィールドが各種アプリケーション

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

のページおよびビューに表示され、動的なプロンプト表示が有効になります。また、仕訳ジェネレータによって ACCOUNT および ALTACCT の下限レベルで仕訳入力が作成されます。

このチェック ボックスをオンにしない場合は、各種製品に代替勘定科目フィールドとプロンプト リストは表示されず、仕訳ジェネレータでは ACCOUNT の下限レベルに仕訳入力のみが作成されます。

元帳グループおよびビジネス ユニット レベルでの代替勘定科目の有効化

ビジネス ユニットと元帳グループ レベルで代替勘定科目を有効にするには、次の手順に従います。

1. 代替勘定科目を使用する必要のあるビジネス ユニットを選択します。
2. 代替勘定科目の使用が必要になる可能性のあるそれぞれの明細元帳グループで、[代替勘定科目使用] チェック ボックスをオンにします。[勘定 -> 代替仮計上] および [代替 -> 勘定仮計上] フィールドが入力可能になります。通常、仮計上科目には元帳と仕訳の貸借を一致させる相殺値があります。後でこれらの仮計上科目に戻り、配布を修正する必要があります。
3. 最初のフィールドで代替仮計上科目を選択し、2 つ目のフィールドで勘定仮計上科目を選択します。

注: [代替勘定科目使用] チェック ボックスをオンにして勘定科目ページまたは代替勘定科目ページでマッピング オプションを定義しない場合、ユニット別元帳 - 定義ページで定義した仮計上科目が使用されます。

関連リンク

ビジネス ユニット用元帳の定義

勘定科目および代替勘定科目の追加とマッピング

勘定科目と代替勘定科目を追加し、マップするには、勘定科目コンポーネント (GL_ACCOUNT) と代替勘定科目コンポーネント (ALTACCT) を使用します。これらのコンポーネントのテーブルにデータをロードするには、ACCOUNT_CF コンポーネント インターフェイスおよび ALTACCT_CF コンポーネント インターフェイスを使用します。

*1 対多*の関係の*一方*で追加または更新します。たとえば、1 つの勘定科目を複数の代替勘定科目にマップするには、GL_ACCOUNT (勘定科目) コンポーネントを使用してマッピングを入力します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

代替勘定科目の追加またはマップに使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
勘定科目ページ	GL_ACCOUNT	勘定科目チャートフィールドを追加または変更します。 詳細については、「勘定科目ページ」および「チャートフィールド値の入力と管理」を参照してください。
代替勘定科目マッピング ページ	ACC_XREF	法人勘定科目チャートを 1 つまたは複数の法定勘定科目チャートにマップします。たとえば、国と地方の機関に対する法定会計および報告用に 1 つずつ勘定科目チャートを用意できます。 詳細については、「代替勘定科目マッピング ページ」および「チャートフィールド値の入力と管理」を参照してください。
代替勘定科目ページ	ALTACCT	代替勘定科目チャートフィールドを追加または変更します。 詳細については、「代替勘定科目ページ」および「チャートフィールド値の入力と管理」を参照してください。
代替勘定科目 - 勘定科目へのマッピング ページ	ALT_XREF	代替勘定科目を 1 つ以上の勘定科目にマッピングします。 詳細については、「勘定科目へのマッピング ページ」および「チャートフィールド値の入力と管理」を参照してください。

代替勘定科目 - 勘定科目へのマッピング ページ

代替勘定科目 - 勘定科目へのマッピング ページ (ALT_XREF) を使用して、代替勘定科目を 1 つ以上の勘定科目にマッピングします。

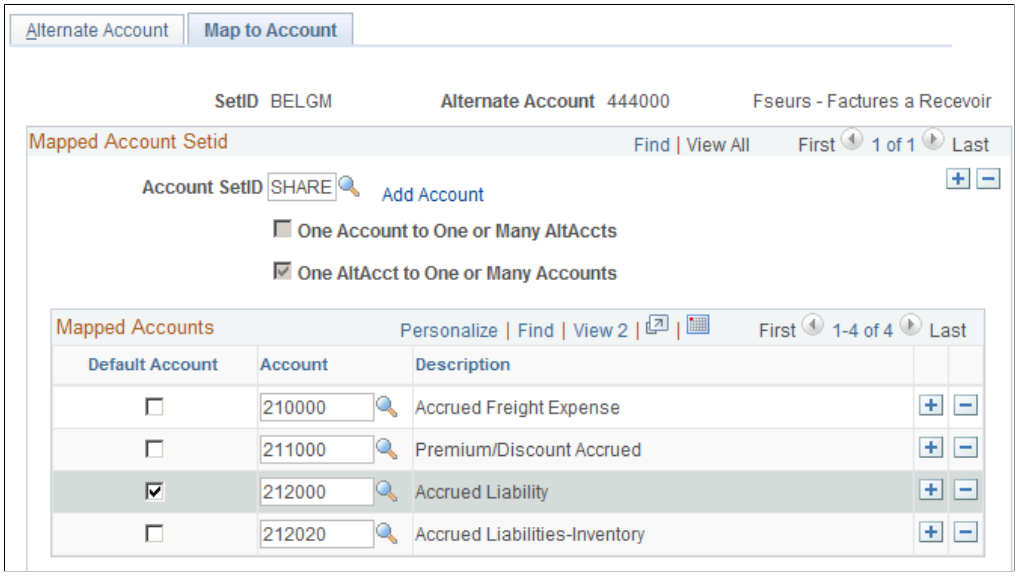
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [チャートフィールド値], [代替勘定科目], [勘定科目へのマッピング]

画像: 代替勘定科目 - 勘定科目へのマッピング ページ

次の例では、代替勘定科目 - 勘定科目へのマッピング ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



勘定科目セットID

この代替勘定科目に勘定科目がマップされている場合、[マッピング済勘定科目] グループ ボックスに表示されている勘定科目のセットID が[勘定科目セットID] フィールドに表示されます。[新規行の追加] ボタンをクリックして別の勘定科目セットID を選択します。これにより、[マッピング済勘定科目] グループ ボックスの [勘定科目] フィールドが有効になります。次に、この代替勘定科目にマップする選択済セットID の勘定科目を 1 つ選択します。[マッピング済勘定科目] グループ ボックスの [新規行の追加] ボタンをクリックすると、最初の勘定科目と同じセットID を使用して 2 つ目の勘定科目をマップできます。

勘定科目の追加

このリンクをクリックして、選択済のセットID にはない勘定科目チャートに新規の勘定科目を追加します。これにより、[勘定科目チャートフィールド] の定義ページに進み、新規勘定科目に関する情報を入力して [適用] を選択できます。勘定科目へのマッピング ページに戻ると、ページに追加するセットID と新規勘定科目を選択できます。

[1 つの勘定科目を 1 つまたは複数の代替勘定科目へ] および [1 つの代替

ある勘定科目値を 1 つ以上の代替勘定科目値にリンク、または 1 つの代替勘定科目値を 複数の勘定科目にリンクすると、次のいずれかのオプションがシステムによって選択されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

勘定科目を 1 つまたは複数の勘定科目へ]

注: このページを保存する前に、デフォルトの代替勘定科目を指定する必要があります。

マッピング済勘定科目

スクロールし、選択したセットID からこの代替勘定科目にマップまたはリンクする勘定科目を入力します。後でトランザクションの一環として 1 つの代替勘定科目値を入力する場合は、このスクロールで定義した勘定科目値のみを使用できます。[1 つの勘定科目を 1 つまたは複数の代替勘定科目へ]または [1 つの代替勘定科目を 1 つまたは複数の勘定科目へ] チェック ボックスのいずれかをオンにすると、このチャートフィールドの関係が決定されます。代替勘定科目と勘定科目の逆のマッピングページの選択はグレー表示されるため、多対多の関係を回避できます。

デフォルト勘定科目

スクロールで 1 つの勘定科目を選択し、その勘定科目がトランザクション入力ページでデフォルトの勘定科目として使用されるようにします。この勘定科目は、特定の代替勘定科目の処理に使用されます。最初にこの代替勘定科目を仕訳行に入力すると、このページで指定した値に基づいて、分析用の勘定科目がデフォルトで表示されます。このページを保存する前に、デフォルトの勘定科目を指定する必要があります。

代替勘定科目マッピング ページ

代替勘定科目マッピング ページ (ACC_XREF) を使用して、法人勘定科目チャートを 1 つ以上の法定勘定科目チャートにマップします。

たとえば、国と地方の機関に対する法定会計および報告用に 1 つずつ勘定科目チャートを用意できます。

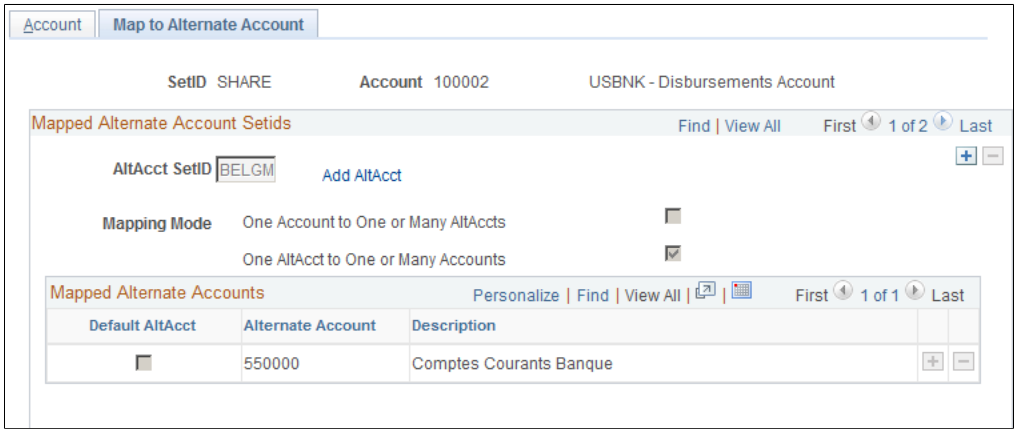
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [値の定義], [チャートフィールド値], [勘定科目], [代替勘定科目マッピング]

画像: 勘定科目 - 代替勘定科目マッピング ページ

次の例では、勘定科目 - 代替勘定科目マッピング ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このページを使用して、1 つの勘定科目値を 1 つ以上の代替勘定科目値へマップ、または 1 つの勘定科目値を 1 つの代替勘定科目値のみにマップします。このページは、前述の代替勘定科目 - 勘定科目へのマッピング ページと同じように動作します。このページでは 1 つの勘定科目を 1 つ以上の代替勘定科目にマップしますが、前述の代替勘定科目ページでは、1 つの代替勘定科目を 1 つ以上の勘定科目にマップする点が異なります。

関連リンク

代替勘定科目 - 勘定科目へのマッピング ページ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第18章

会計カレンダーの定義

オープン期間とクローズ期間に基づいた会計カレンダーについて

通常使用している期首と期末の日付に基づいて会計期間構成を設定し、この会計期間を複数組み合わせることでカレンダーを作成できます。このような会計カレンダーにより、さまざまな取引タイプ、元帳グループ、元帳コード、およびビジネス ユニットについての取引を転記する期間が定義されます。カレンダーには、会計環境に応じて、元帳コード、元帳グループ、およびビジネス ユニットも設定します。

PeopleSoft 一般会計はさまざまなカレンダーをサポートしており、実績用のカレンダー、予算や予測のアクティビティ用のカレンダーのほか、レポートや取引の特殊なニーズに対応したカレンダーを作成することができます。元帳に対して一度にアクティブにできるカレンダーは 1 つだけです。

PeopleSoft システムでは、次に示すカレンダー定義オプションが使用されます。

カレンダー ビルダー	詳細カレンダーなどの他のカレンダーを作成するための土台となる、基本のカレンダーを作成するために使用します。
詳細カレンダー	会計年度における会計期間の数と期間、および各期間の開始日と終了日を含めた詳細カレンダーを定義します。このオプションにより、カレンダーの調整期間も指定されます。転記は、元帳グループのカレンダーに直接結び付けられます。取引は、仕訳日に対応するオープン期間と、仕訳ヘッダーで指定する調整期間に転記されます。期間と年度は、いつでもいくつでもオープンにできます。資産管理を使用する場合は、定義した詳細カレンダーに基づいて減価償却配賦を設定できます。
要約カレンダー	(オプション) 要約カレンダーは、四半期のレポートや半期のレビューなどの照会やレポートの目的で、詳細カレンダーの期間をグループ化するために使用します。詳細元帳への仕訳の転記を制御するために使用するのが詳細カレンダーなのに対し、要約元帳を使用する要約カレンダーは、詳細カレンダーの期間全体にわたるデータをさらにまとめるために使用します。要約元帳データの会計期間は、定義する要約カレンダーの期間に対応します。詳細カレンダーを要約元帳と関連付けることはできますが、要約カレンダーを詳細元帳と一緒に使用することは*できません*。
ビジネス カレンダー	(オプション) 祝日や休業日を設定する、ビジネス (営業日) カレンダーを作成するために使用します。このカレンダーを 1 つ以上定義したら、一般会計定義 - 定義ページにある [休日リスト ID]

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

フィールドのビジネス ユニットにリンクします。ビジネス カレンダーを認識するのは、元帳テンプレート - レコード定義ページで、標準元帳テンプレートのデフォルト元帳タイプが設定された元帳だけです。

仕訳入力ページで仕訳を入力するとき、または仕訳ジェネレータ処理 (FS_JGEN) を実行するときに、システムによって、仕訳日が営業日になるようにこの日付が編集されます。仕訳編集処理 (GL_JEDIT) によって仕訳日がチェックされ、この日が該当するビジネス カレンダーの営業日に当たることが確認されます。この処理によって仕訳日が営業日ではないことが検出されると、その仕訳はエラーとしてマークされます。仕訳日は変更できないため、仕訳のコピー機能を使用してその仕訳を別の日にコピーし、元の仕訳 (エラー状態としてマークされた仕訳) を削除します。

逆仕訳の場合は、仕訳転記処理 (GL_JP) ではなく仕訳編集処理によって逆仕訳日が入力されます。仕訳ヘッダーの逆仕訳日に *[翌期末]* または *[翌期首]* を選択した場合、その日が営業日に当たらないときは仕訳編集処理によって日付が変更されます。*[翌期首]* を選択した場合は、翌期間の最初の有効な営業日が使用されます。*[翌期末]* を選択した場合は、翌期間の最後の有効な営業日が使用されます。

逆仕訳の特定の仕訳日は、仕訳入力ページを使用して仕訳を入力した場合にのみ入力できます。日付を指定する場合、システムがその時点の日付を編集し、有効な営業日の入力を求めます。

コミットメント コントロール予算で使用する、会計用および非会計用の詳細予算期間カレンダーを手動で定義するために使用します。

予算期間カレンダー

コミットメント コントロール予算で使用する、会計用および非会計用の詳細予算期間カレンダーを手動で定義するために使用します。

予算期間カレンダー ビルダー

コミットメント コントロール予算で使用する、予算期間カレンダーを自動的に定義するために使用します。

要約予算期間カレンダー

事前定義された詳細予算期間カレンダーに基づいて、コミットメント コントロール予算で使用する要約予算期間カレンダーを作成するために使用します。

スケジュール オプション

さまざまなアクティビティのスケジュール オプションを定義するために使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

関連リンク

スケジュール ページ
Defining Commitment Control Budget Period CalendarsPeopleSoft Commitment Control

調整期間およびその他の特別期間

調整期間数は、実務に合った調整を取り込むのに必要な数 (最大 3 桁) を設定できます。これらの調整期間は、詳細カレンダーで定義します。たとえば、ある年の前期、後期、通年のように、年内の異なる部分に対して調整を取り込むように調整期間を設定できます。また、ある監督者が所属する部門の仕訳に対する監督者関連の調整用、内部監査に基づいた調整用、外部監査に基づいた調整用、税務当局に関連する調整用のように、異なる種類の調整を取り込むように調整期間を設定することもできます。

一般会計には、期間ごとまたは年度ごとの結果を損なわないようにするため、標準のカレンダー期間にはない次の特別期間があります。これらの期間は、レポート、照会、または要約元帳などのその他の処理を実行するときに含めることができます。

期首残	繰越残高金額や各年度の期首時点での残高を保存するために使用します。貸借対照表の勘定科目の場合、これは開始残高を表します。損益計算書の勘定科目は通常ゼロになりますが、この期間には、締め処理ルールの損益繰越オプションのページで指定する、チャートフィールドに対するその日までの変更分の合計を含めることができます。一般会計では、この期間は締め処理のときにのみ更新されます。
調整期間 998	調整入力を保存するために使用します。他の調整期間を作成して、デフォルトの調整期間の代替期間または追加期間として使用できます。仕訳入力の際に、仕訳入力 - ヘッダー ページにある調整入力チェック ボックスをオンにして、調整入力であることを示します。
期間 999	年度末締めの結果を保存するために使用します。剰余金に対する今年の純利益を入力するための、年度末締め処理入力をここに転記します。一般会計では、この期間は締め処理のときにのみ更新されます。

注: 調整期間は、会計期間 1 から 12 に対応して、901 から 912 のように*連続して*設定します。

関連リンク

Understanding Average Balance CalculationPeopleSoft General Ledger
Performing Year End ClosingPeopleSoft General Ledger
Performing Interim ClosingPeopleSoft General Ledger

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

オープン期間

一般会計の元帳には、ビジネス ユニットおよび元帳グループ用のカレンダーに定義された各会計期間のアクティビティが含まれています。各ビジネス ユニットと元帳グループに関連付けられたカレンダーに従い、各期間の開始日と終了日が決定されます。また、ビジネス ユニット、取引タイプ、元帳グループ、および元帳コードごとに、どの期間がオープンになっている (取引を転記できる) かが指定されます。

PeopleSoft アプリケーションの多くは、関連付けられている一般会計のビジネス ユニットのカレンダーとオープン期間に基づいて、そのアプリケーション自体のオープン期間を定義します。一般会計で、あるビジネス ユニットの期間がクローズされると、そのビジネス ユニットに関連付けられた全てのアプリケーションも同時にクローズされ、クローズされた期間に取引を入力することができなくなります。これは、財務諸表の作成後に入力が記録されないようにするためです。

また、異なる (多くの場合には競合する) 会計原則に従って、1 つのビジネス ユニットに対する会計取引を 1 つの元帳に記録し、これらの入力を政府機関や規制機関が公布するさまざまなルールに準拠しながら管理することもできます。複数の GAAP (一般に公正妥当と認められた会計原則) を使用するため、PeopleSoft システムでは台帳コードと元帳コードを使用して 1 つの元帳に対して複数のサブセットが作成されます。これにより、取引を複数のサブセットに同時に入力しながら、各サブセットに該当する会計原則に従って、それぞれの残高を管理することが可能になります。これらの台帳コードと元帳コードにより、前期間調整の作成が容易になります。

PeopleSoft システムによって定義される取引タイプを使用すると、一般会計の仕訳入力と個別のアプリケーションの取引の両方について、どの取引がオープンの状態でどれがクローズの状態かを制御し、ビジネス サイクル内でさらに処理を進めることができます。

次に示す PeopleSoft アプリケーションでは、一般会計や他のアプリケーションのオープン期間の日付範囲とは異なる日付範囲を指定できます。個別のオープン期間の範囲を設定できるアプリケーションの場合、オープン期間は各ビジネス ユニットに対して定義されます。アプリケーションのオープン期間に対する日付範囲は、関連付けられた一般会計ビジネス ユニットに対するオープン期間の日付範囲と同じにすることも、別の範囲にすることもできます。アプリケーションに対するこれらの日付は、ラグ日数を入力するか、オープン期間の開始日と終了日を変えることで変更できます。

- 資産管理
- 請求管理
- 経費管理
- 買掛金管理
- 売掛金管理
- プロジェクト コスト管理
- 在庫管理

ラグ日数は、期首、期末、またはその両方に設定できます。期首のラグ日数を入力すると、オープン期間の開始年度と期間にラグ日数を足した結果に基づいて、最初の開始日が計算されます。たとえば、オープン期間の開始年度と期間が 2003 年の第 2 期で、その期間の最初の日が (関連付けられている一般

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

会計ビジネス ユニットに定義されているように) 2003 年 4 月 1 日であるとします。買掛金管理 (AP) のラグ日数に *-3* と入力すると、買掛金のオープン期間の最初の日は、2003 年 3 月 29 日と計算されます。終了ラグ日数の場合も、同じように計算されます。

開始ラグ日数には、その会計期間の一般会計の開始日より前の会計期間に含まれる取引を入力できます。終了ラグ日数は、会計期間の一般会計の終了日より前に、その会計期間を終了します。アプリケーションで計算された終了日後の日付に入力したアプリケーションの取引は、その期間が一般会計でまだオープンであっても、次の期間に適用されます。

ラグ日数に指定できるのは、ゼロまたは負の数字のみです。これにより、アプリケーションのオープン期間終了日 (つまり、期間の締め日) が、関連付けられた一般会計のビジネス ユニットに割り当てられた期間の締め日よりも後に意図せず定義されないようにできます。

お客様によっては、独自の台帳が必要な法人が複数ある場合があります。その結果、元帳とビジネス ユニットの数が膨大になり、それぞれのビジネス ユニットと元帳グループのオープン期間を個別に更新するのではなく、一括で更新を実行する機能が必要になります。一括更新を使用すると、多数のビジネス ユニットと元帳グループのオープン期間を同時に変更できます。また、一般会計に対して行ったマス チェンジを、他のアプリケーションに移動できます。

オープン期間の個別更新と一括更新

設定したオープン期間は、次のいずれかの方法で更新できます。

- オープン期間更新ページまたはオープン期間一括更新ページを使用して、(アプリケーションの) ビジネス ユニットごと、または (一般会計の) ビジネス ユニットと元帳グループごとに個別に更新する。
- オープン期間一括更新ページを使用して、(アプリケーションの) ビジネス ユニット全体、または (一般会計の) ビジネス ユニットと元帳グループ全体に対して一括更新する。
- オープン期間一括更新ページの移動機能を使用して、アプリケーションのオープン期間を一括更新する。

  この機能は、一般会計のオープン期間の変更を、他のアプリケーションに移動します。

仕訳入力は、オープン期間一括更新ページまたはオープン期間ページで定義されたオープン期間に対してのみ転記します。

アプリケーションのオープン期間の日付範囲をラグ日数を使用して定義すると、一括更新の実行時に明らかなメリットがあります。入力した期間の開始日と終了日は、アプリケーション内の各ビジネス ユニットと取引タイプに適用されます。各ビジネス ユニットにラグ日数が定義されている場合、ラグ日数は変わらず、アプリケーションの日付範囲は、関連付けられている一般会計ビジネス ユニットの日付範囲に対して相対的に計算されます。たとえば、オープン期間の最初の日が 20X3 年 4 月 1 日でラグ日数が –3 の場合、アプリケーションの期間開始日は 20X3 年 3 月 29 日になります。期間開始日を 20X3 年 4 月 5 日に変更してもラグ日数 -3 は引き続き適用され、アプリケーションの期間開始日は 20X3 年 4 月 2 日になります。ラグ日数を使用すると、1 つの変更を複数のビジネス ユニットに反映できますが、期間の開始日と終了日をビジネス ユニットごとに変えることもできます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユニット	*一般会計期間の開始*	*ラグ日数*	*計算後のアプリケーション期間の開始日*	*変更後の一般会計期間の開始日 (一括更新)*	*ラグ日数 (変更なし)*	*新しいアプリケーション期間の開始日 (一括更新後)*
US004	20X3 年 4 月 1 日	–3	20X3 年 3 月 29 日	20X3 年 5 月 1 日	–3	20X3 年 4 月 28 日
US005	20X3 年 4 月 1 日	0	20X3 年 4 月 1 日	20X3 年 5 月 1 日	0	20X3 年 5 月 1 日
US006	20X3 年 4 月 1 日	–2	20X2 年 3 月 30 日	20X3 年 5 月 1 日	–2	20X3 年 4 月 29 日

注: ここでは、ビジネス ユニットにビジネス カレンダーが関連付けられていないことを前提としています。

アプリケーション ビジネス ユニットの期間開始日と終了日として、関連付けられている一般会計ビジネス ユニットとは異なる日付を定義する別の方法として、別の期間開始日と終了日を入力する方法があります。結果は同じですが、一括更新のメリットは失われます。

注: クローズ済期間に調整を加える必要がある場合は、その期間を再オープンし、その期間の元帳または仕訳が既にアーカイブ済みの場合は、調整を行う前にアーカイブ済みの元帳または仕訳を復元します。

関連リンク

台帳コード ページ
調整タイプ ページ
Understanding Multiple GAAPs and Prior Period AdjustmentsPeopleSoft Global Options and Reports

カレンダー ビルダーの設定

基本のカレンダーを使用して、日中平均残高用の詳細な日単位カレンダーや、詳細な月単位カレンダーなどの、他のカレンダーを定義します。

カレンダー ビルダーを設定するには、カレンダー ビルダー コンポーネント (CALENDAR_BUILDER) を使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

カレンダー ビルダーの設定に使用されるページ

ページ名	*定義名*	*用途*
カレンダー ビルダー ページ	CALENDAR_BUILDER	他のカレンダーの基礎として使用するカレンダーを定義します。最初に作成するカレンダーが、デフォルトで詳細カレンダーになります。

カレンダー ビルダー ページ

カレンダー ビルダー ページ (CALENDAR_BUILDER) を使用して、他のカレンダーの基礎として使用するカレンダーを定義します。

最初に作成するカレンダーが、デフォルトで詳細カレンダーになります。

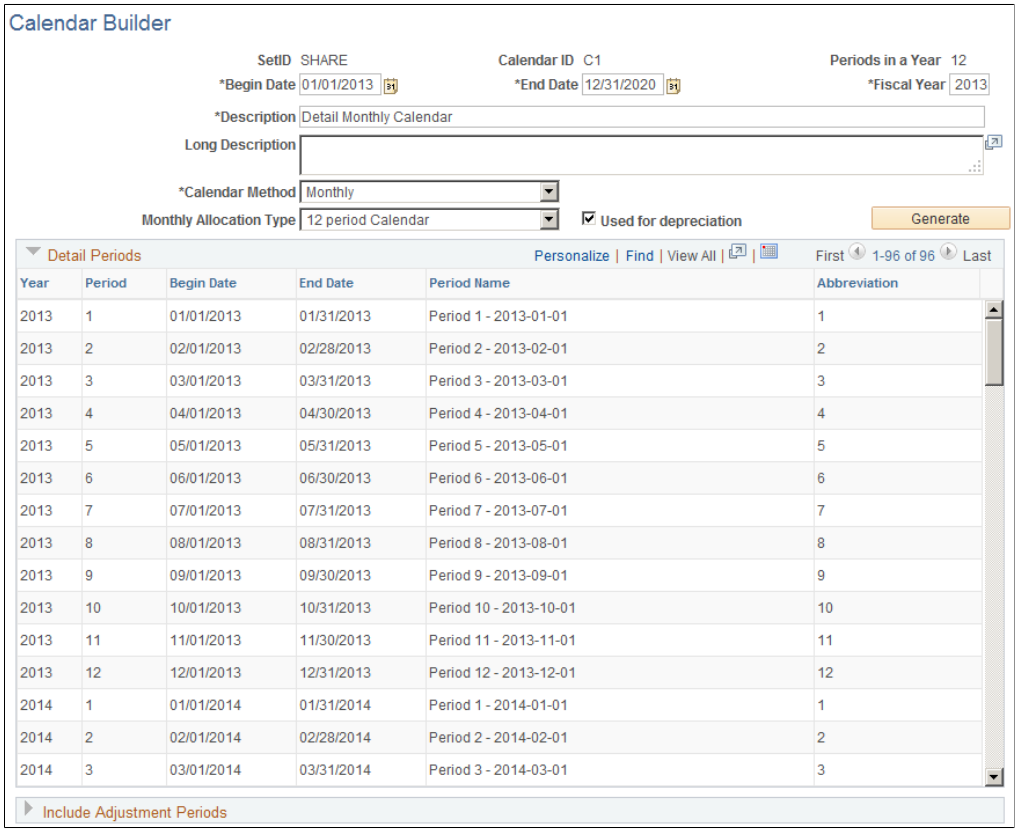
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [カレンダー/スケジュール], [カレンダー ビルダー]

画像: カレンダー ビルダー ページ (1/2)

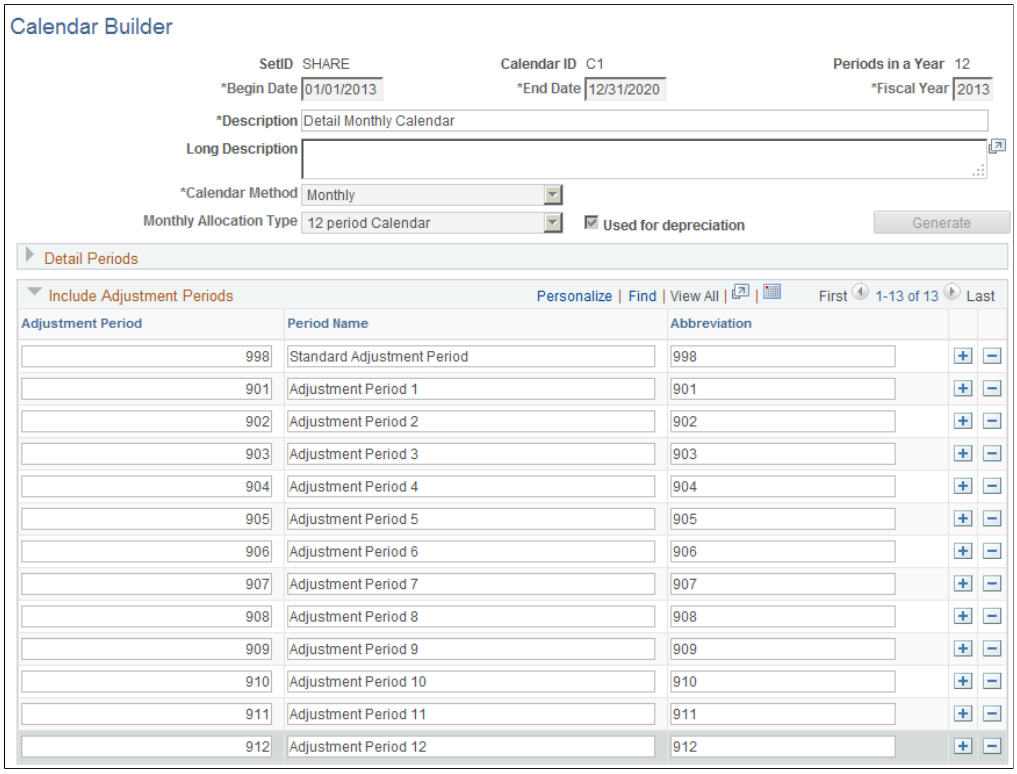
次の例では、カレンダー ビルダー ページ (1/2) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

画像: カレンダー ビルダー ページ (2/2)

次の例では、カレンダー ビルダー ページ (2/2) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



カレンダー ID プロンプト リスト、照会、およびレポートに表示するカレンダーの識別子を入力します。

説明 *「会計年度」*や*「月次」*などの値を入力します。

[開始日] および [終了日] 生成されたカレンダーの期間範囲を入力します。

会計年度 期間の開始日に基づいた年度を表示します。この値は変更することができます。

年間期間数 選択したオプションに基づいた値が表示されます。

- 日単位
- 週単位
- 隔週単位
- 月単位
- 隔月単位
- 四半期単位
- 半年単位

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 年単位カレンダー

月間配賦タイプ

次の値から選択し、月次カレンダーの期間に対するさまざまな期間配賦に対応します。

- *[12 期間カレンダー]*
- *[13 期間カレンダー]*
- *[4,4,5 週カレンダー] (4 週間,4 週間,5 週間)*
- *[4,5,4 週カレンダー] (4 週間,5 週間,4 週間)*
- *[5,4,4 週カレンダー] (5 週間,4 週間,4 週間)*

減価償却に使用

資産管理がインストール済で、減価償却配賦期間を作成するために詳細カレンダーを定義している場合にのみオンにします。減価償却配賦の期間と年度を割り当てます。

作成

クリックするとカレンダーが生成され、詳細期間が表示されます。カレンダーに変更を加えて、再生成することができます。

調整期間

調整期間数は、実務に合った調整を取り込むのに必要な数を設定できます。

値 *998* が、会計年度末調整のデフォルト期間です。調整期間が 1 つだけの場合は、デフォルトを受け入れます。

他にも調整期間がある場合は、デフォルトの調整期間の追加期間または代替期間として入力します。各調整期間の調整期間名と略称を入力します。期間 (901 や 902 など) によって調整期間が定義されます。実際の期間 (月次カレンダーの 1 から 12 など) や、システムが管理する期間 (0 や 999 など) を期間に指定することはできません。

注: カレンダー ビルダーでは、カレンダー名と説明のみの変更と、以前の会計年度の期間の生成を行うことができます。それ以外のカレンダーの定義を行うには、詳細や要約などのその他のカレンダー オプションを使用します。カレンダーの他のページでは、カレンダー ビルダー ページで作成したカレンダーの表示や変更を行えます。

関連リンク

調整期間およびその他の特別期間

詳細カレンダーの定義

詳細カレンダーを定義するには、詳細カレンダー コンポーネント (DETAIL_CALENDAR) を使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

詳細カレンダーの定義に使用されるページ

ページ名	*定義名*	*用途*
カレンダー期間ページ	DETAIL_CALENDAR1	詳細カレンダー (英数字で構成される一意のコードで指定) は、会計年度に含まれる会計期間の数と、各期間の開始日および終了日を定義します。これらのカレンダーで、仕訳入力やその他の取引を転記する会計期間が決まります。
カレンダー期間 - 減価償却ページ	DETAIL_CALENDAR2	カレンダー期間ごとに減価償却配賦を設定します。

カレンダー期間ページ

カレンダー期間ページ (DETAIL_CALENDAR1) を使用して、詳細カレンダー (英数字で構成される一意のコードで指定) を定義し、会計年度に含まれる会計期間の数と、各期間の開始日および終了日を指定します。

これらのカレンダーで、仕訳入力やその他の取引を転記する会計期間が決まります。

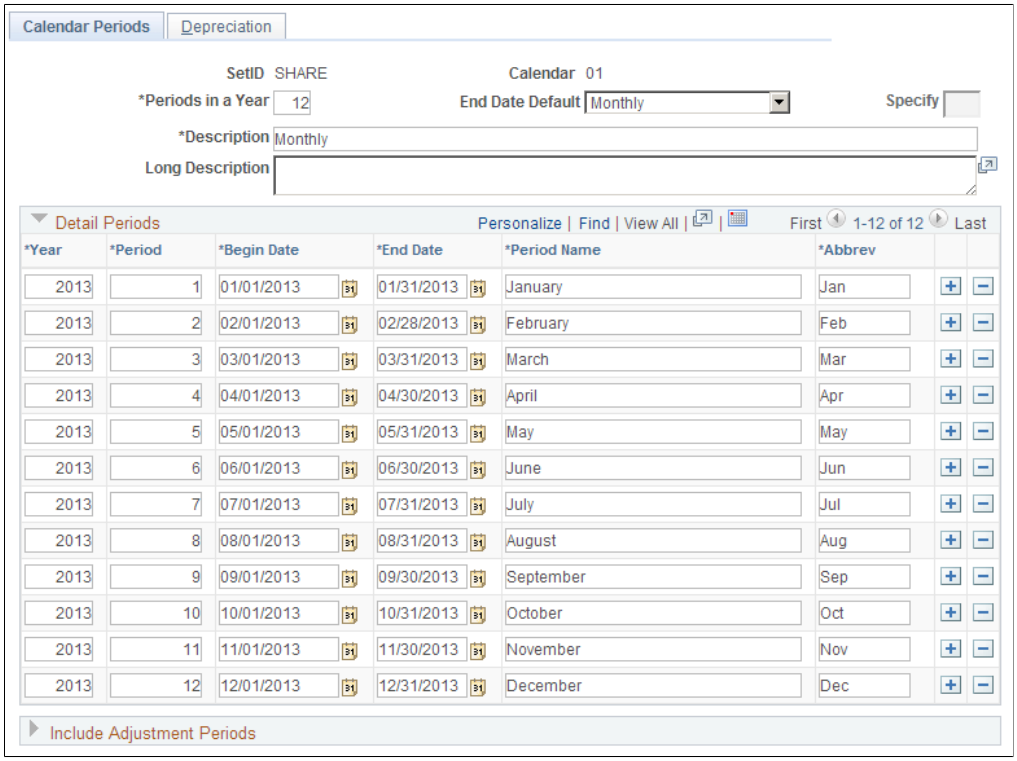
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [カレンダー/スケジュール], [詳細カレンダー], [カレンダー期間]

画像: カレンダー期間ページ (1/2)

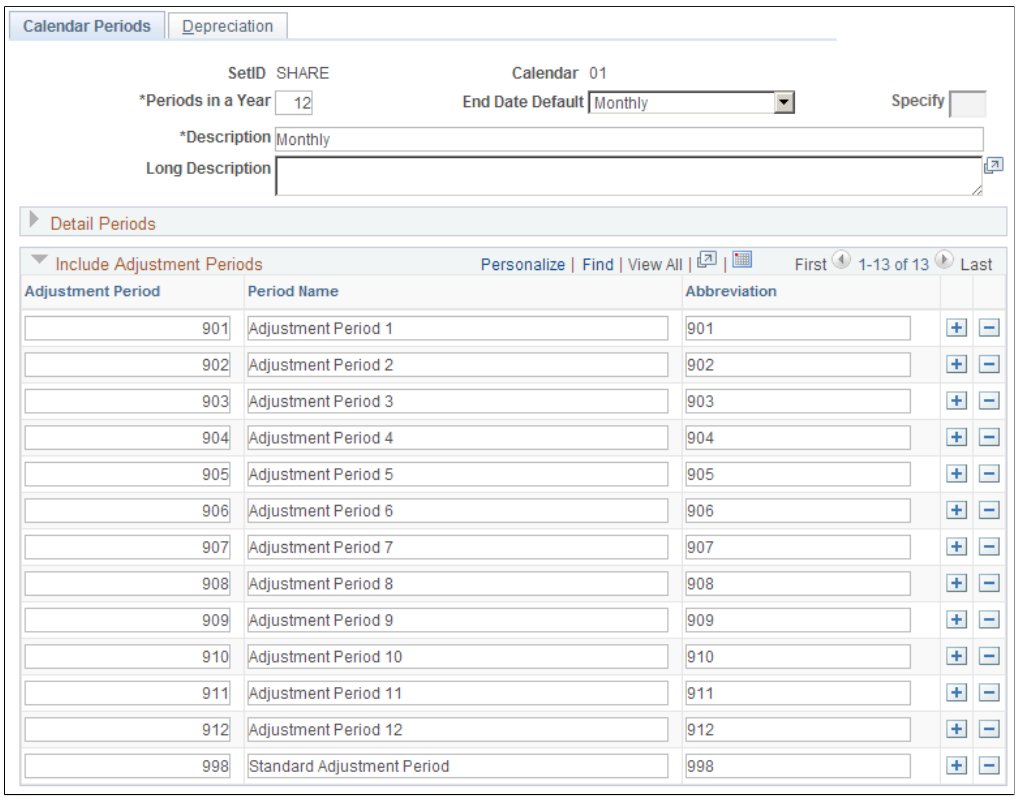
次の例では、カレンダー期間 ページ (1/2) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

画像: カレンダー期間ページ (2/2)

次の例では、カレンダー期間ページ (2/2) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



詳細カレンダーは、一から定義することも、カレンダー ビルダーで定義した基本のカレンダーを使用して作成してからカレンダー期間ページで詳しく定義することもできます。

カレンダー

プロンプト リスト、照会、およびレポートに表示するカレンダーの ID または名前を入力します。カレンダー ビルダーを使用して作成したカレンダーを選択した場合は、名前を変更できます。

年間期間数

カレンダーのタイプに基づいて、期間の数を入力します。調整期間や、システムが管理する特別期間 (0、998、999) は数に含めないでください。PS/nVision のレポートでは、ここで入力した期間数を使用して、ある年度から次の年度に繰越されるタイムスパンを定義します (*繰越の* 12 か月レポートなど)。

期間デフォルト

終了日デフォルトを選択します。[年]、[月単位]、[隔月単位]、[四半期毎]、[半年単位]、および [日単位] のオプションがあります。

指定

[期間デフォルト] フィールドで [日単位] を選択した場合は、カレンダーに含める日数を入力します。たとえば、*「365」*と入力します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

詳細期間

詳細カレンダーを、カレンダー ビルダーで設定するのではなく新規作成する場合は、詳細の最初の行に、期間 1 の [年度]、[期間]、[開始日]、[終了日]、[期間名]、および [略称] の値を入力します。1 つ以上の行を追加すると、それぞれの行がシステムによって正しい年度、期間、開始日、および終了日で更新されます。期間名と略称は、新しい行に対してのみ入力します。期間には、対象年度の全ての日が含まれている必要があります。どの期間にも含まれない日が残ったり、日付が重複したりすることが*ないように*してください。

調整期間

期間 998 が、会計年度末調整のデフォルト期間です。調整期間が 1 つだけの場合は、デフォルトを受け入れます。

他にも調整期間がある場合は、デフォルトの調整期間の追加期間または代替期間として入力します。各調整期間について、調整期間、期間名、および略称を入力します。調整期間 (901 や 902 など) によって調整期間が定義されます。実際の期間 (月次カレンダーの 1 から 12 など) や、システムが管理する期間 (0 や 999 など) を調整期間に指定することは*できません*。

関連リンク

調整期間およびその他の特別期間
タイムスパンの使用
ビジネス ユニット用元帳の定義

カレンダー期間 - 減価償却ページ

カレンダー期間 - 減価償却ページ (DETAIL_CALENDAR2) を使用して、カレンダー期間ごとの減価償却配賦を設定します。

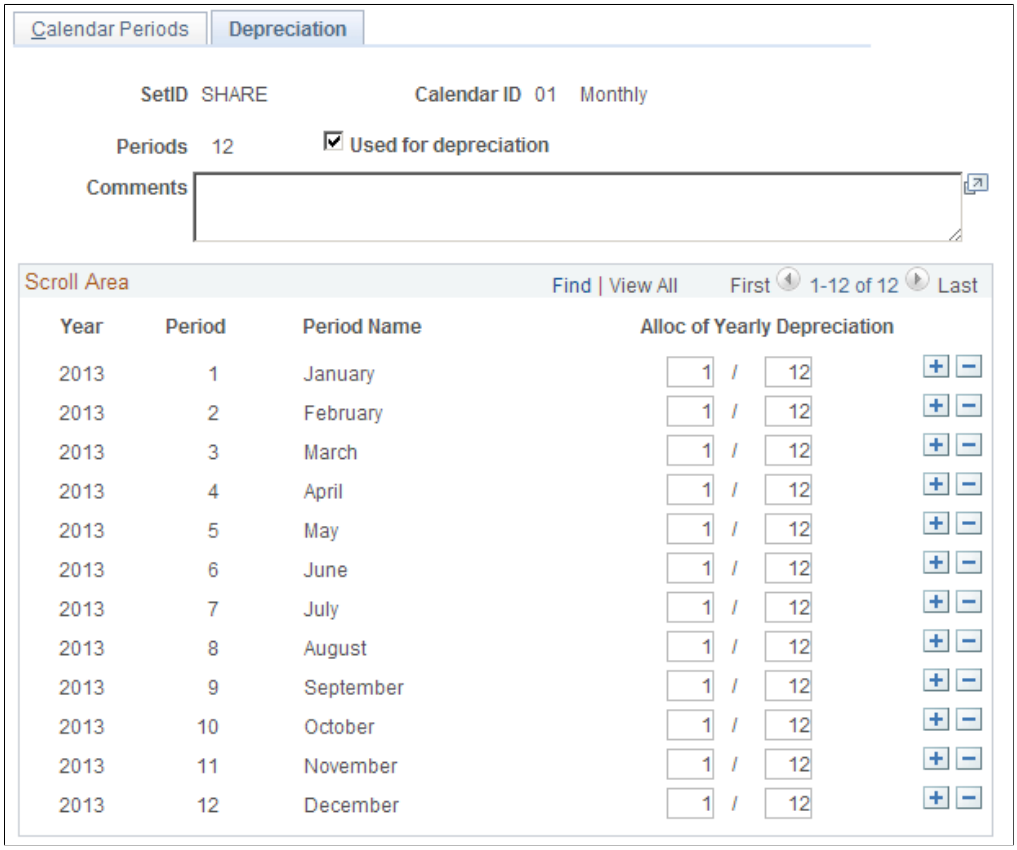
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [カレンダー/スケジュール], [詳細カレンダー], [カレンダー期間], [減価償却]

画像: 減価償却ページ

次の例では、減価償却ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



資産管理を使用している場合は、詳細カレンダーのこのページを使用します。設定した各カレンダーで、年間の減価償却を配賦する期間数を定義します。

年間減価償却費の配賦

ここで設定する減価償却配賦期間は、各資産に対して資産管理で計算された年間の減価償却費のうち、どの程度が、定義された各期間に配賦されるかを決めるために使用されます。詳細カレンダーに行を追加することで、必要な数の年度に対して、必要な数の期間を設定できます。このページでは減価償却配賦を変更することもできます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

要約カレンダーの定義

要約カレンダーを定義するには、要約カレンダー コンポーネント (SUMMARY_CALENDAR) を使用します。

要約カレンダーの定義に使用されるページ

ページ名	*定義名*	*用途*
要約カレンダー ページ	SUMMARY_CALENDAR	詳細カレンダーを、要約元帳で使用される指定期間数に要約して、要約レポートを作成します。

要約カレンダー ページ

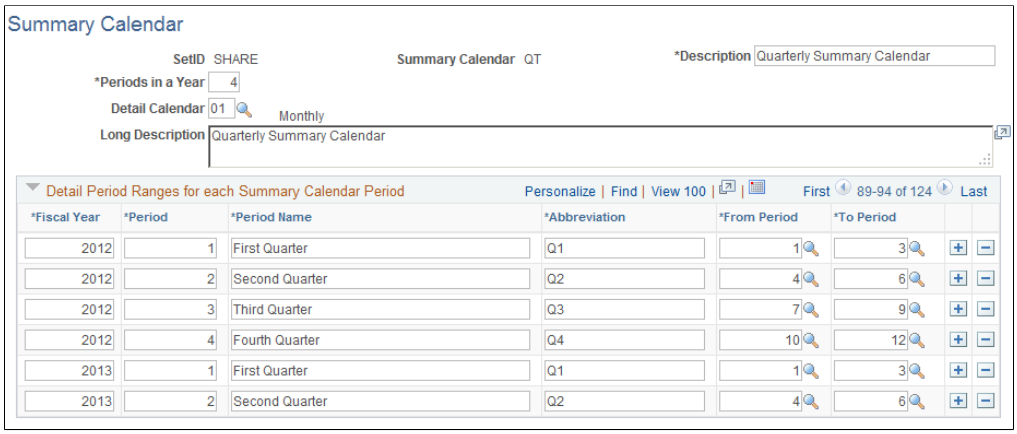
要約カレンダー ページ (SUMMARY_CALENDAR) を使用して、詳細カレンダーを、要約元帳で使用される指定期間数に要約して、要約レポートを作成します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [カレンダー/スケジュール], [要約カレンダー], [要約カレンダー]

画像: 要約カレンダー ページ

次の例では、要約カレンダー ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



要約カレンダー

ページ、レポート、およびオンライン照会に表示するカレンダーの名前またはタイトルを入力します。

年間期間数

このカレンダーの会計年度に含まれる期間数を指定します。PS/nVision のレポートでは、期間数を使用して、ある年度から次の

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

年度に繰越されるタイムスパンを定義します (繰越の 12 か月レポートなど)。

詳細カレンダー 詳細カレンダーを選択します。全ての要約カレンダーは、詳細カレンダーに基づいている必要があります。

[会計年度]、[期間]、[期間名]、および[略称] それぞれの要約の会計年度、年度内の要約期間、各期間の名前と略称の情報を入力します。カレンダーには、過去の情報を保存するための年度を含む、必要な数の年度を定義できます。

開始期間および終了期間 各要約期間にまとめる詳細カレンダーの期間を入力します。期間をグループ化 (複数の月次会計期間を四半期ごとの結果にまとめるなど) できるだけでなく、全ての範囲の開始期間を *[1]* に指定することで、これを使用して、年間累計残高を要約元帳の各要約期間に保存できます。年間累計要約期間は、詳細カレンダーの期間と一致させることができます。たとえば、月次の詳細カレンダーを、月次の年間累計カレンダーに要約します。また、四半期ごとの年間累計カレンダーに要約した月次詳細カレンダーのように、詳細期間を組み合わせることもできます。

関連リンク

タイムスパンの使用
Posting to the Summary Ledgers Table and the Summary Ledger Staging TablePeopleSoft General Ledger
Viewing Ledger InformationPeopleSoft General Ledger

ビジネス カレンダーの定義

ビジネス カレンダーを定義するには、ビジネス カレンダー コンポーネント (BUS_CALENDAR_HOL) を使用します。

ビジネス カレンダーの定義に使用されるページ

ページ名	*定義名*	*用途*
ビジネス カレンダー ページ	BUS_CALENDAR_HOL	PeopleSoft アプリケーション用に、休日および休業日のリストを作成します。一般会計では、ビジネス カレンダーを使用して、仕訳日が営業日であることを検証します。また、ビジネス カレンダーを銀行口座に割り当てて、通常の営業週と銀行休日を指定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ビジネス カレンダー ページ

ビジネス カレンダー ページ (BUS_CALENDAR_HOL) を使用して、PeopleSoft アプリケーション用の休日と休業日のリストを作成します。

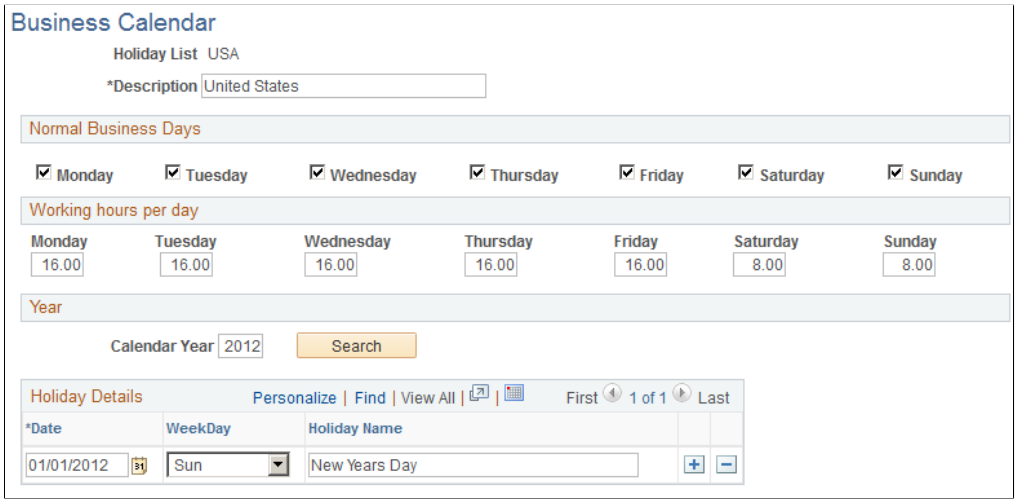
一般会計では、ビジネス カレンダーを使用して、仕訳日が営業日であることを検証します。また、ビジネス カレンダーを銀行口座に割り当てて、通常の営業週と銀行休日を指定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [カレンダー/スケジュール], [ビジネス カレンダー], [ビジネス カレンダー]

画像: ビジネス カレンダー ページ

次の例では、ビジネス カレンダー ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



ビジネス カレンダーの設定

ビジネス カレンダーを設定するには、次の手順に従います。

1. カレンダーの説明 (国やビジネス ユニットの名前など) を入力します。
2. 通常営業日として含める曜日を選択します。
3. それぞれの曜日の合計勤務時間を入力します。
4. 祝日の暦年を入力します。
5. [検索] ボタンをクリックして、指定した年の祝日を入力、削除、または表示します。
6. その年のそれぞれの祝日について、日付と祝日名を指定した行を追加します。

   曜日はシステムによって表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

オープン期間および調整期間の定義と更新

オープン期間を定義および更新するには、オープン期間更新コンポーネント (OPEN_PERIOD_UPDATE) とオープン期間一括更新コンポーネント (OPEN_CLOSE_PERIODS) を使用します。

オープン期間と調整期間の定義および更新に使用されるページ

ページ名	*定義名*	*用途*
オープン期間更新ページ	OPEN_PERIOD_SINGLE	一般会計ビジネス ユニットと元帳グループのオープン期間を定義します。取引タイプごとに期間を設定した後、元帳コードと調整タイプ別にこれらの期間を定義できます。
オープン期間表示ページ	OPEN_PERIOD_SINGLE	ビジネス ユニットと元帳グループの既存のオープン期間および調整期間を表示します。
オープン期間一括更新ページ	OPEN_CLOSE_PERIODS	一般会計ビジネス ユニットや元帳グループ、またはアプリケーションのビジネス ユニットのオープン期間にマス チェンジを実行し、一般会計のオープン期間の変更を指定されたアプリケーションに移動します。単一のビジネス ユニットと元帳グループ、またはビジネス ユニットと取引グループのオープン期間にも変更を加えることができます。
調整期間の一括更新ページ	OPEN_ADJ_MASS_UPD	一般会計ビジネス ユニットと元帳グループの調整期間にマス チェンジを実行します。

オープン期間更新ページ

オープン期間更新ページ (OPEN_PERIOD_SINGLE) を使用して、一般会計ビジネス ユニットと元帳グループのオープン期間を定義します。取引タイプごとに期間を設定した後、元帳コードと調整タイプ別にこれらの期間を定義できます。

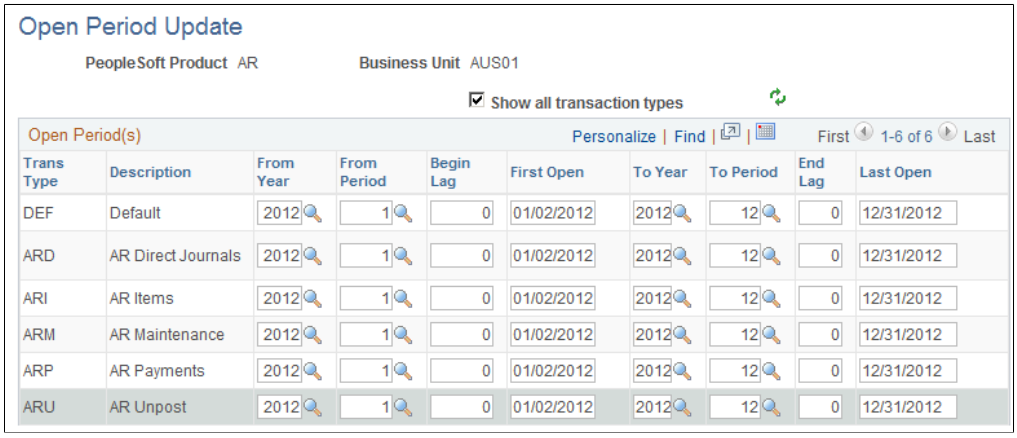
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [ビジネス ユニット関連], [一般会計], [オープン期間], [オープン期間更新], [オープン期間更新]

画像: PeopleSoft 売掛金管理のオープン期間更新ページ

次の例では、PeopleSoft 売掛金管理のオープン期間更新ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。

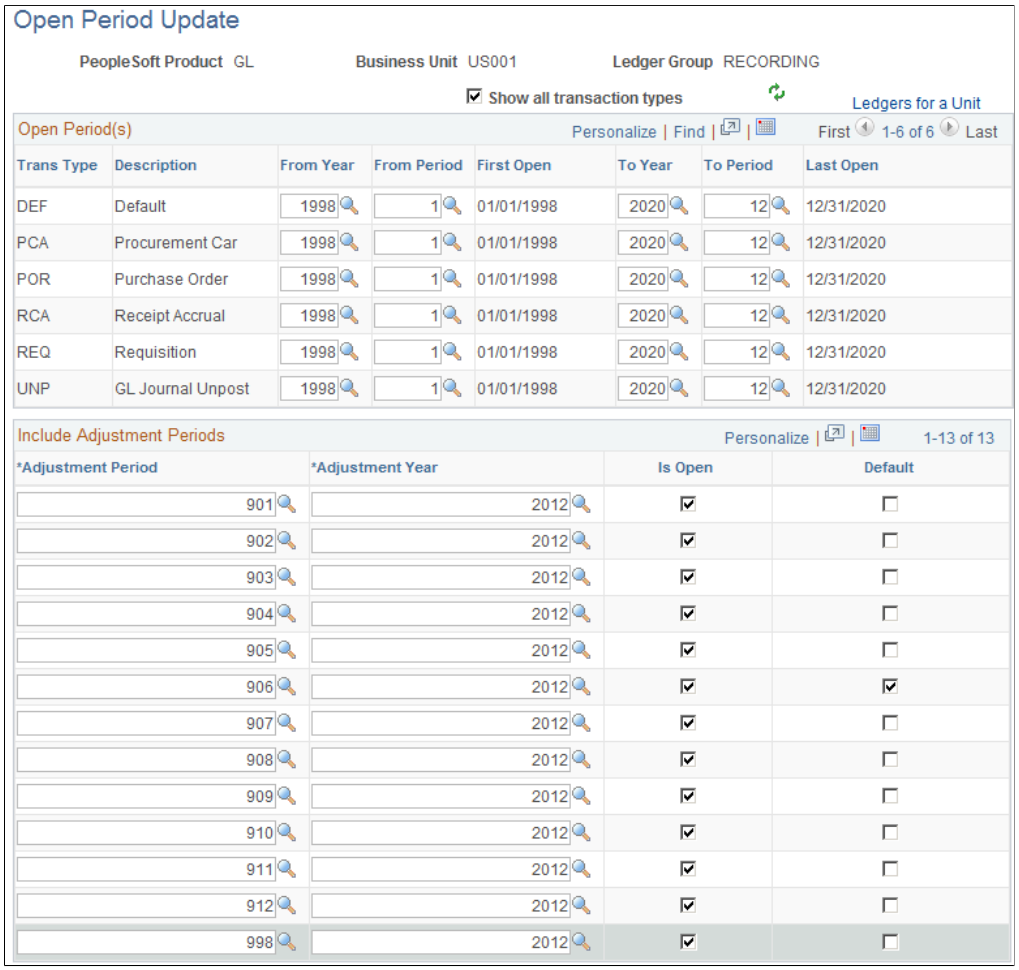


Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: 調整期間は一般会計にのみ適用されます。

画像: オープン期間更新ページ

次の例では、オープン期間更新ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Open Period Update

PeopleSoft Product GL Business Unit US001 Ledger Group RECORDING

Show all transaction types Ledgers for a Unit

Open Period(s) Personalize | Find | First 1-6 of 6 Last

Trans Type	Description	From Year	From Period	First Open	To Year	To Period	Last Open
DEF	Default	1998	1	01/01/1998	2020	12	12/31/2020
PCA	Procurement Car	1998	1	01/01/1998	2020	12	12/31/2020
POR	Purchase Order	1998	1	01/01/1998	2020	12	12/31/2020
RCA	Receipt Accrual	1998	1	01/01/1998	2020	12	12/31/2020
REQ	Requisition	1998	1	01/01/1998	2020	12	12/31/2020
UNP	GL Journal Unpost	1998	1	01/01/1998	2020	12	12/31/2020

Include Adjustment Periods Personalize | 1-13 of 13

*Adjustment Period	*Adjustment Year	Is Open	Default
901	2012	☑	☐
902	2012	☑	☐
903	2012	☑	☐
904	2012	☑	☐
905	2012	☑	☐
906	2012	☑	☑
907	2012	☑	☐
908	2012	☑	☐
909	2012	☑	☐
910	2012	☑	☐
911	2012	☑	☐
912	2012	☑	☐
998	2012	☑	☐

仕訳入力は、オープン期間更新ページで指定されたオープン期間に対してのみ転記できます。

PeopleSoft 製品、ビジネス ユニット、および元帳グループ

一般会計ビジネス ユニットに元帳グループと元帳を設定するときは、ユニット別元帳ページの [オープン期間更新] をクリックすると、オープン期間ページにアクセスできます。このページで、この一般会計ビジネス ユニットと元帳グループの期間を設定できます。一般会計ビジネス ユニットと元帳に対しては、元帳コード別にオープン期間を設定し、次に元帳コードと調整タイプ別に一般会計取引タイプのオープン期間を定義することもできます。

売掛金管理などのアプリケーションにビジネス ユニットを設定する場合は、会計処理オプション ページのページ 1 にある [オープン期間更新] リンクをクリックして、期間の更新ページにアクセスします。アプリケーションのビジネス ユニットに対してオープン

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

期間のパラメータを入力し、アプリケーションの取引タイプ全てを表示し、ラグ日数を使用してタイプごとにオープン期間を設定できます。

全ての取引タイプを表示

サブシステム アプリケーションのビジネス ユニットに対してこのオプションをオンにすると、特定のアプリケーションに対して定義されている全ての取引タイプが表示されます。

ユニット元帳

このリンクを選択すると、ユニット別元帳ページに移動し、元帳コード、調整タイプ、オープン期間などのデータを設定または変更できます。

取引タイプ

ビジネス サイクル内の今後の処理で、どの取引やサブシステムをオープンまたはクローズするかを制御するために、取引タイプごとに開始期間と終了期間の日付を定義します。取引タイプはシステムによって定義されるため、ユーザーがアクセスすることはできません。

一般会計の仕訳入力に、特定のビジネス ユニットや元帳グループの取引を入力する場合や、サブシステム アプリケーションのいずれかに取引を入力する場合に取引を保存すると、システムは、その取引の日付と取引タイプを確認します。このとき、指定された取引タイプに設定されているオープン期間内に取引日が収まっていることがチェックされます。取引日がオープン期間内に設定されている場合は、処理を続行できます。日付がオープン期間外に設定されている場合は、エラー メッセージが表示され、日付を変更するまでは処理を継続できません。

元帳コード

一般会計ビジネス ユニットの取引タイプに対してのみ元帳コードを選択します。ユニット別元帳 - 定義ページで、元帳グループではなく、元帳コード別に詳細元帳のオープン期間を設定できます。一般会計ビジネス ユニットの元帳に対して元帳コード別のオープン期間更新をクリックするときは、このビジネス ユニットで使用する元帳コードと調整タイプを選択します。

元帳コードによって 1 つまたは複数の台帳コードがグループ化されて、元帳のサブセットが作成されます。各サブセットは、ローカル、法人エンティティ、またはその両方に課されている特定の GAAP に従って管理されている残高を表します。各元帳コードは、特定の GAAP レポートに対する残高を表します。台帳コードと元帳コードを使用することで、複数の GAAP に対してオープン期間とクローズ期間を設定できます。

[元帳コード] フィールドは、台帳コードをインストール レベルでアクティブにし、ユニット別元帳ページで元帳コード別に更新することを選択した場合に使用可能になります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: 台帳コード機能の使用を決めた後は、通常の操作の一環としてこの機能のオン/オフを変更しないでください。ただし、インストール時、またはこの機能の初回使用時に切り替えられる場合があります。オープン期間の更新機能と台帳コード オプションは連携しており (元帳コードと調整タイプ)、台帳コード オプションを変更した場合、オープン期間側でもこれに対応する変更と*保存*が必要になります。

Understanding Multiple GAAPs and Prior Period AdjustmentsPeopleSoft Global Options and Reports を参照してください。

調整タイプ

ユニット別元帳 - 定義ページで元帳コード別のオープン期間更新を選択した場合、元帳コードを選択するときに、一般会計取引タイプの調整タイプの値を選択します。

指定した元帳コードの期間が、同じ元帳内のその他の元帳コードの期間よりも早くクローズする場合に、選択した元帳コードの調整タイプを指定します。(最後にクローズする元帳コードには、調整期間はありません。)調整タイプは、他の元帳コードと台帳コードの組合せとアカウントを共有する、元帳コードと台帳コードの組合せごとに定義されます。これらのコードは、複数の GAAP を扱う場合や、異なるクローズ日と前期間調整に関する異なるルールを指定する前期間調整を扱う場合に使用されます。

開始年度および開始期間

取引タイプごとにオープン年度と期間の開始時期を入力します。複数の会計年度を開くことができますが、この元帳で使用されているカレンダーの年を定義します。

開始ラグ日数

一般会計ではなく、サブシステム アプリケーションにのみ有効になります。一般会計の会計期間の開始日と終了日を基準とし、ラグ日数を使用して会計期間の開始日と終了日を計算します。たとえば、アプリケーションの期間の開始日が、–3 のラグ日数で定義されている場合、そのアプリケーションの期間開始日は、関連付けられている一般会計の開始日よりも常に 3 日早くなります。負の数でラグ日数を入力します。

重要 ラグ日数を指定するときは、注意が必要です。たとえば、[終了ラグ日数] フィールドに*「-3」*と入力し、[開始ラグ日数] フィールドに*「0」*と入力した場合、その期間は、次の期間の開始日の 3 日前に終了します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: ビジネス ユニットにビジネス カレンダーが関連付けられている場合、システムによる計算で、ラグ日数は営業日として扱われます。たとえば、一般会計の期間開始日が 2004 年 6 月 1 日 (火曜日) で、アプリケーションのラグ日数に *-3* を指定した場合、システムは、これを *–3 営業日*と見なします。この結果、アプリケーションの終了日は 5 月 27 日 (木曜日) となります。

オープン開始日

オープン開始日は、入力する情報に基づいてシステムによって計算されます。

一般会計の場合、オープン開始日は、詳細カレンダーで定義される会計期間の開始日から取得されます。

他のアプリケーションの場合、オープン開始日は、開始年および開始期間の開始日にラグ日数を足した結果に基づいて決まります。たとえば、期間の開始日が 4 月 1 日で、開始ラグ日数を *-3* と指定している場合、その期間のオープン開始日は 3 月 29 日になります。この日付は、取引タイプごとに変更できます。この日付を変更しても、ラグ日数は変わりません。これを活用すると、アプリケーションの期間開始日として計算される日付を、1 回限りの措置として変更することが可能になります。次の一括更新時には、オープン開始日は定義されたとおりに計算されます。

終了年度および終了期間

元帳または元帳コードに対して現在オープンになっている最後の年度と期間を選択します。複数の会計年度をオープンにすることができますが、定義する必要があるのは、この元帳で使用されているカレンダーの年です。

終了ラグ日数

一般会計ではなく、サブシステム アプリケーションにのみ有効になります。負の数でラグ日数を入力します。終了ラグ日数を *–4* に設定した場合、この日数分が終了年度および終了期間から減算され、新しい日付が [オープン終了日] のフィールドに表示されます。たとえば、終了年度および終了期間が 2004 年 12 月の場合に、終了ラグ日数の値として *–4* を指定したとします。値を保存すると、オープン終了日は 2004 年 12 月 27 日になります。

オープン終了日

この日付は、オープン開始日の計算と似た方法でシステムによって計算されます。一般会計以外の製品では、この日付を変更できます。この日付を変更しても、ラグ日数は変わりません。

調整期間

ビジネス ユニットの詳細カレンダーに調整期間を設定します。この期間は、一般会計のオープン期間に対してのみ設定できます。この期間を設定することで、特定の調整期間が、選択した調整年度内でオープンまたはクローズのどちらになるかを選択

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

	的に示すことが可能になります。また、デフォルトの調整期間も選択できます。
調整年度	調整期間ごとに調整年度を入力します。この年度は、カレンダーとして事前に設定しておく必要があります。ユニット別元帳 - 定義ページでカレンダーを指定します。
オープン	調整期間がオープンであることを示す場合はオンにします。オフすると、調整期間はクローズになります。このオプションにより、ユーザーが間違った期間に対して調整を行わないように、各調整期間を管理できます。
デフォルト	この元帳のデフォルト調整期間を示す場合はオンにします。デフォルト調整期間の選択は必須であり、選択できるのは 1 つだけです。

注: ユニット別元帳 - 定義ページで台帳コードを使用を有効にしないと、元帳コード別のオープン期間更新オプションは表示されなくなり、期間のオープンとクローズは元帳グループでしか行えなくなります。

関連リンク

調整期間およびその他の特別期間

Understanding Multiple GAAPs and Prior Period AdjustmentsPeopleSoft Global Options and Reports

オープン期間表示ページ

オープン期間表示ページ (OPEN_PERIOD_SINGLE) を使用して、ビジネス ユニットおよび元帳グループの既存のオープン期間と調整期間を表示します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [ビジネス ユニット関連], [一般会計], [オープン期間], [オープン期間表示]

「オープン期間更新ページ」を参照してください。

オープン期間一括更新ページ

オープン期間一括更新ページ (OPEN_CLOSE_PERIODS) を使用して、一般会計ビジネス ユニットや元帳グループ、またはアプリケーションのビジネス ユニットのオープン期間にマス チェンジを実行し、一般会計のオープン期間の変更を、指定されたアプリケーションに移動します。

単一のビジネス ユニットと元帳グループ、またはビジネス ユニットと取引グループのオープン期間にも変更を加えることができます。

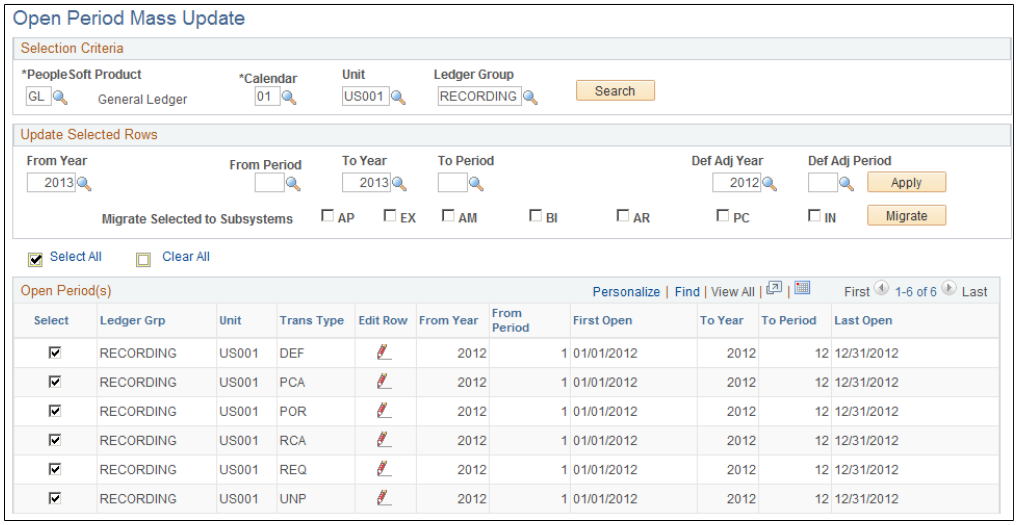
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [ビジネス ユニット関連], [一般会計], [オープン期間], [オープン期間一括更新], [オープン期間一括更新]

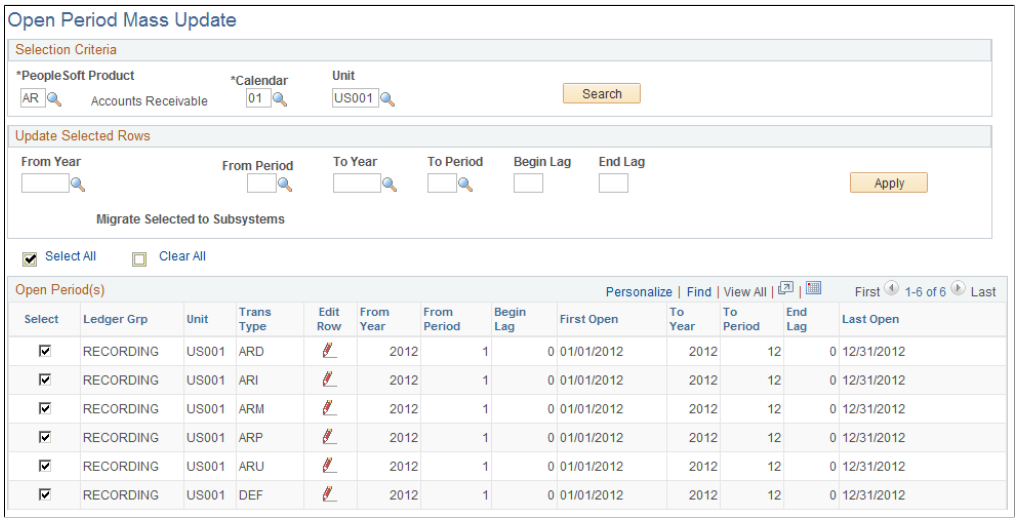
画像: 一般会計のオープン期間一括更新ページ

次の例では、一般会計のオープン期間一括更新ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



画像: 売掛金管理のオープン期間一括更新ページ

次の例では、売掛金管理のオープン期間一括更新ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



一括更新の実行

一括更新を実行するには、次の手順に従います。

1. オープン期間ページで、一般会計の選択条件を入力します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ワイルドカード (%) を使用して全てのビジネス ユニットと元帳グループを選択したり、特定のビジネス ユニットを選択してワイルドカードを指定することで全ての元帳グループを選択できるほか、全てのビジネス ユニットを表すワイルドカードと特定の元帳グループを入力することもできます。[検索] ボタンをクリックします。選択条件に基づいて、オープン期間のリストが表示されます。

2. [全て選択] ボタンをクリックすると、リストにある全てのオープン期間が一括更新のために選択されます。

   [全てクリア] ボタンをクリックすると、全てを選択するアクションが解除され、各行を個別に選択できます。

3. オープン期間の変更を [選択行の更新] グループ ボックスに入力して [適用] ボタンをクリックします。

   選択したビジネス ユニットと元帳グループそれぞれに変更が適用されます。

一般会計のオープン期間のサブシステムへの一括移動

一般会計のオープン期間を、選択したサブシステムに一括で移動するには、次の手順に従います。

1. オープン期間ページに製品名として *GL* と入力し、選択条件を指定して [検索] ボタンをクリックします。

2. 他のアプリケーションに変更を移動するビジネス ユニットと元帳グループを選択します。

   注: 台帳コードをアクティブにすると、一般会計のビジネス ユニット元帳グループに複数のオープン期間が存在します。移動の際に複数のオープン期間を選択した場合は、上の行の期間が下の行の期間で上書きされます。

   ---

3. 一般会計の現在のオープン期間設定を移動する先となるアプリケーションを [選択部分をサブシステムに移動] グループ ボックス内で選択し、[適用] ボタンをクリックします。

   選択したビジネス ユニットと元帳グループに関連付けられている選択したサブシステムに、オープン期間の変更が移動します。

特定のビジネス ユニットと元帳グループのオープン期間の変更

特定のビジネス ユニットと元帳グループのオープン期間を変更するには、次の手順に従います。

1. オープン期間ページで選択条件を指定して [検索] ボタンをクリックします。

2. 一般会計のビジネス ユニットと元帳グループ、または変更する他のアプリケーションのビジネス ユニットを選択します。

3. [現在の行編集] ボタンをクリックして、フィールドの内容を変更します。

   開始年度を新しく指定すると、終了年度、オープン開始日およびオープン終了日がシステムによって計算されます。これらの値は変更することができます。

4. [保存] ボタンをクリックします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

変更内容に基づいて、オープン開始日とオープン終了日が計算されます。

調整期間の一括更新ページ

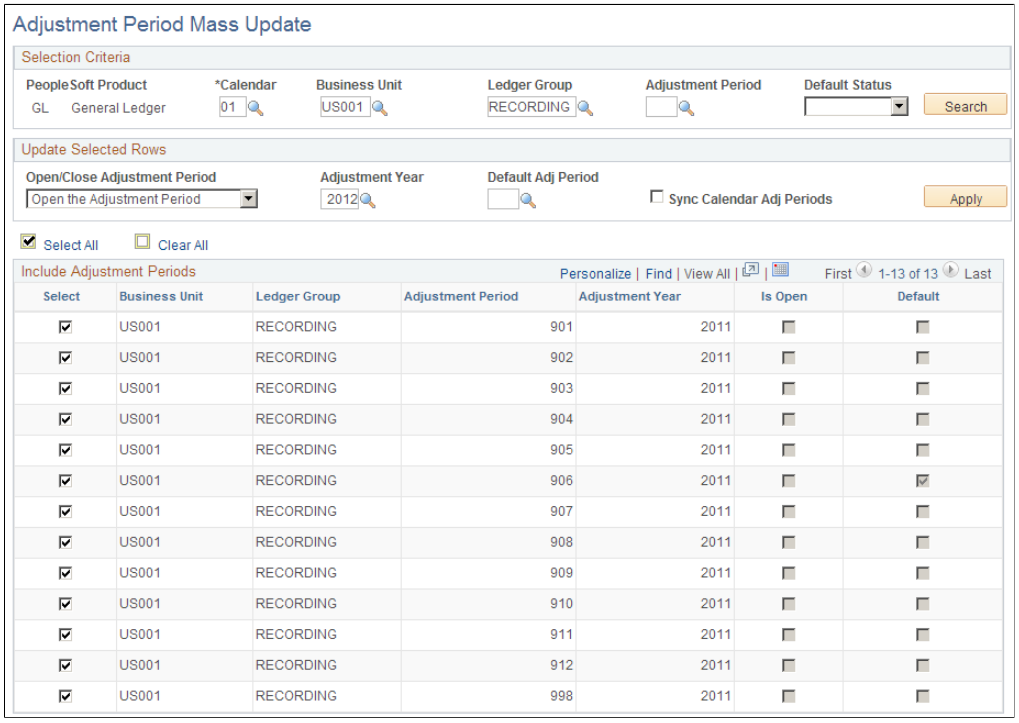
調整期間の一括更新ページ (OPEN_ADJ_MASS_UPD) を使用して、一般会計ビジネス ユニットと元帳グループの調整期間を一括で変更します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [ビジネス ユニット関連], [一般会計], [オープン期間], [調整期間の一括更新], [調整期間の一括更新]

画像: 調整期間の一括更新ページ

次の例では、調整期間の一括更新ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



選択条件

このページは一般会計にのみ適用されます。[カレンダー] フィールドでのカレンダー コードの選択は必須です。その他のフィールドは全てオプションで、[検索] ボタンを選択した後にページ下部の調整期間セクションに表示される調整期間範囲の絞り込みに役立ちます。

選択行の更新

このセクションでは、次のことを行えます。

- 調整期間 (1 つまたは複数) をオープンまたはクローズする。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 調整期間 (1 つまたは複数) の調整年度を変更する。
- デフォルトの調整期間を別の期間に変更する。
- 選択したビジネス ユニットと元帳グループの調整期間を、更新された詳細カレンダーの調整期間と同期する。

  調整期間の追加や削除は詳細カレンダー コンポーネント (DETAIL_CALENDAR) から実施できますが、この種類の変更の反映や、一般会計のビジネス ユニットと元帳グループの調整期間への同期は、自動的には行われません。この種類の変更は [カレンダー調整期間の同期] チェック ボックスをオンにし、変更するビジネス ユニットと元帳グループそれぞれのチェック ボックスを選択することで同期できます。詳細カレンダーに調整期間を追加した場合、この調整期間は選択したビジネス ユニットと元帳グループに追加されます。調整期間を詳細カレンダーから削除すると、その期間はビジネス ユニットと元帳グループから削除されます。

変更する行の [選択] チェック ボックスをオンにしたら、[適用] ボタンをクリックして選択した行を更新します。

「オープン期間とクローズ期間に基づいた会計カレンダーについて」を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第19章

元帳の設定

元帳について

*元帳*は、ビジネス ユニットの台帳セットを表す転記済残高で構成されます。元帳には、チャートフィールド値のセットの転記済正味アクティビティが、会計期間別および会計年度別に保存されます。元帳では単一の勘定科目チャートがサポートされるため、固有の勘定科目チャートを持つビジネス ユニットに対して、個別の元帳が定義されます。元帳は主に仕訳入力によって管理され、元帳には実績、予算、予測、統計またはその他のタイプのデータを数多くのレベルで保存できます。

PeopleSoft 一般会計では、明細元帳、複数元帳および要約元帳がサポートされます。必要な数の元帳を定義して、会計取引、予算取引および非会計取引を記録し、履歴データを管理できます。

このトピックでは、次について説明します。

- 元帳テンプレート
- 元帳テーブル
- 明細元帳
- 元帳グループ
- ユニット別元帳
- 元帳エラー処理
- 複数帳簿元帳
- 要約元帳
- タイムスパン
- 元帳のインポートとエクスポート

注: ライセンスを取得していない、使用しない製品については、インストール オプション - 製品ページの全てのチェック ボックスをオフにします。出荷時には、ライセンスを取得しているかどうかにかかわらず、製品ページの全ての製品の全てのチェック ボックスはオンであり、ライセンスを取得していない製品の不要な設定が行われる可能性があります。たとえば、製品ページで [一般会計] が選択されており、その製品のライセンスを取得していない場合、一般会計のみに適用されるフィールドがあり、それらのフィールドはユニット別元帳および元帳テンプレート ページで値の入力が可能になります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

前提条件

元帳を設定する前に、次のことを行います。

- ライセンスを取得していない全ての製品について、インストール オプション - 製品ページのチェック ボックスをオフにします。

  「インストール オプション - 基本設定ページ」を参照してください。

- 一般会計ビジネス ユニットを設定します。
- チャートフィールド値を設定します。
- 会計カレンダーを設定します。

元帳テンプレート

PeopleSoft では複数の元帳テンプレートを用意しており、それぞれによって元帳の物理属性が定義されます。元帳テンプレートは、*元帳グループ*に追加できる複数の元帳にリンクされています。このテンプレート関係によって、元帳グループ内の全ての元帳は同じ物理レイアウトを共有します。一般会計では、これらのテンプレートを使用して、関連する元帳の更新や関連する元帳に関するレポートを行うのに必要な全てのレコードおよびフィールドを指定します。

借方金額を貸方金額とは別に元帳に保存するには、PeopleSoft 貸借個別入力機能に用意されている設定指示に従って、フィールドを作成し、テーブルを変更し、元帳テンプレートでフィールドを指定します。

注: ライセンスを取得していない、使用しない製品については、インストール オプション - 製品ページの全てのチェック ボックスをオフにします。出荷時には、ライセンスを取得しているかどうかにかかわらず、製品ページの全ての製品の全てのチェック ボックスはオンであり、ライセンスを取得していない製品の不要な設定が行われる可能性があります。たとえば、製品ページで [一般会計] が選択されており、その製品のライセンスを取得していない場合、一般会計のみに適用されるフィールドがあり、それらのフィールドは元帳テンプレートで値の入力が可能になります。

元帳テーブル

元帳は、データベース内のテーブルに保存されます。元帳テーブルのキー フィールドは、[ビジネス ユニット]、[元帳]、[チャートフィールド]、[会計年度] および [会計期間] です。正味期間アクティビティはキー フィールドではありません。

転記の前に、一般会計では、元帳テーブルに転記されたデータはシステム内の他のテーブルに対して検証されます。検証に使用されるテーブルを設定して、システムで取引を元帳に転記できるようにします。次のことに注意してください。

- 仕訳入力を転記すると、チャートフィールド組合せごとに正味期間アクティビティ (借方と貸方の組合せ) が保存されます。
- 年間累計残高は保存されませんが、これらの残高はレポート用に計算されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 元帳のカレンダーによって、会計期間における時間が、週、月、四半期またはその他の期間のいずれであるかが決まります。
- 同じチャートフィールドの複数の元帳 (実績、予算、統計など) を単一テーブルに保存できます。
- 元帳の借方と貸方を元帳レベル、ビジネス ユニットまたはチャートフィールド レベルで一致させることができます。

明細元帳

*明細元帳*は、仕訳の会計取引明細を保存するために使用されます。元帳テンプレートを設定した後で、明細元帳を定義して元帳グループと関連付けます。要約されたアクティビティを記録するために使用される要約元帳と区別するために、明細元帳と呼ばれます。

元帳グループ

元帳テンプレートと明細元帳を適切な元帳グループで結合します。元帳グループには、1 つの主元帳と 0 から 9 個の補助元帳を含めることができます。元帳グループ内の各元帳は、元帳テンプレートに基づく共通の物理的な構造を共有し、固有の特性 (独自の基本通貨など) も持ちます。一般会計では、確立したルールに従ってグループ内の元帳に転記されます。グループ内の全ての元帳に同時に転記する複数帳簿取引をアプリケーションで管理することもできます。

元帳グループには、目的や含まれる元帳がわかるような名前を付けることができます (ACTUALS や BUDGETS など)。この名前は、ビジネス ユニットに対して定義される全ての元帳グループで一意であり、元帳テーブルで一意のキーとなります。通常、グループ内の個別の元帳の名前は、通貨のタイプまたはグループ内での元帳の用途 (地域、機能、レポートなど) を表します。元帳グループの名前を主元帳の名前にすることもできます。たとえば、複数帳簿機能を使用していない場合、元帳の名前を ACTUALS にし、元帳グループの名前も ACTUALS にすることができます。

非コミットメント コントロール元帳グループ タイプには、日中平均残高、標準、予算および換算があります。コミットメント コントロールで使用される元帳グループ タイプは、コミットメント コントロール支出とコミットメント コントロール収入のみです。

日中平均残高、予算および換算元帳グループには主元帳が 1 つのみあり、補助元帳はありませんが、標準元帳グループには 1 つの主元帳と 0 から 9 個の補助元帳があります。

通常、コミットメント コントロール支出元帳グループ タイプには、予算、プレエンカンバランス、エンカンバランスおよび支出元帳が含まれています。通常、コミットメント コントロール収入元帳グループ タイプには、予算、承認済収入および回収済収入元帳が含まれています。

[元帳同期管理] チェック ボックスと [行を自動作成] オプションの組合せによって、システムでの取引の転記方法が決まります。[元帳同期管理] オプションまたは [行を自動作成] オプションを選択した場合、取引はグループ内の全ての元帳に転記されます。いずれかのオプションを選択すると、仕訳編集処理によって、元帳グループ内の他の元帳に対して追加の仕訳行が生成されます。たとえば、3 つの元帳を含む元帳グループに対して 2 行の仕訳入力を入力すると、4 行が追加で作成されます (他の元帳ごとに 2 行ずつ)。[元帳同期管理] または [行を自動作成] オプションを選択しない場合、取引は取引入力があった元帳のみに転記され、元帳グループ内の他の元帳に対して補助仕訳行は生成されません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ビジネス ユニットの基本通貨の継承オプションによって、グループ内の元帳でビジネス ユニットの基本通貨が換算に使用されるかどうかが決まります。この機能によって、異なる基本通貨を使用するビジネス ユニット間で元帳グループを共有する柔軟性が増します。たとえば、カナダに本社を置く多国籍企業で、5 つの子会社が世界中の異なる国にあるとします。子会社がビジネス ユニットの基本通貨の継承オプションを選択した場合、それぞれの子会社は、レポート元帳用の通貨コード CAD (カナダ ドル) を持つ補助元帳がある元帳グループを持つことができます。主元帳は、ビジネス ユニットの基本通貨を共有し、ビジネス ユニットが存在する各国の機能通貨を表します。組織がビジネス ユニットの基本通貨の継承オプションを選択しない場合、5 つの異なる元帳グループを定義し、それぞれがビジネス ユニットの基本通貨と一致する基本通貨の主元帳を持つようにする必要があります。

元帳グループの [換算] チェック ボックスをオンにすることによって、補助元帳を換算元帳として定義できます。このオプションは、元帳グループの [元帳同期管理] オプション (KLS) を選択した場合にのみ適用されます。主元帳は換算元帳として定義できません。複数帳簿元帳について換算元帳を使用することが多くあります。

ユニット別元帳

元帳およびカレンダーの定義後、ユニット別元帳コンポーネントで、各一般会計ビジネス ユニットによって使用される明細元帳、元帳グループおよびカレンダーを指定します。

ビジネス ユニットによる転記先の明細元帳ごとに、次のことを指定します。

- 貸借一致した元帳かどうか。
- 現在オープンしている期間。
- 調整を転記するための年および調整期間。
- 仕訳処理、通貨および承認オプションを処理するためのルール。

注: ライセンスを取得していない、使用しない製品については、インストール オプション - 製品ページの全てのチェック ボックスをオフにします。出荷時には、ライセンスを取得しているかどうかにかかわらず、製品ページの全ての製品の全てのチェック ボックスはオンであり、ライセンスを取得していない製品の不要な設定が行われる可能性があります。たとえば、製品ページで [一般会計] が選択されており、その製品のライセンスを取得していない場合、一般会計のみに適用されるフィールドがあり、それらのフィールドはユニット別元帳ページで値の入力が可能になります。

カレンダーを元帳やビジネス ユニットに関連付けることによって、およびカレンダーと元帳をビジネス ユニット間で共有することによって、会計データを効率的および効果的に取得できます。

元帳エラー処理

ユニット別元帳コンポーネントで元帳を定義するときに、その元帳で入力されたエラーのある仕訳入力の処理方法を決定します。一般会計では、これらのエラー処理オプションは次の場所で指定できます。

- ビジネス ユニット レベルの場合、一般会計定義 - 仕訳オプション ページにアクセスします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 元帳および元帳グループ レベルの場合、ユニット別元帳 - 仕訳編集オプション ページにアクセスします。
- ソース レベルの場合、仕訳ソース - 仕訳オプション ページにアクセスします。

設定は全体として、ソース、元帳グループ、ビジネス ユニット レベルの順に*優先*されます。逆に、*デフォルト*は、ビジネス ユニット、元帳、ソース レベルの順になります。たとえば、元帳の設定はビジネス ユニットの設定より優先されますが、ソースの設定は同じオプションの元帳レベルとビジネス ユニット レベルの両方の設定より優先されます。

仕訳入力を入力および編集する際に、エラーが識別されます。

一般会計では、次のエラー条件の 1 つ以上が存在する場合、仕訳を転記できません。

エラー	***原因***
締め済会計期間	仕訳入力日がオープン期間内ではありません。
仕訳貸借一致エラー	無効なチャートフィールド値またはチャートフィールド組合せがあります。
仕訳金額エラー	外貨金額の符号が金額 (基本金額) と異なります。
コントロール合計エラー	仕訳行合計が、仕訳ヘッダー レベルで入力したコントロール合計と一致しません。

複数帳簿元帳

PeopleSoft の*複数帳簿*機能を使用すると、異なる基本通貨で同じ物理的な構造を共有して複数の元帳を管理でき、複数通貨でのリアルタイム貸借一致を実現できます。1 つの台帳セットを地域通貨 (機能通貨) で保持し、別の台帳セットを親会社の通貨 (申告通貨) で保持することが会社にとって必要であるため、この機能は*デュアル台帳*とも呼ばれます。

複数帳簿では、ビジネス ユニットに対して定義された複数の基本通貨が、それぞれ元帳の形式でサポートされます。オプションで、単一取引を全ての通貨 (全ての元帳) に転記するか、それらの基本通貨のうちの 1 つのみ (個別の元帳) に転記できます。複数帳簿では、取引は該当する基本通貨に自動的に換算され、対応する元帳に転記されます。これにより、フル ドリルダウン サポートとクロス カレンシー比較が要約レベルと取引レベルの両方で提供されます。

元帳グループ内の補助複数帳簿元帳を通貨換算元帳として使用できます。この元帳は、会計期間中に、指定された通貨で全ての勘定科目のリアルタイム貸借一致を管理するため、レポート元帳として機能します。会計期間の最後に、元帳内換算処理を実行して、選択した勘定科目の複数帳簿換算元帳内での為替差損益調整を生成できます。

PeopleSoft は、複数帳簿元帳グループ内の他の補助元帳とは違う方法で換算元帳を管理します。通常は、取引が複数帳簿元帳グループに転記されるときに、主元帳の取引通貨金額が補助元帳の取引金額として使用されます。ただし、換算元帳では、主元帳の基本通貨金額が取引金額として使用されます。複

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

数帳簿換算元帳の場合、取引通貨、基本通貨の金額と等しい外貨金額、主元帳の基本金額で行が生成されます。

元帳グループ内で、*同期会計入力*は、異なる元帳に配布される 1 つの取引の会計入力のグループです。これらの会計入力では、チャートフィールド、取引通貨および外貨金額は同じです。PeopleSoft アプリケーションでは、複数帳簿がサポートされ、元帳グループ内のほとんどの元帳に対して同期会計入力が生成されます。通貨換算元帳の場合、仕訳編集処理によって、転記の前に同期会計入力が追加され、完全に同期した仕訳が作成されます。仕訳ジェネレータでは、これらの行は同期会計入力として認識され、同期仕訳入力が一般会計で生成されます。フィールド順序を仕訳ジェネレータの会計入力定義ページで指定できます。仕訳入力の生成時に、仕訳ジェネレータ処理によってこれらのフィールドが使用されて 1 つの取引の会計入力をグループ化する方法が決定され、同期仕訳が生成されます。

注: 一部の PeopleSoft 製品には通貨換算元帳が含まれていない場合があります。この機能を使用できるかどうかを確認するには、個々の製品ドキュメントを参照してください。

要約元帳

*要約元帳*には、明細元帳から勘定残高が集約されて保存されます。要約元帳は、主に PS/nVision レポートで使用します。要約元帳では、レポート要求のたびに明細元帳残高を要約する必要性をなくすことで、レポートの迅速性と効率性が増します。代わりに、一般会計では、選択した条件に従ってバックグラウンド処理で明細元帳残高が要約され、要約元帳に保存されます。

要約元帳が最後に作成または更新された後に行われた変更を使用して、次の 2 つの方法で要約元帳を増分更新できます。

- 明細元帳に変更を転記するのと同時に、仕訳転記処理の一部として要約元帳を更新します。

  この場合、既存の要約元帳のみが更新されます。これには、ビジネス ユニット、要約元帳名、会計、会計期間情報が含まれます。

- 増分オプションと共に PeopleSoft プロセス スケジューラを使用して要約元帳作成処理を開始し、要約元帳を更新します。

タイムスパン

*タイムスパン*を使用すると、割当、照会、および PS/nVision レポートでの使用のために、元帳残高を選択して取得できます。タイムスパンによって、元帳テーブルから抽出してデータを要約できる期間数が制御されます。一般会計の典型的なタイムスパンには、当期間のアクティビティ、選択したアイテムの年間累計金額、貸借対照表勘定科目の残高繰越金額などがあります。

レポートの実行時に指定する指定日にレポートの内容を自動的に適合させるために、当期間に対して相対的な数多くのタイムスパンを表現できます。特定の期間用のその他のタイムスパンを定義できます。

タイムスパンに対して入力する絶対期間および絶対年度を検証するために、一般会計ではカレンダーが使用されます。これらの期間および年度は、指定したカレンダー上に存在する必要があります。タイムスパンを使用して、特別なカレンダー期間に保存された残高繰越金額および調整を取得します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

一般会計には一般的に使用されるタイムスパンが数多く含まれていますが、追加のタイムスパンを必要なだけ定義できます。これらのタイムスパンに関する情報を表示するには、FIN0003 レポートを生成します。

元帳のインポートとエクスポート

サードパーティ レポート ソフトウェアとの間でフラット ファイル元帳をインポートおよびエクスポートできます。一般会計での処理によって、元帳データの行を含む別の製品または外部システムからフラット ファイルをインポートできます。この機能は、異なる一般会計システムからの分散した元帳データを組み合わせて、連結、要約および企業レポートを実行するために使用されることが多くあります。

サードパーティ レポート ソフトウェア システムにエクスポートする一般会計処理を使用して、フラット ファイル フォーマットを選択または追加し、フラット ファイル元帳を作成することもできます。この機能は、必要とされるフォーマットでの法定レポートの作成で使用するために、特定のフォーマットで元帳データを用意する必要がある国で使用されることが多くあります。

元帳パブリッシュ エンタープライズ インテグレーション ポイント (IP) および元帳ロード処理を使用して、分散した一般会計システム間で元帳データを交換することもできます。この機能は、連結と共に機能するように設計されています。

関連リンク

アプリケーションの基礎のレポート: 一般的な説明
Understanding Multiple GAAPs and Prior Period AdjustmentsPeopleSoft Global Options and Reports
Oracle の PeopleSoft の配賦プロセス (FS_ALLC) について
Understanding Interim and Year End ClosingPeopleSoft General Ledger
調整期間およびその他の特別期間
仕訳ソース - 定義ページ
Defining General Ledger Business UnitsPeopleSoft General Ledger
ビジネス ユニット用元帳の定義
Preparing for the Translate Within Ledger ProcessPeopleSoft General Ledger
タイムスパンの使用
Using the Ledger Interface UtilityPeopleSoft General Ledger

元帳テンプレートの定義

元帳テンプレートを定義するには、元帳テンプレート コンポーネント (LEDGER_TEMPLATE) を使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

元帳テンプレートの定義に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
テンプレート - レコード定義ページ	LEDGER_TEMPLATE1	元帳テンプレートのレコード名を指定します。これは、新しいテンプレートを追加するか、システムで用意されているテンプレートのデフォルト レコードを変更する場合にのみ実行します。
テンプレート - フィールド定義ページ	LEDGER_TEMPLATE2	元帳テンプレートのフィールド名を指定します。これは、デフォルト フィールドを変更する場合、または借方金額を貸方金額とは別に保存するフィールドを追加する場合にのみ実行します。

元帳テンプレートを定義する方法について

PeopleSoft では複数の元帳テンプレートが提供されており、これらのテンプレートでは、チャートフィールドをサポートするデフォルト レコードとフィールド、およびその他のフィールドとレコード定義が用意されています。システムを変更しない場合、またはチャートフィールドのセットが複数ある場合は、システムで生成されるデフォルト値のセットを変更しないでください。

元帳テンプレートを定義するには、次の作業を行います。

- 元帳テンプレートのレコード定義を作成または変更します。
- 元帳テンプレートのフィールド定義を作成または変更します。
- 借方残高および貸方残高を個別に保存するテーブルを変更します。

注: ライセンスを取得していない、使用しない製品については、インストール オプション - 製品ページの全てのチェック ボックスをオフにします。出荷時には、ライセンスを取得しているかどうかにかかわらず、製品ページの全ての製品の全てのチェック ボックスはオンであり、ライセンスを取得していない製品の不要な設定が行われる可能性があります。たとえば、製品ページで [一般会計] が選択されており、その製品のライセンスを取得していない場合、一般会計のみに適用されるフィールドがあり、それらのフィールドは元帳テンプレートで値の入力が可能になります。

関連リンク

Understanding Basic Commitment Control SetupPeopleSoft Commitment Control

テンプレート - レコード定義ページ

テンプレート - レコード定義ページ (LEDGER_TEMPLATE1) を使用して、元帳テンプレートのレコード名を指定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

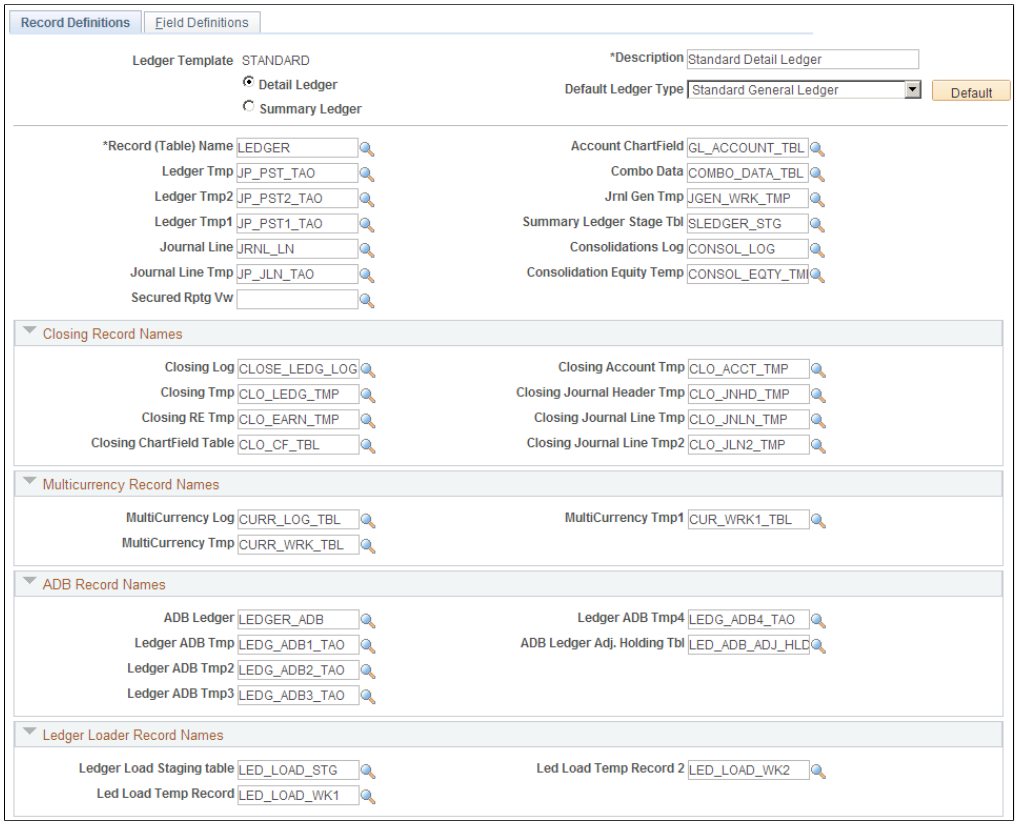
これは、新しいテンプレートを追加するか、システムで用意されているテンプレートのデフォルト レコードを変更する場合にのみ実行します。

ナビゲーション

[一般会計], [元帳], [テンプレート], [レコード定義]

画像: テンプレート - レコード定義ページ

次の例では、テンプレート - レコード定義ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



注: 新しいテンプレートを追加するか、システムで用意されているテンプレートのデフォルト レコードを変更する場合にのみ、元帳テンプレートのレコード定義を作成または変更します。

説明 ページ、照会、プロンプト リストおよびレポートに表示される、この元帳テンプレートの説明を入力します。

明細 この元帳テンプレートが明細元帳を表す場合に選択します。

要約 この元帳テンプレートが要約元帳を表す場合に選択します。

デフォルト元帳タイプ 作成する元帳テンプレートのタイプに最も近い、デフォルト元帳タイプを選択します。この選択によって、システムで生成されるデフォルト レコード定義が決まります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

デフォルト

システム内の全てのテンプレートにデフォルト レコードのセットを適用するには、[デフォルト テンプレート設定] ボタンをクリックします。これらの値は変更できます。

デフォルト元帳タイプとして *[コミットメント コントロール]* を選択した場合、レコード名およびフィールド名は自動的に入力されます。これらは必須フィールドであり、変更できません。

注: コミットメント コントロール元帳タイプに対して [デフォルト テンプレート設定] ボタンは使用できません。

レコード (テーブル) 名

転記済アクティビティがある各チャートフィールド組合せの残高を保存するために使用する元帳レコードを表します。

元帳一時テーブル

元帳処理で使用されるワーク テーブルを指定します。このワーク テーブルは、詳細テンプレートとサマリ テンプレートの両方に必要です。

元帳一時テーブル 2

元帳処理で使用されるワーク テーブルを指定します。

仕訳行

各仕訳入力の金額および統計値を含む詳細行を保存します。

仕訳行一時テーブル

仕訳処理で使用されるワーク テーブルを指定します。

レポート セキュリティ ビュー

(オプション) PS/nVision レポート中に、権限のあるユーザー ID による元帳へのアクセスをセキュリティ保護するために、元帳レポート ビュー (一般会計の場合は LED_RPTG_VW、コミットメント コントロールの場合は LED_RPTG_KK_VW) を指定します。これはオプションのセキュリティ フィールドであるため、元帳レポート ビューを指定しない場合、PS/nVision により、レポートは元帳に対して直接提供されます。

注: 元帳セキュリティ ページを使用して、この元帳データにアクセスできるユーザー ID を指定します。レポート ビューを指定し、権限のないユーザーが元帳にアクセスしようとした場合、PS/nVision によってレポートの元帳金額には全てゼロが表示されます。

PeopleTools の「PS/nVision」、「Setting Up PS/nVision Security」、「Implementing PS/nVision Ledger-Based Data security」を参照してください。

勘定科目チャートフィールド

勘定科目チャートフィールド値を保存するレコードを指定します。標準の PeopleSoft 一般会計システムでは、これは GL_ACCOUNT_TBL です。

組合せデータ

チャートフィールド組合せ編集に使用されるデータを保存します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

仕訳ジェネレータ Tmp (仕訳ジェネレータ一時テーブル) 仕訳ジェネレータ処理によって使用されるワーク テーブルを指定します。

要約元帳ステージング テーブル 元帳行の保持テーブルとなります。要約元帳の作成後、転記処理によって追加行がここに保存されます。要約元帳増分転記処理を実行すると、要約元帳ステージング テーブルはこの保存データによって増分更新されます。このフィールドは、サマリ テンプレートではなく詳細テンプレートのみで必要です。

連結ログ 連結処理中に連結ログ用に更新するレコードを指定します。

連結資本一時テーブル 連結処理で資本消去を計算するために使用されるワーク テーブルを指定します。

締め処理レコード名

次のフィールドは、締め処理に適用されます。

締め処理ログ 締め処理中に締め処理ログ用に更新するレコードを指定します。

締め処理 Tmp (締め処理一時テーブル) 締め処理で使用されるワーク テーブルを指定します。このテーブルと締め処理剰余金 Tmp テーブルは同じ構造であり、どちらも締め処理に必要です。

締め処理剰余金Tmp (締め処理剰余金一時テーブル) 締め処理で使用される剰余金ワーク テーブルを指定します。このテーブルと締め処理 Tmp テーブルは同じ構造であり、どちらも締め処理に必要です。

締め処理 CF テーブル 締め処理チャートフィールド値を保存するテーブルを指定します。

締め処理勘定科目一時テーブル クローズされるビジネス ユニットの勘定科目情報を保存するワーク テーブルを指定します。

締め処理仕訳ヘッダー一時テーブル 仮締め処理または年度末締め処理の結果であるソース仕訳のヘッダーを保存するワーク テーブルを指定します。

締め処理仕訳行一時テーブル および 締め処理仕訳行一時テーブル 2 仮締め処理または年度末締め処理の結果であるソース仕訳の行を保存するワーク テーブルを指定します。

多通貨レコード名

次のフィールドは、多通貨処理に適用されます。

多通貨ログ 多通貨処理中に通貨ログ用に更新するレコードを指定します。

多通貨一時テーブル および 多通貨一時テーブル 1 多通貨処理で使用されるワーク テーブルを指定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ADB (日中平均残) レコード名

次のフィールドは、ADB 元帳処理に適用されます。

日中平残元帳 ADB がアクティブである場合に日単位元帳に残高を保存します。

元帳 ADB 一時テーブル (元帳日中平均残一時テーブル)、元帳日中平残一時テーブル2 および 元帳日中平残一時テーブル3 日中残高を転記するために ADB 処理中に元帳 ADB 転記によって使用されるワーク テーブルを指定します。

ADB 元帳調整保持テーブル および ADB 元帳調整保持テーブル 2 仕訳転記処理から日中残高への調整を保存します。ADB 処理中に、残高はこれらのテーブルから ADB 元帳テーブルに転記されます。

元帳ロード レコード名

次のフィールドは、別の PeopleSoft またはサードパーティ システムからロードされる元帳に適用されます。

元帳ロード ステージング テーブル 元帳ロード処理 (チャートフィールド値マッピング) および連結で使用される元帳パブリッシュ エンタープライズ インテグレーション ポイントで使用される値を保存します。

[元帳ロード一時レコード] および [元帳ロード一時レコード 2] 元帳ロード処理で使用されるワーク レコードを指定します。

関連リンク

Understanding Consolidation and EquitizationPeopleSoft General Ledger
Understanding Average Balance CalculationPeopleSoft General Ledger
Understanding Average Balance CalculationPeopleSoft General Ledger
Understanding Archiving for Ledgers and JournalsPeopleSoft General Ledger

テンプレート - フィールド定義ページ

テンプレート - フィールド定義ページ (LEDGER_TEMPLATE2) を使用して、元帳テンプレートのフィールド名を指定します。

これは、デフォルト フィールドを変更する場合、または借方金額を貸方金額とは別に保存するフィールドを追加する場合にのみ実行します。

ナビゲーション

[一般会計], [元帳], [テンプレート], [フィールド定義]

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

フィールド定義ページのフィールドには、テンプレート - レコード定義ページで選択したデフォルト元帳タイプに基づいて、デフォルト値が入力されます。これらの値は変更でき、借方金額を貸方金額とは別に保存するフィールドを追加できます。

勘定科目	勘定科目チャートフィールドのフィールド名が含まれます。このフィールド名はバックグラウンド処理にのみ使用されます。オンライン PeopleCode では、引き続き勘定科目フィールド名が参照されます。
金額	仕訳行の金額 (基本通貨額) を含む必須フィールド。
統計値	(オプション) 仕訳行の統計値が含まれます。
転記済金額合計	元帳に転記された各チャートフィールド組合せの借方金額と貸方金額の残高純額が含まれます。
転記済借方合計	値が入力されている場合、およびユニット別元帳 - 定義ページで元帳に対して貸借個別入力オプションを選択した場合、システムによってこれらのフィールドに値が入力され、借方残高と貸方残高が個別に追跡されます。
転記済貸方合計	値が入力されている場合、ユニット別元帳ページで元帳に対して貸借個別入力オプションを選択したことを意味し、その結果、借方と貸方が個別に追跡されます。
組合せ編集テンプレート	仕訳編集処理に必要です。*[仕訳]* を選択します。

警告 チャートフィールド組合せ編集を使用しない場合でも、*[仕訳]* 組合せテンプレートを選択します。仕訳編集処理を実行するために、このフィールドに値を入力する必要があります。

関連リンク

チャートフィールド組合せ編集について

明細元帳の定義

一般会計では、(通常はバックグラウンド処理で) 仕訳入力を明細元帳に直接転記します。定義できる元帳の数やタイプに制限はありません。

明細元帳を定義するには、明細元帳コンポーネント (DETAIL_LEDGER) を使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

明細元帳の定義に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
明細元帳ページ	LEDGER_DETAIL1	明細元帳 ID および名前を定義し、明細元帳を元帳テンプレートにリンクします。

明細元帳ページ

明細元帳ページ (LEDGER_DETAIL1) を使用して、明細元帳 ID および名前を定義し、明細元帳を元帳テンプレートにリンクします。

ナビゲーション

[一般会計], [元帳], [明細元帳], [明細元帳]

元帳説明 選択した明細元帳の説明を入力します。

元帳テンプレート 明細元帳を適切な元帳テンプレートにリンクします。

元帳の元帳グループへのリンク

元帳グループに元帳をリンクするには、明細元帳グループ コンポーネント (DETAIL_LEDGER_GROU) を使用します。

元帳グループの設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
元帳グループ - 定義ページ	LEDGER_GROUP	元帳グループを定義し、それを元帳テンプレートにリンクし、元帳詳細をグループに割り当て、グループ内の各元帳の固有の属性を設定します。
元帳グループ - チャートフィールド ページ	LEDGER_GROUP2	この元帳グループのチャートフィールドを定義します。変更可能なデフォルト編集テーブルのセットが生成されます。
元帳グループ - 貸借一致ページ	LEDGER_GROUP3	明細元帳に対して生成される仕訳のチャートフィールド貸借一致オプションを指定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

元帳グループ - 定義ページ

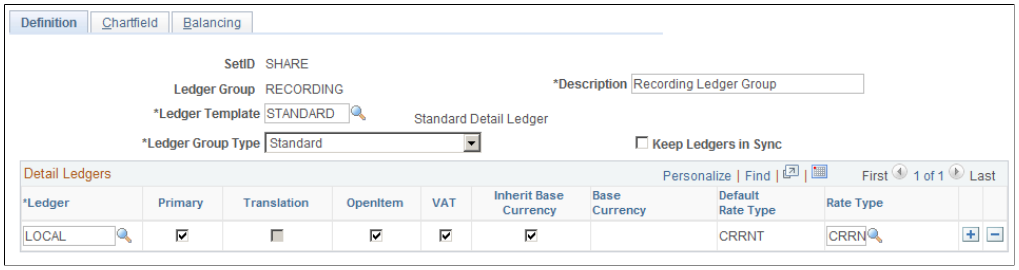
元帳グループ - 定義ページ (LEDGER_GROUP) を使用して、元帳グループを定義し、それを元帳テンプレートにリンクし、元帳詳細をグループに割り当て、グループ内の各元帳の固有の属性を設定します。

ナビゲーション

[一般会計], [元帳], [元帳グループ], [定義]

画像: 元帳グループ - 定義ページ

次の例では、元帳グループ - 定義ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



説明 ページ、照会、プロンプト リストおよびレポートに表示される、この明細元帳グループの説明を入力します。

元帳テンプレート この元帳グループにリンクする元帳テンプレートを選択します。

元帳グループ タイプ 値は次のとおりです。

日中平均残高: 主元帳があり、補助元帳はありません。

予算: 主元帳があり、補助元帳はありません。

標準: 主元帳と最大 9 個の補助元帳があります。

換算: 主元帳があり、補助元帳はありません。

コミットメント コントロール支出: コミットメント コントロール予算に対して使用します。

コミットメント コントロール収入: コミットメント コントロール予算に対して使用します。

ここでの選択は、元帳詳細グリッドでの属性の選択肢に影響します。また、チャートフィールド ページに表示されるチャートフィールドのセットにも影響します。

元帳同期管理 システムで元帳グループ内の全ての元帳に仕訳入力を転記する場合に選択します。一般会計ビジネス ユニット定義 - 通貨オプション ページおよび仕訳ソース - 通貨オプション ページで、[全ての通貨で貸借一致] オプションを選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

仕訳入力のヘッダー ページおよび仕訳ジェネレータ テンプレート - デフォルト ページでの選択に基づいて、システムで元帳グループ内の全ての元帳または単一元帳に仕訳入力を転記する場合は、選択解除します。

前期間調整を区別する必要がある場合は、選択しないでください。たとえば、ローカル レポート用にエントリを保存するために 1 つの元帳を保持し、法人レポート用に別の元帳を保持するとします。ローカルの規制によって月の 15 日までの調整入力は前期間に転記する必要があり、会計台帳では期間を 5 日にクローズする必要があります。10 日に調整入力を行うと、2 つの元帳で調整を異なる期間 (ローカル元帳用に前期間、企業用に当期間) に転記するため、同期しなくなります。

元帳

(明細元帳ページで指定した) 元帳テンプレートに関連付けられた明細元帳のリストから、この元帳グループにリンクする元帳を選択します。グループ タイプが *[標準]* の元帳グループの場合、1 つの主元帳と最大 9 個の補助元帳を指定できます。

注: [日中平均残高]、[換算] および静的な [予算] 元帳グループ タイプでは、元帳は 1 つのみ選択できます (これは、コミットメント コントロール元帳には該当しません)。

主

元帳がグループの主元帳である場合、または元帳グループの唯一の元帳である場合に選択します。

換算

これが通貨換算元帳である場合に選択します。このオプションは、[元帳同期管理] を選択した場合にのみ使用できます。主元帳以外の元帳を換算元帳として定義できます。

注: 仕訳処理および多通貨処理では、通貨換算元帳は通常の補助元帳とは異なる方法で処理されます。

仮勘定

仮勘定会計機能を有効にし、元帳で仮勘定取引を追跡する場合に選択します。

消費税

元帳で消費税残高を保持する場合に選択します。

基本通貨の継承

元帳の基本通貨を定義するか、このオプションを選択して、元帳で使用するためにビジネス ユニットの基本通貨を継承できます。

基本通貨

[基本通貨の継承] を選択しなかった場合は、この元帳に適用する基本通貨を指定します。

為替レート タイプ デフォルト

元帳グループに対して [元帳同期管理] を選択し、主元帳に対して仕訳を入力した場合、補助元帳の仕訳入力行が自動的に

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

生成されます。[為替レート タイプ デフォルト] は、補助元帳に使用されるレート タイプに影響します。

次の階層が適用されます。

1. 元帳のレート タイプの値がチェックされます。

   値が存在する場合、[為替レート タイプ デフォルト] に [レート タイプ] の値が入力され、それが補助元帳に使用されます。

2. 主仕訳行のレート タイプがチェックされます。

   存在する場合、そのタイプが補助仕訳行に使用されます。

3. [レート タイプ] または主仕訳行に値がない場合、[為替レート タイプ デフォルト] の値が使用されます。

レート タイプ

補助元帳の自動生成される仕訳行で常に使用される為替レート タイプを指定します。(詳細については、[為替レート タイプ デフォルト] の説明を参照してください。)

注: コミットメント コントロール明細元帳グループの設定は、他の元帳タイプとは少し異なります。詳細については、コミットメント コントロールのドキュメントを参照してください。

関連リンク

Defining Commitment Control Ledger Names and Ledger GroupsPeopleSoft Commitment Control
Preparing to Translate Ledger BalancesPeopleSoft General Ledger
Understanding Open Item AccountingPeopleSoft General Ledger

元帳グループ - チャートフィールド ページ

元帳グループ - チャートフィールド ページ (LEDGER_GROUP2) を使用して、元帳グループのチャートフィールドを定義します。

変更可能なデフォルト編集テーブルのセットが生成されます。

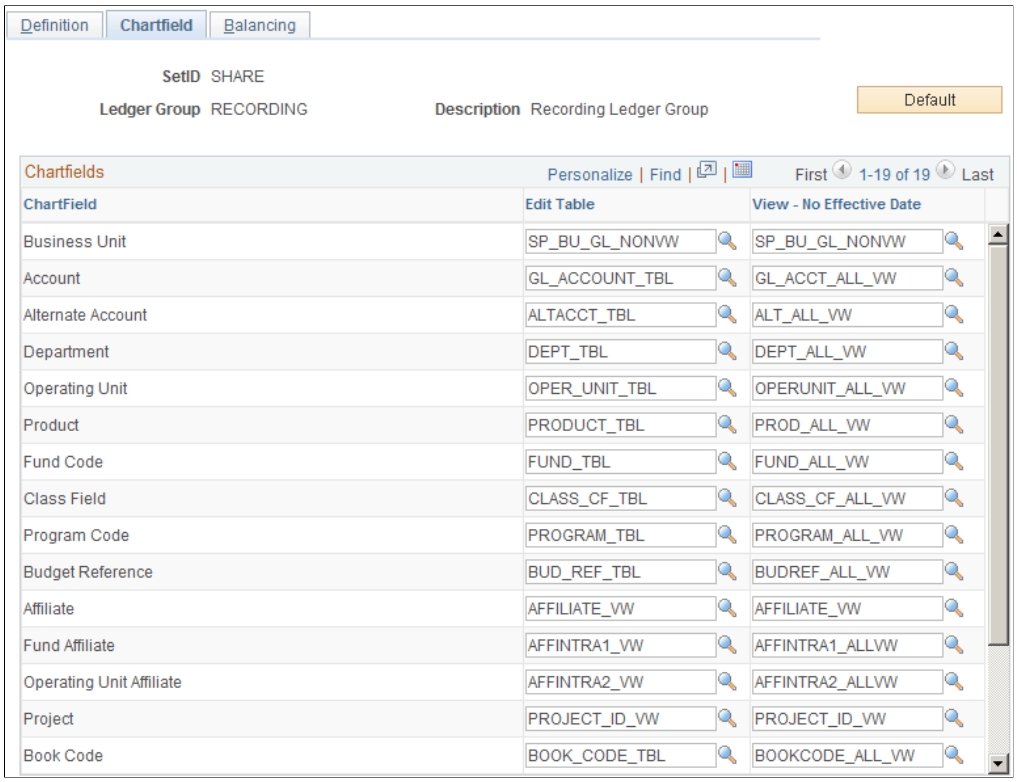
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[一般会計], [元帳], [元帳グループ], [チャートフィールド]

画像: 元帳グループ - チャートフィールド ページ

次の例では、元帳グループ - チャートフィールド ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



チャートフィールドのセットは、元帳グループ - 定義ページで選択する元帳グループ タイプに基づきます。

[デフォルト チャートフィールドを使用] ボタンをクリックして、元帳のチャートフィールドのデフォルト編集テーブル名およびレポート ビューのセットを生成します。[編集テーブル] フィールド値は、チャートフィールド設定 - ダイナミック編集テーブル ページで指定する有効日付の編集テーブルから設定されます。アクティブでなくなったチャートフィールドが履歴行に含まれている場合があるため、有効日で選択を制限しない場合は、レポート プロンプトの [ビュー - 有効日なし] フィールドを使用します。これらの値を変更するには、[検索] ボタンをクリックします。

元帳グループ - 貸借一致ページ

元帳グループ - 貸借一致ページ (LEDGER_GROUP3) を使用して、明細元帳に対して生成される仕訳のチャートフィールド貸借一致オプションを指定します。

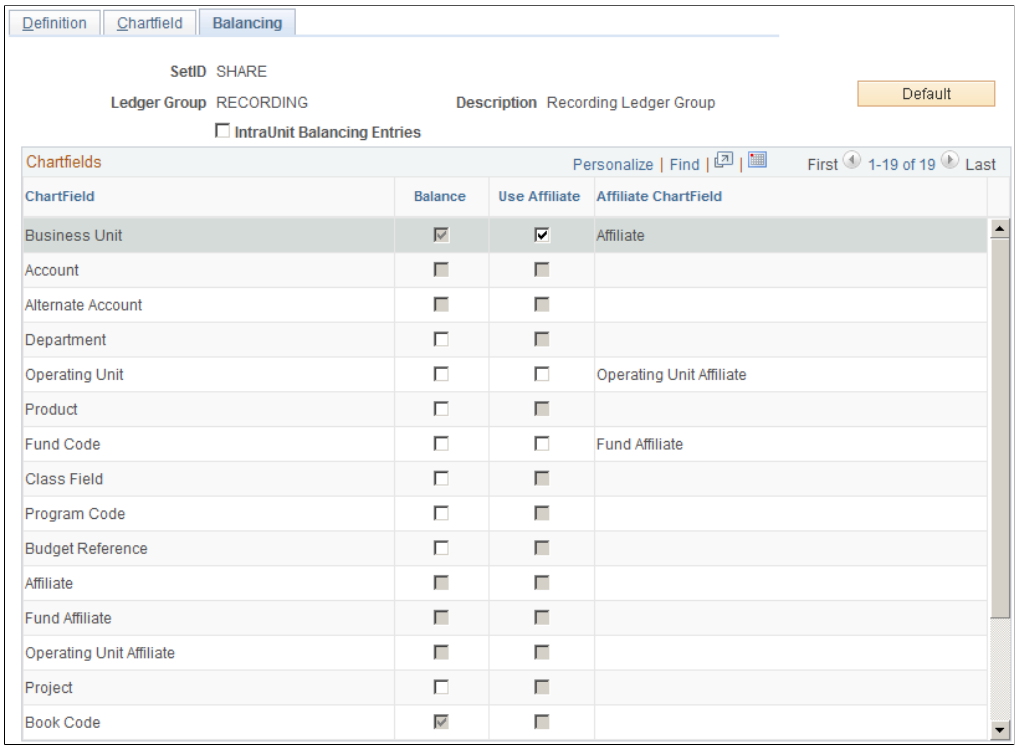
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[一般会計], [元帳], [元帳グループ], [貸借一致]

画像: 元帳グループ - 貸借一致ページ

次の例では、元帳グループ - 貸借一致ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



貸借一致フィールドによって、仕訳入力 - 合計ページの合計が制御されます。仕訳編集処理では、これらのチャートフィールドに入力された金額が貸借一致している必要もあります。

貸借一致の追加チャートフィールドを選択した場合、発生する全ての一意の値の組合せは貸借一致している必要があります。そうでない場合、仕訳編集処理では、仕訳編集オプション ページで仕訳の貸借一致のために設定されたルール (仮計上や再検討など) が使用されます。

デフォルト

現在の [チャートフィールド] グループ ボックス情報を更新およびクリアするには、[デフォルト チャートフィールドを使用] ボタンをクリックします。

ユニット内貸借一致入力

この元帳グループの明細元帳の選択された貸借一致チャートフィールドにユニット内入力が含まれることを指定する場合に選択します。

貸借一致

この元帳グループの元帳について、このチャートフィールドを貸借一致させることを指定する場合に選択します。

関係会社で使用

関係会社チャートフィールドを使用することを指定する場合に選択します。関係会社チャートフィールドは、取引に関連付けられ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

	たビジネス ユニットを追跡することによって会社間アクティビティを識別します。これは、単一の会社間勘定を使用しながらビジネス ユニット間の取引をマッピングする方法です。
ビジネス ユニット	一般会計では明細元帳は常にビジネス ユニット別に貸借一致されるため、貸借一致するように常に選択されます。
通貨コード	一般会計では明細元帳は常に通貨コード別に貸借一致されるため、常に選択されます。
勘定科目	PeopleSoft では元帳を勘定科目別に貸借一致できないため、このチャートフィールドは選択できません。
代替勘定科目	元帳を代替勘定科目別に貸借一致できないため、このチャートフィールドは選択できません。
統計コード	元帳を統計コード別に貸借一致させるためにこのチャートフィールドを選択することはできません。
台帳コード	台帳コード機能を有効にしない場合でも、一般会計では明細元帳は常に台帳コード別に貸借一致されるため、これは貸借一致のデフォルト チャートフィールドです。
調整タイプ	[台帳コード] を有効にした場合でも、一般会計では明細元帳は常に調整タイプ別に貸借一致されるため、これはデフォルト チャートフィールドです。

ビジネス ユニット用元帳の定義

ビジネス ユニット用元帳を定義するには、ユニット別元帳コンポーネント (BUSINESS_UNIT_LED) を使用します。このコンポーネントのテーブルにデータをロードするには、EM_BUS_UNIT_LED コンポーネント インターフェイスを使用します。

ビジネス ユニット用元帳の定義に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
ユニット別元帳 - 定義ページ	BUSINESS_UNIT_LED1	このビジネス ユニットで使用される明細元帳、元帳グループおよびカレンダーを指定し、元帳ごとに固有の特性を指定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
オープン期間更新ページ	OPEN_PERIOD_SINGLE	[オープン期間更新] リンクをクリックし、元帳グループと取引タイプに基づいて、オープン期間および調整期間を指定します。 「ユニット別元帳 - 定義ページ」を参照してください。
日中平残元帳に転記する勘定科目タイプ ページ	BU_LED_ADBACCT_SEC	[フィルタ] リンクをクリックし、日中平残元帳に転記する勘定科目タイプを選択します。 「ユニット別元帳 - 定義ページ」を参照してください。
ユニット別元帳 - 仕訳編集オプション ユニット別元帳 - 仕訳編集オプション ページ	BUSINESS_UNIT_LED2	元帳の仕訳エラー処理のシステムによる処理方法を定義します。
貸借一致仮計上チャートフィールド ページ	BUL_JE_BS_CFS_SEC	仕訳貸借一致エラーについて [仮計上] を選択する場合、仕訳貸借一致エラーの仮計上勘定をここで指定します。 「ユニット別元帳 - 仕訳編集オプション ページ」を参照してください。
仮計上チャートフィールド編集 ページ	BUL_JE_ES_CFS_SEC	仕訳編集エラーについて [仮計上] を選択する場合、仕訳編集エラーの仮計上勘定をここで指定します。 「ユニット別元帳 - 仕訳編集オプション ページ」を参照してください。
仮計上金額チャートフィールド ページ	BUL_JE_AS_CFS_SEC	仕訳編集エラーについて [仮計上] を選択する場合、仕訳金額エラーの仮計上勘定を指定します。 「ユニット別元帳 - 仕訳編集オプション ページ」を参照してください。
ユニット別元帳 - 通貨オプション ページ	BUSINESS_UNIT_LED3	このビジネス ユニットに指定された元帳について、通貨デフォルト オプションを指定します。
ユニット別元帳 - 仕訳転記オプション ページ	BUSINESS_UNIT_LED6	指定された元帳に適用される仕訳を転記および転記取消するための仕訳転記オプションを指定します。
ユニット別元帳 - 承認オプション ページ	BUSINESS_UNIT_LED4	指定された元帳について、デフォルトの仕訳承認オプションを指定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
ユニット別元帳 - コミットメント コントロール元帳オプション ページ	BUSINESS_UNIT_LED5	指定されたコミットメント コントロール元帳について、デフォルトの元帳オプションを指定します。

ビジネス ユニット用元帳の定義について

元帳とカレンダーはテーブルに保存されるため、ビジネス ユニットで共有できます。これにより、ビジネス ユニットでは、独自のカレンダーと締めスケジュールを保持しながら、共通の元帳定義を共有できます。

ビジネス ユニット用元帳を定義する場合、次のことを実行できます。

- 元帳グループの仕訳編集エラー オプションの定義
- 元帳のデフォルト通貨オプションの定義
- 元帳のデフォルト仕訳転記オプションの定義
- 元帳のデフォルト承認オプションの定義
- デフォルトのコミットメント コントロール元帳オプションの定義

注: ライセンスを取得していない、使用しない製品については、インストール オプション - 製品ページの全てのチェック ボックスをオフにします。出荷時には、ライセンスを取得しているかどうかにかかわらず、製品ページの全ての製品の全てのチェック ボックスはオンであり、ライセンスを取得していない製品の不要な設定が行われる可能性があります。たとえば、製品ページで [一般会計] が選択されており、その製品のライセンスを取得していない場合、一般会計のみに適用されるフィールドがあり、それらのフィールドはユニット別元帳ページで値の入力が可能になります。

ユニット別元帳 - 定義ページ

ユニット別元帳 - 定義ページ (BUSINESS_UNIT_LED1) を使用して、このビジネス ユニットで使用される明細元帳、元帳グループおよびカレンダーを指定し、元帳ごとに固有の特性を指定します。

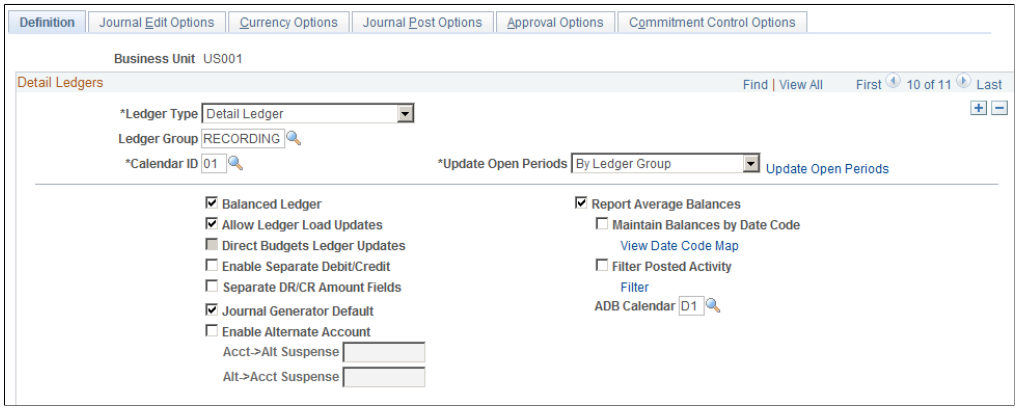
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [ビジネス ユニット関連], [一般会計], [ユニット別元帳], [定義]

画像: ユニット別元帳 - 定義ページ

次の例では、ユニット別元帳 - 定義ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



元帳タイプ

このビジネス ユニットの元帳タイプを選択します。値は次のとおりです。

明細元帳: 明細元帳をこのビジネス ユニットに関連付ける場合に選択します。

要約元帳: 元帳セット - 元帳セット ページを使用して、ビジネス ユニットに添付します。

コミットメント コントロール元帳: コミットメント コントロール元帳を設定する場合に選択します。

元帳グループ

元帳タイプとして *[明細元帳]* を選択する場合、元帳グループ コンポーネントで定義されたリストから元帳グループを選択します。

元帳

元帳タイプとして *[要約元帳]* を選択する場合、このフィールドが使用可能となります。要約元帳はこのフィールドにリストされますが、元帳セット - 元帳セット ページを使用して、要約元帳をビジネス ユニットに添付します。

カレンダー ID

カレンダー期間ページのカレンダーのリストから、この元帳のカレンダーを選択します。

オープン期間更新

オープン期間の更新を選択するには、明細元帳の元帳グループまたは元帳コードを選択します。元帳グループと取引タイプに基づいて、オープン期間および調整期間を指定する場合は、*[元帳グループ別]* を使用します。複数の一般会計原則 (GAAP) およ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

び前期間調整と共に使用する場合は、*[元帳コード別]* を使用します。このアクティビティを実行しない場合、元帳内の全ての期間がクローズされ、仕訳転記は許可されません。

調整期間を指定する場合、仕訳入力ページでは、その期間が調整仕訳のデフォルトとして使用されます。その年の最終会計期間と区別して、年末調整を特定の調整期間に転記できます。通常、調整年度は会計年度と一致している必要があります。

貸借一致した元帳

この元帳が貸借一致した (借方と貸方が等しい) 元帳であることを示して、仕訳オプション ページで仕訳貸借一致エラー処理を使用可能にする場合に選択します。

元帳ロード更新可

フラット ファイル元帳インポートと元帳ロード (チャートフィールド値マッピング) 処理によって明細元帳を更新し、元帳パブリッシュ エンタープライズ インテグレーション ポイントによって要約元帳をサブスクライブして更新する場合に選択します。

注: 元帳パブリッシュ処理では、このオプションにかかわらず、元帳データは常に IP にパブリッシュされます。ただし、要約元帳で IP サブスクリプション プロセスを実行してターゲット テーブルを更新できるようにするには、このオプションを選択する必要があります。明細元帳の場合、IP サブスクリプション プロセスを実行すると、常に明細元帳データが処理され、ステージング テーブルに保存されます。その後、元帳ロード処理により、このオプションが選択された元帳の明細元帳データが選択されます。

予算元帳の直接更新

オンライン ページおよび一般会計転記処理を使用して、標準予算元帳 (コミットメント コントロール関連でない) を直接更新する場合に選択します。選択解除されている場合、標準予算元帳に対してシステムによるオンライン調整は実行されません。

貸借個別入力機能

貸方/借方残高を元帳で個別に保存できるようにする場合に選択します。通常、一般会計では、全ての転記済チャートフィールド組合せの純残高が元帳に転記されます。この機能を有効化すると、PeopleSoft により、必要なテーブル変更が自動的に実行され、借方と貸方がカスタマイズなしで個別に保存されます。

借方/貸方別金額フィールド

仕訳入力時に、仕訳金額が借方または貸方のいずれであるかを示す場合に選択します。あらかじめ、[貸借個別入力機能] オプションを選択しておく必要があります。

通常、一般会計では、仕訳の符号によって、その仕訳が借方なのか借方なのかが決まります。仕訳入力金額が正の数の場合、システムではその金額を借方として処理し、負の数の場合には貸方として処理します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このオプションを選択する場合、仕訳入力作成/更新 - 行ページに、個別の借方および貸方の入力フィールドが表示されます。金額フィールドのいずれかに負の入力がある場合、そのタイプの金額の取消として見なされます。たとえば、借方金額フィールドに負の 5.00 EUR が入力されると、元帳の借方金額は 5.00 EUR 削減されます。

[借方/貸方別金額フィールド] を選択しないで [貸借個別入力機能] を選択する場合、仕訳入力 - 行ページに [N/R] (標準/取消) フィールドが表示されます。ここで、入力した金額が標準 (正の数は借方、負の数は貸方) または取消 (正の数は貸方取消、負の数は借方取消) のいずれであるかを示します。

注: [借方/貸方別金額フィールド] チェック ボックスを使用すると、借方と貸方は、仕訳入力ページの独自のフィールドにのみ入力できるようになります。ただし、これらの借方と貸方を、元帳に個別に保存したり転記することはできません。元帳で個別にフィールドを保存するには、[貸借個別入力機能] を選択します。

仕訳ジェネレータ デフォルト (仕訳ジェネレータ デフォルト元帳グループ)

これが、このビジネス ユニットのデフォルト元帳グループであることを示す場合に選択します。システムにより、その他の PeopleSoft アプリケーションから仕訳が生成される際に、会計入力行に元帳グループが指定されていない場合、この元帳グループが使用されます。

代替勘定科目使用

[勘定 -> 代替仮計上] と [代替 -> 勘定仮計上] の各フィールドを有効にする場合に選択します。

勘定 -> 代替仮計上 (未マップ勘定科目の仮計上代替勘定科目)

代替勘定科目にマップされていない勘定科目を使用して取引を処理する場合に選択します。

代替 -> 勘定仮計上 (未マップ勘定科目の仮計上勘定)

勘定科目にマップされていない代替勘定科目を使用して取引を入力する場合に使用します。

日中平残レポート

選択されている場合、この元帳の日中平均残高 (ADB) 機能が有効化されます。

日中平残カレンダー

[日中平残レポート] を選択した場合、平均残高の計算に使用する詳細カレンダー (通常は日単位カレンダー) を選択します。

日付コードによる残高維持

仕訳日、決済日および ADB 日の残高を個別に維持する場合に選択します。国際会計基準 (IAS) に準拠して、複数の取引日を取得するために、仕訳入力で日付コードを選択できます。仕訳編集処理では、選択時に、仕訳が日付コード別に貸借一致されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

	警告 このオプションを選択すると、システムでのデマンド処理が増加します。
日付コード マップの表示	このリンクをクリックして日付コード マップ ページにアクセスし、使用可能な日付コード *[仕訳日]*、*[決済日]* および *[日中平残日付]* のリストを表示します。
転記済アクティビティ フィルタ	日中平残元帳に転記する必要がある勘定科目タイプ (資産、負債、経費など) の指定を有効化する場合に選択します。
フィルタ	[転記済アクティビティ フィルタ] を選択してから、このリンクをクリックして日中平残元帳に転記する勘定科目タイプ ページにアクセスし、ここで、日中平残元帳に転記する必要がある勘定科目タイプを選択します。

警告 ユニット別元帳 - 定義ページを使用して指定されたビジネス ユニットの元帳を削除することもできますが、このビジネス ユニットについて仕訳入力が既に転記されている場合には、元帳を削除することはできません。

関連リンク

Setting Commitment Control OptionsPeopleSoft Commitment Control
調整期間およびその他の特別期間
代替勘定科目について
Understanding Average Balance CalculationPeopleSoft General Ledger

ユニット別元帳 - 仕訳編集オプション ページ

ユニット別元帳 - 仕訳編集オプション ページ (BUSINESS_UNIT_LED2) を使用して、元帳の仕訳エラー処理のシステムによる処理方法を定義します。

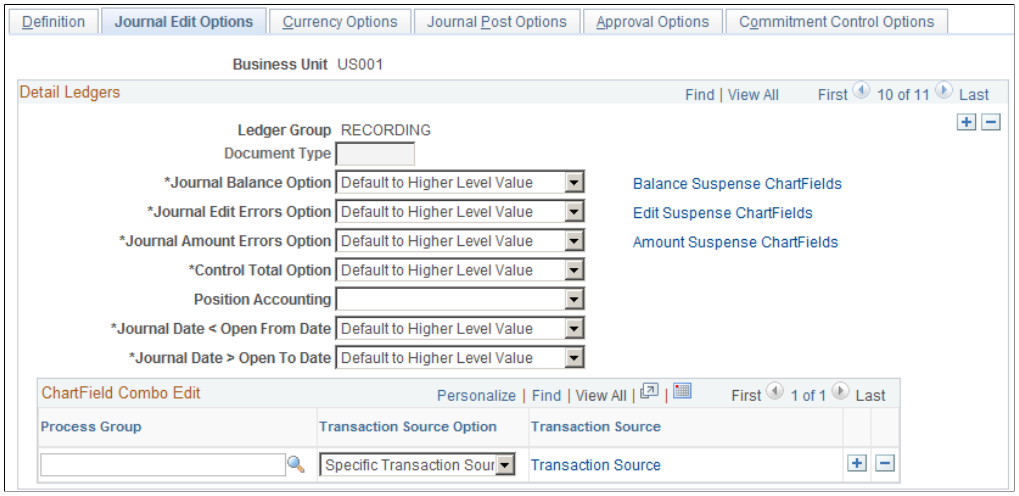
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [ビジネス ユニット関連], [一般会計], [ユニット別元帳], [仕訳編集オプション]

画像: ユニット別元帳 - 仕訳編集オプション ページ

次の例では、ユニット別元帳 - 仕訳編集オプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



注: 元帳レベルでエラー処理を定義する場合、選択された元帳のみを使用する仕訳についてビジネス ユニット レベルで指定するエラー処理は、全て上書きされます。

ドキュメント タイプ

PeopleSoft ドキュメント連番を使用する場合、入力する仕訳全てにドキュメント タイプを指定します。このフィールドでドキュメント タイプを指定する場合、システムにより、仕訳入力で入力されたこの元帳グループの全ての仕訳が、このドキュメント タイプに設定されます。

仕訳貸借一致オプション

ユニット別元帳 - 定義ページで、[貸借一致した元帳] オプションを選択した場合にのみ使用できます。

元帳を定義する場合、これらの元帳を貸借一致または貸借不一致として指定します。貸借一致した元帳 (実績元帳など) の仕訳入力は、転記する前に貸借一致している必要があります。貸借不一致仕訳が貸借一致した元帳に転記されると、仕訳貸借一致エラーが発生します。貸借不一致仕訳は、貸借不一致元帳 (標準予算元帳など) として設定された元帳にのみ転記できます。

貸借一致エラーを修正するには、次の値から選択します。

上位レベルの値を継承: 一般会計ビジネス ユニット - 定義ページで定義したエラー処理オプションを使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

再検討: エラーを含む仕訳入力が無効としてマークされ、転記不可となります。修正を行って仕訳を再編集してから、正常に仕訳を転記できます。

仮計上: 仕訳貸借一致エラーと仕訳金額エラーの場合、全ての仕訳を貸借一致させるために必要な金額が、仮計上勘定に転記されます (貸借一致していない場合)。仕訳編集エラーの場合、無効なチャートフィールドを参照する行からの金額が転記されます。この値は、コントロール合計エラーには使用できません。

仕訳編集エラー オプション

仕訳行を入力すると、一般会計により、全てのチャートフィールド値が仕訳入力日時点で有効であることが検証されます。

編集エラーを修正するには、次の値から選択します。

- *上位レベルの値を継承*
- *再検討*
- *仮計上*

仕訳金額エラー オプション

仕訳行を入力すると、一般会計により、外貨金額と通貨額が同じ符号であることが検証されます。仕訳金額エラーは、外貨金額の符号が通貨額の符号と異なる場合 (仕訳の外貨金額が 10 で、通貨額が –200 である場合など) に発生します。

金額エラーを修正するには、次の値から選択します。

- *許可:* 仕訳編集処理で、通貨額と外貨金額の符号が異なっている場合でも、これらを正しい額として許可し、処理を続行する必要があることを示します。
- *上位レベルの値を継承*
- *再検討*
- *仮計上*

コントロール合計エラー

(省略可) 仕訳行を入力すると、一般会計により、仕訳に入力した行、借方、貸方およびユニットの数の累計が表示されます。コントロール合計エラーは、仕訳行合計が、仕訳ヘッダー レベルで入力したコントロール合計と一致しない場合に発生します。

コントロール合計エラーを修正するには、次の値から選択します。

- *上位レベルの値を継承*
- *なし:* 以前に設定した全てのコントロール合計が無視されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *再検討*

ポジション勘定科目

ポジション勘定科目 - ポジション勘定科目ページで作成したオプションを使用する、ポジション勘定科目を有効化する場合に選択します。ポジション勘定科目機能を使用すると、仕訳編集処理でポジション勘定科目入力を生成し、複数の通貨で資産を保有していることが原因で発生する損益を追跡できます。

仕訳日 < オープン開始日

仕訳日が設定した日付の範囲外である場合、会計期間がクローズされているというエラー メッセージが表示されます。仕訳日によって仕訳を転記する期間が決まるため、仕訳を転記するには、仕訳日が現在のオープン期間の範囲内である必要があります。詳細カレンダー - カレンダー期間ページで、期間ごとの開始日および終了日を定義できます。オープン期間更新ページを使用して、元帳グループごとに現在オープンしている期間の範囲を定義します。仕訳日によって仕訳を転記する必要がある期間が決まりますが、その唯一の例外は調整入力です。調整入力は、詳細カレンダーで定義された特別な調整期間内に転記されます。

仕訳日がオープン開始日より前である場合、エラーを修正するには、次の値から選択します。

- *オープン開始日に変更*
- *上位レベルの値を継承*
- *再検討*

仕訳日 > オープン終了日

仕訳日がオープン終了日より後である場合も、会計期間がクローズされているというエラー メッセージが表示されます。

エラーを修正するには、次の値から選択します。

- *オープン終了日に変更*
- *上位レベルの値を継承*
- *再検討*

仮計上チャートフィールド - 貸借一致

[仕訳貸借一致オプション] に *[仮計上]* を選択する場合、このリンクをクリックして仮計上チャートフィールド - 貸借一致 ページにアクセスし、ここで、仕訳貸借一致エラーが発生した場合の元帳グループの仮計上勘定を指定します。チャートフィールド組合せ全体を定義します。

仮計上チャートフィールド編集

[仕訳編集エラー オプション] に *[仮計上]* を選択する場合、このリンクをクリックして仮計上チャートフィールド編集ページにアクセスし、ここで、チャートフィールド仕訳編集エラーが発生した場

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

合の元帳グループの仮計上勘定を指定します。チャートフィールド組合せ全体を定義します。

仮計上金額チャートフィールド

仕訳金額エラー に *[仮計上]* を選択する場合、このリンクをクリックして仮計上金額チャートフィールドページにアクセスし、ここで、仕訳金額エラーが発生した場合の元帳グループの仮計上勘定を指定します。チャートフィールド組合せ全体を定義します。

プロセス グループ

この元帳グループについて、複数の組合せ編集ルールを含むプロセス グループを選択します。組合せグループ ページでプロセス グループを定義します。組合せ編集時に、システムでは、取引で指定された元帳グループを参照して適用するルールが確認されます。次に、これらのルールを仕訳編集処理時に適用します。グループ内のいずれかのルールを使用した検証に失敗した仕訳行は、エラーとしてマークされます。

取引ソース オプション

取引ソースの組合せ編集処理をプロセス グループ別に制限する場合に選択します。これにより、指定された取引ソースの取引のみが対象となるため、不要なデータ処理が回避され、処理時間が効果的に削減されます。次のオプションから 1 つ選択します。

指定取引ソース - 組合せ編集処理によって編集する取引の取引ソースを指定する場合に、このオプションを選択します。このオプションを使用すると、プロセス グループで定義されたルールに適用可能なソースを含む取引のみが検証され、処理の効率が向上します。

全ての取引ソース (デフォルト値) - 組合せ編集処理時に、プロセス グループに対する全ての取引を編集する場合、このオプションを選択します。

取引ソース

このリンクは、*[指定取引ソース]* オプションを選択する場合に表示されます。このリンクをクリックして組合せ編集取引ソースページにアクセスし、ここで、指定されたプロセス グループについて処理する取引の取引ソースを定義します。組合せ編集プログラムは、プロセス グループに定義されたソースのみを処理します。

関連リンク

Setting Up Position AccountingPeopleSoft Global Options and Reports
Correcting Journal ErrorsPeopleSoft General Ledger
チャートフィールド組合せ編集について

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユニット別元帳 - 通貨オプション ページ

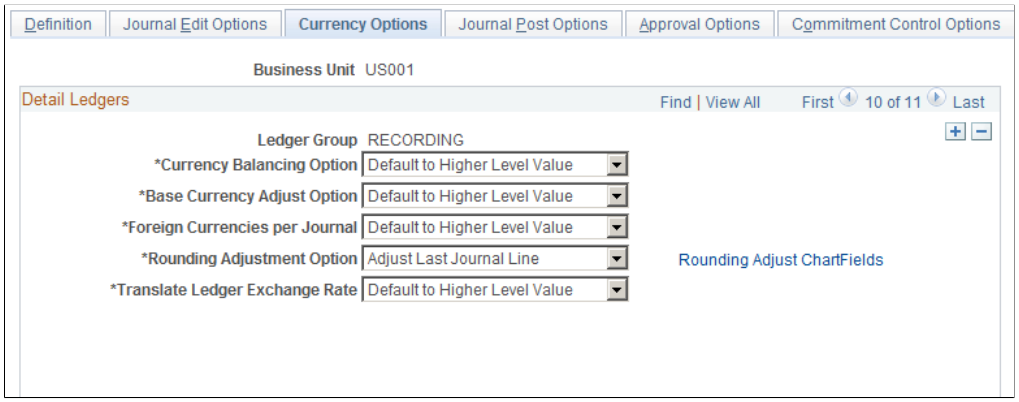
ユニット別元帳 - 通貨オプション ページ (BUSINESS_UNIT_LED3) を使用して、このビジネス ユニットに指定された元帳について、通貨デフォルト オプションを指定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [ビジネス ユニット関連], [一般会計], [ユニット元帳], [通貨オプション]

画像: ユニット別元帳 - 通貨オプション ページ

次の例では、ユニット別元帳 - 通貨オプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



端数調整オプション

このオプションは、このページでのみ使用できます。

各行の金額は個別に換算されるため、基本通貨合計は、端数処理が原因で貸借が一致しなくなる可能性があります。選択するオプションに応じて、外貨ごとの差異は次のようになります。

- *[最終仕訳行を調整]* オプションを選択した場合、通貨の最終行に適用されます。
- *[仕訳明細調整行の追加]* オプションを選択した場合、新しい基本通貨調整行に入力されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: 元帳グループに、主元帳と基本通貨が同じ補助元帳や元帳などの複数の元帳が含まれ、仕訳に複数の為替取引が含まれる場合、次のことが適用されます。
同じ基本通貨を使用する主元帳と補助元帳および単一の元帳グループで、通貨換算に異なるレート タイプを使用することを選択する場合、または外貨換算の端数処理や切捨てが原因で、貸借不一致が発生する場合、仕訳に、元帳グループに転記する複数の通貨が含まれていると、仕訳の貸借一致の処理に [仕訳明細調整行の追加] を使用できません。この処理を試行すると、仕訳編集処理時に仕訳エラーが発生し、エラー メッセージが発行されます。
たとえば、主元帳と補助元帳が基本通貨として GBP を使用する同じ元帳グループに存在し、ユーザーは KLS を選択済で、仕訳入力を基本通貨によって貸借一致させる必要があるとします。その後、さまざまな通貨で仕訳を生成し、仕訳編集時に、補助元帳の基本通貨 (GBP) が貸借不一致であるという結果が返された場合、その仕訳がシステムによって貸借一致されるように、[最終仕訳行を調整] を選択する必要があります。
例で示した状況では、システムで [仕訳明細調整行の追加] を使用することはできません。このような条件で [最終仕訳行を調整] を使用する必要がある場合、システムでは、基本通貨による貸借一致のために貸借一致セット内の最終行が選択されますが、その行の取引通貨は、補助元帳の基本通貨を貸借一致するために必要な金額を加算または減算する基本通貨と同じではありません。
最終行は、必ずしも仕訳の最終行とは限りません。仕訳を貸借一致させる場合、システムにより、貸借一致セット内の全ての行がグループ化されます。仕訳編集では、取引通貨が基本通貨と同じではない貸借一致セットの最終行を選択して、セットを貸借一致させるために必要な金額を計算します。仕訳合計が貸借一致するには、各セットが貸借一致する必要があります。

端数調整チャートフィールド

端数調整チャートフィールド ページにアクセスするには、このリンクを選択します。借方行と貸方行との間に、外貨金額から基本金額に換算する際の端数処理にのみ起因する貸借不一致条件が存在する場合、編集処理で使用するデフォルト勘定残高グループ、チャートフィールドおよびチャートフィールド値を選択します。

元帳為替レート換算

全ての処理について常に使用される、換算元帳の為替レートのデフォルトを管理する場合に選択します。*[上位レベルの値を継承]*、*[主要元帳から継承]* または *[為替レート保持]* を選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

General Ledger Definition - Currency Options PagePeopleSoft General Ledger を参照してください。

関連リンク

Setting Up Currency ControlsPeopleSoft Global Options and Reports
Defining Currency Options for a Business UnitPeopleSoft General Ledger

ユニット別元帳 - 仕訳転記オプション ページ

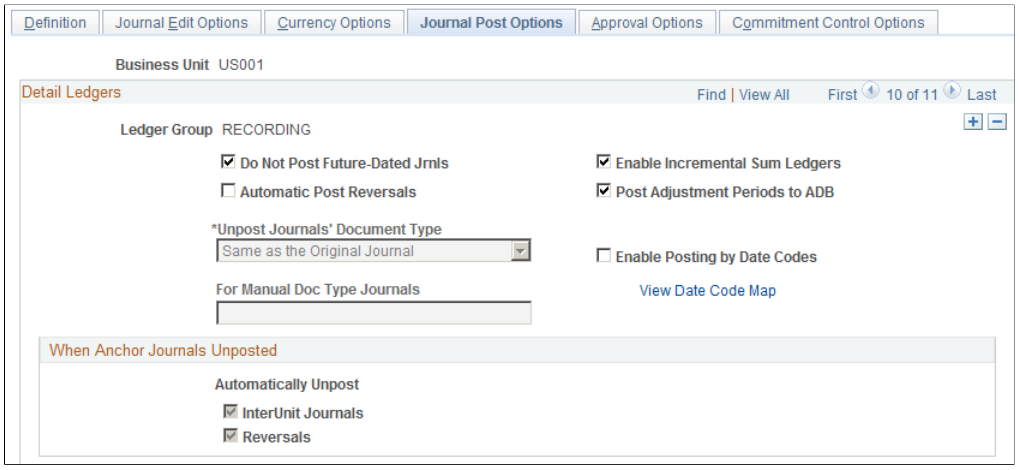
ユニット別元帳 - 仕訳転記オプション ページ (BUSINESS_UNIT_LED6) を使用して、指定された元帳に適用される仕訳を転記および転記取消するための仕訳転記オプションを指定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [ビジネス ユニット関連], [一般会計], [ユニット別元帳], [仕訳転記オプション]

画像: ユニット別元帳 - 仕訳転記オプション ページ

次の例では、ユニット別元帳 - 仕訳転記オプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



先日付仕訳の転記禁止 仕訳処理日を経過した仕訳日を含む仕訳を転記しない場合に選択します。一般会計ビジネス ユニット定義 - 仕訳オプション ページで仕訳処理日を定義します。

自動逆仕訳転記 元の仕訳入力の転記時に、自動的に未収未払逆仕訳を転記する場合に選択します。[先日付仕訳の転記禁止] を選択しており、未収未払逆仕訳が将来の日付である場合、これらの仕訳はシステムにより転記されません。このチェック ボックスをオンにしない場合、元の仕訳から、転記対象の逆仕訳を個別にマークします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

要約元帳更新可

この明細元帳で定義した要約元帳が増分変更によって更新されるようにする場合に選択します。仕訳転記処理では、要約元帳で使用するために新規行が保存されます。

注: 増分元帳ロードは、標準明細元帳についてはサポートされていません。

ADB への転記調整期間

このオプションにより、(元帳グループに定義された) 調整期間または日中平残カレンダーから取得される通常の会計期間を使用して、調整仕訳入力を ADB (日中平残) 元帳に転記するかどうかを定義します。オプションは次のとおりです。

- オープン期間更新ページで定義された、明細元帳転記で使用するものと同じ調整期間 (901 や 902 など) を使用して、調整残高を日中平残元帳に転記する場合は、このチェックボックス (デフォルト オプション) をオンにします。日中平均残高定義には、残高期間の最終日または開始日以降に計算された ADB 残高に調整期間を含めるオプションがあります。

  Journal Adjustments (998, 901, 902...) in ADBPeopleSoft General Ledger を参照してください。

- 日中平残カレンダーから取得される通常の会計期間 (01 や 02 など) を使用して、調整残高を日中平残元帳に転記する場合は、このチェック ボックスをオフにします。これは通常、日単位の会計期間です。

転記取消仕訳ドキュメント タイプ

同じドキュメント タイプを保持する場合は、*[オリジナル仕訳と同じ]* を選択します。([手動ドキュメント タイプの仕訳] フィールドから、手動ドキュメント タイプを選択します。)

新しいドキュメント連番を割り当てる場合は、*[新規ドキュメント タイプ指定]* を選択します。([転記取消仕訳ドキュメント タイプ] フィールドから、新しいドキュメント タイプを選択します。)

手動ドキュメント タイプの仕訳

このフィールドは、[転記取消仕訳ドキュメント タイプ] フィールドで*オリジナルと同じ*を選択した場合に表示されます。元の仕訳のドキュメント タイプを手動で割り当てた場合、使用するドキュメント タイプを選択します。この新しいドキュメント タイプは、自動採番用に設定する必要があります。元のドキュメント タイプが自動的に割り当てられた場合は、元の仕訳で使用されたものと同じドキュメント タイプがここで使用されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

転記取消ドキュメント タイプ このフィールドは、[転記取消仕訳ドキュメント タイプ] フィールドで *[新規ドキュメント タイプ指定]* を選択した場合に表示されます。自動採番に設定される新しいドキュメント タイプを選択します。

日付コードによる転記使用 元帳グループの仕訳日と決済日による、仕訳の二重転記を有効化する場合に選択します。

仕訳日と決済日が同じ場合、仕訳転記処理では、仕訳日を使用して取引を元帳および日中平残元帳に転記します。仕訳日付と決済日付が異なる場合、仕訳転記処理では、2 つの行が、[日付コード] フィールドによって区別されて元帳に転記されます。日付コードは、転記日付が決済日または仕訳日のいずれから取得されたものかを示します。

日付コード マップの表示 日付コード マップ ページにアクセスするには、このリンクをクリックします。

オリジナル仕訳転記取消時オプション

ユニット間仕訳 オリジナル仕訳を転記取消する際に、関連するユニット間仕訳を自動的に転記取消する場合にシステムによって選択されます。

逆仕訳 オリジナル仕訳を転記取消する際に、関連する未収未払逆仕訳を自動的に転記取消する場合にシステムによって選択されます。

関連リンク

Posting to the Summary Ledgers Table and the Summary Ledger Staging TablePeopleSoft General Ledger
Consolidating Across Summary LedgersPeopleSoft General Ledger
転記による要約元帳の増分更新
Performing ConsolidationPeopleSoft General Ledger
Unposting JournalsPeopleSoft General Ledger

ユニット別元帳 - 承認オプション ページ

ユニット別元帳 - 承認オプション ページ (BUSINESS_UNIT_LED4) を使用して、指定された元帳にデフォルトの仕訳承認オプションを指定します。

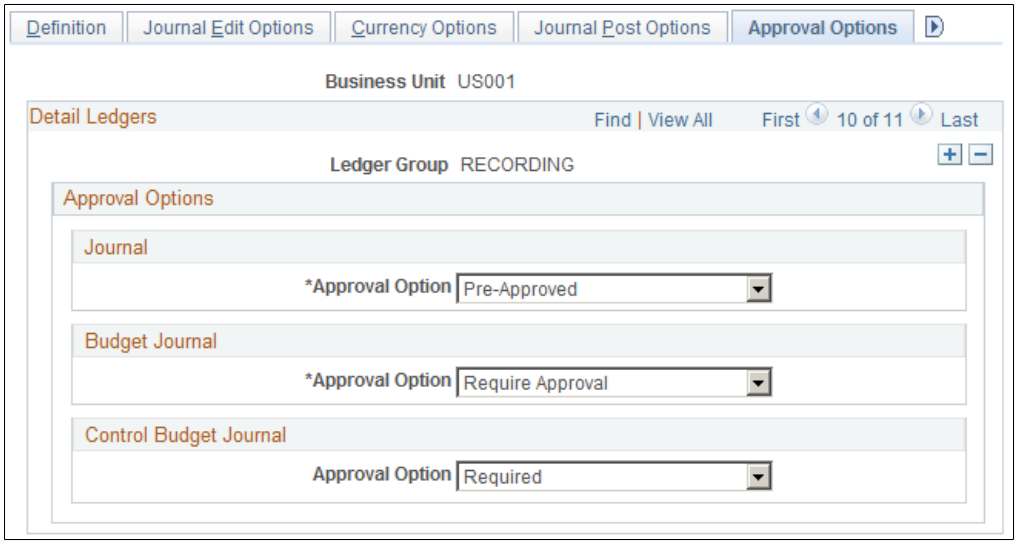
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [ビジネス ユニット関連], [一般会計], [ユニット別元帳], [承認オプション]

画像: ユニット別元帳 - 承認オプション ページ

次の例では、ユニット別元帳 - 承認オプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



仕訳承認プロセスおよび標準予算仕訳承認プロセスについては、バーチャル アプルーバまたは承認フレームワークという方法のいずれかを使用できます。インストール オプション - 一般会計ページで、仕訳承認ごとに承認方法を選択します。

「インストール オプション - 一般会計ページ」を参照してください。

承認オプション ページの選択肢は、インストール オプション - 一般会計ページで使用することを選択する承認方法によって決まります。バーチャル アプルーバ方法を選択する場合、[ビジネス プロセス名] および [承認ルール セット] の各フィールドがページに表示されます。承認フレームワーク方法を使用する場合、PeopleTools と通信するための独自のビジネス プロセスと承認ルール セットが承認フレームワークで提供されるため、これらのフィールドは表示されません。

Understanding Configurable WorkflowPeopleSoft General Ledger を参照してください。

Setting Up Journal Entry Approval in PeopleSoft WorkflowPeopleSoft General Ledger を参照してください。

注: 承認オプションは、ビジネス ユニット レベル、元帳グループ レベルまたはソース レベルで定義できます。ソース レベルで承認オプションを定義する場合、そのソースのみを使用する仕訳についてビジネス ユニット レベルまたは元帳グループ レベルで指定した承認処理は、全て上書きされます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

[仕訳 - 承認オプション] および [予算仕訳 - 承認オプション] (標準予算仕訳)

次の値から 1 つ選びます。

- *上位レベルの値を継承:* ビジネス ユニット一般会計定義 - 承認オプション ページで定義する承認オプションを使用します。
- *事前承認:* PeopleSoft ワークフローによる承認なしで仕訳入力を許可します。これにより、仕訳入力 - 行ページの [処理] フィールドで、*[転記]* を選択できます。
- *承認要:* PeopleSoft ワークフローによる承認が必要です。インストール オプション - 一般会計ページでこのオプションと承認方法を選択した場合は、[ビジネス プロセス名] および関連する [承認ルール セット] を選択する必要があります。[ビジネス プロセス名] と [承認ルール セット] の各フィールドは、インストール オプションで、承認方法が承認フレームワークに設定されている場合には表示されません。承認のために処理するには、仕訳入力ページで [提出] を選択します。

ビジネス プロセス名

仕訳入力の承認に使用するワークフロー ビジネス プロセスを選択します。このフィールドは、インストール オプション - 一般会計ページから、バーチャル アプルーバ方法を選択した場合にのみ表示されます。

承認ルール セット

仕訳入力の承認に使用する、以前に指定したビジネス プロセスのワークフロー承認ルール セットを選択します。このフィールドは、インストール オプション - 一般会計ページから、バーチャル アプルーバ方法を選択した場合にのみ表示されます。

コントロール予算仕訳

コミットメント コントロール予算仕訳の承認フレームワーク承認ワークフロー プロセスを元帳レベルで有効化します。ビジネス ユニット レベルまたはソース レベルで承認オプションを定義することもできます。オプションは、次のとおりです。

- *上位レベルの値を継承:* ビジネス ユニット一般会計定義 - 承認オプション ページで定義する承認オプションを使用する場合に選択します。
- *不要:* (デフォルト) コミットメント コントロール予算仕訳の承認ワークフローを元帳レベルで有効化しないようにする場合に選択します。
- *必須:* コミットメント コントロール予算仕訳の承認ワークフローを元帳レベルで有効化する場合に選択します。

詳細については、オラクル社の My Oracle Support (https://support.oracle.com) でノート ID 1369486.1 を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

関連リンク

Defining General Ledger Business UnitsPeopleSoft General Ledger

ユニット別元帳 - コミットメント コントロール元帳オプション ページ

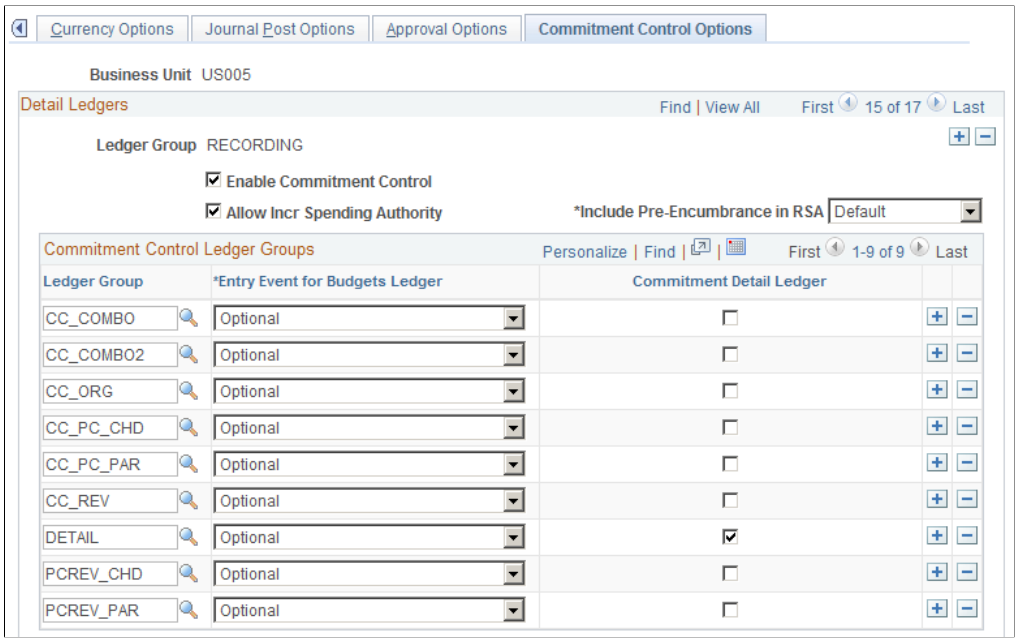
ユニット別元帳 - コミットメント コントロール オプション ページ (BUSINESS_UNIT_LED5) を使用して、指定されたコミットメント コントロール元帳にデフォルトの元帳オプションを指定します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [ビジネス ユニット関連], [一般会計], [ユニット別元帳], [コミットメント コントロール オプション]

画像: ユニット別元帳 - コミットメント コントロール オプション ページ

次の例では、ユニット別元帳 - コミットメント コントロール オプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このページを使用して、元帳グループのコミットメント コントロールを有効化し、コミットメント コントロール元帳グループを元帳グループに関連付けます。このページについては、PeopleSoft コミットメント コントロールのドキュメントで説明しています。

関連リンク

Setting Up Commitment Control for a Business Unit and GL Ledger GroupPeopleSoft Commitment Control

複数帳簿元帳の設定と使用

複数帳簿元帳を設定するには、次のコンポーネントを使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- インストール オプション (INSTALLATION)
- 元帳テンプレート (LEDGER_TEMPLATE)
- 明細元帳 (DETAIL_LEDGER)
- 明細元帳グループ (DETAIL_LEDGER_GROU)

複数帳簿元帳の設定と使用に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
基本設定ページ	INSTALLATION_FS1	[サブシステムに複数帳簿会計入力を作成] オプションを選択します。
テンプレート - レコード定義ページ	LEDGER_TEMPLATE1	元帳テンプレートのレコード名を作成または変更できますが、これは、新しいテンプレートを追加するか、システムで用意されているテンプレートのデフォルト レコードを変更する場合にのみ実行します。
テンプレート - フィールド定義ページ	LEDGER_TEMPLATE2	元帳テンプレートのフィールド名を作成または変更できますが、これは、デフォルト フィールドを変更する場合、または借方金額を貸方金額とは別に保存するフィールドを追加する場合にのみ実行します (貸借個別入力設定)。
明細元帳ページ	LEDGER_DETAIL1	明細元帳 ID および名前を定義し、明細元帳を元帳テンプレートにリンクします。
元帳グループ - 定義ページ	LEDGER_GROUP	元帳グループを定義し、それを元帳テンプレートにリンクし、元帳詳細をグループに割り当て、グループ内の各元帳の固有の属性を設定します。
元帳グループ - チャートフィールド ページ	LEDGER_GROUP2	この元帳グループのデフォルト チャートフィールドを定義します。変更可能なデフォルト値のセットが生成されます。
元帳グループ - 貸借一致ページ	LEDGER_GROUP3	明細元帳に対して生成される仕訳のチャートフィールド貸借一致オプションを指定します。
仕訳入力作成/更新 - ヘッダー ページ	JOURNAL_ENTRY1	複数帳簿取引元帳グループを選択します。
仕訳入力作成/更新 - 行ページ	JOURNAL_ENTRY2_IE	複数帳簿元帳グループに含まれる 1 つ以上の元帳の取引金額および通貨コードを入力します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

前提条件

複数帳簿元帳を設定および処理する前に、基本通貨を設定します。

基本設定ページ

基本設定 (INSTALLATION_FS1) ページを使用して、[サブシステムに複数帳簿会計入力を作成] オプションを選択します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション]。[基本設定] リンクをクリックします。

複数帳簿処理用にシステムを設定するには、次の手順に従います。

1. 他の PeopleSoft アプリケーションで同期会計入力を作成する場合にのみ、サブシステムの複数帳簿会計入力チェック ボックスをオンにします。
2. 元帳テンプレートを確認し、明細元帳を定義します。
3. 元帳グループ - 定義ページを使用して、複数の明細元帳を元帳グループにリンクします。

関連リンク

元帳テンプレートの定義
明細元帳の定義
元帳の元帳グループへのリンク

仕訳入力作成/更新 - ヘッダー ページ

仕訳入力作成/更新 - ヘッダー ページ (JOURNAL_ENTRY1) を使用して、複数帳簿取引用に設定する元帳グループを選択するか、元帳グループとそのグループ内の特定の元帳を選択します。

ナビゲーション

[一般会計][仕訳][仕訳入力][仕訳入力作成/更新][ヘッダー]

元帳グループ - 定義ページで [元帳同期管理] を選択すると、[行を自動作成] オプションが自動的に選択されます。

グループ全体の取引を入力すると、取引金額はグループ内の各元帳の基本通貨に換算され、グループ内の各元帳に転記されます。換算レートは取引レベルで決定されます。取引がグループ内の特定の元帳に関するものである場合、取引はその元帳のみに転記されます。

仕訳入力作成/更新 - 行ページ

仕訳入力作成/更新 - 行ページを使用して、複数帳簿元帳グループに含まれる 1 つ以上の元帳の取引金額および通貨コードを入力します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[一般会計], [仕訳], [仕訳入力], [仕訳入力作成/更新], [行]

仕訳行レコードの [元帳] フィールドは、既存のキー フィールド [ビジネス ユニット]、[仕訳 ID]、[仕訳日] および [転記取消連番] への追加です。入力する元帳グループに基づいて、元帳グループ内の補助元帳の数が判別され、元帳ごとに 1 つの仕訳行が作成されます。チャートフィールド値および取引金額はこれらの各行で同じですが、換算元帳は例外です。換算元帳には、金額 (基本通貨額)、[通貨コード]、[為替レート タイプ] および [為替レート] フィールドに値を設定する異なる金額があります。これらの値は元帳の基本通貨によって決まります。

全ての取引行を入力した後、仕訳編集処理を選択し、この処理によって仕訳行が各元帳の補足取引明細として自動的に生成されます。

例 1: 複数帳簿取引

基本通貨が NOK である Local 元帳と、基本通貨が EUR である Reports 元帳があるとします。どちらも元帳グループ Actuals に含まれています。取引を CHF で入力し、賃借料 (勘定科目 1000) の借方に CHF 100、買掛金 (勘定科目 2000) の貸方に CHF 100 を入力します。Local の行を入力すると、Reports の行が自動的に生成されます。4 つの仕訳行が次のように表示されます。

仕訳行	*元帳グループ*	*元帳*	*勘定科目*	*外貨金額*	*外貨コード*	*金額*	*通貨コード*	*レート タイプ*	*為替レート*
1	ACTUALS	LOCAL	1000	100	CHF	50	NOK	CURR	0.5
1	ACTUALS	REPORTS	1000	100	CHF	25	EUR	CURR	0.25
2	ACTUALS	LOCAL	2000	<100>	CHF	<50>	NOK	CURR	0.5
2	ACTUALS	REPORTS	2000	<100>	CHF	<25>	EUR	CURR	0.25

例 2: 換算元帳

この例では、Reports は換算元帳として定義されています。Local と Reports は、どちらも元帳グループ Actuals に含まれています。取引は CHF で上記と同じ金額で入力されました。4 つの仕訳行が次のように表示されます。

仕訳行	*元帳グループ*	*元帳*	*勘定科目*	*外貨金額*	*外貨コード*	*金額*	*通貨コード*	*レート タイプ*	*為替レート*
1	ACTUALS	LOCAL	1000	100	CHF	50	NOK	CURR	0.5
1	ACTUALS	REPORTS	1000	50	NOK	25	EUR	CURR	0.5
2	ACTUALS	LOCAL	2000	<100>	CHF	<50>	NOK	CURR	0.5
2	ACTUALS	REPORTS	2000	<50>	NOK	<25>	EUR	CURR	0.5

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Local の行を入力すると、Reports の行が自動的に生成されます。換算元帳の場合、Reports の外貨金額および取引通貨は、主元帳 Local の金額 (基本通貨額) および通貨コードです。

仕訳行のヘッダー レコードには、元帳、借方合計、貸方合計、編集ステータス、転記済ステータスなどのサマリ情報が含まれます。ヘッダーで保持される金額は、ビジネス ユニットの基本通貨の金種です。

関連リンク

Creating Journal EntriesPeopleSoft General Ledger
元帳の元帳グループへのリンク
Understanding Journal ProcessingPeopleSoft General Ledger
Understanding Foreign Currency ProcessingPeopleSoft Global Options and Reports

要約元帳を使用した勘定科目の組合せ

要約元帳を使用して勘定科目を組み合わせるには、要約元帳コンポーネント (SUMMARY_LEDGER) および元帳セット コンポーネント (LEDGER_SET_SLED) を使用します。

要約元帳を使用した勘定科目の組合せに使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
要約元帳ページ	LEDGER_SUMMARY1	サマリ残高を保存する要約元帳テーブルを定義した後で、このページを使用して、要約元帳のレコードおよびフィールドを定義する元帳テンプレートを指定し、要約するチャートフィールドを指定します。
元帳セット ページ	LEDGER_SET	要約元帳を作成するために使用するビジネス ユニットおよび元帳を設定します。
要約元帳作成リクエスト ページ	SUMMARY_REQUEST	新しい要約元帳を作成するか、増分更新処理を実行します。
要約元帳ステータスの確認ページ	SLED_STAT_INQ	要約元帳のステータスを表示します。

要約元帳を使用した勘定科目の組合せについて

一般会計には、追加変更を行わなくても残高を保存できるデフォルトの要約元帳があります。ただし、要約元帳の追加作成や、既存の元帳の変更が可能です。

要約元帳コンポーネント (SUMMARY_LEDGER) および元帳セット コンポーネント (LEDGER_SET_SLED) を使用して、次のことを実行できます。

- 要約元帳テーブルを作成します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 要約元帳を定義します。
- 元帳セットを設定します。
- 要約元帳を生成または更新します。
- 転記によって要約元帳を増分更新します。
- 要約元帳ステータス テーブルを表示します。

前提条件

要約元帳レコードを設定し、要約元帳テーブルを作成する前に、次の手順に従います。

1. データを要約する方法を決定します。明細元帳から直接、またはツリーでロールアップされるデータから、のいずれかです。

   注: 明細元帳から直接データを要約する場合、要約元帳チャートフィールドのフィールドの長さは、要約する明細元帳チャートフィールドと同じである必要があります。

2. 要約元帳データをロールアップ ツリーから取得する場合は、要約する各チャートフィールドのツリーを設定します。

   たとえば、部門別に勘定科目を要約する要約元帳のテーブルを作成するには、要約する部門をロールアップする 1 つのツリーと、勘定科目をロールアップする 1 つのツリーを設定します。また、ツリーを使用してデータを要約する場合、ツリー ノード名の最大長に対応するために、要約元帳チャートフィールドのフィールドの長さは 20 文字である必要があります。

3. どの要約元帳レコード定義が必須フィールドかを決定します。

必須フィールド	*要約可能なチャートフィールド*	*フィールド タイプ*
BUSINESS_UNIT		CHARACTER
LEDGER		CHARACTER
要約する 1 つ以上のチャートフィールド。次の列を参照してください。	ACCOUNT	CHARACTER
	OPERATING_UNIT	CHARACTER
	DEPTID	CHARACTER
	PRODUCT	CHARACTER
	PROJECT_ID	CHARACTER
	STATISTICS_CODE	CHARACTER
FISCAL_YEAR		NUMBER

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

必須フィールド	*要約可能なチャートフィールド*	*フィールド タイプ*
ACCOUNTING_PERIOD		NUMBER
POSTED_TOTAL_AMT		SIGNED NUMBER
DTTMSTAMP_SEC		DATETIME
PROCESS_INTSTANCE		NUMBER

注: 要約元帳レコード定義を設定する場合、要約元帳テーブルに値が正しく入力されるように、要約する全てのチャートフィールドを LEDGER フィールドと FISCAL_YEAR フィールドの間に配置します。この順序は、テーブルの物理的な格納ではなく、PeopleSoft Application Designer にのみ適用されます。

4. 要約する全てのチャートフィールドを定義します。

   明細元帳チャートフィールドを既に使用しているテーブルに影響を及ぼさずに、要約元帳に対応してフィールドの仕様 (フィールドの長さなど) を変更できるように、明細元帳チャートフィールドと区別できる一意の命名規則を使用します。これにより、他の要約元帳レコード定義で再利用できる、要約元帳フィールドの一意のセットも作成されます。

   たとえば、*ACCOUNT* は *ACCOUNT_SUM* になる場合があります。

   注: 明細元帳フィールドのタイプ、長さ、フォーマットおよび説明に対する変更は、そのフィールドを使用する全てのテーブルに影響します。

5. テーブルに追加する新しいフィールドを含め、全ての必須フィールドを定義します。

6. 基本通貨以外の通貨で残高を要約するかどうかを決定します。

   要約するには、*CURRENCY_CD* フィールドを要約元帳レコード定義に含めます。

7. 統計コード チャートフィールドに基づいてデータを要約するかどうかを決定します。

   要約するには、*STATISTICS_CD* フィールドを要約元帳レコード定義に含めます。

   注: *STATISTICS_CD* フィールドを要約元帳レコード定義に含めない場合、デフォルトでは、*STATISTICS_CD* フィールドに空白値が含まれた明細元帳行のみが要約され、チャートフィールドについて要約された残高は生成されません。

8. PS/nVision レポートの作成中にドリルダウンを使用するかどうかを決定します。

   ドリルダウンを使用するには、勘定科目チャートフィールドを要約元帳レコード定義に含めます。このチャートフィールドは必須ではありませんが、PS/nVision レポートの作成中にドリルダウンを有効にするには、このチャートフィールドを要約します。

9. 各要約元帳更新の日時を追跡するかどうかを決定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

追跡するには、*DTTM_STAMP_SEC* フィールドを含めます。

関連リンク

ツリーの使用によるチャートフィールドの要約

要約元帳テーブルの作成

要約元帳を作成または変更するには、要約元帳データを保存する要約元帳テーブルを作成します。

要約元帳テーブルを作成するには、次の手順に従います。

1. 要約元帳レコード定義用の新しいレコードを作成します。
2. 要約元帳フィールドをレコードに追加します。

   新しいレコードで、必須チャートフィールドおよび金額フィールドをレコード定義および要約するチャートフィールドに追加します。フィールドは正しい順序で追加します。
3. 要約するチャートフィールドを LEDGER フィールドと FISCAL_YEAR フィールドの間に配置し、それらの名前を変更します。

   たとえば、勘定科目を業務ユニットおよび部門別に要約する要約元帳テーブルを作成する場合は、次のフィールドを追加します。

   - BUSINESS_UNIT
   - LEDGER
   - ACCOUNT (*ACCOUNT_SUM* という名前を付ける要約対象チャートフィールド)
   - OPERATING_UNIT (*OPERATING_UNIT_SUM* という名前を付ける要約対象チャートフィールド)
   - DEPTID (*DEPTID_SUM* という名前を付ける要約対象チャートフィールド)
   - FISCAL_YEAR
   - ACCOUNTING_PERIOD
   - POSTED_TOTAL_AMT
   - POSTED_BASE_AMT (多通貨用)
   - POSTED_TRAN_AMT (多通貨用)
   - BASE_CURRENCY (多通貨用)

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: 一般会計で多通貨を使用する場合は、レポート用の全ての元帳金額フィールド (POSTED_TOTAL_AMT、POSTED_BASE_AMT および POSTED_TRAN_AMT) を要約元帳に含めます。要約元帳プロセス定義およびリクエストによって要約元帳テーブルが読み取られ、含まれている金額フィールドが要約されます。

4. 既存のフィールド (BUSINESS_UNIT や LEDGER など) をレコード定義に挿入します。

   新しいファイルで、要約元帳に必要な各フィールドを選択します。PeopleSoft Application Designer によって、フィールドは正しいパラメータと共にレコード定義に追加されます。

5. 必須フィールドを、明細元帳に表示されるとおりに追加します。

   名称変更や必須フィールドのパラメータの変更は行わないでください。

6. 新しいフィールドを定義して、レコード定義に追加します。

7. PeopleSoft Application Designer でフィールドを定義し、要約するチャートフィールドのレコード定義に新しいフィールドを追加し、フィールドのプロパティを入力します。

8. レコード定義を頻繁に保存します。

9. 要約元帳レコード定義内のどのフィールドが、データ行を一意に識別するキー フィールドかを指定します。

   [キー] チェック ボックスをオンにして、BUSINESS_UNIT、LEDGER、FISCAL_YEAR、ACCOUNTING_PERIOD、CURRENCY_CD および全てのチャートフィールドをキー フィールドとして指定します。PeopleSoft Application Designer で定義されているように、全てのキー フィールドはレコードの先頭にある必要があります。全てのチャートフィールドを *[合計]* として指定します。

10. 要約元帳レコード定義を保存します。

11. PeopleSoft Application Designer の作成機能を使用して、テーブルを作成します。

製品ドキュメントの*『PeopleTools: Application Designer Developer's Guide』*を参照してください。

要約元帳ページ

要約元帳ページ (LEDGER_SUMMARY1) を使用して、(サマリ残高を保存する要約元帳テーブルを定義した後で) 要約元帳のレコードおよびフィールドを定義する元帳テンプレートを指定し、要約するチャートフィールドを指定します。

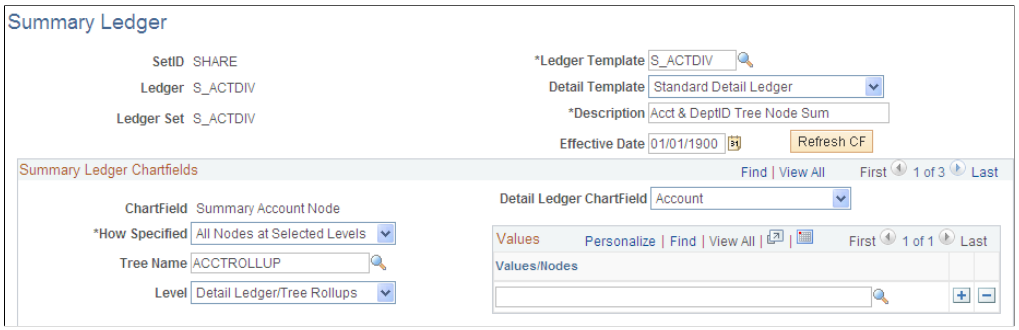
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[一般会計], [要約元帳], [要約元帳定義], [要約元帳]

画像: 要約元帳ページ

次の例では、要約元帳ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



注: 要約元帳では、ADB (日中平均残高) ターゲット元帳の要約がサポートされます。ただし、日単位元帳の要約はサポートされません。

元帳テンプレート 要約元帳テンプレートを選択します。

明細テンプレート 要約する明細元帳を含むテンプレートを選択します。

リフレッシュ 要約元帳チャートフィールドをリセットするには、このボタンをクリックします。

明細元帳チャートフィールド 要約する明細元帳チャートフィールドを指定します。

注: 要約するフィールドの 1 つとして通貨コードを定義し、統計を要約する場合は統計コードも定義してください。

指定方法 次の値から選択します。

全ての詳細値: そのチャートフィールドの詳細チャートフィールド値を保持します。

レベルの全てのノード: 選択したツリー レベルの全てのノードを要約します。

指定レベルの子: 指定されたツリー ノードの子である特定のツリー レベルの全てのツリー ノードが含まれます。この場合、[値] スクロール領域で親ノード名を選択します。

[詳細 - 選択した親]: および *[選択したツリー ノード]:* 使用するツリーを ([ツリー名] に) 入力します。次に、ツリーで要約元帳に含める詳細値が含まれたツリー ノードを ([値/ノード] で) 選択できま

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

す。元帳には、そのノードで要約された全ての詳細値が含まれます。レベルを使用するツリーを選択した場合は、オプションの [レベル] 編集ボックスが表示され、このフィールドでのプロンプトを、選択したレベルに制限できます。

選択した詳細値: 特定の詳細値 (アメリカとカナダの販売部門、全ての損益勘定など) を [値/ノード] フィールドで選択します。

注: 要約元帳チャートフィールドのフィールドの長さは、要約元帳の定義において重要な要素です。これは、要約元帳チャートフィールドを指定するのに詳細値を使用するかツリー ノードを使用するかに依存します。

関連リンク

仕訳入力テンプレート - チャートフィールド ページ
ツリーの使用によるチャートフィールドの要約

元帳セット ページ

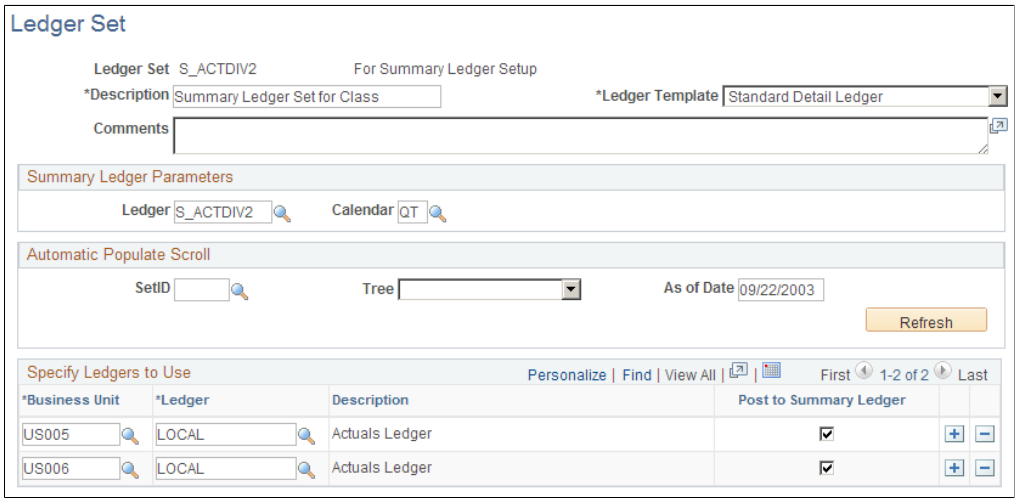
元帳セット ページ (LEDGER_SET) を使用して、要約元帳を作成するためのビジネス ユニットおよび元帳を設定します。

ナビゲーション

[一般会計], [要約元帳], [要約元帳に元帳セット指定], [元帳セット]

画像: 元帳セット - 元帳セット ページ

次の例では、元帳セット - 元帳セット ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

元帳テンプレート

[要約元帳パラメータ] に入力する要約元帳と共に、要約元帳定義 - 定義ページで指定した明細元帳テンプレートを選択します。元帳セットは、定義された要約元帳ごとに 1 つのみ必要です。

要約元帳パラメータ

この元帳セットの要約元帳を選択し、この要約元帳に関連付けるカレンダーを選択します。選択したカレンダーは、この要約元帳定義を共有する全てのビジネス ユニットに適用されます。

自動ロード

ツリー値を選択し、指定日 (有効日) を入力して、[リフレッシュ] をクリックします。[使用する元帳の指定] スクロール領域に、有効日の時点で有効な、選択したツリーのビジネス ユニットと、関連する明細元帳が表示されます。各行のビジネス ユニットおよび明細元帳を変更でき、行を追加または削除できます。

仕訳転記処理中に増分要約元帳更新を更新するには、[要約元帳に転記] チェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにしない場合は、要約元帳作成 - リクエスト ページからのみ、要約元帳増分処理を実行します。

注: 特定のビジネス ユニットおよび明細元帳に対して、ユニット別元帳 - 仕訳転記オプション ページで [要約元帳更新可] を選択してください。

指定日を入力して [リフレッシュ] をクリックするが、ツリー値を選択*しない*場合、[使用する元帳の指定] スクロール領域には 1 つのビジネス ユニットの 1 行のみが表示され、明細元帳は選択されません。

この場合、次のことを実行できます。

- ビジネス ユニットに関連付ける明細元帳を選択します。
- 別のビジネス ユニットおよび元帳を選択します。
- データ行を追加または削除します。
- [要約元帳に転記] チェック ボックスをオンにするか、空白のままにします。

要約元帳セットに対して指定されるのと同じルールが適用されます。

[保存] をクリックして、選択したビジネス ユニットおよび明細元帳をこの要約元帳セットに関連付けます。

関連リンク

ツリーの使用によるチャートフィールドの要約

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

要約元帳作成リクエスト ページ

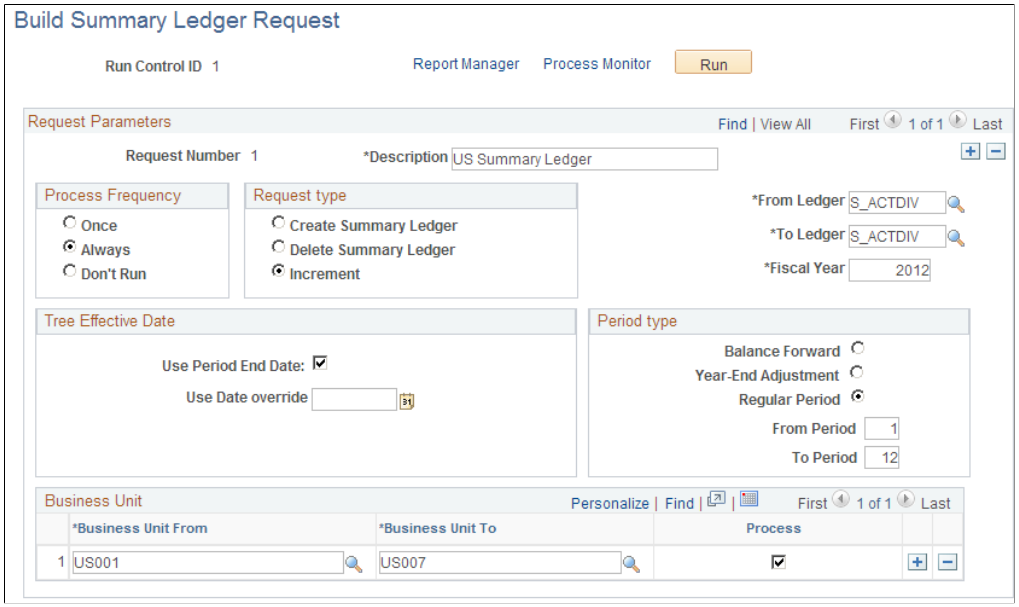
要約元帳作成リクエスト ページ (SUMMARY_REQUEST) を使用して、新しい要約元帳を作成するか、増分更新処理を実行します。

ナビゲーション

[一般会計], [要約元帳], [要約元帳作成], [要約元帳作成リクエスト]

画像: 要約元帳作成リクエスト ページ

次の例では、要約元帳作成リクエスト ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



一般会計では、要約元帳定義 - 定義ページおよび元帳セット - 元帳セット ページで入力した情報を使用して、要約元帳残高が更新されます。全てのリクエストを定義した後、要約元帳を生成または更新する必要があるたびに、バックグラウンド処理を実行します。サマリ リクエストがシステムで処理されるたびに、同じ期間の以前のサマリ リクエストの結果は消去されます。

要約元帳作成リクエスト ページを使用すると、要約元帳処理に対して 1 つ以上のビジネス ユニットを指定できます。これにより、ビジネス ユニットの処理がグループ別であっても個々のビジネス ユニットごとであっても、処理が容易になりパフォーマンスが向上します。

会計年度 要約対象会計期間を決定するために詳細カレンダーによって使用される年。

リクエスト タイプ

次のオプションによって、要約元帳に関してバックグラウンド処理で実行することが決まります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

作成 最初に既存の要約元帳を削除してから新しい要約元帳を作成する場合に選択します。

削除 既存の要約元帳を削除する場合に選択します。

増分 要約元帳の最後の作成または更新以降に行われた変更によって、要約元帳を増分更新する場合に選択します。この処理では、増分を適用する適切なエントリがステータス テーブルでチェックされます。エントリが見つかった場合は、増分アクションが実行され、ステータス行が更新されます。行が見つからない場合は、作成プロセスが実行され、ステータス行が挿入されます。

注: [増分] オプションを使用するには、明細元帳グループのユニット別元帳 - 仕訳転記オプション ページで [要約元帳更新可] オプションを選択します。

ツリー有効日

次のフィールドによって、有効日の使用方法が決まります。

期末日付使用 要約対象の各期間の終了日時点で有効なツリーのバージョンを使用する場合に選択します。

上書き日付使用 過去または将来の任意の日付を選択します。

通常は月次締め処理の一部として単一期間に対して要約元帳を実行しますが、このフィールドを使用して期間の範囲を選択することもできます。期間は、この元帳に関連付けられた要約カレンダーまたは詳細カレンダーによって決まります。元帳の範囲を選択し、リクエストした期間が含まれていない元帳がある場合、有効な組合せのみが実行されます。メッセージ ログには、選択した組合せごとに正常な完了またはエラーが示されます。たとえば、最初の 2 つの元帳は月単位カレンダーを使用し、3 番目の元帳は四半期単位カレンダーに基づくという元帳の範囲を選択するとします。期間 6 を選択した場合、最初の 2 つの要約元帳は正常に実行され、四半期単位カレンダーには期間 6 はないため、3 番目の元帳の処理中にエラーが発生したことが示されます。各要約元帳に対してどのカレンダーが使用されるかを確認するには、ユニット別元帳ページまたは要約元帳セットを参照してください。

ビジネス ユニット

要約元帳を処理する対象のビジネス ユニットまたはビジネス ユニットの範囲を指定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

[ビジネス ユニット開始] および [ビジネス ユニット終了] 特定のリクエストの要約元帳処理対象のビジネス ユニットまたはビジネス ユニットの範囲を選択します。

処理 要約元帳処理対象のビジネス ユニットまたはビジネス ユニットのグループを選択します。選択しないビジネス ユニットまたはビジネス ユニットの範囲は処理されません。

期間タイプ

期間を指定し、その期間が繰越残高期間か年度末調整期間のいずれであるかを指定します。

残高繰越 各年の締め処理の後に選択して、新しい年の処理に備えます。一般会計では、残高繰越金額を保存するために期間 0 が使用されます。サマリ レポートで使用できるように、実装処理中にロードされた期首残高を要約します。

年度末調整 入力した調整を要約する場合に選択します。通常は、年の締め処理を実行する前に年度末調整を要約します。このオプションを選択すると、含まれる調整期間を指定できます。調整期間を組み合わせることはできません。

関連リンク

調整期間およびその他の特別期間

転記による要約元帳の増分更新

一般会計には、転記によって要約元帳を増分更新するオプションがあります。これによりシステムの処理時間が短縮されます。

転記によって要約元帳を増分更新するには、次の手順に従います。

1. ユニット別元帳 - 仕訳転記オプション ページで、定義した要約元帳を増分更新するビジネス ユニットと明細元帳の組合せごとに、[要約元帳更新可] を選択します。
2. 適切な元帳セットの元帳セット - 元帳セット ページで、転記処理で実行する任意の組合せについて、[要約元帳に転記] を選択します。

   注: このオプションでは、要約元帳の増分更新のみが可能です。増分更新が実際に行われるかどうかは、[要約元帳の更新を省略] オプション (ステップ 3 を参照) の選択内容によって異なります。

   ---

3. ユーザー基本設定 - 一般会計ページの [要約元帳の更新を省略] オプションが選択されて*いない*ことを確認します。

   仕訳転記リクエスト ページから転記を実行する場合は、そのページでこのオプションが選択されていないことを確認します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: 仕訳転記処理を実行し、同時に要約元帳を増分更新*しない*場合は、ユーザー基本設定 - 一般会計ページの [要約元帳の更新を省略] オプションを選択します。転記によって、または要約元帳作成 - リクエスト ページから、後でいつでも要約元帳を増分更新できます。

仕訳編集処理の一部として、リモート コール (仕訳入力作成/更新 - 行ページで [実行] ボタンをクリック) によって、または仕訳を作成および転記する他のバックグラウンド処理 (仕訳ジェネレータ処理や通貨換算処理など) から直接、転記を実行できます。ユーザー基本設定 - 一般会計ページの [要約元帳の更新を省略] オプションを選択しないでください。

4. 転記処理を実行します。

   転記によって、リクエストされたビジネス ユニットおよび元帳グループごとに要約元帳処理が呼び出されます。この処理では、次の条件を満たす全ての定義済要約元帳が追加されます。

   - 元帳セット - 元帳セット ページの [要約元帳に転記] オプションが選択されている。
   - ステータス テーブルに行が存在する。これは、BUSINESS_UNIT、LEDGER、FISCAL_YEAR および ACCOUNTING_PERIOD フィールドによって判別されます。

要約元帳ステータスの確認ページ

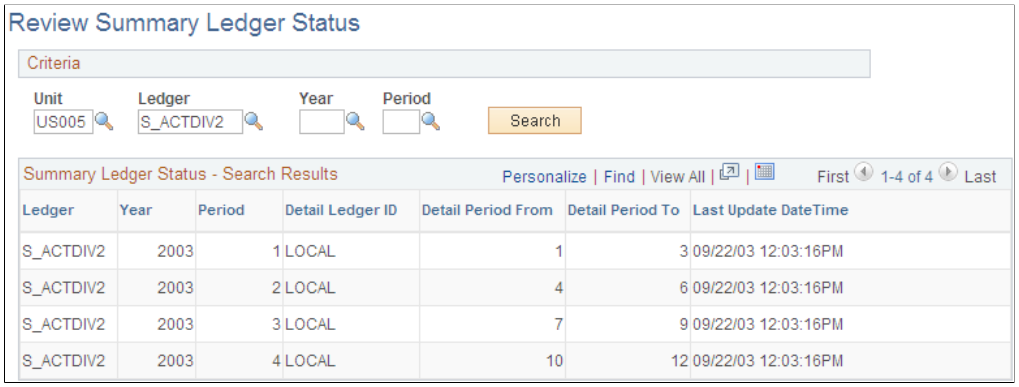
要約元帳ステータスの確認ページ (SLED_STAT_INQ) を使用して、要約元帳のステータスを表示します。

ナビゲーション

[一般会計], [要約元帳], [要約元帳ステータスの確認], [要約元帳ステータスの確認]

画像: 要約元帳ステータスの確認ページ

次の例では、要約元帳ステータスの確認ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このページを使用して、要約元帳ステータスおよび選択した条件の検索結果を表示します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

タイムスパンの使用

タイムスパンを定義するには、タイムスパン コンポーネント (TIME_SPAN) を使用します。

タイムスパンの設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
タイムスパン ページ	TIME_SPAN	元帳レポートおよび照会のタイムスパンを定義します。

タイムスパン ページ

タイムスパン ページ (TIME_SPAN) を使用して、元帳レポートおよび照会のタイムスパンを定義します。

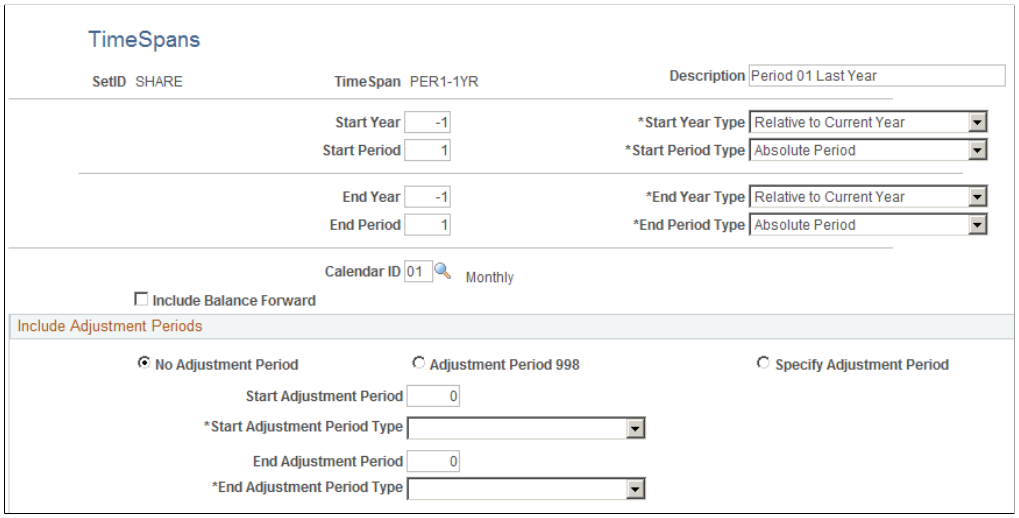
配賦、照会および PS/nVision レポートでの使用のために元帳残高を選択および取得する場合、タイムスパンによって、元帳テーブルからデータが抽出および要約される期間数が制御されます。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [カレンダー/スケジュール], [タイムスパン], [タイムスパン]

画像: タイムスパン ページ

次の例では、タイムスパン ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



[開始年度] および [終了年度] 隣接する [タイプ] フィールドで選択する値に基づいて、年度を指定します。

タイプ 次の値から選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

絶対年度: [カレンダー ID] に対して選択したカレンダーで定義されている任意の年度を入力します。

当年に相対した年度: 当年を選択する場合は *0*、前年を指定する場合は *–1*、翌年を指定する場合は *1* のように入力します。

[開始期間] および [終了期間]

隣接する [タイプ] フィールドで選択する値に基づいて、期間を指定します。

タイプ

次の値から選択します。

絶対期間: [カレンダー ID] に対して選択したカレンダーで定義されている任意の期間を入力します。

当期に相対した期間: 当期間を選択する場合は *0*、前期間を指定する場合は *–1*、次の期間を指定する場合は *1* のように入力します。

繰越残高を含む

このタイムスパンを使用するときに期首残高金額を含める場合に選択します。タイムスパンは連続する期間を表すため、繰越残高金額を含める場合は、期間 *1* と *[絶対年度]* (年度の最初の期間) を開始期間として選択する必要もあります。

調整期間なし

調整金額をこのタイムスパンから除外する場合に選択します。

調整期間 998

選択したカレンダーに対して定義されている調整期間が 1 つのみ (デフォルト期間 998) のときに、調整金額を含める場合に選択します。

調整期間指定

[カレンダー ID] で選択したカレンダーに対して複数の調整期間を作成したときに、調整金額を含める場合に選択します。

[開始調整期間] および [終了調整期間]

タイムスパンの開始調整期間と終了調整期間を指定します。ここに入力する値は、隣接する [タイプ] フィールドで *[当期に相対した期間]* と *[絶対期間]* のどちらの値を選択するかによって異なります。

第 1 四半期などの特定の調整期間を含めるには、*901* および *903* をこれらのフィールドに入力し、[タイプ] フィールドで *[絶対]* を選択します。

関連リンク

オープン期間とクローズ期間に基づいた会計カレンダーについて

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

元帳のインポートとエクスポート

元帳データ行を含む別の製品または外部システムからフラット ファイルをインポートするには、フラット ファイル元帳インポート コンポーネント (LOAD_LED_PNL) を使用します。

フラット ファイル元帳をエクスポートするには、元帳データ エクスポート コンポーネント (RUN_GLS7500) および元帳ファイル フォーマット コンポーネント (LED_FILE_FORMATS) を使用します。

フラット ファイル元帳のインポートとエクスポートに使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
フラット ファイル元帳インポート リクエスト ページ	LOAD_LED_PNL	フラット ファイル元帳をインポートします。
元帳フラット ファイル フォーマット ページ	LEDGER_FILE_TBL	元帳ファイル作成プロセス (GLS7500) で使用されるフラット ファイル エクスポート フォーマットを追加します。
元帳データのエクスポート リクエスト ページ	RUN_GLS7500	元帳ファイルを別のシステムにエクスポートします。

元帳のインポートとエクスポートについて

フラット ファイル元帳インポート コンポーネント (LOAD_LED_PNL) を使用して、元帳データ行を含む別の製品または外部システムからフラット ファイルをインポートできます。この機能は、異なる一般会計システムからの分散した元帳データを組み合わせて、連結、要約および企業レポートを実行するために使用されることが多くあります。

また、フラット ファイル フォーマットを選択または追加し、フラット ファイル元帳をサードパーティ レポート ソフトウェア システムにエクスポートすることもできます。フラット ファイル元帳をエクスポートするには、元帳データ エクスポート コンポーネント (RUN_GLS7500) および元帳ファイル フォーマット コンポーネント (LED_FILE_FORMATS) を使用します。この機能は、必要とされるフォーマットでの法定レポートの作成で使用するために、特定のフォーマットで元帳データを用意する必要がある国で使用されることが多くあります。

これらのコンポーネントを使用して、次のことを実行します。

- 元帳データをフラット ファイルからインポートします。
- フラット ファイル元帳エクスポート フォーマットを追加します。
- 元帳データをフラット ファイルにエクスポートします。

フラット ファイルのインポートとエクスポート以外に、元帳パブリッシュ エンタープライズ インテグレーション ポイントおよび元帳ロード処理を使用して、分散した一般会計システム間で元帳データを交換することもできます。この機能は、連結と共に機能するように設計されています。この処理の詳細については、連

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

結に関するドキュメントを参照してください。インテグレーションの詳細については、アプリケーション間のインテグレーションと移動に関するドキュメントを参照してください。

フラット ファイル元帳インポート リクエスト ページ

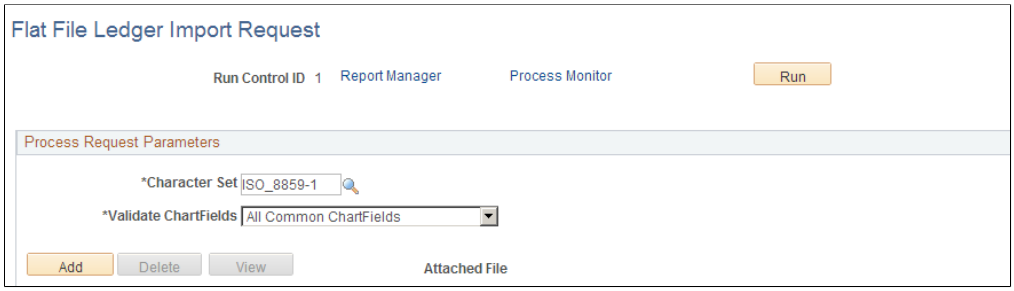
フラット ファイル元帳インポート リクエスト ページ (LOAD_LED_PNL) を使用して、フラット ファイル元帳をインポートします。

ナビゲーション

[一般会計], [元帳], [フラット ファイル元帳インポート], [フラット ファイル元帳インポート リクエスト]

画像: フラット ファイル元帳インポート リクエスト ページ

次の例では、フラット ファイル元帳インポート リクエスト ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



PeopleSoft アプリケーション エンジン プロセス (GL_LED_IMP) によって、明細元帳データはフラット ファイルから標準明細元帳または標準予算元帳に直接インポートされます。このプロセスでは、データは、ユニット別元帳 - 定義ページで [元帳ロード更新可] オプションが選択されている元帳にのみインポートされます。

警告 PeopleSoft アプリケーション エンジンのフラット ファイル元帳インポート プロセスでは、インポートされるデータに対して最低限の検証が実行されます。インポート中に組合せ編集またはコミットメント コントロール予算に対してはチェックされません。

フラット ファイル元帳からデータをインポートするには、次の手順に従います。

1. [追加] をクリックして、元帳ファイルをアップロードして添付します。
2. [表示] をクリックして、ファイルの内容をオンラインで確認します (または、ファイルをコンピュータにダウンロードできます)。
3. [削除] をクリックして、このラン コントロールに添付された元帳ファイルを削除します。
4. インポートされるフラット ファイルの [文字セット] を選択します。たとえば、ファイルの準備に使用された文字セットがアラビア語の場合は ISO_8859-6、日本語漢字の場合は JIS_X_0208 を指定します。
5. インポート処理に適切な [チャートフィールドの検証] オプションを選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールドをまったく検証しないことや、全ての共通チャートフィールドを検証することを選択できます。

6. [実行] をクリックして、PeopleSoft アプリケーション エンジン プロセスを使用してフラット ファイルをインポートします。

7. [プロセス モニター] をクリックして、プロセス リスト ページにアクセスします。このページでは、PeopleSoft アプリケーション エンジン プロセスのステータスおよび進捗を確認できます。

8. [レポート マネージャ] をクリックして、管理ページにアクセスします。このページでは、プロセス レポートをオンラインで表示し、プロセスのステータスをチェックし、レポートの内容詳細および配布リストを確認できます。

フラット ファイル元帳インポート プロセスのファイル フォーマット

ファイル レイアウト オブジェクト (GL_LED_IMPORT) によってファイル フォーマットが決まります。

次の表には、フラット ファイル元帳インポート プロセスのファイル フォーマットを示しています。レイアウトは最初の列に応じて異なり、次のような意味があります。

#	コメント。
S	標準明細元帳。データは PS_LEDGER にインポートされます。
B	標準予算元帳。データは PS_LEDGER_BUDG にインポートされます。

注: ファイル レイアウト GL_LED_IMPORT は、次に示すように事前定義されています。CSV フォーマットにする場合は、アプリケーション デザイナを使用してファイル フォーマットを FIXED から CSV に変更することでカスタマイズできます。このようにフィールドを変更しないでフォーマットを変更すると、元帳インポート プロセスに影響しません。

列	*長さ*	*説明*
列	長さ	説明
1	1	#
2	100	コメント
標準明細元帳		
列	長さ	説明
1	1	S
2	5	ビジネス ユニット

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

列	*長さ*	*説明*
7	10	元帳
17	10	勘定科目
27	10	代替勘定科目
37	10	部門
47	8	業務ユニット
55	6	製品
61	5	資金コード
66	5	クラス フィールド
71	5	プログラム コード
76	8	予算参照
84	5	関係会社
89	10	関係会社 - 資金
99	10	関係会社 - 業務ユニット
109	10	チャートフィールド 1
119	10	チャートフィールド 2
129	10	チャートフィールド 3
139	15	プロジェクト ID
154	4	台帳コード
158	4	調整タイプ
162	3	取引通貨コード
165	3	統計コード
168	4	会計年度
172	3	会計期間

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

列	*長さ*	*説明*
175	28	転記済金額合計
203	28	転記済基本通貨額
231	28	転記済取引金額
259	28	転記済金額合計 - 借方 このフィールドは、貸借個別入力元帳でのみ使用されます。
287	28	転記済金額合計 - 貸方 このフィールドは、貸借個別入力元帳でのみ使用されます。
315	28	転記済取引金額 - 借方 このフィールドは、貸借個別入力元帳でのみ使用されます。
343	28	転記済取引金額 - 貸方 このフィールドは、貸借個別入力元帳でのみ使用されます。
標準予算元帳		
列	長さ	説明
1	1	B
2	5	ビジネス ユニット
7	10	元帳
17	10	勘定科目
27	10	代替勘定科目
37	10	部門
47	8	業務ユニット
55	6	製品

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

列	*長さ*	*説明*
61	5	資金コード
66	5	クラス フィールド
71	5	プログラム コード
76	8	予算参照
84	5	関係会社
89	10	関係会社 - 資金
99	10	関係会社 - 業務ユニット
109	10	チャートフィールド 1
119	10	チャートフィールド 2
129	10	チャートフィールド 3
139	15	プロジェクト ID
154	8	予算期間
162	10	シナリオ
172	4	台帳コード
176	4	調整タイプ
180	3	取引通貨コード
183	3	統計コード
186	4	会計年度
190	3	会計期間
193	28	転記済金額合計
221	28	転記済基本通貨額
249	28	転記済取引金額

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

関連リンク

ビジネス ユニット用元帳の定義

元帳フラット ファイル フォーマット ページ

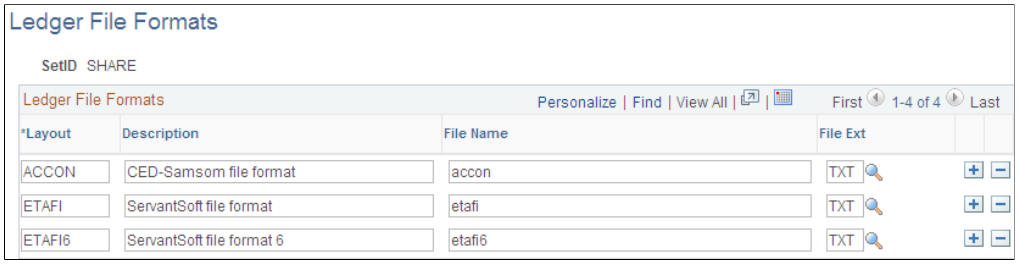
元帳ファイル フォーマット ページ (LEDGER_FILE_TBL) を使用して、元帳ファイル作成プロセス (GLS7500) で使用されるフラット ファイル エクスポート フォーマットを追加します。

ナビゲーション

[一般会計], [元帳], [元帳ファイル フォーマット], [元帳ファイル フォーマット]

画像: 元帳ファイル フォーマット ページ

次の例では、元帳ファイル フォーマット ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



PeopleSoft では、フランスおよびベルギーの組織が必要とする金融規制レポート用の元帳ファイル フォーマットを用意しています。ただし、新しいフォーマットを追加できます。

新しいフォーマットを追加するには、次の手順に従います。

1. GLS7500.SQR の Map-Output-File プロシージャを変更します。

   通常は、Map-Output-File プロシージャで用意されている他の 3 つのフォーマットのコードをコピーし、独自の新しいレイアウトを使用します。これを実行するには、短いコード行を記述するための SQR プログラミングの知識が必要です。

2. 元帳ファイル フォーマット ページで、正しいセットID の元帳ファイル フォーマットを追加します。

   レイアウトが、ステップ 2 で SQR コードに追加したものと一致していることを確認します。ファイルの説明を入力し、元帳エクスポート出力ファイルの名前を入力し、ファイル拡張子を入力または選択します。

元帳データのエクスポート リクエスト ページ

元帳データのエクスポート リクエスト ページ (RUN_GLS7500) を使用して、元帳ファイルを別のシステムにエクスポートします。

ナビゲーション

[一般会計], [元帳], [元帳データ エクスポート], [元帳データのエクスポート リクエスト]

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

エクスポート用の元帳ファイルを作成するには、次の手順に従います。

1. ビジネス ユニット、元帳、会計年度および期間を入力します。

   適切なフラット ファイルを [レイアウト] フィールドで選択して、フラット ファイルを作成します。

2. [実行] をクリックして、元帳ファイル作成プロセスを開始します。

3. [レポート マネージャ] をクリックしてレポートを表示し、[プロセス モニター] をクリックして元帳ファイル作成 GLS7500 プロセスのステータスを監視します。

注: 元帳ファイル作成プロセスは、ユニット別元帳 - 定義ページで [貸借個別入力機能] を選択した元帳にのみ有効です。

関連リンク

ビジネス ユニット用元帳の定義
Using the Ledger Interface UtilityPeopleSoft General Ledger
Transferring Ledgers for ConsolidationPeopleSoft General Ledger

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第20章

仕訳ジェネレータの使用

仕訳ジェネレータについて

仕訳ジェネレータ プロセス (FS_JGEN) は、次のデータ ソースを使用して会計入力から仕訳を作成します。

- PeopleSoft 以外のシステム。
- PeopleSoft 買掛金管理、契約管理、購買管理など同じデータベースにある Oracle の PeopleSoft アプリケーション。
- PeopleSoft 給与計算、Student Financials など別のデータベースにある Oracle の PeopleSoft アプリケーション。

仕訳ジェネレータは次を実行します。

- 会計入力を PeopleSoft 一般会計仕訳に変換。
- オプションで仕訳ジェネレータで作成した仕訳を編集および転記。
- 複数の一般会計 (GL) ビジネス ユニットと複数の元帳の仕訳をサポート。
- 借方入力と貸方入力およびマイナスの修正入力をサポート。

PeopleSoft 以外のシステムの場合は、仕訳ジェネレータとのやり取りに次の例が提供されています。

- GENERIC という名前の一般会計入力定義。
- GENERIC という名前の仕訳ジェネレータ テンプレート。
- 外部システムと仕訳ジェネレータ間のインターフェイスとして使用される一般会計入力テーブル (PS_JGEN_ACCT_ENTRY)。

  提供されている PeopleSoft サブシステムでは使用されません。

  これを使用またはコピーして、仕訳ジェネレータで処理する取引をロードします。これらの一般定義を使用するか、独自の変更定義を使用して仕訳入力を作成します。

関連リンク

Creating Journal Entries from Accounting Entries Using Journal GeneratorPeopleSoft General Ledger

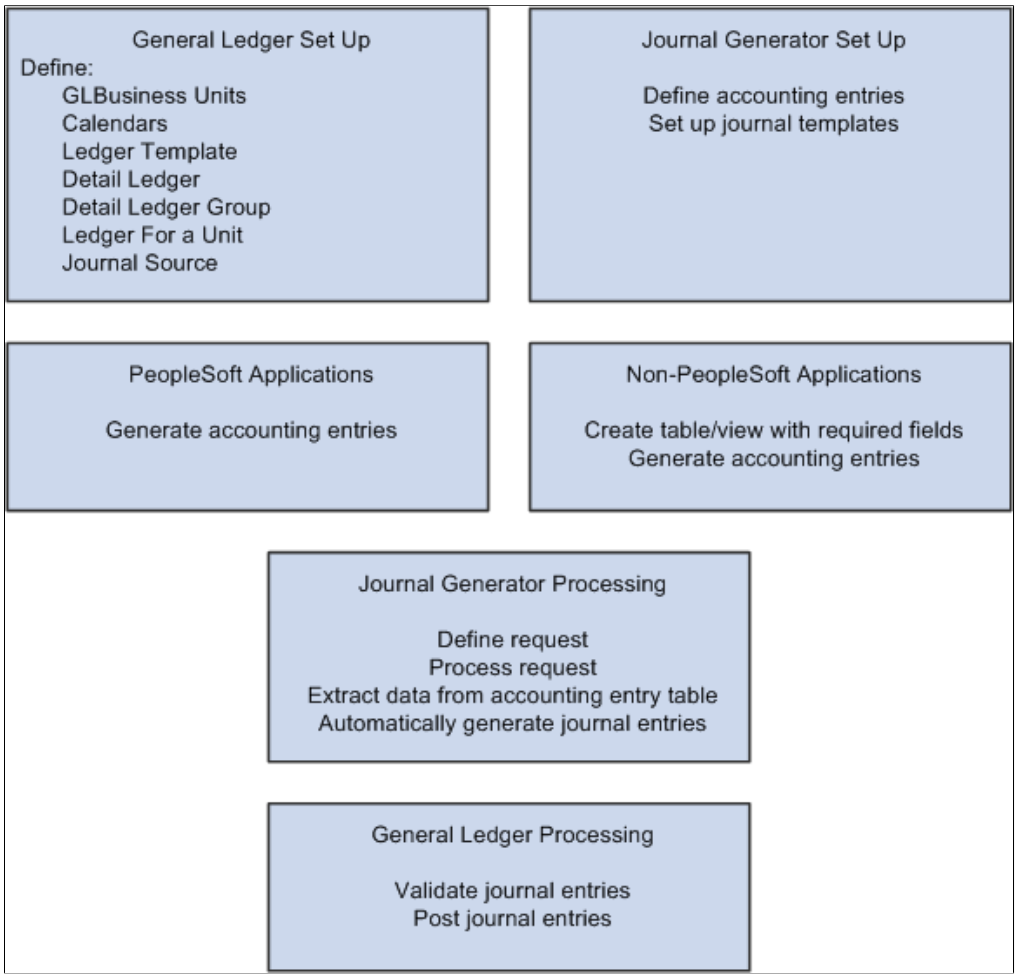
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft 仕訳への会計入力の変換

この図は、Oracle の PeopleSoft アプリケーションと PeopleSoft 以外のアプリケーションによる仕訳ジェネレータを使用した仕訳入力の作成方法と、一般会計処理用の仕訳の準備方法を要約したものです。

画像: PeopleSoft アプリケーションによる仕訳入力の作成方法

PeopleSoft アプリケーションによる仕訳入力の作成方法



会計入力が PeopleSoft と PeopleSoft 以外の他のアプリケーション システムで作成されます。

PeopleSoft 入力イベントおよびユニット間プロセスとユニット内プロセスでも、仕訳ジェネレータで処理可能な会計入力が作成されます。

コミットメント コントロールがインストールされている場合、仕訳編集および検証を使用して予算チェックを実行できます。

仕訳ジェネレータ プロセスで会計入力が一般会計仕訳に変換されます。サブシステム アプリケーションでは、アプリケーション ビジネス ユニットから別の一般会計ビジネス ユニットへ、また別の元帳グループおよび一般会計ビジネス ユニットの元帳へ仕訳を作成できます。

一般会計では、一般会計システムで設定した条件に従って仕訳を検証します。仕訳編集をリクエストするときに仕訳が自動的に検証されます。仕訳入力 エラー ページにはシステムで発生した全てのエラーが

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

表示されます。該当の仕訳入力ページにアクセスしてエラーを修正できます。システムでエラーのない仕訳を検証後、一般会計への転記をリクエストできます。仕訳編集と予算チェック (GL_JEDIT2) プロセスおよび仕訳転記 (GL_JP) プロセスを仕訳ジェネレータから開始するか、後で別のプロセスで開始できます。

関連リンク

会計入力定義ページ

仕訳ジェネレータに必須のフィールド名

次の表には、仕訳ジェネレータを実行するために会計入力テーブルに必要なフィールドがリストされています。大文字で示すフィールドは、テーブルで必須のフィールド名そのものです。大文字と小文字の混在したフィールド名は、会計入力定義ページでフィールド名を指定できることを示します。

フィールド名	*説明*
会計処理日	一般会計で認識される会計入力の日付を反映します。
外貨金額	外貨 (取引通貨) 金額。
金額	基本通貨金額。
ACCOUNTING_PERIOD および FISCAL_YEAR	仕訳ジェネレータ プロセスが仕訳日に基づいて会計入力を一般会計仕訳に配布後に入力する、会計期間と会計年度です。
APPL_JRNL_ID	仕訳ジェネレータ テンプレートの ID。会計入力の仕訳デフォルトと要約オプションを特定します。
BUSINESS_UNIT	アプリケーション ビジネス ユニット。
BUSINESS_UNIT_GL	入力の一般会計ビジネス ユニット。
CURRENCY_CD	基本通貨金額の通貨コード。
FOREIGN_CURRENCY	外貨金額の通貨コード。
GL_DISTRIB_STATUS	一般会計配布ステータスは、配布行の転記ステータスを示します。会計入力が作成され仕訳ジェネレータ プロセスの準備が完了している場合、値は *N* (なし) です。仕訳ジェネレータ プロセスが会計入力を一般会計仕訳に配布すると、値が *D* (配布済) に変わります。仕訳ジェネレータではその他の値は無視されます。
JOURNAL_ID および JOURNAL_DATE	仕訳ジェネレータ プロセスが会計入力を一般会計仕訳に配布後に入力される、仕訳 ID と仕訳日フィールドです。
JOURNAL_LINE	会計入力定義ページの [クロス プロダクト ドリル ダウン] オプションが選択された場合に、仕訳ジェネレータが会計入力を一般会計仕訳に配布後に仕訳ジェネレータにより入力されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

フィールド名	*説明*
LEDGER	会計入力の転記先となる特定の元帳。このフィールドが空白の場合、仕訳ジェネレータでは元帳グループの主元帳がデフォルトで使用されます。
LEDGER_GROUP	会計入力の転記先となる元帳グループ。このフィールドが空白の場合、仕訳ジェネレータではユニット別元帳 - 定義ページで指定したデフォルトの元帳グループに仕訳を作成します。
PROCESS_INSTANCE	仕訳ジェネレータが会計入力を一般会計仕訳に配布した場合に入力されます。

次の表には、仕訳ジェネレータ プロセスのオプション フィールドがリストされています。大文字のフィールドは、会計入力テーブルで使用されるフィールド名そのものです。大文字と小文字の混在した名前は、会計入力定義ページでフィールド名を指定できることを示します。

フィールド名	*説明*
統計値	統計値。
仕訳参照 (仕訳参照)	取引のソースの追跡に使用する仕訳行参照。
仕訳内容 (仕訳内容)	取引の説明に使用する仕訳内容。
仮勘定キー	仮勘定キーは関連する仮勘定入力間のリンクを提供します。
チャートフィールド	一般会計チャートフィールドに直接マッピングするチャートフィールド。仕訳ジェネレータ プロセスが会計入力を要約して仕訳を作成する場合に、これらのチャートフィールドが使用されます。
KK_AMOUNT_TYPE	コミットメント コントロール金額タイプでは、作成された仕訳の一般会計で予算チェックをするためのコミットメント コントロール会計入力が提供されます。
DOC_TYPE	ドキュメント連番の設定にドキュメント タイプを使用します。仕訳ジェネレータ テンプレートのこのフィールドとドキュメント タイプ マッピング機能を使用して、一般会計ドキュメント タイプに従って会計入力を別の仕訳にグループ化します。
DOC_SEQ_NBR	ドキュメントの連番。
DOC_SEQ_DATE	ドキュメント連番が割り当てられたか検証された日付。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

フィールド名	*説明*
MOVEMENT_FLAG	貸借個別入力オプションを有効にした場合に、金額の符号を定義します。それ以外の場合は、仕訳ジェネレータでこのフラグが無視されます。値は次のとおりです。 *N:* 取引金額の通常の符号。これはデフォルトです。仮計上貸借一致、基本通貨端数調整、通貨ポジション、ユニット間仕訳行の場合、このフィールドは常に N です。 *R:* 取引金額の逆仕訳指定。[貸借個別入力機能] オプションがユニット別元帳 - 定義ページで選択されており、システムで貸借個別入力を有効にした場合は、このフィールドを切り替えて借方または貸方金額の逆仕訳を表示することができます。
ADB_DATE	[日中平残日付] フィールドが会計入力テーブルにある場合、仕訳ジェネレータはこれを使用して仕訳ヘッダーの日中平残日付を入力します。
BOOK_CODE	[台帳コード] フィールドが会計入力テーブルにあり、[台帳コード] が全インストール オプション ページでアクティブになっている場合は、台帳コードに応じて仕訳ジェネレータ グループ会計入力が別の仕訳に入力されます。

仕訳ジェネレータとコミットメント コントロールの使用

仕訳ジェネレータ処理に予算チェックが含まれるかどうかは、会計入力定義のシステム ソースと *[GL でのコミットメント コントロール省略]* オプションによって異なります。

コミットメント コントロールをサポートするアプリケーション サブシステムのある会計入力定義システム ソース

一般会計では、仕訳がこの定義タイプで作成された場合にコミットメント コントロール予算チェックを実行しません。これは、供給またはサブシステムで入力に対して予算チェックが実行されるためです。

仕訳ジェネレータ リクエスト ページの*[予算チェック]* オプションは、これらの入力に適用できません。

仕訳ジェネレータ処理は次の条件で実行されます。

- KK_AMOUNT_TYPE が会計入力テーブルにある場合:

  仕訳ジェネレータは、KK_AMOUNT_TYPE 値が *I*、つまり実績を示す入力のみを処理します。

- KK_AMOUNT_TYPE が会計入力テーブルにない場合:

  仕訳ジェネレータで全ての入力が実績であると想定され、全て処理されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

コミットメント コントロールをサポートするアプリケーション サブシステムのない会計入力定義 システム ソース

[GL でのコミットメント コントロール省略] オプションでは、この定義で作成された仕訳に対して一般会計で予算チェックを実行するかどうかを決定します。

仕訳ジェネレータ リクエスト ページの [予算チェック] オプションでは、仕訳ジェネレータが仕訳を作成後に仕訳ジェネレータによりコールされる編集プロセスの一部として仕訳編集に予算チェックを含めるかどうかを指定します。これは、[GL でのコミットメント コントロール省略] が選択解除されている会計入力定義で仕訳が生成された場合にのみ適用されます。

仕訳ジェネレータ処理は次の条件で実行されます。

- KK_AMOUNT_TYPE が会計テーブルにある場合:

  会計入力定義で指定された入力のみが処理されます。*実績化*を指定すると、仕訳ジェネレータで KK_AMOUNT_TYPE = *I* (実績) の入力のみが処理されます。このオプションを空白のままにすると (全ての入力を意味します)、仕訳ジェネレータで全ての入力が処理されます。仕訳ジェネレータでは、ソース テーブルにある異なる KK_AMOUNT_TYPE 値のそれぞれについて、仕訳が作成されます。

- KK_AMOUNT_TYPE が会計テーブルにない場合:

  仕訳ジェネレータで全ての入力が実績であると想定され、全て処理されます。

前提条件

始める前に次を行います。

- オープン期間ページの会計入力を抽出する日付範囲を定義します。
- 元帳テンプレート - レコード定義ページの元帳のレコード定義をレビューします。

  仕訳ジェネレータは次のレコード名を使用して仕訳を作成します。

  - 仕訳行レコード (JRNL_LN)。
  - 仕訳ジェネレーター時レコード (JGEN_WRK_TMP)。
  - 仕訳ヘッダー レコード (JRNL_HEADER)。

JRNL_HDR_REC は LED_TMPLT_TBL にあるフィールドで、仕訳ヘッダー レコードを指定します。一般会計では JRNL_HEADER 以外の仕訳ヘッダー レコード名はサポートされないため、JRNL_HDR_REC フィールドは元帳テンプレート - レコード定義ページにありません。ただし、仕訳ジェネレータでは動的仕訳ヘッダー レコード名はサポートされます。推奨の SQL ツールを使用して、指定された元帳テンプレートについて LED_TMPLT_TBL.JRNL_HDR_REC を別の仕訳ヘッダー レコード名に更新できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

警告 一般会計をインストールする場合、仕訳ヘッダー レコード名を変更しないでください。変更すると、作成する仕訳が一般会計に転記されなくなります。

- 元帳テンプレート - フィールド定義ページで、フィールド定義をレビューします。

  サードパーティ システム取引の場合は、次の条件を満たす場合、仕訳ジェネレータで貸方と借方を要約して純額にするのではなく、貸方と借方をそれぞれ要約します。

  - [転記済借方合計] フィールドと [転記済貸方合計] フィールドに値がある場合。
  - ユニット別元帳ページの元帳に対して、[貸借個別入力機能] オプションを選択した場合。

    さらに、会計入力で逆仕訳借方と逆仕訳貸方の調整入力を行うことができます。仕訳ジェネレータでは、これらの逆仕訳入力は別々に要約されます。

- 明細元帳 - 定義ページで、次を確認します。

  - 元帳テンプレートと詳細元帳がリンクされている。
  - 同じ仕訳にある複数の元帳が、元帳グループ ページに示すように同じ仕訳グループに属している。

    仕訳ジェネレータで仕訳を作成する場合、元帳グループの設定に応じて会計入力が転記されます。各元帳グループに対して固有の仕訳ヘッダーを作成します。

  - [元帳同期管理] フィールドが設定されている。[元帳同期管理] オプションは、仕訳入力を仕訳グループの全ての元帳に転記するか、指定した 1 つの元帳にのみ転記するかを決定します。

    仕訳ジェネレータ プロセスが作成する仕訳は、このオプションが選択されているか選択解除されているかと、仕訳ジェネレータ テンプレートで [会計入力同期管理] オプションが選択されているかどうかに応じて異なります。

- 仕訳ジェネレータでどの仕訳が作成されるかは、次の設定によって異なります。

  - 明細元帳グループ - 定義ページの [元帳同期管理] オプションは、仕訳入力を指定した 1 つの元帳 (選択解除) に転記するか、元帳グループの全ての元帳 (選択) に転記するかを決定します。
  - 複数帳簿に使用する仕訳ジェネレータ テンプレートの [会計入力同期管理] オプションには多くの影響力があります。
  - 会計入力行に元帳グループと元帳を指定したかどうか。

- ユニット別元帳ページをレビューします。

  - 定義ページで、ビジネス ユニットの元帳グループを確認します。仕訳ジェネレータ プロセスで同じ一般会計ビジネス ユニットの別の元帳グループに対して仕訳を生成します。会計入力テーブルで元帳グループ フィールドが空白の場合、仕訳ジェネレータではこの一般会計ビジネス ユニットの仕訳に対して、ユニット別元帳 - 定義ページで定義したデフォルトの元帳グループを使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 定義ページで、ビジネス ユニットの元帳定義を確認します。
- 仕訳編集オプション ページで、仕訳編集オプション定義を確認します。

  仕訳貸借一致オプション、仕訳編集エラー オプション、およびコントロール合計オプションが、仕訳エラー処理を決定します。
- 通貨オプション ページで、通貨オプション定義を確認します。

  通貨オプションは仕訳の貸借一致、基本通貨調整、および端数調整を決定します。[外貨仕訳] オプションは仕訳ジェネレータ プロセスで外貨ごとに別の仕訳を作成するかどうかを決定します。[単一外貨のみ] または [外貨なし] を選択すると、システムで外貨ごとに 1 つの仕訳が作成されます。
- 仕訳転記オプション ページで、仕訳転記オプションを確認します。
- 承認オプション ページで定型仕訳と予算仕訳の承認ルールを決定する承認オプションを確認します。
- コミットメント コントロール オプション ページで、コミットメント コントロール オプションを確認します。

関連リンク

会計入力定義ページ
ビジネス ユニット用元帳の定義

仕訳ジェネレータの設定

仕訳ジェネレータを設定するには、会計入力定義コンポーネント (JRNLGEN_DEFN)、仕訳ジェネレータ テンプレート - デフォルト コンポーネント (JRNLGEN_APPL_ID) および仕訳ジェネレータ テンプレート - 要約コンポーネント (JRNLGEN_APPL_ID) を使用します。

仕訳ジェネレータの設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
会計入力定義ページ	JRNL_GEN_ACCTG_DEF	データを一般会計に配布するシステム ソースを指定し、会計入力テーブルのレコード名とフィールド名を指定します。
仕訳ジェネレータ テンプレート - デフォルト ページ	JRNL_GEN_DEFAULTS	仕訳ジェネレータのデフォルトを指定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
仕訳ジェネレータ テンプレート - 要約ページ	JRNL_GEN_SUM	仕訳ジェネレータが仕訳を作成する場合の会計入力の要約方法を定義します。勘定科目またはチャートフィールド レベルで要約します。ジェネレータは各元帳グループについて個別の仕訳ヘッダーを作成します。同じ元帳グループに属している複数の元帳を 1 つの仕訳にまとめることができます。

仕訳ジェネレータの設定について

仕訳ジェネレータ プロセスでは、全てのアプリケーションについて一般会計仕訳を作成します。このプロセスでは会計入力定義のレコード名とフィールド名を使用して、会計入力テーブルからデータを抽出して仕訳を作成します。

テーブルに「仕訳ジェネレータに必須のフィールド名のレビュー」にリストされている必須フィールドが含まれている場合は、データベース内の任意のテーブルからデータを抽出します。

アプリケーションには、会計入力テーブルの必須フィールドとはフィールド名が異なる一方、属性が同じフィールド名が含まれている場合があります。その場合は、システムの配布行テーブルでビューを作成し、会計入力定義ページの会計入力レコード フィールドで名前を指定して、仕訳ジェネレータでそのビューを指定します。

フィールドを変更または追加し、これらのフィールドに関連付けられている値を仕訳に渡す (つまり明細を保持する) 場合、会計入力、仕訳ジェネレータ作業 (JGEN_WRK_TMP)、仕訳ジェネレータ動的状態レコード (FS_JGEN_UPD_AET および FS_JGEN_PRV_AET)、および仕訳行の 5 つのテーブルに新しいフィールドを挿入します。各テーブルのフィールドではフィールド名と属性が一致している必要があります。最後に仕訳ジェネレータ テンプレートで [明細保持] を選択します。

PeopleSoft 以外のシステムでは GENERIC 会計入力定義を使用することも、独自に変更した会計入力定義を作成することもできます。

関連リンク

仕訳ジェネレータに必須のフィールド名

会計入力定義ページ

会計入力定義ページ (JRNL_GEN_ACCTG_DEF) を使用して、データを一般会計に配布するシステムソースを指定し、会計入力テーブルのレコード名とフィールド名を指定します。

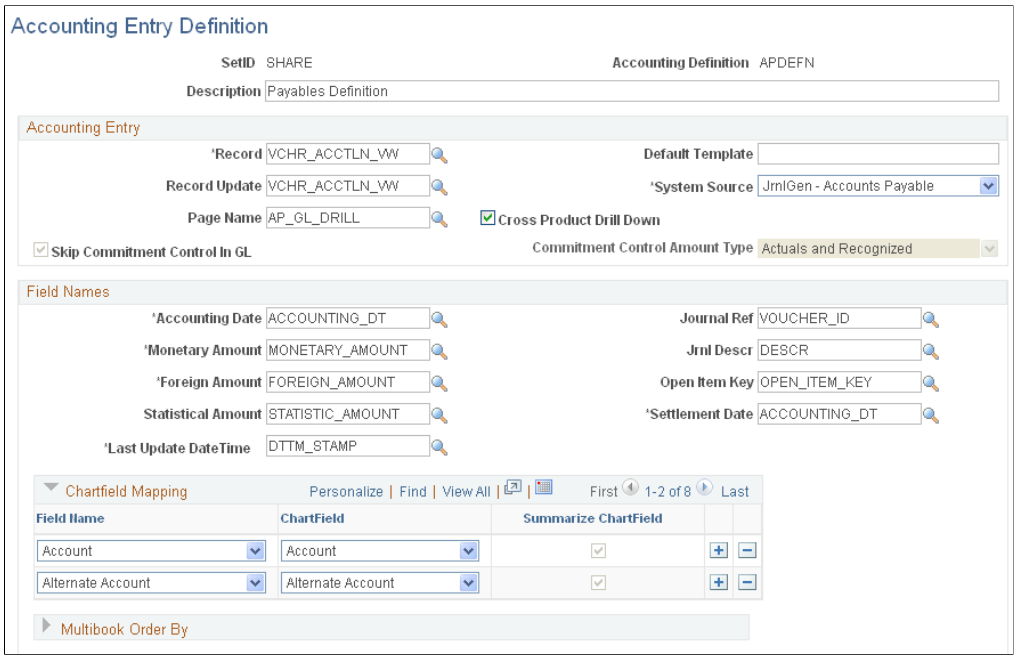
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[一般会計], [仕訳], [サブシステム仕訳], [会計入力定義], [会計入力定義]

画像: 会計入力定義ページ

次の例では、会計入力定義ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



会計処理定義

仕訳ジェネレータ リクエスト ページでこの一意の名前を使用して、リクエストを会計入力テーブルとフィールド定義に関連付けます。

会計入力

レコード

仕訳ジェネレータで仕訳の作成に必要な情報の取得元となるレコードを選択します。これは仕訳の作成時に使用するデータ ソース (会計入力) テーブルです。サードパーティ システム テーブルのビューを作成した場合、ここに名前を入力します。

更新レコード

会計入力レコードの更新名を選択します。これは仕訳ジェネレータで更新されるレコードです。仕訳ジェネレータで仕訳を作成後に仕訳情報と共に更新される会計入力テーブルです。

システム ソース

取引が発生した会計入力のソースを特定します。たとえば、売掛金管理取引のソースは売掛金管理です。

仕訳ジェネレータはシステム ソースを使用して次を実行します。

- リクエストを定義する場合にアプリケーション ビジネス ユニットのプロンプト テーブルを取得します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 仕訳ヘッダーのシステム ソース フィールドをフォーマットします。
- 一般会計で、このシステム ソースから作成された仕訳にコミットメント コントロール予算チェックを実行できるかどうかを決定します。

  これは [GL でのコミットメント コントロール省略] チェック ボックスと共に動作します。

PeopleSoft 以外のアプリケーションの場合は、[仕訳ジェネレータ - その他] 値を選択します。

PeopleSoft アプリケーションの場合は、他のシステム ソースの値から 1 つ選択します。

ページ名

クロス プロダクト ドリル ダウンの場合、一般会計に仕訳を作成する各製品で、各会計行テーブルにドリル ページを用意することができます。[ページ名] フィールドにドリル ページの名前を入力し、対応する会計行テーブルを表示します。

クロス プロダクト ドリル ダウン

クロス プロダクト ドリル ダウンを有効にするには、このチェック ボックスをオンにします。この機能では、製品ラインをまたがる会計取引のソースを指定できます。このオプションにより、仕訳ジェネレータで会計入力テーブルに仕訳行番号とその他の仕訳キー フィールドを入力できます。これらのフィールド値を使用して、追加の補足情報について、システムで一般会計の勘定残高から他の PeopleSoft アプリケーションの特定の取引にドリル ダウンできます。

注: クロス プロダクト ドリル ダウン機能を使用する場合は、会計行テーブルに一意の索引が必要です。

GL でのコミットメント コントロール省略

システム ソースでコミットメント コントロールがサポートされる場合、システムで [GL でのコミットメント コントロール省略] チェック ボックスがオンになり選択解除できなくなります。これは、アプリケーション レベルでコミットメント コントロールが実行されるためです。

システム ソースでコミットメント コントロールがサポートされない場合は、これを選択解除したままにして一般会計でコミットメント コントロール予算チェックを実行するよう選択するか、このオプションを選択して実行しないようにします。コミットメント コントロールがサポートされない一部のアプリケーションは、資産管理、契約、グローバル ペイロール、資金管理、および全ての外部システムです。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

コミットメント コントロール金額タイプ このフィールドに表示される値は、会計入力レコードの内容によって異なります。会計入力レコード名に値を入力する場合、システムではレコードのレコード定義をチェックしてフィールド名 KK_AMOUNT_TYPE が含まれているかを確認します。レコード定義に KK_AMOUNT_TYPE が検出された場合にのみ、[コミットメント コントロール金額タイプ] フィールドが有効になりデータを入力できます。KK_AMOUNT_TYPE がレコード テーブルにない場合は、全ての会計入力が実際の取引であるとシステムで想定されます。

次の値から 1 つ選びます。

(なし): 全ての値を選択。

実績: 支出の実績金額または認識済収益。

回収済: 回収された収益の金額。

認識済/回収済: 実績と回収済の組合せ。経費取引の場合、支出の実績金額です。収益取引の場合、認識済収益の実績金額と回収済収益の金額です。

ダイナミック: 取引を入力する場合にこの金額タイプを指定します。一般取引には使用できません。

エンカンバランス: エンカンバランスはプロキュアメント ライフ サイクルの第 2 ステップになることもあり、通常は発注または契約の形態をとります。資金支出の法的義務を記録するために使用されます。

計画: 支出予定の金額。この金額は見積にすぎず、プロセスでは予算金額を超えたかどうかの判別にこれを使用しません。

プレエンカンバランス: プレエンカンバランスはプロキュアメント ライフ サイクルの最初のステップになることもあり、通常は調達依頼の形態をとります。エンカンバランス (発注) より優先されることもありますが、エンカンバランスを作成するためにプレエンカンバランスがあるかどうかは必須ではありません。調達依頼は法的義務ではなく検討する意志を示すために使用し、発注や資金の充当を行います。

フィールド名

仕訳ジェネレータで仕訳の作成に使用する会計入力テーブルの列を指定するためのフィールド名を入力します。

会計処理日 一般会計で認識される会計入力の日付を反映します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: ACCOUNTING_DT がデフォルトで表示されますが、会計入力テーブルから別のフィールド名に変更できます。

金額 基本通貨金額。

外貨金額 外貨 (取引通貨) 金額。

統計値 (オプション) 統計値。

仕訳参照 (仕訳参照) (オプション) 取引のソースの追跡に使用する仕訳行参照。仕訳ジェネレータ テンプレート - 要約ページで [明細保持] オプションを選択すると、仕訳行参照が定義されたフィールド名から入力されます。フィールド名が定義されていない場合、仕訳行参照は仕訳ジェネレータ テンプレートのデフォルトから取得されます。

仕訳内容 (仕訳内容) (オプション) 取引の説明。仕訳ジェネレータ テンプレート - 要約ページで [明細保持] オプションを選択すると、これが定義されたフィールド名から入力されます。フィールド名が定義されていない場合、仕訳行内容は仕訳ジェネレータ テンプレートのデフォルトから取得されます。

仮勘定キー 仮勘定キーがサブシステム テーブルのフィールドにマッピングされている場合に、仕訳ジェネレータ テンプレート - 要約ページで [明細保持] 要約オプションを選択すると、仮勘定値が一般会計に引き継がれます。

フィールド名が定義されていない場合、取引の勘定科目が仮勘定科目であっても、仮勘定レコードは作成されません。

決済日 追跡と転記で日付コードが有効になっている場合、(会計処理日の他に) 認識される会計入力の日付を反映します。「ユニット別元帳 - 仕訳転記オプション ページ」を参照してください。

最終更新日時 仕訳ジェネレータ プロセスで仕訳が作成されたときに反映する [日付タイムスタンプ] フィールドを含めます。

チャートフィールドのマッピング

このグリッドを展開してマッピングを実行します。

フィールド名 一般会計チャートフィールド名に直接マッピングする会計入力フィールド名を指定します。

チャートフィールド 一般会計のチャートフィールド名を指定します。仕訳ジェネレータ テンプレート - 要約ページの全チャートフィールド レベルで要約オプションを選択すると、会計入力を要約して仕訳を作成する際にリストされたチャートフィールドが仕訳ジェネレータで使用

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

されます。リストされていないチャートフィールドには、新しく作成された仕訳に空白の値があります。

チャートフィールド要約 仕訳ジェネレータ テンプレート - 要約ページの選択したチャートフィールドで要約が選択されている場合に、要約されるチャートフィールドを指定します。選択されていないチャートフィールドには、新しく作成された仕訳に空白の値があります。

注: 仕訳ジェネレータではフィールドのマッピングを 1 回に制限しています。たとえば、[仕訳参照] と [仮勘定キー] は同じフィールド名にマッピングできません。別のフィールド名にマッピングする必要があります。

複数帳簿記帳順序

同期複数帳簿会計のフィールド名を指定します。

1 つの元帳グループ内で、別の元帳に配布された一取引の会計入力は*同期*会計入力と呼ばれます。これらの会計入力には同じチャートフィールド、外貨、外貨金額があります。複数帳簿をサポートする PeopleSoft アプリケーションでは、1 つの元帳グループ内にある全ての元帳に同期会計入力が作成されます。

[会計入力同期管理] オプションが仕訳ジェネレータ テンプレートで選択されている場合、仕訳ジェネレータで同期会計入力が認識され、仕訳編集プロセスで欠落している同期仕訳を作成するようにマーク付けされます。仕訳を作成する場合、仕訳ジェネレータでは [複数帳簿記帳順序] フィールドを使用して、1 つの取引の会計入力をグループ化する方法を決定します。

アプリケーション サブシステムで複数帳簿同期がサポートされている場合、取引元帳の同期入力を含む同期入力を仕訳ジェネレータ プロセスに送信します。仕訳ジェネレータでは [複数帳簿記帳順序] フィールドを使用して同じ取引の複数帳簿入力を決定します。

フィールド名 サードパーティ システムから新規会計入力を作成する場合、新規会計入力のグループ化に必要なソート順でフィールド名を入力できます。

警告 これらのフィールドにある値は配布されているままにし、変更しないでください。値は配布されている会計入力に対して設定されており、変更すると深刻なデータの問題を引き起こすことになります。

注: PeopleSoft 購買管理では複数帳簿入力はサポートされません。

関連リンク

仕訳ジェネレータに必須のフィールド名

仕訳ジェネレータ テンプレート - デフォルト ページ

仕訳ジェネレータ テンプレート - デフォルト ページ (JRNL_GEN_DEFAULTS) を使用して、仕訳ジェネレータのデフォルトを指定します。

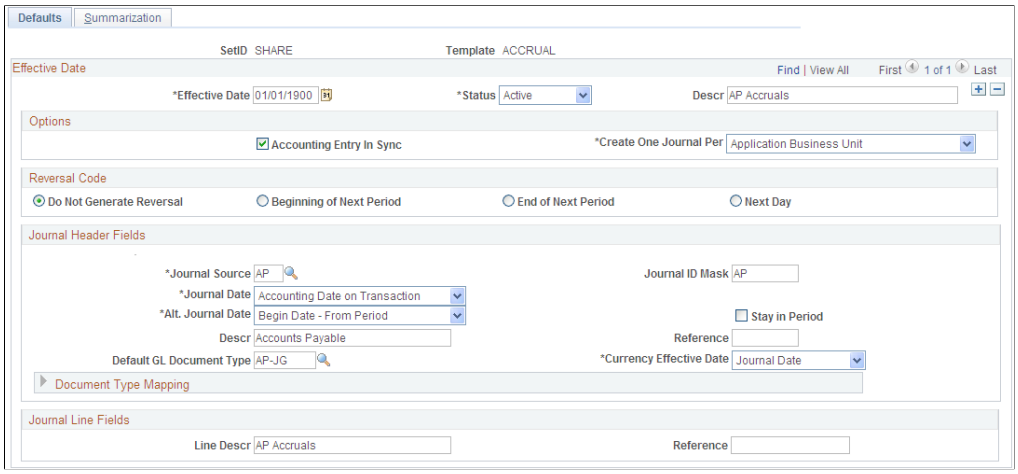
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[一般会計], [仕訳], [サブシステム仕訳], [仕訳ジェネレータ テンプレート], [デフォルト]

画像: 仕訳ジェネレータ テンプレート - デフォルト ページ

次の例では、仕訳ジェネレータ テンプレート - デフォルト ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



仕訳ジェネレータ テンプレートを使用して設定するデフォルト オプションと要約オプションでは、仕訳ジェネレータが会計入力を要約して仕訳を作成する方法が決定されます。通常、一般会計に配布する各アプリケーション システム ソースと、各取引の*タイプ*について仕訳ジェネレータ テンプレートを設定します。たとえば、資産管理の減価償却費に対してテンプレートを使用できます。PeopleSoft 以外のシステムの場合は、GENERIC 仕訳ジェネレータ テンプレートを使用するか、変更した仕訳ジェネレータ テンプレートを作成できます。

仕訳ジェネレータでは、同じ一般会計ビジネス ユニット、元帳グループ、台帳コード (BOOK_CODE フィールドが会計入力テーブルにあり、台帳コードが全インストール オプション ページでアクティブになっている)、仕訳テンプレート、仕訳日、一般会計ドキュメント タイプ、日中平均残高日付 (ADB_DATE フィールドが会計入力テーブルにある)、コミットメント コントロール金額タイプ (KK_AMOUNT_TYPE フィールドが会計入力テーブルにある) を共有する会計入力がまとめられます。外貨が異なる会計入力は、次の通貨貸借一致オプションによっては同じ仕訳にグループ化されない場合があります。

- ソース。
- ビジネス ユニット元帳グループ。
- 一般会計ビジネス ユニット。

オプション

複数帳簿機能をサポートする PeopleSoft アプリケーションで、このテンプレートの同期会計入力が作成された場合は、[会計入力同期管理] チェック ボックスをオンにします。複数帳簿をサポートする PeopleSoft アプリケーションでは、1 つの元帳グループ内にある大半の元帳に同期会計入力が作成されます。例外として、一部の製品には通貨換算元帳が含まれない場合があります。ご使用の製品でこの機能を使用できるかどうか判断するには、個々の製品ドキュメントを参照してください。[会計入力同期管理] チェック

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ボックスがオンになっている場合、仕訳ジェネレータで同期会計入力が認識され、同期仕訳が作成されます。仕訳ジェネレータで作成される仕訳は、次の条件によって異なります。

会計入力同期管理

[会計入力同期管理] が選択されている場合、次が実行されます。

- 仕訳ジェネレータで同期会計入力が認識され、同期仕訳が作成されます。

  仕訳ジェネレータ テンプレート - 要約ページで [明細保持] オプションを選択すると、会計入力定義ページで指定した複数帳簿会計入力記帳順序フィールドによって同期会計入力がグループ化されます。仕訳ジェネレータ テンプレート - 要約ページで要約オプション (チャートフィールド勘定科目) を選択すると、チャートフィールドと外貨で同期会計入力もグループ化されます。

- 仕訳ヘッダーの自動生成フラグが *[はい]* に設定されます。

  仕訳ジェネレータで会計入力の元帳グループにある全ての元帳に対して仕訳行を作成する場合は、仕訳編集プロセス (GL_JEDIT2) で新規仕訳行は作成されません。

  ただし、仕訳ジェネレータで元帳グループにある全ての元帳に対して仕訳行を作成しない場合は、仕訳編集プロセスで一致する仕訳行のない元帳に仕訳行が作成されます。

- 会計入力行の LEDGER_GROUP フィールドが空白の場合、一般会計ビジネス ユニットのデフォルト元帳グループが使用されます。

  会計入力行の [元帳] フィールドが空白の場合、元帳グループの主元帳が使用されます。

サブシステムで仕訳ジェネレータ用に同期会計入力を作成している場合は、[会計入力同期管理] チェック ボックスをオンにする必要があります。

[元帳同期管理] が選択されており、[会計入力同期管理] が選択解除されている場合、次のようになります。

- 会計入力テーブルの行は、主元帳または別の元帳から入力された値になります。

  仕訳ヘッダーの自動生成フラグが *[はい]* に設定されます。仕訳編集により元帳グループ内の残りの元帳に行が作成されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 会計入力行の元帳グループが空白の場合、一般会計ビジネス ユニットのデフォルト元帳グループが使用されます。

  会計入力行の元帳が空白の場合、元帳グループの主元帳が使用されます。

[元帳同期管理] チェック ボックスがオフになっており、[会計入力同期管理] フィールドも選択解除されている場合、次のようになります。

- 仕訳ジェネレータ プロセスで、同期*していない*仕訳として指定した元帳の仕訳行が作成されます。
- 仕訳ジェネレータ プロセスにより仕訳ヘッダーで [自動生成] フィールドが *[いいえ]* に設定され、新規仕訳行が作成されません。

[会計入力同期管理] チェック ボックスは RECPTACCRL 仕訳ジェネレータ テンプレート (PeopleSoft 購買管理) と一緒に使用しないでください。

仕訳作成基準

ソース会計入力を仕訳にグループ化する方法を制御します。値は次のとおりです。

アプリケーション ビジネス ユニット: 一般会計ビジネス ユニットごと、アプリケーション ビジネス ユニットごとに仕訳を 1 つ作成します。つまり、別のアプリケーション ビジネス ユニットのある会計入力行は、別の仕訳に振り分けられます。

一般会計ビジネス ユニット: 一般会計ビジネス ユニットごとに仕訳を 1 つ作成します。つまり、一般会計ビジネス ユニットに別の値がある会計行は、別の仕訳に振り分けられます。BUSINESS_UNIT_GL フィールドに同じ値があり、(買掛金管理または売掛金管理にある) BUSINESS_UNIT フィールドに別の値がある会計行は、一般会計ビジネス ユニットの 1 つの仕訳にまとまります。

たとえばこのテーブルに示すように、次の会計入力は US003 の同じビジネス ユニット仕訳に振り分けられます。

アプリケーション ビジネス ユニット	***伝票 ID***	***BU_GL***	***外貨金額***
US001	VCHR1200	US003	300
US003	VCHR1202	US003	-300

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

逆仕訳コード

逆仕訳入力を自動的に作成する場合の [逆仕訳コード] オプションを選択します。この入力が転記されたときに、逆仕訳オプションが有効になります。

逆仕訳を作成しない 仕訳ジェネレータは逆仕訳入力を作成しませんが、仕訳に逆仕訳コードのマークを付けます。後で別のプロセスで仕訳が転記された場合、システムにより逆仕訳入力が作成されます。

翌期首 次の会計期間の最初の営業日の日付で逆仕訳入力を作成します。一般会計定義 - 定義ページのビジネス ユニットに割り当てたビジネス カレンダーを使用して、最初の営業日を決定します。

翌期末 次の会計期間の最後の営業日の日付で逆仕訳入力を作成します。一般会計定義 - 定義ページのビジネス ユニットに割り当てたビジネス カレンダーを使用して、最後の営業日を決定します。

翌営業日 翌営業日の日付で逆仕訳入力を作成します。一般会計定義 - 定義ページのビジネス ユニットに割り当てたビジネス カレンダーを使用して、翌営業日を決定します。

仕訳ヘッダー フィールド

仕訳ソース 仕訳入力を担当する元のエンティティを特定して、各仕訳における外貨のグループ化方法も決定します。

仕訳 ID マスク 仕訳入力のソースまたは目的などの情報を指定する*一意の*仕訳 ID マスクを入力します。スペースは使用できません。英数字 10 文字の ID で PeopleSoft システムの仕訳を指定します。ここに入力する数字または文字に基づいて、システムが自動的に ID を作成します。たとえば、*AP* と入力すると、次に使用可能な仕訳 ID 番号に基づいて残りの 8 文字が付加されます。仕訳 ID マスクを指定しない場合は、デフォルトの *[次へ]* を受け入れることで、仕訳 ID をシステムで自動的に割り当てるようにすることもできます。

仕訳日 作成された仕訳の仕訳日と作成された仕訳の数を間接的に決定します。*[仕訳日]* オプションで、ビジネス カレンダーを使用する仕訳のヘッダーのソースと行の日付を選択します。

「ビジネス カレンダーの定義」を参照してください。

取引会計処理日: 仕訳日として会計入力の会計処理日を使用します。これを選択すると複数の仕訳が対象になります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

開始日 - 開始期間: オープン期間ページで設定した開始期間 (年) の最初の開始日を使用します。

開始日 - 終了期間: オープン期間ページで設定したオープン期間 (年) の開始日を使用します。

現在日: プロセスの実行時に現在のシステム日付を受け入れます。

終了日 - 開始期間: オープン期間ページで設定したオープン期間 (年) の終了日を使用します。

終了日 - 終了期間: オープン期間ページで設定した終了期間 (年) の最後のオープン日を使用します。

期間終了 – 会計処理日: 会計処理日に対応する期間終了日を使用します。これを選択すると複数の仕訳が対象になります。

処理日: 一般会計ビジネス ユニット定義 - 仕訳オプションページで指定した仕訳処理日オプションを参照します。このページで、ビジネス ユニットまたは現在の日付に定義した処理日を指定できます。

指定日: これを選択すると、[日付] フィールドが使用可能になり指定日を入力できます。

代替仕訳日 (代替仕訳日)

仕訳日オプションで決定された仕訳日がオープン会計期間の範囲内にない場合に、作成された仕訳の仕訳日を決定します。次の値の中から 1 つ選択します。

開始日 - 開始期間: オープン期間ページで設定した開始期間 (年) の最初の開始日を使用します。

開始日 - 終了期間: オープン期間ページで設定したオープン期間 (年) の開始日を使用します。

終了日 - 開始期間: オープン期間ページで設定したオープン期間 (年) の終了日を使用します。

終了日 - 終了期間: オープン期間ページで設定した終了期間 (年) の最後のオープン日を使用します。

主仕訳日を保持: この仕訳ジェネレータ テンプレートの仕訳日として指定する日付がシステムで使用されます。

期中の範囲内

前に説明した仕訳日オプションに従って、仕訳ジェネレータで仕訳日が取得されます。ただし、[期中の範囲内] チェック ボックスをオンにして取得した仕訳日が営業日でない場合は、仕訳日の翌営業日が仕訳ジェネレータで使用されます。翌営業日が

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

同じ期間内にない場合、仕訳日用に取得した仕訳日より 1 日前の日付が仕訳ジェネレータで使用されます。

[期中の範囲内] チェック ボックスをオフにした場合、会計期間に関係なく非営業日に当たる仕訳日が仕訳ジェネレータにより翌営業日に変更されます。

内容 (内容) (オプション) 仕訳に関する情報を指定します。仕訳における例外を説明するのに役立ちます。

参照 仕訳の取引のソースを追跡します。

デフォルト GL ドキュメント タイプ 仕訳ジェネレータで仕訳を作成する場合に、デフォルト GL ドキュメント タイプを使用して、仕訳ヘッダーのドキュメント タイプを割り当てます。デフォルト GL ドキュメント タイプを選択します。

通貨有効日 仕訳ヘッダーの [通貨有効日] が日中平均残高 (ADB) 日付になるように設定する場合は、テンプレートで*[日中平残日付]* を選択します。それ以外の場合、デフォルトは仕訳日になります。

日中平残日付が会計入力テーブルにない場合、または入力されていない場合は、仕訳ヘッダーの日中平残日付が仕訳日にデフォルト設定されます。このインスタンスで [通貨有効日] オプションを選択しても何も変わりません。これは、通貨有効日は常に仕訳日と同じであるためです。

ただし、日中平残日付が会計入力テーブルにあり、入力されている場合は、仕訳ジェネレータはこの日付が仕訳日と異なっていても会計行から日中平残日付を入力できます。

既存の他のグループの他に、仕訳ジェネレータにより日中平残日付ごとに会計行が別の仕訳にもグループ化されます。

ドキュメント タイプのマッピング

ドキュメント連番を使用する場合は、[ドキュメント タイプのマッピング] グリッドを展開して、アプリケーション ドキュメント タイプを一般会計ドキュメント タイプにマッピングします。ドキュメント タイプのマッピングは、仕訳が要約されていたり明細が保持されている場合でも、作成された全ての仕訳に適用されます。

アプリケーション ドキュメント タイプがこのマッピングに見つからない場合は、デフォルト GL ドキュメント タイプに割り当てられます。複数のアプリケーション ドキュメント タイプを 1 つの GL ドキュメント タイプにマッピングすることはできますが、複数の一般会計ドキュメントタイプを 1 つのアプリケーション ドキュメント タイプにマッピングすることはできません。GL ドキュメント タイプごとに仕訳は異なります。

ドキュメント タイプ アプリケーション ドキュメント タイプを選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: 要約を選択した場合、仕訳行のドキュメント タイプは空白です。明細保持を選択する場合、仕訳行のドキュメント タイプはアプリケーション ドキュメント タイプです。それ以外の場合、仕訳行のドキュメント タイプはデフォルト一般会計ドキュメント タイプです。

GL ドキュメント タイプ (一般会計ドキュメント タイプ)

アプリケーション ドキュメント タイプに対して選択した値に対応する GL ドキュメント タイプを選択します。

仕訳行フィールド

行内容 (行内容)

取引の詳細内容を説明します。仕訳ジェネレータはここで入力した値を使用して、次の条件を満たす場合に仕訳行の説明を入力します。

- 仕訳ジェネレータ テンプレート - 要約ページの [明細保持] オプションを選択し、会計入力定義ページの [仕訳内容] フィールドが空白の場合。
- 仕訳ジェネレータ テンプレート - 要約ページで勘定科目レベルで要約オプション、全チャートフィールド レベルで要約オプション、または [選択チャートフィールドで要約] オプションを選択した場合。

参照

各仕訳行からドキュメント、個人、請求書、日付、または取引のソースを追跡しやすくするその他の情報へ逆参照を行います。スペースは使用できません。

仕訳ジェネレータは次の条件を満たす場合にここで入力した値を使用します。

- 仕訳ジェネレータ テンプレート - 要約ページの [明細保持] オプションを選択し、会計入力定義ページの [仕訳参照] フィールドを空白のままにした場合。
- 仕訳ジェネレータ テンプレート - 要約ページで勘定科目レベルで要約オプション、全チャートフィールド レベルで要約オプション、または [選択チャートフィールドで要約] オプションを選択した場合。

関連リンク

ビジネス カレンダーの定義
Setting Up a System for Document SequencingPeopleSoft Global Options and Reports
元帳について

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

仕訳ジェネレータ テンプレート - 要約ページ

仕訳ジェネレータ テンプレート - 要約 ページ (JRNL_GEN_SUM) を使用して、仕訳の作成時に仕訳ジェネレータで会計入力を要約する方法を定義します。

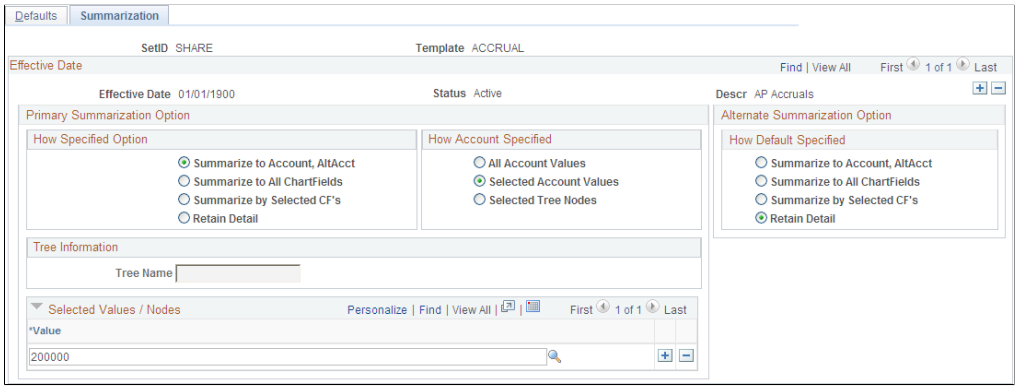
勘定科目またはチャートフィールド レベルで要約します。ジェネレータは各元帳グループについて個別の仕訳ヘッダーを作成します。同じ元帳グループに属している複数の元帳を 1 つの仕訳にまとめることができます。

ナビゲーション

[一般会計], [仕訳], [サブシステム仕訳], [仕訳ジェネレータ テンプレート], [要約]

画像: 仕訳ジェネレータ テンプレート - 要約ページ

次の例では、仕訳ジェネレータ テンプレート - 要約 ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



基本要約オプション

次のオプションで、仕訳ジェネレータによりアプリケーション システム ソースから一般会計へ勘定科目を配布する方法を指定します。指定したオプションの他に、仕訳ジェネレータではそのフィールドが会計入力テーブルにあり、要約オプションが [明細保持] でない場合は常に、入力イベントごとに要約を実行します。

オプション指定方法

選択して完全な明細を保持するか、次の値から要約レベルを選択します。

勘定/代替勘定科目で要約: 勘定科目と代替勘定科目レベルで会計入力を要約します。その他の全てのチャートフィールドは空白です。代替勘定科目が元帳グループ レベルで無効になっている場合は、勘定科目レベルでのみ要約されます。

全チャートフィールドで要約: 会計入力定義ページにリストされた全てのチャートフィールドのレベルまで、会計入力を要約します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

選択チャートフィールドで要約: 会計入力定義ページで [チャートフィールド要約] チェック ボックスがオンになっている会計入力を、チャートフィールドごとに要約します。

明細保持: 完全な明細で会計入力を配布します。これが選択されている場合、プロジェクト チャートフィールドを会計入力定義ページにマッピングでき、仕訳ジェネレータが作成した仕訳にプロジェクト チャートフィールドを入力します。

勘定科目指定方法

[オプション指定方法] グループ ボックスでの選択内容が、このオプションで選択した勘定科目に影響を与えます。勘定科目またはツリーを指定して、目的の勘定科目を指定できます。チャートフィールドの値が変更される可能性を考慮して、今後のメンテナンスの手間を低減するために、できるだけツリーを使用することをお勧めします。[勘定科目指定方法] オプションは次の値から選択します。

全ての勘定科目: 指定方法オプションに従って、全ての会計入力を配布します。

勘定科目指定: 指定方法オプションに従って、選択した勘定科目を配布します。[選択値/ノード] フィールドと [代替要約オプション] フィールドをアクティブ化します。

選択したツリー ノード: 指定方法オプションに従って、ツリー名、ツリー レベル、および選択したノードで定義した勘定科目を配布します。[選択値/ノード] と [代替要約オプション] フィールド、および [ツリー名] と [レベル] フィールドをアクティブ化します。要約に使用するツリー名とレベルを入力します。

ツリー名

要約に使用するツリー名を指定します。

選択値/ノード

勘定科目指定方法オプションに応じて、勘定科目またはツリー ノードを入力します。

代替要約オプション

[代替要約オプション] チェック ボックスは、[選択値/ノード] フィールドで選択しなかった勘定科目の [基本要約] オプションと同じオプションを提供します。[デフォルト指定方法] の値を選択します。3 つの方法から 1 つを使用して明細保持または要約を選択します。

デフォルト指定方法

次の値の中から 1 つ選択します。

勘定/代替勘定科目で要約: 代替勘定科目が元帳グループに対して選択されている場合に、勘定科目と代替勘定科目レベルで会計入力を要約します。その他の全てのチャートフィールドは空白です。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

全チャートフィールドで要約: 会計入力定義ページの [チャートフィールドのマッピング] フィールドに定義した完全チャートフィールド レベルで、会計入力を要約します。

選択チャートフィールドで要約: 会計入力定義ページで [チャートフィールド要約] チェック ボックスがオンになっている会計入力を、チャートフィールドごとに要約します。

明細保持: 完全な明細で会計入力を配布します。

仕訳入力の作成

仕訳入力を作成するには、仕訳作成リクエスト コンポーネント (JRNLGEN_REQUEST) を使用します。

仕訳入力の作成に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
仕訳作成リクエスト ページ	JRNL_GEN_REQUEST	仕訳ジェネレータの処理を開始します。

仕訳入力の作成について

仕訳ジェネレータ処理を行う仕訳を選択することが、会計入力処理に必要な最後のステップです。このステップでは、仕訳ジェネレータで会計入力テーブルから会計入力を抽出し、編集および転記用の実際の仕訳入力を作成します。

仕訳ジェネレータを実行するたびに、仕訳ジェネレータ リクエスト ページで定義したオプションに応じて、全てまたは 1 つのアプリケーション ビジネス ユニット、元帳グループ、ビジネス ユニットに設定されている仕訳ジェネレータ テンプレートに対して仕訳を作成します。

仕訳作成リクエスト コンポーネント (JRNLGEN_REQUEST) を使用すると、次を実行できます。

- 仕訳ジェネレータ処理の実行。
- 仕訳ジェネレータで作成した仕訳の変更。
- 仕訳ジェネレータで作成した仕訳の削除。

仕訳作成リクエスト ページ

仕訳作成リクエスト ページ (JRNL_GEN_REQUEST) を使用して、仕訳ジェネレータの処理を開始します。

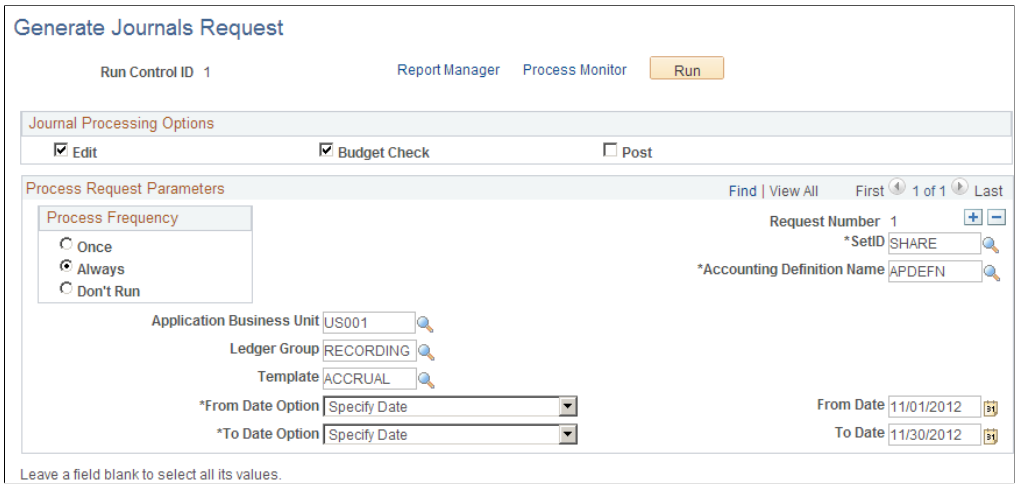
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[一般会計], [仕訳], [サブシステム仕訳], [仕訳作成], [仕訳作成リクエスト]

画像: 仕訳作成リクエスト ページ

次の例では、仕訳作成リクエスト ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



[仕訳処理オプション] グループ ボックス

編集 仕訳編集プロセスを実行するにはこのチェック ボックスをオンにします。前提条件は必要ありません。

予算チェック 予算チェック プロセスを実行するにはこのチェック ボックスをオンにします。この予算チェックを実行する前に、仕訳編集プロセスを実行する必要があります。

転記 転記プロセスを実行するにはこのチェック ボックスをオンにします。転記を実行する前に、編集および予算チェックを実行する必要があります。

注: これらのチェック ボックスを 1 つもオンにしない場合、追加プロセスは実行されません。

プロセス リクエスト パラメータ

リクエスト番号 プロセス リクエストを特定するため、実行ごとにこの一意の番号がシステムにより割り当てられます。複数のリクエストを作成できます。スクロール矢印を使用して、現在のユーザー ID とラン コントロール ID に既に設定されているリクエストを表示します。

セットID これはリクエストの会計入力定義の抽出に必要です。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

会計処理定義名

仕訳ヘッダーと行を作成する場合に、システムで使用する会計入力定義を指定します。

アプリケーション ビジネス ユニット

仕訳ジェネレータ:

- 選択したオプションに従って、リクエストされた会計入力を抽出します。
- 1 つまたは全てのアプリケーション ビジネス ユニットの仕訳入力を作成します。

アプリケーション ビジネス ユニットは、一般会計ビジネス ユニット以外にすることができます。

このフィールドのプロンプトは、会計処理定義名のシステム ソースによって異なります。たとえば、会計処理定義のシステム ソースが仕訳ジェネレータ - APの場合、仕訳ジェネレータでは買掛金管理 (AP) ユニット テーブルが使用されます。システム ソースが JGen-他の場合、プロンプト テーブルは使用できません。

元帳グループ

指定された一般会計元帳グループの仕訳入力が仕訳ジェネレータにより作成されます。

テンプレート

指定された仕訳ジェネレータ テンプレートの仕訳入力が仕訳ジェネレータで作成されます。プロンプト値のセットID はこのページで既に入力したセットID から取得されます。

開始日オプション

このリクエストで、仕訳ジェネレータが抽出する会計入力をより細かく定義するための値を選択します。仕訳ジェネレータでは、各会計入力に関連付けられている会計処理日とこれらの日付が比較されます。次の値から選択します。

指定日: 指定された日付を使用して、期間を特定します。

現在日: 仕訳ジェネレータを実行する日付を使用します。

開始日 - 開始期間: 元帳の開始期間の開始日を使用します。

開始日 - 終了期間: 元帳の終了期間の開始日を使用します。

開始日指定なし: 指定した開始日より前の元帳の開始日を全て使用します。つまり、[終了日] フィールドの日付までの全ての日付がシステムで処理されます。

処理日: ビジネス ユニットの仕訳処理日オプションで指定した日付です。ビジネス ユニットで定義した指定日にするか、現在日にできます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

開始日

[開始日オプション] フィールドで *[指定日]* が選択されている場合に開始日を入力します。

終了日オプション

このリクエストで、仕訳ジェネレータが抽出する会計入力をより細かく定義するための値を選択します。仕訳ジェネレータでは、各会計入力に関連付けられている会計処理日とこれらの日付が比較されます。次の値から選択します。

指定日: 指定された日付を使用して、期間を特定します。

現在日: 仕訳ジェネレータを実行する日付を使用します。

終了日 - 開始期間: 元帳の開始期間の終了日を使用します。

終了日 - 終了期間: 元帳の終了期間の終了日を使用します。

処理日: ビジネス ユニットの仕訳処理日オプションで指定した日付です。ビジネス ユニットで定義した指定日にするか、現在日にできます。

終了日

[終了日オプション] フィールドで *[指定日]* が選択されている場合に開始日を入力します。

注: 会計入力テーブルにあるアプリケーション ビジネス ユニットと一般会計ビジネス ユニットは異なる場合があります。ビジネス ユニットを 1 つ指定して、バッチ処理中にコントロール レコードのセットID を取得するようにする必要があります。コントロール レコードは元帳グループと元帳定義テーブル、カレンダー テーブル、仕訳ソース テーブル、および仕訳ジェネレータ テンプレート テーブルです。一般会計ビジネス ユニットはこれらのコントロール レコードのセットID を取得するビジネス ユニットです。ある特定のリクエストで全てまたは 1 つのビジネス ユニットを選択した場合、仕訳ジェネレータに処理対象の一般会計ビジネス ユニットが複数あるために、リクエストを定義した時点で関連付けられているセットID が特定できない場合があります。このため、[元帳グループ] フィールドと仕訳ジェネレータ テンプレートに表示されるプロンプト セットID は、バッチ プログラムが使用するセットID と一致しない場合があります。

仕訳ジェネレータで作成した仕訳の変更

サブシステムから来る仕訳の場合、特定のユーザーを有効にして仕訳ジェネレータ プロセスで作成する仕訳を変更できます。ユーザー基本設定の定義 - 一般会計ページでこのオプションを指定します。このオプションは仕訳ジェネレータ プロセスで作成された仕訳について、仕訳入力ページのチャートフィールドと金額を特定のユーザーが更新できるようにします。予算ステータスが仕訳に対して有効になっている場合でも、チャートフィールドは変更できます。そうでない場合は全てのフィールドを使用できず、ユーザーは仕訳の編集と転記のみが可能になります。

ただし、仕訳ジェネレータで作成した仕訳行のビジネス ユニット フィールドは使用することも変更もできません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

警告 仕訳ジェネレータで仕訳の変更を選択してからチャートフィールドの値を変更して仕訳を再編集すると、サブシステム データと一般会計データの間に矛盾が生じることになります。また、コミットメント コントロールをサポートするサブシステムに作成された仕訳の場合、チャートフィールドの値や金額が変更されても仕訳で予算チェックが再実行されません。
たとえば、サブシステムに入力したチャートフィールドが勘定科目 5011、資金 100、部門 ID 200 で、チャートフィールドを勘定科目 5011、資金 100、部門 ID 300 に変更した場合、サブシステムに作成された会計入力は元帳に転記された会計入力と異なります。取引が最初から部門 200 の予算に影響を与えている場合は、供給アプリケーションまたはサブシステムで予算チェックが実行されているため、変更後も部門 300 ではなく 200 に影響を与えます。
仕訳ジェネレータ プロセスは、次の条件で常に予算チェックを省略します。

- 仕訳がコミットメント コントロールをサポートするサブシステムにより作成されている場合。
- 会計入力定義ページで [GL でのコミットメント コントロール省略] チェック ボックスをオンにした場合。

  ユーザー基本設定の定義 - 一般会計ページで [仕訳ジェネレータから仕訳変更] を選択したかどうかに関係なく、システムでは変更された仕訳で作成された仕訳の予算チェックは再実行されません。

外部ソース (PeopleSoft 以外のアプリケーション) を含むコミットメント コントロールをサポートしないサブシステムの場合は、会計入力定義ページで [GL でのコミットメント コントロール省略] を選択できます。この場合、仕訳で作成された仕訳に一般会計で予算チェックを実行する必要があります。

関連リンク

ユーザー基本設定 - 一般会計ページ

仕訳ジェネレータで作成した仕訳の削除

仕訳ジェネレータ プロセスでは、GL_DISTRIB_STATUS フィールドの値が N の場合に会計入力テーブルから行を取得します。仕訳ジェネレータ プロセスが会計入力を一般会計仕訳に配布すると、この値が D に変わります。仕訳ジェネレータで作成した仕訳にエラーがある場合は、仕訳入力ページで仕訳を削除できます。削除すると、システムにより会計入力テーブルの GL_DISTRIB_STATUS フィールドの値が N に変更されます。次に、会計入力レベルでエラーを修正し、仕訳ジェネレータ プロセスを再実行して新しい仕訳を作成します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第21章

ユニット間およびユニット内会計とチャートフィールド継承の使用

PeopleSoft ユニット間およびユニット内機能について

PeopleSoft ユニット間およびユニット内機能には、製品全体のユニット間およびユニット内取引を管理する共通設定ページと共有処理が含まれています。ユニット間またはユニット内貸借一致会計入力を明示的に入力する必要なく、同じ元帳グループ、エンティティ、貸借一致チャートフィールド内のビジネス ユニットにまたがる取引を作成できます。ユニット間ユニット プロセッサでは、この機能を実装したときにユニット間とユニット内の貸借一致入力が自動的に作成されます。

ユニット間およびユニット内処理では、入力する必要のある最低数の会計行を使用し、該当するエンティティと勘定科目の両方について、必要な貸借一致行または入力を作成して自動的に取引全体を完了します。

ユニット間およびユニット内処理を効率よく使用するには、貸借対照表、経費へのエンティティ間直接入力を許可するか、組織内の関連する一定のエンティティ間レベルで勘定科目をクリアすることが許可されているような会計環境である必要があります。ユニット間およびユニット内機能と共に使用する必要な会計プロトコルを設定後、関連エンティティまたは貸借一致台帳のセット間で取引が発生した場合に必要なエンティティ間貸借一致入力をシステムで完了できるように、最小限の入力を行う必要があります。

*一部または最小*ユニット間およびユニット内入力は、貸借不一致またはエンティティ間にすることができ、さまざまな PeopleSoft 製品の多数の処理で作成および処理されます。

このトピックでは、次について説明します。

- 貸借一致チャートフィールド
- 関係会社チャートフィールド
- 貸借一致方式
- 基準エンティティ。
- 製品インターフェイスおよびシステム取引のカテゴリ分類
- 取引の組織および法人カテゴリ分類
- ユニット間 / ユニット内テンプレート
- ユニット間ペア

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- ユニット間およびユニット内仕訳行の要約
- ユニット間およびユニット内処理を使用する製品

貸借一致チャートフィールド

貸借一致チャートフィールドと、貸借一致勘定科目または台帳セットとの関係は、ユニット間およびユニット内処理とチャートフィールド継承の中心です。

エンティティを示すために指定可能なビジネス ユニットとチャートフィールドは、*貸借一致*と呼ばれ、特定のビジネス ユニットの値および選択したチャートフィールドの値の貸借が一致している勘定科目または台帳のセットを管理する目的で、借方金額と貸方金額を一致させる必要があるときに使用します。たとえば、ビジネス ユニット、部門、資金が貸借一致チャートフィールドの場合、それらのチャートフィールドのいずれかに値が含まれた取引は、借方金額と貸方金額を一致させる必要があります。

関係会社チャートフィールド

ユニット間またはユニット内の取引が、(ビジネス ユニット、資金、業務ユニットなど) 複数の関連エンティティの間で同じ勘定科目チャートフィールド値を使用して管理されている場合は、関係会社チャートフィールド値を使用できます。たとえば、組織内の各エンティティでは、共通のユニット間売掛金勘定科目として勘定科目 140000 を使用し、ユニット間買掛金勘定科目として 201000 を使用する場合があります。ただし、全てのエンティティに同じ勘定科目を使用する場合、売掛金または買掛金を共有するエンティティを迅速に識別するため、関係会社チャートフィールド値が会計行または仕訳行に割り当てられている必要があります。

関係会社チャートフィールドは、標準のスタンドアロン チャートフィールドとして使用*できません*。別の*関係会社*チャートフィールドと関連付けて使用する必要があります。これは、関係会社チャートフィールドの値には、*関連する*チャートフィールドの値を使用するためです。勘定科目や部門などのように、スタンドアロン チャートフィールドにあるような、関係会社の値を入力するための関係会社チャートフィールド ページが別にあるわけではありません。

たとえば、関係会社用のユニット間関連チャートフィールドとしてビジネス ユニットが必要になります。これにより、仕訳入力ページの [関係会社] フィールドのドロップ ダウン リスト ボックスで使用可能な値が提供されます。PeopleSoft では、資金および業務ユニット チャートフィールドのユニット内関係会社チャートフィールド機能も提供しています。

各エンティティを別々の勘定科目に割り当ててさまざまなユニット間またはユニット内の取引を特定できますが、そうすると多数のユニット間またはユニット内勘定科目を作成して管理する必要性が出てくることになる可能性があります。関係会社チャートフィールドを使用する利点は、管理する勘定科目をより少なくできるということです。

貸借一致方式

貸借一致方式は、*一部*入力または貸借不一致入力を完了するためのチャートフィールド値の取得方法で、次の方式で実行されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

借勘定および貸勘定貸借一致

借勘定および貸勘定貸借一致では、システムで追加のユニット間売掛金と買掛金仕訳行が作成され、一部の台帳にまたがるユニット間ユニット入力から全体の会計取引の貸借一致を実行します。

たとえば、エンティティ間入力を作成し、あるビジネス ユニットから別のビジネス ユニットへ資産を移動するとします。システムでは、ソースまたは基準ビジネス ユニットのユニット間売掛金入力を作成し、各ビジネス ユニットの台帳を貸借一致させるための受領または非基準ビジネス ユニットのユニット間買掛金入力を作成します。

ユニット間取引には、次の 3 つの借勘定および貸勘定貸借一致方式があります。

間接方式	借勘定および貸勘定チャートフィールドを使用して、取引の各ビジネス ユニットが、関係会社ビジネス ユニットのユニット間またはユニット内テンプレート定義から取得されます。
直接方式	借勘定および貸勘定チャートフィールドを使用して、取引の各ビジネス ユニットが、ビジネス ユニット固有のユニット間またはユニット内テンプレート定義から取得されます。
ペア方式	借勘定および貸勘定チャートフィールドを使用して、取引の各ビジネス ユニットが、取引に関与するビジネス ユニットのペアの定義から取得されます。ペアはユニット間ペア管理ページで定義されます。

相殺継承貸借一致

システム作成入力 (相殺入力) を含む取引の場合、システム作成入力は取引 (入力した配布行など) 内の他の入力からチャートフィールド値を継承するように定義でき、拡張された貸借一致取引を作成して、必要に応じて相殺を配布できます。

たとえば、2 つの異なる資金について、経費を記録する伝票を入力するとします。相殺継承を使用すると、相殺する入力が、2 つの資金の適切な買掛金勘定科目にシステムによって正しく配布されます。

編集のみ貸借一致

ユニット間およびユニット内機能を実装していない場合でも、ユニット間アクティビティ以外の理由で仕訳が貸借不一致になりません。仕訳編集プロセスでは、仕訳編集オプション ページの貸借一致仕訳に設定したルールを使用して、それらの仕訳を再利用するか、編集のみ貸借一致を実行して、仮計上勘定の入力に対して自動的に貸借一致を実行します。

編集のみ貸借一致は、端数処理またはエラーのため、取引が貸借不一致になった場合に主に適用されます。ユニット間およびユニット内処理には適用できません。

関連リンク

PeopleSoft チャートフィールド設定について
チャートフィールド値セットの定義と使用

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド継承の使用

基準エンティティ

次の情報では、基準エンティティとその目的を説明します。

ユニット間

基準ビジネス ユニットとは、通常、*ソース*,*送信*,*開始または請求*エンティティと呼ばれるものを指します。たとえば、ビジネス ユニット US001 で US002 と US003 の賃料を支払うと、US001 が基準ビジネス ユニットとして指定されます。

ユニット内

貸借一致チャートフィールドの基準値が似た機能を果たします。たとえば、ビジネス ユニット US001 で、資金 100 の現金を使用して資金 200 および 300 に起因する経費を支払う場合、資金 100 を基準に指定できます。

基準エンティティの目的

3 つ以上のエンティティを含む取引の場合、どのエンティティがユニット間およびユニット内の貸借一致入力の中心的な*ハブ*として機能するかを決定するために、基準指定が重要になります。基準指定は、プロセッサで作成される借勘定および貸勘定行が複数通貨の場合に、取引通貨にも影響を与えます。

「実行時に指定するサンプル パラメータの確認」を参照してください。

基準エンティティの指定

大半のサブシステム アプリケーションでは、取引の性質によって基準エンティティが決定されます。たとえば買掛金伝票の場合、基準エンティティが常にサプライヤ貸方負債を記録するエンティティになります。別のビジネス ユニットに記帳される配布行がある場合は、これらによりユニット間貸借一致入力の生成が開始されます。

一般会計の仕訳入力では、基準ビジネス ユニットは仕訳ヘッダーに入力されたユニットです。

明細元帳グループ – 貸借一致ページの [ユニット内貸借一致入力] チェック ボックスをオンにしない限り、ユニット間およびユニット内処理では、同じ仕訳に異なる資金の値が表示されていても、資金など貸借一致チャートフィールドの*ユニット間*貸借一致入力は作成されません。

基準ビジネス ユニットは、ユニット間取引にすぐに表示されますが、それを決定するのは基準資金であり、複数の資金を含む取引の場合に仕訳行をグループ化する方法には、追加ステップが必要になります。仕訳入力でどの資金の値を基準にするか指定し、仕訳行にグループ番号を割り当てて、貸借一致行の作成時にユニット間およびユニット内プロセッサで処理しやすくできます。

一般会計配賦の場合は、プール値が基準値として使用されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

製品インターフェイスおよびシステム取引のカテゴリ分類

PeopleSoft では、主に次を提供することを目的として、各製品について 1 つ以上のシステム取引を提供しています。

- 各製品またはアプリケーション、およびシステム作成ユニット間およびユニット内貸借一致行を必要とする取引の、ユニット間 / ユニット内セントラル プロセッサへのインターフェイス。
- 買掛金伝票または一般会計仕訳など、システム取引のタイプ別の、ユニット間およびユニット内買掛金と売掛金の区別。
- ユニット間請求の AP (買掛金) 伝票と AR (売掛金) アイテムを作成するかどうかなど、特定のシステム取引にのみ該当するオプションの定義。

システム取引では、アプリケーション取引に含まれるテーブルおよびフィールドに関する事前定義された情報を提供し、ユニット間 / ユニット内プロセッサにランタイム パラメータを提供します。

AP (買掛金) 伝票と AP (買掛金) 支払など、同じセントラル プロセッサに対する全ての技術的詳細が同じ場合でも、1 つの製品に複数のシステム取引コードがある場合があります。これにより、各システム取引を別のユーザー定義取引コード (ユニット間およびユニット内売掛金および買掛金入力のチャートフィールドの設定方法の鍵) に関連付けることができます。

取引コードは取引コード ページで定義されます。定義する各取引コードは、システム取引マッピング ページで 1 つ以上のシステム取引にマッピングできますが、一般会計の例外を除き、全ての製品について各システム取引で指定できる取引コードは 1 つのみです。一度マッピングすると、今後のカテゴリ分類の対象となる製品に使用可能な取引コードが、システム取引で決定されます。ユニット間およびユニット内会計が製品および取引全体で一致している場合、取引コードを 1 つ定義して全てのシステム取引にマッピングできます。

一般会計システム取引 *GLJ* (一般会計仕訳) でのみ、複数の取引コードのマッピングが可能であるため、ユニット間およびユニット内取引に追加のサブセット カテゴリ分類を作成できます。たとえば、次の取引コードを作成して一般会計システム取引に両方ともマッピングできます。

- ADVANCES (会社間仮払金)
- INTEREST (会社間仮払の利息)

これにより、別のカテゴリに属すこれらの仮払に関して、ユニット間アクティビティおよび会社間利息の別々のカテゴリで全ての仮払を管理することで、一般会計内のユニット間取引をより細かく区分およびカテゴリ分類できます。

注: 製品全体のビジネス ユニットを設定する場合、ユニット間プロセッサ機能を使用するために、同じ元帳グループに全てのビジネス ユニットを含める必要があります。

取引の組織および法人カテゴリ分類

PeopleSoft では、ユニット間カテゴリにあるエンティティ間とエンティティ内の取引を区別する機能が提供されており、必要な会計処理を適用できます。ただし、別の法人がある場合であっても、ユニット間取引

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

内の全てのビジネス ユニットで、ユニット間入力を作成するために、同じ元帳グループ名を共有する必要があります。

ビジネス ユニット間およびビジネス ユニット内の取引を定義する条件は、次のとおりです。

法人間 各関連ビジネス ユニットが別の法人を示す場合に、2 つ以上の一般会計ビジネス ユニットを含む取引。

法人内 全てのビジネス ユニットが同じ法人の一部である場合に、2 つ以上の一般会計ビジネス ユニットを含む取引。

ユニット間 同じ元帳グループに 2 つ以上の一般会計ビジネス ユニットを含む全ての取引。ビジネス ユニットの定義方法および法人階層でのマッピング方法に応じて、これらは法人間または法人内にできます。

ユニット内 資金や部門など、下位レベルの貸借一致チャートフィールドに 1 つ以上の値を含む、1 つの一般会計ビジネス ユニット内の取引。ユニット間の一般的な説明は、ビジネス ユニット内で貸借一致を必要とするチャートフィールドによって、業務間ユニット、部門間または資金間など、より限定された条件に置き換えることができます。

ユニット内アクティビティの場合、ユニット内テンプレート ページで使用可能な会計入力タイプは、ユニット内売掛金とユニット内買掛金です。その他の会計入力タイプは、特定のシステム取引にマッピングされた取引コードに対してのみ使用可能です。これには請求書システム取引のユニット内費用とユニット内収益、および原価管理ユニット間移動システム取引のユニット内未着が含まれます。

ユニット間アクティビティの場合、ユニット間テンプレート ページで使用可能な会計入力タイプは、インストールで法人オプションを使用するように選択したかどうかによって異なります。次のテーブルに、複数のビジネス ユニット間の組織と法人の関係において可能性のある例を示します。

ビジネス ユニット	*法人ユニットに所属*
USLE1	USLE1
USLE2	USLE2
US001	US001
US002	USLE1
US003	USLE1
US004	US001
US005	US001
US006	USLE2

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

この例では、USLE1 および USLE2 がビジネス ユニットのいくつかが属する 2 つの法人を表します。US004 と US005 は US001 法人に属します。

インストール オプション - 基本設定ページで [ユニット間取引に法人を使用] を選択する場合、選択した次の組合せは、関与するビジネス ユニットのさまざまなユニット間およびユニット内取引に適用可能な会計入力タイプを表します。

対象間取引	*法人を使用する適用可能な会計入力タイプ*
USLE1 と US003	法人内買掛金および法人内売掛金
US004 と US005	法人内買掛金および法人内売掛金
US001 と USLE2	法人間買掛金および法人間売掛金
US006 と US003	法人間買掛金および法人間売掛金

[ユニット間取引に法人を使用] オプションを選択*しない*場合、選択した次の組合せは、関与するビジネス ユニットのさまざまなユニット間およびユニット内取引に適用可能な会計入力タイプを表します。

対象間取引	*法人を使用しない適用可能な会計入力タイプ*
USLE1 と US003	ユニット間買掛金および法人間売掛金
US004 と US005	ユニット間買掛金および法人間売掛金
US001 と USLE2	ユニット間買掛金および法人間売掛金
US006 と US003	ユニット間買掛金および法人間売掛金

ユニット間およびユニット内テンプレート

*ユニット間*チャートフィールドは、直接または間接のユニット間貸借一致方法を使用する場合に、ユニット間テンプレートによって決定されます。

ユニット内チャートフィールドは、常にユニット内テンプレートによって決定されます。

注: ユニット間貸借一致方法は、ユニット*内*取引には適用されません。

一般会計定義コンポーネントのビジネス ユニットについて、適切なユニット間およびユニット内テンプレートを指定します。

ユニット間貸借一致方法が直接の場合、あるビジネス ユニットに対する貸借一致入力のチャートフィールドは、固有のセットID およびユニット間テンプレート コードを使用して取得されます。

ユニット間貸借一致方法が間接の場合、あるビジネス ユニットに対する貸借一致入力のチャートフィールドは、固有のセットID を使用しますが、関係会社ビジネス ユニットのテンプレートを使用して取得されます。ビジネス ユニット定義への入力は、管理されているビジネス ユニットのセットID に対してテンプレー

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

トが定義されていることが確認できるのみであるため、各関連ビジネス ユニットにテンプレートが定義されているかを確認する必要があります。

注: ペアのユニット間貸借一致方法を使用する場合は、チャートフィールドの値はテンプレートで決定されるのではなく、ユニット間ペア ページに入力する値によって決定されます。

ユニット間およびユニット内テンプレートを使用し、チャートフィールドの値に入力して一部ユニット間およびユニット内入力を完了させる対象の会計入力タイプに、取引コードを関連付けます。

ビジネス ユニット全体で別のチャートフィールドの値を使用するには、ユニット間およびユニット内テンプレート テーブルをセットID によってキーに設定します。テンプレートに入力したセットID がセット コントロール値として使用され、テンプレートに入力するチャートフィールドの検証に使用するセットID が決定されます。

取引を処理する場合、入力の書込み先となる一般会計ビジネス ユニットがセット コントロール値として使用され、適切なユニット間またはユニット内テンプレートにアクセスするために使用するセットID が決定されます。

ビジネス ユニットで全てのチャートフィールドとその明細元帳定義で同じセットID も共有する場合は、同じユニット間およびユニット内のセットID のみを共有する必要があります。

たとえば、法人が要因でない場合に、ビジネス ユニット US001 からビジネス ユニット LE001 までの取引について、売掛金会計入力チャートフィールド値のソースを考慮します。

貸借一致方式	*セットID*	*テンプレート*
直接	LE001 移動先ユニットのユニット間セットID	LE001 移動先ユニットのビジネス ユニット定義のユニット間テンプレート
間接	LE001 移動先ユニットのユニット間セットID	US001 移動元ユニットのビジネス ユニット定義のユニット間テンプレート

注: ユニット間テンプレートの取得に使用するセットID は、常に会計入力の書込み先となるビジネス ユニットのセットID です。直接方式では入力の書込み先となるビジネス ユニットからテンプレートが取得されますが、間接方式では関係会社ビジネス ユニットからテンプレートが取得されるため、テンプレート ソースのみが異なります。

ユニット間ペア

ペア方式を使用する場合は、ユニット間取引に使用するチャートフィールドとその他のオプションを、ユニット間ペア ページで定義する必要があります。直接または間接方式はペアに適用されません。

ユニット間ペア定義は開始ビジネス ユニット、終了ビジネス ユニット、および取引コードからキーが設定されます。これらの組合せのそれぞれについて、ユニット間売掛金とユニット間買掛金チャートフィールドを指定する場合があります。任意の指定ビジネス ユニットのペアは上記のどちらかにしかならないため、別の法人間および法人内定義は必要ありません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

全てのチャートフィールド検証は、ビジネス ユニットに関連付けられているセットID に基づいています。チャートフィールド プロンプトと検証のセット コントロール値として使用するビジネス ユニットは、会計入力タイプによって異なります。ユニット間ペア データを管理する場合、次のテーブルを参照し、どの入力タイプがどのビジネス ユニットに属しているかを判断します。

開始ビジネス ユニット	*終了ビジネス ユニット*
売掛金	買掛金
収益 (請求書の場合)	経費 (請求書の場合)
未達 (ソースが所有権ユニットの場合のユニット間移動)	未達 (移動先が所有権ユニットの場合のユニット間移動)
商品原価 (ユニット間移動の場合)	未払金 (ユニット間移動の場合) 顧客出荷 (ユニット間移動の場合)

関連リンク

ユニット間ペアのマス メンテナンスの使用

ユニット間およびユニット内仕訳行の要約

ユニット間およびユニット内処理によって作成された仕訳行数を減らす場合、および別のユニット間またはユニット内貸借一致が不要であると判断した場合、インストール オプションの基本設定ページで要約を使用できます。ユニット間またはユニット内仕訳行を要約する場合は、さらに勘定科目、資金、または業務ユニットの関係会社を設定しないか、選択解除する必要があります。

仕訳行の金額以外のフィールドを正常に要約するには、全て一致させる必要があります。関係会社は使用しないでください。使用すると仕訳行が一致しなくなり、システムで要約されません。この要件により、一部の元帳グループで関係会社を指定して要約を選択的に使用することができますが、元帳グループ以外では使用できません。

ユニット間およびユニット内要約を一緒に使用でき、ユニット間とユニット内仕訳行は集約されません。ビジネス ユニットの関係会社を指定すると、資金または業務ユニットではなくビジネス ユニットごとに要約できます。要約はインストール時に選択することも、後日選択することもできます。後日選択した場合は、追加の仕訳行や不必要な仕訳行があるという結果になる場合があります。

注: Sybase データベースを使用している場合、GROUP BY 句の列を最大 31 列にする制限があります。このため、同じチャートフィールドの組合せを共有している場合でも、システム作成行は 1 つの仕訳行にグループ化または要約されるのではなく、別の詳細行が作成されます。

複数帳簿の注意点

連番を複数元帳元帳グループのユニット間処理で作成した行に割り当てる場合、番号にギャップが発生するのは正常です。これは、行に対して計算された連番はその行より前にある行番号を元にしていますが、主元帳行に対応する補助元帳行にも同じ連番を割り振るためです。たとえば、3 つの元帳を含む複数

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

帳簿の元帳グループに 2 つのユニット間貸借一致行が作成されている場合、次のように番号が付けられます (最初の連番を 101 と想定します)。

元帳グループ	*元帳*	*連番フィールド*
LEDGRP1	LED1	101
LEDGRP1	LED2	101
LEDGRP1	LED3	101
LEDGRP1	LED1	104
LEDGRP1	LED2	104
LEDGRP1	LED3	104

最初の 3 行は全て同じ取引行を示すため、連番は同じ (101) です。次の 3 行は前に 3 行あるため (101 + 3 = 104)、104 で始まります。

複数元帳元帳グループを [元帳同期管理] チェック ボックスがオンになって*いない*ユニット間取引で使用する場合、取引内の各行 (買掛金行と売掛金行など) で同じ元帳名を指定する必要があります。元帳は別のセット コントロール値で定義される場合がありますが、元帳名は取引内の行で一致している必要があります。

ユニット間およびユニット内処理を使用する製品

ユニット間およびユニット内プロセッサは、一般会計仕訳編集プロセスおよび会計入力を作成し、取引を一般会計 (PeopleSoft 買掛金管理の伝票転記および売掛金更新など) に入力する、その他の製品の各プロセスから自動的にコールされます。ユニット間 / ユニット内処理およびチャートフィールド継承を実装すると、次の PeopleSoft 製品に影響を与えます。

- 一般会計
- 買掛金管理
- 売掛金管理 - 売上調整管理
- 資産管理
- 在庫管理 - 原価管理
- 請求管理
- プロジェクト管理
- 経費管理
- 財務管理 - 資金管理
- 契約管理

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- Grants

特定の製品のユニット間とユニット内処理およびチャートフィールド継承の設定や使用に関する具体的な情報は、個々の PeopleSoft 製品を参照してください。

ユニット間およびユニット内処理の設定

ユニット間およびユニット内処理を設定するには、次のコンポーネントを使用します。

- インストール オプション (INSTALLATION)
- 明細元帳グループ (DETAIL_LEDGER_GROU)
- ユニット間テンプレート (IU_INTER_TMPLT)
- ユニット内テンプレート (IU_INTRA_TMPLT)
- 一般会計定義 (BUS_UNIT_TBL_GL)
- ユニット間ペア管理 (IU_INTER_PR_BASIC)
- ユニット間取引コード (IU_TRAN_CD)
- ユニット間取引マッピング (IU_TRAN_MAP)

ユニット間およびユニット内処理の設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
インストール オプション - 基本設定ページ	INSTALLATION_FS1	システムのユニット間、ユニット内方式およびユニット間要約オプションの法人に使用する、インストール オプションを選択します。 「ユニット間インストール オプション基本設定の設定」を参照してください。 詳細は、「インストール オプション - 基本設定ページ」を参照してください。
元帳グループ - 貸借一致ページ	LEDGER_GROUP 3	ユニット内貸借一致入力を使用する場合に選択し、元帳グループの貸借一致チャートフィールドと関係会社を選択します。
取引コード ページ	IU_TRAN_CD	ユニット間およびユニット内貸借一致のカテゴリ分類を可能にする取引コードを定義します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
システム取引マップ ページ	IU_TRAN_MAP	取引コードをシステム取引にマップし、デフォルト取引コードを定義して、取引オプション ページにアクセスします。
取引オプション ページ	IU_TRAN_OPT1	請求およびユニット間/ユニット内移動の [ユニット間] オプションと [ユニット内] オプションを入力します。
ユニット間テンプレート ページ	IU_INTER_TMPLT	直接または間接のユニット間貸借一致方法を使用する場合に、ユニット間貸借一致入力の取引コード別チャートフィールドを入力します。
ユニット間テンプレート - 挿入する入力の選択ページ	IU_INTER_ENTRY	ページに挿入する入力タイプを選択します。全ての適用会計入力の選択ボタンの代替方法です。
ユニット内テンプレート ページ	IU_INTRA_TMPLT	ユニット内貸借一致入力の取引コード別チャートフィールドを入力します。
ユニット内テンプレート - 挿入する入力の選択ページ	IU_INTRA_ENTRY	ページに挿入する入力タイプを選択します。全ての適用会計入力の選択ボタンの代替方法です。
ユニット間ペア ページ	IU_INTER_PR_BASIC	ユニット間貸借一致方法がペアの場合に、ユニット間貸借一致入力の取引コード別チャートフィールドを定義します。ユニット間請求取引およびユニット間移動取引のデフォルト オプションを上書きします。
ユニット間ペア - 挿入する入力の選択ページ	IU_PAIR_ENTRY	ページに挿入する入力タイプを選択します。全ての適用会計入力の選択ボタンの代替方法です。
一般会計定義 - ユニット間/ユニット内ページ	BUS_UNIT_TBL_GL6	ユニット間およびユニット内テンプレートを選択します。ビジネス ユニットが属する法人を入力します。ユニット間請求取引およびユニット間移動取引のオプションを指定します。

ユニット間インストール オプション基本設定の設定

インストール オプション - 基本設定ページ (INSTALLATION_FS1) を使用して、システムのユニット間、ユニット内方式およびユニット間要約オプションの法人に使用する、インストール オプションを選択します。

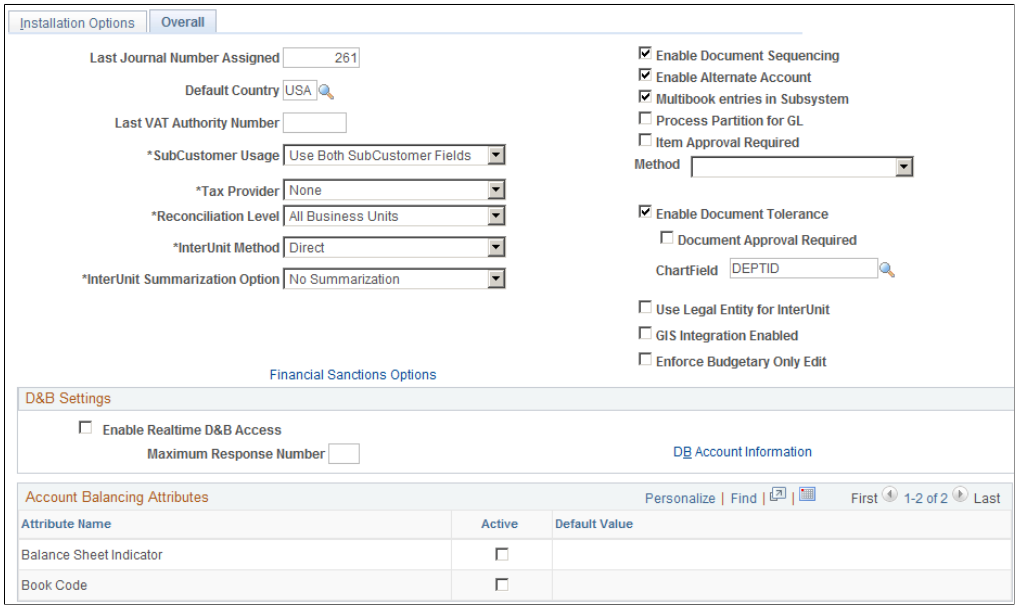
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定] , [インストール] , [インストール オプション], [一般オプション], [基本設定]

画像: インストール オプション - 基本設定ページ

次の例では、インストール オプション - 基本設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



ユニット間貸借一致方法 システム全体の設定として、3 つの借勘定および貸勘定貸借一致方式の中から 1 つ選択します。値は、*直接*、*間接*または*ペア*です。

ユニット間要約オプション

- *要約:* 関係会社チャートフィールドを使用しない場合、[要約] オプションは処理にのみ影響を与えます。このオプションを選択すると、[金額] フィールドと [行連番] フィールドが一致する場合を除いて、システムが作成したユニット間/ユニット内相殺行がまとめられます。たとえば、ビジネス ユニット A がビジネス ユニット B と C の経費を支払う場合にユニット間要約を使用しない場合、2 つのユニット間貸借一致行がビジネス ユニット A (1 つは B 用でもう 1 つは C 用) に作成されます。ただし、ユニット間要約を使用すると、ユニット間処理で 2 つではなくビジネス ユニット A のユニット間売掛金仕訳行が 1 つのみ作成されます。ビジネス ユニット A、B、および C の間で追加のアクティビティがある場合、ユニット間プロセッサはビジネス ユニット間の貸借一致全体を管理しながら、アクティビティを要約して最小数のユニット間仕訳行を作成します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *要約なし:* 関係会社チャートフィールドを使用しているときに、システムで作成されたユニット間/ユニット内相殺行を要約しない場合は選択します。

ユニット間取引に法人を使用

含まれる 2 つの一般会計ビジネス ユニットが同じまたは別の法人の一部であるかによって、ユニット間貸借一致入力に別のチャートフィールドを使用する場合は、チェック ボックスをオンにします。ユニット間貸借一致方法がペアの場合は、このフィールドを選択しないでください。

元帳グループ - 貸借一致ページ

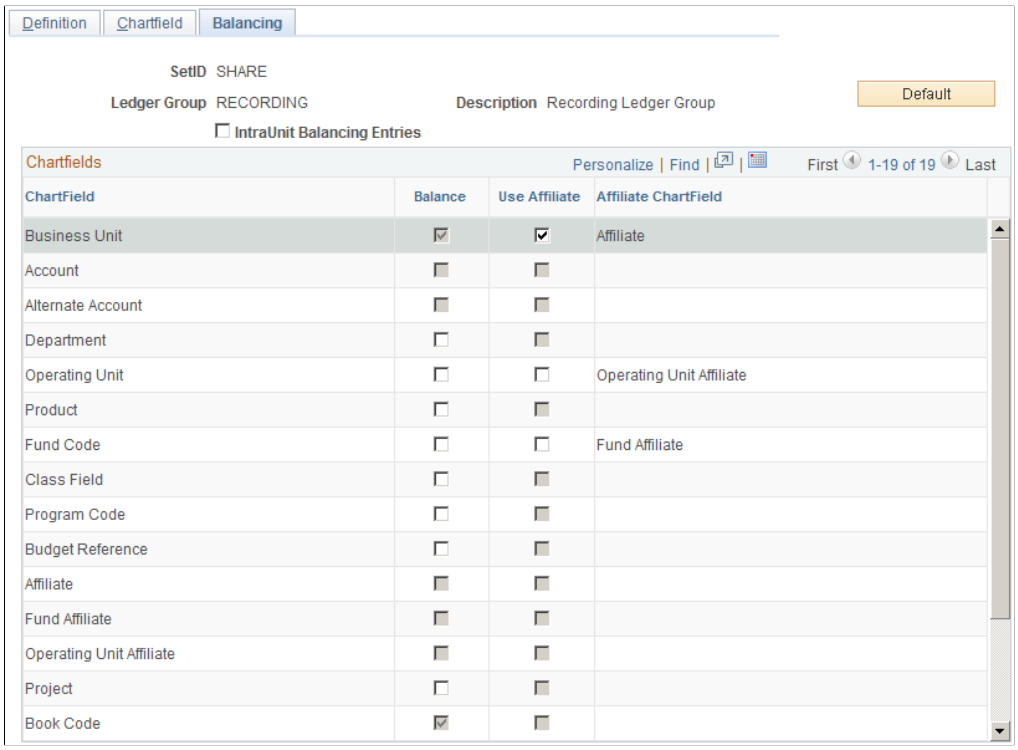
元帳グループ - 貸借一致ページ (LEDGER_GROUP 3) を使用して、ユニット内貸借一致入力を使用する選択をし、元帳グループの貸借一致チャートフィールドと関係会社を選択します。

ナビゲーション

[一般会計], [元帳], [元帳グループ], [貸借一致]

画像: 元帳グループ - 貸借一致ページ

次の例では、元帳グループ - 貸借一致ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



ユニット内貸借一致入力

選択すると、システムにより貸借一致チャートフィールドに複数の値を含む取引に対して、ユニット内貸借一致が自動的に作成されます。貸借が一致しているチャートフィールドが少なくとも 1

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

つある場合以外は、このオプションを選択できません。つまり、使用可能な [貸借一致] チェック ボックスを 1 つオンにする必要があります。このチェック ボックスをオンにしない場合、または仕訳が他の理由で貸借不一致の場合は、仕訳編集プロセスで仕訳編集オプション ページの貸借一致仕訳に設定したルールを使用して、仮計上勘定を再利用するか、使用します。

貸借一致

貸借一致明細元帳では、ビジネス ユニット、基本通貨コード、台帳コードおよび調整タイプの借方金額と貸方金額が一致している必要があります。この元帳グループに追加の貸借一致チャートフィールドを選択するには、別のチャートフィールドに使用可能なチェック ボックスをオンにします。勘定科目および代替勘定科目など一部のチャートフィールドは、貸借一致チャートフィールドにできず、チェック ボックスを使用できません。

標準または換算元帳グループのこのチェック ボックスの値を変更する場合は、新しい設定が既存のチャートフィールド継承グループに対して有効かどうかがシステムで検証されます。

「貸借一致チャートフィールドに特別な検証を必要とするチャートフィールド継承グループの処理」を参照してください。

貸借一致チャートフィールドの場合、システムではユニット ページの元帳に定義した元帳グループと、ビジネス ユニットが元帳グループに使用するセットID を使用するビジネス ユニットがチェックされます。元帳グループに関連付けられているビジネス ユニットに、空白の貸借一致チャートフィールドの継承値がある場合は、警告が表示されます。

関係会社で使用

このフィールドは、チャートフィールドが標準または詳細チャートフィールド設定ページに関連付けられている関係会社がある場合にのみ、使用可能です。

関係会社は、どのエンティティがユニット間またはユニット内取引に含まれるかがチャートフィールド勘定科目の値から判断できない場合に使用されます。

たとえば、ビジネス ユニット US001 で勘定科目チャートフィールド値 114000 を使用して、他の全ての関連ビジネス ユニットからユニット間売掛金を指定するとします。

US001 で関係会社を使用するように選択し、US002 の 200.00 USD と US003 の 300.00 USD の賃料を支払う場合、ユニット間およびユニット内プロセッサで US001 の台帳に 2 つのユニット間売掛金が作成されます。勘定科目 114000 に関係会社の値 US002 のラベルが付いた 200.00 USD の借方が作成され、

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

また勘定科目 114000 に関係会社の値 US003 で 300.00 USD の借方が作成されます。

PeopleSoft 製品と共に出荷される標準チャートフィールドには、2 つのユニット内関係会社チャートフィールドが含まれています。1 つは資金チャートフィールドに関連付けられており、もう 1 つは業務ユニット チャートフィールドに関連付けられています。その他ユニット内関係会社チャートフィールドを追加し、標準または詳細チャートフィールド設定ページを使用して、標準チャートフィールドを他の関連するチャートフィールドに関連付けることができます。

関係会社チャートフィールド

標準または詳細チャートフィールド設定ページから表示され、取得されます。

関連リンク

貸借一致チャートフィールド
標準チャートフィールド設定ページ
標準のチャートフィールド設定の使用

取引コード ページ

取引コード ページ (IU_TRAN_CD) を使用して、ユニット間およびユニット内貸借一致のカテゴリ分類を可能にする取引コードを定義します。

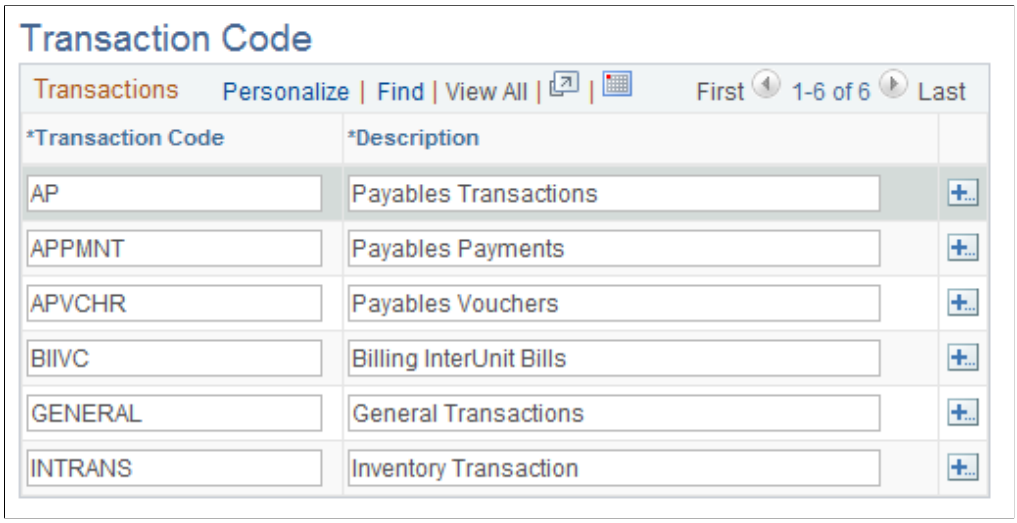
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定] , [共通定義], [ユニット間/ユニット内], [取引コード]

画像: 取引コード ページ

次の例では、取引コード ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



注: PeopleSoft では、取引コードとシステム取引マッピングを、システム データとしてではなくサンプル データとして出荷しています。必要なユニット間およびユニット内貸借一致を区別するレベルに応じて、取引コードを定義する必要があります。



行に新規複数行を追加ボタンをクリックして、選択した行の下に新しい取引コードの追加行を追加します。各システム取引に 1 つ取引コードを作成したり、一度に必要なだけ作成して、多様なユニット間およびユニット内会計処理を反映させることができます。取引コードは、1 つ以上のシステム取引に関連付けることができます。ここまで詳細なレベルに取引を区分しない場合は、取引コードを 1 つ使用して、全てのシステム取引にマッピングできます。

システム取引マップ ページ

システム取引マップ ページ (IU_TRAN_MAP) を使用して、取引コードをシステム取引にマップし、デフォルト取引コードを定義して、取引オプション ページにアクセスします。

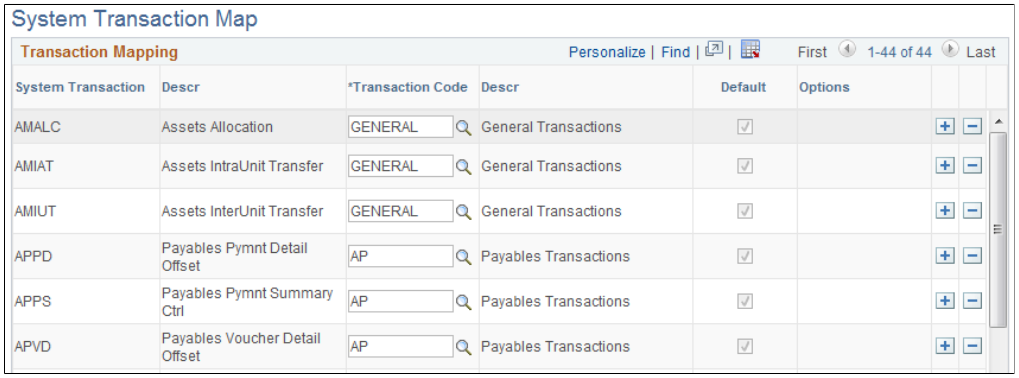
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定] , [共通定義], [ユニット間/ユニット内], [システム取引マップ]

画像: システム取引マップ ページ

次の例では、システム取引マップ ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



インストールした PeopleSoft 製品に応じて、各システム取引に対してこのページには 1 行あります。たとえばサード パーティ取引について新しいシステム取引を作成した場合は、ここにも表示されます。行を挿入すると ([システム取引] フィールドは入力可能)、複数の取引コード インスタンスが使用可能なシステム取引のみを選択できます。複数の取引コードを使用できる唯一のシステム取引は、一般会計仕訳です。デフォルトでない行のみを削除できます。これも、一般会計仕訳の場合にのみ適用されます。

注: PeopleSoft では、取引コードとシステム取引マッピングを、システム データとしてではなくサンプル データとして出荷しています。必要なユニット間およびユニット内貸借一致を区別するレベルに応じて、取引コードを定義する必要があります。

システム取引

インストールした PeopleSoft 製品について、このページに全てのシステム取引がリストされます。新しい行を追加すると、このフィールドが入力可能になりますが、システム取引ページの複数インスタンスの許可チェック ボックスがオンになっているシステム取引のみを選択できます (つまり*GL 仕訳*のみ)。

取引コード

初めてこのページを管理する場合は、ページにロードされている各システム取引にデフォルト取引コードを入力する必要があります。追加の取引コードは、システム取引ページで*複数インスタンスの許可*が選択されている場合にのみ使用できます。*複数インスタンス*は、一般会計システム取引に対してのみ使用できます。ただし、複数のシステム取引に対して同じ取引コードを使用できます。

デフォルト

デフォルト取引コードは、このページに表示される各システム取引に指定する必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

	デフォルト オプションが選択されている場合は、行が削除されない場合があります。
オプション	このリンクをクリックして、ユニット間請求取引およびユニット間移動システム取引の追加設定を指定します。

取引オプション ページ

取引オプション ページ (IU_TRAN_OPT1) を使用して、請求およびユニット間/ユニット内移動の [ユニット間] オプションと [ユニット内] オプションを入力します。

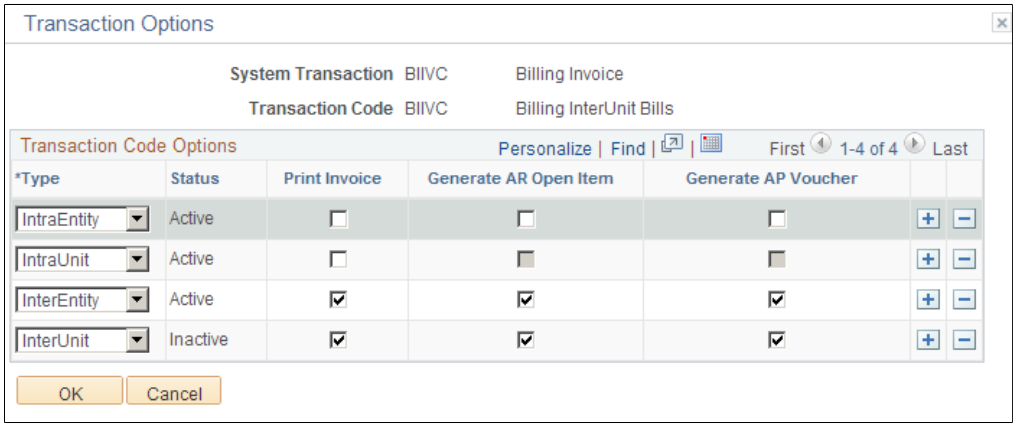
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定] , [共通定義], [ユニット間/ユニット内], [システム取引マップ], [取引オプション]。[オプション] リンクをクリックします。

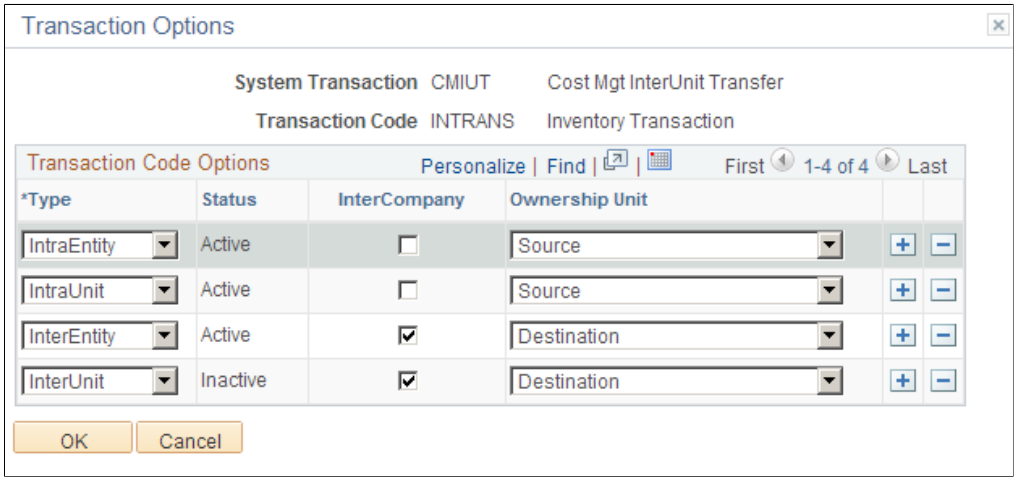
画像: ユニット間請求の取引オプション

次の例では、ユニット間請求の [取引] オプションのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



画像: ユニット間移動の取引オプション

次の例では、ユニット間移動の [取引] オプションのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



取引オプション ページにアクセスするための [オプション] リンクは、請求書およびユニット間移動システム取引のシステム取引マッピング ページにのみあります。使用可能な会計入力タイプに、別の必要書類要件を定義できます。法人の識別がインストール レベルで行われる場合、*[法人間]*、*[法人内]*、および *[ユニット内]* が表示されますが、法人が使用されていない場合は、*[ユニット間]* および*[ユニット内]*が表示されます。

ユニット間貸借一致方法が直接または間接で、チャートフィールドの値がユニット間またはユニット内テンプレートから取得される場合は、これらのオプションにより、必要書類の作成が管理されます。ペア方式の

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

場合、新しいユニット間ペアが定義されている場合は、これらのオプションでデフォルトが提供されることはあまりありません。特定のビジネス ユニットのペアについて、これらのいずれも上書きできます。

請求書システム取引にマッピングされている取引コードの場合は、請求書の印刷、売掛金オープン アイテムの作成、AP (買掛金) 伝票の作成、またはこれら 3 つの任意の組合せを選択できます。[売掛金] オプションは、売掛金管理がインストールされている場合にのみ使用できます。[買掛金] オプションは、売掛金管理と買掛金管理の両方がインストールされている場合にのみ使用できます。[売掛金] オプションおよび [買掛金] オプションの両方とも、ユニット内取引には使用できません。

原価管理 (管理) ユニット間移動システム取引にマッピングされている取引コードの場合は、会社間請求を作成し、未着商品の所有者ユニットを定義するオプションがあります。会社間オプションは請求管理がインストールされている場合にのみ使用でき、選択されている場合は、所有者ユニットを移動先ユニットにする必要があります。

原価管理ユニット間移動の追加取引コードの作成

システムでは新しい取引コードを作成できますが、原価管理ユニット間移動には、適切な会計入力を作成するために必要な追加入力タイプがあるため、別の処理が行われます。

新しい在庫取引コードを通常の IU 買掛金および IU 売掛金入力タイプの他に、1 つ以上の原価管理ユニット間移動 (CMIUT)、原価管理払出トランザクション (CMDEP)、または原価管理代理出荷 (CMSHB) システム取引に追加して、マッピングすると、PeopleSoft では使用可能な次の追加入力タイプが取得されます。

- 未着
- 商品原価
- 未払金
- 売上原価

ユニット間テンプレート ページ

ユニット間テンプレート ページ (IU_INTER_TMPLT) を使用して、直接または間接のユニット間貸借一致方法を使用する場合に、ユニット間貸借一致入力の取引コード別チャートフィールドを入力します。

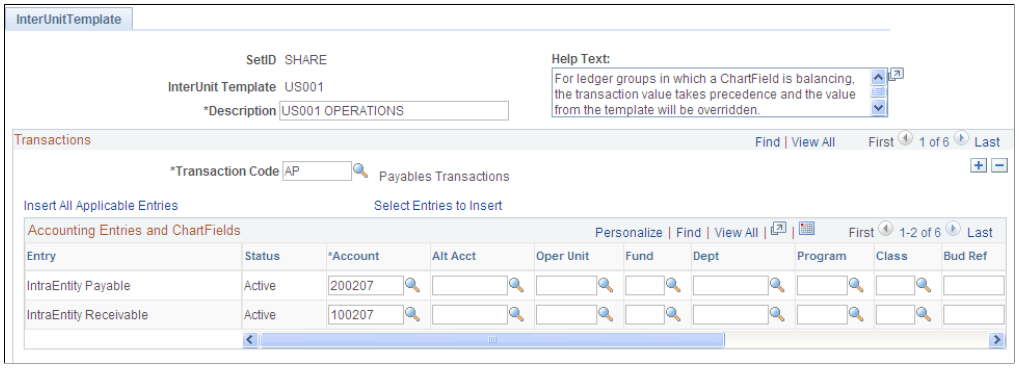
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定] , [共通定義], [ユニット間/ユニット内], [ユニット間テンプレート]

画像: ユニット間テンプレート ページ

次の例では、ユニット間テンプレート ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



取引コード

使用可能な場合、複数の取引コードをユニット間テンプレートと入力済の追加設定に追加できます。

デフォルト勘定残高グループ

このフィールドは、台帳コードや貸借対照表など、1 つ以上の勘定科目属性がアクティブな場合にのみ表示されます。勘定科目属性のいずれかがアクティブな場合、このページには、表示されているデフォルト勘定残高グループのデータのみが表示されます。

「勘定残高グループのインストール オプションの設定」を参照してください。

追加残高グループ

クリックして、この取引コードの追加残高グループに、ユニット間チャートフィールドを設定します。このリンクは、台帳コードや貸借対照表など、1 つ以上の勘定科目属性がアクティブな場合にのみ使用できます。

全ての適用会計入力の挿入

このリンクを選択して、システム設定に使用可能な入力タイプを挿入します。どの入力タイプがアクティブになるかは、2 つの要因の影響を受けます。それらは、インストール ページの [法人を使用] オプション (ユニット間対法人間および法人内) および取引コードがマッピングされているシステム取引 (請求書、商品原価、未払金、顧客出荷およびユニット間移動の未着の収益および経費) です。

挿入する入力の選択

このリンクをクリックして、ページに挿入する入力タイプを手動で選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

入力タイプ

指定の取引コードに使用できる入力タイプは、この取引コードにリンクされているシステム取引によって異なります。使用できる入力タイプは、選択した法人オプションによっても異なります。

基本設定インストール オプション ページで [ユニット間取引に法人を使用] を選択しない場合、次のコア入力タイプを使用できます。

- ユニット間売掛金
- ユニット間買掛金

ユニット間オプションの [法人を使用] が選択されている場合は、次のコア入力タイプを使用できます。

- 法人間売掛金
- 法人間買掛金
- 法人内売掛金
- 法人内買掛金

取引コードが請求書システム取引にマッピングされている場合は、ユニット間または対応する法人間および法人内の収益タイプと経費入力タイプも使用できます。

取引コードが原価管理 (在庫) ユニット間移動システム取引にマッピングされている場合は、ユニット間または対応する法人間および法人内の商品原価タイプ、未払金タイプ、顧客出荷タイプおよび未着入力タイプも使用できます。

ステータス

現在のシステム設定に基づいて、会計入力タイプがアクティブであるか非アクティブであるかを示します。たとえば、[法人を使用] オプションがオフになっているときに、ユニット間買掛金に行を追加します。次に、[法人を使用] オプションをアクティブにします。このページに戻ったときに、ユニット間買掛金入力のステータスが非アクティブになっていることがわかります。これは、法人間および法人内買掛金入力を代わりに定義する必要があるためです。

このページのチャートフィールド グリッドには、次が適用されます。

- 選択した製品、システム取引、取引コードおよび法人オプションに応じて、グリッドに複数の行を使用できますが、グリッドで [全て表示] オプションを選択した場合以外は、グリッドには一度に 2 つの行のみが表示されます。
- 勘定科目、代替勘定科目、構成可能チャートフィールド (関係会社を除く)、部門 ID およびプロジェクト ID をこのグリッドで使用できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 関係会社チャートフィールドの値は自動的にユニット間/ユニット内プロセッサにより入力されるため、このチャートフィールドは使用できません。
- テンプレートのセットID がセット コントロール値として使用され、グリッドの各チャートフィールドに表示して検証ために使用するセットID が決定されます。
- 勘定科目チャートフィールドが必要です。その他の全てのチャートフィールドはオプションです。チャートフィールドが貸借一致の場合、このページの選択内容に関係なく借勘定および貸勘定貸借一致入力の値が自動的に継承されます。

ユニット間テンプレート - 挿入する入力の選択ページ

ユニット間テンプレート - 挿入する入力の選択ページ (IU_INTER_ENTRY) を使用して、ページに挿入する入力タイプを選択します。

全ての適用会計入力の選択ボタンの代替方法です。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

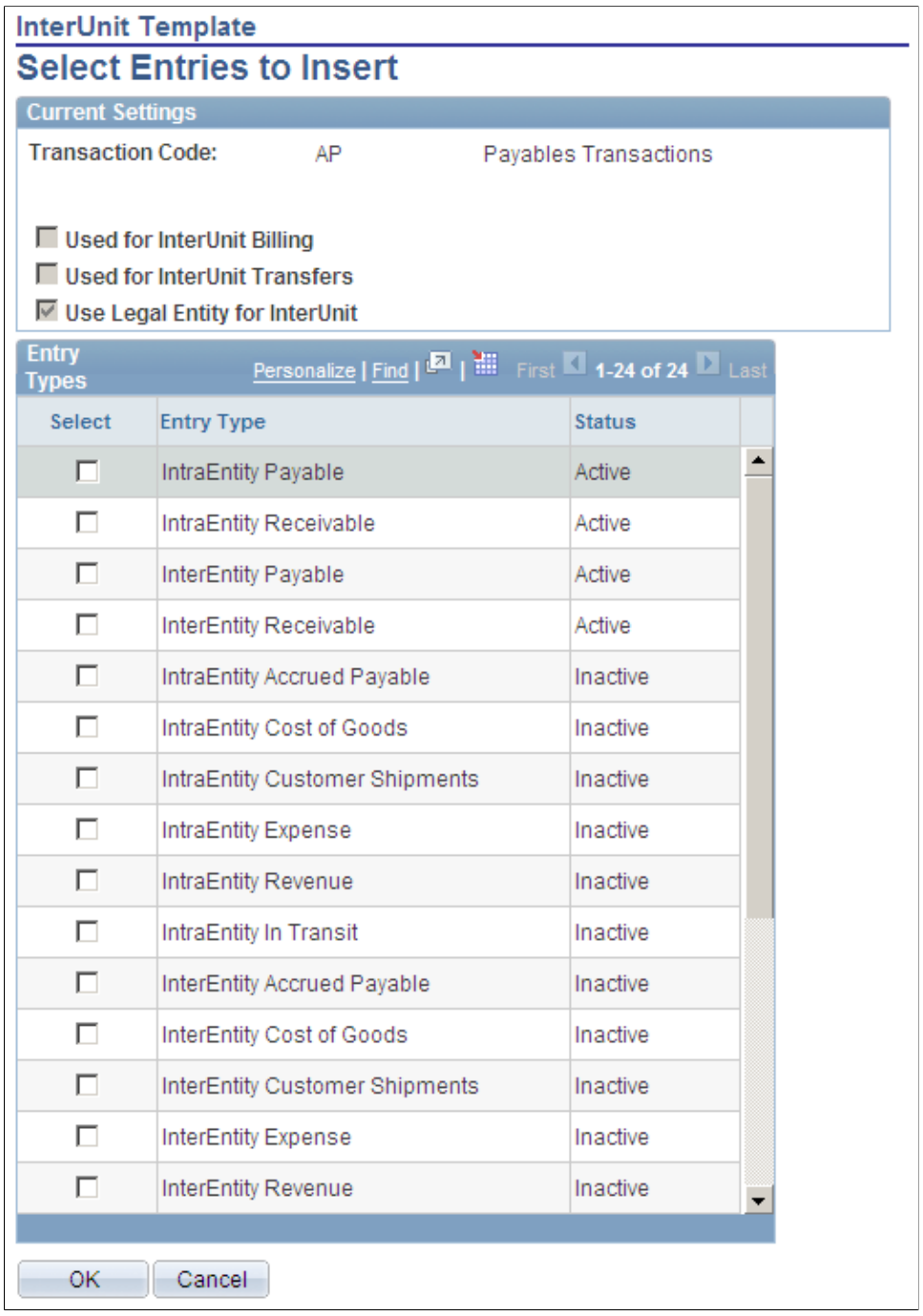
ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定] , [共通定義], [ユニット間/ユニット内], [ユニット間テンプレート]

[挿入する入力の選択] リンクをクリックします。

画像: 挿入する入力の選択ページ

次の例では、挿入する入力の選択ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

現在の設定

取引コードの入力タイプの可用性に影響を与える全ての設定を表示します。台帳コードや貸借対照表など勘定科目属性がアクティブな場合、勘定残高グループも表示されます。

入力タイプ

入力タイプ

[ユニット間]、*[法人間]* および *[法人内]* 入力タイプは、ステータスに関係なく選択できます。これにより、現在アクティブでないチャートフィールドを入力タイプに割り当てることができるようになりますが、今後そうなる可能性があります。

ステータス

ステータスは、現在のシステム設定で入力タイプが*アクティブ*であるか、*非アクティブ*であるかを反映します。非アクティブ ステータスの入力タイプを選択できますが、設定を変更した場合にのみ使用できます。たとえば、現在請求書システム取引にマッピングされていない取引コードの入力を設定する場合がありますが、後日マッピングを変更する予定でユニット間収益入力と経費入力を設定する場合などです。

関連リンク

ユニット内テンプレート ページ

ユニット内テンプレート ページ

ユニット内テンプレート ページ (IU_INTRA_TMPLT) を使用して、ユニット内貸借一致入力の取引コード別チャートフィールドを入力します。

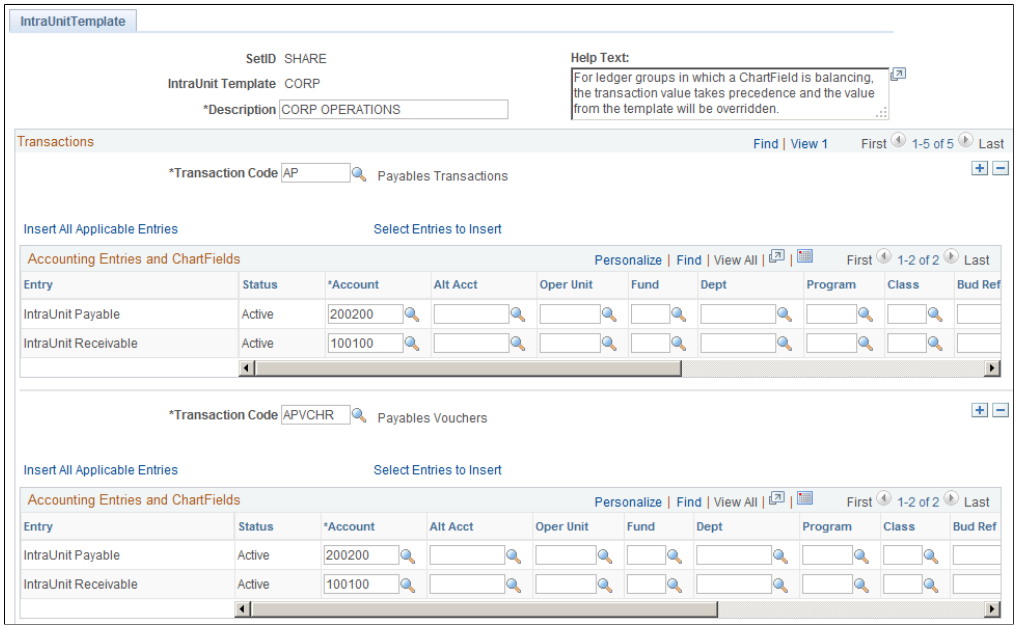
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定] , [共通定義], [ユニット間/ユニット内], [ユニット内テンプレート]

画像: ユニット内テンプレート ページ

次の例では、ユニット内テンプレート ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



設定情報の多くは、ユニット間テンプレートと同じです。例外は次のとおりです。

入力

使用可能なコア入力タイプは、*[ユニット内買掛金]* および *[ユニット内売掛金]* です。

取引コードが請求書システム取引にリンクされている場合は、ユニット内収益タイプと経費入力タイプも使用できます。

取引コードが原価管理 (在庫) ユニット間移動システム取引にリンクされている場合は、ユニット内未着入力タイプを使用できます。

関連リンク

ユニット間テンプレート ページ

ユニット内テンプレート - 挿入する入力の選択ページ

ユニット内テンプレート - 挿入する入力の選択ページ (IU_INTRA_ENTRY) を使用して、ページに挿入する入力タイプを選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

全ての適用会計入力の選択ボタンの代替方法です。

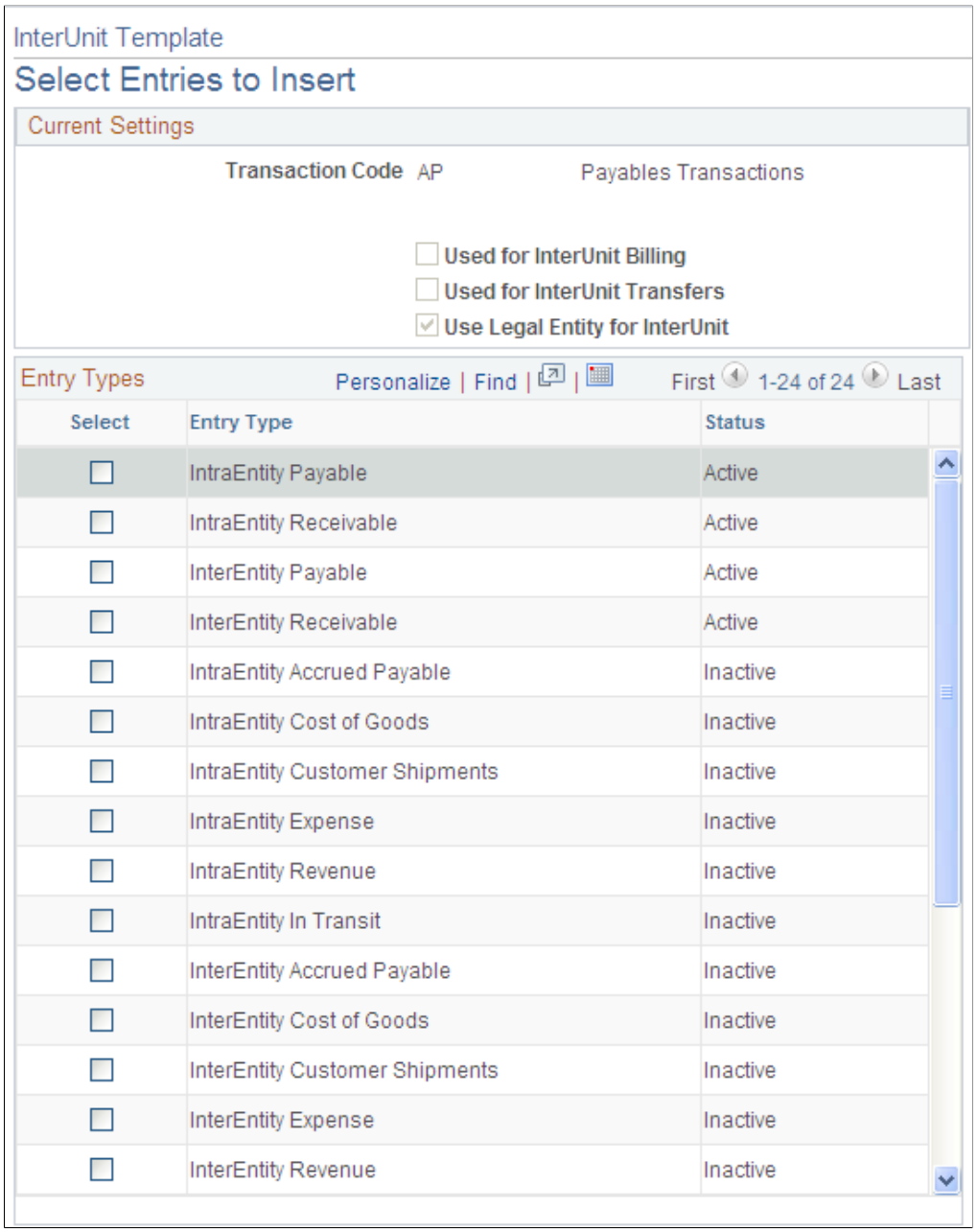
ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定] , [共通定義], [ユニット間/ユニット内], [ユニット内テンプレート]

[挿入する入力の選択] リンクをクリックします。

画像: ユニット内テンプレート - 挿入する入力の選択ページ

次の例では、ユニット内テンプレート - 挿入する入力の選択ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

[現在の設定] グループ ボックスには、取引コードの入力タイプの可用性に影響を与える全ての設定が表示されます。台帳コードや貸借対照表など勘定科目属性がアクティブな場合、勘定残高グループも表示されます。

[入力タイプ] グループ ボックスでは、ステータスに関係なく全てのユニット内入力タイプを選択できます。

ステータス

ステータスは、現在のシステム設定で入力タイプが*アクティブ*であるか、*非アクティブ*であるかを反映します。非アクティブ ステータスの入力タイプを選択できますが、設定を変更した場合にのみ使用できます。たとえば、現在請求書システム取引にマッピングされていない取引コードの入力を設定する場合がありますが、後日マッピングを変更する予定でユニット間収益入力と経費入力を設定する場合などです。

関連リンク

ユニット内テンプレート ページ

ユニット間およびユニット内テンプレートを使用した設定例の確認

ユニット間およびユニット内テンプレートに関する 3 つの設定シナリオを次に示します。

シナリオ A

組織および業務における想定:

- US001 から US050 までのビジネス ユニットに法人勘定科目チャートを使用します。
- 関係会社チャートフィールドではなく、一意の勘定科目値を使用して、ビジネス ユニット取引パートナごとにユニット間貸借一致を区分します。
- 取引タイプ別にはユニット間貸借一致の区分がありません。

インストール レベルのオプション:

- ユニット間貸借一致方法は、一意の勘定科目値を使用してビジネス ユニット別の区分をする場合は間接で、方式は間接またはペアである必要があります。
- 法人を使用しません。

想定されるその他のオプション:

- 全てのビジネス ユニットで同じ法人勘定科目チャートを使用するため、50 全てのビジネス ユニットで同じセットID を共有できます。
- 取引のタイプ別の区分はないため、取引コードは 1 つのみ必要で、それを全てのシステム取引にマッピングできます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 各ビジネス ユニットでは一意の勘定科目値を必要とするため、別のユニット間テンプレートを定義する必要があります。各テンプレートに 1 つの取引コードを追加し、それに対して全てに適用可能な入力タイプを定義します。

シナリオ A で US008 と US009 の間に処理がある場合に、システムで US008 の貸借一致入力を作成するときは、US008 のセットID と US009 のユニット間テンプレートを使用して、適切なチャートフィールドを取得します。これは、ユニット間貸借一致方式が間接であるためです。

シナリオ B

組織および業務における想定:

- US001 から US999 までのビジネス ユニットに法人勘定科目チャートを使用します。
- ユニット間貸借一致を、取引のタイプに従って異なる 10 の勘定科目 (AP (売掛金) 伝票、GL (一般会計) 仕訳など) に区分するとします。
- 一意の勘定科目ではなく、関係会社チャートフィールドを使用して、ビジネス ユニット取引パートナごとに貸借一致を区分します。

インストール レベルのオプション:

- ユニット間貸借一致方式は直接です。
- 法人を使用しません。

想定されるその他のオプション:

- 全てのビジネス ユニットで同じ法人勘定科目チャートを使用するため、全てのビジネス ユニットで同じセットID を共有できます。
- 10 の取引コードが作成され、適切なシステム取引にマッピングされて、目的の 10 カテゴリに区分されます。
- 全てのビジネス ユニットに 1 つのユニット間テンプレートを使用できます。1 つのテンプレートに 10 の取引コードそれぞれを追加し、各取引コードに対して全てに適用可能な入力タイプを定義します。

シナリオ B で US008 と US009 の間に処理がある場合に、システムで US008 の貸借一致入力を作成するときは、US008 のセットID とユニット間テンプレートを使用して、適切なチャートフィールドを取得します。これは、ユニット間貸借一致方式が直接であるためです。

シナリオ C

組織および業務における想定:

- US001 から US989 までのビジネス ユニットに法人勘定科目チャートを使用しますが、US990 から US999 では別の勘定科目チャートが共有されます。
- ユニット間貸借一致を、取引のタイプに従って異なる 10 の勘定科目 (AP (売掛金) 伝票、GL (一般会計) 仕訳など) に区分するとします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 一意の勘定科目ではなく、関係会社チャートフィールドを使用して、ビジネス ユニット取引パートナごとにユニット間貸借一致を区分します。

インストール レベルのオプション:

- ユニット間貸借一致方式は直接です。
- 法人を使用しません。

想定されるその他のオプション:

- 各勘定科目チャートについて 1 つずつ、2 つのユニット間セットID が必要です。
- 10 の取引コードが作成され、適切なシステム取引にマッピングされて、目的の 10 カテゴリに区分されます。
- 全てのビジネス ユニットに対して同じユニット間テンプレート名を使用できますが、各セットID につき 1 つずつ、2 つのユニット間テンプレート定義を管理する必要があります。1 つのテンプレート定義に 10 の取引コードそれぞれを追加し、各取引コードに対して全てに適用可能な入力タイプを定義します。

シナリオ C で US008 と US009 の間に処理がある場合に、システムで US008 の貸借一致入力を作成するときは、US008 のセットID とユニット間テンプレートを使用して、適切なチャートフィールドを取得します。これは、ユニット間貸借一致方式が直接であるためです。

たとえばシナリオ C で US989 と US999 の間に処理がある場合に、システムで US989 の貸借一致入力を作成しているときは、US989 のセットID とユニット間テンプレートを使用して、適切なチャートフィールドを取得します。これは、ユニット間貸借一致方式が直接であるためです。

ユニット間ペア ページ

ユニット間ペア ページ (IU_INTER_PR_BASIC) を使用して、ペアのユニット間貸借一致方法を使用する場合に、ユニット間貸借一致入力の取引コード別チャートフィールドを定義します。

ユニット間請求取引およびユニット間移動取引のデフォルト オプションを上書きします。

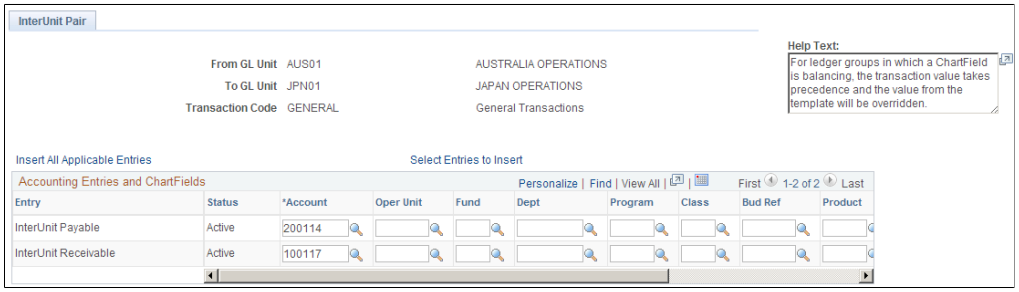
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定] , [共通定義], [ユニット間/ユニット内], [ユニット間ペア], [ユニット間ペア]

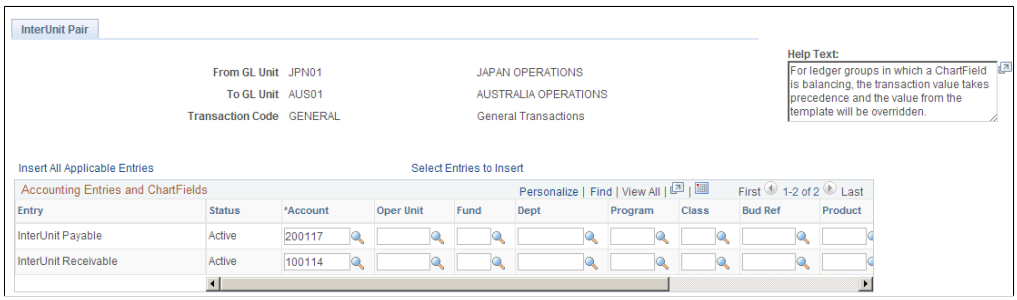
画像: ユニット間ペア ページ - AUS01 から JPN01

次の例では、ユニット間ペア ページ - AUS01 から JPN01 のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



画像: ユニット間ペア ページ - JPN01 から AUS01

次の例では、ユニット間ペア ページ - JPN01 から AUS01 のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



ユニット間ペアは、ペア貸借一致方式を選択して使用する場合に使用できます。関連取引がある可能性のある全てのビジネス ユニット間にチャートフィールドのペアを設定する必要があるため、詳細なレベルの設定をする必要があります。

注: 使用するビジネス ユニットの数が多い場合は、このページではなく [ユニット間ペア マス メンテナンス] 機能を使用して、ビジネス ユニットのペアを管理します。詳細は、「ユニット間ペアのマス メンテナンスの使用」のセクションを参照してください。

「ユニット間ペアのマス メンテナンスの使用」を参照してください。

1 つ以上の勘定科目属性がアクティブの場合、このページには、[デフォルト勘定残高グループ] フィールドと、追加貸借一致グループ リンクが表示されます。

開始 GL ユニット および 終了 GL ユニット

[開始 GL ユニット] フィールドは、ユニット間売掛金が記録されるビジネス ユニットを示します。

[終了 GL ユニット] フィールドは、ユニット間買掛金が記録されるビジネス ユニットを示します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド プロンプトと検証のセット コントロール値として使用するビジネス ユニットは、入力タイプによって異なります。

売掛金、収益、商品原価入力タイプの場合、[開始 GL ユニット] フィールドの値がセット コントロールの値です。

買掛金、経費、未払金、および顧客出荷入力タイプの場合、[終了 GL ユニット] フィールドの値がセット コントロールの値です。

未着入力タイプの場合、[所有権ユニット] フィールドの値が *[ソース]* であれば [開始 GL ユニット] フィールドの値が使用され、[所有権ユニット] フィールドの値が *[移動先]* であれば [終了 GL ユニット] フィールドの値が使用されます。

会計入力およびチャートフィールド

前の例では、AUS01 勘定科目 200114 がユニット間買掛金で、対する JPN01 は勘定科目 100114 のユニット間売掛金です。勘定科目 200117 と 100117 には類似した関係があります。

勘定科目 200114 は AUS01 からの JPN01 借勘定を表し、勘定科目 200117 は JPN01 からの借勘定 AUS01 を表します。

このため、AUS01:JPN01 ペアの場合、売掛金は貸勘定 JPN01 (100117) の AUS01 勘定科目で、買掛金は借勘定 AUS01 (200114) の JPN01 です。

JPN01:AUS01 ペアの場合、売掛金は貸勘定 AUS01 (100114) の JPN01 勘定科目で、買掛金は借勘定 JPN01 (200117) の AUS01 です。

JPN01 に記帳される経費について、AUS01 に伝票を入力する場合、プロセッサが AUS01: JPN01 ペアに移動して AUS01 売掛金と JPN01 買掛金の両方を取得します。

ユニット間請求取引およびユニット間移動のユニット間ペア オプションの定義 - 例

ユニット間ペア ページにアクセスします。

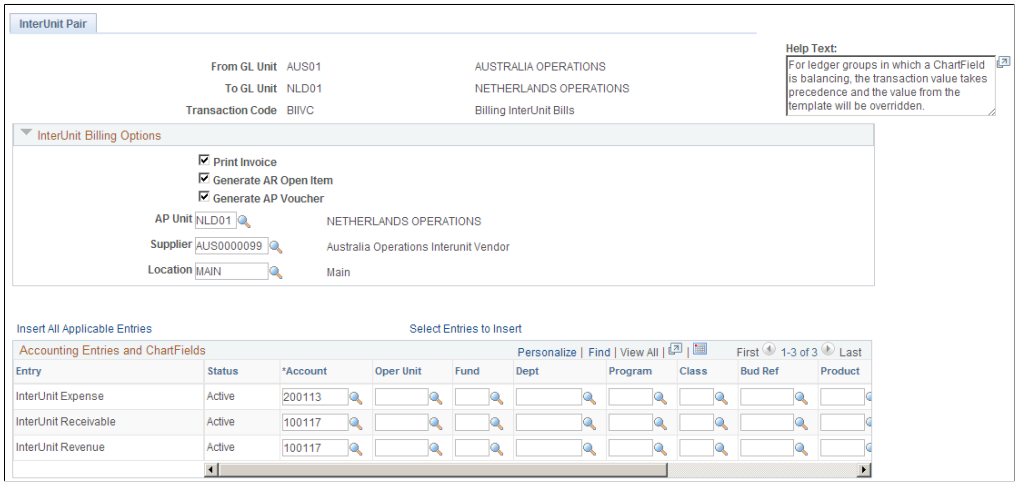
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定] , [共通定義], [ユニット間/ユニット内], [ユニット間ペア], [ユニット間ペア]

画像: ユニット間ペア ページ - ユニット間請求オプション

次の例では、ユニット間ペア ページ - ユニット間請求オプションのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。





クリックして [ユニット間請求オプション] グループ ボックスを展開し、使用可能になる次のフィールド値の説明セクションを参照します。

ユニット間請求オプション

取引コードが請求書システム取引にリンクされている場合は、ユニット間収益とユニット間経費の追加入力タイプがあります。次のようなデフォルトの必要書類オプションを上書きすることもできます。

- 請求書の印刷
- AR (売掛金) オープン アイテムの作成
- AP (買掛金) 支払伝票の作成
- AP ユニット (買掛金ビジネス ユニット)
- サプライヤ (ID)
- サプライヤ所在地

ユニット間移動オプション

取引コードが原価管理ユニット間移動システム取引にリンクされている場合は、ユニット間未着、売上原価、および未払金の追加入力タイプがあります。次のようなユニット間請求オプションも設定する必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 所有権ユニット
- 会社間処理フラグ
- BI ユニット
- 顧客

これらのオプションのデフォルト値は、システム取引マップと GL (一般会計) ビジネス ユニット定義から取得されます。

[請求書印刷]、[AP 支払伝票作成]、および AR アイテム作成 のオプションは、請求書システム取引にマッピングされている、取引コードに定義されているオプションからデフォルト設定されます。

AP 伝票 (買掛金伝票) の AP ユニット (買掛金ユニット) は、そのペアの 終了 GL ユニット フィールド値の GL ビジネス ユニット (一般会計ビジネス ユニット) 定義からデフォルト設定されます。AP 伝票のサプライヤと所在地は、そのペアの [開始 GL ユニット] フィールド値の GL ビジネス ユニット定義からデフォルト設定されます。

この特定のペアについて、ここにあるこれらのオプションのいずれも上書きできます。[システム取引マッピング] オプションまたは [GL ビジネス ユニット] オプションに後で行う変更は、既存のユニット間ペアの定義に影響を与えません。

ユニット間ペア - 挿入する入力の選択ページ

ユニット間ペア - 挿入する入力の選択ページ (IU_PAIR_ENTRY) を使用して、ページに挿入する入力タイプを選択します。

全ての適用会計入力の選択ボタンの代替方法です。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[共通定義]、[ユニット間/ユニット内]、[ユニット間ペア]、[挿入する入力の選択]

[挿入する入力の選択] リンクをクリックします。

現在の設定

取引コードの入力タイプの可用性に影響を与える全ての設定を表示します。台帳コードや貸借対照表など勘定科目属性がアクティブな場合、勘定残高グループも表示されます。

入力タイプ

全てのユニット間、法人間および法人内入力タイプは、ステータスに関係なく選択できます。

ステータス 現在のシステム設定に基づいて、会計入力タイプが*アクティブ*であるか*非アクティブ*であるかを示します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

たとえば、[法人を使用] オプションがオフになっているときに、ユニット間買掛金に行を追加します。次に、[法人を使用] オプションを選択します。このページに戻ったときに、ユニット間買掛金入力のステータスが非アクティブになっていることがわかります。これは、法人間および法人内買掛金入力を代わりに定義する必要があるためです。

非アクティブ ステータスの入力タイプを選択できますが、設定を変更した場合にのみ使用できます。たとえば、現在請求書システム取引にマッピングされていない取引コードの入力を設定する場合がありますが、後日マッピングを変更する予定でユニット間収益入力と経費入力を設定する場合などです。

関連リンク

ユニット間ペアのマス メンテナンスの使用

一般会計定義 - ユニット間/ユニット内ページ

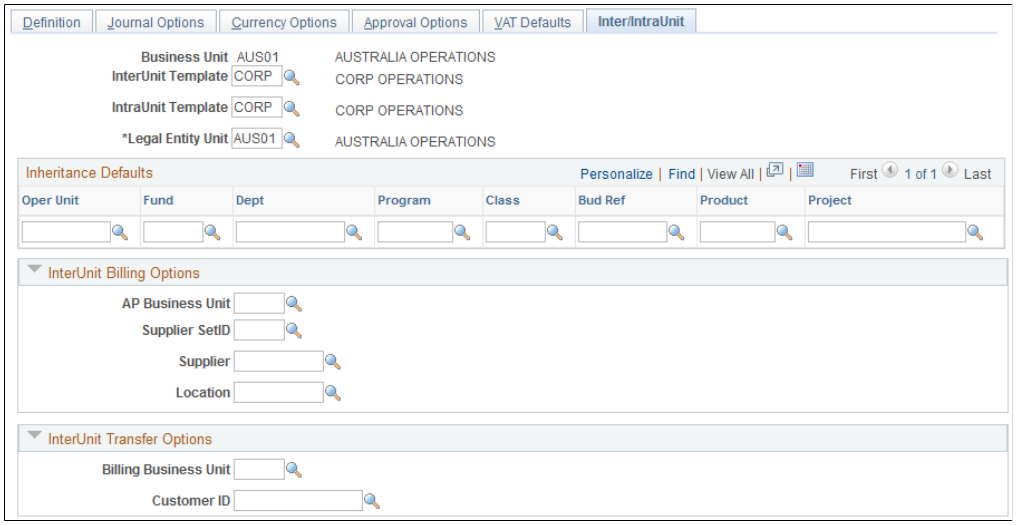
一般会計定義 - ユニット間/ユニット内ページにアクセスします。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定] , [ビジネス ユニット関連] , [一般会計], [一般会計定義], [ユニット間/ユニット内]

画像: 一般会計定義 - ユニット間/ユニット内ページ

次の例では、一般会計定義 - ユニット間/ユニット内ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユニット間テンプレート

インストールの基本設定ページで指定したユニット間貸借一致方法が*直接*または*間接*の場合、ユニット間テンプレートを指定します。

選択内容のプロンプトと検証には、セット コントロール値として*GL ビジネス ユニット*が使用されます。

ユニット間貸借一致方法が間接の場合、独自のセットID を使用して、入力したテンプレートが取引に含まれる他の GL ビジネス ユニットで使用されます。その場合、このビジネス ユニットに取引がある可能性のある全てのビジネス ユニットで、同じユニット間セットID を共有するか、テンプレートにもそれらのユニット間セットID がある必要があります。

ユニット内テンプレート

明細元帳グループ – 貸借一致ページで [ユニット内貸借一致入力] が選択済のビジネス ユニットにリンクされている 1 つ以上の元帳グループがある場合に、このフィールドは必須です。選択内容のプロンプトと検証には、セット コントロール値として GL ビジネス ユニットが使用されます。

法人ユニット

インストールの基本設定ページでユニット間オプションに [法人を使用] を選択する場合、GL ビジネス ユニット間に法人階層を設定する必要があります。ビジネス ユニットが属する法人ユニットを指定します。

同じ法人ユニットにあるビジネス ユニット間のユニット間取引は、*法人内*として処理されます。別の法人ユニットにあるビジネス ユニット間の取引は、*法人間*として処理されます。

法人ユニットの有効な値には、管理されている法人の他に、それ自体に法人ユニットがあるその他全てのビジネス ユニットが含まれます。

継承デフォルト

継承オプションが *[ユニットのデフォルトを使用]* または *[ユニット内で継承]* のときに、製品固有の継承処理で使用する各チャートフィールドのデフォルト値を設定するために使用します。

次の条件にあるチャートフィールドの継承デフォルトを指定することをお勧めします (必須ではありません)。

- チャートフィールドが貸借一致している元帳グループのユニット ページの元帳に、管理されているビジネス ユニットがリンクされている。
- チャートフィールド継承のビジネス ユニットで使用するセットID のチャートフィールド継承グループに、チャートフィールド

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

の継承オプションとして、*[ユニットのデフォルトを使用]* または *[ユニット内で継承]* がある。

ユニット間請求オプション

ユニット間請求に対して必要書類を作成するとき (つまり、システム取引マップ オプション ページで [AP 支払伝票作成] が選択されている場合) に、次のフィールドが使用されます。これらのフィールドには、ユニット間ペアのデフォルト値が提供されていますが、これらのフィールドが変更されている場合、既存のユニット間ペア定義に影響を与えません。

請求管理と買掛金管理の両方がインストールされている場合は、次のフィールドが表示されます。

AP ビジネス ユニット

AP (買掛金) ビジネス ユニットは、この一般会計ビジネス ユニットがユニット間請求取引の請求先ビジネス ユニットである場合に使用されます。

一般会計ビジネス ユニットにリンクされている AP ビジネス ユニットのみが有効です。

サプライヤ セットID

支払先のサプライヤのセットID、サプライヤ ID、および住所を指定します。

サプライヤおよびサプライヤ所在地

取引先および所在地は、この一般会計ビジネス ユニットがユニット間請求取引の請求元ビジネス ユニットである場合に使用されます。入力した AP ビジネス ユニットは、取引先および所在地のセット コントロール値として使用されます。AP ビジネス ユニットが、取引先または所在地の入力後に変更された場合、新しい AP ビジネス ユニットに基づいて値を再入力する必要があります。

請求一般会計ビジネス ユニットで作成される伝票請求書に使用される任意の AP ビジネス ユニットのセットID に対して、取引先および所在地が有効である必要があります。そうでない場合は、より詳細なレベルで値を設定するため、ユーザーはペア方式を使用する必要があります。

サプライヤに指定されているサプライヤのユニット間サプライヤとサプライヤの関係会社コードは、管理されている一般会計ビジネス ユニットと同じである必要があります。

ユニット間移動オプション

ユニット間移動に対して必要書類を作成するとき (つまり、システム取引マップ オプション ページで [会社間処理] が選択されている場合) に、次のフィールドが使用されます。これらのオプションには、ユニット間ペアのデフォルト値が提供されていますが、これらのフィールドが変更されている場合、既存のユニット間ペア定義に影響を与えません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

原価管理と請求管理の両方がインストールされている場合は、次のフィールドが表示されます。

請求管理ユニットおよび顧客 ID (顧客 ID)

この一般会計ビジネス ユニットが会社間在庫移動の移動元である場合に使用されます。管理対象の一般会計ビジネス ユニットにリンクされている請求管理ユニットのみが有効です。

顧客 ID は、この一般会計ビジネス ユニットが会社間在庫移動の移動先である場合に使用されます。入力した請求管理ユニットは、顧客のセット コントロール値として使用されます。

入力した顧客 ID は、会社間移動のビジネス ユニットを請求する、請求管理ユニットのセットID に対して有効である必要があります。そうでない場合は、より詳細なレベルで値を設定するため、ペア方式を使用する必要があります。

顧客 ID は出荷先顧客および請求先顧客の両方の顧客 ID である必要があり、またユニット間顧客として指定されている必要があります。

請求管理ユニットが顧客 ID の入力後に変更された場合、新しい請求管理ユニットに基づいて値を再入力する必要があります。

例:

- 一般会計ビジネス ユニット JPN01 に関連付けられているユニット間請求取引レコードが、一般会計ビジネス ユニット US001 に関連付けられているユニット間顧客に請求を行う場合。
- 請求書のシステム取引マップに、[ユニット間請求] オプションで選択した [買掛金支払伝票の作成] があるため、伝票を作成する必要がある場合。
- 伝票が US001 で作成されているため、US001 一般会計ビジネス ユニット定義で伝票の AP (買掛金) ビジネス ユニットを指定する場合。
- 伝票のサプライヤと所在地が、JPN01 一般会計ビジネス ユニット定義から取得される場合。

必要書類のオプションは、ユニット間貸借一致方法に依存しません。直接方式と間接方式のいずれを使用しても、オプションは同じソース (取引コードおよび GL ビジネス ユニット定義) から取得されます。

ユニット間およびユニット内プロセッサの実行

システム取引コンポーネント (IU_SYS_TRAN)、システム取引マップ コンポーネント (IU_TRAN_MAP)、および取引コード コンポーネント (IU_TRAN_CD) を使用してページを表示します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユニット間およびユニット内インターフェイスの処理に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
システム取引ページ 1 ページ	IU_SYS_TRAN	このページは変更しないでください。 このページに対して行う変更は、全てシステムのカスタマイズになります。 このページへは情報提供のみを目的としてアクセスするか、まれにシステムにカスタマイズを実装する目的でアクセスします。 システム取引は事前定義されており、ユニット間およびユニット内入力を作成可能な取引について、システムで提供されます。
システム取引ページ 2 ページ	IU_SYS_TRAN2	このページは変更しないでください。 このページに対して行う変更は、全てシステムのカスタマイズになります。 このページへは情報提供のみを目的としてアクセスするか、まれにシステムにカスタマイズを実装する目的でアクセスします。

プロセッサの実行について

PeopleSoft では、設定と共にユニット間取引およびユニット内取引用の処理が提供されています。プロセッサの主な機能は、ユニット間またはユニット内 (あるいはその両方) の視点でまだ貸借一致になっていない取引の、借勘定および貸勘定貸借一致入力を作成することです。

通常、個々の PeopleSoft 製品におけるプロセスでは、機能が完結している一方、ビジネス ユニットまたはその他の貸借一致チャートフィールドの貸借一致がまだ済んでいない会計入力 (システムで作成された全ての入力と、チャートフィールド相殺継承プロセスによって作成された入力など) の初期セットが作成されます。一般会計でエンティティ間オンライン仕訳入力を直接作成することもできます。

ユニット間/ユニット内プロセス (IU_PROCESSOR) の実行は、製品によって異なります。たとえば、一般会計ではユニット間およびユニット内プロセッサは仕訳編集 (GL_ JEDIT) プロセスの一部として呼び出されますが、買掛金管理では、伝票転記 (AP_PSTVCHR) および支払転記 (AP_PSTPYMENT) でプロセッサが呼び出されてユニット間およびユニット内貸借一致会計入力が作成されます。

プロセッサでは、システム取引とそのインターフェイス定義によって定義される製品固有のテーブルから直接読み取ることにより、入力が評価されます。取引コードの値および基準チャートフィールドの値などの追加情報は、これらの製品固有テーブルによってプロセッサに渡されます。

プロセッサでは、貸借一致を行うチャートフィールドや取引が貸借一致であるかどうかが判断され、貸借不一致の場合は必要な借勘定および貸勘定貸借一致行が作成されます。プロセッサは、貸借一致行を

 Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

製品の会計入力テーブルまたは製品インターフェイス定義で指定したインターフェイス テーブルに直接書き込みます。供給アプリケーションの場合は、後で仕訳作成するために貸借一致会計行がアプリケーションに戻され、一般会計に最終転記される前に編集が行われます。

ユニット間およびユニット内プロセッサの実行に関するアプリケーション固有の情報は、個々の製品のドキュメントを参照してください。

提供されているシステム取引の表示

PeopleSoft の各アプリケーションでは、ユニット間およびユニット内入力を作成可能な主なアクティビティのタイプについて、システム取引が提供されています。提供されているさまざまなシステムでは、AP (売掛金) 伝票、AP (買掛金) 支払、GL (一般会計) 仕訳および経費レポートなど、取引のタイプ別にユニット間およびユニット内売掛金と買掛金勘定科目を区分できます。

システム取引は、さまざまなアプリケーション プロセス間および PeopleSoft 共通のユニット間/ユニット内ユニット プロセッサ間のインターフェイスをサポートするために必要な情報を、システムに提供します。

注: 提供されるシステム取引は変更できません。提供されるシステム取引に対する全ての変更は、カスタマイズになります。システム取引ページにアクセスしたり、変更する必要はありません。提供された状態で使用します。次の情報は、カスタマイズを実装する場合に備えて、情報提供目的のみまたは MIS 人事またはコンサルタントに使用する目的で提供します。

システム取引ページ 1 ページ

システム取引ページ 1 ページ (IU_SYS_TRAN) は、ユニット間およびユニット内取引のカスタマイズに使用します。このプロセスをカスタマイズする場合以外は、このページを変更しないでください。

このページに対して行う変更は、全てシステムのカスタマイズになります。このページへは情報提供のみを目的としてアクセスするか、まれにシステムにカスタマイズを実装する目的でアクセスします。システム取引は事前定義されており、ユニット間およびユニット内入力を作成可能な取引について、システムで提供されます。

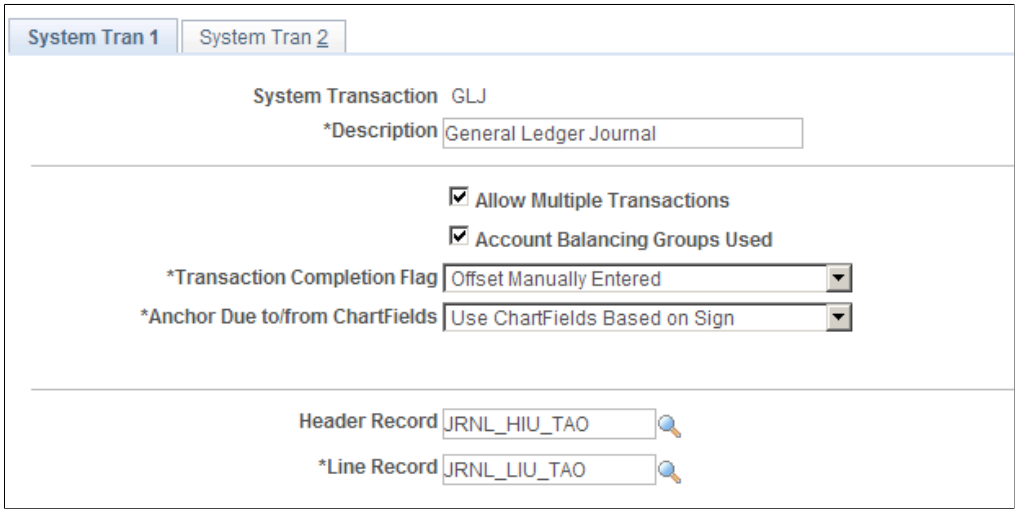
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定] , [共通定義], [ユニット間/ユニット内], [システム取引定義], [システム取引ページ 1]

画像: システム取引ページ 1

次の例では、システム取引ページ 1 のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



注: カスタマイズを実装する目的以外では、システム取引ページを変更しないでください。

複数取引可

提供時点では、このチェック ボックスはオンになっており、一般会計に対してのみ適用可能です。追加の取引コードを定義し、それらを提供されている一般会計製品のシステム取引に関連付けるかマッピングできます。

勘定残高グループ使用

提供時点では、このチェック ボックスはオンになっており、一般会計に対してのみ適用可能です。入力レコードの会計入力に、デフォルト値以外の属性を持つ勘定科目を含めることができることをプロセッサに示します。

取引処理完了

このオプションは、対応する基準外のビジネス ユニットに別の基本通貨がある場合に、基準ビジネス ユニットのユニット間貸借一致入力の基本通貨金額を計算する方法を決定します。

このオプションが *[手動入力相殺]* に設定されている場合、プロセッサは市場レート テーブルから取得した為替レートを使用し、外貨金額を換算して基本通貨金額を計算します。

このオプションが *[システム作成相殺]* に設定されている場合、プロセッサは元の入力が機能上貸借一致であると想定します。次に、基準ユニットの全ての元の入力にある基本通貨合計金額

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

の配賦を使用して、基準ユニットの貸借一致入力の基本通貨金額を計算します。

基準ユニット間チャートフィールド

次の 3 つの値が可能です。

1. *[サインに基づくチャートフィールド使用]* 正のサインがある貸借一致入力は買掛金入力タイプに記帳され、負のサインがある貸借一致入力は売掛金入力タイプに記帳されます。
2. *[買掛金チャートフィールドを使用]* 入力のサインに関係なく、基準エンティティの貸借一致入力は買掛金入力タイプに記帳され、基準外のエンティティの貸借一致入力は売掛金入力タイプに記帳されます。
3. *[売掛金チャートフィールドを使用]* 入力のサインに関係なく、基準エンティティの貸借一致入力は売掛金入力タイプに記帳され、基準外のエンティティの貸借一致入力は買掛金入力タイプに記帳されます。

ヘッダー レコードおよび明細行レコード

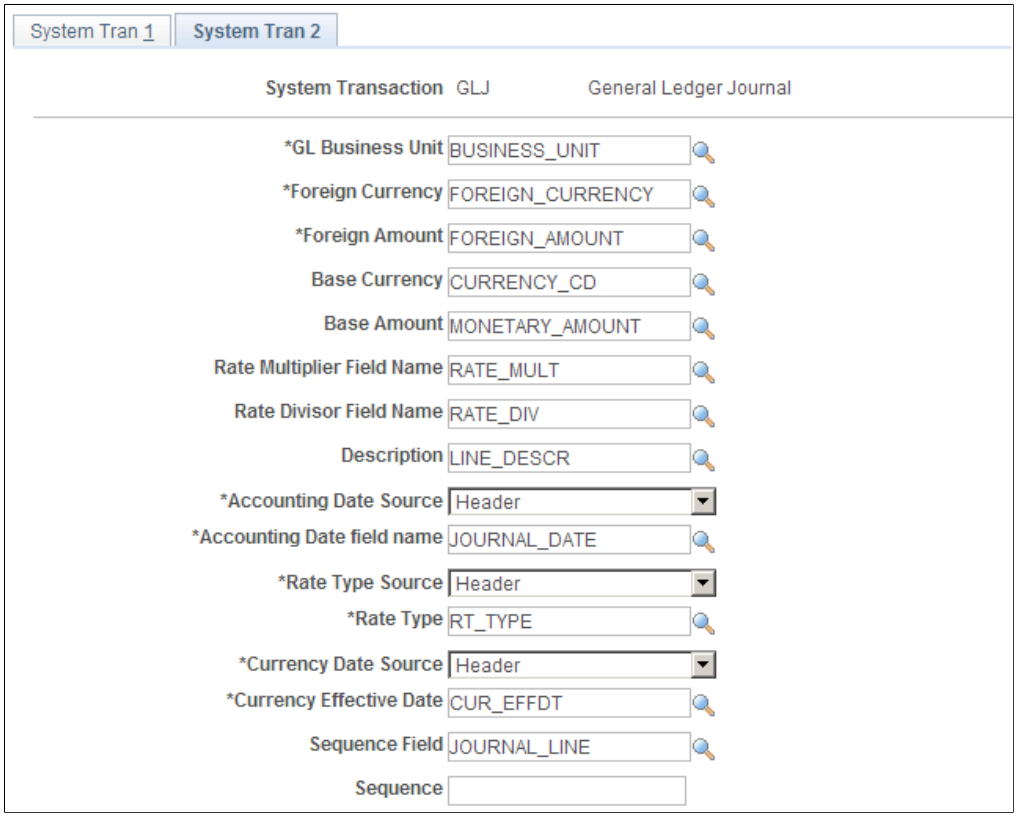
プロンプト表示用のみの名前です。実際のレコードおよび行の名前は、実行時にユニット間およびユニット内プロセッサに渡されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

システム取引ページ 2 ページ

画像: システム取引ページ 2 (1/4)

次の例では、システム取引ページ 2 (1/4) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



連番フィールド

該当する場合、この明細行レコードのフィールド名は、プロセッサによって作成された新規貸借一致入力に対して増分更新する必要があります。

連番

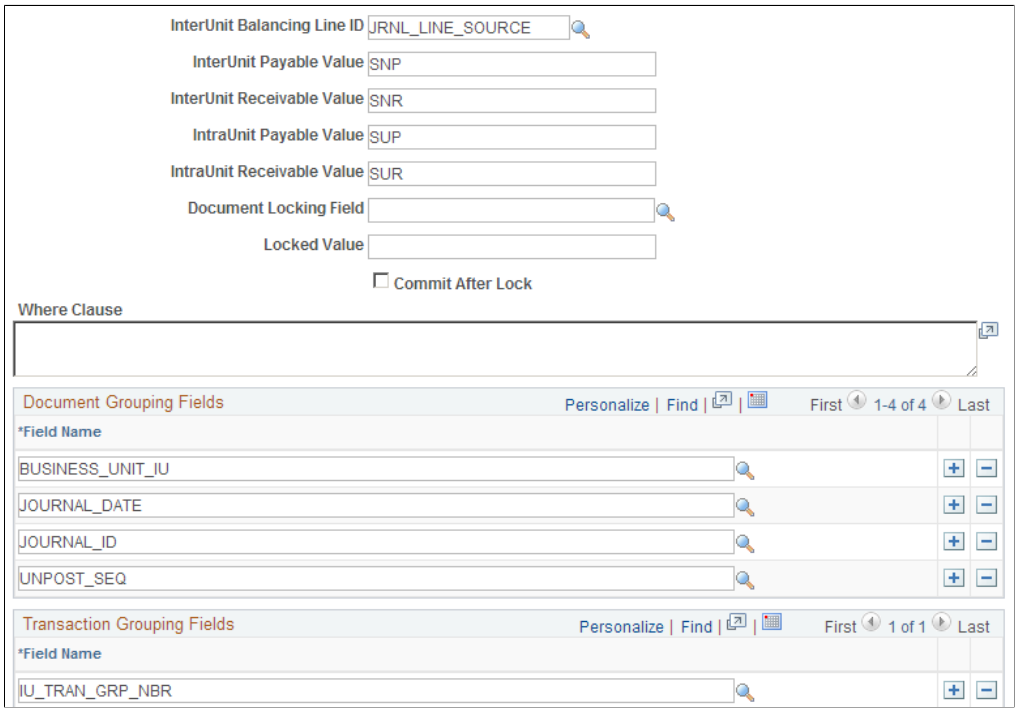
[連番] フィールドが空白の場合、または各ドキュメント グループに対して元の入力で使用した最後の連番に基づいてプロセッサによる採番を続行する場合に、このフィールドを空白のままにします。ユニット間およびユニット内貸借一致入力で常に固定値で連番を開始する場合は、値を指定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プロセッサで割り当てられる連番は、通常連続しています。ただし、複数帳簿の元帳グループ行の場合は、通常連番にギャップがあります。

画像: システム取引ページ 2 (2/4)

次の例では、システム取引ページ 2 (2/4) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



ユニット間貸借一致行 ID 該当する場合、入力のタイプを表す明細行レコードのフィールド名です。

ユニット間買掛金値 プロセッサにより生成される、ユニット内 (または法人間および法人内) 買掛金貸借一致入力の [ユニット間貸借一致行 ID] フィールドに入力される値です。

ユニット間売掛金値 プロセッサにより生成される、ユニット内 (または法人間および法人内) 売掛金貸借一致入力の [ユニット間貸借一致行 ID] フィールドに入力される値です。

ユニット内買掛金値 プロセッサにより生成される、ユニット内買掛金貸借一致入力の [ユニット間貸借一致行 ID] フィールドに入力される値です。

ユニット内売掛金値 プロセッサにより生成される、ユニット内 (または法人間および法人内) 売掛金貸借一致入力の [ユニット間貸借一致行 ID] フィールドに入力される値です。

ドキュメント ロック フィールド 処理中の取引を論理的にロックするために使用するフィールドの名前です。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ロック後にコミット 選択した場合、ドキュメント ロック フィールドを更新後にデータをコミットします。

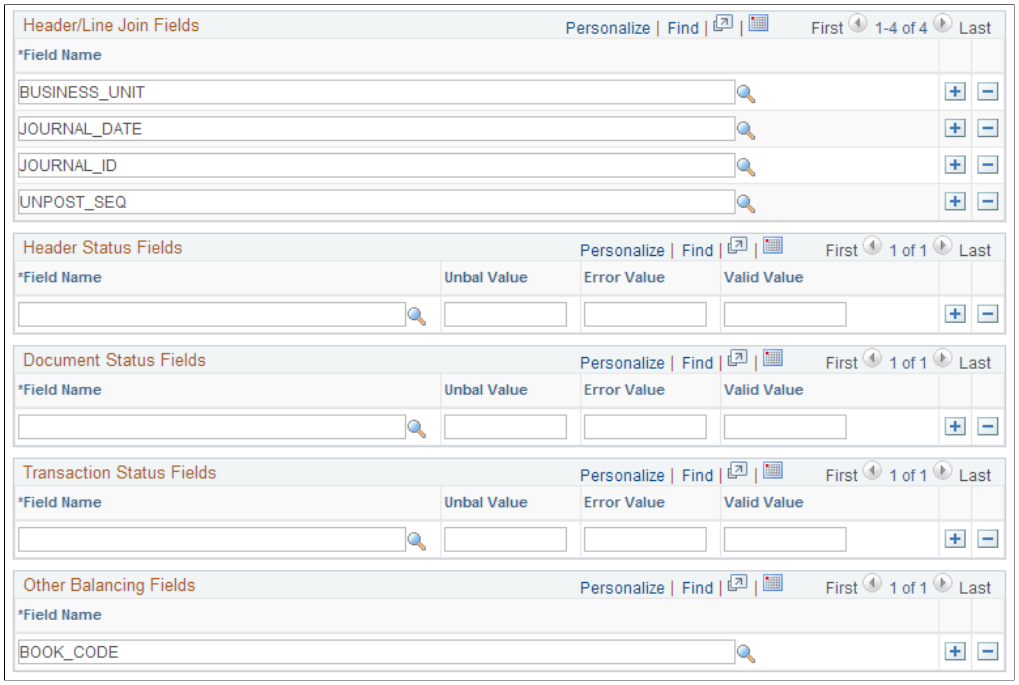
Where 句 選択基準の静的部分です。Where 句は、明細行レコードとオプションのヘッダー レコードの両方のフィールドを参照できます。明細行レコードのフィールドに対する全ての参照ではレコードの別名 LN_A を使用し、ヘッダー レコードの全ての行ではレコードの別名 HDR を使用します。

ドキュメント グループ フィールド 一般会計仕訳や買掛金伝票など、一意のドキュメントを定義するフィールドのリストです。オプションのヘッダー レコードを使用する場合、ドキュメント グループ フィールドはヘッダー レコードから取得されたフィールドである必要があります。それ以外の場合は、明細行レコードからフィールドが取得されます。

取引グループ フィールド ドキュメント内の一意の取引グループを指定するフィールドのリストです。取引グループ フィールドは、取引レベル ステータスを使用する場合以外はオプションです。このセクションのドキュメント グループ フィールドは繰り返しません。

画像: システム取引ページ 2 (3/4)

次の例では、システム取引ページ 2 (3/4) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



ヘッダー/行結合フィールド システム取引でオプションのヘッダー レコードを利用する場合は、ヘッダー レコードと対応する明細行レコードをリンクするために使用するフィールドをリストします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ヘッダー ステータス フィールド

ドキュメントのステータス値を保持するヘッダー レコードのフィールドです。さまざまなステータスの値 [有効]、[エラー] (設定関連のエラーなど) または [貸借不一致] (設定関連ではない貸借不一致エラー) を指定できます。[有効] の値はオプションで、この値を呼出アプリケーションに指定すると、プロセッサの効率が向上します。

ドキュメント ステータス フィールド

ドキュメントのステータス値を保持する明細行レコードのフィールドです。さまざまなステータスの値 [有効]、[エラー] (設定関連のエラーなど) または [貸借不一致] (設定関連ではない貸借不一致エラー) を指定できます。プロセッサで作成される元の入力および貸借一致入力の両方で、ドキュメントの会計入力行が同じステータス値で全て更新されます。[有効] の値はオプションで、この値を呼出アプリケーションに指定すると、プロセッサの効率が向上します。

取引ステータス フィールド

ドキュメント内の取引グループのステータス値を保持する明細行レコードのフィールドです。さまざまなステータスの値 [有効]、[エラー] (設定関連のエラーなど) または [貸借不一致] (設定関連ではない貸借不一致エラー) を指定できます。

プロセッサで作成される元の入力および貸借一致入力の両方で、取引グループの会計入力行が同じステータス値で全て更新されます。

[有効] の値はオプションで、この値を呼出アプリケーションに指定すると、プロセッサの効率が向上します。

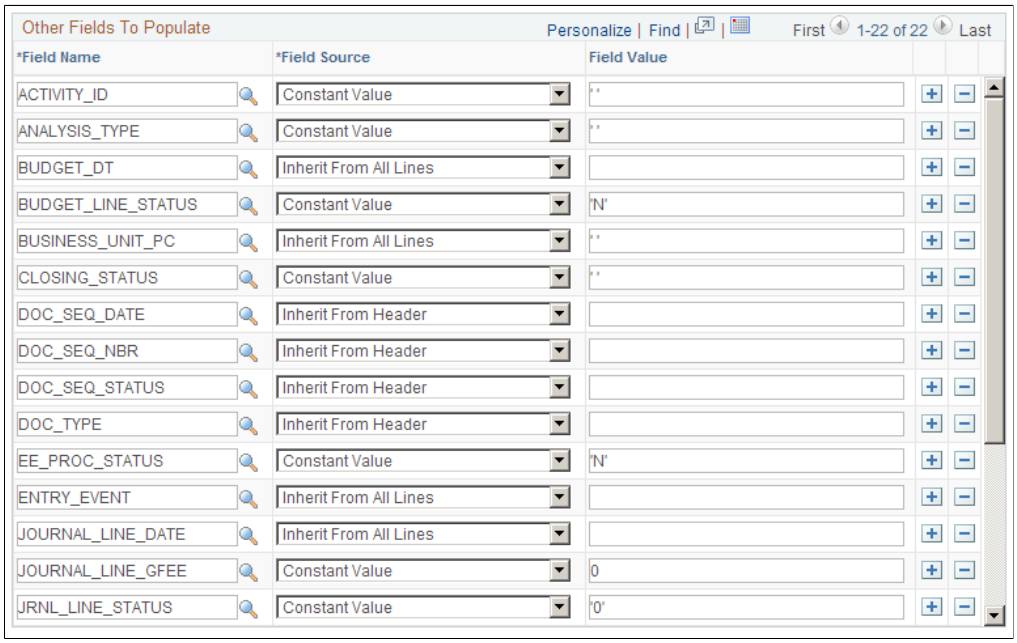
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

その他残高フィールド

その他の貸借一致フィールドを指定できますが、これらの値を呼出アプリケーションに設定すると、プロセッサの効率が向上します。

画像: システム取引ページ 2 (4/4)

次の例では、システム取引ページ 2 (4/4) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



その他入力フィールド

このページ以外では定義されていない明細行レコードのフィールドをリストし、プロセッサで作成された新しいユニット間およびユニット内貸借一致入力でのフォーマット方法を指定します。

フィールド名

入力されるフィールドの名前です。

ここにリストされないフィールドには、次に示すようにシステム取引の他の場所で指定される全てのフィールドが含まれます。

- GL (一般会計) ビジネス ユニット
- 外貨および金額
- 基本通貨および金額
- 説明
- 会計処理日
- レート タイプ
- レート乗数および除数
- 連番フィールド

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- ユニット間貸借一致行 ID
- ドキュメント ロック フィールド
- ドキュメント グループ フィールド
- 取引グループ フィールド
- ステータス フィールド (ドキュメントおよび取引)
- チャートフィールド (標準サブレコードと部門 ID およびプロジェクト ID のチャートフィールド)

  注: プロジェクト ID は、有効な例外である PCADJ システム取引に含まれています。

- プロセス インスタンス
- 元帳グループ
- 元帳
- IU 基準フラグ
- IU システム取引
- IU 取引コード

注: [通貨有効日] は、[会計処理日] と同じフィールドの場合以外は [その他入力フィールド] 定義で指定できます。

フィールド ソース

フィールドの入力方法を指定します。有効値は次のとおりです。

- *定数値* - このページの [フィールド値] フィールドに入力されている値を使用します。
- *日付スタンプ* - 現在のシステム日付を使用します。
- *日時スタンプ* - 現在のシステム日付と時間を使用します。
- *全ての行から継承* - 基準貸借一致入力を記述する場合は元の基準入力の値を使用し、基準外の貸借一致入力を記述する場合は元の基準外の入力の値を使用します。
- *ヘッダーから継承* - 基準または基準外貸借一致入力を記述する場合に、対応するヘッダー レコードの値を使用します。
- *基準外から継承* - 基準または基準外貸借一致入力を記述する場合に、元の基準外入力の値を使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

フィールド値	フィールド ソースが*定数値*の場合、フィールドに入力する値を指定します。

実行時に指定するサンプル パラメータの確認

次のセクションでは、プロセスの実行前に選択する可能性のあるサンプル パラメータについて説明します。

ユニット間およびユニット内プロセッサを呼び出すための技術的な要件

カスタマイズを実装してユニット間/ユニット内プロセッサを利用する場合は、次の要件を考慮します。

ユニット間プロセッサの呼出し

ユニット間/ユニット内プロセッサ (IU_PROCESSOR) は、アプリケーション エンジン プログラムです。多くの場合、AP 伝票転記や GL 仕訳編集などの別のアプリケーション エンジン プログラムから呼び出されます。CallAppEngine ビルトイン関数を使用して、PeopleCode から直接呼び出す場合もあります。

プロセッサを呼び出す場合は、次のセクションで説明するように、まずステート レコード (IU_PROCESS_AET) のフィールドに入力する必要があります。別のアプリケーション エンジン プログラムからプロセッサを呼び出す場合は、使用しているプログラムのステート レコードのリストにあるユニット間/ユニット内プロセッサ ステート レコードを指定する必要があります。

ユニット間およびユニット内プロセッサでは、一部の内部処理に一時テーブル (IU_TRAN_TAO) を使用します。別のアプリケーション エンジン プログラムからプロセッサを呼び出す場合は、一時テーブルのリストにあるこのレコードを指定して、アプリケーション エンジン プログラムを呼び出します。この方法で、専用インスタンスがプロセスの最初に割り当てられます。一時テーブルの割当に関するその他の情報は、『PeopleTools Application Engine』ドキュメントを参照してください。

プロセッサからアプリケーションにコントロールを戻す場合、ステート レコードのプロセッサ ステータス フィールド (IU_STATUS) の値を確認して、処理中にプロセッサでエラーが発生していないかどうかを判断します。

ユニット間プロセッサ ステート レコード (IU_PROCESS_AET)

ユニット間/ユニット内プロセッサ ステート レコードは、呼出プログラムとユニット内およびユニット間プロセッサとの間でパラメータを渡す際に使用されます。次のフィールドを含むには、レコードに表示される順序でリストされます。

プロセス インスタンス (PROCESS_INSTANCE)

プロセス インスタンスは、各アプリケーション エンジン ステート レコードで必須です。このフィールドは PeopleSoft ツールによって自動的に入力されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ビジネス ユニット (BUSINESS_UNIT)

ユニット間およびユニット内プロセッサでビジネス ユニット専用の貸借一致入力を作成する場合に、このフィールドに一般会計ビジネス ユニットの値を挿入します。

ヘッダー (入力) レコード (HEADER_RECORD)

ヘッダー レコードは、未処理の会計入力の関連データを、貸借一致を行うユニット間およびユニット内プロセッサに送信するために使用します。これは、SQL テーブル、SQL ビューまたは一時テーブルです。

ヘッダー更新レコード (UPDATE_HEADER_REC)

ヘッダー更新レコードは、[ヘッダー ステータス] フィールドの更新に使用します。これは SQL テーブルまたは一時テーブルで、ヘッダー (入力) レコードが SQL ビューである場合以外は、多くの場合ヘッダー (入力) レコードと同じです。

明細行 (入力) レコード (LINE_RECORD)

明細行レコードは、未処理の会計入力の関連データを、貸借一致を行うユニット間およびユニット内プロセッサに送信するために使用します。これは、SQL テーブル、SQL ビューまたは一時テーブルです。次のフィールドが含まれている必要があります。

- GL (一般会計) ビジネス ユニット
- 外貨
- 外貨金額
- 会計処理日 (明細またはオプション ヘッダーに記載)
- レート タイプ (明細またはオプション ヘッダーに記載)
- 通貨有効日 (明細またはオプション ヘッダーに記載、会計処理日と同じ日付の可能性あり)
- チャートフィールド (標準サブレコードと部門 ID およびプロジェクト ID のチャートフィールド)
- 元帳グループ (LEDGER_GROUP)
- 元帳 (LEDGER)
- IU 基準フラグ (IU_ANCHOR_FLG)
- IU システム取引 (IU_SYS_TRAN_CD)
- IU 取引コード (IU_TRAN_CD)

注: フィールド名が指定されていない場合、フィールド名はシステム取引定義に定義されているため、任意のフィールド名が使用されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

明細行更新レコード (UPDATE_LINE_REC)

明細行更新レコードは、元の会計入力の [ドキュメント ステータス] フィールドと [取引ステータス] フィールドの更新に使用されます。これは SQL テーブルまたは一時テーブルで、明細行 (入力) レコードが SQL ビューである場合以外は、多くの場合明細行 (入力) レコードと同じです。

明細行挿入レコード (INSERT_LINE_REC)

明細行挿入レコードは、プロセッサが作成したユニット間およびユニット内貸借一致入力を挿入するレコードです。これは SQL テーブルまたは一時テーブルで、多くの場合明細行 (入力) レコードまたは明細行更新レコードと同じです。

ユニット間およびユニット内貸借一致入力を会計入力テーブルに挿入する前に、それらに対して呼出アプリケーションで別の操作を実行する必要がある場合は、別の明細行挿入レコードを使用できます。たとえば、連番の採番に関して呼出アプリケーションに標準以外のルールがある場合、プロセッサで連番を割り当てるよりも、プロセッサが貸借一致入力を作成後にこの機能を実行することをお勧めします。

明細ワーク レコード (LINE_WRK_REC)

明細ワーク レコードは、ユニット間/ユニット内プロセッサで内部的に使用されます。これは、SQL テーブルまたは一時テーブルです。ここには、明細行レコードと同じフィールドが全て含まれる他に、次のフィールド (まだ明細行レコードにない場合) も含まれます。

- プロセス インスタンス (PROCESS_INSTANCE)
- ユニット間行タイプ (IU_LINE_TYPE)
- システム取引の勘定残高グループ オプションが選択されている場合、ワーク レコードにも勘定残高グループ (ACT_BAL_GRP) フィールドが含まれている必要があります。

注: PeopleTools のデフォルト値 (レコード定義に指定したデフォルト、または文字フィールドが空白で数値フィールドがゼロ) が常に入力されている必要のある明細行挿入レコードにフィールドがある場合、明細ワーク レコードにこれらのフィールドを含める必要はありません。明細ワーク レコードのフィールドを省略するように選択した場合は、システム取引定義のセクションを入力する際に、これらを指定しないようにします。

明細ワーク レコード 2 (LINE_WRK2_REC)

明細ワーク レコード 2 は、ユニット間/ユニット内プロセッサで内部的に使用されます。これは、SQL テーブルまたは一時テーブルです。ここには、明細ワーク レコードと同じフィールドが全て含まれる他に、次のフィールド (まだ明細行レコードにない場合) も含まれます。

最大連番 (MAX_SEQ_NBR)

エラー メッセージ セットおよび番号 (MESSAGE_SET_NBR and MESSAGE_NBR)

プロセッサで返されるステータスが [完了 - エラーあり] (IU_STATUS = 1) の場合、これらのフィールドには該当するエラー メッセージのメッセージ セットとメッセージ番号が表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユニット間/ユニット内プロセッサ ステータス (IU_STATUS)

IU プロセッサ ステータスには次の有効な値があります。

0 - 完了 - エラーなし。

1 - 完了 - エラーあり。

2 - 未完了。

ユニット間/ユニット内プロセッサを呼び出す前にステート レコードを入力する場合は、ステータスを [2 - 未完了] に設定するのがベスト プラクティスです。プロセッサが呼出プログラムにコントロールを戻す場合、ステータスは [0 - 完了 - エラーなし] または [1 - 完了 - エラーあり] に設定されます。

動的 Where 句、パート 1 (SQL_STMT_254)

動的 Where 句は、プロセッサが呼び出されるたびに変更する選択条件を指定するために使用します。定数または静的の選択条件は、通常システム取引定義で定義されますが、必要な場合はここに含めることもできます。

Where 句は、明細行レコードとオプションのヘッダー レコードの両方のフィールドを参照できます。明細行レコードのフィールドに対する全ての参照ではレコードの別名 LN_A を使用し、ヘッダー レコードの全ての行ではレコードの別名 HDR を使用します。

Where 句が 254 文字を超える場合、このフィールドの代わりまたはこのフィールドに加えて次の IU_WHERE_SQL フィールドを使用できます。

システム取引コード (IU_SYS_TRAN_CD)

明細行 (入力) レコードの全ての取引が、同じユニット間システム取引コードの取引である場合、またはシステム取引専用の入力を処理する場合は、ステート レコードにあるこのフィールドのシステム取引コードを指定します。これにより、プロセッサの効率が向上します。

明細行 (入力) レコードに 2 つ以上のシステム取引が含まれており、1 呼出でプロセッサに処理させる場合は、このフィールドを空白のままにします。

動的 Where 句、パート 2 (IU_WHERE_SQL)

前述の動的 Where 句の続きです。*Where* 句が 254 文字を超える場合、前述の SQL_STMT_254 フィールドの代わりまたはこのフィールドに加えて、この長い文字列のフィールドを使用できます。

ユニット間/ユニット内プロセッサの基準値の指定

ユニット間/ユニット内プロセッサでは、ユニット間基準 (IU_ANCHOR_FLG) が *Y* に設定されている会計入力行を探し、各取引グループ (または取引グループ化フィールドが使用されていない場合はドキュメント グループ) について、他の貸借一致チャートフィールドの基準ビジネス ユニットと基準値を決定します。

各取引グループ (または取引グループ化フィールドが使用されていない場合はドキュメント グループ) に、元帳ごとの基準入力として指定される会計入力が 1 つのみであることが重要です。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

*基準*行 (IU_ANCHOR_FLG = Y) とマーク付けされている行は、借勘定および貸勘定明細のフォーマット方法に影響を与えます。たとえば、ユニット間およびユニット内プロセッサを呼び出して次の明細を処理するとします。

BUSINESS_UNIT	***金額***	***IU_ANCHOR_FLG***	***関係会社***
US001	−100	Y	
US002	60	N	
US003	40	N	

前の情報の処理に基づいて、プロセッサで次の明細が作成されます。

BUSINESS_UNIT	***金額***	***IU_ANCHOR_FLG***	***関係会社***
US002	−60	N	US001
US001	60	N	US002
US003	−40	N	US001
US001	40	N	US003

ただし、最初の行ではなく 2 番目の行に *Y* の値と基準が入るように元の想定を変更する場合は、プロセッサで作成された借勘定明細および貸勘定明細は次のように表示されます。

BUSINESS_UNIT	***金額***	***IU_ANCHOR_FLG***	***関係会社***
US001	100	N	US002
US002	−100	N	US001
US003	−40	N	US002
US002	40	N	US003

次の例では、IU_ANCHOR_FLG によって通貨間取引の借勘定明細と貸勘定明細の取引 (外貨) 通貨と金額がどのようにして決定されるかを説明します。このプロセッサ ルールは、借勘定および貸勘定明細に基準外明細の取引通貨と金額があるというルールです。たとえば、次の取引明細に対してプロセッサを実行するとします。

BUSINESS_UNIT	***FOREIGN_AMOUNT***	***BASE_AMOUNT***	***IU_ANCHOR_FLG***	***関係会社***
US001	−100 USD	−100 USD	Y	
US002	150 CAD	100 USD	N	

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

次の明細は、前の想定に従ってプロセッサが作成した明細です。

BUSINESS_UNIT	*FOREIGN_AMOUNT*	*BASE_AMOUNT*	*IU_ANCHOR_FLG*	*関係会社*
US002	−150 CAD	−100	N	US001
US001	150 CAD	100 USD	N	US002

複数帳簿入力およびユニット間/ユニット内プロセッサ

呼出アプリケーションで PeopleSoft 複数帳簿処理がサポートされている場合、アプリケーションでは通常、プロセッサを呼び出す前に主元帳と補助元帳の両方に対して会計入力を作成します。この場合、主元帳の 1 入力と対応する補助元帳の全ての入力が、各取引グループ (または取引グループ化フィールドが使用されていない場合はドキュメント グループ) の基準入力として全てフラグ付されます。

次の例では、ユニット間/ユニット内プロセッサを呼び出すときに、実行時に指定される一般会計のパラメータのタイプを説明します。

JRNL_HEADER ヘッダー レコード名

JRNL_HEADER ヘッダー更新レコード名

JRNL_HEADER と結合した JRNL_LN 明細行レコード名

JRNL_LN 明細行更新レコード名

JRNL_LN または JRNL_LN_TMP 明細行挿入レコード名

追加操作が必要な場合は JRNL_LN_TMP を使用します。たとえば、JRNL_LN に挿入する前に仕訳行番号を再割当します。

仕訳のその他の WHERE 句 動的選択条件

ビジネス ユニット処理 一度に 1 つのビジネス ユニットを処理します。

次のフィールドの JRNL_IU_ANCHOR テーブルでは、ユニット間およびユニット内基準値が管理されます。

BUSINESS_UNIT、JOURNAL_ID、JOURNAL_DATE および UNPOST_SEQ これらのフィールドは、複数の仕訳を 1 つにリンクするキーを提供します。これらのフィールドにより提供される一意のキー セット内の仕訳は、仕訳入力ページにプルされます。

IU_TRAN_GRP_NBR ユニット間仕訳のセット下にある、一意のユニット間およびユニット内取引グループをリンクするキー。

BUSINESS_UNIT_IU 主要基準ビジネス ユニット。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

設定可能チャートフィールド ACCOUNT、ALTACCT、CURRENCY_CD、STATISTICS_CODE などを除外します。

ユニット間でない仕訳ではこのテーブルに入力されていないため、このテーブルはユニット間およびユニット内仕訳の特定にも使用されます。

JRNL_HEADER テーブルの次のフィールドでは、ユニット間プロセッサの呼出しがサポートされています。

IU_SYS_TRAN_CD ユニット間システム取引コード。例: *GLJ*。

IU_TRAN_CD ユニット間システム取引コード。例: *JOURNAL* および *EXPALLOC*。

ユニット間およびユニット内プロセッサを呼び出す前に、JRNL_LN テーブルの次のフィールドに正しく入力する必要があります。

IU_ANCHOR_FLG どの仕訳行に基準ビジネス ユニットの値または基準チャートフィールドの値が含まれるかを示します。

IU_TRAN_GRP_NBR ユニット内取引のセットとして仕訳行のセットをグループ化します。

ユニット間ペアのマス メンテナンスの使用

ユニット間ペア マス メンテナンスの実行に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
ユニット間ペア_マス_メンテナンス_-_エクスポート_ページ	IU_PAIRS_EXPORT	ユニット間ペア請求および移動オプションを問い合わせる条件を入力し、選択する場合は、チャートフィールド値テーブルを使用してユニット間ペア マス メンテナンスを実行するための Microsoft Excel ワークシートを作成します。
URL 管理ページ	URL_TABLE	オプションとして、ファイル添付の保管場所を別の場所に変更します。 「Excel ワークシートをインポートするためのシステム設定」を参照してください。 製品ドキュメントの『*PeopleTools: System and Server Administration*』の「Using Administration Utilities」も参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
ユニット間ペア マス メンテナンス - インポート ページ	IU_PAIRS_IMPORT	行うアクションのユニット間ペア マス メンテナンスをプレビューします。データベースを更新するユニット間ペア マス メンテナンス ファイルの最終改訂をインポートします。

ユニット間ペアのマス メンテナンスについて

非常に多くの GL ビジネス ユニット ペアがあるためオンラインでユニット間ペアを更新するのが実用的でない場合、PeopleSoft では Microsoft Excel ワークシートを使用したマス メンテナンス機能が提供されています。次を実行できます。

- マス メンテナンスを行うユニット間ペアのエクスポート。
- Excel ワークシートを使用した変更。
- Excel ワークシートをインポートするためのシステム設定。
- 変更のプレビューとデータベースの更新。

[Excel へのエクスポート] 機能を使用して、次のユニット間ペアのテーブルのいずれかまたは両方を、メンテナンスを行う .xls ファイル フォーマットで Excel ワークシートにエクスポートできます。

- IU_INTER_PR_TR には、請求および移動オプションのユニット間ペアが含まれています。
- IU_INTER_PR_CF には、関連付けられているチャートフィールドの値が含まれています。

  変更を行った後、ワークシートを CSV (カンマ区切り) ファイル フォーマットで保存します。次に、プレビュー機能を使用して、データベース テーブルを更新する前にアクションをプレビューできます。

  データベースの更新準備ができたら、アプリケーション エンジン プロセス IU_PAIRS_MAINT を使用して、変更内容がユニット間ペア テーブルに直接取り込まれます。

警告 ビジネス ユニット ペアがマス メンテナンス用にエクスポートされているにもかかわらず、まだインポートされていない場合は、オンラインのユニット間ペア ページを使用してペアを更新しないでください。エクスポート後に行ったオンラインの更新は、同じキー値を使用してデータがインポートされたときに順次上書きされます。

前提条件

ユニット間ペア マス メンテナンスを使用するには、Microsoft Excel 97 以降のバージョンがインストールされている必要があります。ワークシートの行が 64000 行を超える場合は、Excel によりエラー メッセージが表示されます。

エクスポート ページはビジネス ユニットの行レベル セキュリティに準じるため、マス メンテナンスを行うユニット間ペアにアクセスするためのセキュリティ レベルを適切に設定する必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユニット間ペア マス メンテナンス - エクスポート ページ

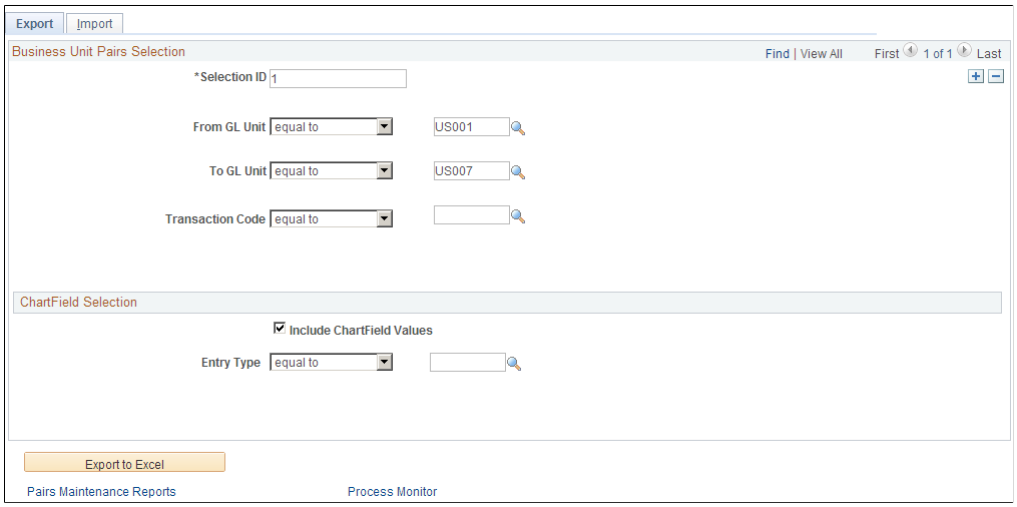
ユニット間ペア マス メンテナンス - エクスポート ページ (IU_PAIRS_EXPORT) を使用して、ユニット間ペア請求および移動オプションを問い合わせる条件を入力し、選択する場合は、チャートフィールド値テーブルを使用してユニット間ペア マス メンテナンスを実行するための Microsoft Excel ワークシートを作成します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定] , [共通定義], [ユニット間/ユニット内], [ユニット間ペア マス メンテナンス], [エクスポート]

画像: ユニット間ペア マス メンテナンス - エクスポート ページ

次の例では、ユニット間ペア マス メンテナンス - エクスポート ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



[ビジネス ユニット ペア選択] 条件を使用して、ユニット間ペア、関連する取引コード、請求オプション、移動オプションを含む 1 つ以上のファイルを作成できます。

[ビジネス ユニット ペア選択] 条件で作成した各ファイルについて、[チャートフィールド選択] 条件を使用してオプションで追加ファイルを作成し、関連するチャートフィールドの値を管理できます。

選択 ID

ユーザー定義の値を入力して、エクスポート対象のユニット間ペアと関連するチャートフィールドに対して指定する選択条件のセットを一意に指定します。マス メンテナンスで [チャートフィールド値に含める] を選択するかどうかに応じて、1 つ または 2 つの Excel ワークシートが各選択 ID に対して作成されます。特定の選択 ID に指定したビジネス ユニットのペアの数を制限することで、作成される Excel ワークシートのサイズを変えることができます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

同じペアのデータを選択する複数の選択 ID を定義しないでください。そうするとデータのインポート時に意図せずに前の更新内容が上書きされる場合があります。

開始 GL ユニット、終了 GL ユニット、および取引コード

次の選択方法を使用して、管理可能なワークシートを作成するためのユニット間ペア条件のセットまたはサブセットを入力します。

最初のドロップ ダウン編集ボックスで、次のフィールドを選択した場合の条件を示します。

- =または<> - 関連付けられているプロンプト編集ボックスで特定の値を指定します。このフィールドを空白にすると、全ての値が選択されます。
- IN または Not In – フリー フォーム編集ボックスにカンマ区切りのリストを入力します。値の範囲は入力できません。各値を入力し、それに続く値との間をカンマで区切ります。このフィールドを空白にすると、全ての値が選択されます。
- Like または Not Like – フリー フォーム編集ボックスにワイルドカード値を入力します。たとえば、FRA% と入力すると、FRA で始まる全てのビジネス ユニットが対象になります。このフィールドを空白にすると、全ての値が選択されます。

プロセス インスタンス

Excel へのエクスポートの完了後、この選択 ID の [ビジネス ユニット ペア選択] 条件で作成されたファイルのプロセス インスタンスがここに表示され、また識別しやすいように Excel ファイル名にも取り込まれます。

チャートフィールド値に含める

関連するチャートフィールドの値をペア メンテナンスに含める場合は、このチェック ボックスをオンにしてチャートフィールド選択条件を指定し、同じ選択 ID を持ち、[ビジネス ユニット ペア選択] 条件で指定した条件を共有する 2 番目のワークシートを作成します。

勘定残高グループ

関連する任意の勘定残高グループを特定する基準を選択または入力します。このフィールドを空白にすると、全ての値が選択されます。

入力タイプ

関連する入力タイプを選択または入力します。このフィールドを空白にすると、全ての値が選択されます。

プロセス インスタンス

Excel へのエクスポートの完了後、この選択 ID の [チャートフィールド選択] 条件で作成されたファイルのプロセス インスタ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ンスがここに表示され、また識別しやすいように Excel ファイル名にも取り込まれます。

Excel へのエクスポート [Excel へのエクスポート] ボタンを選択した場合、選択条件が Excel の行制限である 64,000 行を超えた場合にエラー メッセージが返されます。ワークシートのサイズを小さくするために、選択条件を調整する必要があります。([チャートフィールド値に含める] が選択されている場合)、指定した各選択 ID に対して 1 から 2 個のクエリーが実行されます。各クエリーで、レポート リポジトリに転記されるスプレッドシート (.xls) が作成されます。ソース ペア テーブルの各フィールドには、ワークシートの列と同等の列があります。各ワークシートには、[削除] とラベル付された追加の列が追加されます。これを使用して、インポート プロセスで削除する行を指定します。Excel の機能を使用して、データへのその他の変更や追加を行います。

ペア メンテナンス レポート クリックしてレポート リポジトリの Excel ワークシートにアクセスします。プロセス インスタンスは、特定のワークシートを認識しやすいように、ワークシートのファイル名に含まれています。

プロセス モニター [プロセス モニター] にアクセスして、エクスポート プロセスの進捗やステータスにアクセスします。

エクスポートしたワークシートが空白の場合、ここに選択条件と一致するデータがないと表示されます。

注: 特定の取引コードに適用されないフィールドにデータ値が表示される場合がありますが、その取引コードのこれらのフィールドは無視してください。たとえば、*GENERAL* 取引コードの [請求書の印刷] フィールドは、請求書システム取引にマッピングされないため、無視する必要があります。

Excel ワークシートを使用した変更

エクスポート ページの [ペア メンテナンス レポート] リンクを使用して、レポート リポジトリにアクセスし、変更を行う Excel (.xls) ワークシートを特定して開きます。Excel ワークシートの機能を使用してデータを操作できますが、行を削除するには ユニット間ペア データ列より後にあるワークシートのずっと右の列にある [削除] 列に*「Y」*を入力する必要があります。Excel の行削除機能を使用して、ユニット間ペア ソース テーブルからロードした行を削除しないでください。

(IU_INTER_PR_TR テーブルからの) 請求オプションおよび移動オプションを含むワークシートは、(IU_INTER_PR_CF テーブルからの) チャートフィールドの値を含むワークシートと結合できません。チャートフィールド値ワークシートの作成を選択する場合は、次の値について、同じ値を含む請求オプションおよび移動オプションのワークシートの各行に、対応する行が必要です。

- 開始 GL ユニット
- 終了 GL ユニット

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 取引コード

請求オプションおよび移動オプションのワークシートの次のフィールドは、取引コードが請求書システム取引にマッピングされている場合にのみ、取引コードに適用されます。

- 請求書の印刷
- AR オープン アイテムの作成
- AP 支払伝票作成
- AP ユニット
- サプライヤ
- 所在地

請求オプションおよび移動オプションのワークシートの次のフィールドは、取引コードが原価管理ユニット間移動システム取引にマッピングされている場合にのみ、取引コードに適用されます。

- 所有権ユニット
- 会社間処理
- BI ユニット
- 顧客

該当しない取引コードについて上記フィールドに値が指定された場合、インポート プロセスではフィールドのデフォルト値 (定義されている場合) または空白のいずれかでこれらの値が上書きされます。

ファイル リポジトリでワークシートを開き、作業して保存したり、またはファイルをローカル ドライブにコピーして .xls ファイル フォーマットで変更することができます。

変更が完了したら、ワークシートをファイル リポジトリに保存するか、CSV (カンマ区切り) Excel ファイルとしてローカル ドライブに保存します。

インポート ページを使用して、データベースをプレビューまたは直ちに更新できます。

プレビューの結果、さらに変更が必要になった場合は、.xls フォーマットのワークシートを開き、変更してファイルを CSV (カンマ区切り) フォーマットで保存します。データベースを更新する前に、再度変更内容とアクションをプレビューできます。

注: ワークシートの列ヘッダーを変更したり、列の挿入/削除をしないでください。インポート プロセスでは、この列情報に変更がないことが条件になります。

Excel ワークシートをインポートするためのシステム設定

ファイル ロケーション コンポーネント (FILE_LOC) を使用して、URL 管理と共にファイルの場所を設定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

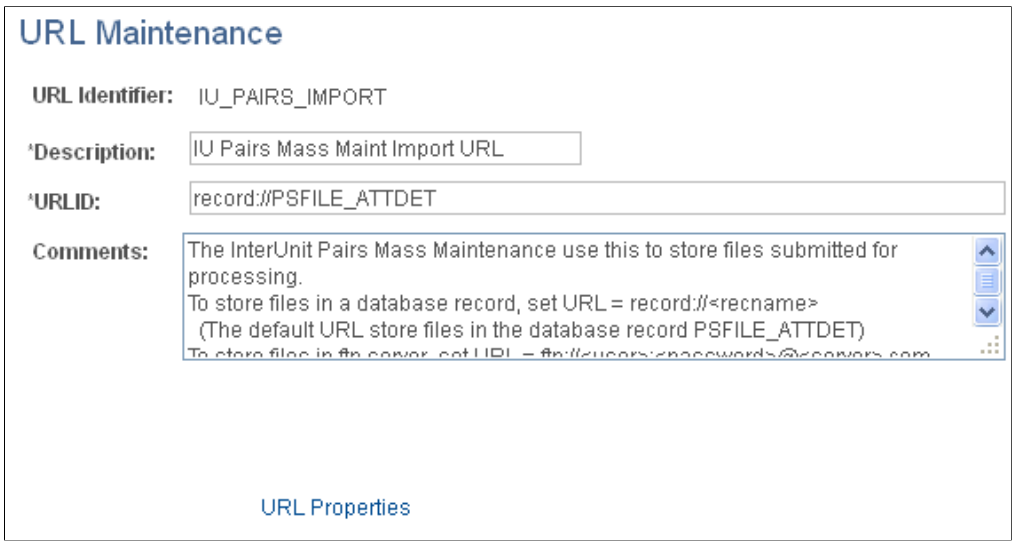
URL 管理ページ (URL_TABLE) を使用して、ファイル添付の保管場所を別の場所に変更するなど、URL 情報を管理します。

ナビゲーション

[PeopleTools], [ユーティリティ], [管理], [URL], [URL 管理]

画像: URL 管理ページ

次の例では、URL 管理ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



ユニット間ペア テキスト ファイルのインポート プロセス (IU_PR_IMPORT) には、次の設定が必要な場合があります。

- ファイル添付の保管場所は、URL 定義 IU_PAIRS_IMPORT によって定義されます。デフォルトでは、データベース レコードが指定されています。FTP サーバーなど、ファイル添付の保管場所を別の場所に変更します。これはオプションです。
- 環境変数 PS_FILEDIR を定義する必要があります。この変数は、ファイル インポート プロセスを実行するプロセス スケジューラの一時フラット ファイルの場所を定義します。Unix または OS390 プロセス スケジューラの場合は、psconfig.sh ファイルでこれを定義します。NT プロセス スケジューラの場合は、コントロール パネルでこれを定義します。詳細については、PeopleTools の GetFile() PeopleCode の説明を参照するか、システム管理者に連絡してください。
- Unicode を使用している場合、CSV ファイルを Unicode フォーマットにする必要があります。 Excel のデフォルトでは、CSV は Unicode ファイルとして保存されません。メモ帳で開いて Unicode で保存できます。
- ファイルに重複する値が含まれる場合は、そのビジネス ユニットの情報は全て処理されません。
- インポート Excel ファイルにエラーがある場合は、エラー メッセージの表示が必要です。

*『PeopleTools: PeopleCode Developer's Guide』*の「Understanding File Attachments and PeopleCode」を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユニット間ペア マス メンテナンス - インポート ページ

インポート ページ (IU_PAIRS_IMPORT) を使用して、行うアクションのユニット間ペア マス メンテナンスをプレビューします。

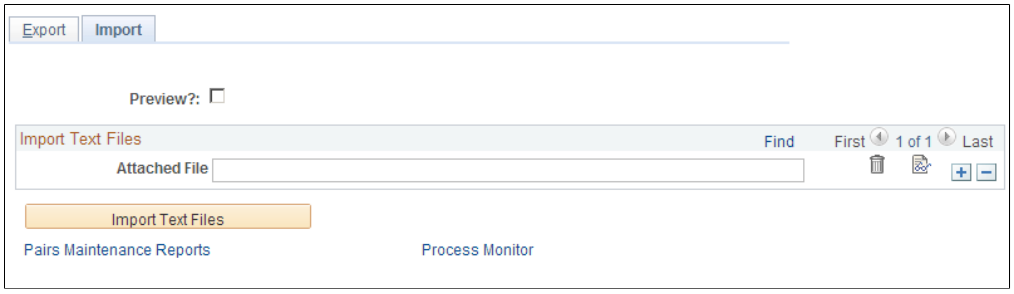
データベースを更新するユニット間ペア マス メンテナンス ファイルの最終改訂をインポートします。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定] , [共通定義], [ユニット間/ユニット内], [ユニット間ペア マス メンテナンス], [インポート]

画像: ユニット間ペア マス メンテナンス - インポート ページ

次の例では、ユニット間ペア マス メンテナンス - インポート ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



プレビュー

選択すると、データベースのユニット間ペア テーブルを実際に更新する前に、変更の結果としてシステムが行うアクションをプレビューします。プレビューでは、[インポート] ボタンをクリックしたときに、CSV フォーマットで添付するワークシートをワーク テーブルにロードします。

システムでは [削除] 列の右に [アクション] 列を挿入し、変更内容に基づいて、各行に次のアクション値の 1 つを割り当てます。

- 挿入 – 元のユニット間ソース テーブルに存在しない行が挿入されます。
- 更新 – 行は元のユニット間ソース テーブルに存在せず、ワークシートの値でソース テーブルの既存の値が置換されます。
- 重複 – ワークシートの 1 つ以上の行に同じキー値があります。行の重複はエラーであり、データベースにインポートする前に解決する必要があります。
- 完全性チェック用のダミー テキスト。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

アクション列は、情報提供のみを目的としています。インポート プロセスでは、この列が無視されます。削除する行は、削除列で「Y」と表示され、アクション列では識別されません。

データベースの更新準備ができたら、[インポート] ボタンをオンにする前に [プレビュー] チェック ボックスをオフにします。

添付ファイル

ワークシートを CSV (カンマ区切り) ファイル フォーマットで添付します。値を入力するか、[添付の追加] をクリックしてファイルを検索します。1 回のインポートで複数のファイルを処理対象として追加できます。

注: 前回の実行で既に CSV ファイルをインポートしており、再度同じファイルをインポートする場合、インポート ページから前の CSV ファイルの行を削除して、更新されたファイルに新しい行を挿入する必要があります。

テキスト ファイルのインポート

[プレビュー] チェック ボックスがオフになっており、CSV (カンマ区切り) フォーマットでファイルを添付した場合、このボタンを選択し、PeopleSoft アプリケーション エンジン プロセス IU_PR_IMPORT を使用して、変更内容でユニット間ペア テーブルを更新します。

ペア メンテナンス レポート

クリックしてレポート リポジトリのシステム作成 Excel ワークシートにアクセスします。プロセス インスタンスは、特定のワークシートを認識しやすいように、ワークシートのファイル名に含まれています。

プロセス モニター

[プロセス モニター] にアクセスして、インポート プロセスの進捗やステータスにアクセスします。

インポート プロセス (IU_PR_IMPORT) では、インポートした各ワークシートの出力として Excel ワークシートが作成されます。このワークシートには、インポートされたデータの各行について最大 5 つのエラー メッセージがリストされます。データを正常にインポートするためには、これらのエラーをインポート前に修正する必要があります。行にエラーがリストされておらず、インポートの実行で [プレビュー] チェック ボックスがチェックされていない場合は、その行はデータベースで正常に更新されています。

エラー メッセージ [ユニット間ペア取引はありません。] は、請求および移動オプション (ヘッダー) テーブルまたはインポート中の請求および移動オプション ワークシートに GL BU ペア/取引コードのチャートフィールド値ワークシート行をインポートする場合に発生します。

チャートフィールド継承の使用

チャートフィールド継承を使用および設定するには、チャートフィールド継承コンポーネント (CF_INHERIT) と 明細元帳グループ コンポーネント (DETAIL_LEDGER_GROU) を使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド継承の設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
チャートフィールド継承ページ	CF_INHERIT	継承グループの継承オプションの管理に使用します。
元帳グループ - 貸借一致ページ	LEDGER_GROUP3	[ユニット内貸借一致入力] を使用する場合に選択し、元帳グループの貸借一致チャートフィールドと関係会社を選択します。 [一般会計], [元帳], [明細元帳], [元帳グループ], [貸借一致]にアクセスします。 詳細については、「チャートフィールド継承ページ」を参照してください。

チャートフィールド継承について

チャートフィールド継承では、それ自体で取引を完了するための追加入力の作成を行いません。代わりに、取引で通常作成されるシステム作成入力について、どのようにチャートフィールドを判断するかを行っています。多くの場合、これは AP (買掛金) 伝票などの相殺で、ユーザーが配布行に入力してシステムで顧客債務を作成します。継承は、GL (一般会計) 仕訳に生成された消費税入力のように、相殺ではない他のシステム作成入力にも適用されます。

注: チャートフィールドの値を継承しない場合でも、チャートフィールド継承 ページにアクセスし、継承オプションを *[継承しない]* に設定して各セットID の継承グループを設定する必要があります。

チャートフィールド継承では、チャートフィールド相殺貸借一致方法を使用して、完全な会計入力を作成するために一部入力、会計行または伝票行からチャートフィールドの値を*継承*することにより、取引を完了します。これは教育や政府期間の会計で幅広く使用されており、頻度は減りますが商業会計でも使用されています。

これにより、特定のチャートフィールドの値のソースを自動的に選択して、継承グループで事前定義されている指定数のシステム作成会計入力の一部入力を完了できます。

継承機能は、必ずしもユニット間およびユニット内処理に関連するわけではありません。これは、ユニット間またはユニット内取引が含まれる場合と含まれない場合があり、また継承処理はユニット間およびユニット内処理を必要とする前に相殺勘定科目に届くように、売掛金管理や買掛金管理などの個々の一般会計供給システムによって実行されるためです。

たとえば、買掛金伝票を転記する場合、伝票配布行、GL ビジネス ユニット定義チャートフィールド デフォルト、または会計入力テンプレートから取得される取引先債務入力に資金コードを入れるように選択できます。

ビジネス ユニット以外のチャートフィールドの貸借一致を行う場合、およびチャートフィールドの値をシステム作成相殺入力に継承する場合、取引は自己貸借一致になることがあり、追加のユニット内貸借一致

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

入力が必要になります。このため、ユニット間およびユニット内プロセッサを呼び出す前にアプリケーションでは継承機能を使用します。

以下の用語と概念は、チャートフィールド継承と提示した例を理解するうえで重要です。

資金

資金は、現金およびその他の財務リソースを記録する自己貸借一致勘定科目セットと、関連する全ての債務および残存資本または残高を伴う財務会計実体です。継承は、このチャートフィールドと共に使用されることがときどきありますが、全てのチャートフィールドに対しても使用できます。

プール銀行口座

プールは教育や政府期間の会計で使用される用語で、複数の資金に使用される単一の銀行口座です。プール銀行口座を定義する場合は、特定の資金に関連付けません。代わりに、支払済のアイテムまたは伝票が現金入力に繰越し (継承) されます。

PeopleSoft でプール銀行口座に相当するものは、資金チャートフィールドの継承オプションで、[常に継承] または [ユニット内で継承] に設定されています。

非プール銀行口座

非プールは教育や政府期間の会計で使用される用語で、銀行口座定義で特定される単一の資金用の銀行口座です。非プール銀行口座を他の資金に属するアイテムまたは伝票の支払に使用する場合は、取引の貸借一致に資金内入力を作成する必要があります。

PeopleSoft で非プール銀行口座に相当するものは、資金チャートフィールドの継承オプションで、[継承しない] に設定されています。

相殺継承貸借一致

システム作成入力 (相殺入力) を含む取引の場合、システム作成入力を取引 (入力した配布行など) の他の入力からチャートフィールドの値を継承するように定義して、必要に応じて取引の貸借一致と配布相殺を行います。

たとえば、2 つの異なる資金に経費を記録する伝票に入力するとします。相殺継承を使用すると、相殺する入力が、2 つの資金の適切な買掛金勘定科目にシステムによって正しく配布されます。

チャートフィールド継承ページ

チャートフィールド継承ページ (CF_INHERIT) を使用して、継承グループの継承オプションを管理します。

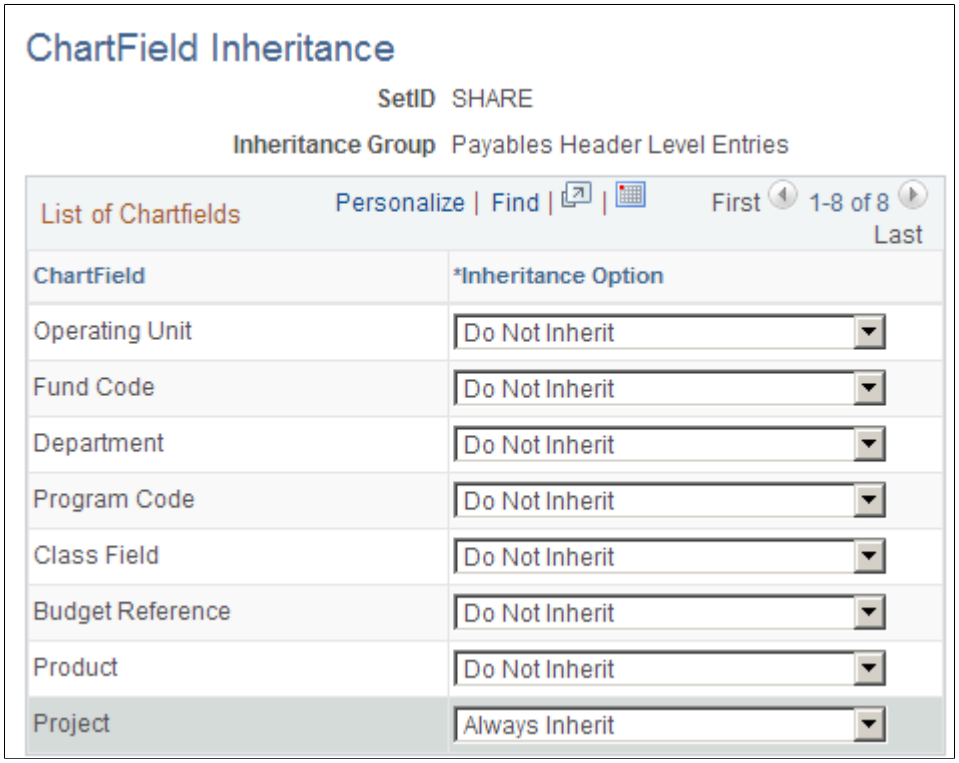
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定] , [共通定義], [チャートフィールド設定], [チャートフィールド継承], [チャートフィールド継承]

画像: チャートフィールド継承ページ

次の例では、チャートフィールド継承 ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



継承グループ

これは、セットID と共にテーブルのキー フィールドです。PeopleSoft では、さまざまな製品に対して次の事前定義済継承グループを提供しています。

- 経費管理勘定科目
- 経費給与相殺
- 経費消費税回収不能額
- GL 仕訳消費税入力他
- GL 仕訳消費税回収不能額
- GL 仕訳消費税出力
- 買掛金ヘッダー レベル入力
- 買掛金配布レベル入力 (買掛金配布 - レベル入力)

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 買掛金消費税回収不能額
- プロモーション マネジメント勘定科目
- 購買管理勘定科目
- 購買経費勘定科目
- 購買消費税回収不能額
- 売掛金評価替
- 売掛金と請求管理
- 財務管理消費税入力他
- 財務管理消費税回収不能額
- 財務管理消費税出力

チャートフィールド

このページは、勘定科目、代替勘定科目および関係会社以外の完全および一部構成可能チャートフィールドに事前入力されています。

勘定科目および代替勘定科目は継承できず、関係会社の値は自動的にシステムにより入力されます。

継承オプション

次のチャートフィールド継承オプションは、全ての継承グループに適用されます。

- *継承しない* – このオプションを選択する場合、製品固有の会計入力テンプレートにチャートフィールドの値を指定するか、値を空白のままにできます。このオプションは、明細元帳グループ - 貸借一致ページの [ユニット内貸借一致入力] チェック ボックスをオンにする場合以外は、通常は貸借一致チャートフィールドで選択されません。
- *ユニットのデフォルトを使用* – このオプションを選択する場合、一般会計定義 – ユニット間/ユニット内ページのビジネス ユニットの継承デフォルトに入力するデフォルト値が、チャートフィールドの値になります。このオプションでは、製品固有の会計入力テンプレートのチャートフィールドに値を入力しません。
- *ユニット内で継承* – このオプションを選択すると、チャートフィールドの値は取引の他の入力の 1 つから継承されますが、もう一方の入力が同じビジネス ユニット内にある場合のみです。それ以外の場合、ビジネス ユニットのデフォルトが使用されます。チャートフィールドの値がビジネス ユニット全体で共有されない場合に、このオプションを選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このオプションでは、製品固有の会計入力テンプレート ページのチャートフィールドに値を入力しません。

- *常に継承*– このオプションを選択すると、チャートフィールドの値は、同じビジネス ユニットにあるかどうかに関係なく、取引を構成する他の入力の 1 つから常に継承されます。このオプションは、全てのビジネス ユニットで同じチャートフィールドの値を共有する場合にのみ選択する必要があります。そうでないと、継承値が無効になります。このオプションでは、製品固有の会計入力テンプレート ページまたは設定ページのチャートフィールドに値を入力しません。

一部の継承グループには、チャートフィールドが貸借一致であるかどうかなどに応じて、各チャートフィールドでどの継承オプションを有効にするかを制限する編集があります。詳細については、次のセクションを参照してください。

さまざまな機能や製品固有の情報については、各製品のチャートフィールド継承のドキュメントを参照してください。

貸借一致チャートフィールドに特別な検証を必要とするチャートフィールド継承グループの処理

一部の継承グループでは、チャートフィールドが貸借一致チャートフィールドであるかどうかに応じて、継承オプションが制限されています。このため、継承オプション テーブルは、元帳グループ定義と同じレコード グループ コントロールを共有します。指定のセットID に複数の元帳グループが定義されている場合があります。これらの元帳グループのいずれかに [標準] または [換算] の元帳グループ タイプがある場合は、チャートフィールドは継承オプションの検証で貸借一致と見なされ、チャートフィールドは貸借一致と定義されます。

この相互検証は、チャートフィールド継承ページまたは明細元帳グループ ページを保存する際に実行されます。元帳グループに対してチャートフィールドを貸借一致から貸借不一致へ、またはその逆に変更する場合、システムでは既存のチャートフィールド継承グループが変更によって無効になったかどうかをチェックします。継承グループの継承オプションを選択する場合、システムは選択したオプションを無効にする貸借一致チャートフィールドをチェックします。

個々の製品継承グループの特定の検証条件は、貸借一致または貸借不一致チャートフィールドが含まれるかどうかだけでなく、買掛金の場合は転記方法がサマリ コントロールか明細行相殺かに応じて異なります。

チャートフィールド継承ページまたは明細元帳グループ - ユニット間/ユニット内ページのいずれかを保存する際にエラー メッセージが表示された場合は、次のテーブルを参照し設定が正しいか確認します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

継承グループ	*貸借一致チャートフィールドに有効なオプション*	*貸借不一致チャートフィールドに有効なオプション*
買掛金管理 (転記方法がサマリ コントロールの場合)		
APCA - コントロール	ユニットのデフォルトを使用	ユニットのデフォルトを使用、継承しない
APEA - 経費	常に継承	4 つのオプションのいずれか
APVN - 回収不能消費税額	常に継承、ユニット内で継承	4 つのオプションのいずれか
買掛金管理 (転記方法が明細行相殺の場合)		
APCA - コントロール	常に継承、ユニット内で継承	4 つのオプションのいずれか
APEA - 経費	常に継承	4 つのオプションのいずれか
APVN - 回収不能消費税額	常に継承、ユニット内で継承	4 つのオプションのいずれか
購買管理		
POCA - コントロール	常に継承	4 つのオプションのいずれか
POEA - 経費	常に継承	4 つのオプションのいずれか
POVN - 回収不能消費税額	常に継承	4 つのオプションのいずれか
売掛金管理		
ARRE - 評価替損益	常に継承	4 つのオプションのいずれか
損益換算	常に継承	4 つのオプションのいずれか
プロモーション マネジメント		
TDAC - プロモーション マネジメント勘定科目	常に継承	4 つのオプションのいずれか

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユニット間、ユニット内およびチャートフィールド継承設定の検証

ユニット間、ユニット内およびチャートフィールド継承設定の検証に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
ユニット間/ユニット内 - 設定の検証ページ	IU_AUDIT	アプリケーション エンジンのオーディット プログラムを実行して、目的のクエリーを指定しオーディット データをレビューします。

ユニット間、ユニット内およびチャートフィールド継承設定の検証について

ユニット間およびユニット内設定の検証は、最初にユニット間およびユニット内処理をシステムにインストールする場合、また次のイベントが発生した場合に非常に重要です。

- 新しいビジネス ユニットを追加する場合。
- 勘定科目チャートを変更または再構築する場合。
- 子会社を企業の勘定科目チャートに移行する場合。
- ユニット間/ユニット内取引コードを追加または削除する場合。

これらまたはこれらに類似するイベントが発生した場合、通常は検証を実行してユニット間およびユニット内設定データが不足していないかどうかを表示します。ユニット間およびユニット内設定検証は不注意によるエラーを補足するために定期的に実行し、また主なメンテナンス アクティビティの実行後にも実行することをお勧めします。

PeopleSoft アプリケーション エンジン プロセス (IU_AUDIT) を使用して、不足している設定データを特定し、このデータを好みに応じて印刷、ソート、フィルタできる Microsoft Excel ワークシートにダウンロードするクエリーを実行します。

アプリケーション エンジン プログラムでは、最初にユニット間およびユニット内設定データを検証して、不足している設定データを特定します。次のオーディット テーブルに結果が入力されます。

オーディット テーブル	*オーディットのタイプ*	*オーディットで特定された不足データのサマリ*
IU_AUDIT_BU	ビジネス ユニット オーディット	ユニット間またはユニット内テンプレートが必要であるにもかかわらず定義されていないビジネス ユニットを特定します。また、ユニット間貸借一致方法がペアの場合に定義されていないビジネス ユニットのペアをリストします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

オーディット テーブル	*オーディットのタイプ*	*オーディットで特定された不足データのサマリ*
IU_AUDIT_TR	ユニット間/ユニット内テンプレート オーディット	不足しているユニット間およびユニット内テンプレート、取引コード、勘定残高グループおよび入力タイプを特定します。
IU_AUDIT_CF	チャートフィールド値のオーディット	一般会計ビジネス ユニットのペアまたは指定されたユニット間/ユニット内テンプレートの取引コード、勘定残高グループおよび入力タイプの組み合わせについて、不足しているチャートフィールドの値を特定します。
IU_AUDIT_INH	チャートフィールド継承オーディット	不足しているチャートフィールド継承グループの特定と、それに対応するインストールした製品に基づく SQL 定義も (不足している場合は) 特定します。また、不足している銀行口座チャートフィールド継承 SQL 定義もリストします。

次に、アプリケーション エンジン プログラムはユーザーが選択したクエリーを実行してオーディット データを抽出し、それを Microsoft Excel ワークシートに書き込みます。クエリーごとに別の Excel ワークシートが作成され、レポート リポジトリに転記されます。

アプリケーション エンジン プログラムのラン コントロール ページには、実行可能なクエリーの名前が表示されます。

設定検証クエリーは、アドホック ベースでの使用に役立ちます。たとえば、ビジネス ユニット US001 と FRAE1 を含む伝票を入力し、ユニット間設定がないため転記プロセスが失敗するとします。この場合、アプリケーション エンジン プログラムを実行し、各ビジネス ユニットに設定されているデータを表示するためのクエリーを選択します。欠落しているデータがある場合は設定ページに移動して修正を行います。

注: ユニット間ペア方式を使用している場合は、関連するユニット間/ユニット内マス メンテナンス機能を使用して、オーディット エラーの修正をしやすくします。

前提条件

ユニット間/ユニット内およびチャートフィールド継承設定を検証するには、Microsoft Excel 97 以降のバージョンがインストールされている必要があります。ワークシートが 64,000 行を超える場合は、Excel にエラー メッセージが表示されます。このエラー メッセージが表示された場合は、リストされたエラーの一部を修正してアプリケーション エンジン プロセス (IU_AUDIT) を再実行する必要があります。

ユニット間/ユニット内 - 設定の検証ページ

設定の検証ページ (IU_AUDIT) を使用して、アプリケーション エンジン オーディット プログラムを実行し、目的のクエリーを指定してオーディット データをレビューします。

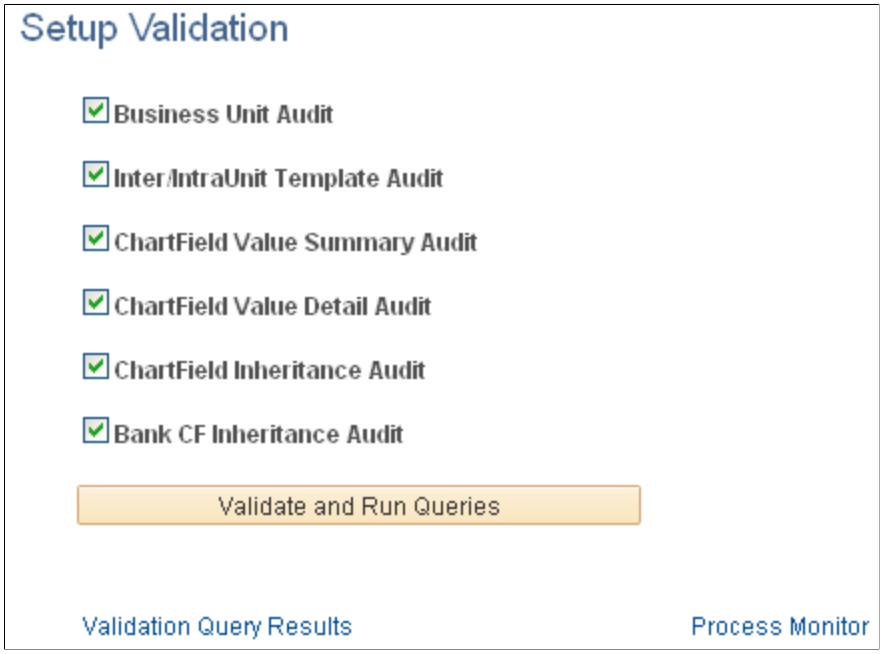
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定] , [共通定義], [ユニット間/ユニット内], [設定の検証], [設定の検証]

画像: 設定の検証ページ

次の例では、設定の検証ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



注: 後続のオーディットで同じエラーが複数回発生しないようにするには、次の順序で一度にオーディットの実行を開始して、次のオーディットを実行する前にエラーを修正します。

1. ビジネス ユニット オーディット—ユニット間またはユニット内テンプレートが必要であるにもかかわらず定義されていないビジネス ユニットを特定します。また、ユニット間貸借一致方法がペアの場合に定義されていないビジネス ユニットのペアをリストします。
2. ユニット間/ユニット内テンプレート オーディット—不足しているユニット間およびユニット内テンプレート、取引コード、勘定残高グループおよび入力タイプを特定します。
3. チャートフィールド値サマリ オーディット—不足しているセットID/チャートフィールドの値を特定します。各セットID/チャートフィールドの値は一度のみリストされます。
4. チャートフィールド値詳細オーディット—GL BU (一般会計ビジネス ユニット) のペアまたは指定されたユニット間/ユニット内テンプレートの取引コード、勘定残高グループおよび入力タイプの組み合わせについて、不足しているセットID/チャートフィールドの値を特定します。
5. チャートフィールド継承オーディット—不足しているチャートフィールド継承グループの特定と、それに対応するインストールした製品に基づく SQL 定義も (不足している場合は) 特定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

6. 銀行チャートフィールド継承オーディット—不足している外部銀行口座チャートフィールド継承 SQL 定義を特定します。

クエリー結果の説明は、次のとおりです。

選択したユニット間貸借一致方法に基づいて適用されないクエリー列は空白です。たとえば、[開始 GL ユニット] 列と [終了 GL ユニット] 列は、ユニット間貸借一致方法がペアでない場合は空白です。

ビジネス ユニット オーディット

このクエリーを選択すると、次が検証されます。

- ユニット間設定、直接および間接方式—各ビジネス ユニットに、一般会計ビジネス ユニット定義で定義したユニット間テンプレートがあるか検証します。消去ユニットは除外します。
- ユニット間設定、ペア方式—各ビジネス ユニットの組み合わせがユニット間ペア定義にあるか検証します。
- ユニット内設定—ユニットの元帳に基づいて、[ユニット内貸借一致入力] オプションを選択した元帳グループにビジネス ユニットが関連付けられており、元帳グループがそのビジネス ユニットのレコード グループ FS_04 で指定したセットID で有効な場合、一般会計ビジネス ユニット定義で定義したユニット内テンプレートがビジネス ユニットにあるか検証します。消去ユニットは除外します。

ビジネス ユニット オーディット クエリーでは、次の列を含む Microsoft Excel ワークシートが作成されます。

- 開始 GL ユニット
- 終了 GL ユニット
- ビジネス ユニット (GL)
- ユニット間テンプレートなし?(Y=はい)
- ユニット内テンプレートなし?(Y=はい)
- GL BU ペアなし?(Y=はい)

ユニット間/ユニット内テンプレート オーディット

このクエリーを選択すると、次が検証されます。

- ユニット間設定、直接方式—各ビジネス ユニットに定義したユニット間テンプレートが、そのビジネス ユニットのレコード グループ FS_59 で指定したセットID で有効であるか検証します。また、使用可能な全ての取引コード、勘定残高グループ (アクティブな勘定残高グループが定義されている場合) および入力タイプの組み合わせがユニット間テンプレートで定義されているかも検証します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- ユニット間設定、間接方式—各ビジネス ユニット (*制御*ビジネス ユニットと呼ばれます) について、他の各ビジネス ユニットに定義したユニット間テンプレートが、その*制御*ビジネス ユニットのレコード グループ FS_59 で指定したセットIDで有効であるか検証します。また、使用可能な全ての取引コード、勘定残高グループ (アクティブな勘定残高グループが定義されている場合) および入力タイプの組み合わせが、上記で特定された各ユニット間テンプレートで定義されているかも検証します。

- ユニット間設定、ペア方式—使用可能な全ての取引コード、勘定残高グループ (アクティブな勘定残高グループが定義されている場合) および入力タイプの組み合わせが、ユニット間ペア テーブルで定義されている各 BU ペアに定義されているかも検証します。

- ユニット内設定—ユニットの元帳に基づいて、[ユニット内貸借一致入力] オプションを選択した元帳グループにビジネス ユニットが関連付けられており、元帳グループがそのビジネス ユニットのレコード グループ FS_04 で指定したセットID で有効な場合、ビジネス ユニットのユニット内テンプレートがそのビジネス ユニットのレコード グループ FS_59 で指定したセットID で有効であるか検証します。また、使用可能な全ての取引コード、勘定残高グループ (アクティブな勘定残高グループが定義されている場合) および入力タイプの組み合わせがユニット内テンプレートで定義されているかも検証します。

ユニット間/ユニット内テンプレート オーディット クエリーでは、次の列を含む Microsoft Excel ワークシートが作成されます。

- 開始 GL ユニット
- 終了 GL ユニット
- ビジネス ユニット
- セット コントロール値
- テンプレート セットID (FS_59 レコード グループから)
- ユニット間テンプレート
- ユニット内テンプレート
- 取引コード
- 勘定残高グループ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 入力タイプ

開始 GL ユニット、終了 GL ユニットおよびビジネス ユニットは、どのテンプレートをオーディットするかを決定する*制御*値です。

セット コントロール値は、テンプレート セットID の取得に使用します。選択したユニット間貸借一致方法によって異なります。

システム取引にマッピングされている取引コードのみがリストされます。

複数のアクティブな勘定残高グループが定義されている場合、それらは GLJ システム取引にマッピングされている取引コードにのみリストされます。

ユニット間/ユニット内テンプレート、取引コード、勘定残高グループおよび入力タイプは階層です。より上位レベルの値がないか無効であると、その下位レベルの値は検証されないため、下位レベルの列にアスタリスクが付きます。たとえば、ユニット間テンプレートがセットID にない場合、取引コード、勘定残高グループおよび入力タイプの列にアスタリスクが付きます。同様に、ユニット間テンプレートに取引コードがない場合、勘定残高グループおよび入力タイプの列にアスタリスクが付きます。上位レベルの値を修正すると、必要な下位レベルの値を検証するためにオーディットが再実行されます。

チャートフィールド値サマリ オーディットおよびチャートフィールド値詳細オーディット

これらの 2 つのオーディットは似たタスクを実行します。

チャートフィールド値サマリ オーディットは、IU_AUDIT_CF オーディット テーブルのデータを要約します。ここには、不足している各セットID/チャートフィールド値が一度リストされます。

チャートフィールド値詳細オーディットは、IU_AUDIT_CF オーディット テーブルの詳細データをリストします。ここには、各取引コード、勘定残高グループおよび入力タイプの組み合わせで不足している、各セットID/チャートフィールド値がリストされます。

これらのクエリーを選択すると、次が検証されます。

- *ユニット間設定*,*直接方式*—定義されている各一般会計ビジネス ユニット/ユニット間テンプレートの組み合わせについて、そのビジネス ユニットのレコード グループ FS_59 で指定したセットID を取得します。取得したセットID と処理したユニット間テンプレートを使用し、チャートフィールドのレコード グループで指定したセットID を取得するための SetControlValue としてビジネス ユニットを使用して、テンプレートの各チャートフィールドの値を検証します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *ユニット間設定*,*間接方式*—各ビジネス ユニット (*制御*ビジネス ユニットと呼ばれます) について、レコード グループ FS_59 で指定したセットID を取得します。取得したセットID を使用して、他のビジネス ユニットに定義したユニット間テンプレートを検証します。各テンプレートについて、チャートフィールドのレコード グループで指定したセットID を取得するために SetControlValue として*制御*ビジネス ユニットを使用して、各チャートフィールドの値を検証します。

- *ユニット内テンプレート*—定義されている各ビジネス ユニットおよびユニット内テンプレートの組み合わせについて、そのビジネス ユニットのレコード グループ FS_59 で指定したセットID を取得します。取得したセットID と処理したユニット内テンプレートを使用し、チャートフィールドのレコード グループで指定したセットID を取得するための SetControlValue としてビジネス ユニットを使用して、テンプレートの各チャートフィールドの値を検証します。

- *ユニット間ペア*— ユニット間ペア テーブルで定義した各ビジネス ユニットのペアについて、入力された各チャートフィールドの値が、開始 GL ユニットまたは終了 GL ユニットの値をセット コントロール値 (このセクションの最後のトピック「ユニット間ペア オーディット テーブル A」で詳しく説明) として使用するチャートフィールドのレコード グループで指定したセットIDで有効であるか検証します。

チャートフィールド値サマリ オーディット クエリーでは、次の列を含む Microsoft Excel ワークシートが作成されます。

- 開始 GL ユニット
- 終了 GL ユニット
- ビジネス ユニット
- テンプレート セットID (FS_59 レコード グループから)
- ユニット間テンプレート
- ユニット内テンプレート
- セット コントロール値
- チャートフィールド セットID
- チャートフィールド
- 無効なチャートフィールド値

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チャートフィールド値詳細オーディット クエリーでは、次の列を含む Microsoft Excel ワークシートが作成されます。

- 開始 GL ユニット
- 終了 GL ユニット
- ビジネス ユニット
- テンプレート セットID
- ユニット間テンプレート
- ユニット内テンプレート
- 取引コード
- 勘定残高グループ
- 入力タイプ
- セット コントロール値
- チャートフィールド セットID
- チャートフィールド
- 無効なチャートフィールド値

セット コントロール値は、チャートフィールド セットID の取得に使用します。*制御* GL ビジネス ユニットの値と同じです。

チャートフィールド セットIDは、チャートフィールドのレコード グループから取得されます。

無効なチャートフィールド値はチャートフィールド セットID で検出されません。

チャートフィールド継承オーディット

このクエリーを選択すると、次が検証されます。

- 有効な元帳グループ (ユニット ページの元帳で 1 つ以上のビジネス ユニットに関連付けられている元帳グループ) が定義されている各セットID について、必要な全てのチャートフィールド継承グループが、このセクションの最後のトピック「チャートフィールド継承 オーディット テーブル B」で詳しく説明しているように、インストールした製品に基づいて定義されているか検証します。
- また、フィールド リストとフィールド上書きリスト「SQL 定義」が、次の SQL 定義ネーミング規則を想定した必要な各セットID/継承グループの組み合わせにあるかを検証します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- フィールド リスト SQL 定義—FS_CFI_FLST_<SETID>_<CF_INHERIT_GRP> (例: FS_CFI_FLST_SHARE_APEA)
- フィールド上書きリスト SQL 定義—FS_CFI_FOVR_<SETID>_<CF_INHERIT_GRP> (例: FS_CFI_FOVR_SHARE_APEA)

チャートフィールド継承オーディット クエリーでは、次の列を含む Microsoft Excel ワークシートが作成されます。

- 元帳グループ セットID
- 継承グループ
- CF 継承グループなし
- リスト SQL オブジェクトなし
- 上書き SQL オブジェクトなし

銀行チャートフィールド継承オーディット

銀行テーブルに定義されているセットID/外部の銀行口座の各組み合わせについて、次の SQL 定義ネーミング規則を想定したフィールド リストとフィールド上書きリスト「SQL 定義」があるかを検証します。

- フィールド リスト SQL 定義—BK_CFI_FLST_<SETID>_<BANK_CD>_<BANK_ACCT_KEY>_<BANK_ACCT_LED_TYPE> (例: BK_CFI_FLST_SHARE_USBNK_CAN_H)
- フィールド上書きリスト SQL 定義—BK_CFI_FOVR_<SETID>_<BANK_CD>_<BANK_ACCT_KEY>_<BANK_ACCT_LED_TYPE> (例: BK_CFI_FOVR_SHARE_USBNK_CAN_H)

銀行チャートフィールド継承オーディット クエリーでは、次の列を含む Microsoft Excel ワークシートが作成されます。

- 銀行セットID
- 銀行
- 銀行口座
- 銀行口座タイプ
- 摘要
- リスト SQL オブジェクトなし

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 上書き SQL オブジェクトなし

検証実行 このボタンをクリックすると、アプリケーション エンジン プロセス (IU_AUDIT) が開始し、オーディット結果を作成して選択したクエリーが実行されます。

検証結果 選択すると、クエリーの結果が Excel ワークシートに表示されます。

プロセス モニター 選択すると、アプリケーション エンジン プロセス (IU_AUDIT) の進捗が表示されます。

ユニット間ペア オーディット テーブル A

前のセクションのチャートフィールド値のオーディット情報について、次のテーブルを使用します。

入力タイプ	*所有権ユニット*	*セット コントロール値*
売掛金、収益、商品原価	該当なし	開始 GL ユニット値
買掛金、経費、未払金、顧客出荷	該当なし	終了 GL ユニット値
未着	ソース	開始 GL ユニット値
未着	移動先	終了 GL ユニット値

チャートフィールド継承オーディット テーブル B

前のセクションのチャートフィールド継承オーディット情報について、次のテーブルを使用します。

導入プロダクト	*継承グループ換算値*	*継承グループ説明*
経費管理	EXCA	経費管理勘定科目
	EXPY	経費給与相殺
	EXVN	経費消費税回収不能額
一般会計	GLVI	GL 仕訳消費税入力他
	GLVN	GL 仕訳消費税回収不能額
	GLVO	GL 仕訳消費税出力
買掛金管理	APCA	買掛金ヘッダー レベル入力
	APEA	買掛金配布レベル入力

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

導入プロダクト	*継承グループ換算値*	*継承グループ説明*
	APVN	買掛金消費税回収不能額
プロモーション マネジメント	TDAC	プロモーション マネジメント勘定科目
購買管理	POCA	購買管理勘定科目
	POEA	購買経費勘定科目
	POVN	購買消費税回収不能額
売掛金管理	ARRE	売掛金評価替
	ARBI	売掛金と請求管理
財務管理	TRVI	財務管理消費税入力他
	TRVN	財務管理消費税回収不能額
	TRVO	財務管理消費税出力

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第22章

配賦の処理

Oracle の PeopleSoft の配賦プロセス (FS_ALLC) について

ほとんどのビジネス環境において、ある組織が管理し、そこに累積される経費や資産を、複数のビジネス ユニット、部門、その他の組織で共有することが必要になる場合があります。通常は、この残高と統計数量を組織内の複数のエンティティに配分し、分担量を適確に認識できるようにします。

PeopleSoft 配賦プロセスを使用すると、複数の配賦ステップを定義できます。また、金額を階層に従って厳密な順序で適用する必要がある場合には、ステップダウン形式の配賦を定義することもできます。ここでは、国外、国内、地域などのさまざまなレベルの組織に対して配賦を行うことが必要になる場合もあります。ステップダウン配賦は、一般的な管理経費を各ビジネス ユニットや部門にどれだけ割り当てるかということを決めるだけでなく、経費の一部を個別のプロジェクトや製品に割り当てるためにも使用できます。

配賦には次のような利点があります。

- レンタル費用や公共料金、管理費のように、繰り返し発生し毎回配賦を行う項目の配賦仕様を保存できます。
- タイムスパン (変動タイム フレーム) を使用して、配賦の会計期間の決定を自動化します。
- 仕訳入力を生成、編集し、これを転記して配賦プロセスから元帳を更新します。後で別のプロセスから転記することもできます。
- 完全なオーディット トレイル用の計算ログを作成します。
- 配賦の設定データをあるデータベースから別のデータベースに移行できます。

配賦を定義する際には、最初に希望する最終結果を想定します。たとえば、オフィスの賃料は、その建物に在所する部門で共有分担します。賃料を単一の金額で支払っており、これが 1 つの部門に賦課されている場合は、オフィス スペースの占有率による比例配分、人員数、またはその他の固定金額や割合、統計的な条件に従って、この経費を各部門に配賦します。

配賦の目的が決まったら、必要なレコードやテーブルを操作するための知識を習得し、影響のあるチャート フィールドを識別します。

注: 配賦で使用する勘定科目のタイプに注意し、よく検討します。配賦では仮勘定科目を使用できません。特に、[配賦ステップ定義] プロセスの [配賦先] タブでは仮勘定科目を選択しないでください。

これは、次に示す配賦の基本要素を設定する上での重要な考慮事項です。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 配賦タイプ: これは配賦元および基準の計算方法であり、配賦元金額を配賦先に配布する際に、基準をどのように使用するかを説明しています。
- 配賦元: 配賦する金額です。

  この金額は元帳またはテーブルから発生することもあり、固定金額を指定することもできます。元帳から発生した場合は、元帳の定義を使用してテーブル名やその他の特性 (カレンダー、複数帳簿、基本通貨など) が決まります。配賦元レコードがテーブルである場合は、テーブル名を指定します。
- 基準: 配賦元金額をさまざまな配賦先に、どのような方法または比例配分で配布するかを決定します。
- 配賦先: 金額を配賦する宛先です。
- 相殺: 配賦先の貸借を一致させる入力です。

  これらの入力には、配賦先に振り替えられた際の配賦元金額の決済または配賦先の相殺金額が反映されます。
- 金額フィールド: 配賦元、基準、配賦先の各レコード間の金額フィールドのマッピングを決定します。

たとえば、レンタル勘定科目 640000 として管理部門 14000 の借方に記入されたレンタル経費を配賦するとします。配賦元は、そのチャートフィールド組合せの元帳行にある金額の合計です。配賦元は、基準 (この場合は統計科目で指定された各部門の床面積) に従って、配賦先として指定されたチャートフィールド値 (社内の別の部門) の間で分割されます。配賦先勘定科目の借方に記入されると、貸借を一致させるための相殺が生成されます。

PeopleSoft 配賦プロセスでは、バックグラウンド処理を使用します。また、配賦先と相殺のテーブルを直接更新できる、配賦仕訳を作成して転記できる、後で転記する仕訳を作成できる、などの自由度があります。

最終的に、配賦の結果、配賦先元帳と相殺元帳が更新されますが、配賦の出力を仕訳入力とすることができます。仕訳入力は、配賦プロセスの中で転記することも、後から別のプロセスで転記して元帳を更新することもできます。

PeopleSoft アプリケーションでは、資金や部門など、ビジネス ユニット間 (ユニット間) またはビジネス ユニット内 (ユニット内) で配賦することもできます。

配賦設定データの移行

配賦を効率的に実装するために、開発データベースまたはテスト データベースに配賦を作成してテストすることができます。その後、データ移行ワークベンチを使用して、配賦ステップやグループ、リクエストなどを、あるデータベースから別のデータベースに、そして最終的には実稼動データベースに移行できます。

詳細については、「PeopleSoft 配賦に対するデータ移行ワークベンチの使用」を参照してください。

関連リンク

ユニット間およびユニット内配賦の設定

 Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

タイムスパンの使用
The Background Process ModelPeopleSoft General Ledger

配賦プロセス ステップの定義

PeopleSoft 配賦プロセスのステップを定義するには、配賦ステップ定義コンポーネント (ALLOCATIONS) を使用します。

配賦ステップに使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
配賦ステップ定義 - タイプ ページ	ALLOC_CALC_OPTN	5 つの配賦タイプの 1 つ、および配賦元と基準を使用して実行する特殊な演算を定義します。 ユニット間およびユニット内の配賦で使用する取引コードを選択します。
配賦ステップ定義 - 配賦元ページ	ALLOC_POOL	配賦元の定義: 配賦元レコード、選択条件および選択方法。元帳残高、任意のテーブル、または固定額に基づいた配賦元を定義できます。
配賦元例外ページ	ALLOC_POOLX	値の範囲の配賦元例外を入力します。 「配賦ステップ定義 - 配賦元ページ」を参照してください。
配賦ステップ定義 - 基準ページ	ALLOC_BASIS	配賦の基準または配賦先への配賦元金額の配賦方法を決定します。
基準例外ページ	ALLOC_BASISX	値の範囲の基準例外を入力します。 「配賦ステップ定義 - 基準ページ」を参照してください。
配賦ステップ定義 - 配賦先ページ	ALLOC_TARGET	配賦の配賦先または配賦先レコード (仕訳またはテーブル) と配賦先フィールドの値を定義します。
配賦ステップ定義 - 相殺ページ	ALLOC_OFFSET	配賦先の貸借を一致させる相殺入力を定義します。相殺は通常、配賦先に振り替えられた配賦元金額の決済を反映します。ただし、配賦先レコードが貸借一致した元帳でない (予算元帳などの) 場合、通常は相殺されません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
配賦ステップ定義 - 出力オプション ページ	ALLOC_OUT_JRL_OPTN	配賦先または相殺レコードが仕訳の場合は仕訳オプションを定義します。または、配賦先または相殺レコードがテーブルの場合はテーブル出力オプションを定義します。
配賦ステップ定義 - 端数処理オプション ページ	ALLOC_ROUND_OPTN	配賦金額の端数処理および端数配賦の方法を定義します。このオプションは、*均等配分*、*固定基準の配賦*、*レコード基準の比例配分*の配賦タイプにのみ有効です。
配賦ステップ定義 - バッチ レコード ページ	ALLOC_RECNAME	PeopleSoft 配賦プロセスで使用するバッチ一時テーブルを指定します。
配賦ステップ定義 - 金額フィールド ページ	ALLOC_AMOUNT	配賦元、基準、配賦先、相殺のレコード間での金額フィールドのマッピングを定義します。

配賦ステップとプロセス グループについて

配賦ステップ定義コンポーネント (ALLOCATIONS) を使用して、次のことを行います。

- 配賦タイプを選択します。
- 配賦元を定義します。
- 配賦基準を定義します。
- 配賦先を定義します。
- 配賦の相殺を定義します。
- 出力オプションを選択します。
- 端数処理と端数配賦のオプションを選択します。
- バッチ レコードを指定します。
- 金額フィールドを定義します。

配賦の複雑さに従って、配賦を 1 つ以上のプロセス ステップで定義できます。複数のステップはステップダウン配賦を表します。これらのステップが 1 つのプロセス グループを構成し、各配賦は一意のグループ ID で識別されます。

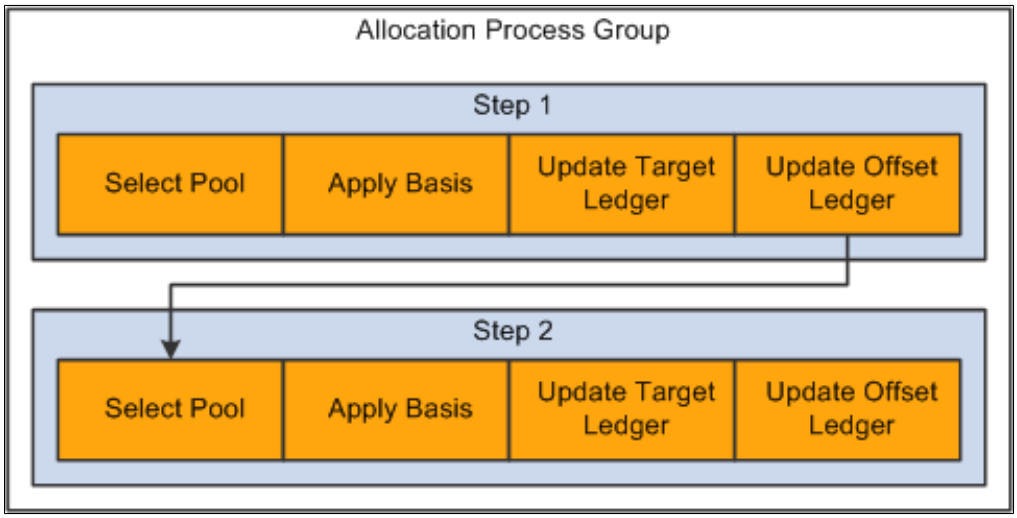
各配賦ステップは PeopleSoft 配賦プロセスの個々のステージを表します。つまり、ステップの最後にプロセスによって元帳残高が更新されるか、仕訳が作成されます。たとえば、レンタル経費の配賦を行うための元帳更新は 1 回のみであるため、この配賦を 1 つのステップで実行できます。しかし、管理経費を複数の営業部門に配布し、さらに営業経費を製品別に配賦するなどのより複雑な配賦の場合は、2 つのステップが必要になります。

 Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

次の図では、1 つの配賦プロセスでの複数ステップの使用を示します。

画像: 配賦プロセスでの複数のステップ

配賦プロセスでの複数のステップ



この例では、最初の配賦ステップで管理経費を複数の営業部門に配布し、元帳を更新します。2 番目のステップでは、新たに更新された営業経費を複数の製品に配賦する必要があります。そのため、元帳が更新されないと、2 番目のステップは元帳から誤ったデータを取得することになります。

配賦ステップ定義 - タイプ ページ

配賦ステップ - タイプ ページ (ALLOC_CALC_OPTN) を使用して、5 つの配賦タイプの 1 つ、および配賦元と基準を使用して実行する特殊な演算を定義します。

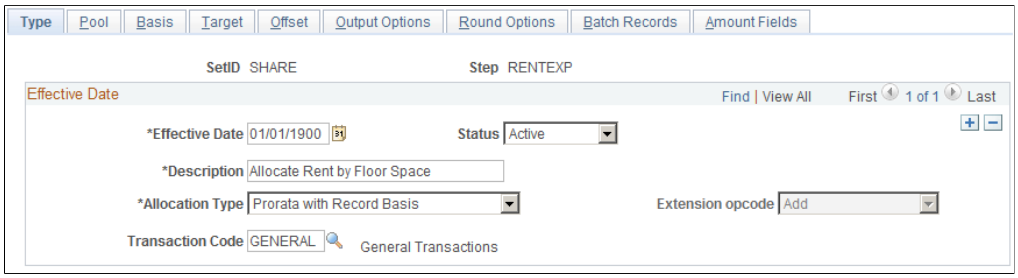
ユニット間およびユニット内の配賦で使用する取引コードを選択します。

ナビゲーション

[配賦], [配賦の定義と実行], [配賦ステップ定義], [タイプ]

画像: 配賦ステップ定義 - タイプ ページ

次の例では、配賦ステップ定義 - タイプ ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



配賦タイプ 配賦先に配賦する配賦元金額を決定するための計算オプションを、次の配賦タイプから 1 つ選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *[コピー]*: 配賦元金額を配賦先にコピーするか、可能な割合変更で相殺します。
- *[均等配分]*: 配賦元金額を指定した基準フィールドで均等に分割し、配賦先金額を導出します。たとえば、配賦元金額を部門 ID 0100、0200、0300 に均等に分割するには、このタイプを使用します。
- *[固定基準の配賦]*: 固定基準で配賦します。これは、基準ページの [値]/[ノード] スクロール領域にある *[%]* フィールドで指定した固定配賦率に基づいています。
- *[レコード基準の比例配分]*: 基準レコードに保存されている金額に基づいて、配賦元金額を配賦先間に分割します。
- *[演算]*: 配賦計算を配賦元と基準間の演算として定義します。

拡張演算コード

[演算] を選択すると、拡張演算コードがアクティブ化され、*[加算]*、*[減算]*、*[乗算]* または *[除算]* を選択できるようになります。

取引コード

ユニット間配賦およびユニット内配賦を使用する際に適切なコードを選択します。

「ユニット間およびユニット内配賦の設定」を参照してください。

次の表では、同じ配賦元 (400 GBP) と異なる配賦タイプを使用した、単純なレンタル経費の配賦結果を説明します。

次の例では、均等配分の配賦タイプを説明します。

配賦元 400 GBP の基準と配賦先	***勘定科目***	***部門***	***金額***
基準		11001	4 部門の 1 つ
		12000	4 部門の 1 つ
		13000	4 部門の 1 つ
		22001	4 部門の 1 つ
配賦先	レンタル	11001	100 GBP
	レンタル	12000	100 GBP
	レンタル	13000	100 GBP
	レンタル	22001	100 GBP

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

次の例では、固定基準の配賦タイプを説明します。

配賦元 400 GBP の基準と配賦先	***勘定科目***	***部門***	***金額***
基準		11001	10 パーセント
		12000	20 パーセント
		13000	20 パーセント
		22001	50 パーセント
配賦先	レンタル	11001	40 GBP
	レンタル	12000	80 GBP
	レンタル	13000	80 GBP
	レンタル	22001	200 GBP

次の例では、比例配分の配賦タイプを説明します。

配賦元 400 GBP の基準と配賦先	***勘定科目***	***部門***	***金額***
基準	床面積	11001	10 SQF
	床面積	12000	20 SQF
	床面積	13000	20 SQF
	床面積	22001	50 SQF
配賦先	レンタル	11001	40 GBP
	レンタル	12000	80 GBP
	レンタル	13000	80 GBP
	レンタル	22001	200 GBP

次の例では、演算 (乗算) の配賦タイプを説明します。

配賦元 400 GBP の基準と配賦先	***勘定科目***	***部門***	***金額***
基準	床面積	11001	10 SQF
	床面積	12000	20 SQF

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

配賦元 400 GBP の基準と配賦先	*勘定科目*	*部門*	*金額*
	床面積	13000	20 SQF
	床面積	22001	50 SQF
配賦先	レンタル	11001	4000 GBP
	レンタル	12000	8000 GBP
	レンタル	13000	8000 GBP
	レンタル	22001	20000 GBP

関連リンク

配賦ステップ定義 - 基準ページ
ユニット間およびユニット内配賦の設定

配賦ステップ定義 - 配賦元ページ

配賦ステップ定義 - 配賦元ページ (ALLOC_POOL) を使用して、配賦元レコード、選択条件、選択方法などの配賦元の定義を行います。

元帳残高、任意のテーブル、または固定額に基づいた配賦元を定義できます。

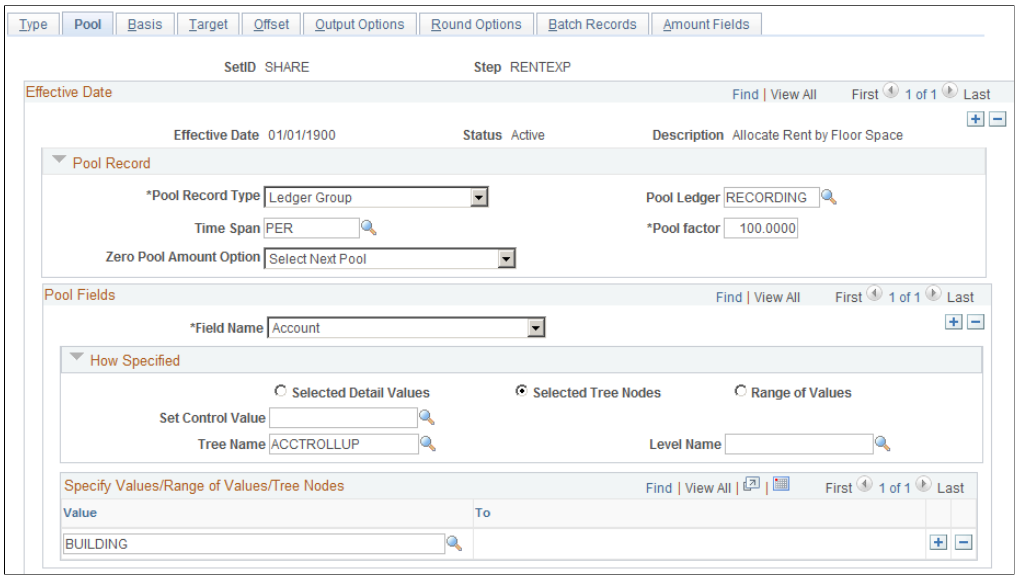
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[配賦], [配賦の定義と実行], [配賦ステップ定義], [配賦元]

画像: 配賦ステップ定義 - 配賦元ページ

次の例では、配賦ステップ定義 - 配賦元ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



配賦元レコード タイプ

次のうち 1 つを指定します。

- 一般会計の配賦元レコードを指定する場合は、*[元帳グループ]* を選択し、元帳グループ名を入力します。
- プロジェクト コスト管理の配賦元レコードを定義する場合は、*[任意のテーブル]* を選択し、テーブル名を入力します。

  注: [配賦元レコード タイプ] フィールドに値 [任意のテーブル] を指定した場合は、提供される ALC_GL_P_TAO テーブルに必要となるフィールドを追加します。

- 特定の金額を配賦元にする場合は、*[固定額]* を選択します。通常、配賦元金額は元帳の金額に基づきますが、器具/備品の費用 40000.00 GBP を部門間で配賦する場合のように、任意の固定額を基準とすることもできます。金額フィールド ページで固定額を指定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: 配賦プロセスでは、固定の配賦元金額を使用する場合に、配賦先および相殺の定義で通貨コントロール フィールド (FOREIGN_CURRRNCY や CURRENCY_CD など) を指定する必要はありません。
外貨: 配賦先および相殺の外貨は、配賦元の主元帳の基本通貨またはリクエストのビジネス ユニットの基本通貨にデフォルトで設定されます。配賦元の元帳グループを指定した場合は、配賦元の元帳グループの、主元帳の基本通貨が選択されます。配賦元の元帳グループが空白の場合は、リクエストのビジネス ユニットの基本通貨が取得されます。
基本通貨: 基本通貨は、配賦先および相殺のビジネス ユニットの基本通貨にデフォルトで設定されます。これによって、固定額を使用してユニット間配賦ステップを設定し、結果を異なるビジネス ユニットに異なる基本通貨で配賦することが可能になります。

配賦元係数

配賦元金額に適用するパーセントを入力します。このオプションを使用すると、割合を使用して配賦元金額を自在に配賦できます。配賦元金額の 100% を超えた金額を配賦することも可能です。

タイムスパン

配賦元レコードの取得に使用する会計年および会計期間を、当期に相対した期間として指定します。配賦元に使用する会計期間を指定するための、単一または複数期間のタイムスパンを入力します。*[期間]* (当期アクティビティ) などの相対タイムスパンは、配賦リクエスト ページで指定した指定日に相対した金額を取得します。[タイムスパン] フィールドに値を指定する必要はありません。指定した場合は、指定した会計年および会計期間の配賦元金額のみが取得されます。このフィールドを空白のままにした場合は、全ての会計年および会計期間の全ての配賦元金額が取得されます。配賦元レコードに *[任意のテーブル]* を指定しており、配賦元レコードに FISCAL_YEAR と ACCOUNTING_PERIOD の両方のフィールドが含まれていない場合、ここでタイムスパン値を指定することはできません。

[配賦元レコード タイプ] フィールドに *[元帳グループ]* を指定した場合、会計年および会計期間は、ユニット別元帳 - 定義ページで元帳グループに定義したカレンダーによって決められます。[配賦元レコード タイプ] フィールドに *[任意のテーブル]* を指定した場合、会計年および会計期間は、タイム スパン ページで定義したカレンダーによって決められます。

複数期間のタイムスパンを指定した場合は、[基準タイムスパン]、[配賦先タイムスパン]、[基準スパン オプション]、[配賦先スパン Opt] の各フィールドに入力した値にかかわらず、全ての

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

期間の配賦元金額を合算して 1 つの配賦元金額が求められます。配賦元金額は、基準期間または配賦先期間に合わせて複数の期間に分割することができません。

注: PeopleSoft 配賦プロセスでは、期間 999 が除外されます。

配賦元ゼロの場合

次のオプションを 1 つ選択して、取得した配賦元レコードの金額がゼロである場合の続行方法を指定します。

- *[指定配賦元を計算]*: 配賦元がゼロの場合、金額の計算を続行します。
- *[次の配賦元を選択]*: 金額がゼロの配賦元レコードをスキップし、次の配賦元レコードを選択して処理します。
- *[処理中止]*: 金額がゼロの配賦元レコードが選択されたことを示すエラー メッセージを発行し、このエラーで配賦ステップを中止します。
- *[ゼロ行数はゼロで計算]* (行がない場合はゼロとして計算): [配賦元フィールド] で指定した選択条件とタイムスパンに基づいて選択された配賦元行がない場合、配賦プロセスはこれらの行を配賦元金額ゼロとして処理します。データベースに存在する行については、*[指定配賦元を計算]* と同様に処理されます。このオプションを使用する場合、配賦元に使用する選択条件フィールドはいずれも、明示的に定義する必要があります。たとえば、配賦先ページ/相殺ページで、あるフィールドのコピー元として配賦元と基準のグループが定義されている場合は、このフィールドが配賦元でも定義されている必要があります。

配賦プロセスは、配賦元レコードを選択する前に、配賦先フィールドと相殺フィールドの指定方法に基づいて配賦元レコードをグループ化します。配賦元ゼロの場合のロジックは、配賦元レコード グループの合計金額がゼロの場合にのみ使用されます。個別の配賦元金額にゼロのものがあっても、配賦元レコード グループの合計がゼロでなければ、この配賦レコード グループは処理されます。

フィールド名

[配賦元フィールド] グループ ボックス内に、PeopleSoft 配賦プロセスが配賦元レコードから特定の配賦元行のみを選択するために使用するフィールド名を入力します。配賦元レコード タイプが元帳グループである場合、配賦元レコード名は、元帳グループの元帳テンプレートに定義されている元帳レコード名です。[フィールド名] プロンプト テーブルには、配賦元レコードに含まれる全てのフィールドがリストされます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

[配賦元フィールド] グループ ボックスで指定した選択条件とタイムスパンに基づいて選択された配賦元行がない場合、[配賦元ゼロの場合] フィールドで *[ゼロ行数はゼロで計算]* を指定していなければ、PeopleSoft 配賦プロセスはこのステップをスキップします。[[配賦元] のレコード行が存在しません。] というメッセージを表示し、これが複数ステップのグループである場合は、グループ内の次のステップの処理を続行します。

後続の [指定方法] グループ ボックスに適切なオプションを指定するか、説明されている 3 つの方法の組合せを選択し、選択したフィールド名に値を指定する方法を決定します。

BUSINESS_UNIT フィールド値を明示的に指定しない場合は、配賦リクエスト ページで指定されているビジネス ユニットを使用して配賦元行が選択されます。

注: 将来チャートフィールド値が変更された場合の管理作業を減らすために、可能であればツリーを使用します。

選択した詳細値

1 番目の [値/値の範囲/ツリー ノードの指定] 編集ボックスをアクティブ化し、特定の部門や勘定科目などの個々の配賦元フィールド値をリストできるようにします。

選択したツリー ノード

ツリー情報フィールドをアクティブ化し、ノードを選択するツリーを指定できるようにします。[レベル名] フィールドはオプションであり、プロンプトを選択したレベルにまで制限するために使用します。

[セット コントロール値] フィールドを使用して、セットID をキーとしていないツリーを選択します。たとえば、一部のプロジェクト コスト管理ツリーはビジネス ユニットをキーとしています。値は [ツリー名] フィールドで使用可能なツリーを識別するために使用されます。

値の範囲

[値/値の範囲/ツリー ノードの指定] 編集ボックスをアクティブ化し、配賦元の開始および終了フィールド値を入力できるようにします。開始の [値] フィールドを空白のままにした場合は、[終了] フィールドの値以下の全ての配賦元フィールド値が選択されます。空白値は常に最小の値であるため、[終了] フィールドを空白のままにすることはできません。値の範囲は複数挿入できます。

包含/除外

このオプションは、[値の範囲] を入力するように選択した場合に表示されます。*[指定の値を除く]* を選択して、配賦元から除外する値の範囲を指定します。*[指定の値を含める]* を選択して、配賦元に包含する値の範囲を指定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

例外

[例外] 列のリンクをクリックして、配賦元例外ページにアクセスします。このページの包含値または除外値の関連範囲に対する例外を定義します。このリンクは、指定した値の範囲に定義した例外の数を表示します。

配賦元例外ページ

包含値または除外値の範囲に例外を定義できるので、行やステップの数を増やすことなく、選択条件を詳細に設定することができます。

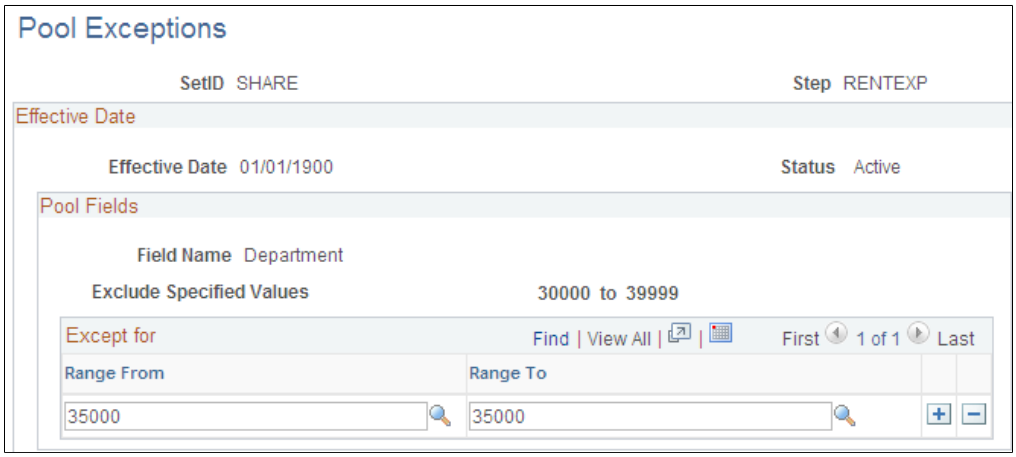
配賦元例外ページ (ALLOC_POOLX) を使用して、値の範囲の配賦元例外を入力します。

ナビゲーション

配賦ステップ定義 - [値の範囲] オプションの [例外] リンクを選択して、値の範囲を指定し、配賦ステップ定義 - 配賦元ページの [例外] 列のリンクをクリックします。

画像: 配賦元例外ページ

次の例では、配賦元例外ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



[範囲開始] と [終了]

包含値または除外値の関連範囲に対する例外の値の範囲を入力します。配賦元ページの [包含/除外] オプションで *[指定の値を含める]* フィールドを選択した場合、このページで定義する例外は、入力した包含範囲に対する例外になります。配賦元ページの [包含/除外] オプションで *[指定の値を除く]* フィールドを選択した場合、このページで定義する例外は、入力した除外範囲に対する例外になります。

配賦ステップ定義 - 基準ページ

配賦ステップ定義 - 基準ページ (ALLOC_BASIS) を使用して、配賦の基準または配賦先への配賦元金額の配賦方法を決定します。

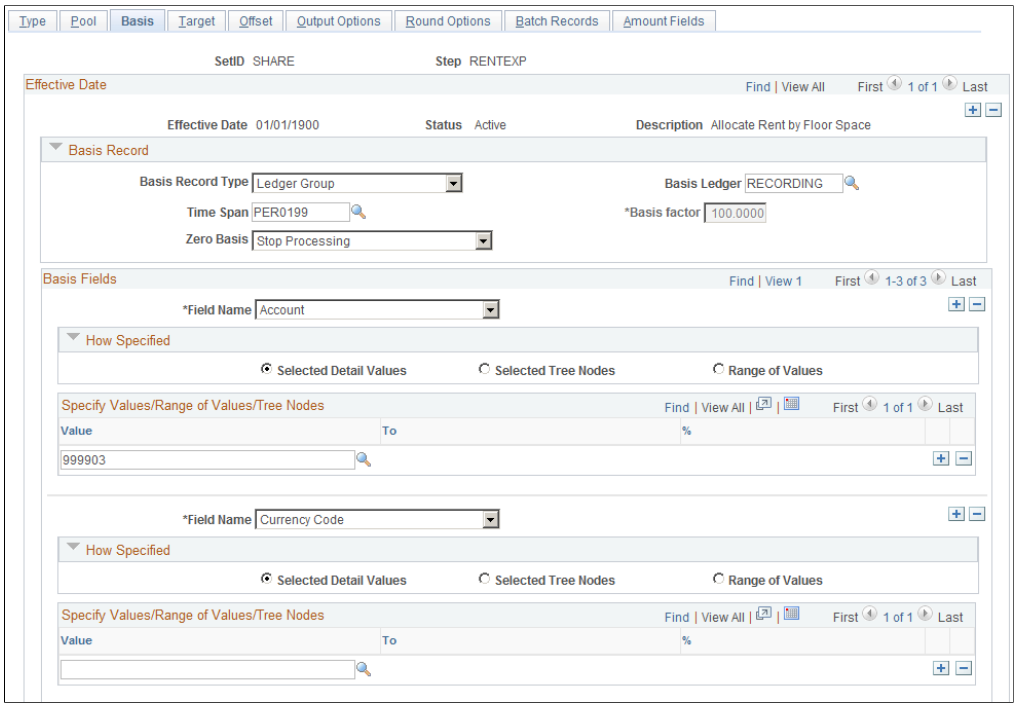
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[配賦]、[配賦の定義と実行]、[配賦ステップ定義]、[基準]

画像: 配賦ステップ定義 - 基準ページ

次の例では、配賦ステップ定義 - 基準ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



タイプ ページで選択した配賦タイプによって、基準ページの大部分が決まります。配賦タイプによる違いを次に説明します。

- *[コピー]*: 基準は必要ないため、基準ページの全てのフィールドは使用できません。
- *[均等配分]*: 配賦元金額は基準に指定した基準フィールド値間に均等に分割されます。指定した基準レコードに基準行が存在している必要はありません。ただし、[基準フィールド] グループ ボックスの [フィールド名] フィールドにプロンプト テーブル リストが表示されるようにするために、[基準レコード タイプ] フィールドに値を指定する必要があります。

  [指定方法] グループ ボックスでは、[選択した詳細値]、[選択したツリー ノード] または [値の範囲] の各フィールドを使用してフィールド値を指定できます。

  1 つ以上のフィールド名を指定できます。配賦元金額は全ての基準フィールド値の組合せに均等に分割されます。

  部門 ID 0100 と 0200、および製品 A、B、C に均等に分割するとします。この場合、部門と製品の組合せ (部門 ID 0100 と製品 A、部門 ID 0100 と製品 B など) ごとに、配賦元金額の 6 分の 1 が分配されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: これは、配賦タイプが均等配分の場合に、金額が複数の配賦先に配布される単純な例を示しています。ただし、端数配賦オプションに従って、配賦金額で配賦元を相殺するための端数が 1 つの部門に含まれる場合があります。端数の配賦については、端数処理オプションの選択に関するセクションの値の説明に含まれています。

「配賦ステップ定義 - 端数処理オプション ページ」を参照してください。

- *[固定基準の配賦]*: これは、比例の割合が固定された、比例配分配賦の一種です。*[均等配分]* では、指定した基準レコードに基準行が存在している必要はありません。ただし、基準フィールド名にプロンプト テーブル リストが表示されるようにするために、基準レコード タイプを指定する必要があります。

  基準フィールド値の指定に使用できるのは [選択した詳細値] フィールドのみであり、[フィールド名] フィールドには複数の値を指定できます。

  [値/値の範囲/ツリー ノードの指定] 編集ボックスの各フィールド値には、固定の [%] (パーセント) も指定する必要があります。1 つのフィールドのパーセントの合計が 100 パーセントになる必要はありませんが、それらのパーセントを使用して、各値の合計に対する実際のパーセントが計算されます。

  たとえば、部門 ID 0100 に 10 パーセント、部門 ID 0200 に 40 パーセントと指定した場合、配賦元金額の 20 パーセントが部門 ID 0100、80 パーセントが部門 ID 0200 に配賦されます。

- *[レコード基準の比例配分]*: 配賦元と同じ方法で基準フィールドを指定します。基準レコードから基準行が選択され、それらの金額は配賦元金額を各配布先に配分するための、合計に対するパーセントの計算に使用されます。

- *[演算]*: *[レコード基準の比例配分]* のように、基準レコードから基準行が選択され、配賦元と同じ方法で基準を指定します。配賦先金額は、各配賦元と基準の金額間で演算を実行することで計算されます。

たとえば、US004 の11 月のレンタル経費合計 110,000.00 USD が、管理事業部によって支払われたとします。この経費を 6 つの事業部に分割する必要があります。レンタル経費の配賦基準は、各事業部が毎月占有する床面積の広さです。床面積は統計科目 999903 で管理されています。部門 ID は、MFG_DEPARTMENTS ツリー、DIVISION ツリー レベル、および USA ツリー ノードを使用して定義されています。次の表には、各事業部が使用している床面積を示しています。

事業部	***床面積***	***事前配賦経費***
管理	4000	110000 USD
セールス/マーケティング	4000	
顧客サービス	2000	
設計管理	4000	
生産管理	6000	

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

事業部	*床面積*	*事前配賦経費*
その他 (部門値なし)	2000	
合計	22,000 平方フィート	110000 USD

金額が配賦されると、占有率に応じてレンタル経費が各事業部の借方に記入されます。

事業部	*床面積*	*配賦経費*
管理	4000	20000 USD
セールス/マーケティング	4000	20000 USD
顧客サービス	2000	10000 USD
設計管理	4000	20000 USD
生産管理	6000	30000 USD
その他 (部門値なし)	2000	10000 USD
合計	22000 平方フィート	110000 USD

基準レコード タイプ

次の値から選択します。

- *[元帳グループ]*: 一般会計の基準レコードを指定する場合はこれを選択し、基準元帳名を入力します。
- *[任意のテーブル]*: プロジェクト コスト管理の基準レコードを定義する場合はこれを選択し、テーブル名を入力します。

タイムスパン

配賦タイプがレコード基準の比例配分または演算である場合は、基準タイムスパンを指定します。基準タイムスパンは、配賦元タイムスパンと同じように機能します。ただし、複数期間の配賦先タイムスパンも指定している場合に、オプション (基準スパン オプション) を選択して、複数期間の基準タイムスパンに合わせて基準金額を合算または分割できる点が異なります。

基準係数

基準に適用するパーセントを指定します。係数は演算にのみ適用できます。

基準額ゼロ

配賦タイプがレコード基準の比例配分または演算であり、取得した基準レコードの金額がゼロである場合の続行方法を示すオプションを選択します。

- *[指定基準で計算]*: 基準がゼロの場合に金額の計算を続行しますが、演算 - 除算は例外です。この場合はエラー メッセージを発行し、この配賦ステップを中止します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *[次基準を選択]*: 金額がゼロの基準レコードをスキップし、次の基準レコードを選択して処理します。
- *[処理中止]*: 金額がゼロの基準レコードが選択されたことを示すエラー メッセージを発行し、このエラーで配賦ステップを中止します。
- *[ゼロ行数はゼロで計算]* (行がない場合はゼロとして計算): [基準フィールド] フィールドで指定した選択条件とタイムスパンに基づいて選択された基準行がない場合、配賦プロセスはこれらの行を基準金額ゼロとして処理します。データベースに存在する行については、*[指定基準で計算]* フィールド値と同様に処理されます。

このオプションを使用する場合、基準に使用する選択条件フィールドはいずれも、明示的に定義する必要があります。たとえば、配賦先ページ/相殺ページで、あるフィールドのコピー元として配賦元と基準のグループが定義されている場合は、このフィールドが基準でも定義されている必要があります。

PeopleSoft 配賦プロセスは、基準レコードを選択する前に、配賦先フィールドと相殺フィールドの指定方法に基づいて基準レコードをグループ化します。[基準額ゼロ] オプション ロジックは、基準レコード グループの合計金額がゼロの場合にのみ使用されます。個別の基準金額にゼロのものがあっても、基準レコード グループの合計がゼロでなければ、この基準レコード グループは処理されます。[基準額ゼロ] オプションは、[配賦元ゼロ] オプションとは別に動作します。それらには異なるオプションを選択することができ、その選択に基づいて処理が続行されます。

[基準フィールド] フィールドで指定した選択条件とタイムスパンに基づいて選択された基準行がない場合、[基準額ゼロ]オプション フィールドで *[ゼロ行数はゼロで計算]* オプションを選択していなければ、配賦プロセスはこのステップを中止します。[[基準] のレコード行が存在しません...] というメッセージが表示され、グループ内の次のステップの処理が続行するかどうかは、配賦グループ ページの [続行] フィールドで指定したオプションによって決まります。

フィールド名

PeopleSoft 配賦プロセスが基準レコードから特定の行のみを選択する際に使用する基準フィールド名を入力します。BUSINESS_UNIT フィールド値を明示的に指定しない場合は、配賦リクエスト ページで指定されているビジネス ユニットを使用して基準行が選択されます。

基準 ページのその他のフィールドの説明については、配賦元ページを参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: 配賦では、基準で要約元帳を使用することはできません。

基準例外ページ

包含値または除外値の範囲に例外を定義できるので、行やステップの数を増やすことなく、選択条件を詳細に設定することができます。

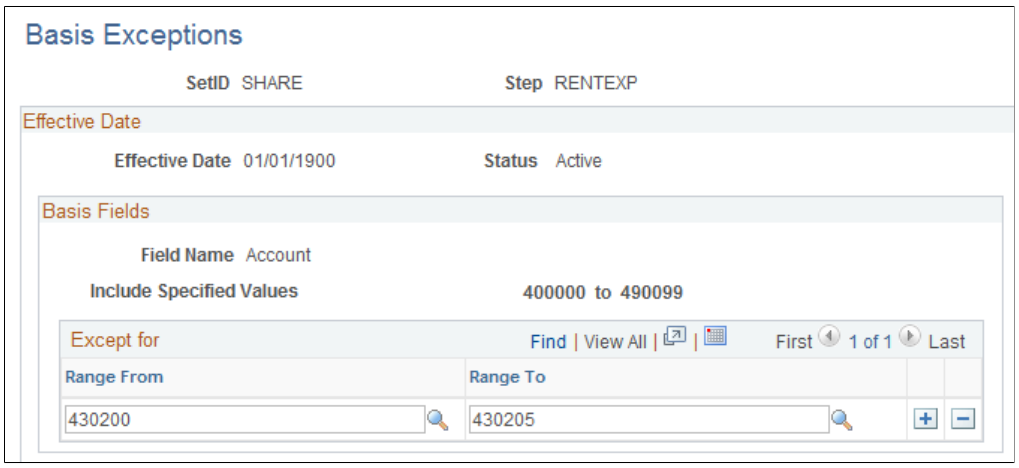
基準例外ページ (ALLOC_BASISX) を使用して、基準例外範囲を入力します。

ナビゲーション

[値の範囲] オプションを選択して、値の範囲を指定し、配賦ステップ定義 - 基準ページの [例外] 列のリンクをクリックします。

画像: 基準例外ページ

次の例では、基準例外ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



[範囲開始] と [終了]

包含値または除外値の関連範囲に対する例外の値の範囲を入力します。基準ページの [包含/除外] オプションで *[指定の値を含める]* フィールドを選択した場合、このページで定義する例外は、入力した包含範囲に対する例外になります。基準ページの [包含/除外] オプションで *[指定の値を除く]* フィールドを選択した場合、このページで定義する例外は、入力した除外範囲に対する例外になります。

配賦ステップ定義 - 配賦先ページ

配賦ステップ定義 - 配賦先ページ (ALLOC_TARGET) を使用して、配賦の配賦先または配賦先レコード (仕訳またはテーブル) と配賦先フィールドの値を定義します。

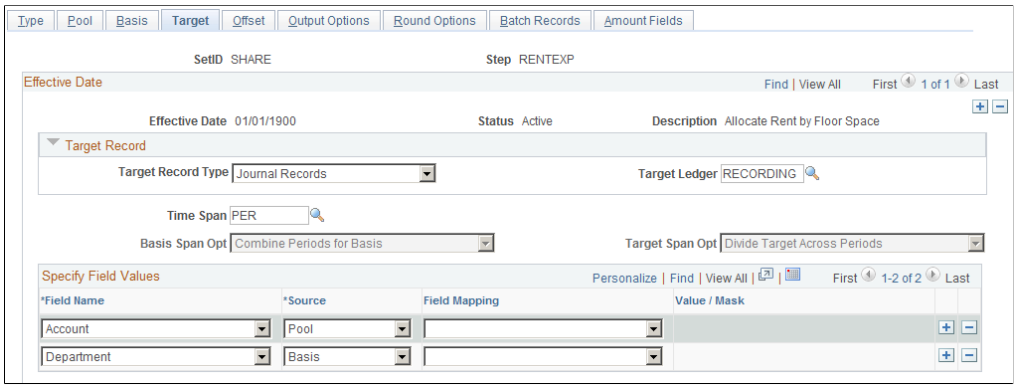
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[配賦]、[配賦の定義と実行]、[配賦ステップ定義]、[配賦先]

画像: 配賦ステップ定義 - 配賦先ページ

次の例では、配賦ステップ定義 - 配賦先ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



配賦先レコード タイプ

以下のいずれかを選択します。

- *[仕訳レコード]* に、配賦先元帳グループ名を指定します。システムはこの定義を使用して、元帳行レコード名とその他の特性 (カレンダー、複数帳簿、基本通貨など) を判別します。
- 配賦先が *[任意のテーブル]* の場合は、使用可能になった編集ボックスにテーブル名を指定します。

タイムスパン

配賦先の単一または複数の会計期間の出力を指定するために使用します。*[期間]* (当期アクティビティ) などの相対タイムスパンは、配賦リクエスト ページで指定した指定日に相対した配賦先を作成します。

[配賦先レコード タイプ] の値が *[仕訳レコード]* である場合は、タイムスパン値を指定する必要があります。

配賦先レコードが FISCAL_YEAR と ACCOUNTING_PERIOD の両方のフィールドを持つテーブルである場合は、タイムスパン値を指定することもできます。

配賦先レコードが FISCAL_YEAR と ACCOUNTING_PERIOD の両方のフィールドを持たないテーブルである場合は、タイムスパン値を指定することができません。タイムスパン値を指定しない場合は、配賦先レコードの FISCAL_YEAR と ACCOUNTING_PERIOD の両方にゼロ値が移入されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

基準スパン オプション

基準と配賦先に複数期間のタイムスパンを使用する場合は、[基準スパン オプション] フィールドに次のうち 1 つを選択します。

- *[期間合計基準]*: タイムスパンで定義した各期間の基準金額を 1 つの仮想期間の単一の金額に合計します。
- *[期間別分割基準]*: 各期間の基準金額と配賦先期間を 1 対 1 でマップします。そのため、基準と配賦先のタイムスパンに含まれる期間の数が一致している必要があります。このオプションを選択すると、[配賦先スパン Opt] フィールドは非アクティブ化されます。

配賦先スパン Opt (配賦先スパン オプション)

配賦先に複数期間のタイムスパンを選択し、基準タイムスパンが単一期間または複数期間 ([基準スパン オプション] フィールドが *[期間合計基準]*) のいずれかである場合は、[配賦先スパン Opt] フィールドを指定する必要があります。

- *[配賦先を各期間で反復]*: タイムスパンで定義した各期間に配賦先金額全体を反復します。
- *[配賦先を各期間で分割]*: 配賦先金額をタイムスパンで定義した期間の数で割り、各期間に均等に配分します。

フィールド名

配賦先レコードが仕訳である場合、配賦先レコード名は、元帳グループの元帳テンプレートに定義されている実際の仕訳行レコード名です。[フィールド名] プロンプト テーブルには、配賦先レコードに含まれる全てのフィールドがリストされます。

この配賦ステップ定義を保存する際に、入力した [フィールド名] フィールド値とレコードが照合されます。通常は、配賦先レコードの必須フィールドを全て含めます。これには、全てのキーおよび機能に影響を与える全てのフィールドや、必須の可能性がある全てのフィールドが含まれます。

ソース

配賦先フィールドの値を簡単に入力できるようにします。配賦元レコードまたは基準レコードの値である場合は特に便利です。それらをここで再入力する必要はありません。プロンプト表示される次の適切なオプションから選択します。

- *[配賦元]*: 配賦元レコードのフィールド値を使用します。
- *[基準]*: 基準レコードのフィールド値を使用します。
- *[グループ]*: 配賦元レコードと基準レコードの両方から一致したフィールド値を使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *[値]*: 配賦先フィールドの固定値を指定します。これは、文字列型または日付型のフィールドにのみ使用できます。固定日は、mmddyy、mm/dd/yy、または mm/dd/yyyy のいずれかの形式で入力する必要があります。このオプションを選択した場合は、値を [値/マスク] フィールドに入力します。
- *[期首]*: 配賦先会計期間の開始日を使用します。このオプションを使用する場合は、配賦先のタイムスパンが移入される必要があります。そうしない場合、システムで日付値を入力することができません。
- *[終了期間]*: 配賦先会計期間の終了日を使用します。このオプションを使用する場合は、配賦先のタイムスパンが移入される必要があります。そうしない場合、システムで日付値を入力することができません。
- *[リクエスト日]*: 配賦リクエスト ページで指定した指定日を使用します。
- *[連番]*: 配賦先レコードの次のフィールド連番を使用します。配賦プロセスは、指定された配賦先条件の連番の最大値を選択し、その数値を 1 増やします。このオプションは、[配賦先レコード タイプ] フィールドの値が *任意のレコード* である場合に使用します。

フィールド マッピング

コピー元が *[配賦元]*、*[基準]*、または *[グループ]* であり、配賦元レコードまたは基準レコードのフィールド名が配賦先レコードのフィールド名と異なる場合は、フィールド マッピングを指定できます。たとえば、配賦先レコードの [製品] フィールド値に配賦元レコードの [プロジェクト] フィールド値をコピーする場合などに行います。

値/マスク

[ソース] フィールドに固定値を指定した場合、文字列型または日付型のフィールドには、この [値/マスク] フィールドを使用します。固定日は、mmddyy、mm/dd/yy、または mm/dd/yyyy のいずれかの形式で入力できます。

配賦ステップ定義 - 相殺ページ

相殺ページ (ALLOC_OFFSET) を使用して、配賦先の貸借を一致させる相殺入力を定義します。

相殺は通常、配賦先に振り替えられた配賦元金額の決済を反映します。ただし、配賦先レコードが貸借一致した元帳でない (予算元帳などの) 場合、通常は相殺されません。

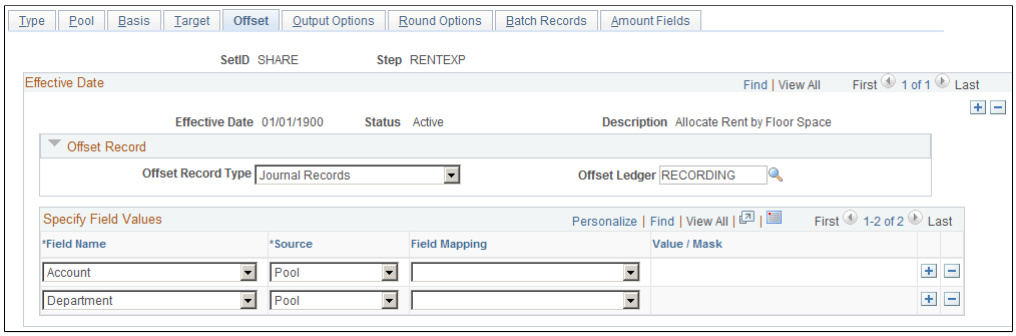
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[配賦]、[配賦の定義と実行]、[配賦ステップ定義]、[相殺]

画像: 配賦ステップ定義 - 相殺ページ

次の例では、配賦ステップ定義 - 相殺ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



相殺レコード タイプ

[仕訳レコード] または *[任意のテーブル]* を選択します。仕訳の場合は、[相殺元帳] に名前を指定します。システムはこの定義を使用して、元帳行レコード名とその他の特性 (カレンダー、複数帳簿、基本通貨など) を判別します。[相殺レコード タイプ] フィールドの値がテーブルである場合は、使用可能になる [テーブル] 編集ボックスにレコード名を指定します。

注: 配賦ステップに相殺の必要がない場合は、このフィールドを空白のままにします。

フィールド値指定

相殺フィールドの値を指定します。相殺フィールドを配賦元レコードまたは特定のテーブルに割り当てることは可能ですが、相殺の目的は常に、二重計算を防ぐことにあります。

関連リンク

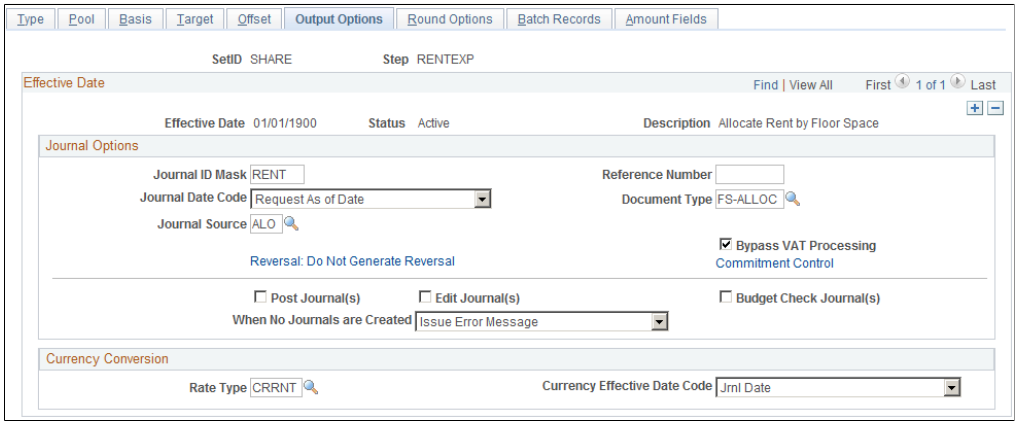
配賦ステップ定義 - 配賦先ページ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

配賦ステップ定義 - 出力オプション ページ

画像: 配賦ステップ定義 - 出力オプション ページ

次の例では、配賦ステップ定義 - 出力オプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



仕訳オプション

仕訳 ID マスク

配賦先または相殺が配賦の配賦先ページまたは配賦の相殺ページ上の仕訳である場合は、仕訳オプションを指定する必要があります。

[仕訳 ID マスク] フィールドでは、配賦仕訳の命名にプレフィックスを指定できます。仕訳は 10 桁の英数字の ID によって識別されます。仕訳 ID には、指定したプレフィックスが自動的に追加されます。たとえば、仕訳 ID マスクに *[ALLOC]* を指定した場合、配賦仕訳 ID は、ALLOC00001、ALLOC00002 などとなります。代わりに、値 *[NEXT]* を指定すると、次に使用可能な仕訳 ID 番号が自動的に割り当てられます。

配賦用に一意のマスク値を予約することで、他のプロセスが同じ仕訳 ID を作成しないようにします。

仕訳日コード

次のオプションに基づいて値を割り当てることができますが、翌日が次の期間に入る場合は全て、前の営業日に調整されます。

- *[指定日]*: 配賦リクエスト ページで指定した指定日を使用します。その結果、全ての仕訳には配賦リクエストと同じ日が指定されます。ビジネス カレンダー ページで定義したカレンダー上の営業日ではない日を指定日として使用した場合は、カレンダー上の次の営業日に調整されます。
- *[期首]*: 配賦先タイムスパンで定義されている期間の開始日を使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *[期末]*: 配賦先タイムスパンで定義されている期間の終了日を使用します。

注: 配賦先に複数期間のタイムスパンを使用する場合は、*[期首]* または *[期末]* のいずれかの仕訳日オプションを使用する必要があります。

ソース

仕訳ソースを入力します。指定しない場合、仕訳ソースはデフォルトで *[ALO]* (配賦) に移動します。

逆仕訳

逆仕訳入力ページにアクセスします。

適用対象オプションを選択すると、リンクに表示され、現在の配賦に逆仕訳入力を設定できます。

オプションは、次のとおりです。

- *[翌期首]*: 次の会計期間の最初の営業日が設定された逆仕訳入力を作成します。一般会計定義 - 定義ページでビジネス ユニットに割り当てたビジネス カレンダーを使用して、最初の営業日が決定されます。
- *[逆仕訳を作成しない]*: PeopleSoft 配賦プロセスは逆仕訳入力を作成しませんが、配賦仕訳に逆仕訳コードでマークを付けます。後に別のプロセスによって配賦仕訳が転記されると、逆仕訳入力が作成されます。
- *[翌期末]*: 次の会計期間の最終営業日が設定された逆仕訳入力を作成します。一般会計定義 - 定義ページでビジネス ユニットに割り当てたビジネス カレンダーを使用して、最終営業日が決定されます。
- *[翌営業日]*: 翌営業日が設定された逆仕訳入力を作成します。一般会計定義 - 定義ページでビジネス ユニットに割り当てた休日リスト ID を使用して、翌営業日が決定されます。ビジネス ユニットに休日リスト ID が割り当てられていない場合、逆仕訳入力には翌日が設定されます。
- *[調整期間]*: 選択した調整期間に逆仕訳入力を作成します。ドロップダウン リストをクリックして、([詳細カレンダー] で定義した) 有効な調整期間のリストを表示します。このオプションを選択した場合は、[逆仕訳日] も入力する必要があります。逆仕訳日の値は、逆仕訳入力の仕訳日と会計年の入力に使用されます。
- *[ユーザー指定日付]*: カレンダー上の任意の日付を選択できるようになります。このオプションを選択した場合は、調整期間と逆仕訳日も入力する必要があります。営業日ではない

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

日付を入力し、ビジネス ユニットに休日リスト ID が割り当てられている場合は、エラー メッセージが表示されます。逆仕訳日はリセットされません。営業日である日付を再入力する必要があります。

参照番号

各仕訳から、ドキュメントや個人、請求書、日付、または取引のソースを追跡するために役立つその他の情報を参照できるようになります。

ドキュメント タイプ

ドキュメント連番が有効化されているビジネス ユニットに対して PeopleSoft 配賦プロセスを実行している場合は、ドキュメント タイプを選択する必要があります。ドキュメント タイプを選択しないと、エラーが表示されます。一部のビジネス ユニットがドキュメント連番を必要としている場合は、そのビジネス ユニットでドキュメント連番を有効化するかどうかにかかわらず、配賦ルールにドキュメント タイプを割り当てます。どのビジネス ユニットにもドキュメント連番を有効化しない場合、[ドキュメント タイプ] フィールドは使用できません。

消費税処理を省略

配賦プロセスで消費税処理をスキップする場合にクリックします。

[消費税処理を省略] を選択しない場合でも、配賦によって作成され編集された仕訳では、消費税適用対象勘定科目に消費税行が作成されません。消費税処理では、配賦プロセスによって作成された消費税勘定科目を処理します。

ただし消費税処理では、二重計算を防ぐために、配賦によって作成された消費税適用対象勘定科目に消費税行を作成しません。

仕訳転記

仕訳を転記します。このオプションを選択した場合は、[仕訳編集] と [仕訳の予算チェック] の各チェック ボックスが自動的に選択されます。後から予算プロセッサを実行してコミットメント コントロール元帳を更新する場合は、[仕訳の予算チェック] チェック ボックスの選択を解除できます。

仕訳編集

PeopleSoft 配賦プロセスが作成した仕訳を編集します。これにより、後から別のプロセスで編集する必要がなくなります。このオプションは、仕訳を転記せずに編集する場合に選択します。このオプションは通常、複数ステップの配賦プロセスにおいて、次のステップに渡す配賦元金額が前のステップの配賦先から渡される場合に選択します。仕訳を転記しない場合、元帳は更新されません。そのため、複数ステップの次のステップは、元帳から間違ったデータを取得します。このオプションを選択した場合、PeopleSoft 配賦プロセスは最初に仕訳編集処理 (GL_JEDIT) を呼び出して、仕訳を編集します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

仕訳プロセスで仕訳が失敗した場合、仕訳は元帳に転記されず、PeopleSoft 配賦プロセスは [配賦ステップ...は完了し、仕訳は作成されましたが、転記されませんでした。] というエラーメッセージを発行します。仕訳編集プロセスでは、仕訳は無効なチャートフィールド、貸借一致チャートフィールド、またはチャートフィールド組合せ編集などのさまざまな理由で失敗します。問題の原因を判別できたら、これを防ぐために配賦ステップの定義を変更する必要があります。

仕訳の予算チェック

予算プロセッサを実行してコミットメント コントロール元帳の仕訳の予算チェックを行うには、このチェック ボックスを選択します。このオプションは、コミットメント コントロール元帳を有効化している場合にのみ使用できます。このオプションを選択した場合は、[仕訳編集] が自動的に選択されます。仕訳の予算チェックを行う前に、仕訳を編集する必要があります。

仕訳なしの場合

PeopleSoft 配賦プロセスの動作を指定します。

- [エラー メッセージの発生] タイプの仕訳なしメッセージを発行します。
- [警告メッセーシの発生] タイプの仕訳なしメッセージを発行します。

コミットメント コントロール

[コミットメント コントロール] リンクをクリックして、コミットメント コントロール ページにアクセスします。

[コミットメント コントロール金額タイプ] フィールドで、次のオプションを選択します。

実際/認識

支出の実際の金額または認識済収益取引を選択します。

エンカンバランス

仕訳が実際の取引ではない場合に選択します。代わりに、支払が承認された金額が記録されます。これは通常、契約または発注を作成する場合に発生します。

プレエンカンバランス

仕訳が実際の取引ではない場合に選択します。代わりに、支出を前提とした金額が記録されます。これは通常、調達を作成する場合に発生します。

回収済収入

仕訳に前回収益取引の回収済金額を記録する場合に選択します。

実際/認識/回収

収入見積予算元帳の認識金額と回収金額の両方を仕訳に記録する場合に選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

計画済 支出を計画している金額を仕訳に記録する場合に選択します。これは見積の金額であり、まだ実際の取引にはなっていません。

予算チェックの省略または上書き

[コミットメント コントロール] リンクをクリックして、コミットメント コントロール ページにアクセスします。

予算チェックを省略 このオプションを選択して、仕訳で予算チェックを省略することを一時的に許可します。このフィールドは、コミットメント コントロールを有効にした場合にのみアクティブになります。

上書き 選択した場合は、仕訳入力で予算金額を超えても、予算チェックに合格できるようになります。このフィールドには、上書きしたユーザー ID と上書き日付が表示されます。

予算入力タイプ

コミットメント コントロール予算仕訳には次のオプションが適用されます。

当初 当初の予算仕訳入力であることを示します。採用または承認された予算を記録するために使用します。

調整 当初の予算に対する調整であることを示します。

親予算オプション

*発生元の*仕訳には、親予算への影響の自動生成が関連しています。発生元の仕訳は、手動または仕訳インポート、あるいは配賦によって入力された子レベルの予算、予算調整、または振替予算仕訳であり、親または複数の親予算レベルへの影響が生成されます。

親予算の自動生成については、コミットメント コントロールのドキュメントで、予算の転記に関連して説明しています。

Generating Parent Budgets Budget Adjustments and Budget Transfers AutomaticallyPeopleSoft Commitment Controlを参照してください。

テーブル出力オプション

テーブル出力オプション 選択した配賦先または相殺レコードが配賦の配賦先ページまたは配賦の相殺ページで *[任意のテーブル]* に設定されている場合は、[テーブル出力オプション] フィールドが使用可能になり、*[既存金額を置換]* または *[既存金額の更新]* を選択できるようになります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

通貨換算

PeopleSoft 配賦プロセスは、通貨換算フィールドを使用して、配賦先および相殺の基本通貨金額を換算します。配賦先と相殺の基本通貨が配賦元の基本通貨と異なる場合、プロセスによって基本通貨が換算されます。テーブルに配賦する場合は、配賦先および相殺のビジネス ユニットが一般会計のビジネス ユニットである必要があります。そうでないと、基本通貨金額は換算されません。

レート タイプ 通貨換算の為替レート タイプを指定します。仕訳に配賦する際にレート タイプが空白である場合は、配賦先および相殺の元帳グループの主元帳からレート タイプが使用されます。テーブルに配賦する際にレート タイプが空白である場合、基本通貨金額は換算されません。

通貨の有効日コード 配賦について、次のうち 1 つを選択します。

- *[仕訳日]*
- *[指定日]*

関連リンク

Understanding Journal ProcessingPeopleSoft General Ledger
Understanding Document SequencingPeopleSoft Global Options and Reports

配賦ステップ定義 - 端数処理オプション ページ

端数処理オプション ページ (ALLOC_ROUND_OPTN) を使用して、配賦金額の端数処理および端数配賦の方法を定義します。

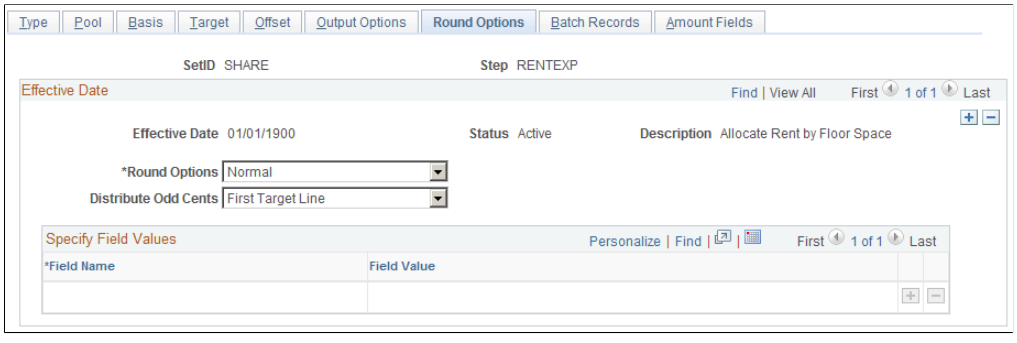
このオプションは、均等配分、固定基準の配賦、レコード基準の比例配分の配賦タイプにのみ有効です。

ナビゲーション

[配賦], [配賦の定義と実行], [配賦ステップ定義], [端数処理オプション]

画像: 配賦ステップ定義 - 端数処理オプション ページ

次の例では、配賦ステップ定義 - 端数処理オプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

端数処理オプション

配賦金額の端数処理に使用する方法を、次のオプションから指定します。

- *[四捨五入]*: これはデフォルトです。配賦金額の端数は、通貨コントロール値の小数部桁数に基づいて処理されます。たとえば、104.495 は 104.50 GBP に端数処理されます。
- *[切り捨て]*: 配賦金額の端数は、通貨コントロール値の小数部桁数に基づいて、最も近い小数まで切り捨てられます。たとえば、104.495 は 104.49 GBP に切り捨てられます。
- *[切り上げ]*: 配賦金額の端数は、通貨コントロール値の小数部桁数に基づいて、最も近い小数まで切り上げられます。たとえば、104.495 と 104.494 はいずれも 104.50 GBP に切り上げられます。
- *[打ち切り]*: 配賦金額の端数は、通貨コントロール値の小数部桁数までで打ち切られます。たとえば、104.495 と 104.4949 は 104.49 GBP に切り捨てられます。

端数配賦

比例配分、均等配分、および固定基準の各配賦タイプでは、配賦先および相殺の金額と配賦される配賦元金額の貸借を一致させます。つまり、配賦元金額の 100 パーセントを配賦先および相殺金額に配賦することを試みます。その場合に、端数が発生することがあります。[端数配賦] オプションを使用すると、端数の配賦先を自由に決められるようになります。パフォーマンス向上のため、配賦は 1 行ごとではなくセット ベースで処理されます。そのため、比例配分、均等配分、および固定基準の配賦タイプには、このオプションが必要です。

- *[先頭ターゲット行]*: これはデフォルトです。最初の配賦先行に端数を配賦します。
- *[チャートフィールド指定]*: 端数を配賦するチャートフィールドを定義します。
- *[最終ターゲット行]*: 最後の配賦先行に端数を配賦します。
- *[最大ターゲット行]*: 配賦先金額が最も大きい配賦先行に端数を配賦します。

定義の中で、チャートフィールド間の配賦またはチャートフィールドのグループ化が行われている場合、端数は各グループまたはチャートフィールド値に配賦されます。

注: 適正なパフォーマンスを維持できるように、最初の 2 つのオプションを選択することをお勧めします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

[フィールド名] と [フィールド値] [端数配賦] オプションに *[チャートフィールド指定]* を選択した場合は、端数を配賦するチャートフィールドの組合せを入力します。[フィールド名] フィールドにチャートフィールドを入力し、[フィールド値] フィールドにチャートフィールド値を入力します。たとえば、フィールド名に *[ACCOUNT]* を入力し、フィールド値に *[100000]* を入力します。

次の例では、このページで示したオプションの 1 つを選択した場合に、配賦金額の端数がどのように処理されるかを示します。

配賦タイプ 均等配分。

配賦元金額 1000.00 (通貨桁数 2、USD)。

配賦元係数 100.00。

基準 部門 ID: 11001、12000、13000、14000、15000、16000。

配賦先 勘定科目: 100000。

部門 ID: 基準の値を使用。

例 1

最初の例では、次のオプションを指定した場合に、配賦金額の端数がどのように処理されるかを示します。

端数配賦 チャートフィールド指定。

勘定科目: 100004。

部門 ID: 41000。

端数処理オプション 四捨五入。

次の式を使用して金額が計算されます。

配賦金額 = (配賦元金額 (配賦元係数/100)) (基準金額/基準合計)。

(1000 (1/6)) = 166.67 端数処理済。

勘定科目	*部門 ID*	*配賦済金額*
100000	11001	166.67
100000	12000	166.67
100000	13000	166.67
100000	14000	166.67

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

勘定科目	*部門 ID*	*配賦済金額*
100000	15000	166.67
100000	16000	166.67
100004	41000	-0.02

例 2

2 番目の例では、次のオプションを指定した場合に、配賦金額の端数がどのように処理されるかを示します。

端数配賦 最終ターゲット行。

端数処理オプション 切り上げ。

次の式を使用して金額が計算されます。

配賦金額 = (配賦元金額 (配賦元係数/100)) (基準金額/基準合計) + .005。

(1000 (1/6)) = 166.67 端数処理済。

勘定科目	*部門 ID*	*配賦済金額*
100000	11001	166.67
100000	12000	166.67
100000	13000	166.67
100000	14000	166.67
100000	15000	166.67
100000	16000	166.65

例 3

3 番目の例では、次のオプションを指定した場合に、配賦金額の端数がどのように処理されるかを示します。

端数配賦 最大ターゲット行。

端数処理オプション 切り捨て。

次の式を使用して金額が計算されます。

配賦金額 = (配賦元金額 (配賦元係数/100)) (基準金額/基準合計) - .005。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

(1000 (1/6)) = 166.67 端数処理済。

勘定科目	*部門 ID*	*配賦済金額*
100000	11001	166.70
100000	12000	166.66
100000	13000	166.66
100000	14000	166.66
100000	15000	166.66
100000	16000	166.66

関連リンク

配賦ステップ定義 - 端数処理オプション ページ

配賦ステップ定義 - バッチ レコード ページ

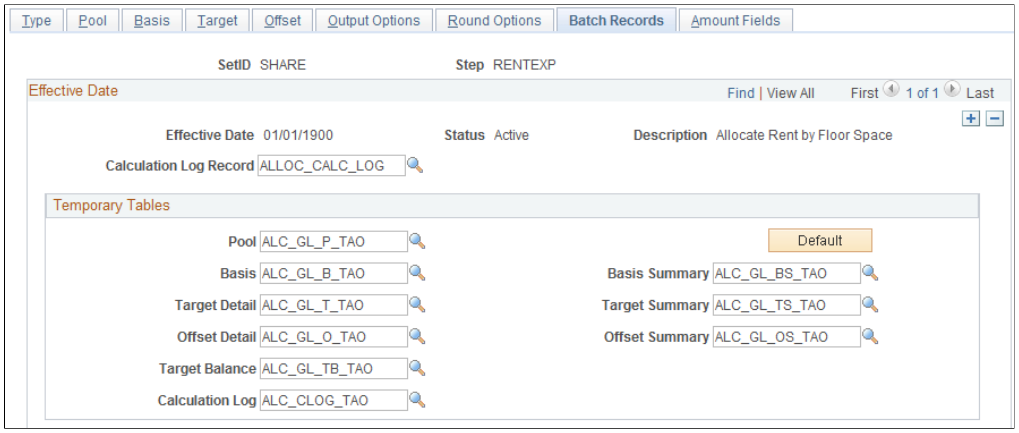
バッチ レコード ページ (ALLOC_RECNAME) を使用して、PeopleSoft 配賦プロセスで使用するバッチ一時テーブルを指定します。

ナビゲーション

[配賦]、[配賦の定義と実行]、[配賦ステップ定義]、[バッチ レコード]。

画像: 配賦ステップ定義 - バッチ レコード ページ

次の例では、配賦ステップ定義 - バッチ レコード ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



計算ログ レコード デバッグのための完全なオーディット トレールの計算ログを作成します。配賦リクエスト ページで [計算ログ作成] オプションを選択します。実績元帳に対して処理される全ての配賦ステップに

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

は、提供される計算ログ レコードの ALLOC_CALC_LOG を使用できます (予算元帳の場合は実績元帳と異なるチャートフィールドが含まれている可能性があるため、対象外です)。配賦が実績元帳に対して処理されない場合は、[計算ログ レコード] フィールドを変更するか、一意のレコードを作成します。

配賦元 配賦元データの一時テーブルを指定します。PeopleSoft 配賦プロセスは、このテーブルを使用して配賦元の一時データを保存します。

基準 基準データの一時テーブルを指定します。PeopleSoft 配賦プロセスは、このテーブルを使用して基準の一時データを保存します。

配賦先詳細 配賦先詳細データの一時テーブルを指定します。PeopleSoft 配賦プロセスは、このテーブルを使用して配賦先の一時データを保存します。

配賦先サマリ 配賦先サマリ データの一時テーブルを指定します。PeopleSoft 配賦プロセスは、このテーブルを使用して配賦先と相殺のサマリ データを保存します。

相殺詳細 相殺詳細データの一時テーブルを指定します。仕訳に配賦する際に、相殺データを保存するために個別の一時テーブルが使用されることがあります。

相殺サマリ [相殺サマリ] データの一時テーブルを指定します。データは配賦先レコードまたは仕訳から要約されます。仕訳に配賦する際に、相殺サマリ データを保存するために個別の一時テーブルが使用されることがあります。

配賦先残高 配賦先残高データの一時テーブルを指定します。PeopleSoft 配賦プロセスは、このテーブルを使用して、配賦先と相殺を配賦元金額に対して貸借一致させるために必要な配賦先残高行を保存します。

計算ログ 計算ログに一時テーブル (ALC_CLOG_TAO) を指定します。

デフォルト [デフォルト] ボタンをクリックしてデフォルトの一時テーブルを割り当てます。配賦元、基準、配賦先、および相殺の設定に基づいて一時テーブルが割り当てられます。

これらの標準一時テーブル (TAO) は、PeopleSoft が提供します。

一時テーブル	*一般会計*	*プロジェクト*
計算ログ	ALC_CLOG_TAO	ALC_CLOG_TAO

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

一時テーブル	*一般会計*	*プロジェクト*
配賦元	ALC_GL_P_TAO	ALC_PC_P_TAO
基準	ALC_GL_B_TAO	ALC_PC_B_TAO
基準サマリ	ALC_GL_BS_TAO	ALC_PC_BS_TAO
配賦先詳細	ALC_GL_T_TAO	ALC_PC_T_TAO
配賦先サマリ	ALC_GL_TS_TAO	ALC_PC_TS_TAO
相殺詳細	ALC_GL_O_TAO	ALC_PC_T_TAO
相殺サマリ	ALC_GL_OS_TAO	ALC_PC_TS_TAO
配賦先残高	ALC_GL_TB_TAO	ALC_PC_TB_TAO

標準の一般会計 TAO テーブルを使用して、元帳 (全ての元帳、コミットメント コントロール、プロジェクト、予算を含む) および仕訳データを配賦します。

標準のプロジェクト コスト管理 TAO テーブルを使用して、プロジェクト リソース データを配賦します。

注: PeopleSoft 配賦プロセスでは、仕訳への配賦の際に、処理のパフォーマンスを最適化するために相殺詳細と相殺サマリ データ用の個別の一時テーブルを使用することがあります。個別の一時テーブルを使用する必要があるかどうかは、実行時に決まります。相殺の詳細とサマリに異なるテーブルを指定したにもかかわらず、相殺データを処理するための個別の一時テーブルが使用されない場合があります。プロジェクト管理用の相殺詳細と相殺サマリの各 TAO テーブルは提供されません。これらのテーブルは仕訳への配賦に使用されないためです。

提供される標準の TAO テーブルを使用することをお勧めします。

注: [配賦元レコード タイプ] フィールドに値 [任意のテーブル] を指定した場合は、提供される ALC_GL_P_TAO テーブルに必要となるフィールドを追加します。

独自のカスタマイズされた TAO テーブルを使用する場合は、提供される TAO テーブルをモデルとして使用します。TAO テーブルを作成するには、提供される TAO テーブルを開き、別名で保存します。次のフィールドが必要です。

- PROCESS_INSTANCE、LOGICAL_RECORDS、BUSINESS_UNIT、BUSINESS_UNIT_IU。
- 勘定科目や部門 ID など、プロセスに適用されるチャートフィールド。
- 配賦される金額に適用される金額フィールドと通貨コントロール フィールド。

  これに
  は、ALLOC_POOL_AMT、ALLOC_POOL_PBA、ALLOC_POOL_PTR、ALLOC_BASIS_AMT、ALLOC_BASIS
  といった、計算ログの配賦元および基準金額フィールドも含まれている必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- ユニット間処理に必要なフィールド IU_TRAN_GRP_NBR および IU_ANCHOR_FLG。
- ユニット内処理に必要なフィールド CF_VALUE1 から CF_VALUE10。
- 基本通貨の換算に必要なフィールド BASE_CURRENCY_POOL、RATE_MULT、RATE_DIV。
- タイムスパンに必要なフィールド ACCOUNTING_PERIOD、FISCAL_YEAR。
- 設定に適用されるその他のフィールド。

  たとえば、特定の元帳に配賦する場合は、TAO テーブルにフィールド LEDGER を追加します。

注: PeopleSoft 配賦プロセスでは、パフォーマンス向上のために、全ての TAO テーブルに専用の一時テーブルを使用することを試行します。独自の TAO テーブルを使用している場合は、PeopleSoft アプリケーション デザイナで作成した専用の一時テーブルを使用し、レコード タイプを一時テーブルとして定義します。PeopleSoft 配賦プロセス (FS_ALLC) の定義内に一時テーブルを定義します。

関連リンク

配賦ステップ定義 - 基準ページ
The Background Process ModelPeopleSoft General Ledger

配賦ステップ定義 - 金額フィールド ページ

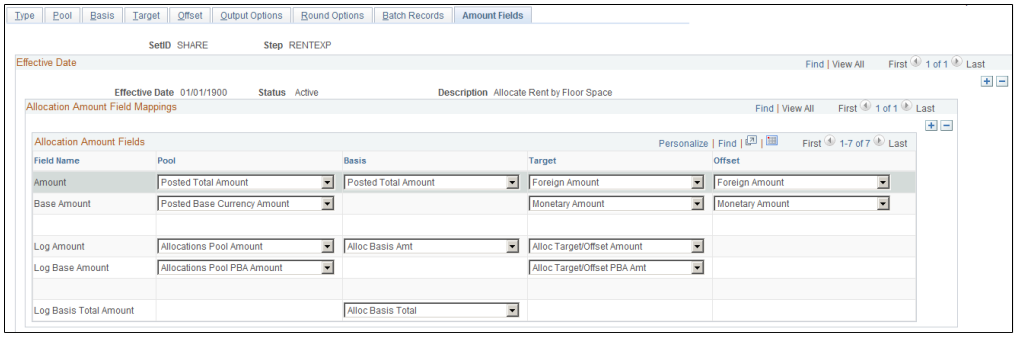
金額フィールド ページ (ALLOC_AMOUNT) を使用して、配賦元、基準、配賦先、相殺のレコード間での金額フィールドのマッピングを定義します。

ナビゲーション

[配賦], [配賦の定義と実行], [配賦ステップ定義], [金額フィールド]

画像: 配賦ステップ定義 - 金額フィールド ページ

次の例では、配賦ステップ定義 - 金額フィールド ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このページを使用して、選択した配賦元レコードに配賦元金額を保存するフィールド、選択した基準レコードに基準金額を保存するフィールド、および選択した配賦先レコードと相殺レコードに計算済金額を出力する場所を定義します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

配賦の実行対象となる金額フィールドのセットをいくつも指定することができます。たとえば、プロジェクトコスト管理では、同じ配賦プロセスでリソース金額フィールドとリソース数量フィールドの両方に配賦できます。配賦元リソース金額を基準リソース金額の合計に対する比率を使用して配賦することができ、配賦元リソース数量を基準リソース数量の合計に対する比率で配賦することができます。また、配賦元のリソース金額とリソース数量の両方を、基準リソース金額の合計に対する比率で配賦することもできます。このページを使用すると、配賦元レコードのフィールドから配賦先および相殺レコードのフィールドに金額を配布する方法を、自由に定義することができます。

基本通貨残高および個別の取引通貨残高の合計残高に関する情報は、一般会計から提供されます。基本通貨の合計残高を取得するには、転記済合計金額フィールドを使用します。個別の取引通貨残高を取得するには、[転記済取引金額] フィールドを使用します。[転記済取引金額] (POSTED_TRAN_AMT) フィールドと [転記済金額合計] (POSTED_TOTAL_AMT) フィールドは、元帳テーブルにあり、異なる通貨情報が保存されます。

次に示す簡単な例では、3 つの取引について、3 つの通貨 (1000 EUR、100 USD、1000 GBP) での合計が元帳に記録されています。基本通貨は USD であるとします。また、1 EUR は 1.10 USD と等しく、1 GBP は 1.58 USD と等しいとします。3 つの取引が記録されると、元帳の残高は次のようになります。

通貨	*転記済合計金額*	*転記済基本通貨額*	*転記済取引金額*
EUR	1000	1100	1000
USD	2780	100	100
GBP	1000	1580	1000

注: 仕訳行の [外貨金額] (FOREIGN_AMOUNT) フィールドは取引通貨金額であり、最終的に転記済取引金額に記録されます。仕訳行の [金額] (MONETARY_AMOUNT) フィールドは基本通貨金額と等価であり、転記済基本金額に記録されます。配賦先と相殺が仕訳行である場合は、元帳と仕訳行フィールドがこのような関係にあることに注意してください。

固定配賦元金額

配賦元がレコードではなく固定金額である場合に、金額を入力します。このフィールドは、配賦元ページで [配賦元レコード タイプ] フィールドに *[固定金額]* を指定しない場合は使用できません。

金額

[配賦元]、[基準]、[配賦先] および [相殺] の金額フィールドを選択します。配賦元、基準、配賦先および相殺の各ページで指定したフィールドとレコードに従って、金額で使用可能なフィールドがドロップダウン メニューに表示されます。元帳グループ レコードを使用し、配賦元および基準に [勘定科目] フィールドを指定し、配賦元金額を配賦先および相殺の仕訳レコードに配賦する、配賦例 (RENTEXP) の値を次に示します。

ドロップダウン メニューで使用できる値は、基準、配賦元、配賦先および相殺に指定したフィールドとレコードによって異なります。そのため、配賦を行う製品によっても異なります。たとえば、

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プロジェクト コスト管理と一般会計ではレコードとフィールドが異なるため、配賦の値も異なります。配賦を正しく実行できるようにするためには、レコードとフィールドの関係や、配賦元と基準、配賦先、相殺の関係について、十分に理解しておく必要があります。

- 配賦元金額: 配賦先と相殺に配賦する金額が提供される、配賦元レコードのフィールドを選択します。

  たとえば、取引金額を配賦先と相殺に配賦する場合は、元帳レコードで [転記済取引金額] (POSTED_TRAN_AMT) を選択します。

- 基準金額: 配賦元金額をどのような比例配分で配賦先および相殺に配布するかを決定するために使用する、基準レコードのフィールドを選択します。

- 配賦先金額: 配賦元金額が配布される、配賦先レコードのフィールドを選択します。たとえば、仕訳行レコードの取引 (FOREIGN_AMOUNT) フィールドなどです。

- 相殺金額: 配賦先に配布される配賦元金額が相殺または決済される、相殺レコードのフィールドを選択します。

  相殺は、二重計算を防ぐ場合にのみ必要です。たとえば、仕訳行レコードの FOREIGN_AMOUNT は、元帳への転記時に、配賦先の FOREIGN_AMOUNT フィールドに配布された金額を相殺します (帳尻を合わせます)。

基本金額

[配賦元]、[配賦先] および [相殺] の各フィールドの値を選択します。

- 配賦元基本金額: 配賦元の [金額] フィールドと等価の基本通貨の金額が含まれる、配賦元レコードのフィールドを選択します。

  たとえば、POSTED_BASE_AMT は、元帳レコードの POSTED_TOTAL_AMT と等価の基本通貨です。また、MONETARY_AMOUNT は、仕訳行レコードの FOREIGN_AMOUNT と等価の基本通貨です。配賦元の基本金額を指定する場合、PeopleSoft 配賦プロセスでは、これが金額であること、および、通貨コード決定のために配賦元、配賦先および相殺に定義された通貨コントロールフィールドを使用していることを想定します。

- 配賦先基本金額: [配賦先金額] フィールドと等価の基本通貨の金額が含まれる、配賦先レコードの [金額] フィールドを選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

たとえば、MONETARY_AMOUNT は、仕訳行レコードの FOREIGN_AMOUNT と等価の基本通貨です。

- 相殺基本金額: 仕訳行レコードの FOREIGN_AMOUNT と等価の基本通貨である、相殺レコードのフィールドを選択します。

  このフィールドに対する入力は任意です。この目的は、配賦の金額フィールドで多通貨機能サポートできるようにすることです。配賦先金額が統計金額であるか、1 つの通貨のみが含まれている場合は、このフィールドを空白のままにします。

取引金額

配賦先ページで配賦先レコードが *[任意のテーブル]* として指定されている場合、個別の取引通貨を配賦するには、*[転記済取引金額]* を指定します。このフィールドを使用するには、レコードへの配賦である必要があります。そうでない場合は金額ページに表示されません。

金額ログ

配賦元、基準、配賦先の各金額を保存しオーディット トレイルを提供する、計算ログ レコードから適切なフィールドを選択します。

基本金額ログ

計算ログ レコードから適切なフィールドを選択します。

- 配賦元基本金額ログ: オーディット トレイル用に配賦元基本通貨金額を保存するために使用するフィールドを選択します。
- 配賦先基本金額ログ: オーディット トレイル用に計算済配賦先基本通貨金額を保存するために使用する金額フィールドを選択します。

基準合計金額ログ

オーディット トレイル用に基準合計金額を保存するための、計算ログ レコードの金額フィールドです。[基準金額ログ] フィールドに保存されている値を [基準合計金額ログ] フィールドに保存されている値で割ると、配賦先に配布された配賦元金額のパーセントを求められます。

以下に、さまざまな配賦シナリオでの金額フィールドの設定例を示します。

たとえば、一般会計の金額を配賦している場合、配賦元レコードは元帳グループ ACTUALS であり、配賦先レコードの仕訳は ACTUALS です。配賦フィールドは次のようになります。

配賦金額フィールド	*フィールド値*
配賦元金額	POSTED_TRAN_AMT

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

配賦金額フィールド	*フィールド値*
配賦元基本金額	POSTED_BASE_AMT
配賦先金額	FOREIGN_AMOUNT
配賦先基本金額	MONETARY_AMOUNT

実際の配賦元レコードと配賦先レコードは、それぞれ LEDGER と JRNL_LN です。PeopleSoft アプリケーション デザイナで POSTED_TOTAL_AMT、POSTED_TRAN_AMT、POSTED_BASE_AMT の各フィールド用に定義されている通貨コントロール フィールドは CURRENCY_CD であり、BASE_CURRENCY フィールドは LEDGER レコード用です。PeopleSoft アプリケーション デザイナで FOREIGN_AMOUNT と MONETARY_AMOUNT の各フィールド用に定義されている通貨コントロール フィールドは FOREIGN_CURRENCY であり、CURRENCY_CD フィールドは JRNL_LN レコード用です。

これらの通貨コントロール フィールド定義を使用して、配賦先レコードの FOREIGN_CURRENCY フィールド値のコピー元が配賦元レコードの CURRENCY_CD フィールド値であること、および、配賦先レコードの CURRENCY_CD フィールド値のコピー元が配賦元レコードの BASE_CURRENCY フィールド値であることが自動的に決定されます。[配賦先] フィールドと [相殺] フィールドの通貨フィールド値を明示的に定義する必要はありません。

これらの通貨コントロール フィールド値はまた、PeopleSoft 配賦プロセスの通貨桁数と端数処理機能も決定します。たとえば、配賦先レコードの FOREIGN_CURRENCY フィールド値が USD である場合、FOREIGN_AMOUNT は小数部 2 桁で端数処理されます。配賦先レコードの FOREIGN_CURRENCY フィールド値が JPY (日本円) である場合、FOREIGN_AMOUNT は整数に端数処理されます。

PeopleSoft 配賦プロセスは配賦先レコードの通貨コントロール フィールド値を使用して、配賦先レコードと相殺レコードの通貨を決定します。固定配賦元金額で配賦する場合、配賦元レコードはありません。[配賦先] フィールドと [相殺] フィールドで配賦先レコードと相殺レコードの通貨フィールド値を指定する必要があります。たとえば、100.00 USD を配賦する場合は、金額ページの [固定配賦元金額] フィールドに 100 と入力します。配賦先ページと相殺ページの [フィールド値指定] グループ ボックスで、FOREIGN_CURRENCY フィールドと CURRENCY_CD フィールドを指定します。配賦先ページと相殺ページの [ソース] フィールド値を *[値]* に設定します。

次の表には、PeopleSoft アプリケーションで金額を配賦する場合に使用するフィールドの例を示しています。

配賦金額フィールド	*フィールド値*
配賦元金額	POSTED_TRAN_AMT
配賦元基本金額	POSTED_BASE_AMT
基準金額	POSTED_TOTAL_AMT
配賦先金額	FOREIGN_AMOUNT

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

配賦金額フィールド	*フィールド値*
配賦先基本金額	MONETARY_AMOUNT
相殺金額	FOREIGN_AMOUNT
相殺基本金額	MONETARY_AMOUNT
配賦元ログ金額	ALLOC_POOL_AMT
配賦元ログ基本金額	ALLOC_POOL_PBA
基準ログ金額	ALLOC_BASIS_AMT
基準ログ合計	ALLOC_BASIS_TOT
配賦先ログ金額	ALLOC_TARG_OFF_AMT
配賦先ログ基本金額	ALLOC_TARG_OFF_PBA

次の例では、PeopleSoft アプリケーションで統計金額に配賦する場合に使用するフィールドを示します。

配賦金額フィールド	*フィールド値*
配賦元金額	POSTED_TOTAL_AMT
配賦元基本金額	オプション
基準金額	POSTED_TOTAL_AMT
配賦先金額	STATISTIC_AMOUNT
配賦先基本金額	オプション
相殺金額	STATISTIC_AMOUNT
相殺基本金額	オプション
配賦元ログ金額	ALLOC_POOL_AMT
配賦元ログ基本金額	オプション
基準ログ金額	ALLOC_BASIS_AMT
基準ログ合計	ALLOC_BASIS_TOT
配賦先ログ金額	ALLOC_TARG_OFF_AMT
配賦先ログ基本金額	オプション

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft アプリケーションで、統計配賦元金額 (時間など) に基準金額 (時給など) を乗算して配賦先金額を作成する場合は、配賦先と相殺のレコードに FOREIGN_CURRENCY フィールドと CURRENCY_CD フィールドの値を明示的に指定します。金額フィールドは次のように定義されます。

配賦金額フィールド	*フィールド値*
配賦元金額	POSTED_TOTAL_AMT
配賦元基本金額	オプション
基準金額	POSTED_TOTAL_AMT
配賦先金額	FOREIGN_AMOUNT
配賦先基本金額	MONETARY_AMOUNT
相殺金額	FOREIGN_AMOUNT
相殺基本金額	MONETARY_AMOUNT
配賦元ログ金額	ALLOC_POOL_AMT
配賦元ログ基本金額	オプション
基準ログ金額	ALLOC_BASIS_AMT
基準ログ合計	ALLOC_BASIS_TOT
配賦先ログ金額	ALLOC_TARG_OFF_AMT
配賦先ログ基本金額	ALLOC_TARG_OFF_PBA

PeopleSoft アプリケーションで次年度の予算を作成する際に、予算元帳の外貨を全て繰り越さず、代わりに全ての通貨の合計金額を使用する場合は、配賦元の基本通貨と等しい通貨コードを指定します。金額フィールドを次のように定義します。

配賦金額フィールド	*フィールド値*
配賦元金額	POSTED_TRAN_AMT
配賦元基本金額	POSTED_BASE_AMT
基準金額	POSTED_TOTAL_AMT
配賦先金額	FOREIGN_AMOUNT
配賦先基本金額	MONETARY AMOUNT
相殺金額	FOREIGN_AMOUNT

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

配賦金額フィールド	*フィールド値*
相殺基本金額	MONETARY_AMOUNT
配賦元ログ金額	ALLOC_POOL_AMT
配賦元ログ基本金額	ALLOC_POOL_PBA
基準ログ金額	ALLOC_BASIS_AMT
基準ログ合計	ALLOC_BASIS_TOT
配賦先ログ金額	ALLOC_TARG_OFF_AMT
配賦先ログ基本金額	ALLOC_TARG_OFF_PBA

配賦グループの定義

配賦グループを定義するには、配賦グループ定義コンポーネント (ALLOC_GROUP) を使用します。

配賦グループの定義に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
配賦グループ ページ	ALLOC_GROUP	チャートフィールド間の複数の配賦を定義します。

配賦グループについて

チャートフィールド間のステップダウン配賦に複数の配賦ステップを定義できます各ステップの配賦先は、次のステップの配賦元または基準になる場合があります。これらのステップに配賦グループを作成して、このグループに対して配賦を処理します。連番内のあるステップが失敗した場合は、[続行] オプションによって、次のステップに続行するかどうかが決まります。

配賦グループには有効日が設定されているため、配賦プロセス結果の財務データの履歴基準を追跡できます。

注: 配賦のステップが 1 つのみである場合にも、配賦グループを定義する必要があります。

注: PeopleSoft In-Memory Financial Allocations Analyzer に対応するため、イメージ 4 以降は、配賦グループ ページで [配賦ステップ] フィールドが必須フィールドではなくなります。[配賦ステップ] に値を指定しない場合は、行が存在しないというメッセージが表示され、配賦グループ ページから配賦ステップを作成できます。Getting Started with Financial Allocations AnalyzerPeopleSoft In-Memory Financial Allocations Analyzerも参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

配賦グループ ページ

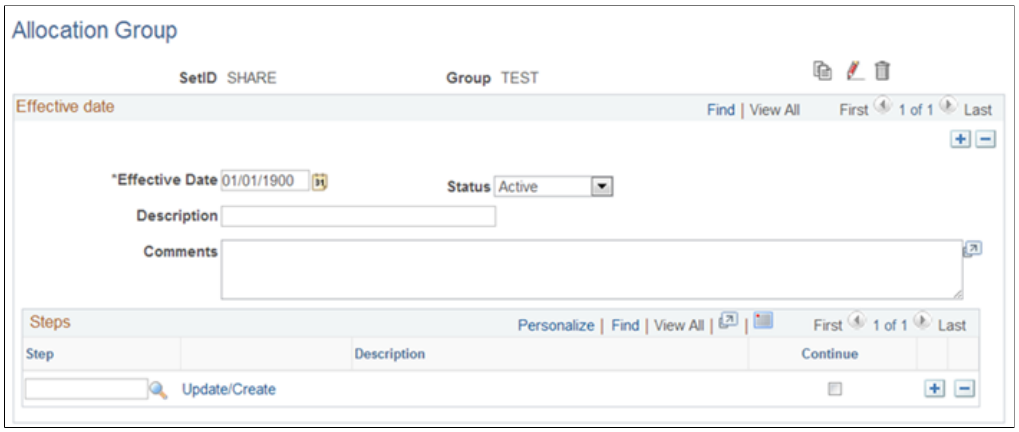
配賦グループ ページ (ALLOC_GROUP) を使用してチャートフィールド間の複数の配賦を定義します。

ナビゲーション

[配賦], [配賦の定義と実行], [配賦グループ定義], [配賦グループ]。

画像: 配賦グループ ページ

次の例では、配賦グループ ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



ページの右上の角にあるアイコンを使用して、配賦グループのコピー、名称変更、または削除を行います。



[配賦グループのコピー] ボタンをクリックして、グループのコピーを作成します。



[配賦グループ名の変更] ボタンをクリックして、コピー グループの名称を変更します。



[配賦グループの削除] ボタンをクリックして、コピー グループを削除します。

有効日

配賦グループが有効になる日付を入力します。これにより、時間経過で配賦グループを変更し、それらの変更のオーディットトレールを保持できるようになります。

ステータス

配賦グループのステータスとして *[アクティブ]* または *[非アクティブ]* を選択します。

説明

プロンプト リストおよびレポートに表示される略称を入力します。

コメント

配賦グループの詳細な説明を追加し、複雑な配賦に含まれる各ステップの目的を記述します。

ステップ

配賦元、基準、配賦先、相殺チャートフィールドに加えて、さまざまな配賦プロセス オプションを決定するプロセス ステップを選

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

択します。配賦ステップは、配賦ステップ コンポーネントに定義するか、または [更新/作成] リンクを使用して配賦グループページから定義することができます。定義した配賦ステップは、いくつもの配賦で使用することができます。

PeopleSoft 配賦プロセスがステップを実行する順序は、連番によって決まります。各ステップの配賦先が次のステップの配賦元 (または、仕訳を転記する場合は基準) になるため、正しい連番で入力することが重要です。

PeopleSoft In-Memory Financial Allocations Analyzer に対応するため、イメージ 4 以降は、配賦グループ ページで [ステップ] フィールドが必須フィールドではなくなります。[配賦ステップ] に値を指定しない場合は、行が存在しないというメッセージが表示され、配賦グループ ページから配賦ステップを作成できます。Getting Started with Financial Allocations AnalyzerPeopleSoft In-Memory Financial Allocations Analyzerも参照してください。

更新/作成 クリックして配賦ステップ コンポーネントにアクセスし、配賦ステップを定義します。「配賦プロセス ステップの定義」も参照してください。

続行 配賦ステップが失敗してもシステムの処理を続行することを指定するために、特定のステップで選択します。

関連リンク
配賦プロセス ステップの定義

配賦ステップのコピー、名称変更または削除

ステップのコピー、名称変更または削除に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
配賦ステップのコピー/名称変更/削除ページ	GL_ALC_COPY	既に定義しているステップと同一または類似の新規ステップを作成します。また、配賦ステップの名称変更または削除も行います。

配賦ステップのコピー、名称変更または削除について

PeopleSoft 配賦プロセスには、いくつかのステップが必要です。単一の配賦に含まれるいくつかのステップ (または異なる配賦の複数のステップも) 非常に似通っていると考えられます。ステップ名を指定して、

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

いくつもの配賦で同じステップを使用できます。特定のステップを使用する回数や位置に制限はありません。

配賦ステップのコピー/名称変更/削除ページ

配賦ステップのコピー/名称変更/削除ページ (GL_ALC_COPY) を使用して、既に定義しているステップと同一または類似の新規ステップを作成します。

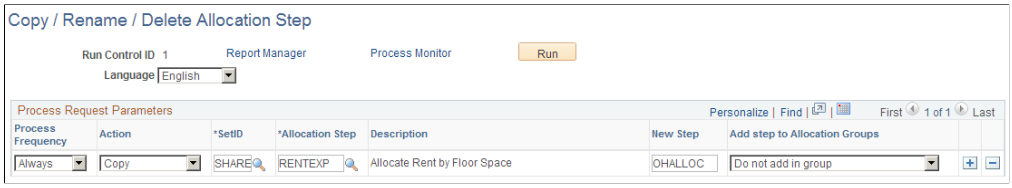
また、配賦ステップの名称変更または削除も行います。

ナビゲーション

[配賦], [配賦の定義と実行], [配賦ステップのコピー/名称変更/削除], [配賦ステップのコピー/名称変更/削除]

画像: 配賦ステップのコピー/名称変更/削除ページ

次の例では、配賦ステップのコピー/名称変更/削除ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



アクション

次のアクションのオプションから 1 つ選択します。

[コピー] または *[名称変更]* の場合は、[新規ステップ] フィールドが使用可能です。このフィールドを使用して、新規ステップの指定または元のステップの名称を変更します。

[削除] を変更した場合は、プロセスによってステップ定義がシステムからパージされます。

プロセス ステップの名称変更または削除を行った場合、プロセスによって配賦プロセス グループが自動的に更新されます。

配賦ステップ

操作する対象のステップを選択します。

ステップを配賦グループに追加

ステップをコピーする際に、次のオプションから 1 つ選択して、(新規ステップのコピーに使用した) プロセス ステップが存在するプロセス グループにステップを追加できます。

- プロセス ステップの後に追加。
- グループの最初に追加。
- グループの最後に追加。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- グループに追加しない。

調整入力仕訳の作成

調整入力仕訳を作成するには、タイムスパン コンポーネント (TIME_SPAN) を使用します。

調整入力仕訳の作成に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
タイムスパン ページ	TIME_SPAN	調整期間の出力用のタイプを指定します。

配賦と調整入力仕訳について

PeopleSoft 配賦プロセスでは、会計期間が調整期間である調整入力仕訳の作成をサポートしています。調整期間は絶対期間または現在の期間に対する相対期間として定義できます。

タイムスパン コンポーネント (TIME_SPAN) を使用して、次のことを行います。

- 絶対期間を指定したタイムスパン定義を設定する。
- 相対期間を指定したタイムスパン定義を設定する。
- 複数の調整期間に配賦する。
- 調整入力オプションを指定する。

タイムスパン ページ

タイムスパン ページ (TIME_SPAN) を使用して、調整期間の出力用のタイプを指定します。

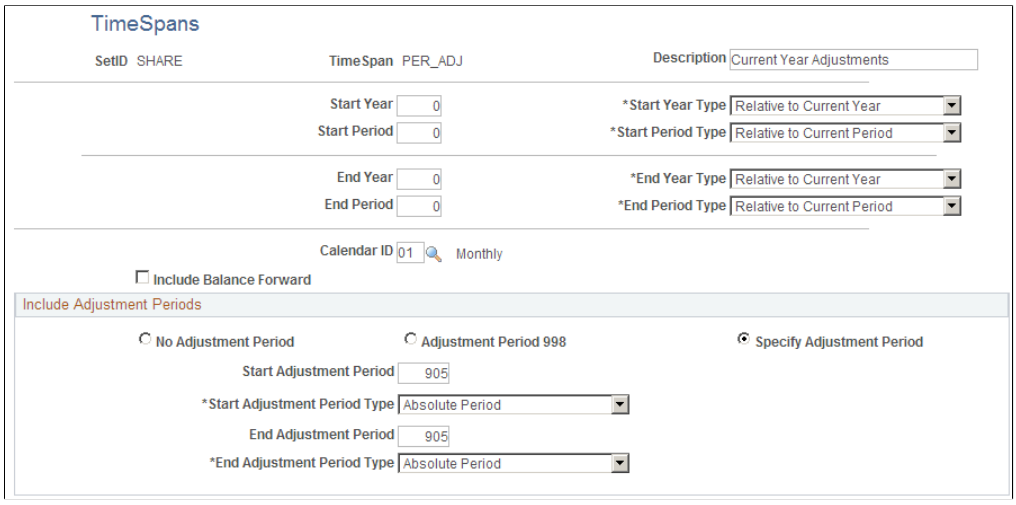
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [カレンダー/スケジュール], [タイムスパン]

画像: タイムスパン ページ

次の例では、タイムスパン ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



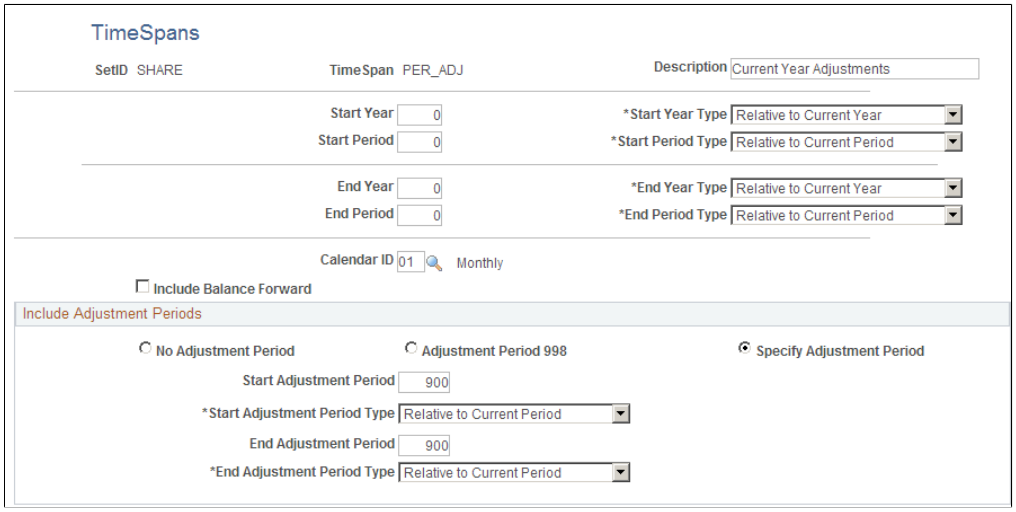
この例では、調整期間は絶対期間 *[905]* に設定されています。

相対期間を指定したタイムスパン定義の設定

次の例では、調整期間は現在の通常期間に対する相対期間として定義されています。

画像: タイムスパン ページ (調整期間は現在の期間に対する相対期間)

次の例では、タイムスパン ページ (調整期間は現在の期間に対する相対期間) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

調整期間は、[開始調整期間]/[終了調整期間] の値で指定した期間に現在の通常期間を加えた期間です。たとえば、3 月の配賦を処理しているとします。現在の期間は 03 (月次カレンダー) であり、調整期間は 903 になります。

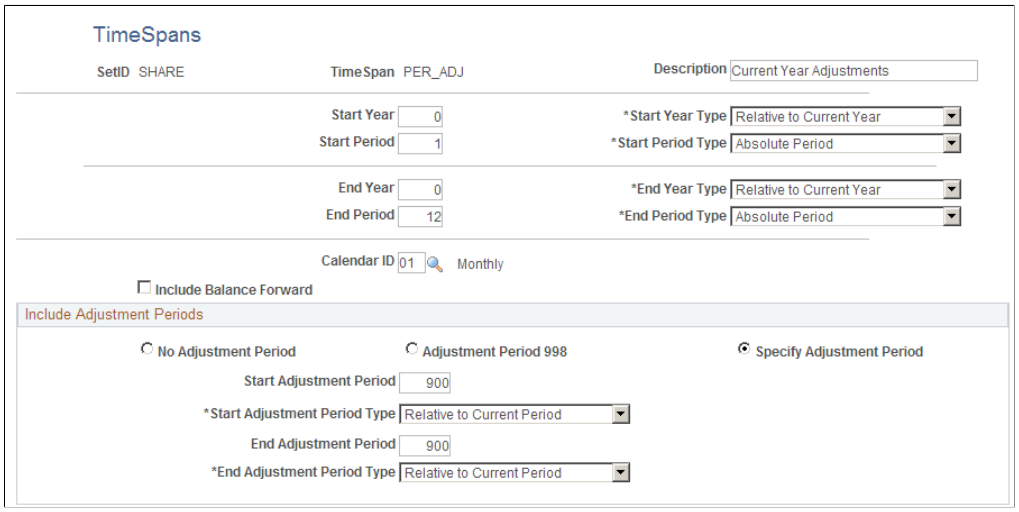
調整期間を現在の期間に対する相対期間として定義する利点は、タイムスパンで調整期間の値を管理する必要がないことです。

複数の調整期間への配賦 - 例

複数の調整期間に配賦するには、相対調整期間を使用します。この例のタイムスパン ページでは、調整期間 901 から 912 の調整仕訳入力を作成する配賦が定義されています。

画像: 複数の調整期間のタイムスパン

次の例では、複数の調整期間のタイムスパンのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



調整入力オプションの指定

配賦ステップ定義 - 配賦先ページで調整期間を使用するタイムスパンを選択します。

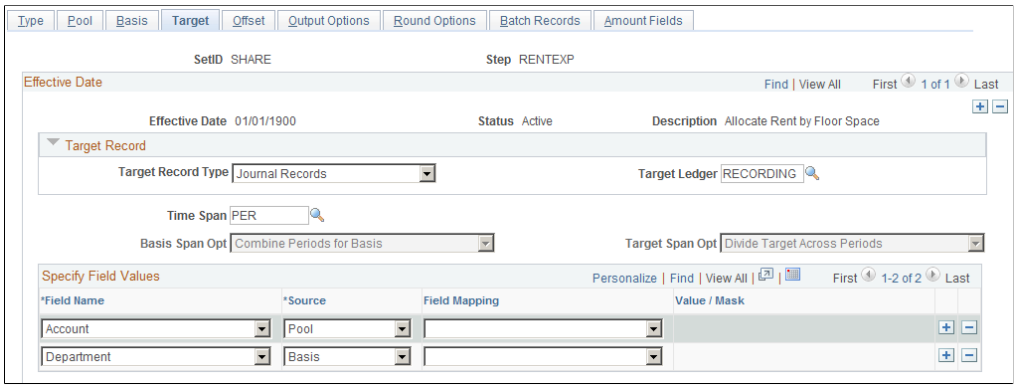
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[配賦], [配賦の定義と実行], [配賦ステップ定義]。[配賦先] タブを選択します。

画像: 配賦ステップ定義 - 配賦先ページ

次の例では、配賦ステップ定義 - 配賦先ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



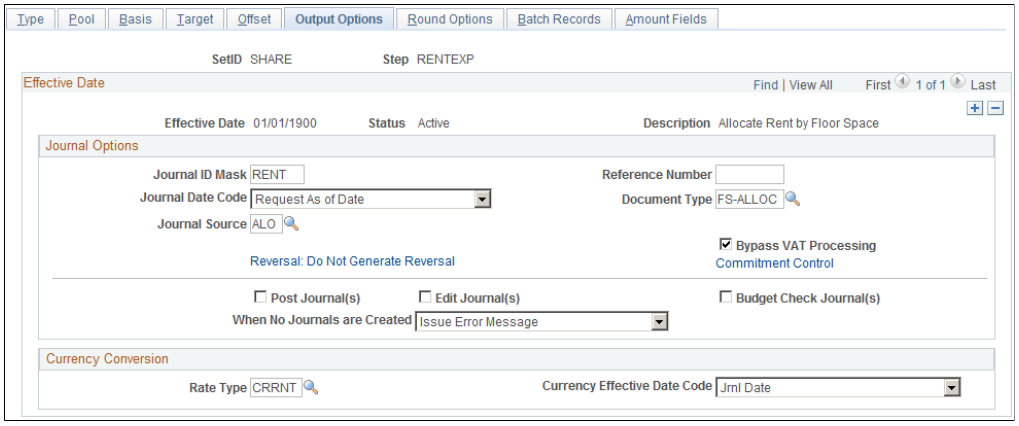
次の例のように、配賦先ページで選択したタイムスパンが調整期間を使用するように設定されている場合は、配賦の出力オプション ページに調整入力オプションが表示されます。

ナビゲーション

[配賦], [配賦の定義と実行], [配賦ステップ定義]。[出力オプション] タブを選択します。

画像: 配賦ステップ定義 - 出力オプション ページ

次の例では、配賦ステップ定義 - 出力オプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



PeopleSoft 配賦プロセスは、このオプションを使用して、どの会計期間が仕訳で使用されているかを判別します。[調整入力] オプションが選択されている場合は、PeopleSoft 配賦プロセスによって、配賦先タイムスパンに定義されている調整期間の仕訳が作成されます。オプションが選択されていない場合は、配賦によって通常の会計期間の仕訳が作成されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユニット間およびユニット内配賦の設定

PeopleSoft 配賦プロセスは、法人間、ビジネス ユニット間 (ユニット間)、特定のビジネス ユニット内 (ユニット内) の貸借一致チャートフィールド間で、最初に貸借不一致の調整仕訳入力を作成します。

PeopleSoft 配賦プロセスでは、ユニット間およびユニット内の貸借一致仕訳行の作成をプロセスの一部として行いません。ユニット間およびユニット内の貸借一致取引行は、仕訳編集から実行されるユニット間/ユニット内プロセッサによって作成されます。

次の例では、ビジネス ユニット JP001 が、自部門の勘定科目 640000 に累計された 1000000 JPY のレンタル経費を、JP001、JP002、JP003に、固定基準でそれぞれ 50 パーセント、20 パーセント、30 パーセント配賦しています。

この経費を複数のビジネス ユニット間で単純に配賦した例を次に示します。

ビジネス ユニット *配賦元*	*固定* *基準*	*基準別配賦先*	*相殺指定* *ビジネス ユニット配賦元*
JP001	JP001 に 50 パーセント	JP001	JP001
	JP002 に 20 パーセント	JP002	
	JP003 に 30 パーセント	JP003	

ユニット間配賦とユニット内配賦は、配賦タイプ ページで適切な取引コードを選択する必要があること以外は、他の配賦と同じように作成します。この値は、PeopleSoft 配賦プロセスによって各仕訳入力行に入力されます。

この取引コードは、ユニット間取引とユニット内取引を分類するために使用します。この例では、一般会計仕訳 (GLJ) 用に提供されたシステム取引と取引コード JOURNALS を示します。

配賦されるユニット間およびユニット内のレンタル売掛金と買掛金をその他全てと区別したい場合は、取引コード (AllocJrnl など) を作成して、GLJ システム取引にマップします。また、新しい取引コードと会計入力タイプを関連付けるユニット間テンプレートとユニット内テンプレートを作成し、システムが一部ユニット間/ユニット内入力を完成するために使用するチャートフィールド値を指定します。

PeopleSoft 配賦プロセスは、次の情報を仕訳ヘッダーに指定します。

ビジネス ユニット	*ビジネス ユニット IU*	*システム取引*	*取引コード*
JP001	JP001	GLJ	JOURNALS
JP002	JP001	GLJ	JOURNALS
JP003	JP001	GLJ	JOURNALS

PeopleSoft 配賦プロセスは、次の仕訳行情報を作成します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

IU グループ	*基準*	*行番号*	*ビジネス ユニット*	*勘定科目*	*金額*
1	JP001	1	JP001	640000	-1000000
1		2	JP001	640001	500000
1		3	JP002	640001	200000
1		4	JP003	640001	300000

基準とは、システムが入力を完了し、貸借一致方法などを決定し、同じ IU (ユニット間) グループ内の関連する仕訳行の分類を行う、ビジネス ユニットまたはチャートフィールド値です。

ユニット内配賦ステップの場合、配賦元に定義されている各貸借一致チャートフィールド値に一意の IU グループが、常にプロセスによって決定されます。ユニット間の場合、プロセスは常に IU グループ番号 1 を使用します。

PeopleSoft 配賦プロセスは、設定された定義に基づいて、基準ビジネス ユニットを導出します。

プロセスは最初に、ビジネス ユニットが相殺で固定値として定義されているかどうかをチェックします。この条件に該当する場合、プロセスは基準として相殺の固定値を使用します。

これに該当せず、ビジネス ユニットが相殺で固定値として定義されていない場合、プロセスはビジネス ユニットが配賦先に固定値として定義されているかどうかをチェックします。この条件が true の場合、プロセスは基準として配賦先の固定値を使用します。

ビジネス ユニットが配賦先または相殺で固定値として定義されていない場合、プロセスは基準として配賦元のビジネスユニットを使用します。

注: 配賦元に複数の値がある場合は、それぞれを基準に対して順番に処理します。結果は、配賦元の値と仕訳入力行ごとに個別の IU グループになります。ユニット間配賦をリクエストしたときに配賦元に定義されているユニット間ビジネス ユニットのいずれかを使用します。

この時点で、レンタル経費は配賦されていますが、ユニット間/ユニット内の買掛金行と売掛金行をまだ作成していないため、仕訳の貸借は一致していません。ユニット間/ユニット内セントラル プロセッサを実行すると、次の情報または仕訳入力の貸借を一致させるための追加の行 (行番号 5 から 8) が提供されます。

IU グループ	*基準*	*行番号*	*ビジネス ユニット*	*勘定科目*	*関係会社*	*金額*
1		5	JP001	100000	JP002	200000
1		6	JP001	100000	JP003	300000
1		7	JP002	100000	JP001	-200000
1		8	JP003	100000	JP001	-300000

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

関連リンク

PeopleSoft ユニット間およびユニット内機能について
ユニット間およびユニット内プロセッサの実行
ユニット間、ユニット内およびチャートフィールド継承設定の検証

PeopleSoft プロジェクト コスト管理での配賦の使用

PeopleSoft 配賦プロセスを使用して、PeopleSoft プロジェクト コスト管理で実行できる配賦には、2 つの基本タイプがあります。

- プロジェクト間の配賦。
- 一般会計からプロジェクト コスト管理への配賦。

『*PeopleSoft Project Costing*』製品ドキュメントでは、プロジェクト コスト管理での PeopleSoft 配賦プロセスの使用について説明しています。また、プロジェクト間での配賦ステップの例を示しています。

関連リンク

PeopleSoft プロジェクト コスト管理での配賦の使用
Understanding Allocations in PeopleSoft Project CostingPeopleSoft Project Costing

配賦リクエストの実行

配賦リクエストの実行に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
配賦リクエスト ページ	ALLOC_REQUEST	PeopleSoft 配賦プロセスを実行するためのパラメータを指定します。

配賦リクエスト ページ

配賦リクエスト ページ (ALLOC_REQUEST) を使用して、PeopleSoft 配賦プロセスを実行するためのパラメータを指定します。

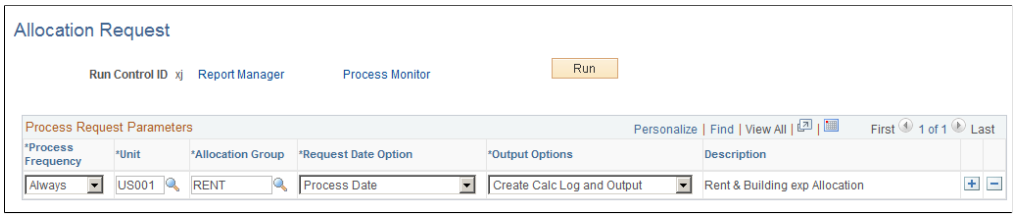
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[配賦], [配賦の定義と実行], [配賦リクエスト], [配賦リクエスト]

画像: 配賦リクエスト ページ

次の例では、配賦リクエスト ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



リクエストは配賦ステップと配賦グループを定義した後に実行します。

ユニット

PeopleSoft 配賦プロセスの対象ビジネス ユニットを指定します。非ユニット間ステップの場合は、このビジネス ユニットによって、選択した配賦元行および基準行のビジネス ユニット値が決まります。ユニット間ステップの場合は、ユニット間配賦をリクエストしたときに配賦元に定義されているビジネス ユニットのいずれか 1 つを使用します。

配賦グループ

このリクエストで処理する配賦グループを識別します。

リクエスト日付オプション

[リクエスト日付オプション] フィールドで *[指定日]* 値を選択します。追加の 2 つの [指定日] フィールドが使用可能になります。指定日は、デフォルトで現在のシステム日付になります。ただし、各行の [指定日] フィールドを使用して個々の行の日付を変更するか、リクエストの [指定日] フィールドを使用して全ての行の日付を変更できます。

PER (当期アクティビティ) などの相対タイムスパンを使用して、配賦グループに個別のステップを定義できます。相対タイムスパンは、指定した [リクエスト日付オプション] に相対的な元帳金額を取得します。リクエスト日付オプションは、次のとおりです。

- *[処理日]*: 実行日より前の日付の仕訳を使用します。
- *[システム日付]*: コンピュータのシステム日付より前の日付の仕訳を使用します。
- *[指定日]*: このオプションを選択したときに行に表示された [指定日] フィールドで指定した日付より前の日付の仕訳を使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.



[指定日更新] ボタンをクリックして、実行リクエストに含まれる全ての行の指定日更新を、現在の日付または指定した日付に変更します。

出力オプション

以下のオプションから 1 つ選択します。

- *[計算ログのみ]*: 計算ログは作成しますが、仕訳および元帳エントリは作成しない*ドライ ラン*として機能します。
- *[計算ログと出力作成]*: 計算ログを作成し、仕訳および元帳エントリを生成します。
- *[出力のみ]*: 仕訳および元帳エントリは作成しますが、計算ログは作成しません。これはシステムのデフォルト値です。

注: 計算ログは SQL スクリプトを使用してクリアされます。

開始ステップ

[開始ステップ] を選択すると、エラーが発生してプロセスが異常終了した場合に、失敗したステップから処理を再開できます。このオプションは、処理中にエラーが発生した場合にのみ表示されます。

関連リンク

配賦プロセスの再開とリカバリ

配賦レポートの生成

このトピックには、配賦設定および PeopleSoft 配賦プロセスの実行結果に関する情報を提供する、配賦レポートをリストします。

配賦レポートの生成に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途/ナビゲーション*
配賦ステップ ページ	RUN_GLS6000	[配賦], [レポート], [配賦ステップ] に移動して、[配賦ステップ定義] レポート (GLS6000) の実行パラメータを定義します。 SQR レポートには、配賦ステップの詳細情報がリストされ、配賦ページを使用して定義した配賦ステップのハード コピーが提供されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途/ナビゲーション*
配賦グループ ページ	RUN_GLC6001	[配賦], [レポート], [配賦グループ] に移動して、[配賦グループ定義] レポートの実行パラメータを指定します。 レポート GLS6001 には、特定の配賦グループに関連付けられている全ての配賦ステップがリストされます。このレポートは、配賦グループ ページで定義した配賦グループのハード コピーを提供します。
配賦計算ログ	RUN_GLS6002	[配賦], [レポート], [配賦計算ログ] に移動して、[配賦計算ログ] レポート (GLS6002) の実行パラメータを指定します。 SQR レポートには、指定したプロセス ステップがプロセス インスタンス内で実行する配賦計算がリストされます。

処理メッセージの表示

配賦リクエストでエラー メッセージが生成された場合、プロセス モニターの実行ステータスには警告として表示されます。メッセージ ログを使用して、配賦の処理時にシステムが生成したメッセージを表示します。メッセージ ログはまた、配賦のトラブルシューティングと配賦情報の監査に役立ちます。

配賦プロセスの再開とリカバリ

リクエストの処理中にシステムでエラーが発生した場合、リクエストのステータスはエラーとして設定されます。その後、プログラムは次のリクエストの処理を続けます。キャンセルされたリクエストを再度実行するには、オンライン リクエスト ページに戻り、リクエストを開始する必要があります。

メッセージ ログ ページを使用して、エラーとしてマークされたリクエストを識別します。エラーの原因を修正したら、リクエストを処理中としてマークし、ジョブを再度実行します。

配賦の場合は、リクエストによって処理する配賦グループが指定され、そのグループの各配賦ステップの処理後にコミットが実行されます。ステップの処理中にシステムでエラーが発生した場合は、次の 2 つの要因によって、システムが後続のステップに進むかどうかが決定されます。

- エラーのタイプ。
- 配賦グループ ページの [続行] オプション。

エラーがシステム エラーである場合、配賦プロセスは異常終了します。エラーがデータ エラーである場合は、配賦グループ定義の ステップ続行 オプションがシステムによってチェックされます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

失敗したステップで [続行] オプションを選択した場合、失敗に関係なくシステムは処理を続行します。そのステップで [続行] を選択しない場合、配賦プロセスはリクエストの次のグループの処理に進みます。エラーの原因となった問題を修正したら、同じグループに対してプロセスを再度実行できます。

配賦リクエスト ページの [開始ステップ] チェック ボックスを使用すると、PeopleSoft 配賦プロセスが失敗したステップから処理を再開するかどうかを指定できます。このチェック ボックスを選択しない場合、配賦はグループの最初のステップから開始されます。[開始ステップ] オプションは、処理中にエラーが発生した場合にのみ使用可能になります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第23章

即時転記プロセスの設定

即時転記プロセスの設定について

Oracle PeopleSoft の財務管理およびサプライ チェーン マネジメントには、特定のユーザーが取引入力ページから直接実行することができる、即時転記プロセス グループが用意されています。このプロセス グループは通常、取引に必要な、論理的な関連性と連番を持つプロセスで構成されています。

使用可能なプロセス グループは、対象の取引がそれを必要としているかどうかにかかわらず、ユーザーの ID によって決まります。たとえば、特定の支払伝票に予算チェックが適用されない場合、予算チェック (BUDGET_CHK) プロセス グループは使用可能になりません。

警告 一部の即時転記プロセスは、インストールされている製品に依存します。たとえば、PeopleSoft 一般会計のライセンスを所有しており、これがインストールされている場合は、仕訳ジェネレータ (FS_JGEN) プロセスによる仕訳編集と仕訳転記のプロセスも実行されます。PeopleSoft 一般会計のライセンスを所有せず、インストールしない場合は、インストール オプション - 製品ページ上で PeopleSoft 一般会計製品のチェック ボックスを選択解除します。こうすることで、不要な仕訳編集と仕訳転記プロセスの実行に時間を取られることがなくなります。通常は、インストール オプション - 製品ページで、ライセンスを持たない製品のチェック ボックスを全て選択解除します。

買掛金管理

PeopleSoft 買掛金管理で支払伝票の入力を終了したら、支払伝票を保存してバッチで処理することも、以下のページを使用して即時転記処理を行うこともできます。

- 支払キャンセル (PYMNT_CANCEL)。
- 支払伝票整理 (VCHR_CLOSE1)。
- 仮登録完了済伝票 (VCHR_HDR_CMP)。
- 支払一括キャンセル (AP_PMT_MASS_CNL)。
- マッチング例外ワークベンチ詳細 (AP_MTCH_WB_EXCPTN)。
- マッチング上書きワークベンチ詳細 (AP_MTCH_WB_OVRD)。
- マッチング ワークベンチ (AP_MTCH_WB)。
- 支払戻入 (PYMNT_ESCHEAT)。
- クイック請求書 (VCHR_HEADER_QV1 および VCHR_HEADER_QV2)。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 伝票コンポーネント (VCHR_EXPRESS)。
- 支払伝票メンテナンス コンポーネント (VCHR_CORRECTION)。
- 支払伝票マス メンテナンス - 整理 (VCHR_MMT_CLSE_SEC1)。
- 支払伝票マス メンテナンス - 削除 (VCHR_MMT_DLTE_SEC1)。
- 伝票マス メンテナンス - フィールド置換 (VCHR_MMT_RPLC_SEC1)。
- 伝票マス メンテナンス - 転記取消 (VCHR_MMT_UNPS_SEC1)。
- 源泉徴収の更新 - 伝票行 (WTHD_LINE_UPDT)。
- 源泉徴収の更新 - 取引先伝票 (VNDR_UPDT)。

即時転記プロセスは、プロセス グループによるバッチ処理のための支払伝票即時転記プロセス コンポーネントからも使用できます。

プロセスには、実行の順番を示すための番号が付けられています。たとえば、クイック請求書ページで[4. 仕訳作成] を選択した場合は、番号 1 のプロセス (支払伝票作成)、番号 2 のプロセス (マッチング)、および番号 3 のプロセス (支払伝票転記) が自動的に開始され、その後、番号 4 のプロセス (仕訳作成) が開始されます。この例で使用したプロセス グループは、仕訳作成に関する全てのプロセス (QVJGEN) です。

注: 即時転記プロセスの機能は、割り当てられたユーザーにのみ、自動的に表示されます。特定のユーザー、さらには特定のプロセスに対して、この機能が使用可能になるかどうかは、ユーザー基本設定 - プロセス グループ ページで設定した定義によって決まります。

Invoice Information PagePeopleSoft Payablesを参照してください。

売掛金管理

PeopleSoft 売掛金管理でのプロセス グループは、プロセスではなく、転記アクションに関連付けられています。プロセス グループに関連付けられた転記アクションによって、どのプロセスをいつ実行するか決まります。

各プロセス グループ (転記アクション) は、入金ワークシートやメンテナンス ワークシートなどの、6 つの異なるソース取引に関連付けられています。

Understanding the Receivables Update Application Engine ProcessPeopleSoft Receivablesを参照してください。

プロセス グループ

次の表には、プロセス グループと、これに関連するプロセスと転記アクション、およびこれを使用する製品を示しています。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プロセス グループ	*プロセスと転記アクション*	*PeopleSoft 製品*
伝票作成 (AP_VCHRBLD)	伝票作成アプリケーション エンジン プロセス (AP_VCHRBLD) を実行します。	買掛金管理
一括キャンセル (APPMTCNL1)	一括キャンセル アプリケーション エンジン (AP_MASSPMTCN) を実行します。	買掛金管理
キャンセル、支払転記 (APPMTCNL2)	一括キャンセル プロセスの後に支払転記アプリケーション エンジン プロセス (AP_PSTPYMNT) を実行します。	買掛金管理
キャンセル、支払転記、支払伝票転記 (APPMTCNL2A)	最初に一括キャンセル プロセス、次に支払転記プロセス、その次に支払伝票転記アプリケーション エンジン プロセス (AP_PSTVCHR) の 3 つのプロセスを実行します。	買掛金管理
仕訳作成に関する全てのプロセス (BLDTOPOST)	次のアプリケーション エンジン プロセスをリストした順に実行します。 • 伝票作成。 • マッチング。 **注:** マッチングは、支払伝票にコピーされた発注書または受領書が関連付けられている場合にのみ実行されます。 • ドキュメント許容差異チェック。 • コミットメント コントロール予算チェック。 • 伝票転記。 • 仕訳ジェネレータ。	買掛金管理
予算チェック (BUDGET_CHK)	コミットメント コントロール予算チェック即時転記プロセス (FS_BCHK) を実行します。これにより、予算プロセッサ アプリケーション エンジン プロセス (FS_BP) が呼び出されます。	買掛金管理
ドキュメント許容差異 (DOC_TOL)	ドキュメント許容差異チェック アプリケーション エンジン プロセス (FS_DOCTOL) を実行します。	買掛金管理
支払伝票マス メンテナンス (MASSMAINT)	支払伝票マス メンテナンス アプリケーション エンジン プロセス (APVCHMASSMNT) を実行します。	買掛金管理

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プロセス グループ	*プロセスと転記アクション*	*PeopleSoft 製品*
マス メンテナンスと伝票作成 (MASSMNTVB)	支払伝票マス メンテナンス プロセス グループと同じプロセスを実行し、支払伝票作成アプリケーション エンジン プロセス (AP_VCHRBLD) も実行します。	買掛金管理
伝票メンテナンスと伝票転記 (MASSPOST)	支払伝票マス メンテナンス プロセス グループと同じプロセスを実行し、支払伝票転記アプリケーション エンジン プロセス (AP_PSTVCHR) も実行します。	買掛金管理
伝票メンテナンス、転記、仕訳作成 (MASSPOSTGL)	支払伝票メンテナンスおよび支払伝票転記プロセス グループと同じプロセスを実行し、仕訳ジェネレータ アプリケーション エンジン プロセス (FS_JGEN) も実行します。	買掛金管理
マッチング (MATCHING) **注:** eSettlement によってマッチング (ESMATCH) が提供されます。	マッチング アプリケーション エンジン プロセス (AP_MATCH) を実行します。	買掛金管理
マッチング、ドキュメント許容差異、予算チェック (MTCH_DT_BC)	マッチング プロセス、ドキュメント許容差異チェック プロセス、およびコミットメント コントロール予算チェック即時転記プロセスを実行します。 支払伝票に適用されるプロセスのみが実行されます。	買掛金管理
支払転記 (PAYPAYPOST)	支払転記アプリケーション エンジン プロセス (AP_PSTPYMNT) を実行します。	買掛金管理
支払転記と仕訳作成 (PAYPOSTGL)	支払転記プロセス グループと同じプロセスを実行し、仕訳ジェネレータ アプリケーション エンジン プロセス (FS_JGEN) も実行します。	買掛金管理
支払、伝票転記、仕訳作成 (PAYVCHRJG)	支払転記と仕訳転記プロセス グループと同じプロセスを実行し、仕訳ジェネレータのアプリケーション エンジン プロセス (FS_JGEN) も実行します。	買掛金管理
支払転記と仕訳転記 (PAYVCHRPST)	支払転記プロセス グループと同じプロセスを実行し、支払伝票転記アプリケーション エンジン プロセス (AP_PSTVCHR) も実行します。	買掛金管理
支払転記 (PYMNTPOST)	支払転記アプリケーション エンジン プロセス (AP_PSTPYMNT) を実行します。	買掛金管理

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プロセス グループ	*プロセスと転記アクション*	*PeopleSoft 製品*
支払伝票転記 (PST_VCHR)	マッチング、ドキュメント許容差異、予算チェック プロセス グループと同じプロセスを実行し、支払伝票転記アプリケーション エンジン プロセス (AP_PSTVCHR) も実行します。	買掛金管理
仕訳作成 (PST_VCHRGL)	支払伝票転記プロセス グループと同じプロセスを実行し、仕訳ジェネレータ プロセス (FS_JGEN) も実行します。	買掛金管理
AM 伝票転記ロード (POSTAPAM)	次のアプリケーション エンジン プロセスをリストした順に実行します。 • マッチング。 • ドキュメント許容差異チェック。 • コミットメント コントロール予算チェック。 • 伝票転記 支払伝票に適用されるプロセスのみが実行されます。 AP/AM インターフェイス アプリケーション エンジン プロ セス (INTFAPAM) を実行し、次にプレインターフェイス ローダー プロセス (AMPS1000) によって取引ローダー プロセス (AMIF1000) が呼び出されます。 これにより、支払伝票が転記され、資産管理に資産情報が送信されます。	買掛金管理
仕訳ジェネレータ、AM ロード (POSTAPGLAM)	AM 伝票転記ロード プロセス グループと同じプロセスを実行し、仕訳ジェネレータ プロセス (FS_JGEN) も実行します。 これにより、支払伝票に対して使用可能な全ての支払伝票プロセスが実行されます。そのため、他のプロセスを実行する必要はありません。このプロセスによって、資産管理、買掛金管理、および一般会計に情報が送信されます。	買掛金管理
支払転記 (PYCNCLPOST)	支払転記アプリケーション エンジン プロセス (AP_PSTPYMNT) を実行します。	買掛金管理

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プロセス グループ	*プロセスと転記アクション*	*PeopleSoft 製品*
予算チェックに関する全てのプロセス (QVBUDGCC)	次のアプリケーション エンジン プロセスをリストした順に実行します。 • 伝票作成。 • マッチング。 **注:** マッチングは、支払伝票にコピーされた発注書または受領書が関連付けられている場合にのみ実行されます。 • コミットメント コントロール予算チェック。	買掛金管理
予算チェックに関する全てのプロセス (QVBUDGDTCC)	次のアプリケーション エンジン プロセスをリストした順に実行します。 • 伝票作成。 • マッチング。 **注:** マッチングは、支払伝票にコピーされた発注書または受領書が関連付けられている場合にのみ実行されます。 • ドキュメント許容差異チェック。 • コミットメント コントロール予算チェック。	買掛金管理
ドキュメント許容差異に関する全てのプロセス (QVDOCDT)	次のアプリケーション エンジン プロセスをリストした順に実行します。 • 伝票作成。 • マッチング。 **注:** マッチングは、支払伝票にコピーされた発注書または受領書が関連付けられている場合にのみ実行されます。 • ドキュメント許容差異チェック。	買掛金管理

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プロセス グループ	*プロセスと転記アクション*	*PeopleSoft 製品*
ドキュメント許容差異に関する全てのプロセス (QVDOCDTCC)	次のアプリケーション エンジン プロセスをリストした順に実行します。 • 伝票作成。 • マッチング。 **注:** マッチングは、支払伝票にコピーされた発注書または受領書が関連付けられている場合にのみ実行されます。 • ドキュメント許容差異チェック。 • コミットメント コントロール予算チェック。	買掛金管理
仕訳作成に関する全てのプロセス (QVJGEN)	次のアプリケーション エンジン プロセスをリストした順に実行します。 • 伝票作成。 • マッチング。 **注:** マッチングは、支払伝票にコピーされた発注書または受領書が関連付けられている場合にのみ実行されます。 • 伝票転記。 • 仕訳ジェネレータ。	買掛金管理
仕訳作成に関する全てのプロセス (QVJGENCC)	次のアプリケーション エンジン プロセスをリストした順に実行します。 • 伝票作成。 • マッチング。 **注:** マッチングは、支払伝票にコピーされた発注書または受領書が関連付けられている場合にのみ実行されます。 • コミットメント コントロール予算チェック。 • 伝票転記。 • 仕訳ジェネレータ。	買掛金管理

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プロセス グループ	*プロセスと転記アクション*	*PeopleSoft 製品*
仕訳ジェネレータに関する全てのプロセス (QVJGENDT)	次のアプリケーション エンジン プロセスをリストした順に実行します。 • 伝票作成。 • マッチング。 **注:** マッチングは、支払伝票にコピーされた発注書または受領書が関連付けられている場合にのみ実行されます。 • ドキュメント許容差異チェック。 • 伝票転記。 • 仕訳ジェネレータ。	買掛金管理
仕訳作成に関する全てのプロセス (QVJGENDTCC)	次のアプリケーション エンジン プロセスをリストした順に実行します。 • 伝票作成。 • マッチング。 **注:** マッチングは、支払伝票にコピーされた発注書または受領書が関連付けられている場合にのみ実行されます。 • ドキュメント許容差異チェック。 • コミットメント コントロール予算チェック。 • 伝票転記。 • 仕訳ジェネレータ。	買掛金管理
マッチング (QVMTCH)	マッチング アプリケーション エンジン プロセスは、支払伝票にコピーされた発注書が関連付けられている場合にのみ実行されます。	買掛金管理

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プロセス グループ	*プロセスと転記アクション*	*PeopleSoft 製品*
マッチングに関する全てのプロセス (QVMTCHCC)	次のアプリケーション エンジン プロセスをリストした順に実行します。 • 伝票作成。 • マッチング。 **注:** マッチングは、支払伝票にコピーされた発注書または受領書が関連付けられている場合にのみ実行されます。	買掛金管理
伝票作成とドキュメント許容差異マッチング (CC オフ) (QVMTCHDT)	次のアプリケーション エンジン プロセスをリストした順に実行します。 • 伝票作成。 • マッチング。 **注:** マッチングは、支払伝票にコピーされた発注書または受領書が関連付けられている場合にのみ実行されます。	買掛金管理
マッチングに関する全てのプロセス (QVMTCHDTCC)	次のアプリケーション エンジン プロセスをリストした順に実行します。 • 伝票作成。 • マッチング。 **注:** マッチングは、支払伝票にコピーされた発注書または受領書が関連付けられている場合にのみ実行されます。	買掛金管理
伝票転記を行う全ての処理 (QVPOST)	次のアプリケーション エンジン プロセスをリストした順に実行します。 • 伝票作成。 • マッチング。 **注:** マッチングは、支払伝票にコピーされた発注書または受領書が関連付けられている場合にのみ実行されます。 • 伝票転記。	買掛金管理

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プロセス グループ	*プロセスと転記アクション*	*PeopleSoft 製品*
伝票転記を行う全ての処理 (QVPOSTCC)	次のアプリケーション エンジン プロセスをリストした順に実行します。 • 伝票作成。 • マッチング。 **注:** マッチングは、支払伝票にコピーされた発注書または受領書が関連付けられている場合にのみ実行されます。 • コミットメント コントロール予算チェック。 • 伝票転記。	買掛金管理
伝票転記を行う全ての処理 (QVPOSTDT)	次のアプリケーション エンジン プロセスをリストした順に実行します。 • 伝票作成。 • マッチング。 **注:** マッチングは、支払伝票にコピーされた発注書または受領書が関連付けられている場合にのみ実行されます。 • ドキュメント許容差異チェック。 • 伝票転記。	買掛金管理
伝票転記を行う全ての処理 (QVPOSTDTCC)	次のアプリケーション エンジン プロセスをリストした順に実行します。 • 伝票作成。 • マッチング。 **注:** マッチングは、支払伝票にコピーされた発注書または受領書が関連付けられている場合にのみ実行されます。 • ドキュメント許容差異チェック。 • コミットメント コントロール予算チェック。 • 伝票転記。	買掛金管理

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プロセス グループ	*プロセスと転記アクション*	***PeopleSoft 製品***
伝票作成 (QVVBLD)	伝票作成アプリケーション エンジン プロセス (AP_VCHRBLD) を実行します。	買掛金管理
伝票作成 (QVVBLDCC)	伝票作成アプリケーション エンジン プロセス (AP_VCHRBLD) を実行します。	買掛金管理
伝票作成、ドキュメント許容差異 (CC オフ) (QVVBLDDT)	伝票作成アプリケーション エンジン プロセス (AP_VCHRBLD) を実行します。	買掛金管理
伝票作成 (AVVBLDDTCC)	伝票作成アプリケーション エンジン プロセス (AP_VCHRBLD) を実行します。	買掛金管理
マス メンテナンスと仕訳ジェネレータ (UNPSTJGEN)	支払伝票マス メンテナンスおよび仕訳作成プロセス グループと同じプロセスを実行し、支払伝票転記取消アプリケーション エンジン プロセス (APVCHRUNPOST) も呼び出します。	買掛金管理
支払伝票転記 (VCHRPOST)	支払伝票転記 アプリケーション エンジン プロセス (AP_PSTVCHR) を実行します。	買掛金管理
伝票転記と GL (VCHRPOSTGL)	支払伝票転記プロセス グループと同じプロセスを実行し、仕訳ジェネレータ アプリケーション エンジン プロセス (FS_JGEN) も実行します。	買掛金管理
源泉徴収転記と更新 (WHUPDPST)	源泉徴収更新プロセス グループと同じプロセスを実行し、源泉徴収転記アプリケーション エンジン プロセス (AP_WTHD) も実行します。	買掛金管理
源泉徴収更新 (WTHDUPD)	源泉徴収更新アプリケーション エンジン プロセス (AP_WTHD_UPDT) を実行します。	買掛金管理
転記しない (ARACTIONA)	転記アクション: 転記しない グループの転記ステータスを変更し、グループが売掛金更新複数プロセス ジョブ (ARUPDATE) の予定された実行によって処理されないようにします。	売掛金管理

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プロセス グループ	*プロセスと転記アクション*	***PeopleSoft 製品***
バッチ標準 (ARACTIONL)	転記アクション: バッチ標準 グループの転記ステータスを変更し、売掛金更新複数プロセス ジョブによって処理されるようにします。このジョブは、次に予定されている実行で収入見積および予算プロセッサのプロセスを呼び出します。予算プロセッサ プロセスは、売掛金管理およびそのビジネス ユニットに対してコミットメント コントロール機能を有効にしている場合にのみ実行されます。	売掛金管理
バッチ優先順位 (ARACTIONN)	転記アクション: バッチ優先 グループの転記ステータスを変更し、売掛金更新複数プロセス ジョブによって処理されるようにします。このジョブは、次に予定されている実行で、RP_RUN_OPTIONS に "PRIORITY" フラグを使用して、収入見積および予算プロセッサのプロセスを呼び出します。 予算プロセッサ プロセスは、売掛金管理およびそのビジネス ユニットに対してコミットメント コントロールを有効にしている場合にのみ実行されます。	売掛金管理
即転記 (ARPOST)	転記アクション: 即転記 売掛金更新ジョブを即座に実行します。売掛金管理およびそのビジネス ユニットに対してコミットメント コントロール機能を有効にしている場合は、このジョブによって収入見積および予算プロセッサのプロセスが呼び出されます。	売掛金管理
GL に即転記 (ARPOSTGL)	転記アクション: GL に即転記 売掛金更新ジョブを即座に実行します。売掛金管理およびそのビジネス ユニットに対してコミットメント コントロール機能を有効にしている場合は、このジョブによって収入見積および予算プロセッサのプロセスが呼び出されます。さらに、仕訳ジェネレータ プロセス (FS_JGEN)、仕訳編集プロセス (GL_JEDIT)、および仕訳転記プロセス (GLPPPOST) も実行します。	売掛金管理

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: 指定された支払伝票に資産が関連していない場合は、*[AM 伝票転記ロード]* または *[仕訳ジェネレータ,AM ロード]* のいずれのプロセス グループも使用可能になりません。これらのプロセス グループは、選択した支払伝票が資産に関連している場合にのみ使用できます。

即時転記プロセス オプションの設定

即時転記プロセスのオプションを設定するには、即時転記プロセス オプション コンポーネント (RTM_OPTIONS) を使用します。

即時転記プロセス オプションの設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
即時転記プロセス オプション ページ	RTM_OPTIONS	仕訳ジェネレータの会計入力定義と、即時転記プロセス グループのその他のプロセス オプションを指定します。

即時転記プロセス オプションの設定について

即時転記プロセスを使用するには、各ソース取引とプロセス グループの組合せで使用される会計入力定義と、その他のオプションを指定する必要があります。会計入力定義には、仕訳ジェネレータ プロセスがシステム ソースから会計入力を抽出するために使用する、レコードおよびフィールドを定義します。

即時転記プロセス オプション ページ

即時転記プロセス オプション ページ (RTM_OPTIONS) を使用して、仕訳ジェネレータの会計入力定義と、即時転記プロセス グループのその他のプロセス オプションを指定します。

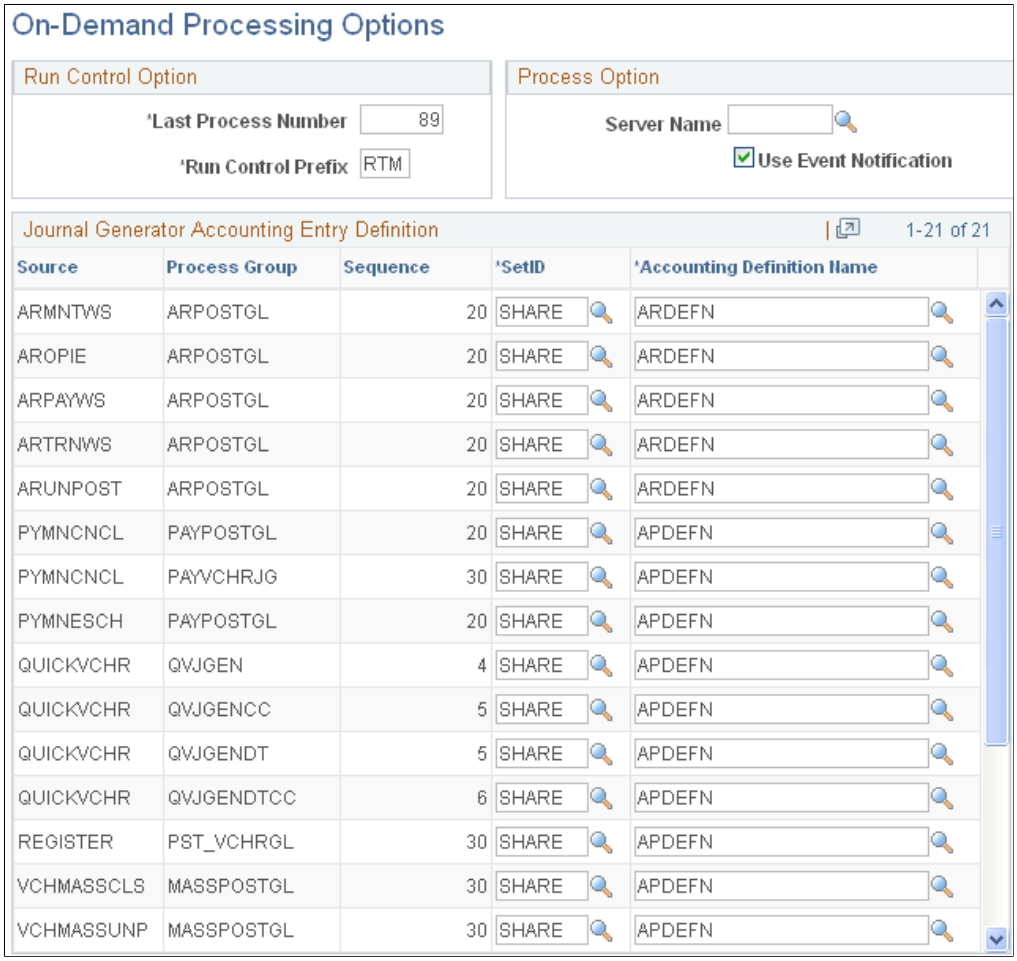
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [即時転記プロセス], [即時転記プロセス オプション], [即時転記プロセス オプション]

画像: 即時転記プロセス オプション ページ

この例では、即時転記プロセス オプション ページのフィールドとコントロールを示します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



ラン コントロール オプション

最終処理番号 システムがラン コントロールに付ける番号の開始番号を定義するために、任意の 3 桁の数字を入力します。

ラン コントロール プレフィックス ラン コントロール ID を識別する任意の 3 文字を入力します。

プロセス オプション

サーバー名 即時転記プロセス グループを実行するサーバーを入力します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

イベント通知の使用

このチェック ボックスを選択して、プロセスを非同期モードで実行します。それにより、プロセスは独立してバックグラウンドで実行されるため、サーバーからの応答を必要としなくなります。

これは最も一般的な実行モードです。

仕訳ジェネレータの会計入力定義

ソース取引と、仕訳ジェネレータ プロセスが含まれるプロセス グループの組合せごとに、会計入力定義の [セットID] と [会計処理定義名] を指定します。

関連リンク

会計入力定義ページ

プロセス グループ ユーザー基本設定の定義

プロセス グループ ユーザー基本設定を定義するには、ユーザー基本設定 - プロセス グループ コンポーネント (OPR_DEFAULT) 使用します。

プロセス グループ基本設定の定義に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
ユーザー基本設定 - プロセス グループ ページ	OPR_DEF_TBL_RTM	即時転記プロセスでユーザーが使用できるプロセス グループを、ソース取引ごとに指定します。

プロセス グループ ユーザー基本設定について

各ユーザーには、特定のタイプの取引で使用するプロセス グループへのアクセスが割り当てられている必要があります。

買掛金管理の場合は、定義されたユーザーが即時転記プロセス機能を使用できるように、次の各ソース取引にプロセス グループを割り当てます。

- 仮登録完了済伝票 (REGISTER)。
- 支払一括キャンセル v1 (APMASSCNL)。
- 支払一括キャンセル v2 (APMASSCNL2)。
- マッチング例外 (MTCHEXPTN)。
- マッチング上書き (MTCHOVRD)。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 支払キャンセル (PYMNCNCL)。
- 支払戻入 (PYMNESCH)。
- クイック請求書 (QUICKVCHR)。
- 支払伝票整理 (VCHRCLOSE)。
- 支払伝票入力 (VOUCHER)。
- 支払伝票メンテナンス (VCHR_MAINT)。
- 支払伝票マス メンテナンス - 整理 (VCHMASSCLS)。
- 支払伝票マス メンテナンス - 削除 (VCHMASSDEL)。
- 支払伝票マス メンテナンス - フィールド (VCHMASSFLD)。
- 支払伝票マス メンテナンス - 転記取消 (VCHMASSUNP)。
- 支払伝票即時転記プロセス (VCHR_STM)。
- 源泉徴収の更新 - 伝票行 (LINEWTHD)。
- 源泉徴収の更新 - 取引先伝票 (VNDRWTHD)。

売掛金管理の場合は、各ユーザーが実行するために有効化する転記アクションに基づいて、全てのユーザーを対象とした次の各ソース取引に、適切なプロセス グループを割り当てます。

- アイテム分割 (ARITSPLT)。
- 売掛金の管理 (ARMNTWS)。
- 未転記アイテムのオンライン入力 (AROPIE)。
- 入金ワークシート (ARPAYWS)。
- 振替ワークシート (ARTRNWS)。
- 転記取消 (ARUNPOST)。

注: 売掛金管理のアイテム分割 (ARITSPLT) 以外の全てのソース取引は、5 つのプロセス グループを全てサポートします。アイテム分割 (ARITSPLT) は、転記しない (ARACTIONA)、バッチ標準 (ARACTIONL) および即転記 (ARPOST) のみをサポートします。

ユーザー基本設定 - プロセス グループ ページ

ユーザー基本設定 - プロセス グループ ページ (OPR_DEF_TBL_RTM) を使用して、即時転記プロセスでユーザーが使用できるプロセス グループを、ソース取引ごとに指定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定の定義], [プロセス グループ]

注: 割り当てたプロセス グループが、設定したユーザーの担当に適合していることを確認します。

コピー元ユーザー ID

ソース取引の仕様をコピーする元の、定義済ユーザー ID を入力します。これにより、同じ担当の他のユーザーにソース取引プロセス グループをコピーするために使用する、テンプレート ユーザー ID を設定できるようになります。

処理可

このチェック ボックスを選択して、このユーザー ID で即時転記プロセスを使用できるようにします。

イベント通知の使用

このチェック ボックスを選択して、プロセスを非同期モードで実行します。それにより、プロセスは独立してバックグラウンドで実行されるため、サーバーからの応答を必要としなくなります。

ソース取引

関連するプロセス グループを割り当てるソース取引を選択します。

- *APMASSCNL* (支払一括キャンセル v1)。
- *APMASSCNL2* (支払一括キャンセル v2)。
- *ARITSPLT* (アイテム分割)。
- *ARMNTWS* (売掛金の管理ワークシート)。
- *AROPIE* (未転記アイテムのオンライン入力)。
- *ARPAYWS* (入金ワークシート)。
- *ARTRNWS* (振替ワークシート)。
- *ARUNPOST* (転記取消グループ)。
- *LINEWTHD* (源泉徴収の更新 - 伝票行)。
- *MTCHEXPTN* (マッチング例外)。
- *MTCHOVRD* (マッチング上書き)。
- *PYMNCNCL* (支払キャンセル)。
- *PYMNESCH* (支払戻入)。
- *QUICKVCHR* (クイック請求書)。
- *REGISTER* (仮登録完了済伝票)。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *VCHMASSCLS* (支払伝票マス メンテナンス - 整理)。
- *VCHMASSDEL* (支払伝票マス メンテナンス - 削除)。
- *VCHMASSFLD* (支払伝票マス メンテナンス - フィールド)。
- *VCHMASSUNP* (支払伝票マス メンテナンス - 転記取消)。
- *VCHR_MAINT* (支払伝票メンテナンス)。
- *VCHR_STM* (支払伝票即時転記プロセス)。
- *VCHRCLOSE* (支払伝票整理)。
- *VNDRWTHD* (源泉徴収の更新 - 取引先伝票)。
- *VOUCHER* (支払伝票入力)。

プロセス グループ

選択したソース取引でユーザーに使用可能にするプロセス グループを選択します。

- *AP_VCHRBLD:* 伝票作成 (買掛金管理)。
- *APPMTCNL1:* 一括キャンセル (買掛金管理)。
- *APPMTCNL2:* キャンセル、支払転記 (買掛金管理)。
- *APPMTCNL2A:* キャンセル、支払転記、支払伝票転記 (買掛金管理)。
- *ARACTIONA:* 転記しない (売掛金管理)。
- *ARACTIONL:* バッチ標準 (売掛金管理)。
- *ARACTIONN:* バッチ優先順位 (売掛金管理)。
- *ARPOST:* 即転記 (売掛金管理)。
- *ARPOSTGL:* GL に即転記 (売掛金管理)。
- *BLDTOPOST:* 仕訳作成に関する全てのプロセス (買掛金管理)。
- *BUDGET_CHK:* 予算チェック (買掛金管理)。
- *DOC_TOL:* ドキュメント許容差異 (買掛金管理)。
- *ESMATCH:* マッチング (eSettlement)。
- *MASSMAINT:* 支払伝票マス メンテナンス (買掛金管理)。
- *MASSMNTVB:* マス メンテナンスと伝票作成 (買掛金管理)。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *MASSPOST:* 伝票メンテナンスと伝票転記 (買掛金管理)。
- *MASSPOSTGL:* 伝票メンテナンス、転記、仕訳作成 (買掛金管理)。
- *MATCHING:* マッチング (買掛金管理)。
- *MTCH_DT_BC:* マッチング、ドキュメント許容差異、予算チェック (買掛金管理)。
- *PAYPAYPOST:* 支払転記 (買掛金管理)。
- *PAYPOSTGL:* 支払転記と仕訳作成 (買掛金管理)。
- *PAYVCHRJG:* 支払、伝票転記、仕訳作成 (買掛金管理)。
- *PAYVCHRPST:* 支払転記と仕訳転記 (買掛金管理)。
- *POSTAPAM:* 伝票転記と AM へのロードを行う全ての処理 (買掛金管理)。
- *POSTAPGLAM:* 仕訳作成と AM へのロードを行う全ての処理 (買掛金管理)。
- *PST_VCHR:* 伝票転記を行う全ての処理 (買掛金管理)。
- *PST_VCHRGL:* 仕訳作成に関する全てのプロセス (買掛金管理)。
- *PYCNCLPOST:* 支払転記 (買掛金管理)。
- *PYMNTPOST:* 支払転記 (買掛金管理)。
- *QVBUDGCC:* 予算チェックに関する全てのプロセス (買掛金管理)。
- *QVBUDGDTCC:* 予算チェックに関する全てのプロセス (買掛金管理)。
- *QVDOCDT:* ドキュメント許容差異に関する全てのプロセス (買掛金管理)。
- *QVDOCDTCC:* ドキュメント許容差異に関する全てのプロセス (買掛金管理)。
- *QVJGEN:* 仕訳作成に関する全てのプロセス (買掛金管理)。
- *QVJGENCC:* 仕訳作成に関する全てのプロセス (買掛金管理)。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *QVJGENDT:* 仕訳ジェネレータに関する全てのプロセス (買掛金管理)。
- *QVJGENDTCC:* 仕訳作成に関する全てのプロセス (買掛金管理)。
- *QVMTCH:* マッチング (買掛金管理)。
- *QVMTCHCC:* マッチングに関する全てのプロセス (買掛金管理)。
- *QVMTCHDT:* 伝票作成とドキュメント許容差異マッチング (CC オフ) (買掛金管理)。
- *QVMTCHDTCC:* マッチングに関する全てのプロセス (買掛金管理)。
- *QVPOST:* 伝票転記を行う全ての処理 (買掛金管理)。
- *QVPOSTCC:* 伝票転記を行う全ての処理 (買掛金管理)。
- *QVPOSTDT:* 伝票転記を行う全ての処理 (買掛金管理)。
- *QVPOSTDTCC:* 伝票転記を行う全ての処理 (買掛金管理)。
- *QVVBLD:* 伝票作成 (買掛金管理)。
- *QVVBLDCC:* 伝票作成 (買掛金管理)。
- *QVVBLDDT:* 伝票作成、ドキュメント許容差異 (CC オフ) (買掛金管理)。
- *QVVBLDDTCC:* 伝票作成 (買掛金管理)。
- *UNPSTJGEN:* マス メンテナンスと仕訳ジェネレータ (買掛金管理)。
- *VCHRPOST:* 伝票転記 (買掛金管理)。
- *VCHRPOSTGL:* 伝票転記と GL (買掛金管理)。
- *WHUPDPST:* 源泉徴収転記と更新 (買掛金管理)。
- *WTHDUPD:* 源泉徴収更新 (買掛金管理)。

注: 売掛金管理のソース取引に買掛金管理のグループを選択することはできません。その逆も同様です。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

関連リンク

プロセス グループ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第24章

共通のユーザビリティ機能の使用

マウス オーバー ポップアップ ページについて

このトピックでは、次の概要について説明します。

- マウス オーバー ポップアップ ページの指定方法。
- 顧客のポップアップ ページ。
- 顧客連絡先のポップアップ ページ。
- サプライヤのポップアップ ページ。
- サプライヤ内線番号のポップアップ ページ。
- サプライヤ連絡先のポップアップ ページ。

マウス オーバー ポップアップ ページの指定方法について

ユーザーは、マウス オーバー ポップアップ ページを使用して、顧客、サプライヤ、連絡先、スポンサなどのフィールドに関する追加情報を確認できます。ポップアップ ページでは、名前、電話番号、所在地、電子メール アドレスなどの情報が提供されます。

この機能によって、主ページのスペースを使用したり、2 次ページを開く必要なく、ページに追加情報を表示できます。

マウス オーバー ポップアップ ページは、アプリケーション デザイナを使用して設定する PeopleTools 機能です。PeopleSoft FSCM では、選択したページにマウス オーバー ポップアップ機能が提供されます。ただし、全ての顧客ページおよびサプライヤ ページがマウス オーバー ポップアップ機能に対してアクティブ化されるわけではありません。追加ページでマウス オーバー ポップアップ機能をアクティブ化するには、PeopleTools のアプリケーション デザイナを使用します。

「マウス オーバー ポップアップ機能のアクティブ化」を参照してください。

次のことが可能です。

- 追加のポップアップ ページの設定。
- 次の 2 つのレベルでのマウス オーバー ポップアップ ページ機能のオンとオフ。
    - インストール レベルのパーソナル設定の定義ページ。

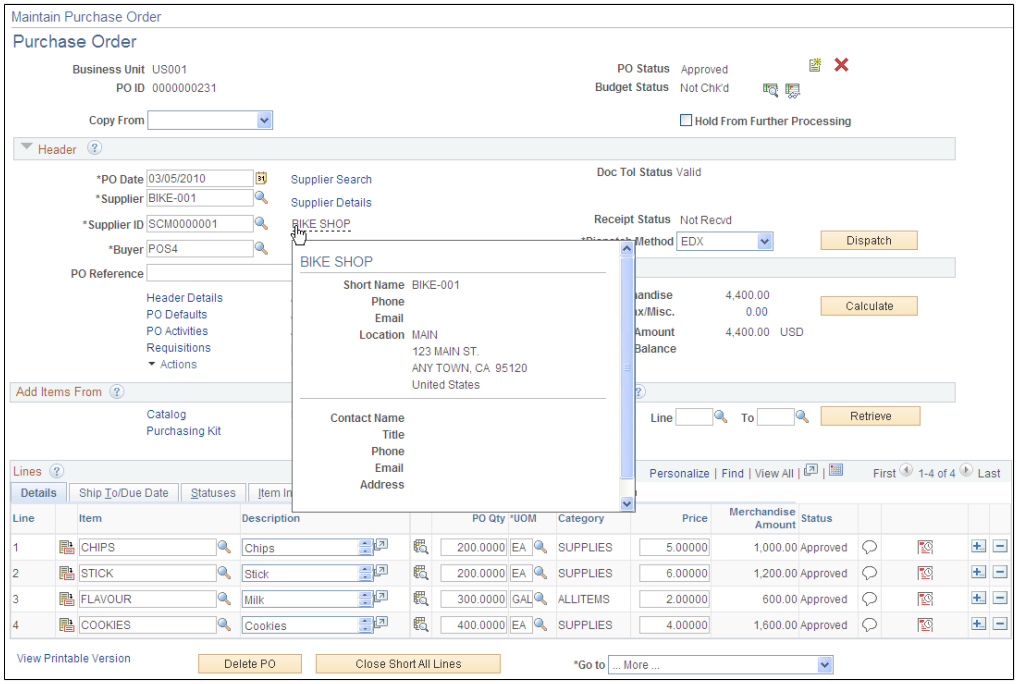
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- ユーザー レベルのマイ パーソナル設定ページ。

ポップアップ ページは、点線があるフィールドにマウスを合わせるとアクティブ化されます。たとえば、次のページでは、[発注書の管理] - 発注書ページにある [サプライヤ名] フィールドの [CAMPER'S WAREHOUSE] のポップアップ ページがアクティブ化されています。

画像: マウス オーバー ポップアップ ページの例

次の例では、マウス オーバー ポップアップ ページの例のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



PeopleSoft Financials および Supply Chain Management では、次のタイプのポップアップ ページが提供されます。

- 顧客のポップアップ ページ。
- 顧客連絡先のポップアップ ページ。
- 顧客のポップアップ ページ。
- 顧客内線番号のポップアップ ページ。
- 顧客連絡先のポップアップ ページ。

顧客のポップアップ ページについて

顧客のポップアップ ページには、次の 3 つのタイプがあります。

- 請求先顧客ポップアップ ページ (タイプ 1)

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 出荷先顧客ポップアップ ページ (タイプ 2)
- 販売先顧客ポップアップ ページ (タイプ 3)

ポップアップ ページに表示される住所と電話番号は、メイン ページに表示される情報によって異なります。メイン ページに請求書や注文などのドキュメントに関する情報が表示されており、そのドキュメントが所在地を参照している場合は、そのドキュメントの所在地の住所と電話番号が表示されます。それ以外の場合、このページには、顧客の主住所と電話番号が表示されます。表示される主住所は、請求先、販売先、出荷先など、ページのタイプによって異なります。たとえば、請求先顧客の場合、このページには、主要な請求先住所および電話番号が表示されます。出荷先顧客の場合、このページには、主要な出荷先住所および電話番号が表示されます。販売先顧客の場合、このページには、主要な販売先住所および電話番号が表示されます。現在日付が、有効日として使用されます。

ポップアップ ページに、空白として表示されるフィールドがある場合は、その顧客のデータが定義されていないことを意味します。たとえば、電話番号と Web サイトはオプションのフィールドであるため、顧客マスターでこれらのフィールドが空白になっている場合は、ポップアップ ページで空白として表示されます。

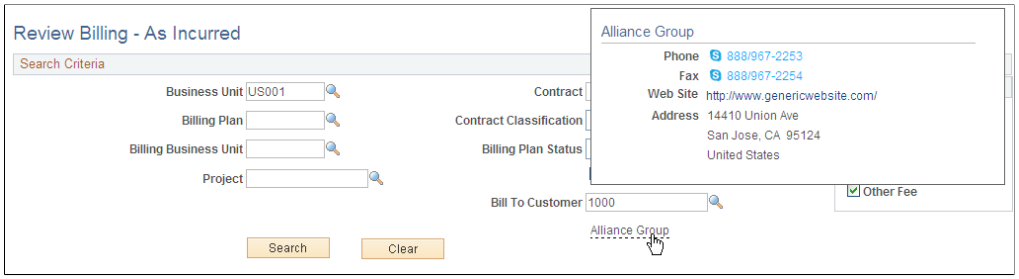
顧客の電話番号は、3 つの個別のフィールド (国コード、電話および内線) に保存されます。これら 3 つのフィールドは、ページに表示される際には結合されます。国コードの先頭には + が付き、内線フィールドの先頭には x が付きます。顧客の FAX 番号は 3 つの個別のフィールドではなく、1 つのフィールドのみで構成されているため、顧客マスター レコードに表示されるとおりに表示されます。

請求先顧客ポップアップ ページ (タイプ 1)

請求先顧客ポップアップ ページ (SAC_CUSTBIL_POP):

画像: 請求先顧客ポップアップ ページの例

次の例では、請求先顧客ポップアップ ページの例のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このポップアップ ページが使用される箇所の例は、次のとおりです。

- PeopleSoft 契約管理の請求情報の確認 - 発生ベース ページ。
- PeopleSoft Grants の先行報酬予算の確認コンポーネント。
- PeopleSoft 売掛金管理の取引明細確認ページ。
- PeopleSoft 請求管理の請求書入力ページ。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

出荷先顧客ポップアップ ページ (タイプ 2)

出荷先顧客ポップアップ ページ (SAC_CUSTSHP_POP):

このページは、現在、特定のページでは使用できません。このポップアップ ページをアクティブ化するには、以下の作業を行います。

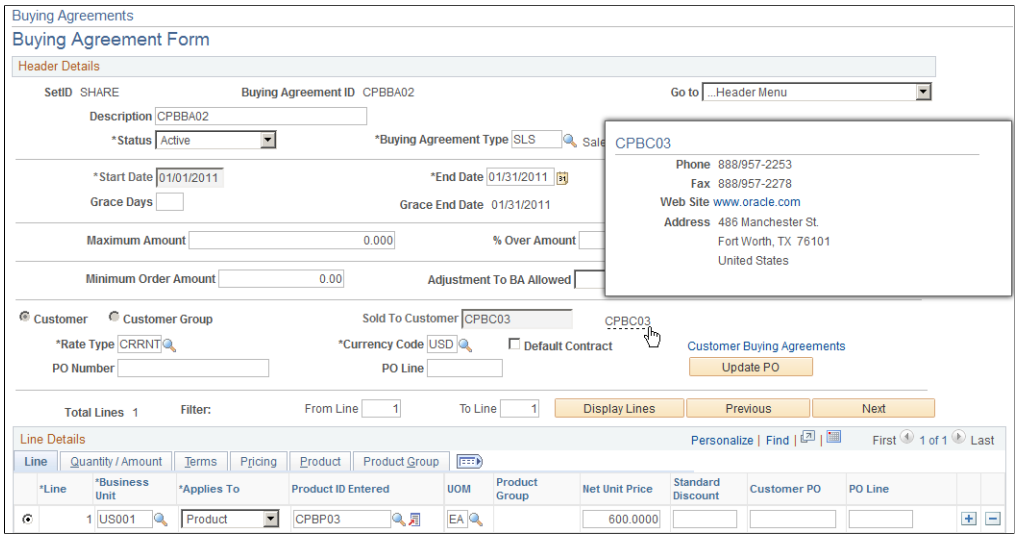
「マウス オーバー ポップアップ機能のアクティブ化」を参照してください。

販売先顧客ポップアップ ページ (タイプ 3)

販売先顧客ポップアップ ページ (SAC_CUSTSLD_POP):

画像: 販売先顧客ポップアップ ページの例

次の例では、販売先顧客ポップアップ ページの例のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このポップアップ ページが使用される箇所の例は、次のとおりです。

- PeopleSoft 契約管理の"契約 - 一般情報"ページ。
- PeopleSoft 受注管理の売買契約フォーム ページ。

顧客連絡先のポップアップ ページについて

連絡先のポップアップ ページには、次の 3 つのタイプがあります。

- 請求先顧客連絡先ポップアップ ページ (タイプ 4)
- 出荷先顧客連絡先ポップアップ ページ (タイプ 5)
- 販売先顧客連絡先ポップアップ ページ (タイプ 6)

連絡先の住所がページに対して適切なタイプの住所である場合は、連絡先の住所が表示されます。適切なタイプの住所ではない場合は、顧客の主住所が表示されます。たとえば、請求先担当者ポップアッ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

プ ページで、連絡先の住所が請求先住所としてマークされていない場合は、顧客の主要請求先住所が表示されます。連絡先の住所は顧客連絡先ページに保存されます。現在日付が、有効日として使用されます。

ポップアップ ページに、空白として表示されるフィールドがある場合は、その連絡先のデータが定義されていないことを意味します。たとえば、電話番号およびタイトルはオプションのフィールドです。このため、連絡先マスターでこれらのフィールドが空白になっている場合は、ポップアップ ページで空白として表示されます。

連絡先の電話番号は、3 つの個別のフィールド (国コード、電話および内線) に保存されます。これら 3 つのフィールドは、ページに表示される際には結合されます。国コードの先頭には + が付き、内線フィールドの先頭には *x* が付きます。

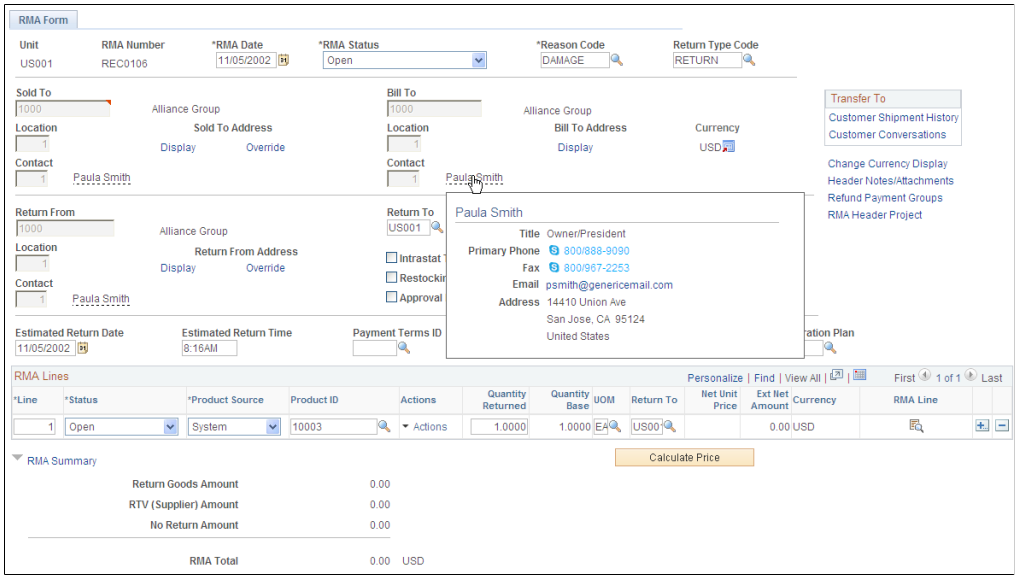
ポップアップ ページの電子メール リンクがクリックされると、ユーザーの定義済メール プログラムの新しいウィンドウが表示され、ユーザーは新しい電子メールを作成できます。電子メール アドレスは、電子メールに自動的に入力されます。

請求先顧客連絡先ポップアップ ページ (タイプ 4)

請求先顧客連絡先ポップアップ ページ (SAC_CUSTCNTBIL_POP):

画像: 請求先顧客連絡先ポップアップ ページの例

次の例では、請求先顧客連絡先ポップアップ ページの例のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



PeopleSoft 受注管理の返品フォーム ページでこのポップアップ ページが使用されている箇所の例。

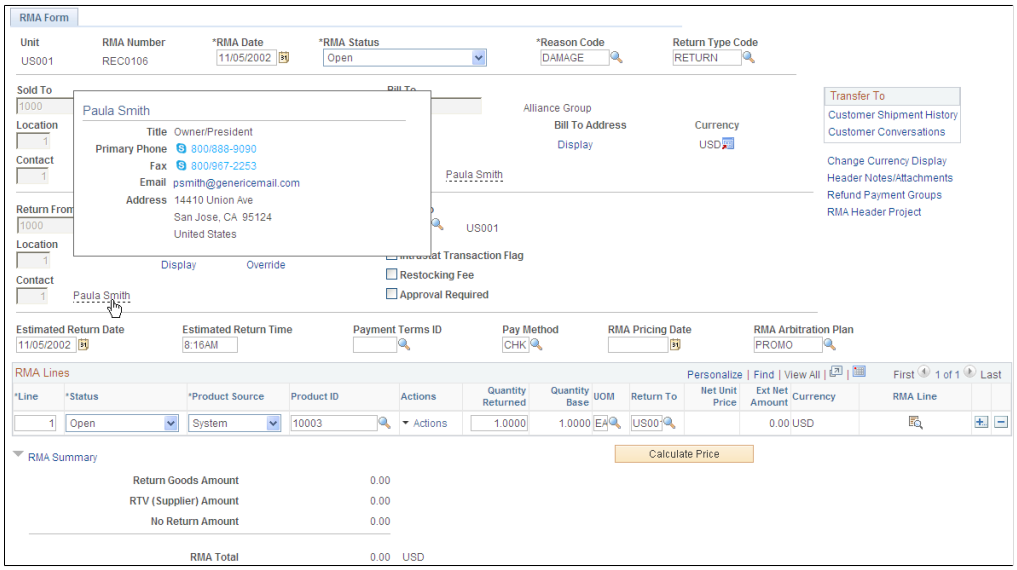
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

出荷先顧客連絡先ポップアップ ページ (タイプ 5)

出荷先顧客連絡先ポップアップ ページ (SAC_CUSTCNTSHP_POP):

画像: 出荷先顧客連絡先ポップアップ ページの例

次の例では、出荷先顧客連絡先ポップアップ ページの例のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



PeopleSoft 受注管理の返品フォーム ページでこのポップアップ ページが使用されている箇所の例。

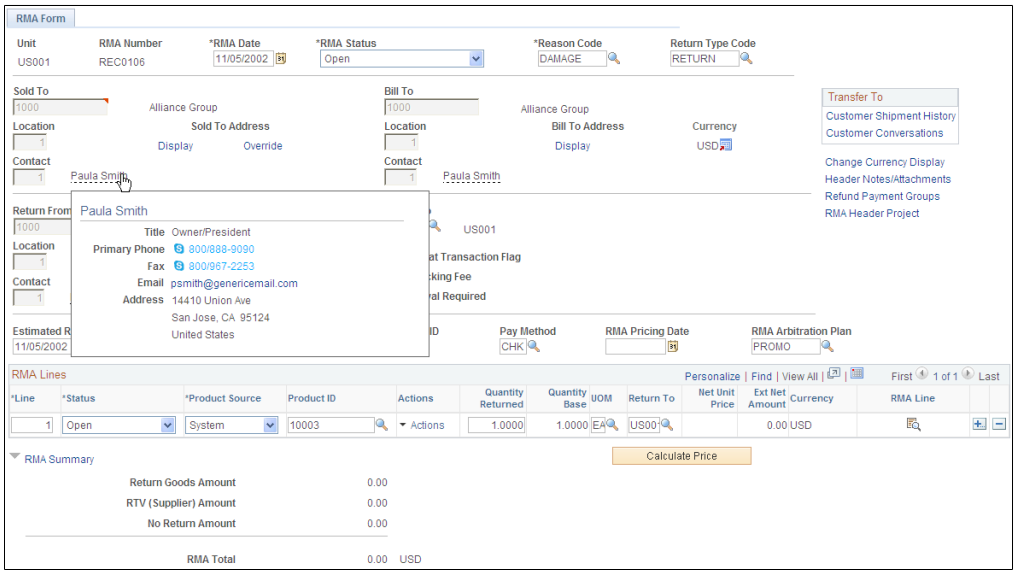
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

販売先顧客連絡先ポップアップ ページ (タイプ 6)

販売先顧客連絡先ポップアップ ページ (SAC_CUSTCNTSLD_POP):

画像: 販売先顧客連絡先ポップアップ ページの例

次の例では、販売先顧客連絡先ポップアップ ページの例のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



PeopleSoft 受注管理の返品フォーム ページでこのポップアップ ページが使用されている箇所の例。

サプライヤのポップアップ ページについて

サプライヤのポップアップ ページには、次の 3 つのタイプがあります。

- サプライヤ ポップアップ ページ (タイプ 1)。
- サプライヤ ポップアップ ページ (タイプ 2)。
- サプライヤ ポップアップ ページ (タイプ 3)。

注: これら全てのポップアップ ページは、視覚的に同じです。メイン ページでデータの入力が必要となるフィールドおよびそれぞれに対するデータの取得方法のみが異なります。

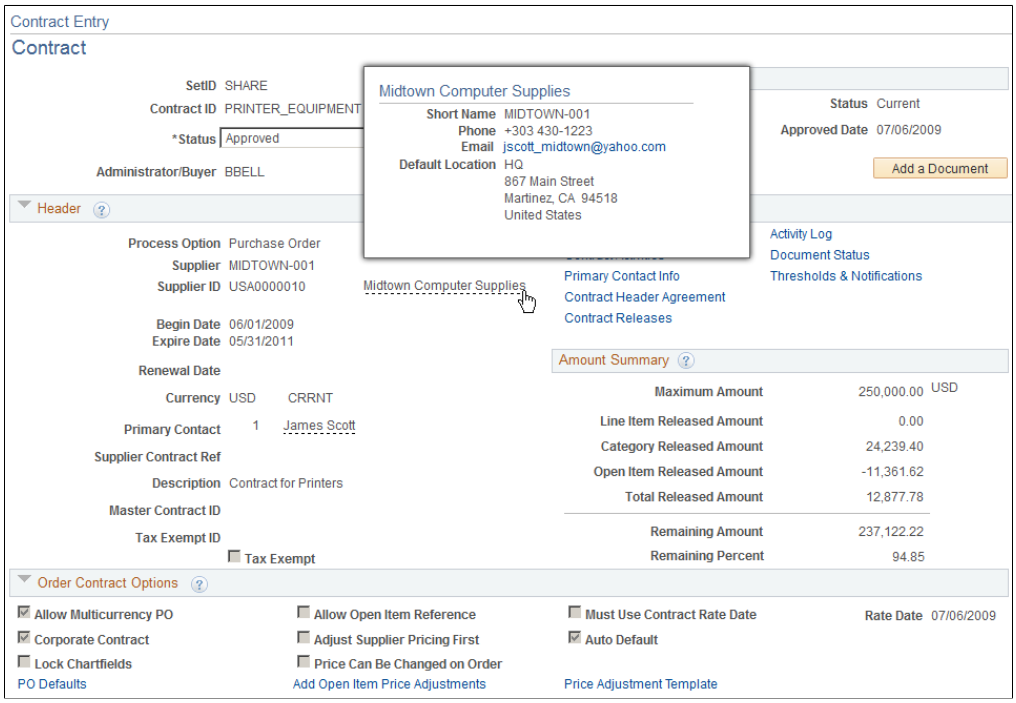
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

サプライヤ ポップアップ ページ (タイプ 1)

サプライヤ ポップアップ ページ (タイプ 1) (SAC_VENDOR_POP):

画像: サプライヤ ポップアップ ページ (タイプ 1) の例

次の例では、サプライヤ ポップアップ ページ (タイプ 1) の例のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



PeopleCode は、SETID、VENDOR_ID およびデフォルト所在地を使用して、VENDOR_LOC の行を読み取ります。現在日付が、有効日として使用されます。行の取得後に、発注先住所連番を使用して、電子メール ID および事務所電話番号と共に表示される適切な住所が選択されます。

このポップアップ ページが使用される箇所の例は、次のとおりです。

- PeopleSoft 購買管理の"契約入力 - 契約"ページ。
- PeopleSoft eSettlement の発注詳細ページ。
- PeopleSoft 買掛金管理のマッチング例外ワークベンチ詳細ページ。

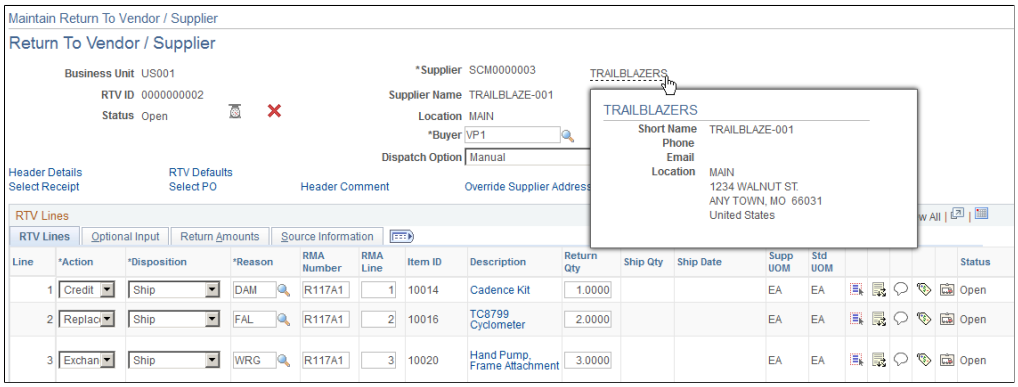
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

サプライヤ ポップアップ ページ (タイプ 2)

サプライヤ ポップアップ ページ (タイプ 2) (SAC_VENDOR_POP2):

画像: サプライヤ ポップアップ ページ (タイプ 2) の例

次の例では、サプライヤ ポップアップ ページ (タイプ 2) の例のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



ADDRESS_SEQ_NUM フィールドは、このページに表示される住所を参照します。この所在地の電子メールおよび事務所電話番号は、有効日として現在の日付を使用し、適切な行を取得して、このページに表示されます。VNDR_LOC を使用して所在地名が表示されます。

PeopleSoft 購買管理の返品先サプライヤ ページでこのポップアップ ページが使用されている箇所の例。

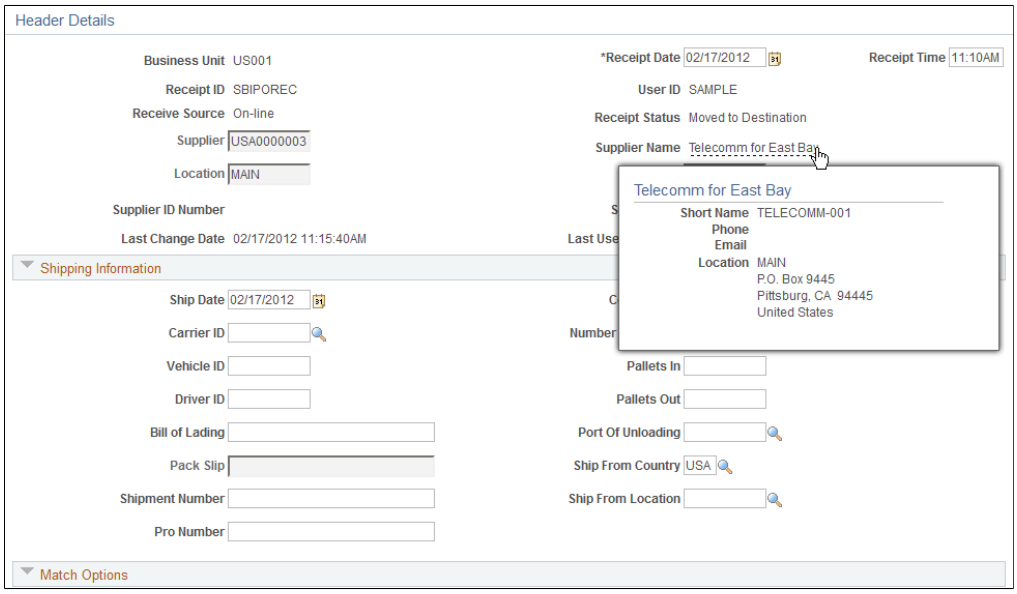
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

サプライヤ ポップアップ ページ (タイプ 3)

サプライヤ ポップアップ ページ (タイプ 3) (SAC_VENDOR_POP3):

画像: サプライヤ ポップアップ ページ (タイプ 3) の例

次の例では、サプライヤ ポップアップ ページ (タイプ 3) の例のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



VNDR_LOC フィールドによって定義されるサプライヤ所在地を使用して、発注先住所キー フィールドが取得され、それを使用して、かつ、現在の日付を有効日として使用し、ページに表示する適切な住所が取得されます。

このポップアップ ページが使用される箇所の例は、次のとおりです。

- PeopleSoft 購買管理の受領書の管理 - ヘッダー詳細ページ。
- PeopleSoft 買掛金管理のマッチング例外ワークベンチ詳細ページ。

サプライヤ内線番号のポップアップ ページについて

サプライヤ内線番号のポップアップ ページには、次の 2 つのタイプがあります。

- サプライヤ内線番号ポップアップ ページ (タイプ 1)。
- サプライヤ内線番号ポップアップ ページ (タイプ 2)。

サプライヤ内線番号のポップアップ ページには、ポップアップ ページのサプライヤおよびコンタクト情報が含まれます。

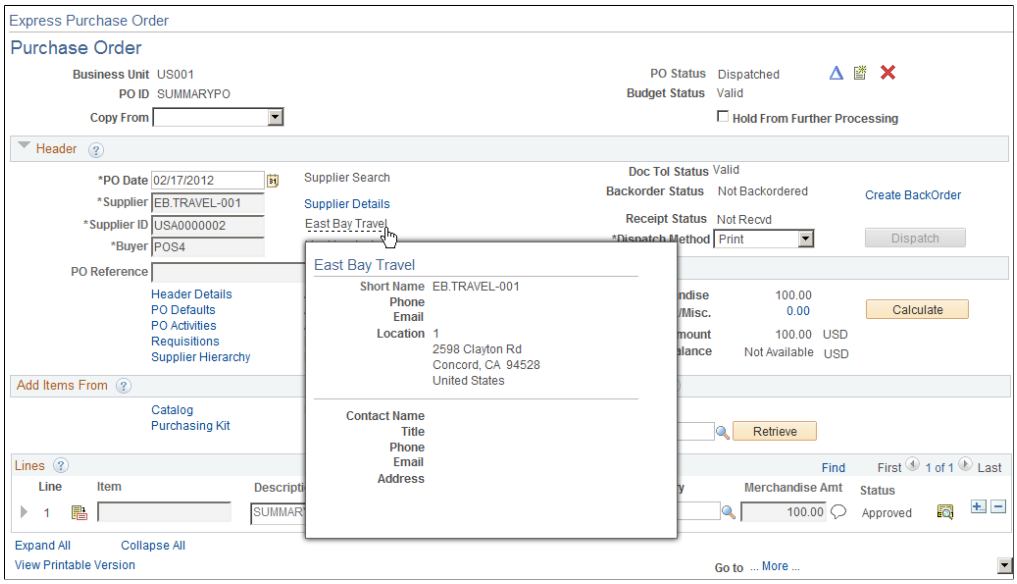
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

サプライヤ内線番号ポップアップ ページ (タイプ 1)

サプライヤ内線番号ポップアップ ページ (タイプ 1) (SAC_VENDOREXT_POP):

画像: サプライヤ内線番号ポップアップ ページ (タイプ 1) の例

次の例では、サプライヤ内線番号ポップアップ ページ (タイプ 1) の例のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



VENDOR は、SETID、VENDOR_ID がキーとなります。VNDR_HLOC_VW は、追加フィールド VNDR_LOC がキーとなり、VNDR_HADDR_VW は ADDRESS_SEQ_NUM がキーとなります。VENDOR_CNT_VW は、SETID、VENDOR_ID および CNTCT_SEQ_NUM がキーとなります。これら全てのフィールドは、表示する適切な行を取得するために、レベル 0 で必要となります。

PeopleSoft 購買管理の発注書の管理 - 発注書ページでこのポップアップ ページが使用されている箇所の例。

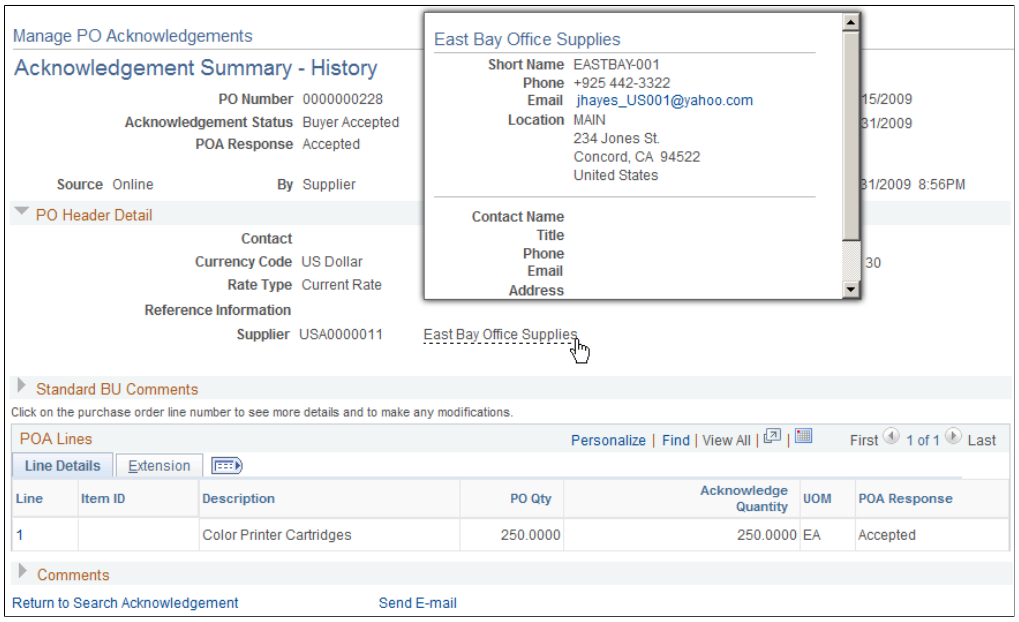
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

サプライヤ内線番号ポップアップ ページ (タイプ 2)

サプライヤ内線番号ポップアップ ページ (タイプ 2) (SAC_VENDOREXT_POP2):

画像: サプライヤ内線番号ポップアップ ページ (タイプ 2) の例

次の例では、サプライヤ内線番号ポップアップ ページ (タイプ 2) の例のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



サプライヤ住所は、PO_HDR レコードにある ADDRESS_SEQ_NUM に基づいて取得されます。現在日付が、有効日として使用され、適切な住所行が取得されます。電子メールおよび事務所電話番号も同様に取得されます。

連絡先の場合、使用される住所は、CNTCT_SEQ_NUM がキーとなっているサプライヤ連絡先にリンクされている住所です。事務所電話番号および電子メールも、有効日として現在日付を使用し、この行から取得されます。

PeopleSoft 購買管理の発注確認通知の管理ページでこのポップアップ ページが使用されている箇所の例。

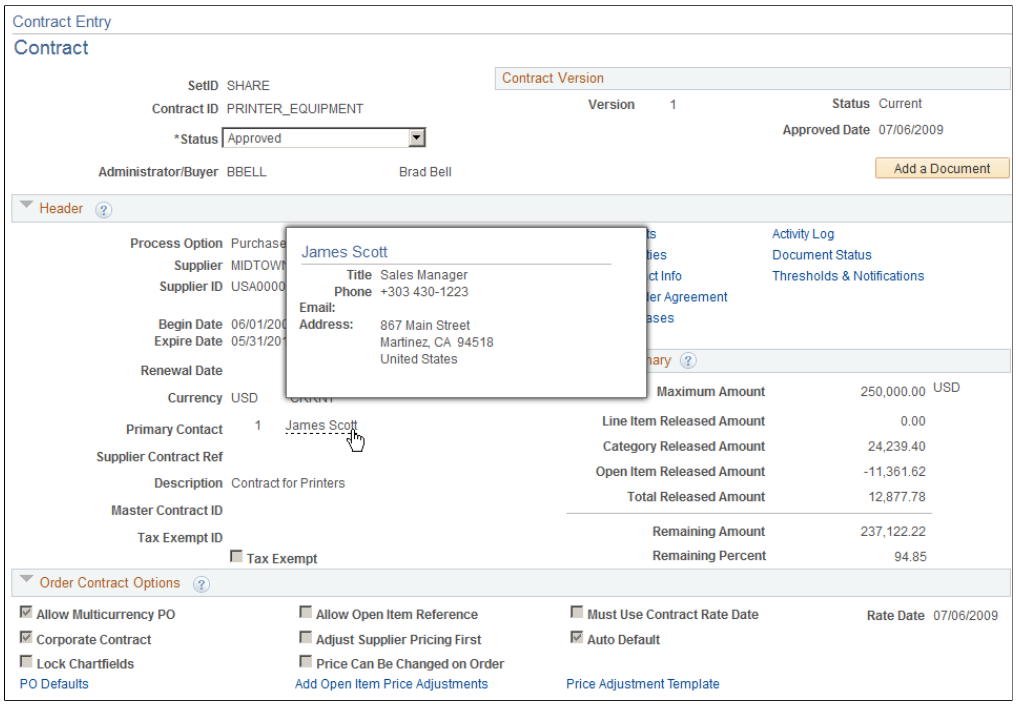
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

サプライヤ連絡先のポップアップ ページについて

サプライヤ連絡先ポップアップ ページ (SAC_VENDRCNTCT_POP):

画像: サプライヤ連絡先ポップアップ ページの例

次の例では、サプライヤ連絡先ポップアップ ページの例のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



購買管理の契約入力ページでこのポップアップ ページが使用されている箇所の例。

マウス オーバー ポップアップ機能のアクティブ化

マウス オーバー ポップアップ機能のアクティブ化に使用されるページ

ページ名	*定義名*	*用途*
パーソナル設定の定義ページ	PSUSEROPTNDEFN	インストール レベルでマウス オーバー ポップアップ機能をアクティブ化または非アクティブ化します。
マイ パーソナル設定ページ	PSUSERSELFPRSNL	ユーザー用にマウス オーバー ポップアップ機能をアクティブ化または非アクティブ化します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

パーソナル設定の定義ページ

パーソナル設定の定義ページ (PSUSEROPTNDEFN) を使用して、インストール レベルでマウス オーバー ポップアップ機能をアクティブ化または非アクティブ化します。

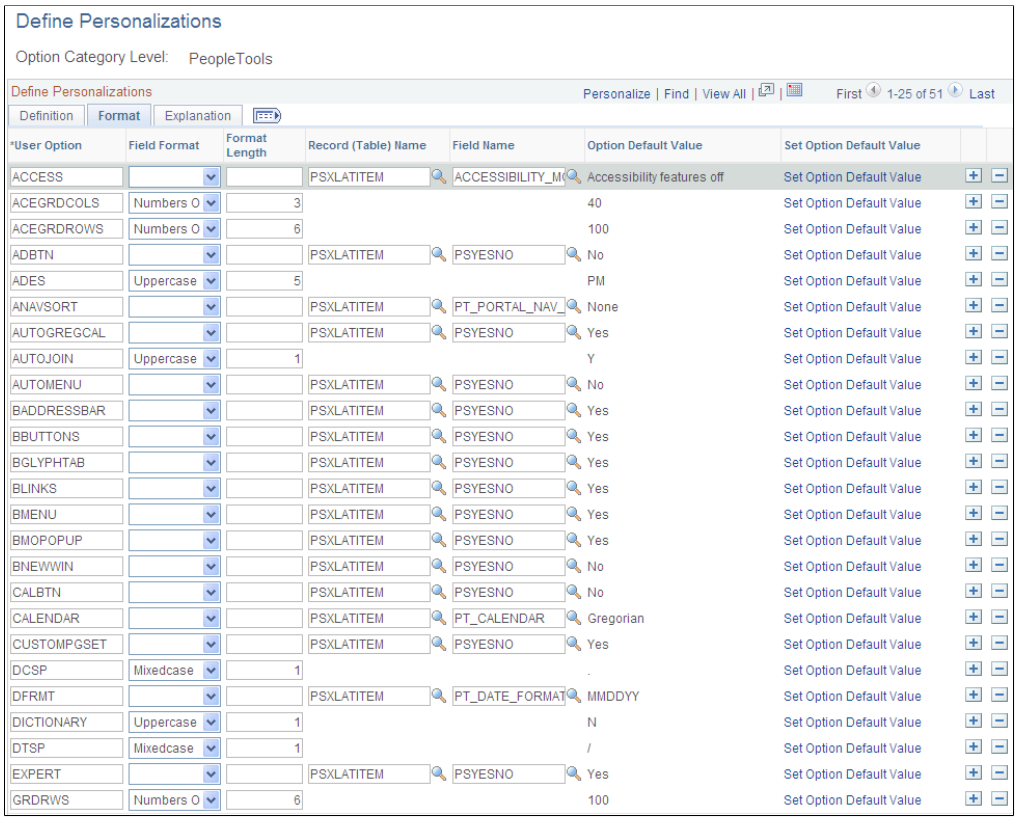
ナビゲーション

[PeopleTools], [パーソナル設定], [パーソナル設定オプション]

PPTL を選択します。

画像: パーソナル設定の定義ページ: [フォーマット] タブ

次の例では、パーソナル設定の定義ページ: [フォーマット] タブのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



インストール レベルでマウス オーバー ポップアップ機能をアクティブ化または非アクティブ化するには、次の手順に従います。

1. PeopleTools (PPTL) カテゴリを選択します。
2. [フォーマット] タブを選択します。
3. ユーザー オプション [BMOPOPUP] の [オプション デフォルト値設定] リンクを選択します。
4. [オプション デフォルト値] フィールドで *[はい]* または *[いいえ]* を選択します。

   このオプションは、*[はい]* として提供されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

5. [保存] ボタンをクリックします。

マイ パーソナル設定ページ

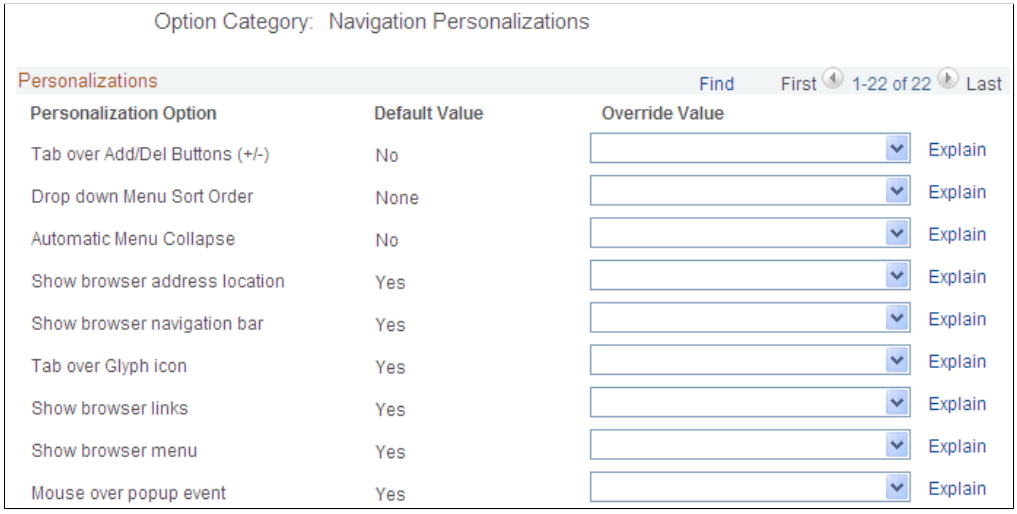
マイ パーソナル設定ページ (PSUSERSELFPRSNL) を使用して、ユーザー用にマウス オーバー ポップアップ機能をアクティブ化または非アクティブ化します。

ナビゲーション

マイ パーソナル設定

画像: マイ パーソナル設定ページ: [ナビゲーションの設定]

次の例では、マイ パーソナル設定ページ: [ナビゲーションの設定] のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



ユーザー レベルでマウス オーバー ポップアップ機能をアクティブ化または非アクティブ化するには、次の手順に従います。

1. [ナビゲーションの設定] カテゴリで [パーソナル設定オプション] ボタンを選択します。
2. [マウス オーバーによるポップアップ イベント] オプションの [値を上書き] 列で、*[はい]* または *[いいえ]* を選択します。

   このオプションは、*[はい]* として提供されます。
3. [OK] ボタンをクリックします。
4. [保存] ボタンをクリックします。

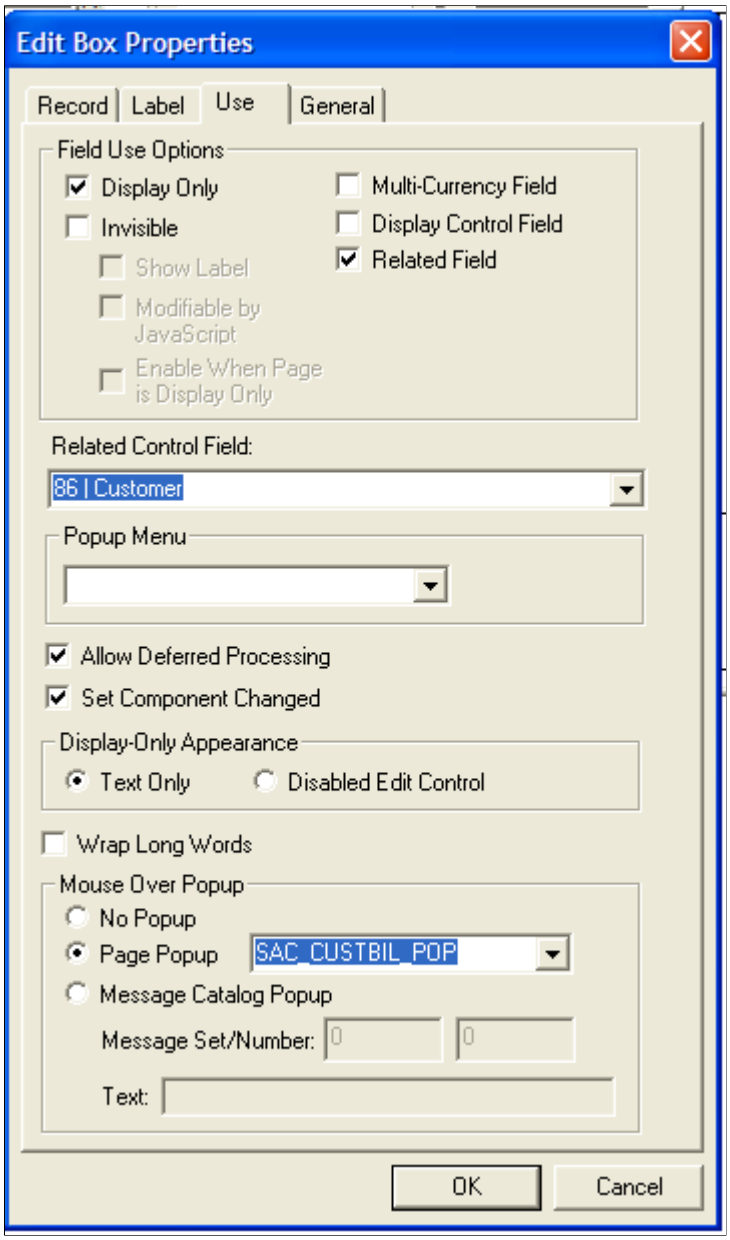
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

追加ページへのポップアップ ページの追加

アプリケーション デザイナの編集ボックスのプロパティ - 用途ページにアクセスします。

画像: 編集ボックスのプロパティ - 用途ページ

次の例では、編集ボックスのプロパティ - 用途ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



PeopleSoft FSCM では、全ての顧客およびサプライヤ ページでマウス オーバー ポップアップ機能がアクティブ化されるわけではありません。このため、この機能を追加ページに追加する場合があります。このことを行うには、マウス オーバー ポップアップ機能をアクティブ化するページを決定します。その後、アプリケーション デザイナの編集ボックスのプロパティ - 用途ページを使用して、そのページのフィールドを適切なポップアップ ページにリンクします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ポップアップ ページにフィールドをリンクするには、以下の作業を行います。

- ページで表示専用のフィールドを選択して、ページにマウス オーバーを追加できます。

  つまり、フィールド用途オプション トピックで [表示のみ] オプションが選択されている必要があります。

- [マウス オーバーによるポップアップ] セクションでポップアップ ページを選択します。

『*PeopleTools: Application Designer Developer's Guide*』の「Using Page Controls, Using Popup Pages, Associating Popup Pages with Fields」および「Creating Page Definitions, Setting Use Properties」を参照してください。

ポップアップ ページをアクティブ化するには、コンポーネント バッファで、キーとも呼ばれる特定のフィールドが使用可能である必要があります。

請求先顧客ポップアップ ページ

請求先顧客ポップアップ ページのためのコンポーネント バッファ内の必須フィールドは、次のとおりです。

- SETID
- BILL_TO_CUST_ID
- ADDRESS_SEQ_NUM (オプション - メイン ページで見つかった場合は、この住所が表示されます)

出荷先顧客ポップアップ ページ

出荷先顧客ポップアップ ページのためのコンポーネント バッファ内の必須フィールドは、次のとおりです。

- SETID
- SHIP_TO_CUST_ID
- ADDRESS_SEQ_SHIP (オプション - メイン ページで見つかった場合は、この住所が表示されます)

販売先顧客ポップアップ ページ

販売先顧客ポップアップ ページのためのコンポーネント バッファ内の必須フィールドは、次のとおりです。

- SETID
- SOLD_TO_CUST_ID
- ADDRESS_SEQ_SOLD (オプション - メイン ページで見つかった場合は、この住所が表示されます)

請求先顧客連絡先ポップアップ ページ

請求先顧客連絡先ポップアップ ページのためのコンポーネント バッファ内の必須フィールドは、次のとおりです。

- SETID

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- BILL_TO_CUST_ID
- CNTCT_SEQ_BILL

出荷先顧客連絡先ポップアップ ページ

出荷先顧客連絡先ポップアップ ページのためのコンポーネント バッファ内の必須フィールドは、次のとおりです。

- SETID
- SHIP_TO_CUST_ID
- CNTCT_SEQ_SHIP

販売先顧客連絡先ポップアップ ページ

販売先顧客連絡先ポップアップ ページのためのコンポーネント バッファ内の必須フィールドは、次のとおりです。

- SETID
- SOLD_TO_CUST_ID
- CNTCT_SEQ_NUM

サプライヤ ポップアップ ページ (タイプ 1)

サプライヤ ポップアップ (タイプ 1) ページのためのコンポーネント バッファ内の必須フィールドは、次のとおりです。

- SETID
- レベル 0 の VENDOR_ID

サプライヤ ポップアップ ページ (タイプ 2)

サプライヤ ポップアップ (タイプ 2) ページのためのコンポーネント バッファ内の必須フィールドは、次のとおりです。

- SETID
- VENDOR_ID
- VNDR_LOC
- レベル 0 の ADDRESS_SEQ_NUM

サプライヤ ポップアップ ページ (タイプ 3)

サプライヤ ポップアップ (タイプ 3) ページのためのコンポーネント バッファ内の必須フィールドは、次のとおりです。

- SETID

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- VENDOR_ID
- レベル 0 の VNDR_LOC

サプライヤ内線番号ポップアップ ページ (タイプ 1)

サプライヤ内線番号ポップアップ (タイプ 1) ページのためのコンポーネント バッファ内の必須フィールドは、次のとおりです。

- SETID
- VENDOR_ID
- VNDR_LOC
- ADDRESS_SEQ_NUM
- レベル 0 の CNTCT_SEQ_NUM

サプライヤ内線番号ポップアップ ページ (タイプ 2)

サプライヤ内線番号ポップアップ (タイプ 2) ページのためのコンポーネント バッファ内の必須フィールドは、次のとおりです。

- SETID
- VENDOR_ID
- レベル 0 の CNTCT_SEQ_NUM

サプライヤ連絡先ポップアップ ページ

サプライヤ連絡先ポップアップ ページのためのコンポーネント バッファ内の必須フィールドは、次のとおりです。

- SETID
- VENDOR_ID
- CNTCT_SEQ_NUM
- レベル 0 の EFFDT

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第25章

ワークセンターの使用およびパーソナル設定

ワークセンターおよびダッシュボードについて

このトピックでは、次について説明します。

- ワークセンター。
- PeopleSoft ワークセンターにおいてよく使用される用語。
- ページレット、およびページレットの設定、メンテナンスおよびパーソナル設定。
- ダッシュボードおよびピボット グリッド。

ワークセンター

ワークセンターは特定のロールのために設計され、ユーザーが財務および サプライチェーン アプリケーション内のキー コンポーネントにアクセスするためのセントラル領域となります。これによりユーザーは、ワークセンターから離れることなく、さまざまなページにアクセスして毎日のタスクを実行でき、メニュー間をナビゲートするのにかかる時間を削減できます。

ワークセンターは空のコンポーネントとして提供されます。組織のシステム管理者には、ユーザーが特定のリンクおよびページを表示してアクセスできるよう、リンクを設計および作成する責任があります。



PeopleSoft ワークセンターについての短いビデオを見るには、ここをクリックしてください。

システム管理者としてワークセンターを設定する方法の詳細については、Setting Up Pagelets for WorkCenters and Dashboards as a System AdministratorEnterprise Components のドキュメントを参照してください。

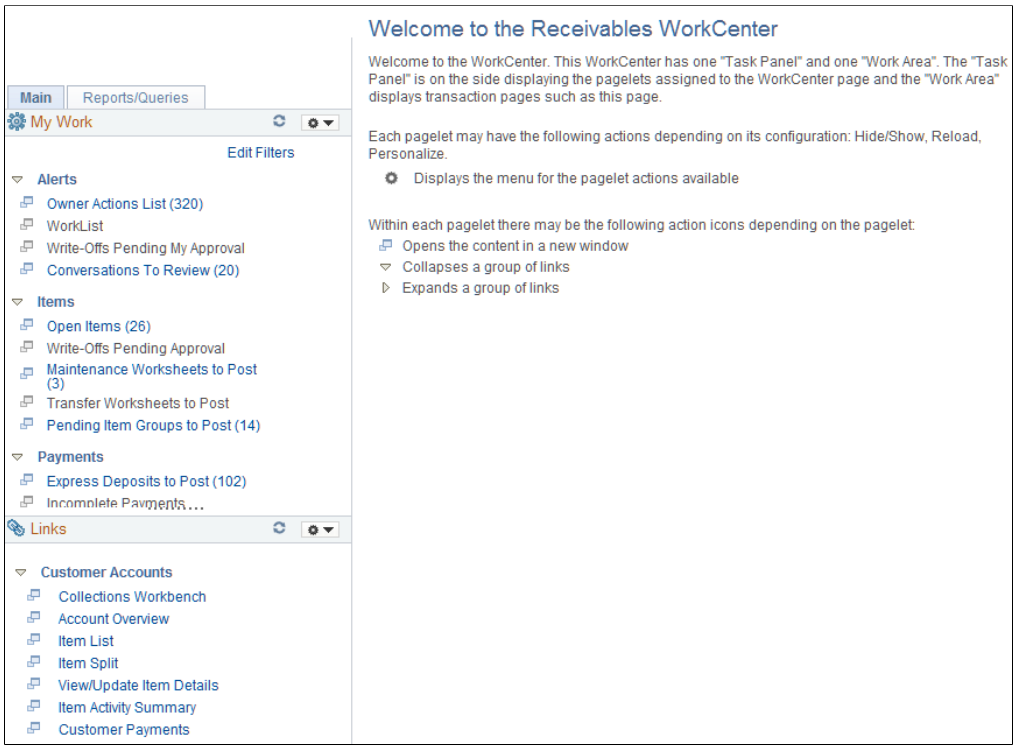
ワークセンターの PeopleTools オプションを設定する方法の詳細については、*『PeopleTools: Portal Technology』*を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

例: ワークセンター

画像: 例: ワークセンター ページ

次の例では、売掛金管理ワークセンター ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



注: 他のアプリケーション固有のワークセンターは表示が少し違うことがあります。この例は、ワークセンターの一般的な例として示したものです。
ワークセンターのナビゲーションはページの左側にあり、[メイン] および [レポート/クエリー] という 2 つのメイン タブがあります。ワークセンターのページレットによっては、複数のアプリケーションで共通のものも、個々のアプリケーションに固有のものもあります。
オラクル社の PeopleSoft 開発において、インポート可能な [マイ ワーク] リンクを事前定義しています。

ワークセンターのタブとページレット

ワークセンターには共通のページレットがあります。

- [メイン] タブ:
  - マイ ワーク
  - リンク
- レポート/クエリー:
  - クエリー

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- レポートおよびプロセス

ワークセンターには [ようこそ] ペインも用意されており、左のペインの右側に表示されます。ようこそページには、ワークセンター全体で使用される基本アイコンのいくつかが説明されています。システム管理者または (アクセス権限が与えられている) エンド ユーザーが [マイ ワーク]、[リンク]、[クエリー] または [レポート/プロセス] のページレット設定コンポーネントの [スタート ページ] チェックボックスを選択すると、選択したオプションによってこのペインのようこそページが置き換えられます。

PeopleSoft ワークセンターにおいてよく使用される用語

これらの用語は、PeopleSoft ワークセンターについて説明するときによく使用される用語です。

用語	*説明*
警告	警告は、注意を必要とする、イベントおよび通知のフレームワークの条件です。
ダッシュボード	ダッシュボードは、ユーザーが各種のオブジェクトおよびデータをモニターできるようにする、情報をまとめたコレクション (高レベル データ ビュー) です。ダッシュボードは、特定のユーザーが役割に基づいて関心を払うサブドメインつまり機能領域内にあります。このことはつまり、直接かつその場で簡単にアクションが実行されるということであり、ユーザーは適宜、ワーク領域つまりトランザクション ページにすばやくナビゲートできます。
フィルタの編集	「フィルタの編集ページ」にアクセスするために選択します。システム管理者がエンド ユーザーに対してフィルタを編集する権限を付与している場合、このリンクが表示されます。
[リンク] ページレット	PeopleSoft コンポーネントおよび外部 URL へのリンクが含まれているページレットです。通常は、ユーザーが日々の業務をこなすのに必要なリンクが含まれます。管理者は必要に応じて、業務の必要に合ったリンクを追加できます。
[マイ ワーク] ページレット	アプリケーションで設計された結果ページへのリンクが含まれる共通ページレットです。コンテンツは管理者またはエンド ユーザーが定義した条件によりフィルタされます。
ページレット領域	リンク、タスク リストおよびその他のコンテンツが含まれる、アプリケーションにより定義されたページレットのコレクションです。この領域は PeopleTools フレームワークの一部ですが、ページレットのコンテンツは個々の製品の必要により定義されます。
ピボット グリッド	ピボット グリッドはダッシュボードにおいてデータを表示します。ビジネス アナリストはピボットやフィルタといった作業を実行することによってデータを異なるビューで表示でき、これによりデータをさまざまな方法で解釈できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

用語	*説明*
[クエリー] ページレット	管理者によって追加された (公開) か、またはエンド ユーザーによって追加された (公開または非公開) クエリー (公開または非公開クエリー) へのリンクが含まれる共通ページレットです。
フィルタ条件の詳細設定	選択すると例外を指定する事前定義のフィルタ条件にアクセスできます。ユーザーはフィルタ値を変更して検索結果を変更できます。
[レポートおよびプロセス] ページレット	PeopleSoft コンポーネント (主にレポートおよびプロセス) へのリンクが含まれているページレットです。このタイプのページレットは管理者によって管理されます。
ワークセンター	ワークセンターは、セントラル領域での作業を効率化および簡略化することにより、特定のロールの生産性を高めるために使用されます。ワークセンターの左側のペインでは、業務領域に基づくタスクをユーザーが完了するためにトランザクション領域つまり作業領域を操作するのに役立ちます。
ワークセンター設定 ID	買掛金管理や請求管理、供給/需要などの個々の PeopleSoft 製品にはテンプレートが定義されており、組織において特定のロールを持つユーザーに割り当てられます。たとえば請求担当者や買掛金管理担当者などです。
ワークリスト	PeopleTools のタスクのリストです。
作業ゾーンまたはトランザクション領域	検索結果やコンポーネントが表示されるページレット領域です。この領域はページレット領域によって占有されない領域で、ページレット領域が非表示になっている場合はワークセンター全画面がこの領域になります。

ページレット、およびページレットの設定、メンテナンスおよびパーソナル設定

このトピックでは、次の 4 種類のページレットについての一般的な概要を説明します。

- [マイ ワーク] ページレット
- [リンク] ページレット
- [クエリー] ページレット
- [レポートおよびプロセス] ページレット
- ページレットの設定、メンテナンスおよびパーソナル設定

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

[マイ ワーク] ページレット

[メイン] タブの [マイ ワーク] セクションには、エンド ユーザーが日常的にアクセスする必要があるページへのリンクが含まれています。[マイ ワーク] セクションにはさらに、ユーザーによるなんらかのアクションが必要となる例外および警告を含めることもできます。

[マイ ワーク] ページレットに設定されたリンクによっては、ユーザーが表示可能なデータの量を制限するフィルタ条件を設定できるものもあります。

[マイ ワーク] セクションは、[ページレット設定] アイコンをクリックして [パーソナル設定] を選択することでエンド ユーザーがパーソナル設定できます。

[リンク] ページレット

[メイン] タブの [リンク] セクションには、ユーザー ロールにとって関心があるページやその他の領域への追加のリンクが含まれています。システム管理者はエンド ユーザーが設定可能なリンクのリストを決定でき、エンド ユーザーはどのリンクをワークセンターに表示するかをパーソナル設定できます。

このセクションには外部ページへのリンクも配置できます。

[クエリー] ページレット

[レポート/クエリー] タブの [クエリー] セクションには、クエリー マネージャ、公開クエリー、非公開クエリーおよびピボット グリッドへのリンクが含まれています。システム管理者は、エンド ユーザーが公開クエリーや非公開クエリーを追加できるようにするかどうかを決定できます。エンド ユーザーは、自分の非公開クエリーをパーソナル設定できます。

リンクを選択すると、クエリーまたはピボット グリッドの結果がワークセンターの右側のペインまたは新しいウィンドウに表示されます。クエリーの結果は Microsoft Excel に保存できます。

[レポートおよびプロセス] ページレット

[レポート/クエリー] タブの [レポートおよびプロセス] セクションには、レポートおよびプロセスへのリンクが含まれています。これらのリンクを使用すると、レポートやプロセス、レポート コンソールのラン コントロール ページが表示されます。

システム管理者は、エンド ユーザーが自分のページレットを設定できるようにするかどうかを決定できます。

ページレットの設定、メンテナンスおよびパーソナル設定

ワークセンターを設定および管理するときに、設定オプションをシステム管理者レベルで、そしてパーソナル設定オプションをユーザー レベルで定義できます。

システム管理者はまず、エンタープライズ コンポーネントおよびワークセンター/ダッシュボード コンポーネントを使用して設定オプションを実行する必要があります。それからエンド ユーザーが、ワークセンターの [パーソナル設定] および [設定] オプションを使用してパーソナル設定オプションを実行します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ダッシュボードおよびピボット グリッド

PeopleSoft ダッシュボードの設定とワークセンターの設定は、どちらもエンタープライズ コンポーネントの同じページを使用するため、似ています。しかし、ダッシュボードには、ユーザーのホーム ページにも表示可能なピボット グリッドを表示できます。

ピボット グリッドは PS クエリーに基づいており、結果をグリッド フォーマット、チャート フォーマット、またはその両方で表示できます。ピボット グリッド ウィザード ([レポート ツール], [ピボット グリッド], [ピボット グリッド ウィザード]) を使用して、ページがどのようにユーザーに対して表示されるかを設計できます。

ピボット グリッドは、(ユーザーのホーム ページまたはダッシュボードの) ページレットとしてワークセンターの [クエリー] タブなどに追加できます。



ピボット グリッドについての短いビデオを見るには、次をクリックしてください。「Pivot Grid Concepts」および「PeopleSoft Financial Management 9.2 Pivot Grids」。

システム管理者としてワークセンターを設定する方法の詳細については、Setting Up Pagelets for WorkCenters and Dashboards as a System AdministratorEnterprise Components のドキュメントを参照してください。

ピボット グリッドを設定する方法の詳細については、*『PeopleTools: Pivot Grid』*を参照してください。

ワークセンターをシステム管理者として設定する方法について

ワークセンターおよびダッシュボードをシステム管理者として設定するには、[エンタープライズ コンポーネント] メニューを使用します。

ワークセンターおよびダッシュボードをシステム管理者として設定する方法の詳細については、*『PeopleSoft エンタープライズ コンポーネント』*マニュアルの次のトピックを参照してください。

- Setting Up Pagelets for WorkCenters and Dashboards as a System AdministratorEnterprise Components。
- Setting Up Pagelets for My Work as a System AdministratorEnterprise Components。
- Setting Up the Links Pagelet as a System AdministratorEnterprise Components。
- Setting Up Pagelets for Queries as a System AdministratorEnterprise Components。
- Setting Up Pagelets for Reports and Processes as a System AdministratorEnterprise Components。

ワークセンター データの移動

PeopleSoft ワークセンターでは、SQL アプリケーション クラスに基づく重要なマイ ワーク リンク フィルタが用意されています。アプリケーション データ セット (ADS) 定義を使用して、ワークセンターのマイ ワーク リンク、フィルタおよびページレット設定を、開発環境間やテスト環境間、そして最終的には本番環境へと移動できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

「PeopleSoft データ移行ワークベンチについて」を参照してください。

「PeopleSoft ワークセンターに対するデータ移行ワークベンチの使用 」を参照してください。

『*PeopleTools: Data Migration Workbench*』も参照してください。

エンド ユーザーとしてのワークセンターの使用とパーソナル設定

注: ワークセンターおよびダッシュボードを使用する各アプリケーションでは、アプリケーション固有の情報が使用可能です。このトピックでは、一般的なワークセンターの概念について説明します。

エンド ユーザーとしてワークセンターを使用およびパーソナル設定する際に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
<アプリケーション> ワークセンター ページ	<Application Code>_WC_INIT	ユーザー固有のワーク アイテム、リンク、クエリー、レポートおよびプロセスを表示します。
パーソナル設定 - <アプリケーション> ワークセンターのパーソナル設定ページ	PTAL_USER_PREF	エンド ユーザーとしてワークセンターをパーソナル設定します。

<アプリケーション> ワークセンター ページ

<アプリケーション> ワークセンター ページ (<application code>_WC_INIT) を使用して、ユーザー固有のワーク アイテム、リンク、クエリー、レポートおよびプロセスを表示します。

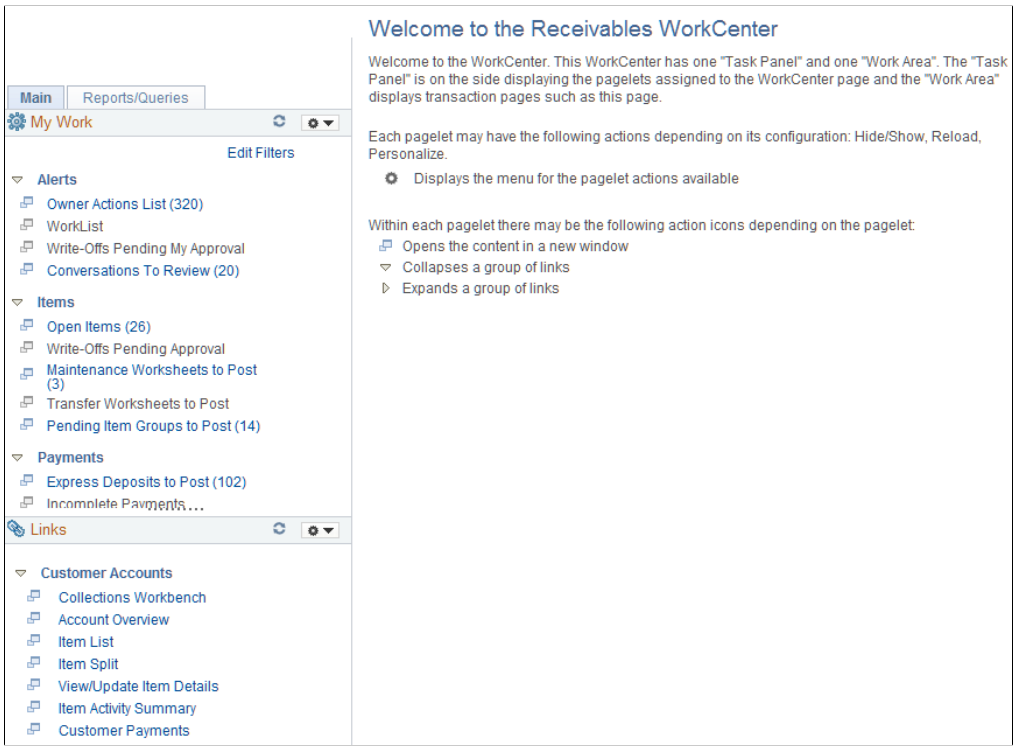
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[<アプリケーション メニュー オプション>], <アプリケーション> ワークセンター

画像: ワークセンター ページ

次の例では、ワークセンター ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



<アプリケーション> ワークセンター



[ワークセンター設定] アイコンをクリックすることで、次のことができます。

- ページレットを再ロードします。
- 「パーソナル設定 - <アプリケーション> ワークセンターのパーソナル設定ページ」にアクセスします。
- "ワークセンター ページ" ページを設定します。

このオプションは通常、システム管理者に対してのみ表示されます。



<アプリケーション> ワークセンターの最小化アイコンをクリックすると、左ペインを非表示にできます。

左ペインを非表示にすると、左上隅に [表示] アイコンが表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

» [展開] アイコンをクリックすると、左ペインにワークセンター ナビゲーションが表示されます。

パーソナル設定 - <アプリケーション> ワークセンターのパーソナル設定ページ

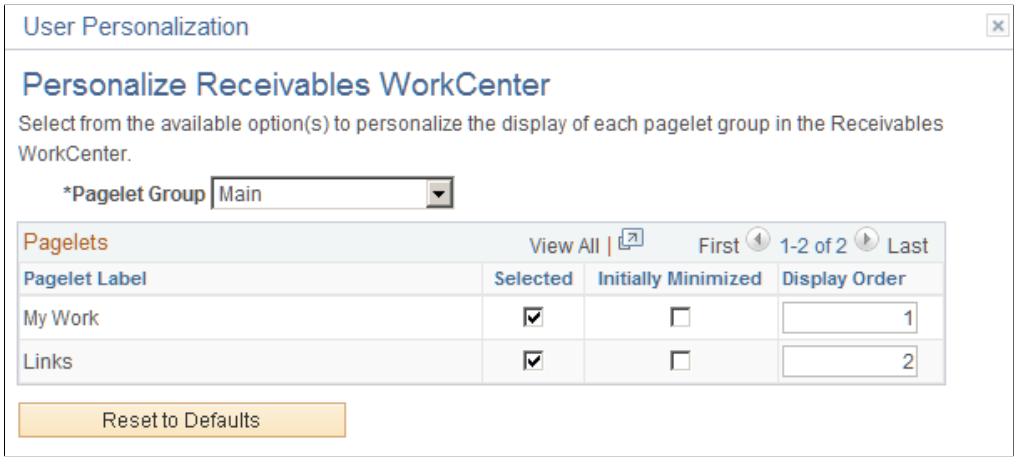
パーソナル設定ページ (PTAL_USER_PREF) を使用して、エンド ユーザーとしてワークセンターの一般レイアウトをパーソナル設定します。

ナビゲーション

[<アプリケーション メニュー オプション>], [ワークセンター]。[ワークセンター設定] アイコンをクリックします。[パーソナル設定] リンクをクリックします。

画像: パーソナル設定 - <アプリケーション> ワークセンターのパーソナル設定ページ

次の例では、パーソナル設定 - <アプリケーション> ワークセンターのパーソナル設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



ページレット グループ *[メイン]* または *[レポート/クエリー]* を選択します。このオプションは、ワークセンターの左ペインに表示される主タブを示します。

選択されたオプションに基づいて、[ページレット] グリッドで [ページレット ラベル] にページレット見出しが表示されます。

ページレット

このグリッドに変更を加えたら、[ワークセンター設定] アイコンから *[再ロード]* アイコンを選択して、ページを再ロードして変更を表示する必要があります。

ページレット ラベル [ページレット グループ] フィールドで選択されたタブに表示される、ページレット見出しが表示されます。

選択 選択すると、ワークセンターにアクセスしたときにこのページレットが表示されるように指定されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

選択解除すると、ラベルおよびラベル内の全てのリンクが非表示になります。

初期最小化済

選択すると、ワークセンターにアクセスしたときにこのページレットラベル内のリンクを最小化して、つまり折りたたんで表示するように指定されます。

選択解除すると、ワークセンターにアクセスしたときにこのページレット ラベル内のリンクを表示するように指定されます。

表示順序

ワークセンターにアクセスしたときにページレット ラベル (および関連リンク) が表示される順序を示す数字を入力します。

エンド ユーザーとしての [マイ ワーク] ページレットの使用とパーソナル設定

注: ワークセンターおよびダッシュボードを使用する各アプリケーションでは、アプリケーション固有の情報が使用可能です。このトピックでは、一般的なワークセンターの概念について説明します。

エンド ユーザーとして [マイ ワーク] ページレットを使用およびパーソナル設定する際に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
[マイ ワーク] ページレット	<Application Code>_WC_INIT	日常的に必要となるページへのリンクにアクセスします。
ユーザー マイ ワークのリンクの定義 - マイ ワーク ページレットのパーソナル設定ページ	FSPC_USER_MYWORK	エンド ユーザーとして [マイ ワーク] ページレットをパーソナル設定します。
フィルタの編集ページ	FSPC_MYWORK_FILTER	エンド ユーザーとして [マイ ワーク] ページレットのフィルタを変更します。

[マイ ワーク] ページレット

マイ ワーク ページ (<Application Code>_WC_INIT) を使用して、日常的に必要となるページへのリンクにアクセスします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

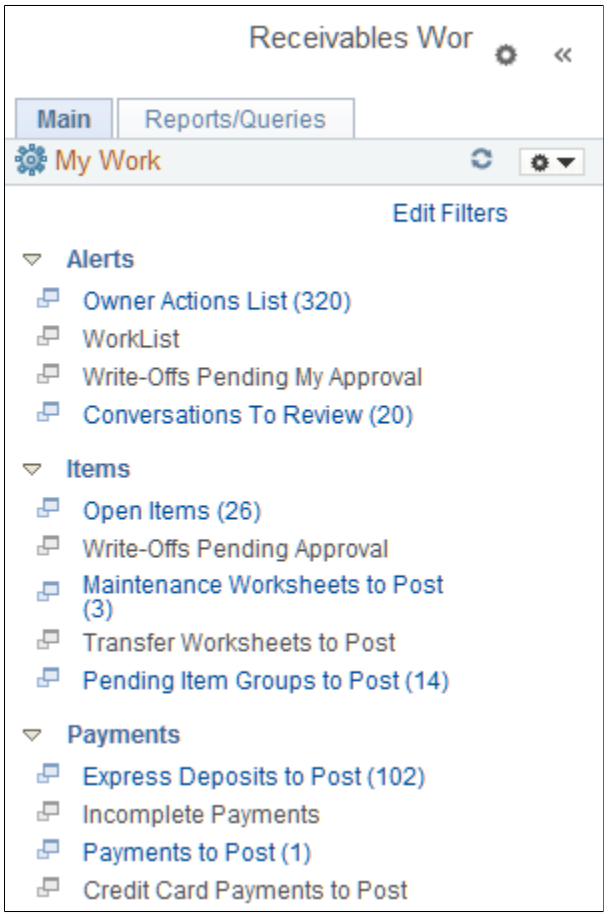
ナビゲーション

[<アプリケーション>], <アプリケーション> ワークセンター

[メイン] タブを選択します。

画像: 例: [マイ ワーク] ページレット

次の例では、[マイ ワーク] ページレットのフィールドおよびコントロールを説明します。



システム管理者がページレット設定 – マイ ワーク ページをどのように設定しているかに基づいて、グループ ヘッダー、リンク、およびカッコ内のトランザクション件数がエンド ユーザーに表示されます。

マイ ワーク



[ページレット設定] アイコンをクリックしてオプションを選択することで、次のことができます。

- *最小化*: [マイ ワーク] リンクを最小化します。[マイ ワーク] 見出しがこのアイコンと共に表示されます。
- *パーソナル設定*: 「ユーザー マイ ワークのリンクの定義 - マイ ワーク ページレットのパーソナル設定 ページ」にアクセスします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

	オプションを再ロードするのに使用します。
フィルタの編集	「フィルタの編集ページ」にアクセスするために選択します。システム管理者がエンド ユーザーに対してフィルタを編集する権限を付与している場合、このリンクが表示されます。

ユーザー マイ ワークのリンクの定義 - マイ ワーク ページレットのパーソナル設定 ページ

ユーザー マイ ワークのリンクの定義 - マイ ワーク ページレットのパーソナル設定ページ (FSPC_USER_MYWORK) を使用して、エンド ユーザーとして [マイ ワーク] ページレットをパーソナル設定します。

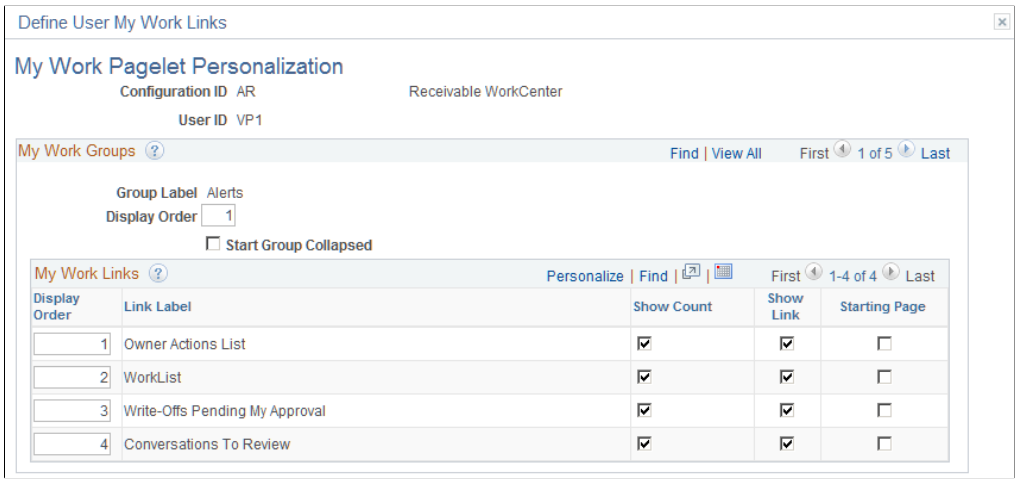
ナビゲーション

[<アプリケーション>], <アプリケーション> ワークセンター

[ページレット設定] アイコンをクリックして [パーソナル設定] を選択します。

画像: ユーザー マイ ワークのリンクの定義 - マイ ワーク ページレットのパーソナル設定 ページ

次の例では、ユーザー マイ ワークのリンクの定義 - マイ ワーク ページレットのパーソナル設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



マイ ワーク グループ

表示順序	このグループ ラベルをページレットに表示する順序を入力します。
グループを折りたたんで開始	選択すると、ワークセンター ページを表示したときにこのグループ ラベルを折りたたんで表示するように指定されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

選択解除すると、ワークセンター ページを表示したときにこのグループ ラベルを展開して表示し、グループ内の全てのリンクが表示されるように指定されます。

フィルタの編集ページ

フィルタの編集ページ (FSPC_MYWORK_FILTER) を使用して、エンド ユーザーとして [マイ ワーク] ページレットのフィルタを変更します。

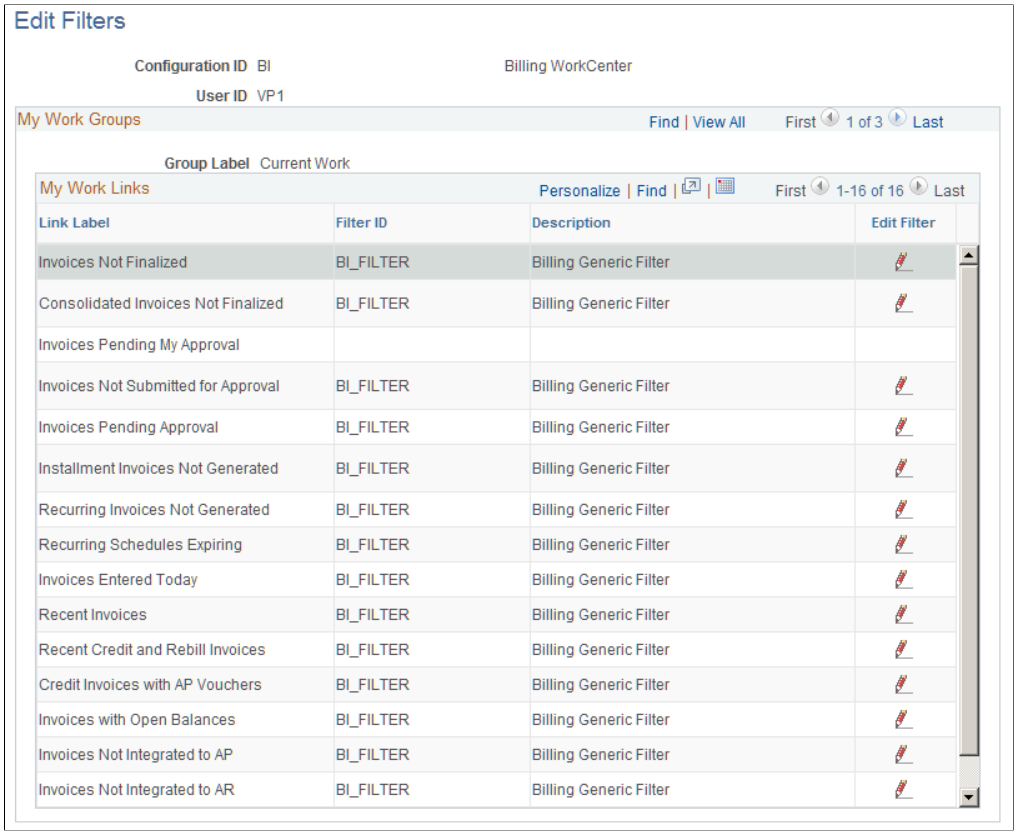
ナビゲーション

[<アプリケーション>], <アプリケーション> ワークセンター

[フィルタの編集] リンクをクリックします。

画像: フィルタの編集ページ

次の例では、フィルタの編集ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



システム管理者がフィルタ定義設定ページで [公開] チェック ボックスを選択している場合、エンド ユーザーがこのページを表示できます。



フィルタ値設定ページにアクセスするには [フィルタの編集] アイコンをクリックします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

エンド ユーザーとしての [リンク] ページレットの使用とパーソナル設定

エンド ユーザーとして [リンク] ページレットを使用およびパーソナル設定する際に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
[リンク] ページレット	<Application Code>_WC_INIT	エンド ユーザーとして [リンク] ページレットを使用します。
ユーザー "リンク" のリンクの定義 - リンク ページレットのパーソナル設定 ページ	FSPC_USER_LINK	エンド ユーザーとして [リンク] ページレットをパーソナル設定します。
リンクの定義 ページ	FSPC_USR_LNK_SEC	エンド ユーザーとして [リンク] リンクを定義します。

[リンク] ページレット

[リンク] ページレット (<Application Code>_WC_INIT) を使用して、ユーザーのロールにとって関心があるページやその他の領域への追加のリンクにアクセスします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

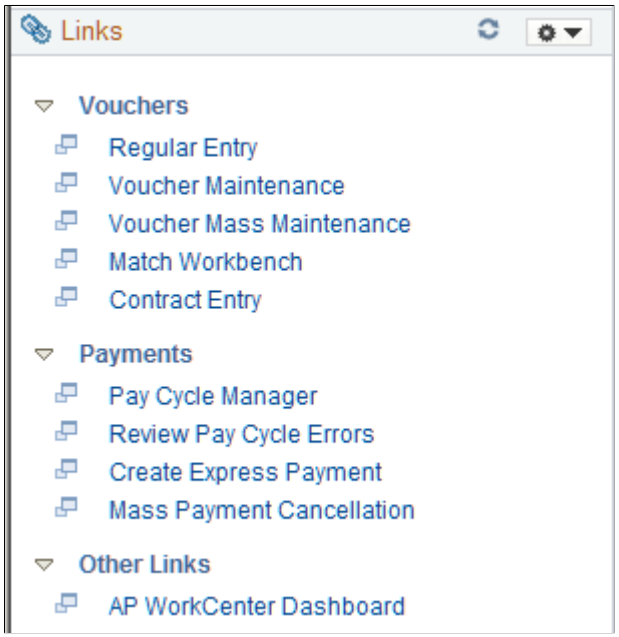
ナビゲーション

[<アプリケーション>], <アプリケーション> ワークセンター

[リンク] セクションを開きます。

画像: 例: [リンク] ページレット

次の例では、[リンク] ページレットのフィールドおよびコントロールを説明します。



リンク



[ページレット設定] アイコンをクリックしてオプションを選択することで、次のことができます。

- *最小化*: [マイ ワーク] リンクを最小化します。[マイ ワーク] 見出しがこのアイコンと共に表示されます。
- *パーソナル設定*: 「ユーザー "リンク" のリンクの定義 - リンク ページレットのパーソナル設定 ページ」にアクセスします。



オプションを再ロードするのに使用します。



[新規ウィンドウ] アイコンをクリックすると、リンクを新規ウィンドウに起動します。

ユーザー "リンク" のリンクの定義 - リンク ページレットのパーソナル設定 ページ

ユーザー "リンク" のリンクの定義 - リンク ページレットのパーソナル設定ページ (FSPC_USER_LINK) を使用して、エンド ユーザーとして [リンク] ページレットをパーソナル設定します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

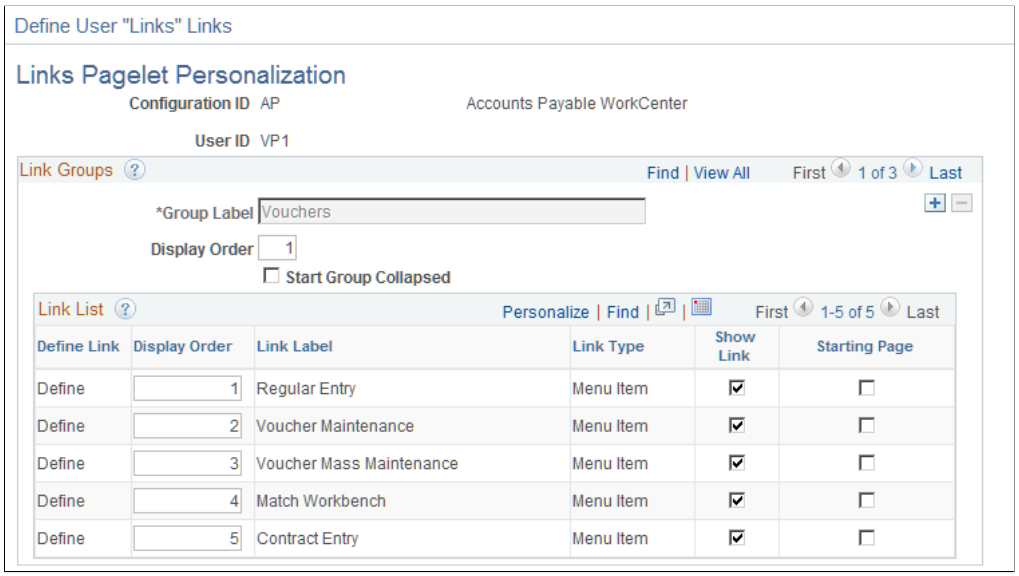
ナビゲーション

[<アプリケーション>], <アプリケーション> ワークセンター

[リンク] ページレットで、[ページレット設定] アイコンをクリックします。[パーソナル設定] を選択します。

画像: ユーザー "リンク" のリンクの定義 - リンク ページレットのパーソナル設定 ページ

次の例では、ユーザー "リンク" のリンクの定義 - リンク ページレットのパーソナル設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



リンク グループ

グループ ラベル [クエリー] ページレットに表示される [リンク] リンクのグループの説明を入力します。

追加 システム管理者がページレット設定 – リンク ページで [ユーザーによる追加リンクの追加を許可] チェック ボックスを選択している場合、エンド ユーザーはページの [リンク グループ] セクション内の [追加] アイコンをクリックして、他のグループ ラベルを追加して [リンク リスト] セクション内にリンクを定義できます。

表示順序 このグループ ラベルをページレットに表示する順序を入力します。

グループを折りたたんで開始 選択すると、ワークセンター ページを表示したときにこのグループ ラベルを折りたたんで表示するように指定されます。

選択解除すると、ワークセンター ページを表示したときにこのグループ ラベルを展開して表示し、グループ内の全てのリンクが表示されるように指定されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

リンク リスト

定義 クリックすると「リンクの定義 ページ」にアクセスし、リンクをメニュー アイテムまたは URL として定義できます。

リンクの定義 ページ

リンクの定義ページ (FSPC_USR_LNK_SEC) を使用して、エンド ユーザーとしてリンクを定義します。

ナビゲーション

[<アプリケーション>], <アプリケーション> ワークセンター

[リンク] ページレットで、[ページレット設定] アイコンをクリックします。[パーソナル設定] オプションを選択します。[リンクの定義] リンクをクリックします。

リンク タイプ *[メニュー アイテム]* または *[URL]* を選択します。

メニュー アイテムの選択 クリックすると、関連コンテンツの選択ページにアクセスし、ツリー ストラクチャ ビューからメニュー アイテムを選択できます。

ラベル上書き 選択すると、メニュー アイテムを選択したときに表示されるメニュー ラベルを上書きするように指定されます。

ラベル [ラベル上書き] チェック ボックスを選択している場合にシステムで使用されるラベルを入力します。

エンド ユーザーとしての [クエリー] ページレットの使用とパーソナル設定

エンド ユーザーとして [クエリー] ページレットを使用およびパーソナル設定する際に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
[クエリー] ページレット	<Application Code>_WC_INIT	クエリー マネージャ、公開クエリー、非公開クエリーおよびピボット グリッドへのリンクにアクセスします。
ユーザー クエリーのリンクの定義 - クエリー ページレットのパーソナル設定ページ	FSPC_USER_QUERY	エンド ユーザーとして [クエリー] ページレットをパーソナル設定します。

[クエリー] ページレット

[クエリー] ページレット (<Application Code>_WC_INIT) を使用して、クエリー マネージャ、公開クエリー、非公開クエリーおよびピボット グリッドへのリンクにアクセスします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

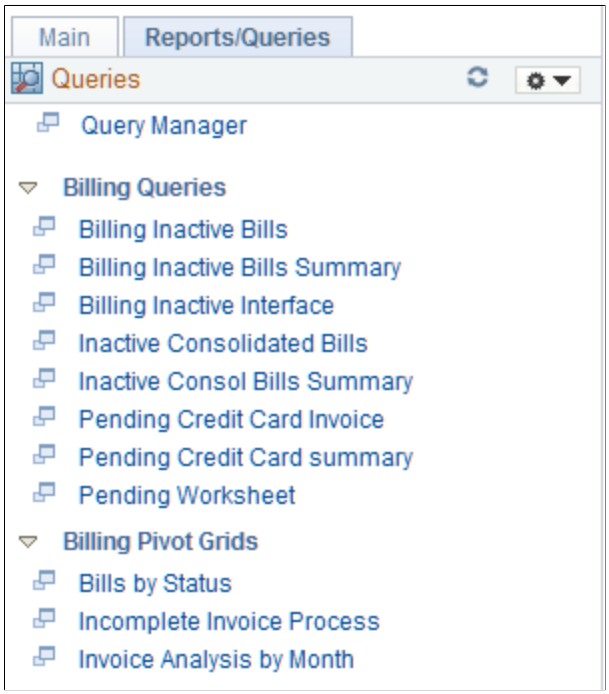
ナビゲーション

[<アプリケーション>], <アプリケーション> ワークセンター

[レポート/クエリー] タブを選択します。

画像: 例: [クエリー] ページレット

次の例では、[クエリー] ページレットのフィールドおよびコントロールを説明します。



クエリー



[ページレット設定] アイコンをクリックしてオプションを選択することで、次のことができます。

- *最小化*: [マイ ワーク] リンクを最小化します。[マイ ワーク] 見出しがこのアイコンと共に表示されます。
- *パーソナル設定*: 「ユーザー クエリーのリンクの定義 - クエリーページレットのパーソナル設定ページ」にアクセスします。



オプションを再ロードするのに使用します。



[新規ウィンドウ] アイコンをクリックすると、リンクを新規ウィンドウに起動します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ユーザー クエリーのリンクの定義 - クエリー ページレットのパーソナル設定ページ

ユーザー クエリーのリンクの定義 - クエリー ページレットのパーソナル設定ページ (FSPC_USER_QUERY) を使用して、エンド ユーザーとして [クエリー] ページレットをパーソナル設定します。

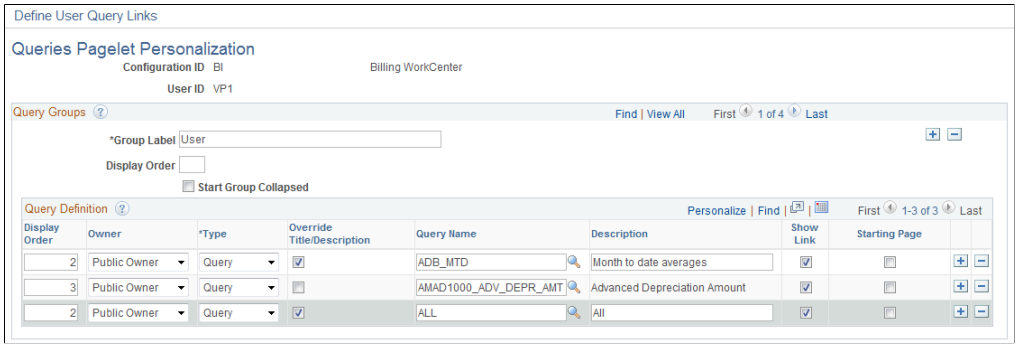
ナビゲーション

[<アプリケーション>], <アプリケーション> ワークセンター

[レポート/クエリー] タブを選択します。[クエリー] ページレットで、[ページレット設定] アイコンをクリックして [パーソナル設定] を選択します。

画像: ユーザー クエリーのリンクの定義 - クエリー ページレットのパーソナル設定ページ

次の例では、ユーザー クエリーのリンクの定義 - クエリー ページレットのパーソナル設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



クエリー グループ

グループ ラベル

[クエリー] ページレットに表示されるクエリー リンクのグループについての説明を入力します。



追加リンクを追加するときにクリックします。

システム管理者がページレット設定 – クエリー ページで [ユーザーによる追加リンクの追加を許可] チェック ボックスを選択している場合、エンド ユーザーはページの [クエリー グループ] セクション内の追加アイコンをクリックできます。

表示順序

このグループ ラベルをページレットに表示する順序を入力します。

グループを折りたたんで開始

選択すると、ワークセンター ページを表示したときにこのグループ ラベルを折りたたんで表示するように指定されます。

選択解除すると、ワークセンター ページを表示したときにこのグループ ラベルを展開して表示し、グループ内の全てのリンクが表示されるように指定されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

クエリー定義

オーナー	*[プライベート オーナー]* または *[パブリック オーナー]* を選択します。
タイプ	*[ピボット グリッド]* または *[クエリー]* を選択します。
タイトル/説明上書き	ユーザーが追加したクエリーおよびピボット グリッドについて、クエリーの説明、ピボット グリッドのタイトルおよびクエリー ラベルを上書きするために選択します。
クエリー名またはピボット グリッド名	クエリーまたはピボット グリッドの名前を選択します。 ピボット グリッドを設定する方法の詳細については、*『PeopleTools: Pivot Grid』*を参照してください。

エンド ユーザーとしての [レポートおよびプロセス] ページレットの使用とパーソナル設定

エンド ユーザーとして [レポートおよびプロセス] ページレットを使用およびパーソナル設定する際に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
[レポートおよびプロセス] ページレット	<Application Code>_WC_INIT	レポートおよびプロセスへのリンクにアクセスします。
ユーザー "レポート" のリンクの定義 - レポート/プロセス ページレットのパーソナル設定ページ	FSPC_USER_REPORT	レポートおよびプロセスへのリンクをパーソナル設定します。

[レポートおよびプロセス] ページレット

[レポートおよびプロセス] ページレット (<Application Code>_WC_INIT) を使用して、レポートおよびプロセスへのリンクにアクセスします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

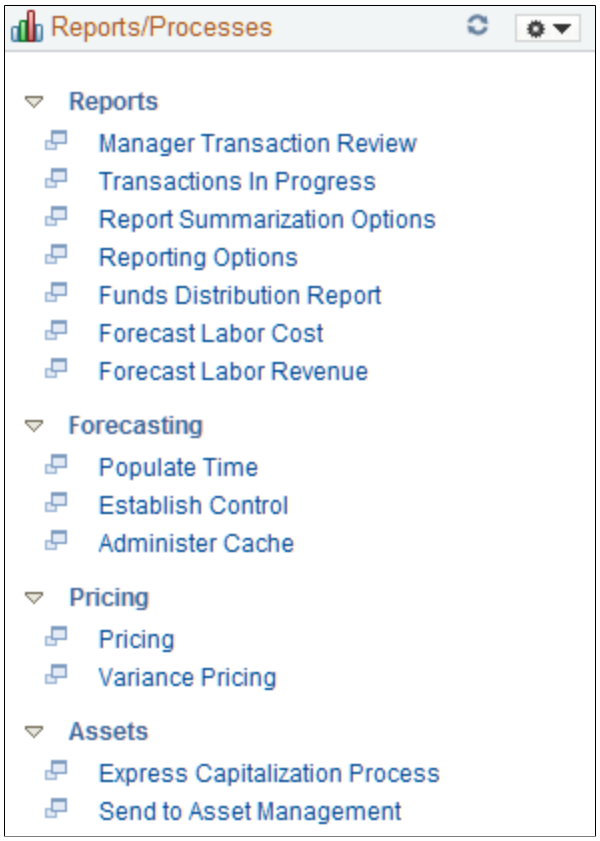
ナビゲーション

[<アプリケーション>], <アプリケーション> ワークセンター

[レポート/クエリー] タブを選択します。

画像: 例: [レポート/プロセス] ページレット

次の例では、[レポート/プロセス] ページレットのフィールドおよびコントロールを説明します。



レポート/プロセス



[ページレット設定] アイコンをクリックしてオプションを選択することで、次のことができます。

- *最小化*: [マイ ワーク] リンクを最小化します。[マイ ワーク] 見出しがこのアイコンと共に表示されます。
- *パーソナル設定*: 「ユーザー "レポート" のリンクの定義 - レポート/プロセス ページレットのパーソナル設定ページ 」にアクセスします。



オプションを再ロードするのに使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

[新規ウィンドウ] アイコンをクリックすると、リンクを新規ウィンドウに起動します。

ユーザー "レポート" のリンクの定義 - レポート/プロセス ページレットのパーソナル設定ページ

ユーザー "レポート" のリンクの定義 - レポート/プロセス ページレットのパーソナル設定ページ (FSPC_USER_REPORT) を使用して、レポートおよびプロセスへのリンクをパーソナル設定します。

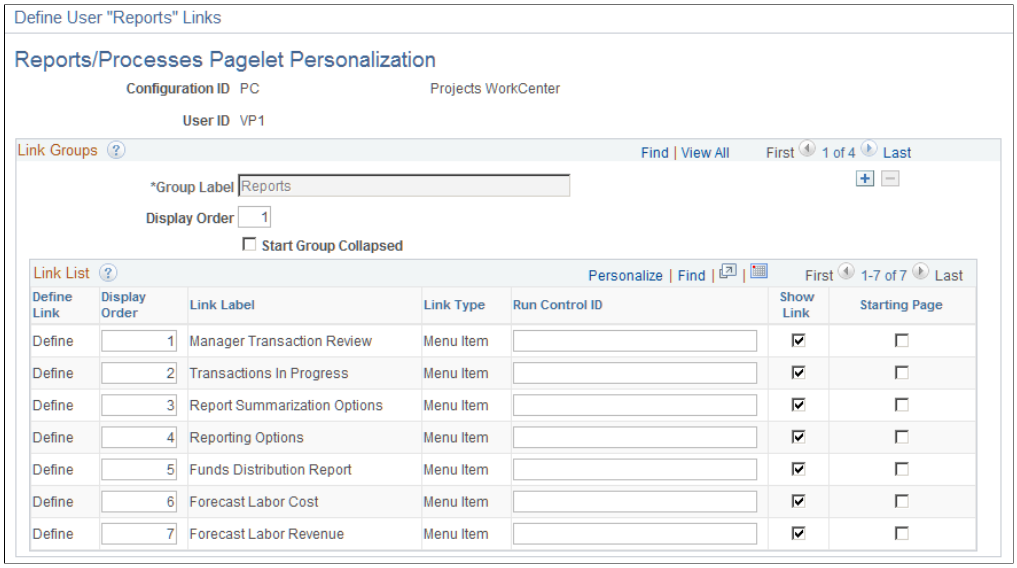
ナビゲーション

[<アプリケーション>], <アプリケーション> ワークセンター

[レポート/クエリー] タブを選択します。[ページレット設定] アイコンをクリックします。*[パーソナル設定]* オプションを選択します。

画像: ユーザー "レポート" のリンクの定義 - レポート/プロセス ページレットのパーソナル設定ページ

次の例では、ユーザー "レポート" のリンクの定義 - レポート/プロセス ページレットのパーソナル設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



リンク グループ

グループ ラベル

[レポート/プロセス] ページレットに表示されるレポートまたはプロセスの リンクのグループについての説明を入力します。

追加リンクを追加するときにクリックします。

システム管理者がページレット設定 – レポート/プロセス ページで [ユーザーによる追加リンクの追加を許可] チェック ボックス

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

を選択している場合、エンド ユーザーはページの [リンク グループ] セクション内の [追加] アイコンをクリックできます。

表示順序

このグループ ラベルをページレットに表示する順序を入力します。

グループを折りたたんで開始

選択すると、ワークセンター ページを表示したときにこのグループ ラベルを折りたたんで表示するように指定されます。

選択解除すると、ワークセンター ページを表示したときにこのグループ ラベルを展開して表示し、グループ内の全てのリンクが表示されるように指定されます。

リンク リスト

定義

クリックすると「リンクの定義 ページ」にアクセスし、リンクをメニュー アイテムまたは URL として定義できます。

ラン コントロール ID

このリンクを選択したときに表示される値を入力します。このフィールドはレポートおよびプロセスに関連付けられています。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第26章

設定可能分析フレームワークの使用

設定可能分析フレームワークについて

Oracle の PeopleSoft 設定可能分析フレームワーク (CAF) により、管理者は共通フレームワークを使用してエンドユーザー ページを設計できます。これらのページは PeopleSoft データの比較および分析に使用します。CAF により管理者は、顧客やサプライヤといったエンティティに対して何のファクター (データ) を表示するかを決定できます。

表示フォーマットは 2 種類あります。

- 比較: 複数のエンティティおよびファクターを行および列のフォーマットで表示します。

  このオプションでは、ユーザーは複数のエンティティの同じファクターを並べて比較できます。

- 分析: 1 つのエンティティの複数のファクターを、ユーザーが選択した任意のフォーマットで表示します。

  このオプションでは、ユーザーはある時点の 1 つのエンティティにフォーカスでき、表示フォーマットを表示および他のユーザーと共有できます。

上位レベルの機能には次のようなものがあります。

- 汎用であるため、フレームワークを変更しなくてもさまざまなタイプのエンティティおよびファクターを表示するのに使用できます。
- 構成可能であるため、ファクターおよびエンティティのタイプを管理者が定義できます。
- 拡張可能であるため、アプリケーション開発者はフレームワークでは使用できない追加機能を用意して拡張できます。
- 比較および分析モデルをサポートしているため、エンティティを比較したりある時点の 1 つのエンティティにフォーカスできます。
- 直感的なユーザー インターフェイスが用意されているため、ユーザーは簡単にエンティティおよびファクターを選択して、最も使いやすいように表示および配列できます。
- ユーザーはファクターおよびエンティティのセットを保存し、後から呼び出したり他のユーザーと共有できます。
- アクセス制御が用意されているため、ユーザーがアクセス可能なエンティティ、ファクターおよびアクションの制御にセキュリティを適用できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

サード パーティとの統合

設定可能分析フレームワークでは、ユーザー インターフェイスの実装に次のサード パーティ Javascript ライブラリを使用しています。これらは PeopleTools マネージ オブジェクトとして含まれており、外部 URL は参照しません。

- JQuery 1.8.2: HTML DOM オブジェクトとのやりとりおよび操作のために使用されています。
- JQuery UI 1.9.0: ユーザー インターフェイスにドラッグアンドドロップ機能およびリサイズ機能を実装するのに使用されています。

パフォーマンス

設定可能分析フレームワークは、コンテンツをホスティングするフレームワークです。コンテンツはさまざまなファクター ハンドラによって提供されます。フレームワークによる大規模なオーバーヘッドの可能性はほぼありません。ただし、使用されるファクターのタイプによっては、潜在的なパフォーマンスの問題を考慮する必要がある可能性があります。

セキュリティ

ユーザー ログインおよびコンポーネントへのアクセスのセキュリティ保護には標準の PeopleTools セキュリティが使用されます。また、CAF ではユーザーによるファクターおよび関連アクションへのアクセスを制御するためのアクセス制御を提供しています。

エンティティへのアクセスを制御するには、取込みにより、エンティティ レコードに OPRID を追加して OPRID でエンティティをフィルタするか、ビルトイン エンティティ ハンドラを拡張したうえでエンティティを選択するロジックを上書きするか、またはその両方を実行できます。ファクター データはファクター ハンドラにより取得されるため、ファクター ハンドラでは表示されるデータを制御するために必要なセキュリティ (低レベル セキュリティなど) を実装することが期待されます。

設定可能分析フレームワークの技術的な要素について

このセクションで説明されている内容は次のとおりです。

- ファクター タイプ
- ハンドラ タイプ
- 関連アクション レベル
- セキュリティ

ファクター タイプ

設定可能分析フレームワーク (CAF) では、ファクターの定義ページで分析のファクターを定義するときにファクター タイプが使用されます。ファクター タイプはデータを表示するためにシステムで使用されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ファクター タイプのオプションには次のものがあります。

アプリケーション クラス ファクターでデータを表示するのにアプリケーション クラスを使用するよう指定する場合に選択します。

コンポーネント ファクターでデータを表示するのに PeopleSoft クラシック コンポーネントを使用するよう指定する場合に選択します。

フィールド リスト ファクターでデータを表示するのに、各フィールドがリストされた、事前フォーマット済の 2 列表示を使用するよう指定する場合に選択します。

HTML ファクターでデータを表示するのに HTML を使用するよう指定する場合に選択します。

PS クエリー ページレット ファクターでデータを表示するのに PS クエリー ページレットを使用するよう指定する場合に選択します。

ピボット グリッド ページレット ファクターでデータを表示するのにピボット グリッド ページレットを使用するよう指定する場合に選択します。

URL ファクターでデータを表示するのに URL を使用するよう指定する場合に選択します。

次の表には、*#(type.value)* のフォーマットの値式をサポートするファクター タイプがリストされています。CAF では設定でこれらのファクター タイプを検出し、適切な値に代替します。

ファクター タイプ	*値*	*説明*	*例*
URL	URL オブジェクト名	指定された URL オブジェクトからテキストを返します。	*#(URL.HOMEPAGE):* HOMEPAGE URL オブジェクトの URL を返します。
Img	イメージ オブジェクト名	イメージ オブジェクトの URL を返します。	*#{IMG.LOGO}*: LOGO イメージの URL を返します。
HTML	HTML オブジェクト名	HTML コンテンツまたは HTML オブジェクトのテキストを返します。	*#{HTML.COMMON_HEADER}*: COMMON_HEADER HTML オブジェクトの HTML を返します。
MSG	MESSAGE_SET, MESSAGE_NBR	メッセージ カタログ テキストを返します。MESSAGE_SET および MESSAGE_NBR ではメッセージ セットおよび番号を指定します。	*#{MSG.6550,1}:* メッセージ (6550,1) のテキストを返します。
MSGE	MESSAGE_SET, MESSAGE_NBR	MSG と似ていますが、説明テキストを返します。	

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ファクター タイプ	*値*	*説明*	*例*
それ以外は全てレコード名を指定	フィールド名	指定されたレコード フィールドから値を返します。値は次のようにフォーマットされます。 • コントロール通貨の場合、金額は通貨としてフォーマットされます。 • IMAGE または IMAGEREFERENCE の場合、イメージの URL を返します。	*#{CUSTOMER.NAME1}* は、CUSTOMER レコードの NAME1 フィールドの値 (顧客名) を返します。 *#{CUST_DATA.BAL_AMT}* は、金額としてフォーマットされた BAL_AMT を返します。CUST_DATA レコードの BAL_AMT フィールドはコントロール通貨であるためです。 *#{CUSTOMER.CUST_LOGO}* は、CUST_LOGO イメージの URL を返します (CUST_LOGO がイメージ フィールドで顧客のロゴが格納されている場合)。

ハンドラ タイプ

設定可能分析フレームワーク (CAF) は、プラグイン アーキテクチャを使用した拡張可能なフレームワークです。CAF の機能は、さまざまな種類のハンドラを使用して、デフォルトの動作を上書きしたり、表示するデータの種類や関連アクションを追加するといった機能追加により拡張できます。

ハンドラ タイプは「分析ハンドラ レジストリ ページ」を使用して設定します。このレジストリの目的は、アプリケーション開発者がアプリケーション クラスに単一の値を割り当てられるようにするためです。これにより、ユーザーが分析の設定においてアプリケーション クラスを指定するときに、アプリケーション クラスのフルパスを知る必要がなくなります。

ハンドラ タイプのオプションには次のものがあります。

アクション ハンドラ 設定済の関連アクションを処理します。「関連アクション設定ページ」で関連アクションを実装するためにこのハンドラを使用するよう指定する場合に選択します。

アプリケーション クラスは CAF_API:ActionHandler のサブクラスでなければなりません。ビルトイン アクション ハンドラは CAF_CORE:HANDLER:ActionHandler パッケージ内にあります。

分析ハンドラ 分析を表示するコンポーネントのアプリケーション クラスです。分析レベルの機能を提供するのに使用されます。たとえば、表示の HTML のレンダリング、ユーザー セッションの管理、および分析ビューを保存/編集するユーザー アクションへの対応を処理します。また、通知を送信するハンドラでもあります。イベントを処理したり CAF によって提供されている機能を「分析設定ペー

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ジ」で上書きするために、このハンドラを分析レベルで使用するよう指定するために選択します。

アプリケーション クラスは CAF_API:ComparisonHandler のサブクラスでなければなりません。実装は通常、ビルトイン機能のほとんどが使用できるように、CAF_CORE:HANDLER:ComparisonHandler のサブクラスである必要があります。

エンティティ ハンドラ

エンティティの選択/管理およびエンティティに関連したアクションの実装といったエンティティの機能を実装するのに使用されるアプリケーション クラスです。イベントを処理したり CAF によって提供されている機能を「エンティティ設定ページ」で上書きするために、このハンドラをエンティティ レベルで使用するよう指定するために選択します。

アプリケーション クラスは CAF_API:EntityHandler のサブクラスでなければなりません。実装は通常、ビルトイン機能のほとんどが使用できるように、CAF_CORE:HANDLER:EntityHandler のサブクラスである必要があります。

ファクター ハンドラ

ファクター データの設定および表示といったファクターの機能を実装するのに使用されるアプリケーション クラスです。ファクター レベルの関連アクションを実装するのにも使用されます。イベントを処理したり CAF によって提供されている機能を「ファクター設定ページ」で上書きするために、このハンドラをファクター レベルで使用するよう指定するために選択します。

アプリケーション クラスは CAF_API:FactorHandler のサブクラスでなければなりません。

ファクター ハンドラによりビルトインのファクター タイプを拡張する場合、CAF_CORE:HANDLER:FactorHandler パッケージの対応するファクター ハンドラのサブクラスである必要があります。

次のアイコンの表示をサポートしているファクターのために、その表示を可能にするために用意されている CAF メソッドがあります。

- *ファクターの設定:* ユーザーがフィルタ値を変更するなどしてファクター表示を設定できるようにします。
- *複合表示:* 選択した全てのエンティティのデータをユーザーが 1 つのレポートまたはチャートに表示できるようにします。

  このオプションは比較モードの場合にのみ使用可能です。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

各タイプのハンドラについて、CAF ではコア機能を実装するためのビルトイン設定が用意されています。各ハンドラのインターフェイス定義は CAF_API アプリケーション パッケージにあります。コア設定は CAF_CORE:HANDLER アプリケーション パッケージにあります。ほとんどの場合、ハンドラの実装は CAF_CORE:HANDLER の対応するアプリケーション クラスからサブクラス化する必要があります。

ハンドラを追加するには、次の手順に従います。

1. 適切なタイプ (ハンドラ タイプ) のサブクラスとしてアプリケーション クラスを作成し、必要に応じてメソッドの上書きを開始します。
2. 「分析ハンドラ レジストリ ページ」を使用してアプリケーション クラスを登録します。
3. 分析、エンティティ、ファクターおよび関連アクションについて、各分析設定ページで適切なハンドラを使用します。

関連アクション レベル

設定可能分析フレームワーク (CAF) は、ユーザーが関連アクション/コンテキスト依存のアクションを実行できるよう表示の多くのレベルで関連アクションを添付できる、アクション可能なフレームワークです。

関連アクション レベルには次のものがあります。

共通ファクター	このオプションはファクターの関連アクション レベルで、全てのファクターに適用されます。
分析	このオプションは分析全体の関連アクション レベルです。
エンティティ	このオプションはエンティティの関連アクション レベルで、単一のエンティティに適用されます。
ファクター	このオプションはファクターの関連アクション レベルで、単一のファクターに適用されます。
ファクター データ	このオプションはエンティティとファクターの組合せの関連アクション レベルで、データ表示に適用されます。
選択済エンティティ	このオプションはエンティティの関連アクション レベルで、エンティティのグループに適用されます。

関連アクションは次のように設定できます。

- [コンフィギュレーション]: 関連アクションを「分析設定ページ」を使用して設定できます。管理者は関連アクションを関連アクション設定ページを使用して追加または削除でき、また、アクセス権限を分析アクセス制御ページを使用して決定できます。
- [動的]: このように設定すると関連アクションはハンドラを使用して実装されます。管理者はハンドラを動的に追加または削除できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

セキュリティ

設定可能分析フレームワーク (CAF) では、「分析アクセス制御ページ」を使用してエンティティ、ファクターおよび関連アクションに対するセキュリティで保護されたアクセスを提供します。これにより、表示するデータを選択するときに適切なデータ セキュリティが適用されます。

エンティティ

指定されたエンティティに上位キーとして OPRID がある場合、エンティティ データがデータベースから選択されるときに低レベル セキュリティ (OPRID = %OperatorId) が適用され、ユーザーがアクセス権限があるエンティティのみが選択されます。エンティティを選択するために必要なセキュリティがこの方法では実現されない場合、エンティティを選択する EntityHandler.GetAllEntities() メソッドをエンティティ ハンドラで実装または上書きできます。

ファクター

フレームワークにおいて、管理者はユーザーが使用および表示可能なファクターを指定できます。アクセス制御はユーザーごと、ロールごと、またはその両方です。これにより、機密データがあるファクターへのアクセスを制御できます。

関連アクション

ファクターと同じように、管理者はユーザーがアクセスできる関連アクションを制限できます。

設定可能分析フレームワークの設定

設定可能分析フレームワークの設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
分析ハンドラ レジストリ ページ	CAF_HANDLER_TBL	設定可能分析フレームワーク (CAF) でハンドラとして使用するアプリケーション クラスを登録します。
分析設定ページ	CAF_CONFIG_TBL	データ分析を定義します。
エンティティ設定ページ	CAF_CONFIG_TBL_ENT	分析のエンティティを定義します。
ファクター設定ページ	CAF_CONFIG_TBL_FCT	分析のファクターを定義します。
ファクターの定義ページ	CAF_FACTOR_SEC	ファクター分析ページにファクターを追加します。
ファクター リスト設定ページ	CAF_CONFIG_TBL_FLS	全てのユーザーが使用可能なファクターの事前選択済のリストを作成します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
ファクター リストのコピー ページ	CAF_CNF_FL_SEL_SEC	他のユーザーからファクター リストをコピーします。
関連アクション設定ページ	CAF_CONFIG_TBL_ACT	さまざまなレベルのデータに対して設定済関連アクションを定義します。
関連アクションの定義ページ	CAF_ACTION_SEC	関連アクション設定ページに関連アクションを追加します。
その他ページ	CAF_CONFIG_TBL_MSC	管理タスクを実行します。
分析アクセス制御ページ	CAF_ACC_CTL_TBL	分析のファクターおよび関連アクションに対してアクセス制御を設定します。

分析ハンドラ レジストリ ページ

分析ハンドラ レジストリ ページ (CAF_HANDLER_TBL) は、設定可能分析フレームワーク (CAF) でハンドラとして使用するアプリケーション クラスを登録します。

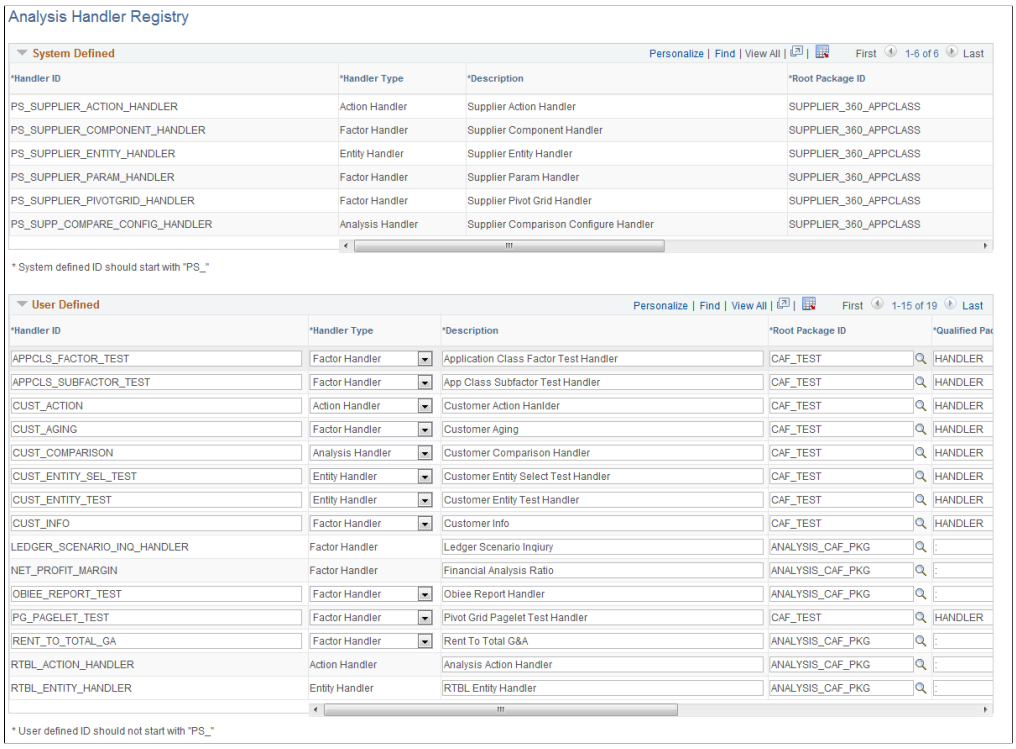
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [設定可能分析], [ハンドラ レジストリ]

画像: 分析ハンドラ レジストリ ページ (1/2)

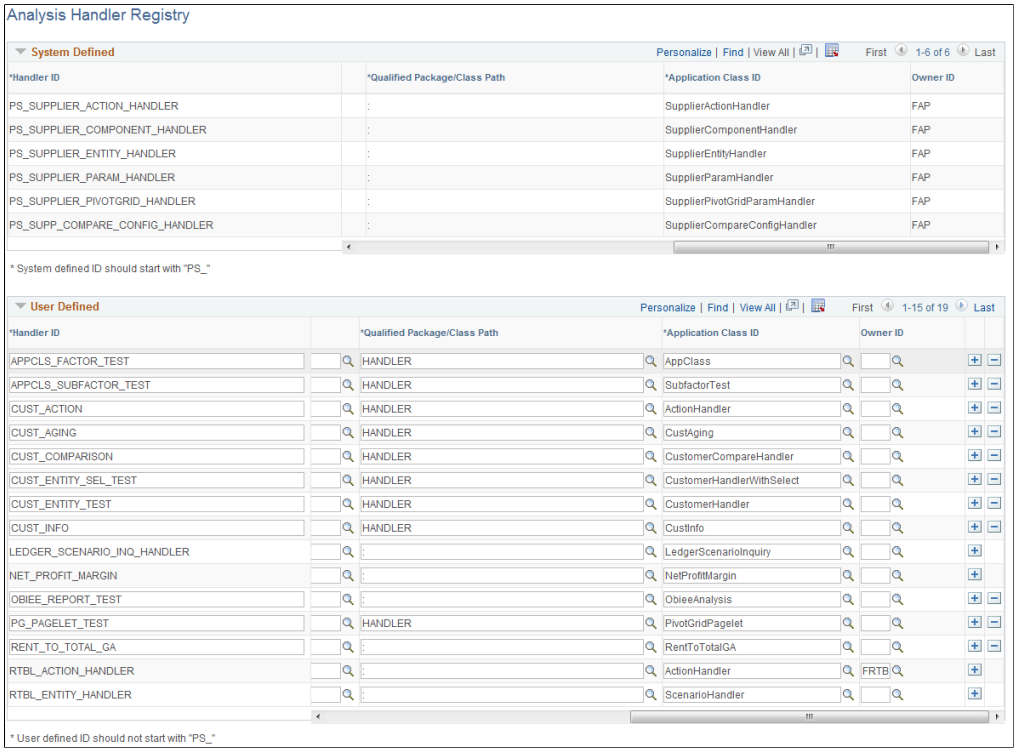
次の例では、ハンドラ レジストリ ページ (1/2) のフィールドおよびコントロールを説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

画像: 分析ハンドラ レジストリ ページ (2/2) (右にスクロール)

次の例では、右にスクロールした後のハンドラ レジストリ ページ (2/2) のフィールドおよびコントロールを説明します。



アプリケーション開発者はこのページを使用してユーザー定義のハンドラ ID を作成します。

ユーザー定義

使用できるようにシステム定義のハンドラが用意されています。しかし、独自のハンドラを作成する必要がある場合、このセクションを使用してユーザー定義のハンドラを作成します。

ハンドラ ID

アプリケーション クラスを参照するときに使用される一意の ID を入力します。

注: システム定義のハンドラは先頭が必ず "PS_" で始まります。ユーザー定義のハンドラの先頭を "PS_" で始めないでください。

ハンドラ タイプ

登録するハンドラのタイプを選択します。オプションは、次のとおりです。

- *アクション ハンドラ*
- *分析ハンドラ*
- *エンティティ ハンドラ*

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *ファクター ハンドラ*

各オプションの説明および追加情報は、「ハンドラ タイプ」を参照してください。

ルート パッケージ ID、適格なパッケージ/クラス パス、およびアプリケーション クラス ID

アプリケーション クラスのフル パスを選択します。ページを保存するときにシステムにより、アプリケーション クラスがハンドラ タイプの有効なサブクラスかどうかが検証されます。

オーナー

ハンドラの製品またはオーナー ID を選択します。このフィールドは任意です。

分析設定ページ

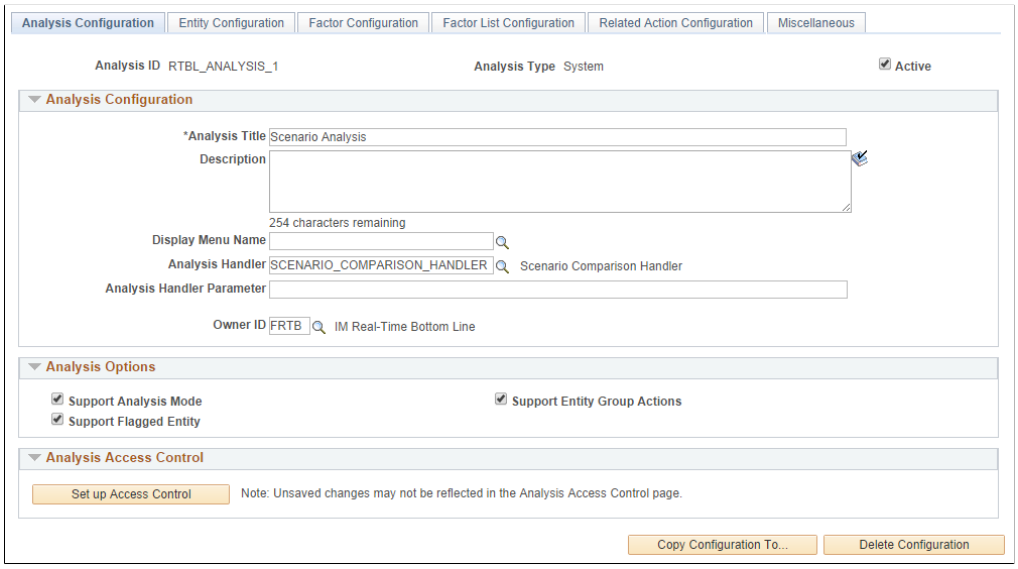
分析設定ページ (CAF_CONFIG_TBL) はデータ分析を定義するのに使用します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [設定可能分析], [分析設定]

画像: 分析設定ページ

次の例では、分析設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



このページは、分析についての一般情報を設定するのに使用します。

分析 ID および分析タイプ

分析のキー フィールドが表示されます。分析タイプはシステム定義またはユーザー定義で、「分析ハンドラ レジストリ ページ」に対応します。

アクティブ

分析が使用可能であることを示すために選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

分析設定

分析タイトル 分析表示ページに表示されるタイトルを入力します。分析表示ページの詳細については、「設定可能分析フレームワークの使用」を参照してください。

表示メニュー名 分析表示ページにアクセスするメニューの名前を選択します。

注: 既存のメニューまたは新規メニューに CAF_DISPLAY コンポーネントを登録する必要があります。その際に、検索レコードは *INSTALLATION* とする必要があります。

分析ハンドラおよび分析ハンドラ パラメータ (オプション) ハンドラを選択およびそのパラメータを入力します。

オーナー ID (オプション) 分析のオーナーを選択します。このフィールドは情報提供のためだけにあり、システムでは使用されません。

分析オプション

分析モードのサポート 分析モードをサポートするために選択します。

エンティティ グループ アクションのサポート エンティティ グループ アクションをサポートするために選択します。

指定エンティティのサポート ユーザーが 1 つ以上のエンティティを指定できるようにするために選択します。

分析アクセス制御

分析に対してはアクセス制御を設定する必要があります。

アクセス制御の設定 このボタンは、モーダル ウィンドウで「分析アクセス制御ページ」にアクセスするのに選択します。

注: 分析設定の最新のデータを保存しないと、分析アクセス制御コンポーネントで変更が反映されません。たとえば、ファクター設定ページで新しいファクターを追加した場合、分析アクセス制御コンポーネントでファクターが反映されるためにはまずページを保存する必要があります。

設定のコピー先... このボタンは、この設定を新しい設定にコピーするのに選択します。このボタンからは設定のコピー ウィンドウにアクセスし、分析タイプを選択して新しい分析 ID を入力できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

エンティティ設定ページ

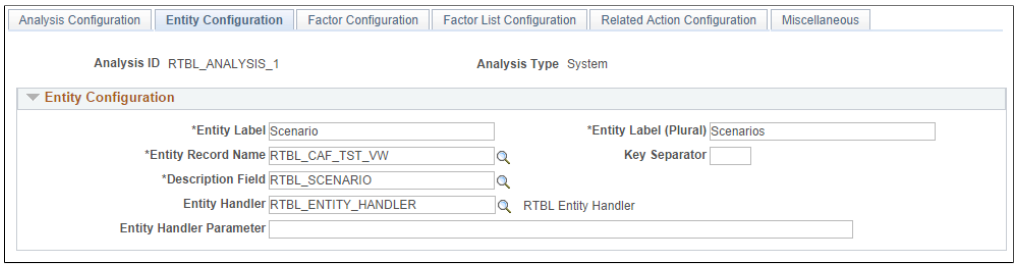
エンティティ設定ページ (CAF_CONFIG_TBL_ENT) は分析のエンティティを定義するのに使用します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [設定可能分析], [分析設定], [エンティティ設定]

画像: エンティティ設定ページ

次の例では、エンティティ設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



エンティティ ラベルおよびエンティティ ラベル (複数)

エンティティ ラベルの単数および複数の表記を入力します。フレームワークでは、ラベルを正しく作成できるようにフォームの単数形および複数形が必要です。たとえば、CAF で "Flag this Customer" や "Select All Customers" といったメッセージを表示できるように、*Customer* および *Customers* と入力します。

エンティティ レコード名

データの取得元となるエンティティおよびレコードの構造を示すレコードまたはビューを選択します。

レコードまたはビューのキーに OPRID (ユーザー ID) が含まれている場合、CAF によってデータが選択される際に、そのユーザーがアクセス可能なエンティティを選択するのに行レベル セキュリティが使用されます。

キー区切り

キー値を区切るのに使用する値を入力します。

セッションでは複合キーを使用してエンティティ キーを追跡します。このキーはエンティティのキー フィールドを連結することで取得されます。キー フィールドはキー区切りによって区切られます。キー区切りを空白のままにしておいた場合、システムではデフォルト値として "~|~" が使用されます。ただし、キー値に "~|~" が出てくることが考えられる場合は、キー値として別の値を指定する必要があります。

注: キー区切りやエンティティキーを変更すると、保存済のビューやセッションが有効ではなくなるため注意してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

説明フィールド エンティティのタイトルや名前を取得するのに使用するエンティティ レコードのフィールドを選択します。たとえば、顧客名に対して *NAME1* などです。

エンティティ ハンドラおよびエンティティ ハンドラ パラメータ エンティティに対してハンドラが実装されている場合、ハンドラ ID およびパラメータを選択します。

ファクター設定ページ

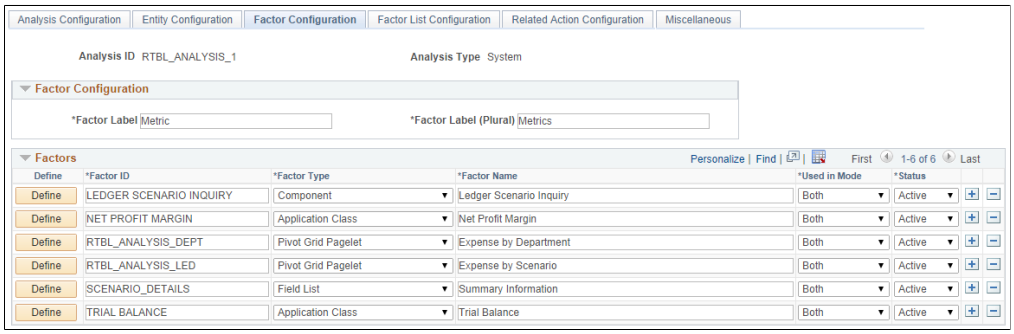
ファクター設定ページ (CAF_CONFIG_TBL_FCT) は分析のファクターを定義するのに使用します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [設定可能分析], [分析設定], [ファクター設定]

画像: ファクター設定ページ

次の例では、ファクター設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



ファクター設定

ファクター ラベルおよびファクター ラベル (複数) ファクター ラベルの単数および複数の表記を入力します。フレームワークでは、CAF がメッセージを正しく表示できるようにフォームの単数形および複数形が必要です。たとえば *Measure* および *Measures* などです。

ファクター

このセクションは、分析で使用されるファクターを追加するのに使用します。

定義 このボタンをクリックすると、「ファクターの定義ページ」にアクセスします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ファクターの定義ページ

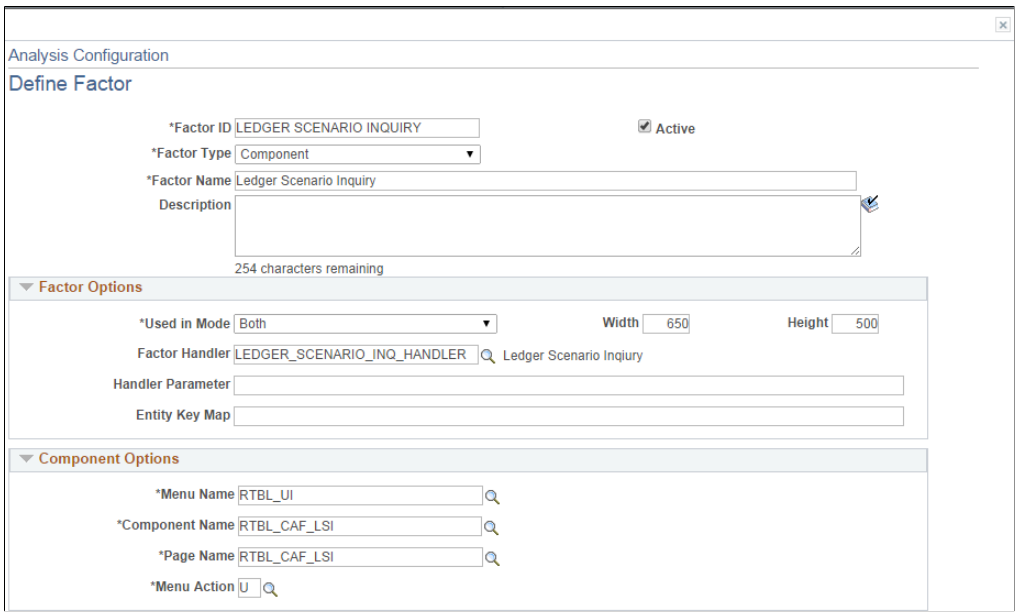
ファクターの定義ページ (CAF_FACTOR_SEC) はファクター比較ページにファクターを追加するのに使用します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [設定可能分析], [分析設定], [ファクター設定]。ページの [ファクター] セクションで [定義] ボタンをクリックします。

画像: ファクターの定義ページ

次の例では、ファクターの定義ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



ファクター ID ファクターを識別する ID を入力します。

ファクター タイプ データを表示するのに使用するファクターのタイプを選択します。選択されたオプションにより、ファクター詳細を定義するために追加のフィールドが表示されます。

オプションは、次のとおりです。

- *アプリケーション クラス*
- *コンポーネント*
- *フィールド リスト*
- *HTML*
- *PS クエリー ページレット*
- *ピボット グリッド ページレット*

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *URL*

[アプリケーション クラス] 以外のオプションが選択された場合、ページの下部に追加フィールドがある新しいセクションが表示されます。

各オプションの説明および追加情報は、「ファクター タイプ」を参照してください。

ファクター名

ファクター名を入力します。これはユーザーに対して表示するときに使用されます。

ファクター オプション

使用時のモード

このファクターを使用可能なモードを選択します。オプションは、次のとおりです。

- *分析*: 選択すると、このファクターは分析モードのときのみ使用できます。
- *比較*: 選択すると、このファクターは比較モードのときのみ使用できます。
- *両方*: 選択すると、このファクターは分析モードおよび比較モードで使用できます。

幅および高さ

ファクターのサイズを表す値を入力します。システムによるデフォルトのサイズは*400* (幅) と *300* (高さ) です。

注: コンポーネントやチャート、ページレットといった固定サイズのファクター タイプについては、サイズはコンテンツが収まるだけのサイズにし、ユーザーがデータを表示するのにスクロール バーを使用しなくてもよいようにする必要があります。

ファクター ハンドラおよびハンドラ パラメータ

ファクター ハンドラを選択してそのパラメータを指定します。

[ファクター タイプ] が *[アプリケーション クラス]* の場合、これは必須フィールドです。

[ファクター タイプ] がアプリケーション クラス以外の場合、ファクター ハンドラは既に決まっています。しかし、ビルトイン ハンドラを拡張つまり上書きする必要がある場合、カスタマイズされたハンドラおよびそのパラメータを指定できます。カスタム ハンドラはビルトイン ハンドラ クラスを拡張つまりサブクラス化したものである必要があります。

エンティティ キー マップ

指定されたレコードで異なるキー フィールドが使用されている場合に、キー値をマップするのに使用する値を入力します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

たとえば、Customer のエンティティ レコードが CUSTOMER で、SETID および CUST_ID がキーになっているとします。BILL_TO_SETID および BILL_TO_CUST_ID がキーとなっているビューまたはレコードからデータが取得される場合、マッピングの指定に使用可能なエンティティ キー マップは *BILL_TO_SETID=SETID,BILL_TO_CUST_ID=CUST_ID* となります。

ファクター タイプによっては、CAF により自動的に選択済のエンティティ キーが渡されて、表示するデータが取得されます。たとえば HTML ファクター タイプの場合、管理者は式 #{RECORD.FIELD} を使用して、データを取得するレコードおよびフィールドを指定できます。ほとんどの場合、指定されたレコードがエンティティ レベルでキーとなっている必要があり、同じキー フィールドを使用する必要があります。しかし、指定されたレコードで異なるキー フィールドを使用することもできます。

コンポーネント オプション

データはエンティティごとに表示され、コンポーネントの検索レコードがエンティティにおいてキーとなっている必要があります。CAF では自動的にエンティティ キーがコンポーネントに渡されて、検索ダイアログが省略されます。キー フィールドが異なる場合には [エンティティ キー マップ] フィールドを使用できます。しかしこれにより、データを表示するためにトランザクションが作成されます。そのため、PS クエリーやフィールド リストといった他のファクター タイプを使用する方がより効率的といえます。

メニュー名、コンポーネント名、ページ名、およびメニュー アクション

ターゲット コンポーネントの値を入力します。

フィールド リスト オプション

このオプションが選択されている場合、左の列にはフィールド ラベルが右詰めで表示されます。右の列にはフィールド値が左詰めで表示されます。

ラベル列幅および値列幅

フィールド ラベルおよびフィールド値の列幅を入力します。

望ましい方法は、1 つの列をパーセントで入力し、データ表示がデータのセル サイズに基づいて自動的に調整されるようにすることです。それからもう一方の列を "*" を使用して入力します。これは残りの幅を使用するという意味です。

連番

各行の連番を入力します。ユーザーが表示したときに行はこの連番の順に表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

HTML オプション

各エンティティに対して生成される HTML がデータを除いて同じである場合、このファクター タイプを使用できます。HTML をコーディングしてデータをフォーマットでき、また、HTML のデータの代替として値式を使用できます。

HTML HTML コードを入力します。各エンティティに固有のデータの代替となる値式を使用する必要があります。このデータのフォーマットを指定してもかまいません。

PS クエリー ページレット オプション

このオプションが選択されている場合、次の手順を実行する必要があります。

1. PS クエリーを作成します。
2. ページレット ウィザードを使用して PS クエリーのページレットを作成します。
3. ファクター タイプとして [PS クエリー ページレット] を使用するファクターを作成し、[PS クエリー ページレット オプション] を完了します。

このオプションで生成されるデータは静的 HTML、イメージ、またはその両方で、ファクターはインタラクティブではありません。しかし、このオプションを使用するとデータを表示したときに最も優れたパフォーマンスが実現されます。そのため、単純なチャート、グリッド、またはその両方が必要という場合は、[コンポーネント] オプションではなくこのオプションを使用してください。

最大行数 表示する最大行数を入力します。このフィールドはページレットの MAXROWS パラメータを上書きします。

ページレット幅およびページレット高さ ページレットが格納されるコンテナのサイズを入力します。この値はページレット ウィザードで指定されたページレットのサイズよりわずかに大きく、かつ [ファクター オプション] で入力したサイズより小さくなければなりません。これによりマージンがなくなり、スクロールの必要も少なくなります。

ページレット ID ページレット ウィザードで作成したページレットの ID を選択します。

ピボット グリッド ページレット オプション

このオプションが選択されている場合、次の手順を実行する必要があります。

1. PS クエリーを作成します。
2. ピボット ウィザードを使用してピボット グリッドを作成します。
3. ページレット ウィザードを使用してピボット グリッドのページレットを作成します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

4. ファクター タイプとして [ピボット グリッド ページレット] を使用するファクターを作成し、[ピボット グリッド ページレット オプション] を完了します。

このオプションで生成されるデータは iframe を使用し、インタラクティブです。そのため、ユーザーはピボット グリッド ビューを変更することができます。各ビューの変更は独立しているため、全てのビューに変更を適用するには、ファクターに対してファクターの設定関連アクションを使用する必要があります。

ページレット幅およびページレット高さ ページレットのサイズを入力します。これらの値はページレット ウィザードの値を上書きします。これらの値は [ファクター オプション] で入力したサイズよりわずかに小さくなければなりません。これによりマージンがなくなり、スクロールの必要も少なくなります。

ページレット ID ページレット ウィザードで作成したピボット グリッド ページレットの ID を選択します。

URL オプション

URL ファクターの URL を入力します。この URL はエンティティ、インストールされているシステム、またはその両方に基づいている必要があります。

注: セキュリティ上の制限により、全ての URL がサポートされているわけではありません。

ファクター リスト設定ページ

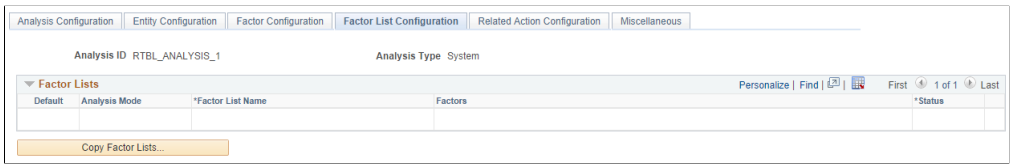
ファクター リスト設定ページ (CAF_CONFIG_TBL_FLS) は全てのユーザーが使用可能なファクターの事前選択済のリストを作成するのに使用します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [設定可能分析], [ファクター リスト設定]。

画像: ファクター リスト設定ページ

次の例では、ファクター リスト設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



ユーザーの必要に応じ、このページではユーザーが個々のファクターを選択したり独自のファクター リストを作成しなくても、さまざまなファクター セットを切り替えることができます。このリストにはファクターの位置およびサイズが含まれており、管理者はこのページにデータを入力するのではなく、CAF 表示ページを使用してリストを作成できます。そのため、ファクター リストを設定するには、CAF 表示ページを使用してリス

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

トを作成し、それからこのページを使用してファクター リストを設定の一部としてコピーします。別の方法として、管理者は他のユーザーによる公開ファクター リストをコピーして設定の一部とすることもできます。

ファクター リスト

このセクションには、分析に対して設定されている全てのファクター リストが表示されます。各行は 1 つのファクター リストを表します。

デフォルト

各表示モードについて、この行がデフォルトのファクター リストであることを示すために選択します。したがって、分析モード行について選択可能なのは 1 つの行のみで、比較モード行についてであれば 2 つ目の行を選択可能です。

選択されたファクター リストは、ユーザーがファクターを指定せずに最初にこの分析にアクセスしたときに使用されます。

分析モード

ファクター リストが属するモードを表示します。

ファクター リスト名

ファクター リストの名前を表示します。この値はソース ファクター リストからコピーされ、変更が可能です。

ファクター

ファクター リストのファクターのリストを表示します。

ステータス

[アクティブ] または *[非アクティブ]* を選択します。アクティブなファクター リストはユーザーに対して表示されます。

ファクター リストのコピー

このボタンをクリックするとファクター リストのコピー ページにアクセスし、ユーザーからのファクター リストをコピーできます。

ファクター リストのコピー ページ

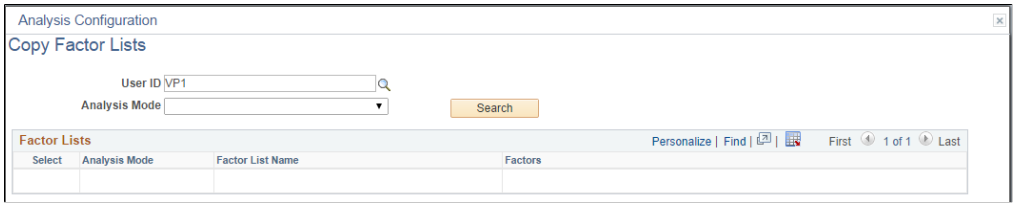
ファクター リストのコピー ページ (CAF_CNF_FL_SEL_SEC) は他のユーザーからのファクター リストをコピーするのに使用します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [設定可能分析], [分析設定], [ファクター リスト設定]。[ファクター リストのコピー] ボタンをクリックします。

画像: ファクター リストのコピー ページ

次の例では、ファクター リストのコピー ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ファクター リストを検索してファクター リスト設定ページにコピーするには、次の手順に従います。

1. ユーザー ID を入力または選択します。
2. (オプション) 分析モードを選択します。
3. [検索] ボタンをクリックします。
4. コピーするファクター リストの横にあるチェック ボックスを選択します。

   複数のファクター リストをコピーしたい場合は複数選択できます。
5. [OK] ボタンをクリックしてファクター リストをコピーし、ファクター リスト設定ページに戻ります。

関連アクション設定ページ

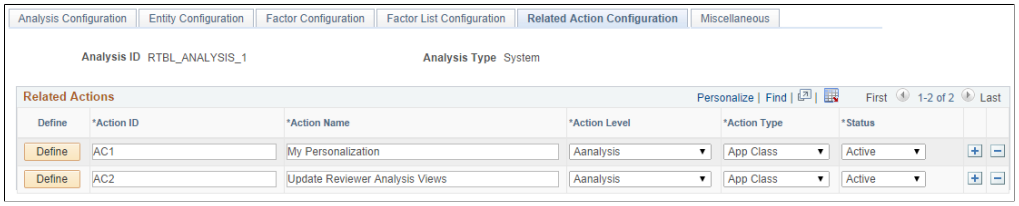
関連アクション設定ページ (CAF_CONFIG_TBL_ACT) はさまざまなレベルのデータに対する設定済関連アクションを定義するのに使用します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [設定可能分析], [関連アクション設定]。

画像: 関連アクション設定ページ

次の例では、関連アクション設定ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



フィールド定義は関連アクションの定義ページに表示されます。

定義 このボタンをクリックすると、「関連アクションの定義ページ」にアクセスします。

関連アクションの定義ページ

関連アクションの定義ページ (CAF_ACTION_SEC) は関連アクション設定ページに関連アクションを追加するのに使用します。

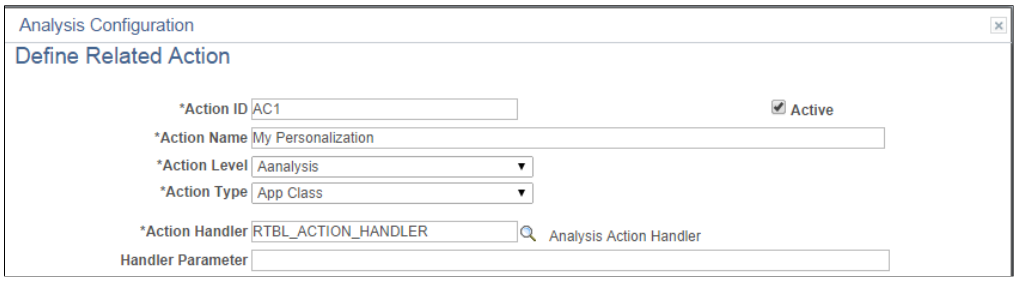
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [設定可能分析], [関連アクション設定]。[定義] ボタンをクリックします。

画像: 関連アクションの定義ページ

次の例では、関連アクションの定義ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



アクション ID およびアクション名 一意のアクション ID および関連アクションの名前を入力します。この名前はユーザーに対して表示されます。

アクティブ アクションがアクティブであることを示すにはチェック ボックスを選択します。アクティブな関連アクションのみがユーザーに対して表示されます。

アクション レベル 関連アクションを関連付けるレベルを選択します。オプションは、次のとおりです。

- 分析
- 共通ファクター
- エンティティ
- ファクター
- ファクター データ
- 選択済エンティティ

ファクター ID このアクションを関連付けるファクターを選択します。このフィールドを空白のままにしておくこともでき、この場合は分析内の全てのファクターに適用されます。

このオプションは、アクション レベルが [ファクター] および [ファクター データ] の場合にのみ有効です。

アクションの設定 これがファクターの設定アクションであることを示すのに選択します。これはファクターの設定ファクター ボタンに関連付けられているアクションです。1 つの関連アクションに対してのみこの

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

チェック ボックスを選択でき、アクション ハンドラの動的設定オプションが上書きされます。

このチェック ボックスは、アクション レベルが [ファクター] の場合にのみ有効です。

アクション タイプ

関連アクションのタイプを選択します。オプションは、次のとおりです。

- *アプリケーション クラス*: 関連アクションはアプリケーション クラスによりハンドルされます。
- *コンポーネント*: 関連アクションではコンポーネントを開きます。

アクション ハンドラおよびハンドラ パラメータ

関連アクションのアクション ハンドラを選択します。このフィールドはアクション タイプがアプリケーション クラスの場合は必須で、アクション タイプがコンポーネントの場合はオプションです。

アクション ハンドラが選択されると、ビルトイン ハンドラが上書きされ、ハンドラのパラメータを入力できます。

コンポーネント オプション

このセクションは、アクション タイプとして *[コンポーネント]* が選択された場合に表示されます。

キー マップ

マップを入力します。これはエンティティ キー マップに似ています。

このオプションでは、CAF からのデータとターゲット コンポーネントの検索レコードのデータにおけるキーの違いをマップします。コンポーネントを開いたときに CAF から渡されるキー フィールドおよび値は、レコード CAF_XFRSRCH_WRK で定義されています。

ナビゲーション タイプ

コンポーネントをどのように開くかを指定します。オプションは、次のとおりです。

- *モーダル:* コンポーネントをモーダル ページとして開くように指定します。
- *新規ページ:* コンポーネントを新規ブラウザ ページまたはタブで開くように指定します。
- *ページを置換:* コンポーネントを現在のページ (CAF DISPLAY ページ) の代わりに開くように指定します。

メニュー名、バー名、アイテム名、ページ名およびメニュー アクション

コンポーネントのパスおよびアクションを選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

その他ページ

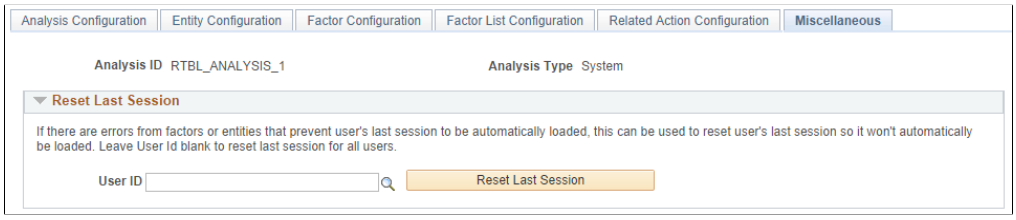
その他ページ (CAF_CONFIG_TBL_MSC) は、管理タスクを実行するのに使用します。

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [設定可能分析], [その他]。

画像: その他ページ

次の例では、その他ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



このページは、特定のユーザーまたは全てのユーザーの最終セッションをリセットするのに使用します。

ユーザーが CAF_DISPLAY ページにアクセスするたびに、新規セッションが作成されます。ユーザーがエンティティ、ファクターまたはその両方を追加、削除または再配置するといった変更をページに加えると、セッション データが保存されます。ユーザーが同じ分析について CAF_DISPLAY ページに戻ると、ユーザーが特定のセッションに入らない限り、ユーザーがアクセスした最終セッションがロードされます。設定中またはファクターの開発中に、最終セッションのファクター、エンティティまたはその両方に問題があった場合、セッションがロードされず、ページが正しく表示されないことがあります。[最終セッションのリセット] ボタンは、管理者または開発者が最終セッションをリセットするために用意されており、このボタンにより、問題があった最終セッションではなく空のセッションがロードされます。

ユーザー ID ユーザー ID を選択して、特定のユーザーの最終セッションをリセットします。このフィールドを空白のままにすると、全てのユーザーの最終セッションをリセットします。

最終セッションのリセット 指定されたユーザーの、または [ユーザー ID] フィールドにユーザー ID が指定されていない場合は全てのユーザーの最終セッションを空白セッションにリセットします。

分析アクセス制御ページ

分析アクセス制御ページ (CAF_ACC_CTL_TBL) は分析のファクターおよび関連アクションに対してアクセス制御を設定するのに使用します。

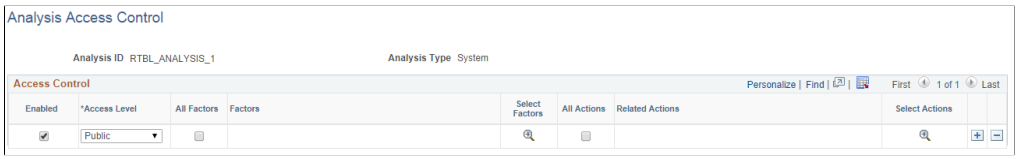
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

- [ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [設定可能分析], [分析アクセス制御]。
- [ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [分析設定]。分析設定ページで [アクセス制御の設定] ボタンをクリックします。

画像: 分析アクセス制御ページ

次の例では、分析アクセス制御ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



このページは、各分析に対してアクセス権限を付与するのに使用します。

有効 アクセス制御を許可するために選択します。

アクセス レベル アクセスのレベルを選択します。オプションは、次のとおりです。

- *公開*: 全てのユーザーにアクセス権限があることを指定する場合に選択します。

  このオプションが選択されている場合、[アクセス レベル値] フィールドは入力できません。

- *ロール*: アクセス権限をロールごとに定義するよう指定する場合に選択します。

  このオプションが選択されている場合、[アクセス レベル値] フィールドにロールを指定します。

- *ユーザー*: アクセス権限をユーザー ID ごとに定義するよう指定する場合に選択します。

  このオプションが選択されている場合、[アクセス レベル値] フィールドにユーザー ID を指定します。

全てのファクター 全てのファクターに対するアクセス権限が付与されることを指定する場合に選択します。このオプションが選択されている場合、[ファクター] および [ファクターの選択] は表示されません。

ファクターの選択 選択するとファクターの選択ページにアクセスします。ここではそのアクセス レベルで分析のどのファクターが使用可能かを選択できます。このオプションは [全てのファクター] チェックボックスが選択されていない場合に使用可能です。

全てのアクション 全ての関連アクションに対するアクセス権限が付与されることを指定する場合に選択します。このオプションが選択されてい

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

る場合、[関連アクション] および [アクションの選択] は表示されません。

アクションの選択 選択すると関連アクションの選択ページにアクセスします。ここではそのアクセス レベルでどの関連アクションが使用可能かを選択できます。このオプションは [全てのアクション] チェックボックスが選択されていない場合に使用可能です。

設定可能分析フレームワークの使用

設定可能分析フレームワークを利用するために使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
分析表示ページ (比較モード)	CAF_DISPLAY	複数のエンティティのデータを表形式またはグリッド フォーマットで比較します。
分析表示ページ (分析モード)	CAF_DISPLAY	1 つのエンティティのデータを分析します。

設定可能分析フレームワークについて

CAF_DISPLAY ページは、比較データおよび分析データを表示および操作するのに使用するページです。このページでは、比較モードと分析モードの 2 つのモードがサポートされています。各モードにはいくつかの類似点と相違点があります。

PeopleSoft アプリケーションで CAF を使用する場合、コンポーネント CAF_DISPLAY が必ず CAF のメニューに登録されます。たとえば、顧客分析に [顧客] メニューからアクセスするとします。この場合、[分析] メニューの下に分析表示、および設定のテストのみの目的で管理者用に分析テストの表示として登録されます。

Component.CAF_DISPLAY のデフォルトの検索レコードは *INSTALLATION* です。これにより、検索ダイアログが省略され、メニューに関連付けられたデフォルトの比較が表示されます。しかし、必要であれば、メニューの検索レコードを上書きし、検索ダイアログを表示してユーザーが複数の比較から選択できるようにすることもできます。

CAF_DISPLAY ページは、ブラウザ ウィンドウのサイズを変更するとそれに合わせて自動的にサイズ変更されます。ユーザーはエンティティおよびファクターを追加、削除および再配置できます。ユーザーが同時に選択可能なエンティティおよびファクターの数に本質的な制限はありません。

警告 実装によっては、ユーザーが選択するエンティティやファクターの数が多すぎると、パフォーマンスの問題が生じる可能性があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

分析表示ページの共通の要素

分析表示ページの表示には 2 つのモードがあります。各モードには類似点と相違点があります。このセクションでは共通の点について説明します。

分析ビューの選択

ユーザーが使用可能な、保存済のビューを選択します。保存済のビューは、サインオンしているユーザーまたは他のユーザーによって作成されたものです。

分析ビュー

ドロップダウン リスト ボックスから選択した最新の分析ビューを表示します。これは、分析ビューが選択された後にファクターやエンティティが変更されていて現在の表示がその分析ビューを反映していない場合に、参照として使用できます。

 **([別名保存])**

現在のビューを後からアクセスできるようにするには、[別名保存] アイコンをクリックします。ユーザーは [分析ビューの保存名] フィールドにテキストを入力して [OK] ボタンをクリックする必要があります。保存済ビューには、エンティティおよびファクターのリストが、順番やサイズといったレイアウト情報を含めて格納されます。システムではどちらのモードのデータも保存されます。

[分析ビューの保存名] フィールドに入力された名前が存在する場合、ビューは置き換えられます。

 **([編集])**

分析ビューの編集ページにアクセスして以下のタスクを実行するには、[編集] アイコンをクリックします。

- [公開] チェック ボックスを選択して他のユーザーが表示できるようにする。

  変更済のビューおよびその変更者を他のユーザーが識別できるように、システムによりオーナーのユーザー ID がビュー名の最後に追加されます。

- [削除] チェック ボックスを選択してビューを削除する。

 **([通知])**

電子メール通知ページにアクセスして他のユーザーに電子メールを送信するには、[通知] アイコンをクリックします。この電子メールには現在のビューへのリンクが含まれます。

- 宛先: 分析ハンドラに選択元となる電子メール アドレスのリストが含まれている場合は、電子メール アドレス アイコンを選択します。

- BCC: メッセージのコピーが届くように、そして必要なときに再送信できるように、ユーザーの電子メール アドレスが自動的に設定されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- タイトル: このフィールドには分析のタイトルが自動的に設定されます。
- メッセージ: このフィールドには選択されたエンティティおよびファクターが自動的に設定されます。

  さらに、電子メールの受信者が現在のビューを開けるようにリンクが含まれています。

 **([リフレッシュ])**

ページに表示されているデータをリフレッシュするには、[リフレッシュ] アイコンをクリックします。

 **(このエンティティの分析)**

比較分析ページに分析モードでアクセスするには、[この <エンティティ> を比較] アイコンをクリックします。

このアイコンは比較モードと分析モードを切り替えるトグルのように動作します。

このオプションは、「分析設定ページ」で [分析モードのサポート] チェック ボックスが選択されている場合にのみ使用可能です。

(分析の関連アクション)

関連アクションを実行するには、分析の関連アクション アイコンをクリックします。このアイコンは、分析で関連アクションが使用できる場合にのみ使用可能です。

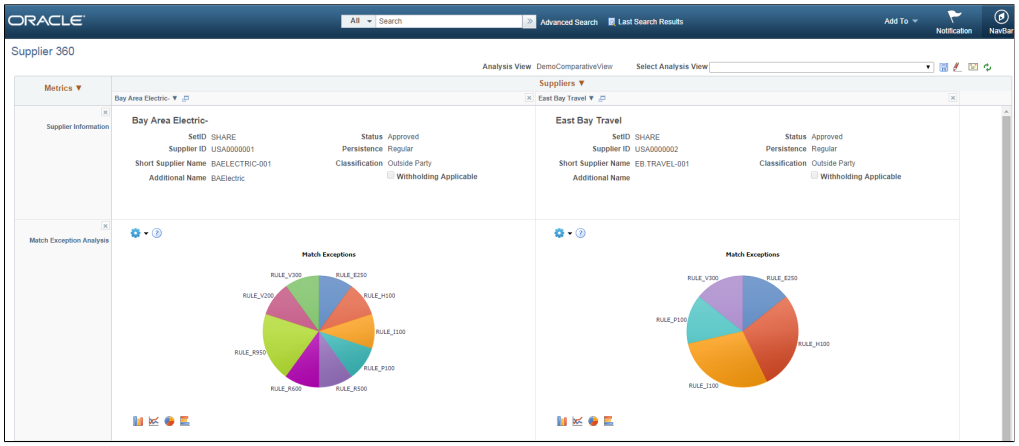
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

分析表示ページ (比較モード)

分析表示ページ (比較モード) (CAF_DISPLAY) を使用して、複数のエンティティのデータを表形式またはグリッド フォーマットで比較します。

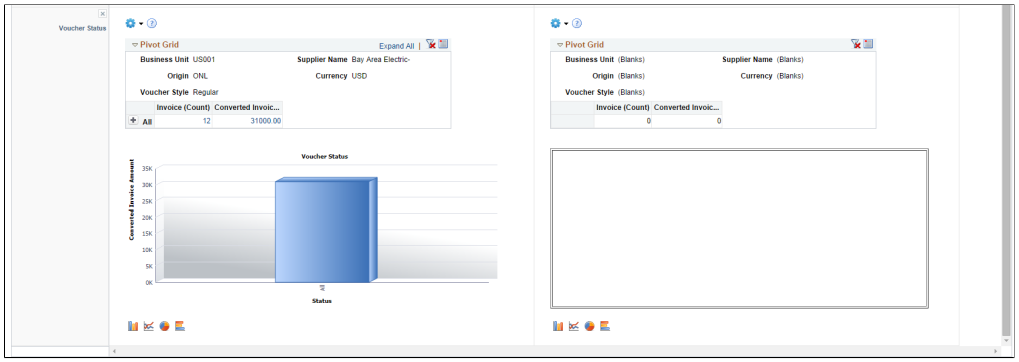
画像: 分析表示ページ (比較モード) (1/2)

次の例では、分析表示ページ (比較モード) (1/2) のフィールドおよびコントロールを説明します。



画像: 分析表示ページ (比較モード) (2/2)

次の例では、分析表示ページ (比較モード) (2/2) のフィールドおよびコントロールを説明します。



比較モードでは大きく分けて 3 つの領域があります。

- エンティティ ヘッダー領域はページの最上部に表示されます。

  エンティティの列見出しおよびエンティティに関連付けられているアクションが表示されます。

- ファクター ヘッダー領域は左ウィンドウに表示されます。

  ファクターの行見出しおよびファクターに関連付けられているアクションが表示されます。

- ファクター データ領域はページで最大の領域を占めています。

  関連エンティティおよびファクターに関連付けられているデータおよびアクションが表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

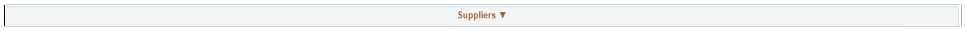
ユーザーが 1 つの領域に変更を加えると、他の 2 つの領域に同期されます。たとえば、ユーザーがドラッグアンド ドロップまたは [表示された *<エンティティ>* を選択] オプションを使用してエンティティを並べ替えると、ファクター データ領域の対応する列が並べ替えられます。

エンティティ ヘッダー領域 (比較モード)

エンティティ ヘッダーは、比較モードのときに、分析表示ページ (CAF_DISPLAY) の最上部に表示されます。エンティティ ヘッダーの最初の行には、「エンティティ設定ページ」で選択されたエンティティが表示されます。

画像: エンティティ ヘッダー (比較モード - 行 1)

次の例では、エンティティ ヘッダー (比較モード - 行 1) の例を説明します。



ユーザーはエンティティの横のドロップダウン矢印をクリックして次のオプションを選択できます。

表示された <エンティティ> を選択	ユーザーがビューに表示するエンティティを選択できるようにするポップアップ (ウィンドウ) にアクセスするのに選択します。
<エンティティ> を全て選択	このオプションは、個々のエンティティの横にある各チェック ボックスにチェック マークを付けるのに選択します。
<エンティティ> を全て選択解除	このオプションは、各エンティティの横にある各チェック ボックスのチェック マークを全て外すのに選択します。

エンティティ ヘッダーの 2 番目の行には、ビューに対して選択された各エンティティが表示されます。次のタスクを実行可能です。

画像: エンティティ ヘッダー (比較モード - 行 2)

次の例では、エンティティ ヘッダー (比較モード - 行 2) の例を説明します。



(チェック ボックス)	[選択済エンティティ] アクション オプションの対象となるエンティティを選択します。 このオプションは、「分析設定ページ」で [エンティティ グループ アクションのサポート] チェック ボックスが選択されている場合にのみ使用可能です。
 **([選択済])**	このアイコンは、そのエンティティが選択済であることを示します。
(エンティティ名)	エンティティ名をクリックすると、関連アクションを開きます。 • *[この <エンティティ> にフラグを設定]* および *[この <エンティティ> のフラグをクリア]*: これらのオプションは、エンティティ名の横にあるチェック ボックスにチェック マークを付けたり外したりします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このオプションは、「分析設定ページ」で [指定エンティティのサポート] チェック ボックスが選択されている場合にのみ使用可能です。

- その他のアクション: 表示されるアクションはハンドラからの動的なもの、または「関連アクション設定ページ」のエンティティ アクション レベルで設定されているものです。

(削除) ビューからエンティティを削除するには [削除] アイコンをクリックします。

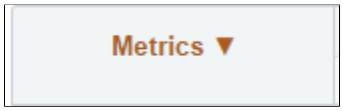
ユーザーはエンティティの選択オプションを使用するかまたは列を新しい位置にドラッグすることで、エンティティ名の列の位置を変更できます。

ファクター ヘッダー領域 (比較モード)

ファクター ヘッダーは、比較モードのときに、比較分析ページ (CAF_DISPLAY) の左ウィンドウに表示されます。

画像: ファクター ヘッダー (比較モード)

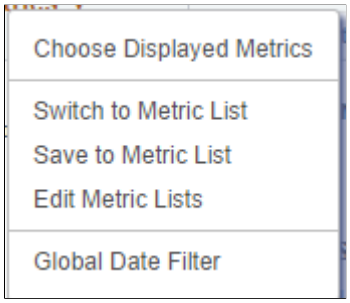
次の例では、比較モードのときのファクター ヘッダーの例を説明します。



ファクター ヘッダーの一番上には、「ファクター設定ページ」で定義されたファクター ラベルが表示されます。ユーザーはラベルを選択して、各ファクターに関連付けられた関連アクションにアクセスできます。このセクションにはさらに、各ファクターの動的および設定済の関連アクションもあります。

画像: ファクター ヘッダー オプション (比較モード)

次の例では、比較モードのときのファクター ヘッダー オプションの例を説明します。<ファクター> が参照されているところに表示されるように、ファクター ラベル *"メトリック"* が定義されています。



ユーザーはファクターの横のドロップダウン矢印をクリックして次のオプションを選択できます。

表示された <ファクター> を選択 選択すると、ユーザーがビューでファクターを選択、削除および再配置できるファクターの選択を開きます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

<ファクター> リストに切替

選択すると、ユーザーがファクターの定義済リストに切り替えることができるファクター リストが開きます。ファクター リストは、ユーザー、他のユーザーおよび管理者が「ファクター リスト設定ページ」を使用して定義できます。

<ファクター> リストに保存

選択すると、ユーザーがリスト名を入力してファクター リストを保存できるウィンドウが開きます。[リスト名] フィールドに入力された名前が既に存在する場合、ファクター リストは現在のファクターで置き換えられます。

<ファクター> リストを編集

選択すると、ユーザーによって保存されているファクター リストを表示する <ファクター> リストを編集ページにアクセスします。ユーザーはファクター リストを公開したり、ステータスをアクティブまたは非アクティブに変更したり、ファクター リストを削除できます。

ファクター データ領域 (比較モード)

ファクター データは、比較モードのときに、分析表示ページ (CAF_DISPLAY) の中央に表示されます。ファクター データはセルに表示され、エンティティ ヘッダーのエンティティとファクター ヘッダーのファクターが組み合せられます。

([詳細] ドロップダウン)

[詳細] ドロップダウンをクリックすると、関連アクションを選択できます。各ファクター データ セルにはファクターの関連アクションの設定が可能で、これはファクター ハンドラまたは「関連アクション設定ページ」で決定されます。

([アクション] ボタン)

[アクション] ボタンをクリックすると、ファクター データの組み込み関連アクションにアクセスします。

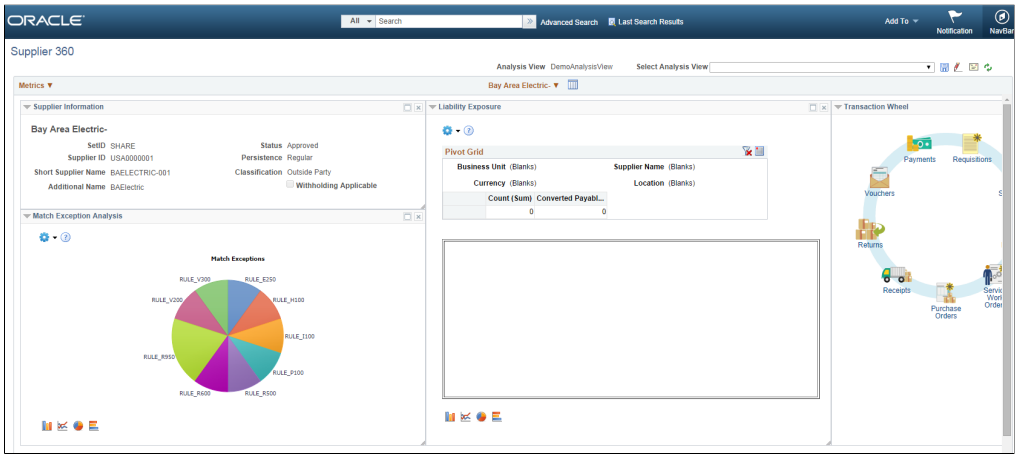
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

分析表示ページ (分析モード)

分析表示ページ (分析モード) (CAF_DISPLAY) を使用して、1 つのエンティティのデータを分析します。

画像: 分析表示ページ (分析モード)

次の例では、分析表示ページ (分析モード) のフィールドおよびコントロールを説明します。



分析モードでは大きく分けて 2 つの領域があります。

- エンティティ ヘッダー領域はページの最上部に表示されます。

  エンティティおよび関連アクションが表示されます。

- ファクター データ領域はページで最大の領域を占めています。

  エンティティのファクター データが表示されます。ファクターはユーザーが追加、削除、サイズ変更、位置変更、最小化および最大化できます。

エンティティ ヘッダー領域 (分析モード)

エンティティ ヘッダー領域にはエンティティ情報およびアクションが表示され、ユーザーがファクター関連のアクションにアクセスできます。

画像: エンティティ ヘッダー オプション (分析モード)

次の例では、分析モードのときのエンティティ ヘッダー オプションの例を説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

表示された <ファクター> を選択

選択すると、ユーザーが使用可能なファクターを表示するファクター ポップアップ ウィンドウを表示します。選択したファクターをリストからファクター データ領域の任意の場所にドラッグできます。システムによりファクターのサイズのフレームが表示されます。ファクターをドロップすると、ファクターのデータが取得および表示されます。

(比較モードに切替)

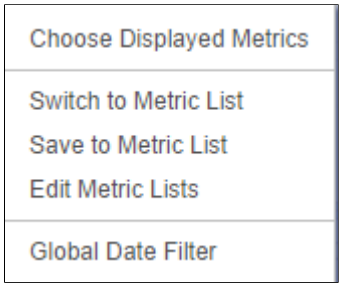
このアイコンをクリックすると、比較モードに切り替わります。

ファクター データ領域 (分析モード)

ファクター データ領域はページで最大の領域を占め、自由形式のフォーマットでファクターを表示します。各ファクターはそれぞれ自分のフレームに、ヘッダーと共に表示されます。

画像: ファクター ヘッダー オプション (分析モード)

次の例では、分析モードのときのファクター ヘッダー オプションの例を説明します。



ファクター データ領域のサイズはディスプレイのサイズに制限されません。ファクター フレームは現在のファクター データ領域の外に移動でき、領域はフレームが収まるようにサイズ変更されます。ファクター データ領域の右側および下側のスクロール バーを使用して、全てのファクターをスクロール表示できます。

および ([折りたたみ] および [展開] アイコン)

[折りたたみ] アイコンおよび [展開] アイコンを使用すると、各フレームを折りたたんだり展開できます。フレームを折りたたむと、ファクター ヘッダーのみが表示されます。

ファクター ヘッダーをダブルクリックしてもファクター フレームを最大化および集約できます。

(ファクター名)

ファクター名をクリックすると、ファクターの関連アクションにアクセスします。これらのアクションは、[複合表示] および [設定] を除き、比較モードのものと同じです。

(削除アイコン)

ファクター データ領域からファクター フレームを削除するには、削除アイコンをクリックします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第27章

Financials and Supply Chain Management での PeopleSoft Fluid の設定と使用

PeopleSoft Fluid ユーザー インターフェイスについて



Financials and Supply Chain Management での PeopleSoft Fluid ユーザー エクスペリエンスについての短いビデオを見るには、ここをクリックしてください。



PeopleSoft Fluid ユーザー インターフェイス - スタート ガイドについての短いビデオを見るには、ここをクリックしてください。

Oracle の PeopleSoft には 2 つのインターフェイスがあります。

- PeopleSoft クラシック ユーザー インターフェイス: ラップトップおよびデスクトップで使用するよう設計されています。

  以前は PIA (PeopleSoft Internet Architecture) と呼ばれていました。

- PeopleSoft Fluid ユーザー インターフェイス: モバイル デバイスで使用するよう設計されていますが、ラップトップおよびデスクトップでも使用できます。

  PeopleSoft アプリケーションでは使用しているデバイスのタイプを認識してそれに基づきページを表示します。ただし、現時点ではいくつかのページはスマートフォン用に設計されていません。

PeopleSoft Fluid ユーザー インターフェイスに関する PeopleTools ドキュメントには次のものがあります。

- *『PeopleTools: Fluid User Interface Developer's Guide』*
- *『PeopleTools: Applications User's Guide』*、「Working With PeopleSoft Fluid User Interface」

PeopleSoft Fluid の設定 - 従業員セルフサービス

PeopleSoft Fluid の [従業員セルフサービス] タイルでは、従業員が複数のアプリケーション ページレットにアクセスできます。このセクションでは最初のレベルのオプションについて説明すると共に、詳細が説明されている参照先を示します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft Fluid の設定 - 従業員セルフサービスのオプションの設定に使用するページ

ページ名	定義名	用途
従業員セルフサービス ホームページ	(なし)	従業員が管理可能な PeopleSoft Fluid ページにアクセスします。

従業員セルフサービス ホームページ

従業員セルフサービス ホームページを使用して、従業員が管理可能な PeopleSoft Fluid ページにアクセスします。

ナビゲーション

[Fluid ホーム], [従業員セルフサービス]

画像: 従業員セルフサービス ホームページ

次の例では、従業員セルフサービス ホームページのタイルを説明します。



このページを使用して、PeopleSoft Fluid ページがどのように表示されるかを決定する従業員デフォルトにアクセスします。各タイルをクリックまたはタップすると、次のような追加情報にアクセスできます。

- 経費管理

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 調達依頼 - Using Fluid User Interface for Creating RequisitionsPeopleSoft eProcurement を参照してください。
- 出張申請 - Setting Up and Creating Travel Authorizations Using PeopleSoft FluidPeopleSoft Expenses を参照してください。
- マイ サービス リクエスト
- ステータス レポート - Reviewing Project Status Reports Using PeopleSoft FluidPeopleSoft Project Costing を参照してください。
- 勤務時間入力
- ユーザー設定:
  - 購買管理
  - プロジェクト管理: Setting Up the PeopleSoft Fluid User Interface for Project ManagementPeopleSoft Project Costing を参照してください。
  - 財務管理: Working with Cash Forecasting on the PeopleSoft Fluid User InterfacePeopleSoft Cash Management を参照してください。

セルフサービス承認での PeopleSoft Fluid ユーザー インターフェイスの使用

このトピックでは、セルフサービス承認ページの概要および PeopleSoft Fluid ユーザー インターフェイスを使用してアクセスする方法を説明します。

PeopleSoft Fluid ユーザー インターフェイスによるセルフサービス承認で使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
[承認] タイル	HMAP_APPR_TILE_FL	ログインしているユーザーに関連付けられている保留中および履歴承認リクエストを確認します。
承認待ちページ	(なし)	ログインしているユーザーによる対処を必要とする保留中の承認リクエストをリストします。
フィルタ ページ	(なし)	1 つ以上のフィルタを適用して承認待ちリストを絞り込みます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*定義名*	*用途*
承認待ち - <Transaction Details> ページ	(なし)	承認リクエスト詳細の確認、コメントの入力、およびリクエストの承認、却下または差戻しを行います。
承認履歴ページ	(なし)	自分が過去に処理した承認をリストします。
承認履歴 - <Transaction Details> ページ	(なし)	自分が処理した承認リクエストの詳細を表示します。

PeopleSoft Fluid ユーザー インターフェイスのセルフサービス承認ページについて

PeopleSoft モバイル承認機能により、承認者は選択された承認待ち PeopleSoft トランザクションに対してスマートフォンやタブレットを使用して Application Workflow Engine (AWE) アクションを実行できます。このタブレット バージョンはデスクトップでも使用できます。この機能ではモバイル アプリケーション プラットフォーム (MAP) テクノロジを使用していますが、ルック アンド フィールは PeopleSoft Fluid ユーザー インターフェイスに似ています。

モバイル アプリケーション プラットフォームの詳細については、*『PeopleTools: Mobile Application Platform』*の製品マニュアルを参照してください。

トランザクション タイプおよびその詳細については、HCM および FSCM 製品マニュアルの対応するトランザクション タイプの項を参照してください。

関連リンク

Using the PeopleSoft Fluid User Interface to Work with ApprovalsEnterprise Components

承認ページにアクセスする方法について

モバイル デバイスを使用している場合、従業員セルフサービス ホーム ページから [承認] タイルをタップすることで承認ページにアクセスできます。PeopleSoft クラシック ユーザー インターフェイスの場合、[Fluid ホーム] メニュー オプションを選択して [承認] タイルにアクセスし、それから従業員セルフサービス ホーム ページにアクセスします。Fluid またはクラシック PeopleSoft ページの最上部にある [通知] フラグ アイコンを選択し、通知ウィンドウでアラートを表示することもできます。

[承認] タイルをタップして承認ページにアクセスしたときにデフォルトで表示されるページは承認待ちページです。アプリケーションでは、次の承認ビューを切り替えることができます (これらのページにアクセスするには [アクション メニュー] ドロップダウン アイコンをタップします)。

- 承認待ち

  承認者は自分の承認待ちのトランザクションを 1 つのインターフェイスで表示でき、承認待ちを探すために複数のコンポーネントを見に行く必要はありません。承認待ちページには次の機能があります。

  - タイプ、受信日、送信元 (最終送信者) および個人に基づく承認待ちのグループ化。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- タイプ、日付、送信元に基づく承認待ちのフィルタ。
- 承認チェーンを含む、各承認リクエストの詳細の表示。
- 承認および却下といった AWE アクションの実行。

- 承認履歴

  承認者は、既に処理済の承認リクエストを表示することもできます。この機能により、ユーザーは承認チェーン内における承認リクエストのステータスを表示し、さらにチェーン内の個人によるコメントを表示できます。管理者は過去の履歴承認をどのくらいまでさかのぼって取得および表示できるかを定義できます。

注: リストされる承認トランザクションは、ログインしているユーザーに対して設定されている権限レベルに依存します。

画像: 承認ページの [アクション メニュー] ドロップダウン リスト

次の例では、承認ページの [アクション メニュー] ドロップダウン リストを説明します。



注: 承認ページの表示は、スマートフォンとタブレットのいずれを使用しているか、そしてデバイスを横向きモードと縦向きモードのどちらで持っているかによって違ってきます。

[承認] タイル

[承認] タイル (HMAP_APPR_TILE_FL) を使用して、ログインしているユーザーに関連付けられている保留中および履歴承認リクエストを確認します。

権限レベルに基づき、パーソナル設定を使用してシステム提供のホーム ページおよび自分が作成したホーム ページにタイルを追加できます。通常、ホーム ページは複数のタイルで構成されており、さまざまなトランザクション (承認、調達依頼、受領など) を表示できます。

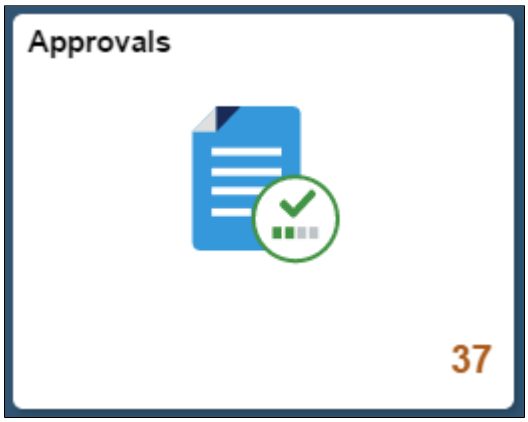
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

メイン メニューで [Fluid ホーム] を選択します。表示されたページで、[従業員セルフサービス] を選択します。[承認] タイルは従業員セルフサービス ランディング ページに表示されます。

画像: [承認] タイル

次の例では、[承認] タイルを説明します。



このタイルには、承認待ちの合計数が表示されます。承認待ちがない場合、このタイルには数字は表示されません。

タイルをタップすると、承認待ちページおよび承認履歴ページにアクセスし、さまざまなトランザクションを確認および承認できます。

承認ページでは AWE を使用した承認をサポートしています。

承認待ちページ

承認待ちページを使用して、ログインしているユーザーの対処を必要とする保留中の承認リクエストを確認および処理します。

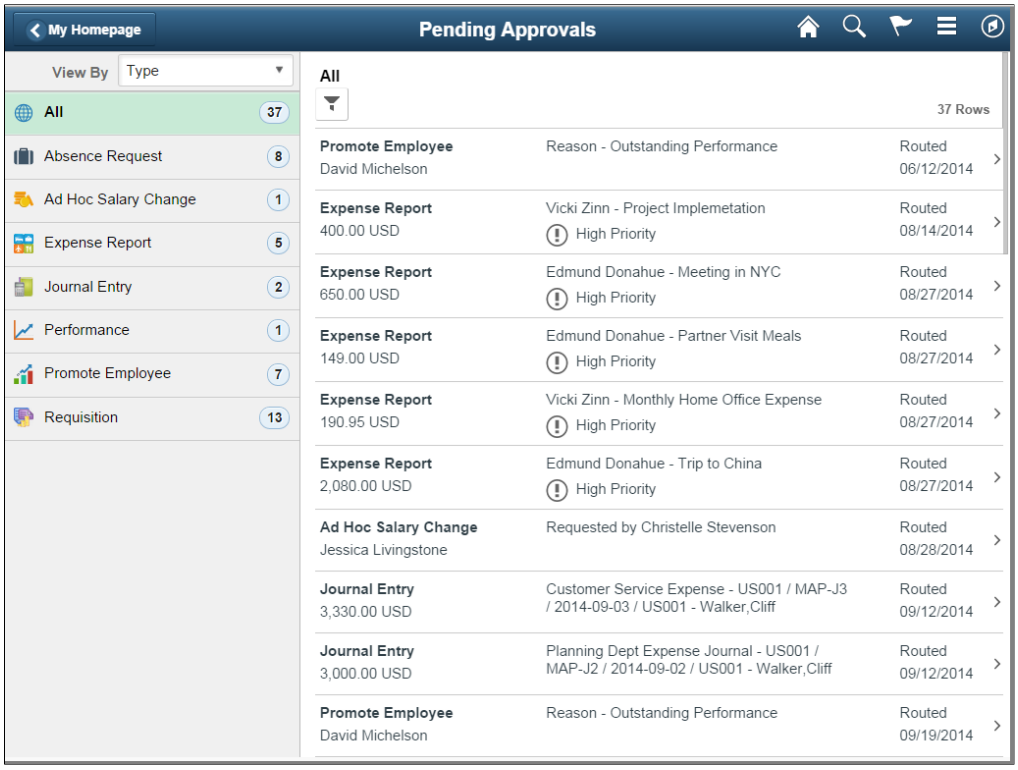
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

従業員セルフサービス ホームページで [承認] タイルをタップします。

画像: 承認待ちページ (タブレットでの表示)

次の例では、承認待ちページ (タブレットでの表示) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

画像: 承認待ちページ (電話での表示)

次の例では、承認待ちページ (電話での表示) のフィールドおよびコントロールを説明します。



承認待ちページには、現在のユーザーの権限に基づいて、HCM と FSCM の承認が一緒に表示されます。初期リストはトランザクション タイプごとに表示され、それぞれに対応する承認待ちの数が表示されます。

承認ページには、選択した [表示基準] タイプ値に基づいて定義されたカテゴリ別に承認トランザクション タイプをグループ化した縦タブが表示されます。保留トランザクションがある場合、全てのビュー タイプを示す *[全て]* カテゴリ タイプがリストの一番上に表示されます。[表示基準] タイプ内のトランザクション カテゴリには、そのトランザクション カテゴリの承認待ちの数を示すバッジが表示されます。トランザクション カテゴリに承認待ちがない場合、そのタブはリストに表示されません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: モバイル デバイスの縦向きモードで承認ページを使用している場合、ページの左側に矢印が表示されます。この矢印をタップすると、カテゴリ タブの表示/非表示を切り替えることができます。電話で承認ページを使用している場合、カテゴリ タブは別個のページに表示されます。カテゴリをタップすると、そのカテゴリの承認待ちが新しいページに表示されます。

トランザクション カテゴリ タブをタップすると、そのカテゴリに当てはまる承認待ちが表示されます。トランザクション カテゴリをタップすると、ページに承認待ちが、承認リクエストを受信した日付に基づいて古いものから順に表示されます。

表示基準

ページに承認リクエストをどのように表示するかを指定します。承認待ちは次の表示オプションに基づいてグループ化できます。

- *タイプ* ([承認] タイルにアクセスしたときのデフォルト表示)

  承認リクエストをトランザクション タイプごとにグループ化します。たとえば、全てのトランザクション タイプを 1 つのリストに表示することも、対処が必要な休暇リクエストや所在地変更のリストなど、特定のトランザクション タイプを選択することもできます。

- *ルーティング日*

  承認が送られてきた日付に基づき、承認待ちを週単位でグループ化して表示します。カテゴリ タブには次のものがあります。

  - 全て (全ての承認待ちを表示)
  - 古い (先々週の開始より前の全て)
  - 2 週間前 (先々週の開始から終了まで)
  - 先週 (先週の開始から終了まで)
  - 今週 (今週の開始から今日まで)

  注: 週の最初の曜日の定義は、クラシック PeopleSoft ページを使用して [マイ パーソナル設定], 地域設定のパーソナル設定に移動し、週の最初の曜日値を選択します。

- *送信元*

  最終送信者に基づいて承認待ちをグループ化します。最終送信者はトランザクションの依頼者または承認チェーンの最後の承認者です。承認チェーンの最後の承認者ステップに複数の承認者がいる場合、リクエストを承認した最後の個人の名前が表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *個人*

  承認待ちがある全ての個人のリストが表示されます。個人に関連付けられていない承認待ちがある場合、トランザクション カテゴリ タブには *[個人が関連付けられていません]* カテゴリもリストされます。



[フィルタ] または フィルタ適用済アイコン

このアイコンをタップすると、「フィルタ ページ」にアクセスし、1つ以上の条件を選択して承認待ちリストを絞り込めます。

検索にフィルタが適用されている場合は [フィルタ] アイコンが緑で表示されます。

トランザクション リストには次のものが表示されます。

1. トランザクション名と金額、およびそのトランザクションが関連付けられている個人。
2. 承認リクエストについての短い説明。
3. リクエストがルーティングされてきた日付。

トランザクション アイコン

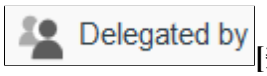
以下のアイコンはトランザクションに関連付けられます。



[差戻し者] アイコン

自分がリクエストを承認し、その承認が承認チェーンの次の個人から差し戻されたときに表示されます。このアイコンに続き、そのリクエストを差戻した個人の名前が表示されます。

注: 差戻しされたリクエストは、承認チェーンの次の個人には転送されません。その代わりに、リクエストは承認チェーンの前の個人、または最初の承認者により差戻しされた場合は依頼者に差戻しされ、その個人のアクション待ちとなります。



[委任者] アイコン

他の個人に代わって承認リクエストを処理するよう委任されている場合に表示されます。このアイコンに続き、そのリクエストを委任した個人の名前が表示されます。

一括承認を許可するトランザクション タイプの選択

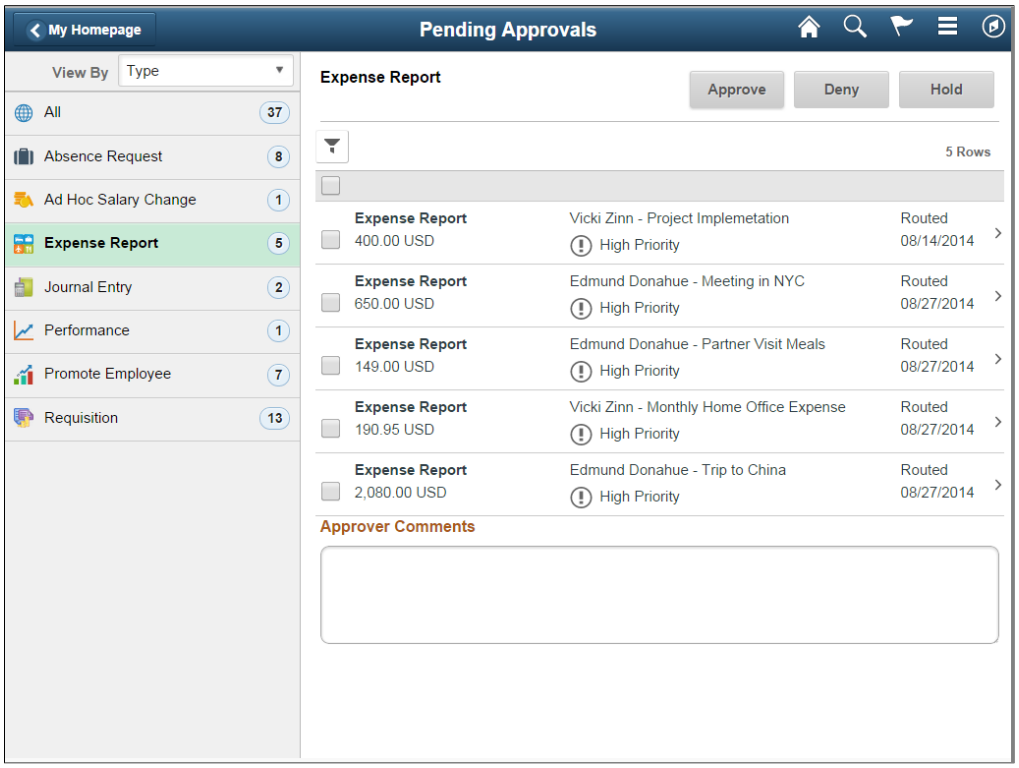
トランザクション タイプ カテゴリをタップすると、そのカテゴリに関連付けられた承認待ちアイテムがアプリケーションにより表示されます。トランザクション タイプが一括承認を許可するように設定されている場合はページの表示が異なります。トランザクション タイプ カテゴリが一括承認を許可するように設定されていない場合、ページには承認リクエスト トランザクションがリストされ、このページからはアクションを実

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

行できません。これらのタイプのトランザクションについては、適切な承認リクエスト行をタップして「承認待ち - <Transaction Details> ページ」にアクセスし、そこで承認リクエストを確認および完了できます。

画像: トランザクション カテゴリの一括承認が有効になっている承認待ちページ (タブレットでの表示)

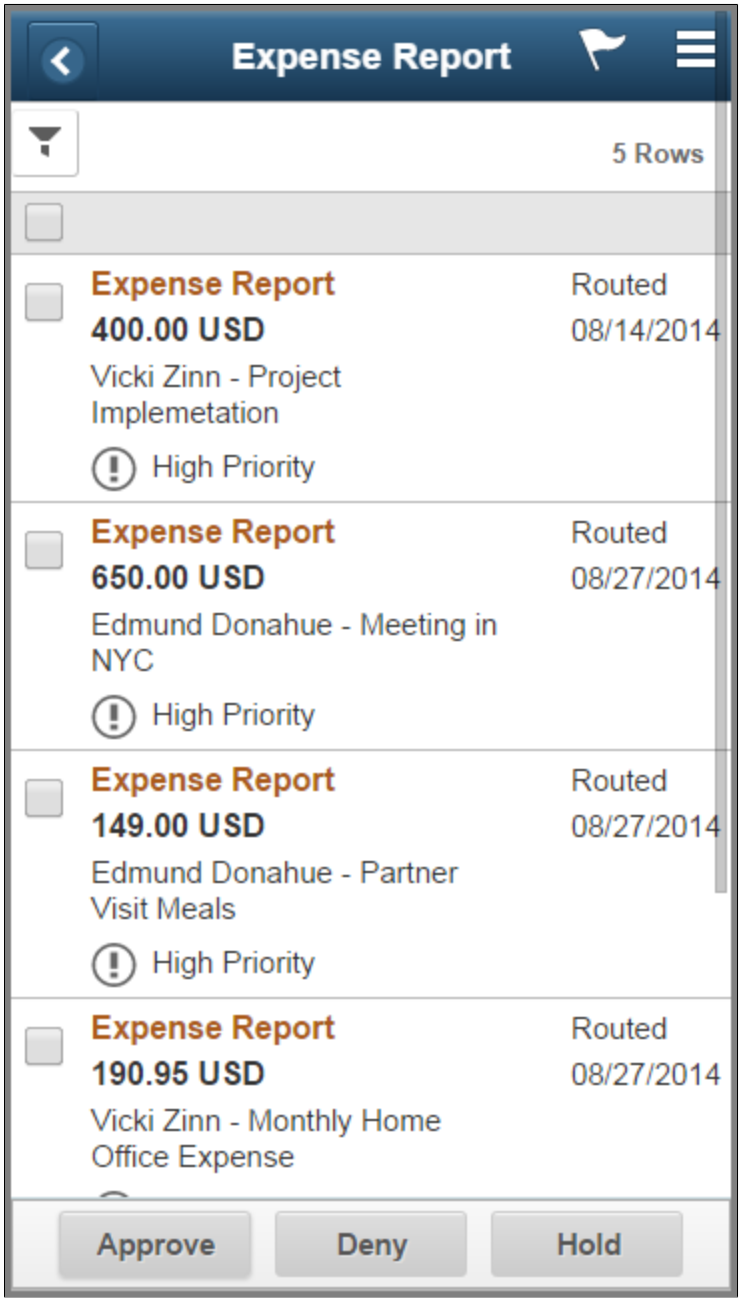
次の例では、トランザクション カテゴリがモバイル承認オプション - 取引ページで一括承認を有効にするように設定されている場合の承認待ちページ (タブレットでの表示) を説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

画像: トランザクション カテゴリの一括承認が有効になっている承認待ちページ (スマートフォンでの表示)

次の例では、トランザクション カテゴリがモバイル承認オプション - 取引ページで一括承認を有効にするように設定されている場合の承認待ちページ (スマートフォンでの表示) を説明します。



トランザクションが一括承認できるように管理者によって設定されている場合、同じカテゴリ内の複数の承認リクエストに対して一度に (承認、却下、保留などの) アクションを実行できます。一括承認は、各アイテムのチェック ボックスを選択してページ上の適切なアクション ボタンをタップすることによって実行します。グレーのヘッダーにある一番上のチェック ボックスをタップすると全てのチェック ボックスを選択または選択解除できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

全てのトランザクション リクエストに対して同じ回答を適用したくない場合、または各リクエストの個別の詳細を表示したい場合は、行をタップして「承認待ち - <Transaction Details> ページ」にアクセスします。

フィルタ ページ

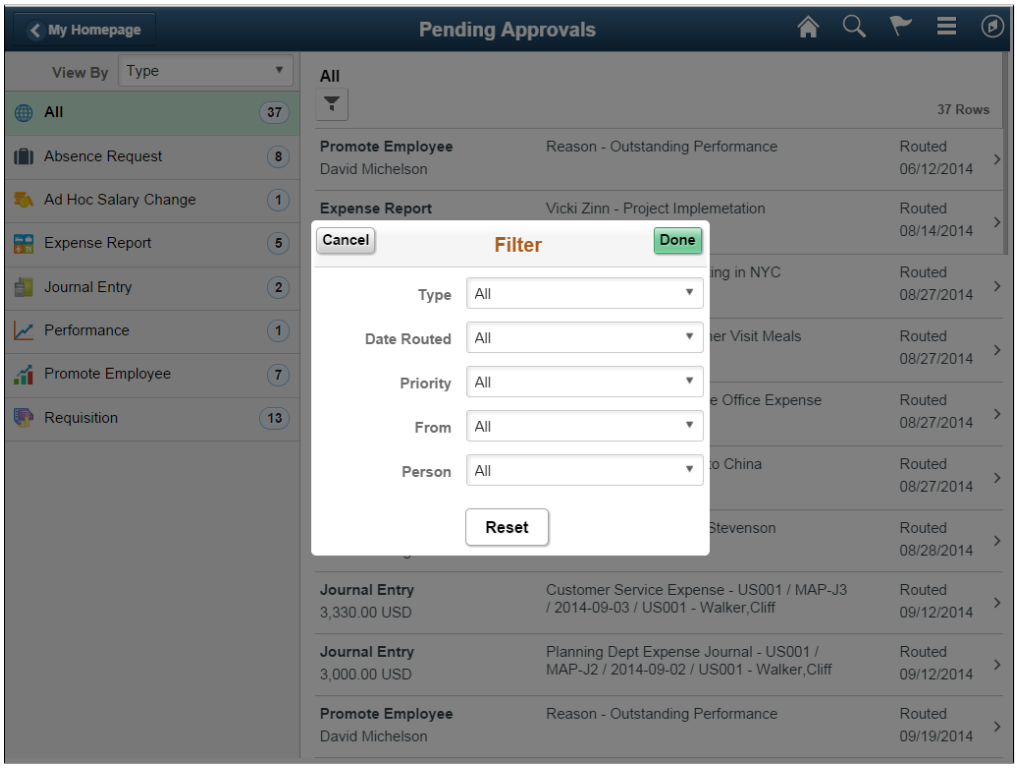
フィルタ ページを使用して、1 つ以上のフィルタを適用して条件を満たすリクエストを表示するように承認待ちリストを絞り込みます。

ナビゲーション

承認待ちページまたは承認履歴ページの最上部にある [フィルタ] ファネル アイコンをタップします。

画像: 承認待ち - フィルタページ

次の例では、承認待ち - フィルタページのフィールドおよびコントロールを説明します。



このページは、1 つ以上の [表示基準] アイテムから特定のカテゴリを指定するのに使用します。このページには、既存の承認待ちに適用されるフィールドおよびカテゴリのみが表示されます。

キャンセル このボタンをタップすると、承認待ちページまたは承認履歴ページに戻ります。

完了 このボタンをタップすると、フィルタを適用して承認待ちページまたは承認履歴ページの承認リクエストの結果を絞り込みます。承認待ちページまたは承認履歴ページの [フィルタ] アイコンが緑に変わり、フィルタが適用されていることを示します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

リセット	このボタンをタップすると、フィルタ フィールドがデフォルト値にリセットされます。

承認待ち - <Transaction Details> ページ

承認待ち - <Transaction Details> ページを使用して、承認リクエストの詳細を確認したり、コメントを作成したり、リクエストを承認、却下または保留します。

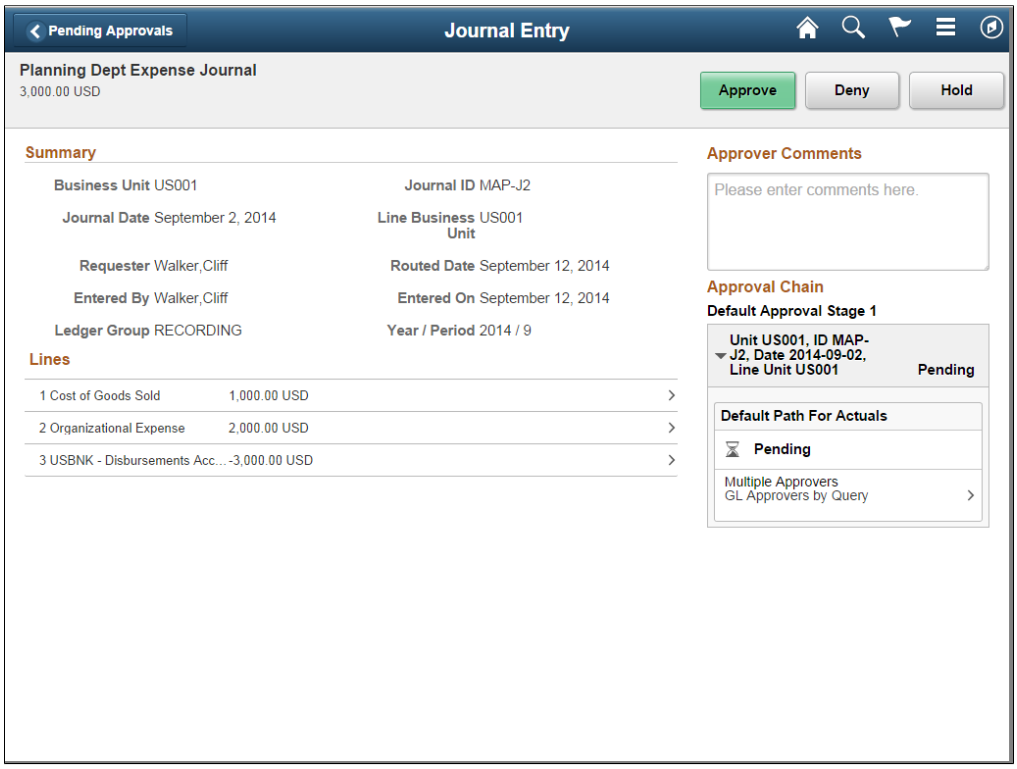
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

承認待ちページのリストからそれぞれの承認リクエストトランザクションをタップします。

画像: 承認待ち - <Transaction Details> ページ (タブレットでの表示)

次の例では、承認待ち - <Transaction Details> ページ (タブレットでの表示) のフィールドおよびコントロールを説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

画像: 承認待ち - <Transaction Details> ページ (電話での表示)

次の例では、承認待ち - <Transaction Details> ページ (電話での表示) のフィールドおよびコントロールを説明します。



トランザクション詳細を電話で表示している場合、行詳細、承認者コメントおよび承認チェーンを表示するには下にスクロールする必要があります。

注: このページのバナーのタイトルは、選択した承認リクエストによって変わります。また、このページのフィールドおよびエレメントも、確認する承認トランザクションのタイプによって変わります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このページの矢印をタップすると、セクションが展開されて個人、リクエストまたは承認チェーンについての追加詳細が表示されます。承認チェーンに複数の個人がいる場合、ページには全ての承認者がリストされ、最初の承認者が一番上に表示されます。

トランザクションに添付が含まれている場合、タップすると添付がモーダル ウィンドウで表示されます。

このページで使用可能なボタンについては、承認待ちページで説明されています。ボタンには次のものがあります。

- 承認
- 却下
- 差戻し
- 保留
- リクエスト情報
- 詳細 (このページに収まりきらないボタンがほかにある場合にこのボタンが表示されます)

トランザクションを承認、却下または差戻しするときに、実行するアクションについて確認するサマリ ページがシステムにより表示されます。ここでトランザクション リクエストを送信またはキャンセルできます。リクエストを送信すると、トランザクションは承認待ちキューから削除されて「承認履歴ページ」に移動します。

承認履歴ページ

承認履歴ページを使用して、自分が過去に処理した承認を表示します。

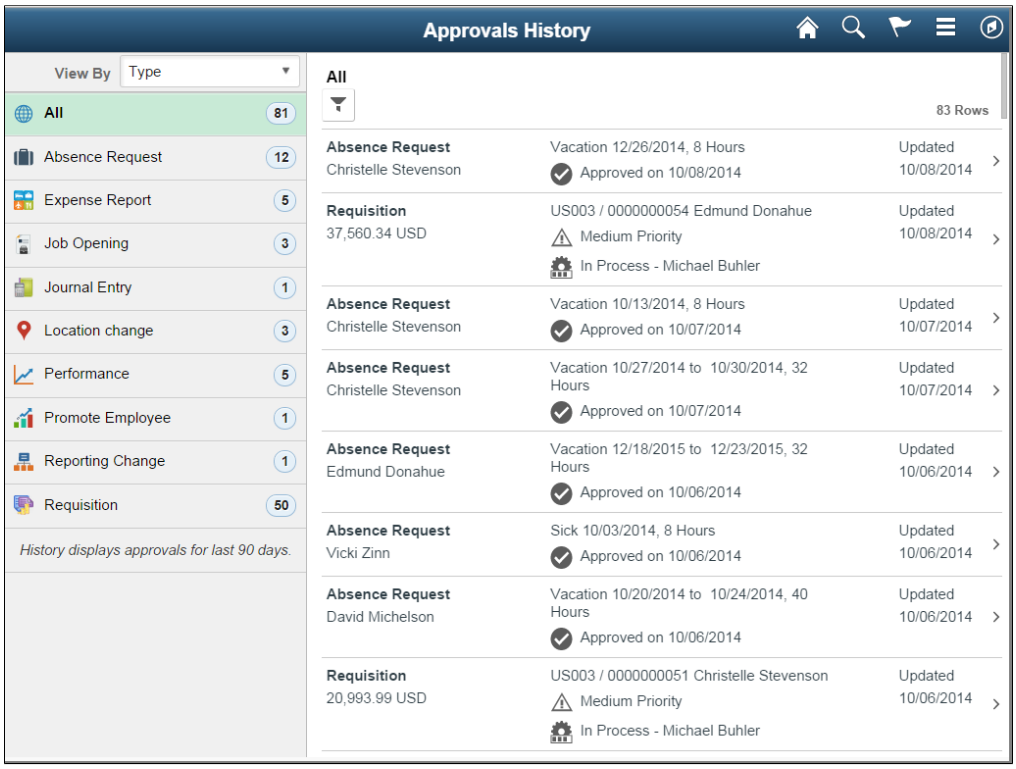
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

従業員セルフサービス ホーム ページの [承認] タイルをタップし、承認待ちページの (バナーにある) [アクション メニュー] ドロップダウン リストから [承認履歴] オプションを選択します。

画像: 承認履歴ページ (タブレットでの表示)

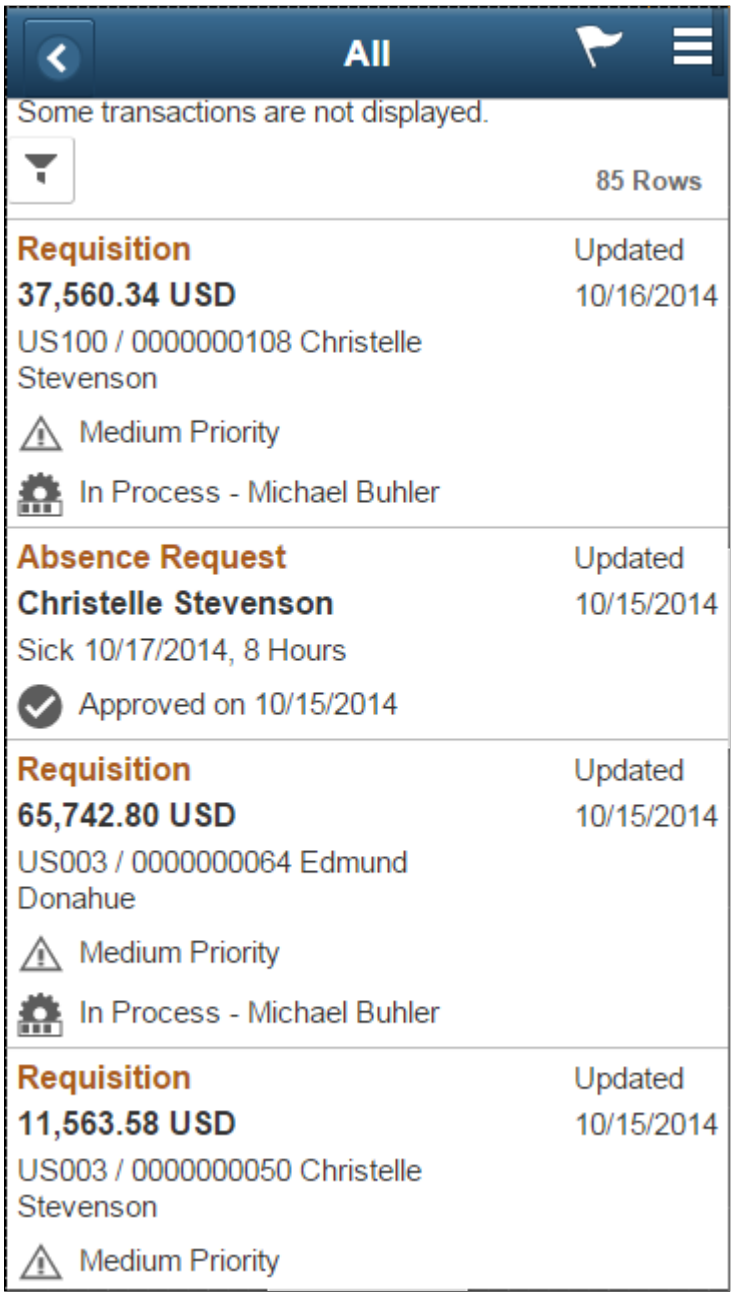
次の例では、承認履歴ページ (タブレットでの表示) のフィールドおよびコントロールを説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

画像: 承認履歴ページ (電話での表示)

次の例では、承認履歴ページ (電話での表示) のフィールドおよびコントロールを説明します。



承認履歴ページには、過去に処理した承認トランザクションが表示されます。履歴承認トランザクションをどこまでさかのぼって表示できるかは、モバイル承認オプション - 一般設定ページの設定ページで管理者によって定義されます。このページでは、履歴が表示される期間を示すメッセージがカテゴリ タブの下に表示されます。

このページには、選択した [表示基準] タイプに基づいて定義されたカテゴリ別に承認トランザクションをグループ化した縦タブが表示されます。履歴承認トランザクションがある場合、全てのビュー タイプを示す *[全て]* カテゴリがリストの一番上に表示されます。[表示基準] タイプ内のカテゴリには、そのカテゴリ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

の履歴承認の数を示すバッジが表示されます。あるカテゴリの履歴承認が指定された期間にない場合、そのタブはリストに表示されません。

注: モバイル デバイスの縦向きモードで承認ページを使用している場合、ページの左側に矢印が表示されます。この矢印をタップすると、カテゴリ タブの表示/非表示を切り替えることができます。電話で承認ページを使用している場合、カテゴリ タブは別個のページに表示されます。カテゴリをタップすると、そのカテゴリの承認履歴が新しいページに表示されます。

カテゴリ タブをタップすると、そのカテゴリに当てはまる履歴承認が表示されます。カテゴリをタップすると、ページに履歴承認が、最後の個人がリクエストを更新または処理した日付に基づいて新しいものから順に表示されます。

表示基準

ページに履歴承認リクエストをどのように表示するかを指定します。履歴承認は次の表示オプションに基づいてグループ化できます。

- *タイプ* (ページにアクセスしたときのデフォルト表示)

  承認リクエストをトランザクション タイプごとにグループ化します。たとえば、全てのトランザクション タイプを 1 つのリストに表示することも、自分が処理した休暇リクエストや所在地変更のリストなど、特定のトランザクション タイプを選択することもできます。

- *ステータス*

  リストが表示され、次のステータス カテゴリが表示されます。

  - 全て (履歴表示期間内に処理された全ての承認が含まれます)
  - 処理中 (処理中であるものの承認チェーンで完了になっていない承認が含まれます)

    注: 上位レベルの承認者がトランザクションを差し戻した場合、そのトランザクションは承認者にリクエストを送信したユーザーの承認待ちページに表示されます。しかし、そのリクエストを差し戻した個人に対しては、トランザクションはその個人の承認履歴ページに *[処理中]* ステータスで表示されます。

  - 承認済
  - 却下
  - 終了
  - その他

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- *送信元*

  最終送信者に基づいて履歴承認をグループ化します。最終送信者はトランザクションの依頼者または承認チェーンの最後の承認者です。

- *個人*

  定義された履歴タイム フレーム内に自分が承認にかかわった全ての個人のリストが表示されます。個人に関連付けられていない履歴承認がある場合、このカテゴリ タブには *[個人が関連付けられていません]* カテゴリもリストされます。

 **[フィルタ] または**  **フィルタ適用済アイコン**

このアイコンをタップすると、「フィルタ ページ」にアクセスし、1 つ以上の条件を選択して履歴承認リストを絞り込めます。

検索にフィルタが適用されている場合は [フィルタ] アイコンが緑で表示されます。

トランザクション リストには次の情報が表示されます。

1. トランザクション名およびそのトランザクションが関連付けられている個人または金額。
2. 承認リクエストおよびそのステータスについての短い説明。
3. リクエストが更新された日付。

リストで特定のトランザクションをタップすると、履歴トランザクションの詳細ページにアクセスします。

承認履歴 - <Transaction Details> ページ

承認履歴 - <Transaction Details> ページを使用して、自分が処理した承認リクエストの詳細を表示します。

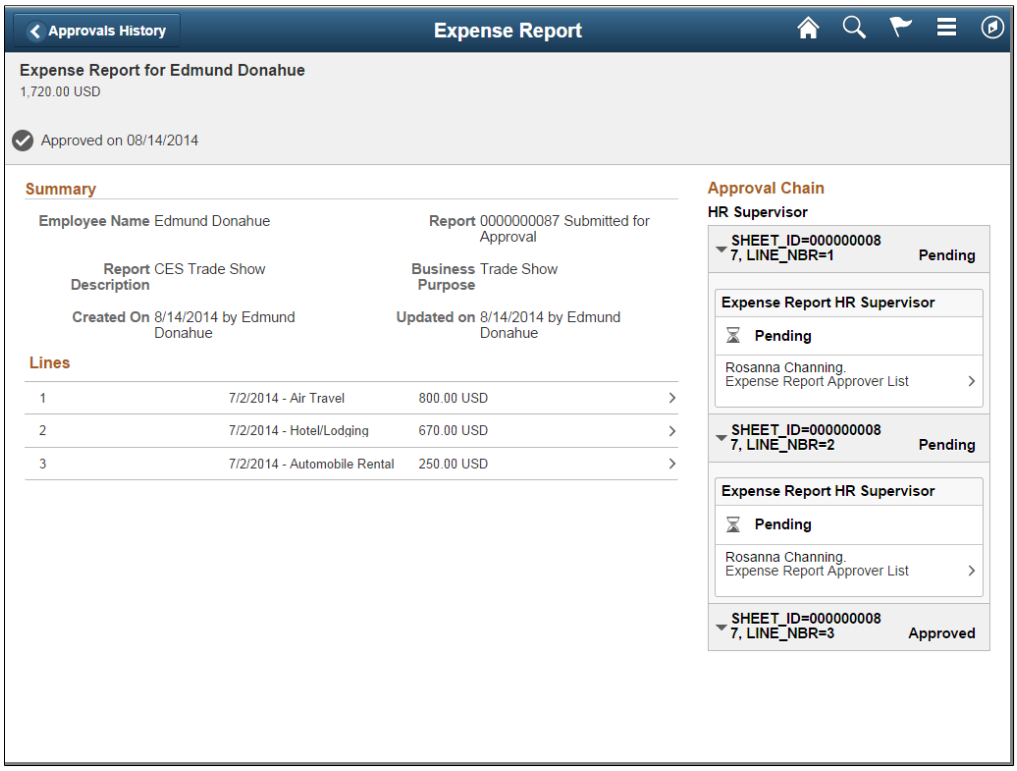
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

承認履歴ページのリストからそれぞれの承認リクエストトランザクションをタップします。

画像: 承認履歴 - <Transaction Details> ページ (タブレットでの表示)

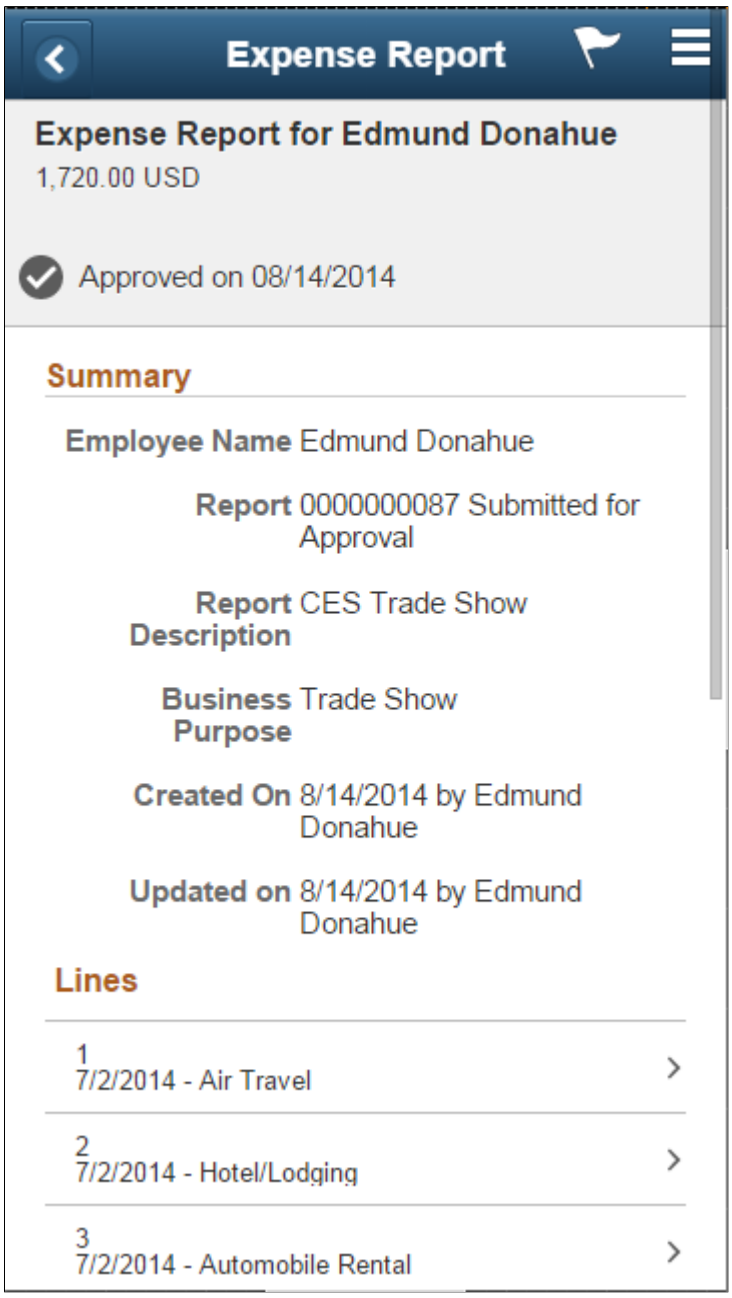
次の例では、承認履歴 - <Transaction Details> ページ (タブレットでの表示) のフィールドおよびコントロールを説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

画像: 承認履歴 - <Transaction Details> ページ (電話での表示)

次の例では、承認履歴 - <Transaction Details> ページ (電話での表示) のフィールドおよびコントロールを説明します。



履歴詳細を電話で表示している場合、行、承認者コメントおよび承認チェーンを表示するには下にスクロールする必要があります。

ページの矢印およびリンクを使用すると、セクションを展開または追加のページにアクセスしてリクエストについての詳細をさらに表示できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft Fluid ページを使用した通知の送信

PeopleSoft Fluid ページを使用して通知を送信するのに使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
通知ページ	PC_EMAILER_FL	従業員、従業員のマネージャ、またはリソースに電子メール通知を送信します。

通知ページについて

通知ページは複数の PeopleSoft Fluid ページからアクセスできる共通ページです。従業員、マネージャ、リソース、契約管理者などに電子メール通知を送信するのに使用されます。

通常、通知オプションは [関連アクション] アイコンを選択して*<オプション> に通知*を選択すると使用できます。通知ページは以下のページから、次のナビゲーションを使用して表示できます。

- 担当プロジェクト チーム (ピボット) ページ、[関連アクション]、マネージャに通知。
- プロジェクト チーム要員ページ、[関連アクション]、[リソースに通知]。
- プロジェクト財務 (詳細) ページ、[関連アクション]、マネージャに通知。
- プロジェクト パフォーマンス ページ、[関連アクション]、マネージャに通知。
- プロジェクト タイムシート期日 (ピボット)　ページ、[関連アクション]、[リソースに通知]。
- プロジェクト タイムシート期日 (詳細)　ページ、[関連アクション]、[リソースに通知]。
- プロジェクト収益マージン (ピボット) ページ、[関連アクション]、マネージャに通知。
- 契約収益マージン (ピボット) ページ、[関連アクション]、[契約管理者に通知]。
- プロジェクト未請求コスト WIP (ピボット) ページ、[関連アクション]、マネージャに通知。
- プロジェクト ステータス レポート ページ (ピボット)、[関連アクション]、[リソースに通知]。

通知ページ

通知ページ (PC_EMAILER_FL) を使用して、従業員、従業員のマネージャ、またはリソースに電子メール通知を送信します。

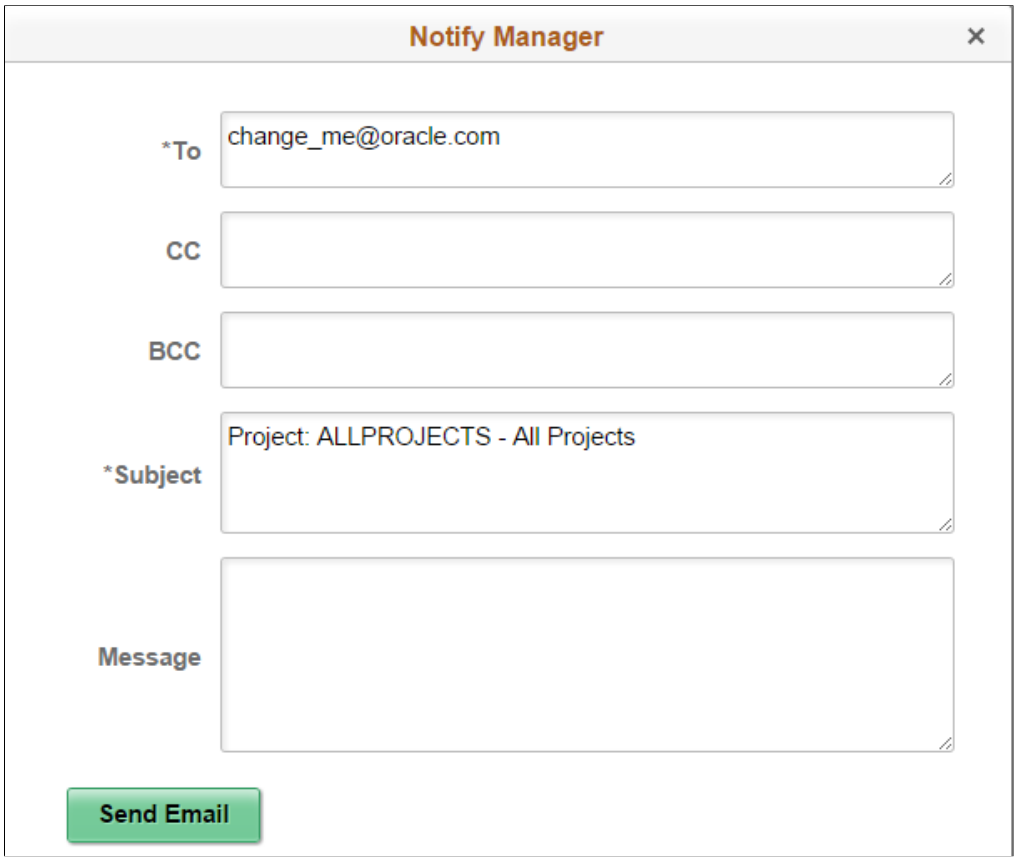
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

PeopleSoft Fluid ページの [アクション] ドロップダウン リスト ボックスから *[通知]* アクションを選択します。

画像: 通知ページ

次の例では、通知ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



通知ページを使用して、各種個人にメッセージを送信します。通知オプションをどのページから選択したかにより、一部のフィールドは自動的に入力されます。

宛先 通知を送信したい電子メール アドレスを確認、追加または変更します。システムにおいて電子メール アドレスを設定している場合、このフィールドは自動的に入力される場合があります。

件名 件名フィールドのテキストを確認、追加または変更します。通知オプションをどのページから選択したかにより、システムによって件名が自動的に入力されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ビジネスカードの表示

ビジネスカードの表示に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
ビジネスカードの表示ページ	RS_BUS_CRD_FL	個人の詳細をビジネス カードとして表示します。

ビジネスカード ページについて

ビジネスカード ページを表示するには、PeopleTools 8.54 を使用していてかつ PeopleSoft HRMS 9.2.00 以降と統合されている必要があります。

この情報は、HCM によって発行される次の非同期メッセージを使用してロードされます。

- USER_PHOTO_FULLSYNC
- USER_PHOTO_SYNC

ビジネスカードの表示ページ

ビジネスカードの表示ページ (RS_BUS_CRD_FL) を使用して、個人詳細をビジネス カードとして表示します。

ナビゲーション

[関連アクション] アイコンをクリックします。ビジネスカードの表示ページを選択します。

画像: ビジネスカードの表示ページ

次の例では、ビジネスカードの表示ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

第28章

PeopleSoft モバイル アプリケーションの設定と使用

PeopleSoft モバイル アプリケーションについて

PeopleSoft では、重要なビジネス情報にリアル タイムにアクセスできるモバイル アプリケーションを提供しています。これらのアプリケーションはデスクトップ、スマートフォンまたはタブレット デバイスで使用できます。

PeopleSoft により現在提供されているモバイル アプリケーションは次のとおりです。

- PeopleSoft モバイル承認
- PeopleSoft モバイル経費管理
- PeopleSoft モバイル eProcurement
- PeopleSoft モバイル時間入力

PeopleSoft モバイル承認

PeopleSoft モバイル承認により、トランザクションを外出先からでも承認できるようになります。タブレットやスマートフォンといったモバイル デバイスから PeopleSoft システムにログインし、自分の承認待ちとなっているトランザクションを処理できます。

PeopleSoft では、次のトランザクションに対するモバイル承認フレームワークを提供しています。

- 仕訳入力
- 経費レポート
- 伝票
- 発注
- 調達依頼

「PeopleSoft モバイル承認の使用」を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft モバイル経費管理

PeopleSoft モバイル経費管理では、経費レポートのモバイル入力、支出記録入力、添付機能、承認アクション、および過去の経費の確認ができます。(仮払金の管理および出張申請はこのリリースには含まれていません)。

iPad や iPhone を使用してアプリケーションにアクセスし (AppStore からのアプリケーションのダウンロードは不要)、経費レポートを外出先で管理できます。

「PeopleSoft モバイル経費管理の使用」を参照してください。

PeopleSoft モバイル eProcurement

PeopleSoft モバイル eProcurement では、モバイル デバイスから調達依頼を追加および管理できます。モバイル タブレットや携帯電話を使用してアプリケーションにアクセスし、調達依頼を外出先で管理できます。モバイル eProcurement では、調達依頼の作成、直近で発注したアイテムの表示、カタログ アイテムの検索 (Secure Enterprise Search 経由)、およびショッピング カートへのアイテムの追加ができます。

「PeopleSoft モバイル eProcurement の使用」を参照してください。

PeopleSoft モバイル時間入力

PeopleSoft モバイル時間入力では、タイムシートのモバイル入力ができます。時間の入力には カレンダー モードと タイムシート モードの 2 つのオプションがあり、この 2 つは切り替えが可能です。また、時間は日次ベース、週次ベース、隔月ベース、または月次ベースで入力できます。「PeopleSoft モバイル時間入力の使用」を参照してください。

PeopleSoft モバイル アプリケーションの設定

このトピックでは、PeopleSoft モバイル アプリケーションの前提条件とその設定、および次の方法について説明します。

- モバイル承認ユーザーに対するセキュリティの付与。
- (オプション) PeopleSoft モバイル アプリケーションのログイン設定のカスタマイズ。
- エンタープライズ全体のモバイル承認オプションの設定。
- モバイル経費管理アイコンへの経費タイプのマップ。
- モバイル経費管理のホーム ページへの通知の追加。

前提条件

1. PeopleSoft モバイル アプリケーションの最低要件は PeopleTools 8.52 です。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

2. PeopleSoft モバイル アプリケーションは次のモバイル デバイスでテスト済です。
   - Android フォン (Samsung Galaxy SIII)
   - Apple iPhone 4 および 4S (iOS 5.1)
   - Apple iPad 2 および iPad 3 (iOS 5.1)
   - Google Nexus タブレット (Android Jelly Bean)
   - Samsung Galaxy タブレット 10.1 (Android Honeycomb)
3. PeopleSoft モバイル アプリケーションは、Google Chrome ブラウザ (バージョン 21 以上) での動作がサポートされています。

   注: Android フォンおよびタブレット デバイスについては、デバイスのデフォルトのブラウザではなく最新の Google Chrome ブラウザを使用することを推奨します。
4. モバイル承認については、承認フレームワークに対して PeopleSoft アプリケーションを有効にし、設定する必要があります。「モバイル承認オプション ページ」の関連リンクを参照してください。

PeopleSoft モバイル アプリケーションの設定に使用するページ

ページ名	*定義名*	*用途*
Web プロファイル設定 – 外観 「(オプション) PeopleSoft モバイル アプリケーションのログイン設定のカスタマイズ。」を参照してください。	WEB_PROF_LOOKFEEL	(オプション) Web プロファイルの表示と特性を設定します。
モバイル承認オプション ページ	FIN_MBL_TYPE_SETUP	エンタープライズ全体のモバイル承認オプションを指定します。
経費タイプ イメージ ページ 「モバイル経費管理アイコンへの経費タイプのマップ」を参照してください。	EX_EXP_TYP_IMG_SEC	モバイル経費管理で使用する経費タイプ定義のイメージをアップロードします。
通知/発表ページ	MBL_NOTICES	モバイル経費管理ホームページに表示される通知を追加または変更します。

PeopleSoft モバイル承認のユーザーに対するアクセス権限の付与

PeopleSoft では、ユーザーに対するアクセス権限の付与のために次の 2 つの権限リストを提供しています。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

提供されている権限リスト	*説明*
EOAW2000	モバイル承認管理者 - この権限リストにより、ユーザーはアプリケーションへのアクセスおよび設定ができます。FIN_MOBILE_APPROVAL メニューの FIN_MBL_TYPE_SETUP コンポーネントに対するアクセス権限が付与され、モバイル承認オプション ページ (設定) にアクセスできます。 「モバイル承認オプション ページ」を参照してください。
EOAW2100	モバイル承認ユーザー - この権限リストにより、ユーザーはアプリケーションへのアクセスのみが許可されます。

提供されているどちらの権限リストも、アプリケーションにアクセスできるよう、ユーザーに対して WEBLIB_FIN_MBL レコードの iScript 関数に対するアクセス権限を付与します。これらの権限リストを、管理者およびユーザーのアクセス権限に関する組織の要件に基づいて割り当てるようにしてください。

ロール - 権限リスト ページを使用して、提供された権限リストを適切なロール名に割り当てます ([PeopleTools]、[セキュリティ]、[権限 / ロール]、[ロール]、[権限リスト])。

たとえば、EOAW2000 権限リストがロール名 ADMINISTRATOR に割り当てられており、このロール名はユーザー プロファイル - ロール ページ ([PeopleTools]、[セキュリティ]、[ユーザー プロファイル]、[ユーザー プロファイル]、[ロール]) でユーザー ID VP1 に関連付けられているとします。この例のようにロール名 ADMINISTRATOR がユーザー ID VP1 に割り当てられている場合、ユーザー ID VP1 はモバイル承認アプリケーション ページに加えてモバイル承認オプション ページにアクセスできます。

(オプション) PeopleSoft モバイル アプリケーションのログイン設定のカスタマイズ。

次の手順を使用することで、モバイル アプリケーションのカスタム ログイン ページを作成できます。

カスタム ログイン ページを設定するには、次の手順に従います。

1. PeopleSoft Pure Internet Architecture (PIA) 設定を起動してモバイル アプリケーション用の PIA を別個にインストールします (設定時に指定したサイト名と Web プロファイルは後の手順で使用するため覚えておいてください)。

2. ../MIN_SETUP フォルダにある Mobile Expenses Setup.zip ファイルを見つけます (バンドル #23 の一部である『Manual Instruction Document』で説明されています)。ファイルを解凍します (ファイルは Custom Login フォルダに展開されます)。

3. 任意のテキスト エディタで styles_fmode.css を開き、PIA 設定および Web サーバー設定に基づいて "ps" を サイト名で置き換えます。本文 `{background-image: url(/ps/images/Mobile/LoginBackgroundImage.jpg); background-repeat:no-repeat; -moz-background-repeat:no-repeat; background-size:100% 100%; -moz-background-size:100% 100%;}`

4. styles_fmode.css を *..\PORTAL.war\<自分のサイト名>* にコピーします。(このファイルは必要に応じて変更できます)。

 Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

5. 次のファイルを *..\PORTAL.war\WEB-INF\psftdocs\<自分のサイト名>* にコピーします。(これらのファイルは必要に応じて変更できます)。

   - signin_fmode.html
   - expire_fmode.html
   - exception_fmode.html

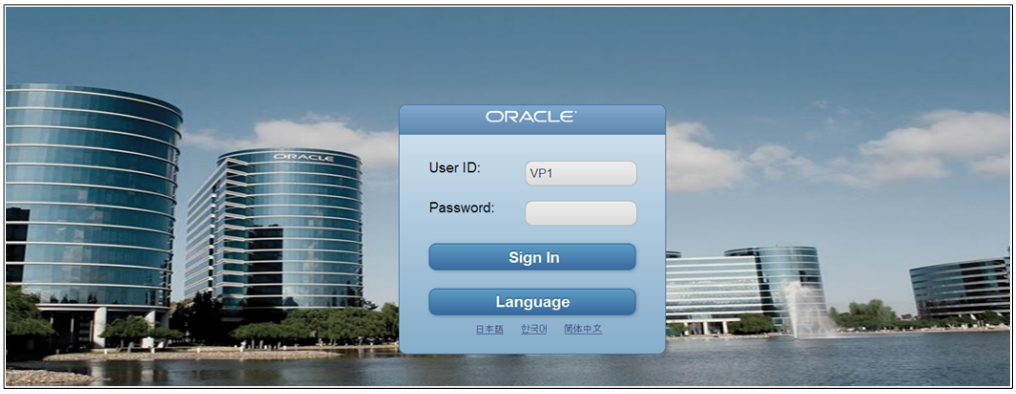
6. *..\PORTAL.war\<自分のサブフォルダ>\images* に *Mobile* サブフォルダ (大文字小文字の区別あり) を作成します。

7. 作成したフォルダ *..\PORTAL.war\<自分のサイト名>\images\Mobile* にイメージ ファイル (CompanyLogo.gif および LoginBackgroundImage.jpg) をコピーします。フォルダおよびファイルの名前は大文字小文字が区別されますので注意してください。

   これらのステップを実行すると、カスタムのログイン ページは次のように表示されます。

   画像: モバイル アプリケーションのログイン ページ

   次の例では、モバイル アプリケーションのログイン ページのフィールドおよびコントロールを説明します。

   これらのイメージ ファイルは自分の会社のロゴおよびバックグラウンド イメージで上書きできます。

8. PIA 設定で指定した Web プロファイルを設定します。Web プロファイル設定 - 外観と操作性ページ ([PeopleTools], [Web プロファイル], [Web プロファイル設定]。作成した Web プロファイル名を選択し、[外観と操作性] に移動します)。

   外観と操作性ページに次を追加します (変更した場合、ページを保存し、Web サーバーを停止および再起動します)。

期限切れページ	*expire_fmode.html*
例外ページ	*exception_fmode.html*
サインオン ページ	*Signon_fmode.html*

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Web プロファイルの設定については、『PeopleTools Portal Technologies』の「Configuring the Portal Environment」を参照してください。

モバイル承認オプション ページ

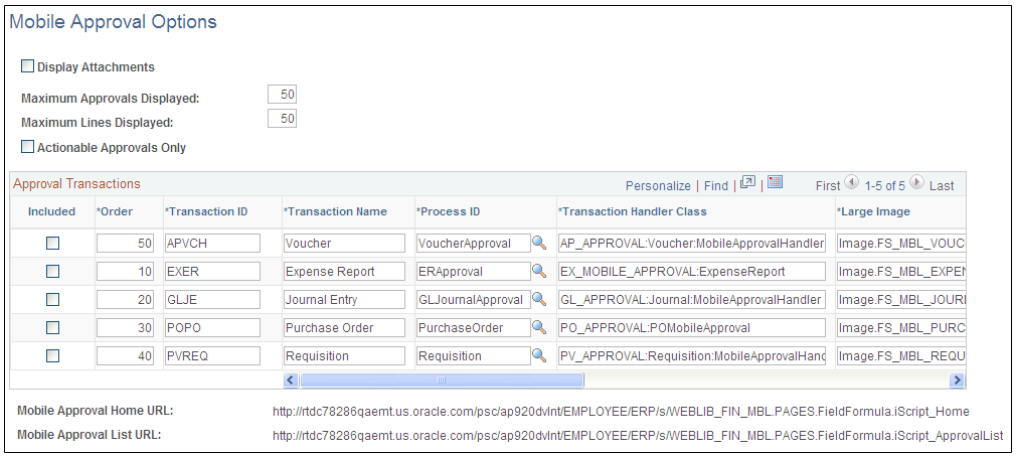
モバイル承認オプション ページ (FIN_MBL_TYPE_SETUP) を使用して、エンタープライズ全体のモバイル承認オプションを設定します。

ナビゲーション

[エンタープライズ コンポーネント], [承認], [承認], [モバイル承認オプション], [モバイル承認オプション]。

画像: モバイル承認オプション ページ

次の例では、モバイル承認オプション ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



このページを使用して、エンタープライズ全体の次のモバイル承認オプションを設定します。

- [添付の表示] チェック ボックスを選択し、承認者が添付を表示できるようにエンタープライズ レベルで有効化します。このオプションを選択した場合、[プロセス サーバー] フィールドでプロセス スケジューラ サーバーを適切な配信ノード設定と共に選択する必要があります。

  注: 調達依頼および発注では添付はまだ使用できません。

- 最大表示設定 (承認およびトランザクション行) を指定します。
- 自分の承認アクションが必要なトランザクションのみを表示する場合は、[アクション可能な承認のみ] チェック ボックスを選択します。
- トランザクション ID を選択してモバイル承認アプリケーションに対して有効化し、表示順序を入力します。

このページにはさらに、モバイル承認にアクセスするための URL も表示されます。モバイル承認の詳細については、「PeopleSoft モバイル承認の使用」を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

注: PeopleSoft モバイル承認では、特定のアプリケーションのために設定された承認フレームワークを使用します。トランザクションに対してモバイル承認を実装する前に、承認フレームワークが有効化されていて、かつ各アプリケーションに対して正しく設定されていることを確認してください。

アプリケーション固有の承認フレームワークを設定する方法の詳細については、次を参照してください。

経費管理については、Managing WorkflowPeopleSoft Expenses を参照してください。

一般会計については、Understanding Configurable WorkflowPeopleSoft General Ledger を参照してください。

eProcurement-調達管理については、Understanding the Approval FrameworkPeopleSoft eProcurement を参照してください。

買掛金管理については、Approving VouchersPeopleSoft Payables を参照してください。

購買管理については、Setting Up the Approval Framework for PeopleSoft PurchasingPeopleSoft Purchasing を参照してください。

モバイル経費管理アイコンへの経費タイプのマップ

最も優れたユーザー エクスペリエンスの実現のために、頻繁に使用する各経費タイプのイメージをアップロードすることをお薦めします。用意されているサンプル イメージを使用しても、独自のものを追加してもかまいません。

../MIN_SETUP フォルダにある Mobile Expenses Setup.zip ファイルを見つけます。ファイルを解凍し (オプションのカスタム ログイン ステップを以前に完了していない場合)、Expense Type Sample Images フォルダのサンプル イメージを見つけます。頻繁に使用する各経費タイプのイメージをアップロードします。これらのイメージは、モバイル デバイスにおいてモバイル経費管理アプリケーション ページを表示するのに使用されます。経費タイプにイメージが関連付けられていない場合、モバイル経費管理ページではデフォルトの経費タイプ イメージが使用されます。

経費タイプ 1 ページ (モバイル経費管理から、PeopleSoft アプリケーションの [フル サイト] ボタンを選択) を使用して、モバイル経費管理で使用する経費タイプ定義のイメージをアップロードします。

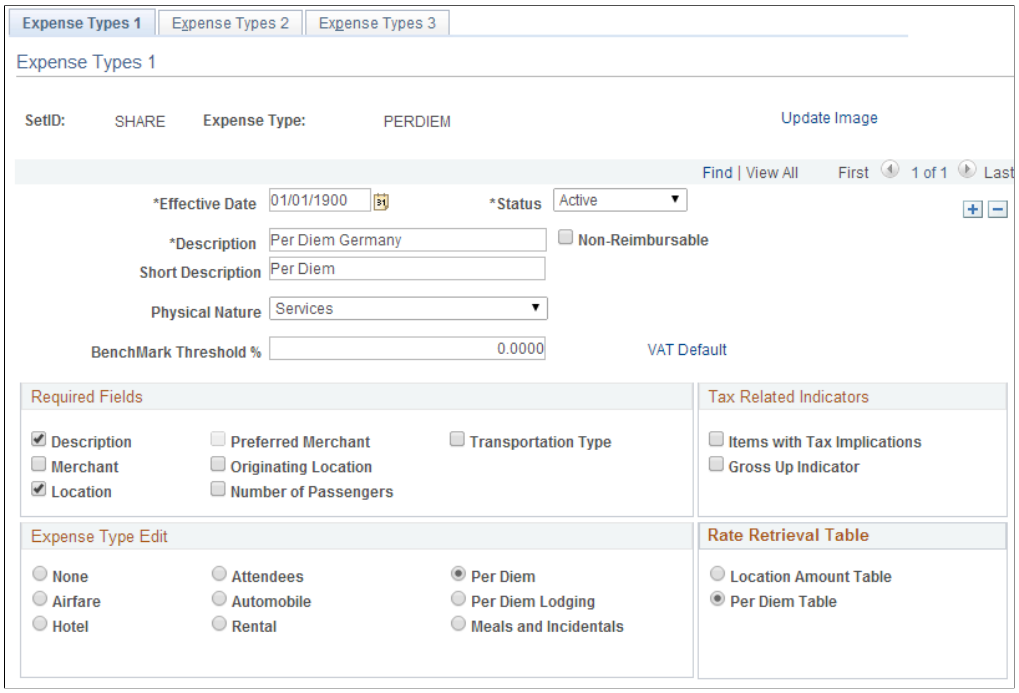
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [製品関連], [経費管理], [経費タイプ], [購入], [経費タイプ]

画像: 経費タイプ 1 ページ

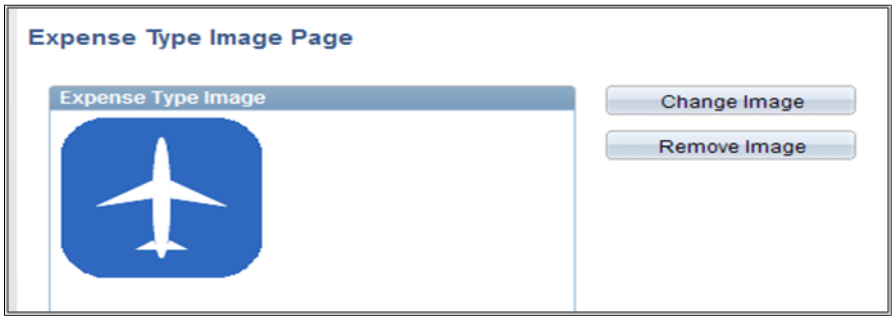
次の例では、経費タイプ 1 ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は PeopleSoft 経費管理のドキュメントで説明します。



[イメージ更新] リンクを選択して経費タイプ イメージ ページ にアクセスし、アイコンのイメージを更新 (または削除) します。

画像: 経費タイプ イメージ ページ

次の例では、経費タイプ イメージ ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



通知/発表ページ

通知/発表ページを使用して、モバイル経費管理ホームページに表示される通知を追加または変更します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

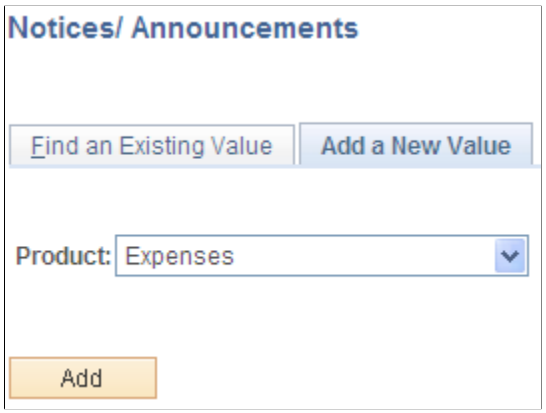
ナビゲーション

[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [通知/発表]

(モバイル デバイスからこのページにアクセスする場合、モバイル経費管理のホームページまたは他のページから [フル サイト] フッター ボタンを選択します。上記と同じナビゲーションを使用します。)

画像: 通知/発表の検索ページ

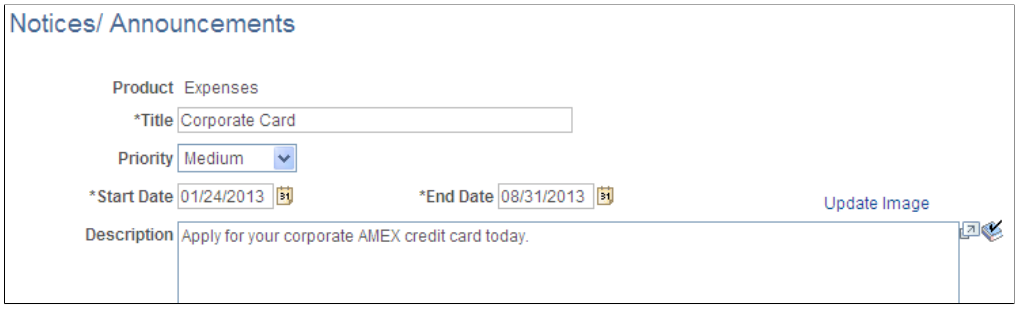
次の例では、通知/発表の検索ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



新しい通知または発表を追加する際は、[製品] フィールドから [経費管理] 値を選択し、[追加] ボタンを選択します。

画像: 通知/発表ページ

次の例では、通知/発表ページのフィールドおよびコントロールを説明します。

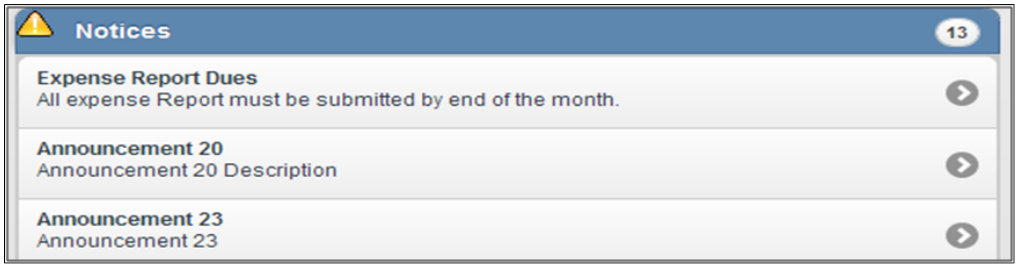


Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

通知の*タイトル*、*優先度*、通知期間の*開始日*および*終了日*を入力します。説明フィールドに追加するテキストは、モバイル経費管理のホームページに表示される通知です。オプションで、[イメージ更新] リンクを選択して経費管理ホームページの [通知] セクションに表示されるアイコンを追加します。

画像: 通知ページ

次の例では、通知ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



「モバイル経費管理の使用」を参照してください。

PeopleSoft モバイル アプリケーションへのアクセス

このトピックでは、従業員セルフサービス ページにアクセスする方法について説明します。要件およびサポートされているモバイル デバイスおよびブラウザのリストについては、「前提条件」を参照してください。

PeopleSoft モバイル経費管理の機能の概要についてのビデオ (VFO) を見るには、ここをクリックしてください。

PeopleSoft モバイル承認の機能の概要についてのビデオ (VFO) を見るには、ここをクリックしてください。

従業員セルフサービス ページ

従業員セルフサービス ページを使用して、提供されている PeopleSoft モバイル アプリケーションを起動します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[メイン メニュー], [Fluid ホーム]:

画像: 従業員セルフサービス ページ

次の例では、従業員セルフサービス ページのフィールドおよびコントロールを説明します。

注: この例ではモバイル時間入力は表示されていません。



組織のセキュリティ ルールに基づいてユーザーに対してこのページへのアクセス権限を付与します。

それぞれのボタンを選択して対応するモバイル アプリケーションにアクセスしたら、モバイル デバイスからアクセスできるように、アドレス バーから URL をコピーしてそれをユーザー グループまたは自分自身に電子メールで送信できます。

モバイル デバイスでこのページにアクセスしたら、リンクを選択してモバイル アプリケーションにアクセスし、そのリンクをホーム画面に追加できます。

経費管理

選択すると、モバイル デバイスから PeopleSoft モバイル経費管理アプリケーションにアクセスし、外出先から経費レポートを作成および管理できます。

「PeopleSoft モバイル経費管理の使用」も参照してください。

承認

選択すると、モバイル デバイスから PeopleSoft モバイル承認アプリケーションにアクセスし、保留トランザクション (仕訳、経費レポート、支払伝票、調達依頼、および発注) を承認できます。

「PeopleSoft モバイル承認の使用」も参照してください。

調達依頼

選択すると、モバイル デバイスから PeopleSoft モバイル eProcurement アプリケーションにアクセスし、外出先から調達依頼を作成および管理できます。

勤務時間入力 (表示されていません)

選択すると、モバイル デバイスから PeopleSoft モバイル時間入力アプリケーションにアクセスし、外出先からタイムシートを作成および管理できます。

*『PeopleTools: Security Administration』*を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft モバイル承認の使用



PeopleSoft モバイル承認の機能の概要についてのビデオ (VFO) を見るには、ここをクリックしてください。

PeopleSoft モバイル承認フレームワークについて

PeopleSoft モバイル承認フレームワークを使用すると、モバイル デバイスから次のことを実行できます。

- モバイル デバイスからのヘッダー レベルでの保留トランザクションの承認、却下、または差戻し。個々のトランザクションに対して、または複数のトランザクションに対して同時に承認アクションを実行できます。
- 添付の表示 (ある場合) および承認アクションへのコメントの追加。
- トランザクション承認フローのグラフィック表示のプレビュー、他の承認の表示、および前の承認者が入力したコメントの表示。

注: モバイル承認アクションは行レベルでは実行できませんが、全てのトランザクションの個々の行を表示することは可能です。

注: 現在のところ、発注、調達依頼および経費レポートでは添付は使用できません。

PeopleSoft モバイル承認へのアクセス

前提となる設定 (「PeopleSoft モバイル アプリケーションの設定」を参照) が完了したら、承認ホームページの URL を使用してモバイル承認アプリケーションにアクセスできます。サポートされているブラウザを使用し、PeopleSoft ユーザー ID およびパスワードを入力してログインします。URL は次から取得できます。

- 「従業員セルフサービス ページ」。
- 「モバイル承認オプション」設定ページ。「モバイル承認オプション ページ」を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

モバイル承認に iPad または iPhone から Safari ブラウザを使用してアクセスしている場合、アプリケーションをホーム画面にブックマークするよう促すプロンプトが次のように表示されます。

画像: モバイル承認ブックマーク ページ

次の例では、モバイル承認ブックマーク ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



次のことが可能です。

- プロンプトに従ってアプリケーションをホーム画面にブックマークし、そこからアプリケーションを起動します。
- プロンプトを無視します。プロンプトは数秒以内に消え、引き続きアプリケーションを使用できます。ただし、次に Safari を使用してアプリケーションにアクセスしたときもまたこのプロンプトが表示されます。
- [X] を選択してプロンプトを閉じます。以降、アプリケーションをブックマークするようプロンプトが表示されることはありません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

モバイル タブレットからのモバイル承認の起動

iPad などのモバイル タブレット デバイスからモバイル承認を起動して承認ホームページにアクセスします。

画像: モバイル承認のホームページ

次の例では、モバイル承認のホーム ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



承認ホームページでは、ログイン ユーザーによる承認を待っている各トランザクション、およびドリルダウンして詳細表示が可能な他の分析チャートにアクセスできます。ボタンまたはグラフのバーを選択すると、選択した承認待ちがメイン ページに開きます。たとえば、グラフの仕訳入力バーを選択して、メイン ページに自分の承認待ちの仕訳入力のみを開くことができます。

ダッシュボードやワークリストと同じく、モバイル承認は保留トランザクションの確認および承認を簡単に行うためのオプションを提供しているのみです。全てのトランザクションはまずデータベースで作成する必要があり、かつ承認フレームワークのロジックおよび各アプリケーション内の設定に準拠している必要があります。各アプリケーションに対する承認フレームワークの設定の詳細については、製品ごとの関連トピックを参照してください。「モバイル承認オプション ページ」の関連リンクを参照してください。

フッター ボタン

モバイル承認アプリケーション ページのフッターには次のボタンが表示されます。

ボタン	*説明*
フル サイト	選択すると、従来の PeopleSoft メニューが表示される完全な PeopleSoft フル サイトにアクセスします。フル サイトのデフォルト ビューはユーザー ワークリスト ページです。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ボタン	*説明*
リフレッシュ	選択するとホームページをリフレッシュします。
サインアウト	選択するとモバイル承認アプリケーションからログアウトします。



[承認待ち] ボタンを選択すると、自分が承認する必要がある全ての保留トランザクションがリストされたメインの承認ページにアクセスします (使用されたユーザー ID によるログインで保護されています)。

個別のトランザクション ボタン

[経費レポート]、[仕訳入力]、[発注書]、[調達依頼書]、または [伝票] の各トランザクション ボタンを選択すると、検索結果として特定のタイプのトランザクションのみが表示されたメインの承認ページにアクセスします。

全てのボタンには、各カテゴリに属する、そのユーザーによる承認待ちトランザクションの数を示す赤い丸が表示されます。

メトリック棒グラフ

承認ホームページには、トランザクション別保留金額、優先度別保留金額、および日付別保留金額の 3 つのメトリックそれぞれの棒グラフが含まれています。表示をスワイプするとそれぞれのチャートを順に表示できます。棒を選択して、選択したその棒の条件でフィルタされたメインの承認ページにアクセスできます。

トランザクション別保留金額

このメトリックでは、指定された承認者による承認待ちとなっている全てのトランザクションの合計金額をトランザクション タイプ別に表示します。棒またはメトリック行を選択すると、メインの承認ページには各トランザクション カテゴリが表示されます。

待ち (優先度別)

承認ホームページで、承認待ちトランザクションが優先度 (高、中、低) 別にソートされ、緊急性がより高い承認待ちにまず注意を向けることができます。各優先度のトランザクションの数も表示されます。棒または優先度行を選択すると、メインの承認ページには、自分の承認を必要とする、対応する条件を満たすトランザクションのみが表示されます。

待ち (日付別)

承認ホームページでは、承認待ちトランザクションが [保留開始] 日付に基づいてソートされます。有効値は次のとおりです。

- 今日

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

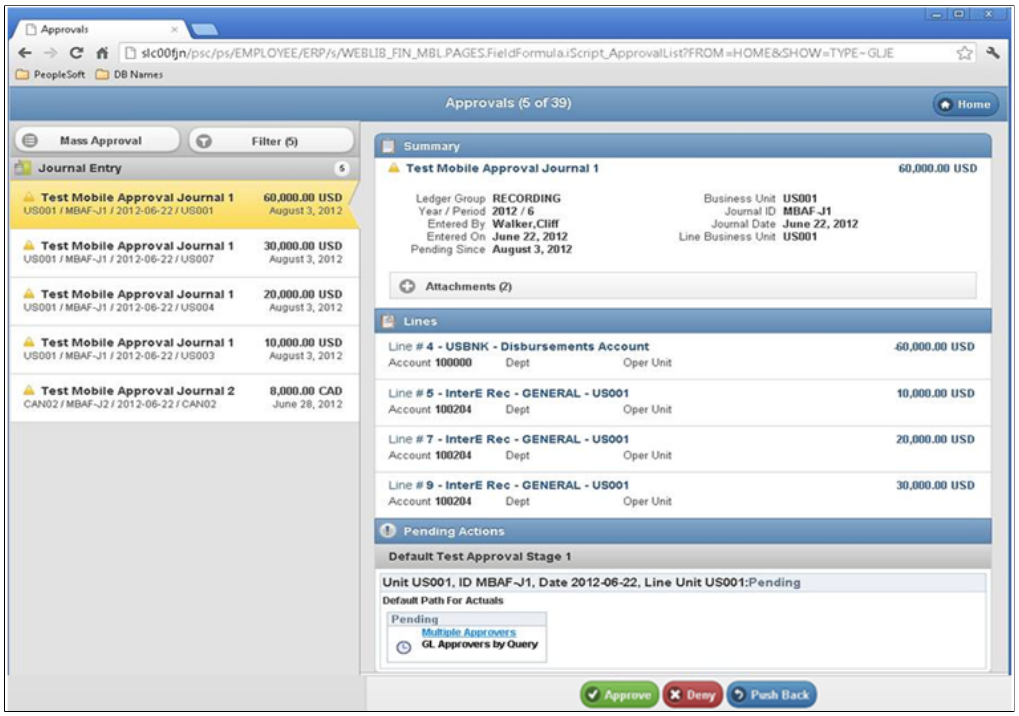
- 昨日
- 7 日未満
- 30 日未満
- 30 日超

丸の数字には各エージング カテゴリのトランザクションの数が表示されます。経過期間に基づいて行を選択することで、承認アクションを行うトランザクションのみにアクセスします。

それぞれのボタンおよび棒を選択すると、それぞれ選択された各種メトリックによってフィルタされた承認ページを起動します。

画像: 承認トランザクション リスト ページ - (タブレットでの表示)

次の例では、承認トランザクション リスト ページ - (タブレットでの表示) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



モバイル タブレット (横向きモード) では、フィルタされたトランザクション リストがページの左側に表示されます。ページの右側には、左側のリストで選択された (ハイライトされた) トランザクションの詳細が表示されます。ここで示す例では、選択された仕訳に対応するサマリ、行および保留アクションが表示されています。ページの一番下にあるアクション ボタンを使用して、選択した仕訳入力を承認または却下できます。

注: 表示されるアクション ボタンは、トランザクションに対してそのアクションを適用可能かどうかによって変わってきます。モバイル承認で現在サポートされているアクションは、承認、却下および差戻しです。モバイル承認では保留アクションは使用できません。保留アクションを使用するには、デスクトップ アプリケーションを使用する必要があります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

一括承認	複数のトランザクション (または 1 つのトランザクション) を選択して承認するには [一括承認] ボタンを選択します。
フィルタ	優先度やトランザクション、日付によって結果セットを変更したりさらに制限するには [フィルタ] ボタンを選択します。
ホーム	承認ホームページにアクセスするには [ホーム] ボタンを選択します。

サマリ

承認ページの右側にある [サマリ] セクションには、選択されたトランザクション (左側) に対応するヘッダー情報が表示されます。[サマリ] セクションには添付、理由および警告が、もしあれば表示されます。トランザクションに添付がある場合、[添付] ボタンを選択すると表示されます。ボタンには添付の数がかっこ書きで表示されます。「モバイル承認の使用による添付の表示」を参照してください。[理由/警告] ボタンを展開すると、関連付けられているコメントおよび警告が表示されます。

行

[行] セクションには、選択されたトランザクションの行情報が表示されます。

保留アクション

[保留アクション] セクションには承認フロー図が表示されます。詳細にアクセスするには図のリンクを選択します。承認者によるコメントを表示するには [コメント] セクションを展開します。

注: 経費レポートの場合、このセクションには承認フロー図の代わりに保留承認者が表示されます。

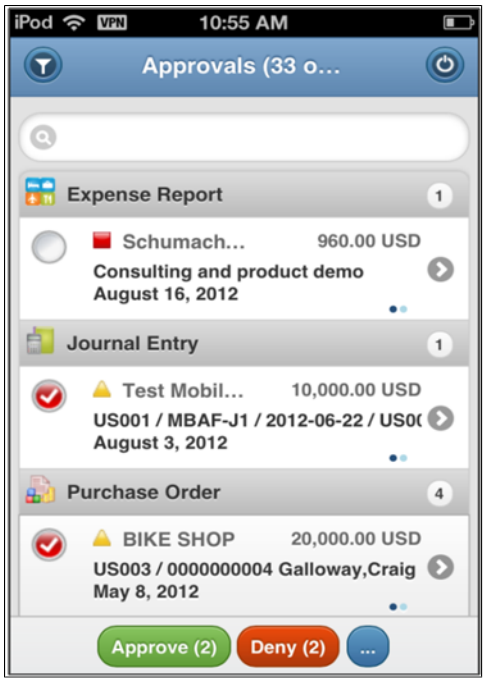
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

携帯電話からのモバイル承認の起動

承認ホームページはモバイル タブレットからのみアクセスできます。携帯電話 (iPhone) からモバイル承認を起動すると、トランザクション リスト ページが表示されます。

画像: 承認トランザクション リスト ページ - (携帯電話での表示)

次の例では、承認トランザクション リスト ページ - (携帯電話での表示) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

トランザクション リスト ページからトランザクションを選択すると、サマリ、行、保留アクションが表示され、添付や理由/警告、その他の承認を表示したり、単一のトランザクションに対する承認アクションを選択できます (承認ページの右側の縦向き表示)。

画像: [サマリ]、[行]、[保留アクション] - (携帯電話での表示)

次の例では、[サマリ]、[行]、[保留アクション] (携帯電話での表示) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



モバイル承認の使用による複数のトランザクションの承認

モバイル承認を使用してトランザクションの一括承認を実行するには、承認ページまたはトランザクション リスト ページの左上隅にある [一括承認] ボタンを選択します。[一括承認] ボタンを選択すると、各トランザクションの左側に選択列が表示され、1 つまたは複数のトランザクションを承認のために選択できます。

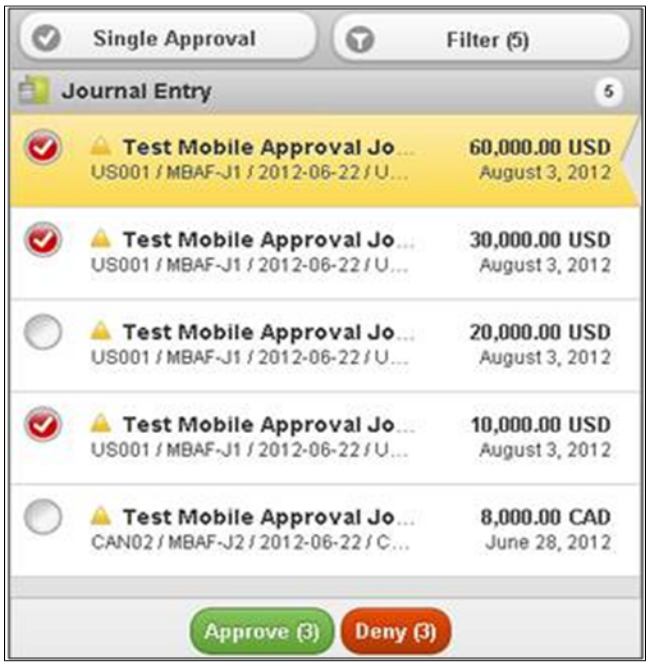
注: 携帯電話または縦向きのタブレット表示の場合、トランザクション リスト ページでは一括承認モードのみが使用できます。この場合、単一のトランザクションを承認するには、トランザクションを選択して詳細ページにアクセスします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

複数のトランザクションを一度に承認するには [一括承認] ボタンを選択します。

画像: 一括承認ページ - (携帯電話での表示)

次の例では、一括承認ページ - (携帯電話での表示) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



承認、却下または差戻しする 1 つまたは複数のトランザクションを (もしあれば) 選択します。処理するトランザクションを選択したら、適切なボタンを選択してトランザクションを承認、却下または差戻します。ボタンには処理のために選択したトランザクションの数が表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

これにより、(選択したボタンに基づいて) 承認、却下または差戻しページが表示され、コメントを追加および処理リクエストを送信できます。

画像: 承認 - コメント ページ (携帯電話での表示)

次の例では、承認 - コメント ページ (携帯電話での表示) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



単一承認 このボタンを選択すると、一度に 1 つのトランザクションを承認できる元のトランザクション リストに戻ります。

(優先度インジケータ)  優先度インジケータには高、中および低があります。

モバイル承認の使用による添付の表示

モバイル承認オプション ページで [添付の表示] チェック ボックスを選択している場合、モバイル デバイスを使用して添付を表示できます。「モバイル承認オプション ページ」を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

[サマリ] セクションから [添付] ボタンを選択して、承認詳細にアクセスします。

画像: 承認詳細ページ

次の例では、承認詳細ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



添付を表示するには、承認詳細ページにアクセスして [添付] セクションを展開します (有効化されている場合)。表示またはダウンロードしたい添付に関連付けられている矢印ボタンを選択します。新しいウィンドウが開き、ファイルが表示または保存されます。

注: 添付の表示のサポートには、添付のタイプおよび使用するモバイル デバイスによる制限があります。

アプリケーションごとの詳細については、それぞれのアプリケーションのドキュメントを参照してください。

関連リンク

Understanding Mobile Approvals in General LedgerPeopleSoft General Ledger
Setting Up Approval Framework in PeopleSoft eProcurementPeopleSoft eProcurement
Approving Purchase Orders With Mobile Approval FrameworkPeopleSoft Purchasing

PeopleSoft モバイル経費管理の使用

PeopleSoft モバイル経費管理の機能の概要についてのビデオ (VFO) を見るには、ここをクリックしてください。

PeopleSoft モバイル経費管理について

PeopleSoft モバイル経費管理では、携帯電話またはタブレットから次のことができます。

- 経費レポートを入力、管理、および送信 (ビジネス ルール検証あり) します。
- 経費レポート履歴 - 過去 6 か月のレポートおよびステータスを確認します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 支出記録トランザクションを追加、確認および編集します。
- イメージおよび他の必要書類が含まれる添付を追加、確認および編集します。
- 渡航情報、経費方針の変更などについて警告する通知を受信します。
- 配信された経費レポートの分析およびメトリックを表示します。
- モバイル トランザクションを完了して経費レポートのサマリ ページに戻ると、入力内容により自動的データベースが更新されます。
- 通貨コードを変更します。
- 会計処理配布のチャートフィールド値 (部門、資金、プロジェクト ID およびアクティビティ ID) を指定します。
- 複雑な経費レポートが必要な場合はリンクを使用してフル サイトに切り替えられます。
- 加速度センサー テクノロジにより、縦向き表示と横向き表示を自動的に検出します (電話表示またはタブレット表示)。
- Web ベースです (Wi-Fi 接続が必要)。AppStore からのインストールは必要ありません。

PeopleSoft モバイル経費管理の設定

モバイル経費管理を使用するには、システム全体での設定が必要です。「PeopleSoft モバイル アプリケーションの設定」を参照してください。「インストール オプション - 経費管理ページ」から経費レポートでの領収書の添付およびイメージを有効化します。

モバイル経費管理の添付の追加要件

PeopleSoft モバイル経費管理で領収書の添付およびイメージを使用する場合、次の最低要件が適用されます。

- 全ての Apple デバイスの最低要件 - iOS 6 (iOS 6.1 でテスト済)。
- Android デバイスの最低要件 - 4.2.1 で Chrome ブラウザ Android アプリケーションを使用 (Android 4.2.1 でテスト済)。
- Android デバイスでイメージではない添付を表示するには、モバイル承認オプション ページでレポートノード設定に [プロセス サーバー] を指定する必要があります。「モバイル承認オプション ページ」を参照してください。

PeopleSoft モバイル経費管理へのアクセス

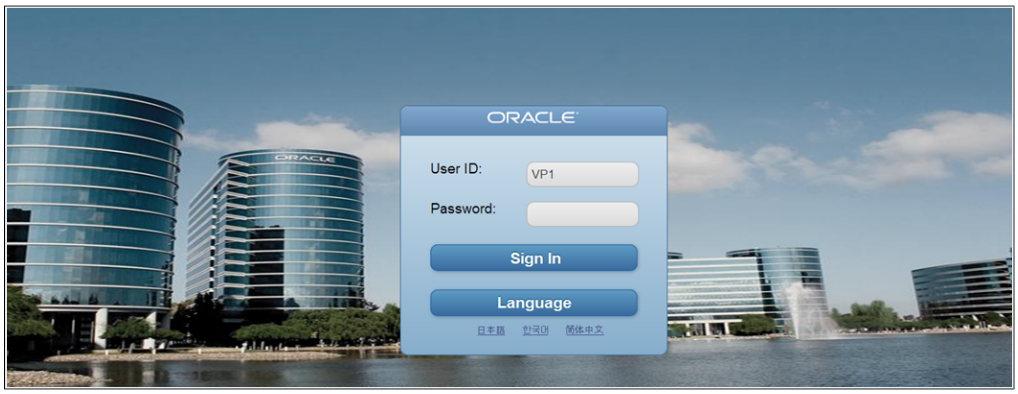
モバイル経費管理を使用するには、システム全体での設定が必要です。「PeopleSoft モバイル アプリケーションへのアクセス」を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

「従業員セルフサービス ページ」から [承認] を選択し、それから [経費管理] ボタンを選択します。

画像: モバイル経費管理のサインイン ページ (タブレットのみ)

次の例では、モバイル経費管理のサインイン ページ (タブレットのみ) のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



ユーザー ID およびパスワードを使用してサインインすると、経費管理のプライマリ ホームページが表示されます。経費管理のホームページは携帯電話とタブレットのどちらから起動しても実質的に同じであり、同じ機能が含まれています。唯一の違いは、携帯電話バージョンは携帯電話デバイスの小さな画面に合わせてスケーリングされているという点です。

モバイル経費管理の使用

このトピックでは経費管理ホームページを示し、次の方法について説明します。

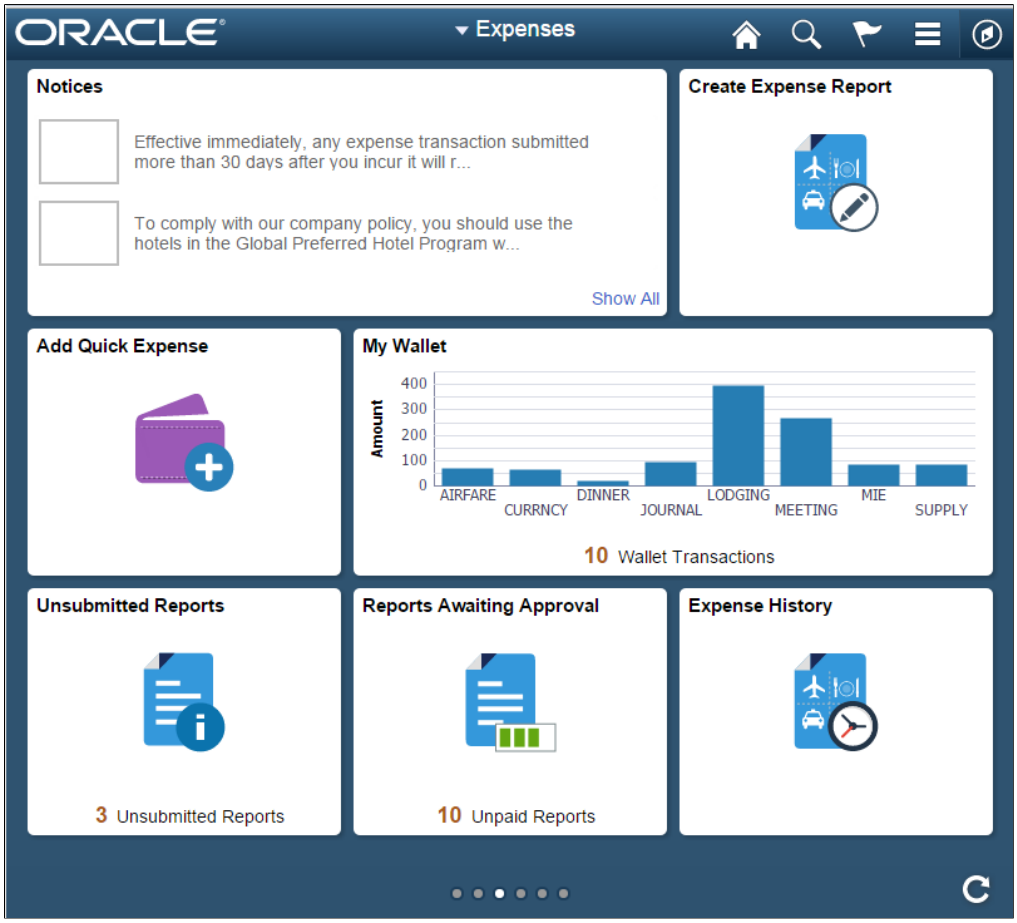
- 支出記録経費の追加 (経費クイック追加)。
- 支出記録トランザクションの確認。
- モバイル経費レポートの作成。
- 添付およびイメージの追加および表示。
- 経費履歴の確認。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

モバイル タブレットからサインインすると、経費管理ホームページは画面に合うように自動的に調整されます。

画像: モバイル経費管理ホームページ (モバイル タブレットでの表示)

次の例では、モバイル経費管理ホームページ (モバイル タブレットでの表示) のフィールドおよびコントロールを説明します。



ボタン	*説明*
経費クイック追加	トランザクションを支出記録に直接追加するために選択します。「支出記録経費の追加」を参照してください。
支出記録	支出記録トランザクションを確認および編集するために選択します。「支出記録トランザクションの確認」を参照してください。
経費レポート作成	新規経費レポートを追加するために選択します。「モバイル経費レポートの作成」を参照してください。
経費履歴	過去 6 か月の経費レポートおよびそのステータスを確認するために選択します。「経費履歴の確認」を参照してください。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ボタン	説明
未提出レポート	保留経費レポートにアクセスするために選択します。経費の入力は、自分がログインに使用したユーザー ID に関連付けられている従業員に制限されます。それからレポートを開き、さらに編集してから支払を送信できます。
承認または支払待ちレポート	承認または支払待ちの送信済経費レポートにアクセスするために選択します。レポートを開き、ステータスをチェックできます。レポートの支払が行われると、このページには表示されなくなりますが、[経費履歴] で表示できます。
承認対象レポート	モバイル承認アプリケーションにアクセスし、自分の確認および承認が必要な全ての経費レポートを表示するために選択します。
通知	経費方針の通知、渡航安全情報の変更などに関するメッセージを表示します。これらの通知は通知/発表ページを使用して設定します。「通知/発表ページ」を参照してください。
(分析およびメトリックのチャート)	ホームページのタブレット ビューでは、最大 3 つの分析チャート (タイプ別支出記録、ステータス別経費レポート、承認対象経費レポート) を表示できます。どのチャートも携帯電話で表示できますが、一度に表示できるのは 1 つのみです (スワイプすると次のチャートに移ります)。

フッター ボタン

モバイル経費管理アプリケーションのほとんどのページのフッターには次のボタンが表示されます。

ボタン	説明
フル サイト	任意のモバイル経費管理ページまたはサブページで選択すると、従来の経費管理のユーザー インターフェイスが表示される PeopleSoft フル サイトにアクセスでき、全ての PeopleSoft メニューを使用できます。モバイル インターフェイスと従来のアプリケーションは任意に切り替えることができます。フル サイトのデフォルト ビューはワークリスト ページです。
リフレッシュ	選択するとホームページをリフレッシュします。
サインアウト	選択するとモバイル経費管理アプリケーションからログアウトします。
ホーム	選択するとアプリケーションの任意の場所から経費管理ホームページに戻ります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

[フル サイト] フッター ボタンを選択すると、PeopleSoft フル サイトにアクセスします。

画像: ワークリスト ページ

次の例では、ワークリスト ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



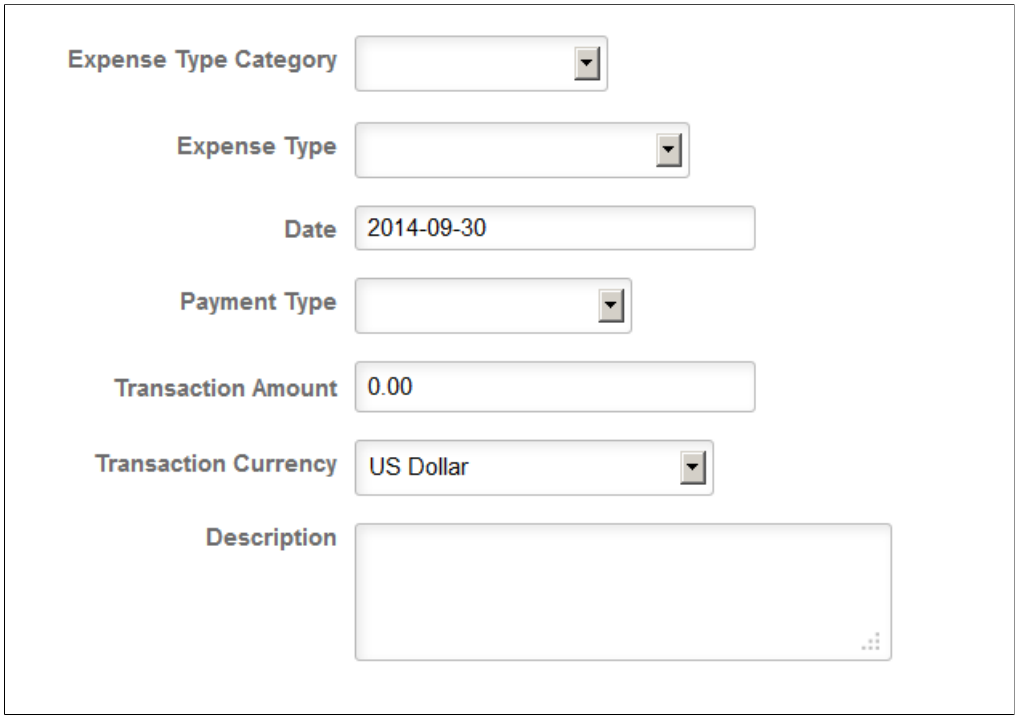
デフォルトでは自分のワークリストが表示されます。ここから、従来の PeopleSoft アプリケーションの任意の場所に移動できます。目的の機能を実行したら、[ホーム] ボタンを選択してモバイル経費管理アプリケーションに戻ります。

支出記録経費の追加

経費管理ホームページから [経費クイック追加] ボタンを選択して、モバイル デバイスから支出記録トランザクションを追加します。

画像: 支出記録トランザクションの追加ページ

次の例では、支出記録トランザクションの追加ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このページには、エントリができるだけシンプルになるように、最低限のフィールド セットが表示されます。

注: 他のフィールドは、経費タイプの設定ページ (EX_EXPENSE_TYPES1) で特定の経費タイプに対して指定されている必須フィールドに基づいて動的にこのページに表示されます。たとえば、空路出張を選択すると、[航空券番号] および [利用先] フィールドが表示されます (例外あり)。詳細については、Expense Types 1 PagePeopleSoft Expenses を参照してください。

支出記録トランザクションの詳細については、Understanding My Wallet TransactionsPeopleSoft Expenses を参照してください。

経費タイプ カテゴリ

矢印を選択して経費カテゴリのリストから選択します。選択した経費カテゴリに基づいて、対応する経費タイプがフィルタされて [経費タイプ] ドロップダウン リストに表示されます。経費タイプ カテゴリを選択しない場合、全ての経費タイプが [経費タイプ] ドロップダウン リストに表示されます。

経費タイプ

矢印を選択して経費タイプのリストから選択します。トランザクションを保存したら、経費タイプを変更することはできません。行を削除して新しい行を作成する必要があります。

日付

トランザクション日を入力します。現在の日付がデフォルト値です。

支払タイプ

支払タイプを選択します。従業員プロファイル - ユーザー デフォルト ページ (EX_EE_USER_PREF) に支払タイプのデフォルトが指定されている場合、そのデフォルトがここに表示されます。指定されていない場合は、このフィールドにデフォルト値は表示されません。詳細については、PeopleSoft 経費管理の製品ドキュメントの「Viewing or Modifying User Defaults」を参照してください。

支払タイプに複数のクレジット カードが指定されている場合 (たとえば複数の American Express など)、[フル サイト] ボタンを選択して正しいクレジット カードを選択できます。

取引金額/取引通貨

経費トランザクションの金額を入力し、トランザクション通貨を選択します。通貨のデフォルト値は、従業員プロファイル – ユーザー デフォルト ページで指定されたものと同じです。Employee Profile - User Defaults PagePeopleSoft Expenses を参照してください。

支出記録トランザクションの確認

このページを使用して、支出記録トランザクションを確認および編集します。

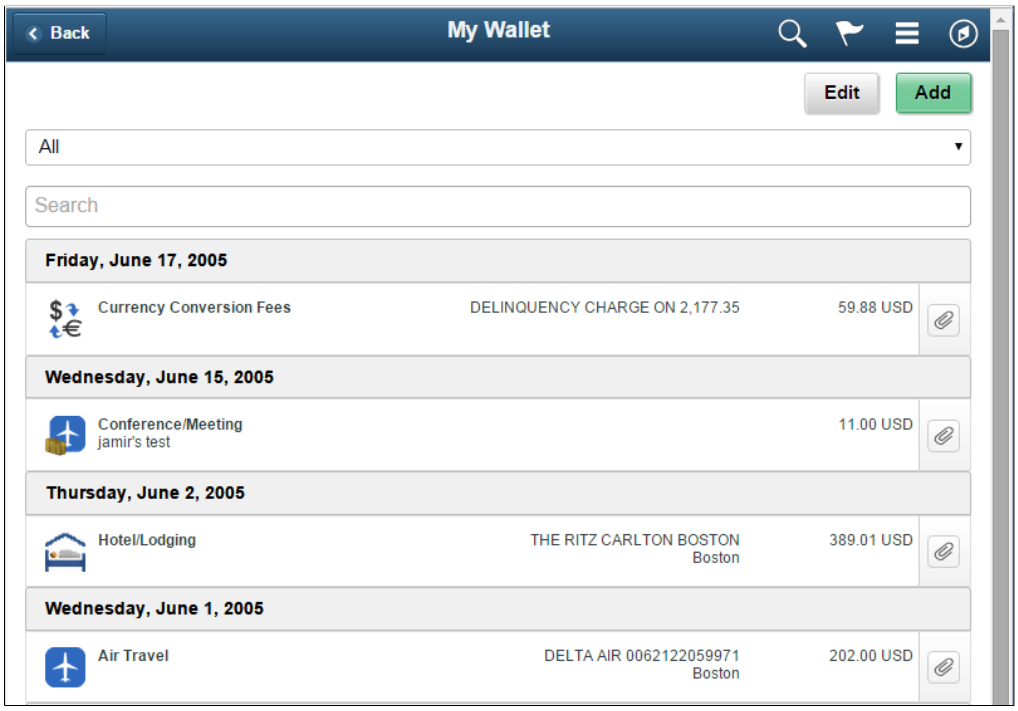
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

経費管理ホームページから [支出記録] ボタンを選択します。

画像: 支出記録ページ

次の例では、支出記録ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



このページには、払戻のために経費レポートにまだインポートされていない未処理の支出記録エントリが全てリストされます。トランザクションのソースは複数あり、クレジット カード データ フィード、従来の支出記録コンポーネント、およびモバイル経費管理の経費クイック追加が含まれます。

トランザクションはインポートの前に確認および編集でき、1 つまたは複数のトランザクションを削除することもできます。クレジット カード フィード トランザクションはここでは編集または削除できません。

経費タイプに基づいてトランザクションをフィルタするには、一番上の行にある矢印ボタンを選択します。

1 つまたは複数のトランザクションを削除するには、支出記録ページの最上部の [編集] ボタンを選択します。削除対象として選択できるようにトランザクションの左側に列が追加されます (ページ最上部に [削除] ボタンが表示されます)。

個別のトランザクションを表示または編集するには、トランザクション行の右端にある矢印ボタンを選択します。変更を保存またはキャンセルできます。

モバイル経費レポートの作成

経費ヘッダー ページを使用して、新規の空白レポートを開始します。

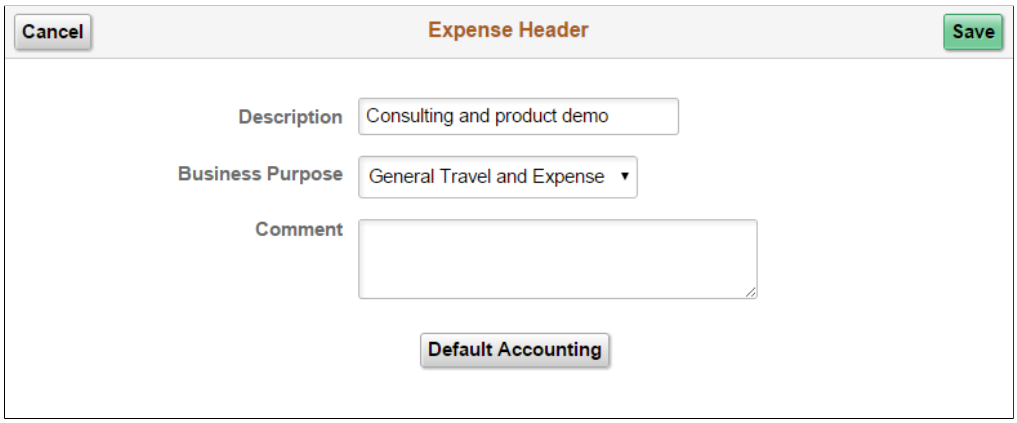
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

経費管理ホームページから [経費レポート作成] ボタンを選択します。

画像: 経費ヘッダー ページ

次の例では、経費ヘッダー ページのフィールドおよびコントロールを説明します。

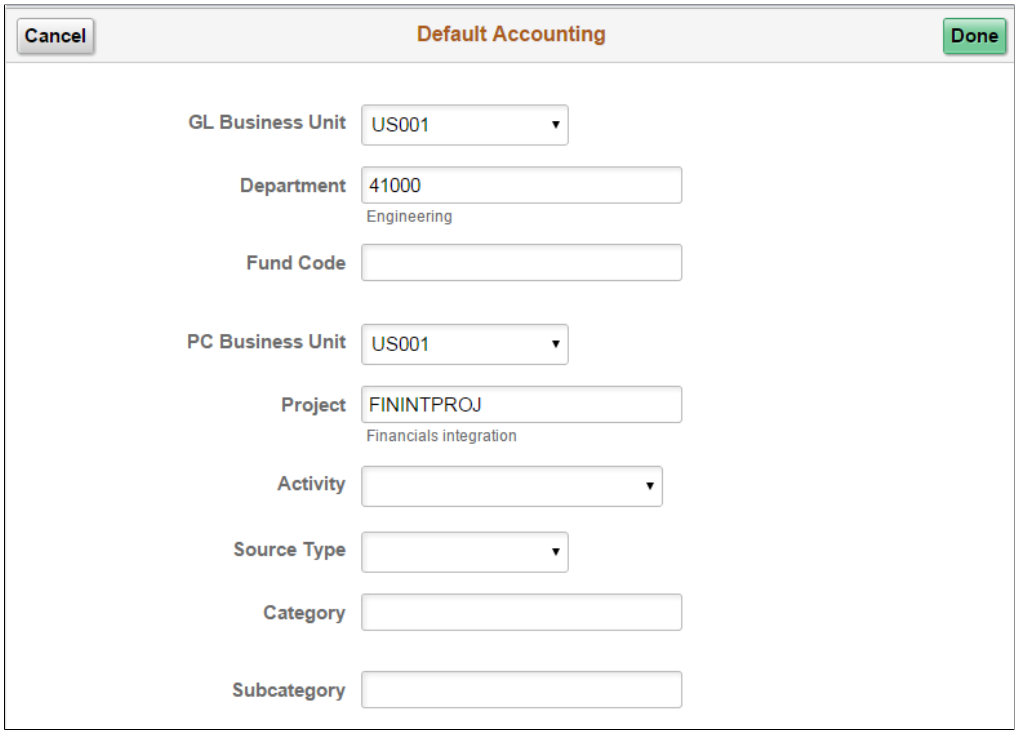


まず経費ヘッダー ページが表示され、説明の追加、ビジネス目的の選択、およびコメントの追加ができます。完了したら [保存] ボタンをクリックします。

[デフォルト会計処理] ボタンを選択して経費レポートのデフォルトのチャートフィールド値を設定します。

画像: デフォルト会計処理ページ

次の例では、デフォルト会計処理 ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

これらのデフォルトはヘッダー レベルで設定されるため、この経費レポートの全てのトランザクションは、行レベルで上書きされていない限り、この部門、資金、プロジェクト、およびアクティビティの組合せに対して請求されます。モバイル経費のヘッダー レベルでのパーセント分割はありませんが、トランザクション行レベルで単一の上書きを指定できます。複数の行においてパーセント分割または行レベル分割が必要な場合は、フル サイト (標準ユーザー インターフェイスの入力ページ) を使用する必要があります。

[部門]、[資金]、[プロジェクト] および [アクティビティ] フィールドが従業員権限テンプレート (EX_EE_PRIV_TMPL) のロールに対して設定されている場合、これらのフィールドは特定のユーザーに対してのみ表示されます。

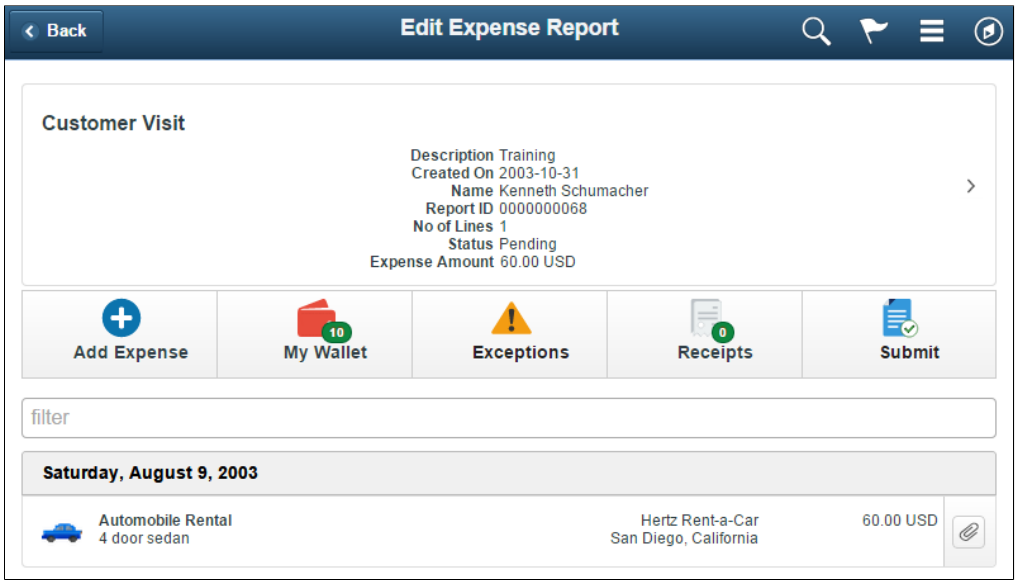
詳細については、Understanding Employee Privilege TemplatesPeopleSoft Expenses を参照してください。

[部門] および [資金コード] が表示されるようにするには、GL チャートフィールド権限を *[変更]* または *[表示]* に設定する必要があります。[プロジェクト] および [アクティビティ] が表示されるようにするには、[PC チャートフィールド] を *[変更]* に設定する必要があります (プロジェクト コスト管理製品がインストールされている場合のみ。インストールされていない場合はこれらのフィールドは表示されません)。説明されているとおりの適切な権限がユーザーにない場合、[会計処理デフォルト] ボタンも表示されません。

経費レポートのデフォルトのチャートフィールド値を設定したら、[OK] ボタンを選択します。経費ヘッダー ページに戻ったら、[保存] ボタンを選択します。経費レポート編集ページが表示されます。

画像: 経費レポート編集ページ

次の例では、経費レポート編集 ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



経費の追加 新しい経費トランザクションを (支出記録ではなく) 経費レポートに直接追加するのに選択します。

支出記録 支出記録トランザクションを提出用にこの経費レポートにインポートするよう選択するために選択します。トランザクションを選択したら、[インポート] ボタンを選択します。選択したトランザクションが経費レポートに表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

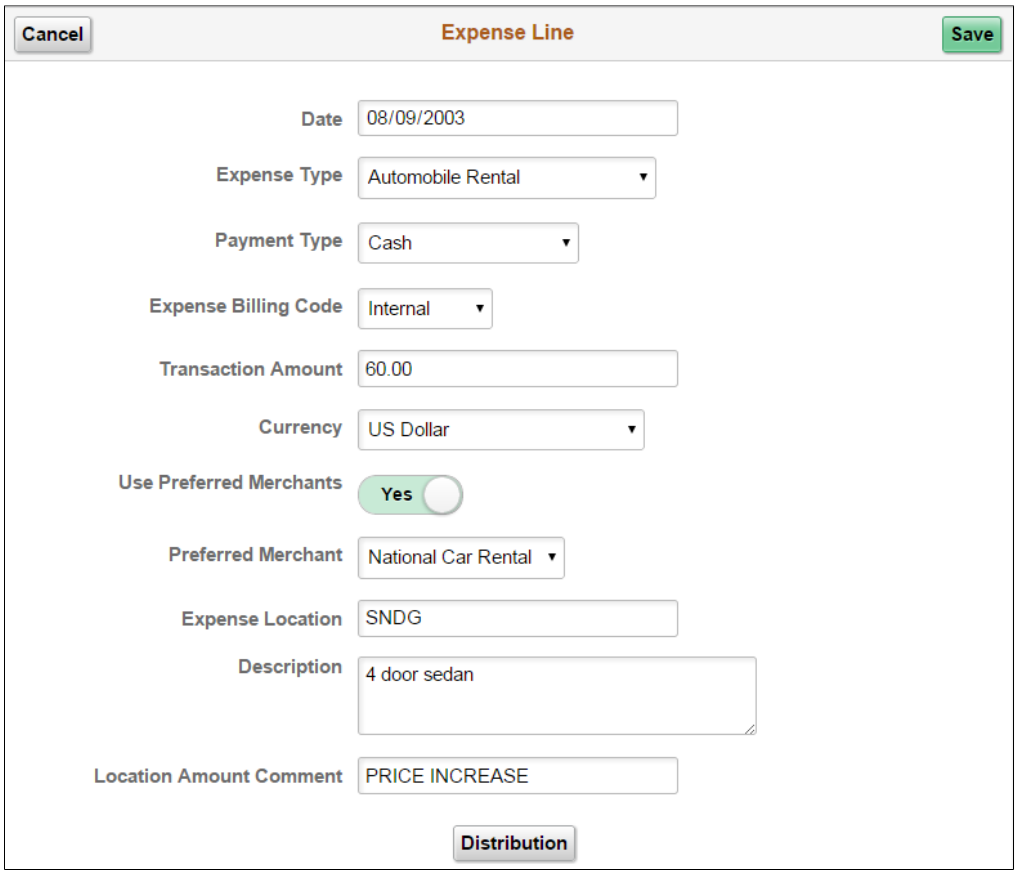
例外	この経費レポートでトリガされた全ての例外 (支出値限度超過、会社指定外利用先など) を表示するのに選択します。赤い丸に表示された数は、例外の数を示します。このボタンを選択すると、例外のある経費行のみが表示されます。各トランザクションをドリルインして、例外に対するコメントを記述できます。
送信	経費レポートを承認を受けるために提出するのに選択します。エラーがある場合、エラーが表示され、さらに情報が必要であることが示されます。正しく提出するにはエラーを修正する必要があります。

必要であれば、ヘッダー情報の右側の矢印ボタンを選択してヘッダー詳細を編集します。

[経費の追加] ボタンを選択して直接経費明細を追加すると、経費行ページが表示されます。

画像: 経費行ページ

次の例では、経費行ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



[経費タイプ] を選択して関連する動的フィールドを指定します。

注: 日当をデフォルトとして使用した経費タイプはサポートされていません。(経費タイプ設定で) 日当チェック ボックスがアクティブ化された経費タイプは、モバイル経費管理の使用可能な経費タイプのリストからは除外されます。日当経費タイプが指定された既存の経費レポートを開いた場合、モバイル経費管理でトランザクションを表示することはできますが、編集やコピーはできません。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

この経費行のチャートフィールド値のデフォルトを上書きするには [配布] ボタンを選択します。ヘッダー レベルのデフォルトについて説明したこの情報は同じように行レベルでも適用されます。「会計処理デフォルト ページ」を参照してください。

モバイル経費管理の添付の追加と表示

モバイル経費管理の添付で使用可能な主な機能には次のようなものがあります。

- モバイル支出記録トランザクションへの、およびモバイル経費レポートのレポート ヘッダー レベルおよびレポート行レベルへの添付機能。既存の経費レポート機能と同じように、モバイルの添付機能はインストール オプション - 経費管理ページから有効化できます。
- カメラの使用またはデバイス ギャラリーからのイメージの選択による添付のアップロード。
- 添付 (イメージ、PDF、Word ドキュメントおよびテキスト ファイル) の表示。イメージ以外のサポートされているファイルの表示については、モバイル デバイスによって一部制限または動作の違いがあります。
- 支出記録トランザクションをインポートする際の、モバイル経費レポート行への支出記録トランザクションの添付のコピー。
- 支出記録トランザクションに関連付けられている経費行が経費レポートから削除されたときの、支出記録トランザクションの添付の復元。
- 1 つまたは複数の添付の削除。

モバイル経費管理では次の添付アクションを実行できます。

- モバイル デバイスから、カメラの使用またはデバイス ギャラリーからイメージを選択して添付をアップロードする。支出記録領収書ページまたは経費レポート ヘッダーまたは行の領収書ページから [領収書の追加] ボタンを選択すると、写真またはビデオを撮影するか、既存のイメージを選択するか、またはキャンセルするオプションが表示されます。iPhone で表示したオプションの例を次に示します (ユーザー インターフェイスはモバイル デバイスによって異なりますので注意してください)。
- アップロード後にすぐに添付を表示する。写真を撮影したら、再撮影、プレビュー、および写真を使用するオプションが表示されます。iPhone でのこのオプションの例を次に示します (ユーザー インターフェイスはモバイル デバイスによって異なりますので注意してください)。
- スワイプ モーションによる単一の添付の削除。
- 複数の添付の一括削除には [編集] および [削除] ボタンを使用します。
- 支出記録トランザクションを経費レポートにインポートする際の、経費レポート行への添付のコピー。
- 支出記録トランザクションが経費レポートから削除されたときの、支出記録の添付の自動復元。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

モバイル デバイスの添付の制限

モバイル経費管理の主要な機能は、イメージ ファイルのアップロードと表示です。デスクトップからは全てのファイル タイプがアップロードできますが、モバイル経費管理ではイメージ ファイルの表示がサポートされ、非イメージ ファイルの表示についてはいくらかの制限があります。モバイル デバイスの添付には次の制限が適用されます。

1. サポートされているイメージ ファイル (gif、jpg、jpeg、bmp および png) についてはどのプラットフォームにおいても同じように扱われます。

   注: TIF ファイルおよび上記にリストされていないイメージ ファイル タイプについては、表示はサポートされていません。

2. PDF 添付ファイル:

   a. Android - 表示のために自動的にダウンロードされます。添付がレポート ノードに配布されるまで待つ必要がある場合があります。

   b. Apple デバイス – 表示されます。

   c. デスクトップ/Apple Safari ブラウザ - ファイルが新規ブラウザ タブで開きます。これが機能するためにはポップアップを許可する必要があります。

3. Word ドキュメント

   a. Android - 表示のために自動的にダウンロードされます。添付がレポート ノードに配布されるまで待つ必要がある場合があります。

   b. Apple デバイス - フルスクリーン モードでの表示はサポートされていません。

   c. デスクトップ/Apple Safari ブラウザ - ファイルが新規ブラウザ タブで開きます。これが機能するためにはポップアップを許可する必要があります。

4. テキスト ファイルは全てのプラットフォームで同じようにサポートされます。

5. ステータスが*承認待ち*のレポートおよび履歴経費レポートの場合、添付は表示のみです (添付の追加および削除はできません)。

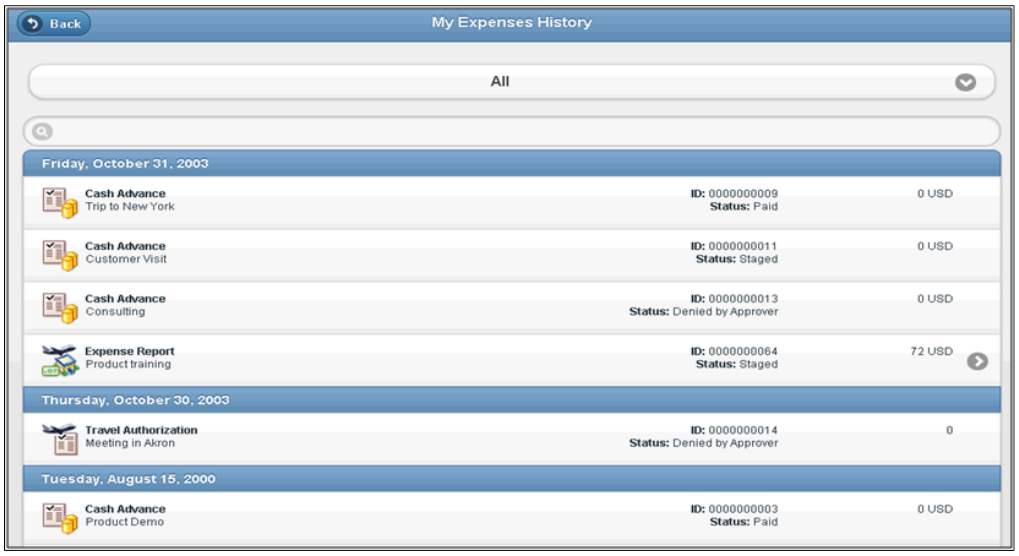
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

経費履歴の確認

経費履歴ページにアクセスするには、経費管理ホーム ページから [経費履歴] ボタンを選択します。

画像: 経費履歴ページ

次の例では、経費履歴ページのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



過去 6 か月の全ての経費レポート、仮払金、出張申請およびそのステータスを表示します。仮払金および出張申請についてはサマリを表示できますが、詳細を表示するドリルダウン ページはありません。この機能はモバイル経費管理では用意されていないためです。

右矢印を選択すると経費レポートの詳細を表示します (経費レポートの場合のみ)。

PeopleSoft モバイル eProcurement の使用

PeopleSoft モバイル eProcurement について

PeopleSoft モバイル eProcurementについての短いビデオをご覧ください。

PeopleSoft モバイル eProcurement では、(iPad などの) モバイル タブレットから次の機能を実行できます。

- 外出先から PeopleSoft の調達依頼を追加および管理します。
- 最近発注したアイテムの表示、カタログ アイテムおよび直接接続アイテムの検索、ショッピング カートへのカタログ アイテムおよび直接接続アイテムの追加を行います。
- 調達依頼を完了してサマリ ページに戻ると、そのエントリによりデータベースが自動的に更新されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- Web ベースです (Wi-Fi 接続が必要)。AppStore からのインストールは必要ありません。

PeopleSoft モバイル eProcurement のアクセスと使用

このセクションではモバイル eProcurement ホームページを示し、次の方法について説明します。

- モバイル タブレットの使用によるオーダーの表示。
- モバイル タブレットからの調達依頼の作成。
- ユーザー設定の管理。
- モバイル タブレットからの検索およびショッピング カートの管理。

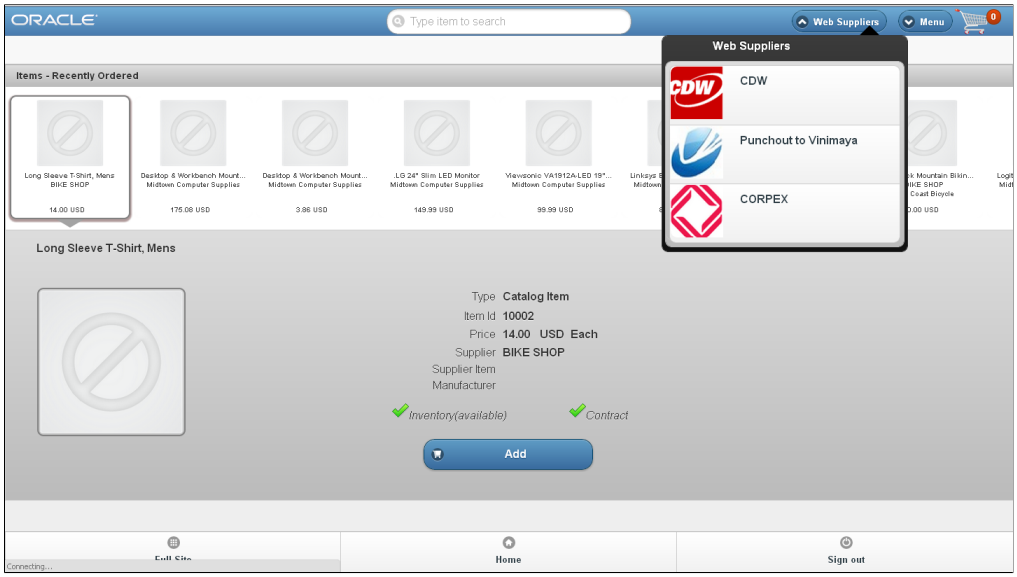
ナビゲーション

「従業員セルフサービス ページ」から、[承認] を選択し、それから [eProcurement-調達管理] ボタンを選択します。

ユーザー ID およびパスワードを使用してサインインすると、eProcurement のプライマリ ホームページが表示されます。

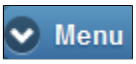
画像: モバイル eProcurement ホームページ

モバイル eProcurement ホームページ



モバイル タブレットからサインインすると、モバイル eProcurement ホームページは画面に合うように自動的に調整されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ボタン	説明
Web サプライヤ	[Web サプライヤ] ボタンをタップすると、利用可能なサプライヤのドロップダウン リストが表示されます。もう一度タップすると、ドロップダウン リストは非表示になります。リストに表示されるサプライヤを選択すると、そのサプライヤの Web サイトにパンチアウトできます。 **注:** ユーザーに対して設定されている Web サプライヤがない場合はこのボタンは使用できません。
アイテム - 直近の発注	ホームページのこの領域には、最近発注されたアイテムが表示されます。これらの 1 つをタップすると、選択したアイテムの詳細が下側のパネルに表示されます。選択したアイテムをショッピング カートに追加するには [追加] ボタンをクリックします。
検索するアイテムの入力	キーワードを入力して、オーダーするアイテムを検索できます。この機能では PeopleSoft の Secure Enterprise Search (SES) テクノロジを使用します。選択すると、下側のパネルにアイテムの詳細が表示され、[追加] ボタンをクリックすることで選択したアイテムがショッピング カートに追加されます。 「Financials and Supply Chain の検索について」も参照してください。
	[メニュー] アイコンをタップすると、モバイル eProcurement の担当オーダー ページ (サマリおよび詳細) にアクセスします。作成と送信の基本設定を設定することもできます。もう一度 [メニュー] アイコンをタップするとメニュー ページレットが非表示になります。
	[ショッピング カート] アイコンをタップするとショッピング カート ページレットにアクセスし、カートを編集してオーダーを完了できます。アイコンにはカートに入っているアイテムの数が赤い丸で表示されます。もう一度 [ショッピング カート] アイコンをタップすると [ショッピング カート] ページレットを非表示にできます。

フッター ボタン

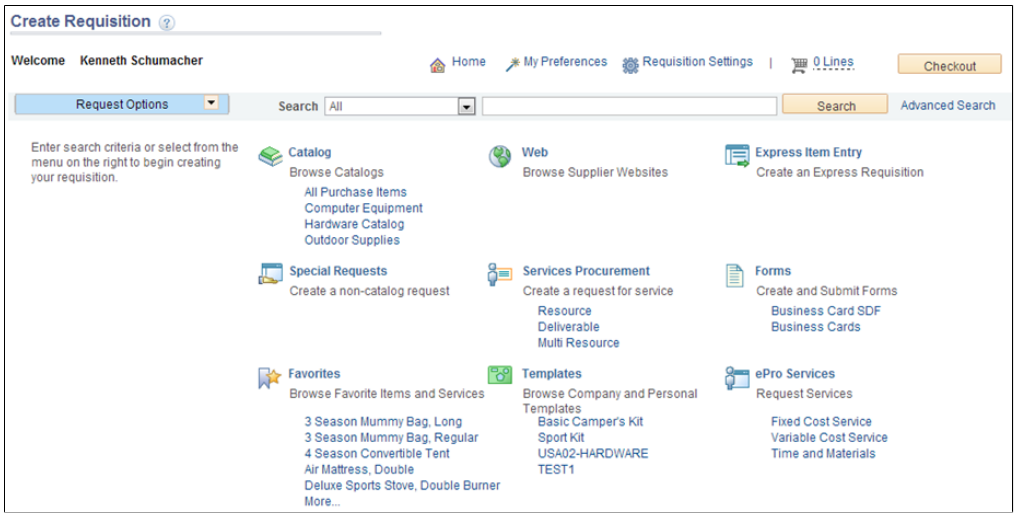
ボタン	説明
フル サイト	任意のモバイル eProcurement ページまたはサブページで選択すると、従来の eProcurement のユーザー インターフェイスが表示される PeopleSoft フル サイトにアクセスでき、全ての PeopleSoft メニューを使用できます。モバイル インターフェイスと従来のアプリケーションは任意に切り替えることができます。フル サイトのデフォルト ビューは調達依頼書の作成ページです。
サインアウト	選択するとモバイル eProcurement アプリケーションからログアウトします。
ホーム	選択するとアプリケーションの任意の場所から eProcurement のホームページに戻ります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

[フル サイト] フッター ボタンを選択すると、PeopleSoft フル サイトにアクセスします。デフォルトのフル サイト ビューは調達依頼書の作成ページです。

画像: 調達依頼書の作成ページ

次の例では、調達依頼書の作成ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



デフォルトでは調達依頼書の作成ページが表示されます。ここから、調達依頼を作成して従来の PeopleSoft アプリケーションの方法で移動できます。目的の機能を実行したら、[ホーム] ボタンを選択してモバイル eProcurement ホームページに戻ります。

調達依頼を作成する方法の詳細については、Creating RequisitionsPeopleSoft eProcurement を参照してください。

モバイル デバイスの使用によるオーダーの表示

[担当オーダー] ページレットを使用して、自分のオーダーを表示します。

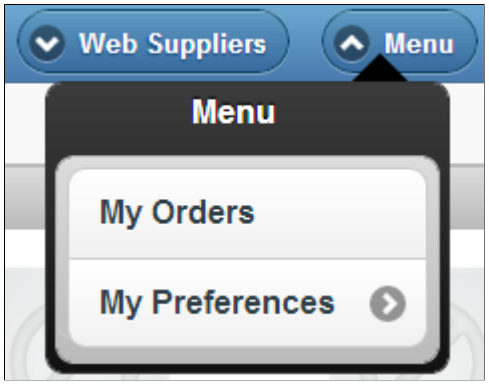
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ナビゲーション

[メニュー] アイコンをタップするとモバイル eProcurement メニューが展開し、担当オーダー ページ (サマリおよび詳細) にアクセスできます。作成と送信の基本設定を設定することもできます。もう一度 [メニュー] アイコンをタップするとメニュー ページレットが非表示になります。

画像: [メニュー] ページレット

次の例では、[メニュー] ページレットのフィールドおよびコントロールを説明します。



担当オーダー [担当オーダー] をタップすると、自分のオーダーのサマリおよび詳細にアクセスします。

ユーザー設定 [ユーザー設定] をタップすると、ユーザー設定メニュー オプションにアクセスします。

[担当オーダー] ページレット

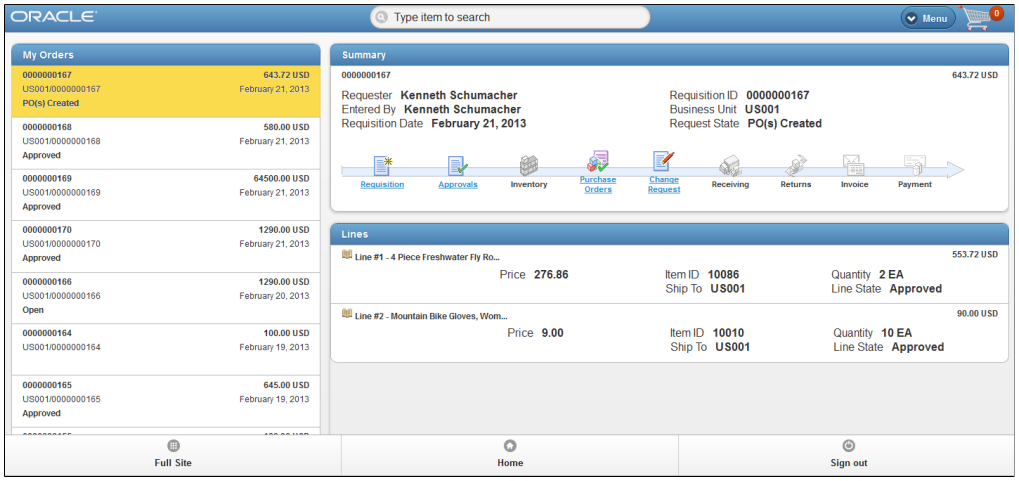
[担当オーダー] ページレットを使用して、自分のオーダーのサマリおよび詳細を表示します。eProcurement インストール オプション ページの [モバイル インストール設定] で、オーダーを表示する期間のユー

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ザー設定を選択できます ([eProcurement-調達管理]、[eProcurement 管理]、[システム オプション管理]、[eProcurement インストール オプション]、[モバイル インストール設定])。

画像: [担当オーダー] ページレット

次の例では、[担当オーダー] ページレットのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



担当オーダー

[担当オーダー] ページレットには、調達依頼書 ID、基本通貨による借方合計、取引日、ビジネス ユニットおよびヘッダー ステータスがリストされます。確認する調達依頼をタップしてください。

サマリ

ページの右側の [サマリ] セクションには、[担当オーダー] ページレットで選択された調達依頼書の対応する調達依頼書ヘッダー情報が表示されます。調達依頼書の管理ライフラインにより、PeopleSoft アプリケーション内のさまざまな関連するドキュメントにアクセスできます。リンク可能な関連ドキュメントのリストは次のとおりです。

- 調達依頼書 - 調達依頼書の管理コンポーネントにアクセスするのに選択します。調達依頼書を作成または更新します。Understanding Requisition CreationPeopleSoft eProcurement を参照してください。
- 承認。
- 在庫管理。
- 発注書。
- 変更リクエスト。
- 受領。
- 返品。
- 請求書。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 支払。

行

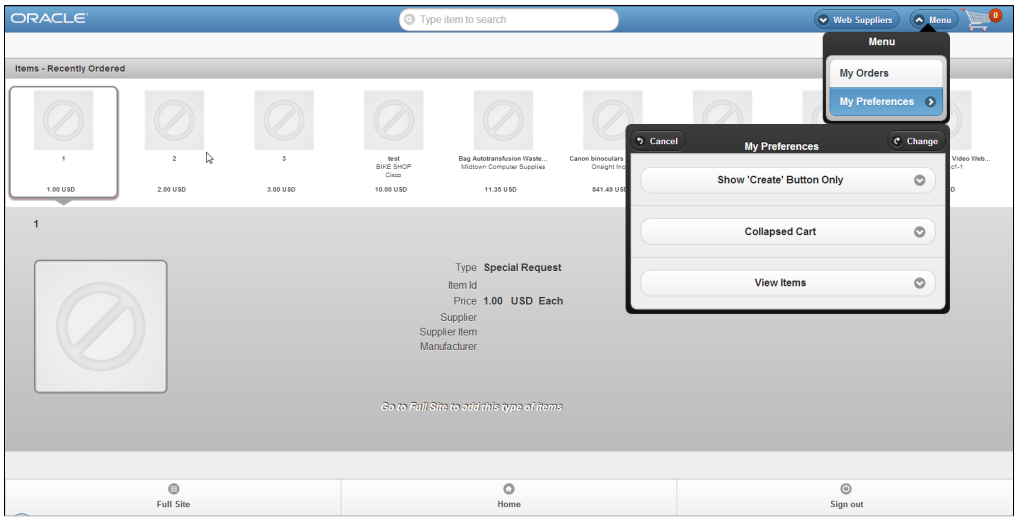
このセクションには、選択した調達依頼書の調達依頼行詳細が表示されます。

ユーザー設定

[ユーザー設定] ページレットを使用して、作成、送信、カート、およびアイテムの表示の表示オプションを選択します。

画像: 設定

設定



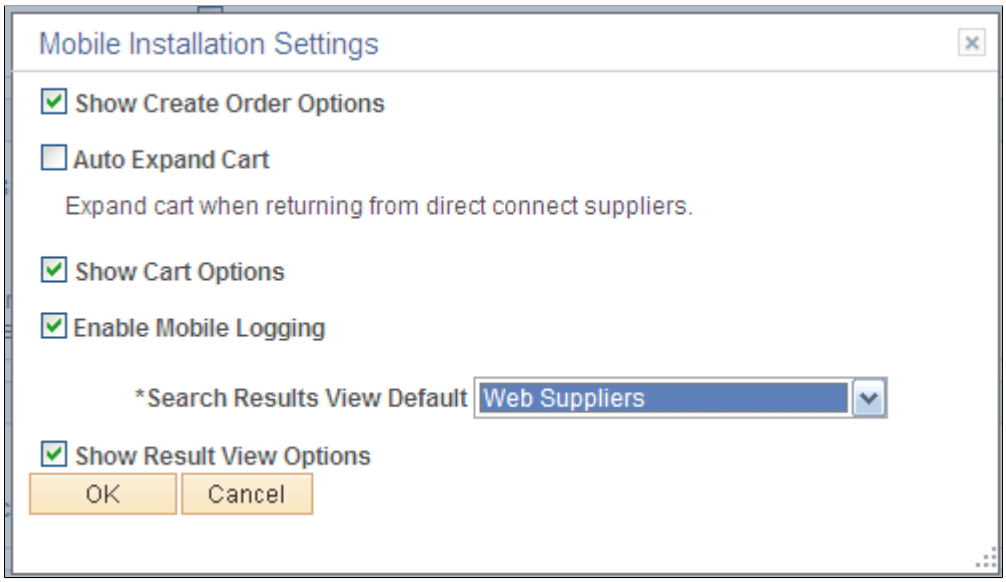
これらのオプションは、eProcurement インストール オプション ページの [モバイル インストール設定] セクションで設定されます ([eProcurement-調達管理]、[eProcurement 管理]、[システム オプション管

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

理]、[eProcurement インストール オプション]、[モバイル インストール設定])。ただし、持っている権限に基づいて、これらのオプションはメニュー レベルで上書きできます。

画像: モバイル インストール設定ページ

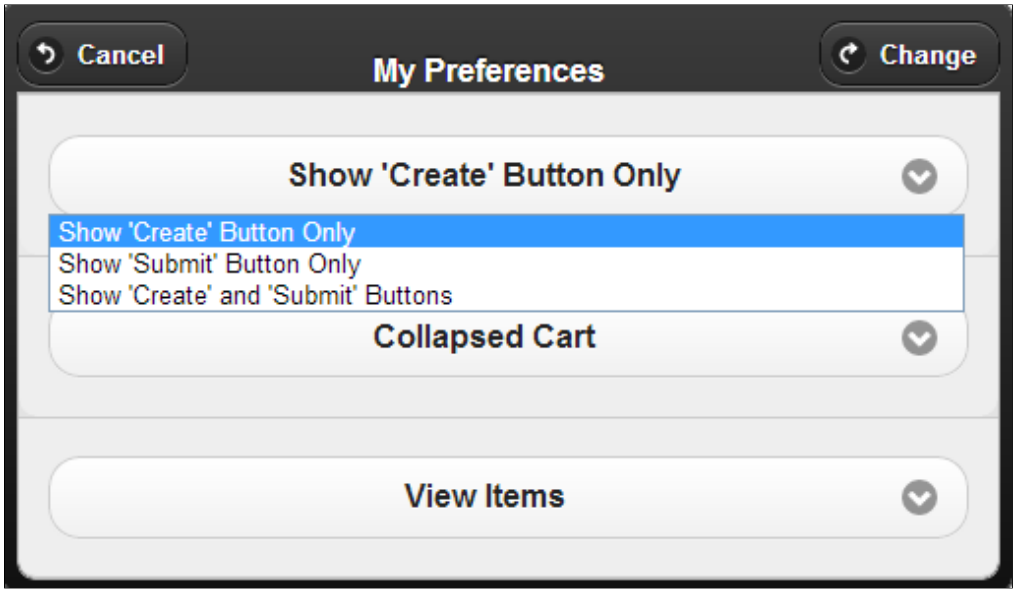
モバイル インストール設定ページ



[[作成] ボタンのみ表示] バーをタップすると、[作成] および [送信] ボタンについての表示オプションを選択できます。

画像: [作成] および [送信] ボタンのオプション

[作成] および [送信] ボタンのオプション



[作成] ボタンのみ表示 調達依頼を作成する [作成] ボタンのみを表示し、承認用に送信はしません。オーダー作成時には [フル サイトで編集] リンク

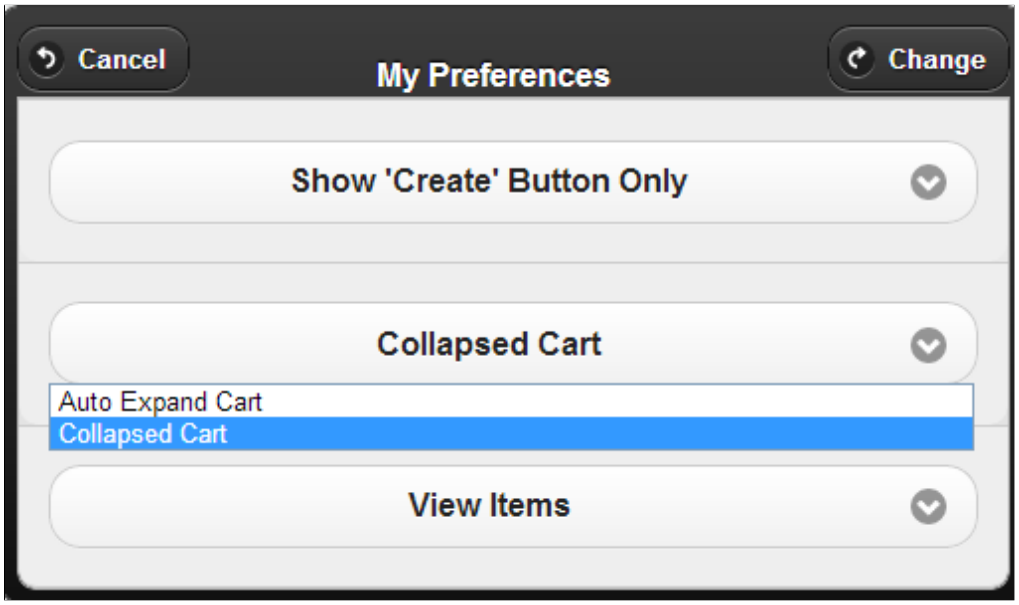
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

	が表示され、ユーザーは必要に応じて、新しく作成した調達依頼をフル サイトで開いてさらにデータを入力できます。
[送信] ボタンのみ表示	調達依頼を作成して承認用に送信する [送信] ボタンのみを表示するよう選択できます。該当する場合は、承認モニターへのリンクがオーダー送信の際に表示されます。
[作成] ボタンと [送信] ボタンを表示	[作成] および [送信] ボタンの両方を表示するように選択し、モバイル デバイスでどちらのオプションも実行できるようにできます。

[折りたたまれたカート] バーをタップすると、パンチアウトしたサプライヤの Web サイトから戻ったときの [カート] アイコンの表示オプションを選択します。

画像: 折りたたまれたカート

折りたたまれたカート



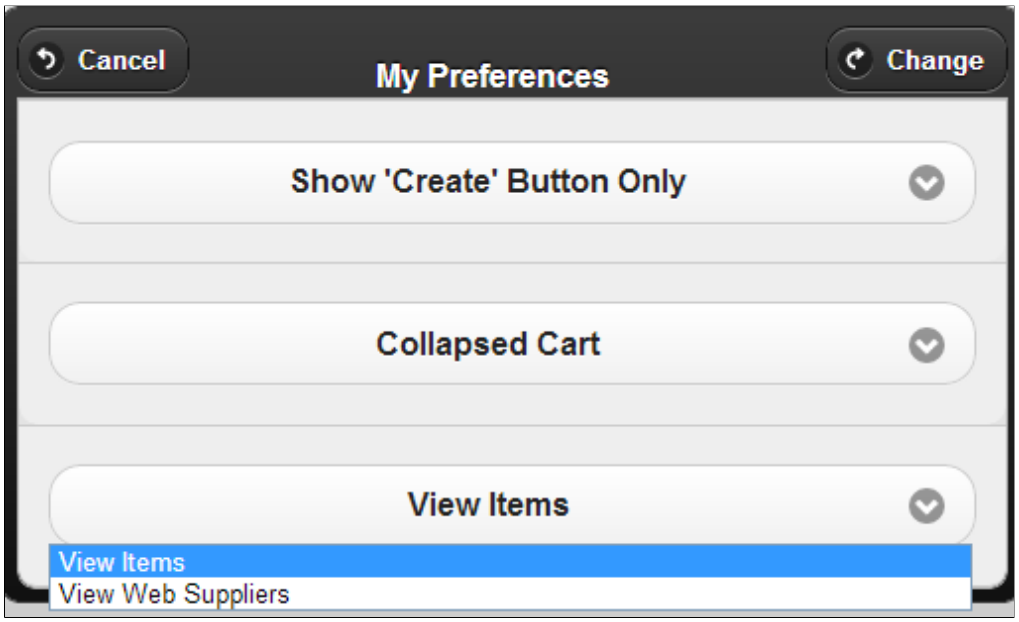
カートを自動展開	サプライヤの Web サイトから戻ってカートにアイテムを移動したときに、カートを展開して表示するよう選択できます。
折りたたまれたカート	サプライヤの Web サイトから戻ってカートにアイテムを移動したときに、カートを折りたたんで表示するよう選択できます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

[Web サプライヤの表示] バーをタップすると、検索結果ページにデフォルトで表示したいアイテムのオプションを選択します。

画像: Web サプライヤの表示

Web サプライヤの表示



アイテムの表示	デフォルトでカタログ アイテムが表示されるように選択できます。
Web サプライヤの表示	デフォルトで直接接続アイテムが表示されるように選択できます。

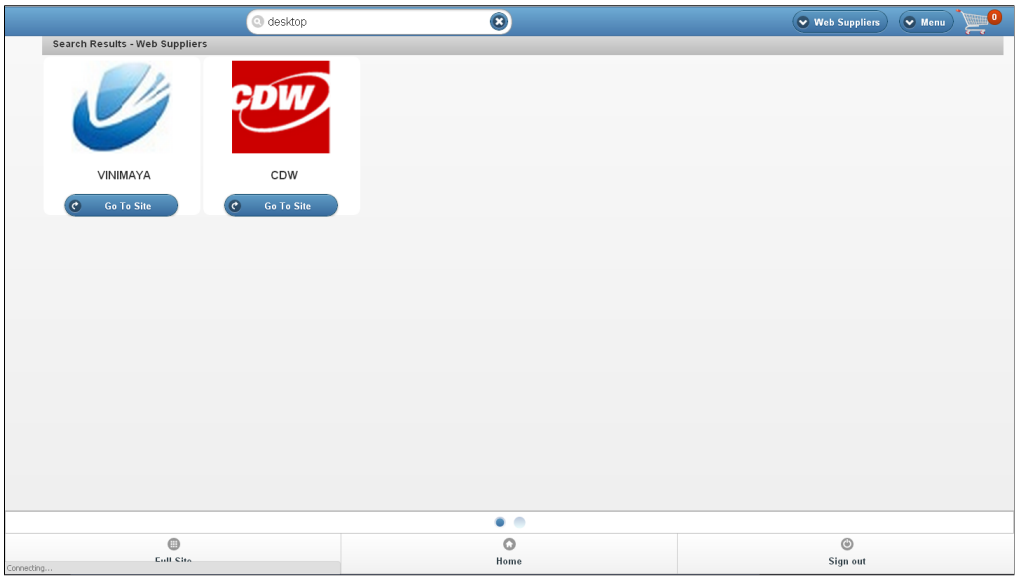
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

モバイル タブレットからの検索およびショッピング カートの管理

キーワード検索に加えて、フィルタを使用してアイテムを検索できます。キーワード検索の一環として、Web サプライヤを検索することもできます。

画像: 検索結果 - Web サプライヤ ページ

検索結果 - Web サプライヤ ページ



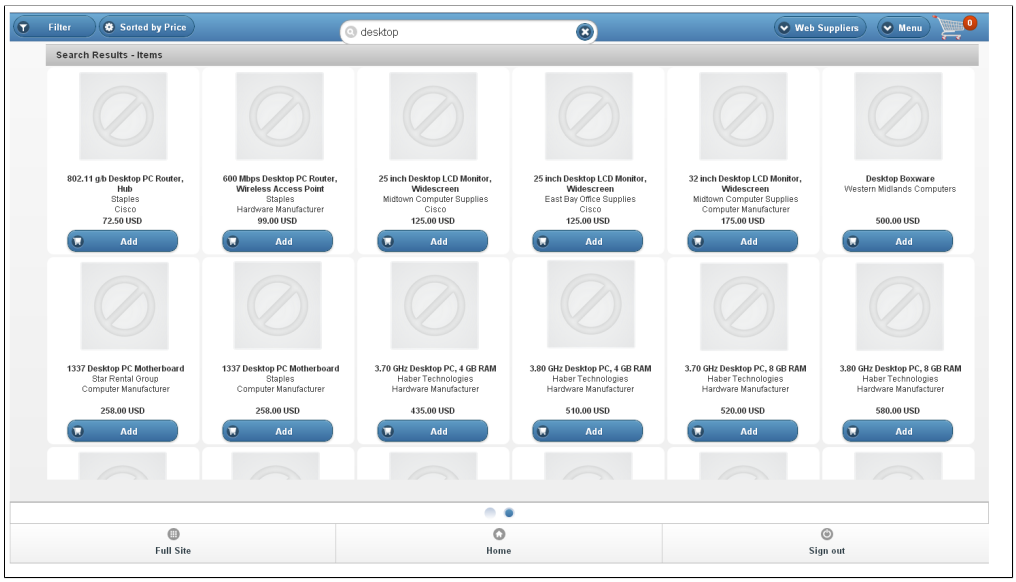
Web サプライヤの 検索結果ページでは、[フィルタ] オプションおよび [ソート基準] オプションは検索結果に適用されないため、非表示になっています。[サイトへ移動] ボタンをクリックすると、選択したサプライヤの Web サイトにパンチアウトできます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ドロップダウン フィルタ リストに表示されるファセットから選択することで検索結果を絞り込むことができます。必要に応じてファセットをソートすることもできます。

画像: 検索結果 - 価格でソート ページ

検索結果 - 価格でソート ページ



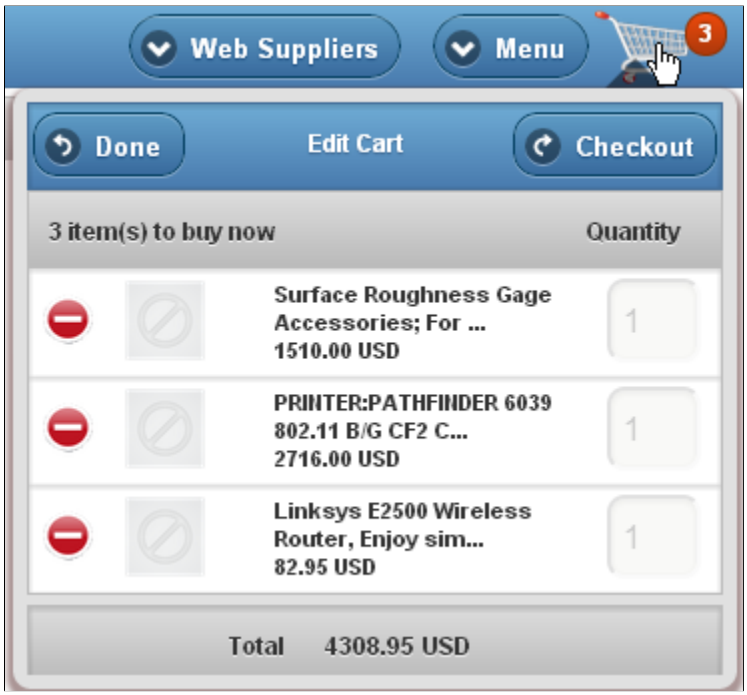
検索結果にカタログ アイテムと Web サプライヤの両方が含まれている場合、検索結果ではカタログ アイテムと Web サプライヤは別のページに表示されます。2 つの検索結果ページはスワイプすることで切り替えられます。検索結果の一番下にはページ インジケータが表示されますが、Web サプライヤがない場合は表示されません。特定の検索においてカタログ アイテムと Web サプライヤのいずれも見つからない場合、その点について通知するメッセージが表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

カタログまたは直接接続アイテムがカートに追加されると、追加されたアイテムの数がショッピング カート アイコンに示されます。アイコンをタップすると、アイテムの詳細を表示および編集できます。

画像: ショッピング カート

ショッピング カート



ただし、直接接続アイテムの場合は数量フィールドを編集できません。表示のみです。数量を更新するには、該当するサプライヤの Web サイトにパンチアウトする必要があります。

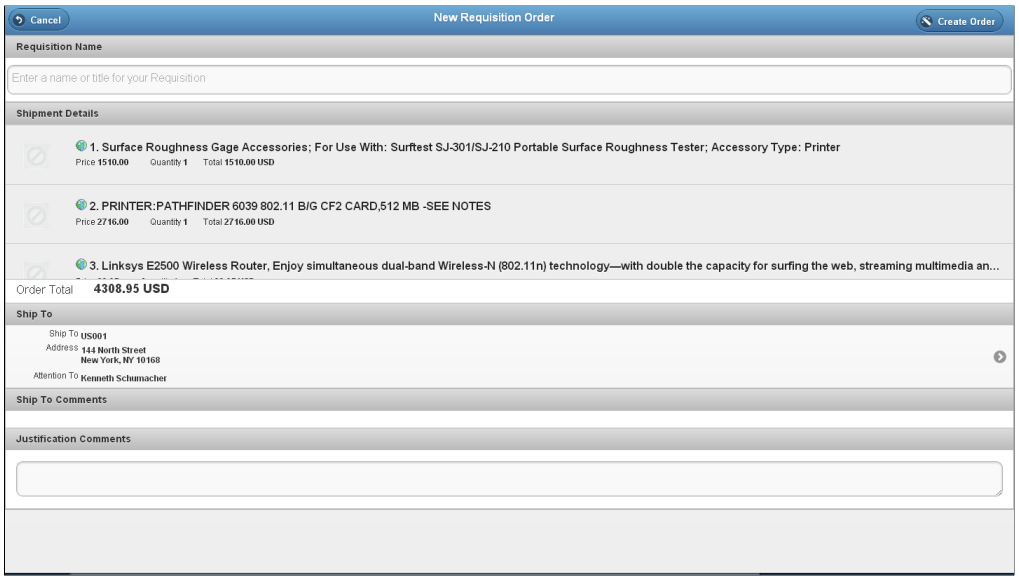
ショッピング カートからチェック アウトすると、[発注書の作成] ボタンと [発注の作成と送信] ボタンの両方がある新規調達依頼ページが表示されます (基本設定で両方のオプションを表示するように設定され

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ている場合)。カタログ アイテムと直接接続アイテムには、区別できるように異なるアイコンが表示されます。直接接続アイテムは地球のアイコンで示されます。

画像: 新規調達依頼ページ

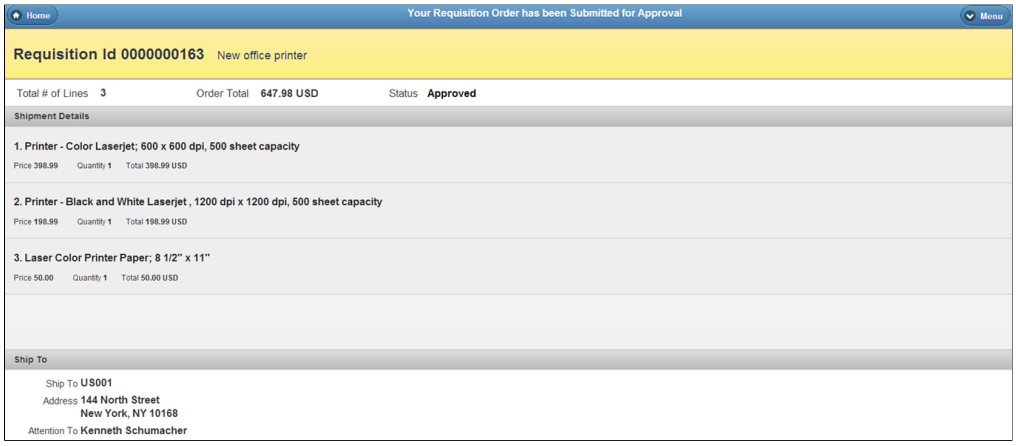
新規調達依頼ページ



調達依頼書名と購買理由を入力します。用意ができたら、基本設定が有効化されていれば、[発注書の作成] ボタンを選択するか、または [発注の作成と送信] ボタンを選択します。オーダーを送信すると、受注の確認ページが表示されます。

画像: 受注の確認ページ

次の例では、受注の確認ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft モバイル時間入力の使用

モバイル時間入力を使用するための PeopleSoft システムの設定

モバイル時間入力を使用するように PeopleSoft システムを設定するには、モバイル時間入力機能を使用する従業員のための新しい権限リストおよび新しい権限を作成することを推奨します。

モバイル時間入力を使用するための PeopleSoft システムの設定に使用するページ

ページ名	*オブジェクト名*	*用途*
権限リスト - 一般	ACL_GENERAL	モバイル時間入力機能を使用する従業員のための新しい権限リストを作成します。 [PeopleTools], [セキュリティ], [権限 / ロール], [権限リスト]。
権限リスト - コンポーネント インターフェイス	ACL_COMP_INTERFACE	[PeopleTools], [セキュリティ], [権限 / ロール], [権限リスト]。[コンポーネント インターフェイス] タブを選択します。 TE_TIME_ENTRY コンポーネント インターフェイスを追加します。
コンポーネント インターフェイス権限	CI_ACCESS	コンポーネント インターフェイス ページに追加された各コンポーネント インターフェイスについて、リストされている全てのメソッドに対する権限を選択します。 [PeopleTools], [セキュリティ], [権限 / ロール], [権限リスト]。[コンポーネント インターフェイス] タブを選択します。コンポーネント インターフェイス ページで [編集] リンクをクリックします。
権限リスト - Web ライブラリ	ACL_WEBLIBS	WEBLIB_MBL_TE Web ライブラリを追加します。 [PeopleTools], [セキュリティ], [権限 / ロール], [権限リスト]。[Web ライブラリ] タブを選択します。
Web ライブラリ権限	ACL_WEBLIB_ACCESS	各関数のアクセス オプションを選択します。 [PeopleTools], [セキュリティ], [権限 / ロール], [権限リスト]。[Web ライブラリ] タブを選択します。Web ライブラリ ページで [編集] リンクをクリックします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ページ名	*オブジェクト名*	*用途*
ロール - 権限リスト	ROLE_CLASS	モバイル時間入力にアクセスする必要がある従業員に対する新しいロールを追加します。このロール内で、権限リスト - 一般ページで定義した新しい権限リストをロールに追加します。 [PeopleTools], [セキュリティ], [ロール], [権限リスト]。[権限リスト] タブを選択します。
ユーザー プロファイル - ロール	USER_ROLES	ロール ページで定義したロールを、モバイル時間入力にアクセスする必要がある従業員のユーザー ID に対して追加します。 [PeopleTools], [セキュリティ], [ユーザー プロファイル], [ユーザー プロファイル]。[ロール] タブを選択します。

モバイル時間入力機能について

PeopleSoft 経費管理 - モバイル時間入力についての短いビデオをご覧ください。

モバイル時間入力は PeopleSoft 経費管理と統合されています。モバイル時間入力は Web ベースであり、プラットフォームで HTML 5 がサポートされていればモバイル デバイスに追加のアプリケーションをロードする必要はありません。モバイル時間入力は Apple iOS および Google Android プラットフォームでサポートされています。

モバイル デバイスでの時間入力をスマートフォンやタブレットを使用して実行できます。ただし、スマートフォンおよびタブレットの場合はユーザー インターフェイスに違いがあることを理解しておくのは重要です。モバイル デバイスでのデータの入力時には、ユーザーがトランザクションの詳細を完了するとシステムにより自動的にデータが保存されます。これにより、携帯電話または Wi-Fi の信号が途切れたとしてもデータが失われるリスクは少なくなります。

モバイル時間入力では、通知を表示するのにモバイル経費管理と同じ設定を使用します。通知の表示は逆日付順になり、最新の通知が最初に表示されます。通知の設定と使用の詳細については、「通知/発表ページ」を参照してください。

スマートフォンのユーザー インターフェイスについて

スマートフォンを使用して時間を入力する際、カレンダー モードとタイムシート モードの 2 つのユーザー インターフェイス オプションがあります。この 2 つのモードはスマートフォンの一番下にあるトグル ボタンをタップすることで切り替えが可能です。

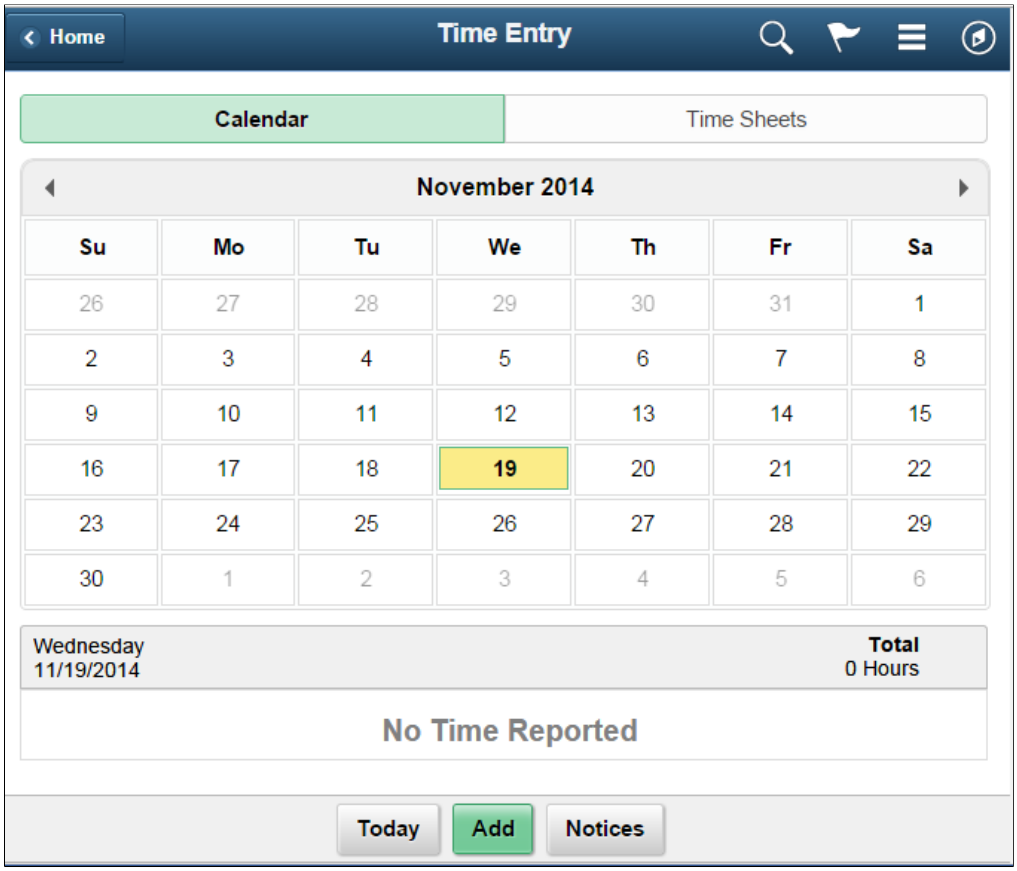
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

組織ではいくつかのタイムシート オプションを設定でき、これには時間を日次ベース、週次ベース、隔月ベース、または月次ベースのいずれで入力するかが含まれます。このオプションは、PeopleSoft 経費管理の経費管理定義 - ビジネス ユニット ページにある勤務時間レポート オプション セクションで決定されます。このタイムシート オプションに基づき、スマートフォンでは新しいタイムシートを作成する際に、カレンダー モードとタイムシート モードのいずれが選択されているかとは関係なく、この設定を使用して適切なフォーマットを作成します。したがって、組織で日次ベースのタイムシート オプションを使用している場合、最大で 1 か月に 31 のタイムシートを作成可能です。組織で週次ベースのタイムシート オプションを使用している場合、タイムシートは 1 か月につき 4 つまでしか作成されません。

一般にスマートフォンで使用する標準のジェスチャを使用します。たとえば、日やボタン、特定の行の詳細を選択するにはタップします。行をスワイプすると削除オプションにアクセスできます。

画像: モバイル時間入力ページ (カレンダー表示)

次の例では、モバイル時間入力ページ (カレンダー表示) のフィールドおよびコントロールを説明します。



スマートフォンでのカレンダー モードの使用

スマートフォンでカレンダー モードを使用している場合、特定の日を選択してその日のエントリが表示されるスクロール可能領域を表示できます。このモードでは、過去 3 か月間に入力された全てのトランザクションが、次の表示インジケータと共に表示されます。

- 緑のチェック マークは、勤務時間レポートのステータスが送信済またはそれ以降 (承認済、処理済など) であることを示します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- オレンジの丸は、その日の時間が入力および保存されているものの、送信されていないことを示します。

カレンダー モードは、毎日時間を入力するユーザーで、スマートフォンのカレンダーを使用して操作することを好むユーザーに最適です。

カレンダー モードでアクセスすると、現在の日付がデフォルトの日付となり、白で反転表示されます。別の日付を選択すると、現在の日付が黄色で、選択した日付が白で反転表示されます。

カレンダー モードでは次のボタンを使用します。

ボタンまたはフィールド	*説明*
通知	[通知] ボタンをタップすると、時間入力通知を表示するモーダル ウィンドウにアクセスします。
追加	[追加] ボタンをタップすると時間を追加します。カレンダー モードの場合、システムでは青で反転表示された日付が使用され、その日に新規行が追加されて、時間を入力できます。
今日	[今日] をタップすると、現在の日付が選択日付になります。
[カレンダー] または [タイムシート] のトグル	[カレンダー] または [タイムシート] をタップすると、この 2 つの入力モードを切り替えます。
送信	[送信] ボタンをタップすると、時間入力を送信します。このボタンは、カレンダー モードの場合の日次タイムシートに対してのみ表示されます。週次タイムシートや月次タイムシートなど、他のタイムシート タイプを使用している場合、時間を送信するにはタイムシート モードにアクセスする必要があります。

スクロール可能領域

カレンダー モードの場合、スマートフォンのスクロール可能領域に、選択された日の全ての時間入力行がリストされます。行をタップするとそのエントリの詳細にアクセスでき、行をスワイプすると削除ボタンを表示できます。削除可能なのは承認待ちおよび未提出の行のみです。

カレンダー モードでの時間の追加

カレンダー モードで時間を追加するには、プラス記号のボタンをタップします。2 つのボタンが表示されます。

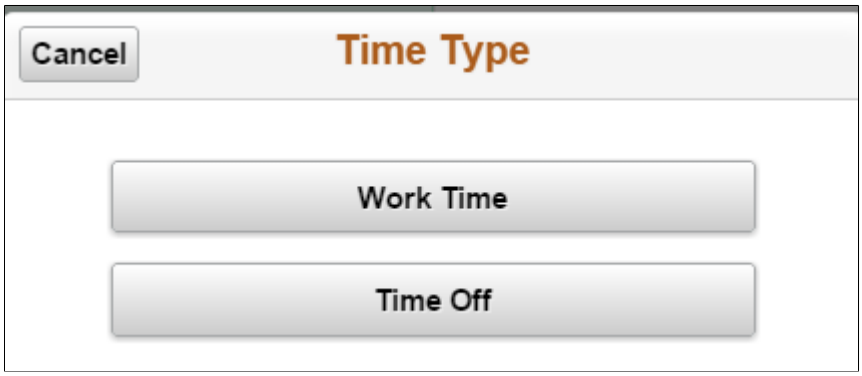
- プロジェクトベースの時間を入力するには [勤務時間] を選択します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 仕事をしていない日を入力するには [休暇] を選択します。

画像: 時間タイプ ページ

次の例では、時間タイプ ページのフィールドおよびコントロールを説明します。

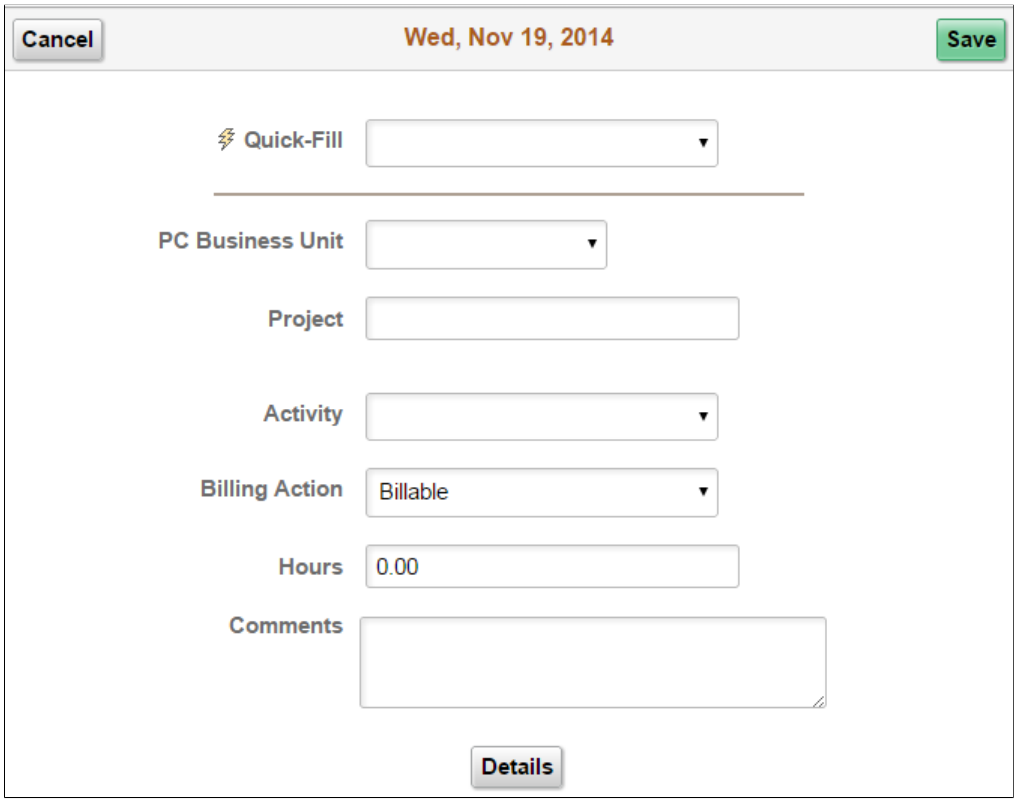


カレンダー モードでの勤務時間詳細の入力

カレンダー モードで [勤務時間] が選択された場合、このページを使用して時間詳細を入力します。

画像: 勤務時間入力ページ - 勤務時間

次の例では、[勤務時間] が選択されたときの勤務時間入力ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



勤務時間入力ページには次のボタンとフィールドがあります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ボタンまたはフィールド	*説明*
キャンセル	[キャンセル] ボタンをタップすると、カレンダー表示に戻ります。
保存	[保存] ボタンをタップすると、エントリを保存します。自動的にカレンダー表示に戻ります。
クイック入力	[クイック入力] ドロップダウン リストのオプションを選択します。最大 4 つのお気に入りテンプレートおよび最近のタイムシート 4 つが表示されます。 定番: 従業員プロファイル - ユーザー デフォルト ページの [勤務時間デフォルト] セクションで設定されています。[勤務時間デフォルト] セクションに入力されているフィールドがデフォルトで表示されます。これらのフィールドには、[国]、[都道府県]、[支出地]、[請求タイプ]、[プロジェクト チャートフィールドの表示] オプション、および [勤務時間のプロジェクト デフォルト] グリッドに入力された全てのフィールドが含まれます。時間数がデフォルトで [時間数] フィールドから表示されます。 最近のアイテム: システムにより最近のプロジェクトおよびアクティビティの組合せが表示されます。最近のタイムシートから、[プロジェクト原価管理ビジネス ユニット]、[プロジェクト]、[アクティビティ]、[リソース タイプ]、[リソース カテゴリ]、[リソース サブカテゴリ]、[所在地]、[一般会計ビジネス ユニット]、[部門] および [資金] の各フィールドがコピーされます (入力されている場合)。前のタイムシートから時間はコピーされません。
プロジェクト コスト管理ユニット	プロジェクト チームの適用が PeopleSoft プロジェクト コスト管理でアクティブ化されている場合、ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。これはプロジェクト コスト管理オプション ページの [チーム適用] セクションで実行されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ボタンまたはフィールド	*説明*
プロジェクトおよびアクティビティ	プロジェクト チームの適用が PeopleSoft プロジェクト コスト管理でアクティブ化されている場合、ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。これはプロジェクト コスト管理オプション ページの [チーム適用] セクションで実行されます。 経費管理定義 - ビジネス ユニット ページの [時間グリッドの表示]、[プロジェクト時間オプション] セクションで選択された [プロジェクト チャートフィールドの表示] オプションに基づいてプロジェクト ID またはプロジェクト名称が表示されます。オプションにはコードおよび名称が含まれます。この表示オプションは、従業員プロファイル - ユーザー デフォルト ページの [勤務時間デフォルト] セクションで上書きできます。 さらに、自由形式のテキストを入力できます。
ソース タイプ、カテゴリおよびサブカテゴリ	ドロップダウン リストが表示されます。 さらに、自由形式のテキストを入力できます。 これらのフィールドは、従業員権限テンプレートでそのロールに対して表示するよう選択されていない限り、非表示になっています。
請求アクション	ドロップダウン リストが表示され、[請求可能]、[請求対象外] および [内部] のいずれかから選択できます。
時間	その日の勤務時間数を入力します。
詳細	[詳細] ボタンをタップすると、モーダル ウィンドウにアクセスします。このウィンドウには、GL BU (一般会計ビジネス ユニット)、部門、資金、国、都道府県/州、支出地、ソース タイプ、カテゴリおよびサブカテゴリのフィールドが表示されます。

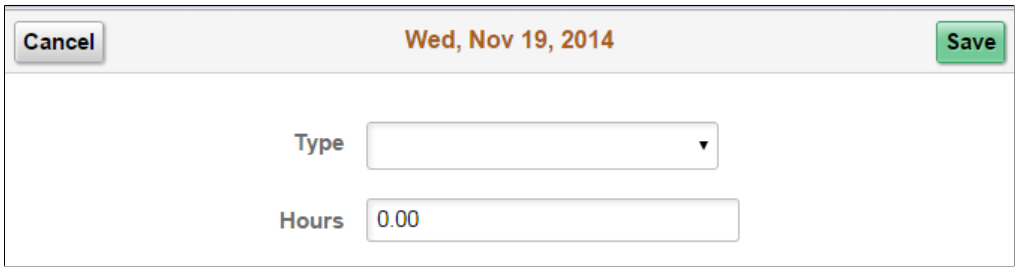
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

カレンダー モードでの休暇の入力

カレンダー モードで [休暇] が選択された場合、このページを使用して時間詳細を入力します。

画像: 勤務時間入力ページ - 休暇

次の例では、[休暇] が選択されたときの勤務時間入力ページのフィールドおよびコントロールを説明します。



(カレンダー モードで [休暇] が選択された場合の) 勤務時間入力ページには次のボタンとフィールドがあります。

ボタンまたはフィールド	*説明*
[キャンセル] ボタン	[キャンセル] ボタンをタップすると、カレンダー表示に戻ります。
[保存] ボタン	[保存] ボタンをタップすると、エントリを保存します。自動的にカレンダー表示に戻ります。
タイプ	勤務時間レポート コード ページに追加された組織のセットIDのオプションが表示されるドロップダウン リストが表示されます。

カレンダー モードでの送信済期間の時間調整

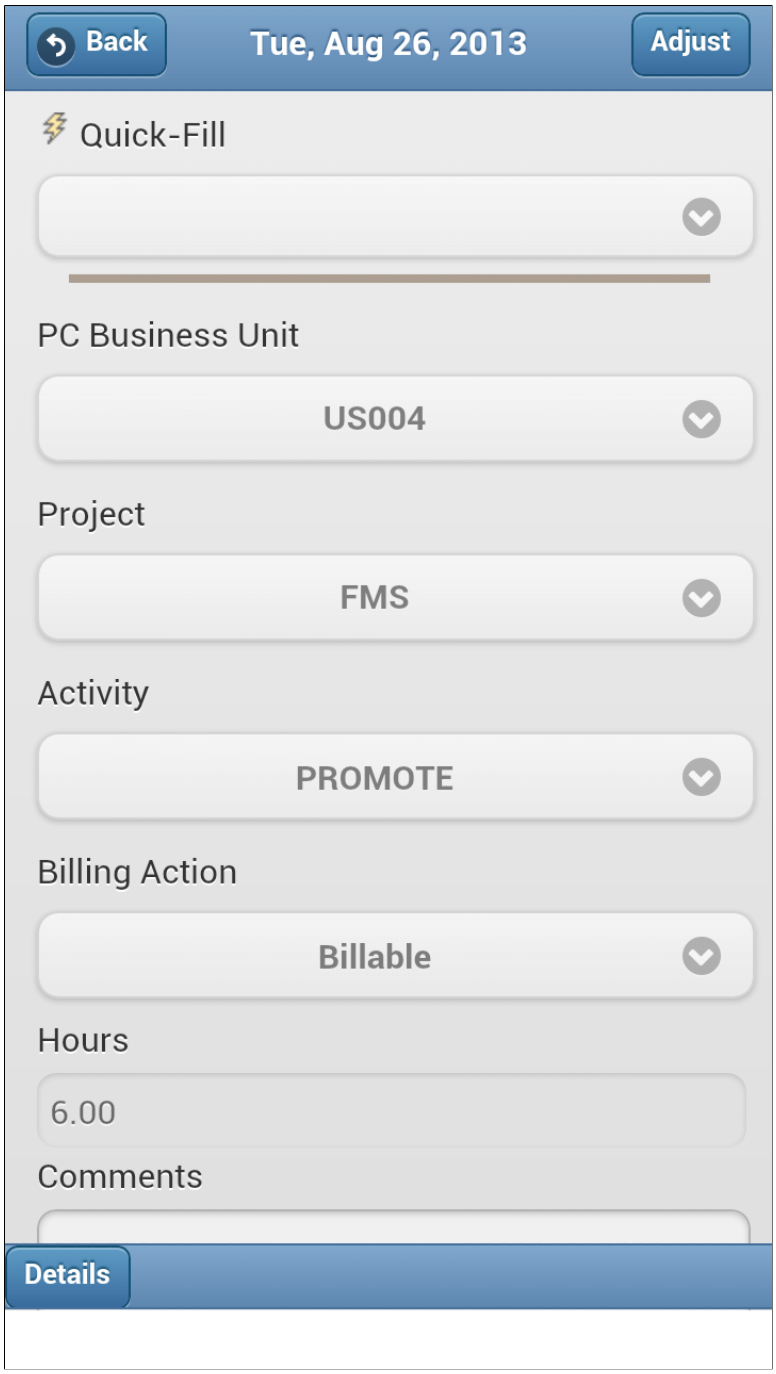
カレンダー モードの場合、送信済時間には緑のチェック マークが付きます。前期間を調整する権限がある場合、その日付をタップすると、時間入力詳細が読み取り専用で表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このページを使用して、過去の日または期間に送信された時間をカレンダー モードで表示します。

画像: 日単位の時間入力 - カレンダー モード

次の例では、日単位の時間入力 - カレンダー モードのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



[調整] ボタンを使用して、調整を行うためのフィールドを開きます。[調整] ボタンは、タイムシート データが PeopleSoft プロジェクト コスト管理によって処理された後にのみ使用可能になります。

調整を入力したら、[保存] ボタンをタップします。タイムシート リストが表示され、その期間のステータスが調整待ちと表示されます。そのタイムシートを選択して詳細にアクセスし、[送信] ボタンをタップできます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

スマートフォンでのタイムシート モードの使用

タイムシート モードを使用すると、作成された全てのタイムシートをスクロール可能リストに表示できます。このリストにはタイムシートのステータスも表示されます。いずれかの行をタップしてタイムシートの詳細を表示できます。このモードでは、週次、隔月、または月次のタイムシート オプションを使用している場合は過去 3 か月に入力された全てのタイムシートが、日次のタイムシート オプションを使用している場合は過去 3 週間に入力された全てのタイムシートが表示されます。

送信済 (以降) のステータスのタイムシートにアクセスすると、読み取り専用としてそのタイムシートが表示されます。保留中のタイムシートが編集可能です。ただし、前期間調整 (タイムシートが PeopleSoft プロ

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

ジェクト コスト管理により処理された後に可能) を行う権限がある場合、送信済のタイムシートにアクセスして変更を加えることができます。

画像: タイムシート リスト

次の例では、タイムシート リストのフィールドおよびコントロールを説明します。



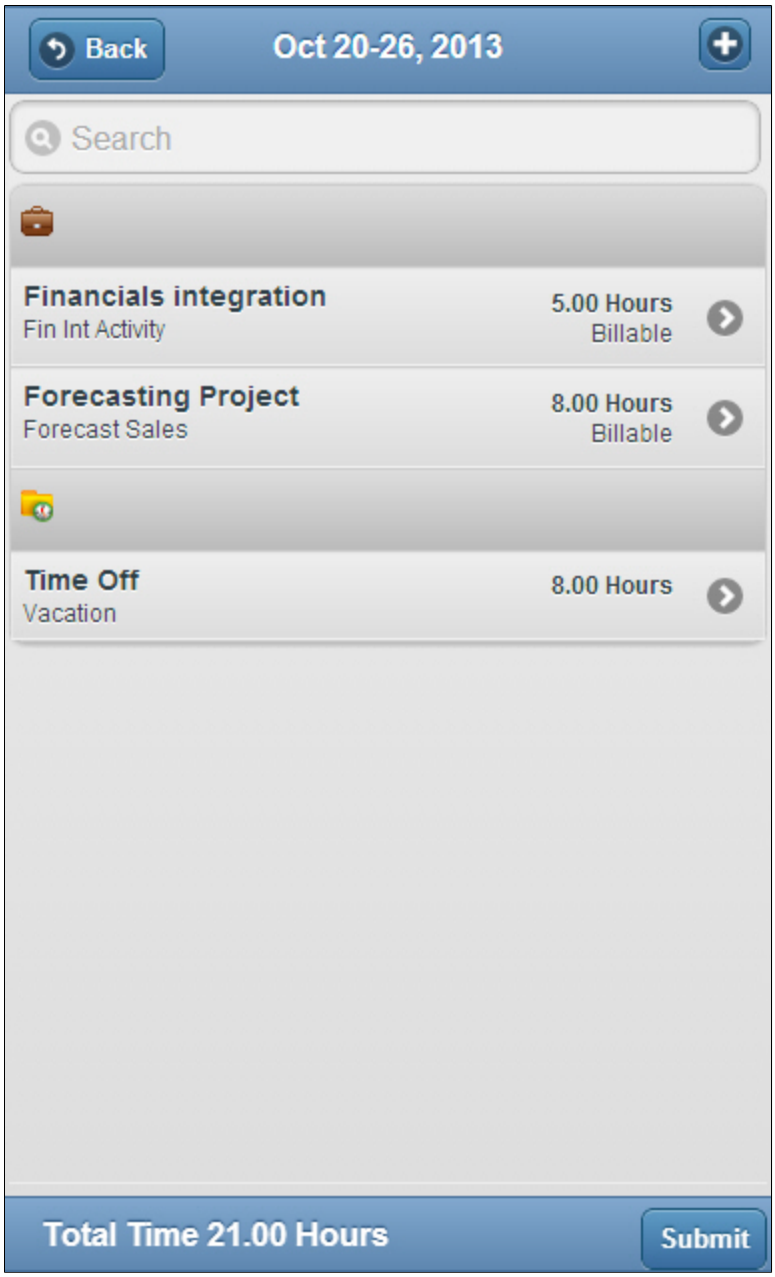
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

既存のタイムシートの表示

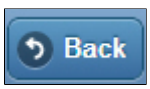
既存のタイムシートを表示するには、タイムシート リストの行をタップします。このページを使用して、ある期間の既存のタイムシートを表示します。

画像: タイムシート期間表示

次の例では、タイムシート期間表示のフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



次のボタンを使用します。



[戻る] ボタンをタップすると、タイムシート表示に戻ります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.



プラス記号ボタンをタップすると時間を追加します。2 つのボタンが表示されます。

- プロジェクトベースの時間を入力するには [勤務時間] を選択します。
- 仕事をしていない日を入力するには [休暇] を選択します。

システムにより行が追加され、時間詳細を入力するページが表示されます。

プロジェクト、アクティビティ、時間 および 請求アクション

プロジェクト、アクティビティ、時間および請求アクションを表示します。

プロジェクトおよびアクティビティのフィールドについては、システムにより、経費管理定義 - ビジネス ユニット ページの [時間グリッドの表示]、[プロジェクト時間オプション] セクションで選択された [プロジェクト チャートフィールドの表示] オプションに基づいて ID または名称が表示されます。オプションにはコードおよび名称が含まれます。



[送信] ボタンをタップすると、時間入力を送信します。確認ウィンドウが表示され、[はい] をタップしてタイムシートを送信するか、[いいえ] をタップして送信をキャンセルできます。

このボタンは、タイムシートが保留中ステータスの場合にのみ表示されます。

タイムシート モードでの時間の追加

タイムシート モードで時間を追加するには、次の手順に従います。

1. タイムシート リストからプラス記号ボタンをタップします。

   カレンダーが表示されます。

2. 自分が時間を入力する方法に基づき、次を実行します。

   a. 日次ベースで時間を入力する場合は日付をタップします。

   b. 週次ベース、隔月ベース、または月次ベースで入力する場合は期間の終了日をタップします。

3. [OK] をタップします。

選択された日付が実際にその期間の最終日かどうか、あるいはその日付がタイムシート期間内かどうかがシステムによって判断されます。その期間のタイムシートが存在する場合、既存のタイムシートを開くかどうかをたずねるメッセージが表示されます。そうでない場合は、その期間の新規タイムシートが開きます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

前のタイムシートからのコピー

前のタイムシートからコピーしてタイムシートを追加するには、次の手順に従います。

1. 前に入力したタイムシートにタイムシート リストからアクセスします。
2. 既存のタイムシートを 2 秒間押したままにします。

   [コピー] ボタンが表示されます。
3. [コピー] ボタンをタップします。

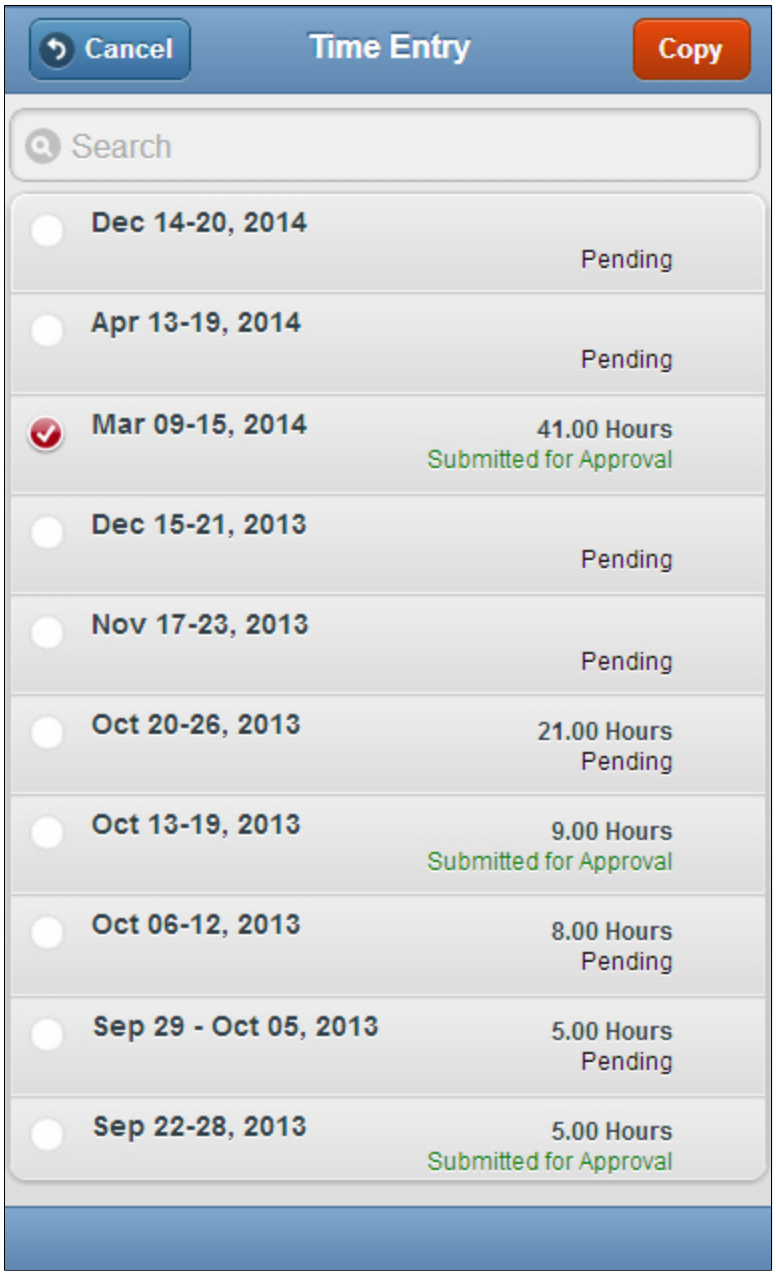
   カレンダーが表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

4. 「タイムシート モードでの時間の追加」手順のステップ 2 を続行します。

画像: タイムシート表示 - [コピー] ボタン

次の例では、タイムシート表示 - [コピー] ボタンのフィールドおよびコントロールを説明します。



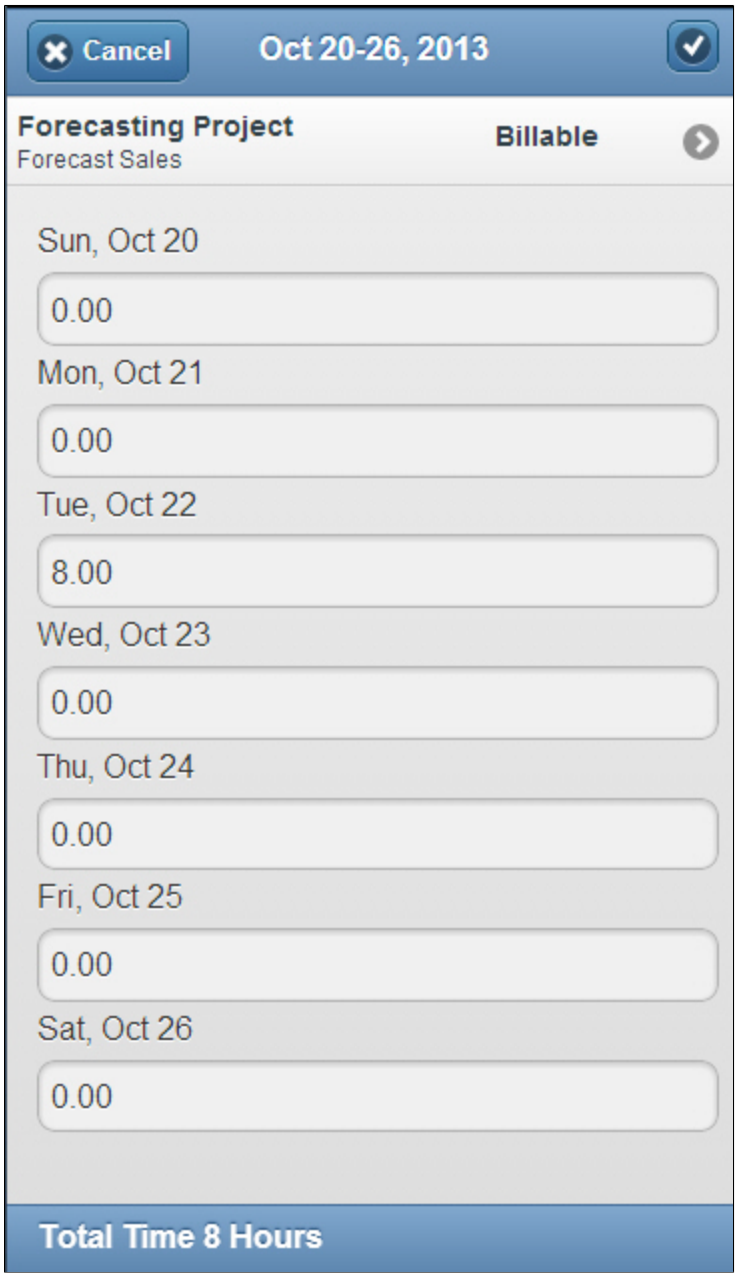
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

タイムシート モードでの勤務時間詳細の入力

このページを使用して、タイムシート モードで時間詳細を入力します。

画像: 勤務時間入力ページ - タイムシート モード

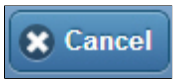
次の例では、時間入力ページ - タイムシート モードのフィールドおよびコントロールを説明します。このページのフィールドおよびコントロールの定義は後で説明します。



タイムシート モードの勤務時間入力ページは、組織のタイムシート オプション (日次、週次、隔月または月次) に基づいており、スクロール可能領域となっています。組織のタイムシート オプションは、PeopleSoft 経費管理の経費管理定義 - ビジネス ユニット ページにある勤務時間レポート オプション セクションで決定されます。

次のボタンを使用します。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

	[キャンセル] ボタンをタップすると、タイムシートの行リストに戻ります。
	チェック マークをタップすると、エントリを保存します。タイムシートの行リストに自動的に戻ります。
プロジェクト、アクティビティ、請求アクション	プロジェクト、アクティビティおよび請求アクションを表示します。
	右向き矢印をタップすると、プロジェクト情報を表示または編集できます。

タイムシート モードでの送信済期間の時間調整

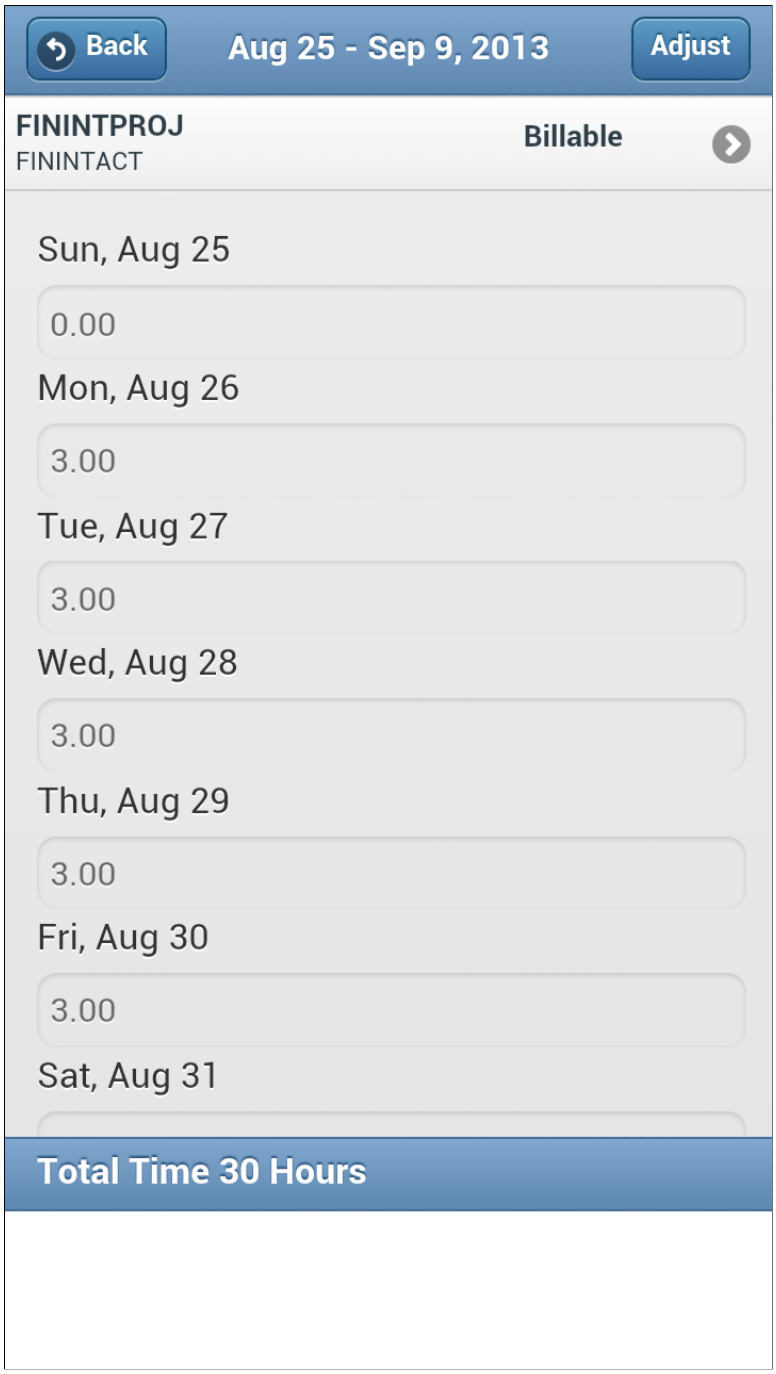
タイムシート モードのときに、前期間を調整する権限がある場合、そのタイムシートをタップすると、時間入力詳細が読み取り専用で表示されます。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このページを使用して、過去の日または期間に送信された時間をタイムシート モードで表示します。

画像: 期間時間入力 - タイムシート モード

次の例では、期間時間入力 - タイムシート モードのユーザー インターフェイスのフィールドおよびコントロールを説明します。



[調整] ボタンを使用すると、調整を行うためのフィールドが開き、下に赤で [時間調整] ボタンが表示されます。[調整] ボタンは、タイムシート データが PeopleSoft プロジェクト コスト管理によって処理された後にのみ使用可能になります。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

調整を入力したら、[保存] ボタンをタップします。タイムシート リストが表示され、その期間のステータスが調整待ちと表示されます。そのタイムシートを選択して詳細にアクセスし、[送信] ボタンをタップできます。

タブレットまたはパーソナル コンピュータを使用した時間の入力

タブレットでのモバイル時間入力の動作は携帯電話の場合と同じです。

このページを使用して、過去の日または期間に送信された時間をタイムシート モードで表示します。

画像: カレンダー表示 - タブレット

次の例では、カレンダー表示 - タブレットのフィールドおよびコントロールを説明します。



Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

付録A

サンプル データで提供されているサード パーティ イメージ

サンプル データで提供されているサード パーティ イメージの使用

PeopleSoft FSCM デモ データベースには、製品デモやカンファレンス ルーム パイロットといったデモ用に限定される制限付ライセンスの元で提供されたサンプル データ イメージが含まれています。該当するイメージを次にリストします。これらのサンプル イメージを実稼働環境で使用したい場合は、直接イメージの所有者に連絡して購入する必要があります。所有者のコンタクト情報については、My Oracle Supportの『Licensing Notes for Oracle's PeopleSoft Financial and Supply Chain Management (FSCM) 9.2』に記載されています。

イメージ	*所有者*	*イメージの所有者のメディア ID*
	Corbis	42-15416904
	Corbis	42-15419640
	Corbis	42-16540035

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

イメージ	*所有者*	*イメージの所有者のメディア ID*
	Corbis	42-16544887
	Corbis	42-16588263
	Corbis	42-17109039
	Corbis	42-17580047
	Corbis	42-19506591
	Corbis	42-19644350

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

イメージ	*所有者*	*イメージの所有者のメディア ID*
	Corbis	42-19714687
	Corbis	42-19719862
	Corbis	42-20065440
	Corbis	42-21090639
	Corbis	42-21853427
	Corbis	42-22430646

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

イメージ	*所有者*	*イメージの所有者のメディア ID*
	Corbis	42-22519894
	Corbis	42-22566189
	Corbis	42-22940690
	Corbis	42-22996268
	Corbis	42-23086157
	Corbis	42-23955787

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

イメージ	*所有者*	*イメージの所有者のメディア ID*
	Corbis	42-25839097
	Corbis	42-26000040
	Corbis	42-29578554
	Corbis	42-30531293
	Corbis	42-32046570
	Corbis	42-34880353

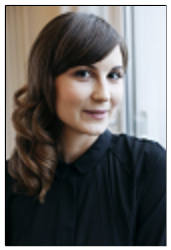
Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

イメージ	*所有者*	*イメージの所有者のメディア ID*
	Corbis	42-35908297
	Corbis	42-35908315
	Corbis	42-35908324
	Corbis	42-36105176
	Corbis	42-42982065
	Corbis	42-43601080

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

イメージ	*所有者*	*イメージの所有者のメディア ID*
	Corbis	42-46415347
	Corbis	42-46703418
	Corbis	42-46703429
	Corbis	42-46703433
	Corbis	42-48516807
	Corbis	42-50376686

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

イメージ	*所有者*	*イメージの所有者のメディア ID*
	Corbis	42-52972097
	Corbis	42-55678597
	Corbis	42-56874130
	Corbis	42-58283545
	Corbis	42-58751045
	Corbis	42-58751107

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

付録B

アプリケーションの基礎のレポート

アプリケーションの基礎のレポート: 一般的な説明

次の表では、PeopleSoft アプリケーションの基礎のレポートについての情報を提供します。

注: インストールされている PeopleTools のバージョンおよびアプリケーションのバンドル バージョンにより、XML Publisher (XMLP) および BI Publisher という 2 種類の表記があります。PeopleTools 8.52 から、XML Publisher (XMLP) への言及が BI Publisher に変更されました。これはレポートの変更を意味するわけではなく、命名規則が変更されただけです。

「レポートのチャートフィールドの管理」を参照してください。

レポート ID およびレポート名	*説明*	*ナビゲーション*	*ラン コントロール ページ*
APY0003 AP ユーザー プロファイル	買掛金のユーザー デフォルトをセットID ごとに表示します。ビジネス ユニット、セットID およびオリジンのデフォルト値、およびサプライヤおよび伝票処理権限をユーザーごとに表示します。	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [AP ユーザー基本設定レポート]	RUN_APY0003
APY0006 税務当局レポート	税務当局をセットID ごとに表示します。税務コード、名前、有効日、率およびチャートフィールド値が税務当局ごとに表示されます。	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [売上税/使用税], [当局レポート]	RUN_APY0006
APY0007 税コード レポート	税コードをセットID ごとに表示します。説明、税タイプ、消費税参照、税計算情報、税務当局、有効日および税率が税コードごとに表示されます。	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [売上税/使用税], [コード レポート]	RUN_APY0007
APY0012 会計入力テンプレート	使用可能な会計入力テンプレートを表示し、テンプレート名、有効日、タイプ、詳細、アカウント、部門、製品およびプロジェクトが表示されます。	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [会計入力テンプレート], [元帳テンプレート レポート]	RUN_APY0012

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

レポート ID およびレポート名	*説明*	*ナビゲーション*	*ラン コントロール ページ*
CFX001 チャートフィールド プロジェクト	チャートフィールドを個々の必要に合わせて設定するステップを表示します。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [設定ステップ]	RUN_CFC001
EO9030 クロス/相互レート計算	選択された為替レートで計算されたクロス レートを表示します。(SQR)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [市場レート], [クロス/相互レート計算]	RUN_EO9030
FSX0001 インストール オプション (BI Publisher)	PeopleSoft インストール テーブルのコンテンツを表示し、これにはアプリケーションで使用されるシステム全体のパラメータが含まれます。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [インストール], [インストール オプション レポート]	RUN_FIN0001
FSX0002 詳細カレンダー (BI Publisher)	詳細カレンダーについての情報を表示し、これには説明およびそのカレンダーに対して定義された期間のリストが含まれます。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [カレンダー/スケジュール], [詳細カレンダー レポート]	RUN_FIN0002
FSX0003 タイムスパン (BI Publisher)	説明と、開始年度、開始期間、終了年度および終了期間の情報を含む、セットID のタイムスパン定義が表示されます。このレポートにはさらに、タイムスパンに繰越残高および締め処理調整が含まれているかどうかも表示されます。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [カレンダー/スケジュール], [タイムスパン レポート]	RUN_FIN0003
FSX0004 勘定科目タイプ (BI Publisher)	全ての勘定科目タイプ (長いまたは短い説明的な名称) が表示され、その勘定科目タイプで残高の繰越が行われるかどうかが示されます。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [勘定科目タイプ]	RUN_FIN0004
FSX0005 統計単位 (BI Publisher)	統計単位表のコンテンツを示す、標準の、縦長レイアウトのレポートを表示します。このレポートには単位および説明も含まれます。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [単位], [単位レポート]	RUN_FIN0005

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

レポート ID およびレポート名	*説明*	*ナビゲーション*	*ラン コントロール ページ*
FIN0006 ユーザー基本設定	ユーザー基本設定ページでシステム ユーザーに対して入力した値が表示されます。ユーザー ID、ビジネス ユニット、セットID、元帳、ソース、および指定日も表示されます。これらは、各ユーザーによって使用されるページおよびレポートに表示されるデフォルト設定です。(SQR)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ユーザー基本設定], [ユーザー基本設定レポート]	RUN_FIN0006
FSX0007 スピード入力 リスト (BI Publisher)	スピード入力の有効なリストを表示します。スピード入力を使用すると、ページの 1 つまたは複数のフィールドについてシステムによる事前指定値への拡張をトリガーするショートハンド キーを入力できます。各スピード入力について、レポートでは説明、ユーザー ID またはクラス、およびアカウント、部門、製品、プロジェクト、および統計コードに関連付けられた値が出力されます。	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [スピード入力], [実行], [プロセス リクエスト], BI Publisher: 有効なスピード入力のリストを選択	RUN_FIN0007
FIN0008 仕訳ソース	有効な仕訳入力ソースを表示します。ソース コードでは仕訳エントリの作成元または仕訳の生成を担当する関係者を記述し、特別処理を定義して、会計処理を識別およびレポートしやすくします。(SQR)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [仕訳], [仕訳ソース レポート]	RUN_FIN0008
FSX0010 有効一般会計勘定科目 (BI Publisher)	有効一般会計勘定科目をセットID ごとに表示します。各勘定科目について、レポートでは説明、略称、および勘定科目タイプが出力されます。勘定科目が統計科目かどうか、そしてそうである場合は使用される単位を示します。勘定科目に仮勘定が含まれている場合は、その説明および適用される編集レコードおよびフィールドがリストされます。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [勘定科目] を選択	RUN_FIN0010

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

レポート ID およびレポート名	*説明*	*ナビゲーション*	*ラン コントロール ページ*
FSX0011 有効部門コード (BI Publisher)	有効部門コードをセットID ごとに表示します。部門 ID とその説明を、各部門管理者の名前と共に出力します。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [部門] を選択	RUN_FIN0011
FSX0012 有効製品コード (BI Publisher)	有効製品コードをセットID ごとに表示します。製品 ID とその名称を、ID の昇順で出力します。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [製品] を選択	RUN_FIN0012
FSX0013 有効プロジェクト ID (BI Publisher)	有効プロジェクトをセットID ごとに表示します。各プロジェクトについて、説明、管理者の名前、およびプロジェクトの開始日と終了日が出力されます。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [プロジェクト] を選択	RUN_FIN0013
FSX0015 有効統計コード (BI Publisher)	統計コード テーブルの内容を示す、標準の縦長レイアウトのレポートを生成します。コードが、名称、標準単位、および元帳の更新方法と共に表示されます。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [統計コード] を選択	RUN_FIN0015
FSX0016 レコード グループ (BI Publisher)	テーブルを、そのテーブルが属するレコード グループごとに表示します。各レコード グループ ID に対して、名称とテーブル名が表示されます。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [ビジネス ユニット関連], [レポート], [レコード グループ]	RUN_FIN0016
FSX0017 有効セット ID (BI Publisher)	指定日に有効な各セットID の略称と名称を表示します。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [ビジネス ユニット関連], [レポート], [テーブルセット ID]	RUN_FIN0017
FIN0018 テーブルセット コントロール	指定したテーブルセットに関連付けられているレコード グループを、システム プロンプトで入力したフィールド名および値と共に表示します。テーブルセットに指定されたツリーを表示します。各レコード グループに対し、ID、説明、セットID、およびセットID 詳細を表示します。(SQR)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [ビジネス ユニット関連], [レポート], [テーブルセット コントロール]	RUN_FIN0018

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

レポート ID およびレポート名	*説明*	*ナビゲーション*	*ラン コントロール ページ*
FIN0020 一般会計 - 有効ビジネス ユニット レポート	指定日の時点で有効なビジネス ユニットのリストを表示します。各ビジネス ユニットについて、ユニットの説明、およびデフォルトの指定日が出力されます。(SQR)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [ビジネス ユニット関連], [レポート], [一般会計ユニット]	RUN_FIN0020
FIN0021 ビジネス ユニット用元帳	ビジネス ユニットに対して定義されている元帳についての情報を表示します。各元帳についての情報が表示され、これにはタイプ、元帳、定義、セットID、最終更新日、そして元帳が一致しているかどうかが含まれます。また、オープン会計期、調整年度、および仕訳エラー処理オプションも表示されます。(SQR)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [ビジネス ユニット関連], [レポート], [ユニット別元帳]	RUN_FIN0021
FSX0022 明細元帳定義 (BI Publisher)	明細元帳についての一般情報が表示されます。説明、エラー処理オプション、会計期間、レコード名、および元帳に関連付けられているチャートフィールドのリストが含まれます。(BI Publisher)	[一般会計], [元帳], [明細元帳レポート]	RUN_FIN0022
FSX0023 明細元帳テンプレート定義 (BI Publisher)	明細元帳テンプレートに含まれているレコードおよびフィールドを表示します。(BI Publisher)	[一般会計], [元帳], [元帳テンプレート レポート]	RUN_FIN0023
FSX0024 有効予算参照 (BI Publisher)	セットID の全ての有効な予算参照チャートフィールド値をリストします。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定]、[共通定義]、[チャートフィールド設定]、[レポート]、[チャートフィールド レポート]、[予算参照] を選択	RUN_FIN0024
FSX0025 シナリオ (BI Publisher)	セットID ごとに現在のアクティブな予算シナリオをリストします。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [シナリオ]	RUN_FIN0025

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

レポート ID およびレポート名	*説明*	*ナビゲーション*	*ラン コントロール ページ*
FSX0030 PS/nVision レポート (BI Publisher)	選択したビジネス ユニットの PS/nVision レポートを表示します。各レポートには ID、説明、レイアウト、スコープ ID、スコープ内容、ビジネス ユニット、最終実行日、指定日タイプ、指定日、ツリー日付タイプ、およびツリー日付が表示されます。(BI Publisher)	[一般会計], [一般会計レポート], [nVision リクエスト サマリ]	RUN_FIN0030
FSX0031 PS/nVision スコープ (BI Publisher)	各 PS/nVision スコープ定義の詳細を表示します。(BI Publisher)	[一般会計], [一般会計レポート], [nVision スコープ]	RUN_FIN0031
FSX0032 有効業務ユニット (BI Publisher)	選択されたセットID の有効業務ユニットを表示します。各セットID について、業務ユニットとその説明、ステータス、およびそのステータスの有効日を表示します。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [業務ユニット] を選択	RUN_FIN0032
FSX0033 有効代替勘定科目 (BI Publisher)	セットID の有効代替勘定科目を表示します。各代替勘定科目について、レポートでは説明、勘定科目タイプ、仮勘定があるかどうか、統計科目かどうか、コントロール フラグ、現在の有効ステータス、および有効日を出力します。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [代替勘定科目] を選択	RUN_FIN0033
FSX0035 通貨コード (BI Publisher)	通貨についての情報を表示し、これにはコード、有効日、説明、記号、国、および小数部桁数が含まれます。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [通貨], [通貨コード レポート]	RUN_FIN0035
FIN0036 代替勘定科目クロス リファレンス	勘定科目とそれに対応して照会された代替勘定科目を、セットID および有効日ごとに表示します。(SQR)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [代替勘定科目クロス リファレンス]	RUN_FIN0036
FSX0037 チャートフィールド 1 (BI Publisher)	選択されたセットID の有効値を表示します。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [チャートフィールド 1]	RUN_FIN0037

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

レポート ID およびレポート名	*説明*	*ナビゲーション*	*ラン コントロール ページ*
FSX0038 チャートフィールド 2 (BI Publisher)	選択されたセットID の有効値を表示します。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [チャートフィールド 2]	RUN_FIN0038
FSX0039 チャートフィールド 3 (BI Publisher)	選択されたセットID の有効値を表示します。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [チャートフィールド 3]	RUN_FIN0039
FSX0050 有効資金コード (BI Publisher)	全ての有効資金コード チャートフィールド値のリストを表示します。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [資金コード]	RUN_FIN0050
FSX0052 有効プログラム コード (BI Publisher)	全ての有効プログラム コード チャートフィールド値のリストを表示します。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [プログラム コード] を選択	RUN_FIN0052
FSX0053 有効クラス (BI Publisher)	全ての有効クラス チャートフィールド値のリストを表示します。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [クラス フィールド] を選択	RUN_FIN0053
FSX0057 仕訳タイプ (BI Publisher)	仕訳タイプ ページで特定のセットID に定義された各種仕訳タイプを表示します。各仕訳タイプの説明が含まれ、さらにドキュメント タイプ順かそれとも仕訳コード順かが示されます。ドキュメント連番に関連付けられています。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ドキュメント連番], [仕訳タイプ レポート]	RUN_FIN0057
FSX0058 仕訳コード (BI Publisher)	仕訳コード ページで特定のセットID - 仕訳タイプの組み合わせに対して定義された各種仕訳コードを表示します。各仕訳コードの説明が含まれ、さらに連番範囲および連番タイプの情報が含まれます。ドキュメント連番に関連付けられています。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ドキュメント連番], [仕訳コード レポート]	RUN_FIN0058

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

レポート ID およびレポート名	*説明*	*ナビゲーション*	*ラン コントロール ページ*
FSX0059 ドキュメント タイプ (BI Publisher)	ドキュメント タイプ ページで特定のセットID - 仕訳タイプ - 仕訳コードの組み合わせに対して定義された各種ドキュメント タイプを表示します。各ドキュメント タイプの説明が含まれ、さらに連番範囲および連番タイプの情報が含まれます。ドキュメント連番に関連付けられています。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ドキュメント連番], [ドキュメント タイプ レポート]	RUN_FIN0059
FSX0060 ドキュメント連番範囲 (BI Publisher)	ドキュメント連番範囲ページで指定の連番範囲に対して定義された詳細範囲を表示します。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [ドキュメント連番], [ドキュメント連番範囲レポート]	RUN_FIN0060
FIN0061 チャートフィールド属性レポート	このレポートには、全てまたは選択されたチャートフィールドのリストとその関連属性、属性摘要、および属性値が表示されます。(SQR)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド属性]	RUN_FIN0061
FIN1001 メッセージ ログ レポート	各バックグラウンド プログラムに対して使用可能なオンライン クエリーと同じように、プロセス インスタンス ID およびバッチ レポート タイプに対するメッセージ ログを出力します。各インスタンス ID の ジョブ ID、プログラム名、日付、時間、連番、ログ済メッセージ、および説明が表示されます。(SQR)	[バックグラウンド処理], [プロセス レポート印刷]	RUN_FIN1001

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

レポート ID およびレポート名	*説明*	*ナビゲーション*	*ラン コントロール ページ*
FIN2001 仕訳入力	指定された日付範囲内にビジネス ユニットおよび元帳に対してシステムで入力された全ての仕訳入力を表示します。元帳内の仕訳入力が ID の昇順で出力され、仕訳日、ソース、逆仕訳入力が作成されたかどうか、仕訳ステータス、転記日 (ある場合) および説明が表示されます。仕訳入力に含まれる各行について、エントリの行番号、勘定科目番号、説明、そして部門、製品およびプロジェクトのチャートフィールド値、および借方と貸方の詳細が含まれます。さらに、仕訳入力に含まれている場合は統計情報も出力されます。(SQR)	[一般会計], [一般会計レポート], [仕訳入力詳細]	RUN_FIN2001
FIN5001 システム ソース別の照合	このレポートは、詳細サブシステムと、ビジネス ユニット、サブシステム ソース、元帳、勘定科目または代替勘定科目、会計年度および会計期間レベルで集計される GL 仕訳取引で構成されます。たとえば、システム ソース レベルで AP などのデータをリストし、ロードしたデータにある 1 つ以上の選択したチャートフィールドについて、何が転記されて何が未転記かといった AP の全てのアクティビティをリストします。(SQR)	[一般会計], [一般会計レポート], GL 照合サブシステム, [システム ソース別の照合]	RUN_FIN5001
FIN5005 チャートフィールド別照合	このレポートには、ロードしたデータに表示されている 1 つまたは複数の選択されたチャートフィールドに基づくデータがリストされます。チャートフィールドの組み合わせに含まれる各サブシステムの金額がレポートに、チャートフィールドおよび関連元帳の合計金額と共に表示されます。(SQR)	[一般会計], [一般会計レポート], [GL サブシステム照合], [チャートフィールド別の照合]	RUN_FIN5005

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

レポート ID およびレポート名	*説明*	*ナビゲーション*	*ラン コントロール ページ*
GLX1001 元帳コード (BI Publisher)	台帳コードに関連付けられている元帳コードをリストし、その説明を表示します。(BI Publisher)	[一般会計], [元帳], [元帳コード レポート]	RUN_GLC1001
GLX4004 調整タイプ (BI Publisher)	セットID ごとに、現在のアクティブな調整タイプ チャートフィールド値を表示します。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [調整タイプ]	RUN_GLC4004
GLX4005 台帳コード (BI Publisher)	セットID ごとに、現在のアクティブな台帳コードを表示します。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [台帳コード]	RUN_GLC4005
GLX4006 残高グループ (BI Publisher)	全ての残高グループを表示してそれらがアクティブかそれとも非アクティブかを示し、さらにデフォルトの残高グループを表示します。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [レポート], [チャートフィールド レポート], [勘定残高グループ]	RUN_GLC4006
GLX4007 仕訳入力テンプレート レポート (BI Publisher)	仕訳入力テンプレートを、ユーザーが利用可能な適用されるセキュリティ別に表示します。(BI Publisher)	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [仕訳], [仕訳入力テンプレート レポート], [仕訳入力テンプレート レポート], [実行], プロセス スケジューラ リクエスト, BI Publisher: 仕訳入力テンプレートを選択	RUN_GLC4007
GLX4009 組合せ編集での不整合チャートフィールド (BI Publisher)	組み合わせ編集チャートフィールドのセットID とビジネス ユニット セット コントロール値の不整合を表示します。	[ファイナンシャルズ/サプライチェーン設定], [共通定義], [チャートフィールド設定], [組合せ編集], [不整合チャートフィールド レポート], [組合せ編集での不整合チャートフィールド レポート]	RUN_GLC4009
GLX5501 日中平均残高処理レポート (BI Publisher)	日中平均残高計算詳細をリストし、これには平均化期間、日付および時間が含まれます。(BI Publisher)	[一般会計], [日中平均残高], [日中平均残高計算レポート]	RUN_GLC5501
GLX6001 配賦グループ (BI Publisher)	特定の配賦グループに関連付けられている詳細情報をリストします。(BI Publisher)	[配賦], [レポート], [配賦グループ]	RUN_GLC6001

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

レポートのチャートフィールドの管理

以下では次の方法について説明します。

- 設定済チャートフィールドを Oracle BI Publisher レポートを使用してサポートする。
- SQR レポートのチャートフィールドを選択する。

Oracle Business Intelligence (BI) Publisher レポートの使用による設定済チャートフィールドのサポート

Oracle BI Publisher (旧 XMLP) テクノロジによりレポートおよびフォームの生成が効率化され、これには PeopleTools 8.52 PS Query および PeopleTools 8.52 以降がベースの全てのアプリケーションからアクセスできます。このテクノロジにより、PeopleSoft から BI Publisher レポートを生成できます。BI Publisher レポートでは、チャートフィールド設定をサポートするのに手動変更を必要としません。

BI Publisher フォーマットで生成可能なレポートのリストを次に示します。

- インストール オプション: FSX0001 BI Publisher レポート。
- 詳細カレンダー: FSX0002 BI Publisher レポート。
- タイムスパン: FSX0003 BI Publisher レポート。
- 勘定科目タイプ: FSX0004 BI Publisher レポート。
- 統計単位: FSX0005 BI Publisher レポート。
- スピード入力有効値: FSX0007 BI Publisher レポート。
- 有効勘定科目: FSX0010 BI Publisher レポート。
- 有効部門: FSX0011 BI Publisher レポート。
- 有効製品: FSX0012 BI Publisher レポート。
- 有効プロジェクト ID: FSX0013 BI Publisher レポート。
- 有効統計コード: FSX0015 BI Publisher レポート。
- レコード グループ別テーブル: FSX0016 BI Publisher レポート。
- 有効セットID: FSX0017 BI Publisher レポート。
- 明細元帳定義: FSX0022 BI Publisher レポート。
- 元帳テンプレート: FSX0023 BI Publisher レポート。
- 予算参照: FSX0024 BI Publisher レポート。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- シナリオ: FSX0025 BI Publisher レポート。
- PS/nVision レポート リスト: FSX0030 BI Publisher レポート。
- PS/nVision スコープ リスト: FSX0031 BI Publisher レポート。
- 有効業務ユニット: FSX0032 BI Publisher レポート。
- 代替勘定科目: FSX0033 BI Publisher レポート。
- 通貨コード: FSX0035 BI Publisher レポート。
- チャートフィールド 1: FSX0037 BI Publisher レポート。
- チャートフィールド 2: FSX0038 BI Publisher レポート。
- チャートフィールド 3: FSX0039 BI Publisher レポート。
- 有効資金データ抽出: FSX0050 BI Publisher レポート。
- 有効プログラム抽出: FSX0052 BI Publisher レポート。
- 有効サブクラス: FSX0053 BI Publisher レポート。
- 仕訳タイプ: FSX0057 BI Publisher レポート。
- 仕訳コード: FSX0058 BI Publisher レポート。
- ドキュメント タイプ: FSX0059 BI Publisher レポート。
- ドキュメント連番範囲: FSX0060 BI Publisher レポート。
- 規定元帳トランザクション エラー: FSX5101 BI Publisher レポート。
- 元帳コード: GLX1001 BI Publisher レポート。
- 組合せ編集グループ: GLX4003 BI Publisher レポート。
- 調整タイプ チャートフィールド: GLX4004 BI Publisher レポート。
- 台帳コード: GLX4005 BI Publisher レポート。
- 勘定残高グループ: GLX4006 BI Publisher レポート。
- 仕訳入力テンプレート: GLX4007 BI Publisher レポート。
- 組合せ編集での不整合チャートフィールド: GLX4009 BI Publisher レポート。
- 日中平均残高処理レポート: GLX5501 BI Publisher レポート。
- 配賦グループ定義: GLX6001 BI Publisher レポート。
- 予算属性: GLX8100 BI Publisher レポート。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

- 関連予算: GLX8110 BI Publisher レポート。
- 予算チェック バッチ処理ステータス: GLX 8530 BI Publisher レポート。
- アクティビティ ログ詳細: GLX8570 BI Publisher レポート。
- アクティビティ ログ サマリ: GLX8571 BI Publisher レポート。

注: 上記のレポートへのナビゲーションは、PeopleSoft アプリケーション レポートのこのレポート リストおよび各アプリケーションのレポート リストに含まれています。

PeopleSoft Global Options and Reports: A-ZPeopleSoft Global Options and Reports を参照してください。

Managing ChartFields for ReportsPeopleSoft Commitment Control を参照してください。

BI Publisher レポート テンプレートは Microsoft Word のリッチ テキスト フォーマットで設計されており、レポート レイアウトと、BI Publisher 入力ファイル エレメントに関連付けられた BI Publisher タグ (プレースホルダ) が含まれています。

一般的なフォーマット機能について次に説明します。

- 全てのエレメントは、テンプレートが実際のレポート フォーマットに変換されたときに配置および位置合せが的確に行われるように、テーブルに配置されます。
- BI Publisher では、列が 1 ページに収まらない場合に列を複数のページに分割できます。

  ただし、GL レポート テンプレートはほとんどの場合、1 行の全ての列を 1 つのページに表示するように設計されています。一部の列が複数のページに分割されるという場合は例外があります。たとえば、追加のチャートフィールドがある場合です。複数のチャートフィールドが、横方向のスペースを最適化するために 1 つの列にグループ化されます。
- レポートによっては、行に値があるチャートフィールドのみを表示するインテリジェント書式設定を使用します。
- インテリジェント書式設定はまた、統計値や統計コードといった他のデータにおいても横方向のスペースの最適化のために使用されます。

SQR レポートのチャートフィールドの選択

[チャートフィールド選択] グリッドは多くのレポート リクエスト ページで使用され、チャートフィールド値を出力する SQR ベースのレポートで表示するチャートフィールドを選択できます。

[チャートフィールド選択] グリッドでレポートの選択条件を入力するには、次の手順に従います。

1. ヘッダー選択条件を入力し、[リフレッシュ] をクリックしてグリッドに各チャートフィールドの行を入力します。
2. レポートに値を含めるチャートフィールドについて [CF を含む] をクリックします。

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PeopleSoft が提供するレポートでは、レポート ヘッディングの行数が決まっています。この数は最も一般的なビジネス慣行に基づいて決められています。ヘッディングのスペースに確保されているのはいくつかのチャートフィールドが収まるぶんだけであり、各ページの詳細行のために十分なスペースが確保されています。さらにチャートフィールドを含めるよう選択すると、レポートには全てのチャートフィールド ヘッディングを出力するだけのスペースがなくなります。そうなると、レポート ヘッディングと詳細行が相互に重なってしまいます。チャートフィールド値を最適数よりも多く出力しなければならないという場合は、レポートを変更してレポート ヘッディング行を増やしてください。チャートフィールドの数を増やすことはカスタマイズになり、PeopleSoft ではサポートしていません。

3. (オプション) *[値]* フィールドを使用して、レポートする予算のチャートフィールド値を入力します。

   空白のままにすると、チャートフィールドの全ての値が選択されます。コミットメント コントロール レポート リクエスト ページによっては、*値:自*および*値:至*フィールドがあり、チャートフィールド値の範囲を選択できます。

4. (オプション) チャートフィールドがレポートに表示される *[連番]* を変更します。

   たとえば、勘定科目と部門でレポートを作成している場合で、勘定科目を順序で先にくるように選択すると、レポートの予算行は次のように表示されます。

勘定科目	***部門***
60000	100
	110
	120
62000	100
	110
	130

   デフォルトの順序はアルファベット順です。

5. (オプション) チャートフィールド値の説明を含める場合は *[説明]* を選択します。

6. (オプション) チャートフィールドの全ての金額の小計を含める場合は *[小計]* を選択します。

   たとえば、上記の例のように勘定科目と部門でレポートを作成している場合で、勘定科目に対して小計を選択すると、レポートでは各勘定科目に対して小計金額が表示されます。

勘定科目	***部門***	***金額***
60000	100	1000
	110	2000

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

勘定科目	***部門***	***金額***
	120	1000
小計		*4000*
62000	100	2000
	110	1000
	130	3000
小計		*6000*

Copyright © 1988, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.